岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第410集

本町(もとまち)Ⅱ(に)遺跡第二次発掘調査報告書

ほ場整備事業一関第２地区第５号関連発掘調査

岩手県一関地方振興局一関農村整備事務所

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

本町（もとまち）Ⅱ（に）遺跡第二次発掘調査報告書

ほ場整備事業一関第2地区第5号関連発掘調査

序

本県には、旧石器時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地が各地に分布しております。これら先人の貴重な文化遺産を保存し、後世に伝えていくことは私達県民に課せられた重大な責務であります。

一方、本調査の原因となりましたほ場整備（第２地区）事業を例にあげるまでもなく、現代社会を豊かにし、快適な生活を送るための地域開発も県民の切実な願いであります。埋蔵文化財の保護・保存と地域開発という相容れない要素を持つ事業の調和のとれた施策が今日的課題となっております。

当（財）岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センターの創設以来、埋蔵文化財保護の立場にたって、県教育委員会事務局生涯学習文化課の指導と調整のもとに開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡について発掘調査を行い、その記録を残す措置をとってまいりました。

本書は、ほ場整備一関第２地区事業に関連して、平成13年度に行われた本町Ⅱ遺跡発掘調査の結果について収録したものであります。調査の結果、北上川左岸の自然堤防上に立地する10世紀初頭の畠跡と12世紀後半から続く墓域を中心とした遺跡であることが明らかになりました。遺跡からは、中国産の白磁・青磁や渥美産・常滑産の陶磁器をはじめとする土器等の遺物が出土しております。県内では、中世初頭の墓壙が確認されたのは初めてであり、該期の墓壙や更に溝に区画された墓域は関東以北でも類例のない極めて貴重な遺跡で、藤原氏との関連性や当時の社会状況、葬送儀礼を考える上での貴重な資料を提供することができました。

この本書が広く活用され、斯学の研究に寄与するとともに埋蔵文化財に対する関心と理解をいっそう深めることに役立つことを切に希望いたします。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成にご協力とご支援を賜りました一関地方振興局一関農村整備事務所、平泉町教育委員会をはじめとする関係各位に衷心より感謝申しあげます。

平成15年２月

財団法人　岩手県文化振興事業団

理事長　合　田　　武

例　言

1．本報告書は、岩手県西磐井郡（いわてけんにしいわいぐん）平泉町（ひらいずみちょう）長島字本町（ながしまあざもとまち）3－2ほかに所在する本町Ⅱ遺跡第二次発掘調査の結果を収録したものである。

2．本遺跡の発掘調査は、ほ場整備一関第2地区事業に伴い、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課、一関地方振興局一関農村整備事務所の協議を経て、（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが記録保存を目的として実施した緊急発掘調査である。

3．発掘調査は、平成13年度に実施したものである。委託者は一関地方振興局一関農村整備事務所である。

4．岩手県遺跡登録台帳番号と調査時の遺跡各次略号は、以下のとおりである。

遺跡登録台帳番号……NE66-2179

遺跡略号……MMⅡ-01-02

5．調査期間と調査面積と野外調査担当者は、以下のとおりである。

平成13年4月12日～13年12月25日／26,157㎡

小笠原健一郎・佐々木信一（～7/13）・本多準一郎・飯森秀文（～10/31）・佐藤あき子（8/1～9/12）・吉田真由美・木村ひかり（～7/13、11/5～12/22）

6．調査の室内整理期間と整理担当者は、以下のとおりである。

平成13年11月1日～平成14年3月31日／小笠原健一郎・本多準一郎・飯森秀文・佐藤あき子（～12/31）・吉田真由美・木村ひかり（～1／31）

7．本報告書の原稿執筆は小笠原健一郎、図版・写真図版作成は本多準一郎・吉田真由美が担当している。

8．自然科学関連の分析鑑定と保存処理は、次の方々と機関に依頼した。（敬称略）

炭化物年代測定…… パリノ・サーヴェイ㈱

プラント・オパール分析…… パリノ・サーヴェイ㈱

人骨鑑定…… パリノ・サーヴェイ㈱

火山灰同定…… 古環境研究所

樹種・種子同定…… 木工舎「ゆい」高橋利彦

石質鑑定…… 花崗岩研究会

9．座標原点の測量および空中写真撮影は、次の機関に依頼した。

座標原点の測量…… （株）総合土木コンサルタンツ

地形測量…… （株）ハイマーテック

空中写真…… 東邦航空株式会社

10. 本報告書の作成にあたり、次の方々並びに機関からご指導とご協力をいただいた。（敬称略）
岡村道雄・坂井秀弥（文化庁）、岡田茂弘（東北歴史博物館）、能登健（群馬県埋蔵文化財調査事業団）、狭川真一・佐藤亜聖（元興寺文化財研究所）、増山禎之（田原町博物館）、中村英俊・斎藤邦雄（岩手県教育委員会）、本澤慎輔・及川司・八重樫忠郎・菅原計二・鈴木江利子（平泉教育委員会）、阿部一・及川真紀（前沢町教育委員会）、柳之御所遺跡調査整備指導委員会。

11. 野外調査にあたっては、平泉町と地元の方々に多大なるご協力をいただいた。

12. 本遺跡から出土した遺物および調査に関わる資料は、岩手県立埋蔵文化財センターに保管してある。

本文目次

序

例言

Ⅰ．調査に至る経過 …… 3

Ⅱ．遺跡の位置と環境 …… 3

1．遺跡の位置 …… 3

2．遺跡周辺の地形と地質 …… 3

3．基本土層 …… 5

4．周辺の遺跡 …… 6

Ⅲ．調査の方法と室内整理 ……10

1．野外調査の方法 …… 10

2．室内整理の方法 …… 11

Ⅳ．検出された遺構と遺物 …… 13

1．概要 …… 13

2．竪穴住居跡 …… 13

3．工房跡 …… 42

4．住居状遺構 …… 45

5．畠跡 …… 49

6．土器埋設遺構 …… 85

7．焼土遺構 …… 87

8．堀跡 …… 92

9．溝跡 …… 93

10．周溝 ……110

11．墓壙 ……115

12．道路状遺構 ……146

13．建物跡 ……147

14．柱穴列 ……165

15．配石 ……170

16．井戸跡 ……171

17．竈状遺構 ……171

18．炭窯 ……177

19．土坑 ……178

20．柱穴群 ……209

21．遺構外出土遺物 ……279

Ⅴ．まとめ ……345

1．遺構 ……345

（1）竪穴住居跡 ……345

（2）畠跡 ……346

（3）土器埋設遺構の性格 ……348

（4）堀跡 ……349

（5）道路状遺構 ……349

（6）墓域の性格・構造と時期 ……349

（7）建物跡 ……357

2．遺物 ……358

（1）土器 ……358

（2）かわらけ ……361

（3）国産陶磁器 ……366

（4）中国産磁器 ……367

3．平泉における北上川左岸の土地利用と
その時代的変遷について ……367

（1）9世紀後半～火山灰降下前 ……367

（2）火山灰降下後～11世紀 ……368

（3）12世紀～15世紀 ……368

（4）16・17世紀以降 ……369

4．終わりに ……370

Ⅵ．自然科学分析 ……372

1．放射性炭素年代測定 ……372

2．畠跡の植物珪酸体分析 ……374

3．火山灰分析 ……378

4．樹種・種子同定 ……381

5．人骨（歯）同定 ……385

報告抄録 ……544

職員一覧 ……545

図版目次

第 1 図　岩手県における遺跡の位置図 …… 1
第 2 図　遺跡位置図 …… 2
第 3 図　遺跡周辺の現況図 …… 4
第 4 図　遺跡周辺地形分類図 …… 5
第 5 図　基本土層柱状図 …… 6
第 6 図　周辺の遺跡分布図 …… 8
第 7 図　グリッド配置図 …… 10
第 8 図　実測凡例図 …… 12
第 9 図　1 号竪穴住居跡 …… 14
第 10 図　2 号竪穴住居跡 …… 15
第 11 図　3 号竪穴住居跡（1） …… 16
第 12 図　3 号竪穴住居跡（2） …… 17
第 13 図　4 号竪穴住居跡 …… 18
第 14 図　5・6 号竪穴住居跡 …… 20
第 15 図　7 号竪穴住居跡 …… 21
第 16 図　8 号竪穴住居跡 …… 22
第 17 図　9 号竪穴住居跡（1） …… 23
第 18 図　9 号竪穴住居跡（2） …… 24
第 19 図　10号竪穴住居跡（1） …… 25
第 20 図　10号竪穴住居跡（2） …… 26
第 21 図　11号竪穴住居跡 …… 27
第 22 図　12号竪穴住居跡 …… 28
第 23 図　13号竪穴住居跡 …… 29
第 24 図　14～16号竪穴住居跡の重複関係 … 30
第 25 図　14号竪穴住居跡 …… 31
第 26 図　15号竪穴住居跡 …… 32
第 27 図　16号竪穴住居跡 …… 33
第 28 図　17号竪穴住居跡 …… 34
第 29 図　18・19号竪穴住居跡の重複関係 … 35
第 30 図　18号竪穴住居跡 …… 36
第 31 図　19号竪穴住居跡 …… 37
第 32 図　20号竪穴住居跡 …… 38
第 33 図　21号竪穴住居跡（1） …… 39
第 34 図　21号竪穴住居跡（2） …… 40
第 35 図　21号竪穴住居跡（3） …… 41
第 36 図　1 号工房跡（1） …… 42
第 37 図　1 号工房跡（2） …… 43
第 38 図　2 号工房跡 …… 44
第 39 図　1 号住居状遺構 …… 45
第 40 図　2 号住居状遺構 …… 46
第 41 図　3 号住居状遺構（1） …… 47
第 42 図　3 号住居状遺構（2） …… 48
第 43 図　畠跡畝方向図 …… 50
第 44 図　畠跡（1） …… 52
第 45 図　畠跡（2） …… 53
第 46 図　畠跡（3） …… 55
第 47 図　畠跡（4） …… 57
第 48 図　畠跡（5） …… 58
第 49 図　畠跡（6） …… 59
第 50 図　畠跡（7） …… 61
第 51 図　畠跡（8） …… 63
第 52 図　畠跡（9） …… 64
第 53 図　畠跡（10） …… 65
第 54 図　畠跡（11） …… 67
第 55 図　畠跡（12） …… 69
第 56 図　畠跡（13） …… 70
第 57 図　畠跡（14） …… 71
第 58 図　畠跡（15） …… 72
第 59 図　畠跡（16） …… 73
第 60 図　畠跡（17） …… 74
第 61 図　畠跡（18） …… 76
第 62 図　畠跡（19） …… 77
第 63 図　畠跡（20） …… 80
第 64 図　畠跡（21） …… 81
第 65 図　畠跡（22） …… 83
第 66 図　畠跡（23） …… 84
第 67 図　1 号土器埋設遺構 …… 85
第 68 図　2 号土器埋設遺構 …… 86
第 69 図　1・2 号焼土遺構 …… 87
第 70 図　3～7 号焼土遺構 …… 89
第 71 図　8～10号焼土遺構 …… 91
第 72 図　1 号堀跡 …… 92

第73図　1号溝跡 …… 94
第74図　2号溝跡（1） …… 95
第75図　2号溝跡（2） …… 96
第76図　3号溝跡（1） …… 97
第77図　3号溝跡（2） …… 98
第78図　4号溝跡 …… 99
第79図　5号溝跡 ……100
第80図　6号溝跡 ……101
第81図　7号溝跡 ……102
第82図　8号溝跡 ……102
第83図　9号溝跡 ……103
第84図　10号溝跡 ……104
第85図　11号溝跡 ……105
第86図　12号溝跡 ……106
第87図　13～16号溝跡（1） ……107
第88図　13～16号溝跡（2） ……108
第89図　17号溝跡 ……109
第90図　1号周溝 ……111
第91図　2号周溝（1） ……112
第92図　2号周溝（2） ……113
第93図　1号墓壙 ……116
第94図　2～6号墓壙 ……117
第95図　7～14号墓壙 ……121
第96図　15～17号墓壙 ……123
第97図　18～20号墓壙 ……125
第98図　21号墓壙 ……126
第99図　22～27号墓壙 ……128
第100図　28号墓壙 ……130
第101図　29号墓壙 ……131
第102図　30～32号墓壙 ……132
第103図　33～37号墓壙 ……135
第104図　38～40号墓壙 ……136
第105図　41～45号墓壙 ……138
第106図　46・47号墓壙 ……140
第107図　48～51号墓壙 ……142
第108図　52～55号墓壙 ……144
第109図　56号墓壙 ……145
第110図　1号道路状遺構 ……146
第111図　1号建物跡 ……147
第112図　2・3号建物跡 ……149
第113図　4号建物跡 ……150
第114図　5～7号建物跡 ……151
第115図　8～10号建物跡 ……153
第116図　11～13号建物跡 ……155
第117図　14～16号建物跡 ……157
第118図　17・18号建物跡 ……159
第119図　19～21号建物跡 ……161
第120図　22号建物跡 ……162
第121図　23・24号建物跡 ……163
第122図　25～27号建物跡 ……164
第123図　1・2号柱穴列 ……166
第124図　3・4号柱穴列 ……168
第125図　5～7号柱穴列 ……169
第126図　1号配石 ……170
第127図　1・2号井戸跡 ……172
第128図　1～3号竈状遺構 ……173
第129図　4～6号竈状遺構 ……175
第130図　1～6号炭窯 ……176
第131図　1～4号土坑 ……179
第132図　5～8号土坑 ……181
第133図　9～11号土坑 ……182
第134図　12～15号土坑 ……185
第135図　16～19号土坑 ……187
第136図　20～23号土坑 ……189
第137図　24～27号土坑 ……190
第138図　28～31号土坑 ……191
第139図　32～35号土坑 ……193
第140図　36～39号土坑 ……195
第141図　40～42号土坑 ……197
第142図　43～46号土坑 ……198
第143図　47～50号土坑 ……201
第144図　51～55号土坑 ……202
第145図　56～59号土坑 ……204
第146図　60～63号土坑 ……206
第147図　64～67号土坑 ……207
第148図　68号土坑 ……209

第149図　69～74号土坑 ……213
第150図　75～80・83号土坑 ……214
第151図　81・82・84～86・112・126号土坑 ……215
第152図　87～92号土坑 ……216
第153図　93～97・105号土坑 ……217
第154図　98～104号土坑 ……218
第155図　106～111号土坑 ……219
第156図　113～120号土坑 ……220
第157図　121～125号土坑 ……221
第158図　127～131号土坑 ……222
第159図　132号土坑 ……223
第160図　133～136号土坑 ……224
第161図　柱穴群（1） ……226
第162図　柱穴群（2） ……227
第163図　柱穴群（3） ……228
第164図　柱穴群（4） ……229
第165図　柱穴群（5） ……230
第166図　柱穴群（6） ……231
第167図　柱穴群（7） ……232
第168図　柱穴群（8） ……233
第169図　柱穴群（9） ……234
第170図　柱穴群（10） ……235
第171図　柱穴群（11） ……236
第172図　遺構配置図（1） ……262
第173図　遺構配置図（2） ……263
第174図　遺構配置図（3） ……265
第175図　遺構配置図（4） ……267
第176図　遺構配置図（5） ……269
第177図　遺構配置図（6） ……271
第178図　遺構配置図（7） ……273
第179図　遺構配置図（8） ……275
第180図　遺構配置図（9） ……277
第181図　出土遺物（1） ……281
第182図　出土遺物（2） ……282
第183図　出土遺物（3） ……283
第184図　出土遺物（4） ……284
第185図　出土遺物（5） ……285
第186図　出土遺物（6） ……286
第187図　出土遺物（7） ……287
第188図　出土遺物（8） ……288
第189図　出土遺物（9） ……289
第190図　出土遺物（10） ……290
第191図　出土遺物（11） ……291
第192図　出土遺物（12） ……292
第193図　出土遺物（13） ……293
第194図　出土遺物（14） ……294
第195図　出土遺物（15） ……295
第196図　出土遺物（16） ……296
第197図　出土遺物（17） ……297
第198図　出土遺物（18） ……298
第199図　出土遺物（19） ……299
第200図　出土遺物（20） ……300
第201図　出土遺物（21） ……301
第202図　出土遺物（22） ……302
第203図　出土遺物（23） ……303
第204図　出土遺物（24） ……304
第205図　出土遺物（25） ……305
第206図　出土遺物（26）国産陶磁器1 ……306
第207図　出土遺物（27）国産陶磁器2 ……307
第208図　出土遺物（28）
　かわらけ・中国産陶磁器 ……308
第209図　出土遺物（29）古銭1 ……309
第210図　出土遺物（30）古銭2 ……310
第211図　出土遺物（31）古銭3 ……311
第212図　出土遺物（32）石製品・石器1 …312
第213図　出土遺物（33）石製品・石器2 …313
第214図　出土遺物（34）石製品・石器3 …314
第215図　出土遺物（35）石製品・石器4 …315
第216図　出土遺物（36）石製品・石器5 …316
第217図　出土遺物（37）石製品・石器6 …317
第218図　出土遺物（38）鉄製品1 ……318
第219図　出土遺物（39）
　鉄製品2・国産陶器・染付1 …319
第220図　出土遺物（40）
　国産陶器・染付2 ……320
第221図　出土遺物（41）

国産陶器・染付３ ……321
第222図　出土遺物（42）土製品・坩堝・
ブイゴの羽口・鉄滓 ……322
第223図　出土遺物（43）木製品 ……323
第224図　住居の軸線方向分布図 ……345
第225図　住居跡類法量図 ……345
第226図　中世面下住居跡位置図 ……346
第227図　サンプル採取層位 ……347
第228図　埋設土器方向図 ……349
第229図　墓壙の軸線方向図 ……352
第230図　本町Ⅱ遺跡墓壙法量図 ……353
第231図　台太郎（23次）遺跡墓壙法量図 …353
第232図　墓域位置図 ……356
第233図　建物跡方向図 ……357
第234図　坏類法量図 ……360
第235図　皿類法量図 ……360
第236図　分類別かわらけ出土比率 ……361
第237図　法量分布図 ……361
第238図　土器集成図（１） ……362
第239図　土器集成図（２） ……363
第240図　土器集成図（３） ……364
第241図　土器集成図（４） ……365

表目次

第１表　周辺の遺跡一覧…… 9
第２～４表　土坑観察表（１）～（３）……210
第５～29表　柱穴計測表（１）～（25）……237
第30～42表　土器観察表（１）～（13）……324
第43表　国産陶器観察表……337
第44表　中国産磁器観察表……338
第45表　かわらけ観察表……399
第46表　銭貨観察表……340
第47表　金属器観察表……341
第48表　石製品観察表……342
第49・50表　近世陶磁器・土器類観察表（１）・（２）……343
第51表　土製品・坩堝・羽口・鉄滓類観察表……344
第52表　木製品観察表……344
第53表　墓壙観察表……351

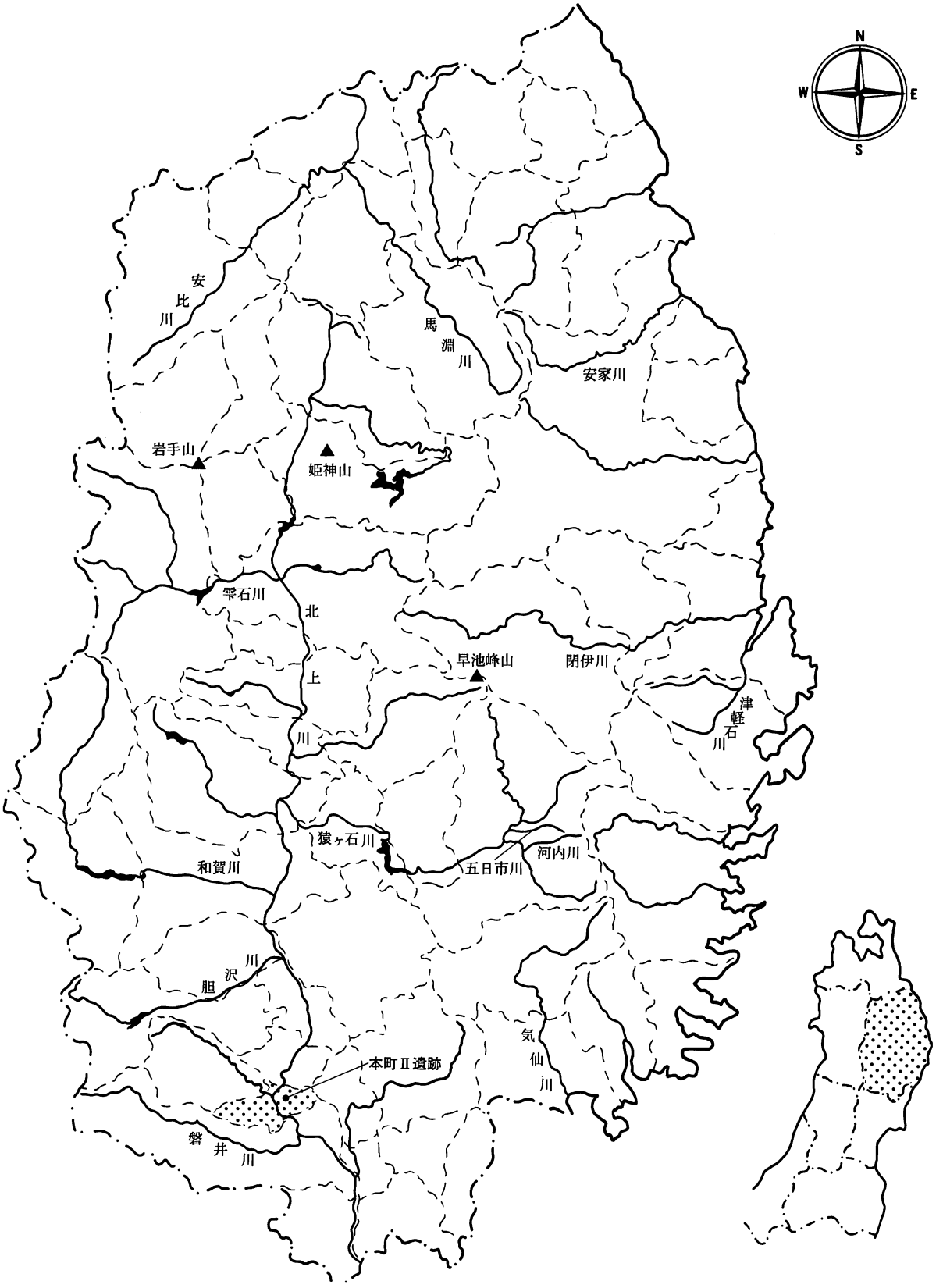
写真図版目次

写真図版１　空中写真（１）……389
写真図版２　空中写真（２）……390
写真図版３　空中写真（３）……391
写真図版４　出土遺物（１）……392
写真図版５　出土遺物（２）……393
写真図版６　出土遺物（３）……394
写真図版７　出土遺物（４）……395
写真図版８　出土遺物（５）……396
写真図版９　出土遺物（６）……397
写真図版10　昭和22年頃の遺跡周辺 ……398
写真図版11　１号・２号（１）竪穴住居跡　399
写真図版12　２号（２）・３号（１）
竪穴住居跡 ……400
写真図版13　３号竪穴住居跡（２）……401
写真図版14　４号竪穴住居跡 ……402
写真図版15　５・６号竪穴住居跡 ……403
写真図版16　７号竪穴住居跡 ……404
写真図版17　８号竪穴住居跡（１）……405

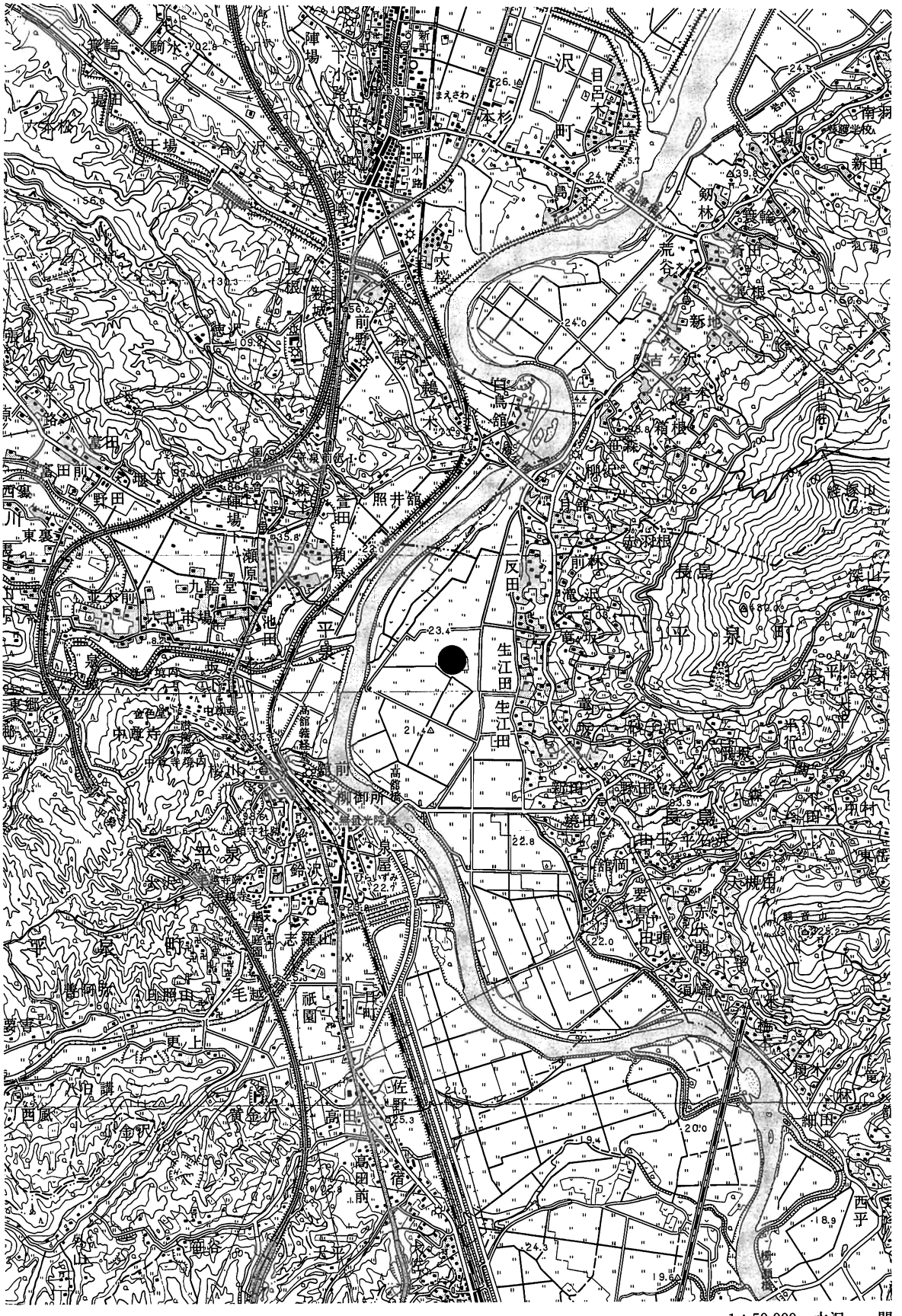
写真図版18　8号竪穴住居跡（2）……406
写真図版19　9号竪穴住居跡　……407
写真図版20　10号竪穴住居跡　……408
写真図版21　11号竪穴住居跡　……409
写真図版22　12号竪穴住居跡　……410
写真図版23　13号竪穴住居跡　……411
写真図版24　14号竪穴住居跡　……412
写真図版25　15号竪穴住居跡（1）……413
写真図版26　15号（2）・16号竪穴住居跡…414
写真図版27　17号竪穴住居跡　……415
写真図版28　18号竪穴住居跡　……416
写真図版29　19号竪穴住居跡　……417
写真図版30　20号竪穴住居跡　……418
写真図版31　21号竪穴住居跡（1）……419
写真図版32　21号竪穴住居跡（2）……420
写真図版33　1号工房跡（1）……421
写真図版34　1号（2）・2号工房跡　……422
写真図版35　1号住居状遺構　……423
写真図版36　2号住居状遺構　……424
写真図版37　3号住居状遺構　……425
写真図版38　畠跡（1）……426
写真図版39　畠跡（2）……427
写真図版40　畠跡（3）……428
写真図版41　畠跡（4）……429
写真図版42　畠跡（5）……430
写真図版43　畠跡（6）……431
写真図版44　畠跡（7）……432
写真図版45　畠跡（8）……433
写真図版46　畠跡作付痕　……434
写真図版47　1・2号土器埋設遺構、
1・2号焼土遺構　……435
写真図版48　3～6号焼土遺構　……436
写真図版49　7～10号焼土遺構　……437
写真図版50　1号堀跡　……438
写真図版51　1・2号溝跡　……439
写真図版52　3・4号溝跡　……440
写真図版53　5・6号溝跡　……441
写真図版54　7・8号溝跡　……442
写真図版55　9・10号溝跡　……443
写真図版56　11号溝跡　……444
写真図版57　12～16号溝跡　……445
写真図版58　13・15～17号溝跡　……446
写真図版59　1号周溝　……447
写真図版60　2号周溝　……448
写真図版61　1～4号墓壙　……449
写真図版62　5～9号墓壙　……450
写真図版63　10・12～15号墓壙　……451
写真図版64　16～19号墓壙　……452
写真図版65　20～23号墓壙　……453
写真図版66　24・25・27・28号墓壙　……454
写真図版67　29～32号墓壙　……455
写真図版68　33～36号墓壙　……456
写真図版69　37～40号墓壙　……457
写真図版70　41～44号墓壙　……458
写真図版71　46～51号墓壙　……459
写真図版72　52～55号墓壙　……460
写真図版73　22・23・28・30・45・
56号墓壙　……461
写真図版74　道路状遺構、参考資料　……462
写真図版75　4・10号建物跡　……463
写真図版76　15・16号建物跡、
現地説明会風景　……464
写真図版77　17・21号建物跡　……465
写真図版78　22・23号建物跡　……466
写真図版79　27号建物跡、1号配石　……467
写真図版80　1・6・7号柱穴列　……468
写真図版81　2号柱穴列　……469
写真図版82　1・2号井戸跡、
1・2号竈状遺構　……470
写真図版83　3～6号竈状遺構　……471
写真図版84　1・2・4・5号炭窯　……472
写真図版85　3・6号炭窯、調査区近景、
参考資料　……473
写真図版86　1～4号土坑　……474
写真図版87　5～8号土坑　……475
写真図版88　9～12号土坑　……476

写真図版89　13～16号土坑 ……477
写真図版90　17～20号土坑 ……478
写真図版91　21～24号土坑 ……479
写真図版92　25～28号土坑 ……480
写真図版93　29～32号土坑 ……481
写真図版94　33～37号土坑 ……482
写真図版95　38～42号土坑 ……483
写真図版96　43～47号土坑 ……484
写真図版97　48～51号土坑 ……485
写真図版98　52～55号土坑 ……486
写真図版99　56～59号土坑 ……487
写真図版100　60～64号土坑 ……488
写真図版101　65～68号土坑 ……489
写真図版102　69～72号土坑 ……490
写真図版103　73～76号土坑 ……491
写真図版104　78・80～82号土坑 ……492
写真図版105　83～86号土坑 ……493
写真図版106　87～90号土坑 ……494
写真図版107　91～94号土坑 ……495
写真図版108　95～98号土坑 ……496
写真図版109　99～102号土坑 ……497
写真図版110　103～106号土坑 ……498
写真図版111　107～111号土坑 ……499
写真図版112　112～115号土坑 ……500
写真図版113　116～119号土坑 ……501
写真図版114　120～124号土坑 ……502
写真図版115　125～128号土坑 ……503
写真図版116　129～132号土坑 ……504
写真図版117　134・135号土坑、遺跡遠景 …505
写真図版118　柱穴群(水路部分) ……506
写真図版119　遺物出土状況 ……507
写真図版120　出土遺物（1） ……508
写真図版121　出土遺物（2） ……509
写真図版122　出土遺物（3） ……510
写真図版123　出土遺物（4） ……511
写真図版124　出土遺物（5） ……512
写真図版125　出土遺物（6） ……513
写真図版126　出土遺物（7） ……514
写真図版127　出土遺物（8） ……515
写真図版128　出土遺物（9） ……516
写真図版129　出土遺物（10） ……517
写真図版130　出土遺物（11） ……518
写真図版131　出土遺物（12） ……519
写真図版132　出土遺物（13） ……520
写真図版133　出土遺物（14） ……521
写真図版134　出土遺物（15） ……522
写真図版135　出土遺物（16） ……523
写真図版136　出土遺物（17） ……524
写真図版137　出土遺物（18） ……525
写真図版138　出土遺物（19） ……526
写真図版139　出土遺物（20） ……527
写真図版140　出土遺物（21） ……528
写真図版141　出土遺物（22） ……529
写真図版142　出土遺物（23） ……530
写真図版143　出土遺物（24） ……531
写真図版144　出土遺物（25） ……532
写真図版145　出土遺物（26） ……533
写真図版146　出土遺物（27） ……534
写真図版147　出土遺物（28） ……535
写真図版148　出土遺物（29） ……536
写真図版149　出土遺物（30） ……537
写真図版150　出土遺物（31） ……538
写真図版151　出土遺物（32） ……539
写真図版152　出土遺物（33） ……540
写真図版153　出土遺物（34） ……541
写真図版154　出土遺物（35） ……542
写真図版155　出土遺物（36） ……543

ⅥC～ⅦD区の畠跡（東から）



第１図　岩手県における遺跡の位置図



第２図　遺跡位置図

1：50,000　水沢・一関

Ⅰ．調査に至る経過

本町Ⅱ遺跡は、ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）一関第２地区の施工に伴い、その事業区域内に位置することから発掘調査を実施することになったものである。

本事業は、西磐井郡平泉町長島地内の323.9haの地区で、現況の水田は昭和30年代に10ha区画に整備されたものの、区画形状が小さいうえに農道が狭小なため、農地の流動化や農産物の輸送、大型機械の搬入に支障を来している状態であった。それらの阻害要因を除去し、高生産性農業の確立を図るために大区画ほ場の整備を実施することとして、平成10年度に新規採択されたものである。

本事業の施工に係る埋蔵文化財の取扱については、平成11年２月２日付け一地整第616号により一関地方振興局一関農村整備事務所より岩手県教育委員会に対して分布調査の依頼をし、平成11年４月８日付け教文第34号の回答で、工事範囲内に本町Ⅱ遺跡が含まれていることが確認されたことに始まる。

分布調査結果に基づき一関農村整備事務所では、平成12年５月26日付け一農整第133号で教育委員会に試掘調査を依頼した。依頼を受けた県教育委員会では、平成12年６月13日に試掘調査を実施し、その結果、発掘調査が必要なことが判明し、平成12年６月19日付け教文第334号でその旨の回答があったものである。

（一関地方振興局一関農村整備事務所）

Ⅱ．遺跡の位置と環境

１．遺跡の位置

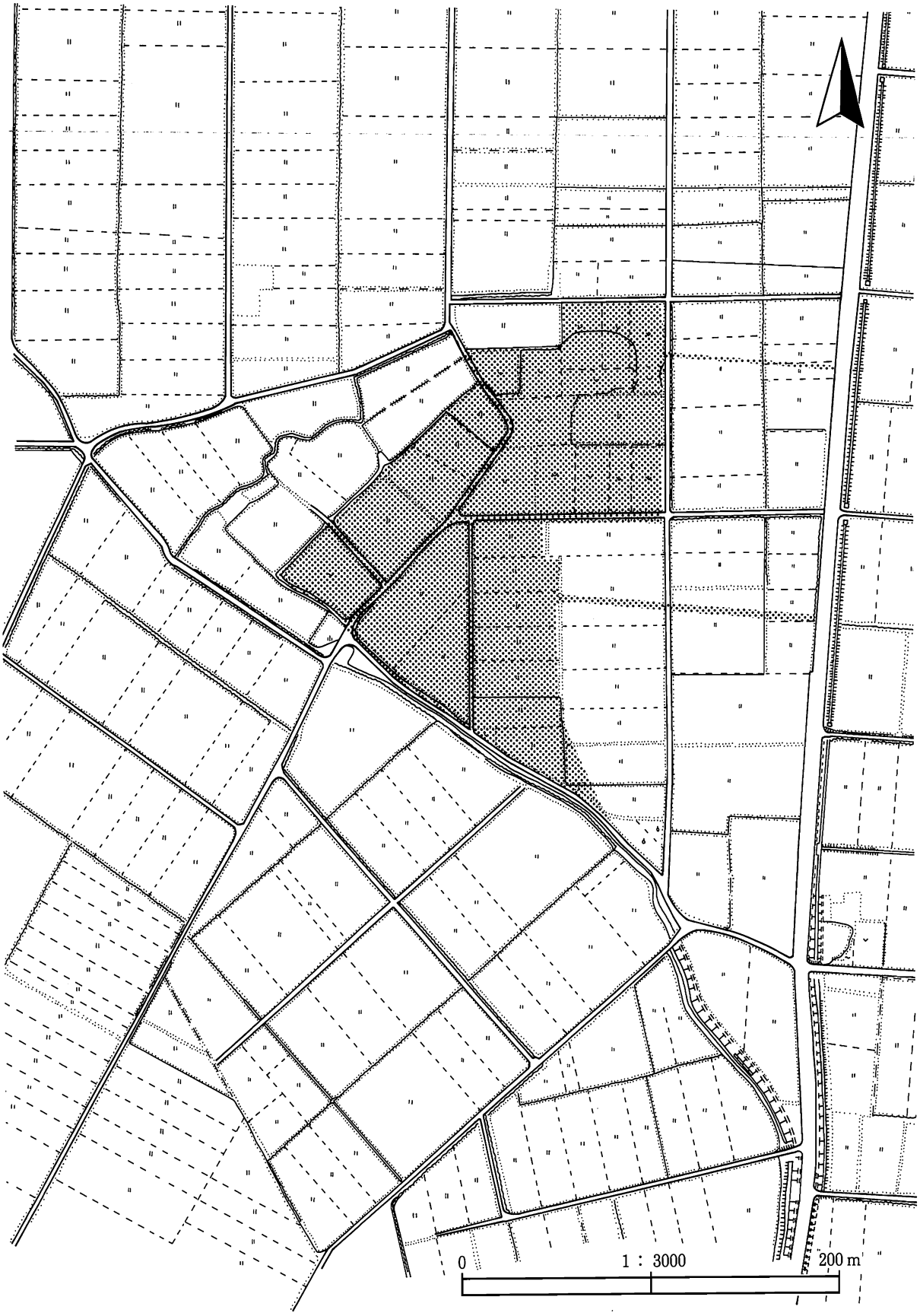
本町Ⅱ遺跡の所在する平泉町は、奥州藤原氏が三代にわたり栄華を極めた地であり観光都市である。中尊寺金色堂や毛越寺の浄土庭園は三代の栄耀の壮大さと絢爛さを今に伝えて余りある。現在浄土庭園群は世界遺産の暫定リストにも登録されている。

遺跡は第２図に示すようにＪＲ東北本線平泉駅の北東約２㎞、柳之御所遺跡から同約1.5㎞地点にある。また、束稲山山頂と中尊寺を結ぶライン上、衣川と北上川の合流点から東に約300ｍに位置している。遺跡は北上川左岸の沖積地に形成された自然堤防上に立地し、国土地理院発行の２万５千分の１地形図「前沢」NJ-54-14-14-（一関14号－２）の図幅に含まれる。標高23.0～23.4ｍ、北緯39度０分８秒、東経141度７分56秒付近に位置する。遺跡の現況は水田・畑地である。

平泉町の東側は東磐井郡東山町、北側が胆沢郡前沢町・衣川村、南側が一関市１市２町１村と隣接している。総面積は63.75㎢、人口9,157人（平成14年３月末現在）を有する。

２．遺跡周辺の地形と地質

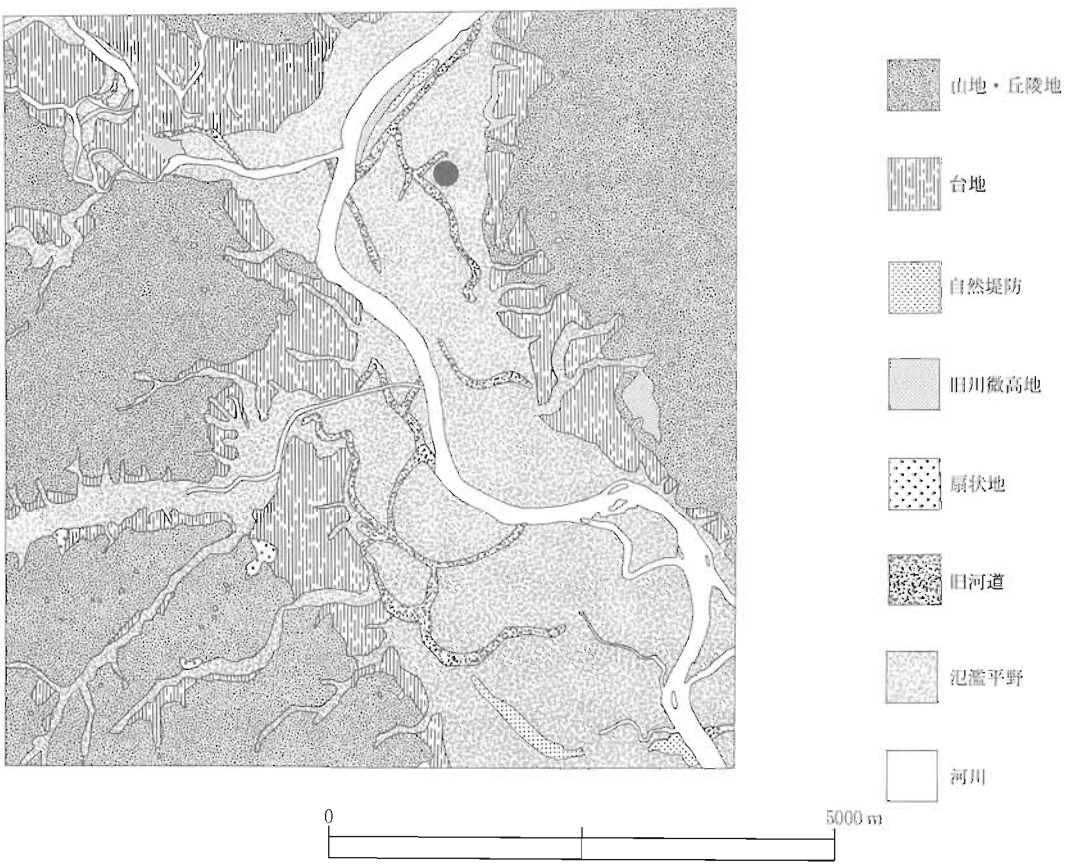
平泉町の東側には束稲山・経塚山等の北上山地西縁部、西側には磐井丘陵・奥羽背梁山脈が連なっている。この狭隘部の中央に北上川が町を二分するように南流している。奥羽背梁山脈は、帯状を成す火山岩類を主とした褶曲山地で大起伏山地が多く山脈の大部分は北上川水系に属する。また、北上山地は起伏の少ない単調な地形を成す準平原あるいは高地性の丘陵が広がっている。北上川は岩手県を中央よりやや西側を南流し、宮城県北部を縦貫して太平洋に注ぐ長さ243㎞の県内最大の河川である。柳之御所の北側にある高館付近で、衣川が北上川に合流し南東に流れを転じている。その悠々たる流は、松尾芭蕉が見た当時の眺望をそのままに彷彿させる。この間北上川は、過去幾度も流路を変えながらその東岸に広大な谷底氾濫平野を形成している。



第３図　遺跡周辺の現況図

遺跡周辺は北上川の水害を繰り返して受けてきた地域であり、一帯の水田は遊水池に指定されている。遺跡はこの氾濫平野の微高地（自然堤防上）に立地している。調査区は北西から南東に自然堤防の尾根部と西側の比高差約１ｍの緩斜面に広がりながら、畑中遺跡に達する。この自然堤防の西側と南側には北上川の10世紀と推定される旧河道が存在し、これにより大きく浸食を受け流出している。

平泉町周辺の地質は、北上川左岸流域では古生代の石灰岩・礫岩・泥岩、中生代の花崗岩の基盤層、北上川右岸流域では新生代第三紀の安山岩が基盤層の主体となって構成されている。



第４図　遺跡周辺地形分類図

３．基本土層

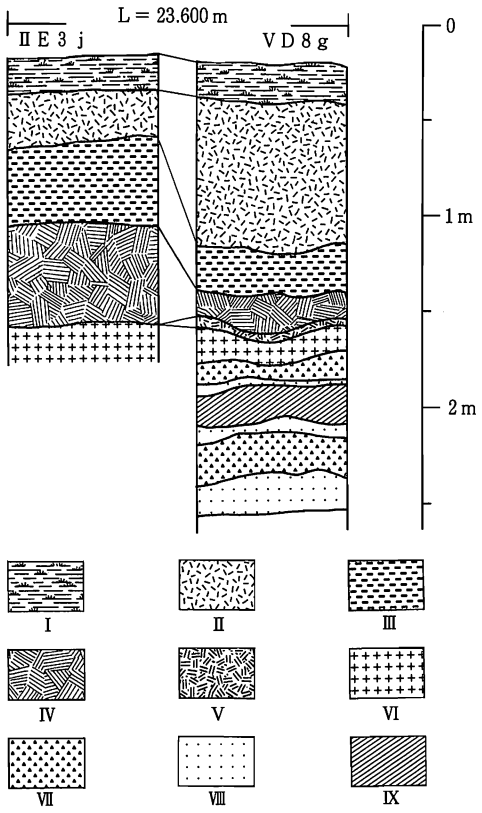
調査区は、自然堤防上に位置するため地山面は尾根部と斜面では１ｍ程の比高差が存在する。概観して調査区の北から東側が高く、南側と西側が低くなっている。自然堤防は里遺跡から調査区の東側を通り隣接する畑中遺跡（北西→南東）方向へ延びている。西側に広がる緩斜面も一様な傾斜を示さず、若干の起伏を持ちながら形成されている。これは調査区の東側を走る自然堤防に、並行するように緩斜面に小規模の自然堤防が存在しているためである。

遺跡周辺は昭和30年代の開田により削平と盛土が起伏をならして行われており、遺構の残存状況は地山面の高低差に大きく影響されていた。さらに南側では昭和50年代半ばまで民家が存在していたことから、近現代の攪乱による遺構の消失箇所も確認された。

調査区の西側の斜面部で明確な火山灰を含む数cm土層が確認されるものの、尾根部（微高地）では火山灰

の明確な堆積は確認されなかった。土質にも若干の差が見られるため、微高地の調査区ⅡＥ３ｊグリッドと斜面部にあたるＶＤ８ｇグリッドの深掘りの土層を本遺跡の基本土層とした。後者の土層断面には沖積特有のラミナが形成されているが、第Ⅵ層以下では前者にはその形成は確認されなかった。

中世後半から近世の遺構は、第Ⅲ層から検出されたが第Ⅰ層の耕作土直下にⅢ層・Ⅳ層が存在する区域も確認された。10世紀後半から中世前半の遺構のほとんどは第Ⅳ層から検出されている。第Ⅴ層は十和田ａ降下火山灰の堆積層で、調査区西側はこれにより大部分が覆われていた。この示準層は、自然堤防の尾根部ではほとんど検出されておらず、降下後に人為的に撤去された可能性もありうる。第Ⅵ層からは９世紀後半、縄文晩期から弥生時代、縄文中期以前の遺構も検出されている。



第Ⅰ　層：10YR4/2灰黄褐色土（層厚15～21cm）耕作土
第Ⅱａ層：10YR4/4褐色土（層厚24～30cm）盛土
ｂ層：10YR3/4暗褐色土（層厚76～80cm）盛土
第Ⅲａ層：10YR4/4褐色～5/4にぶい黄褐色土（層厚38～47cm）
ｂ層：10YR3/2黒褐色土（層厚21～26cm）検出面
第Ⅳａ層：10YR4/6褐色土（層厚50～53cm）検出面
ｂ層：10YR4/4褐色土（層厚７～21cm）検出面
第Ⅴ　層：10YR7/2にぶい黄橙色火山灰に10YR4/4褐色土を含む（４～７cm）検出面
第Ⅵａ層：10YR4/4褐色土（層厚不明）検出面
ｂ層：10YR4/4褐色土炭化物含む（層厚13～19cm）検出面
ｃ層：10YR4/4褐色土（層厚７～10cm）検出面
ｄ層：10YR4/4褐色土（層厚３～７cm）
ｅ層：10YR4/4褐色土（層厚14～19cm）
ｆ層：10YR4/4褐色土（層厚４～９cm）
ｇ層：10YR4/4褐色土（層厚17～23cm）

第５図　基本土層柱状図

４．周辺の遺跡

平成12年末の岩手県教育委員会のまとめでは、平泉町内には102箇所の遺跡が登録されている。柳之御所遺跡に代表される藤原氏関連遺跡の調査も数多く実施され、往時を知る上で貴重な成果を上げている。

第６図には本遺跡を中心とする範囲に所在する遺跡の分布を示したが、本遺跡からは縄文時代晩期～弥生時代、９世紀後半～11世紀、12世紀藤原氏時代～15世紀、16世紀末～19世紀までの遺物が検出されているため、周辺地域を合わせ概観しておきたい。

平泉町内で弥生時代に属する遺跡の報告例は極めて少なく、昨年度当埋蔵文化財センターで調査した本遺跡に隣接する**里遺跡**（第６図７）から遺構・遺物が検出されている。この他では新山権現神社（同12）・泉屋遺跡（同27）、高玉遺跡（同46）・瀬原Ⅰがあるが、高玉・瀬原Ⅰ遺跡からは弥生時代後期の天王山式土

器が僅かではあるが確認されている。

平泉周辺地域での調査例も少ないが、該期の遺跡として前沢町川岸場Ⅰ遺跡（平成10年度調査）・一関市細田遺跡（平成11年度調査）などの報告例がある。

その後奈良時代までの遺跡は現在まで報告例はなく、遺跡の分布を見る限り平泉一帯の開発は9世紀以降と考えられ、これらは「日本後紀」の坂上田村麻呂や文室（屋）綿麻呂等の征夷の時期と重なっている。

ここ数年の調査から9～11世紀の遺構・遺物は**里遺跡**・**矢崎Ⅰ遺跡**（同5）・**柳之御所遺跡**（同19）・**泉屋遺跡**・**志羅山遺跡**（同28）で検出されている。また、近接する**竜ヶ坂遺跡**（同3、平成13年度調査町教委）では10世紀初頭の水田跡も検出されている。また、本遺跡からは集落跡とこれを囲むような10世紀初頭の大規模な畠跡が検出されており、北上川東岸に広がる沖積地における当該期の土地利用が明らかとなった。

奥州藤原氏時代の遺跡は、これまで北上川右岸の段丘上から柳之御所遺跡・志羅山遺跡・泉屋遺跡や特別史跡の中尊寺境内（同15）・毛越寺（同29）・無量光院跡（同23）・観自在王院（同30）など多くの調査と整備が進められており当時の様相が明らかとなってきている。これに比して左岸一帯は里遺跡まで発掘調査が行われておらず、平成12年に草花双鳥鏡が出土して左岸にも藤原氏時代の遺構の存在が確認されるようになった。今年度の調査で本遺跡からも12世紀後半のかわらけ・中国産磁器（白磁）・渥美産陶器や該期に始まると考えられる墓域の存在が検出され、藤原氏時代前後の北上川左岸の様相が明らかになってきている。12世紀の遺物は**佐藤屋敷遺跡**（同4、平成13年度調査町教委）からも出土している。

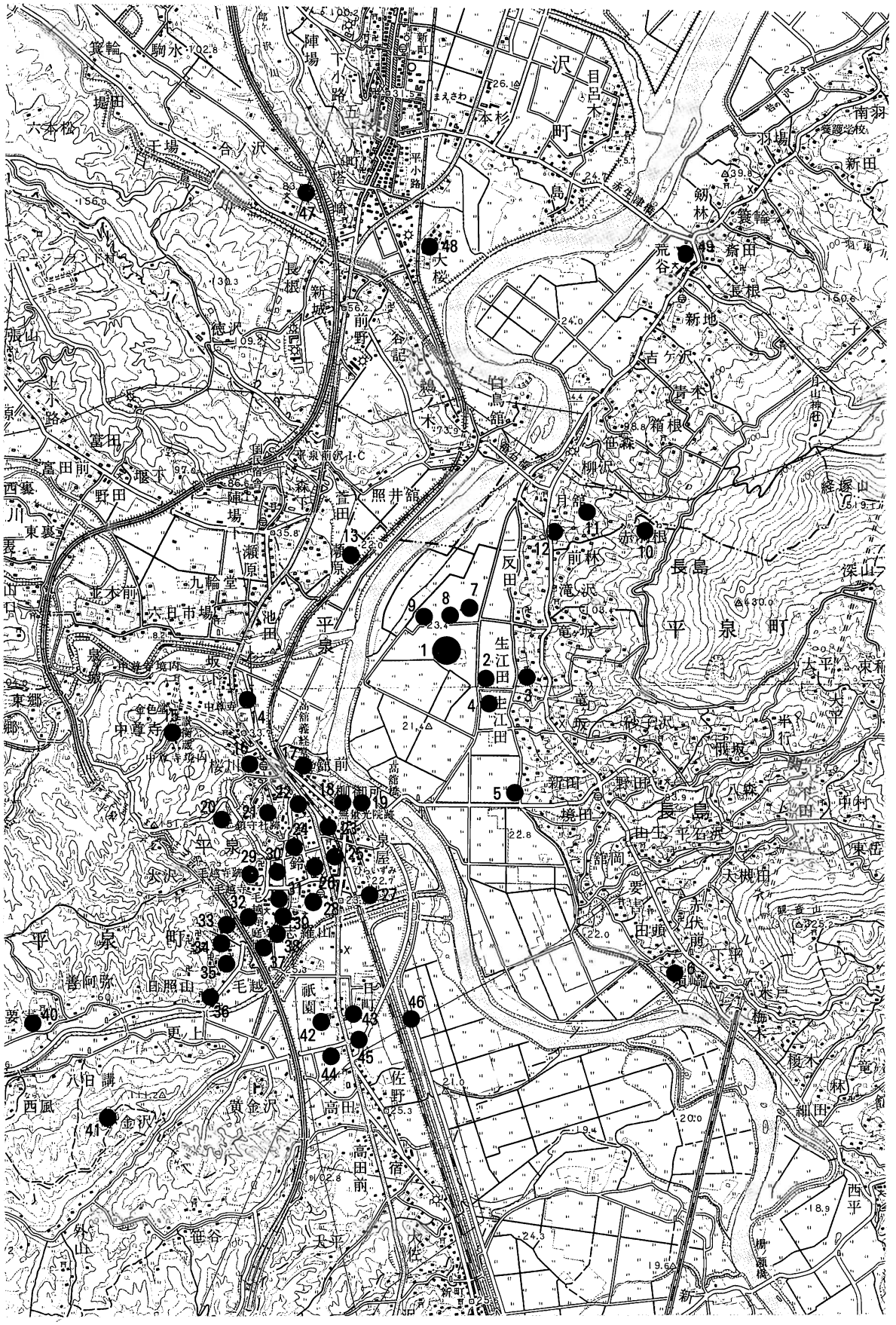
藤原氏滅亡後（中世）の遺構・遺物が確認されている遺跡は右岸の柳之御所周辺で志羅山遺跡・泉屋遺跡・国衙館跡（同39）のみで、13～14世紀の中世前半の遺物が検出・報告されている遺跡は極めて希少である。

これに対し左岸においては、中世後半期の**猪岡館跡**（同6、平成13年度調査）が段丘上に位置するだけである。段丘上に位置する城館群は中世後半に見られる特徴的な選地を現しており、町内の中世城館配置もこれと同様の事実を示している。

本遺跡や畑中遺跡（同2）からは近世の遺構・遺物も検出されており、中世初頭から近世までの歴史の流れも明らかになってきている。

〈参考・引用文献〉

（1）中川久夫・他（1963）：「北上川中流域の第四系および地形　北上川流域の第四紀地史（2）」地質学雑誌第69巻第811号
（2）中川久夫・他（1981）：第四系　「北上川流域地質図（二十万分の一）」長谷川地質調査事務所
（3）磯　望（1978）：北上山系開発地域土地分類基本調査（盛岡）岩手県
（4）岩手県教育委員会（2000）：「岩手県埋蔵文化財包蔵地一覧」
（5）「平泉町史」
（6）三浦他（1988）：「柳之御所遺跡発掘調査報告書第155集」（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
（7）酒井・羽柴他（2001）：「志羅山遺跡第47、56、67、73、80次発掘調査報告書第352集」
（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
（8）杉沢昭太郎（1997）：「白井坂Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書第248集」（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
（9）村木　敬（2000）：「里遺跡発掘調査報告書第383集」（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター



第 6 図　周辺の遺跡分布図　　1：50,000　水沢・一関

第１表　周辺の遺跡一覧

No.	遺跡名	所　在　地	遺跡の性格・遺構・遺物	備　　考
1	本町	散布地	墓壙、畠跡、かわらけ、土師器、陶磁器	平成13年度調査
2	畑中	散布値	土師器、かわらけ	平成13年度調査
3	竜ヶ坂	散布地	縄文土器、水田跡	平成13年度調査
4	佐藤屋敷	城館跡	池跡、建物跡	平成13年度調査
5	矢崎Ⅰ	散布地	かわらけ、縄文土器、土師器	平成12・13年調査
6	猪岡館	城館跡	門跡、郭、堀、建物跡	平成13年度調査
7	里	散布地	弥生土器､土師器､須恵器､かわらけ､陶磁器、鏡	平成12年度調査
8	里前Ⅱ	散布地	かわらけ	
9	里前Ⅰ	散布地	かわらけ、羽口	
10	東福寺Ⅱ	社寺跡・経塚		
11	東福寺Ⅰ	散布地・社寺跡	礎石、縄文土器	
12	新山権現社	散布地	縄文土器、石器、弥生土器、土師器	
13	瀬原Ⅱ	散布地	土師器、須恵器	
14	坂下	散布地・社寺跡	伽羅遺構、かわらけ、陶磁器	
15	中尊寺境内	散布地・社寺跡・経塚	伽羅遺構、堀跡、かわらけ、陶磁器	国特別史跡、長期にわたって発掘調査
16	衣関	散布地・社寺跡	かわらけ、陶器	
17	高館	散布地・城館跡	土塁、かわらけ	昭和39・40年度に発掘調査
18	猫間ヶ淵	散布地	池跡、かわらけ、陶磁器	
19	柳之御所	散布地・館跡	かわらけ、陶磁器、木製品	長期にわたって発掘調査
20	鈴懸の森	経塚	石組	
21	金鶏山	経塚	陶磁器	
22	花立Ⅰ	社寺跡・城館跡	礎石、かわらけ、陶磁器	
23	無量光院	社寺跡	伽羅遺構、かわらけ、陶磁器	特別史跡
24	花立Ⅱ	社寺跡・窯	建物跡、かわらけ、陶磁器	
25	伽羅御所	城館跡	土塁、かわらけ、陶磁器、堀	
26	白山社	社寺跡	堀、かわらけ	
27	泉屋	散布地	縄文土器、弥生土器、かわらけ、陶磁器	平成11・12年度調査
28	志羅山	散布地	かわらけ、陶磁器	
29	毛越寺	社寺跡・散布地	伽羅遺構、かわらけ、陶磁器	
30	観自在王院	社寺跡	伽羅遺構、かわらけ、陶磁器	特別史跡
31	倉町	散布地	かわらけ、陶磁器	
32	毛越Ⅱ	散布地		昭和48年度調査
33	毛越Ⅲ	散布地		昭和48年度調査
34	毛越Ⅳ	散布地	かわらけ	
35	毛越Ⅴ	散布地・城館跡	かわらけ	
36	毛越Ⅵ	散布地	かわらけ	
37	毛越Ⅰ	散布地	かわらけ、陶磁器	
38	隆衡館	散布地	かわらけ、陶磁器	
39	国衡館	城館跡	かわらけ、陶磁器	
40	要害Ⅰ	散布地	かわらけ、一字一石経石	
41	比丘尼寺	社寺跡	礎石	
42	祇園Ⅱ	散布地・寺社跡		
43	三日町Ⅲ	散布地・寺社跡	土師器、須恵器	
44	祇園Ⅰ	散布地	かわらけ	
45	三日町Ⅱ	散布地	土師器、須恵器	
46	高玉	散布地	土師器、かわらけ、陶磁器	昭和49年度調査
47	泊ヶ崎	散布地	弥生土器、土師器、須恵器	東北縦貫道開発に伴い調査
48	大桜	集落跡	土師器、須恵器	
49	生母宿	散布地・屋敷跡	大かめ、石斧、石匙	

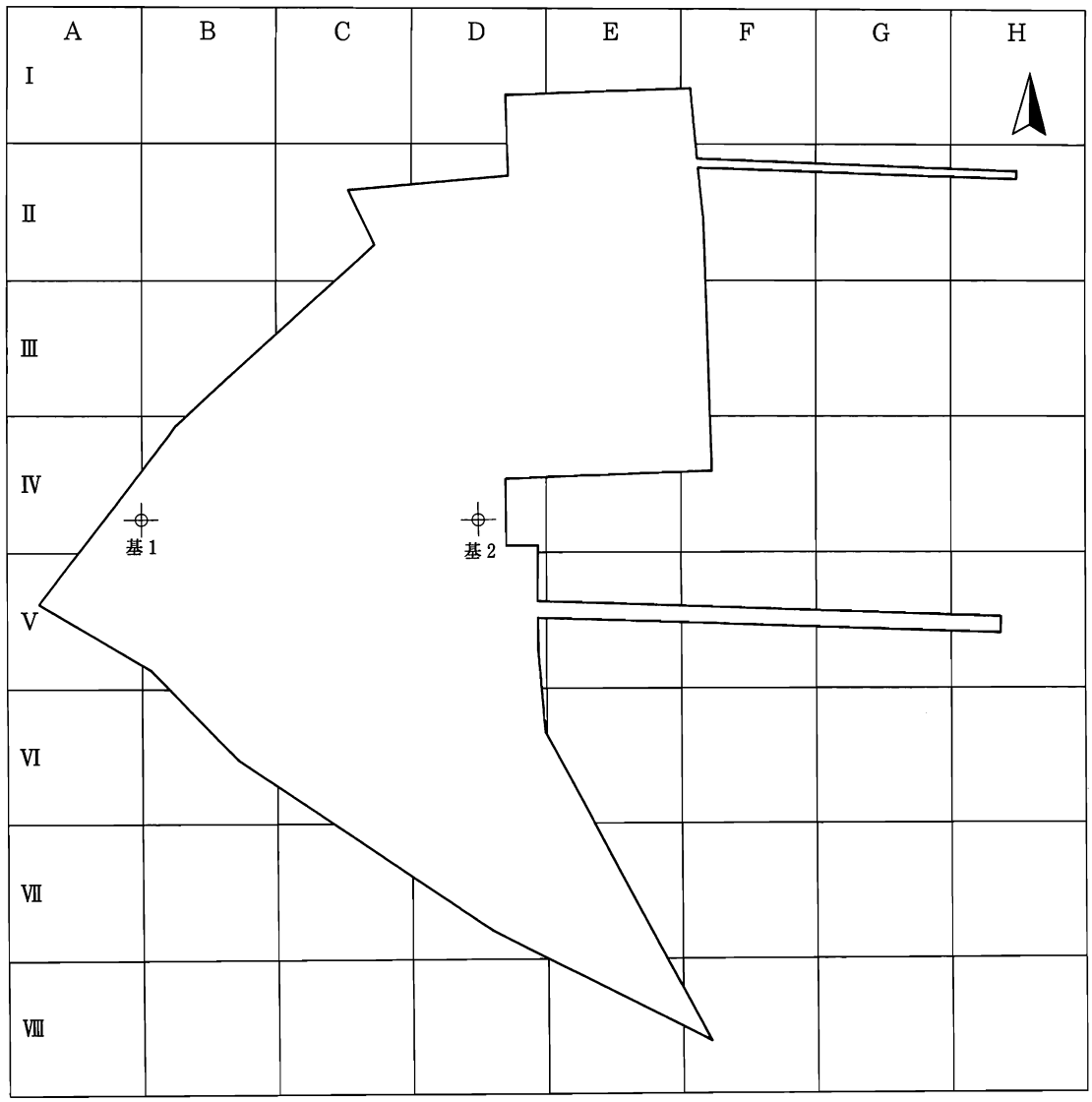
Ⅲ．調査の方法と室内整理

１．野外調査の方法

（１）調査区のグリッド設定

グリッドの設定にあたっては、平面直角座標第Ｘ系の調査座標を用いた。座標原点はＸ＝－110,600.000、Ｙ＝＋25,780.000（日本測地系）である。この座標原点から遺跡全体を一辺40ｍの大グリッドに区画し、原点から東方向へはアルファベットの大文字Ａ～Ｙ、南方向へはⅠ～Ⅷの番号を付し、これを組み合わせて北西隅を基準点に、ⅠＡ、ⅢＢというように表示した。小グリッドは大グリッドを10等分して４×４ｍに区画し、東方向へはａ～ｊ、南方向へは１～10を付している。調査区の名称は、大区画と小区画の組み合わせでⅠＡ３ｊ・ⅢＣ５ｂというように呼称している。

各基準点の成果値と杭高（標高）は次の通りである。基準点１（Ｘ＝-110,750.000、Ｙ＝+25,820.000、Ｈ＝22.962m）、基準点２（Ｘ＝110,750.000、Ｙ＝+25,920.000、Ｈ＝23.397m）。



第７図　グリッド配置図

（２）粗掘と遺構検出・遺構精査と遺物の取り上げ

雑物撤去と刈払い作業から開始し、試掘トレンチ、粗掘、遺構検出、精査の順に進めた。調査区は北側が盛土、南側が削平により開田されており最上層の遺構検出面が明確であった。本調査は、試掘トレンチにより各地点の層厚を確認後、重機（ユンボ）によって表土除去を行った。

本遺跡は沖積地特有の土質のため平面的遺構検出が極めて難しく、検出に当たっては適宜サブトレンチを用いて検出を行った。検出された遺構は、竪穴住居跡が４分法、その他の土坑類については２分法を原則として精査を行い、必要に応じて適宜併用している。記録として必要な図面および写真撮影は、精査の各段階において行っている。

各々の遺構は従来の簡易的な遣り方測量で行った。また、実測図の縮尺は、1/20を基本として平面図と断面図を作成した。なお、畠跡の平面図は1/40、遺物の出土状況・畑跡の一部等については1/10の平面図を作成している。

遺構内の出土遺物は、埋土の場合は上部・下部に分けて取り上げ、床面及び床面直上の遺物は、必要に応じて番号を付し、写真撮影・図面作成後に取り上げた。

（３）写真撮影

野外調査での写真撮影は、６×７㎝判カメラ１台（モノクロ）と35㎜判カメラ２台（モノクロ、カラー・リバーサル）を使用し、遺構・遺物の検出状況や出土状況を必要に応じて撮影している。他にポラロイドカメラ１台をメモ的な用途として使用した。撮影にあたっては、撮影状況を記した「撮影カード」を事前に写し、整理時の混乱を防止した。また、平成13年11月８日と12月５日に小型飛行機による空中写真（４×５in：モノクロ、６×６㎝：カラー）の撮影を実施している。11月８日地形測量のためラジコンヘリコプターにより撮影も行った。

（４）広報活動

埋蔵文化財に対する啓蒙活動の一環として、見学希望者に対しては随時対応するとともに、調査成果を公開する現地説明会を平成13年９月29日（土）に開催している。

２．室内整理の方法

（１）作業手順

室内整理は現状で残った遺物の水洗・注記から開始し、各遺構ごとの仕分け、遺物の接合復元、遺物の実測、拓本、遺構・遺物のトレース、遺物の写真撮影、遺構・遺物図版、写真図版の順に作業を進めた。これらの作業と平行して遺物の計測、原稿の執筆、各種の鑑定・分析を行い報告書に掲載している。

（２）遺構

遺構配置図は、発掘調査時に作成した図面を元に１/200の縮尺図を作成し仕上がり１/400で掲載した。各遺構図面は以下の縮尺を基本としたが、一部変更もあり、図面にはそれぞれスケールあるいは縮尺率を付している。竪穴住居跡・墓壙・土坑１/50、溝跡１/100、建物跡・柱穴列１/40、土器埋設遺構１/15、焼土・道路状遺構１/40、溝跡１/50・100、柱穴群１/200、各部断面１/40等である。断面図中の石はｓ、土器類ｐ、攪乱はｃで図示している。竪穴住居跡や柱穴列の軸方向は、座標軸からの角度で、平面図における北印も座標北（基準点１における真北方向角は、－７° 20′ 西偏する）を示している。竪穴住居跡の面積はその床面の輪郭線をデジタル式のプラニメーター（エリアカーブメーター）によって３回計測し、この平均値を記載した。また、遺構の表現は凡例（第８図）に示すとおりである。

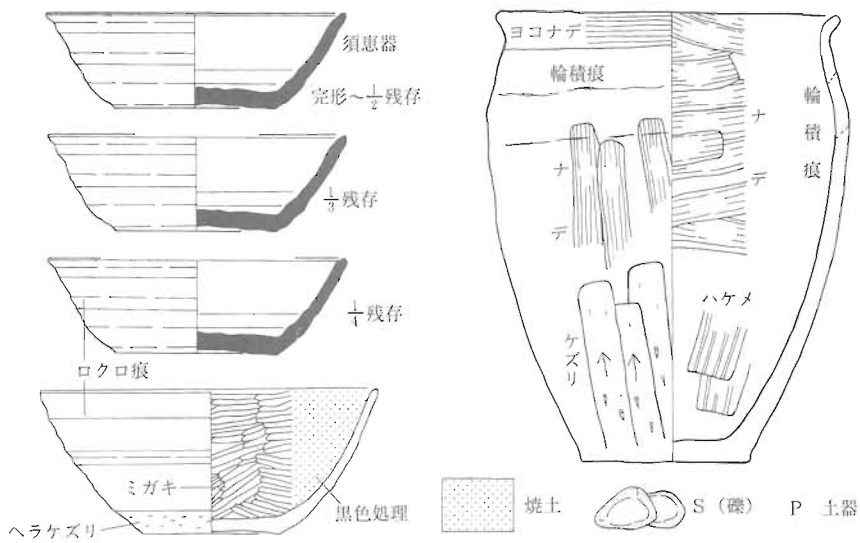
（３）遺物

遺物は洗浄後全出土遺物を点検し、注記・接合・復元を行った後に、実測・拓本の必要なものを選択・登録した。実測・拓本の必要のないものの一部は写真掲載のみにとどめている。

実測した遺物の選択基準は、石製品類は完成品を実測しその他は計測・鑑定にとどめ、必要に応じ出て掲載している。土器は大別して土師器と陶磁器類が出土しているため、接合復元できた全てと口縁部・底部の破片資料は反転実測可能なものを選択した。同一遺構内の資料については床面出土のものをできるだけ使用し掲載した。掲載遺物の図版の縮尺率は、1/3を原則とし、遺物の大小に応じては適宜縮尺を変え、図版ごとにスケールを付してある。遺物の調整技法等の表現は凡例に示す通りである。

凡　例

1．本報告書に収載した遺構実測図に付した方位は、平面直角座標第Ⅹ系による座標北を示す。
2．表中の法量の推定値は（　）、残存値は〈　〉で表示した。
3．挿図中に使用したスクリーン・トーンは以下のとおりである。
4．基本土層断面図にはローマ数字を、遺構内の土層は算用数字を用いた。



第８図　実測凡例図

Ⅳ. 検出された遺構と遺物

1．概要

遺構は竪穴住居跡（以下住居跡）21棟、工房跡2棟、住居状遺構3棟、畠跡12,356㎡、土器埋設遺構2基、焼土遺構10基、堀跡1条、溝跡17条、周溝2条、墓壙56基、道路状遺構1基、建物跡27棟（礎石建物跡1基含む）、柱穴列7基、配石1基、井戸跡2基、竈状遺構6基、炭窯6基、土坑136基、柱穴状土坑2,462基等である。

調査区の地山は沖積地の自然堤防で遺構検出は容易ではなく、適宜サブトレンチにより遺構の存在を把握した。特に北側調査区（墓域周辺）では、遺構検出面の指標となる火山灰等もなく、降雨後の僅か数時間のみが検出が可能な時間となる区域もあった。この区域は層位的・平面的にも重複が著しく、調査期間の大部分がこの区域に費やされた。

調査区の東側は北西から南東に延びる自然堤防の尾根部にあたり、南側の微高地では昭和30年代との開田あるいは近代～現代（昭和55頃まで）の削平のためか一部では遺構が検出されない区画も存在した（写真参照）。自然堤防は南東に隣接する畑中遺跡（H13年度平泉町教委調査）方向へ延びており、この事実は南側水路分の調査により確認している。

遺跡はこの自然堤防を境に西側と東側へ緩やかに傾斜しており、尾根部で居住区域、西側斜面で大規模な畠跡が検出された。西斜面一帯は十和田a降下火山灰により覆われており、低位の地山面では火山灰が畠跡の全面を覆う残存状況の極めて良好なエリアも存在した。遺跡の西側と南側には北上川の旧河道が存在し、遺跡はこれにより広範囲に流出したものと考えられる。また、十月初旬に県教育委員会事務局生涯学習文化課により行われた遺跡の範囲確認調査から遺跡は調査区の北側と東側に大きく広がることが確認された。

調査の結果、近世の遺構・遺物は畠跡を確認した調査区南側に分布し、調査区の北側と東端（南側水路分調査区）に12世紀と13世紀を中心に15世紀までの遺構、さらにその直下では火山灰降下前後の平安期の遺構・遺物が検出されている。

9世紀後半から10世紀初頭の住居跡と畠跡の分布や水路分調査区で確認された堀跡、中世の道路状遺構の存在は当時の集落構造や土地利用を知る上でも興味深い事実で、束稲山と中尊寺を結ぶライン上に墓域が位置していることも合わせ、これらについては火山灰上面の畠跡の可能性とともにまとめで触れることとする。

2．竪穴住居跡

竪穴住居跡は21棟を検出した。竪穴住居跡は調査区北側の微高地（自然堤防上）を中心に検出され、十和田a降下火山灰が堆積する南西部では2棟が検出されている。微高地での火山灰の堆積は殆ど見られず埋土中に微かな痕跡を確認できるだけであった。調査区は沖積地であるため層位の把握が困難であり、貼り床は殆どの住居跡で確認されていない。

また、開田時の削平により竈跡燃焼部のみが確認された住居跡も存在するため、焼土登録をした遺構には住居跡の可能性をもつものも含まれていると考えられる。

1号竪穴住居跡

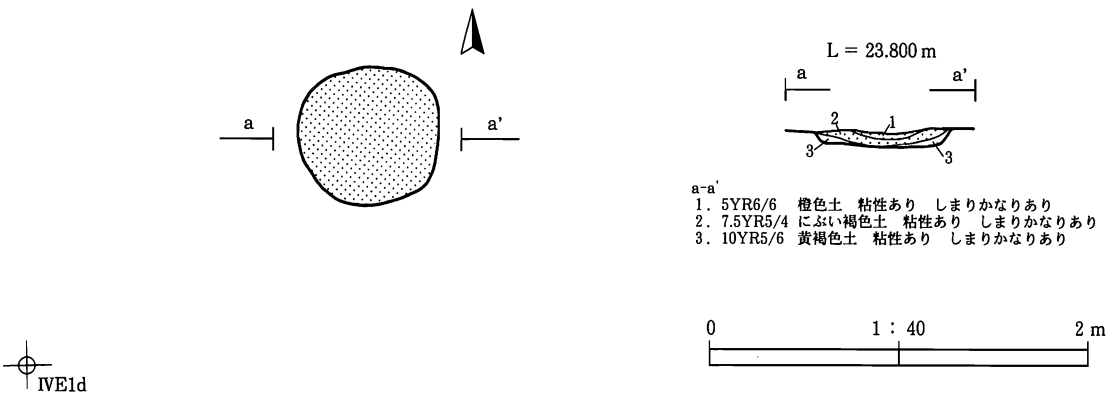
遺構（第9図、写真図版11）

〈位置〉　調査区ⅢD10dグリッド、標高23.6mに位置する。

〈検出状況〉　調査当初は焼土として登録した遺構であるが、竈を構築した袖の芯材（花崗閃緑岩）や土器が検出されたため住居跡として整理段階で登録したものである。平面形は不明である。

〈竈〉　燃焼部の平面形は円形を呈し、長軸75cm、短軸73cmを測る。竈の方向は検出状況から3号竪穴住居跡と同じ東壁中央付近に位置していたものと考えられる。

遺物（第181図、写真図版120）



第9図　1号竪穴住居跡

〈出土状況〉　埋土中から土師器の坏（1）と甕（2）が出土している。

〈土器〉　1の底部切り離しは回転糸切りである。

時期　遺物と検出状況から火山灰降下前の9世紀後半から10世紀初頭と考えられる。

2号竪穴住居跡

遺構（第10図、写真図版11・12）

〈位置・重複関係〉　調査区ⅡＤ４ｉ～ⅡＤ５ｊグリッド、標高23.4ｍに位置し、P2461とP2463と重複する。

〈検出状況〉　P2461の精査段階で竈燃焼部上の土器を検出し、トレンチ調査からプランを確認した。東側は明確な壁面を確認できなかった。

〈規模・平面形・方向〉　長軸（4.1）ｍ、短軸2.7ｍ、壁高は9.8～29㎝、面積は9.1㎡を測る。平面形は方形を呈する。長軸の方向はＥ-11°-Ｎである。

〈竈〉　ほぼ東壁中央に位置する。煙道や袖部は検出されなかったが支脚や土師器の甕片が検出されている。

〈柱穴〉　上屋を支える明確な支柱穴は確認されていた。

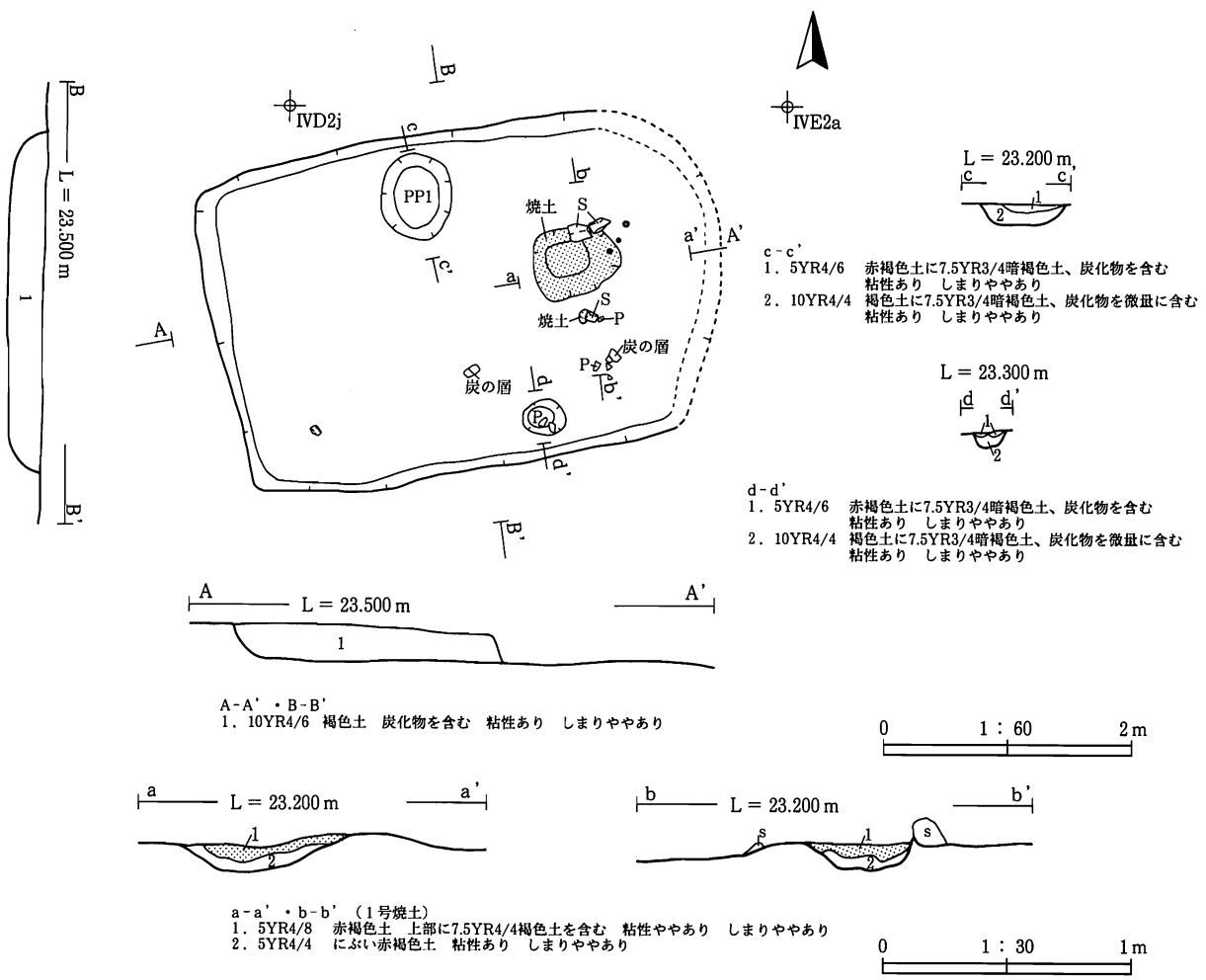
〈壁・床面・埋土〉　埋土は炭化物を含む褐色土が主体となって構成されている。壁面や床面には顕著な締まりなどは確認できなかった。

遺物（第181・182・222図、写真図版120・121・154）

〈出土状況〉　土師器の甕片、坏が燃焼部付近から出土してる。

〈土器〉　４の坏は切り離し後篦ケズリの再調整が施され、３・６は内面黒色処理の坏である。

時期　出土した遺物から９世紀後半から火山灰降下前の10世紀初頭と考えられる。



第10図　２号竪穴住居跡

3号竪穴住居跡

遺構（第11・12図、写真図版12・13）

〈位置・重複関係〉　調査区ⅡD3h～ⅡD5ｉグリッド、標高23.0mに位置し、1号工房跡西壁と重複する。

〈検出状況〉　平面的な検出はできず、1号工房跡西側のトレンチ調査と遺物検出面のサブトレンチによる調査から遺構の存在とプランを確認した。遺構の南西側では壁を確認できず、残存状況は不良であった。

〈規模・平面形・方向〉　長軸（5.7）m、短軸5m、壁高は13.8cm（北側）、面積は（24.6）㎡を測る。平面形は方形を呈する。長軸の方向はN-35°-Eである。

〈竈〉　竈は地山を削り出して構築されたと考えれられる。北東壁の中央から西よりに作られていた。煙道や竈の袖は大半が削平により失われていたため詳細については把握できなかった。

〈柱穴〉　柱穴はPP1～PP12を検出した。

〈床面・埋土〉　埋土は褐色土が主体となって構成されており、床面は堅く締まっていた。

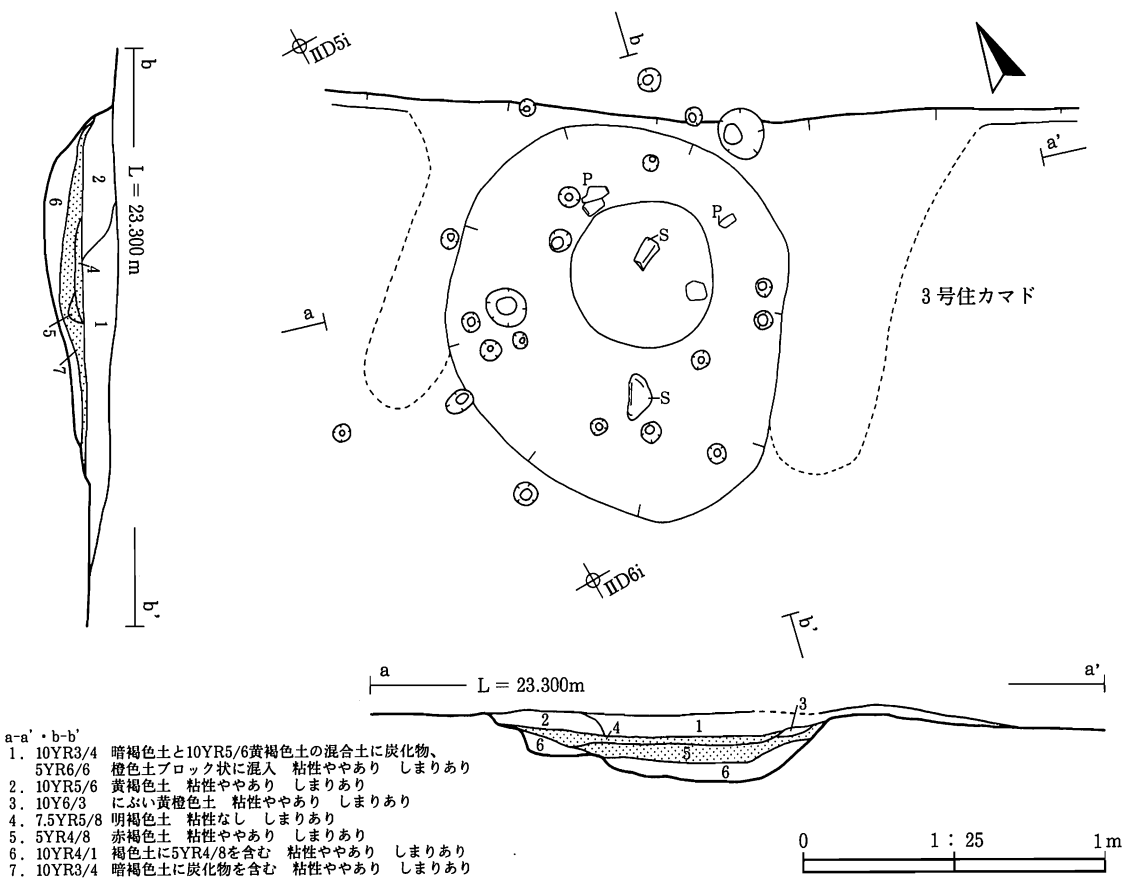
遺物（第182～184図、写真図版121・122）

〈出土状況〉　床面から土器、埋土中からフイゴの羽口（1002・1003）が出土してる。

〈土器〉　16～24・26の坏は全て切り離しが回転糸切りで、25はケズリの再調整が施されている。28は高台付坏で、輪高台を持つ。

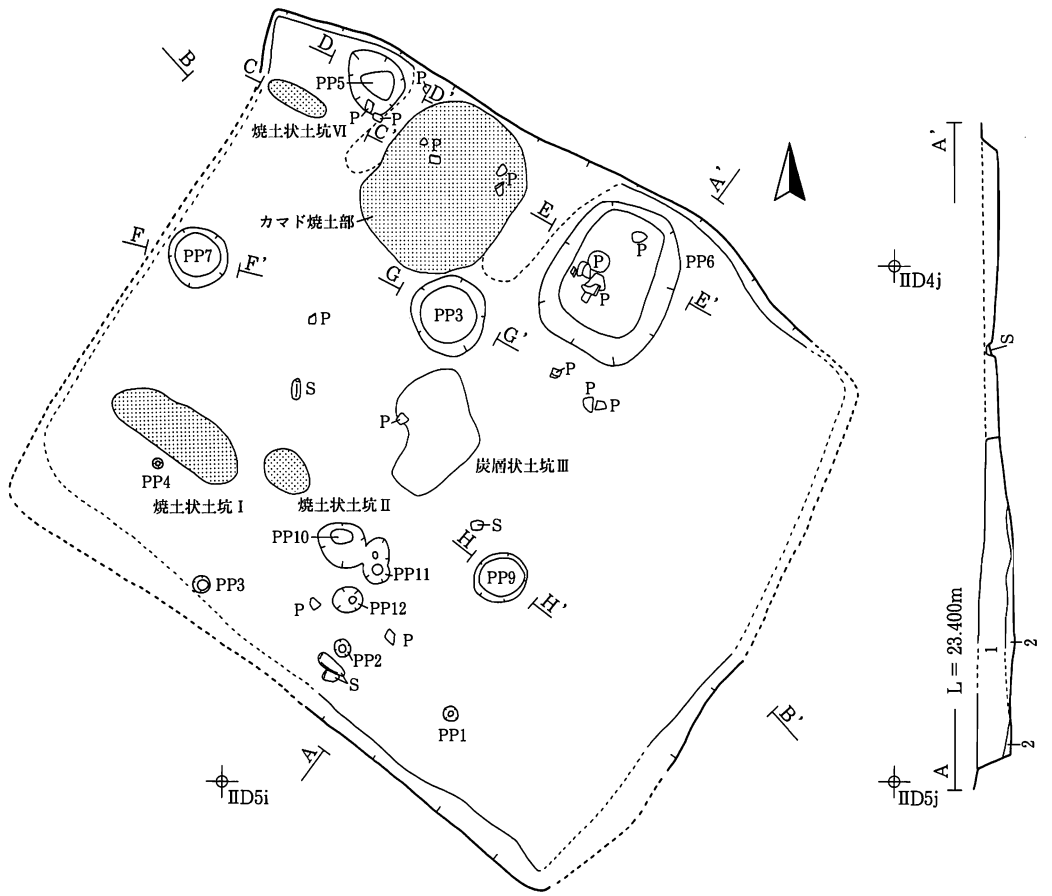
〈羽口〉　羽口片が出土しているが重複する1号工房跡の遺物が流れ込んだ可能性もある。

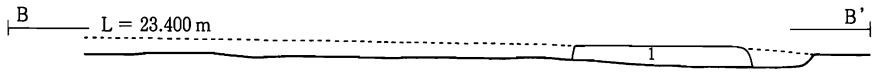
時期　検出状況と遺物から、火山灰降下直後の10世紀初頭から前半の遺構と考えられる。



a-a'・b-b'
1．10YR3/4　暗褐色土と10YR5/6黄褐色土の混合土に炭化物、5YR6/6　橙色土ブロック状に混入　粘性ややあり　しまりあり
2．10YR5/6　黄褐色土　粘性ややあり　しまりあり
3．10Y6/3　にぶい黄橙色土　粘性ややあり　しまりあり
4．7.5YR5/8 明褐色土　粘性なし　しまりあり
5．5YR4/8　赤褐色土　粘性ややあり　しまりあり
6．10YR4/1　褐色土に5YR4/8を含む　粘性ややあり　しまりあり
7．10YR3/4　暗褐色土に炭化物を含む　粘性ややあり　しまりあり

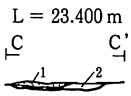
第11図　3号竪穴住居跡（1）





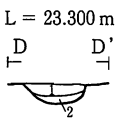
A-A' ・B-B'
1．10YR4/4 褐色土 粘性あり しまりややあり
2．10YR4/6 (地山)

焼土状土坑Ⅵ

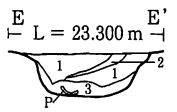


C-C'
1．7.5YR3/3 暗褐色土 粘性あり しまりかなりあり
2．10YR5/6 黄褐色土 粘性あり しまりかなりあり

PP5



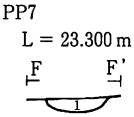
PP6



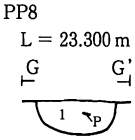
D-D'
1．7.5YR4/4 褐色土、5YR4/8赤褐色土、10YR4/3にぶい黄褐色土の混合に炭化物を含む 粘性あり しまりややあり
2．10YR4/3 にぶい黄褐色土に炭化物を含む 粘性あり しまりややあり

E-E'
1．10YR4/4 褐色土 炭化物を含む 粘性あり しまりややあり
2．10YR4/4 褐色土に7.5YR4/6褐色土がブロック状に含み、炭化物も含む 粘性あり しまりややあり
3．10YR5/3 にぶい黄褐色土 粘性あり しまりややあり

PP7

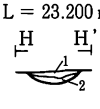


PP8

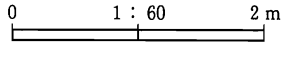


F-F' ・G-G'
1．10YR4/4 褐色土 炭化物を含む 粘性あり しまりかなりあり

PP9



H-H'
1．10YR4/4 褐色土 炭化物を含む 粘性あり しまりややあり
2．10YR5/4 にぶい黄褐色土 粘性あり しまりややあり



第12図　3号竪穴住居跡(2)

4号竪穴住居跡

遺構（第13図、写真図版14）

〈位置〉　調査区ⅡＥ1ｃ～ＩＥ9ｄグリッド、標高23ｍに位置する。

〈検出状況〉　精査段階で燃焼部状の土器を検出し、トレンチ調査からプランを確認した。

〈規模・平面形・方向〉　長軸5.3ｍ、短軸4.4ｍ、面積は19.7㎡を測る。平面形は不整な隅丸方形を呈する。竈の軸線方向はＮ-23°-Ｅ、長軸の方向はＷ-17°-Ｎである。

〈竈・柱穴〉　竈は北壁のほぼ中央に作られている。煙道は削平により消失し、袖部も殆どその痕跡を残すのみとなっていた。両袖は自然石を芯材に黒褐色土を張り付けて構築されていた。また、竈燃焼部の焼土も確認されていない。明確な支柱穴は確認されていない。

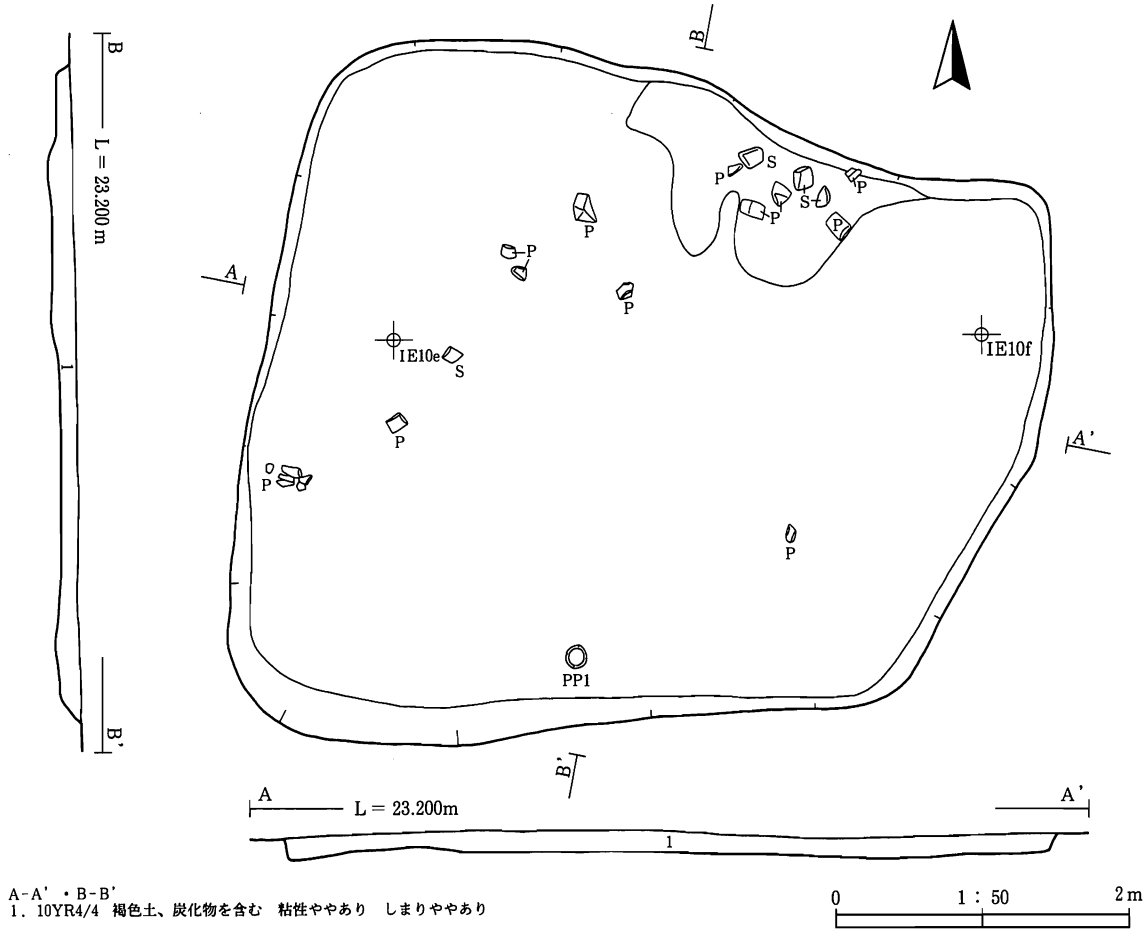
〈壁・床面・埋土〉　壁高は北壁13.8㎝、東壁16.1㎝、南壁17㎝を測り、埋土は褐色土が主体となって構成されている。

遺物（第184・185・222図、写真図版122・154）

〈出土状況〉　埋土中、床面付近から土師器の甕、坏が出土してる。

〈土器〉　53は内外面を黒色処理された坏である。粗いナデ調のミガキが施されている。55・65・65・70・71は内面黒色処理の坏である。甕（60～64）は胴外面にケズリが施されている。

時期　出土した遺物から火山灰降下後の10世紀後半の遺構と考えられる。



第13図　4号竪穴住居跡

5号竪穴住居跡

遺構（第14図、写真図版15）

〈位置・重複関係〉　調査区ⅠE10ｆグリッド、標高23.1ｍに位置し、6号竪穴住居跡、20号土坑と重複する。

〈検出状況〉　表土除去直後の検出作業では遺構が確認できず、大量の降雨後の二次検出によりプランを確認した。

〈規模・平面形・方向〉　長軸5.0ｍ、短軸3.9ｍ、壁高は11～13㎝、面積は9.4㎡を測る。平面形は不整な隅丸方形を呈する。竈の軸線方向はN-24°-E、長軸の方向はW-22°-Nである。

〈竈〉　竈は北壁の中央東側寄りに作られており、燃焼部の焼成は不良である。

〈床面・付属施設〉　床面は堅く締まっており、竈東側には付属する土坑が構築され、土師器の坏等が検出されている。

〈壁・埋土〉　壁は緩やかに直線的に立ち上がり、削平により12～14㎝が残存するのみである。埋土は褐色土が主体となって構成されている。

遺物（第185図、写真図版122）

〈出土状況〉　埋土中や床面から土師器の坏と甕が出土してる。

〈土器〉　78・80は高台付坏で輪高台を持つ。75は内面黒色処理された坏である。

〈土製品〉　土錘（977～980）が埋土下層から出土している。

時期　出土した遺物から10世紀前半から後半の遺構と考えられる。

6号竪穴住居跡

遺構（第14図、写真図版15）

〈位置・重複関係〉　調査区ⅠE10fグリッド、標高22.6ｍに位置し、5号竪穴住居跡と重複する。

〈検出状況〉　5号住居跡の精査段階で遺構の存在を確認した。

〈規模・平面形・方向〉　長軸3.5ｍ、短軸2.7ｍ、壁高は〈4～12〉㎝、面積は8.2㎡を測る。開口部の平面形は不整な隅丸方形を呈する。長軸の方向はW-18°-Nである。5号竪穴住居跡は本住居址の拡幅とも考えられるが軸線が僅かにずれている。

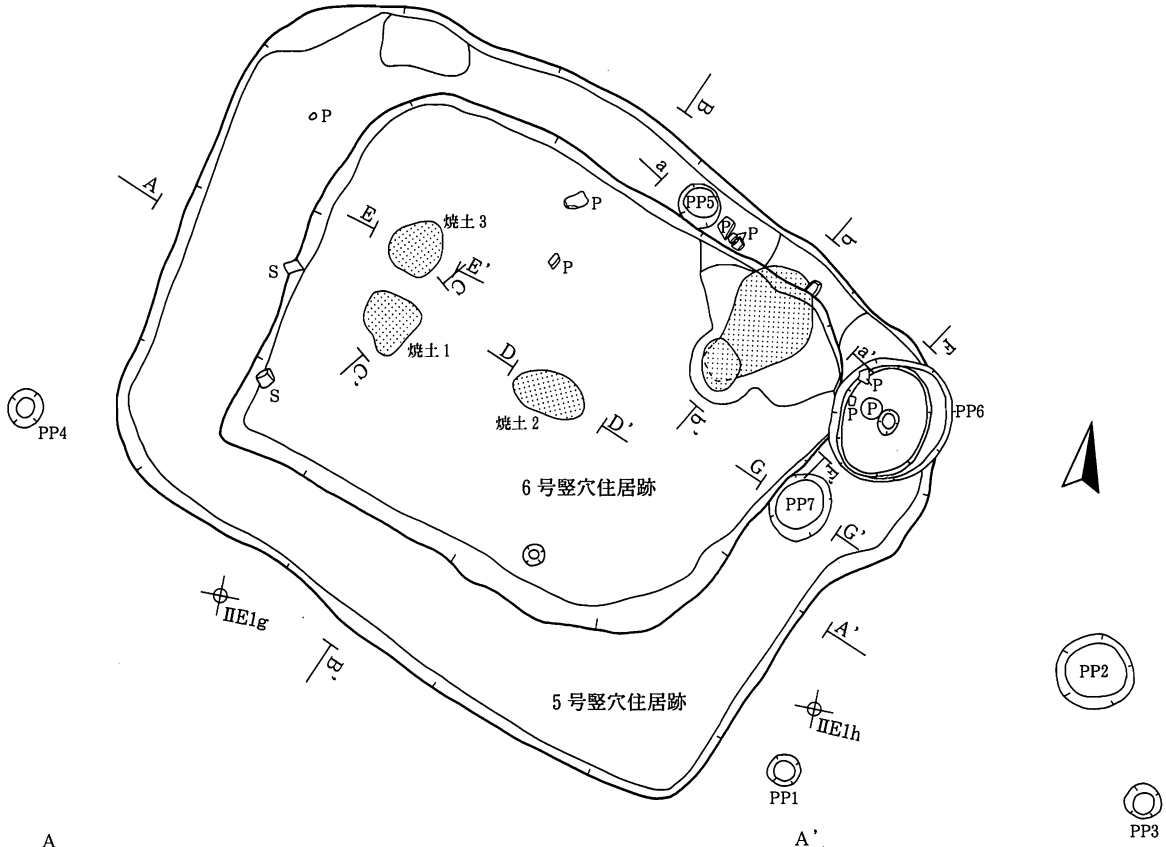
竈は存在せず中央に焼土（地床炉？）が検出されている。

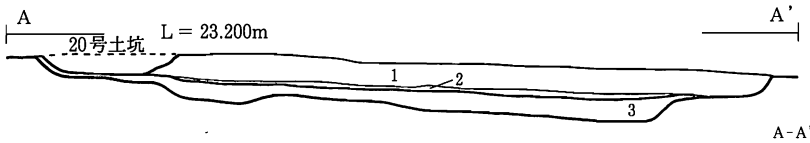
〈埋土〉　埋土は褐色土が主体となって構成されている。

遺物（第185図、写真図版123）

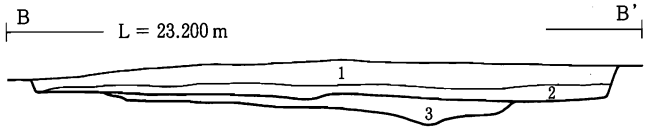
〈出土状況〉　埋土中から土師器の坏が1点（82）出土してる。切り離しは回転糸切りである。

時期　検出状況と出土した遺物から、火山灰降下後の10世紀前半と考えられる。

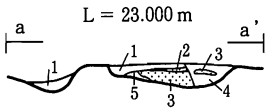


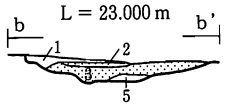


A-A'
1．10YR4/4 褐色土 炭化物を含む 粘性あり しまりややあり
2．炭化物層
3．1層と類似

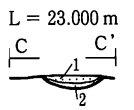


B-B'
1．10YR4/4 褐色土 炭化物含む 粘性あり しまりややあり
2．10YR1.7/1 黒色土 炭化物層
3．10YR4/6 褐色土 粘性あり しまりあり

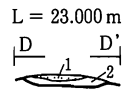




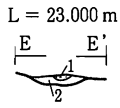
カマドa-a'・b-b'
1．10YR4/3 にぶい 黄褐色土に5YR4/8赤褐色土がブロック状に混入
粘性ややあり しまりややあり
2．7.5YR5/4 にぶい褐色土 粘性あり しまりややあり
3．5YR4/6 赤褐色土 粘性ややあり しまりややあり
4．10YR4/3 にぶい黄褐色土に5YR4/6赤褐色土がブロック状に混入
炭化物を含む 粘性あり しまりややあり
5．10YR5/6 黄褐色土 粘性あり しまりややあり



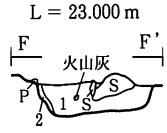
焼土1
1．7.5YR3/3～3/4 暗褐色焼土
粘性ややあり しまりややあり
2．7.5YR3/4 暗褐色焼土
粘性ややあり しまりあり



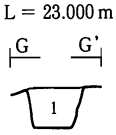
焼土2
1．7.5YR3/3～3/4 暗褐色焼土
粘性ややあり しまりややあり
2．10YR3/4 暗褐色土
粘性ややあり しまりあり



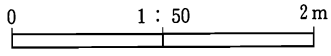
焼土3
1．5YR4/4 にぶい赤褐色土
粘性なし しまりなし
2．10YR3/4 暗褐色土、上位に7.5YR4/3
褐色土を含む 粘性なし しまりなし



F-F'
1．10YR4/4 褐色土 粘性あり しまりややあり
2．10YR5/6 黄褐色土 粘性あり しまりややあり



G-G'
1．10YR3/4 暗褐色土 粘性なし しまりなし



第14図　5・6号竪穴住居跡

7号竪穴住居跡

遺構（第15図、写真図版16）

〈位置〉　調査区ⅡＥ２ｇグリッド、標高23.0ｍに位置する。

〈検出状況〉　５号竪穴住居跡と同様に大量の降雨後に、二次検出によりプランを確認した遺構である。

〈規模・平面形・方向〉　長軸５ｍ、短軸3.9ｍ、壁高は10～15㎝、面積は16.8㎡を測る。平面形は隅丸方形を呈する。長軸の方向はＥ-50°-Ｎである。

〈壁・床面・炉・埋土〉　壁は緩やかに立ち上がり、床面には炭化物や焼土（地床炉）が検出された。埋土は褐色土が主体となって構成されている。

遺物（第185・206・212・222図、写真図版123・145）

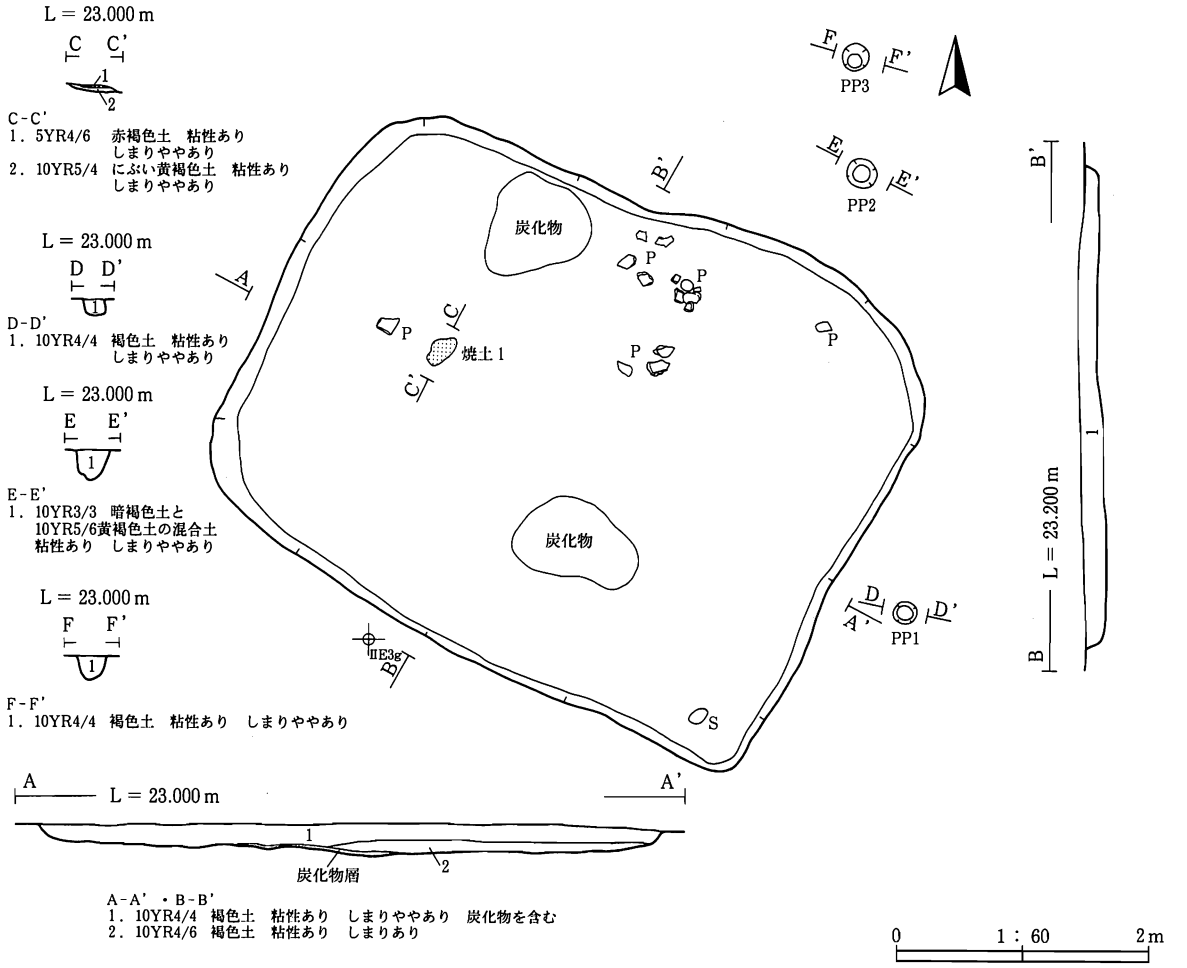
〈出土状況〉　土師器の坏、甕と灰釉陶器片（658）等が出土してる。

〈陶器〉　658は東濃産の灰釉陶器の（四耳？）壺片（K90－K53：10世紀）で床面直上から出土している。

〈土器〉　83・84は内面黒色処理された坏で、甕（85～92）の胴外面はケズリが施されている。92は酸化炎焼成された須恵器の甕片である。

〈土製品・石器〉　床面から土錘（981）が１点、床面直上から磨石（820）が出土している。

時期　出土した遺物から10世紀後半から11世紀頃の遺構と考えられる。



第15図　７号竪穴住居跡

8号竪穴住居跡

遺構（第16図、写真図版17・18）

〈位置〉　調査区ⅢC4d～ⅢC5dグリッド、標高22.5mに位置する。

〈検出状況〉　畠跡の検出時にプランを確認した住居跡で、火山灰を切って作られていた。

〈規模・平面形・方向〉　長軸3.4m、短軸3.4m、壁高は21～22cm、面積は9.4㎡を測る。平面形は隅丸方形を呈する。長軸の方向はW-35°-Nである。

〈炉〉　竈は検出されなかったが、床面北側から地床炉が検出されている。

〈埋土〉　埋土は褐色土が主体となって構成されている。

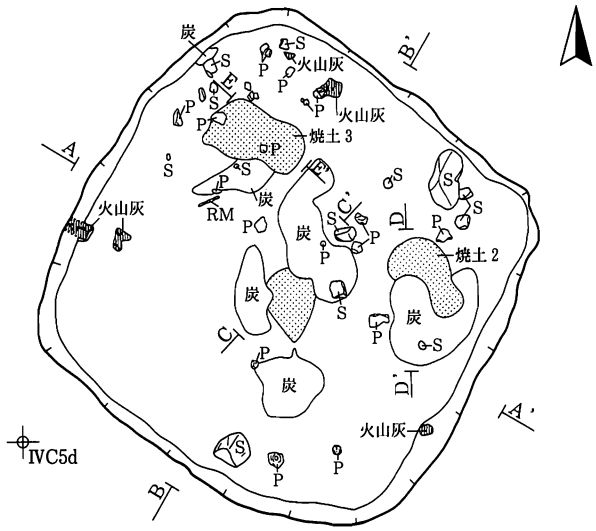
遺物（第185・186図、写真図版123・149）

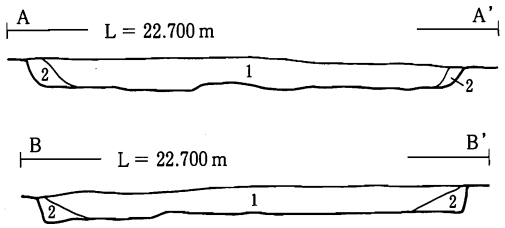
〈出土状況〉　埋土中や床面から土器や鉄製品が出土してる。

〈土器〉　93～96・111は高台付坏で、93～96は内面黒色処理を施している。

〈鉄製品〉　埋土中から刀子（874）が1点出土している。

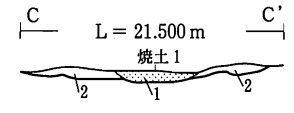
時期　検出状況や出土した遺物から、火山灰降下後の10世紀後半から11世紀頃の遺構と考えられる。



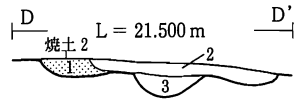


A-A'
1．10YR3/3　暗褐色土、炭化物を2%含む　粘性あり　しまりややあり
2．10YR4/3　にぶい黄褐色土、炭化物を含む　粘性あり　しまりややあり

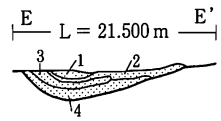
B-B'
1．10YR3/3　暗褐色土、炭化物を2%含む　粘性あり　しまりややあり
2．10YR4/3　にぶい黄褐色土、炭化物を1%含む　粘性あり　しまりややあり



焼土1
1．2.5YR3/4　暗赤褐色土　粘性あり　しまりややあり
2．10YR3/2　黒褐色土と炭化物粒との混合土　粘性あり　しまりややあり



焼土2
1．5YR4/8　赤褐色土　粘性あり　しまりあり
2．10YR3/2　黒褐色土、炭化物を3%含む　粘性あり　しまりあり
3．7.5YR3/3　暗褐色土と5YR4/8赤褐色土と炭化物との混合土　粘性あり　しまりややあり



焼土3
1．2.5YR5/4　にぶい赤褐色土　粘性あり　しまりあり
2．5YR5/8　明赤褐色土　粘性なし　しまりかなりあり
3．2.5YR4/8　赤褐色土　粘性あり　しまりあり
4．2.5YR3/4　暗赤褐色土　粘性あり　しまりややあり

0　1：60　2m

0　1：30　1m

第16図　8号竪穴住居跡

9号竪穴住居跡

遺構（第17・18図、写真図版19）

〈位置〉　調査区ⅡE4a～ⅡE3aグリッド、標高23.1mに位置する。

〈検出状況〉　平面的な遺構プランの確認はできず、不整形な炭化物の広がりのトレンチ調査から住居址のプランを確認した。残存状況は良くない。

〈規模・平面形・方向〉　長軸5.8m、短軸4.2m、壁高は3.4～10.9cm、面積は（21.1）㎡を測る。平面形は不整な方形を呈する。竈の軸線方向はE-33°-S、長軸の方向はN-33°-Eである。

〈竈〉　竈は東壁の中央からやや南側に作られていたが、袖部は芯材を残す程に削平を受けていた。煙道や煙出は検出されなかった。

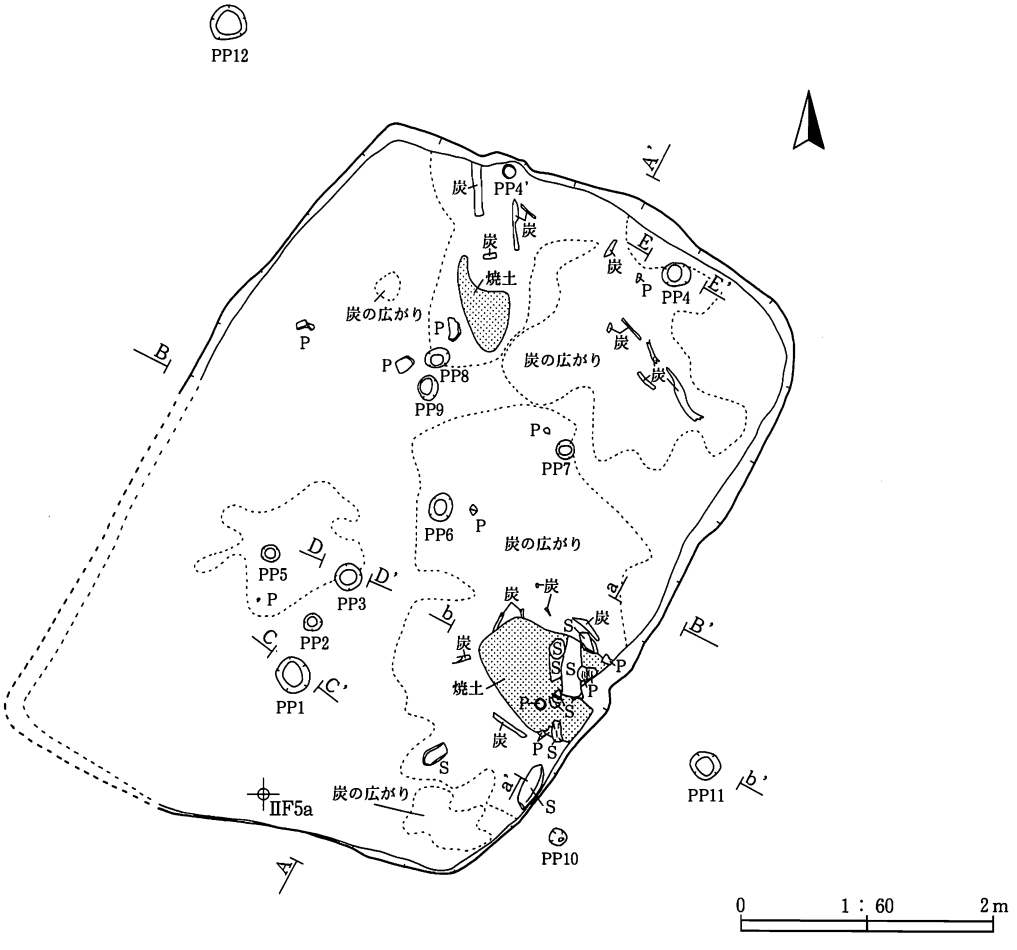
〈壁・床面・埋土〉　削平により南西壁は不明瞭で確認はできなかった。床面は良く締まり、上屋の垂木と思われる炭化材が検出された。焼失住居と考えられる。埋土は黒褐色から暗褐色土が主体となって構成されている。

遺物（第186・222図、写真図版123・124・154）

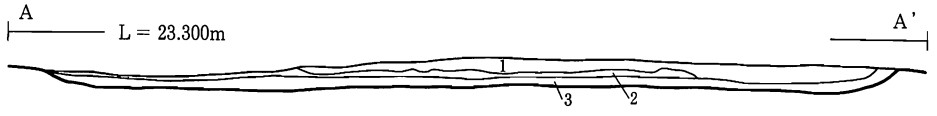
〈出土状況〉　土師器の坏と甕片が出土してる。

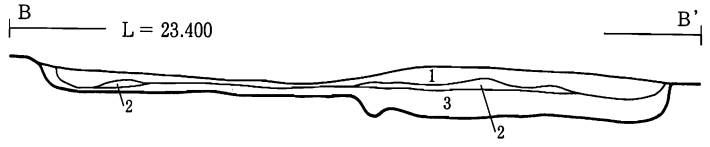
〈土器〉　112・117は高台付き坏である。115は丸底の鉢？で、内面に炭化物が付着する。甕は須恵器が5点（113・120・123～125）、土師器が4点（118・119・121・122）出土している。

時期　検出状況と出土した遺物から、火山灰降下後の10世紀前半と考えられる。

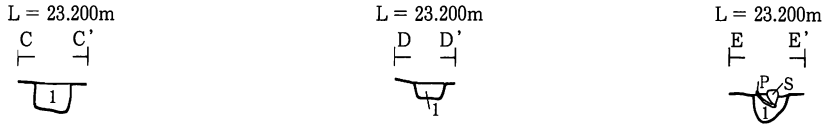


第17図　9号竪穴住居跡（1）





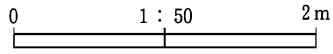
A-A' ・B-B'
1．10YR3/3 暗褐色土、炭化物を２％含む 粘性ややあり しまりあり
2．10YR3/2 黒褐色土～10YR3/3暗褐色土に炭化物５％、焼土粒を微量に含む 粘性ややあり しまりあり
3．10YR4/4 褐色土に10YR3/3暗褐色土を10%含む 粘性なし しまりあり

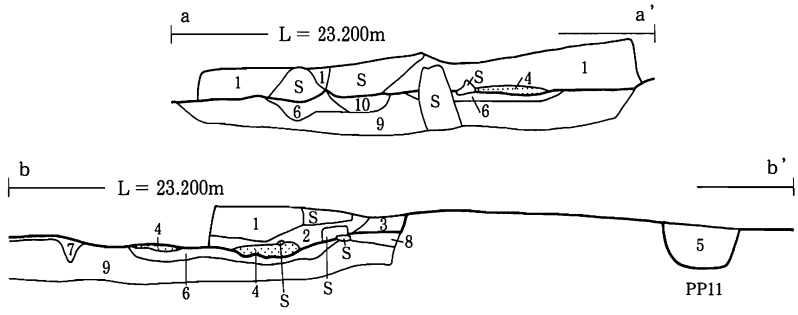


C-C'
1．10YR3/3 暗褐色土に炭化物２％を含む 粘性ややあり しまりあり

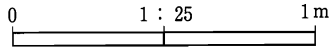
D-D'
1．10YR3/4 暗褐色土に炭化物を微量に含む 粘性ややあり しまりあり

E-E'
1．10YR3/3 暗褐色土に炭化物・焼土粒１％を含む 粘性ややあり しまりあり





a-a' ・b-b'
1．10YR3/4 暗褐色土 粘性ややあり しまりあり
2．10YR3/4 暗褐色土に炭化物、焼土１～２％含む 粘性ややあり しまりあり
3．10YR3/4 暗褐色土～10YR4/4褐色土 粘性ややあり しまりあり
4．5YR4/6 赤褐色焼土に10YR3/4暗褐色土を10%含む混合土 粘性なし しまりあり
5．10YR3/4 暗褐色土～10YR4/4褐色土に炭化物を微量に含む 粘性ややあり しまりあり
6．7.5YR4/4 褐色土 粘性なし しまりあり
7．10YR3/4 暗褐色土に10%の炭化物を含む 粘性なし しまりあり
8．10YR4/4 褐色土に炭化物を含む 粘性なし しまりあり
9．10YR4/4 褐色土 粘性なし しまりあり
10．10YR3/4 暗褐色土、焼土２％、炭化物３％を含む 粘性なし しまりあり



第18図　９号竪穴住居跡（２）

10号竪穴住居跡

遺構（第19・20図、写真図版20）

〈位置〉　調査区ⅡＥ２ｆ～ⅡＥ３ｆグリッド、標高22.9ｍに位置する。

〈検出状況〉　５・７号住居址と同様に降雨後の二次検出により遺構の存在を確認した。

〈規模・平面形・方向〉　長軸2.9ｍ、短軸2.9ｍ、壁高は14㎝、面積は7.2㎡を測る。平面形は隅丸方形を呈する。竈の方向はＥ-23°-Ｓである。

〈竈〉竈や袖の天井部は消失し、袖の芯材や煙道のみが残存する。

〈柱穴〉明瞭な柱穴は検出されなかった。

〈壁・床面・埋土〉　東壁はやや急に立ち上がるが、その他は緩く内彎しながら立ち上がる。床面は堅く締まり、埋土は黄褐色土が主体となって構成されている。

遺物（第187・212図、写真図版124・145）

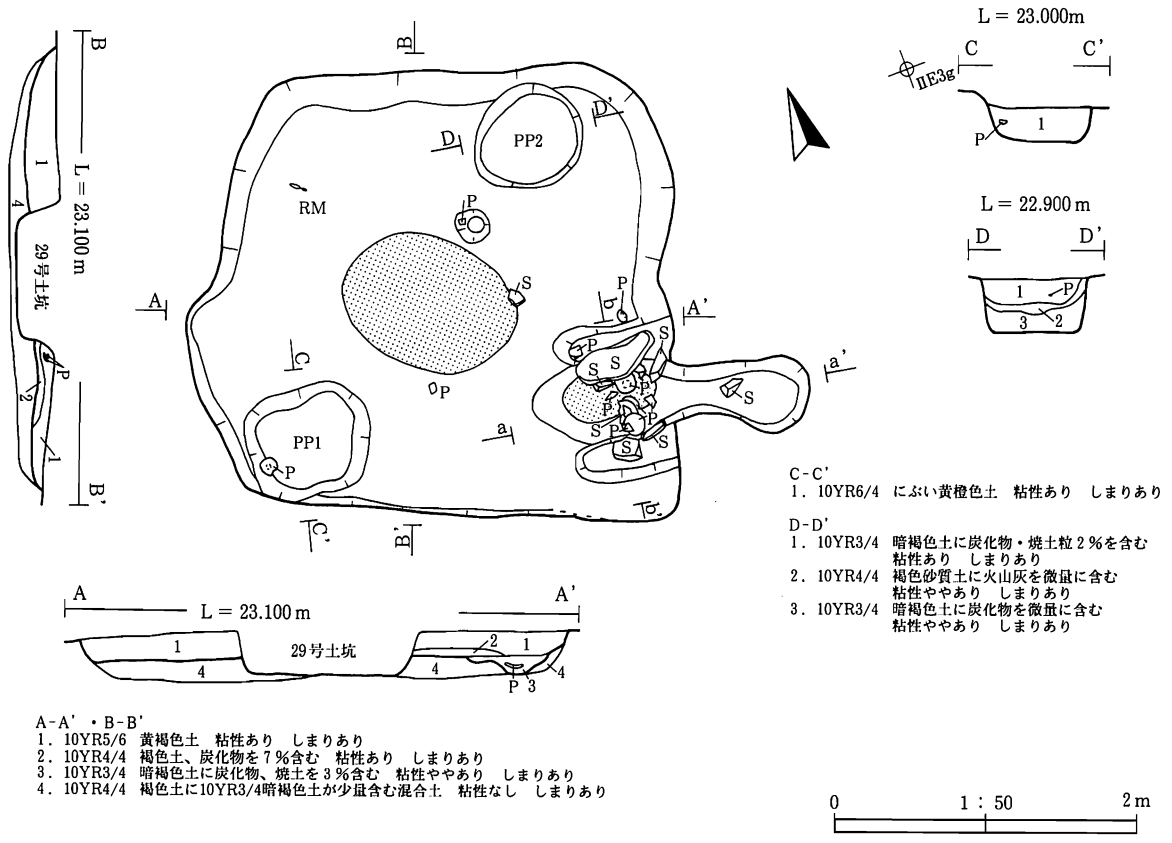
〈出土状況〉　埋土中や床面から土器が出土してる。

〈土器〉　126～139は土師器の坏で、131・132・135・136は内外面を黒色処理されている。甕は須恵器の１点（140）のみが出土している。

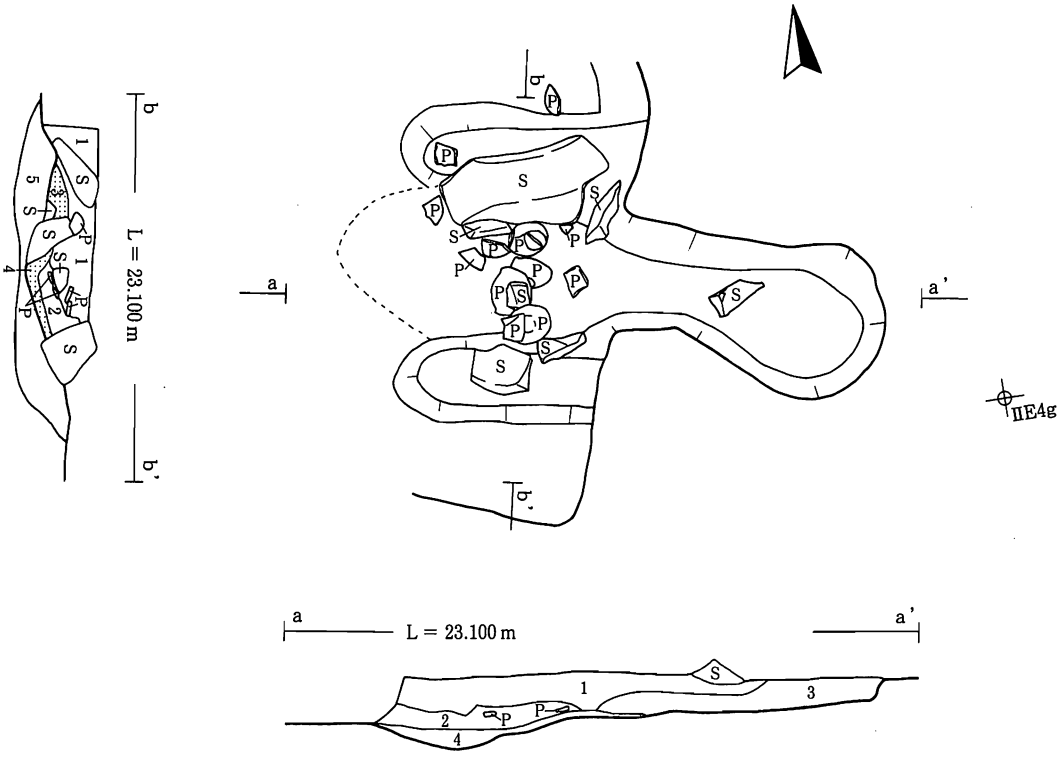
〈土製品〉　982・983は土錘で、Ｐ１埋土中から出土している。

〈石製品〉　磨石（831～834）が床面から出土している。821～830は砥石に転用した棒状の自然石でＰ２から出土している。

時期　検出状況と出土した遺物から、山灰降下後の10世紀前半～後半と考えられる。



第19図　10号竪穴住居跡（１）



a-a'
1．10YR5/4　にぶい黄褐色土　粘性あり　しまりあり
2．10YR4/3　にぶい黄褐色土と10YR5/8黄褐色土との混合、炭化物を１％含む　粘性あり　しまりあり
3．10YR6/6　明黄褐色土　粘性あり　しまりあり
4．7.5YR3/4 暗褐色土、上位に5YR3/4明赤褐色土、焼土５％含む　粘性なし　しまりあり

b-b'
1．10YR6/6　明黄褐色土　粘性あり　しまりあり
2．10YR4/3　にぶい黄褐色土と10YR6/8明黄褐色土の混合　粘性あり　しまりあり
3．10YR6/6　明黄褐色土　粘性あり　しまりあり
4．7.5YR3/4 暗褐色土、上位に5YR3/4明赤褐色土、焼土５％含む　粘性なし　しまりあり
5．10YR4/4　褐色土　粘性なし　しまりあり

0　1：50　2m

第20図　10号竪穴住居跡（２）

11号竪穴住居跡

遺構（第21図、写真図版21）

〈位置〉　調査区ⅡE1dグリッド、標高23.1mに位置し、12号竪穴住居跡の1.7m南西に近接する。

〈検出状況〉　P1の精査段階で燃焼部状の土器を検出し、トレンチ調査からプランを確認した。

〈規模・平面形・方向〉　長軸2.3m、短軸2.3m、壁高は8～22cm、面積は4.5㎡を測る。平面形は方形を呈する。長軸の方向はN-2°-Wである。

竈袖の芯材と思われる石が床面北西側で集中していることなどから、意図的に廃棄された可能性も考えられる。竈はこの北西隅周辺に構築されていたものと推定される。

〈柱穴〉　明瞭な柱穴は検出されていないが、床面中央にPP1が掘り込まれていた。形状は10号竪穴住居跡に類似する。

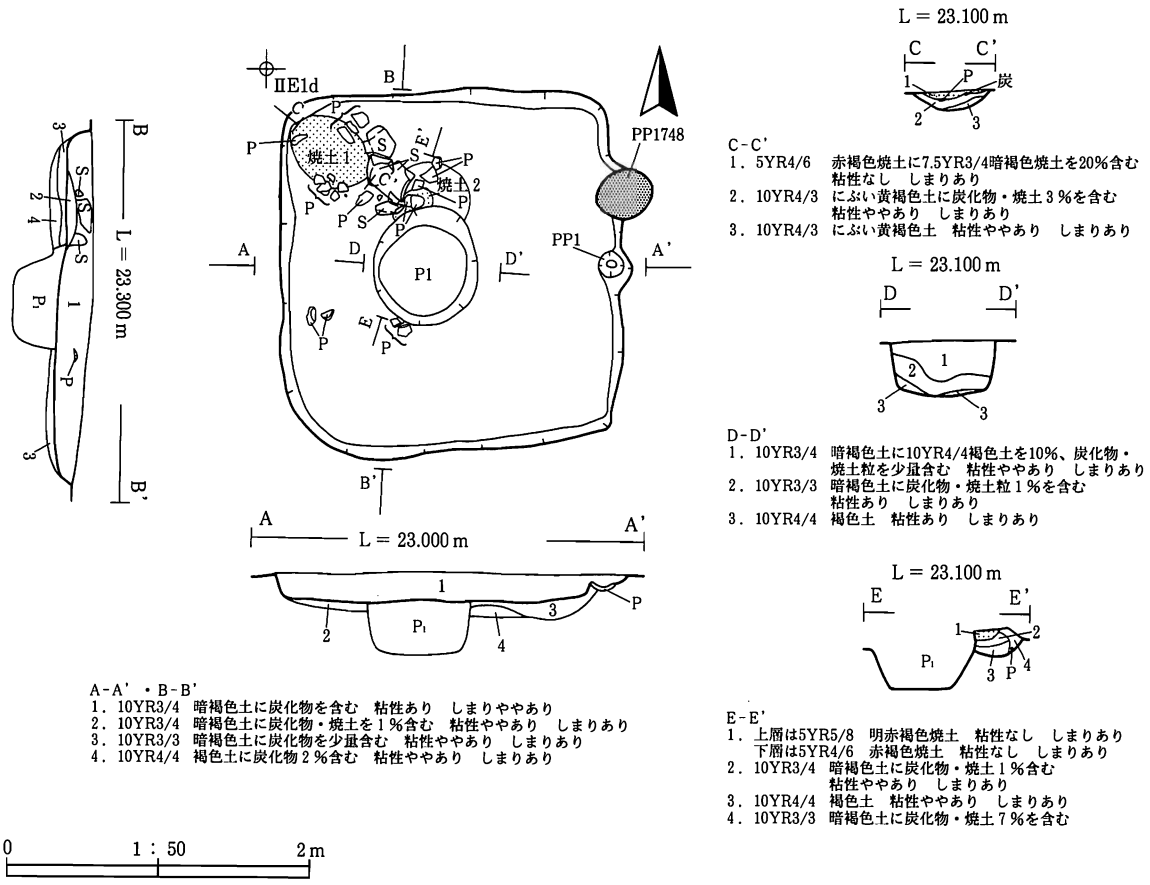
〈壁・床面・埋土〉　北と西の壁に比して南東の壁は緩く立ち上がり、床面は締まっていた。埋土は褐色土が主体となって構成されている。

遺物（第187・188図、写真図版124・125）

〈出土状況〉　土師器の坏、甕が埋土中や床面から出土している。

〈土器〉　142・155は内面に黒色処理が施されている。底部が残る141・143～145の坏はいずれも底部の切り離しは回転糸切りである。

時期　検出状況と出土した遺物から、火山灰降下後の10世紀前半から後半の遺構と考えられる。



第21図　11号竪穴住居跡

12号竪穴住居跡

遺構（第22図、写真図版22）

〈位置〉　調査区ⅠE10e～ⅡE1eグリッド、標高23.1mに位置し、11号住居址の1.7m北東に近接する。

〈検出状況〉　表土除去後の検出で確認されず、11号住居址と同様に降雨後の二次検出でプランを確認した。

〈規模・平面形・方向〉　長軸3.1m、短軸2.9m、壁高は9㎝、面積は7.1㎡を測る。平面形は不整な方形を呈する。長軸の方向はE-24°-Sである。

〈焼土〉　床面の中央から南東側に焼土を検出した。焼土と南東壁の間には礫が集中して検出され、炉あるいは袖の芯材に利用されるものの可能性も考えられる。

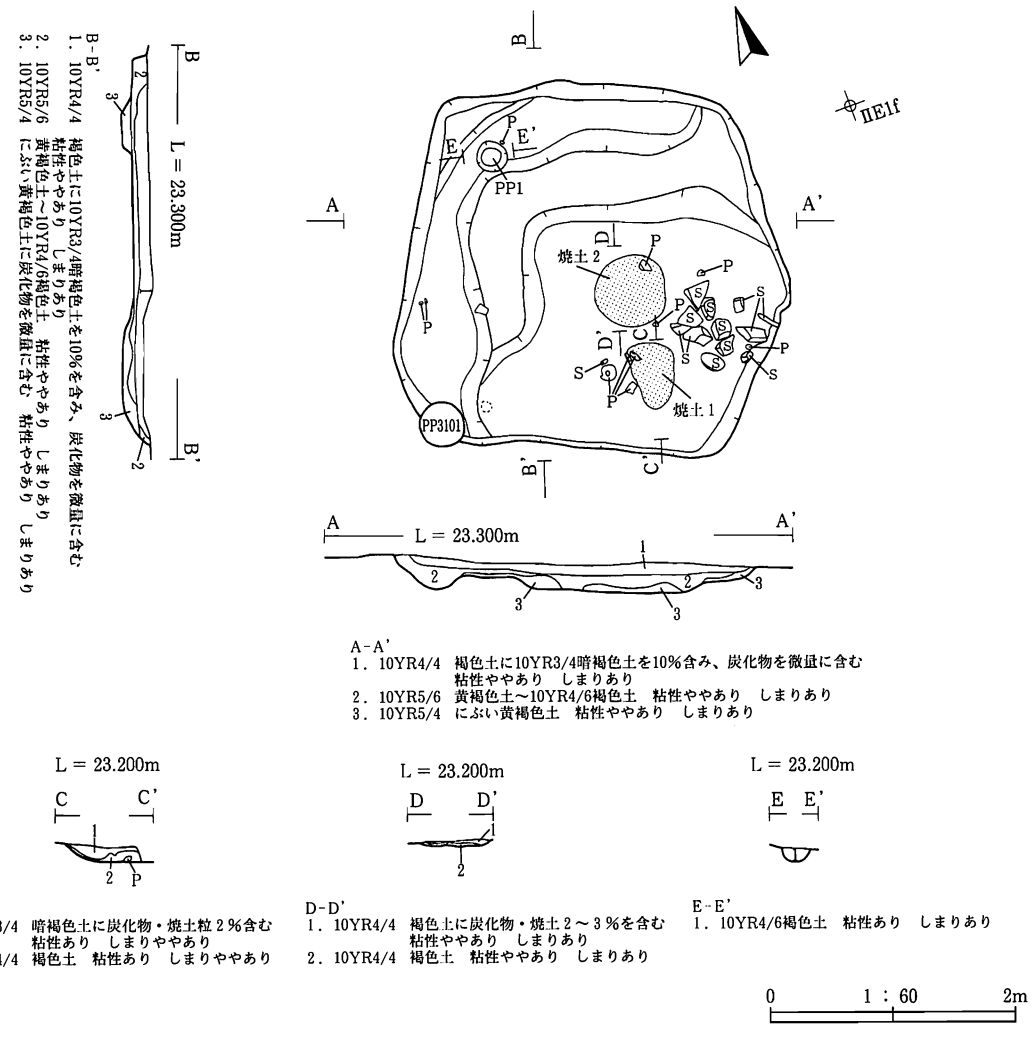
〈壁・床面・埋土〉　壁は緩く内彎しながら立ち上がり、埋土は褐色土が主体となって構成されている。

遺物（第188図、写真図版125）

〈出土状況〉　埋土中と床面から土師器の坏・甕、須恵器の甕が出土している。

〈土器〉　158～162は土師器の坏である。160・162は内面黒色処理が施されている。165・166は須恵器の甕である。外面にケズリ、タタキ目が施されている。

時期　検出状況と出土した遺物から、火山灰降下後の10世紀後半から11世紀頃と考えられる。



第22図　12号竪穴住居跡

13号竪穴住居跡

遺構（第23図、写真図版13・23）

〈位置〉　調査区ⅡＤ２ｈグリッド、標高23.3ｍに位置する。

〈検出状況〉　開田時の攪乱により住居址の殆どが失われ、検出されたのは竈跡の燃焼部と付属の土坑のみである。

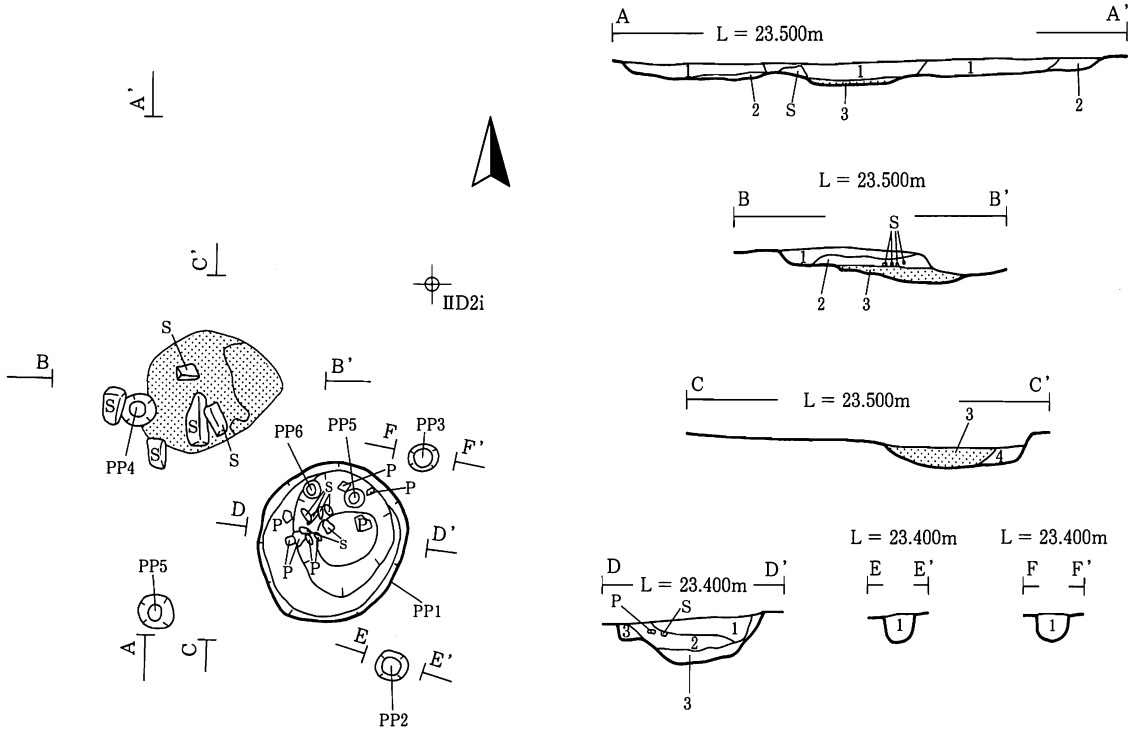
〈方向〉　燃焼部と土坑の位置から竈の軸線方向はＥ-42°-Ｎと推定される。

遺物（第188・189・222図、写真図版125・154）

〈出土状況〉　埋土中や燃焼部付近から土師器の坏・甕が出土している。

〈土器〉　168は171は完形の坏で、切り離しは回転糸切りである。173・174・176の坏は内面を黒色処理されている。178～180・182・184・185はロクロ成形の甕である。

時期　検出状況と遺物から、火山灰降下後の10世紀前半～後半の遺構と考えられる。



A-A'・B-B'・C-C'
1．10YR3/3　暗褐色土　粘性ややあり　しまりややあり　炭化物含む
2．10YR4/4　褐色土と5YR4/6赤褐色土と炭化物含む　粘性ややあり　しまりややあり
3．5YR4/8　赤褐色土　粘性ややあり　しまりややあり　炭化物含む
4．10YR4/4　褐色土　炭化物含む　粘性ややあり　しまりややあり

D-D'
1．10YR4/4　炭化物含む　粘性ややあり　しまりややあり
2．10YR3/3と10YR4/4の混合土　炭化物含む　粘性ややあり　しまりややあり
3．10YR5/3　にぶい黄褐色　粘性あり　しまりややあり

E-E'
1．10YR4/4と10YR6/3　にぶい黄橙色　粘性ややあり　しまりややあり

F-F'
1．10YR4/3と3/3の混合土　粘性ややあり　しまりややあり

0　1：50　2m

第23図　13号竪穴住居跡

14号竪穴住居跡

遺構（第24・25図、写真図版24）

〈位置・重複関係〉　調査区ⅠE10aグリッド、標高23.3mに位置する。15・16号竪穴住居跡と重複し、10号溝跡と接する。

〈検出状況〉　降雨後の二次検出でプランを確認した遺構である。15号住居跡の建て替えと考えられる。

〈規模・平面形・方向〉　長軸3.9m、短軸3.3m、壁高は1.5～6.2㎝、面積は（12.0）㎡を測る。削平のためか残存状況は不良である。平面形は方形を呈する。長軸の方向はE-17°-Nである。

〈竈跡〉　北西隅で焼土を確認し、周囲からは芯材と思われる石が検出されているため竈跡と考えられる。

〈床面・埋土〉　床面は堅く締まり、埋土は褐色土が主体となって構成されている。貼り床の確認はできなかった。

遺物（第212・213図、写真図版145）

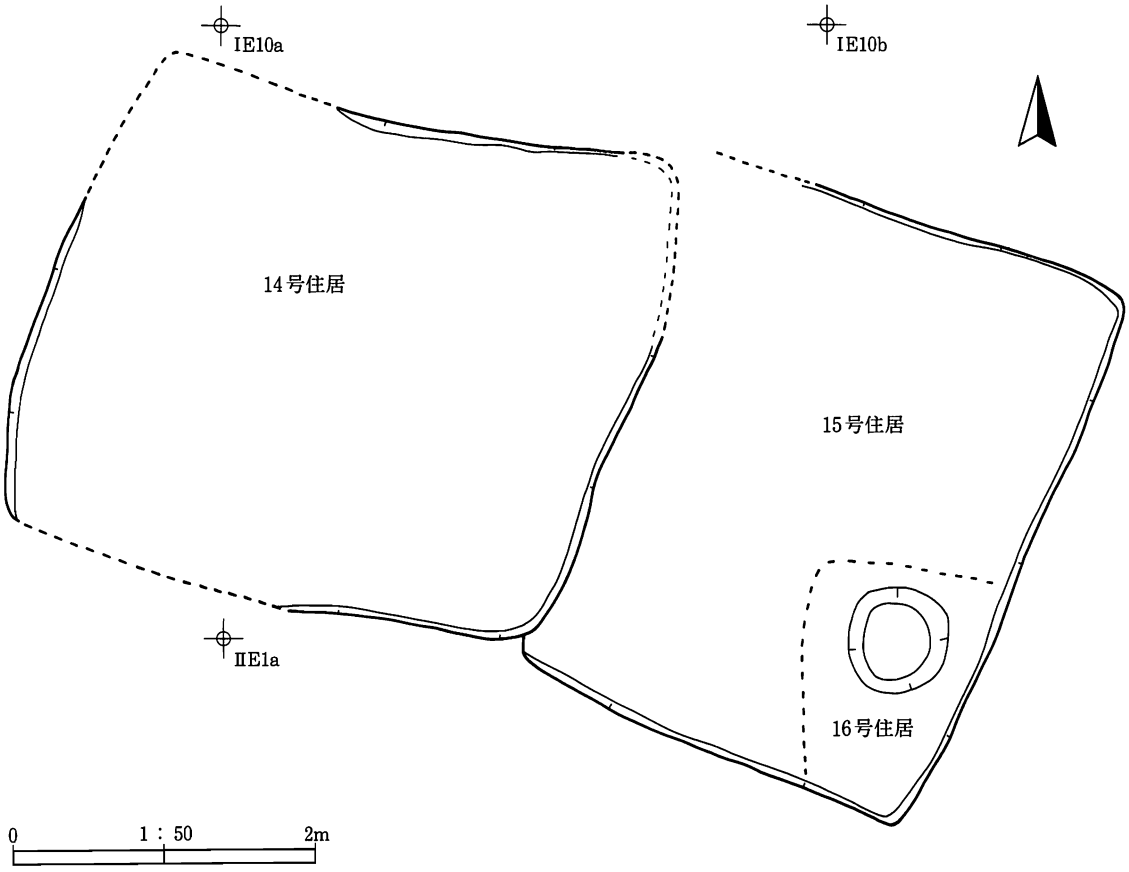
〈出土状況〉　埋土中や床面から土器と磨石等が出土してる。

〈土器〉　188は内外面を黒色処理された坏で、189は須恵器の甕片である。205は回転糸切りの坏である。

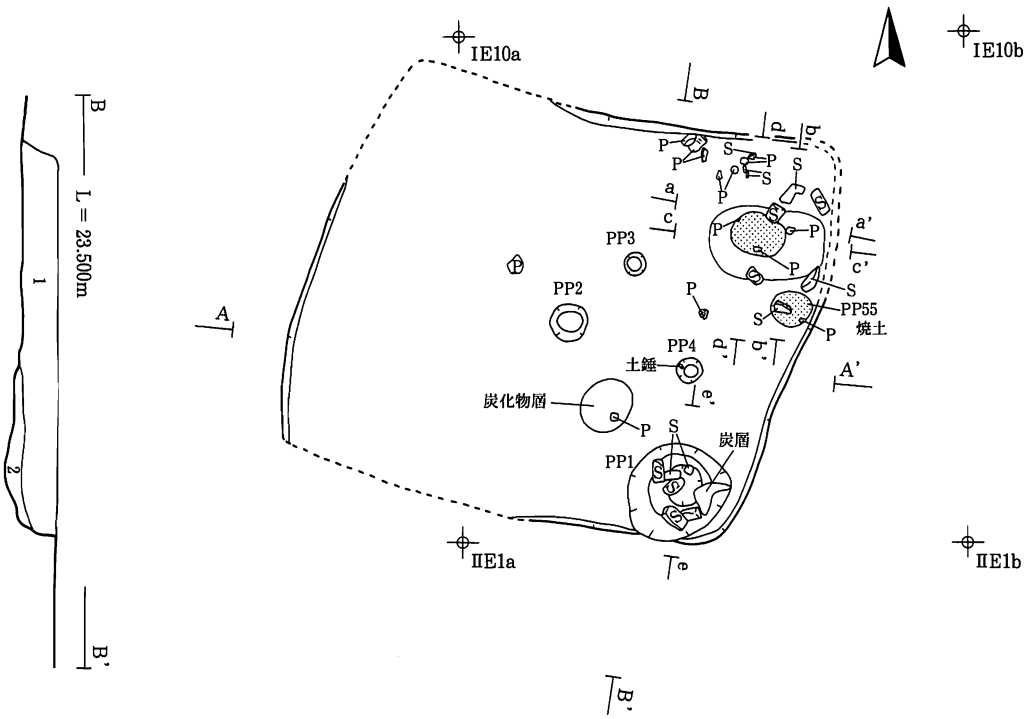
〈土製品〉　埋土下層から土錘（997）が1点出土している。

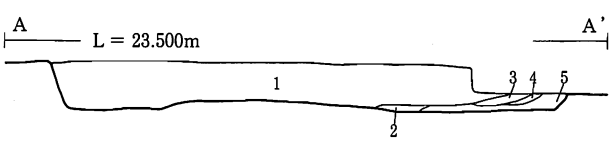
〈石器〉　835～837・839・840は磨石で、838は砥石等に転用されたと考えられる棒状の自然石である。

時期　検出状況や遺物から、10世紀後半から11世紀頃の遺構と考えられる。

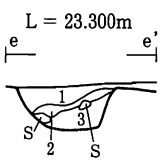


第24図　14～16号竪穴住居跡の重複関係

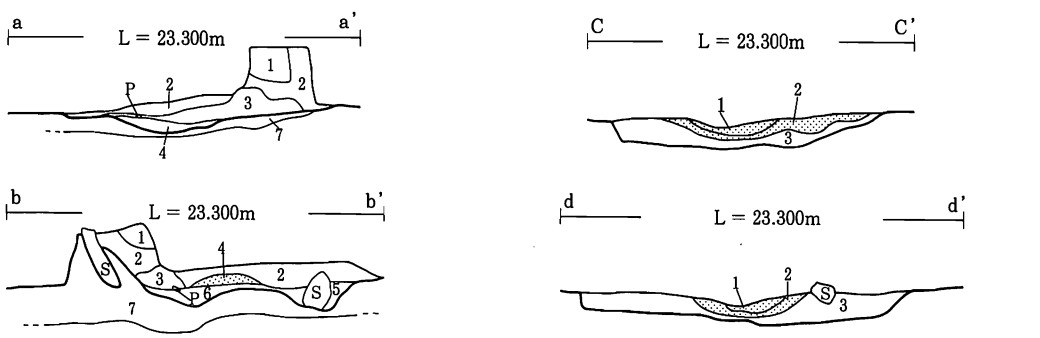




A-A' ・B-B'
1. 10YR3/4 暗褐色土に炭化物１％を含む 粘性ややあり しまりあり
2. 10YR4/4 褐色土 粘性ややあり しまりあり
3. 10YR4/2 灰黄褐色土～10YR4/3にぶい黄褐色土に水酸化鉄が少量含む 粘性ややあり しまりあり
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性ややあり しまりあり
5. 10YR4/4 褐色土に炭化物を微量に含む 粘性ややあり しまりあり

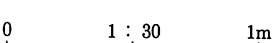


e-e'
1. 10YR4/2灰黄褐色土～10YR4/3 にぶい黄褐色土の混合土、炭化物１％を含む 粘性ややあり しまりあり
2. 10YR4/4 褐色土に炭化物層（粒70%）を含む 粘性ややあり しまりあり
3. 10YR4/4 褐色土 粘性ややあり しまりあり



a-a' ・b-b'
1. 10YR3/4 暗褐色土 粘性なし しまりあり
2. 10YR4/4 褐色土に7.5YR3/3焼土、炭化物１％を含む 粘性なし しまりあり
3. 7.5YR3/4 暗褐色焼土に7.5YR4/6焼土粒、炭化物３％を含む 粘性ややあり しまりあり
4. 5YR3/4 暗赤褐色焼土に炭化物を含む 粘性あり しまりあり
5. 7.5YR4/3 褐色土 粘性あり しまりややあり
6. 5YR4/8 赤褐色土ブロック状に炭化物が混入 粘性あり しまりややあり
7. 10YR4/4 褐色土 粘性なし しまりあり

c-c' ・d-d'
1. 5YR3/6 暗赤褐色土に炭化物を含む 粘性あり しまりあり
2. 5YR3/4 暗赤褐色土に炭化物を含む 粘性あり しまりあり
3. 10YR4/4 褐色土に炭化物を含む 粘性あり しまりあり



第25図　14号竪穴住居跡

15号竪穴住居跡

遺構（第24・26図、写真図版25・26）

〈位置・重複関係〉　調査区ＩD10a～ⅡD1bグリッド、標高23.0mに位置し、14・16号竪穴住居跡と重複する。

〈検出状況〉　14号竪穴住居跡の精査段階でトレンチ調査からプランを確認した。壁面等は14号住居跡の構築時に削平を受けたものと推定される。

〈規模・平面形・方向〉　長軸3.2m、短軸2.9m、壁高は〈1.0～5.2〉cm、面積は（10.4）㎡を測る。平面形は方形を呈する。長軸の方向はN-21°-Eである。

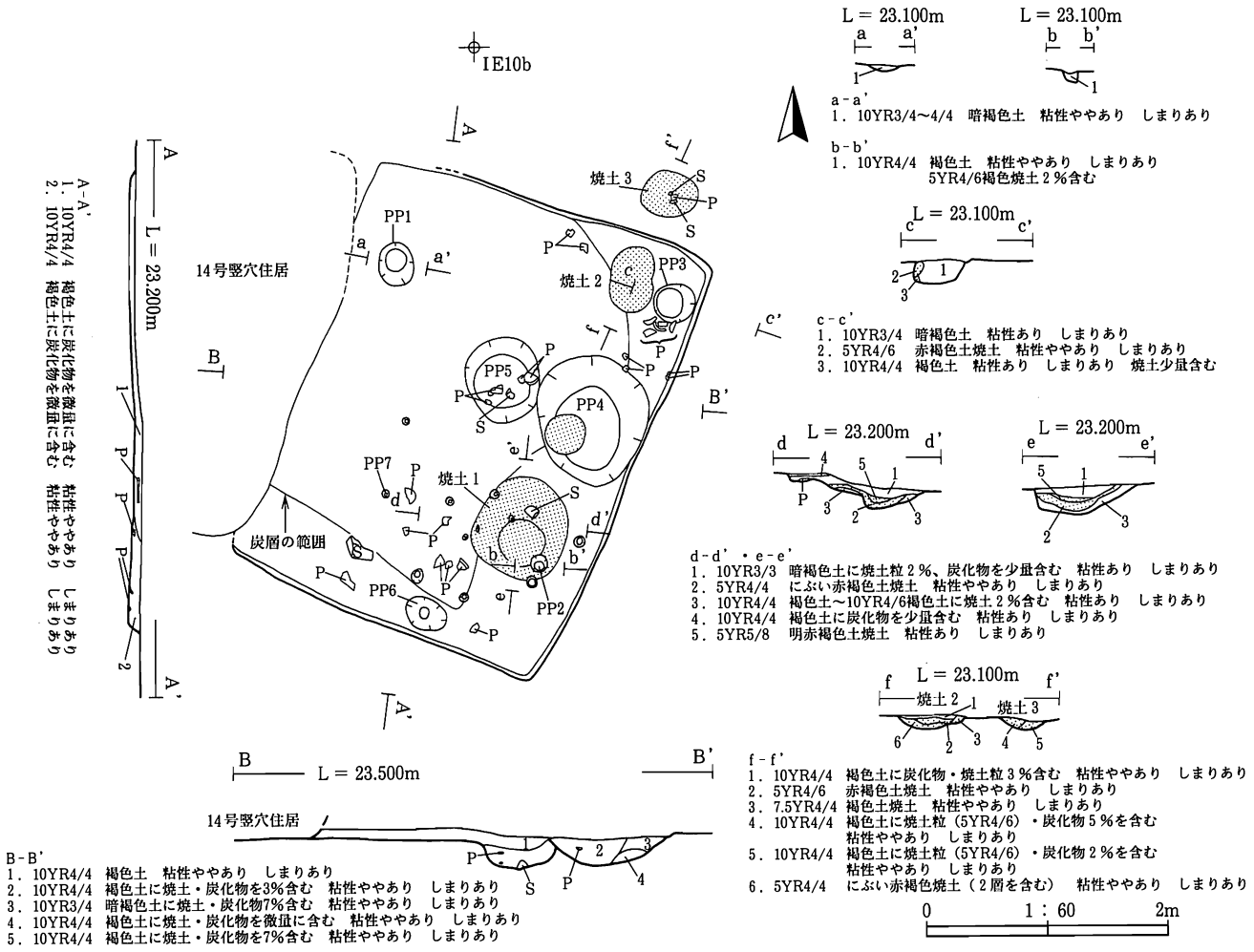
〈壁・埋土〉　西側の壁は検出されず、削平により消失されたものと考えられる。埋土は褐色土が主体となって構成されている。床面南東側から焼土が検出された。

遺物（第189・190図、写真図版125・126）

〈出土状況〉　埋土下層から土師器の坏・甕と須恵器の甕が出土してる。

〈土器〉　194・195は高台付坏で、194は内面に黒色処理が施される。191の坏は切り離し後にケズリの再調整が加えられている。203は須恵器の甕である。

時期　検出状況と出土した遺物から、10世紀前半の遺構と考えられる。



第26図　15号竪穴住居跡

16号竪穴住居跡

遺構（第24・27図、写真図版26）

〈位置・重複関係〉　調査区ⅠE10b～ⅡE1bグリッド、標高22.7mに位置し、14・15号竪穴住居跡と重複する。

〈検出状況〉　15号竪穴住居跡の精査段階でプランの北西隅のみを検出した。15号住居跡の構築時に削平されたものと考えられる。

規模・平面形等の詳細は不明であるが15・14号住居跡に近いものと推定される。

〈壁・竈〉　壁高は〈4.5～6.4〉cmを測る。竈は削平により消失したものと考えられる。

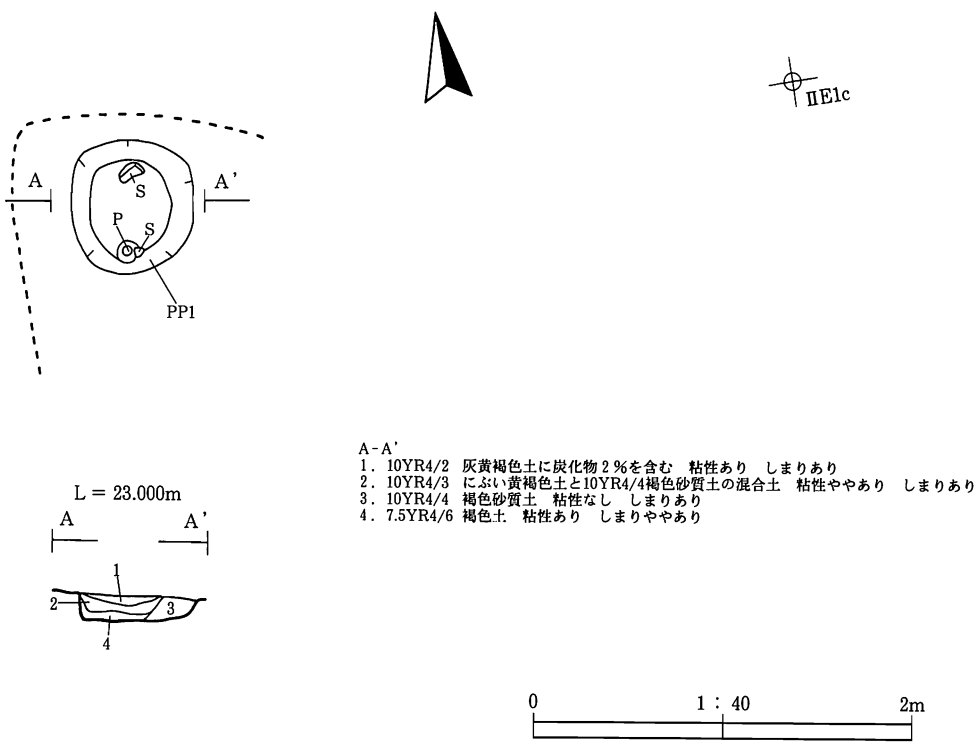
〈床面・埋土〉　床面は締まり、埋土は褐色土が主体となって構成されている。

遺物（第190・191図、写真図版126）

〈出土状況〉　土師器の坏、甕が埋土から出土してる。

〈土器〉　208は高台付坏で、これ以外の底部を確認できる全ての坏の切り離しは回転糸切りである。211・217・224は内面を黒色処理されている。

時期　検出状況と遺物から、火山灰降下後の10世紀前半の遺構と考えられる。



第27図　16号竪穴住居跡

17号竪穴住居跡

遺構（第28図、写真図版27）

〈位置〉　調査区ⅢC1j～ⅢD1aグリッド、標高23.0mに位置する。

〈検出状況〉　耕作によるトレンチャーで攪乱を著しく受け、残存状況は不良である。遺構は十和田a降下火山灰を切って構築されていた。

〈規模・平面形・方向〉　長軸〈4.2〉m、短軸〈4.1〉m、壁高は〈5.5～14.1〉cm、面積は〈14.9〉㎡を測る。平面形は方形を呈する。竈の軸線の方向はE-34°-Sである。

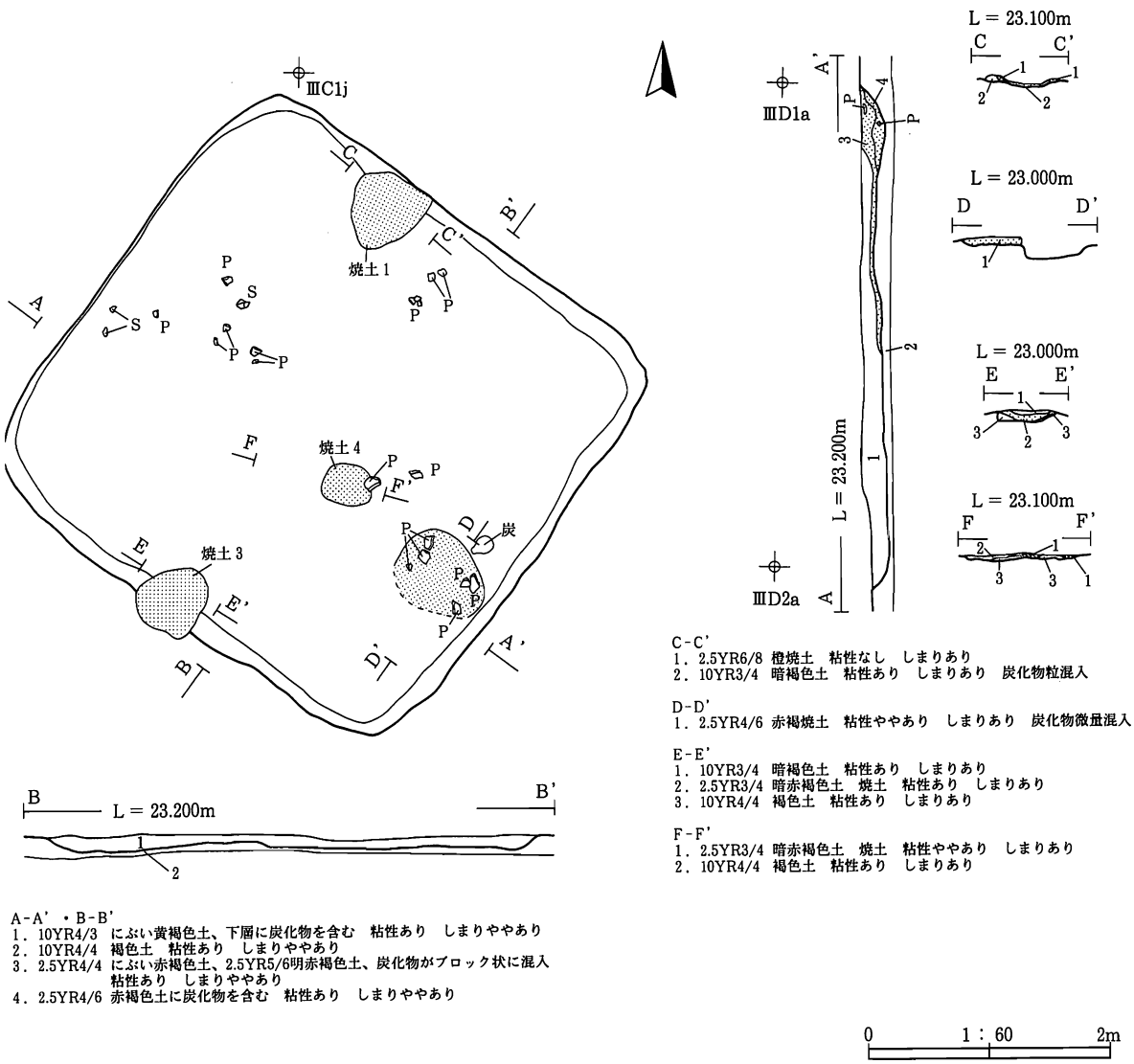
〈竈〉　竈は東壁の中央から南側に作られ、攪乱によりその殆どが失われていた。

〈床面・埋土〉　床面は締まり、埋土は褐色土が主体となって構成されており、下層には炭化物も混じる。

遺物（第191図、写真図版126）

〈出土状況〉　埋土中や床面から土師器の甕（227～232）が出土してる。

時期　検出状況と出土した遺物から、火山灰降下後の10世紀前半と考えられる。



A-A'・B-B'
1．10YR4/3　にぶい黄褐色土、下層に炭化物を含む　粘性あり　しまりややあり
2．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりややあり
3．2.5YR4/4　にぶい赤褐色土、2.5YR5/6明赤褐色土、炭化物がブロック状に混入　粘性あり　しまりややあり
4．2.5YR4/6　赤褐色土に炭化物を含む　粘性あり　しまりややあり

C-C'
1．2.5YR6/8　橙焼土　粘性なし　しまりあり
2．10YR3/4　暗褐色土　粘性あり　しまりあり　炭化物粒混入

D-D'
1．2.5YR4/6　赤褐焼土　粘性ややあり　しまりあり　炭化物微量混入

E-E'
1．10YR3/4　暗褐色土　粘性あり　しまりあり
2．2.5YR3/4　暗赤褐色土　焼土　粘性あり　しまりあり
3．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりあり

F-F'
1．2.5YR3/4　暗赤褐色土　焼土　粘性ややあり　しまりあり
2．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりあり

0　1：60　2m

第28図　17号竪穴住居跡

18号竪穴住居跡

遺構（第29・30図、写真図版28）

〈位置・重複関係〉　調査区ⅡＤ５ｇ～ⅡＤ６ｇグリッド、標高23.2ｍに位置し、19号住居跡と重複する。

〈検出状況〉　炭化物の検出からトレンチ調査によりプランを確認した。

〈規模・平面形・方向〉　長軸3.6ｍ、短軸2.6ｍ、壁高は8.7～12.6㎝、面積は8.4㎡を測る。平面形は不整な方形を呈する。長軸の方向はＮ-13°-Ｅである。

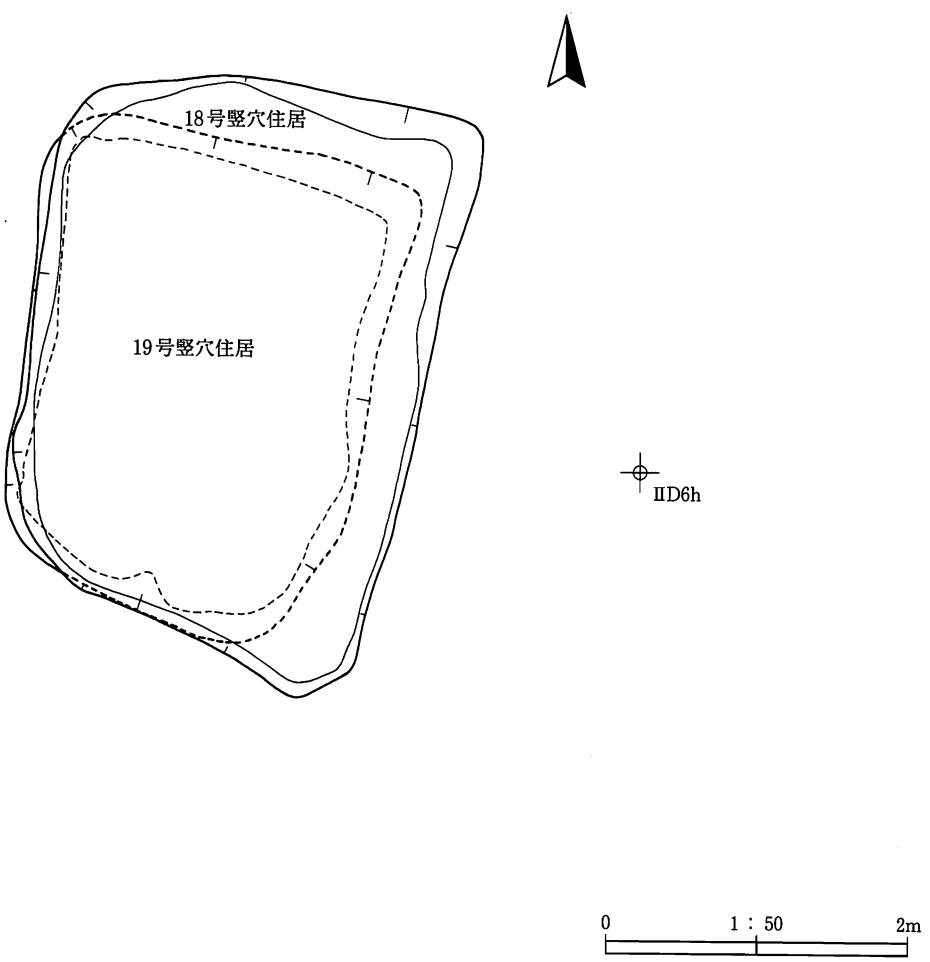
〈竈・床面・埋土〉　竈はなく床面から焼土が検出されている。埋土は暗褐色土が主体となって構成されている。

遺物（第191・192図、写真図版126・127）

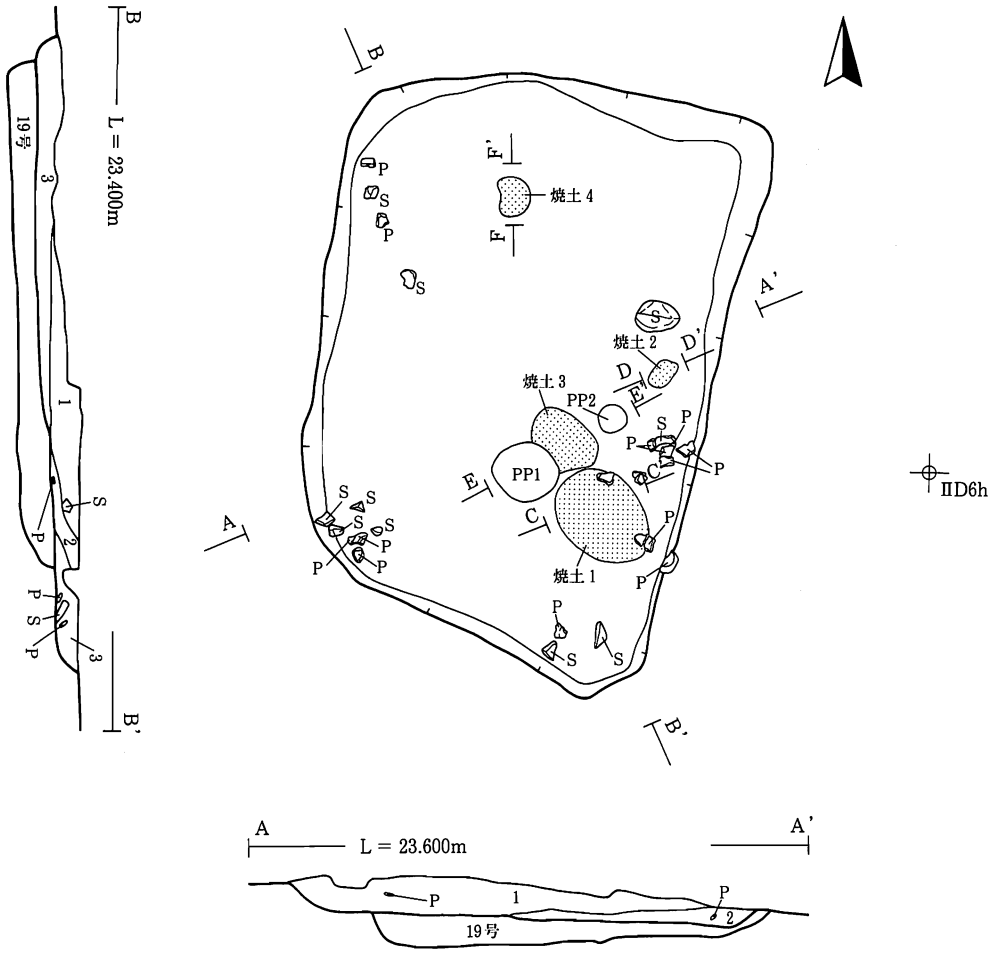
〈出土状況〉　埋土中と床面から土師器の甕、坏が出土してる。

〈土器〉　233・235は高台付坏で輪高台を持つ。234・236の坏の底部切り離しは、回転糸切りである。甕（237～242・244・245）は胴外面にケズリが施されている。

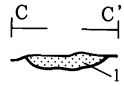
時期　検出状況と出土した遺物から、10世紀前半の遺構と考えられる。



第29図　18・19号竪穴住居跡の重複関係

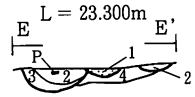


焼土1
L = 23.400m



焼土2
L = 23.400m

焼土3
L = 23.300m



焼土4
L = 24.300m

A-A' ・B-B'
1．10YR3/3 暗褐色土に2.5YR5/8明赤褐色焼土ブロック、炭化物が混入　粘性あり　しまりあり
2．2.5YR3/6 明赤褐色焼土主体に2.5YR5/8明赤褐色焼土粒が20%混入　粘性ややあり　しまりあり
3．10YR4/4 褐色粘土質土主体に10YR3/3暗褐色土の混合土、炭化物粒を微量に含む　粘性あり　しまりあり

C-C'
1．2.5YR3/6 明赤褐色土　粘性ややあり　しまりかなりあり

D-D'
1．2.5YR3/4 明赤褐色土　粘性ややあり　しまりかなりあり

E-E'
1．2.5YR3/4 明赤褐色土　粘性あり　しまりあり
2．10YR2/3 黒褐色土に2.5YR4/6赤褐色焼土粒が混入　粘性あり　しまりあり
3．10YR4/4 褐色土　粘性あり　しまりあり
4．10YR1.7/1黒色の炭化物層、21号住居の埋土とおもわれる　粘性あり　しまりあり

F-F'
1．2.5YR3/4 暗赤褐色土　粘性あり　しまりあり

0　1：50　2m

第30図　18号竪穴住居跡

19号竪穴住居跡

遺構（第29・31図、写真図版29）

〈位置・重複関係〉　調査区ⅡＤ５ｇ～ⅡＤ６ｇグリッド、標高23.0ｍに位置し、18号住居跡と重複する。

〈検出状況〉　18号住居跡の精査段階でトレンチ調査により遺構の存在を確認した。

〈規模・平面形・方向〉　長軸3.1ｍ、短軸2.3ｍ、壁高は〈13.7～21.9〉㎝、面積は（5.6）㎡を測る。平面形は不整な方形を呈する。長軸の方向はＮ-14°-Ｅである。

〈壁・竈・埋土〉　南西壁は攪乱により消失し、竈は伴わない。埋土は暗褐色土が主体となって構成されている。床面は堅く締まっている。

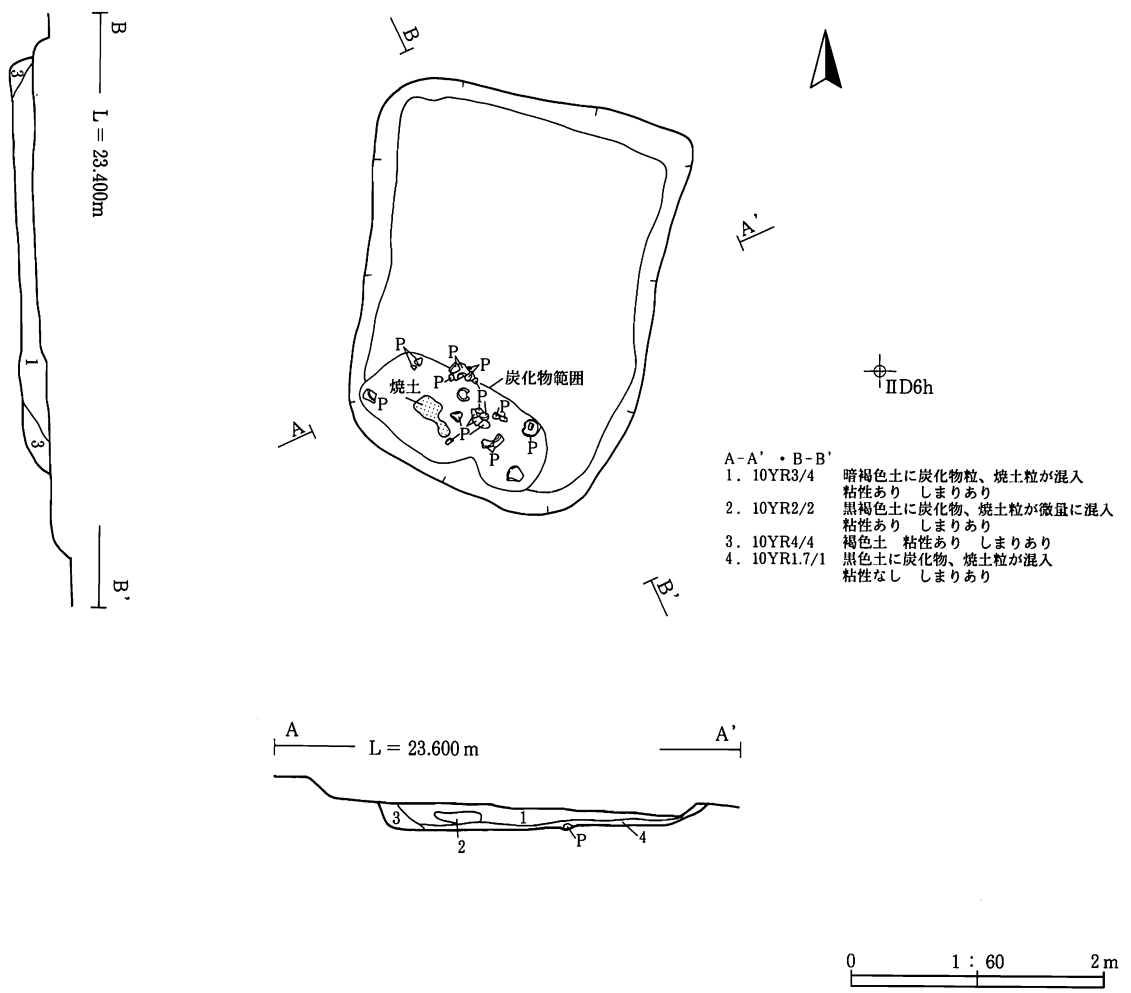
遺物（第192・193・218図、写真図版127・149）

〈出土状況〉　埋土中と床面から土師器の坏・甕、紡錘車が出土してる。

〈土器〉　254は皿で底部切り離しは回転糸切りでる。249・250・253・256は高台付坏で、253は内面に黒色処理が施される。251・252・258・259は内面黒色処理の坏である。

857は紡錘車で、埋土中から検出されている。

時期　検出状況と遺物から、10世紀後半～11世紀の遺構と考えられる。



第31図　19号竪穴住居跡

20号竪穴住居跡

遺構（第32図、写真図版30）

〈位置〉　調査区ⅢＤ２ｄグリッド、標高23.4ｍに位置する。

〈検出状況〉　平面的な遺構の検出はできず、遺物が集中して検出された区域のトレンチ調査から遺構の存在を確認した。

〈規模・平面形〉　長軸3.6m、短軸2.4m、壁高は6.4～12.2㎝、面積は7.9㎡を測る。平面形は方形を呈する。

〈竈・方向〉　東壁際に焼土と自然石が検出されており竈跡と推定されるが、開田時の攪乱と削平を受けており残存状況は著しく不良である。竈の方向はＥ－２°－Ｓである。

〈埋土〉　埋土は褐色土が主体となって構成されている。

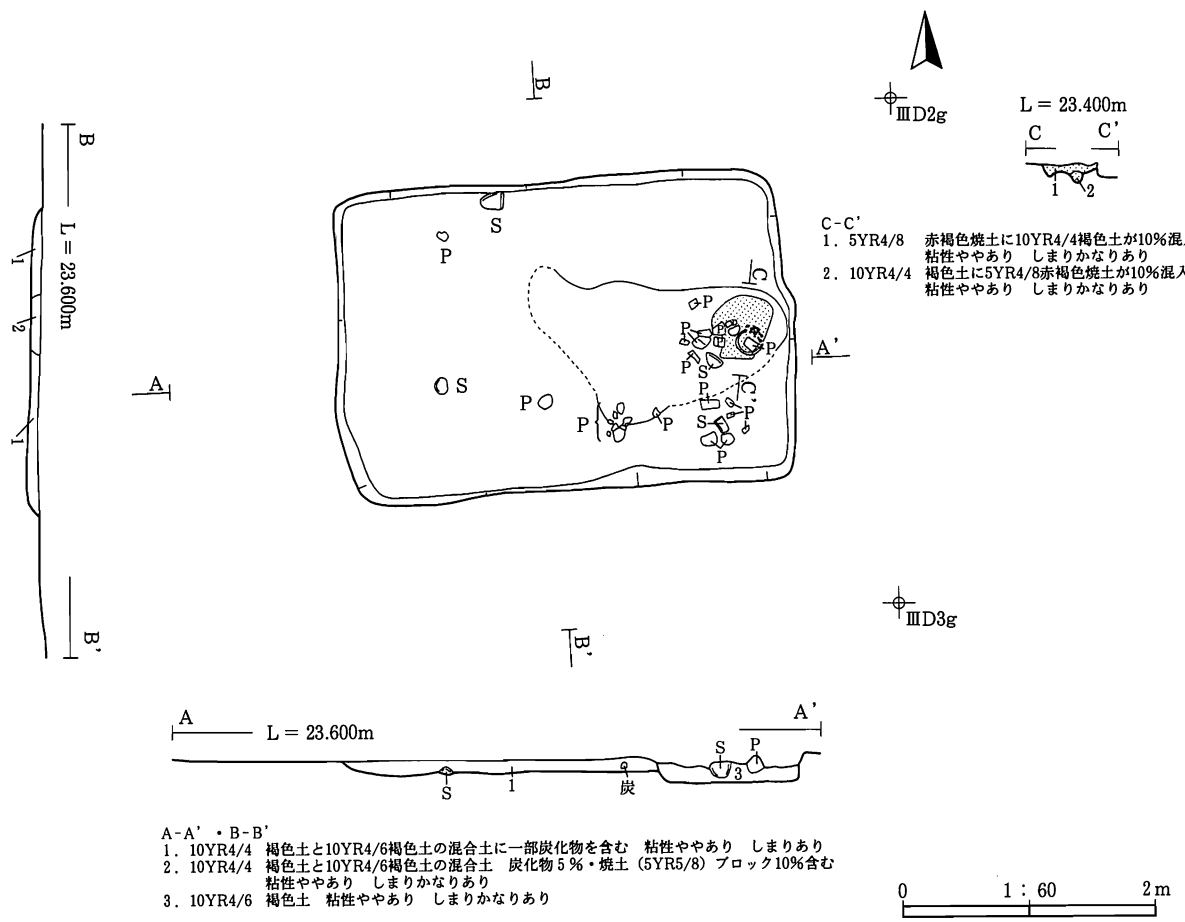
遺物（第193・213図、写真図版127・128・145）

〈出土状況〉　土師器の坏、甕が埋土中と床面から出土してる。

〈土器〉　264・265・272・275は内面黒色処理の坏である。268は高台付坏である。

〈石器〉　磨石（841）が１点出土している。

時期　検出状況と遺物から、10世紀後半頃の遺構と考えられる。



第32図　20号竪穴住居跡

21号竪穴住居跡

遺構（第33～35図、写真図版31・32）

〈位置・検出状況〉　調査区ⅡＦ１ｅ～ⅡＦ２ｆグリッド、標高22.4ｍに位置し、火山灰に覆われた畠跡の下層から検出された。

〈規模・平面形・方向〉　長軸5.6ｍ、短軸5.6ｍ、壁高は38㎝、面積は24.5㎡を測る。平面形は不整な方形を呈する。長軸の方向はＥ－１°－Ｎである。

〈竈〉　東壁の中央に古い竈を検出した。これを付け替えて南側に住居廃絶時の竈、煙道、煙出しを検出した。南側の袖の芯材には完形の須恵器（278）の甕が使われていた。なお、北側の袖の芯材は自然石が使われていた。

〈床〉　旧竈の上層には貼り床を施した痕跡が断面から確認され、竈の付け替え時に床面にも何らかの作為が加えられたものと考えられる。

〈壁〉　壁は直線的に立ち上がるが地山との顕著な差は無く、僅かに色を変える程度であった。

〈埋土〉　埋土は褐色から暗褐色土が主体となって構成されている。

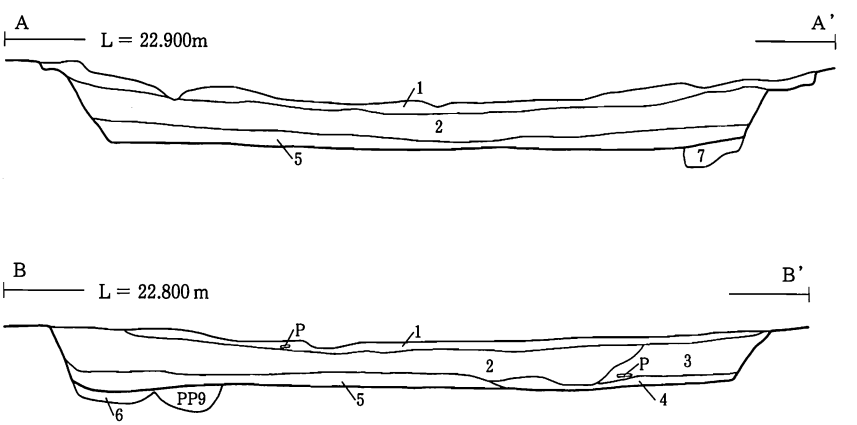
遺物（第194～196図、写真図版128～130）

〈出土状況〉　埋土中から床面で土器が出土してる。

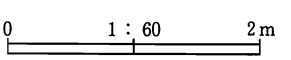
〈土器〉　坏が６点（279～283・308）出土している。278・280・282・283は須恵器の坏である。鉢は290の１点が出土している。278は須恵器の甕で、竈右袖の芯材に使用されていた。

須恵器の甕は15点（278・298～303・309～316）が出土している。

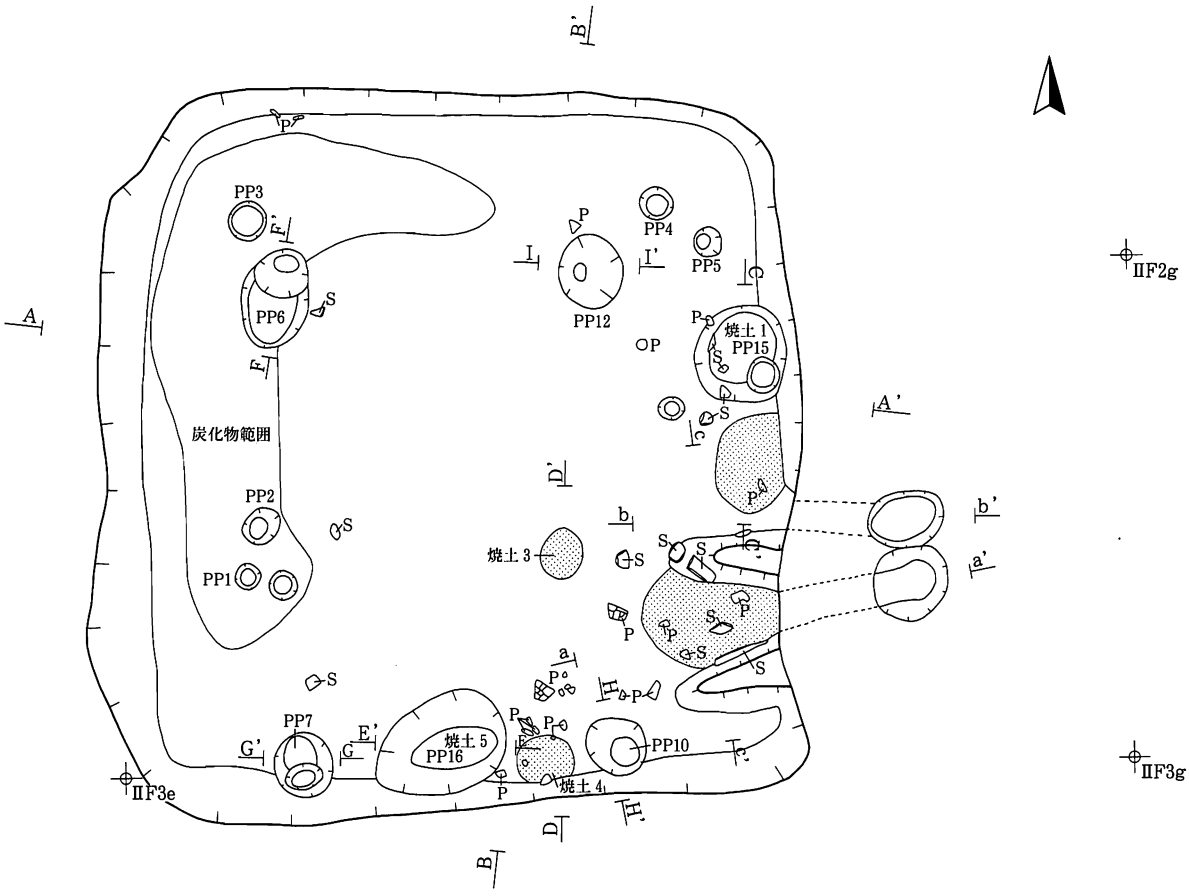
時期　検出状況から、９世紀後半～火山灰降下前10世紀初頭の遺構と考えられる。

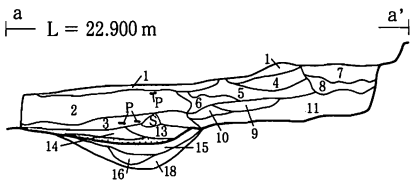


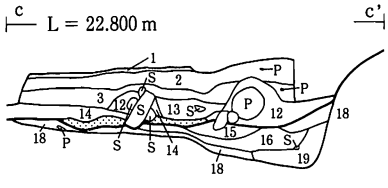
A-A'・B-B'
1．10YR4/4　褐色土～10YR4/6褐色砂質土に十和田ａを１～２％含む　粘性ややあり　しまりあり
2．10YR3/3　暗褐色土に炭化物・焼土粒１～２％を含む　粘性ややあり　しまりあり
3．10YR3/4　暗褐色土に炭化物・焼土粒を微量に含む　粘性あり　しまりかなりあり
4．10YR5/6　黄褐色土～10YR4/4褐色土の混合土　粘性あり　しまりあり
5．10YR4/4　褐色土に炭化物・焼土粒を微量に含む　粘性あり　しまりあり
6．10YR4/4　褐色土に炭化物・焼土粒を少量含む　粘性あり　しまりあり
7．10YR4/4　褐色土に焼土粒１％を含む　粘性あり　しまりあり

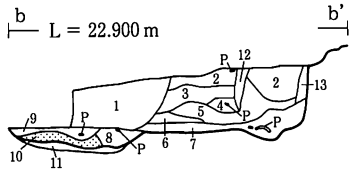


第33図　21号竪穴住居跡（１）



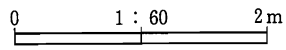




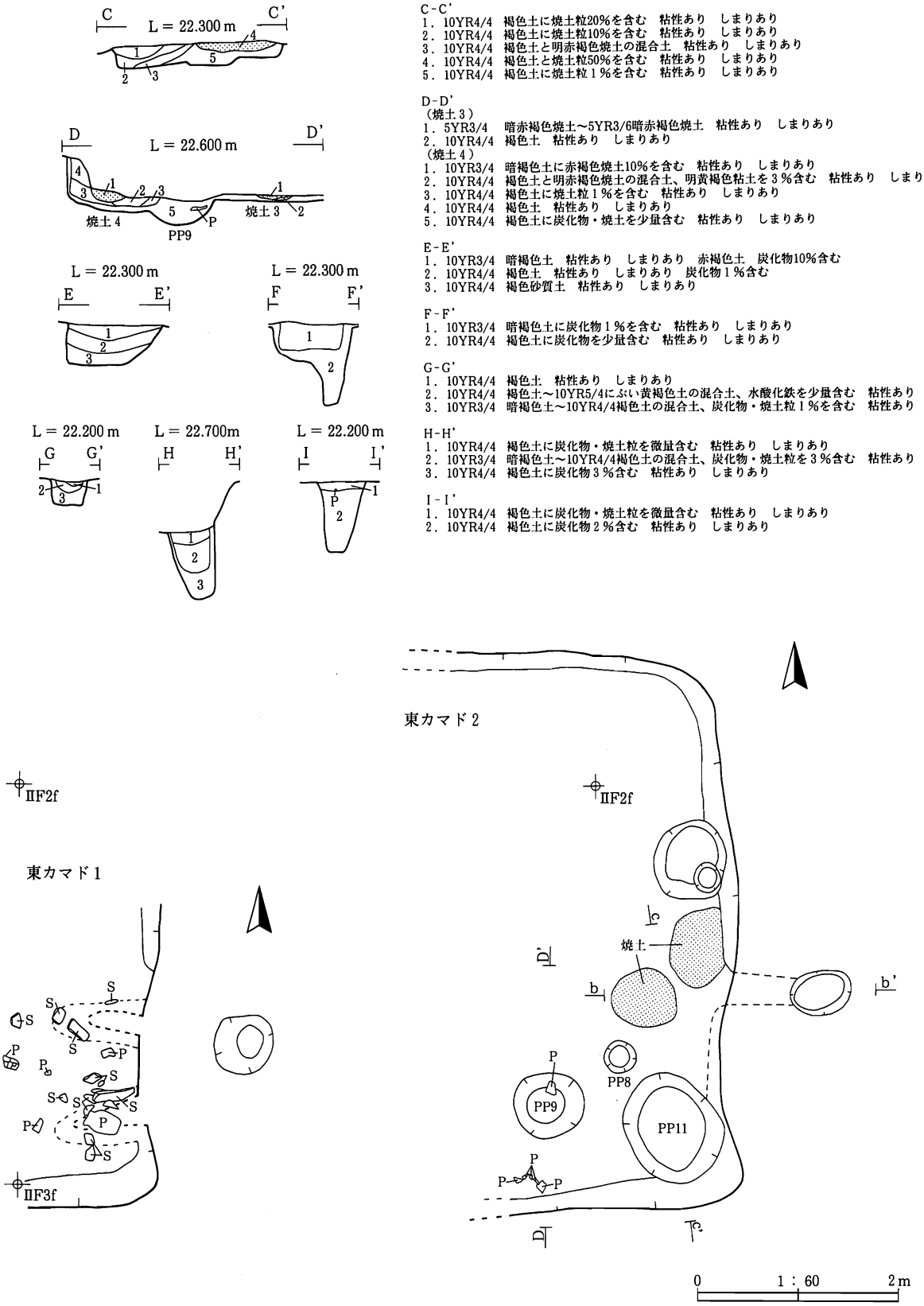


東カマド1号（a-a'）（c-c'）
1. 10YR4/4 褐色土～10YR4/6褐色砂質土に十和田aを1～2%含む
2. 10YR3/3 暗褐色土 粘性あり しまりあり 炭化物・焼土1～2%含む
3. 10YR3/3 暗褐色土 粘性あり しまりあり 炭化物・焼土粒3%含む
4. 10YR4/4 褐色土 粘性ややあり しまりあり
5. 5YR3/3 暗赤褐色焼土に褐色土を10%の混合土 粘性あり しまりあり
6. 10YR4/4 褐色土ににぶい黄橙色粘土10%、焼土2%含む 粘性あり しまりあり
7. 7.5YR3/4～10YR2/2の混合土 粘性ややあり しまりあり 明赤褐色焼土粒5%混入
8. 7.5YR3/3～10YR4/4の混合土 粘性あり しまりあり 明赤褐色焼土粒2%混入
9. 10YR4/4 褐色土 粘性あり しまりあり 焼土ブロック30%混入
10. 5YR5/6 明赤褐色焼土～5YR4/6明赤褐色焼土 粘性ややあり しまりややあり
11. 7.5YR4/4 褐色土 粘性ややあり しまりややあり 赤褐色焼土5%含む
12. 10YR4/4 褐色土 粘性あり しまりあり 炭化物・焼土粒2%含む
13. 10YR6/4 にぶい黄橙色土～10YR7/4にぶい黄橙色土 粘性あり しまりあり 天井部が崩れたものか
14. 7.5YR4/4 褐色土 粘性あり しまりややあり 焼土5%含む
15. 5YR4/8 赤褐色土～5YR5/8明赤褐色土 粘性ややあり しまりあり
16. 10YR4/4 褐色土～10YR6/6明黄褐色粘土 粘性あり しまりあり 炭化物・焼土粒20%含む
17. 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性あり しまりあり 炭化物・焼土粒5%含む
18. 10YR4/4 褐色土 粘性あり しまりあり 炭化物・焼土を微量に含む
19. 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性あり しまりあり 炭化物・焼土粒を微量に含む

東カマド2号（b-b'）
1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性ややあり しまりあり 炭化物・焼土粒1～2%含む
2. 10YR4/4 褐色土 粘性ややあり しまりあり 焼土粒1%含む
3. 10YR4/4 褐色土 粘性ややあり しまりあり 焼土粒5～7%含む
4. 10YR4/4 褐色土 粘性ややあり しまりあり 焼土粒10%含む
5. 7.5YR3/3 暗褐色焼土～3/4暗褐色焼土と10YR4/4褐色土の混合土 粘性あり しまりあり
6. 5YR4/4 にぶい赤褐色焼土 粘性あり しまりあり
7. 10YR4/3 褐色土～4/4褐色土 粘性あり しまりあり 5層の焼土3%含む
8. 10YR3/4 暗褐色土 粘性あり しまりあり 炭化物・焼土粒2%含む
9. 7.5YR4/6 褐色土 粘性ややあり しまりあり
10. 10YR4/4 褐色土 粘性あり しまりあり 10YR7/6～10YR6/6明黄褐色粘土、炭化物・焼土粒20%含む
11. 10YR4/4 にぶい黄褐色土 粘性あり しまりあり 炭化物・焼土粒5%含む
12. 10YR4/4 褐色土 粘性あり しまりあり 炭化物・焼土粒2%含む
13. 10YR6/4 にぶい黄橙色土～10YR7/4にぶい黄橙色土 粘性あり しまりあり 天井部が崩れたものか



第34図　21号竪穴住居跡（2）



C-C'
1．10YR4/4　褐色土に焼土粒20%を含む　粘性あり　しまりあり
2．10YR4/4　褐色土に焼土粒10%を含む　粘性あり　しまりあり
3．10YR4/4　褐色土と明赤褐色焼土の混合土　粘性あり　しまりあり
4．10YR4/4　褐色土と焼土粒50%を含む　粘性あり　しまりあり
5．10YR4/4　褐色土に焼土粒１%を含む　粘性あり　しまりあり

D-D'
（焼土３）
1．5YR3/4　暗赤褐色焼土～5YR3/6暗赤褐色焼土　粘性あり　しまりあり
2．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりあり
（焼土４）
1．10YR3/4　暗褐色土に赤褐色焼土10%を含む　粘性あり　しまりあり
2．10YR4/4　褐色土と明赤褐色焼土の混合土、明黄褐色粘土を３%含む　粘性あり　しまりあり
3．10YR4/4　褐色土に焼土粒１%を含む　粘性あり　しまりあり
4．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりあり
5．10YR4/4　褐色土に炭化物・焼土を少量含む　粘性あり　しまりあり

E-E'
1．10YR3/4　暗褐色土　粘性あり　しまりあり　赤褐色土　炭化物10%含む
2．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりあり　炭化物１%含む
3．10YR4/4　褐色砂質土　粘性あり　しまりあり

F-F'
1．10YR3/4　暗褐色土に炭化物１%を含む　粘性あり　しまりあり
2．10YR4/4　褐色土に炭化物を少量含む　粘性あり　しまりあり

G-G'
1．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりあり
2．10YR4/4　褐色土～10YR5/4にぶい黄褐色土の混合土、水酸化鉄を少量含む　粘性あり　しまりあり
3．10YR3/4　暗褐色土～10YR4/4褐色土の混合土、炭化物・焼土粒１%を含む　粘性あり　しまりあり

H-H'
1．10YR4/4　褐色土に炭化物・焼土粒を微量含む　粘性あり　しまりあり
2．10YR3/4　暗褐色土～10YR4/4褐色土の混合土、炭化物・焼土粒を３%含む　粘性あり　しまりあり
3．10YR4/4　褐色土に炭化物３%含む　粘性あり　しまりあり

I-I'
1．10YR4/4　褐色土に炭化物・焼土粒を微量含む　粘性あり　しまりあり
2．10YR4/4　褐色土に炭化物２%含む　粘性あり　しまりあり

第35図　21号竪穴住居跡（３）

3．工房跡

工房跡は２棟を登録した。

１号工房跡

遺構（第36・37図、写真図版33・34）

〈位置・重複関係〉　調査区ⅡＤ４ｊ～ⅡＤ５ｊグリッド、標高23.1ｍに位置し、３・11号住居、30号土坑、２号周溝と重複する。

〈検出状況〉　炭化物の面的な広がりから、トレンチ調査によりプランを確認した。

〈規模・平面形・方向〉　長軸8.9ｍ、短軸4.9ｍ、面積は39.6㎡を測る。平面形はを長方形を呈する。長軸の方向はＮ-23°-Ｅである。

〈炉・柱穴〉　プランの中央部北側から地床炉を１基確認した。柱穴は、壁際に沿って柱穴PP１～PP17が検出されている。

〈壁・床面・埋土〉　地山の褐色土を掘り込んで構築されている。壁高の残存値は東壁9.4㎝、西壁6.5㎝、南壁17.3㎝、北壁5.3㎝で、検出状況から壁はかなりの削平を受けているものと考えられる。埋土は炭化物混じりの褐色土が主体となって構成されている。炭化物の状況から消失した工房跡の可能性も考えられる。

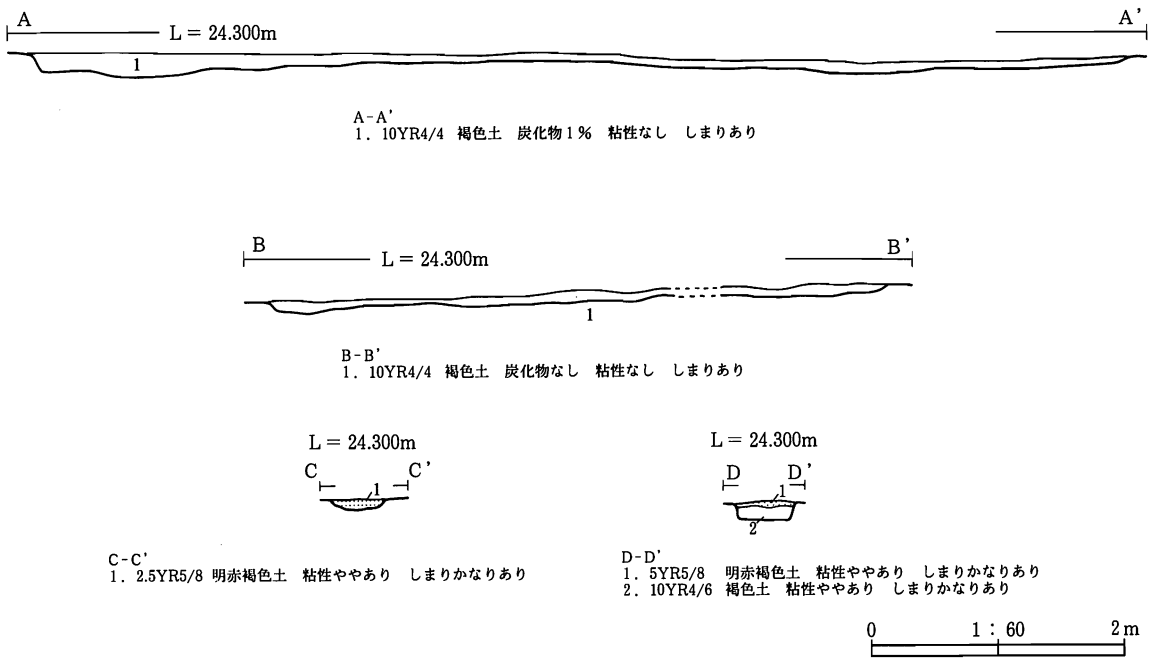
遺物（第196～198・206・213図、写真図版130・131・145）

〈出土状況〉　床面から土師器の坏、皿、甕、須恵器の甕、灰釉陶器の耳皿が出土している。また、羽口片や鉄滓等も少量出土している。

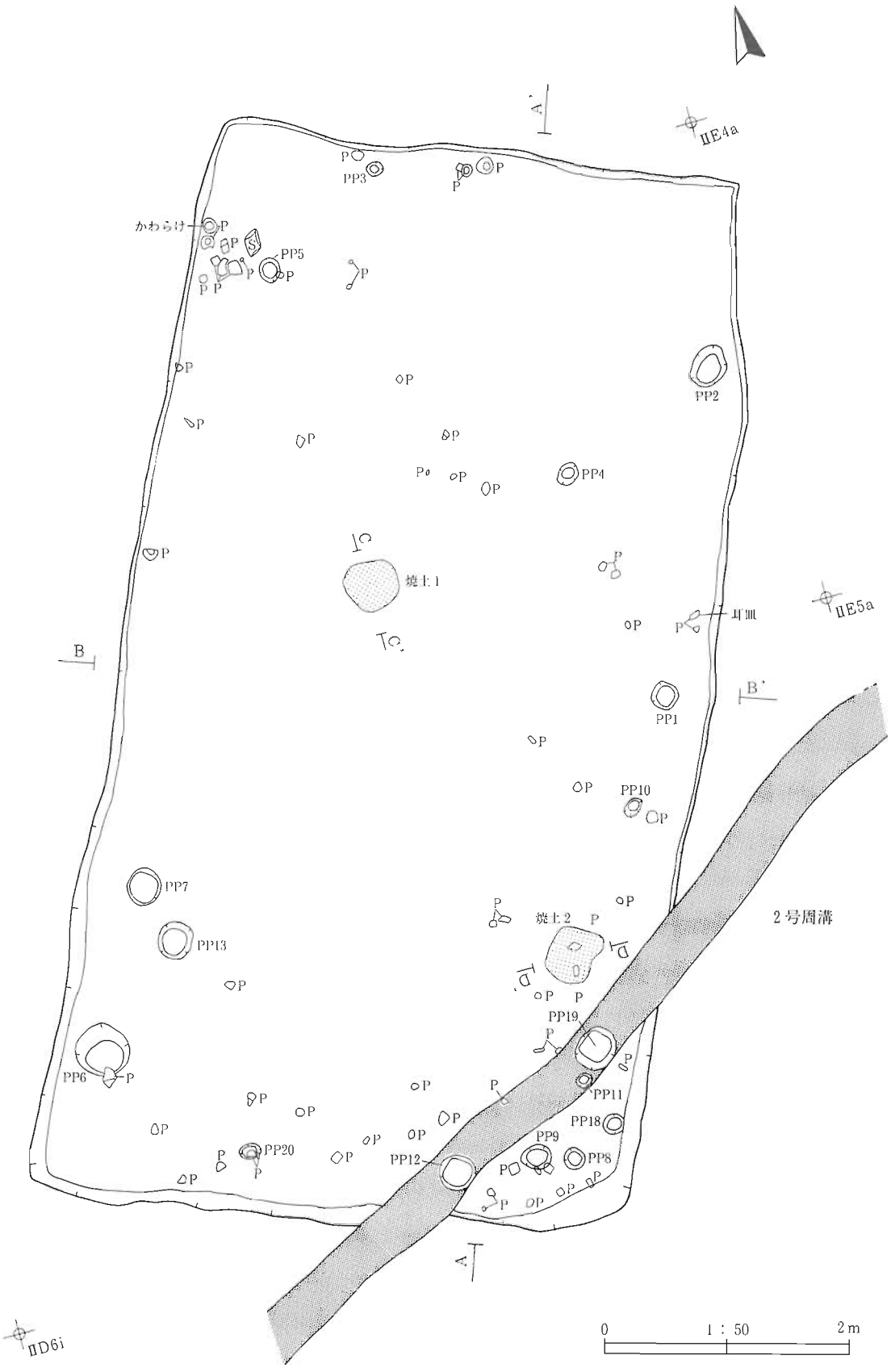
〈土器〉　317～319・323・327・328・339は土師器の皿で、357は高台付坏である。坏は21点が出土し、内面黒色処理のものは324・325・333・345・350の５点である。

〈灰釉陶器〉　659は猿投産（Ｓ90）の耳皿で、９世紀末の遺物である。

時期　検出状況と出土した遺物から、10世紀後半～11世紀の遺構と考えられる。



第36図　１号工房跡（１）


A
A'
IIE4a
PP3
かわらけ
PP5
PP2
PP4
竪土1
耳皿
IIE5a
B
B'
PP1
PP10
PP7
PP13
竪土2
2号周溝
PP19
PP6
PP11
PP18
PP9
PP8
PP20
PP12
IID6i
0
1：50
2m

第37図　1号工房跡（2）

2号工房跡

遺構（第38図、写真図版34）

〈位置〉　調査区ⅢＥ３ｊグリッド、標高22.7m、13号墓壙と18号墓壙の中間に位置する。

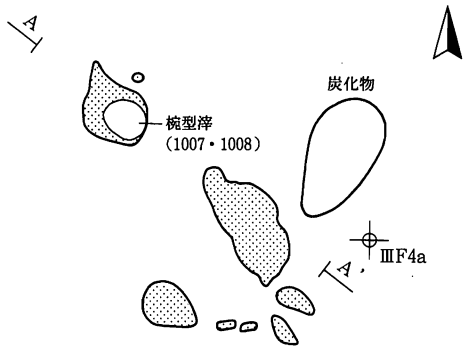
〈検出状況〉　表土除去後に燃焼部のみを検出した。検出面は中世前半の面のため、12世紀後半から13世紀に攪乱を受け壁面等は消失したものと考えられる。また、周辺から検出された柱穴状土坑は工房跡に伴う遺構の可能性も考えられる。

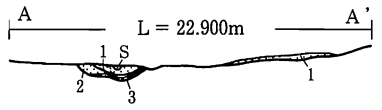
〈燃焼部の規模・平面形〉　長軸52cm、短軸38cmを測り、平面形は不整形を呈する。燃焼部から碗型滓が検出され工房跡として登録した遺構である。

遺物（第222図、写真図版154）

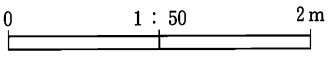
〈出土状況〉　燃焼部から碗型滓（1007・1008）が出土してる。

時期　検出状況から、10世紀前半から11世紀頃の遺構と考えられる。





A-A'
1．5YR4/6　赤褐色土に炭化物を含む　粘性あり　しまりあり
2．5YR4/4　にぶい赤褐色土と10YR4/4褐色土の混合土、炭化物混入
　　粘性あり　しまりややあり
3．10YR4/6　褐色土　粘性あり　しまりややあり



第38図　2号工房跡

4．住居状遺構

竪穴住居跡に類似する形状を持ちながら、竈跡や焼土・遺物が検出されない遺構を住居状遺構として分類し、3棟を登録した。

1号住居状遺構

遺構（第39図、写真図版35）

〈位置〉　調査区ⅡD7fグリッド、標高23.1mに位置する。

〈検出状況〉　18号住居跡の精査（断面）段階でプランを確認した。

〈規模・平面形・方向〉　長軸3.3m、短軸2.9m、壁高は西壁8.8cm、北壁24.4cm、東壁31.7cm、南壁26.6cm、面積は6.8㎡を測る。平面形は隅丸方形を呈する。長軸の方向はN-12°-Eである。

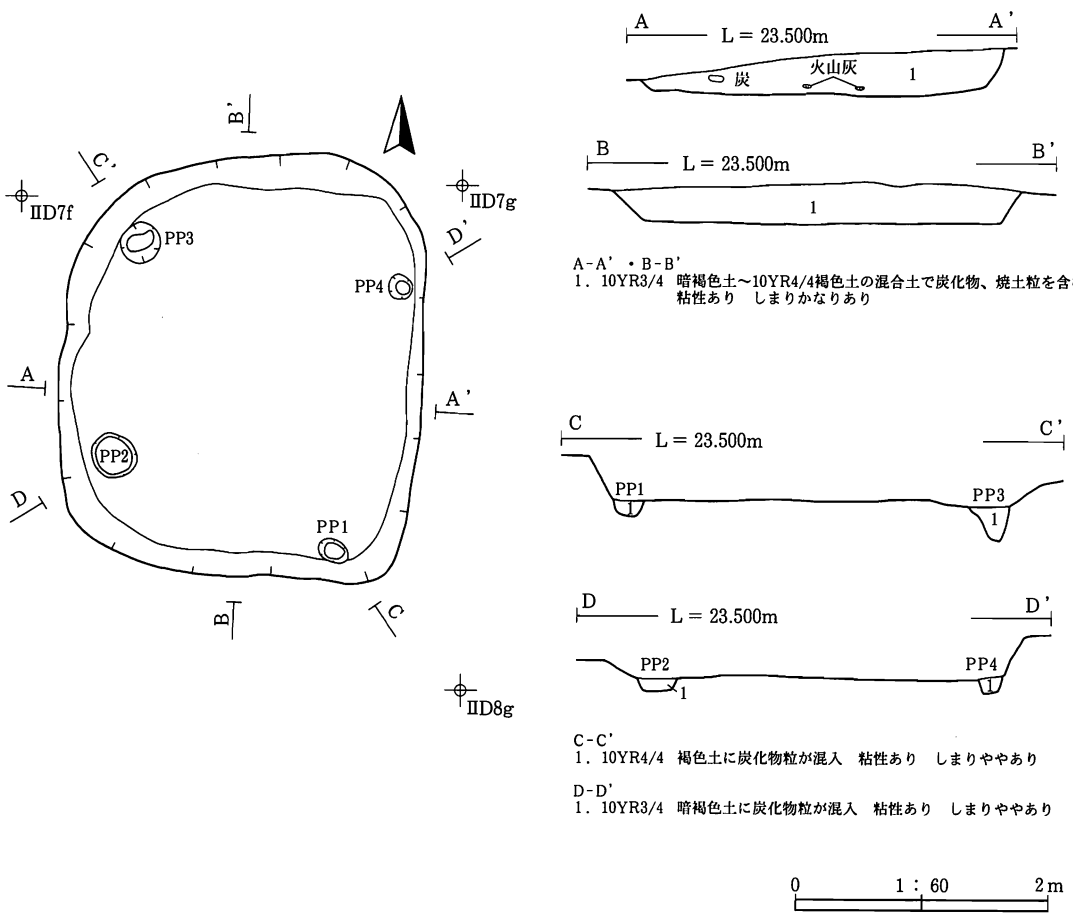
〈柱穴・壁床面・埋土〉　柱穴はPP1～PP4の4基を検出した。埋土は褐色土が主体となって構成されている。

遺物（第198・213図、写真図版131・145）

〈出土状況〉　土師器の坏、甕が2点と砥石1点（844）が出土してる。

〈土器〉　362は内面黒色処理の坏、363は土師器の甕である。

時期　検出状況と出土した遺物から、火山灰降下後の10世紀前半～後半の遺構と考えられる。



第39図　1号住居状遺構

2号住居状遺構

遺構（第40図、写真図版36）

〈位置〉　調査区ⅡＨ２ａ～ⅡＨ３ａグリッド、標高22.0ｍに位置している。

〈検出状況〉　平面では明確なプランが確認できず、サブトレンチ調査からプランを確認した。

〈規模・平面形・方向〉　長軸3.8ｍ、短軸（3.3）ｍ、面積は10.6㎡を測る。東壁残存状況は不良である。平面形はを隅丸方形を呈する。長軸の方向はＮ－９°－Ｅである。

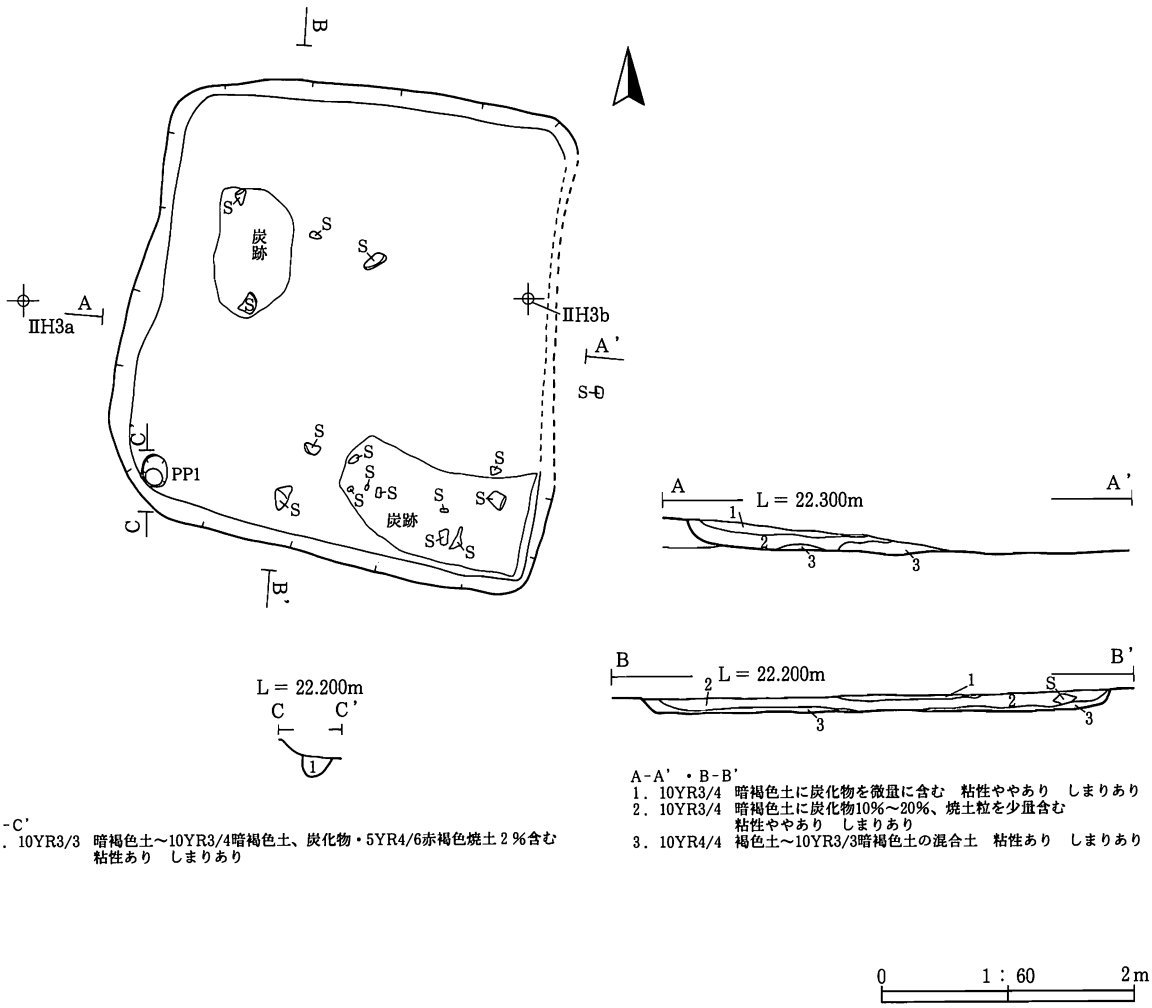
〈壁・床面〉　壁高は北5.8㎝、東〈６〉㎝、南20.1㎝、西17.8㎝を測る。貼り床は確認されず、床面には炭化物の広がりが検出されたため、焼失した遺構の可能性がある。

〈柱穴・埋土〉　柱穴はＰＰ１のみを検出した。埋土は暗褐色土が主体となって構成されている。

遺物（第214図、写真図版145）

〈出土状況〉　磨石が１点（845）埋土中から出土してる。

時期　検出状況と出土遺物から、９世紀後半～火山灰降下前の10世紀初頭と考えられる。



C-C'
1．10YR3/3　暗褐色土～10YR3/4暗褐色土、炭化物・5YR4/6赤褐色焼土２％含む
　　粘性あり　しまりあり

A-A'・B-B'
1．10YR3/4　暗褐色土に炭化物を微量に含む　粘性ややあり　しまりあり
2．10YR3/4　暗褐色土に炭化物10%～20%、焼土粒を少量含む
　　粘性ややあり　しまりあり
3．10YR4/4　褐色土～10YR3/3暗褐色土の混合土　粘性あり　しまりあり

0　1：60　2m

第40図　２号住居状遺構

3号住居状遺構

遺構（第41・42図、写真図版37）

〈位置〉　調査区ⅢＤ１i～ⅢＤ２jグリッド、標高23.3mに位置する。

〈規模・平面形・方向〉　長軸3.7m、短軸3.4m、壁高は西壁31.2cm、北壁31.1cm、東壁28.2cm、南壁38.7cm、面積は9.6㎡を測る。平面形は方形を呈し、東壁に張り出しを持つ。長軸の方向はＥ－９°－Ｎである。

〈張り出し〉　東壁の中央に長軸1.3m、短軸0.8mの張り出しを有する。平面形は舌状、断面形は浅い皿状を呈する。東壁中央には柱穴が確認されていないため出入り口と考えられる。

〈柱穴〉　柱穴はPP１～PP９を検出した。PP１～PP５が支柱穴と考えられ、PP１～PP４は８～11°住居対角線方向に内傾する。中央のPP５はほぼ垂直に掘り込まれているが、検出面からは焼土が確認されている。

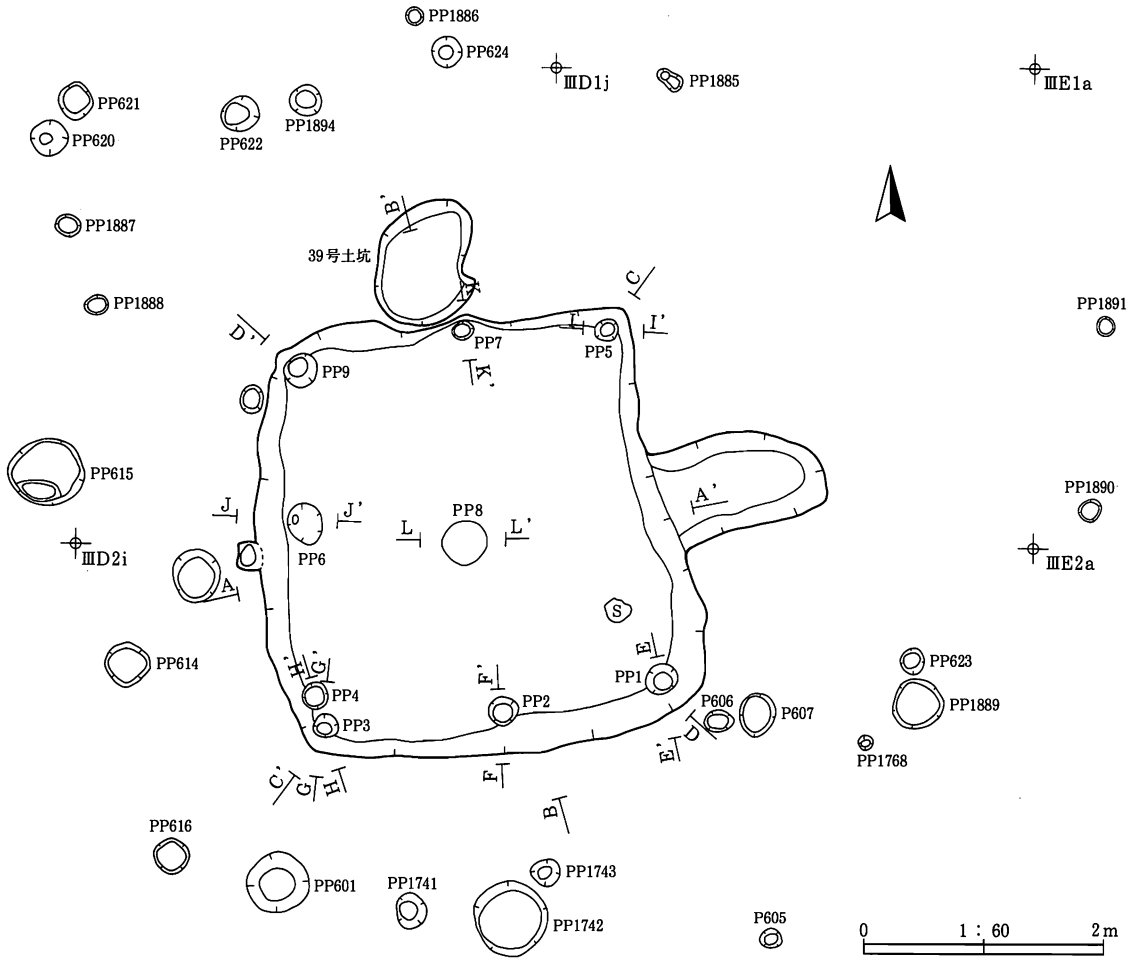
〈上屋〉　PP１～PP４の形状から上屋は櫓状の上屋が作られていたものと考えられる。

〈埋土〉　埋土は炭化物を含む褐色土が主体となって構成されている。

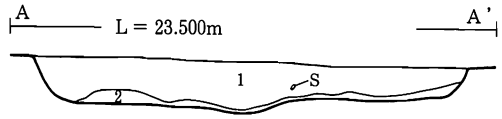
遺物（第198・214図、写真図版131・145）

〈出土状況〉　土師器の坏（366）、甕（364・365）、磨石（846）が埋土中から出土してる。

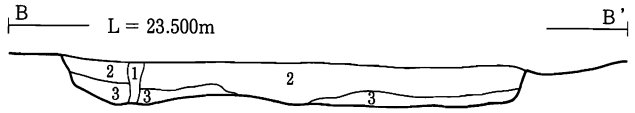
時期　検出状況と出土した遺物から、火山灰降下後の10世紀代の遺構と考えられる。



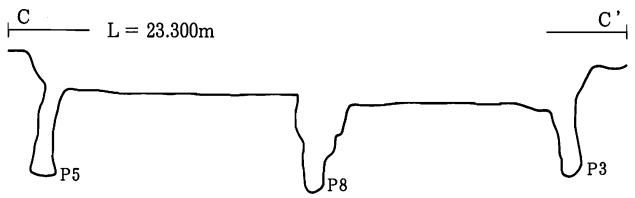
第41図　３号住居状遺構（１）

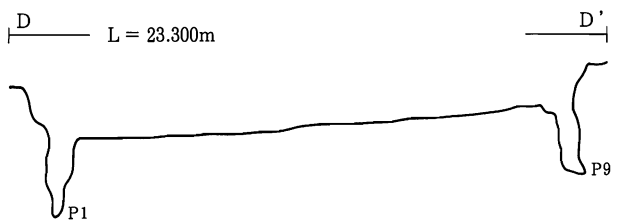


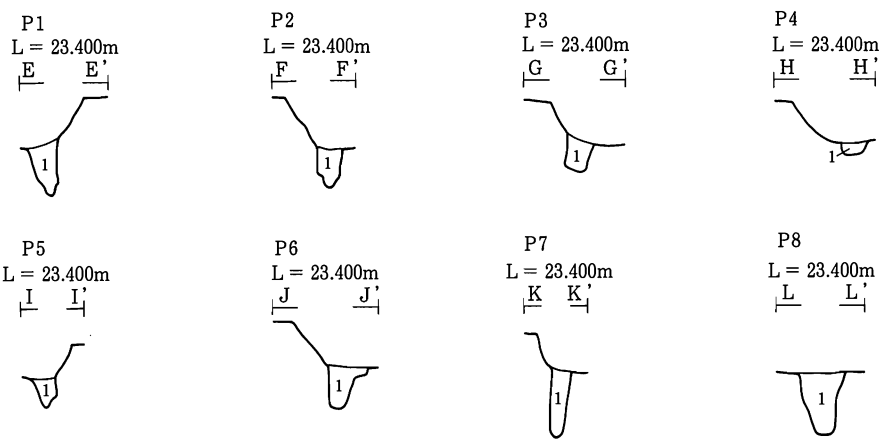
A-A'
1．10YR4/4　褐色シルト　粘性あり　しまりあり　炭化物５％
2．10YR3/4　暗褐色シルト　粘性あり　しまりあり　炭化物５％



B-B'
1．10YR3/2褐色シルト　粘性あり　しまりあり
2．10YR4/4褐色シルト　粘性あり　しまりあり　炭化物５％
3．10YR5/4にぶい黄褐色　粘性あり　しまりあり　炭化物１％







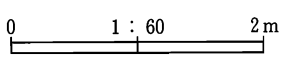
E-E'・F-F'・G-G'・I-I'
1．10YR4/4　褐色土に炭化物を含む　粘性あり　しまりあり

H-H'
1．10YR4/6　褐色土　粘性あり　しまりややあり

J-J'
1．10YR3/4　暗褐色土に2.5Y R6/8橙色焼土ブロック・炭化物を含む
　　粘性あり　しまりややあり

K-K'
1．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりややあり

L-L'
1．10YR4/4　褐色土に焼土ブロック・炭化物を含む　粘性あり　しまりあり



第42図　３号住居状遺構（２）

5．畠跡

畠跡は、調査区南西側の自然堤防南西斜面と調査区北側の自然堤防東斜面から約12,356㎡が検出された。調査区南西側では、十和田ａ降下火山灰に完全に覆われた作付け面が確認された区域や畝上部が削平されて検出された区域が存在する。昭和50年代まで住居があった調査区南端側は攪乱が著しく、畝間の底部付近のみが検出される状況であった。

また、北側のＩＥ7ｆ～ＩＥ8ｉグリッドの畠跡は他の畠跡とは火山灰の堆積状況に差があり、畝間埋土中に微量の十和田ａ降下火山灰ブロックが混じる程度であった。このため堆積状況から他の畠跡とは時期が異なるものと考えられる。

火山灰上で作付け面を確認したエリアでも火山灰下には褐色土が一面に広がるのみで、規則的な凹地等の明確な作付け痕は確認されなかった。

検出された畠跡の畝方向は西－東と北－南、北西－南東の三方向に分かれており、調査区北側で検出された畠跡の畝の方向は北－南である。

火山灰面からは復旧の痕跡は検出されておらず、火山灰降下直後に畠跡が放棄されたのか、あるいはそのまま作付けが継続されていたのかについての詳細は不明である。

調査では道路跡や畦等の区画を示す資料は得られず、畝方向の違いが区画を成していたと推定される。検出された畠跡のうちⅣＡ～ⅢＣ～ⅦＥ区の畠跡は東西約120m、南北約130mという現代の区画でも大型のものであり、家族あるいは個人単位での耕作は考え難く、数家族以上の集団耕作等が行われていたものと推定される。

残存状況の最も良い地点で基本層序（第５図参照）を計測したが、層位的には火山灰面前後での畠跡は確認されず、プラントオパール分析の結果からは、降下前後にイネ、ムギ、ヒエ、キビの珪酸体が確認されているため、ある程度の期間にわたり耕作が続けられていたことが明らかとなった。この点についての詳細はまとめで言及する。

記載は、畝方向と検出区域に従って５ブロックに分けて行っている。計測値は、作付け面が確認される場合は畝の中央と中央を畝幅とし、作付け面が確認されない場合は、畝間の溝と溝の間隔を畝幅として計測している。また、後者における畝の高さは意味を成さないため、削平面と畝間の溝底との差を溝の深さとして計測し記載している。

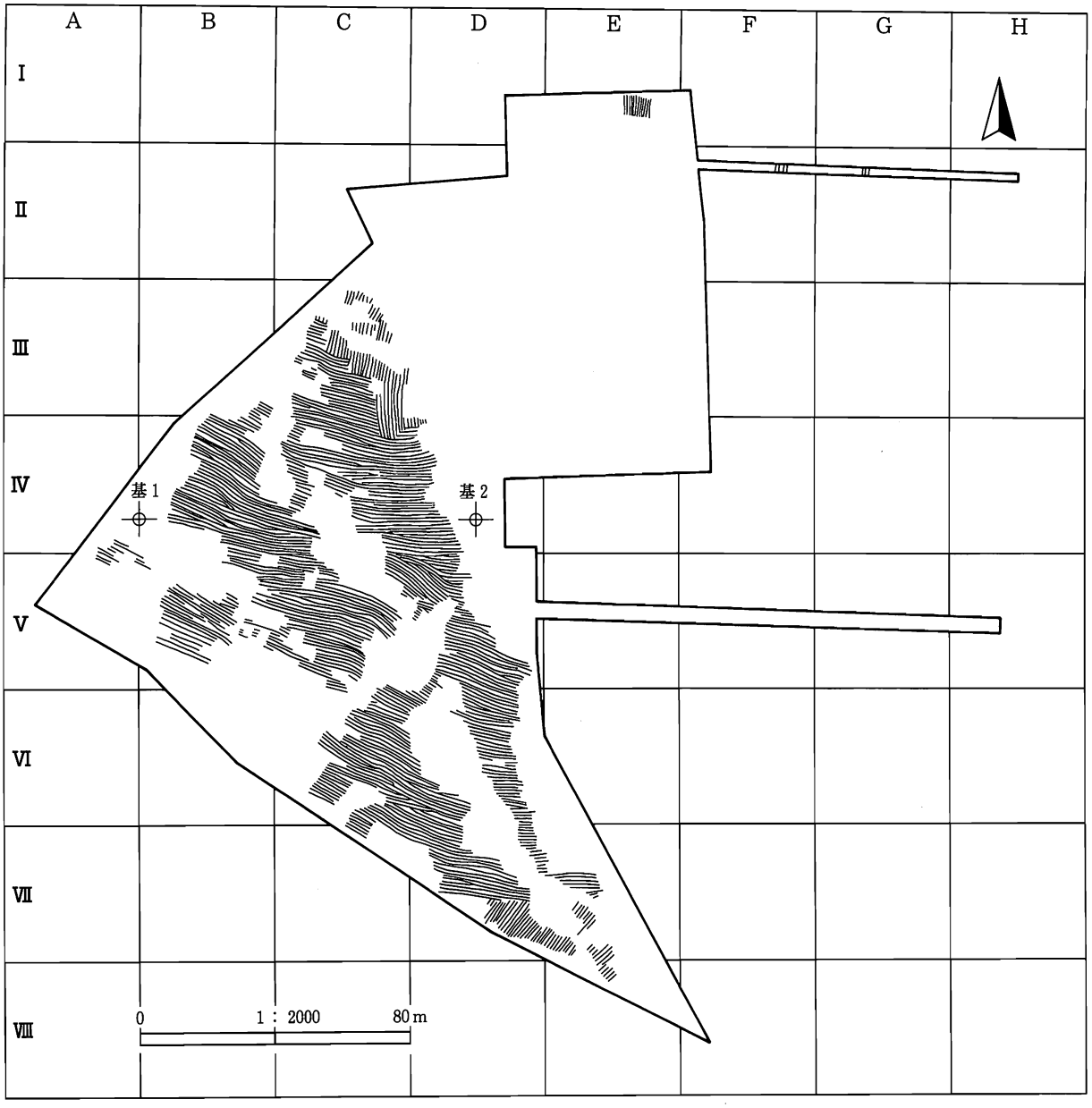
第43図には畝の方向のみを1600分の１で示し、平面図は北側調査区ＩＥ・ⅡＦグリッドの畠跡が40分の１、南西側は200分の１で図示した。なお、断面は60分の１と40分の１を適宜用いて掲載している。付図には現況地形図と畠跡全体を300分の１で図示している。なお、火山灰下の柱穴はP1663、P1667、P1669の３基のみであることと、南西側の近世遺構の重複が著しいため、平面図・付図には重複する遺構は示さず畠跡のみを示している。

なお、畠跡の検出面付近から出土した遺物は、グリッド毎に登録し遺構外遺物として記載している。

ⅣＡ～ⅢＣ～ⅦＥグリッドの畠跡

遺構

〈位置・検出面積〉　調査区の西側、標高22～22.8mに位置する。東西約120m、南北約132m、面積約10,950㎡の範囲から検出された。畠跡が検出された北西側と南東側は北上川の旧河道で削られており、畠跡は更に広大な面積に広がっていたと推定される。



第43図　畠跡畝方向図

〈検出状況・作付け面〉　区域により違いはあるが、完全に十和田ａ降下火山灰に覆われた区域と削平等により畝間の溝のみが検出されたものに分けられる。前者では火山灰面に作付け面痕が検出されている。

民家があった南西部の攪乱は著しく柱穴・土坑の分布と共に畠跡の残状況は不良で、畝間の溝底部のみが検出された区域も存在する。

また、ⅢＢ８ｊ～ⅦＤ４ｊグリッドまで帯状に遺構の空白域が存在する。これは、自然堤防状の微高地にあった畠跡が開田時の削平により消失したものと考えられる。方向も自然堤防の軸方向である北西－南東と一致している。

〈畝幅・畝高・作付間隔〉　畝は幅は85～110㎝、畝高は８～10㎝を測る。

〈畝の断面形〉　畝の断面形は蒲鉾状～半円形を呈する。

〈耕作方向〉　畝の方向は西－東であり、ＶＤグリッドでは地形の傾斜にそって南の低地方向へ畝が彎曲しているため、耕作は西から東へ行われたものと考えられる。

〈作付け痕〉　残存状況の良好なⅢＣ６ｃ～ⅢＣ７ｄ・ＶＣ８ｄ～ＶＣ８ｅ・ＶＤ７ｄ～ＶＤ８ｄグリッドでは火山灰面から、作付け痕と考えられる火山灰を切る褐色の円形列を検出した。数株単位で畝上に作付けされていたものと考えられ、株の間隔は約１ｍで畝の間隔とほぼ一致している。

復旧の痕跡は全く検出されていない。短期的には畠が放棄されたことや、そのまま作付けされていた可能性も残る。

〈二股畝・耕作方法〉　ⅣＢ・ＶＤ・ⅥＣグリッド等で、二股畝が数箇所検出されている。これは畝が並行に作られなかった空白域を埋めるものと考えられる。畠跡には個人所有を窺わせる小規模区画が存在しないことから、大規模な耕作がまとまった集団により行われていたと考えられる。

〈埋土〉　火山灰下の耕作面下の埋土は、褐色を主体に構成されている。

遺物（第208図、写真図版137・140）

〈検出状況〉　ⅣＤ・ＶＢ・ⅦＤ区から土師器、須恵器の坏、甕片や手づくねかわらけ１点が出土している。

〈土器〉　ⅦＤ３ｂグリッドから須恵器の大甕片（657）が出土している。754は大型の手づくねかわらけで12世紀後半の遺物と考えられる。出土したⅣＢグリッドは近世以降の攪乱や削平が著しく、周辺には該期の遺構が存在していた可能性も考えられる。

時期　検出状況から、十和田ａ降下火山灰が堆積した915年頃の畠跡と考えられる。

ⅢＣ～ⅣＤ３ｊグリッドの畠跡

遺構（第53・54・62図、付図、写真図版38・41）

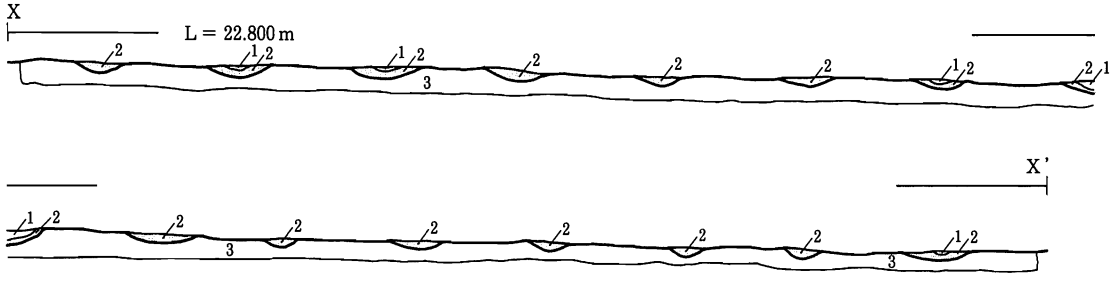
〈位置・検出状況〉　標高22.1～22.9ｍ、自然堤防北西斜面の北端に位置する。北西端は現代の耕作により削平されており、畠跡は全く検出されていない。

〈畝幅・畝高・検出面積〉　面積は685㎡にわたり検出された。畝幅は約90～100㎝、畝高は〈６～８〉㎝を測る。検出状況から西から北西方向に畠跡が広がっていたものと推定される。

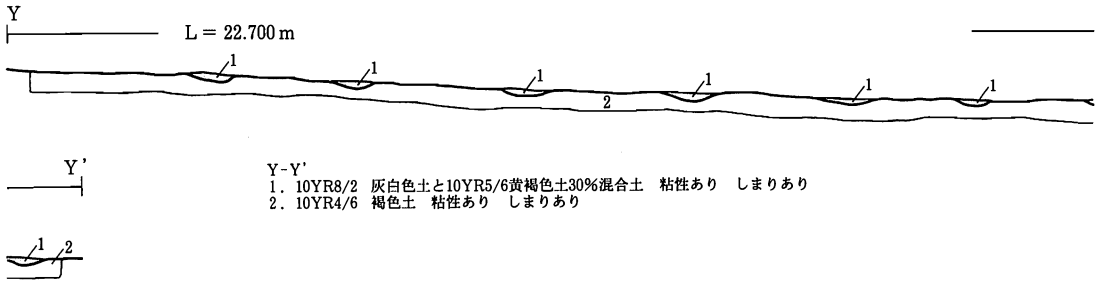
〈畝の断面形・二股畝〉　断面形は半円形から蒲鉾状を呈する。また、ⅦＤ～ⅦＥグリッドと同様に二股畝は検出されていない。

〈区画〉　ⅣＡ～ⅢＣ～ⅦＥグリッドの畠跡とほぼ接するが、境界には道や畦等の明確な区画線は調査からも確認できなかった。

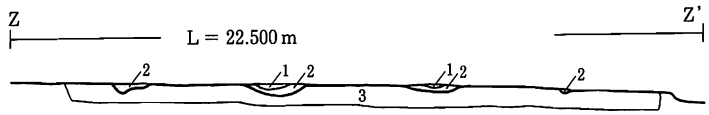
〈耕作方向・復旧痕跡〉　畝の方向は北北西－南南東であるが、ⅢＣ８ｊ～ⅣＣ３ｊグリッド付近では地形の



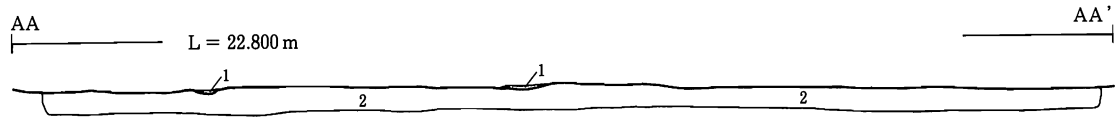
X-X'
1．10YR5/4　にぶい黄褐色土　粘性ややあり　しまりあり
2．10YR5/4　にぶい黄褐色土と10YR8/2灰白色土との50%混合　粘性なし　しまりあり
3．10YR4/6　褐色土　粘性あり　しまりあり



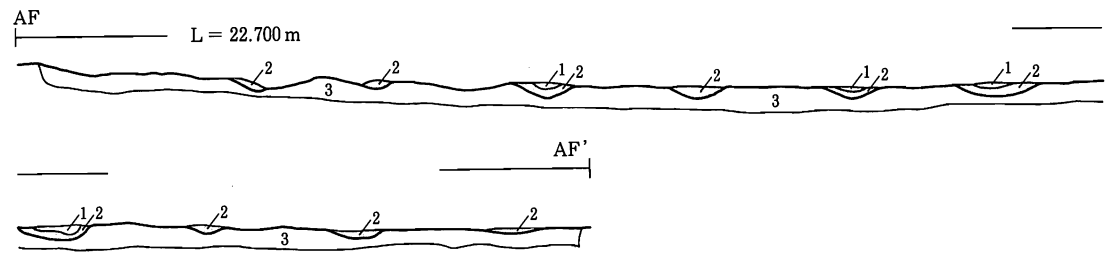
Y-Y'
1．10YR8/2　灰白色土と10YR5/6黄褐色土30%混合土　粘性あり　しまりあり
2．10YR4/6　褐色土　粘性あり　しまりあり



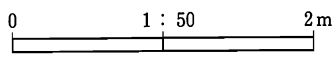
Z-Z'
1．10YR5/6　黄褐色土　粘性なし　しまりあり
2．10YR5/4　にぶい黄褐色土と8/2灰白色土との50%の混合
3．10YR4/6　褐色土　粘性ややあり　しまりあり



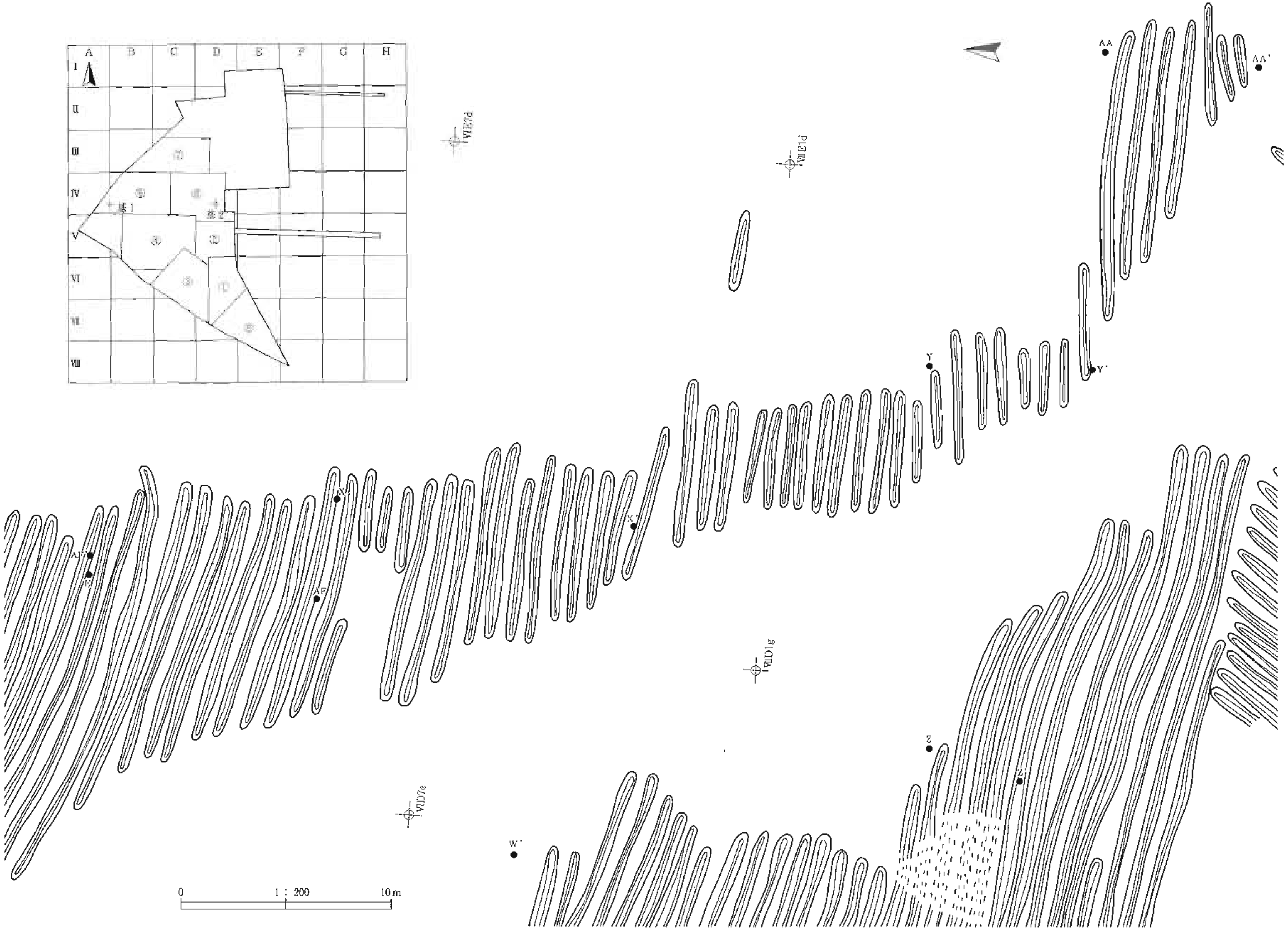
AA-AA'
1．10YR5/4　にぶい黄褐色土と10YR8/2灰白色土との50%混合　粘性なし　しまりあり
2．10YR4/6　褐色土　粘性ややあり　しまりあり



AF-AF'
1．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりあり
2．10YR8/2　灰色土　粘性なし　しまりありと10YR5/6黄褐色土　粘性あり　しまりありとの混合30%
3．10YR4/6　褐色土　粘性あり　しまりあり

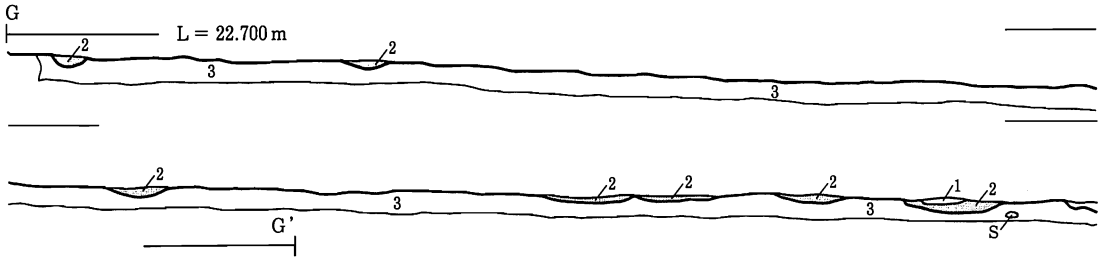


第44図　畠跡（1）

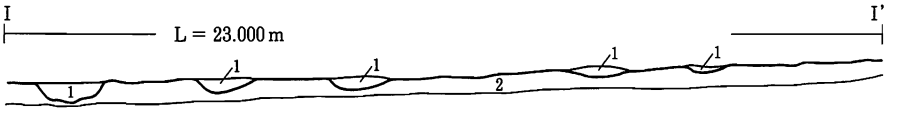


第45図　畠跡（2）

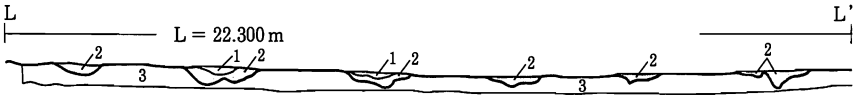
第46図　畠跡（３）



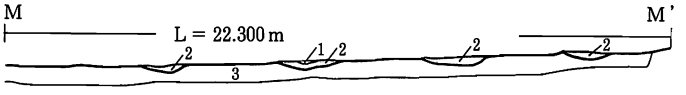
G-G'
1．10YR5/6　黄褐色土　粘性なし　しまりあり
2．10YR4/6　褐色土と10YR8/2灰白色土の50%混合土　粘性なし　しまりあり
3．10YR5/8　黄褐色土　粘性ややあり　しまりあり



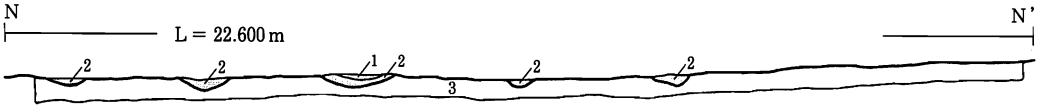
I-I'
1．10YR5/6　黄褐色土　粘性なし　しまりあり
2．10YR4/6　褐色土と10YR8/2灰白色土の50%混合土　粘性なし　しまりあり



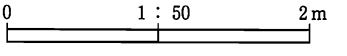
L-L'
1．10YR5/6　黄褐色土　粘性なし　しまりあり
2．10YR4/6　褐色土と10YR8/2灰白色土の50%混合　粘性なし　しまりあり
3．10YR5/8　黄褐色土　粘性ややあり　しまりあり



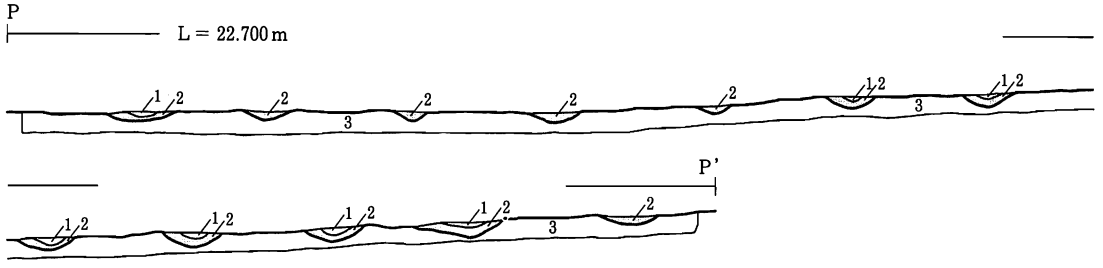
M-M'
1．10YR5/6　黄褐色土　粘性なし　しまりあり
2．10YR4/6　褐色土と10YR8/1灰白色土の50%混合　粘性なし　しまりあり
3．10YR5/8　黄褐色土　粘性ややあり　しまりあり



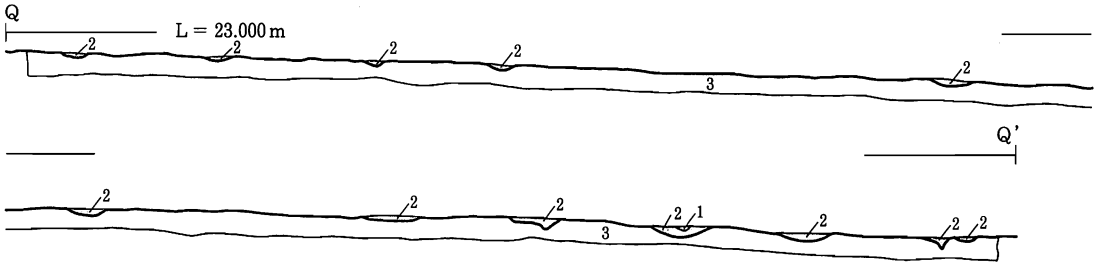
N-N'・O-O'
1．10YR5/6　黄褐色土　粘性なし　しまりあり
2．10YR4/6　褐色土と10YR8/2灰白色土の50%混合土　粘性なし　しまりあり
3．10YR5/8　黄褐色土　粘性ややあり　しまりあり



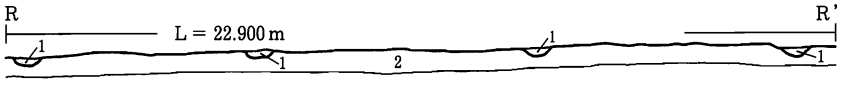
第47図　畠跡（4）



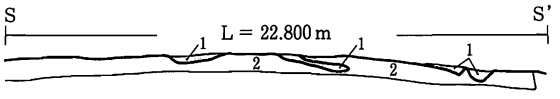
P-P'
1．10YR4/6褐色土　粘性なし　しまりあり
2．10YR4/6褐色土と10YR8/2灰白色土の60%混合土　粘性なし　しまりあり
3．10YR5/8黄褐色土　粘性ややあり　しまりあり



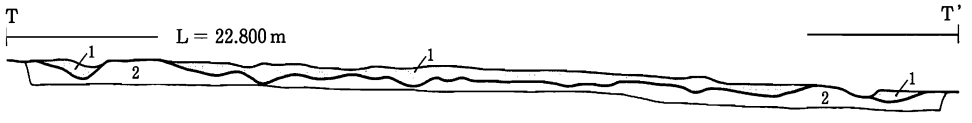
Q-Q'
1．10YR5/6黄褐色土　粘性なし　しまりあり
2．10YR4/6褐色土と10YR8/2灰白色土の60%混合土　粘性なし　しまりあり
3．10YR4/6褐色土　粘性あり　しまりあり



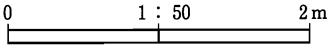
R-R'
1．10YR4/6褐色土と10YR8/2灰白色土の60%混合土　粘性なし　しまりあり
2．10YR4/6褐色土　粘性あり　しまりあり



S-S'
1．10YR4/6褐色土と10YR8/2灰白色土の60%混合土　粘性なし　しまりあり
2．10YR4/6褐色土　粘性あり　しまりあり



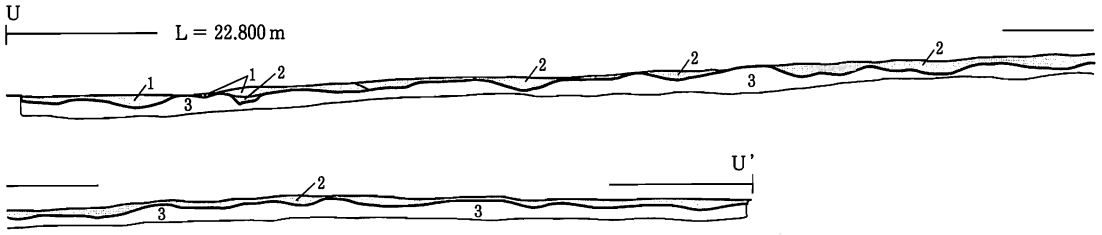
T-T'
1．10YR4/6褐色土と10YR8/2灰白色土の60%混合土　粘性なし　しまりあり
2．10YR4/6褐色土　粘性あり　しまりあり



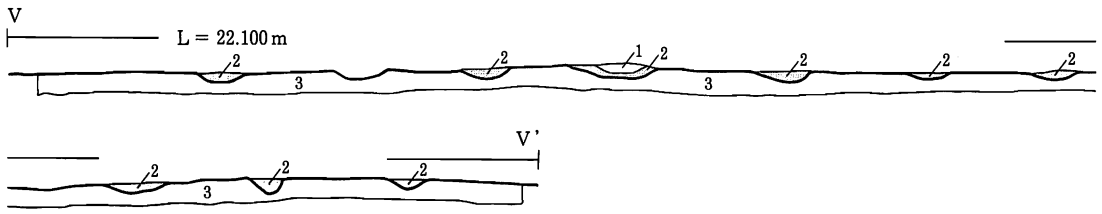
第48図　畠跡（5）

第49図　畠跡（６）

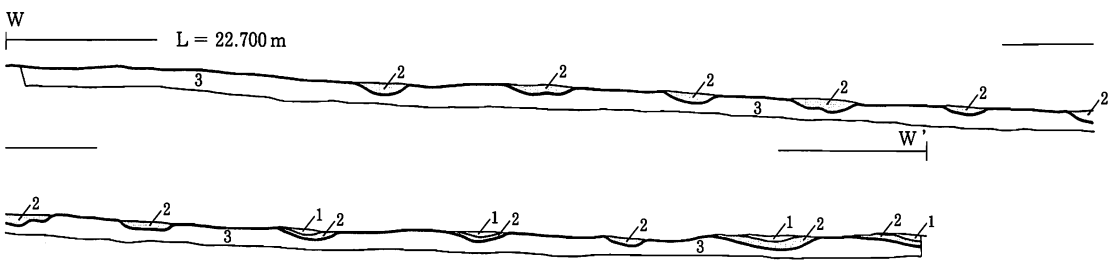
第50図　畠跡(7)



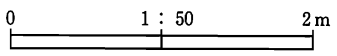
U-U'
1．10YR5/6黄褐色土に10YR8/2灰白色土の30%混合土　粘性ややあり　しまりあり
2．10YR5/6黄褐色土に10YR8/2灰白色土の50%混合土　粘性ややあり　しまりあり
3．10YR5/8黄褐色土　粘性あり　しまりあり



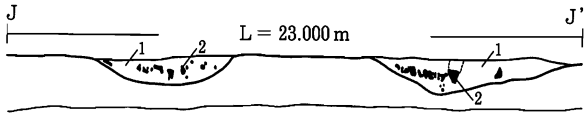
V-V'
1．10YR3/4暗褐色土　粘性あり　しまりややあり
2．10YR5/6黄褐色土に10YR8/2灰白色土の50%混合土　粘性ややあり　しまりあり
3．10YR5/8黄褐色土　粘性あり　しまりあり



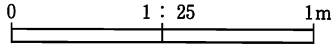
W-W'
1．10YR3/4暗褐色土　粘性あり　しまりややあり
2．10YR5/6黄褐色土に10YR8/2灰白色土の50%混合土　粘性ややあり　しまりあり
3．10YR5/8黄褐色土　粘性あり　しまりあり

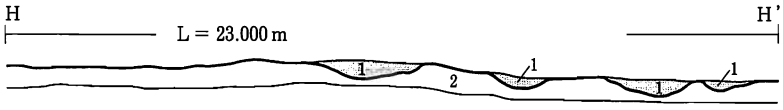


第51図　畠跡（8）

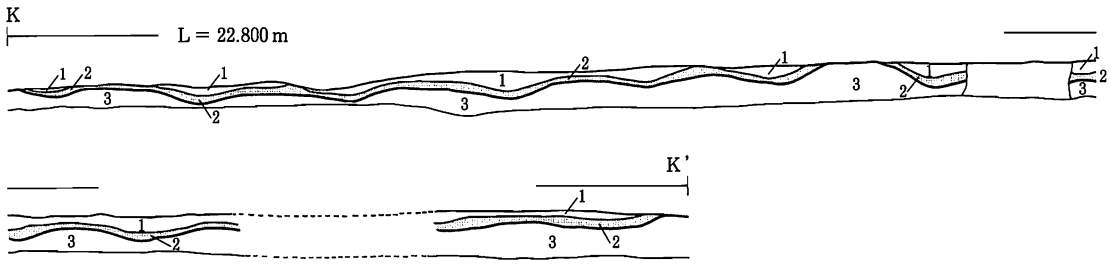


J-J'
1．10YR5/6黄褐色土　粘性あり　しまりややあり
2．10YR8/2灰白色土Toa 粘性なし　しまりなし

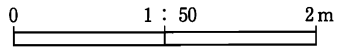




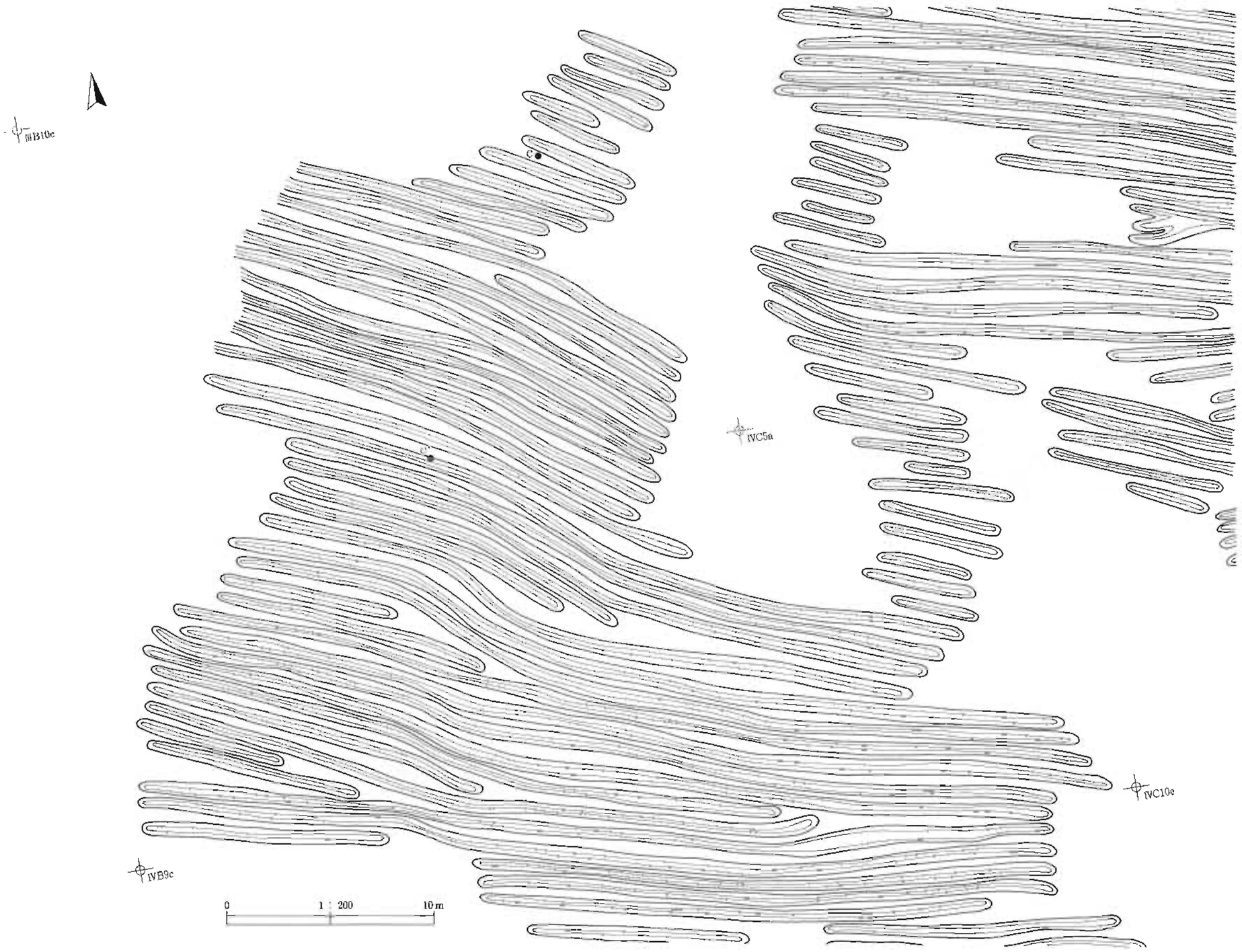
H-H'
1．10YR4/6褐色土と10YR8/2灰白色土の60%混合土　粘性なし　しまりあり
2．10YR4/6褐色土　粘性あり　しまりあり



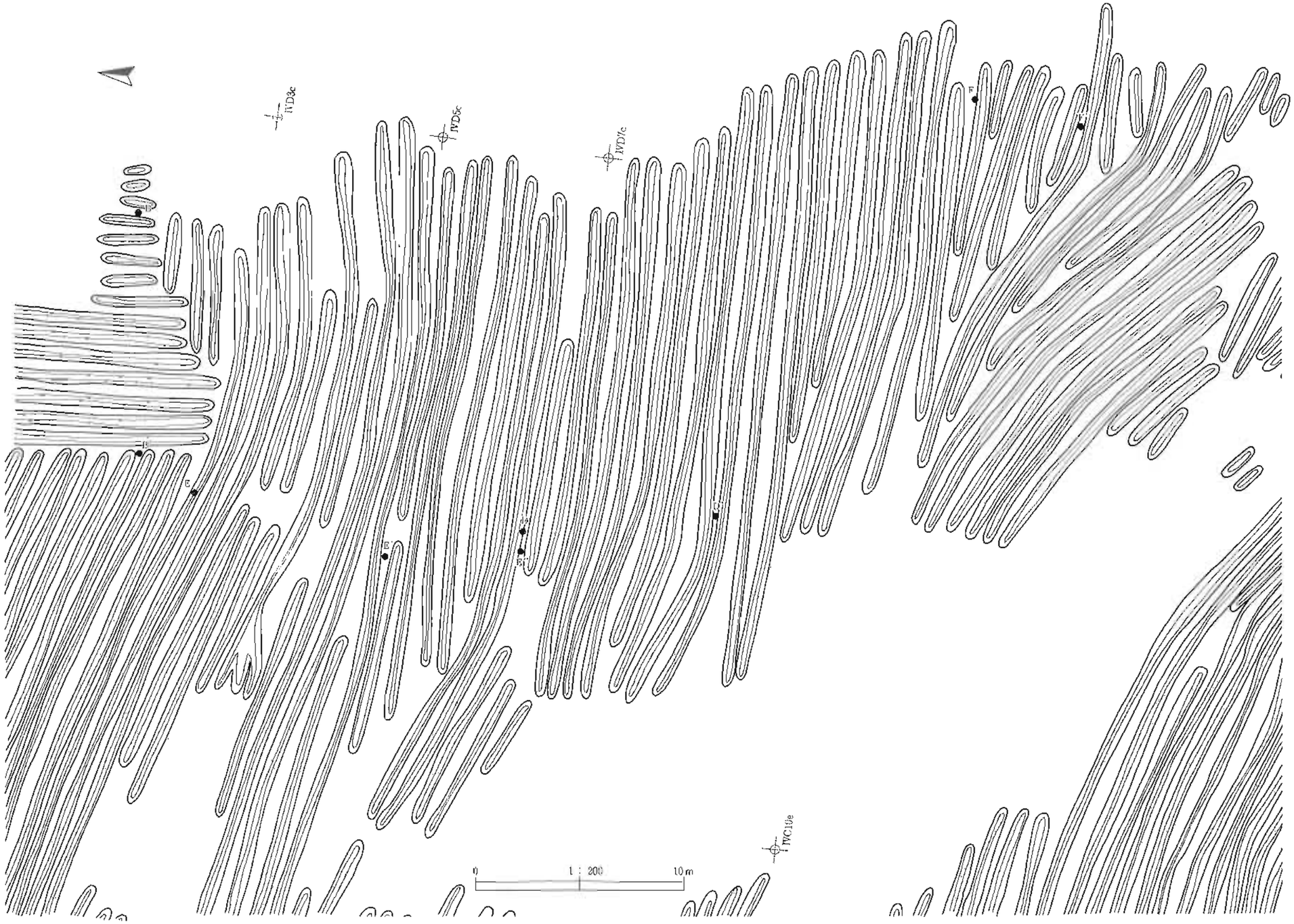
K-K'
1．10YR5/6黄褐色土　粘性あり　しまりややあり
2．10YR8/2灰白色土Toa 粘性なし　しまりなし
3．10YR5/8黄褐色土　粘性あり　しまりあり



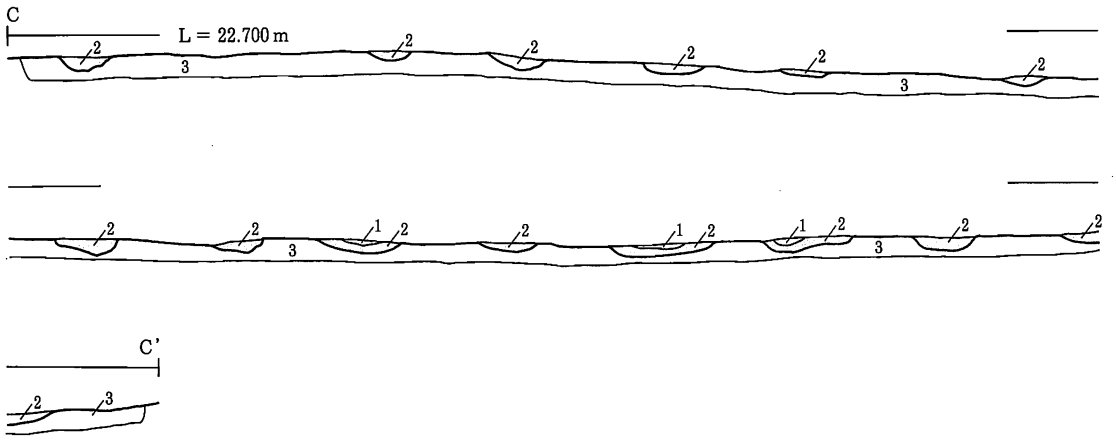
第52図　畠跡（9）



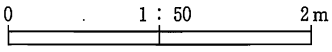
第53図　畠跡(10)



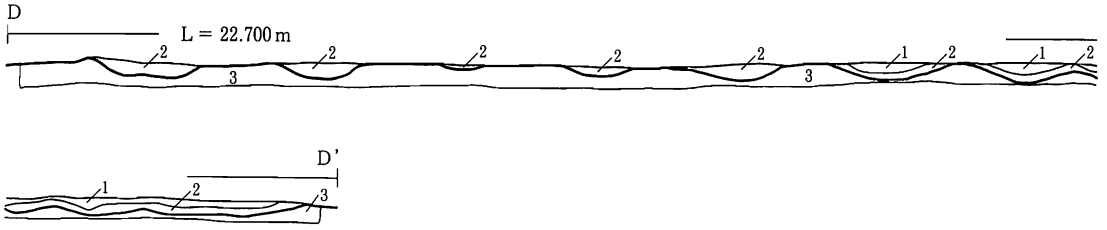
第54図　畠跡(11)



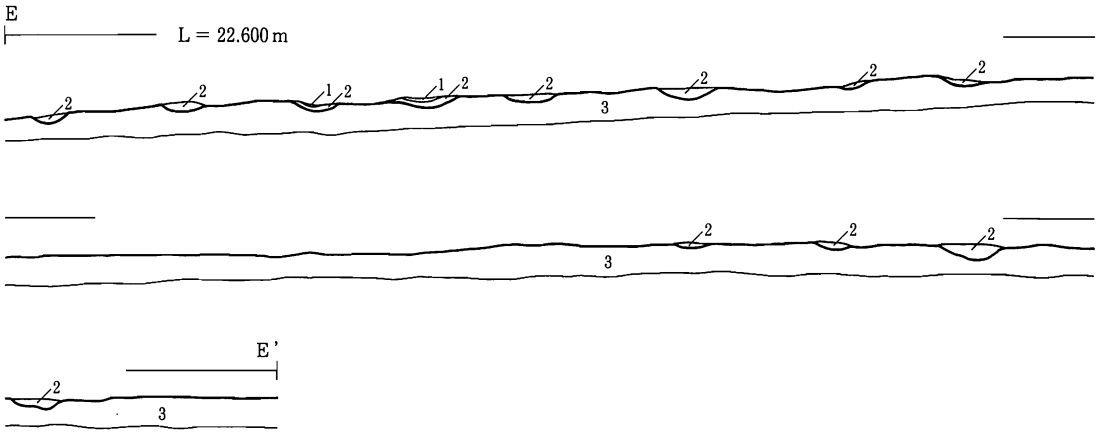
C-C'
1．10YR3/4暗褐色土　粘性あり　しまりあり
2．10YR5/6黄褐色土に10YR8/2灰白色土の50%混合土　粘性ややあり　しまりあり
3．10YR5/8黄褐色土　粘性あり　しまりあり



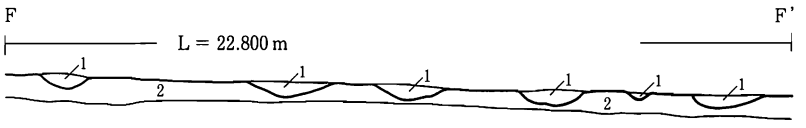
第55図　畠跡(12)



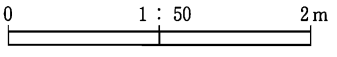
D-D'
1．10YR3/4暗褐色土　粘性あり　しまりややあり
2．10YR5/6黄褐色土に10YR8/2灰白色土の70%混合土　粘性ややあり　しまりあり
3．10YR5/8黄褐色土　粘性あり　しまりあり



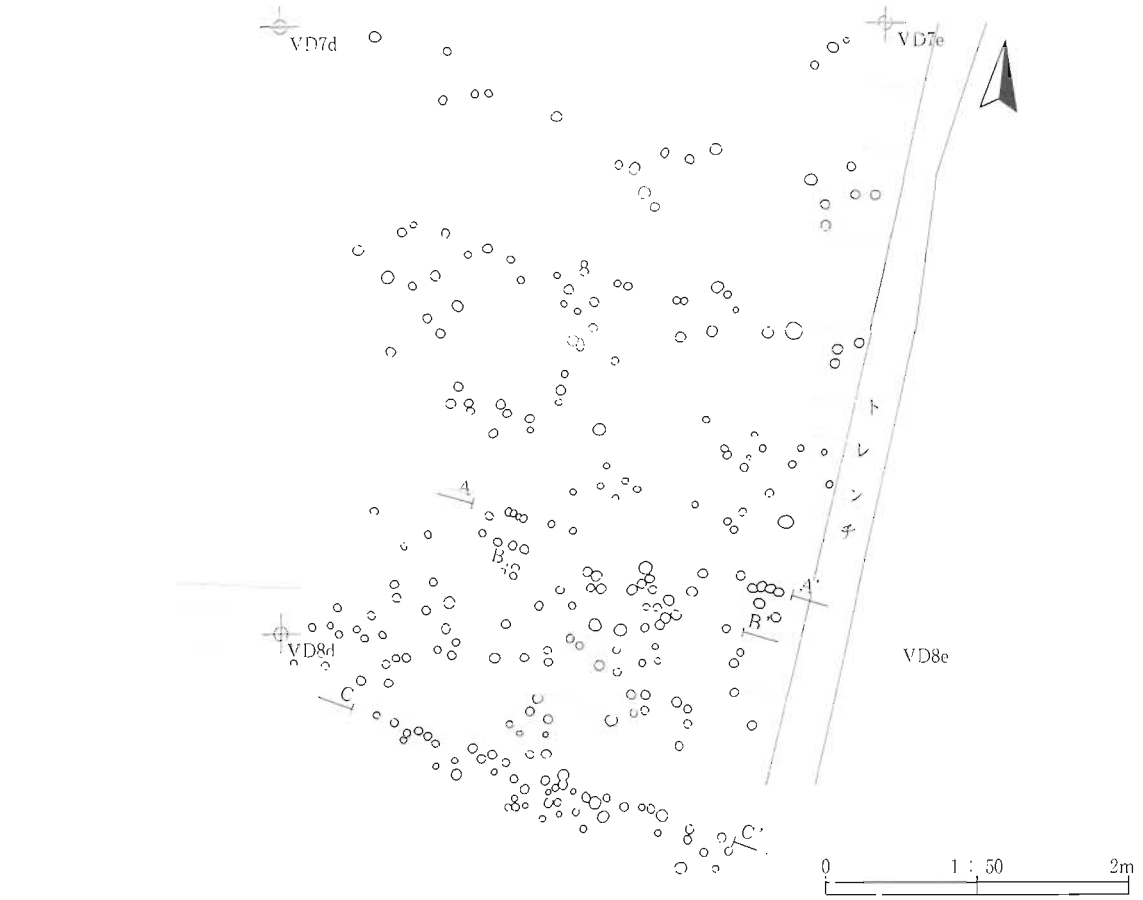
E-E'
1．10YR3/4暗褐色土　粘性あり　しまりややあり
2．10YR5/6黄褐色土に10YR8/2灰白色土の50%混合土　粘性ややあり　しまりあり
3．10YR5/8黄褐色土　粘性あり　しまりあり

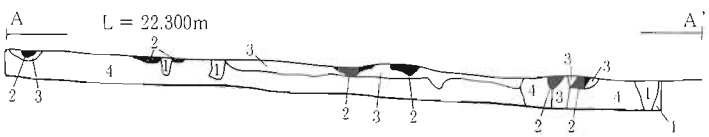


F-F'
1．10YR5/6黄褐色土に10YR8/2灰白色土の50%混合土　粘性ややあり　しまりあり
2．10YR5/8黄褐色土　粘性あり　しまりあり

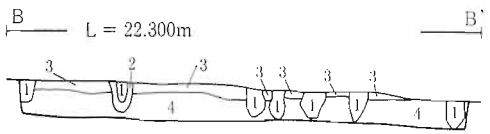


第56図　畠跡(13)

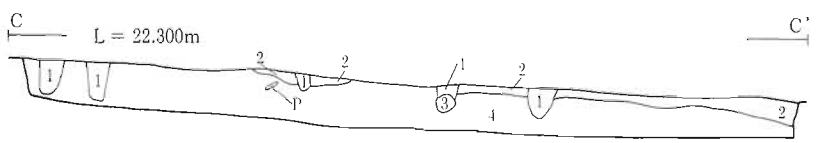




A-A'
1．10YR4/4　褐色土　粘性なし　しまりなし
2．10YR6/6　明黄褐色土　粘性なし　しまりありと8/2灰白色土　粘性なし　しまりありとの混合50%
3．10YR6/6　明黄褐色土　粘性あり　しまりなし
4．10YR3/4　暗褐色土　粘性あり　しまりあり



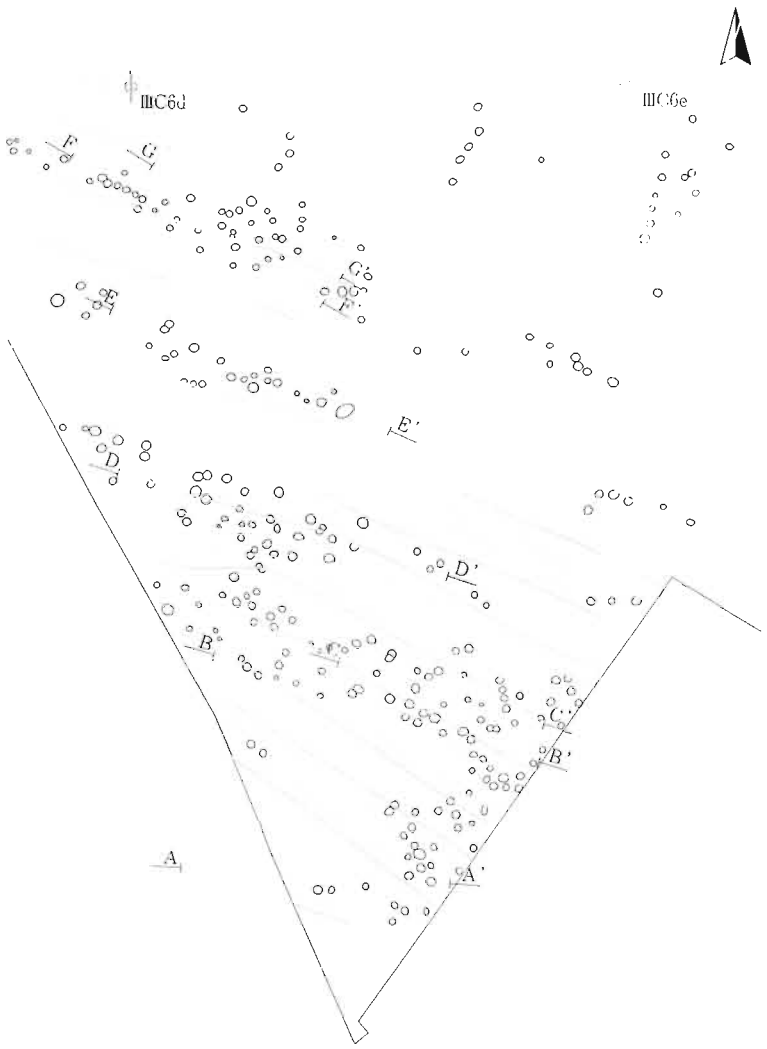
B-B'
1．10YR4/4　褐色土　粘性なし　しまりあり
2．10YR6/6　明黄褐色土　粘性あり　しまりあり
3．10YR6/6　明黄褐色土　粘性なし　しまりありと8/2灰白色土　粘性なし　しまりありとの混合20%
4．10YR3/4　暗褐色土　粘性あり　しまりあり



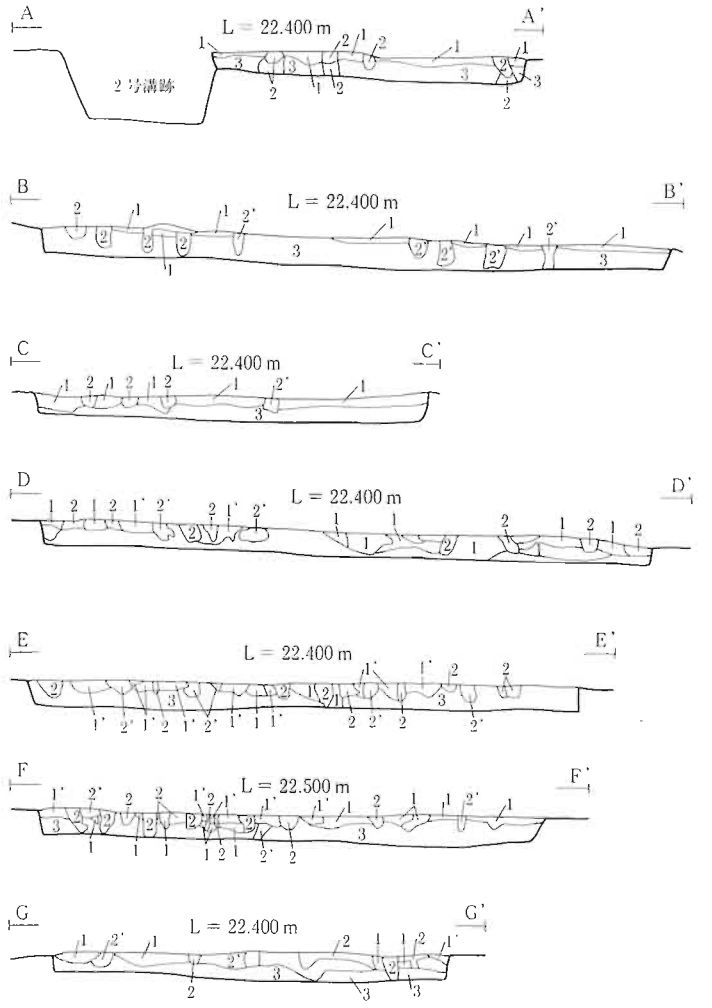
C-C'
1．10YR5/6　黄褐色土　粘性なし　しまりあり
2．10YR6/6　明黄褐色土　粘性なし　しまりありと8/2灰白色土　粘性なし　しまりありとの混合20%
3．10YR4/6　褐色土　粘性なし　しまりありと8/2灰白色土　粘性なし　しまりありとの混合20%
4．10YR4/6　褐色土　粘性ややあり　しまりあり

0 1：25 1m

第57図　畠跡(14)



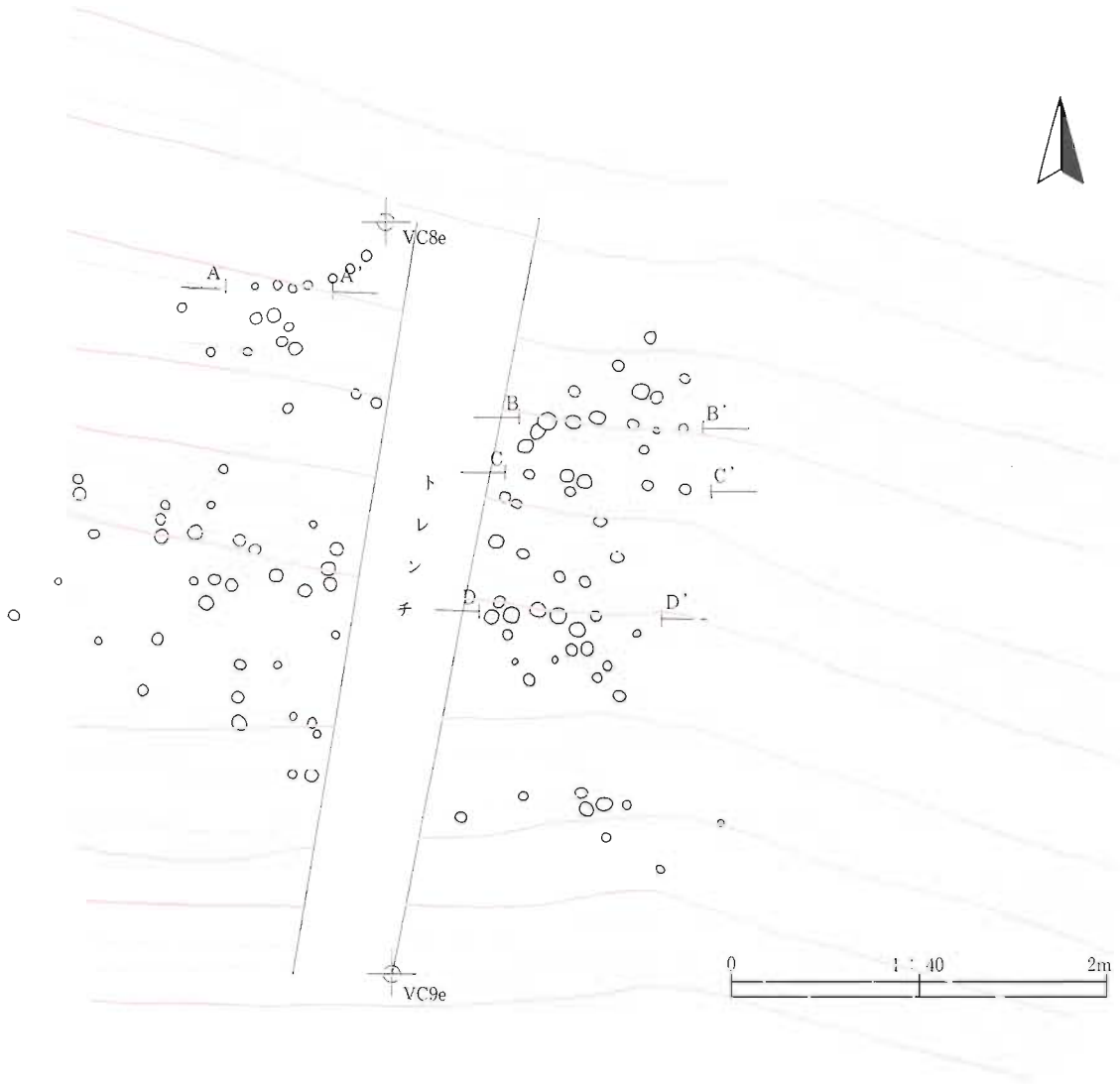
0　1：60　2m

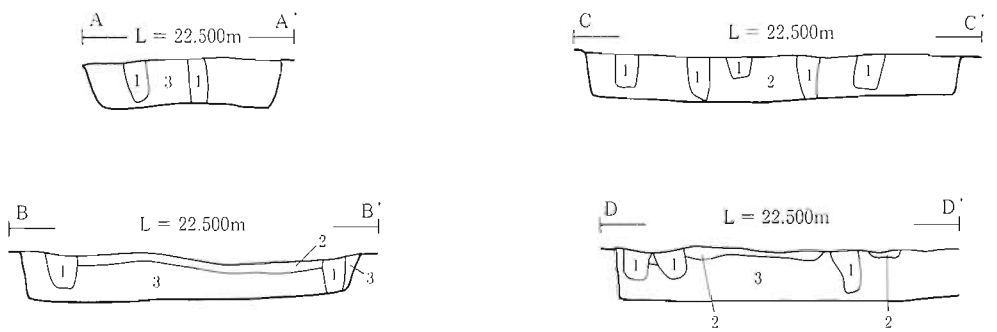


1．10YR5/6に灰白色火山灰ブロック状に混入　粘性ややあり　しまりあり
2．10YR4/4に灰白色火山灰を僅かに含む　粘性ややあり　しまりややあり
3．10YR4/4粘性ややあり
4．10YR5/4に僅かに灰白色火山灰を含む　粘性ややあり

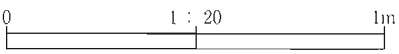
0　1：30　1m

第58図　畠跡(15)

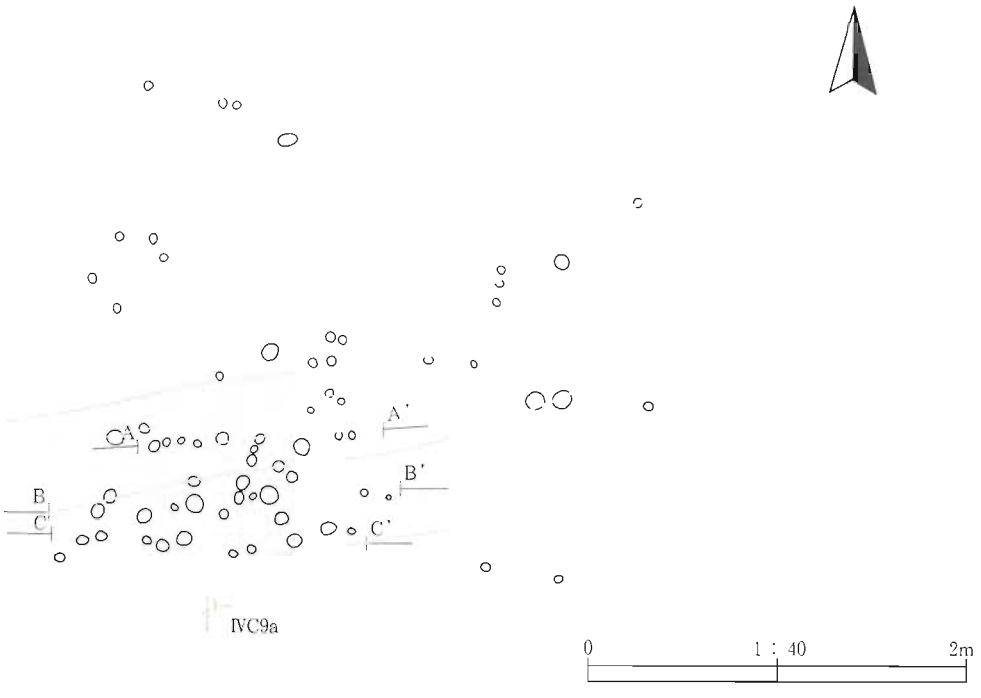


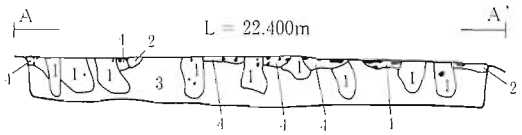


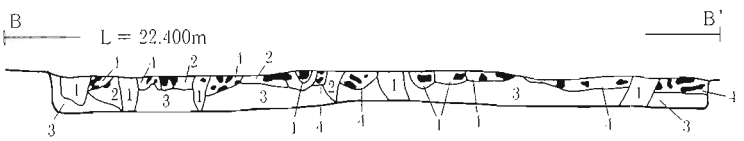
1．10YR3/4　暗褐色土　粘性あり　しまりややあり
2．10YR7/3　にぶい黄橙土　粘性あり　しまりややあり
3．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりややあり

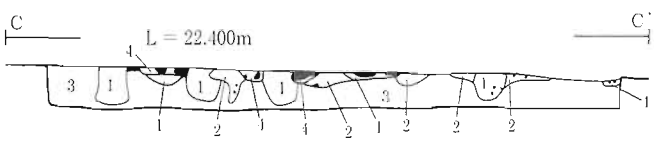


第59図　畠跡(16)

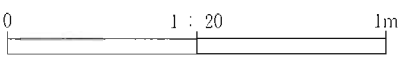








1．10YR4/6　褐色土に僅かに白色火山灰、炭化物含む　粘性ややあり　しまりややあり
2．10YR4/6に炭化物含む　粘性ややあり　しまりややあり
3．10YR4/4　にぶい黄褐色土　粘性ややあり　しまりややあり
4．10YR4/3　にぶい黄橙色火山灰に10YR4/6を含む　粘性ややあり　しまりややあり
5．10YR4/4　褐色土　粘性ややあり　しまりややあり



第60図　畠跡(17)

傾斜にそって南東側の低地方向へ畝が緩やかに彎曲しているため、耕作は北から南へ行われたものと考えられる。

復旧の痕跡は全く検出されていない。

〈作付け痕・耕作物〉　明確な作付け痕はこの区画からは検出されていない。耕作物については他の区域と同様にイネ、オオムギ、ヒエ等が作付けされていたものと考えられる。

遺物（第203・204図、写真図版135・150）

〈出土状況〉　土師器、須恵器の坏・甕（585～599、628）が検出されている。周辺には8号住居跡もありこれに関連する遺物の可能性もある。

〈土器〉　585は須恵器の甕片である。589は須恵器完形の坏、592・602は高台付坏で八字高台を持つ。592は内面に黒色処理が施されている。

〈近世陶磁器〉　肥前産の皿（937•938）や瀬戸産の擂鉢（939）、大堀相馬の碗（941）等が出土している。何れも近世のものである。

時期　検出状況から、十和田a降下火山灰が堆積した915年頃の畠跡と考えられる。

ⅦＤ～ⅦＥグリッドの畠跡

遺構（第45・49・64図、付図）

〈位置〉　調査区の南端の標高21.9～22.8m、自然堤防西斜面の南東端に位置する。面積648㎡にわたり検出された。南側は北上川の旧河道により消失しているため、当時の畠は南方向へ広がっていたものと考えられる。

〈畝幅・畝高〉　畝幅は90～110cm、畝高は〈6～8〉cmを測る。

〈作付痕〉　作付け痕は検出されなかった。沖積地特有の土質のため他の遺構と同様に検出は困難と考えられる。

〈畝の断面形・方向〉　畝の方向は南西－北東であり、この区画からⅢＣ～ⅣＤ3ｊ区と同様に二股畝は検出されていない。

〈検出状況〉　畠跡は畝間の溝に堆積した火山灰により確認し精査を行った。火山灰は完全に畠跡を覆う火山灰と同じ検出状況であったため、畝上層の作付け面付近は削平されている可能性が高い。

この区域からは復旧の痕跡は検出されていない。

〈区画〉　ⅣＡ～ⅢＣ～ⅦＥグリッドの畠跡とほぼ接するが、境界には道や畦等の明確な区画線は調査からも確認できなかった。

〈埋土〉　火山灰層下には一様に黄褐色土が堆積する

〈出土状況〉　遺物は出土していない。

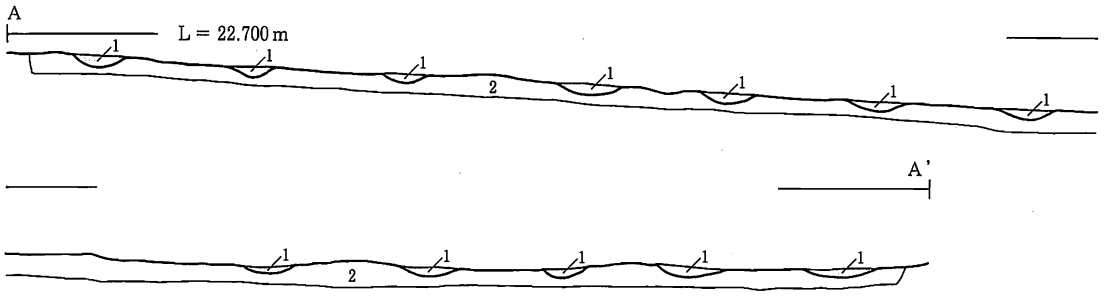
時期　検出状況から、十和田a降下火山灰が堆積した915年頃の畠跡と考えられる。

ＩＥ７ｆ～ＩＥ８ｉグリッドの畠跡

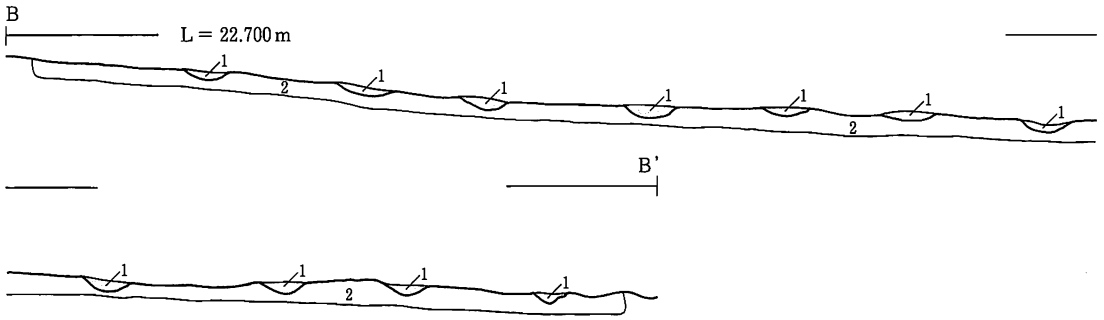
遺構（第65図、付図、写真図版42）

〈位置〉　標高22.7～22.9mに位置する。約58.5㎡を検出した。ＩＥ７ｆ～ＩＥ８ｉグリッドは住居跡集中区に近接しており、集落のすぐそばに畠跡が作られていたことが確認された。

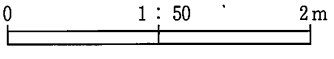
〈畝幅・畝高・畝の断面形〉　畝幅は最大82cm、最小56cmであるが、ほとんどは63～76cmを測る。畝高は



A-A'
1．10YR5/6　黄褐色土に10YR8/2灰白色土の50%混合土　粘性ややあり　しまりあり
2．10YR5/8　黄褐色土　粘性あり　しまりあり



B-B'
1．10YR5/6　黄褐色土に10YR8/2灰白色土の50%混合土　粘性ややあり　しまりあり
2．10YR5/8　黄褐色土　粘性あり　しまりあり



第61図　畠跡(18)

第62図　畠跡(19)

〈4～8〉cm、部分的には畝の上層が削平されている箇所もあるが、セクション付近の断面形は低い台形～蒲鉾状を呈する。調査区南側の畠跡に比べ規模が小さい。

〈畝の方向〉　畝の方向は北－南である。

〈検出状況〉　重機による表土除去直後の平面的な検出では畠跡は全く確認できず、降雨後の二次検出で十和田ａ降下火山灰の小ブロックの微かな散在により畠跡の存在を確認した。また、畝と地山との差は僅かで、黄褐色土の中に褐色土が筋状に見える程度で検出された。検出後数時間が経つと畠跡の確認は全くできない状況であった。復旧の痕跡や作付けの跡は、検出されていない。

〈埋土〉　作付け面上層は堆積した十和田ａ降下火山灰が褐色土の中に、小ブロックと微量の炭化物が混じる程度での二次堆積を呈する。下層は褐色土が一様に堆積する。

〈出土状況〉　遺物は出土していない。

時期　検出状況と畝間の溝の堆積状況から、火山灰降下直後の10世紀初頭～前半代の可能性が高く、調査区南側の畠跡とは時期を若干異にするものと考えられる。

ⅡＦ２ｈ・ⅡＧ２ｄグリッドの畠跡

遺構（第62図、付図）

〈位置〉　標高22.3～22.5m、自然堤防の東斜面に位置する。約14㎡が検出された。ⅡＦ２ｈグリッドの畠跡は21号住居埋没後に耕作されていた。

〈検出状況〉　調査区の南側で見られた畠跡を完全に覆う十和田ａ降下火山灰は検出されていない。畠跡に堆積した微かな十和田ａ降下火山灰が筋状に検出される程度であった。

検出状況は、畝が完全に覆われていた自然堤防西斜面の畠跡と明らかに異なり、畝の形状からは作付けをしていないようにの見受けられる。

検出面は耕作土直下で畠跡の残存状況も不良ではあるが、畠跡の堆積状況からは作付け面が残存している。畝の上層の作付け面付近は凹凸もあり、他の畠跡に比べ詳細の把握は困難であった。このため復旧の跡や作付け痕も検出されていない。

〈畝幅・畝高〉　畝幅は1.1～1.25m、畝高は約〈1～6〉cmで、明確な畝を形成していない。

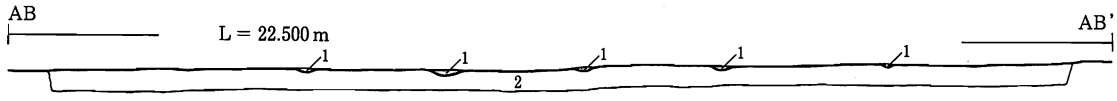
〈畝の方向・断面形〉　ⅡＦ２ｈ、ⅡＧ２ｄ区のいずれも畝の方向は南－北である。確認調査で検出されたＦ～Ｇ区の畝方向もこれと同じであった。

〈畠跡の分布〉　県教育委員会生涯学習文化課の遺跡範囲確認調査（平成13年10月５日）でも、調査区に隣接するＩＦ～ⅢＧ区（自然堤防東斜面）からは、微かな火山灰が筋状に検出されており、東側にも同様緩斜面を利用した畠が作られていたものと考えられる。この確認調査で畠跡は、Ｆ～Ｇ区でも確認されており、里遺跡から北西－南東に延びる自然堤防の両側には広大な畠が作られていた可能性が高い。

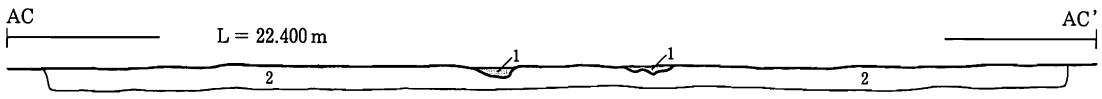
〈埋土〉　作付け面の層の埋土は褐色土に火山灰が僅かに混じる程度であり、作付け面の下層は褐色土である。

〈出土状況〉　遺物は出土していない。

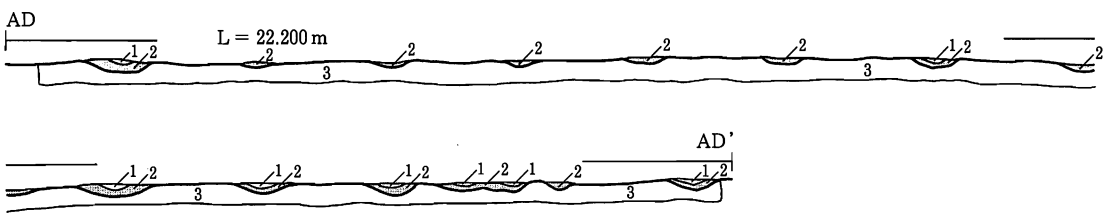
時期　畝間に堆積した十和田ａ降下火山灰は二次堆積と考えられるため、火山灰降下直後の10世紀初頭～前半代の可能性が高く、調査区南側の畠跡とは時期を若干異にするものと考えられる。



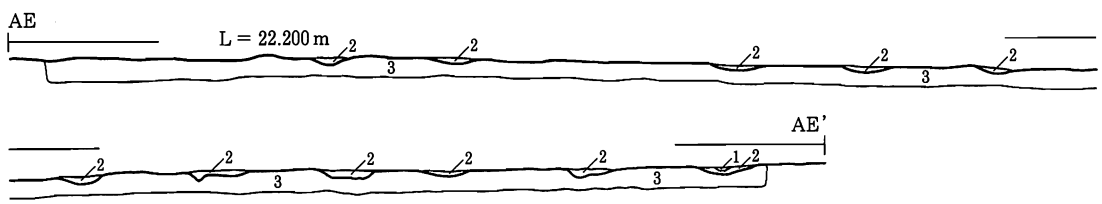
AB-AB'
1．10YR5/4 にぶい黄褐色土と10YR8/2灰白色土との80%混合 粘性なし しまりなし
2．10YR4/6 褐色土 粘性ややあり しまりあり

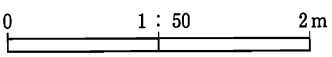


AC-AC'
1．10YR5/4 にぶい黄褐色土と10YR8/2灰白色土との50%混合 粘性なし しまりなし
2．10YR4/6 褐色土 粘性ややあり しまりあり



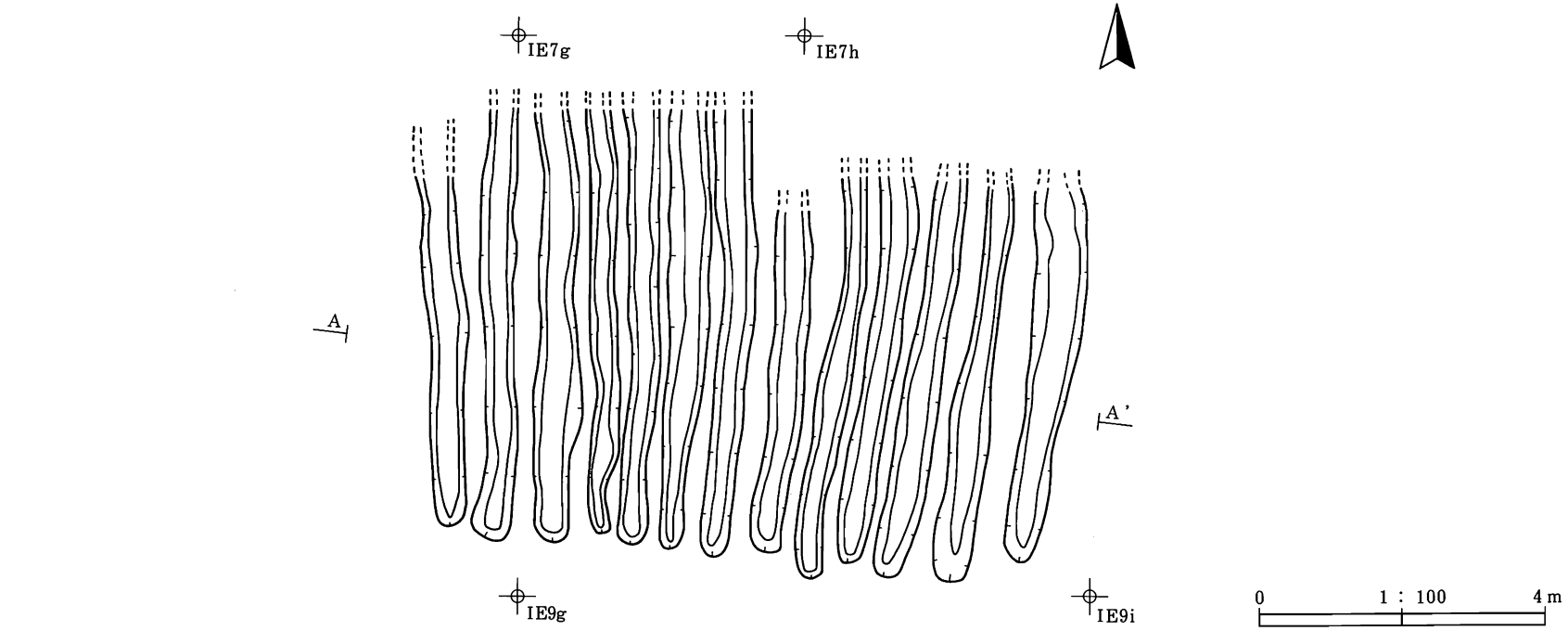
AD-AD'・AE-AE'
1．10YR4/4 褐色土 粘性あり しまりあり
2．10YR8/2 灰色土 粘性なし しまりありと10YR5/6黄褐色土 粘性あり しまりありとの混合30%
3．10YR4/6 褐色土 粘性あり しまりあり





第63図 畠跡(20)

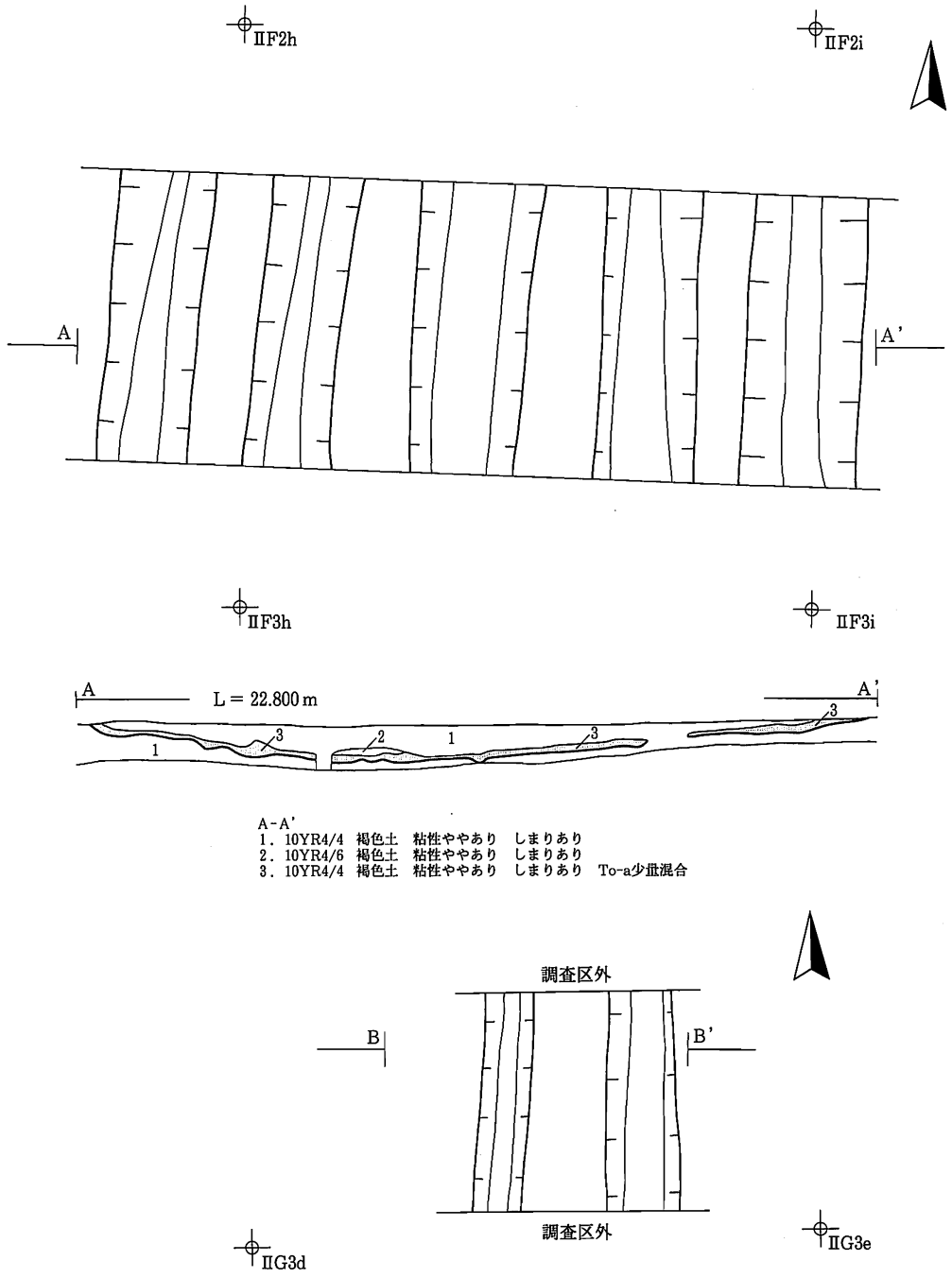
第64図　畠跡(21)



1．10YR4/4　褐色土　炭化物火山灰含む　粘性ややあり　しまりあり
2．10YR4/4　褐色土　粘性ややあり　しまりややあり

0　1 : 50　2m

第65図　畠跡(22)



A-A'
1．10YR4/4 褐色土 粘性ややあり しまりあり
2．10YR4/6 褐色土 粘性ややあり しまりあり
3．10YR4/4 褐色土 粘性ややあり しまりあり To-a少量混合

B-B'
1．10YR4/4 褐色土 粘性ややあり しまりあり
2．10YR4/4 褐色土 粘性ややあり しまりあり
(To-a 少量混合。1層より薄い。)

第66図 畠跡(23)

6．土器埋設遺構

土器埋設遺構は2基を登録した。いずれも長胴甕を合口の横位で埋設したものである。甕棺とすべき埋葬骨は確認されていないため、土器埋設遺構として登録した。

1号土器埋設遺構（合口）

遺構（第67図、写真図版47）

〈位置・方位〉　調査区ⅣB7b～ⅣB8bグリッド、標高22.8m、2号土器埋設遺構の約3m西に位置する。軸線の方向はN-12°-Eである。

〈検出状況・規模〉　上部は耕作により削平されており地山直上で検出された。明確な掘り方は確認できなかった。形態は合口の横位で埋設され2号土器埋設遺構と酷似する。長軸57cm、短軸30cmを測る。

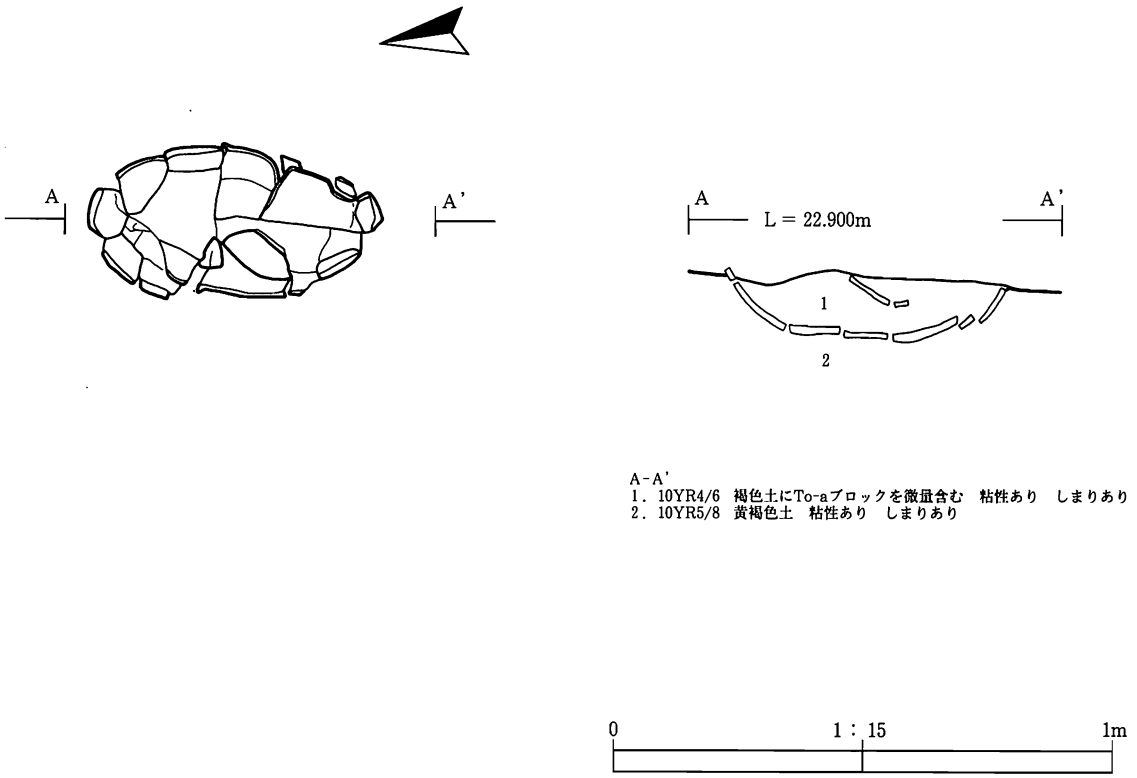
〈掘り方・埋土〉　削平が著しく明確な掘り方は確認できなかった。十和田a降下火山灰を切って埋設されており、火山灰を微量に含む褐色土が主体となって構成されている。

遺物（第198図、写真図版131）

〈出土状況〉　埋設土器は2個体を検出した。骨片等は検出されていない。

〈土器〉　367・367は、土師器の長胴甕で外面・底部に箆ケズリ調整が施されている。

時期　出土した遺物と埋設状況から、火山灰降下直後の10世紀前半と考えられる。



第67図　1号土器埋設遺構

2号土器埋設遺構（合口）

遺構（第68図、写真図版47）

〈位置・方位〉　調査区ⅣB８ｃグリッド、標高22.7m、１号土器埋設遺構の３ｍ東に位置する。軸線の方向はN-24°-Wである。

〈検出状況・規模〉　１号土器埋設遺構と同様に削平されており地山直上で検出され、明確な掘り方は確認できなかった。形態は合口の横位で埋設されていた。長軸58cm、短軸31cmを測り、１号土器埋設遺構と酷似する。

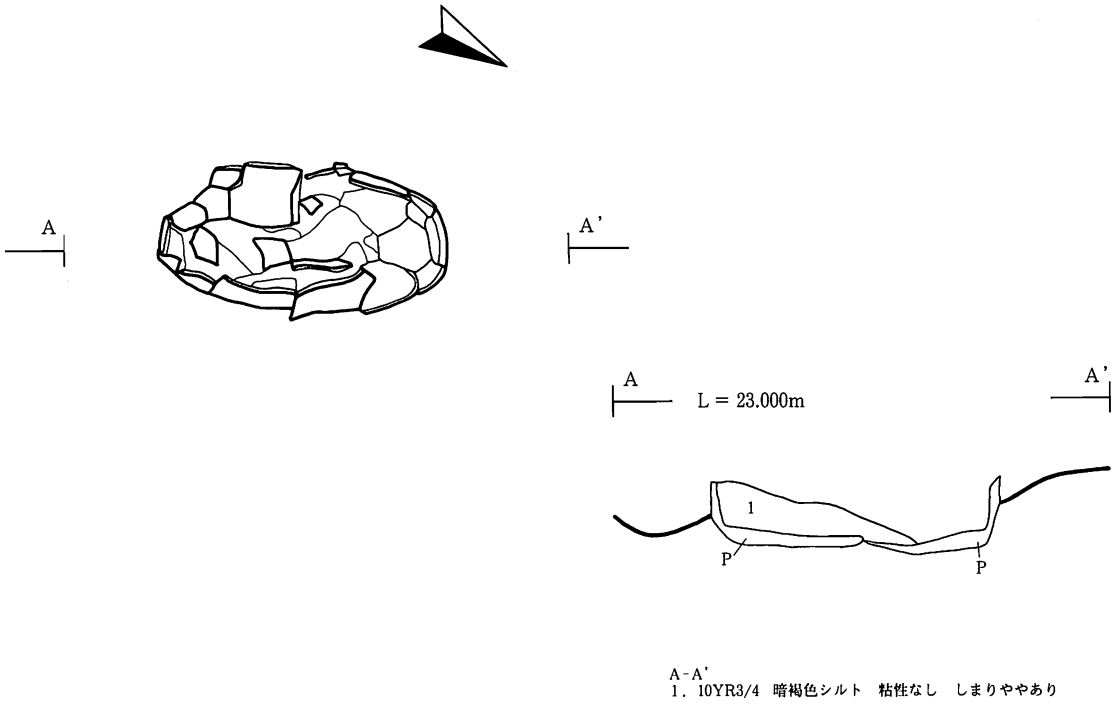
〈掘り方・埋土〉　削平が著しいため掘り方は確認されなかった。十和田ａ降下火山灰を切って埋設されており、褐色土が主体となって構成されている。

遺物（第198図、写真図版131）

〈出土状況〉　埋設土器２個体を検出した。骨片等は検出されていない。

〈土器〉　370・371は、土師器の長胴甕で外面・底部は箆削り調整が施されている。

時期　出土した遺物と埋設状況から、火山灰降下直後の10世紀前半と考えられる。



第68図　２号土器埋設遺構

7．焼土遺構

焼土遺構は、10基を登録した。焼土遺構の殆どが調査区北側の自然堤防尾根部から検出されている。周辺から検出された遺物や検出状況から、9世紀後半から10世紀（11世紀含む）の遺構と考えられる。

また、一帯が開田時の削平あるいは12世紀から15世紀頃の攪乱等を受けていることから、焼土遺構の多くが竈跡あるいは炉跡の可能性が高いと考えられる。

1号焼土遺構

遺構（第69図、写真図版47）

〈位置・規模〉　調査区ⅢＤ１ｂグリッド、標高23.06ｍに位置する。長軸70㎝、短軸64㎝で、平面形は楕円形を呈する。

遺物（第199図、写真図版132）

〈出土状況〉　土師器の甕片が3点（372～374）、検出面から出土している。出土遺物から、炉跡や竈跡の可能性が考えられる。

時期　検出状況と遺物から9世紀後半～10世紀の遺構と考えられる。

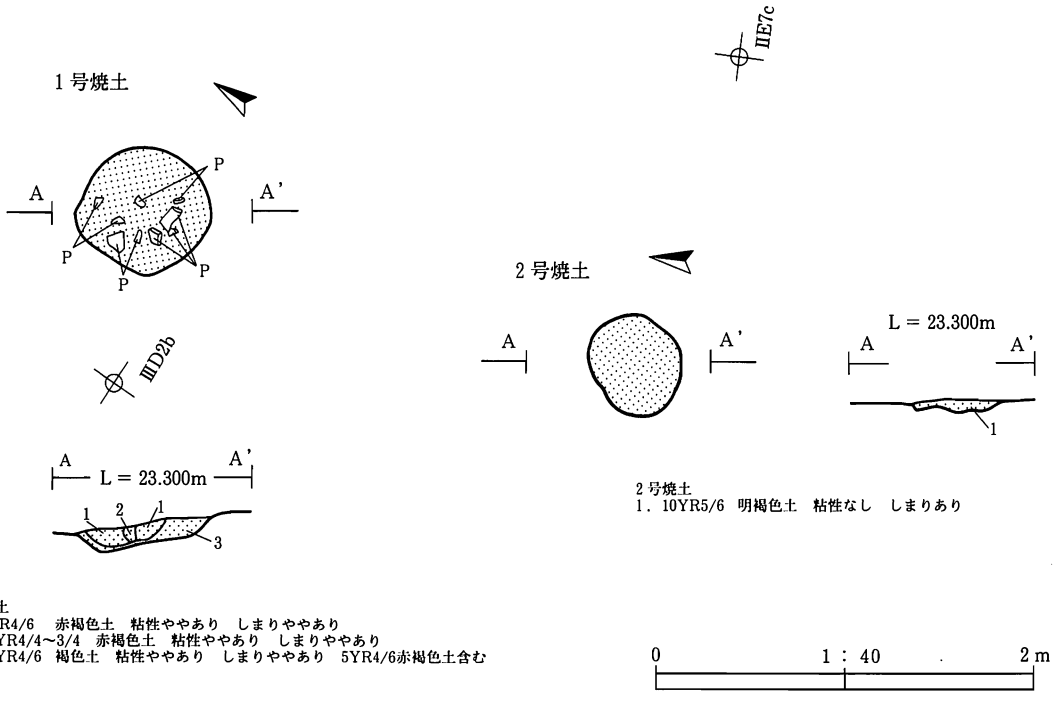
2号焼土遺構

遺構（第69図、写真図版47）

〈位置・規模〉　調査区ⅡＥ６ｂグリッド、標高23.12ｍに位置する。長軸50㎝、短軸41㎝で、平面形は楕円形を呈する。

〈出土状況〉　出土遺物はない。

時期　検出状況から9世紀後半～10世紀の遺構と考えられる。



第69図　１・２号焼土遺構

3号焼土遺構

遺構（第70図、写真図版48）

〈位置・規模〉　調査区ⅡＥ７ｂ～ⅡＥ８ｂグリッド、標高23.10ｍに位置する。本遺構は44号土坑と重複する。長軸66㎝、短軸は推定56㎝前後で、平面形は楕円形を呈していたと推測される。

遺物（第199図、写真図版132）

〈出土状況〉　土師器の坏（375）と甕（376）が検出面から出土している。出土遺物から、炉跡や竈跡の可能性が考えられる。

時期　検出状況と遺物から９世紀後半～10世紀の遺構と考えられる。

4号焼土遺構

遺構（第70図、写真図版48）

〈位置・規模〉　調査区ⅢＥ１ｉグリッド、標高23.02ｍに位置する。PP1313・PP1314と重複する。長軸76㎝、短軸68㎝で、平面形は楕円形を呈する。

遺物（第199図、写真図版132）

〈出土状況〉　土師器の甕が１点（377）が出土している。出土遺物から、炉跡や竈跡の可能性が考えられる。

時期　検出状況と遺物から９世紀後半～10世紀の遺構と考えられる。

5号焼土遺構

遺構（第70図、写真図版48）

〈位置・規模〉　調査区ＩＥ８ｆグリッド、標高23.06ｍに位置する。長軸66㎝、短軸58㎝で、平面形は楕円形を呈する。

遺物（第199図、写真図版132）

〈出土状況〉　土師器の坏が１点（378）出土している。出土遺物から、炉跡や竈跡の可能性が考えられる。

時期　検出状況と遺物から９世紀後半～10世紀の遺構と考えられる。

6号焼土遺構

遺構（第70図、写真図版48）

〈位置・規模〉　調査区ⅡＤ８ｄ～ⅡＤ８ｅグリッド、標高23.34ｍに位置する。長軸104㎝、短軸48～70㎝で、平面形は不整である。

遺物（第206図、写真図版132、137）

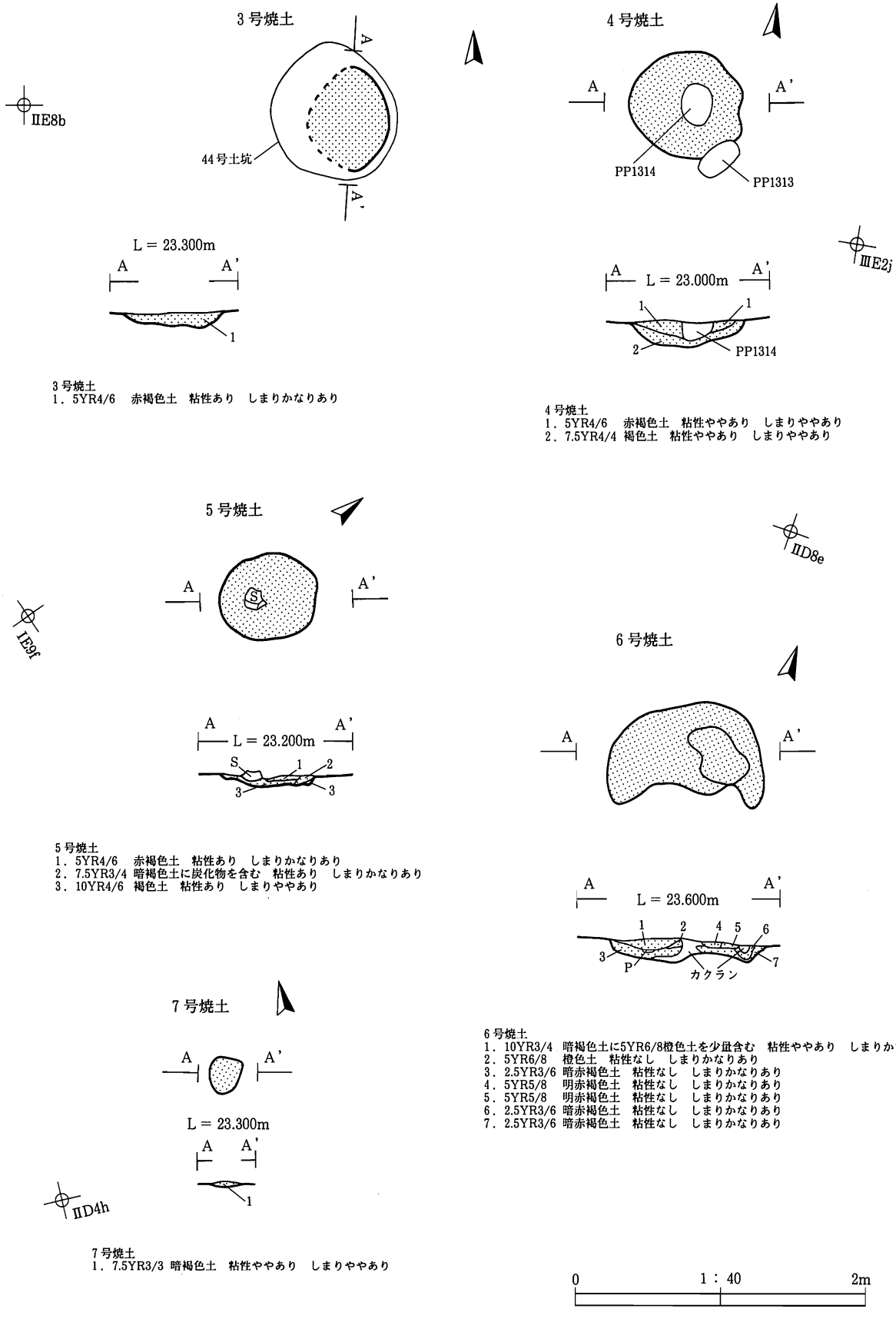
〈出土状況〉　土師器の坏（380・381）と甕（379）が出土している。出土遺物から、炉跡や竈跡の可能性が考えられる。

時期　検出状況と遺物から９世紀後半～10世紀の遺構と考えられる。

7号焼土遺構

遺構（第70図、写真図版49）

〈位置・規模〉　調査区ⅡＤ３ｈグリッド、標高23.16ｍに位置する。長軸26㎝、短軸22㎝で、平面形はほぼ



3 号焼土
1．5YR4/6　赤褐色土　粘性あり　しまりかなりあり

4 号焼土
1．5YR4/6　赤褐色土　粘性ややあり　しまりややあり
2．7.5YR4/4 褐色土　粘性ややあり　しまりややあり

5 号焼土
1．5YR4/6　赤褐色土　粘性あり　しまりかなりあり
2．7.5YR3/4 暗褐色土に炭化物を含む　粘性あり　しまりかなりあり
3．10YR4/6　褐色土　粘性あり　しまりややあり

6 号焼土
1．10YR3/4　暗褐色土に5YR6/8橙色土を少量含む　粘性ややあり　しまりかなりあり
2．5YR6/8　橙色土　粘性なし　しまりかなりあり
3．2.5YR3/6 暗赤褐色土　粘性なし　しまりかなりあり
4．5YR5/8　明赤褐色土　粘性なし　しまりかなりあり
5．5YR5/8　明赤褐色土　粘性なし　しまりかなりあり
6．2.5YR3/6 暗赤褐色土　粘性なし　しまりかなりあり
7．2.5YR3/6 暗赤褐色土　粘性なし　しまりかなりあり

7 号焼土
1．7.5YR3/3 暗褐色土　粘性ややあり　しまりややあり

第70図　3～7号焼土遺構

楕円形を呈する。

〈出土状況〉　出土遺物はない。

時期　検出状況から9世紀後半～10世紀の遺構と考えられる。

8号焼土遺構

遺構（第71図、写真図版49）

〈位置・規模〉　調査区ⅡＤ6ｇグリッド、標高23.38ｍに位置する。長軸80～120㎝、短軸24～38㎝で、平面形は不整形を呈する。

遺物（第199図、写真図版132）

〈出土状況〉　土師器の甕片が4点（382～385）出土している。出土遺物から、炉跡や竈跡の可能性が考えられる。

時期　検出状況と遺物から9世紀後半～10世紀の遺構と考えられる。

9号焼土遺構

遺構（第71図、写真図版49）

〈位置・規模〉　調査区ⅡＤ4ｈグリッド、標高23.40ｍに位置する。長軸174～180㎝、短軸54～70㎝で、平面形は不整である。

〈出土状況〉　出土遺物はない。

時期　検出状況から9世紀後半～10世紀の遺構と考えられる。

10号焼土遺構

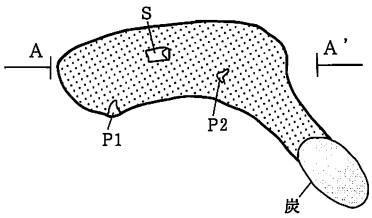
遺構（第71図、写真図版49）

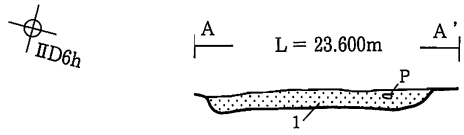
〈位置・規模〉　調査区ⅢＤ4ａグリッド、標高22.98ｍに位置する。長軸は推定48㎝前後、短軸28㎝で、平面形は楕円形を呈していたと推測される。

〈出土状況〉　出土遺物はない。

時期　検出状況から9世紀後半～10世紀の遺構と考えられる。

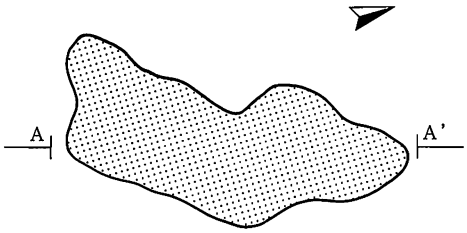
8号焼土

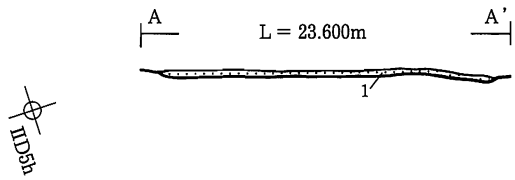




8号焼土
1．10YR3/4　暗褐色土と2.5YR4/6赤褐色土の混合土　粘性ややあり　しまりかなりあり

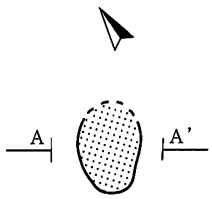
9号焼土

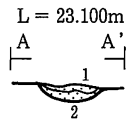




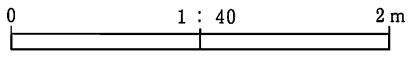
9号焼土
1．5YR3/6　暗赤褐色土（焼土）と10YR3/4暗褐色土　粘性あり
しまりあり　混合土（焼土がかく乱受けているのか）

10号焼土





10号焼土
1．5YR3/6　暗赤褐色土　粘性ややあり　しまりあり
2．10YR4/4　褐色土に焼土粒を微量に含む　粘性あり　しまりあり



第71図　8～10号焼土遺構

8．堀跡

堀跡は１条を登録した。

１号堀跡

遺構（第72図、写真図版50）

〈位置〉　調査区ＶＧ５ｂ～ＶＧ６ｂグリッド、標高22ｍに位置する。７号土坑の約７ｍ東側、１号道路状遺構の９ｍ東側に位置する。

〈規模・形態・方向〉　規模は上幅1.65～2.09ｍ、下幅0.83～0.96ｍ、深さ60～88㎝で、全長５ｍ（調査区幅）にわたって検出された。断面形は逆台形を呈する。方向はほぼ北－南であるが、確認調査ではＶＧ３ｂグリッド付近で方向を西に転じていることが確認された。底面の高低差は12㎝で、南側に傾斜している。

〈埋土〉　炭化物を微量に含む褐色土が主体に構成され、東側床面付近からは十和田ａ降下火山灰の小ブロックが混じる。

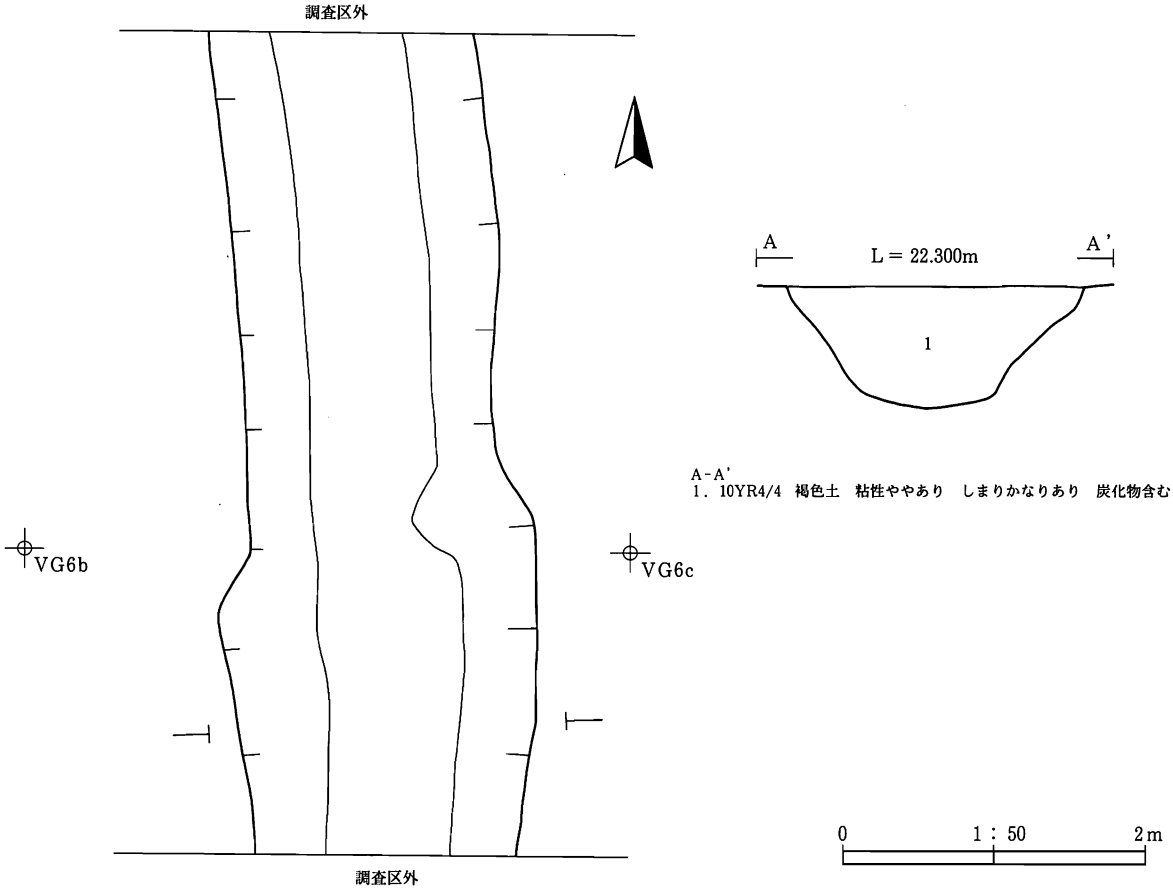
遺物（第199・206図、写真図版132・137）

〈出土状況〉　検出面から陶器片（661）、埋土中から土師器の坏片（386）が出土している。

〈土器〉　386は内面黒色処理の坏片で、底部切り離しは回転糸切りである。

〈陶器〉　661は常滑産２－３形式の甕片である。

時期　出土遺物から10世紀後半～11世紀の遺構と考えられる。



第72図　１号堀跡

9．溝跡

溝跡17条を登録した。時期は9世紀後半～10世紀6条、11・12～14・15世紀4条、近世3条、時期不明3条である。近世の3条は埋土や底部から多量の礫が検出され暗渠と考えられる。

1号溝跡

遺構（第73図、写真図版51）

〈位置・重複関係〉　調査区ⅣA10f～ⅤA4cグリッド、標高22.24～22.52mに位置する。本遺構は、73号土坑とⅤA2eグリッドで、75号土坑とⅤA1fグリッドで重複し、両土坑に切られる。

〈規模・形態・方向〉　規模は上幅25～75cm、下幅13～45cm、深さ11～20cmで全長20.2mに亘って検出された。断面形は逆台形を呈する。方向はほぼ北東－南西で、底面の高低差は18cmで、南側に傾斜している。

〈埋土・出土状況〉　暗褐色土が主体に構成されている。出土遺物はない。

時期　時期は不明である。

2号溝跡

遺構（第74・75図、写真図版51）

〈位置〉　ⅢC3b～ⅢC8f～ⅢC8jグリッド、標高22.25～22.48mに位置する。

〈規模・形態・方向〉　規模は上幅40～68cm、下幅8～36cm、深さ25～38cmで全長51mに亘って検出された。北西端は旧河道により消失しているため全容は不明である。断面形は逆台形を呈する。

方向はほぼ北西－南東から東北東へ向きを変え、南側へ緩く湾曲する。底面の高低差は41cmで、南側に緩く傾斜している。

〈埋土・出土状況〉　褐色土が主体に構成され、僅かだが十和田a降下火山灰が小ブロックで混入している。出土遺物はない。

時期　埋土や検出状況からは10世紀の遺構である可能性が高いと考えられる。

3号溝跡

遺構（第76・77図、写真図版52）

〈位置〉　ⅣD7c～ⅤD2e（南側）、ⅣD2a～ⅣD5b（北側）グリッド、標高22.7mに位置する。

〈規模・形態・方向〉　規模は上幅42～72cm、下幅16～48cm、深さ19～23cm、検出された総長は南側24.9m、北側10.9m、全長は45mを測る。溝の南端は試掘トレンチにより削平され、また中央部ⅣD5b～ⅣD6bグリッド付近も後世の開田による削平を受けているため全容は不明である。断面形は逆台形を呈する。方向はほぼ北北西－南南東で、底面の高低差は46.5cmで、南側に傾斜している。

〈埋土・出土状況〉　褐色土が主体に構成されている。出土遺物はない。

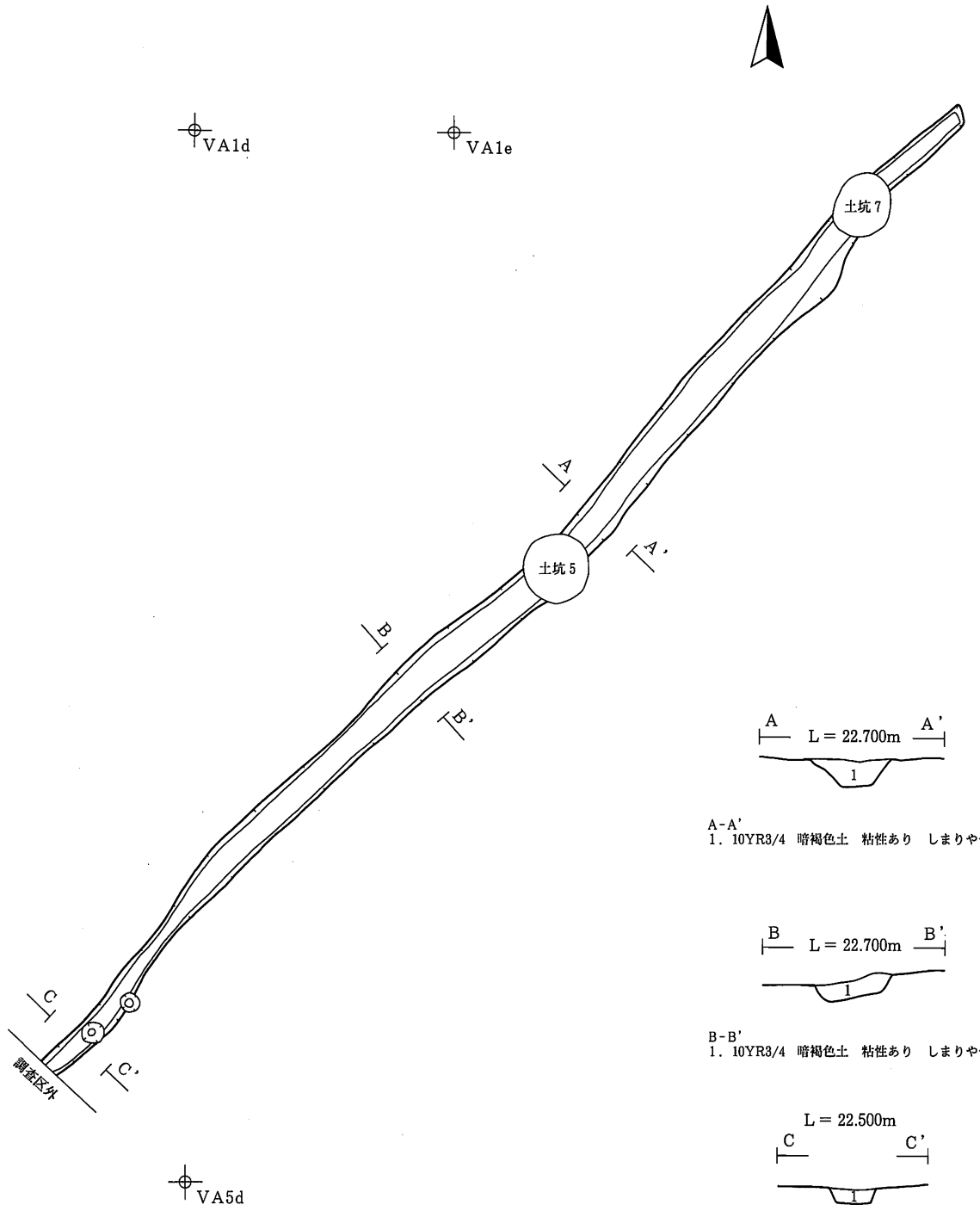
時期　検出状況から10世紀の遺構の可能性が高いと考えられる。

4号溝跡

遺構（第78図、写真図版52）

〈位置〉　ⅦE3c～ⅦE6d～ⅦE6fグリッド、標高22.40～22.46mに位置する。

〈規模・形態・方向〉　規模は上幅26～80cm、下幅12～40cm、深さ19～23cmで全長18.9mに亘って検出され



A-A'
1．10YR3/4　暗褐色土　粘性あり　しまりややあり

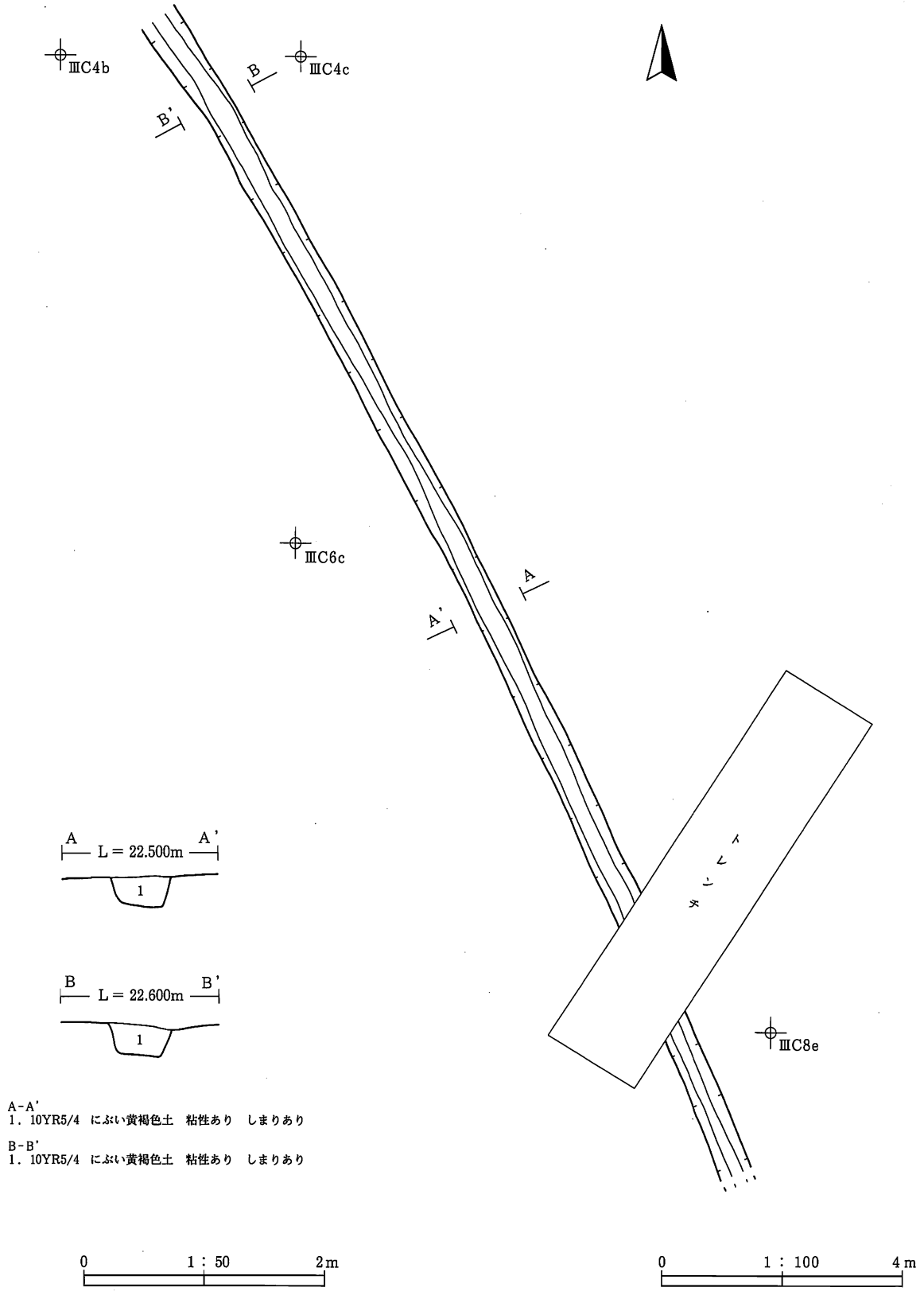
B-B'
1．10YR3/4　暗褐色土　粘性あり　しまりややあり

C-C'
1．10YR3/4　暗褐色土　粘性あり　しまりあり

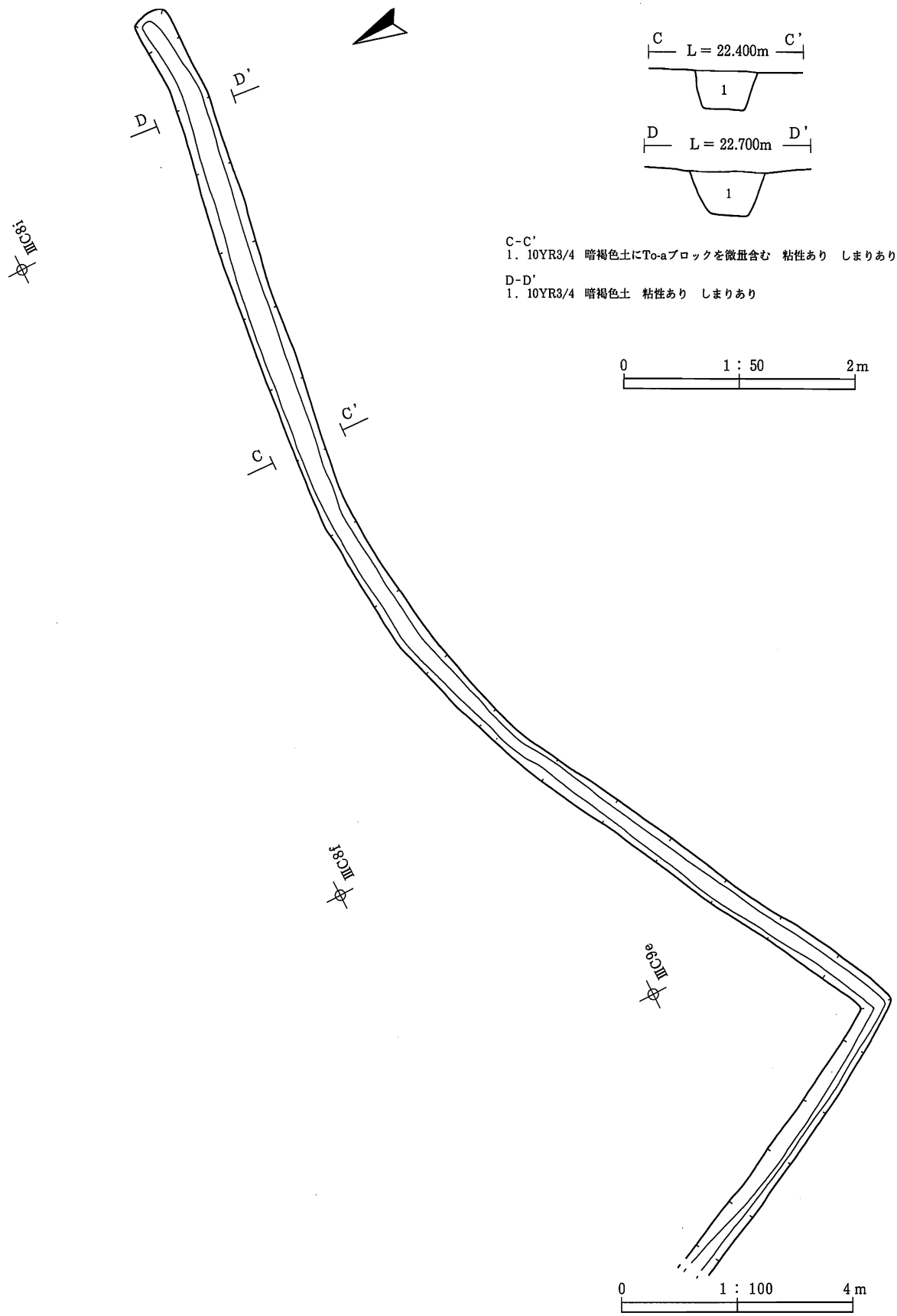
0　1：100　4m

0　1：50　2m

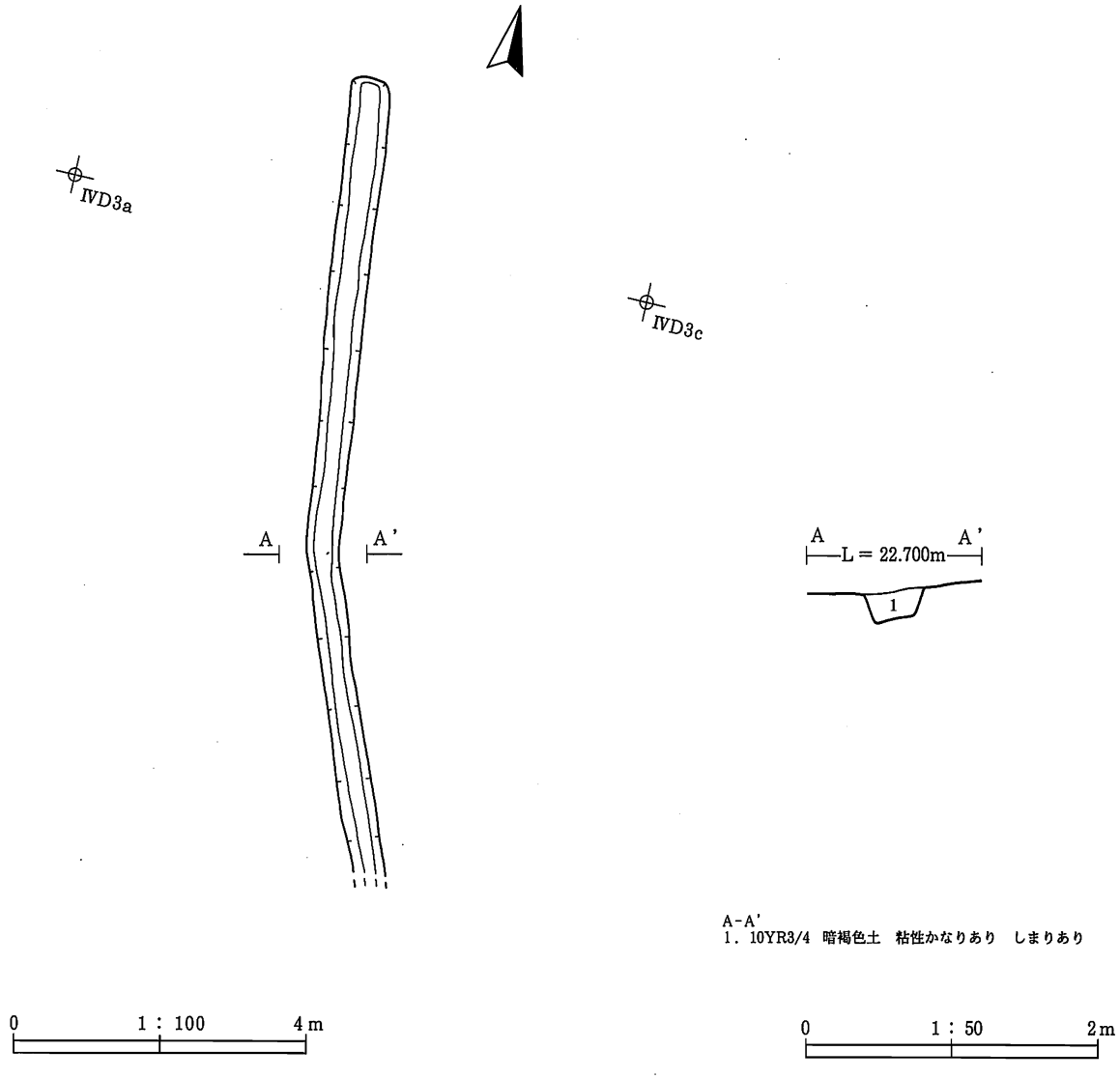
第73図　1号溝跡


ⅢC4b
B
ⅢC4c
B'
ⅢC6c
A
A'
トレンチ
ⅢC8e
A
L＝22.500m
A'
1
B
L＝22.600m
B'
1
A-A'
1．10YR5/4 にぶい黄褐色土 粘性あり しまりあり
B-B'
1．10YR5/4 にぶい黄褐色土 粘性あり しまりあり
0
1：50
2m
0
1：100
4m

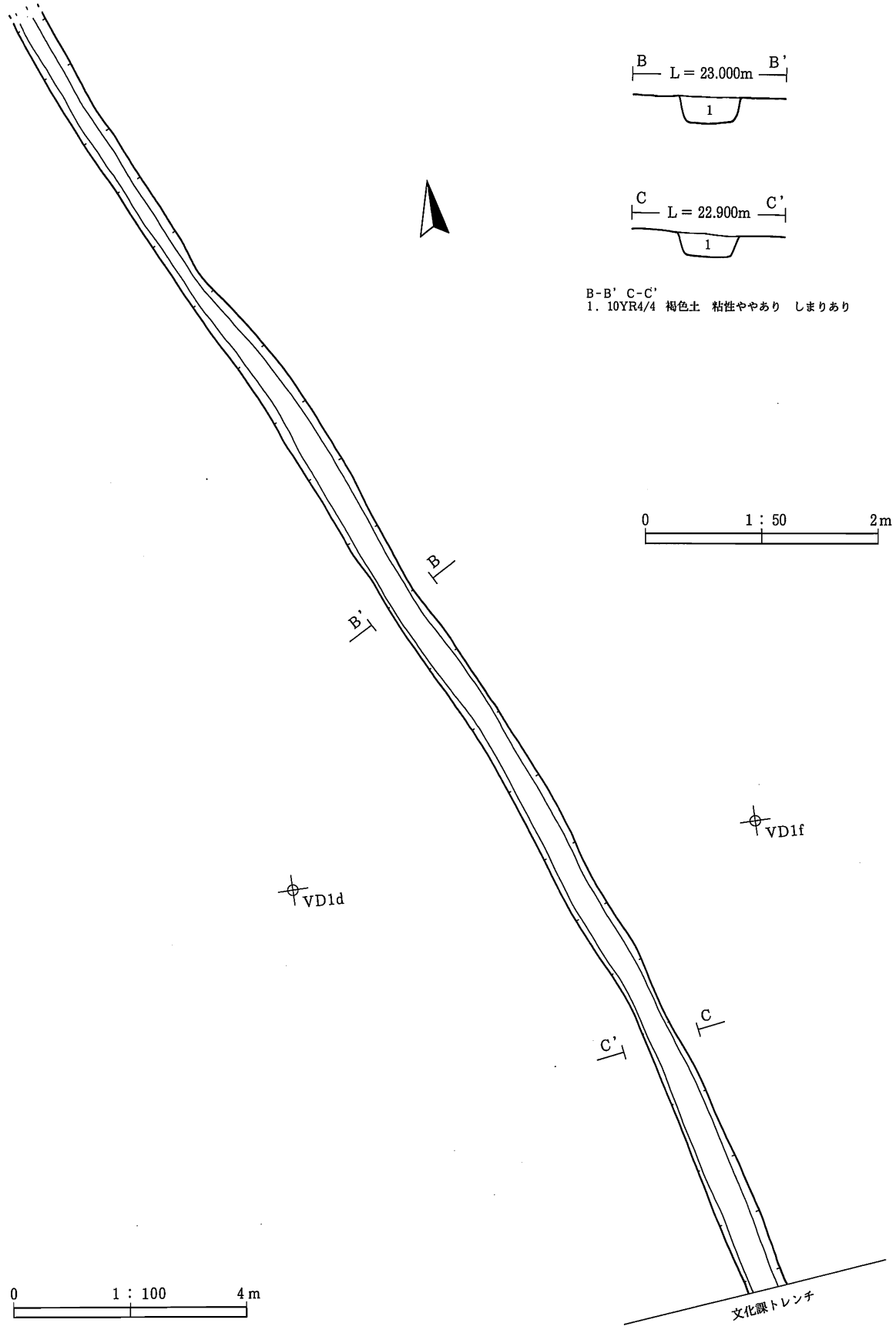
第74図　2号溝跡（1）


C
L＝22.400m
C'
1
D
L＝22.700m
D'
1
C-C'
1．10YR3/4 暗褐色土にTo-aブロックを微量含む 粘性あり しまりあり
D-D'
1．10YR3/4 暗褐色土 粘性あり しまりあり
0 1：50 2m
D'
D
C'
C
ⅢC81
ⅢC8f
ⅢC9e
0 1：100 4m

第75図　2号溝跡（2）


IVD3a
IVD3c
A
A'
A
A'
L = 22.700m
1
A-A'
1. 10YR3/4 暗褐色土 粘性かなりあり しまりあり
0
1 : 100
4 m
0
1 : 50
2m

第76図　3号溝跡(1)


B
L = 23.000m
B'
1
C
L = 22.900m
C'
1
B-B' C-C'
1. 10YR4/4 褐色土 粘性ややあり しまりあり
0
1 : 50
2m
B
B'
VD1f
VD1d
C
C'
0
1 : 100
4m
文化課トレンチ

第77図　3号溝跡(2)

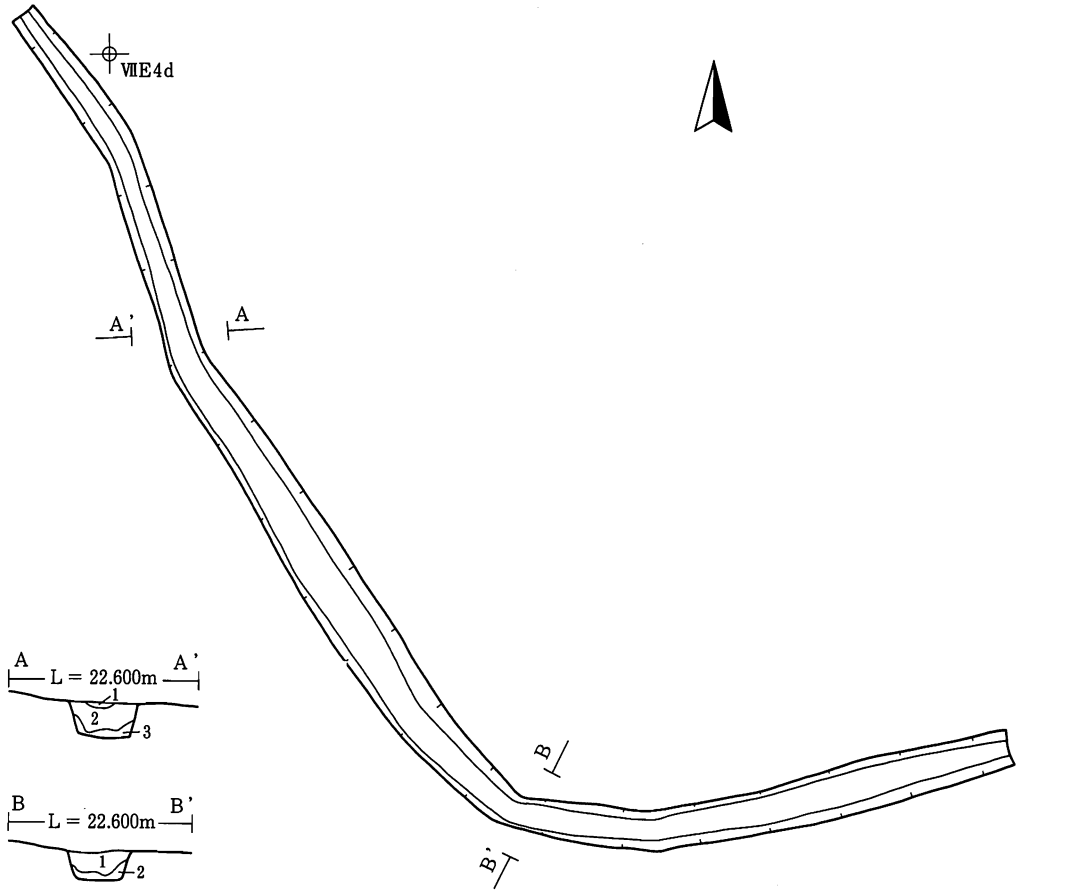
た。両端とも後世の開田による削平を受けており全容は明らかではない。断面形は逆台形を呈する。方向は北西－南東から東へ向きを変えている。底面の高低差は16.5cmで、南側に傾斜している。

方向から3号溝跡に繋がる溝跡の可能性が高い。

〈埋土〉　黄褐色土が主体に構成され、埋土上層にブロック状に十和田a降下火山灰が混入する。

〈出土状況〉　出土遺物はない

時期　埋土の状況から10世紀の遺構と考えられる。



A-A'
1．10YR5/4　にぶい黄褐色土に白色火山灰を含む　粘性あり　しまりややあり
2．10YR5/4　にぶい黄褐色土　粘性あり　しまりややあり
3．10YR5/6　黄褐色土　粘性あり　しまりややあり

B-B'
1．10YR5/4　にぶい黄褐色土　粘性あり　しまりややあり
2．10YR5/6　黄褐色土　粘性あり　しまりややあり

0　1：50　2m

0　1：100　4m

第78図　4号溝跡

5号溝跡（暗渠）

遺構（第79図、写真図版53）

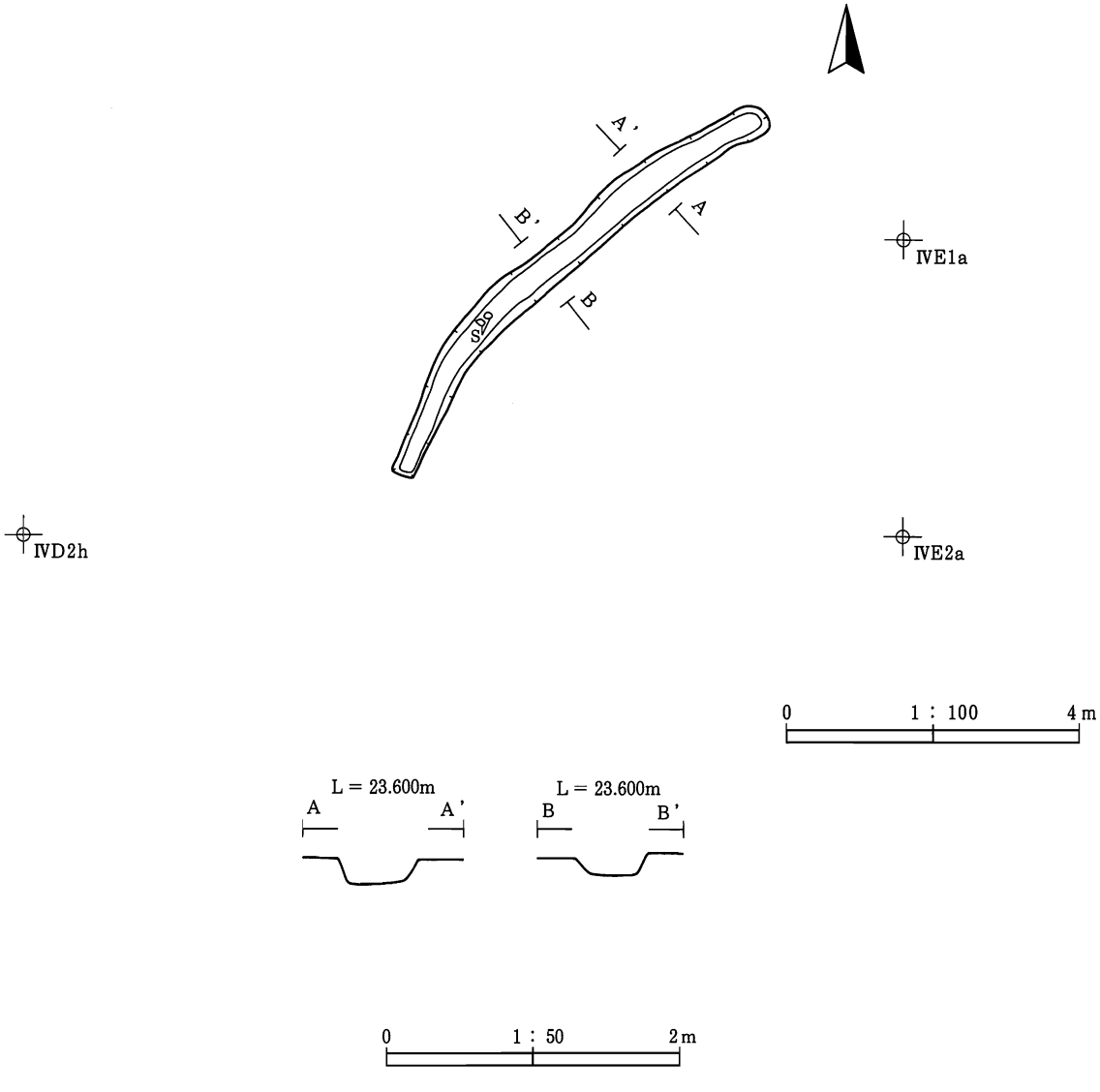
〈位置〉　ⅢD10j～ⅣD1iグリッド、標高23.20～23.28mに位置する。

〈規模・形態・方向〉　規模は上幅31～52cm、下幅18～36cm、深さ16～24cmで全長7mに亘って検出された。断面形は半円形を呈する。方向はほぼ北東－南西で、底面の高低差は2cmを測る。

〈埋土〉　暗褐色土が主体に構成され、暗渠に使用したと思われる底部に多量の礫が混入する。

〈出土状況〉　出土遺物はない。

時期　形状から近世の遺構と考えられる。



第79図　5号溝跡

6号溝跡（暗渠）

遺構（第80図、写真図版53）

〈位置〉　ⅢE9h～ⅣE3gグリッド、標高23mに位置する。

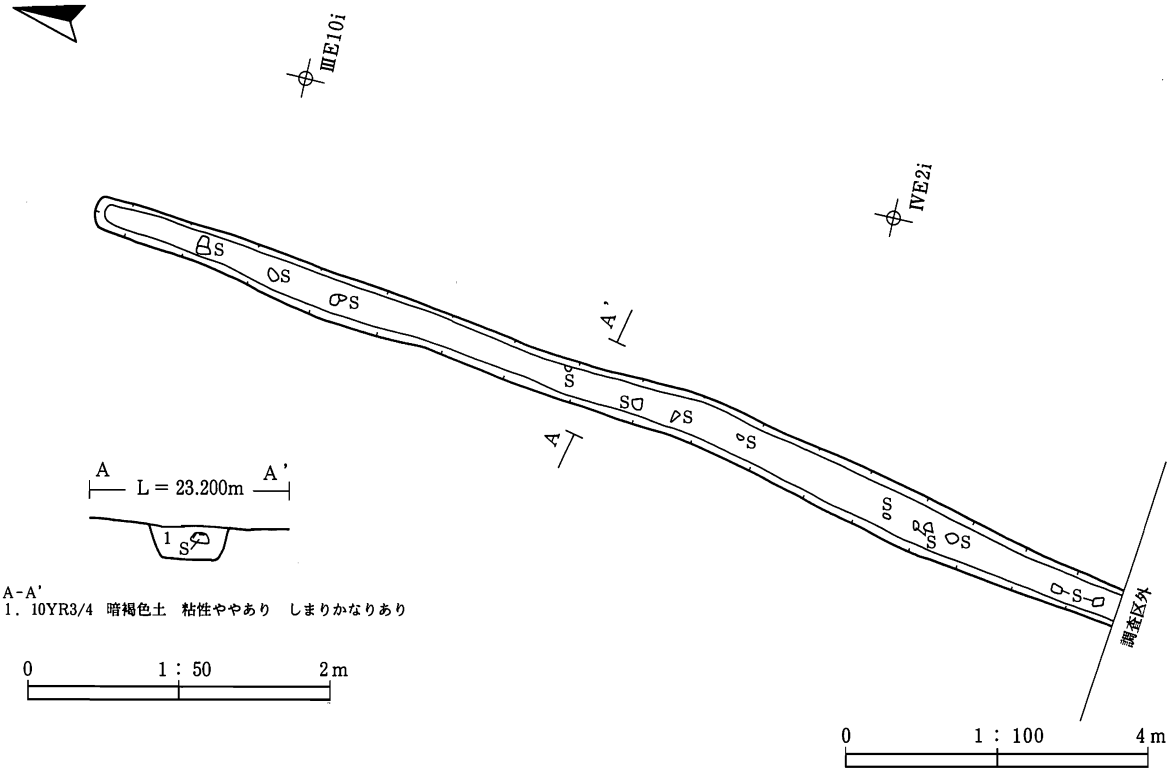
〈規模・形態〉　規模は上幅44～72cm、下幅26～50cm、深さ19.7～28.6cmで全長14.5mに亘って検出された。南端は調査区外に延びており全容は不明である。断面形は逆台形を呈する。底面の高低差は10.2cmを測る。

〈方向〉　方向はほぼ北－南である。

〈埋土〉　褐色土が主体に構成され、暗渠に使用したと思われる多量の礫が混入する。

〈出土状況〉　出土遺物はない。

時期　形状から近世の遺構と考えられる。



第80図　6号溝跡

7号溝跡

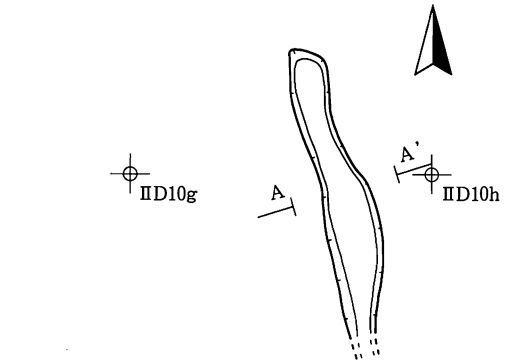
遺構（第81図、写真図版54）

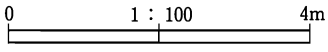
〈位置〉　ⅡD9g～ⅡD10gグリッド、標高23.4mに位置する。2号周溝の約2.7m西側にほぼ並行して検出された。

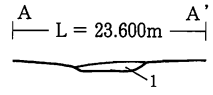
〈規模・形態・方向〉　規模は上幅40～70cm、下幅20～50cm、深さ8cmで全長約3.8mを測る。断面形は逆台形を呈する。方向はほぼ北－南で、底面の高低差は7cmを測る。

〈埋土・出土状況〉　褐色土が主体に構成される。出土遺物はない。

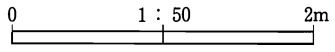
時期　検出状況から中世以降の遺構と考えられる。







A-A'
1．10YR3/4　暗褐色土　炭化物を含む　粘性あり　しまりややあり



第81図　7号溝跡

8号溝跡

遺構（第82図、写真図版54）

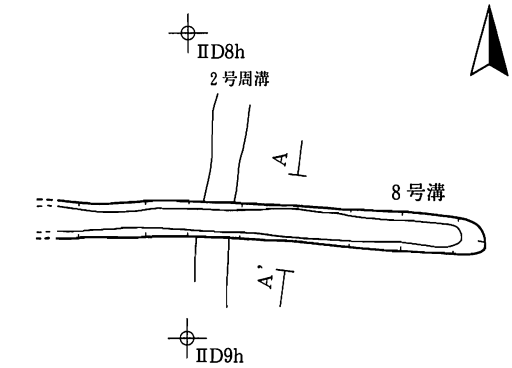
〈位置・重複関係〉　ⅡD8g～ⅡD8hグリッド、標高23.36mに位置する。ⅡD8hグリッドで2号周溝と重複し、2号周溝を切る。10号溝跡とほぼ並行する。

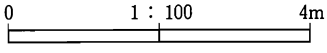
〈規模・形態〉　規模は上幅38～50cm、下幅20～40cm、深さ12cmで全長約7.2mに亘って検出された。断面形はほぼ逆台形を呈する。底面の高低差は20.6cmを測る。

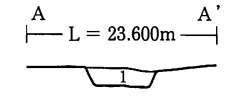
〈方向〉　方向は西－東で、東側に傾斜している。方向から9号溝跡に続く遺構の可能性が高い。削平のため底部のみが検出され、形状も異なっているものと思われる。

〈埋土・出土状況〉　暗褐色土が主体に構成されている。遺物は出土していない。

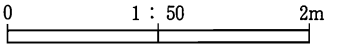
時期　時期不明であるが、検出状況から近世の暗渠の可能性が高い。







A-A'
1．10YR3/4　暗褐色土　粘性あり　しまりあり



第82図　8号溝跡

9号溝跡

遺構（第83図、写真図版55）

〈位置〉　ⅡD8e～ⅡD8d、ⅡD9d～ⅢD1dグリッド、標高23.30～23.46mに位置する。

〈規模・形態〉　規模は上幅61～115cm、下幅28～72cm、深さ24～32cmで全長約14.9mに亘って検出された。断面形はほぼレンズ形を呈する。平面形は三日月型を呈し、南東方向に向かって開口する。底面の高低差は21cmを測る。

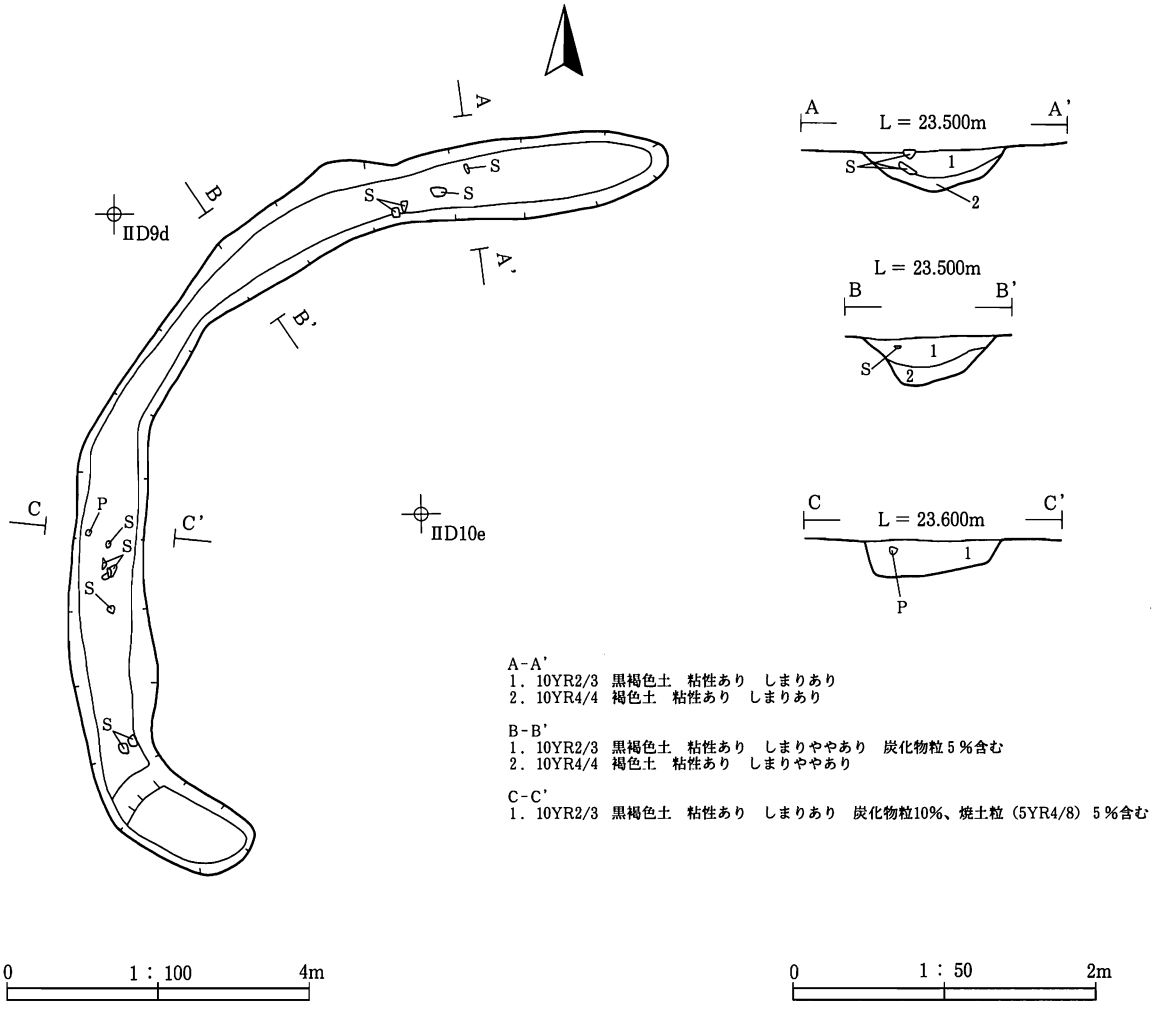
〈方向〉　北東端は8号溝跡に連続するように見受けられるが、溝幅、断面形ともに異なる。

〈埋土〉　褐色土が主体に構成され、暗渠に使用した礫と竈の芯材に使用したと思われる被熱した石が混入する。

遺物（第214図、写真図版132・145）

〈出土状況〉　土師器の坏（388）、甕（389～391）と須恵器の甕片（392）、磨石（847）が埋土中から検出しているが、これらの遺物は暗渠構築時に投棄された可能性が高いと考えられる。

時期　形状から近世の遺構と考えられる。



第83図　9号溝跡

10号溝跡

遺構（第84図、写真図版55）

〈位置〉　ⅡＤ６ｉ～ⅡＤ６ｊグリッド、標高23.39ｍに位置し、ⅡＤ６ｉグリッドで２号周溝に近接する。

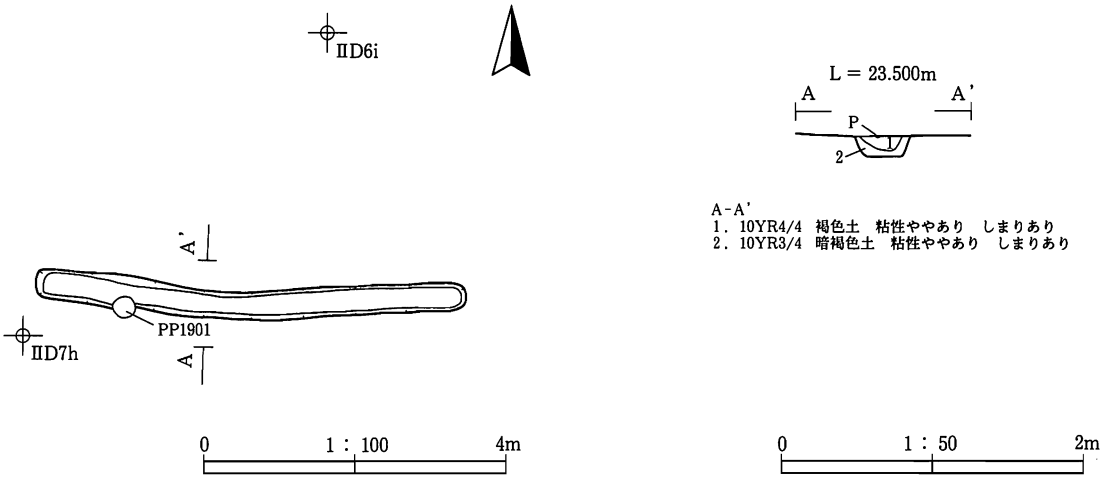
〈規模・形態〉　規模は上幅40～50㎝、下幅20～30㎝、深さ14㎝で全長5.6ｍに亘って検出された。断面形は逆台形を呈する。底面の高低差は６㎝を測る。

〈方向・埋土〉　方向はほぼ西－東で、８・11号溝跡と並行する。埋土は、褐色土が主体に構成される。

遺物

〈出土状況〉　土師器の甕片が１点（393）埋土中から出土している。

時期　出土遺物から10世紀の遺構と考えられる。



第84図　10号溝跡

11号溝跡

遺構（第85図、写真図版56）

〈位置〉　ＶＧ５ｈ～ＶＧ６ｊグリッド、標高22.0～22.2ｍに位置する。

〈検出状況〉　２号周溝の北側にほぼ並行して検出された。東端は約1.6ｍ南に屈曲して終わっているため排水用の遺構ではないと考えられる。

〈規模・形態・方向〉　規模は上幅16～43㎝、下幅10～32㎝、深さ6.6～16㎝、検出した総延長は13ｍ、全長は33.5ｍを測る。中央部は削平のため検出されず、西側も検出されていないため全容は不明である。

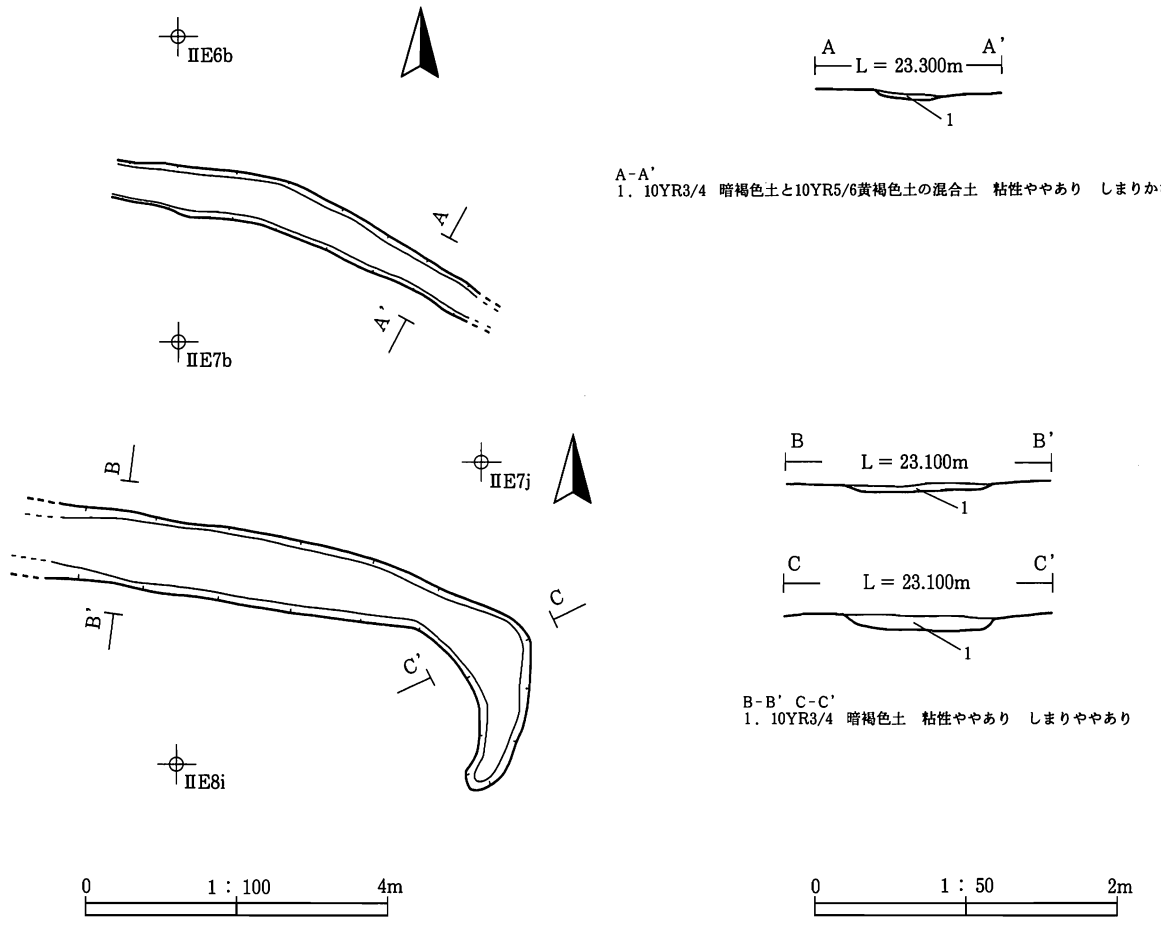
断面形は逆台形を呈する。方向はほぼ西－東である。底面の高低差は28㎝で東側に傾斜している。

〈埋土〉　褐色土が主体に構成されている。

遺物

〈出土状況〉　須恵器の甕片が１点（394）が埋土中から出土している。

時期　出土遺物から10世紀の遺構の可能性が高いと考えられる。



第85図　11号溝跡

12号溝跡

遺構（第86図、写真図版57）

〈位置・重複関係〉　ⅠD10j～ⅠE10aグリッド、標高23.29ｍに位置する。14～15号住居跡の北側に接し26号・49号土坑と重複する。西端は26号土坑に切られ、東端が49号土坑を切る。

〈規模・形態・方向〉　規模は上幅33～52㎝、下幅14～28㎝、深さ21～25㎝。全長4.5ｍに亘って検出された。断面形は逆台形を呈する。

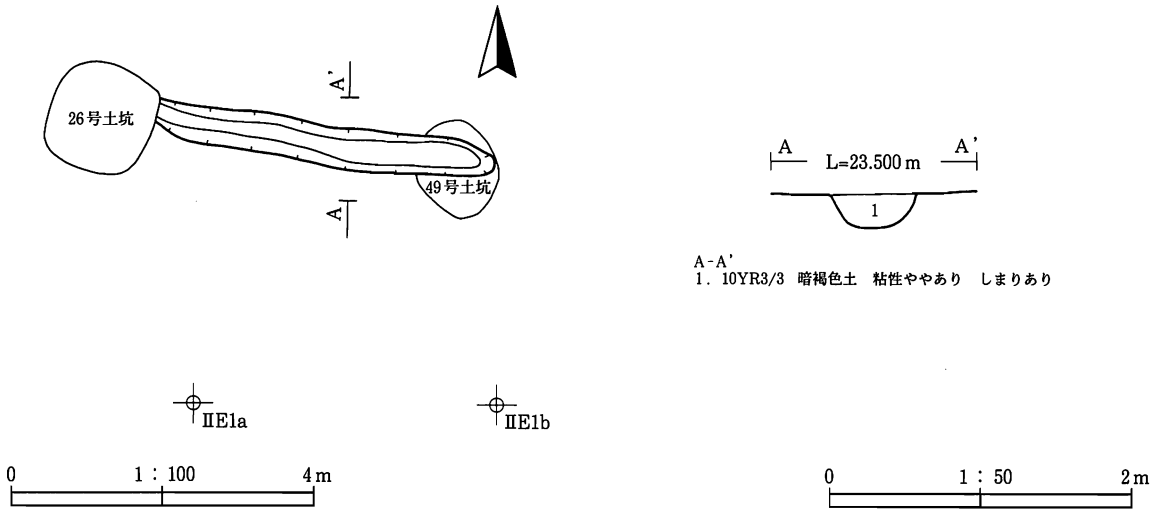
〈方向〉　方向はほぼ西－東で南側に緩く彎曲する。底面の高低差は20㎝で東側に傾斜している。

〈埋土〉　褐色土が主体に構成されている。

遺物（第199図、写真図版132）

〈出土状況〉　土師器の坏が１点（395）が埋土中から出土している。

時期　時期不明であるが、検出状況と出土遺物から11世紀頃の遺構と考えられる。



第86図　12号溝跡

13号溝跡

遺構（第87・88図、写真図版57・58）

〈位置・重複関係〉　VG5h～VG6jグリッド、標高22.0～22.2mに位置する。14・16号溝跡と重複する。

〈規模・形態・方向〉　規模は上幅33～43cm、下幅14～19cm、深さ6.6～16cmで全長9.5mに亘って検出された。断面形は逆台形を呈する。方向はほぼ西－東で南側である。底面の高低差は13cmで東側に傾斜している。調査区は5m幅の調査区のため遺構の詳細については不明である。

〈埋土〉　炭化物を僅かに含む褐色土で構成されている。

遺物

〈出土状況〉　埋土中から土師器の坏の口縁部が1点（396）出土している。

時期　検出状況から11～12世紀前半の遺構と考えられる。

14号溝跡

遺構（第87・88図、写真図版57）

〈位置・重複関係〉　VG6jグリッド、標高22.1～22.2mに位置する。13号溝跡、67号土坑と重複する。

〈規模・形態・方向〉　規模は上幅38～53cm、下幅15～32cm、深さ4.1～15.0cmで全長5mに亘って検出された。断面形は浅い箱形を呈する。方向は北－南から東に向きを変える。底面の高低差は9cmを測る。調査区は5m幅の調査区のため遺構の詳細については不明である。

〈埋土〉　褐色土が主体で構成される。

遺物

〈出土状況〉　重複する67号土坑からは渥美産の甕片（695～697）が検出されている。

時期　12世紀前半頃の遺構のと考えられる。

15号溝跡

遺構（第87・88図、写真図版57・58）

〈位置〉　ＶＧ６ｉグリッド、標高22.2ｍに位置する。13・14・16号溝跡に近接する。

〈検出状況〉　調査区は５ｍ幅の調査区のため遺構の詳細については不明である。

〈規模・形態・方向〉　規模は上幅33～70㎝、下幅13～42㎝、深さ5.1～21.9㎝で全長3.1ｍに亘って検出された。断面形は浅いＵ字形を呈する。方向は北北東－南南西で、底面の高低差は17㎝を測る。

〈埋土・出土状況〉　褐色土が主体で構成されている。出土遺物はない。

時期　検出状況から12世紀前半の遺構の可能性が高いと考えられる。

16号溝跡

遺構（第87・88図、写真図版57・58）

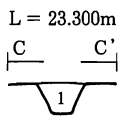
〈位置・重複関係〉　ＶＧ６ｉグリッド、標高22.2～22.3ｍに位置する。13号溝跡と重複する。

〈規模・形態・方向〉　規模は上幅39～63㎝、下幅18～42㎝、深さ12.3～25.5㎝で全長3.6ｍに亘って検出された。断面形は箱形を呈する。方向はほぼ14号溝跡に並行し北北東－南南西で、底面の高低差は12.3～20㎝を測る。

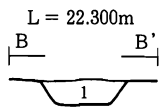
13号溝跡に切られ北端部は消失している。調査区は５ｍ幅の調査区のため、遺構の詳細については不明である。

〈埋土・出土状況〉　褐色土で構成されている。出土遺物はない。

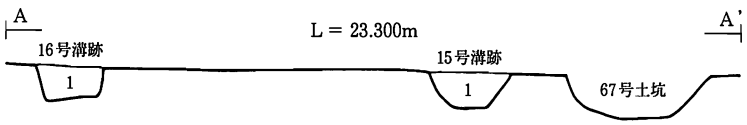
時期　検出状況から11世紀前半の遺構の可能性が高いと考えられる。



C-C'(13号溝跡)
1．10YR4/4　褐色土に炭化物、5YR4/8赤褐色焼土粒が微量含む
粘性あり　しまりかなりあり

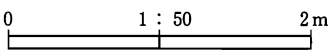


B-B'(14号溝跡)
1．10YR4/4　褐色土に炭化物が微量、5YR4/8赤褐色焼土粒１～２％含む
粘性あり　しまりあり

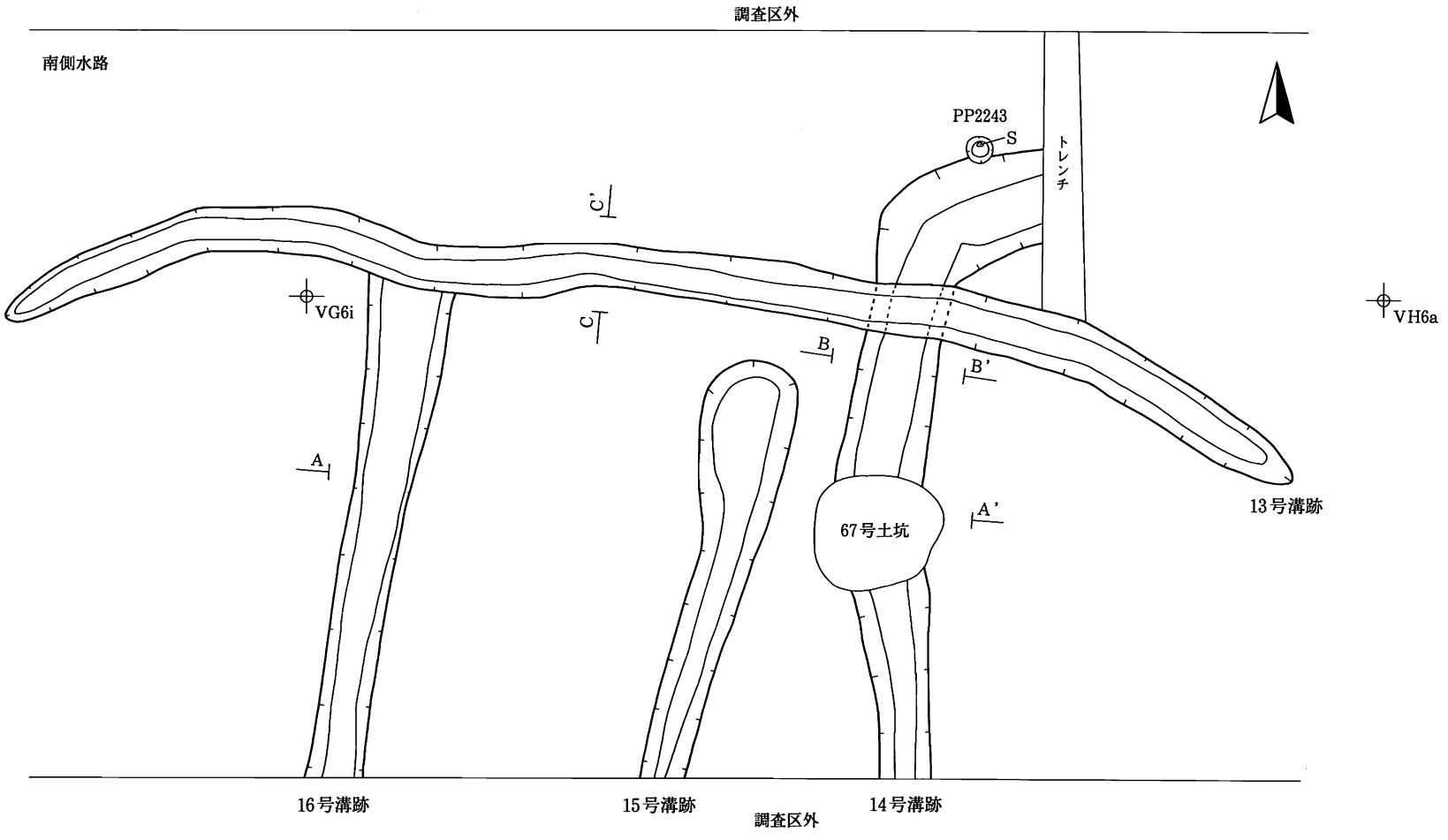


A-A'(16号溝跡)
1．10YR4/4　褐色土に炭化物が微量、5YR4/8赤褐色焼土粒１～２％含む　粘性あり　しまりあり

(15号溝跡)
1．10YR4/4　褐色土に炭化物が微量、5YR4/8赤褐色焼土粒１～２％含む　粘性あり　しまりあり



第87図　13～16号溝跡（１）



第88図　13～16号溝跡（2）

17号溝跡

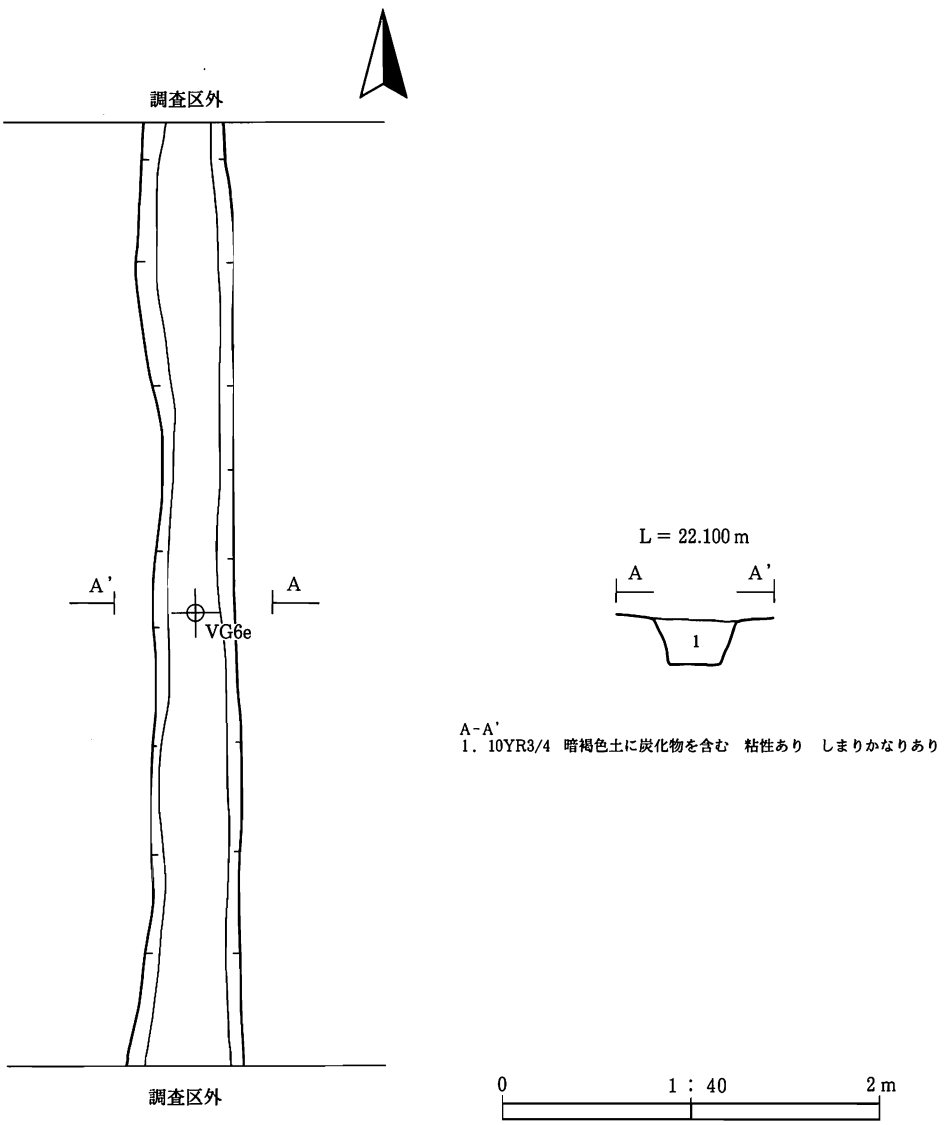
遺構（第89図、写真図版58）

〈位置〉　ＶＧ５ｄ～ＶＧ６ｅグリッド、標高21.9～22.0ｍに位置する。

〈規模・形態・方向〉　規模は上幅34～57㎝、下幅23～42㎝、深さ24.4～27.1㎝で全長５ｍに亘って検出された。断面形は逆台形を呈する。方向はほぼ北－南で、底面の高低差は３㎝を測る。調査区は５ｍ幅であったため遺構の詳細については不明である。

〈埋土・出土状況〉　暗褐色土が主体で構成されている。出土遺物はない。。

時期　出土層位から９世紀後半から10世紀初頭の遺構の可能性が高いと考えられる。



第89図　17号溝跡

10. 周溝

周溝は2条を登録した。いずれも調査区北側の自然堤防上で検出されている。1条は墓域を区画する。

1号周溝

遺構（第90図、写真図版59）

〈位置・重複関係〉　ⅢＤ3ｅ～ⅢＤ5ｇグリッド、標高23.3～23.5m、墓域の南西外側に位置する。周溝内には16号建物跡が位置し15号建物跡と重複する。また、柱穴状の小土坑30基が検出されている。

また、南東端と中央の下層（約30㎝）には、9世紀後半～10世紀初頭の住居跡1～2棟の存在がトレンチ調査で確認された。南東端の住居跡は、周溝底面が竈跡燃焼部の直上にまで達していた。

〈規模・形態・方向〉　形状は不整な隅丸方形状を呈し、南西隅に開口部（間隔：46㎝）を持つ。規模は東西8.84m、南北9.58m、上幅24～64㎝、下幅12～38㎝、深さ7～32㎝を測る。断面形はＵ字形から浅いⅢ状を呈する。

〈付属施設〉　プランのほぼ中央に16号建物跡が検出されていることから、この周溝は建物跡に伴うものと考えられる。墓域との位置関係から宗教施設である可能性が高い。墓域を結界する2号周溝と共伴する遺構と考えられる。

〈埋土〉　黒褐色土を主体に炭化物や褐色土が混じる。

遺物（第199・206・208・209・214図、写真図版132・137・140・141・145）

〈出土状況〉　東側底面から古銭（774）と渥美産陶器片（662）が出土している。774は景祐元宝（1034年）である。

また、プラン内の検出面から白磁片（756）が出土している。

周溝の検出面は、下層にある住居跡の検出面にもなっているが、この面での住居跡のプラン確認は全くできなかった。このため周溝検出時に住居跡に共伴すると考えられる磨石（848）、土師器の甕片（398～403）が出土している。

時期　出土遺物から12世紀の遺構と考えられる。

2号周溝

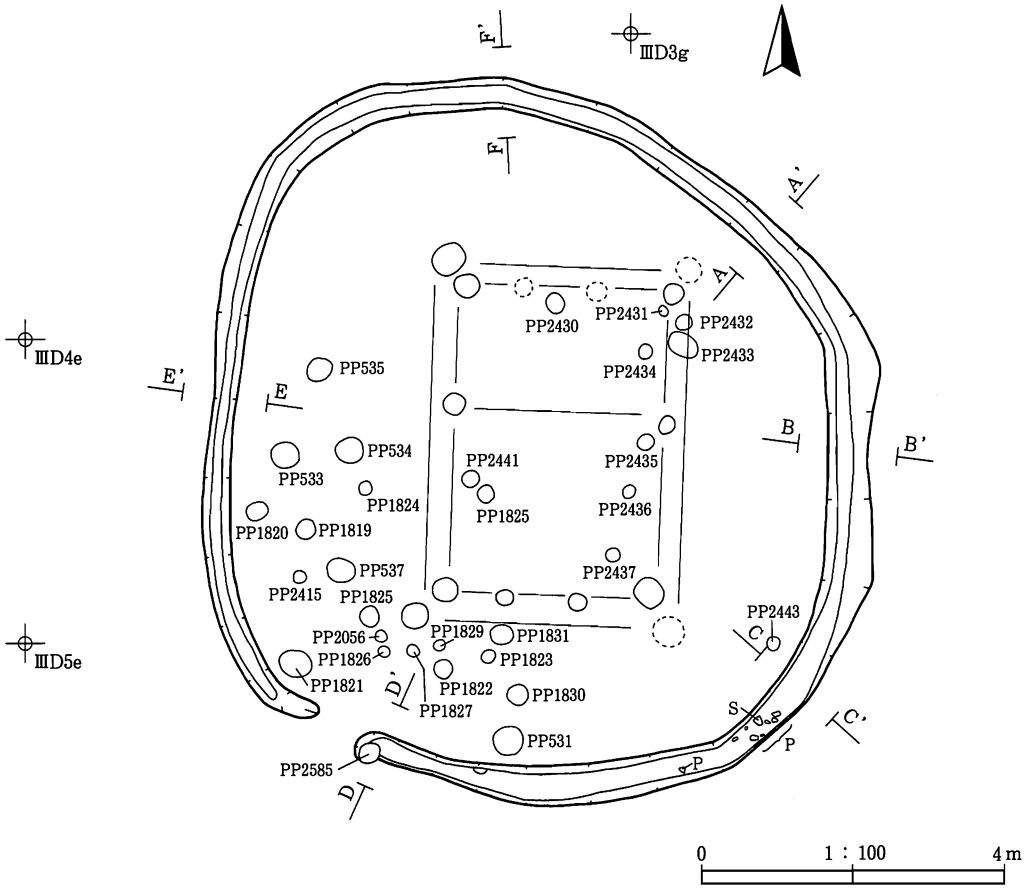
遺構（第91・92図、写真図版60）

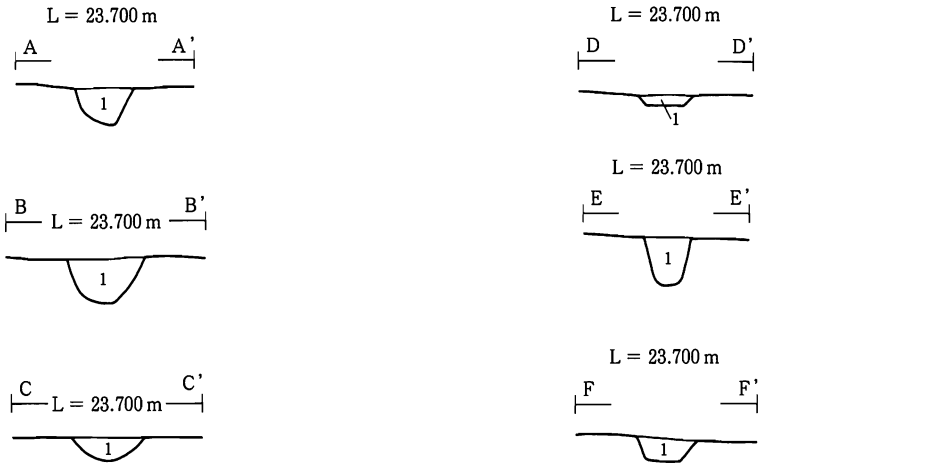
〈位置・重複関係〉　ⅣＥ4ｅを南辺の起点として、西からⅣＤ4ｈ～ⅡＤ4ｈ～ⅣＤ4ａ～ⅡＥ6ｈグリッド、標高23.2～23.5mに位置する。北西側で1号工房跡と重複する。また南側東端では50号土坑と重複する。北辺の内側には11号溝跡が並行し、西側では8号溝跡が直交する。

〈規模・形態〉　東側を開口する形で北、西、南をコの字状に囲み、区画された内部には墓壙群や建物跡等が検出されている。

検出された長さは90m、総延長は98mに達する。規模は上幅33～53㎝、下幅21～30㎝、深さ11～35㎝を測る。断面形は浅いＵ字状を呈する。周溝の南辺が1号土坑で収束していることから、東側については調査区外に延びている可能性が高いものと推定される。

〈墓域〉　調査区北側で検出された12～13世紀の遺物は、この2号周溝に区画される内側の遺構から出土していることや、プラン内で墓壙群やそれに伴う掘立柱建物跡等が検出されているため、2号周溝が墓域を結界する意味を持つものと考えられる。塀や柵痕は検出されなかった。

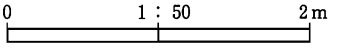




A-A' B-B' C-C'
1．10YR2/3 黒褐色土主体に下層に10YR4/4褐色土含む 粘性あり しまりややあり

D-D'
1．10YR2/3 黒褐色土と10YR4/4褐色土の混合土 粘性あり しまりややあり

E-E' F-F'
1．10YR2/3 主体に下層に10YR4/4褐色土含む 炭化物混じる



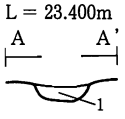
第90図 1号周溝

〈埋土〉　炭化物を含む暗褐色土で構成される。

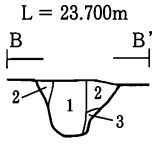
遺物（第208図、写真図版140）

〈出土状況〉　ロクロかわらけ１点（717）が埋土中から出土している。

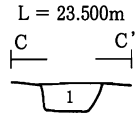
時期　出土遺物と検出状況から、12世紀後半から13世紀頃の遺構と考えられる。



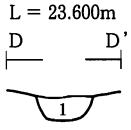
A-A'
1．10YR3/4　暗褐色土　粘性あり　しまりかなりあり
炭化物を含む



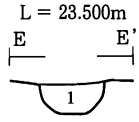
B-B'
1．10YR3/4　暗褐色土　粘性あり　しまりややあり
炭化物を含む
2．10YR3/4　暗褐色土と10YR4/4褐色土の混合土　粘性あり
しまりややあり
3．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりややあり



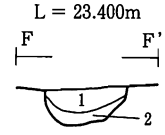
C-C'
1．10YR3/4　暗褐色土　粘性あり　しまりかなりあり
炭化物を含む



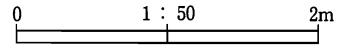
D-D'
1．10YR3/4　暗褐色土　粘性あり　しまりかなりあり



E-E'
1．10YR3/3　暗褐色土　粘性あり　しまりややあり
炭化物を含む



F-F'
1．10YR3/3　暗褐色土　粘性あり　しまりかなりあり
炭化物を含む
2．10YR4/3　にぶい黄褐色土　粘性あり　しまりかなりあり



第91図　２号周溝（１）

第92図　2号周溝（2）

11. 墓壙（墓域）

12世紀後半から15世紀の墓壙は、２号周溝の内側で西－南－東を結ぶコの字状に連なって検出され墓壙群を形成している（各墓壙の位置関係については第92図を参照）。２号周溝からは12世紀後半と考えられるロクロかわらけ（717）が出土していることや、そのほぼ中央には大型の１号墓壙が存在しているため、墓壙群と２号周溝は共伴し一つの墓域を形成していることが明らかになった。これらの墓壙からは土葬、火葬の骨片とともに中国産磁器や国産陶器、かわらけが出土しており、副葬品あるいは供献儀礼の遺物と考えられる。従って墓壙群を区画する２号周溝は、結界的意味を持つものと考えられる。また、墓域の南西に近接する１号周溝からは渥美産の甕片（662）が出土しているため、１・２号周溝と墓壙群は共伴する遺構と考えられる。

埋土中から検出された土師器、須恵器片、石製品は墓壙構築時に混入したものと考えられる。墓壙内から検出された被熱した自然石は、住居跡の竈の芯材をなんらかの葬送儀礼に転用した可能性もありうる。

また、副葬品や骨片等が検出されなかった土坑についてもその配置や形状から、整理段階で墓壙として登録したものと近世墓10基を加え墓壙は56基を登録した。墓域外で検出され12世紀の墓壙はＶＦ５ｇグリッドの１基のみである。

時期は出土遺物から12世紀後半から15世紀と考えられるが、その変遷等についてはまとめで考察を加えることとする。

検出された墓壙の内２基は焼土、炭化物や完形のかわらけが数個検出されており**茶毘所**の可能性が高いと考えられるが、本報告ではこれらについても墓壙に分類し記載している。

本年度の調査が中世面までの調査であったため、重複した墓壙のうち下層に存在する遺構についてはトレンチ調査に留めている。

１号墓壙

遺構（第93図、写真図版61）

〈位置・平面形〉　ⅡE10e～ⅡE10fグリッド、標高22.8mに位置する。平面形は不整な円形を呈する。

〈規模〉　規模は長軸2.02m、短軸1.85m、深さ1.93m、面積3.02㎡を測る。

〈小土坑・埋土〉　東側を開口する様に墓壙のまわりから小土坑PP１～PP14が検出された。類似する墓壙形態は37号墓壙にもみられる。これらの小土坑は、卒塔婆の痕跡と思われる。上層には炭化物混じりの褐色土、中層は投げ込みの焼土粒と炭化物が混じる暗褐色土、下層は褐色土で構成される。

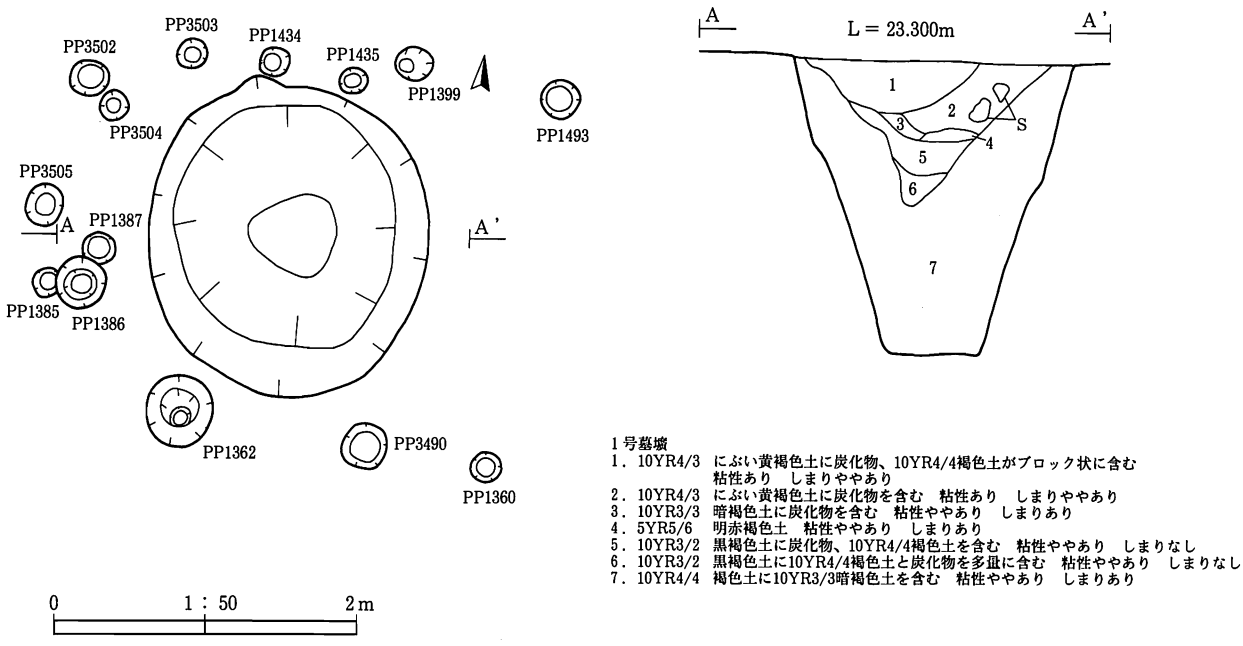
遺物（第208・218図、写真図版137・140・149）

〈出土状況〉　埋土中～上層から火葬された骨片、常滑産の甕片、かわらけ片、釘が出土している。また、焼成を帯び赤く変色した石（花崗閃緑岩＝竈の芯材？）が底部を塞ぐ様に検出された。

〈陶磁器〉　663・664は常滑の４形式の甕片である。

〈土器・金属器〉　713・714は手づくねかわらけで、12世紀第４四半期頃のものである。そのほかに磨滅した土師器の甕片（410）と釘１点（882）が出土している。

時期　出土遺物から12世紀後半～13世紀初頭頃の遺構と考えられる。



第93図　1号墓壙

2号墓壙

遺構（第94図、写真図版61）

〈位置・重複関係〉　ⅡE7h～ⅡE8iグリッド、標高23.0mに位置する。3号墓壙と重複する

〈規模・平面形〉　規模は長軸2.08m、短軸2.07m、深さ31cm、面積は3.33㎡を測る。平面形は不整な円形を呈する。3号墓壙を切って作られている。

〈埋土〉　黄褐色土とにぶい黄褐色土の混合土で構成される。

〈出土状況〉　埋土中から火葬された骨片が出土している。

時期　検出状況から12世紀後半～13世紀の遺構と考えられる。

3号墓壙

遺構（第94図、写真図版61）

〈位置・重複関係〉　ⅡE7h～ⅡE8iグリッド、標高23.0mに位置し、2号墓壙と重複する。

〈検出状況〉　トレンチ調査により遺構の検出・精査を行った。

〈規模・平面形〉　規模は長軸（2.64）m、短軸（2.47）m、深さ1.92m、面積は（4.84）㎡を測る。平面形はトレンチ調査のため詳細は不明であるが不整な円形と考えられる。

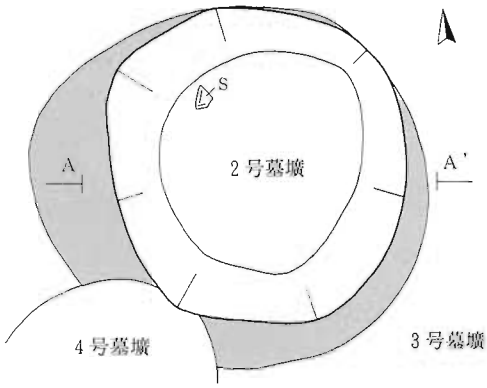
〈埋土〉　暗褐色土が主体で構成され人為堆積を呈する。人為的混合土の7層には火葬骨片が含まれる。

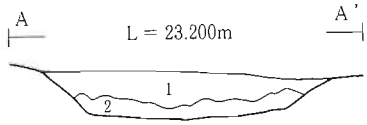
遺物（第206図、写真図版137）

〈出土状況〉　埋土中から火葬骨片と渥美産の鉢片等が出土している。

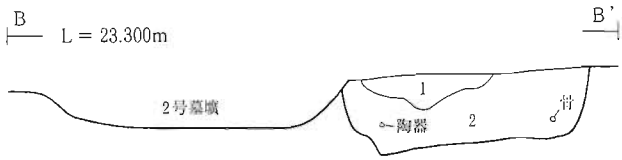
〈陶器〉　665は渥美の鉢片で12世紀の遺物と考えられる。666は産地不明であるが宮城県産の陶器片の可能性もある。

時期　出土遺物から12～13世紀の遺構と考えられる。

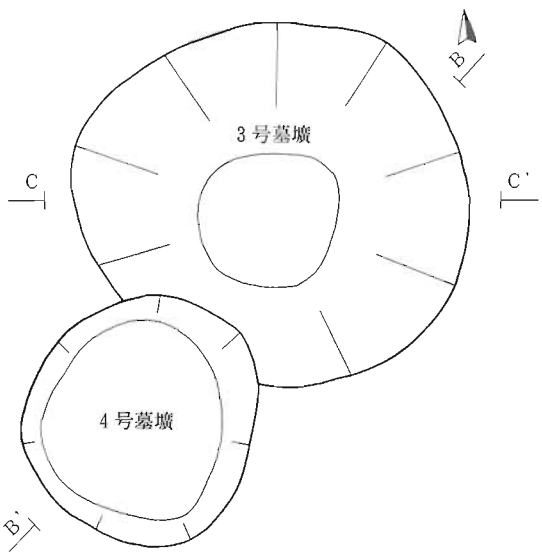


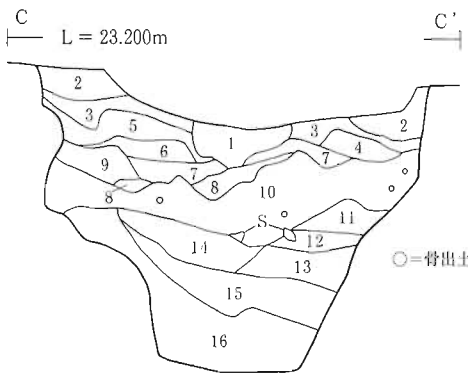


2 号墓壙
1．10YR5/3　にぶい黄褐色土、10YR5/6黄褐色土、10YR4/3にぶい黄褐色土の混合土
　粘性あり　しまりかなりあり
2．10YR5/6　黄褐色土と10YR5/4にぶい黄褐色土の混合土　粘性あり　しまりややあり

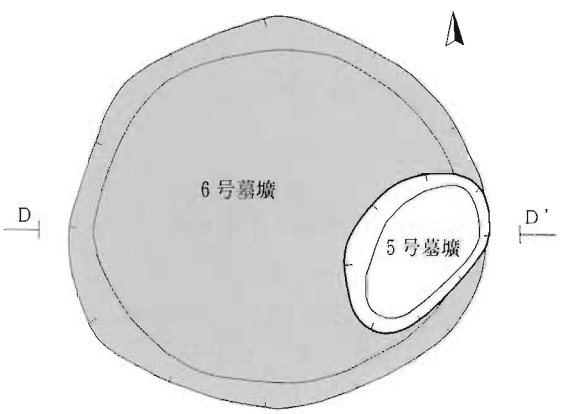


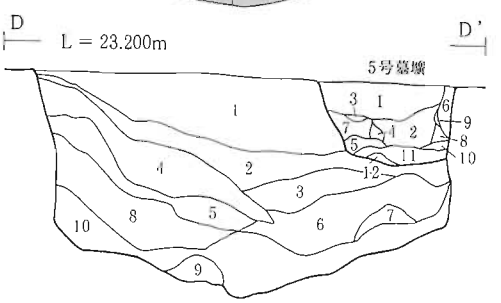
4 号墓壙
1．10YR3/4　暗褐色土に10YR4/4褐色土が少量混合、炭化物粒を微量に含み骨出土
　粘性ややあり　しまりかなりあり
2．10YR3/4　暗褐色土～10YR4/4褐色土の混合土　粘性ややあり　しまりかなりあり





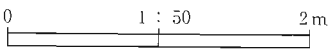
3 号墓壙
1．10YR4/2　灰黄褐色土　水酸化鉄を多量に含む　粘性なし　しまりあり
2．10YR3/3　暗褐色土と10YR4/4褐色土５％の混合土　粘性ややあり　しまりあり
3．10YR4/4　褐色土と10YR3/4暗褐色土30%の混合土　粘性なし　しまりあり
4．10YR3/4　暗褐色土に10YR4/4褐色土を少量含む　粘性ややあり　しまりあり
5．10YR3/4　暗褐色土に10YR4/4褐色土を少量含み、炭化物・焼土１％
　粘性ややあり　しまりなし
6．10YR4/4　褐色土　粘性ややあり　しまりあり
7．10YR3/3　暗褐色土と10YR5/6黄褐色土の混合土、10YR4/2灰黄褐色土を少量含む
　粘性ややあり　しまりあり
8．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりあり
9．10YR3/3　暗褐色土に褐色土・炭化物を少量含む　粘性あり　しまりあり
10．10YR3/3　暗褐色土に褐色土５％・炭化物を少量含む　粘性あり　しまりあり
11．10YR4/3　にぶい黄褐色土と10YR4/4褐色土の混合土　粘性あり　しまりややあり
12．10YR3/3　暗褐色土　粘性あり　しまりあり
13．10YR5/4　にぶい黄褐色土　粘性あり　しまりあり
14．10YR4/3　にぶい黄褐色土と10YR4/4褐色土の混合土　粘性あり　しまりあり
15．10YR3/4　暗褐色土と10YR4/4褐色土の混合土、炭化物・焼土を少量含む
　粘性あり　しまりあり
16．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりややあり





5 号墓壙
1．10YR5/4　にぶい黄褐色土　粘性ややあり　しまりややあり
2．10YR3/4　暗褐色土　粘性ややあり　しまりややあり　１層混入
3．10YR4/4　褐色土　粘性ややあり　しまりややあり　炭化物含む
4．10YR3/2　暗褐色土と10YR5/4にぶい黄褐色土の混合土
　粘性ややあり　しまりややあり
5．10YR5/4　にぶい黄褐色土　粘性ややあり　しまりややあり　褐色土（10YR4/4）を含む
6．10YR5/6　黄褐色土　粘性ややあり　しまりややあり
7．10YR4/6　褐色土　粘性あり　しまりややあり
8．10YR4/3　にぶい黄褐色土　粘性ややあり　しまりややあり
　にぶい黄褐色土（10YR5/4）と炭化物含む
9．10YR5/4　にぶい黄褐色土　粘性ややあり　しまりややあり
10．10YR4/4　褐色土　粘性ややあり　しまりややあり　炭化物含む
11．10YR4/3　にぶい黄褐色土と10YR5/4にぶい黄褐色土の混合土
　粘性ややあり　しまりややあり
12．10YR5/3　にぶい黄褐色土と10YR5/6黄褐色土の混合土　粘性あり　しまりややあり

6 号墓壙
1．10YR3/4　暗褐色土　粘性かなりあり　しまりかなりあり　炭化物微量混入
2．2.5Y4/1　黄灰色土　粘性かなりあり　しまりかなりあり　酸化鉄混入　グライ化
3．10YR4/4　褐色土　粘性かなりあり　しまりややあり　炭化物微量含む
4．10YR3/3　暗褐色土と2.5Y4/1黄灰色土の混合土　粘性かなりあり
　しまりあり　炭化物微量含む
5．10YR4/6　褐色土と10YR4/1褐灰色土の混合土　粘性かなりあり
　しまりややあり　炭化物微量含む
6．10YR3/2　黒褐色土　粘性かなりあり　しまりかなりあり　炭化物微量含む
7．10YR3/3　暗褐色土　粘性かなりあり　しまりかなりあり　炭化物微量含む
8．10YR3/2　黒褐色土　粘性かなりあり　しまりややあり　炭化物微量含む
9．10YR3/4　暗褐色土　粘性かなりあり　しまりややあり
10．10YR2/1　黒色土　粘性かなりあり　しまりややあり　炭化物粒30%含む



第94図　2～6号墓壙

4号墓壙

遺構（第94図、写真図版61）

〈位置・重複関係〉　ⅡＥ8ｈグリッド、標高23.0ｍに位置し、3号墓壙と重複する。

〈規模・平面形・埋土〉　規模は長軸1.64ｍ、短軸1.50ｍ、深さ43㎝、面積は1.98㎡を測る。平面形は不整な円形を呈する。暗褐色土が主体で構成される。

遺物（第206図、写真図版137）

〈出土状況〉　埋土中から火葬骨片や常滑産の甕片が出土している。また、古銭と思われる緑青ブロックが僅かではあるが検出された。

〈陶器〉　667は常滑の甕片で2－3形式、12世紀後半の遺物である。

時期　出土遺物から12世紀後半の遺構と考えられる。

5号墓壙

遺構（第94図、写真図版62）

〈位置・重複関係〉　ⅡＥ8ｉ～ⅡＥ9ｉグリッド、標高23.0ｍに位置し、6号墓壙の上層に作られている。

〈規模・平面形・方向〉　規模は長軸1.18ｍ、短軸0.76ｍ、深さ53㎝、面積は0.69㎡を測る。平面形は楕円形を呈する。長軸の軸線方向はＮ－38°-Ｅである。

〈埋土〉　上層は黄褐色土であるが、中層から下層は褐色土と暗褐色土の明らかな人為堆積を呈する。

遺物（第208・214図、写真図版137・140・145）

〈出土状況〉　埋土中から火葬骨片、かわらけ、常滑産の鉢器片、青磁片、砥石（850）が出土している。

〈陶磁器〉　668は常滑の片口鉢片、762は龍泉窯産の青磁皿でⅠ1類、いずれも12世紀後半の遺物である。

〈土器〉　715・716は手づくねかわらけで、12世紀後半の遺物と考えられる。

時期　出土遺物から12世紀後半の遺構と考えられる。

6号墓壙

遺構（第94図、写真図版62）

〈位置・重複関係〉　ⅡＥ8ｈ～ⅡＥ9ｉグリッド、標高23ｍに位置し、5号墓壙と重複する。

〈検出状況・調査方法〉　トレンチ調査により遺構の検出・精査を行った。

〈規模・平面形〉　規模は長軸（2.7）ｍ、短軸（2.53）ｍ、深さ1.45ｍ、面積（5.15）㎡を測る。トレンチ調査のため詳細は不明であるが、平面形は不整な円形を呈すると思われる。

〈埋土〉　黒褐色土、暗褐色土、褐色土が交互に層を成し、明らかな人為堆積を呈する。

遺物（写真図版137）

〈出土状況〉　埋土中から火葬骨片や常滑・多高田産の甕片が出土している。

〈陶器〉　669は多高田産の甕片、670は常滑産の甕片（3－4形式）である。

時期　検出状況から13世紀初頭の遺構と考えられる。

7号墓壙

遺構（第95図、写真図版62）

〈位置・重複関係〉　ⅡE10h～ⅡE10iグリッド、標高22.9ｍに位置し、8号墓壙の西端を切って作られて

いる。

〈規模・平面形〉　規模は長軸1.93m、短軸1.62m、深さ80cm、面積は2.43㎡を測る。平面形は不整な楕円形を呈する。長軸の軸線方向はW-12°-Nである。

〈埋土〉　暗褐色土と褐色土、灰黄褐色土が交互に層をなし、明らかな人為堆積を呈する。

〈出土状況〉　埋土中から火葬骨片が出土している。

時期　検出状況から12世紀後半～13世紀の遺構と考えられる。

8号墓壙

遺構（第95図、写真図版62）

〈位置・重複関係〉　ⅡE10iグリッド、標高22.9mに位置し、7・9・10・11号墓壙と重複する。

〈検出状況〉　トレンチ調査により遺構の検出・精査を行った。

〈規模・平面形〉　トレンチ調査のため詳細は不明であるが、推定規模は長軸（2.5）m、短軸（2.48）m、深さ1.17m、面積は（5.23）㎡を測る。平面形は不整な円形を呈する。

〈埋土〉　褐色土と黒褐色土が交互に層を成し、明らかな人為堆積を呈する。

〈出土状況〉　埋土中から火葬骨片が出土している。

時期　検出状況から12世紀の遺構と考えられる。

9号墓壙

遺構（第95図、写真図版62）

〈位置・重複関係〉　ⅡE10iグリッド、標高22.9mに位置し、10・11号墓壙と重複する。

〈検出状況〉　トレンチ調査により遺構の検出・精査を行った。

〈規模・平面形〉　トレンチ調査のため詳細は不明であるが、推定される規模は長軸（1.61）m、短軸（1.4）m、深さ57cm、面積（1.86）㎡を測る。平面形は不整な楕円形を呈する。長軸の軸線方向はN-24°-Eである。

〈埋土〉　黄褐色土と暗褐色土が交互に堆積し、人為堆積を呈する。

遺物（第199図、写真図版132）

〈出土状況〉　埋土中から火葬骨片が僅かに出土している。

〈土器〉　411は高台付坏の底部片（輪高台）である。

時期　検出状況から12世紀後半～13世紀の遺構と考えられる。

10号墓壙

遺構（第95図、写真図版63）

〈位置・重複関係〉　ⅡE10iグリッド、標高22.9mに位置し、8・9・11号墓壙と重複する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸1.97m、短軸1.2m、深さ38cm、面積2.03㎡を測る。平面形は隅丸方形を呈する。

〈埋土〉　炭化物を含む暗褐色土が主体で構成される。

遺物（第199・206・208図、写真図版132・137・140）

〈出土状況〉　埋土中から常滑の甕片や白磁片、土師器片が出土している。

〈陶磁器〉　671は常滑の甕片（３－４形式）で12世紀後半から13世紀前半、757は中国産の口禿げの白磁（Ⅸ類）で13世紀前半の遺物である。
〈土器〉　412は坏の底部片、切り離しは回転糸切りである。
時期　出土遺物から12世紀後半～13世紀前半の遺構と考えられる。

11号墓壙

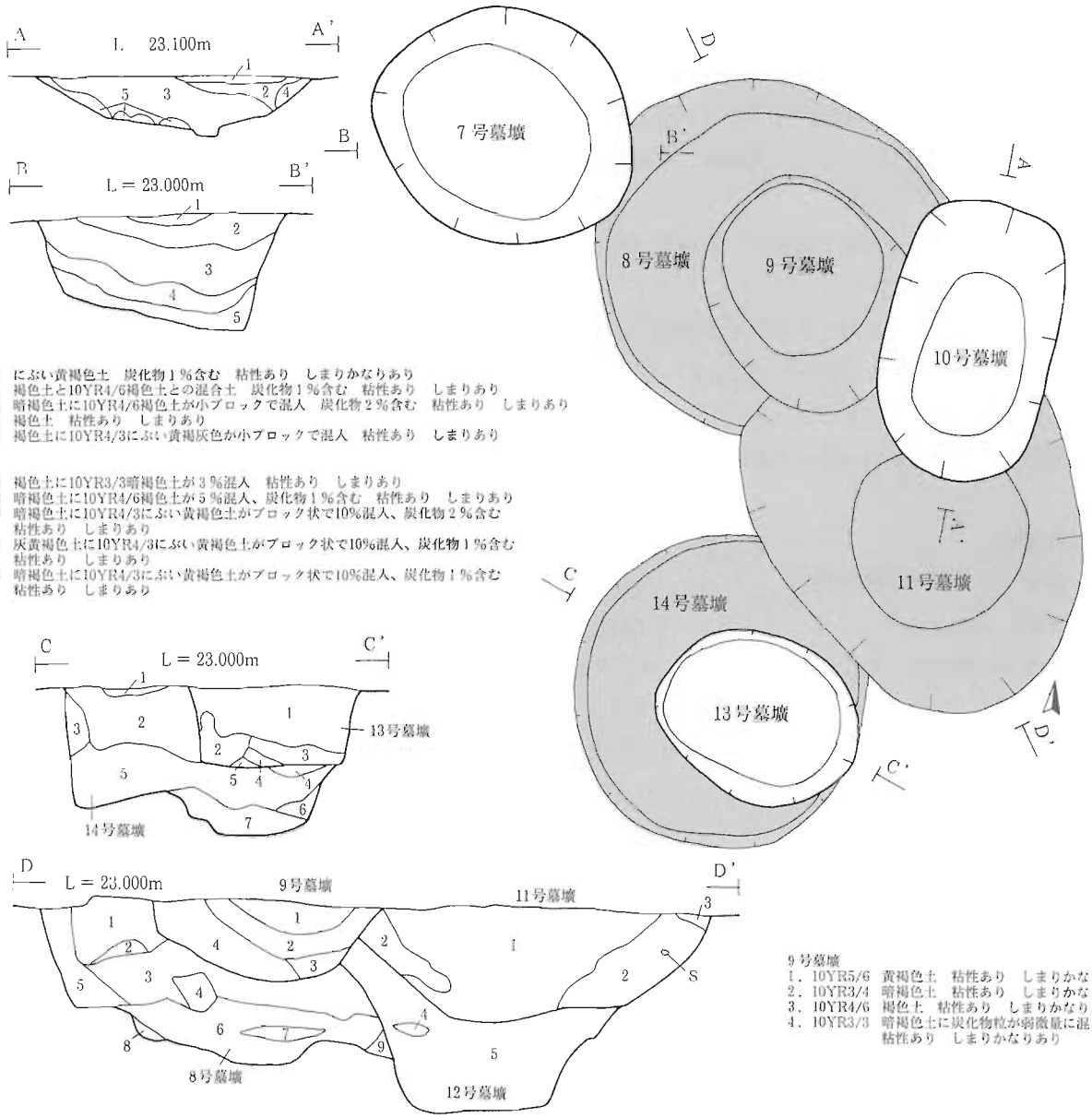
遺構（第95図）
〈位置・重複関係〉　ⅡE10i～ⅢE１ｉグリッド、標高22.9ｍに位置し、８・９・10・12号墓壙と重複する。
〈検出・調査方法〉　トレンチ調査により断面から遺構を検出し、今年度調査では完掘作業は行っていない。
〈規模・平面形〉　推定で規模は長軸（2.65）ｍ、短軸（2.25）ｍ、深さ82㎝を測り、平面形は不整な楕円形を呈する。長軸の軸線方向はＥ-44°-Ｓである。
〈埋土〉　炭化物を微量に含む暗褐色土、褐色土が主体に構成される。
〈出土状況〉　埋土中から火葬骨片が僅かに出土している。
〈土器〉　413は土師器の甕片である。胴外面はケズリが施されている。
時期　検出状況から12後半～13世紀前半の遺構と推定される。

12号墓壙

遺構（第95図、写真図版63）
〈位置・重複関係〉　ⅡE10i～ⅢＥ１ｉグリッド、標高22.9ｍに位置し、８・９・10・11号墓壙と重複する。
〈検出・調査方法〉　トレンチ調査により断面から遺構を検出し、今年度調査では完掘作業は行っていない。
〈規模・平面形〉　推定で規模は径（2.1）ｍ、深さ〈1.2〉ｍを測る。面形は円形から楕円形を呈するものと思われる。
〈埋土〉　灰黄褐色土が主体で構成されている。鉄分の凝固（高師小僧）が見られる。
〈出土状況〉　遺物は出土していないが検出状況から、墓壙とした遺構である。
時期　検出状況から12世紀の遺構と推定される。

13号墓壙

遺構（第95図、写真図版63）
〈位置・重複関係〉　ⅢＥ１ｉグリッド、標高22.8ｍに位置し、14号墓壙と重複する。
〈規模・平面形〉　規模は長軸1.41ｍ、短軸1.22ｍ、深さ57㎝、面積は1.34㎡を測る。平面形は不整な楕円形を呈する。長軸の軸線方向はＥ-22°-Ｓである。
〈埋土〉　上層は暗褐色土が主体で構成され、下層はにぶい黄褐色土と黒褐色土の混合土が堆積する。人為堆積を呈する。
〈出土状況〉　埋土中から火葬された骨片が僅かに出土している。
〈土器〉　414は土師器の甕片である。胴外面にはケズリが施されている。
時期　検出状況から12世紀後半～13世紀の遺構と考えられる。



10号墓壙
1．10YR4/3　にぶい黄褐色土　炭化物1％含む　粘性あり　しまりかなりあり
2．10YR4/4　褐色土と10YR4/6褐色土との混合土　炭化物1％含む　粘性あり　しまりあり
3．10YR3/3　暗褐色土に10YR4/6褐色土が小ブロックで混入　炭化物2％含む　粘性あり　しまりあり
4．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりあり
5．10YR4/4　褐色土に10YR4/3にぶい黄褐灰色が小ブロックで混入　粘性あり　しまりあり

7号墓壙
1．10YR4/6　褐色土に10YR3/3暗褐色土が3％混入　粘性あり　しまりあり
2．10YR3/3　暗褐色土に10YR4/6褐色土が5％混入、炭化物1％含む　粘性あり　しまりあり
3．10YR3/3　暗褐色土に10YR4/3にぶい黄褐色土がブロック状で10%混入、炭化物2％含む
粘性あり　しまりあり
4．10YR4/2　灰黄褐色土に10YR4/3にぶい黄褐色土がブロック状で10%混入、炭化物1％含む
粘性あり　しまりあり
5．10YR3/3　暗褐色土に10YR4/3にぶい黄褐色土がブロック状で10%混入、炭化物1％含む
粘性あり　しまりあり

9号墓壙
1．10YR5/6　黄褐色土　粘性あり　しまりかなりあり
2．10YR3/4　暗褐色土　粘性あり　しまりかなりあり
3．10YR4/6　褐色土　粘性あり　しまりかなりあり
4．10YR3/3　暗褐色土に炭化物粒が弱微量に混入
粘性あり　しまりかなりあり

13号墓壙
1．10YR3/4　暗褐色土と10YR4/4褐色土の混合土　炭化物1％含む
粘性あり　しまりあり
2．10YR4/3　にぶい黄褐色土　炭化物1％含む　粘性あり　しまりあり
3．10YR4/3　にぶい黄褐色土と10YR3/2黒褐色土の混合土　炭化物1％含む
粘性あり　しまりあり
4．10YR3/3　暗褐色土　炭化物1％含む　粘性あり　しまりあり
5．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりあり

14号墓壙
1．10YR3/4　暗褐色土と10YR4/4褐色の混合土　粘性あり　しまりあり
2．10YR3/4　暗褐色土　粘性あり　しまりかなりあり
3．10YR5/4　にぶい黄褐色土　粘性あり　しまりかなりあり
4．10YR4/4　褐色土　粘性ややあり　しまりややあり
5．10YR5/3　にぶい黄褐色土と10YR5/6黄褐色土の混合土
粘性ややあり　しまりややあり
6．10YR4/6　褐色土　粘性かなりあり　しまりややあり
7．10YR3/4　暗褐色土に炭化物を含む　粘性ややあり　しまりややあり

8号墓壙
1．10YR4/6　褐色土と10YR3/3暗褐色土の混合土　粘性ややあり　しまりかなりあり
2．10YR3/2　黒褐色土　粘性あり　しまりかなりあり
3．10YR4/6　褐色土　粘性あり　しまりかなりあり
4．10YR3/2　黒褐色土　粘性あり　しまりかなりあり
5．10YR4/6　褐色土に酸化鉄混入　粘性あり　しまりかなりあり
6．10YR3/1　黒褐色土に炭化物粒が混入　粘性あり　しまりかなりあり
7．10YR4/6　褐色土　粘性あり　しまりかなりあり
8．10YR3/3　暗褐色土　粘性あり　しまりかなあり
9．10YR4/3　にぶい黄褐色土に酸化鉄が微量に混入　粘性あり　しまりややあり

11・12号墓壙
1．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりかなりあり
2．10YR3/3　暗褐色土に炭化物粒が弱微量に混入　粘性あり　しまりかなりあり
3．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりかなりあり
4．10YR4/3　にぶい黄褐色土、グライ化気味　粘性あり　しまりあり
5．10YR4/2　灰黄褐色土に酸化鉄混入、グライ化　粘性かなりあり　しまりややあり

0　1：50　2m

第95図　7～14号墓壙

14号墓壙

遺構（第95図、写真図版63）

〈位置・重複関係〉　ⅢＥ１ｉグリッド、標高22.8ｍに位置し、13号墓壙と重複する。

〈検出・精査方法〉　トレンチ調査により遺構の検出・精査を行った。今年度調査では、完掘作業は行っていない。

〈規模・平面形〉　推定で規模は、長軸（2.25）ｍ、短軸（2.1）ｍ、深さ1.05ｍ、面積（3.79）㎡を測る。平面形は円形を呈する。

〈埋土〉　暗褐色土と褐色土が交互に層を成し、明らかな人為堆積を呈する。

〈出土状況〉　遺物は出土していないが、自然石が下層から出土している。また、埋土中から火葬された骨片も僅かではあるが出土している。

時期　検出状況から12世紀の遺構と考えられる。

15号墓壙

遺構（第96図、写真図版63）

〈位置〉　ⅡＥ10ｈグリッド、標高22.9ｍに位置する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸1.89ｍ、短軸1.60ｍ、深さ43㎝、面積は2.43㎡を測る。平面形は不整な楕円形を呈する。長軸の軸線方向はW-14°-Ｎである。

〈検出状況〉　墓域東側の墓壙群を形成する位置にあり、検出状況から墓壙とした遺構である。

〈埋土〉　暗褐色土と褐色土の混合土と褐色土が交互に層を成し、明らかな人為堆積を呈する。

〈出土状況〉　遺物は出土していないが、埋土下層から自然石が出土している。

時期　検出状況から12世紀後半から13世紀の遺構と考えられる。

16号墓壙

遺構（第96図、写真図版64）

〈位置〉　ⅢＥ１ｈグリッド、標高22.9ｍに位置する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸2.25ｍ、短軸２ｍ、深さ74㎝、面積は3.57㎡を測る。平面形は不整な楕円形を呈する。長軸の軸線方向はW-29°-Ｎである。

〈埋土〉　にぶい黄褐色土や灰黄褐色土の混合土を主体とし、明らかな人為堆積を呈する。

遺物（第208・218図、写真図版149）

〈出土状況〉　埋土中からかわらけ片、釘（876・877）、副葬品と考えられる刀子（878）が出土している。

〈かわらけ〉　718は手づくねかわらけで、12世紀第４四半期頃の遺物と考えられる。

〈土器〉　415は土師器の坏片、416は甕片である。

時期　出土遺物から12世紀後半の遺構と考えられる。

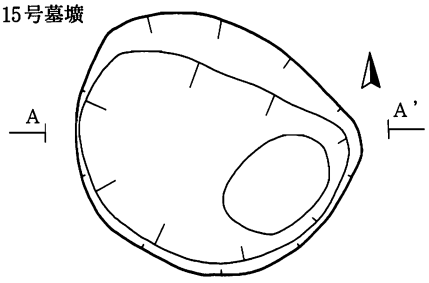
17号墓壙

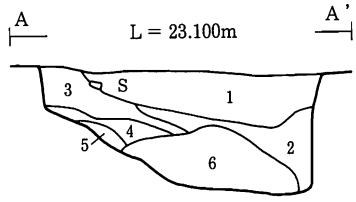
遺構（第96図、写真図版64）

〈位置〉　ⅢＥ１ｈ～ⅢＥ２ｈグリッド、標高22.9ｍに位置する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸1.5ｍ、短軸1.43ｍ、深さ93㎝、面積は1.70㎡を測る。平面形は不整な円形を

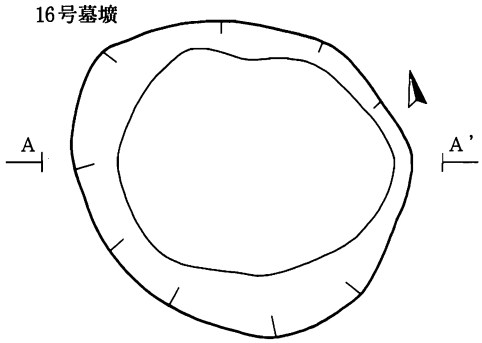
15号墓壙

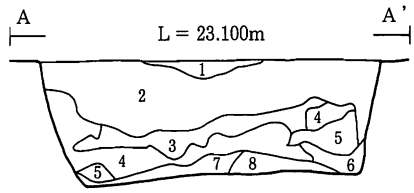




15号墓壙
1．10YR3/3　暗褐色土と10YR4/6褐色土と10YR4/3にぶい黄褐色土の混合土　炭化物１％含む
　　粘性あり　しまりあり
2．10YR4/4　褐色土と10YR4/2灰黄褐色土との混合土、10YR4/4褐色土の割合が高い
　　粘性あり　しまりあり
3．10YR2/3　黒褐色土　炭化物１％含む　粘性あり　しまりあり
4．10YR4/3　にぶい黄褐色土と10YR4/6褐色土の混合土　粘性あり　しまりあり
5．10YR3/3　暗褐色土と10YR4/3にぶい黄褐色土の混合土　炭化物１％含む
　　粘性あり　しまりあり
6．10YR3/2　黒褐色土　炭化物１％含む　粘性あり　しまりあり

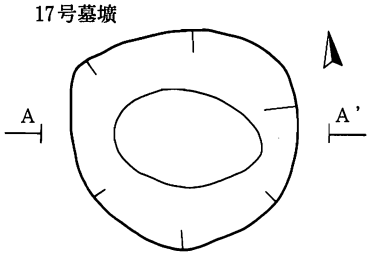
16号墓壙

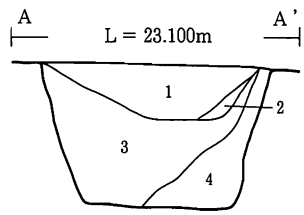




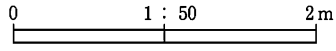
16号墓壙
1．10YR5/6　黄褐色土　粘性あり　しまりかなりあり
2．10YR4/3　にぶい黄褐色土と10YR4/2灰黄褐色土と10YR5/2灰黄褐色土の混合土
　　炭化物１％含む　粘性あり　しまりあり
3．10YR4/2　灰黄褐色土　炭化物１％含む　10YR4/3黄褐色土
4．10YR3/2　黒褐色土　炭化物１％含む　粘性あり　しまりあり
5．10YR4/3　にぶい黄褐色土　粘性あり　しまりあり
6．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりあり
7．10YR4/3　にぶい黄褐色土～10YR4/4褐色土　粘性あり　しまりあり
8．10YR3/4　暗褐色土　粘性あり　しまりあり

17号墓壙





17号墓壙
1．10YR4/4　褐色土　炭化物２～３％含む　粘性あり　しまりあり
2．10YR3/3　暗褐色土と10YR4/4褐色土の混合土　炭化物１％含む
　　粘性あり　しまりあり
3．10YR3/4　暗褐色土に10YR4/4褐色土が１～２％小ブロックで混入　炭化物１％含む
　　粘性あり　しまりあり
4．10YR4/4　褐色土　全体的にやわらかい　粘性あり　しまりあり



第96図　15～17号墓壙

呈する。

〈埋土〉　暗褐色土が主体で構成され、上層には人為的な混合土が堆積する。

遺物　（第199図、写真図版132）

〈検出・出土状況〉　墓域東側の墓壙群を形成する位置にあり、検出状況から墓壙とした遺構である。

時期　検出状況から12世紀後半～13世紀の遺構と考えられる。

18号墓壙

遺構（第97図、写真図版64）

〈位置〉　ⅢＥ２ｉグリッド、標高23.7ｍに位置している。

〈規模・平面形〉　規模は長軸2.08ｍ、短軸1.81ｍ、深さ1.03ｍ、面積は2.86㎡を測る。平面形は不整な円形を呈する。

〈検出状況〉　墓域東側の墓壙群を形成する位置にあり、検出状況から墓壙とした遺構である。

〈埋土〉　暗褐色土を主体とし、下層には褐色土が混じる。

遺物（写真図版149）

〈出土状況〉　埋土中から棒状鉄製品（879）が出土している。

時期　検出状況から12世紀後半～13世紀の遺構と考えられる。

19号墓壙

遺構（第97図、写真図版64）

〈位置・重複関係〉　ⅢＥ２ｉ～ⅢＥ３ｉグリッド、標高23.0ｍに位置し、20号墓壙と重複する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸2.33ｍ、短軸1.89ｍ、深さ1.52ｍ、面積は3.43㎡を測る。平面形は不整な楕円形を呈する。長軸の軸線方向はＮ-37°-Ｅである。

検出面から15世紀の遺物（永楽・宣徳通宝）が出土しており、周辺の削平状況等を考慮すれば検出面上層に別遺構（15世紀）が存在していた可能性が考えられる。

〈埋土〉　褐色土と暗褐色土が交互に層を成し、暗褐色土からは火葬骨片も出土している。明らかな人為堆積を呈する。

遺物（第208・209・218図、写真図版137・140・141・149）

〈出土状況〉　黒褐色土層から火葬骨と土葬骨が出土している。埋土中から常滑・渥美・珠洲？の陶器片・中国産の青白磁（758）・白磁片（759）、釘（881）、刀子（880）、銭貨が出土している。また、検出面から古銭（775・880）も出土している。

〈陶磁器〉　672と674はそれぞれ常滑と渥美の鉢片で、673は珠洲産の甕片と考えられる。759は口禿の白磁（Ⅸ類）で13世紀前半のものである。

〈鉄製品〉　埋土下層から出土した刀子（880）は副葬品と考えられる。

〈銭貨〉　検出面から永楽通宝（775）と宣徳通宝（776）が出土している。

時期　出土遺物から12世紀後半～13世紀前半の遺構である可能性が高いと考えられる。

20号墓壙

遺構（第97図、写真図版65）

〈位置・重複関係〉　ⅢＥ２ｉグリッド、標高23ｍに位置し、19号墓壙と重複する。

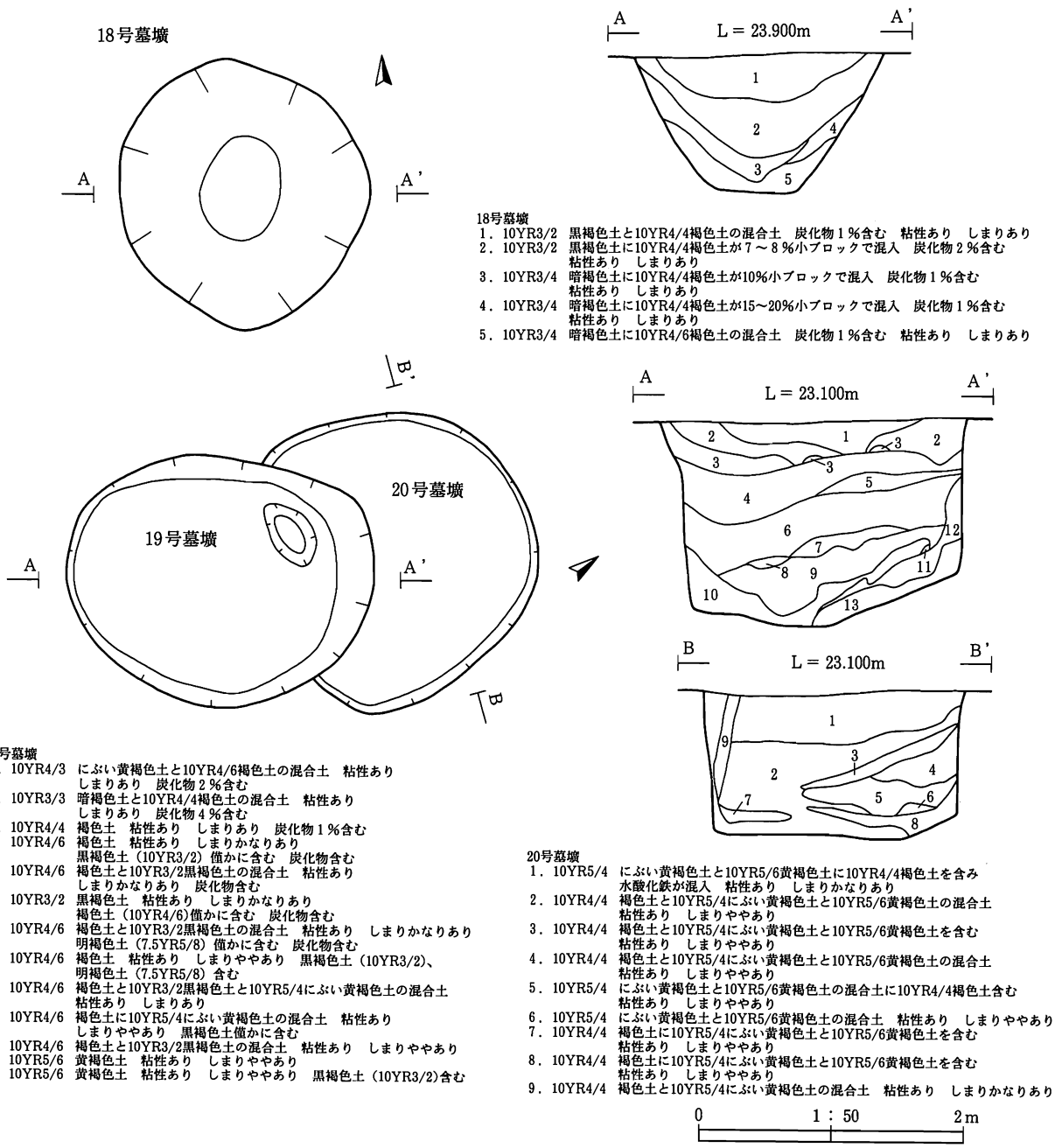
〈検出〉　平面的な検出が困難であったためトレンチ調査により遺構を確認し、精査を行った。

〈規模・平面形〉　規模は長軸2.3ｍ、短軸（2.1）ｍ、深さ1.04ｍ、面積は（3.65）㎡を測る。平面形は不整な円形を呈する。

〈埋土〉　黄褐色土、にぶい黄褐色土を主体に構成されるが、鉄分が多く高師小僧も見られる。

〈出土状況〉　埋土中から火葬された微量の骨片が出土している。

時期　検出状況から12世紀後半～13世紀の遺構と考えられる。



18号墓壙
1．10YR3/2　黒褐色土と10YR4/4褐色土の混合土　炭化物１％含む　粘性あり　しまりあり
2．10YR3/2　黒褐色土に10YR4/4褐色土が７～８％小ブロックで混入　炭化物２％含む　粘性あり　しまりあり
3．10YR3/4　暗褐色土に10YR4/4褐色土が10%小ブロックで混入　炭化物１％含む　粘性あり　しまりあり
4．10YR3/4　暗褐色土に10YR4/4褐色土が15～20%小ブロックで混入　炭化物１％含む　粘性あり　しまりあり
5．10YR3/4　暗褐色土に10YR4/6褐色土の混合土　炭化物１％含む　粘性あり　しまりあり

19号墓壙
1．10YR4/3　にぶい黄褐色土と10YR4/6褐色土の混合土　粘性あり　しまりあり　炭化物２％含む
2．10YR3/3　暗褐色土と10YR4/4褐色土の混合土　粘性あり　しまりあり　炭化物４％含む
3．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりあり　炭化物１％含む
4．10YR4/6　褐色土　粘性あり　しまりかなりあり　黒褐色土（10YR3/2）僅かに含む　炭化物含む
5．10YR4/6　褐色土と10YR3/2黒褐色土の混合土　粘性あり　しまりかなりあり　炭化物含む
6．10YR3/2　黒褐色土　粘性あり　しまりかなりあり　褐色土（10YR4/6)僅かに含む　炭化物含む
7．10YR4/6　褐色土と10YR3/2黒褐色土の混合土　粘性あり　しまりかなりあり　明褐色土（7.5YR5/8）僅かに含む　炭化物含む
8．10YR4/6　褐色土　粘性あり　しまりややあり　黒褐色土（10YR3/2)、明褐色土（7.5YR5/8）含む
9．10YR4/6　褐色土と10YR3/2黒褐色土と10YR5/4にぶい黄褐色土の混合土　粘性あり　しまりあり
10．10YR4/6　褐色土に10YR5/4にぶい黄褐色土の混合土　粘性あり　しまりややあり　黒褐色土僅かに含む
11．10YR4/6　褐色土と10YR3/2黒褐色土の混合土　粘性あり　しまりややあり
12．10YR5/6　黄褐色土　粘性あり　しまりややあり
13．10YR5/6　黄褐色土　粘性あり　しまりややあり　黒褐色土（10YR3/2)含む

20号墓壙
1．10YR5/4　にぶい黄褐色土と10YR5/6黄褐色土に10YR4/4褐色土を含み水酸化鉄が混入　粘性あり　しまりかなりあり
2．10YR4/4　褐色土と10YR5/4にぶい黄褐色土と10YR5/6黄褐色土の混合土　粘性あり　しまりややあり
3．10YR4/4　褐色土と10YR5/4にぶい黄褐色土と10YR5/6黄褐色土を含む　粘性あり　しまりややあり
4．10YR4/4　褐色土と10YR5/4にぶい黄褐色土と10YR5/6黄褐色土の混合土　粘性あり　しまりややあり
5．10YR5/4　にぶい黄褐色土と10YR5/6黄褐色土の混合土に10YR4/4褐色土含む　粘性あり　しまりややあり
6．10YR5/4　にぶい黄褐色土と10YR5/6黄褐色土の混合土　粘性あり　しまりややあり
7．10YR4/4　褐色土に10YR5/4にぶい黄褐色土と10YR5/6黄褐色土を含む　粘性あり　しまりややあり
8．10YR4/4　褐色土に10YR5/4にぶい黄褐色土と10YR5/6黄褐色土を含む　粘性あり　しまりややあり
9．10YR4/4　褐色土と10YR5/4にぶい黄褐色土の混合土　粘性あり　しまりかなりあり

0　1：50　2ｍ

第97図　18～20号墓壙

21号墓壙

遺構（第98図、写真図版65）

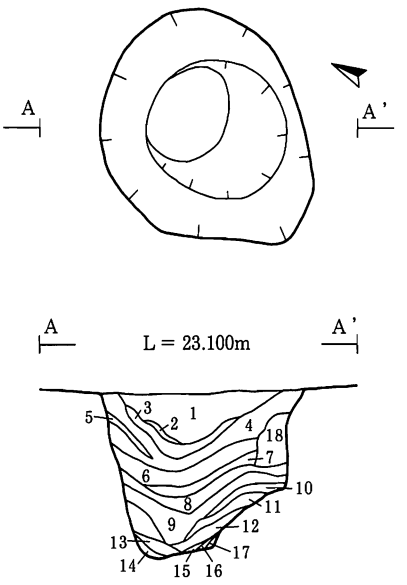
〈位置・検出状況〉　ⅢＦ４ａグリッド、標高22.9ｍに位置する。墓域東側の墓壙群を形成する位置にあり、検出状況から墓壙とした遺構である。

〈規模・平面形・埋土〉　規模は長軸1.66ｍ、短軸1.33ｍ、深さ1.05ｍ、面積は1.65㎡を測る。平面形は不整な円形を呈する。埋土は暗褐色土と褐色土、黄褐色土が交互に堆積し、明らかな人為堆積を呈する。

遺物（写真図版137）

〈出土状況〉　埋土中から常滑の甕片（676）が出土している。時期は12世紀後半から13世紀初頭である。

時期　出土遺物から12世紀後半～13世紀前半の遺構と考えられる。



21号墓壙
1．10YR3/3　暗褐色土　粘性ややあり　しまりかなりあり　炭化物含む
2．10YR3/3　暗褐色土と10YR5/6黄褐色土の混合土　粘性ややあり　しまりややあり
3．10YR5/6　黄褐色土　粘性ややあり　しまりややあり
4．10YR3/3　暗褐色土　粘性ややあり　しまりややあり　黄褐色土ブロックで混入　炭化物含む
5．10YR3/3　暗褐色土と10YR5/6黄褐色土の混合土　粘性ややあり　しまりややあり
6．10YR3/3　暗褐色土と10YR5/6黄褐色土の混合土　粘性ややあり　しまりややあり
7．10YR5/6　黄褐色土　粘性ややあり　しまりややあり　暗褐色土僅かに混入
8．10YR3/3　暗褐色土と10YR5/6黄褐色土の混合土　粘性ややあり　しまりややあり
9．10YR5/6　黄褐色土　粘性ややあり　しまりややあり　暗褐色土僅かに混入
10．10YR3/3　暗褐色土　粘性ややあり　しまりややあり　黄褐色土ブロックで混入　炭化物含む
11．10YR3/3　暗褐色土と10YR5/6黄褐色土の混合土　粘性ややあり　しまりややあり
12．10YR5/6　黄褐色土と10YR3/3暗褐色土の混合土　粘性ややあり　しまりややあり
13．10YR5/6　黄褐色土　粘性ややあり　しまりややあり　暗褐色土僅かに混入
14．10YR5/6　黄褐色土　粘性ややあり　しまりややあり
15．10YR5/6　黄褐色土　粘性ややあり　しまりややあり
16．10YR3/4　暗褐色土　粘性ややあり　しまりややあり
17．10YR5/6　黄褐色土　粘性ややあり　しまりややあり
18．10YR5/6　黄褐色土　粘性ややあり　しまりややあり　にぶい黄褐色土（10YR4/3）を含む

0　1：50　2m

第98図　21号墓壙

22号墓壙

遺構（第99図、写真図版65・73）

〈位置・重複関係〉　ⅢＥ３ｉグリッド、標高22.9ｍに位置し、23号墓壙と重複する。

〈検出状況〉　平面的な検出はできず23号墓壙の精査段階で遺構の存在を確認し、その後通常精査を行ったが遺構の南半分は、23号墓壙完掘作業により削平された。

〈規模・平面形・埋土〉　規模は長軸（1.63）ｍ、短軸（1.04）ｍ、深さ〈59〉㎝、面積（1.31）㎡を測る。平面形は不整な楕円形を呈する。長軸の軸線方向はＮ-3°-Ｅである。

〈埋土〉　暗褐色土と褐色土の混合土を主体とし、人為堆積を呈する。

遺物（写真図版137）

〈出土状況〉　埋土中から火葬骨片と常滑の鉢片（677）が出土している。

〈陶器〉　677は12世紀後半の常滑の鉢片（２－３形式）である。

時期　出土遺物から12世紀後半の遺構と考えられる。

23号墓壙

遺構（第99図、写真図版65・73）

〈位置・重複関係〉　ⅢＥ３ｈ～ⅢＥ４ｉグリッド、標高22.9ｍに位置し、22・23号墓壙と重複する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸2.85ｍ、短軸2.26ｍ、深さ1.64ｍ、面積は5.05㎡を測る。平面形は不整な楕円形を呈する。長軸の軸線方向はW-36°-Nである。

〈埋土〉　黄褐色土と暗褐色土が交互に堆積する。明らかな人為堆積を呈する。

遺物（第209・218図、写真図版149）

〈出土状況〉　埋土上層から火葬骨片・銭貨、下層から刀子が出土している。

〈銭貨〉　777と778はそれぞれ元豊通宝（1078）と祥符元宝（1008）である。

〈金属器・土器〉　883・884は副葬品と考えられる刀子、418は土師器の甕口縁部片である。

時期　出土遺物から11～12世紀の遺構と考えられる。

24号墓壙

遺構（第99図、写真図版66）

〈位置・重複関係〉　ⅢＥ３ｉ～ⅢＥ４ｊグリッド、標高23.0ｍに位置し、23・25～27号墓壙と重複する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸2.72ｍ、短軸2.36ｍ、深さ1.12ｍ、面積5.2㎡を測る。平面形は不整な隅丸方形を呈する。

〈埋土〉褐色土や黄褐色土がブロック状に混じりながら、ラミナを形成し明らかな人為堆積を呈する。

遺物（写真図版138・149）

〈出土状況〉　埋土中から常滑の鉢片（678）と鉄製品（885）が出土している。下層からは人頭大の自然石が出土している。

〈陶器〉　678は12世紀後半の常滑産の鉢片（２－３形式）である。

〈土器・金属器〉　419は土師器の甕胴部片である。885の器種は不明である。

時期　出土遺物から12世紀後半の遺構と考えられる。

25号墓壙

遺構（第99図、写真図版66）

〈位置・重複関係〉　ⅢＥ３ｊ～ⅢＥ４ｊグリッド、標高ｍに位置し、24・26・27号墓壙と重複する。

〈検出・調査方法〉　平面的な検出はできず、24号墓壙の精査段階で遺構の存在を確認した。今年度調査では断面による遺構精査に留めた。

〈規模・平面形・埋土〉　規模は長軸（0.87）ｍ、短軸0.65ｍ、深さ32㎝、面積は（0.47）㎡を測る。平面形は楕円形を呈する。長軸の軸線方向はＮ-63°-Ｅである。にぶい黄褐色土で構成され、炭化物が混じる。

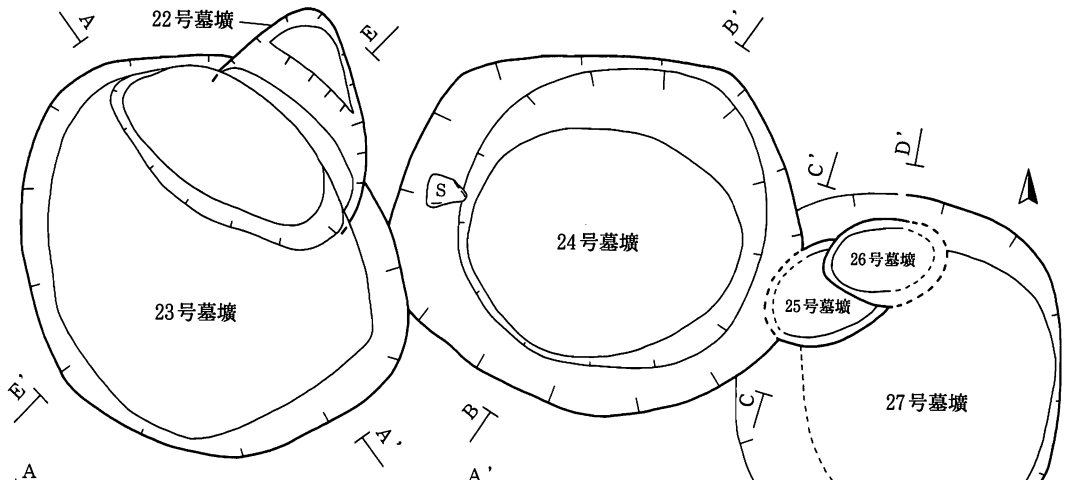
〈出土状況〉　埋土中から火葬骨片が僅かに出土している。

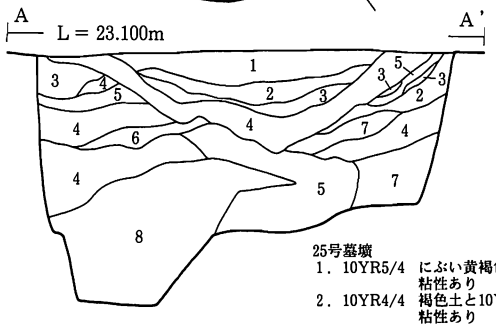
時期　検出状況から12世紀後半～13世紀の遺構と考えられる。

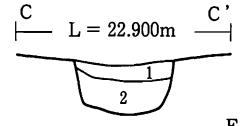
26号墓壙

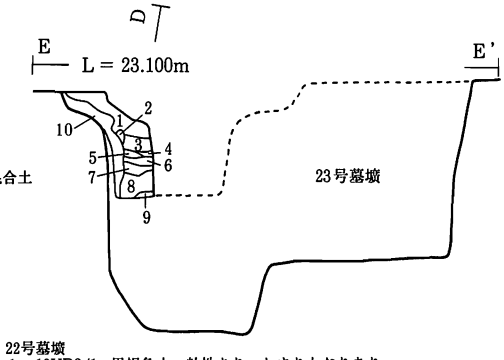
遺構（第99図）

〈位置・重複関係〉　ⅢＥ３ｊグリッド、標高22.6ｍに位置し、24・25・27号土坑と重複する。



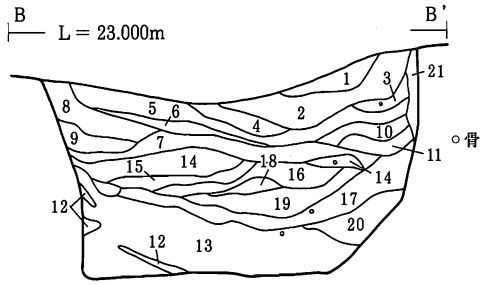




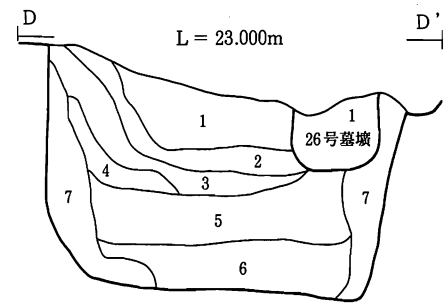


25号墓壙
1．10YR5/4　にぶい黄褐色土に炭化物を含む　粘性あり　しまりかなりあり
2．10YR4/4　褐色土と10YR5/4にぶい黄褐色土の混合土　粘性あり　しまりかなりあり

23号墓壙
1．10YR3/4　暗褐色土と10YR4/4褐色土の混合土　粘性あり　しまりかなりあり
2．10YR3/3　暗褐色土と10YR4/4褐色土の混合土　粘性あり　しまりかなりあり
3．10YR5/6　黄褐色土と10YR3/3暗褐色土の混合土　粘性あり　しまりかなりあり
4．10YR5/6　黄褐色土に10YR3/3暗褐色土を含む　粘性あり　しまりかなりあり
5．10YR3/3　暗褐色土に10YR5/6黄褐色土を含む　粘性あり　しまりかなりあり
6．10YR2/3　黒褐色土に炭化物を含む　粘性ややあり　しまりややあり
7．10YR3/3　暗褐色土と10YR4/4褐色土の混合土　粘性ややあり　しまりややあり
8．10YR4/4　褐色土　粘性ややあり　しまりややあり



22号墓壙
1．10YR3/1　黒褐色土　粘性あり　しまりかなりあり
2．10YR4/6　褐色土　粘性あり　しまりかなりあり
3．10YR3/1　黒褐色土と10YR4/6褐色土の混合土　粘性あり　しまりややあり
4．10YR3/1　黒褐色土と10YR4/6褐色土の混合土　粘性あり　しまりややあり
　3層より1層の割合が多い
5．10YR4/6　褐色土　粘性あり　しまりかなりあり
6．10YR3/1　黒褐色土と10YR4/6褐色土の混合土　粘性あり　しまりややあり
7．10YR4/6　褐色土　粘性あり　しまりかなりあり
8．10YR3/1　黒褐色土　粘性あり　しまりあり
9．10YR4/6　褐色土　粘性あり　しまりかなりあり
10．10YR4/6　褐色土　粘性あり　しまりあり



24号墓壙
1．10YR6/6　明黄褐色土と10YR5/4にぶい黄褐色土と10YR3/3暗褐色土との混合土　粘性あり　しまりかなりあり
2．10YR3/3　暗褐色土と10YR5/6黄褐色土、10YR6/4にぶい黄橙色土を含む　粘性あり　しまりかなりあり
3．10YR3/3　暗褐色土に10YR5/6黄褐色土、人骨を含む　粘性あり　しまりかなりあり
4．10YR6/6　明黄褐色土と10YR5/8黄褐色土と10YR4/4褐色土と10YR6/4にぶい黄橙色土との混合土　粘性あり　しまりかなりあり
5．10YR5/4　にぶい黄褐色土に10YR3/3暗褐色土、10YR6/6明黄褐色土を含む　粘性あり　しまりかなりあり
6．10YR5/4　にぶい黄褐色土と10YR5/6黄褐色土の混合土に10YR3/3暗褐色土を含む　粘性あり　しまりかなりあり
7．10YR5/6　黄褐色土に10YR5/4にぶい黄褐色土と微量の10YR3/3暗褐色土を含む　粘性あり　しまりかなりあり
8．10YR5/4　にぶい黄褐色土に10YR4/4褐色土と10YR5/6黄褐色土を含む　粘性あり　しまりかなりあり
9．10YR5/4　にぶい黄褐色土に10YR6/8明黄褐色土を含む　粘性あり　しまりかなりあり
10．10YR3/3　暗褐色土と10YR4/4褐色土の混合土に10YR6/8明黄褐色土を含む　粘性あり　しまりかなりあり
11．10YR3/3　暗褐色土と10YR4/4褐色土の混合土に10YR6/8明黄褐色と10YR5/4にぶい黄褐色土を含む　粘性あり　しまりかなりあり
12．10YR2/3　黒褐色土　粘性あり　しまりややあり
13．10YR4/6　褐色土　粘性あり　しまりややあり
14．10YR2/2　黒褐色土に炭化物を含む　粘性あり　しまりややあり
15．10YR4/6　褐色土と10YR5/4にぶい黄褐色土の混合土　粘性あり　しまりややあり
16．10YR4/4　褐色土に10YR3/3暗褐色土を含む　粘性あり　しまりややあり
17．10YR3/3　暗褐色土に炭化物を含む　粘性あり　しまりややあり
18．10YR4/4　褐色土と10YR5/4にぶい黄褐色土の混合土　粘性あり　しまりややあり
19．10YR3/3　暗褐色土　粘性あり　しまりややあり
20．10YR5/4　にぶい黄褐色土と10YR5/6黄褐色土の混合土　粘性あり　しまりややあり
21．10YR4/6　褐色土　粘性ややあり　しまりかなりあり

26号墓壙
1．10YR3/2　黒褐色土　粘性あり　しまりあり

27号墓壙
1．10YR3/2　黒褐色土と10YR4/6褐色土の混合土に炭化物を微量に含む　粘性あり　しまりあり
2．10YR4/6　褐色土　粘性あり　しまりあり
3．10YR3/2　黒褐色土　粘性あり　しまりあり
4．10YR4/6　褐色土　粘性あり　しまりあり
5．10YR3/2　黒褐色土と10YR4/6褐色土の混合土に炭化物粒を含む　粘性あり　しまりかなりあり
6．10YR3/1　黒褐色土と10YR4/4褐色土の混合土に炭化物粒を微量に含む　粘性あり　しまりあり
7．10YR4/6　褐色土　粘性かなりあり　しまりあり

0　1：50　2m

第99図　22～27号墓壙

〈検出・調査方法〉　平面的な検出はできず、27号墓壙の精査中遺構の存在を確認した。今年度調査では断面調査による遺構精査に留めた。
〈規模・平面形〉　規模は長軸（0.72）m、短軸0.58m、深さ43cm、面積は（0.36）㎡を測る。平面形は楕円形を呈する。長軸の軸線方向はE-13°-Nである。
〈埋土〉　黒褐色土との混合土を主体とし、明らかな人為堆積を呈する。
〈出土状況〉　埋土中から火葬骨が僅かに検出されている。
時期　検出状況から12世紀後半～13世紀の遺構と考えられる。

27号墓壙

遺構（第99図、写真図版66）
〈位置・重複関係〉　ⅢE3j～ⅢE4jグリッド、標高22.6mに位置し、24～26号墓壙と1号炭窯と重複する。
〈調査方法〉　今年度調査は断面精査に留め遺構を確認した。
〈規模・平面形〉　規模は長軸2.34m、短軸2.1m、深さ1.26m、面積は〈4.17〉㎡を測る。平面形は円形を呈する。
〈埋土〉　褐色土と黒褐色土と混合土が交互に層を成し、明らかな人為堆積を呈する。
検出面付近から瀬戸産の天目茶碗片が出土していることから、上層に該期の遺構が存在していた可能性もある。
遺物（第206・218図、写真図版138・149）
〈出土状況〉　床面付近でから土葬骨と古瀬戸の瓶子片（679）、釘（888）、長さ50cmの自然石が出土している。また、検出面からは瀬戸産の天目茶碗片が出土している。
〈陶器〉　679は古瀬戸の瓶子で、時期は13世紀半ば頃と考えられる。680は穿窯Ⅳ期頃の天目茶碗である。
〈土器〉　420は土師器の甕の胴部片である。
時期　出土遺物から13世紀前半の遺構と考えられる。

28墓壙（茶毘所）

遺構（第100図、写真図版66・73）
〈位置・重複関係〉　ⅢE4hグリッド、標高22.9mに位置し、29号墓壙と重複する。29号墓壙のほぼ中央上層に作られている。
〈規模・平面形〉　規模は長軸2.55m、短軸2.1m、深さ56cm、面積は3.85㎡を測る。平面形は不整な円形を呈する。
〈埋土〉　炭化物と焼成を帯びた自然石（花崗閃緑岩）、焼土ブロックを含む黒褐色土と褐色土の混合土が主体となって構成され、明らかな人為堆積を呈する。
〈茶毘所〉　大量の炭化物と焼土ブロック、また火葬骨の検出から茶毘所の可能性が高いと考えられる。かわらけは埋土の上層から検出されていることから葬送に伴う儀式に用いられたものと推察されるが、本報告では墓壙類に含め記載をしている。
遺物（第208図、写真図版140）
〈出土状況〉　埋土上層から完形のかわらけ、土師器片が出土している。また、埋土中からは火葬骨片も検

出された。

〈かわらけ〉　719～729は手づくねかわらけで、時期は12世紀第４四半期頃のものである。723・724は内外面を黒色処理したかわらけで、720・721の２点は黒色処理を施された可能性がある。

〈土器〉　421は坏の口縁部片である。

時期　出土遺物から12世紀後半の遺構と考えられる。

29墓壙

遺構（第101図、写真図版67）

〈位置・重複関係〉　ⅢＥ４ｈグリッド、標高22.9ｍに位置し、28号墓壙と重複する。

〈検出状況〉　平面的な検出はできず、28号墓壙の精査中に遺構の存在を確認し、トレンチ調査によりプランを確定した。上層は茶毘所と思われる28号墓壙である。

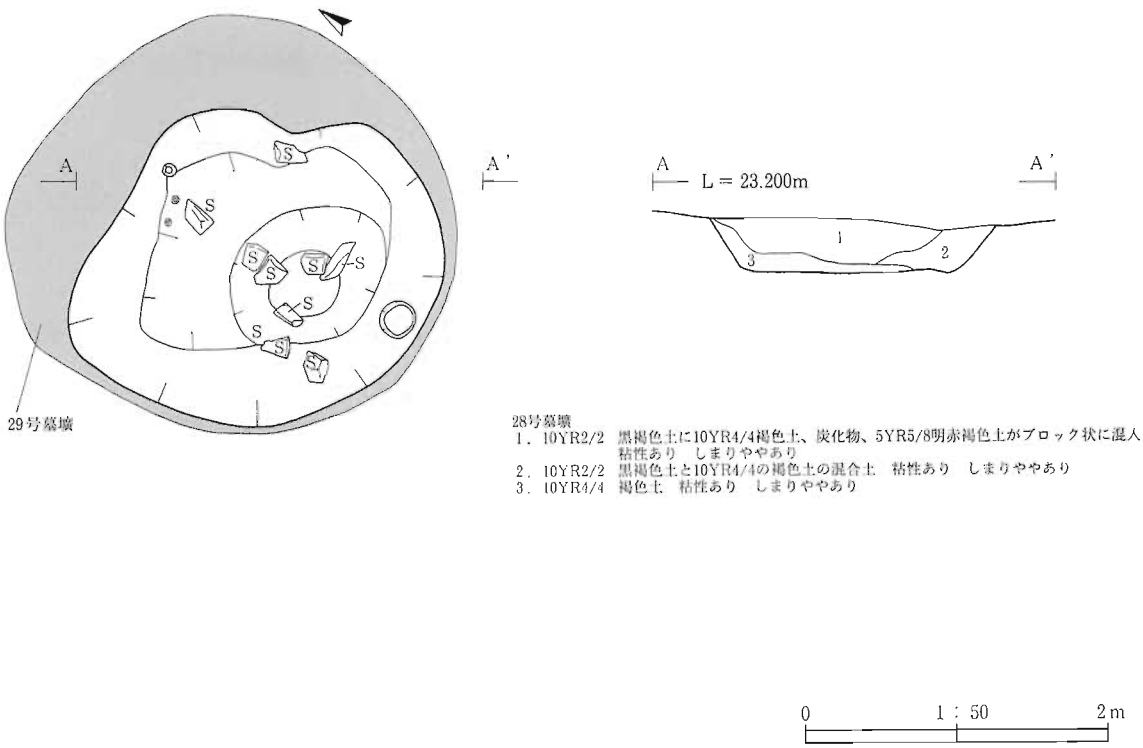
〈規模・平面形〉　規模は長軸2.95ｍ、短軸2.73ｍ、深さ90㎝、面積は6.26㎡を測る。平面形は不整な円形を呈する。

〈埋土〉　褐色土と暗褐色土を主体として構成されている。

遺物

〈出土状況〉　埋土下層から床面付近で土葬骨が検出され、この上層からは人頭大の自然石が出土している。上葬骨は分散して検出され下場付近からも出土している。また、埋土中から土師器・須恵器の甕片が出土している。

〈土器〉　422は須恵器の甕片、423は土師器の甕片、424は土師器の坏片である。



第100図　28号墓壙

時期　検出状況から９世紀～10世紀の遺構と考えられる。

30号墓壙

遺構（第102図、写真図版67・73）

〈位置〉　ⅡＥ３ｆ～ⅡＥ４ｇグリッド、標高23.1ｍに位置し、墓域南側の墓壙群を形成する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸2.42ｍ、短軸1.98ｍ、深さ82㎝、面積は3.70㎡を測る。平面形は不整な楕円形を呈する。長軸の軸線方向はＥ-31°-Ｓである。

〈検出状況〉　遺物の検出状況が他の墓壙に類似し、墓域南辺の軸線上に位置することから墓壙として登録した遺構である。

〈埋土〉　炭化物を微量に含む黒褐色土で構成される。

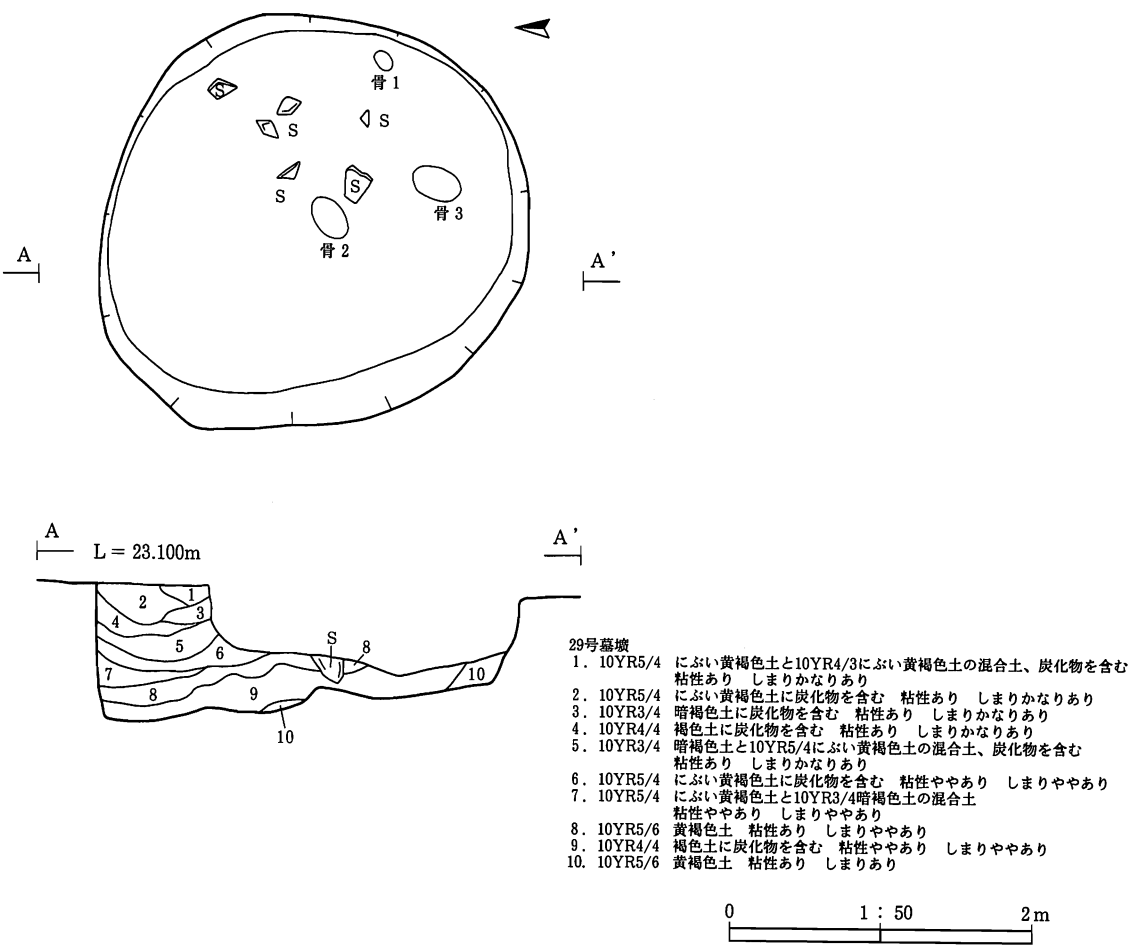
遺物（第208図、写真図版140）

〈出土状況〉　埋土中から火葬骨片や大型の手づくねかわらけ（730）が出土している。

時期　出土遺物から12世紀後半の遺構と考えられる。

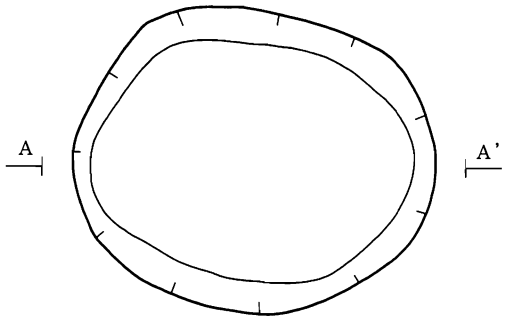
31号墓壙

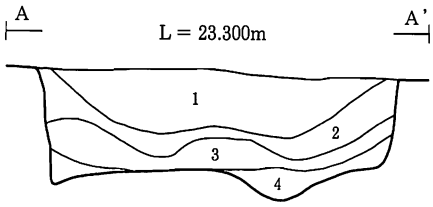
遺構（第102図、写真図版67）



第101図　29号墓壙

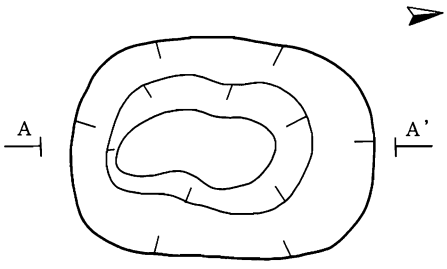
30号墓壙

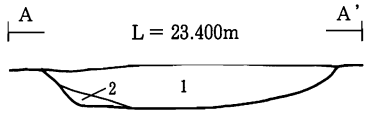




30号墓壙
1．10YR5/6　黄褐色土と10YR3/2黒褐色土の混合土
　　粘性あり　しまりあり
2．10YR5/4　にぶい黄褐色土と10YR3/2黒褐色土の混合土
　　粘性あり　しまりあり
3．10YR5/6　黄褐色土に10YR3/2黒褐色土が微量に含む
　　粘性あり　しまりあり
4．10YR5/6　黄褐色土と10YR3/2黒褐色土の混合土
　　粘性ややあり　しまりややあり

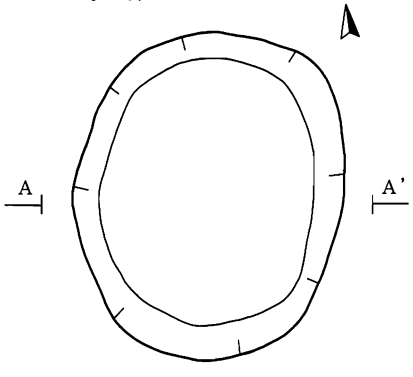
31号墓壙

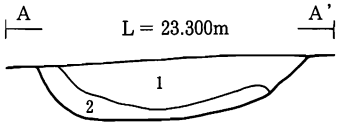




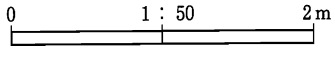
31号墓壙
1．10YR3/2　黒褐色土　炭化物１％を含む　粘性あり　しまりあり
2．10YR4/3　黄褐色土　粘性あり　しまりあり

32号墓壙





32号墓壙
1．10YR4/6　褐色土と10YR4/4褐色土の混合土、炭化物を含む
　　粘性あり　しまりややあり
2．10YR4/4　褐色土に炭化物を含む　粘性あり　しまりややあり



第102図　30～32号墓壙

〈位置・重複関係〉　ⅢＥ３ｆグリッド、標高23.1ｍに位置し、２号周溝南側の東端と重複する。
〈規模・平面形〉　規模は長軸2.0ｍ、短軸1.43ｍ、深さ27㎝、面積は1.59㎡を測る。平面形は隅丸方形を呈する。長軸の軸線方向はＮ-7°-Ｅである。
〈検出状況〉　遺物の検出状況が他の墓壙に類似し、また墓域南辺の軸線上に位置することから墓壙として登録した遺構である。
〈埋土〉　炭化物を微量に含む黒褐色土で構成される。
遺物（写真図版138）
〈出土状況〉　埋土中から渥美の片口鉢片（681）が出土している。時期は12世紀の後半のものである。
時期　出土遺物から12世紀後半の遺構と考えられる。

32号墓壙

遺構（第102図、写真図版67）
〈位置〉　ⅢＥ３ｅグリッド、標高23.1ｍに位置する。
〈規模・平面形〉　規模は長軸2.13ｍ、短軸1.75ｍ、深さ38㎝、面積は3.17㎡を測る。平面形は不整な楕円形を呈する。長軸の軸線方向はＮ-12°-Ｅである。
〈検出状況〉　墓域南辺の墓壙群を形成する位置にあることから、墓壙として登録した遺構である。
〈埋土〉　埋土は44号土坑に類似し、褐色土の混合土が主体で構成される。
〈出土状況〉　遺物は出土していない。
時期　検出状況から12世紀後半～13世紀の遺構と考えられる。

33号墓壙

遺構（第103図、写真図版68）
〈位置・重複関係〉　ⅢＥ３ａグリッド、標高23.0ｍに位置し、35号墓壙と重複する。
〈検出状況〉　平面的な検出はできず35号墓壙の精査中に遺構を確認したため、西側は35号墓壙の完掘作業により削平されている。
〈規模・平面形〉　規模は長軸（1.17）ｍ、短軸（1.01）ｍ、深さ24㎝、面積は（0.99）㎡を測る。平面形は不整な円形を呈する。
〈埋土〉　焼土粒を含む暗褐色土と黒褐色土で構成され、人為堆積を呈する。
〈出土状況〉　埋土中から火葬骨片が僅かに検出された。
時期　検出状況から12世紀後半～13世紀の遺構と考えられる。

34号墓壙

遺構（第103図、写真図版68）
〈位置・重複関係〉　ⅢＥ３ａグリッド、標高23.0ｍに位置し、35号墓壙と重複する。
〈検出状況〉　平面的な検出はできず35号墓壙の精査段階で遺構を確認したため、北側は35号墓壙の完掘作業により削平されている。
〈規模・平面形〉　規模は長軸（0.75）ｍ、短軸（0.73）ｍ、深さ16㎝、面積は（0.47）㎡を測る。平面形は不整な円形を呈する。

〈埋土〉　暗褐色土が主体で構成され、炭化物が混じる。

遺物（写真図版138）

〈出土状況〉　埋土上層から多高田産の甕片（13世紀後半）が出土している。また、埋土中からは火葬骨片が僅かに検出されている。

時期　出土遺物から13世紀後半の遺構と考えられる。

35号墓壙

遺構（第103図、写真図版68）

〈位置・重複関係〉　ⅢＥ３ａグリッド、標高23.0ｍに位置し、33・34・36号墓壙と重複する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸3.93ｍ、短軸2.33ｍ、深さ58㎝、面積（7.3）㎡を測る。平面形は不整な楕円形を呈する。長軸の軸線方向はＥ-20°-Ｓである。開口部の面積は登録墓壙中最大である。

〈床面・検出状況〉　床面には２箇所の凹地がある。面積も他の墓壙のほぼ２倍を有することことから、２基の墓壙が重複している可能性が高いと考えられるが、断面調査でも２基の重複が確認できず１基として登録した遺構である。

〈埋土〉　炭化物混じりの暗褐色土が主体で構成されている。焼土粒も含まれる。明らかな人為堆積を呈する。

遺物（写真図版138）

〈出土状況〉　東側床面付近から土葬骨と歯が出土している。

時期　検出状況から12世紀後半～13世紀前半の遺構と考えられる。

36号墓壙

遺構（第103図、写真図版68）

〈位置・重複関係〉　ⅢＥ３ａグリッド、標高23.0ｍに位置し、35号墓壙と重複する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸2.26ｍ、短軸2.13ｍ、深さ55㎝、面積は3.76㎡を測る。平面形は不整な楕円形を呈する。長軸の軸線方向はＮ-12°-Ｅである。

〈埋土〉　炭化物を僅かに含む黒褐色土が主体で構成される。

遺物（第199・218図、写真図版132・138・149）

〈出土状況〉　埋土中から常滑の甕・鉢片、土師器・須恵器片、火打鎌（887）が出土している。

〈陶器〉　683・684は常滑の甕、685は鉢片である。683は４－５形式、684は２形式、685は３形式である。

〈土器〉　425・428は須恵器の甕片、427は土師器の甕片、426は坏（回転糸切り）である。

時期　出土遺物から12世紀末～13世紀初の遺構と考えられる。

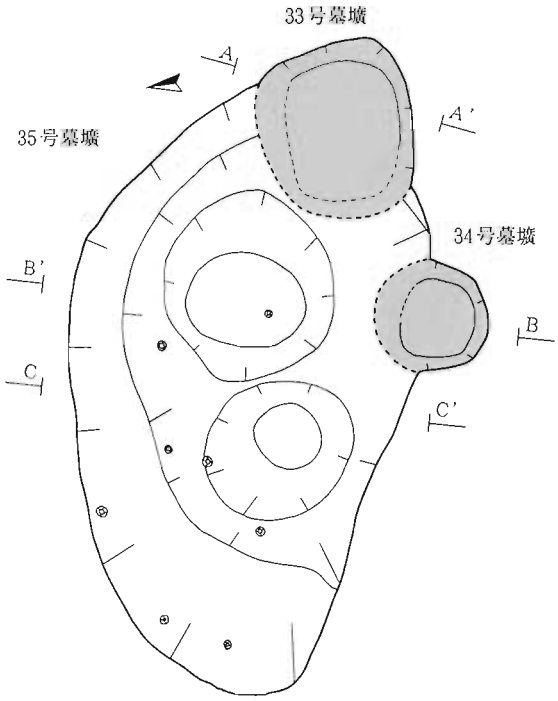
37号墓壙

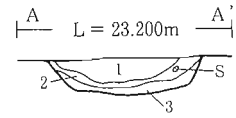
遺構（第103図、写真図版69）

〈位置・重複関係〉　調査区ⅢＥ３ｄグリッド、標高23.0ｍに位置し、35号墓壙と重複する。

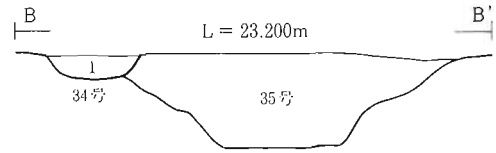
〈検出状況〉　35号墓壙の精査終了時のだめ押し調査により下層で遺構の存在を確認した。遺構は殆どが35号墓壙により削平されており、かろうじて床面のみを検出し得た。

〈規模・平面形〉　規模は長軸1.06ｍ、短軸0.83ｍ、深さ４㎝、面積0.72㎡を測る。平面形は隅丸方形を呈

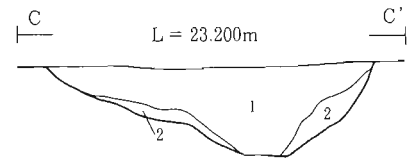




33号墓壙
1．10YR3/2　黒褐色土　粘性ややあり　しまりややあり　褐色土（10YR4/4）と赤褐色土（5YR4/8）微量含む
2．10YR2/2　黒褐色土　粘性ややあり　しまりややあり　褐色土（10YR4/4）と赤褐色土（5YR4/8）微量含む
3．10YR3/2と10YR4/4褐色土の混合土　粘性ややあり　しまりややあり

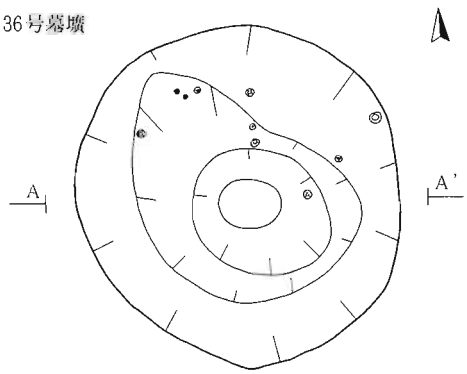


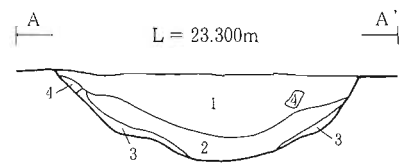
34号墓壙
1．10YR3/3　暗褐色土と10YR4/4褐色土との混合土、　炭化物・焼土が1％を含む　粘性あり　しまりあり



35号墓壙
1．10YR3/4　暗褐色土　粘性あり　しまりややあり　明褐色土（7.5YR5/8）と炭化物少量含む
2．10YR4/3　にぶい黄褐色土　粘性あり　しまりややあり

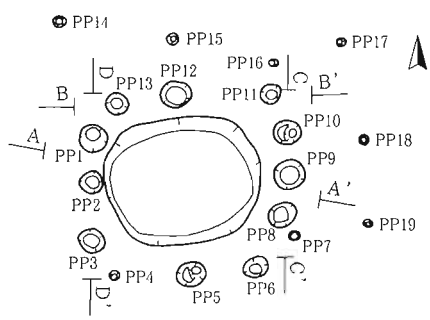
36号墓壙

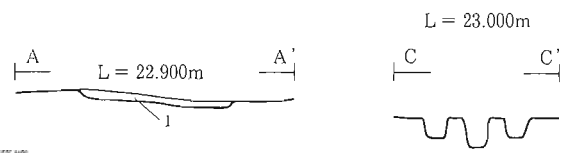




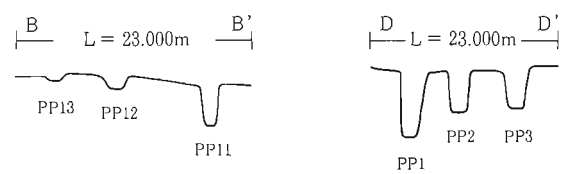
36号墓壙
1．10YR3/2　黒褐色土　粘性あり　しまりあり　褐色土（10YR4/4）ブロック混入　炭化物2％含む
2．10YR3/1　黒褐色土　粘性あり　しまりあり　炭化物1％含む
3．10YR3/2　黒褐色土と10YR4/4褐色土の混合土　粘性あり　しまりあり　炭化物1％含む
4．10YR4/3　にぶい黄褐色土　粘性あり　しまりあり

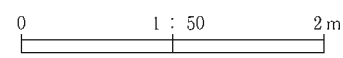
37号墓壙





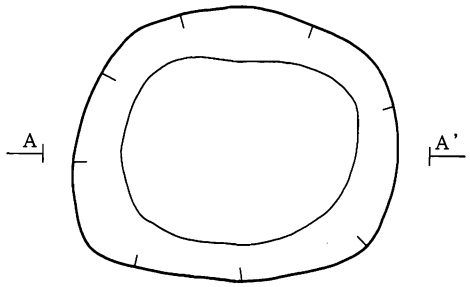
37号墓壙
1．10YR5/4　にぶい黄褐色土と10YR4/4褐色土の混合土　粘性あり　しまりかなりあり

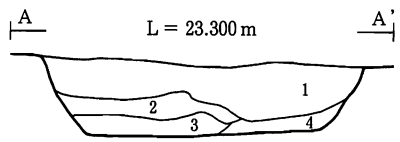




第103図　33～37号墓壙

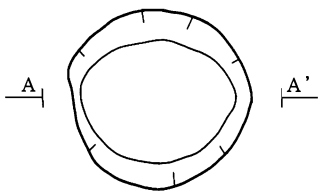
38号墓壙

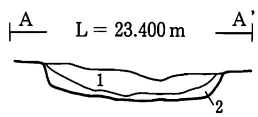




38号墓壙
1．10YR3/2　黒褐色土に10YR5/6黄褐色土が１%混入　粘性あり　しまりあり
2．10YR6/6　明黄褐色土　粘性あり　しまりあり
3．10YR3/1　黒褐色土に10YR6/6明黄褐色土が１%混入　粘性あり　しまりあり
4．10YR4/3　にぶい黄褐色土　粘性ややあり　しまりあり

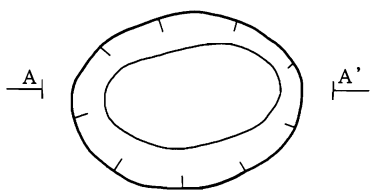
39号墓壙

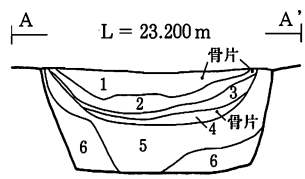




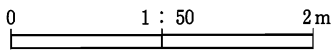
39号墓壙
1．10YR3/4　暗褐色土　粘性なし　しまりあり
2．10YR5/4　にぶい黄褐色土　粘性あり　しまりあり

40号墓壙





40号墓壙
1．10YR5/6　黄褐色土・10YR4/4褐色土・10YR5/4にぶい黄褐色土の混合土
　粘性ややあり　しまりあり
2．10YR4/4　褐色土　粘性ややあり　しまりかなりあり　黄褐色土（10YR5/6）含む
　炭化物含む
3．10YR5/6　黄褐色土　粘性ややあり　しまりかなりあり　褐色土（10YR4/4）含む
　炭化物含む
4．10YR4/4　褐色土　粘性ややあり　しまりかなりあり　黄褐色土（10YR5/6）含む
　炭化物含む
5．10YR3/3　暗褐色土　粘性ややあり　しまりかなりあり
6．10YR5/6　黄褐色土　粘性ややあり　しまりかなりあり



第104図　38～40号墓壙

する。長軸の軸線方向はE-13°-Nである。1号墓壙も類似する形態を持つことや墓域南辺の墓壙群を構成する軸線上に位置することから墓壙として登録した。

〈小土坑〉　墓壙を囲む小土坑は卒塔婆の痕跡と推定される。

〈埋土・出土状況〉　にぶい黄褐色土と褐色土の混合土で、人為堆積を呈する。

時期　検出状況から11世紀の遺構と考えられる。

38号墓壙

遺構（第104図、写真図版69）

〈位置〉　ⅢE2b～ⅢE3cグリッド、標高23.0mに位置する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸2.16m、短軸1.81m、深さ80cm、面積は3.30㎡を測る。平面形は不整な楕円形を呈する。長軸の軸線方向W-14°-Nである。

〈埋土〉　黒褐色土と明黄褐色土が交互に層を成し、人為堆積を呈する。

遺物（写真図版140）

〈出土状況〉　南側埋土下層から白磁の四耳壺片、常滑産の片口鉢片が出土している。出土状況から副葬品と考えられる。

〈陶磁器〉　760は中国産の白磁（Ⅱ類）で12世紀のものと考えられる。686は3形式の鉢片である。

時期　出土遺物から12世紀後半の遺構と考えられる。

39号墓壙

遺構（第104図、写真図版69）

〈位置〉　調査区ⅢE3bグリッド、標高23.2mに位置し、38号墓壙の南西側に近接する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸1.19m、短軸1.15m、深さ19cm、面積は1.11㎡を測る。平面形は不整な円形を呈する。規模、形態は41・42号墓壙に類似し、墓域南辺の墓壙群に近接することから墓壙として登録した遺構である。

〈埋土〉　暗褐色土が主体で構成される。

遺物

〈出土状況〉　埋土中から常滑産の甕（687）が出土している。12世紀後半（2－3形式）のものである。

時期　検出状況と遺物から12世紀後半の遺構と考えられる。

40号墓壙

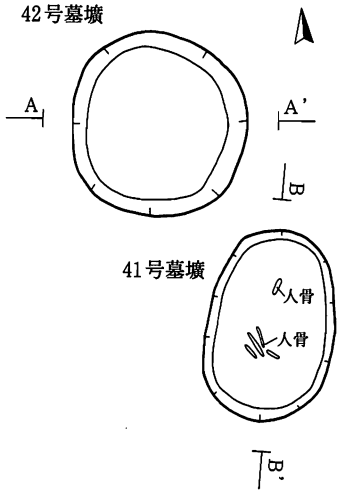
遺構（第104図、写真図版69）

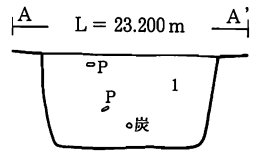
〈位置〉　ⅢE2bグリッド、標高23.0mに位置する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸1.53m、短軸1.15m、深さ1.39m、面積は1.39㎡を測る。平面形は楕円形を呈する。長軸の軸線方向はW-9°-Nである。

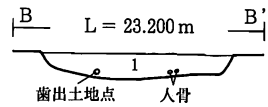
〈埋土・出土状況〉　土層断面から遺構の重複も想定されるが詳細に付いては不明である。上層が黒褐色土、下層が褐色土で構成される。埋土中から火葬骨片が出土している。

時期　検出状況から12世紀後半～13世紀の遺構と考えられる。

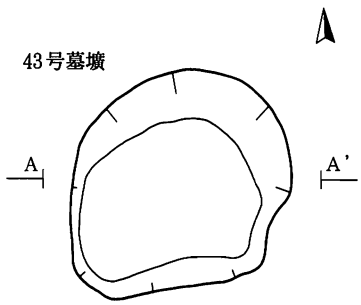


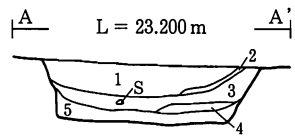


42号墓壙
1．10YR3/4　暗褐色土と10YR4/6褐色土の混合土に炭化物を20%含む
粘性かなりあり　しまりあり

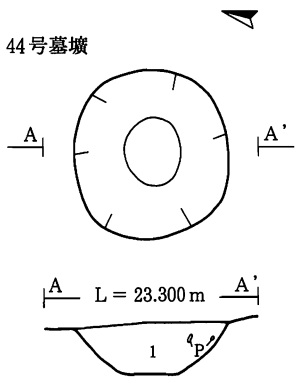


41号墓壙
1．10YR2/3　黒褐色土と10YR4/4褐色土、10YR2/2黒褐色土に10YR4/4褐色土、
炭化物粒を含む　粘性かなりあり　しまりあり

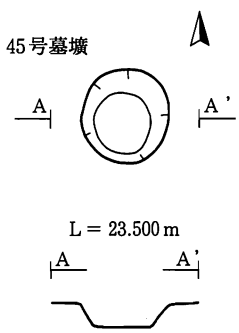


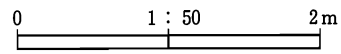


43号墓壙
1．10YR4/6　褐色土に炭化物を含む　粘性あり　しまりややあり
2．10YR6/8　明黄褐色土に10YR4/6褐色土を含む　粘性あり　しまりややあり
3．10YR4/6　褐色土　粘性あり　しまりややあり
4．10YR4/6　褐色土と10YR6/8明黄褐色土の混合土　粘性あり　しまりややあり
5．10YR4/6　褐色土　粘性あり　しまりややあり



44号墓壙
1．10YR3/2　黒褐色土に炭化物粒を30%含む　粘性あり　しまりあり





第105図　41～45号墓壙

41号墓壙

遺構（第105図、写真図版70）

〈位置〉　ⅢE1a～ⅢE1bグリッド、標高23.1mに位置する。

〈規模・平面形・埋土〉　規模は長軸1.27m、短軸0.84m、深さ15cm、面積は0.86㎡を測る。平面形は楕円形を呈する。埋土は、黒褐色土と褐色土の混合土で構成される。

遺物

〈出土状況〉　床面から土葬骨が出土している。埋葬形態は側臥屈葬で西面している。

時期　出土遺物から12世紀後半～13世紀の遺構と考えられる。

42号墓壙

遺構（第105図、写真図版70）

〈位置〉　ⅢE1aグリッド、標高23.0mに位置する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸1.18m、短軸1.18m、深さ62cm、面積は1.13㎡を測る。平面形は不整な円形を呈する。

〈検出状況〉　墓域の西辺に位置するため墓壙として登録した遺構である。

〈埋土〉　炭化物を僅かに含む暗褐色土と褐色土の混合土を主体として構成される。

遺物（第200・209図、写真図版132・149）

〈出土状況〉　土師器の甕片（429）・坏片（430・431）が埋土中から出土している。床面直上からは、釘（888）が1点出土している。

時期　検出状況から12世紀後半～13世紀の遺構と考えられる。

43号墓壙

遺構（第105図、写真図版70）

〈位置〉　ⅡE10a～ⅡE10bグリッド、標高23.2mに位置する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸1.53m、短軸1.15m、深さ67cm、面積は1.39㎡を測る。平面形は不整な円形を呈する。

〈検出状況・埋土〉　42号墓壙と同様に墓域西辺の墓壙群をなす軸線上に位置するため、墓壙として登録した遺構である。埋土は炭化物と焼土粒を含む黒褐色土で構成される。

遺物

〈出土状況〉　埋土中から土師器の坏（432・434）が出土している。434は内面黒色処理の坏である。433は胴外面にケズリが施された甕片である。

時期　検出状況から12世紀後半～13世紀の遺構と考えられる。

44号墓壙

遺構（第105図、写真図版70）

〈位置〉　ⅡE7aグリッド、標高23.1mに位置する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸1.09m、短軸1.01m、深さ33cm、面積は0.90㎡を測る。平面形は隅丸方形を呈する。長軸の方向はE-26°-Nである。

〈埋土〉　暗褐色土が主体で構成され、微量の炭化物を含む。

遺物（第199・200図、写真図版132・149）

〈出土状況〉　埋土中から火葬骨片、土師器の坏片（435～438）、刀子片（889）が出土している。

〈土器〉　436は高台付坏で、内面に黒色処理が施される。435・438も黒色処理されており同一個体の可能性もある。

時期　出土遺物から12世紀後半～13世紀の遺構と考えられる。

45号墓壙

遺構（第105図、写真図版73）

〈位置〉　ⅡＥ６ｅグリッド、標高23.2ｍに位置する。墓域の北側で検出されたただ１基の墓壙である。２号周溝の北側に近接する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸0.61ｍ、短軸0.58ｍ、深さ29㎝、面積は0.29㎡を測る。平面形は不整な円形を呈する。規模は墓域内で検出された墓壙の中で最小である。また、明確に15世紀の墓壙として確認された墓壙も墓域内ではこの１基のみである。

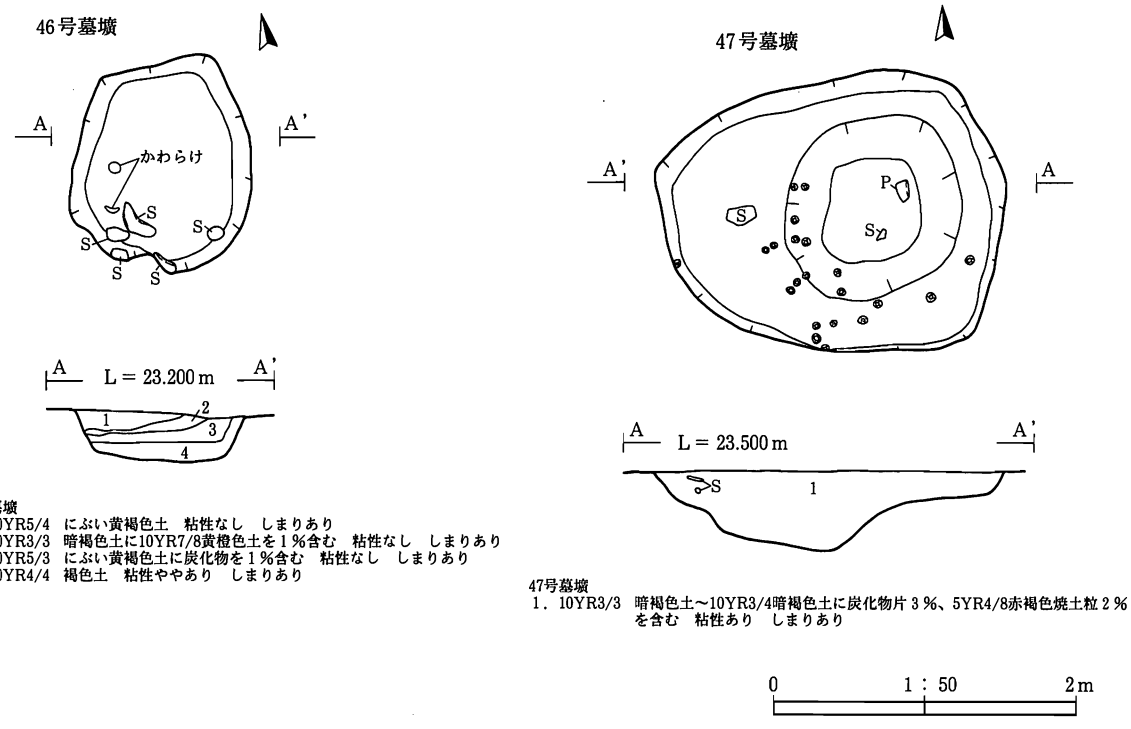
〈埋土〉　黒褐色土と褐色土の混合土を主体に構成される。

遺物（第209図、写真図版141）

〈出土状況〉　検出面や埋土中から銭貨が出土している。

〈銭貨〉　永楽通宝（779・785）、熙寧元宝（780）、元符通宝（781）、祥符元宝（782）、天聖元宝（783）、景祐元宝（784）の11世紀と15世紀の古銭で構成される六道銭である。

時期　出土遺物から15世紀の遺構と考えられる。



46号墓壙
1．10YR5/4　にぶい黄褐色土　粘性なし　しまりあり
2．10YR3/3　暗褐色土に10YR7/8黄橙色土を１％含む　粘性なし　しまりあり
3．10YR5/3　にぶい黄褐色土に炭化物を１％含む　粘性なし　しまりあり
4．10YR4/4　褐色土　粘性ややあり　しまりあり

47号墓壙
1．10YR3/3　暗褐色土～10YR3/4暗褐色土に炭化物片３％、5YR4/8赤褐色焼土粒２％を含む　粘性あり　しまりあり

第106図　46・47号墓壙

46号墓壙（茶毘所）

遺構（第106図、写真図版71）

〈位置〉　ⅢＦ９ｂグリッド、標高23.0ｍに位置する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸1.40ｍ、短軸1.17ｍ、深さ31㎝、面積は1.34㎡を測る。平面形は不整な楕円形を呈する。長軸の方向はＮ-7°-Ｅである。

〈埋土〉　暗褐色土とにぶい黄褐色土が主体で構成され、火葬骨片や焼土粒、炭化物や焼成を帯びた自然石が出土している。明らかな人為堆積を呈する。

〈茶毘所〉　埋土の状況から28号墓壙と同様に茶毘所の可能性が高いと考えられるが、墓域から南西方向に約25ｍ離れている。本報告では墓壙として登録し掲載した。

遺物（第206・208・214図、写真図版138・140）

〈出土状況〉　埋土上層から常滑の小皿・かわらけ（731～744）、磨石（849・851）が出土している。

〈陶器〉　688は常滑の小皿で形状はかわらけに酷似する。同一の目的で使用され、時期は12世紀末の遺物である。689は常滑の２形式の鉢片で綾杉押印文が施されている。

〈かわらけ〉　検出されたかわらけはいずれも手づくねで、12世紀第４四半期のものである。733の底部にはスノコ状圧痕が見られる。731の内面には穿孔しかけた痕跡が残る。731・732・734は大型である。

時期　出土遺物から12世紀末の遺構と考えられる。

47号墓壙

遺構（第106図、写真図版71）

〈位置〉　ＶＦ６ｇグリッド、標高23.3ｍに位置する。

〈検出状況〉　平面的な検出はできずトレンチ調査で遺構を確認した。

〈規模・平面形〉　規模は長軸2.32ｍ、短軸1.80ｍ、深さ51㎝、面積は3.37㎡を測る。平面形は不整な楕円形を呈する。長軸の方向はＷ-2°-Ｎである。形態は墓域内の35号墓壙に酷似する。

〈埋土〉　埋土は暗褐色土が主体で、炭化物と焼土粒を微量に含む。

遺物（写真図版140）

〈出土状況〉　南側床面付近から中国産の白磁（761）が出土している。時期は12世紀後半と思われる。

時期　出土遺物から12世紀の遺構と考えられる。

48号墓壙

遺構（第107図、写真図版71）

〈位置〉　ＶＥ５ｈグリッド、標高22.5ｍに位置する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸1.33ｍ、短軸0.56ｍ、深さ22㎝、面積0.75㎡を測る。平面形は不整な方形を呈する。長軸の軸線方向はＮ-4°-Ｅである。検出状況と遺物から墓壙として登録した遺構である。

〈埋土〉　上層は暗青灰色の粘土質土、下層は褐色土で構成される。

遺物（第209図、写真図版141）

〈出土状況〉　検出面から肥前産の磁器片や熙寧元宝（786）が出土している。

時期　出土遺物から近世（17～19世紀）と考えられる。

49号墓壙

遺構（第107・200図、写真図版71）

〈位置〉　ＶＥ５ｈグリッド、標高22.5ｍに位置する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸1.18ｍ、短軸0.76ｍ、深さ34㎝、面積は0.67㎡を測る。平面形は不整形を呈する。長軸の軸線方向はＮ-2°-Ｗで、検出状況から墓壙として登録した遺構である。

〈埋土〉　48号墓壙と同様に上層が暗青灰色の粘土質土、下層は褐色土で構成される。

遺物

〈出土状況〉　検出面から肥前産磁器片が出土している。

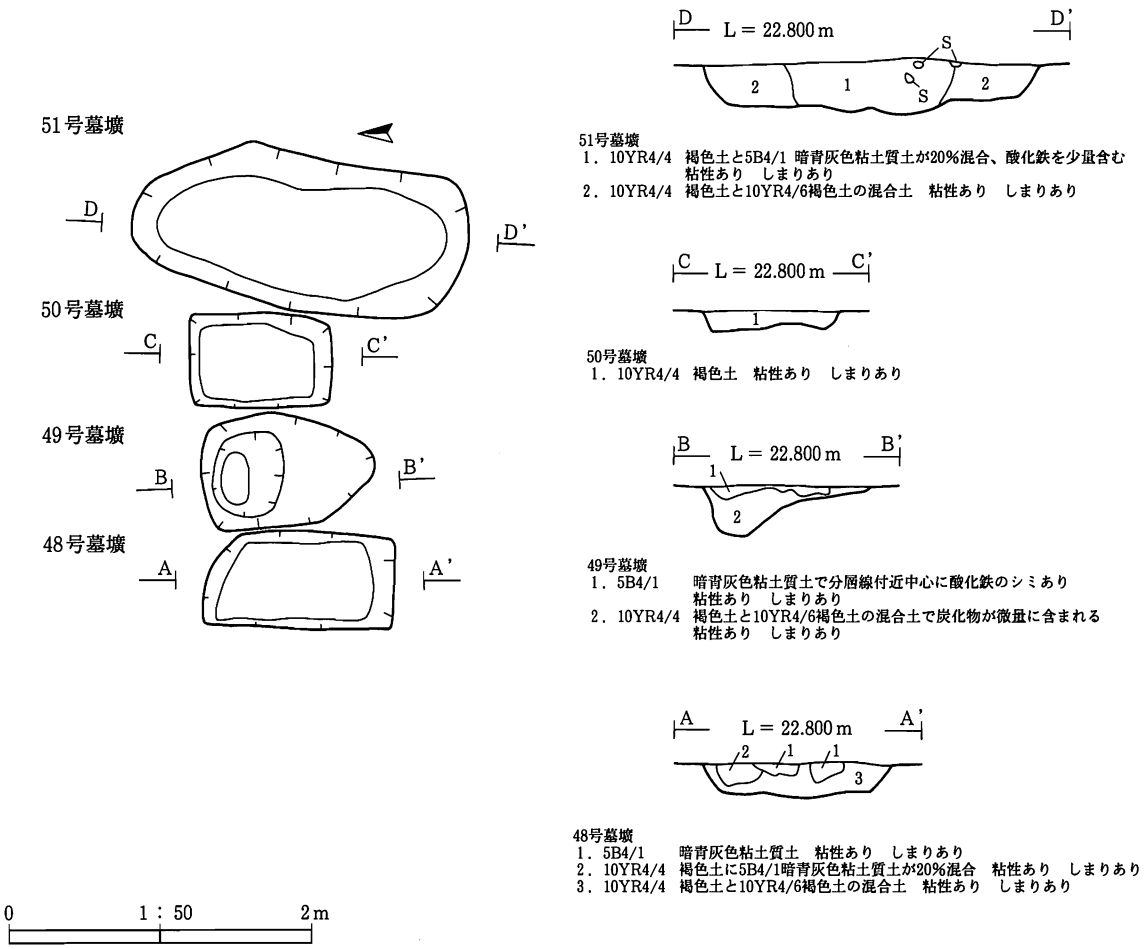
時期　出土遺物から近世（17～19世紀）の遺構と考えられる。

50号墓壙

遺構（第107図、写真図版71）

〈位置〉　ＶＥ５ｇグリッド、標高22.5ｍに位置する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸0.94ｍ、短軸0.63ｍ、深さ12㎝、面積は0.54㎡を測る。平面形は方形を呈する。長軸の軸線方向はＮ-4°-Ｅである。検出状況から墓壙として登録した遺構である。



第107図　48～51号墓壙

〈埋土・出土状況〉　埋土は褐色土で構成される。出土遺物はない。

時期　検出状況から近世（17～19世紀）と考えられる。

51号墓壙

遺構（第107図、写真図版71）

〈位置〉　ＶＥ５ｇグリッド、標高22.5ｍに位置する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸2.22ｍ、短軸1.03ｍ、深さ32㎝、面積は1.92㎡を測る。平面形は不整な楕円形を呈する。長軸の軸線方向はＮ-12°-Ｅである。形状と検出状況から墓壙として登録した。

〈埋土・出土状況〉　48・49号墓壙に類似し暗青灰色粘土と褐色土で構成される。

時期　検出状況から近世（17～19世紀）の遺構と考えられる。

52号墓壙

遺構（第108図、写真図版72）

〈位置〉　ＶＣ９ｃグリッド、標高22.7ｍに位置する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸1.69ｍ、短軸1.47ｍ、深さ21㎝、面積は2.46㎡を測る。平面形は不整な円形を呈する。検出状況と遺物から墓壙として登録した遺構である。

〈埋土〉　焼土粒を含むにぶい黄褐色土が主体で構成される。

遺物（第209・210図、写真図版142）

〈出土状況〉　埋土中から銭貨（787～789）が出土している。788・789は寛永通宝である。

時期　出土遺物から近世（17～19世紀）と考えられる。

53号墓壙

遺構（第108図、写真図版72）

〈位置・重複関係〉　ＶＣ５ａグリッド、標高22.6ｍに位置する。

〈規模・平面形・埋土〉　規模は長軸1.41ｍ、短軸1.39ｍ、深さ37㎝、面積は1.60㎡を測る。平面形は不整な隅丸方形を呈する。遺物と形状から墓壙として登録した。埋土は、黒褐色土を主体に構成されている。

遺物（第215・218・219図、写真図版142・145・149・150）

〈出土状況〉　埋土中から大堀相馬産の碗片（914）、銭貨（790）、砥石（852）、煙管（890）、釘（891）が出土している。790は仙臺通宝である。

時期　出土遺物から近世（18～19世紀）の遺構と考えられる。

54号墓壙

遺構（第108図、写真図版72）

〈位置・重複関係〉　ＶＢ５ｈグリッド、標高22.7ｍに位置する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸〈0.94〉ｍ、短軸〈0.86〉ｍ、深さ〈19〉㎝、面積は〈0.63〉㎡を測る。平面形は不整な円形を呈する。上部は攪乱を受けており遺構の下層のみを検出したと思われる。遺物と形状から墓壙として登録した遺構である。

〈埋土〉　炭化物を含む暗褐色土を主体に構成される。

遺物（第210図、写真図版142）

〈出土状況〉　埋土中から銭貨（791～793）が出土している。792は寛永通宝である。

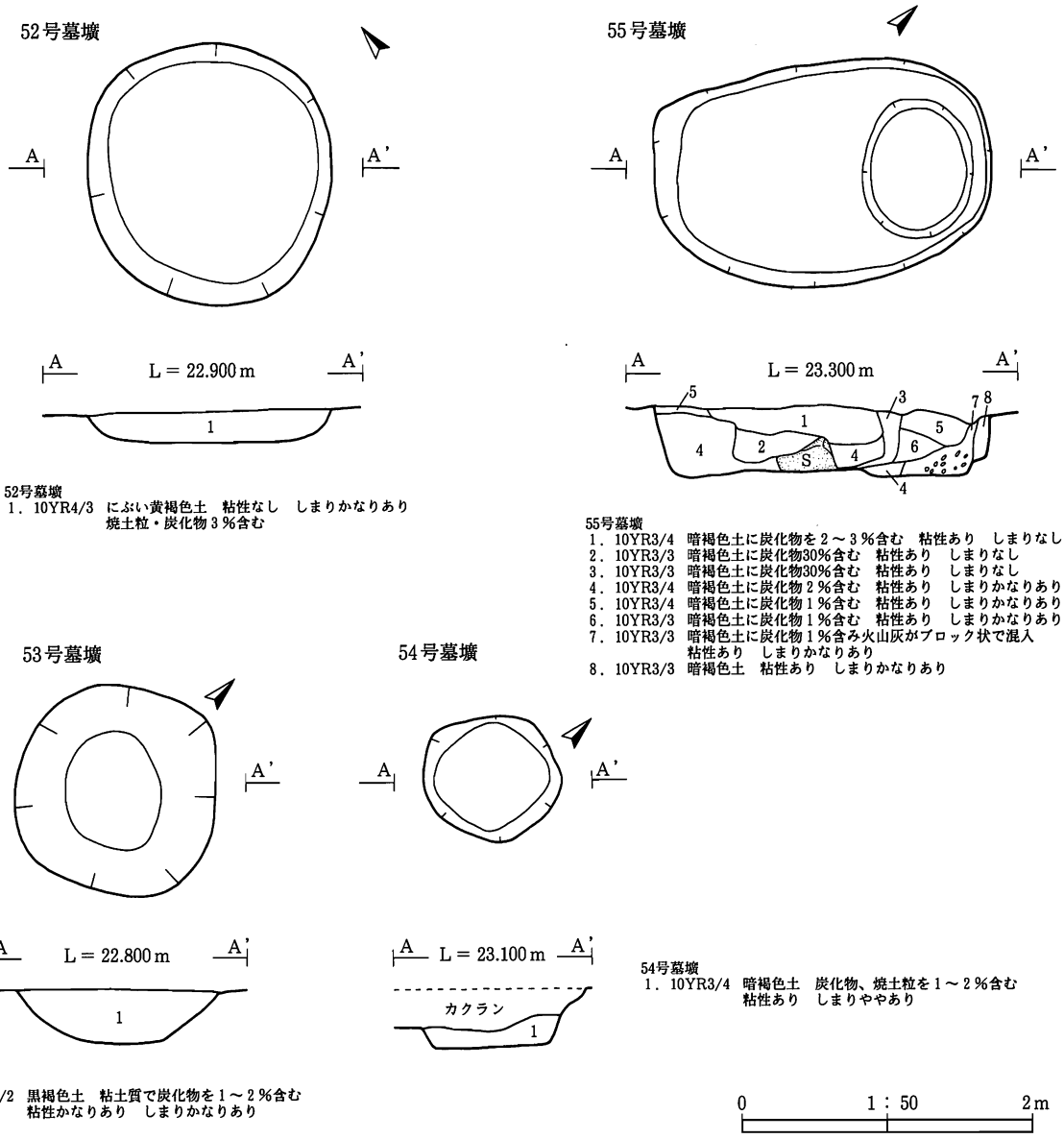
時期　出土遺物から近世（17～19世紀）の遺構と考えられる。

55号墓壙

遺構（第108図、写真図版72）

〈位置〉　ＶＡ４ｊ～ＶＡ５ｊグリッド、標高23.0ｍに位置する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸2.33ｍ、短軸1.55ｍ、深さ19㎝、面積は2.98㎡を測る。平面形は不整な楕円形を呈する。長軸の軸線方向はＮ-36°-Ｅで、形状と遺物から墓壙として登録した。



52号墓壙
1．10YR4/3　にぶい黄褐色土　粘性なし　しまりかなりあり
　　焼土粒・炭化物３％含む

55号墓壙
1．10YR3/4　暗褐色土に炭化物を２～３％含む　粘性あり　しまりなし
2．10YR3/3　暗褐色土に炭化物30％含む　粘性あり　しまりなし
3．10YR3/3　暗褐色土に炭化物30％含む　粘性あり　しまりなし
4．10YR3/4　暗褐色土に炭化物２％含む　粘性あり　しまりかなりあり
5．10YR3/4　暗褐色土に炭化物１％含む　粘性あり　しまりかなりあり
6．10YR3/3　暗褐色土に炭化物１％含む　粘性あり　しまりかなりあり
7．10YR3/3　暗褐色土に炭化物１％含み火山灰がブロック状で混入
　　粘性あり　しまりかなりあり
8．10YR3/3　暗褐色土　粘性あり　しまりかなりあり

53号墓壙
1．10YR3/2　黒褐色土　粘土質で炭化物を１～２％含む
　　粘性かなりあり　しまりかなりあり

54号墓壙
1．10YR3/4　暗褐色土　炭化物、焼土粒を１～２％含む
　　粘性あり　しまりややあり

第108図　52～55号墓壙

〈埋土〉　暗褐色土と褐色土がブロック状に堆積し、明らかな人為堆積を呈する。

遺物（第210図、写真図版142・150）

〈出土状況〉　埋土中から肥前産の皿（912）、銭貨（794）が出土している。794は文久永宝である。

時期　出土遺物から近世（19世紀）の遺構と考えられる。

56号墓壙

遺構（第109図、写真図版73）

〈位置〉　ＶＢ６ｈグリッド、標高22.8ｍに位置する。

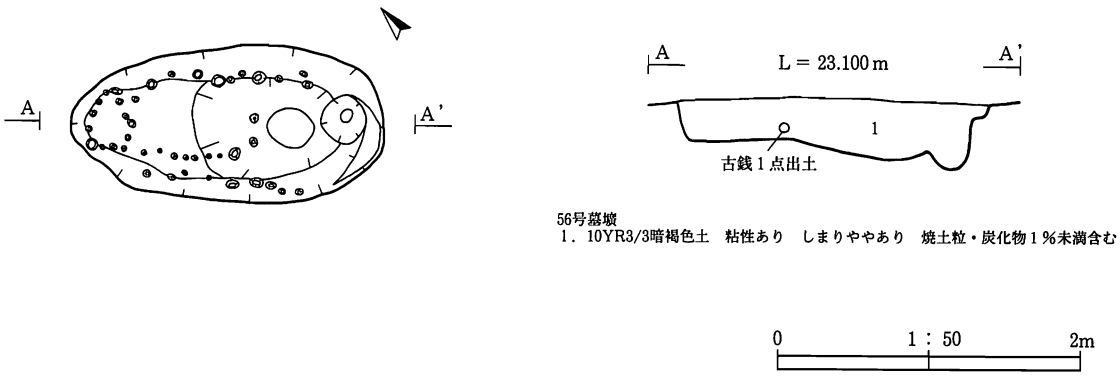
〈規模・平面形〉　規模は長軸2.07ｍ、短軸1.03ｍ、深さ36㎝、面積は1.73㎡を測る。平面形は楕円形を呈する。長軸の軸線方向はＥ-44°-Ｓで、遺物と形状から墓壙として登録した遺構である。

〈埋土〉　焼土ブロックを僅かに含む暗褐色土を主体に構成されている。

遺物（第210図、写真図版142）

〈出土状況〉　埋土中から寛永通宝（795）が出土している。

時期　出土遺物から近世（17～19世紀）の遺構と考えられる。



第109図　56号墓壙

12. 道路状遺構

道路状遺構は１基を登録した。

１号道路状遺構

遺構（第110図、写真図版74）

〈位置〉　調査区ＶＦ５ｉ～ＶＦ６ｉグリッド、標高22.3～22.4ｍに位置する。

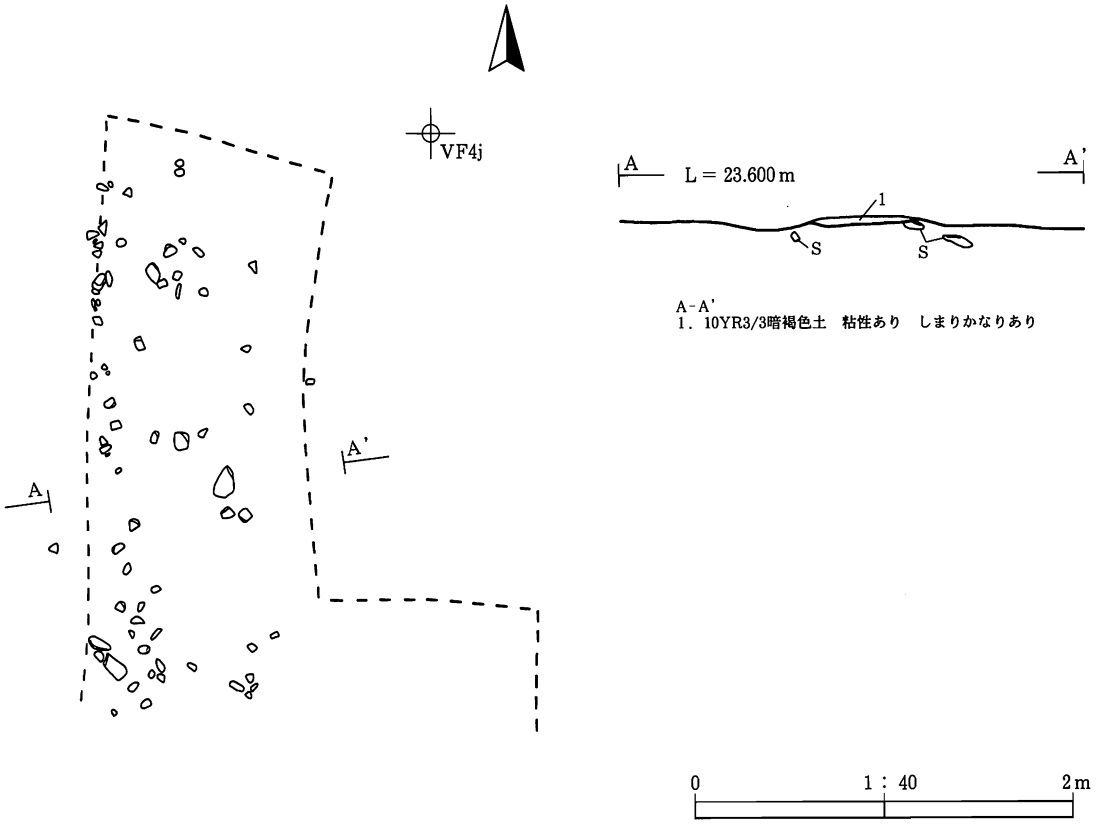
〈規模・方向〉　幅は1.84～1.93ｍを測る。調査区は幅５ｍであったため全容は不明であるが、検出された範囲での方向は南－北（Ｎ-0°-Ｅ）で、北側の墓域や里遺跡方向と南側の居住区間を連絡する遺構と考えられる。

〈検出状況・構造〉　表土除去時に少量の礫が出土したが、遺構の存在を明確に示す量ではなく、礫の散在を確認する程度のものであった。このため遺構の存在は、調査区境界の断面と調査区外北側への確認調査により確定した。

道路両側には側溝はなく暗褐色土を貼って作られている。また、開田時の削平も考えられるため、礫が構造材として用いられたものか、あるいは石敷き用のものでるかは不明である。

〈出土状況〉　遺物は出土していない。

時期　検出層位から、13～15世紀頃の遺構と考えられる。



第110図　１号道路状遺構

13. 建物跡

掘立柱建物跡は27棟を登録した。礎石建物跡が１棟、掘立柱建物跡26棟が検出された。また、柱穴列の中にも本来建物跡になるものも含まれていると考えられるが、調査では対応する柱穴が検出されなかったため別項で掲載している。

建物跡の平面図の縮尺は1/100である。平面図に付した寸法（数字）はセンチメートル：cm、（ ）内が尺（30.3cm）を単位として掲載した。また、柱穴の深さと底面の標高値はそれぞれ表中にセンチメートル：cmとメートル：m（同順）で表記している。

１号建物跡（掘立柱建物）

遺構（第111図）

〈位置・重複関係〉　調査区ⅡＤ６ｊグリッド、標高23.5ｍに位置する。２・３号建物跡と重複する。

〈平面形式〉　桁行３間、梁行１間で長方形のプランである。桁行は総長611cm（20.2尺）、梁行は265cm（8.7尺）で、面積は約4.9坪である。使用した柱穴は６個である。

〈方向〉　桁行の軸方向はＮ-80°-Ｅである。軸線方向は16号建物跡とほぼ同一である。

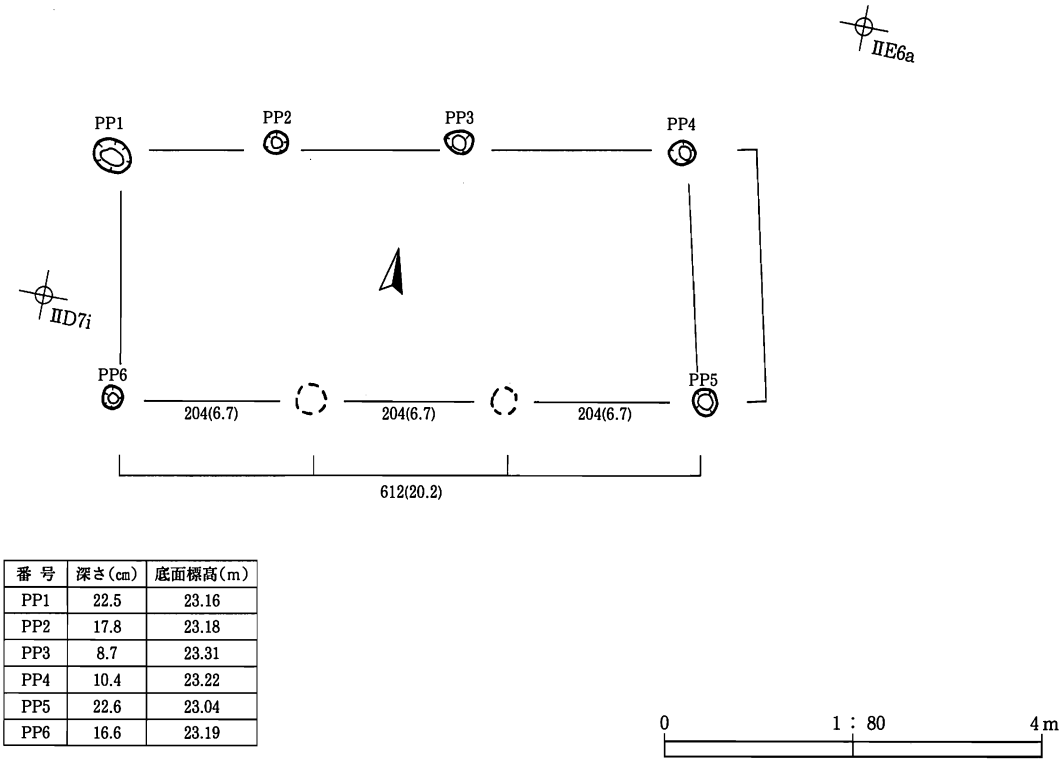
〈柱間寸法〉　桁行は204cm（平均6.4尺）、梁行は265cm（8.7尺）である。

〈建物の性格〉　墓域北側の竪穴住居跡や工房跡に付随する施設と考えられる。

遺物

〈出土状況〉　PP２の埋土中から土師器の甕片（563）が出土している。

時期　検出層位、軸線方向から16号建物跡と同時期の12～14世紀の遺構の可能性が高い。



番 号	深さ(cm)	底面標高(m)
PP1	22.5	23.16
PP2	17.8	23.18
PP3	8.7	23.31
PP4	10.4	23.22
PP5	22.6	23.04
PP6	16.6	23.19

第111図　１号建物跡

2号建物跡（掘立柱建物）

遺構（第112図）

〈位置・重複関係〉　調査区ⅡD8h～ⅡE9aグリッド、標高23.3mに位置する。1・3号建物跡と重複している。

〈平面形式〉　北面と南面に廂を持つ。身舎の桁行3間、梁行1間で長方形のプランである。身舎桁行は総長705cm（23.3尺）、梁行は360cm（11.9尺）で、面積は約7.9坪である。使用した柱穴は11個である。

〈方向・柱間寸法〉　桁行の軸方向はN-77°-Wである。桁行は245cm（8.1尺）と215cm（7.1尺）を基準に造られているものと考えられる。廂幅は120cm（4尺）を測る。3号建物との建て替えに伴うものと考えられるが詳細は不明である。

遺物

〈出土状況〉　遺物は出土していない。

時期　検出層位や周辺の出土遺物から、10世紀中頃～11世紀頃の遺構と考えられる。

3号建物跡（掘立柱建物）

遺構（第112図）

〈位置・重複関係〉　調査区ⅡE7h～ⅡE9aグリッド、標高23.4mに位置する。1・2号建物跡と重複するが、柱穴の新旧関係は確認できず詳細は不明である。2号建物跡との建て替えに伴う遺構と考えられる。

〈平面形式〉　北面と南面に廂を持つ。桁行4間、梁行2間で長方形のプランである。桁行は総長9.70m（32尺）、廂を含む梁行は6.75m（22.3尺）で、身舎の面積は約14.1坪である。使用した柱穴は18個である。

廂の幅は100cm（3.3尺）である。

〈方向・柱間寸法〉　桁行の軸方向はN-77°-Wである。桁行と梁行の間尺は245cm（8.1尺）が用いられており、廂もこれに準じている。

遺物

〈出土状況〉　遺物は出土していない。

時期　検出層位や周辺の出土遺物から、10世紀中頃～11世紀頃の遺構と考えられる。

4号建物跡（掘立柱建物）

遺構（第113図、写真図版75）

〈位置・重複〉　調査区ⅡE6e～ⅡE8gグリッド、標高23.1mに位置する。5号建物跡にほぼ重複し、北北西に約40cmずれる。5号建物跡との新旧は不明であるが、建て替えに伴うものと想定される。

〈平面形式〉　桁行4間、梁行2間で長方形のプランと考えられる。桁行は総長880cm（29尺）、梁行は540cm（17.8尺）で、面積は約14.4坪である。使用した柱穴は10個でる。

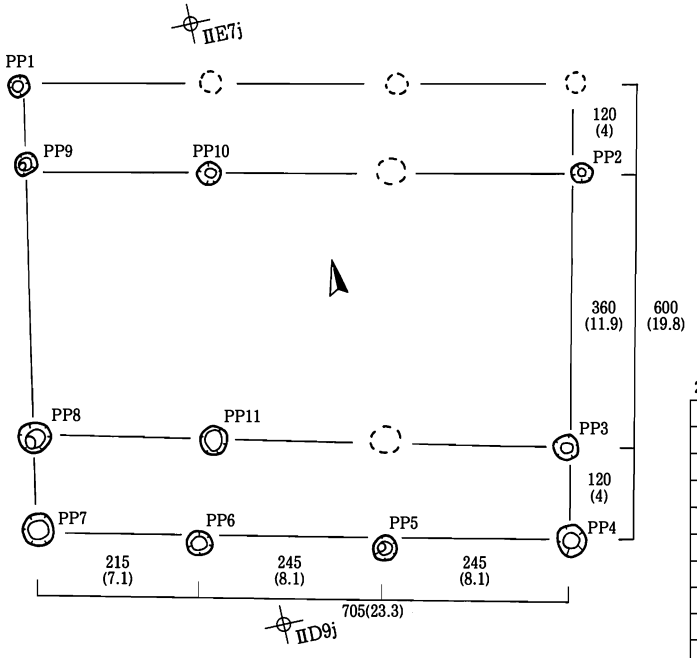
〈方向・平均柱間寸法〉　桁行の軸方向はN-84°-Wである。桁行は外側が230cm（7.6尺）、内側が210cm（6.9尺）であるため、身舎の東側と西側に張り出し等を持つものと推定される。梁行は270cm（8.9尺）と考えられる。

〈性格〉　墓域北側の竪穴住居跡や工房跡に付随する施設と考えられる。

〈出土状況〉　遺物は出土していない。

時期　検出層位や軸線方向と周辺の出土遺物から、10世紀中頃～11世紀頃の遺構と考えられる。

2号建物跡

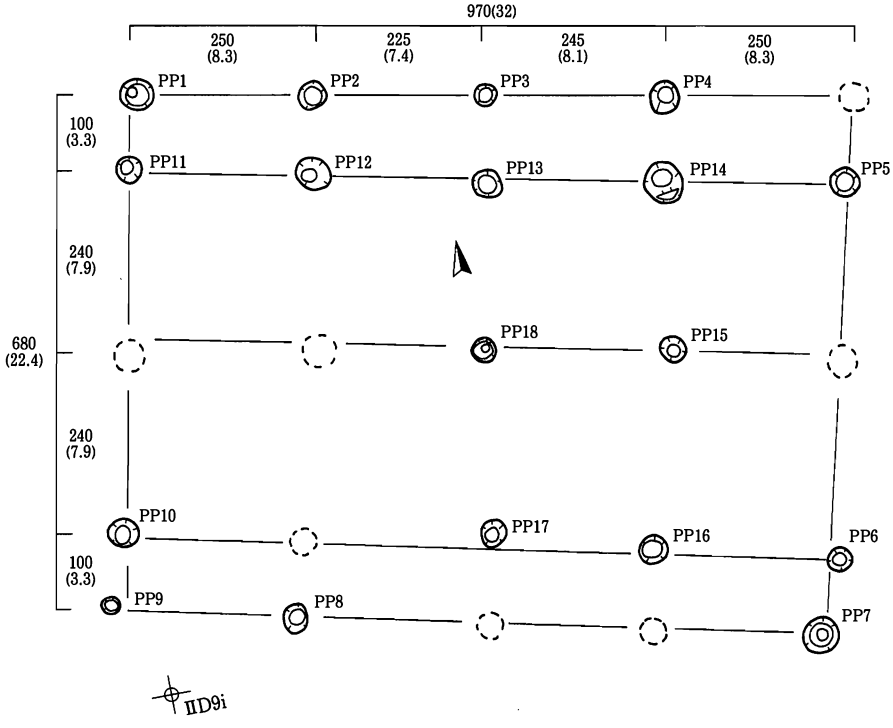


2号建物跡

番号	深さ(cm)	底面標高(m)
PP 1	18.4	23.20
PP 2	21.0	23.02
PP 3	19.9	23.12
PP 4	26.6	23.04
PP 5	38.0	22.99
PP 6	29.0	23.05
PP 7	6.2	23.25
PP 8	17.6	23.13
PP 9	13.4	23.23
PP10	30.8	23.04
PP11	21.0	23.15

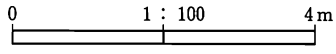
ⅡE7b

3号建物跡



3号建物跡

番号	深さ(cm)	底面標高(m)
PP 1	33.6	23.06
PP 2	18.8	23.16
PP 3	14.2	23.17
PP 4	18.6	23.06
PP 5	15.2	23.01
PP 6	19.2	23.07
PP 7	18.6	23.08
PP 8	23.1	23.09
PP 9	24.4	23.02
PP10	27.3	23.03
PP11	33.2	23.01
PP12	36.6	23.00
PP13	11.4	23.22
PP14	49.7	22.80
PP15	26.0	23.04
PP16	20.0	23.14
PP17	23.9	23.15
PP18	18.3	23.17



第112図　2・3号建物跡

5号建物跡（掘立柱建物）

遺構（第114図）

〈位置〉　調査区ⅡＥ6ｅ～ⅡＥ8ｇグリッド、標高23.1ｍに位置する。4号建物跡にほぼ重複し、南南東に約40㎝ずれる。4号建物跡との新旧は不明であるが、建て替えに伴うものと想定される。

〈平面形式〉　桁行4間、梁行2間の長方形のプランと考えられる。桁行総長800㎝（26.4尺）、梁行は500㎝（16.5尺）、面積は約12.1坪である。使用した柱穴は7個である。

〈方向・柱間寸法〉　桁行の軸方向はＮ-85°-Ｗである。桁行は200㎝（6.6尺）、梁行では245㎝（8.1尺）が用いられている。

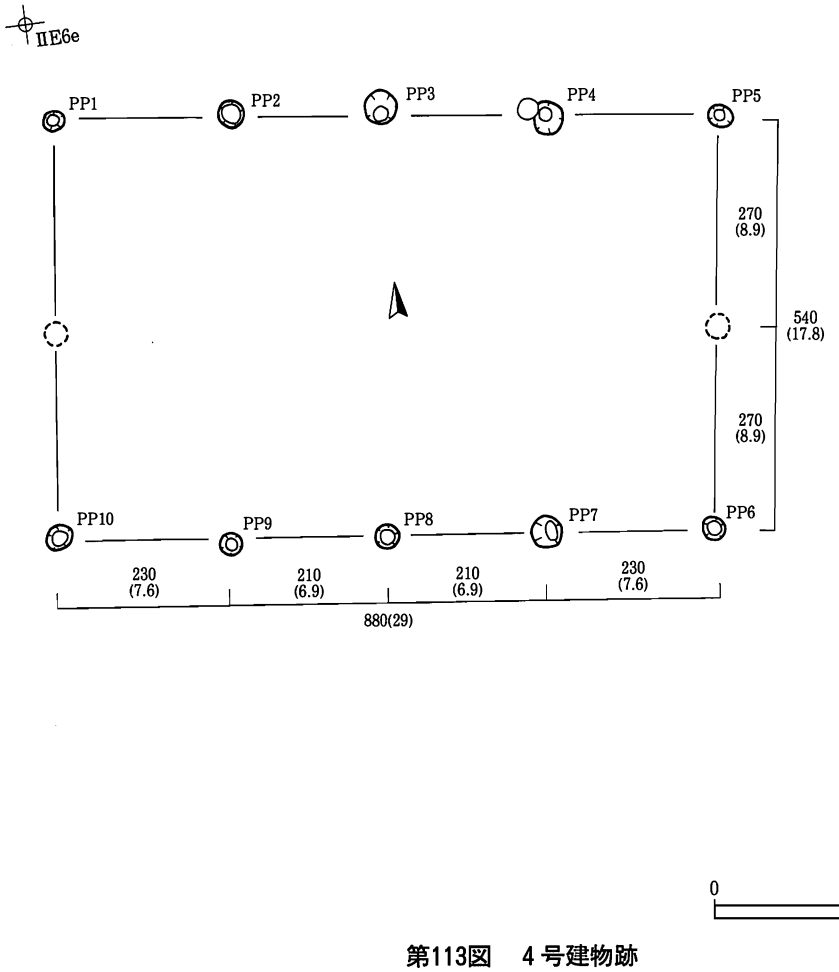
遺物・時期　遺物は出土していない。検出層位や軸線方向と周辺の出土遺物から、10世紀中頃～11世紀頃の遺構と考えられる。

6号建物跡（掘立柱建物）

遺構（第114図）

〈位置・重複関係〉　調査区ⅡＥ7ｃ～ⅡＥ9ｇグリッド、標高23.0ｍに位置する。8～10号建物跡と重複するが、新旧関係については確認できず詳細は不明である。

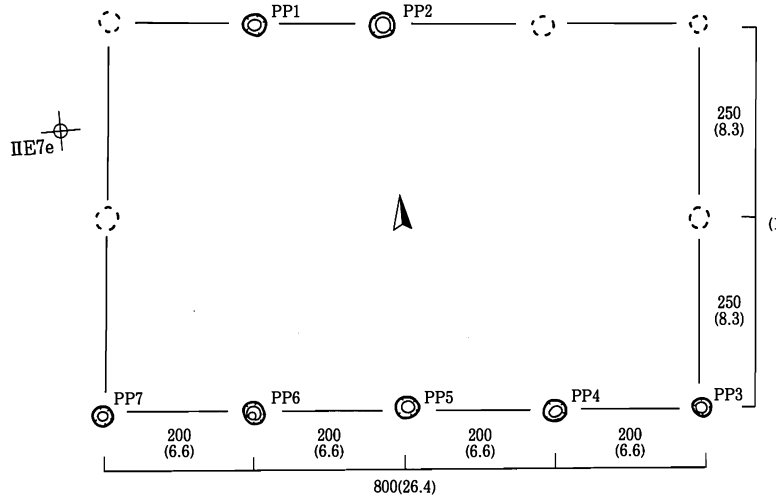
〈平面形式〉　桁行5間、梁行2間の長方形のプランである。桁行の総長は1310㎝（43.2尺）、梁行は470㎝



番号	深さ(㎝)	底面標高(m)
PP 1	10.2	22.98
PP 2	26.3	23.00
PP 3	39.3	22.82
PP 4	19.6	22.93
PP 5	20.5	22.90
PP 6	11.2	23.00
PP 7	65.8	22.49
PP 8	31.8	22.84
PP 9	24.2	22.90
PP10	14.8	22.99

第113図　4号建物跡

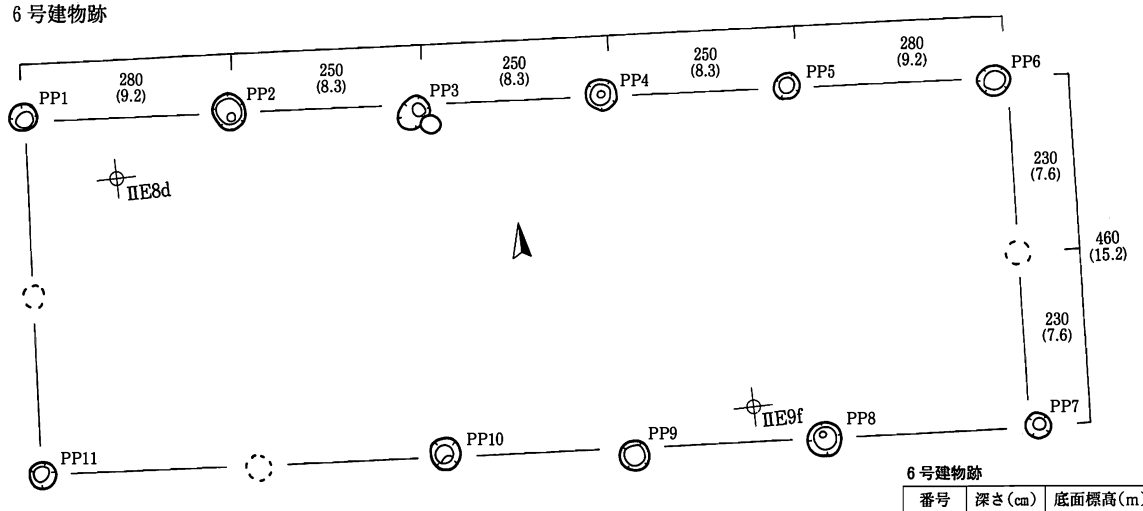
5号建物跡



5号建物跡

番号	深さ(cm)	底面標高(m)
PP1	13.8	23.03
PP2	12.6	23.00
PP3	29.8	22.82
PP4	19.4	22.91
PP5	26.8	22.91
PP6	20.5	22.96
PP7	10.8	23.04

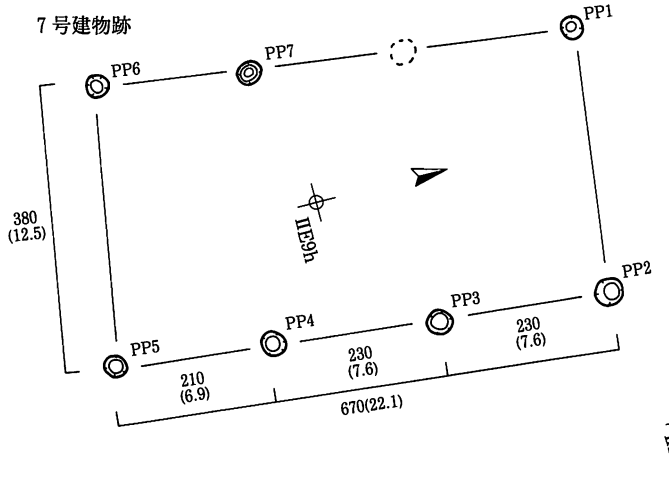
6号建物跡



6号建物跡

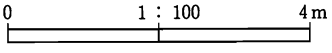
番号	深さ(cm)	底面標高(m)
PP 1	27.2	22.79
PP 2	21.2	22.87
PP 3	33.2	22.81
PP 4	43.4	22.73
PP 5	38.0	22.77
PP 6	41.9	22.69
PP 7	26.7	22.77
PP 8	45.6	22.64
PP 9	37.5	22.70
PP10	42.2	22.67
PP11	41.4	22.61

7号建物跡



7号建物跡

番号	深さ(cm)	底面標高(m)
PP1	25.7	22.83
PP2	28.9	22.78
PP3	28.2	22.79
PP4	19.5	22.79
PP5	10.6	22.82
PP6	30.7	22.59
PP7	21.2	22.83



第114図　5～7号建物跡

（15.5尺）で、面積は約18.7坪である。使用した柱穴は11個である。梁行は235cm（7.8尺）の2間の可能性もある。

〈方向・柱間寸法・出土状況〉　桁行の軸方向はN-86°-Wである。桁行の外側は280cm（9.2尺）、内側は250cm（8.3尺）、梁行は230cm（7.6尺）が使われている。遺物は出土していない。

〈建物の性格〉　一見して回廊風の建物跡が想定されるが、詳細に付いては不明である。

時期　検出層位や軸線方向、周辺の出土遺物から、10世紀中頃～11世紀頃の遺構と考えられる。

7号建物跡（掘立柱建物）

遺構（第114図）

〈位置・重複関係〉　調査区ⅡE8g～ⅡE9hグリッド、標高23.0mに位置する。8号建物跡、3・4号柱穴列と重複するが、柱穴の新旧関係が不明のため詳細については不明である。

〈平面形式〉　桁行3間、梁行1間の長方形のプランである。桁行は総長670cm（22.1尺）、梁行は380cm（12.5尺）で、面積は約7.7坪である。使用した柱穴は7個である。

〈方向・柱間寸法〉　桁行の軸方向はN-6°-Eである。桁行は230cm（7.6尺）と210cm（6.9尺）、梁行は380cm（12.5尺）である。方向は6号建物跡にほぼ直交する。

遺物

〈出土状況〉　PP4の埋土中から土師器の甕片（543）が出土している。

時期　検出層位や軸線方向から10世紀中頃～11世紀頃の遺構である可能性が高いと考えられる。

8号建物跡（掘立柱建物）

遺構（第115図）

〈位置・重複関係〉　調査区ⅡE8e～ⅡD9gグリッド、標高23.1mに位置する。6・9・10号建物跡と重複するが新旧関係は不明である。8～11号建物跡の建て替えに伴う遺構と考えられる。

〈平面形式〉　北面に廂を持つ。南面からは検出廂と思われる柱穴は確認されなかった。桁行3間、梁行2間の長方形プランと考えられる。桁行は総長830cm（27.4尺）、身舎の梁行は440cm（14.5尺）で面積は約11.1坪である。使用した柱穴は12個である。

〈建物の性格・方向・柱間寸法〉　廂はないが10・11号建物跡に規模等が類似することから建て替えに伴うものと考えられるが詳細は不明である。桁行の軸方向はN-87°-Eである。桁行の外側は260cm（8.6尺）、中央が310cm（10.2尺）、梁行は220cm（7.3尺）が使われている。廂は幅約112cm（3.7尺）である。

遺物・時期　軸線方向や周辺の出土遺物から、13～14世紀の遺構と考えられる。

9号建物跡（掘立柱建物）

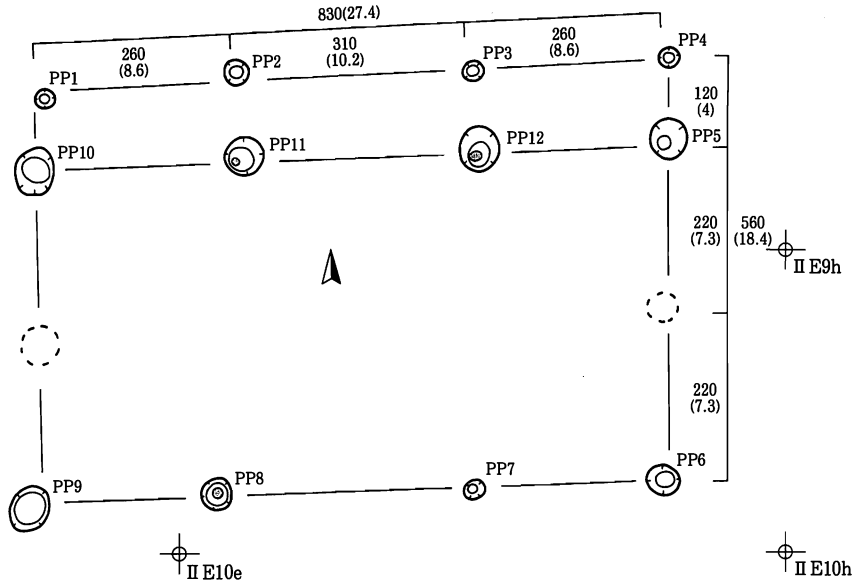
遺構（第115図）

〈位置・重複関係〉　調査区ⅡE8d～ⅡE9fグリッド、標高23.1mに位置する。6・8・10号建物跡と重複するが、柱穴の新旧関係は不明である。8～11号建物跡の建て替えに伴う遺構と考えられる。

〈平面形式・建物の性格〉　桁行2間、梁行2間の長方形プランと考えられる。桁行は総長540cm（17.8尺）、梁行は460cm（15.2尺）で、面積は約7.5坪である。使用した柱穴は5個である。

10号建物跡と同一の規格・規模であることから建て替えに伴うものと考えられるが、柱穴の新旧関係は確

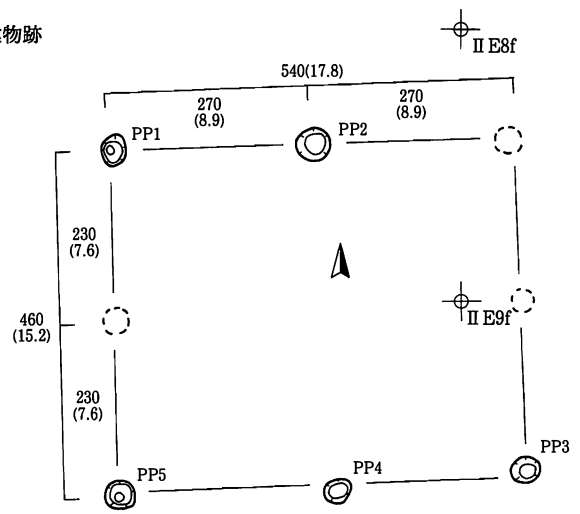
8号建物跡



8号建物跡

番号	深さ(cm)	底面標高(m)
PP1	18.9	22.98
PP2	32.2	22.91
PP3	23.0	22.89
PP4	10.0	23.03
PP5	34.1	22.80
PP6	11.8	22.79
PP7	17.4	22.74
PP8	50.4	22.59
PP9	50.6	22.59
PP10	23.1	22.93
PP11	42.9	22.77
PP12	50.9	22.63

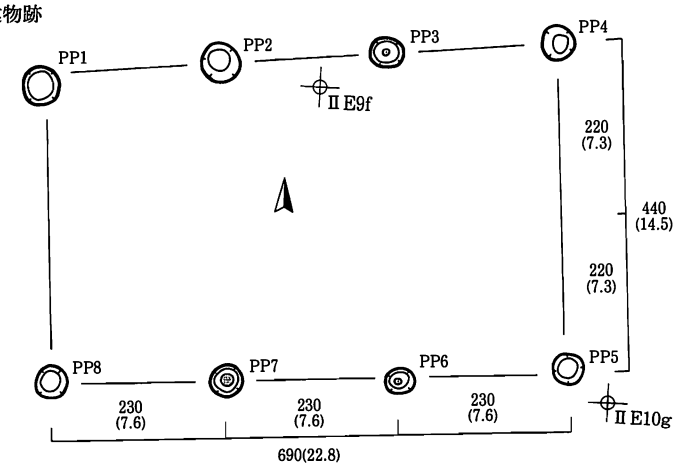
9号建物跡



9号建物跡

番号	深さ(cm)	底面標高(m)
PP1	8.8	23.07
PP2	25.8	22.92
PP3	13.0	22.88
PP4	8.9	22.95
PP5	28.5	22.77

10号建物跡



10号建物跡

番号	深さ(cm)	底面標高(m)
PP1	31.3	22.78
PP2	34.5	22.80
PP3	27.6	22.89
PP4	37.4	22.75
PP5	15.1	22.77
PP6	37.7	22.70
PP7	33.9	22.76
PP8	33.0	22.75

第115図　8～10号建物跡

認できなかったため詳細は不明である。

〈方向・柱間寸法〉　桁行の軸方向はN-88°-Eである。この方向には中尊寺が位置し、また、逆方向には束稲山がある。桁行270cm（8.9尺）、梁行は230cm（7.6尺）が用いられていると考えられる。

遺物・時期　検出状況から13～14世紀前半の遺構と考えられる。

10号建物跡（掘立柱建物）

遺構（第115図、写真図版75）

〈位置〉　調査区ⅡE10e～ⅡE9fグリッド、標高23.0mに位置する。6・8・9号建物跡と重複する。8～11号建物跡の建て替えに伴う遺構と考えられる。

〈平面形式・方向・柱間寸法〉　桁行3間、梁行2間で長方形のプランと考えられる。桁行は総長690cm、梁行は440cmで、面積は約9.2坪である。使用した柱穴は8個である。桁行の軸方向はN-87°-Eである。桁行は230cm（7.6尺）、梁行は220cm（7.3尺）で造られている。面積は約9.2坪である。

〈建物の性格〉　規格・規模とも8号建物跡や11号建物跡に類似することから、建て替えに伴うものと考えられる。新旧関係は不明である。

遺物・時期　検出状況から13～14世紀前半の遺構と考えられる。

11号建物跡（掘立柱建物）

遺構（第116図）

〈位置・重複関係〉　調査区ⅡE10eグリッド、標高23.0mに位置する。13号建物跡と重複する。

〈平面形式〉　桁行1間、梁行1間で方形のプランである。桁行、梁行とも360cm（11.9尺）を測り、面積は約3.9坪である。使用した柱穴は4個である。

〈付属施設・建物の性格〉　1号墓壙を囲むように造られており、1号墓壙を覆う上屋である可能性が高い。検出状況から東側に入り口を持つ御堂的な建物跡と考えられる。

〈方向〉　桁行の軸方向はN-85°-Eである。

遺物・時期　1号墓壙からは12世紀後半の手づくねかわらけ片や渥美産陶器が出土しているため、12世紀後半の遺構と考えられる。

12号建物跡（掘立柱建物）

遺構（第116図）

〈位置〉　調査区ⅡE10d～ⅢE1eグリッド、標高3.1mに位置する。

〈平面形式〉　桁行3間、梁行1間で長方形のプランである。桁行は総長600cm（19.8尺）、梁行は350cm（11.6尺）で、面積は約6.4坪である。使用した柱穴は7個である。

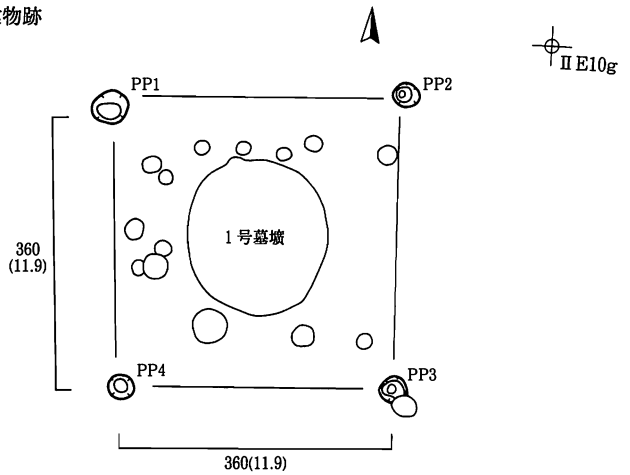
〈方向・柱間寸法〉　桁行の軸方向はN-15°-Eである。桁行600cm（19.8尺）、梁行は350cm（11.6尺）を測る。方向は7号建物跡に類似する。

遺物

〈出土状況〉　PP1から土師器の内黒の坏片（405）が出土している。

時期　検出層位や軸線方向から10世紀中頃～11世紀頃の遺構である可能性が高いと考えられる。

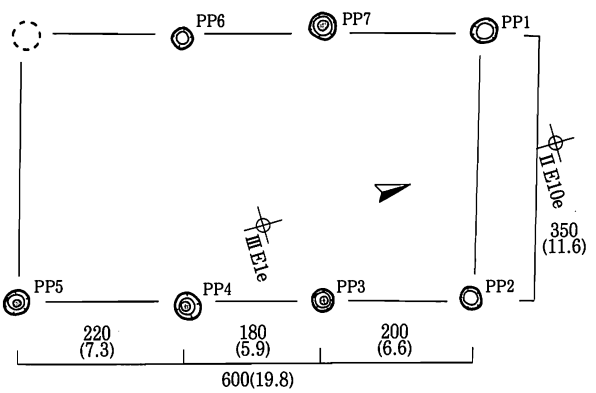
11号建物跡



11号建物跡

番号	深さ(cm)	底面標高(m)
PP1	26.5	22.85
PP2	18.5	22.84
PP3	37.6	22.70
PP4	22.4	22.90

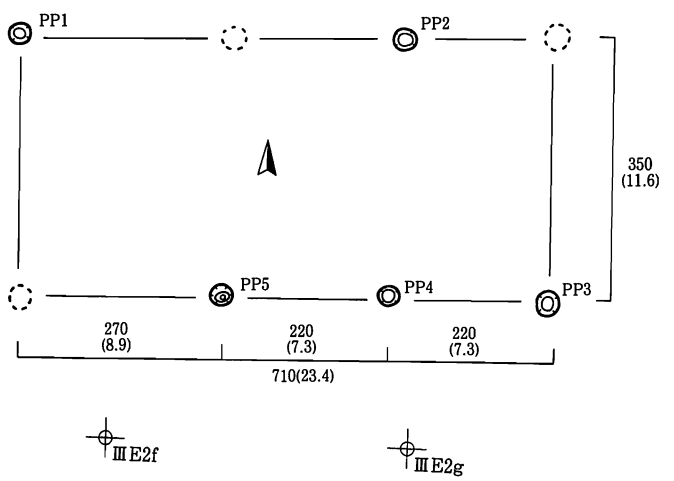
12号建物跡



12号建物跡

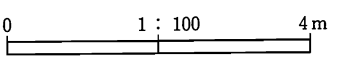
番号	深さ(cm)	底面標高(m)
PP1	13.5	22.91
PP2	9.3	23.04
PP3	25.0	22.88
PP4	16.7	22.89
PP5	9.7	22.92
PP6	12.1	22.85
PP7	33.8	22.84

13号建物跡



13号建物跡

番号	深さ(cm)	底面標高(m)
PP1	13.9	23.00
PP2	10.2	22.91
PP3	18.8	22.84
PP4	9.0	22.96
PP5	23.4	22.88



第116図　11～13号建物跡

13号建物跡（掘立柱建物）

遺構（第116図）

〈位置・重複関係〉　調査区ⅡE10e～ⅢE1eグリッド、標高23.1mに位置する。11・14号建物跡と重複する。

〈平面形式〉　桁行3間、梁行1間の長方形プランと考えられる。桁行は総長710cm（23.4尺）、梁行は350cm（11.6尺）で、面積は約7.5坪である。使用した柱穴は5個である。

〈方向・柱間寸法〉　桁行の軸方向はN-88°-Eである。間尺は、桁行が270cm（7.3尺）と220cm（7.3尺）、梁行は350cm（11.6尺）が使用されている。

遺物・時期　検出状況や軸線方向から、13～14世紀頃の遺構である可能性が高いと考えられる。

14号建物跡（掘立柱建物）

遺構（第117図）

〈位置・重複関係〉　調査区ⅢE1e～ⅢE2gグリッド、標高23.1mに位置する。11・13号建物跡と重複する。

〈平面形式〉　桁行3間、梁行1間の長方形プランである。桁行は総長579cm（19.1尺）、梁行350cm（11.6尺）で、面積は約6.2坪である。使用した柱穴は7個である。

〈方向・柱間寸法〉　桁行の軸方向はN-91°-Eである。間尺は、桁行193cm（平均6.4尺）が用いられている。方向は4～6号建物跡に類似する。

遺物・時期　検出層位や軸線方向から10世紀中頃～11世紀頃の遺構である可能性が高いと考えられる。

15号建物跡（掘立柱建物）

遺構（第117図、写真図版76）

〈位置・重複関係〉　調査区ⅢD3e～ⅢD5gグリッド、標高23.4mに位置する。1号周溝、16号建物跡と重複する。

〈平面形式〉　桁行2間、梁行2間で長方形プランと考えられる。桁行は、総長820cm（27.1尺）、梁行は500cm（16.5尺）で、面積は約12.4坪である。使用した柱穴は6個である。

〈方向・柱間寸法〉　桁行の軸方向はN-70°-Eである。間尺は、桁行410cm（13.5尺）、梁行250cm（8.3尺）が使用されている。

遺物

〈出土状況〉　PP1埋土中から土師器の坏片（532）が出土している。

時期　検出層位、軸線方向から12～14世紀の遺構である可能性が高い。

16号建物跡（掘立柱建物）

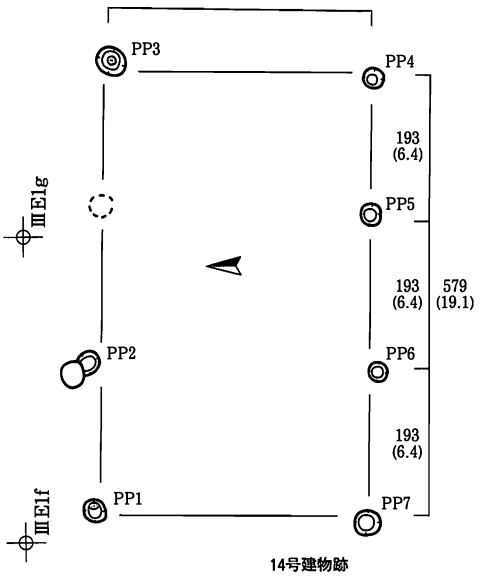
遺構（第117図、写真図版76）

〈位置・重複関係〉　調査区ⅢD3eh～ⅢD5ehグリッド、標高23.4mの1号周溝内に位置する。15号建物跡と重複する。墓域を囲む2号周溝の南西側（裏鬼門方向）に近接する。

〈平面形式〉　桁行2間、梁行3間の長方形プランで、四面に廂を持つ。身舎の桁行は総長410cm（13.5尺）、梁行は270cm（8.9尺）を測る。

〈方向・柱間寸法〉　桁行の軸方向はN-2°-E、梁行は、N-88°-Wである。間尺は桁行30cm（1.0尺）、梁行は90cm（2.9尺）が用いられているものと考えられる。廂の幅は30cm（1.0尺）である。

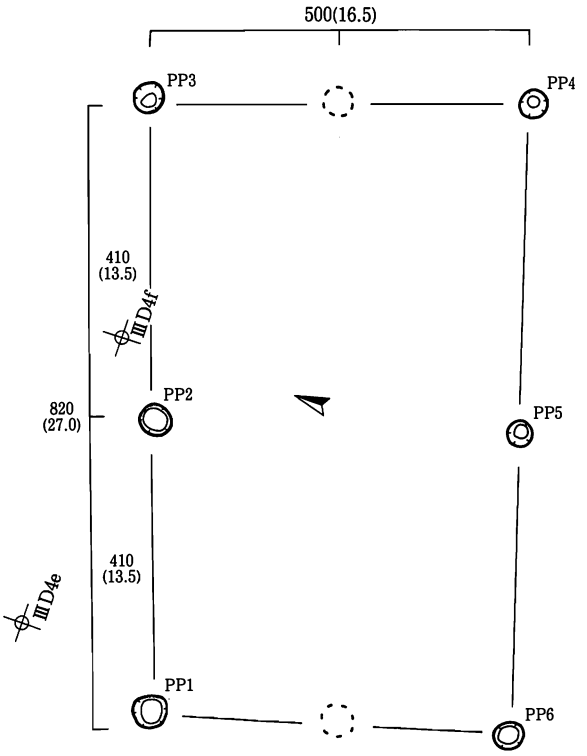
14号建物跡



14号建物跡

番号	深さ(cm)	底面標高(m)
PP1	17.4	22.94
PP2	16.3	22.90
PP3	32.8	22.70
PP4	13.4	22.94
PP5	17.0	22.89
PP6	22.0	22.88
PP7	24.2	22.86

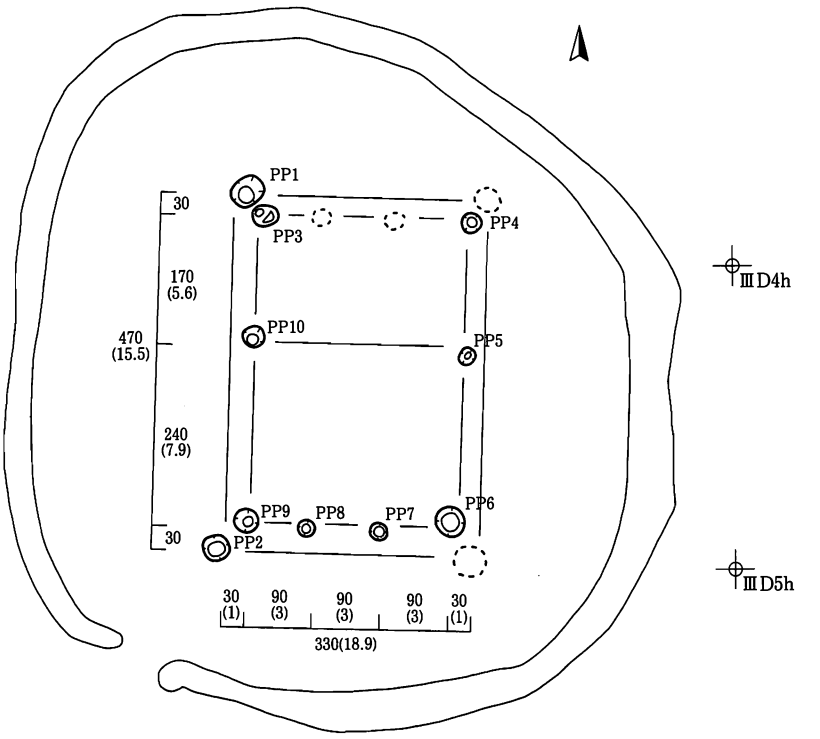
15号建物跡



15号建物跡

番号	深さ(cm)	底面標高(m)
PP1	19.0	23.16
PP2	21.2	23.25
PP3	—	—
PP4	26.7	23.15
PP5	27.8	23.10
PP6	12.2	23.19

16号建物跡



16号建物跡

番号	深さ(cm)	底面標高(m)
PP1	78.1	22.71
PP2	22.7	23.16
PP3	34.0	22.72
PP4	14.2	23.34
PP5	27.7	23.20
PP6	18.0	23.28
PP7	24.3	23.06
PP8	23.2	23.12
PP9	18.6	23.19
PP10	31.7	23.19

0　1：100　4m

第117図　14～16号建物跡

〈建物の性格〉　1号周溝に伴う建物跡と考えられる。規模等から祭祀関係の御堂等の建物跡である可能性が高いと考えられる。

遺物・時期　1号周溝から白磁片（756）と景祐元宝（1034）が出土していることから、12世紀の遺構である可能性が高いと考えられる。

17号建物跡（掘立柱建物）

遺構（第118図、写真図版77）

〈位置・重複関係〉　調査区ⅣB６ｃ～ⅣB９ｇグリッド、標高22.7ｍに位置する。18～20号建物跡の西側に接する。新旧関係は確認されず、詳細が不明である。規模等から建て替えに伴うものと考えられる。また、PP３・PP４は21号建物跡と柱穴を重複するが、調査では切り合い等は確認されていない。

〈平面形式〉　桁行４間、梁行２間の長方形プランである。北東辺と南西辺に廂を持つ。桁行は総長1440㎝（47.5尺）、身舎梁行は544㎝（20.0尺）、面積は約23.7坪である。使用した柱穴は20個である。

〈方向・柱間寸法〉　桁行の軸方向はＮ-55°-Ｗである。桁行は、360㎝（11.9尺）、梁行は272㎝（9.0尺）が用いられている。廂の幅は120㎝（4.0尺）である。

〈建物の性格〉　建物の形式から近世初頭の「きもいり」の居館跡と考えられる。

遺物（第210・218図、写真図版149）

〈出土状況〉　PP４の埋土中から肥前産の皿（口縁部片）、PP17から煙管（899）、PP20から寛永通宝（799）が出土している。

時期　形式・規模から近世初頭の遺構と考えられる。

18号建物跡（掘立柱建物）

遺構（第118図）

〈位置・重複関係〉　調査区ⅣB７ｈ～ⅣB９ｊグリッド、標高22.7ｍに位置する。17号建物跡の東側に接する。20・21号建物跡と重複するが、柱穴の新旧関係は確認されず詳細が不明である。建て替えに伴うものと考えられる。

〈平面形式〉　桁行６間、梁行３間の長方形プランである。桁行総長は1230㎝（40.6尺）、梁行588㎝（19.4尺）、面積は約21.9坪である。使用した柱穴は13個である。

〈方向・柱間寸法〉　桁行の軸方向はＮ-60°-Ｗである。桁行は205㎝（6.8尺）、梁行は196㎝（6.5尺）とが用いられている。

〈建物の性格〉　19・20号建物跡の建て替えに伴う遺構と考えられる。

遺物・時期　周辺から出土した近世陶磁器類や検出状況から、近世の遺構と考えられる。

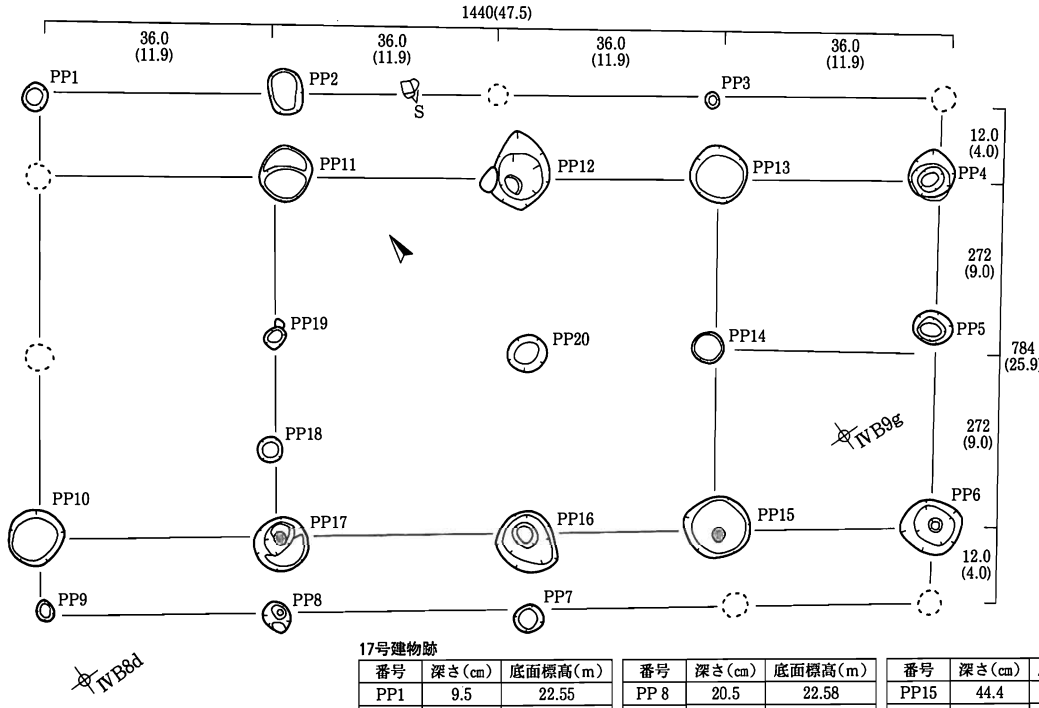
19号建物跡（掘立柱建物）

遺構（第119図）

〈位置・重複関係〉　調査区ⅣB７ｈ～ⅣB９ｊグリッド、標高22.7ｍに位置する。18・20号建物跡と重複するが、柱穴の新旧関係は確認されず詳細は不明である。また、PP３・PP４は21号建物跡と柱穴を重複するが、調査では切り合い等は確認されていない。

〈平面形式〉　桁行５間、梁行３間で長方形のプランである。桁行総長846㎝（27.9尺）、梁行は523㎝

17号建物跡



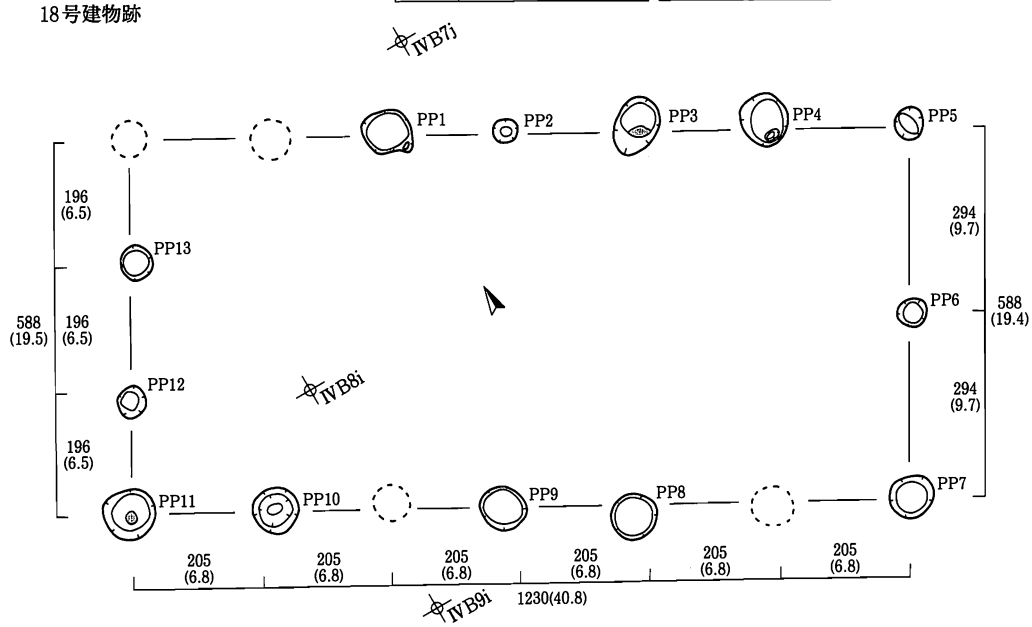
17号建物跡

番号	深さ(cm)	底面標高(m)
PP1	9.5	22.55
PP2	38.9	22.30
PP3	—	—
PP4	114.8	21.52
PP5	19.2	22.49
PP6	—	—
PP7	18.4	22.48

番号	深さ(cm)	底面標高(m)
PP 8	20.5	22.58
PP 9	14.6	22.53
PP10	35.4	22.26
PP11	55.6	22.14
PP12	58.5	22.05
PP13	57.0	22.06
PP14	25.5	22.34

番号	深さ(cm)	底面標高(m)
PP15	44.4	22.13
PP16	64.0	22.01
PP17	55.6	22.14
PP18	27.6	22.40
PP19	25.2	22.43
PP20	—	—

18号建物跡



18号建物跡

番号	深さ(cm)	底面標高(m)
PP1	36.2	22.26
PP2	31.8	22.35
PP3	35.2	22.26
PP4	50.0	22.13
PP5	21.6	22.38

番号	深さ(cm)	底面標高(m)
PP6	12.0	22.56
PP7	54.4	22.11
PP8	55.4	22.19
PP9	56.2	22.21
PP10	50.7	22.24

番号	深さ(cm)	底面標高(m)
PP11	52.8	22.17
PP12	24.8	22.42
PP13	12.8	22.60

0 1：120 4m

第118図　17・18号建物跡

(17.3尺) で、面積は約13.4坪である。使用した柱穴は11個である。

〈方向・柱間寸法〉　桁行の軸方向はN-55°-Wである。桁行は192cm (6.3尺) と154cm (平均5.1尺)、梁行は207cm (6.8尺) と158cm (5.2尺) が用いられている。

〈建物の性格〉　18・20号建物跡の建て替えに伴う遺構と考えられる。

遺物・時期　周辺から出土した近世陶磁器類や検出状況から、近世の遺構と考えられる。

20号建物跡 (掘立柱建物)

遺構 (第119図)

〈位置・重複関係〉　調査区ⅣB7h～ⅣB9jグリッド、標高22.7mに位置する。18・19号建物跡と重複し、PP2・PP3を20号建物跡と共有するが、調査では新旧関係を確認できず詳細は不明である。

〈平面形式〉　桁行4間、梁行2間の長方形プランを呈する。桁行総長は864cm (28.5尺)、梁行491cm (16.2尺) で、面積は約12.9坪である。使用した柱穴は9個である。

〈方向・柱間寸法〉　桁行の軸方向はW-33°-Nである。桁行では216cm (7.1尺)、梁行は245cm (8.1尺) が使用されていると考えられる。

〈建物の性格〉　「きもいり」居館に付随する施設で、18・19号建物跡の建て替えに伴うものと考えられる。

遺物 (第202図、写真図版134)

〈出土状況〉　PP4の埋土中から土師器の坏片 (529) が出土している。流れ込みと考えられる。

時期　周辺から出土した近世陶磁器類や検出状況から、近世の遺構と考えられる。

21号建物跡 (掘立柱建物)

遺構 (第119図、写真図版77)

〈位置〉　調査区ⅤC1i～ⅤC2jグリッド、標高22.6mに位置する。

〈平面形式〉　桁行3間、梁行2間の長方形プランである。桁行総長555cm (18.3尺)、梁行380cm (12.5尺) を測り、面積は約6.3坪である。使用した柱穴は8個である。

〈方向・柱間寸法・建物の性格〉　桁行の軸方向はN-77°-Wである。桁行は185cm (平均6.1尺)、梁行は190cm (9.3尺) が用いられている。17～20号建物跡の付属施設と考えられる。

遺物 (第208図、写真図版140)

〈出土状況〉　PP9埋土中から青白磁片 (766) が出土している。

時期　周辺から出土した近世陶磁器類や検出状況から近世の遺構と考えられる。

22号建物跡 (掘立柱建物)

遺構 (第120図、写真図版78)

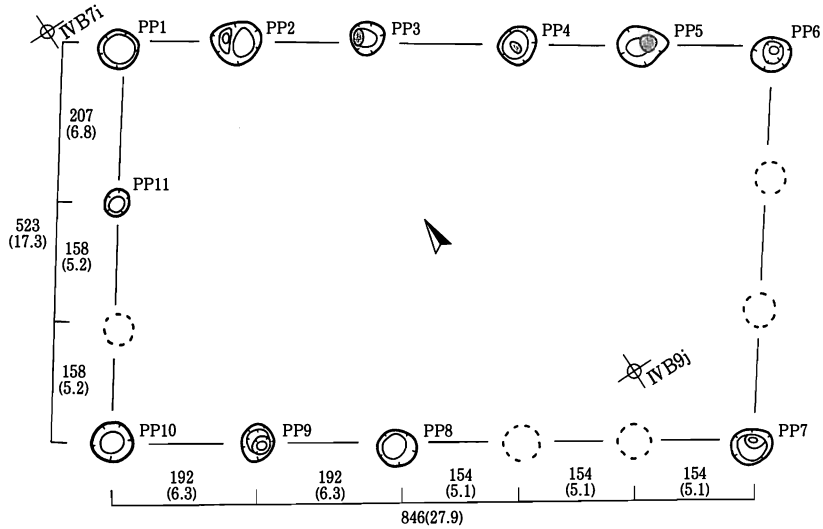
〈位置〉　調査区ⅣD8a～ⅣD10bグリッド、標高22.3mに位置する。

〈平面形式〉　桁行4間、梁行2間の長方形のプランである。桁行総長は745cm (24.6尺)、梁行450cm (14.9尺) で、面積は約10.1坪である。使用した柱穴は10個である。

〈方向・柱間寸法〉　桁行の軸方向はN-16°-Eである。間尺は桁行180cm (5.9尺)、梁行は225cm (7.4尺) が使用されている。17～20号建物跡の付属施設と考えられ、22号建物跡と同一の性格の遺構と思われる。

遺物・時期　検出層位と周辺の出土遺物から、近世の遺構と考えられる。

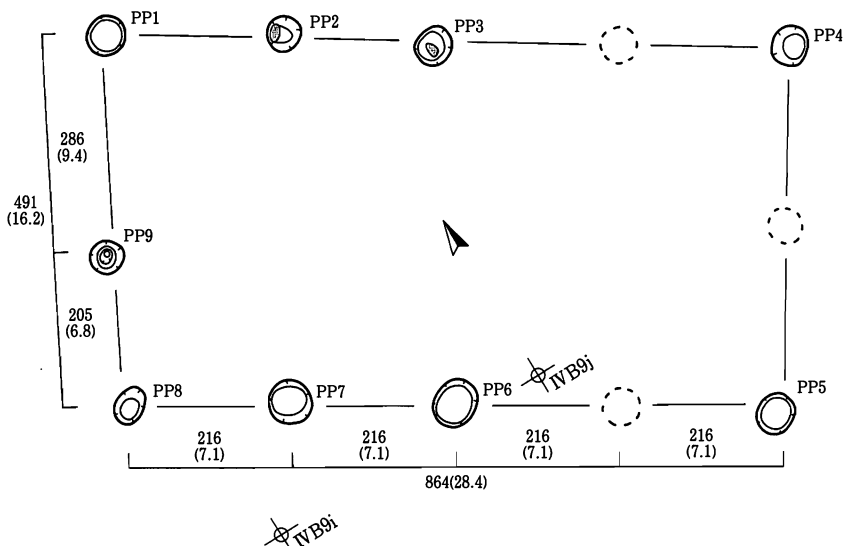
19号建物跡



19号建物跡

番号	深さ(cm)	底面標高(m)
PP 1	24.7	22.47
PP 2	64.0	22.14
PP 3	50.2	22.22
PP 4	21.0	22.47
PP 5	38.9	22.35
PP 6	43.2	22.29
PP 7	40.8	22.25
PP 8	24.8	22.48
PP 9	—	—
PP10	24.2	22.51
PP11	17.2	22.59

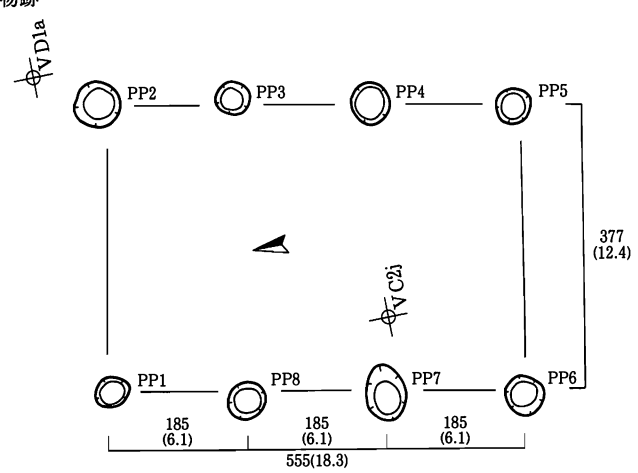
20号建物跡



20号建物跡

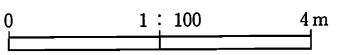
番号	深さ(cm)	底面標高(m)
PP1	24.6	22.51
PP2	50.2	22.22
PP3	21.0	22.47
PP4	21.2	22.47
PP5	28.6	22.39
PP6	18.4	22.57
PP7	33.6	22.45
PP8	17.2	22.59
PP9	63.6	22.13

21号建物跡

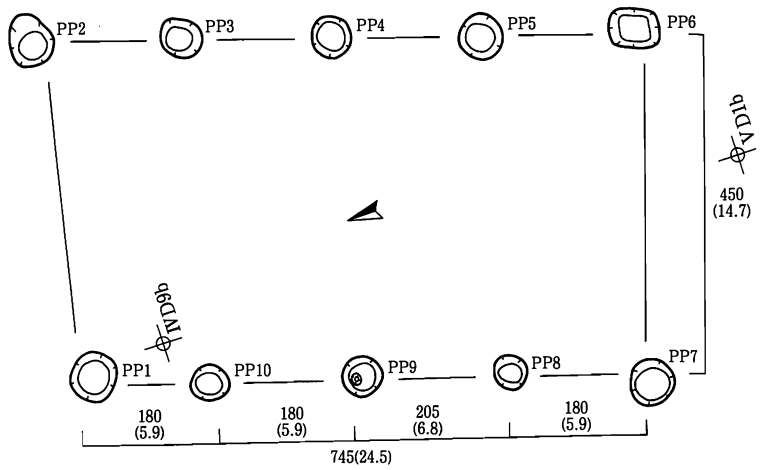


21号建物跡

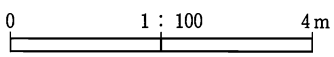
番号	深さ(cm)	底面標高(m)
PP1	24.9	22.38
PP2	11.6	22.44
PP3	19.0	22.46
PP4	19.4	22.53
PP5	41.8	22.38
PP6	25.0	22.52
PP7	32.7	22.43
PP8	19.3	22.50



第119図　19～21号建物跡



番号	深さ(cm)	底面標高(m)
PP 1	31.0	22.06
PP 2	47.0	21.98
PP 3	65.0	21.82
PP 4	45.0	22.06
PP 5	48.0	21.94
PP 6	43.0	21.98
PP 7	18.0	22.28
PP 8	18.0	22.22
PP 9	37.0	22.02
PP10	26.0	22.08



第120図　22号建物跡

23号建物跡（掘立柱建物）

遺構（第121図、写真図版78）

〈位置〉　調査区ＶＡ２ｊ～ＶＢ４ａグリッド、標高22.9ｍに位置する。

〈平面形式〉　四面廂の建物跡と推定されるが、北西面の廂は検出されなかった。身舎は桁行３間、梁行３間で方形プランである。桁行は総長510cm（16.8尺）、梁行は420cm（13.8尺）で、面積は約6.5坪である。使用した柱穴は18個である。

〈方向・平均柱間寸法〉　身舎桁行の軸方向はＮ-41°-Ｅである。間尺は、桁行が140～200cm（4.6～6.6尺）と不整であるが、梁行では139cm（4.6尺）が使用されている。廂の幅は120cm（４尺）を測る。

〈建物の性格〉　18～20号建物跡と付属施設である可能性が高い。

遺物・時期　周辺の出土遺物から近世の建物跡と考えられる。

24号建物跡（掘立柱建物）

遺構（第121図）

〈位置〉　調査区ＶＣ２ｈグリッド、標高22.6ｍに位置する。

〈平面形式〉　桁行３間、梁行２間の長方形プランと考えられる。桁行は総長603cm（19.9尺）、梁行は390cm（12.9尺）で、面積は約7.1坪である。使用した柱穴は８個である。

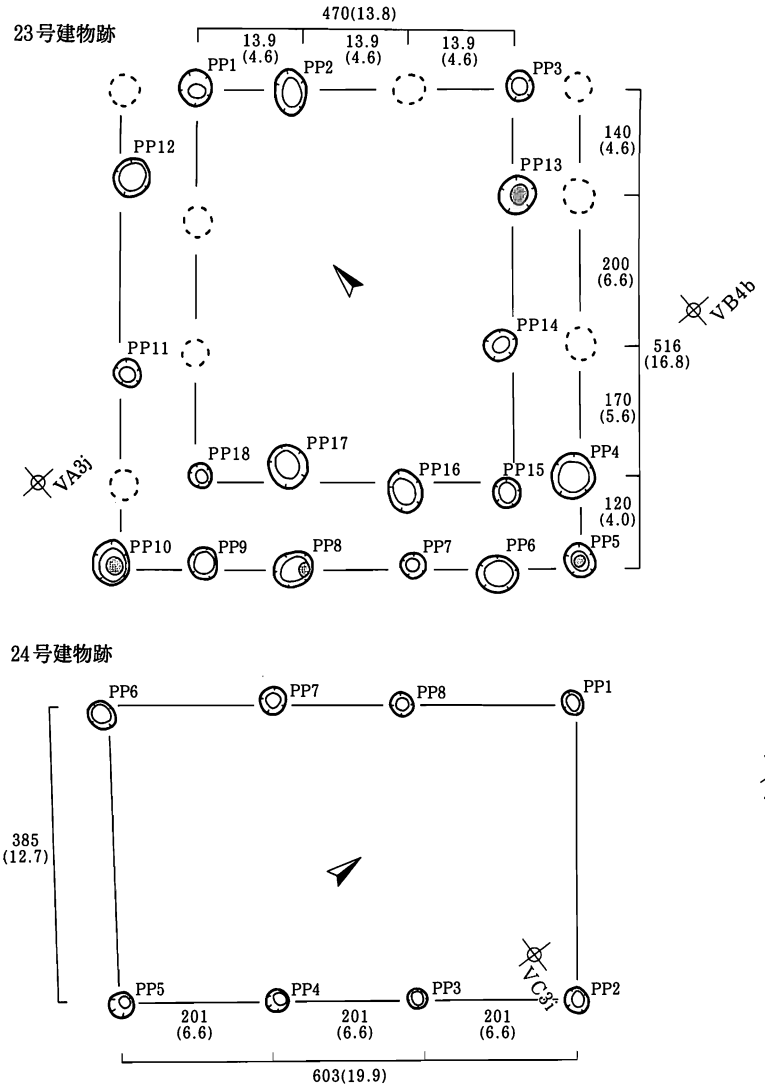
〈方向・柱間寸法〉　桁行の軸方向はＮ-33°-Ｅである。間尺は桁行201cm（6.6尺）、梁行は195cm（6.4尺）が使用されている。

〈建物の性格〉　18～20号建物跡と付属施設である可能性が高い。

遺物

〈出土状況〉　ＰＰ５の埋土中から土師器の甕片（530）が出土している。流れ込みと考えられる。

時期　周辺の出土遺物から、近世の遺構と考えられる。



23号建物跡

番号	深さ(cm)	底面標高(m)
PP 1	22.0	22.74
PP 2	43.3	22.67
PP 3	18.8	22.70
PP 4	27.0	22.65
PP 5	38.2	22.56
PP 6	33.7	22.62
PP 7	21.6	22.71
PP 8	24.0	25.66
PP 9	9.9	22.89
PP10	44.4	22.54
PP11	16.4	22.80
PP12	27.8	22.67
PP13	—	—
PP14	23.9	22.62
PP15	35.1	22.57
PP16	10.2	22.82
PP17	63.2	22.31
PP18	12.5	22.83

24号建物跡

番号	深さ(cm)	底面標高(m)
PP1	15.4	22.50
PP2	31.2	22.50
PP3	11.6	22.48
PP4	15.0	22.50
PP5	18.8	22.53
PP6	29.1	22.38
PP7	13.4	22.51
PP8	30.6	22.34

第121図　23・24号建物跡

25号建物跡（掘立柱建物）

遺構（第122図）

〈位置〉　調査区ＶＢ４ｊ～ＶＣ６ａグリッド、標高22.6ｍに位置する。

〈平面形式〉　桁行３間、梁行３間の長方形プランである。桁行総長960cm（31.7尺）、梁行は630cm（20.8尺）で、面積は約118.3坪である。使用した柱穴は10個である。

〈方向・柱間寸法〉　桁行の軸方向はＮ-56°-Ｗである。間尺は桁行320cm（10.67尺）、梁行は210cm（6.9尺）が使用されている。

〈出土状況〉　遺物は出土していない。

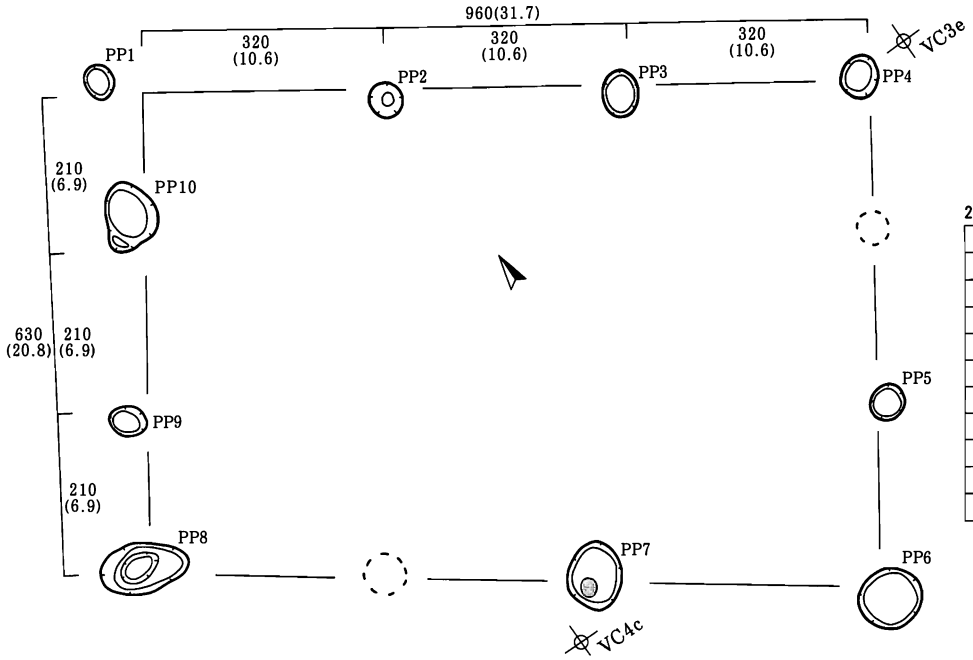
時期　検出層位と周辺の出土遺物から、近世の遺構と考えられる。

26号建物跡（掘立柱建物）

遺構（第122図）

〈位置〉　調査区ＶＢ２ｅ～ＶＢ３ｆグリッド、標高22.8ｍに位置する。

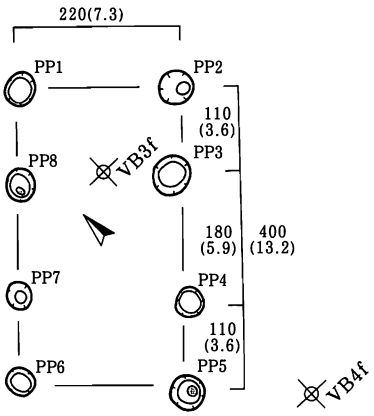
25号建物跡



25号建物跡

番号	深さ(cm)	底面標高(m)
PP 1	—	—
PP 2	—	—
PP 3	26.0	22.34
PP 4	46.2	22.16
PP 5	18.0	22.47
PP 6	38.0	22.22
PP 7	42.6	22.13
PP 8	33.8	22.11
PP 9	22.0	22.26
PP10	—	—

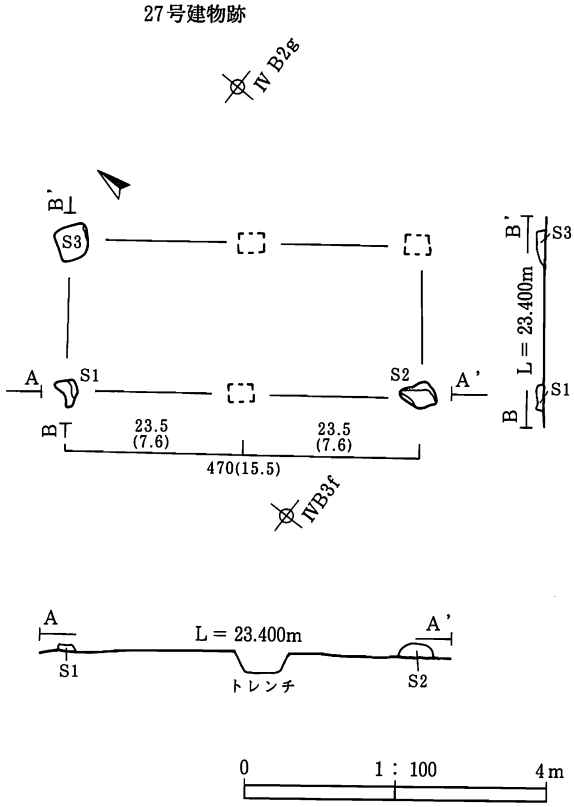
26号建物跡



25号建物跡

番号	深さ(cm)	底面標高(m)
PP1	32.4	22.55
PP2	37.6	22.60
PP3	23.0	22.80
PP4	42.8	22.59
PP5	37.8	22.59
PP6	22.6	22.70
PP7	29.8	22.62
PP8	31.7	22.58

27号建物跡



第122図　25～27号建物跡

〈平面形式〉　桁行３間、梁行１間の長方形プランである。桁行総長は400cm（13.2尺）、梁行は220cm（7.3尺）で、面積は約2.7坪である。使用した柱穴は８個である。

〈方向・柱間寸法〉　桁行の軸方向はＮ-43°-Ｅである。間尺は桁行180cm（5.9尺）と110cm（3.6尺）が使用されている。

〈建物の性格〉　規模から小屋的建物跡と考えられる。

遺物（第211図、写真図版143）

〈出土状況〉　ＰＰ８埋土中から寛永通宝（807）が出土している。

時期　検出状況や周辺の出土遺物から、近世の遺構と考えられる。

27号建物跡（礎石建物）

遺構（第122図、写真図版79）

〈位置〉　調査区ⅣＢ２ｆグリッド、標高23.2ｍに位置する。

〈平面形式〉　桁行２間、梁行１間の長方形プランと考えられる。桁行は総長4.70ｍ、梁行は2.00ｍで、面積は約2.8坪である。使用した礎石は４個である。

〈方向〉　桁行の軸方向はＮ-38°-Ｗである。

〈性格〉　検出規模から付属小屋的用途が考えられる。

遺物

〈出土状況〉　プラン内から近世陶磁器類が出土している。

〈陶磁器〉　916・917は肥前産の大皿・碗である。

時期　検出層位と出土遺物から、近世後半以降の建物跡と考えられる。

14. 柱穴列

柱穴列は７基を登録した。検出された柱穴列の中にも本来建物跡になるものも含まれていると考えられるが、調査では対応する柱穴が検出されなかったため本項で掲載している。

柱穴列の平面図の縮尺は1/60である。平面図に付した寸法（数字）はセンチメートル：cm、（　）内が尺（30.3cm）を単位として掲載した。また、柱穴の深さと底面の標高値はそれぞれ表中にセンチメートル：cmとメートル：ｍ（同順）で表記している。

１号柱穴列

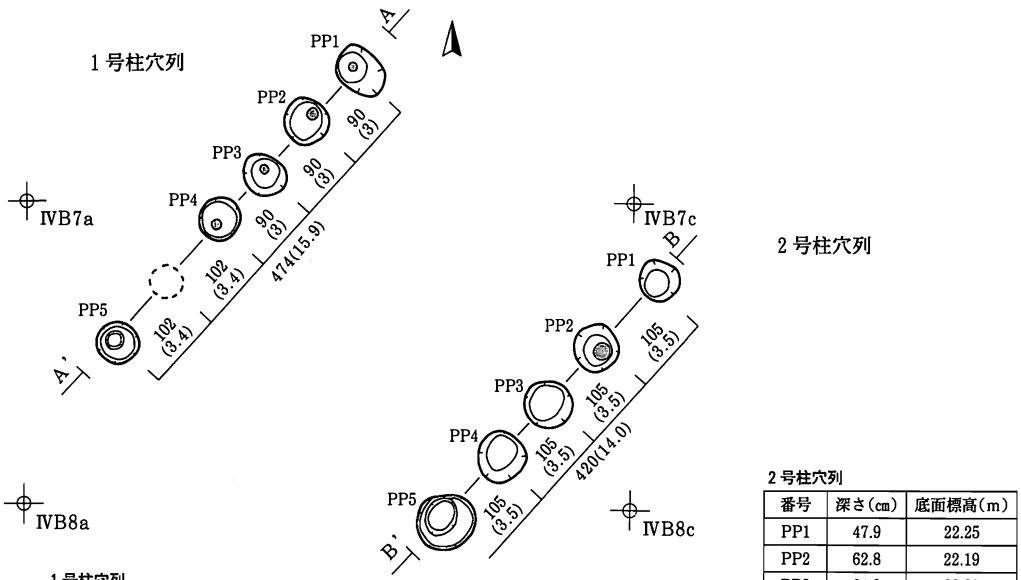
遺構（第123図、写真図版80）

〈位置・方向〉　ⅣＡ７ｊ～ⅣＢ６ｂグリッド、標高22.8ｍ、２号柱穴列の約４ｍ北西に位置する。２号柱穴列にほぼ並行する。

〈規模・構造・方向〉　ＰＰ１からＰＰ５の５個の柱穴状小土坑が、全長4.8ｍにほぼ等間隔で並ぶ。各柱穴間の距離は約90cm（３尺）で方向はＮ-40°-Ｅである。

〈検出状況・柱間寸法〉　十和田ａ降下火山灰を切って構築されている。検出状況から２号柱穴列に連続するものと考えられるが、新旧関係は不明である。90cm（３尺）と102cm（3.4尺）が使用されていると考えられる。

〈埋土〉　暗褐色土が主体となって構成されている。全てに柱痕が認められる。



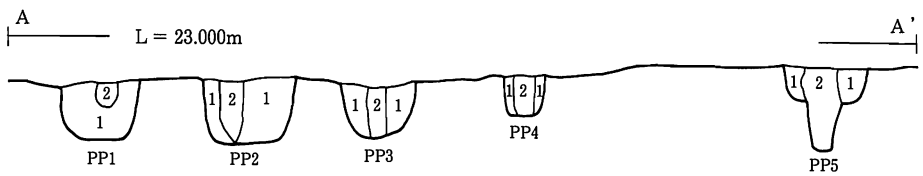
1号柱穴列

番号	深さ(cm)	底面標高(m)
PP1	39.0	22.41
PP2	47.0	22.64
PP3	43.5	22.75
PP4	31.0	22.46
PP5	58.5	22.57

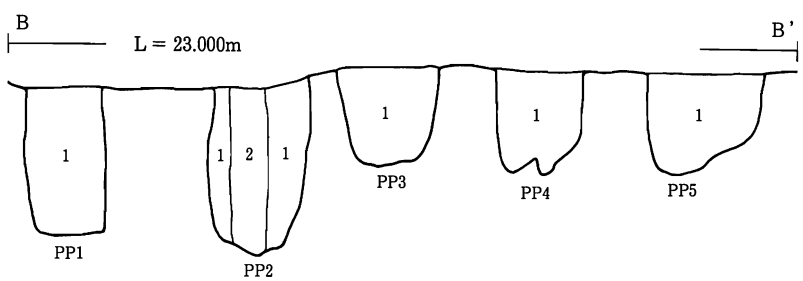
2号柱穴列

番号	深さ(cm)	底面標高(m)
PP1	47.9	22.25
PP2	62.8	22.19
PP3	64.9	22.23
PP4	68.5	22.18
PP5	69.7	22.17

0 1：100 4m



1号柱穴列
1．10YR3/4 暗褐色土 粘性あり しまりあり 褐色土（10YR4/6）50～70%混入
2．10YR2/3 黒褐色土 粘性あり しまりあり



2号柱穴列
1．10YR3/4 暗褐色土 粘性あり しまりあり 褐色土（10YR4/6）50%混入
2．10YR2/3 黒褐色土 粘性あり しまりややあり

0 1：50 2m

第123図 1・2号柱穴列

遺物

〈土器〉　PP３・PP５からはそれぞれ須恵器の甕片（439・441：同順）、PP４からは土師器の甕片（440）が柱穴埋土中から出土している。

時期　出土遺物と検出状況から10～11世紀の遺構と考えられる。

２号柱穴列

遺構（第123図、写真図版81）

〈位置・方向〉　ⅣB８ａ～ⅣB６ｃグリッド、標高22.8m、１号柱穴列の約４ｍ南東に位置する。２号柱穴列にほぼ並行する。

〈規模・構造・方向〉　PP１からPP５の５個の柱穴状土坑が、全長4.8mにほぼ等間隔で並ぶ。各柱穴間の距離は約90cm（３尺）で方向はN-42°-Eである。

〈検出状況〉　十和田ａ降下火山灰を切って構築されている。検出状況から１号柱穴列に共伴するものと考えられるが、新旧関係は不明である。

〈柱間寸法・埋土〉　105cm（3.5尺）が用いられている。暗褐色土が主体となって構成されている。全てに柱痕が認められる。

遺物（第222図、写真図版154）

〈出土状況〉　PP５埋土中から土錘（998）が出土している。

時期　出土遺物と検出状況から10～11世紀の遺構と考えられる。

３号柱穴列

遺構（第124図）

〈位置・方向〉　調査区ⅡE８ｇ～ⅡE10ｇグリッド、標高23.1mに位置する。４号柱穴列の約２ｍ西にほぼ並行する。

〈規模・構造〉　PP１からPP３の３個の柱穴状土坑が、全長610cm（20.1尺）にほぼ等間隔で並ぶ。

〈検出状況〉　建物跡の可能性も高いが対応する柱穴は確認されていない。

〈柱間寸法・方向〉　各柱穴間の距離は200～210cm（6.6～6.9尺）で方向はN-6°-Eである。

〈埋土〉　埋土は暗褐色土が主体となって構成されている。

遺物・時期　遺物は出土していない。検出状況から13世紀の遺構である可能性が高いと考えられる。

４号柱穴列

遺構（第124図）

〈位置・方向〉　調査区ⅡE８ｈ～ⅡE９ｈグリッド、標高23.1mに位置する。３号柱穴列の約２ｍ東にほぼ並行する。

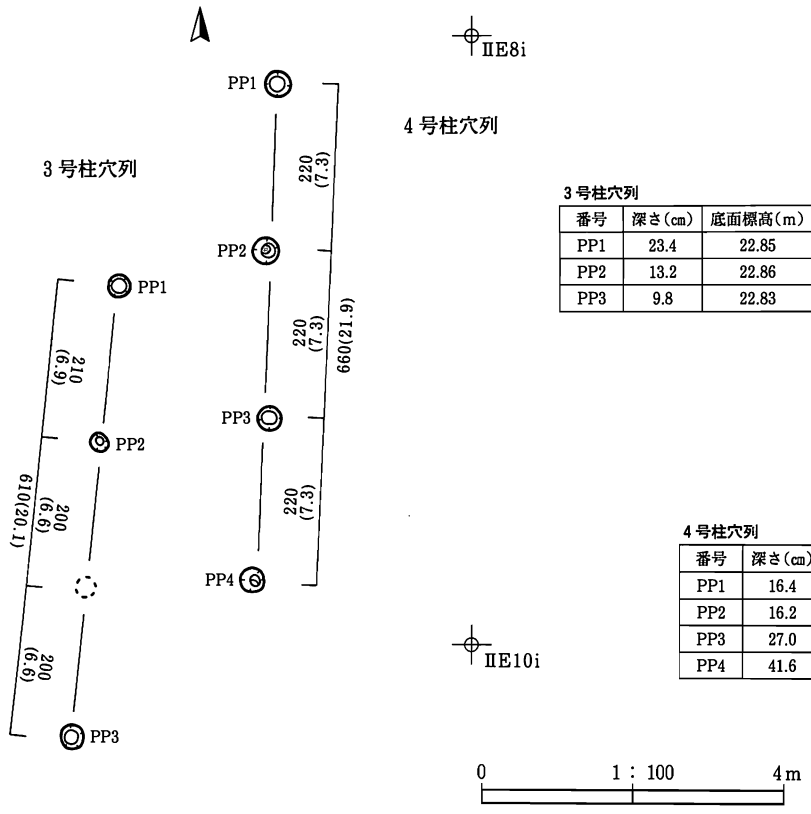
〈規模・構造〉　PP１からPP４の４個の柱穴状土坑が、全長660cm（21.8尺）にほぼ等間隔で並ぶ。

〈検出状況〉　建物跡の可能性も高いが対応する柱穴は確認されていない。

〈柱間寸法・方向〉　各柱穴間の距離は220cm（7.3尺）で、方向はN-3°-Eである。

〈埋土・出土状況〉　埋土は暗褐色土で構成されている。柱痕はPP２で認められる。

遺物



3号柱穴列

番号	深さ(cm)	底面標高(m)
PP1	23.4	22.85
PP2	13.2	22.86
PP3	9.8	22.83

4号柱穴列

番号	深さ(cm)	底面標高(m)
PP1	16.4	22.91
PP2	16.2	22.92
PP3	27.0	22.72
PP4	41.6	22.50

第124図　3・4号柱穴列

〈出土状況〉　PP2の埋土中から土師器の坏の底部片（544）が出土している。回転糸切りである。

時期　検出状況から13世紀の遺構である可能性が高いと考えられる。

5号柱穴列

遺構（第125図）

〈位置・検出状況〉　調査区ⅣC7fグリッド、標高22.7mに位置する。一帯は近世の建物跡が多く検出されており、建物跡である可能性が高いが対応する柱穴は検出されなかった。

〈規模・構造〉　PP1からPP3の3個の柱穴状土坑が、全長480cmに亘りほぼ等間隔で並ぶ。

〈柱間寸法・方向〉　240cm（7.9尺）が用いられている。方向はN-11°-Eである。

〈埋土・出土状況〉　暗褐色土が主体となって構成されている。遺物は出土していない。

時期　検出状況から近世の遺構と考えられる。

6号柱穴列

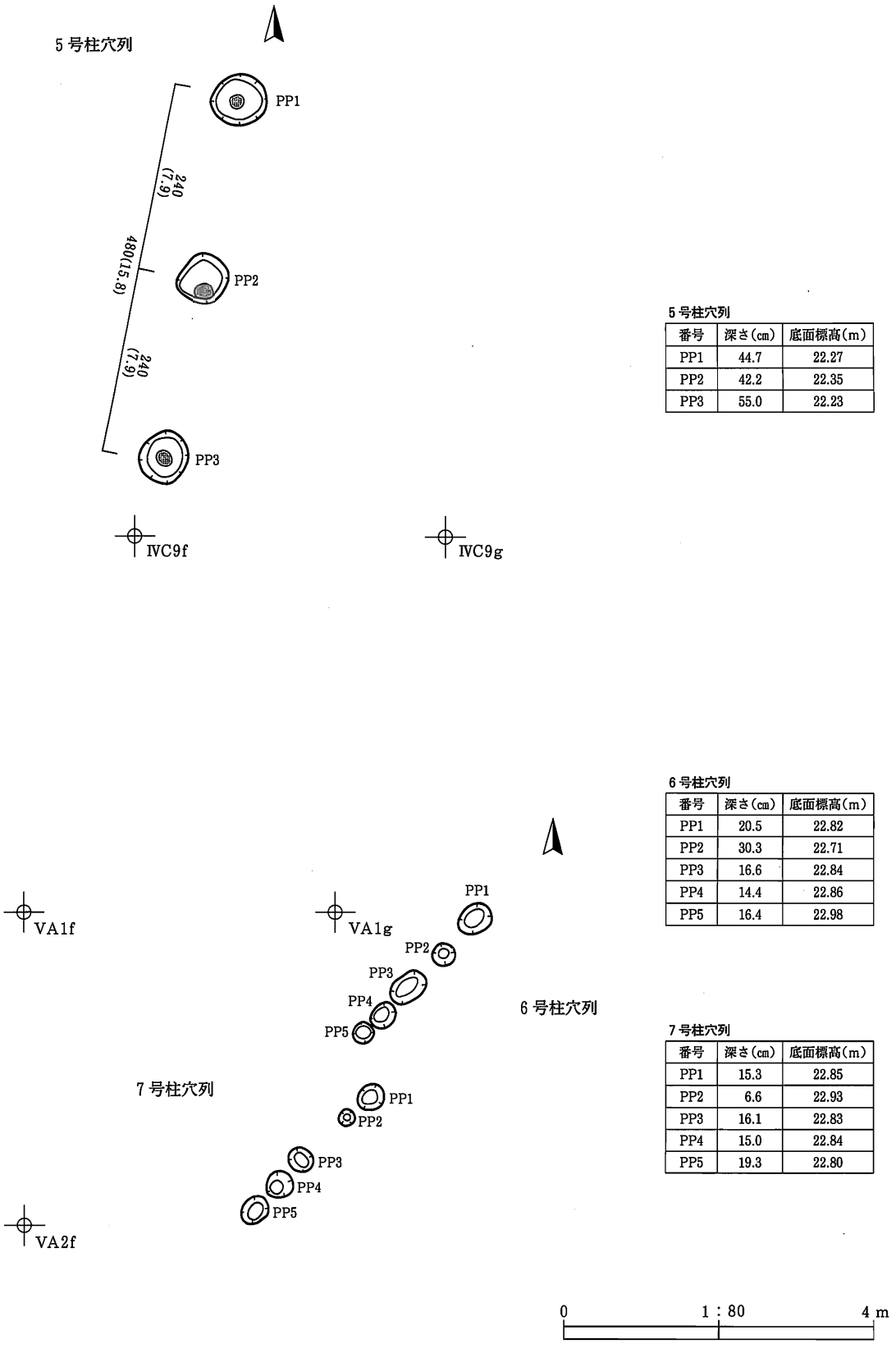
遺構（第125図、写真図版80）

〈位置・方向〉　調査区ⅤA1gグリッド、標高23mに位置する。7号柱穴列の約50cm北にほぼ並行する。

〈規模・構造〉　PP1からPP5の5個の柱穴状土坑が、全長243cm（8.0尺）に直線上に並ぶ。

〈検出状況・柱間寸法・方向〉　耕作土直下で検出された。各柱穴間の距離は220cm（7.3尺）で、方向はN-43°-Eである。

〈埋土・出土状況〉　埋土は暗褐色土が主体となって構成されている。柱痕は認められない。遺物は出土し



5号柱穴列

番号	深さ(cm)	底面標高(m)
PP1	44.7	22.27
PP2	42.2	22.35
PP3	55.0	22.23

6号柱穴列

番号	深さ(cm)	底面標高(m)
PP1	20.5	22.82
PP2	30.3	22.71
PP3	16.6	22.84
PP4	14.4	22.86
PP5	16.4	22.98

7号柱穴列

番号	深さ(cm)	底面標高(m)
PP1	15.3	22.85
PP2	6.6	22.93
PP3	16.1	22.83
PP4	15.0	22.84
PP5	19.3	22.80

第125図　5～7号柱穴列

ていない。

時期　時期不明であるが、検出状況から近世の遺構である可能性が高いと考えられる。

7号柱穴列

遺構（第125図、写真図版80）

〈位置・検出状況〉　調査区ＶＡ２ｇグリッド、標高23ｍに位置する。６号柱穴列の南に近接する。

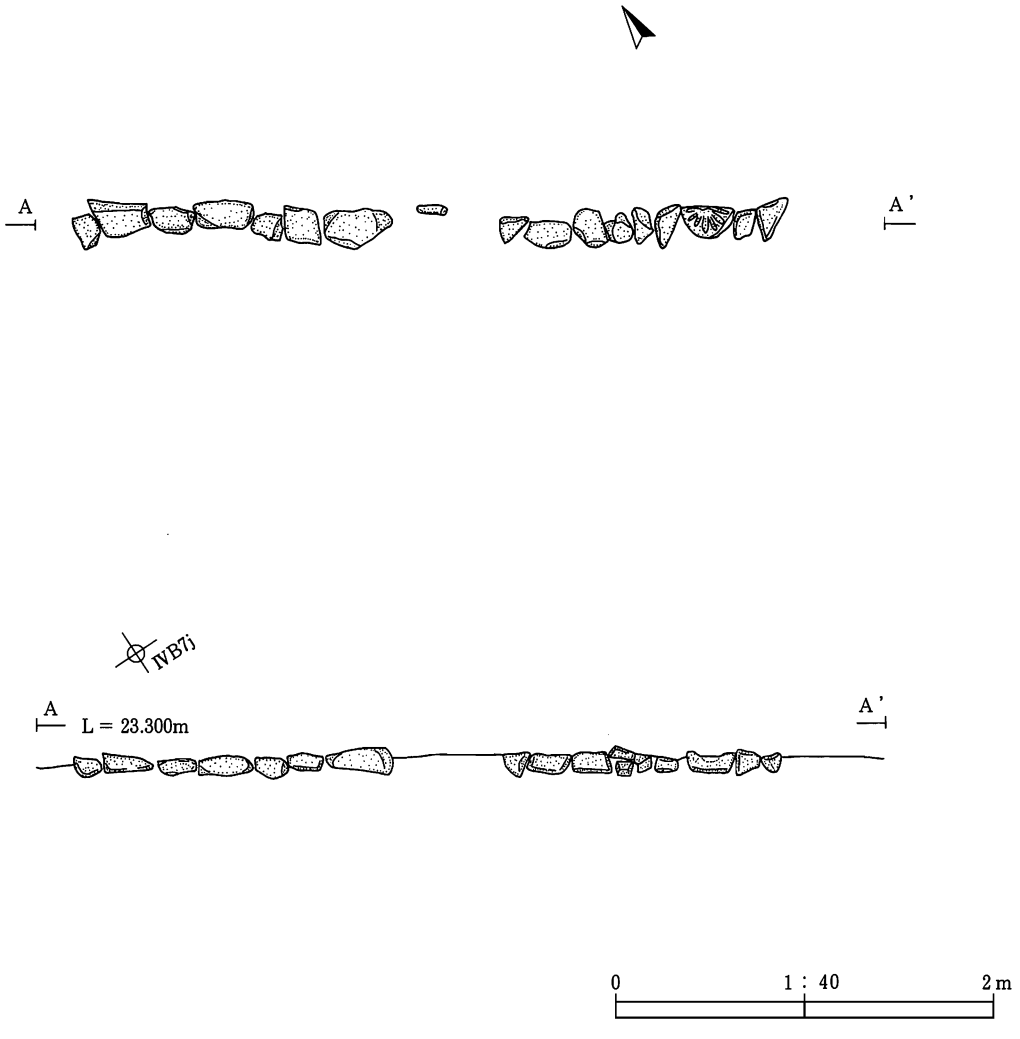
〈規模・構造・方向〉　PP１からPP５の５個の柱穴状土坑が、全長250㎝に亘りほぼ直線に並ぶ。方向はN-45°-Eである。

〈埋土・出土状況〉　暗褐色土が主体となって構成されている。柱痕は認められない。

時期　時期不明であるが、検出状況から近世の遺構と考えられる。

15. 配石

配石は１基を登録した。



第126図　１号配石

1号配石

遺構（第126図、写真図版79）

〈位置〉　調査区ⅣB6i～ⅣB6jグリッド、標高23mに位置する。17号掘立柱建物跡の北辺約1mに並行する。

〈検出状況・規模〉　耕作土の直下で検出され、長さは3.74mを測る。自然石や廃棄された石臼片により構築されている。地境等の区画に用いられたものと考えられる。

〈埋土〉　褐色土が主体となって構成されている。

遺物（第215図、写真図版146）

〈出土状況〉　石臼（853）が出土している。

時期　出土遺物と位置から17号掘立柱建物跡に共伴する近世初頭の遺構と考えられる。

16. 井戸跡

井戸跡は2基を登録した。1基は近世、他の1基は平安時代のものと考えられる。

1号井戸跡

遺構（第127図、写真図版82）

〈位置〉　調査区ⅣC10e～ⅤC1eグリッド、標高27.5mに位置する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸1.62m、短軸1.56m、深さ〈92〉cmを測る。開口部の平面形は円形を呈する。井戸枠は自然石で組まれている。精査に際しては、崩落の危険性があるため底部の調査はできなかった。

〈埋土・出土状況〉　暗褐色土が主体で構成され、埋土中からは廃棄された近世陶磁器が出土している。

遺物（第218・219図、写真図版149・150）

〈出土状況〉　埋土中から陶磁器、擂鉢（924）、瓦器（925）、煙管（892）、土師器の甕片（442・443）が出土している。

〈陶磁器〉　919・920はいずれも肥前産の猪口碗・大皿である。921・922は在地産の甕である。

時期　出土遺物から近世の井戸跡と考えられる。

2号井戸跡

遺構（第127図、写真図版82）

〈位置〉　調査区ⅦD6hグリッド、標高22.4mに位置する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸1.69m、短軸1.52m、深さ1.83mを測る。平面形は円形を呈する。

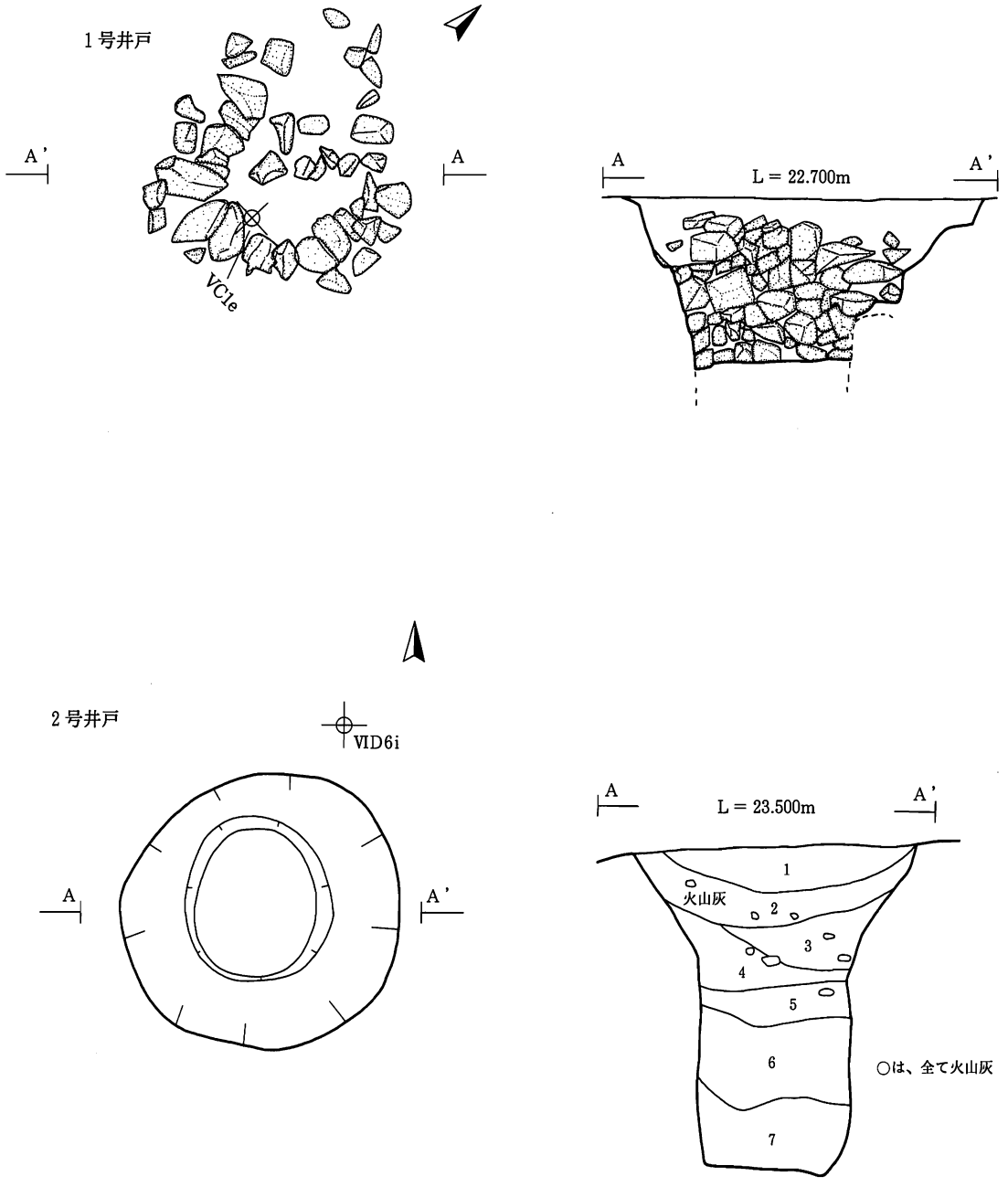
〈埋土・出土状況〉　上層は火山灰ブロックを含む暗褐色土、下層は褐色土が主体で構成され一部にはグライ化が見られる。上層の火山灰は2次堆積と考えられる。出土遺物はない。

時期　埋土から10世紀前半～11世紀の井戸跡と考えられる。

17. 竈状遺構

竈状遺構は6基を登録した。全て調査区の北側で検出されている。周辺は昭和30年代の開田時まで麻畑であったことが確認されている。全て近世以後の遺構と考えられる。

埋土中から検出されている須恵器・土師器片は、竈状遺構構築時の攪乱によって下層の住居跡等の遺物が



2号井戸
1．10YR3/4　暗褐色土に炭化物を5％含む　粘性あり　しまりかなりあり
2．10YR3/4　暗褐色土に火山灰ブロックを3％含む　粘性あり　しまりかなりあり
3．10YR3/3　暗褐色土と10YR4/4褐色土の混合土、火山灰ブロックを3％含む
　　粘性あり　しまりかなりあり
4．10YR3/2　黒褐色土に火山灰ブロックを3％含む　粘性あり　しまりかなりあり
5．10YR4/4　褐色土に火山灰ブロックを3％含む　粘性あり　しまりややあり
6．10YR4/2　灰黄褐色土に酸化鉄を50%含む、グライ化ぎみ　粘性あり　しまりあり
7．10YR4/1　褐灰色に酸化鉄を50%含む、グライ化ぎみ　粘性かなりあり　しまりあり

0　1：40　2m

第127図　1・2号井戸跡

混入したものと考えられる。

1号竈状遺構

遺構（第128図、写真図版82）

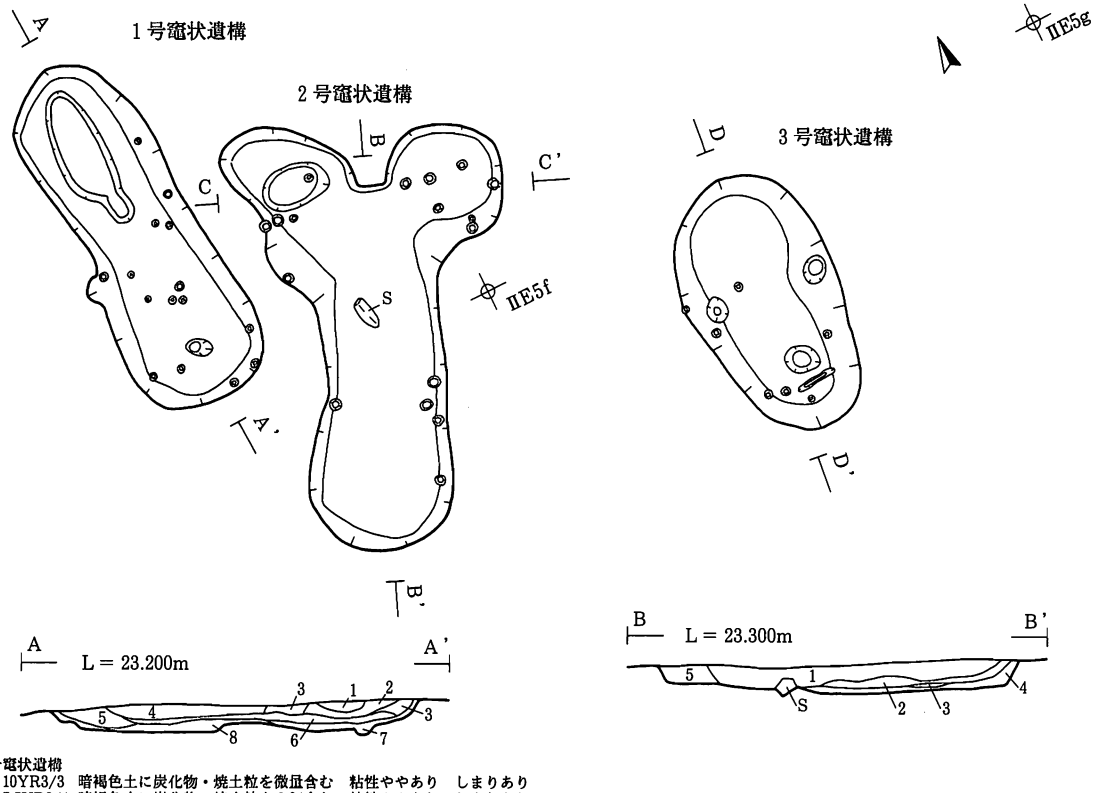
〈位置〉　調査区ⅡE4e～ⅡE5fグリッド、標高22.9mに位置し、2号竈状遺構の西20cmに近接する。形状から麻を煮た竈跡と考えられる。

〈規模・平面形〉　規模は長軸2.44m、短軸0.72m、深さ11～18cmを測る。平面形は長楕円形を呈する。

〈埋土〉　埋土は赤褐色の焼土ブロックを含む暗褐色土が主体となって構成されている。

遺物（写真図版132）

〈出土状況〉　埋土中から土師器の坏（444）、甕片（445）が出土している。



1号竈状遺構
1．10YR3/3　暗褐色土に炭化物・焼土粒を微量含む　粘性ややあり　しまりあり
2．7.5YR3/4 暗褐色土に炭化物・焼土粒を3％含む　粘性ややあり　しまりあり
3．7.5YR3/4 暗褐色土に5YR4/8赤褐色焼土ブロックを60%含む　粘性ややあり　しまりあり
4．10YR3/3　暗褐色土に炭化物を微量含む　粘性ややあり　しまりあり
5．10YR4/3　にぶい黄褐色土～10YR4/4褐色土に焼土ブロックを微量含む　粘性なし　しまりあり
6．10YR3/4　暗褐色土に炭化物・焼土粒を含む　粘性ややあり　しまりあり
7．7.5YR3/3 暗褐色土　粘性あり　しまりあり
8．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりあり

3号竈状遺構
1．10YR3/4　暗褐色土に炭化物・焼土粒を30%含む　粘性ややあり　しまりあり
2．10YR3/4　暗褐色土に10YR2/2黒褐色土が50%の混合土　焼土ブロック炭化物5％含む　粘性ややあり　しまりあり
3．10YR3/3　暗褐色土に10YR4/4褐色土を5％含む　粘性あり　しまりあり
4．10YR4/4　褐色土に10YR3/3暗褐色土を2％含む　粘性あり　しまりあり
5．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりあり

2号竈状遺構
1．10YR3/3　暗褐色土に焼土粒を1％含む　粘性ややあり　しまりあり
2．10YR3/3　暗褐色土に焼土粒を3％、炭化物層を含む　粘性ややあり　しまりあり
3．7.5YR3/4 暗褐色土　粘性あり　しまりあり
4．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりあり
5．10YR3/4　暗褐色土に炭化物・焼土を微量含む　粘性ややあり　しまりあり
6．10YR4/4　褐色シルト　粘性ややあり　しまりあり　焼土粒（φ5～20mm 7.5YR4/6）、炭化物50%含む

0　1：50　2m

第128図　1～3号竈状遺構

時期　形態から近世の遺構と考えられる。

2号竈状遺構

遺構（第128図、写真図版82）

〈位置〉　調査区ⅡＥ5ｆ～ⅡＥ6ｆグリッド、標高23ｍに位置し、1号竈状遺構の東20㎝に近接する。形状から同じく麻を煮た竈跡と考えられる。

〈規模・平面形〉　規模は長軸2.42ｍ、短軸0.78～1.77ｍ、深さ13㎝を測る。平面形は長楕円形を基調とし、北端に2つの不整な楕円状の張り出しを持つ形状を呈する。

〈埋土・出土状況〉　埋土は明褐色の焼土粒と下層に炭化物層を含む暗褐色土が主体となって構成されている。出土遺物はない。

時期　形態から近世の遺構と考えられる。

3号竈状遺構

遺構（第128図、写真図版83）

〈位置〉　調査区ⅡＥ6ｇ～ⅡＥ6ｈグリッド、標高22.98ｍに位置し、2号竈状遺構のほぼ南東1.6ｍに近接する。1・2号に比べやや形状が異なるが、検出状況から同遺構とし登録した。

〈規模・平面形〉　規模は長軸1.75ｍ、短軸1.02ｍ、深さ18～26㎝を測る。平面形は楕円形を呈する。

〈埋土〉　埋土は褐色の焼土粒と炭化物を含む暗褐色土が主体となって構成されている。

遺物（第215図、写真図版146）

〈出土状況〉　砥石が1点（854）出土している。

時期　検出状況から近世の遺構と考えられる。

4号竈状遺構

遺構（第129図、写真図版83）

〈位置・重複関係〉　調査区ⅢＤ2ｇ～ⅢＤ2ｈグリッド、標高23.22～23.27ｍに位置する。2号周溝と6号竈状遺構と重複する。形状から麻を煮た竈跡と考えられる。

〈規模・平面形〉　規模は長軸3.9ｍ、短軸0.76～1.76ｍ、深さ13～22㎝を測る。平面形は不整な長楕円形状を呈する。

〈埋土〉　埋土は赤褐色の焼土と炭化物層を含む褐色土が主体に構成されている。

遺物・時期　出土遺物はない。形状から近世の遺構と考えられる。

5号竈状遺構

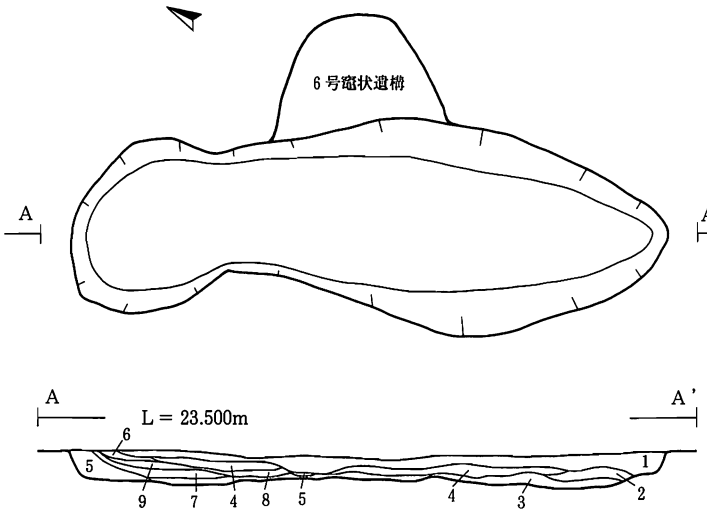
遺構（第129図、写真図版83）

〈位置・重複関係〉　調査区ⅢＤ1ｈ～ⅢＤ2ｇ～2ｈグリッド、標高23.34～23.38ｍに位置し、2号周溝と重複する。形状から麻を煮た竈跡と考えられる。

〈検出状況〉　平面的な検出は困難で、2号周溝西側に広がる不整な焼土のトレンチ調査により、遺構の存在を確認した。

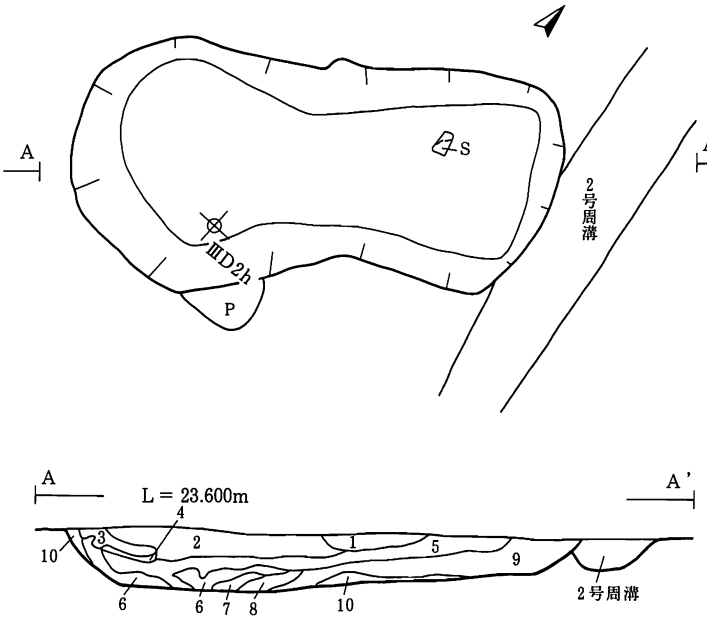
〈規模・平面形〉　規模は長軸推定3.2ｍ前後、短軸1.3～1.65ｍ、深さ20～40㎝を測る。平面形は不整な楕

4号竈状遺構

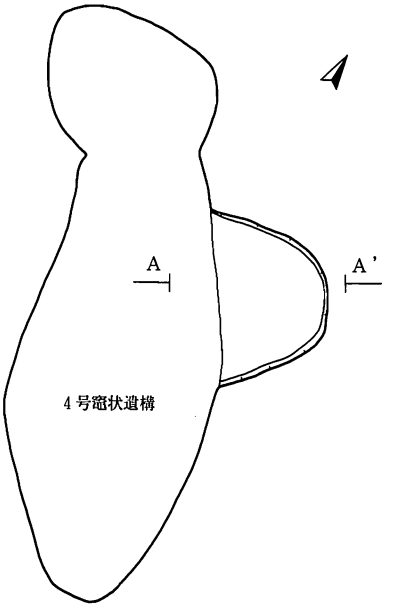


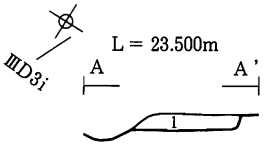
4号竈状遺構
1．10YR3/2　黒褐色土と炉壁（5YR4/8赤褐色土）
2．5YR4/3　にぶい赤褐色土　粘性あり　しまりややあり
3．7.5YR3/4　暗褐色土　粘性あり　しまりややあり
4．10YR3/2　黒褐色土と5YR3/4にぶい赤褐色土の混合　粘性あり　しまりややあり
5．10YR5/6　黄褐色土　粘性あり　しまりややあり
6．10YR3/2　黒褐色土と5YR4/3にぶい赤褐色土と炭の混合土　粘性あり　しまりややあり
7．5YR4/3　にぶい赤褐色土　粘性あり　しまりややあり
8．10YR1.7/1　黒色炭化物　粘性あり　しまりあり
9．10YR6/2　灰黄褐色土　粘性あり　しまりややあり

5号竈状遺構



6号竈状遺構



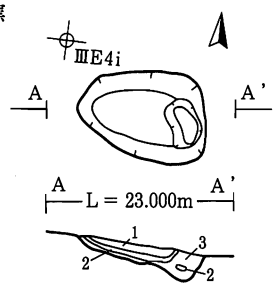


5号竈状遺構
1．10YR3/4　暗褐色土に炭化物を30%混入　粘性ややあり　しまりかなりあり
2．10YR2/3　黒褐色土に5YR5/8明赤褐色焼土塊・粒、炭化物粒20%混入　粘性ややあり　しまりかなりあり
3．5YR4/8　赤褐色焼土に10YR2/3黒褐色土の混合土、炭化物混入　粘性なし　しまりかなりあり
4．10YR1.7/1　黒炭に10YR2/2黒褐色土が混入　粘性ややあり　しまりあり
5．10YR2/3　黒褐色土に5YR5/8明赤褐色焼土塊・粒50%、炭化物10%混入　粘性ややあり　しまりかなりあり
6．5YR3/4　暗赤褐色土　粘性なし　しまりかなりあり
7．5YR2/3　極暗赤褐色土　粘性あり　しまりややあり
8．10YR3/4　暗褐色土に5YR2/3極暗赤褐色土の混合土、炭化物混入　粘性あり　しまりかなりあり
9．10YR2/3　黒褐色土に炭化物粒混入　粘性あり　しまりかなりあり
10．10YR3/4　暗褐色土に炭化物を微量に含む　粘性あり　しまりかなりあり

6号竈状遺構
1．10YR3/4　暗褐色土に炭化物粒を30%含む　粘性あり　しまりかなりあり

第129図　4～6号竈状遺構

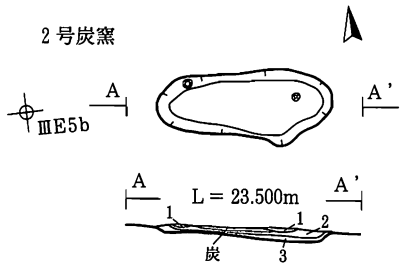
1号炭窯



1号炭窯
1．5YR5/6　明赤褐色土焼土　粘性なし　しまりかなりあり
　　褐色土（10YR4/6）含む
2．10YR2/1　黒色　炭化物層　粘性ややあり　しまりややあり
3．10YR3/3　暗褐色土と10YR4/4褐色土の混合土　粘性ややあり
　　しまりややあり　炭化物を含む

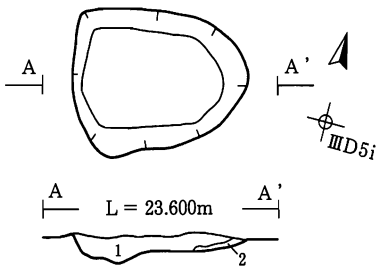
ⅢD4j

2号炭窯



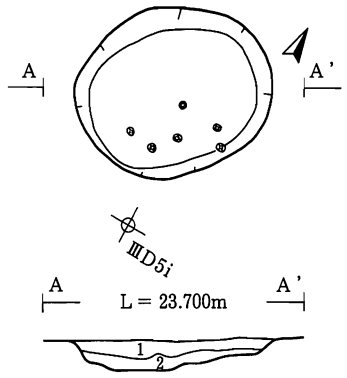
2号炭窯
1．7.5YR4/4　褐色土に炭化物を含む　粘性あり　しまりややあり
2．10YR5/6　黄褐色土に炭化物を含む　粘性あり　しまりややあり
3．10YR5/6　黄褐色土　粘性あり　しまりややあり

3号炭窯



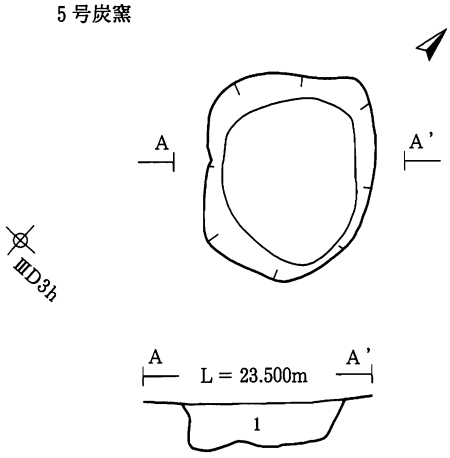
3号炭窯
1．10YR2/3　黒褐色土に10YR4/4褐色土を含む　粘性あり　しまりややあり
2．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりややあり

4号炭窯



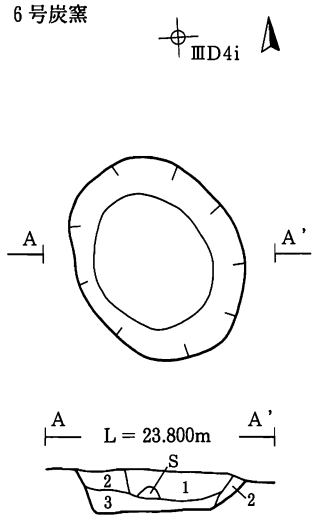
4号炭窯
1．7.5YR6/8　橙色土（炉壁）と10YR3/3暗褐色土がブロック状に混入、
　　炭化物を含む　粘性あり　しまりややあり
2．7.5YR4/6　褐色土10YR3/3暗褐色土の混合土に炭化物を含む
　　粘性あり　しまりややあり

5号炭窯



5号炭窯
1．10YR3/4　暗褐色土と10YR5/6黄褐色土の混合土　粘性あり　しまりあり

6号炭窯



6号炭窯
1．10YR3/3　暗褐色土　粘性ややあり　しまりややあり　炭化物２％含む
2．7.5YR6/8　橙色土（炉壁）　粘性なし　しまりかなりあり
3．7.5YR4/6　褐色土と10YR3/3暗褐色土の混合土　粘性ややあり　しまりややあり

0　1：50　2m

第130図　1～6号炭窯

円形状を呈する。

〈埋土〉　埋土は赤褐色の焼土と炭化物粒を含む暗褐色土が主体となって構成されている。

遺物（第200図、写真図版132）

〈出土状況〉　埋土中から土師器の坏（446・450）と甕片（447～449・451）が出土しているが、流れ込みと考えられる。450は内外面に黒色処理が施されている。

時期　形状や検出状況から近世の遺構と考えられる。

6号竈状遺構

遺構（第129図、写真図版83）

〈位置・重複関係〉　調査区ⅢＤ1ｈグリッド、標高23.3ｍに位置する。4号竈状遺構と重複する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸推定1.8ｍ前後、短軸1.1ｍ、深さ12㎝を測る。平面形は4号竈状遺構に西側を切られているため詳細は不明であが、遺構は楕円形状もしくは長楕円形状を呈するものと推定される。

〈埋土〉　埋土は赤褐色の焼土粒を含む暗褐色土が主体となって構成されている。

遺物・時期　出土遺物はない。検出状況から近世の遺構と考えられる。

18. 炭窯

炭窯は6基を登録した。全て近世以後の炭窯である。

1号炭窯

遺構（第130図、写真図版84）

〈位置〉　調査区ⅢＤ4ａグリッド、標高22.65～22.80ｍに位置する。形状や検出状況から炭窯と考えられる。

〈規模・平面形〉　規模は長軸0.85ｍ、短軸0.4～0.6ｍ、深さ9～19㎝を測る。平面形は不整な楕円形状を呈する。

〈埋土〉　炭化物を多く含む褐色土が主体となって構成されている。

遺物・時期　出土遺物はない。検出状況から近世の遺構と考えられる。

2号炭窯

遺構（第130図、写真図版84）

〈位置〉　調査区ⅢＥ5ｂグリッド、標高23.2ｍに位置する。形状や検出状況から炭窯と考えられる。

〈規模・平面形〉　規模は長軸1.15ｍ、短軸0.43ｍ、深さ6㎝を測る。平面形は楕円形を呈する。

〈埋土〉　焼土や炭化物を多く含む褐色土が主体に構成される。

遺物・時期　出土遺物はない。検出状況から近世の遺構と考えられる。

3号炭窯

遺構（第130図、写真図版85）

〈位置〉　調査区ⅢＤ3ｉ～ⅢＤ4ｉグリッド、標高23.40ｍに位置する。形状や検出状況から炭窯と考えられる。

〈規模・平面形〉　規模は長軸1.17ｍ、短軸0.74～0.96ｍ、深さ13～18㎝を測る。平面形は不整な楕円形状を呈する。

〈埋土〉　炭化物を含む褐色土が主体となって構成されている。

遺物・時期　出土遺物はない。近世の遺構と考えられる。

4号炭窯

遺構（第130図、写真図版84）

〈位置〉　調査区ⅢＤ４ｈ～ⅢＤ４ｉグリッド、標高23.45ｍに位置する。形状や検出状況から炭窯と考えられる。

〈規模・平面形〉　規模は長軸1.32ｍ、短軸1.12ｍ、深さ10～19㎝を測る。平面形は楕円形を呈する。

〈埋土〉　橙色の窯の壁（ブロック状）や炭化物を多く含む褐色土が主体となって構成されている。

遺物・時期　遺物は出土していない。近世の遺構と考えられる。

5号炭窯

遺構（第130図、写真図版84）

〈位置〉　調査区ⅢＤ２ｈ～ⅡＤ３ｈグリッド、標高23.35ｍに位置する。形状や検出状況から炭窯と考えられる。

〈規模・平面形〉　規模は長軸1.36ｍ、短軸1.08ｍ、深さ25㎝を測る。平面形は楕円形状を呈する。

〈埋土〉　焼土や炭化物が多く含まれる褐色土が主体に構成されている。

遺物・時期　遺物は出土してない。形状や検出状況から近世の遺構と考えられる。

6号炭窯

遺構（第130図、写真図版85）

〈位置〉　調査区ⅢＤ３ｉ～ⅢＤ４ｉグリッド、標高23.47ｍに位置する。形状や検出状況から炭窯と考えられる。

〈規模・平面形〉　規模は長軸1.37ｍ、短軸1.09ｍ、深さ28㎝を測る。平面形は楕円形を呈する。

〈埋土〉　橙色の窯の壁（ブロック状）や炭化物を含む褐色土が主体となって構成されている。

遺物・時期　遺物は出土してない。近世の遺構と考えられる。

19. 土坑

土坑は136基を登録した。この内２基が縄文時代後期以前（推定）、縄文晩期～弥生時代が３基、９世紀後半～11世紀44基、12世紀～14世紀が19基、近世が69基である。本報告の事実記載に当たっては、近世（時期不明を含む）の土坑については事実記載を表で示している。

1号土坑

遺構（第131図、写真図版86）

〈位置〉　調査区ＶＡ４ｊグリッド、標高20.8ｍに位置する。

〈規模・平面形〉　規模は、長軸0.6ｍ、短軸0.53ｍ、深さ37㎝を測る。平面形は不整な楕円形を呈する。長軸の軸線方向はW-41°-Nである。床面は起伏し平坦ではない。

〈埋土〉　褐色土が主体で構成されている。

遺物・時期　出土遺物はない。出土層位から縄文時代後期以前の遺構と推定される。

2号土坑

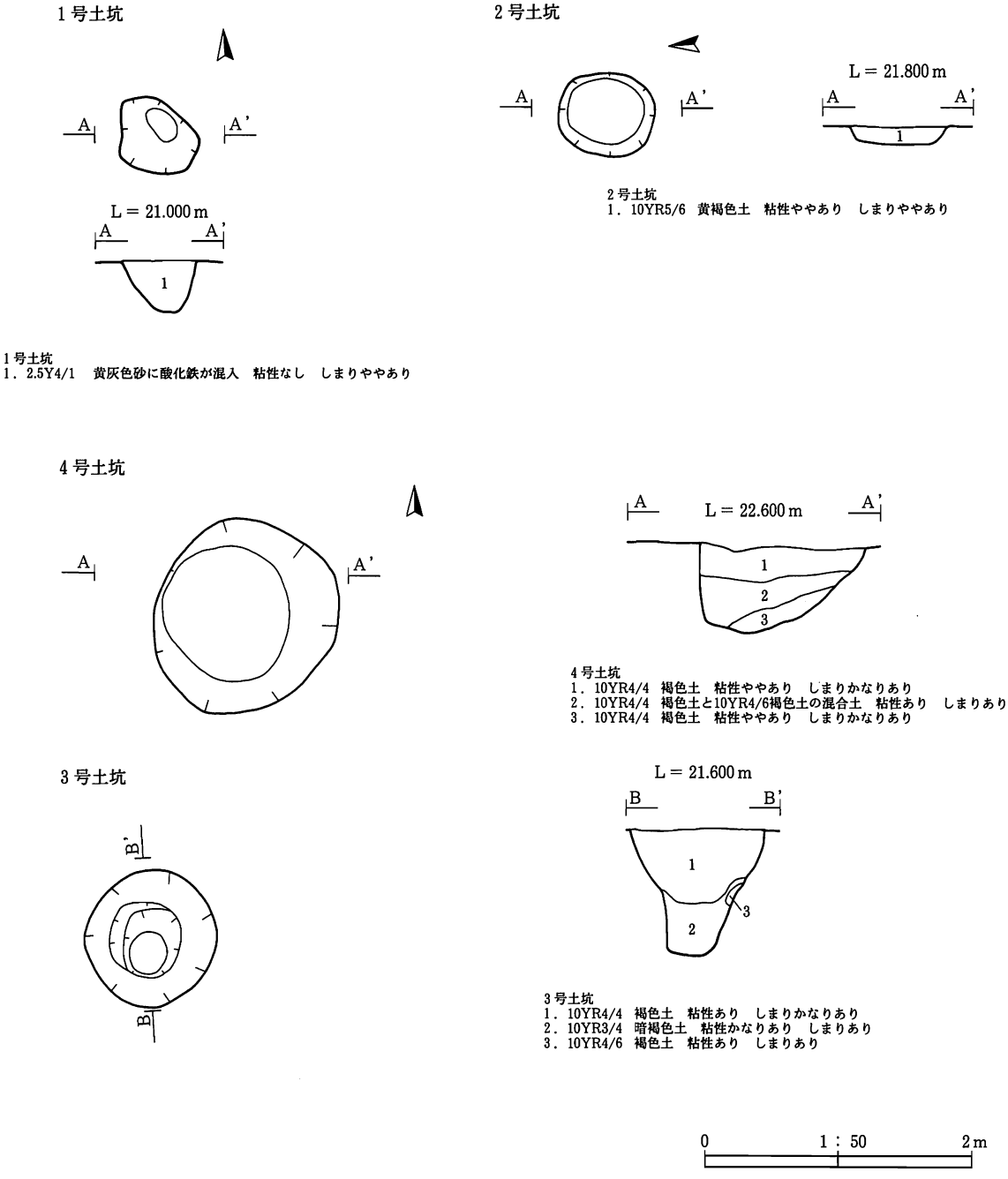
遺構（第131図、写真図版86）

〈位置〉　調査区ＶＦ４ｊグリッド、標高20.8ｍに位置する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸0.78ｍ、短軸0.62ｍ、深さ10㎝を測る。平面形は不整な隅丸方形を呈する。長軸の軸線方向はＮ-26°-Ｅである。

〈埋土〉　褐色土が主体で構成されている。

遺物・時期　出土遺物はない。出土層位から縄文時代後期以前の遺構と推定される。



1号土坑
1．2.5Y4/1　黄灰色砂に酸化鉄が混入　粘性なし　しまりややあり

2号土坑
1．10YR5/6　黄褐色土　粘性ややあり　しまりややあり

4号土坑
1．10YR4/4　褐色土　粘性ややあり　しまりかなりあり
2．10YR4/4　褐色土と10YR4/6褐色土の混合土　粘性あり　しまりあり
3．10YR4/4　褐色土　粘性ややあり　しまりかなりあり

3号土坑
1．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりかなりあり
2．10YR3/4　暗褐色土　粘性かなりあり　しまりあり
3．10YR4/6　褐色土　粘性あり　しまりあり

第131図　１～４号土坑

3号土坑

遺構（第131図、写真図版86）

〈位置〉　調査区ＶＦ６ｉグリッド、標高21.4m、４号土坑の南約1.2mに位置する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸1.03m、短軸0.98m、深さ92cmを測る。平面形は円形を呈する。

〈埋土〉　褐色土が主体で構成されている。

遺物（写真図版132）

〈出土状況〉　埋土中から縄文土器片が１点（452）出土している。

〈土器〉　452は器厚の薄い深鉢で、縄文はLRである。

時期　出土遺物から縄文時代晩期～弥生時代の遺構と考えられる。

4号土坑

遺構（第131図、写真図版86）

〈位置〉　調査区ＶＦ５ｉグリッド、標高21.4m、３号土坑の北東約1.2mに位置する。

〈規模・平面形・埋土〉　規模は長軸1.45m、短軸1.30m、深さ64cmを測る。平面形は不整な円形を呈する。褐色土が主体で構成されている。

遺物・時期　出土遺物はない。検出状況から、３号土坑と同様に縄文時代晩期～弥生時代の遺構と考えられる。

5号土坑

遺構（第132図、写真図版87）

〈位置〉　調査区ＶＧ６ａグリッド、標高21.4mに位置する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸0.60m、短軸0.59m、深さ20cmを測る。不整な円形を呈する。

〈埋土〉　微量の炭化物と焼土粒を含む褐色土が主体で構成される。

遺物・時期　出土遺物はない。検出状況・層位から縄文時代晩期から弥生時代の遺構と考えられる。

6号土坑

遺構（第132図、写真図版87）

〈位置・重複関係〉　調査区ＶＨ６ｂグリッド、標高21.5mに位置する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸0.83m、短軸0.70m、深さ19cmを測る。開口部の平面形は不整な円形を呈する。

〈埋土〉　自然堆積を呈し、褐色土を主体にして構成されている。

遺物

〈出土状況〉　出土遺物はない。

時期　検出状況から中世の遺構と考えられる。

7号土坑

遺構（第132図、写真図版87）

〈位置〉　調査区ＶＦ５ｊグリッド、標高22.2m、１号堀跡の西約７mに位置する。

〈規模・平面形・埋土〉　規模は長軸1.99m、短軸1.97m、深さ34cmを測る。開口部の平面形は不整な円形

を呈する。埋土は微量の炭化物と焼土粒を含む褐色土で構成されている。

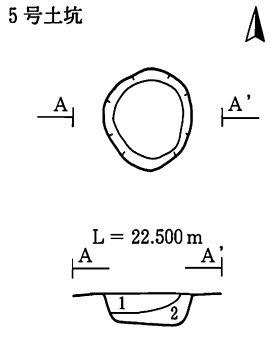
遺物（第207・210図、写真図版142）

〈出土状況〉　宮城県産多高田産の甕片（698）、銭貨（796・797）、須恵器の甕片が埋土中から出土している。

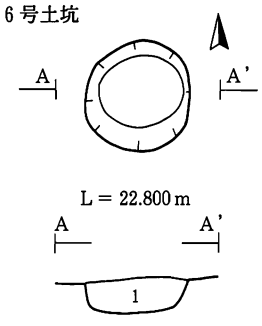
〈土器〉　453は酸化炎焼成の須恵器の甕片で、外面にはタタキ目が施されている。

〈銭貨〉　796は聖宋元宝、797は銘不明である。

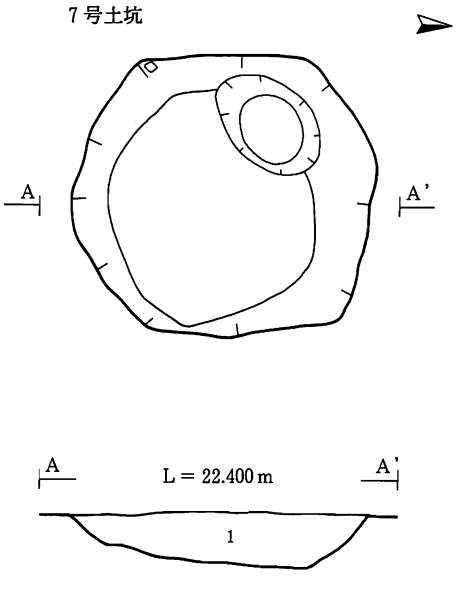
時期　出土遺物から13世紀後半～14世紀前半の遺構と考えられる。



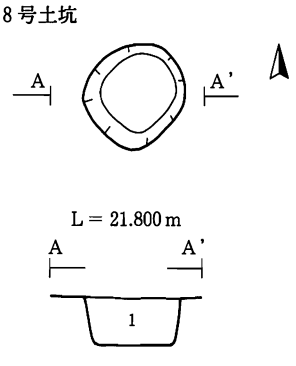
5号土坑
1．10YR4/4　褐色土に炭化物少量、5YR4/8赤褐色焼土粒が微量に含む
　　粘性かなりあり　しまりあり
2．10YR4/6　褐色砂質土　粘性ややあり　しまりあり



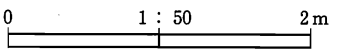
6号土坑
1．10YR3/4　暗褐色土　粘性あり　しまりあり



7号土坑
1．10YR3/3　暗褐色に10YR4/6褐色土10%、炭化物片2%、5YR4/8赤褐色焼土粒2%
　　粘性あり　しまりあり

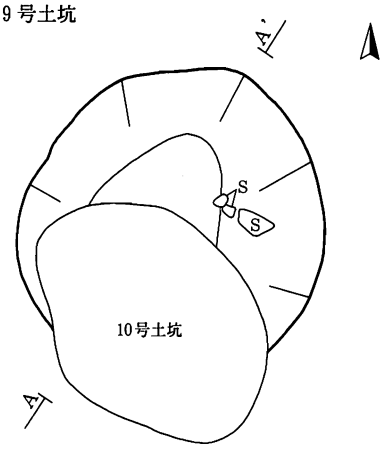


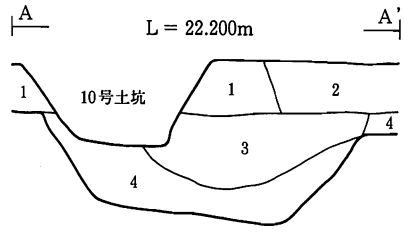
8号土坑
1．10YR4/4　褐色土に炭化物を含む　粘性ややあり　しまりややあり



第132図　5～8号土坑

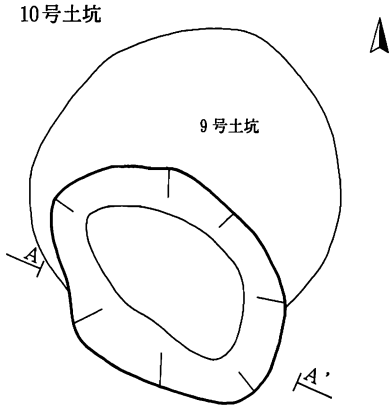
9号土坑

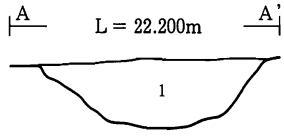




9号土坑
1．10YR4/4　褐色土の下部に水酸化鉄を含む　粘性あり　しまりかなりあり
2．10YR3/2　黒褐色土の下部に水酸化鉄を含む　粘性あり　しまりかなりあり
3．10YR3/4　暗褐色土に水酸化鉄を含む　粘性ややあり　しまりややあり
4．10YR4/4　褐色土と10YR3/4暗褐色土の混合土　粘性ややあり　しまりややあり

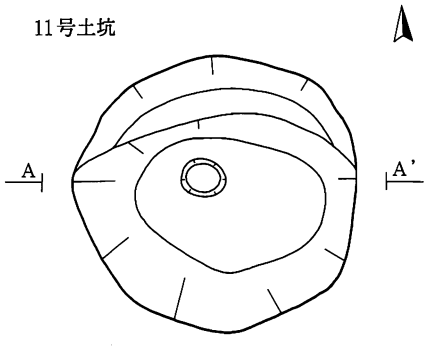
10号土坑

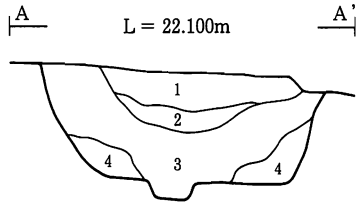




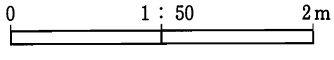
10号土坑
1．10YR3/2　黒褐色土に炭化物が微量に混入　粘性あり　しまりあり

11号土坑





11号土坑
1．10YR3/3　暗褐色と10YR4/4褐色土の混合土　粘性あり　しまりあり
2．10YR4/6　褐色土　粘性あり　しまりあり
3．10YR3/2　黒褐色土　粘性あり　しまりあり
4．10YR3/4　暗褐色土　粘性あり　しまりあり



第133図　9～11号土坑

8号土坑

遺構（第132図、写真図版87）

〈位置・平面形〉　調査区ＶＦ５ｆグリッド、標高21.6ｍに位置する。開口部の平面形は不整な円形を呈する。

〈規模〉　規模は長軸0.68ｍ、短軸0.61ｍ、深さ32㎝を測る。

〈埋土〉　一様な堆積を示し、微量の炭化物を含む褐色土で構成される。

遺物・時期　出土遺物はない。検出層位から９世紀後半～11世紀の遺構の可能性が高い。

9号土坑

遺構（第133図、写真図版88）

〈位置・平面形〉　調査区ＶＧ５ｈグリッド、標高21.6ｍに位置する。開口部の平面形は不整な円形を呈する。

〈規模・埋土〉　規模は長軸2.11ｍ、短軸2.02ｍ、深さ1.08ｍを測る。自然堆積を呈し褐色土～暗褐色土、オリーブ黒色土で構成されている。鉄分の凝固がみられる。

遺物・時期　出土遺物はない。検出層位から９世紀後半～11世紀の遺構の可能性が高い。

10号土坑

遺構（第133図、写真図版88）

〈位置・重複関係〉　調査区ＶＧ５ｈグリッド、標高21.8ｍに位置する。10号土坑と重複する。

〈規模・平面形・方向〉　規模は長軸1.89ｍ、短軸1.28ｍ、深さ40㎝を測る。開口部の平面形は不整な楕円形を呈する。長軸の軸線方向は、W-40°-Ｎである。

〈埋土〉　一様な堆積を成し、微量の炭化物を含む黒褐色土で構成される。

遺物・時期　出土遺物はない。検出層位から９世紀後半～11世紀の遺構の可能性が高い。

11号土坑

遺構（第133図、写真図版88）

〈位置〉　調査区ＶＧ５ｈ～ＶＧ６ｉグリッド、標高21.7ｍ、10・12号土坑の南西約1.7ｍに位置する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸1.88ｍ、短軸1.82ｍ、深さ83㎝を測る。開口部の平面形は不整な円形を呈する。

〈埋土〉　自然堆積を呈し、暗褐色、黒褐色、褐色土で構成される。堆積状況から２基の土坑が重複する可能性も考えられるが、明確な差異は認められなかった。

遺物・時期　出土遺物はない。検出層位から９世紀後半～10世紀の遺構と考えられる。

12号土坑

遺構（第134図、写真図版88）

〈位置・重複関係〉　調査区ＶＦ５ｉグリッド、標高22.1ｍに位置する。15～17号土坑と重複し最上位で検出された遺構である。下層には15・16号土坑が位置する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸2.28ｍ、短軸2.14ｍ、深さ24㎝を測る。開口部の平面形は円形を呈する。

〈埋土〉　自然堆積を呈し、褐色土を主体にして構成されている。

遺物・時期　出土遺物はない。検出層位から９世紀後半～10世紀の遺構と考えられる。

13号土坑

遺構（第134図、写真図版89）

〈位置・重複関係・検出状況〉　調査区ＶＦ５ｉグリッド、標高22.1ｍに位置する。14号土坑と重複し、トレンチ調査により遺構の存在を確認した。下層には16・17号土坑が位置する。

〈規模・平面形・方向・埋土〉　規模は長軸2.35ｍ、短軸1.68ｍ、深さ85㎝を測る。開口部の平面形は楕円形を呈する。長軸の軸線方向はＮ-11°-Ｅである。一様な堆積を示し炭化物を含む褐色土で構成される。

遺物・時期　出土遺物はない。検出層位から９世紀後半～10世紀の遺構と考えられる。

14号土坑

遺構（第134図、写真図版89）

〈位置・重複関係・検出状況〉　調査区ＶＦ５ｉグリッド、標高22.0ｍに位置する。14・15・17号土坑と重複し埋土西側を15号土坑に切られる。トレンチ調査により存在を確認した遺構である。

〈規模・平面形・埋土〉　規模は長軸1.87ｍ、短軸〈1.20〉ｍ、深さ〈52〉㎝を測る。開口部の平面形は円形を呈すると考えられる。埋土は、一様な堆積を示し褐色土で構成される。

遺物・時期　出土遺物はない。検出層位から９世紀後半～10世紀の遺構と考えられる。

15号土坑

遺構（第134図、写真図版89）

〈位置・重複関係・検出状況〉　調査区ＶＦ５ｉグリッド、標高22.1ｍに位置する。14～16号土坑と重複する。トレンチ調査から遺構の存在を確認した。

〈規模・平面形・方向・埋土〉　規模は長軸2.44ｍ、短軸2.06ｍ、深さ1.42ｍを測る。開口部の平面形は不整な方形を呈する。長軸の軸線方向は、Ｎ-16°-Ｅである。一様な堆積を示し、褐色土を主体にして構成されている。

遺物・時期　出土遺物はない。検出層位から９世紀後半～10世紀の遺構と考えられる。

16号土坑

遺構（第135図、写真図版89）

〈位置〉　調査区ＶＥ５ｇグリッド、標高22.2ｍに位置する。

〈規模・平面形・方向・埋土〉　規模は長軸1.03ｍ、短軸0.78ｍ、深さ31㎝を測る。開口部の平面形は楕円形を呈する。長軸の軸線方向はＮ-67°-Ｅである。炭化物を含む褐色土で構成される。

遺物・時期　出土遺物はない。検出層位から９世紀後半～10世紀の遺構と考えられる。

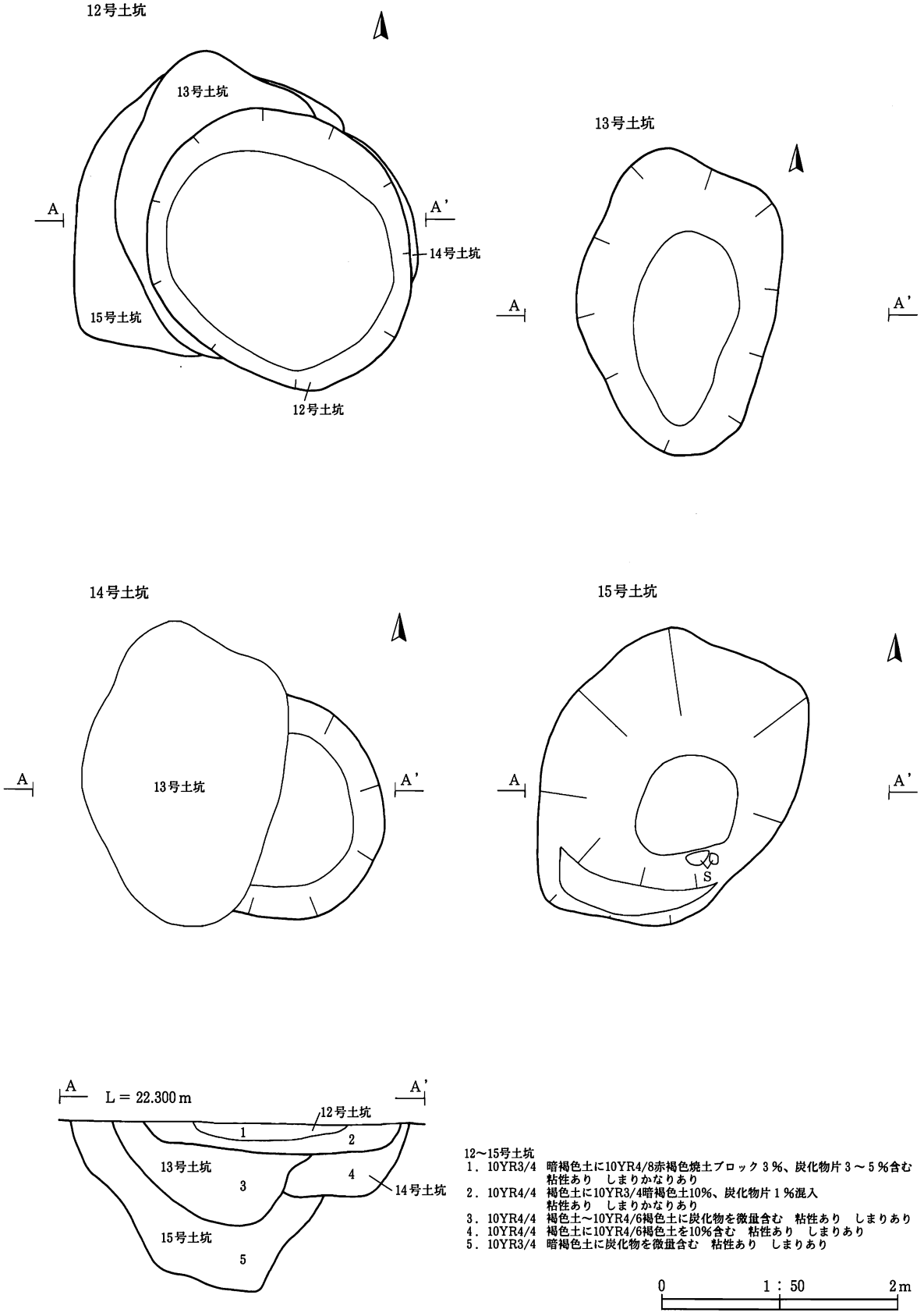
17号土坑

遺構（第135図、写真図版90）

〈位置・重複関係〉　調査区ＶＥ６ｈグリッド、標高22.2ｍに位置する。12・14号土坑と重複する。

〈規模・平面形・方向〉　規模は長軸2.09ｍ、短軸1.53ｍ、深さ９㎝を測る。開口部の平面形は不整な楕円形を呈する。長軸の軸線方向はＮ-22°-Ｅである。

〈埋土・出土状況〉　一様な堆積を示し炭化物を僅かに含む褐色土で構成される。遺物は出土していない。



12～15号土坑
1．10YR3/4　暗褐色土に10YR4/8赤褐色焼土ブロック３％、炭化物片３～５％含む
　　粘性あり　しまりかなりあり
2．10YR4/4　褐色土に10YR3/4暗褐色土10%、炭化物片１％混入
　　粘性あり　しまりかなりあり
3．10YR4/4　褐色土～10YR4/6褐色土に炭化物を微量含む　粘性あり　しまりあり
4．10YR4/4　褐色土に10YR4/6褐色土を10%含む　粘性あり　しまりあり
5．10YR3/4　暗褐色土に炭化物を微量含む　粘性あり　しまりあり

0　1：50　2m

第134図　12～15号土坑

時期　検出層位から9世紀後半～10世紀の遺構と考えられる。

18号土坑

遺構（第135図、写真図版90）

〈位置〉　調査区ＩＥ7ｇ～ＩＥ7ｇグリッド、標高22.7ｍに位置する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸0.90ｍ、短軸0.76ｍ、深さ19㎝を測る。開口部の平面形は不整な隅丸方形を呈する。

〈埋土・出土状況〉　褐色土を主体にして構成されている。出土遺物はない。

時期　検出層位から10～11世紀の遺構と考えられる。

19号土坑

遺構（第135図、写真図版90）

〈位置〉　調査区ＩＥ9ｆグリッド、標高22.9ｍに位置する。

〈規模・平面形・方向〉　規模は長軸1.53ｍ、短軸0.90ｍ、深さ24㎝を測る。開口部の平面形は不整な楕円形を呈する。長軸の軸線方向はＮ-27°-Ｗである。

〈埋土〉　炭化物と焼土ブロックを含む褐色土を主体にして構成されている。

遺物・時期　出土遺物はない。検出状況から10～11世紀の遺構と考えられる。

20号土坑

遺構（第136図、写真図版90）

〈位置〉　調査区ＩＥ10f～ＩＥ10gグリッド、標高23.2ｍに位置する。

〈規模・平面形・方向〉　規模は長軸1.16ｍ、短軸0.97ｍ、深さ16㎝を測る。開口部の平面形は隅丸長方形を呈する。長軸の軸線方向は、Ｎ-13°-Ｅである。

〈埋土・出土状況〉　自然堆積を呈し、暗褐色土を主体にして構成されている。出土遺物はない。

時期　検出状況から10～11世紀の遺構と考えられる。

21号土坑

遺構（第136図、写真図版91）

〈位置〉　調査区ＩＥ10dグリッド、標高23.1ｍに位置する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸1.04ｍ、短軸0.96ｍ、深さ24㎝を測る。開口部の平面形は不整な円形を呈する。

〈埋土・出土状況〉　暗褐色土と褐色土が主体で構成されている。出土遺物はない。

時期　検出状況から10～11世紀の遺構と考えられる。

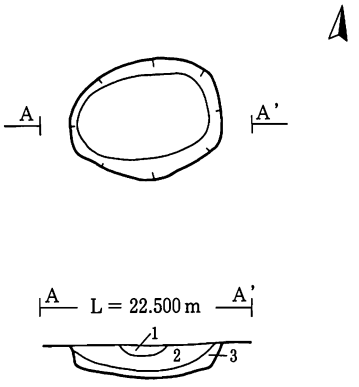
22号土坑

遺構（第136図、写真図版91）

〈位置〉　調査区ＩＥ10dグリッド、標高23.1ｍに位置する。

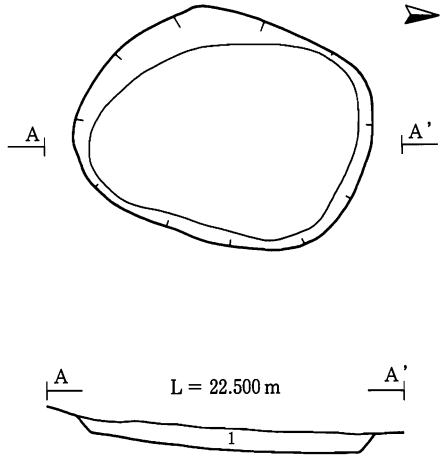
〈規模・平面形・方向〉　規模は長軸1.46ｍ、短軸1.19ｍ、深さ40㎝を測る。開口部の平面形は楕円形を呈

16号土坑



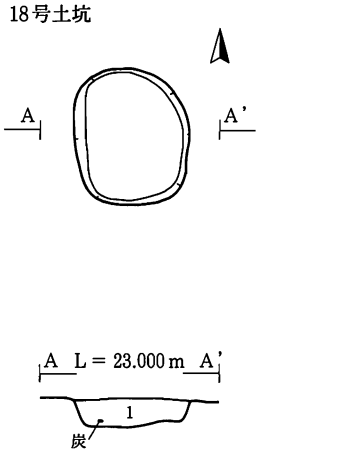
16号土坑
1．10YR4/6　褐色土と10YR4/4褐色土の混合土に炭化物を含む
　　粘性ややあり　しまりややあり
2．10YR4/4　褐色土に10YR4/6褐色土と炭化物を含む
　　粘性ややあり　しまりややあり
3．10YR4/6　褐色土に10YR4/4褐色土と炭化物を含む
　　粘性ややあり　しまりややあり

17号土坑



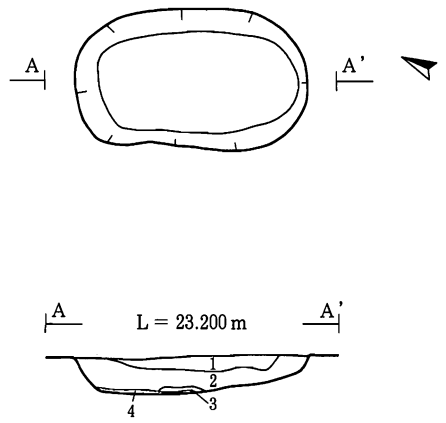
17号土坑
1．10YR4/4　褐色砂質土に炭化物を30%含む　粘性あり　しまりややあり

18号土坑

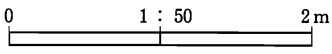


18号土坑
1．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりあり

19号土坑



19号土坑
1．10YR3/3　褐色土　炭化物、焼土２%を含む　粘性ややあり　しまりあり
2．10YR3/4～4/4暗褐色土～褐色土の混合土　粘性あり　しまりあり
3．炭化物層　粘性なし　しまりややあり
4．5YR4/4～3/4　にぶい赤褐色土～暗赤褐色焼土　粘性ややあり　しまりあり



第135図　16～19号土坑

する。長軸の軸線方向はN-2°-Eである。

〈埋土〉　自然堆積を呈し、褐色土を主体にして構成されている。

遺物（第200図、写真図版132）

〈出土状況〉　土師器の坏（454～456・458）、甕片（457）が出土している。454は内外面黒色処理、456は内面を黒色処理を施している。

時期　検出層位と出土遺物から10世紀の遺構と考えられる。

23号土坑

遺構（第136図、写真図版91）

〈位置・規模・平面形〉　調査区ⅡE1cグリッド、標高22.9mに位置する。規模は長軸1.28m、短軸1.18m、深さ18cmを測る。開口部の平面形は不整な円形を呈する。

〈埋土・出土状況〉　自然堆積を呈し、褐色土を主体にして構成されている。出土遺物はない。

時期　検出状況から10～11世紀の遺構と考えられる。

24号土坑

遺構（第137図、写真図版91）

〈位置〉　調査区ⅡE1b～ⅡE1cグリッド、標高22.9mに位置する。

〈検出状況・規模・平面形〉　検出時のプランは不明瞭でトレンチ調査により確認した遺構である。規模は長軸1.46m、短軸1.25m、深さ51cmを測る。開口部の平面形は不整な円形を呈する。

〈埋土・出土状況〉　自然堆積を呈し、褐色土を主体にして構成されている。出土遺物はない。

時期　検出状況から10～11世紀の遺構と考えられる。

25号土坑

遺構（第137図、写真図版92）

〈位置〉　調査区ⅡE2aグリッド、標高23.3mに位置する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸1.33m、短軸1.15m、深さ26cmを測る。開口部の平面形は不整な円形を呈する。

〈埋土〉　炭化物と焼土粒を含む褐色土を主体にして構成されている。

遺物（第200図、写真図版132）

〈出土状況〉　埋土中から土師器の坏、甕が出土している。

〈土器〉　459は完形の坏で、底部の切り離しは回転糸切りである。461は内面黒色処理の坏破片である。

時期　出土した遺物から10世紀の遺構と考えられる。

26号土坑

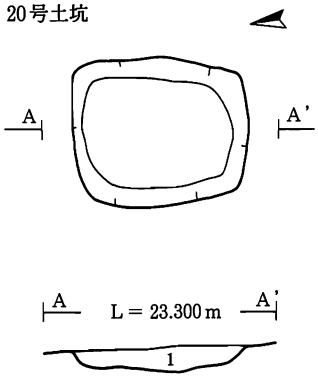
遺構（第137図、写真図版92）

〈位置〉　調査区ⅠD9j～ⅠD10jグリッド、標高23.3mに位置する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸1.45m、短軸1.37m、深さ28cmを測る。開口部の平面形は隅丸方形を呈する。

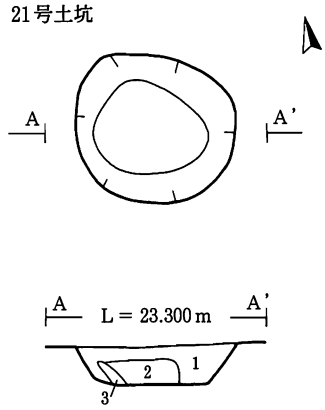
〈方向・埋土〉　長軸の軸線方向はN-25°-Eである。炭化物を含む暗褐色土と褐色土が主体で構成されて

20号土坑



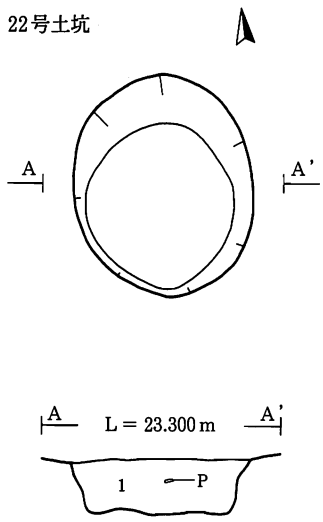
20号土坑
1．10YR3/3　暗褐色土を主体に10YR3/4暗褐色土を含む
　　粘性あり　しまりややあり

21号土坑



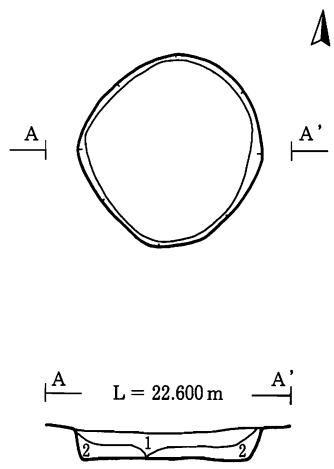
21号土坑
1．10YR3/4　暗褐色土　粘性ややあり　しまりあり
2．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりあり
3．10YR4/3　にぶい黄褐色土　粘性あり　しまりあり

22号土坑

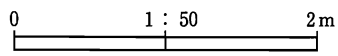


22号土坑
1．10YR4/4　褐色土、炭化物を含む　粘性ややあり　しまりかなりあり

23号土坑



23号土坑
1．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりややあり
2．10YR5/6　黄褐色土　粘性あり　しまりややあり



第136図　20～23号土坑

いる。

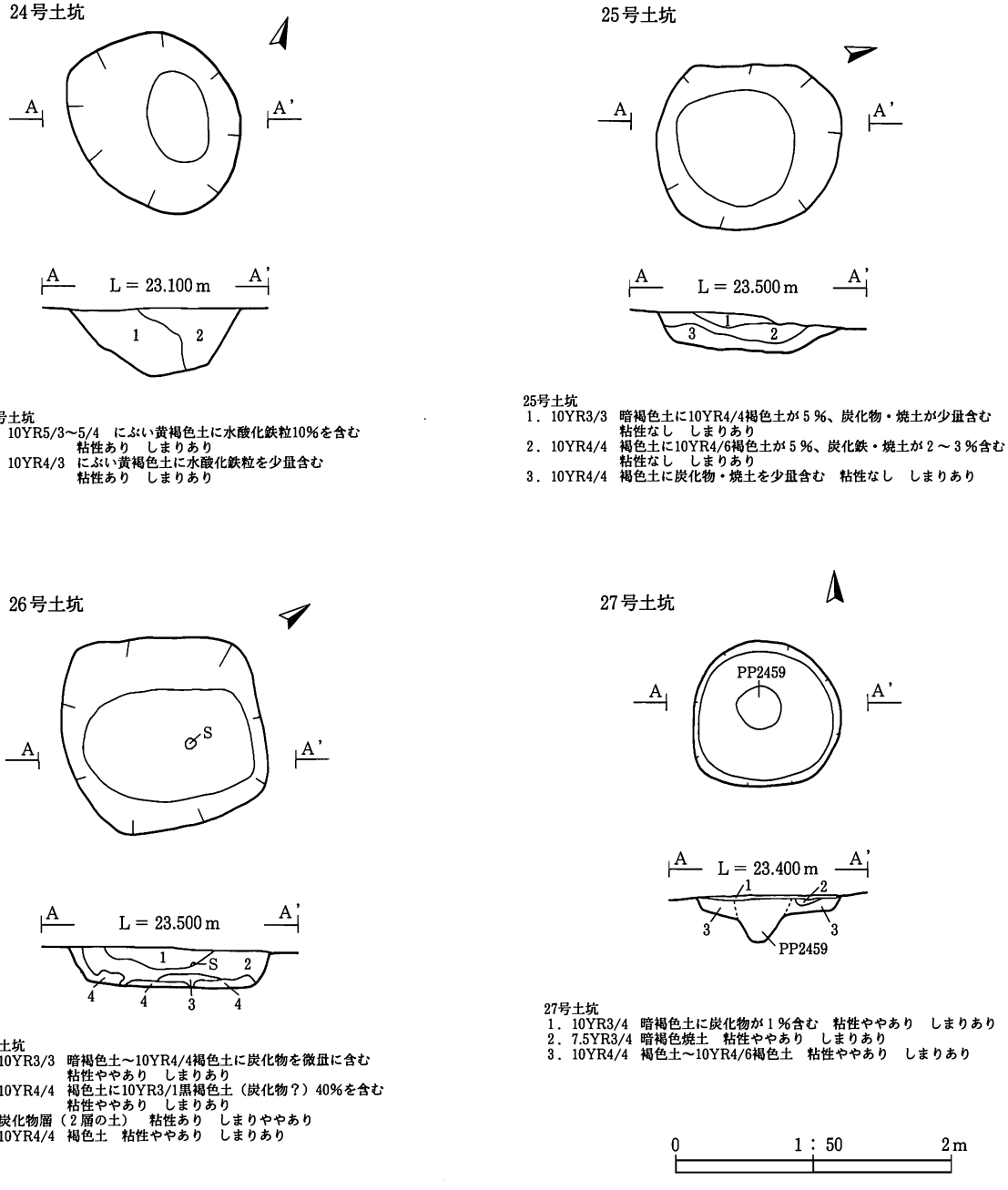
遺物（第200図、写真図版132）

〈出土状況〉　埋土中から土師器の甕（464・465）、坏片（466）が出土している。

時期　出土した遺物から10～11世紀の遺構と考えられる。

27号土坑

遺構（第137図、写真図版92）



24号土坑
1．10YR5/3～5/4　にぶい黄褐色土に水酸化鉄粒10%を含む
　　粘性あり　しまりあり
2．10YR4/3　にぶい黄褐色土に水酸化鉄粒を少量含む
　　粘性あり　しまりあり

25号土坑
1．10YR3/3　暗褐色土に10YR4/4褐色土が５%、炭化物・焼土が少量含む
　　粘性なし　しまりあり
2．10YR4/4　褐色土に10YR4/6褐色土が５%、炭化鉄・焼土が２～３%含む
　　粘性なし　しまりあり
3．10YR4/4　褐色土に炭化物・焼土を少量含む　粘性なし　しまりあり

26号土坑
1．10YR3/3　暗褐色土～10YR4/4褐色土に炭化物を微量に含む
　　粘性ややあり　しまりあり
2．10YR4/4　褐色土に10YR3/1黒褐色土（炭化物？）40%を含む
　　粘性ややあり　しまりあり
3．炭化物層（２層の土）　粘性あり　しまりややあり
4．10YR4/4　褐色土　粘性ややあり　しまりあり

27号土坑
1．10YR3/4　暗褐色土に炭化物が１%含む　粘性ややあり　しまりあり
2．7.5YR3/4　暗褐色焼土　粘性ややあり　しまりあり
3．10YR4/4　褐色土～10YR4/6褐色土　粘性ややあり　しまりあり

第137図　24～27号土坑

〈位置・重複関係〉　調査区ⅡＤ２ｊグリッド、標高23.3ｍに位置する。PP2459と重複する。

〈規模・平面形・埋土〉　規模は長軸1.07ｍ、短軸1.04ｍ、深さ14㎝を測る。開口部の平面形は不整な円形を呈する。上層は炭化物と焼土ブロックを含む暗褐色土、下層は褐色土を主体に構成されている。

遺物（写真図版133）

〈出土状況〉　埋土中から土師器の甕（467）と坏（468）が１点ずつ出土している。

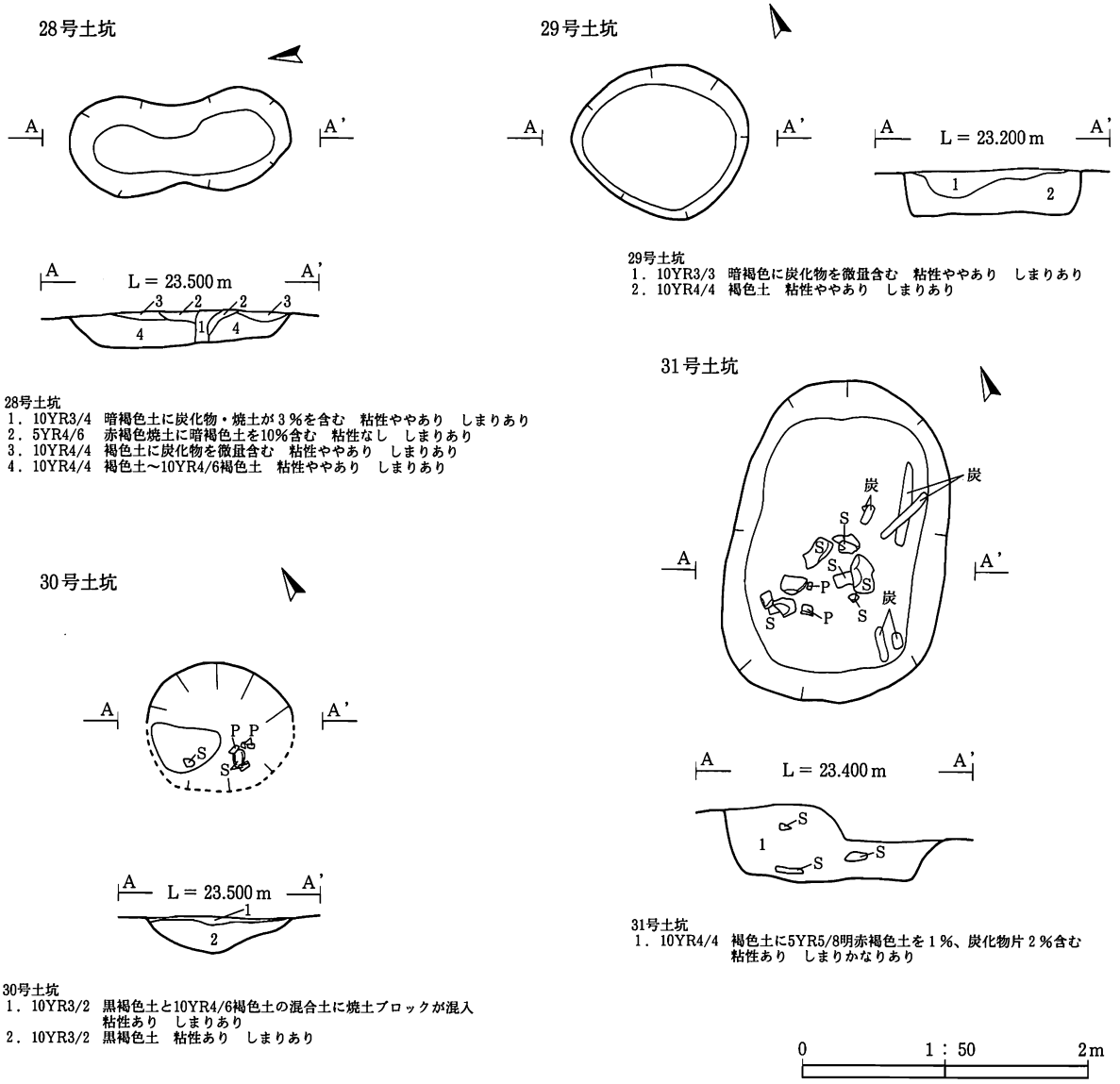
時期　出土した遺物から10～11世紀の遺構と考えられる。

28号土坑

遺構（第138図、写真図版92）

〈位置〉　調査区ⅡＤ１ｊ～ⅡＤ２ｊグリッド、標高23.3ｍに位置する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸1.53ｍ、短軸0.53～0.70ｍ、深さ24㎝を測る。開口部の平面形は不整な長楕



28号土坑
1．10YR3/4　暗褐色土に炭化物・焼土が３％を含む　粘性ややあり　しまりあり
2．5YR4/6　赤褐色焼土に暗褐色土を10%含む　粘性なし　しまりあり
3．10YR4/4　褐色土に炭化物を微量含む　粘性ややあり　しまりあり
4．10YR4/4　褐色土～10YR4/6褐色土　粘性ややあり　しまりあり

29号土坑
1．10YR3/3　暗褐色に炭化物を微量含む　粘性ややあり　しまりあり
2．10YR4/4　褐色土　粘性ややあり　しまりあり

30号土坑
1．10YR3/2　黒褐色土と10YR4/6褐色土の混合土に焼土ブロックが混入
　　粘性あり　しまりあり
2．10YR3/2　黒褐色土　粘性あり　しまりあり

31号土坑
1．10YR4/4　褐色土に5YR5/8明赤褐色土を１％、炭化物片２％含む
　　粘性あり　しまりかなりあり

0　1：50　2ｍ

第138図　28～31号土坑

円形を呈する。形状から竈状遺構の可能性も考えられる。

〈埋土〉　上層は炭化物と焼土ブロックを含む暗褐色土、下層は褐色土が主体で構成されている。

遺物

〈出土状況〉　埋土中から土師器の坏片が１点（469）出土している。

時期　検出層位からは10～11世紀の遺構と考えられるが、近世の遺構の可能性もある。

29号土坑

遺構（第138図、写真図版93）

〈位置〉　調査区ⅡＥ２ｈ～ⅡＥ３ｈグリッド、標高22.9ｍに位置する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸1.24ｍ、短軸1.10ｍ、深さ30㎝を測る。開口部の平面形は不整な円形を呈する。

〈埋土〉　上層は炭化物混じりの暗褐色土、下層は褐色土が主体で構成されている。

遺物・時期　出土遺物はない。検出状況から10～11世紀の遺構と考えられる。

30号土坑

遺構（第138図、写真図版93）

〈位置〉　調査区ⅡＤ４ｊグリッド、標高23.3ｍに位置する。

〈検出状況〉　明確なプランは確認できず、トレンチ調査から遺構を確認した。南西側上層はトレンチにより消失している。

〈規模・平面形〉　規模は長軸1.03ｍ、短軸（0.91）ｍ、深さ26㎝を測る。開口部の平面形は不整な円形を呈する。

〈埋土〉　黒褐色土を主体にして構成されている。

遺物（第200図、写真図版133）

〈出土状況〉　須恵器の甕片が１点（470）出土している。

時期　出土した遺物から10～11世紀の遺構と考えられる。

31号土坑

遺構（第138図、写真図版93）

〈位置〉　調査区ⅡＤ５ｆ～ⅡＤ５ｇグリッド、標高23.1ｍに位置する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸2.24ｍ、短軸1.49ｍ、深さ52㎝を測る。開口部の平面形は隅丸長方形を呈する。

〈方向・埋土〉　長軸の軸線方向は、Ｎ-35°-Ｅである。炭化物と焼土粒を含む褐色土を主体にして構成されている。

遺物（第200図、写真図版133）

〈出土状況〉　土師器の坏（471・475）、甕（472～474）が埋土中から出土している。

〈土器〉　471の底部切り離しは回転糸切りである。

時期　出土した遺物から10～11世紀の遺構と考えられる。

32号土坑

遺構（第139図、写真図版93）

〈位置・重複関係〉　調査区ⅢＤ４ｊグリッド、標高23.3ｍに位置する。33号土坑と重複する。

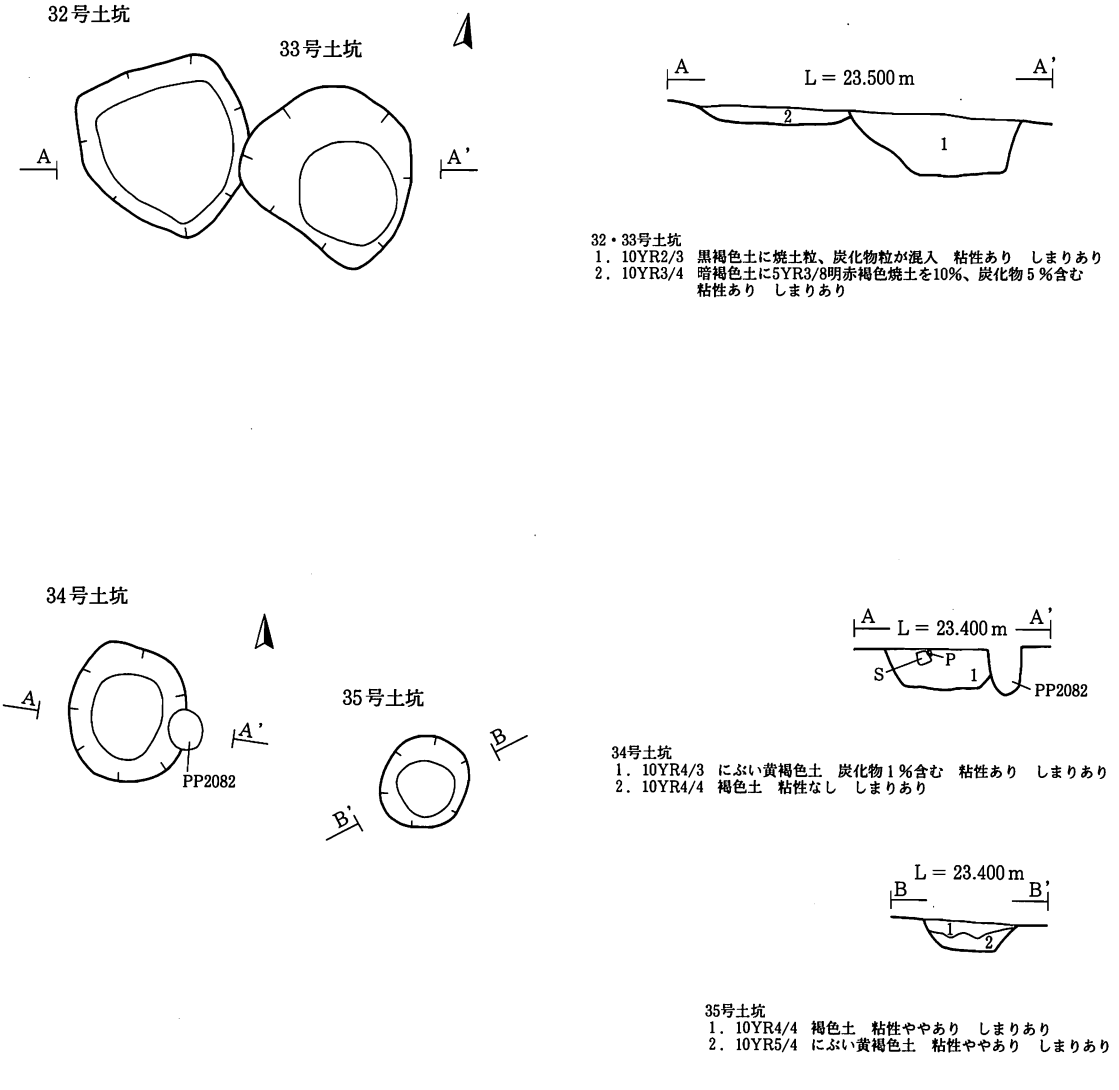
〈規模・平面形〉　規模は長軸1.13ｍ、短軸1.07ｍ、深さ10㎝を測る。開口部の平面形は楕円形を呈する。

〈埋土〉　暗褐色土を主体にして構成されている。

遺物（第200図、写真図版133）

〈出土状況〉　内面黒色処理の坏片（476）が埋土中から出土している。切り離しは回転糸切りである。

時期　検出状況と出土遺物から10～11世紀の遺構と考えられる。



第139図　32～35号土坑

33号土坑

遺構（第139図、写真図版94）

〈位置・重複関係〉　調査区ⅢＤ４ｊグリッド、標高23.3ｍに位置する。32号土坑と重複する。

〈規模・平面形・埋土〉　規模は長軸1.24ｍ、短軸0.96ｍ、深さ39㎝を測る。開口部の平面形は楕円形を呈する。黒褐色土を主体にして構成されている。

遺物（第200図、写真図版133）

〈出土状況〉　埋土中から土師器の坏片（477）が出土している。切り離しは回転糸切りである。

時期　検出状況と出土遺物から10世紀の遺構と考えられる。

34号土坑

遺構（第139図、写真図版94）

〈位置・重複関係〉　調査区ⅡＤ８ｅグリッド、標高23.3ｍに位置する。旧P3477と重複し、35号土坑の約1.4ｍ西に近接する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸0.88ｍ、短軸0.75ｍ、深さ26㎝を測る。開口部の平面形は不整な円形を呈する。

〈埋土〉　一様な堆積を呈し、炭化物を含むにぶい黄褐色土を主体にして構成されている。

遺物（写真図版133）

〈出土状況〉　埋土中から土師器の坏（479)、甕（478・480）が出土している。

時期　出土した遺物から10～11世紀の遺構と考えられる。

35号土坑

遺構（第139図、写真図版94）

〈位置〉　調査区ⅡＤ８ｅグリッド、標高23.3ｍに位置する。34号土坑の約1.4ｍ東に近接する。

〈規模・平面形・埋土〉　規模は長軸0.61ｍ、短軸0.54ｍ、深さ18㎝を測る。開口部の平面形は楕円形を呈する。自然堆積を呈し、褐色土を主体にして構成されている。

遺物（第200図、写真図版133）

〈出土状況〉　埋土中から土師器の甕片（481）が出土している。

時期　検出状況と出土遺物から10～11世紀の遺構と考えられる。

36号土坑

遺構（第140図、写真図版94）

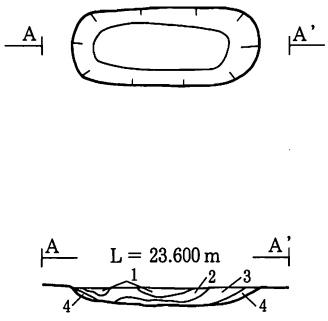
〈位置〉　調査区ⅡＤ10ｇ～ⅡＤ10ｈグリッド、標高23.4ｍに位置する。

〈規模・平面形・方向〉　規模は長軸1.24ｍ、短軸0.52ｍ、深さ12㎝を測る。開口部の平面形は楕円形を呈する。方向はW-9°-Nである。

〈埋土〉　上層は黒褐色土、下層は微量の炭化物を含む褐色土を主体にして構成されている。

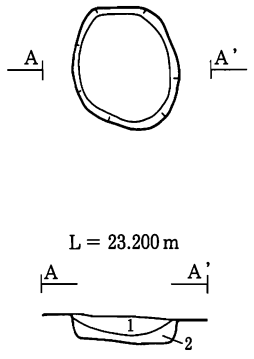
遺物・時期　出土遺物はない。検出状況から10～11世紀の遺構と考えられる。

36号土坑



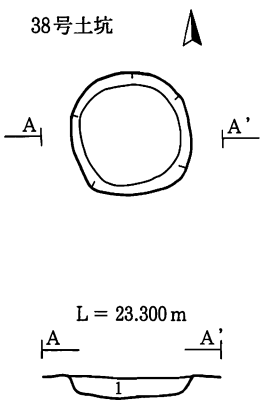
36号土坑
1．10YR2/3　黒褐色土に5YR5/6明赤褐色（炉壁？）　粘性あり　しまりややあり
2．10YR3/3　暗褐色土に炭化物を微量に含む　粘性あり　しまりややあり
3．10YR3/3　暗褐色土に炭化物を多量に含む　粘性あり　しまりややあり

37号土坑



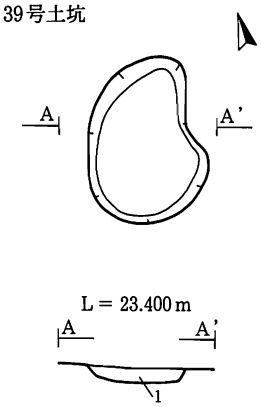
37号土坑
1．10YR4/3　にぶい黄褐色土　粘性あり　しまりややあり
2．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりややあり

38号土坑

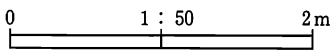


38号土坑
1．10YR3/3　暗褐色土、礫・炭化物２％含む　粘性あり　しまりあり

39号土坑



39号土坑
1．10YR4/4　褐色土の底部ややグライ化（10YR4/2灰黄褐色土）、
炭化物粒を含む　粘性あり　しまりあり



第140図　36～39号土坑

37号土坑

遺構（第140図、写真図版94）

〈位置〉　調査区ⅢＥ４ｉグリッド、標高23.0ｍに位置する。

〈規模・平面形・埋土〉　規模は長軸0.79ｍ、短軸0.70ｍ、深さ16㎝を測る。開口部の平面形は不整な円形を呈する。自然堆積を呈し、上層はにぶい黄褐色、下層は褐色土を主体にして構成されている。

遺物・時期　出土遺物はない。検出状況から10～11世紀の遺構と考えられる。

38号土坑

遺構（第140図、写真図版95）

〈位置〉　調査区ⅢＥ３ｇグリッド、標高23.1ｍに位置する。

〈規模・平面形・埋土〉　規模は長軸0.83ｍ、短軸0.78ｍ、深さ13㎝を測る。開口部の平面形は不整な円形を呈する。自然堆積を呈し、褐色土を主体にして構成されている。

遺物・時期　出土遺物はない。検出状況から10～11世紀の遺構と考えられる。

39号土坑

遺構（第140図、写真図版95）

〈位置〉　調査区ⅢＤ１ｉグリッド、標高23.2ｍに位置する。

〈規模・平面形・方向〉　規模は長軸1.11ｍ、短軸0.67ｍ、深さ９㎝を測る。開口部の平面形は不整形を呈するが、北東辺が消失した楕円形と考えられる。長軸の方向はＮ-27°-Ｅである。

〈埋土〉　一様な堆積を呈し、炭化物を含む褐色土を主体にして構成されている。

遺物・時期　出土遺物はない。検出状況から10～11世紀の遺構と考えられる。

40号土坑

遺構（第141図、写真図版95）

〈位置・重複関係〉　調査区ⅡＥ９ｄグリッド、標高22.9ｍに位置する。旧P3727と重複する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸0.98ｍ、短軸0.97ｍ、深さ21㎝を測る。開口部の平面形は不整な円形を呈する。

〈埋土〉　自然堆積を呈し上層は褐色土、下層は暗褐色土を主体にして構成されている。

遺物（写真図版133）

〈出土状況〉　埋土中から土師器の坏片（482・483）、甕片（486・487）が出土している。

〈土器〉　484・487は内面黒色処理の坏である。

時期　出土した遺物から10～11世紀の遺構と考えられる。

41号土坑

遺構（第141図、写真図版95）

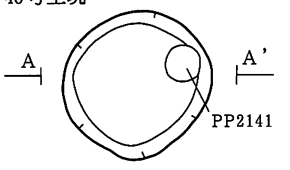
〈位置〉　調査区ⅡＥ８ｅグリッド、標高23.0ｍに位置する。

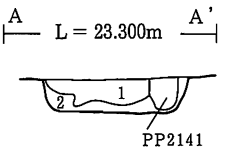
〈規模・平面形〉　規模は長軸1.26ｍ、短軸1.20ｍ、深さ22㎝を測る。開口部の平面形は円形を呈する。

〈埋土〉　自然堆積を呈し、褐色土を主体にして構成されている。

遺物（第201図、写真図版133）

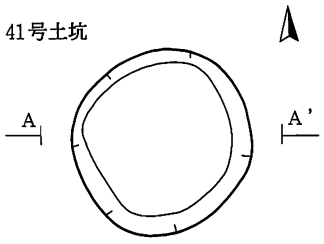
40号土坑

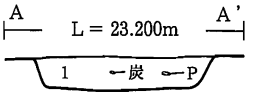




40号土坑
1．10YR4/4褐色土と10YR2/3黒褐色土の混合土、炭化物を含む　粘性あり　しまりややあり
2．10YR5/6　黄褐色土　粘性あり　しまりややあり

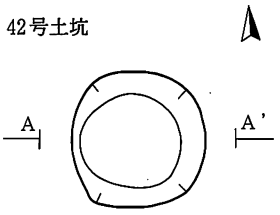
41号土坑

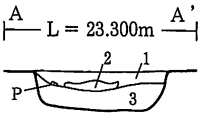




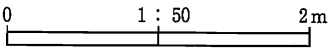
41号土坑
1．10YR3/4暗褐色土に炭化物粒を微量に含む　粘性あり　しまりあり

42号土坑





42号土坑
1．10YR2/3　黒褐色土に炭化物粒を10%含む　粘性あり　しまりあり
2．2.5YR3/6　暗赤褐色土と2.5YR2/2極暗赤褐色土の混合土、炭化物粒を10%含む
　　粘性あり　しまりあり
1．10YR4/4　褐色土に炭化物を含む　粘性あり　しまりあり



第141図　40～42号土坑

〈出土状況〉　埋土中から土師器の坏、甕が出土している。

〈土器〉　490は内外面黒色処理されている。

時期　検出状況と出土遺物から10世紀後半～11世紀の遺構と考えられる。

42号土坑

遺構（第141図、写真図版95）

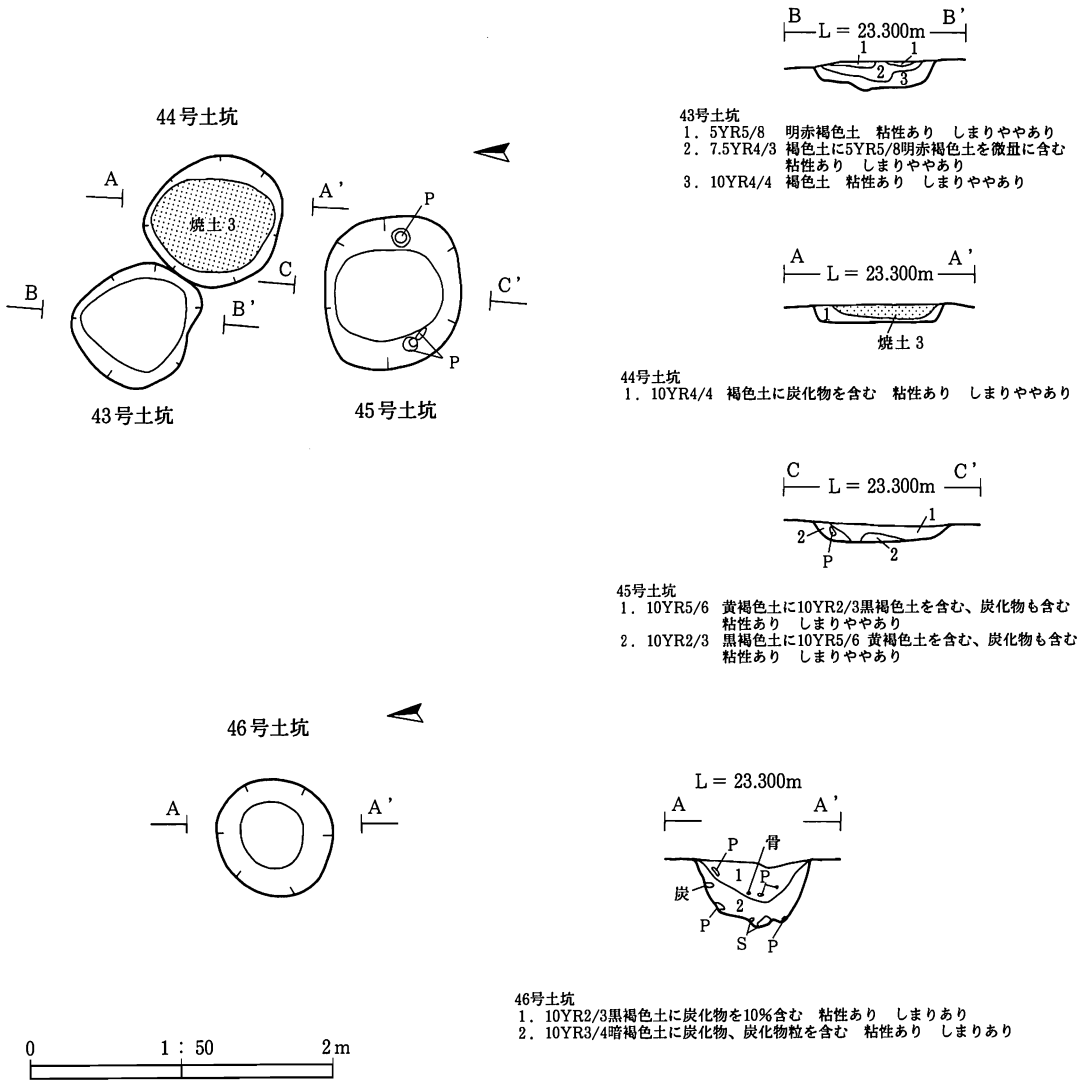
〈位置〉　調査区ⅡＥ７ｂグリッド、標高23.0ｍに位置する。

〈規模・平面形・埋土〉　規模は長軸0.88ｍ、短軸0.87ｍ、深さ30㎝を測る。開口部の平面形は不整な円形を呈する。自然堆積を呈し、褐色土を主体にして構成されている。

遺物（第201図、写真図版133）

〈出土状況〉　埋土中から土師器の坏、甕片、須恵器の甕片が出土している。

〈土器〉　493は須恵器の甕片で外面にタタキ目を持つ。499の坏の底部切り離しは回転糸切りである。



第142図　43～46号土坑

時期　検出状況と出土遺物から10～11世紀の遺構と考えられる。

43号土坑

遺構（第142図、写真図版96）

〈位置・重複関係〉　調査区ⅡＥ７ｂ～ⅡＥ８ｂグリッド、標高23.1ｍに位置する。44号土坑、３号焼土遺構と重復する。

〈規模・平面形・埋土〉　規模は長軸0.87ｍ、短軸0.84ｍ、深さ14㎝を測る。開口部の平面形は不整な円形を呈する。埋土は自然堆積を呈し、褐色土を主体にして構成されている。

遺物（第201図、写真図版133）

〈出土状況〉　埋土中から土師器の坏（500・501）、甕片（502）が出土している。

〈土器〉　500・501の底部切り離しは回転糸切りである。

時期　検出状況と出土遺物から10～11世紀の遺構と考えられる。

44号土坑

遺構（第142図、写真図版96）

〈位置・重複関係〉　調査区ⅡＥ７ｂグリッド、標高23.1ｍに位置する。43号土坑と重複する。

〈規模・平面形・埋土〉　規模は長軸〈0.80〉ｍ、短軸0.76ｍ、深さ14㎝を測る。開口部の平面形は不整な台形を呈する。埋土は褐色土を主体にして構成されている。

遺物・時期　出土遺物はない。検出状況から10～11世紀の遺構と考えられる。

45号土坑

遺構（第142図、写真図版96）

〈位置〉　調査区ⅡＥ７ｂグリッド、標高23.0ｍに位置する。43・44号土坑に近接する。

〈規模・平面形・埋土〉　規模は長軸0.95ｍ、短軸0.94ｍ、深さ22㎝を測る。開口部の平面形は隅丸方形を呈する。埋土は自然堆積を呈し、褐色土を主体にして構成されている。

遺物

〈出土状況〉　埋土中から土師器の坏（503）、甕（504・505）が出土している。

時期　検出状況と出土遺物から10～11世紀の遺構と考えられる。

46号土坑

遺構（第142図、写真図版96）

〈位置・重複関係〉　調査区ⅡＥ７ｂグリッド、標高23.0ｍに位置する。４号焼土と重複する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸0.78ｍ、短軸0.76ｍ、深さ44㎝を測る。開口部の平面形は円形を呈する。

〈埋土〉　褐色土を主体にして構成されている。埋土中に土器が多量に混入していたことから廃棄土坑と考えられる。

遺物（第201図、写真図版133）

〈出土状況〉　埋土中と床面から土師器の坏（506・510）、鉢（507）、甕片（508・509）と自然石が出土している。

〈土器〉　507は内面黒色処理の鉢で、粗いミガキが施される。510は内面黒色処理の坏で、506の底部切り離しは回転糸切りである。

時期　検出状況と出土遺物から10～11世紀の遺構と考えられる。

47号土坑

遺構（第143図、写真図版96）

〈位置〉　調査区ⅢＤ６ｈグリッド、標高23.0m、48号土坑の南西40㎝に位置する。

〈規模・平面形・方向〉　規模は長軸0.77m、短軸0.59m、深さ31㎝を測る。開口部の平面形は楕円形を呈する。長軸の軸線方向はＥ-37°-Ｎである。

〈埋土〉　自然堆積を呈し、褐色土を主体にして構成されている。

遺物（第201図、写真図版132）

〈出土状況〉　埋土中から土師器の坏（511）が出土している。底部切り離しは回転糸切りである。

時期　検出状況から10世紀の遺構と考えられる。

48号土坑

遺構（第143図、写真図版97）

〈位置〉　調査区ⅢＤ５ｈ～ⅢＤ６ｈグリッド、標高23.0mに位置する。47号土坑の北東40㎝に近接する。

〈規模・平面形・方向〉　規模は長軸1.48m、短軸1.19m、深さ19㎝を測る。開口部の平面形は楕円形を呈する。長軸の軸線方向はＮ-7°-Ｗである。

〈埋土〉　自然堆積を呈し、褐色土を主体にして構成されている。

遺物

〈出土状況〉　埋土中から土師器の甕（512）と須恵器の甕片（513）が出土している。513は外面にタタキ目を持つ。

時期　検出された遺物から10世紀の遺構と考えられる。

49号土坑

遺構（第143図、写真図版97）

〈位置〉　調査区ⅢＤ５ｈ～ⅢＤ６ｈグリッド、標高23.0mに位置する。

〈規模・平面形・方向〉　規模は長軸1.48m、短軸1.19m、深さ19㎝を測る。開口部の平面形は楕円形を呈する。長軸の軸線方向はＮ-7°-Ｗである。

〈埋土〉　自然堆積を呈し、褐色土を主体にして構成されている。

遺物・時期　出土遺物はない。検出状況から10世紀の遺構と考えられる。

50号土坑

遺構（第143図、写真図版97）

〈位置・重複関係〉　調査区ⅢＥ４ｅグリッド、標高23.2mに位置する。２号周溝南東端と重複する。周溝を切っているため周溝とは時期差があると考えられる。

〈規模・平面形〉　規模は長軸1.88m、短軸0.91m、深さ20㎝を測る。開口部の平面形は不整な楕円形～隅

丸長方形を呈する。

〈方向・埋土〉　長軸の軸線方向はN-13°-Wである。灰黄褐色土が主体で構成されている。

遺物（第218図、写真図版149）

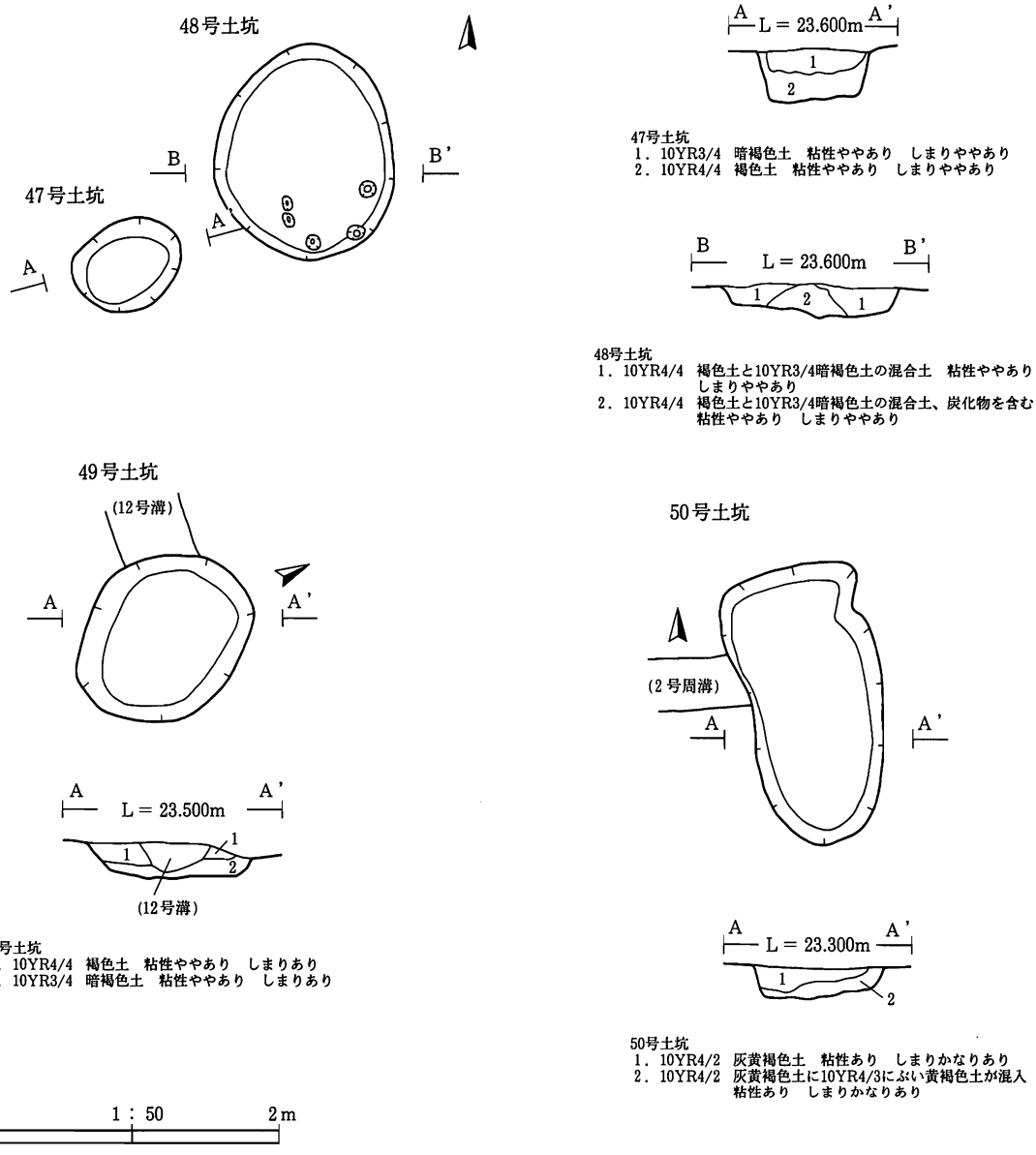
〈出土状況〉　楔（893）と鑿（894）が埋土中から出土している。

時期　検出状況と遺物から中世後半の遺構と考えられる。

51号土坑

遺構（第144図、写真図版97）

〈位置〉　調査区ⅢE7b～ⅢE8bグリッド、標高23.3mに位置し、52号土坑の西10cmに近接する。51～53号土坑はほぼ東西に並んで検出された。



第143図　47～50号土坑

〈規模・平面形〉　規模は長軸1.20m、短軸1.09m、深さ20cmを測る。開口部の平面形は不整な円形を呈する。削平により上層は不明であるが、茶毘所等の祭祀に関係する遺構の可能性も考えられる。

〈埋土〉　褐色土を主体にして構成されている。

遺物（第208図、写真図版140）

〈出土状況〉　埋土中から手づくねかわらけ（745～748）が出土している。

時期　出土した遺物から12世紀後半の遺構と考えられる。

52号土坑

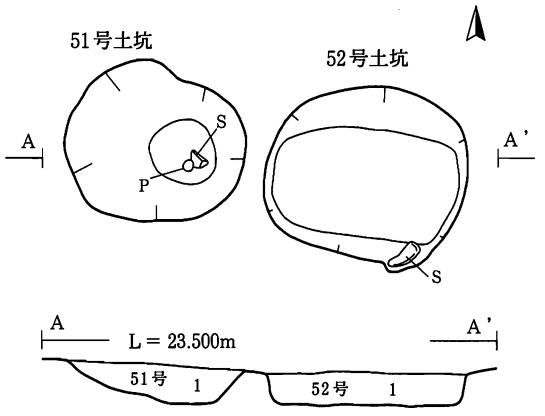
遺構（第144図、写真図版98）

〈位置〉　調査ⅢＥ７ｂ～ⅢＥ８ｂ区グリッド、標高23.3mに位置し、51号土坑の東10cmに近接する。51～53号土坑はほぼ東西に並んで検出された。

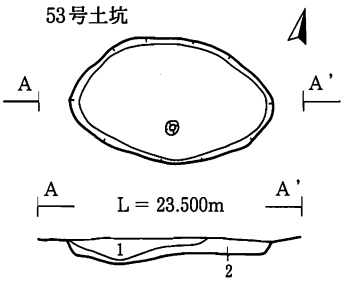
〈規模・平面形・方向〉　規模は長軸1.30m、短軸1.12m、深さ17cmを測る。開口部の平面形は楕円形を呈する。長軸の軸線方向はN-76°-Wである。

〈埋土・出土状況〉　自然堆積を呈し、褐色土を主体にして構成されている。遺物は出土していない。

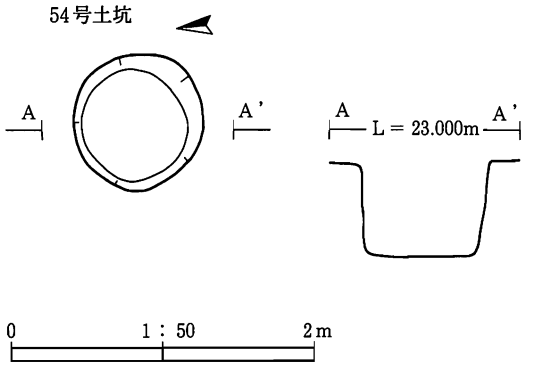
時期　検出状況から50号土坑と同じ12世紀後半の遺構と考えられる。

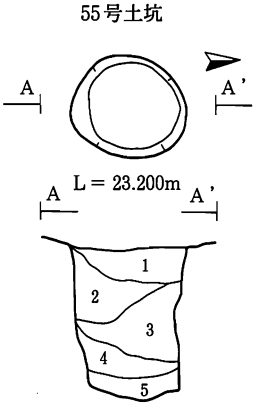


51・52号土坑
1．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりあり



53号土坑
1．10YR5/4　にぶい黄褐色土に炭化物を１%含む　粘性ややあり　しまりあり
2．10YR5/3　にぶい黄褐色土に炭化物を１%含む　粘性あり　しまりあり





55号土坑
1．10YR3/2　黒褐色土と10YR5/4にぶい黄褐色土の混合土　粘性なし　しまりあり
2．10YR5/4　にぶい黄褐色土　粘性なし　しまりあり
3．10YR5/4　にぶい黄褐色土と10YR2/2黒褐色土の混合土　粘性あり　しまりあり
4．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりあり
5．10YR5/6　黄褐色土　粘性なし　しまりあり

0　1：50　2m

第144図　51～55号土坑

53号土坑

遺構（第144図、写真図版98）

〈位置〉　調査区ⅢＥ７ｃ～ⅢＥ８ｃグリッド、標高23.2ｍに位置し、52号土坑の1.6ｍ東に近接する。51～53号土坑はほぼ東西に並んで検出された。

〈規模・平面形〉　規模は長軸1.31ｍ、短軸0.80ｍ、深さ11㎝を測る。開口部の平面形は楕円形を呈する。

〈埋土・出土状況〉　自然堆積を呈し、褐色土を主体にして構成されている。遺物は出土していない。

時期　検出状況から50号土坑と同じ12世紀後半の遺構と考えられる。

54号土坑

遺構（第144図、写真図版98）

〈位置〉　調査区ⅢＥ８ｉグリッド、標高22.8ｍに位置する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸0.93ｍ、短軸0.88ｍ、深さ66㎝を測る。開口部の平面形は円形を呈する。

〈検出状況〉　周辺からは11世紀～12世紀後半・13世紀初頭の遺構が多く検出され、一帯の遺構検出面下約30㎝には９世紀後半～10世紀初頭の住居跡も確認されている。

〈埋土・出土状況〉　自然堆積を呈し、褐色土を主体にして構成されている。出土遺物はない。

時期　検出状況から11～12世紀の遺構の可能性が高い。

55号土坑

遺構（第144図、写真図版98）

〈位置〉　調査区ⅢＥ８ｇグリッド、標高23.0ｍに位置する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸0.75ｍ、短軸0.66ｍ、深さ85㎝を測る。開口部の平面形は円形を呈する。

〈埋土・出土状況〉　自然堆積を呈し、褐色土を主体にして構成されている。出土遺物はない。

時期　検出状況から11～12世紀の遺構である可能性が高い。

56号土坑

遺構（第145図、写真図版99）

〈位置〉　調査区ⅢＥ５ｉグリッド、標高22.8ｍに位置する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸0.89ｍ、短軸0.78ｍ、深さ56㎝を測る。開口部の平面形は不整な円形を呈する。

〈埋土・出土状況〉　自然堆積を呈し、褐色土を主体にして構成されている。出土遺物はない。

時期　検出状況から11～12世紀の遺構である可能性が高い。

57号土坑

遺構（第145図、写真図版99）

〈位置〉　調査区ⅢＥ５ｈ～ⅢＥ６ｈグリッド、標高23.0ｍに位置する。

〈規模・平面形・方向〉　規模は長軸0.78ｍ、短軸0.53ｍ、深さ14㎝を測る。開口部の平面形は楕円形を呈する。長軸の軸線方向は、Ｎ-12°-Ｅである。

〈埋土・出土状況〉　自然堆積を呈し、褐色土を主体にして構成されている。

遺物　遺物は出土していない。

時期　検出状況から11～12世紀の遺構の可能性が高い。

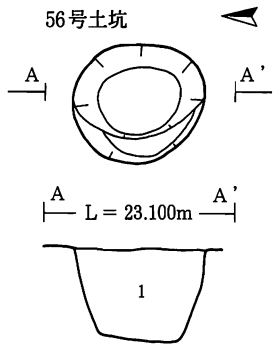
58号土坑

遺構（第145図、写真図版99）

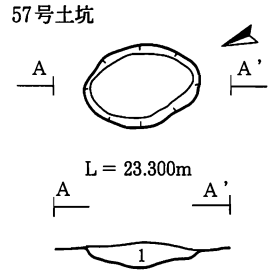
〈位置〉　調査区ⅢＥ６ｆ～ⅢＥ７ｇグリッド、標高22.9ｍに位置する。59号土坑の20㎝北東に近接する。

〈規模・平面形・埋土〉　規模は長軸2.29ｍ、短軸2.18ｍ、深さ59㎝を測る。開口部の平面形は不整な円形を呈する。埋土は自然堆積を呈し、褐色土を主体にして構成されている。

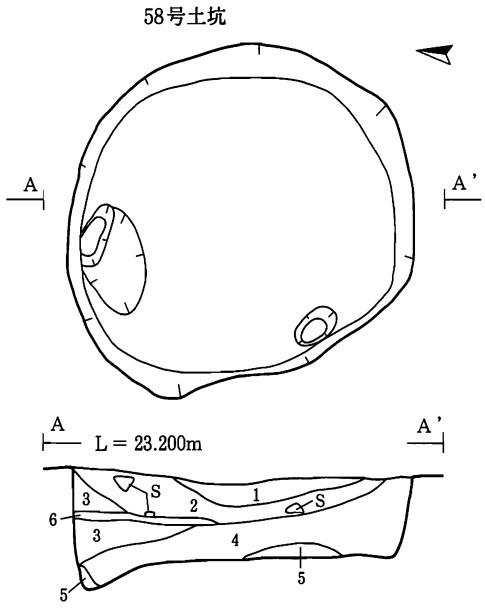
遺物（第201図、写真図版133・138）



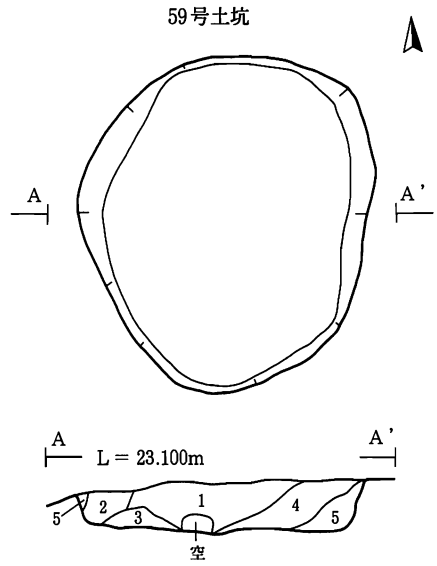
56号土坑
1．10YR5/3　にぶい黄褐色土に炭化物を１％含む　粘性なし　しまりあり



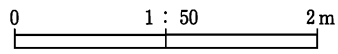
57号土坑
1．10YR5/4　にぶい黄褐色土と10YR3/3暗褐色土の混合土
粘性なし　しまりあり



58号土坑
1．10YR5/4　にぶい黄褐色土と10YR5/3にぶい黄褐色土の混合土
粘性あり　しまりかなりあり
2．10YR3/4　暗褐色土　粘性あり　しまりかなりあり
3．10YR4/4　褐色土に炭化物を含む　粘性あり　しまりかなりあり
4．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりかなりあり
5．10YR5/6　黄褐色土　粘性あり　しまりかなりあり
6．10YR4/4　褐色土に炭化物と10YR4/6褐色焼土を含む
粘性あり　しまりかなりあり



59号土坑
1．10YR5/4　にぶい黄褐色土　粘性あり　しまりかなりあり
2．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりかなりあり
3．10YR5/4　にぶい黄褐色土　粘性あり　しまりかなりあり
4．10YR5/4　にぶい黄褐色土　粘性あり　しまりかなりあり
5．10YR5/6　黄褐色土　粘性あり　しまりかなりあり



第145図　56～59号土坑

〈出土状況〉　埋土中から手づくねかわらけ（749）、常滑の陶器片（690）と須恵器の甕片（514）が出土している。

時期　検出された遺物から12世紀後半の遺構と考えられる。

59号土坑

遺構（第145図、写真図版99）

〈位置〉　調査区ⅢＥ７ｆ～ⅢＥ７ｇグリッド、標高22.8ｍに位置する。58号土坑の20㎝南西に近接する。

〈規模・平面形・方向〉　規模は長軸2.21ｍ、短軸1.86ｍ、深さ41㎝を測る。開口部の平面形は楕円形を呈する。規模は55号土坑に酷似する。長軸の軸線方向はＮ -26°-Ｅである。

〈埋土〉　自然堆積を呈し、褐色土を主体にして構成されている。

遺物

〈出土状況〉　土師器の甕片（515）が埋土中から出土しているが、遺構構築時に混入したものと思われる。

時期　検出状況から12世紀後半の遺構の可能性が高い。

60号土坑

遺構（第146図、写真図版100）

〈位置・規模・平面形・方向〉　調査区ⅢＥ６ｇ～ⅢＥ７ｇグリッド、標高0.11ｍに位置する。PP793を挟み61号土坑の約70㎝北東に位置する。規模は長軸1.17ｍ、短軸0.93ｍ、深さ12㎝を測る。開口部の平面形は楕円形を呈する。長軸の軸線方向はＮ-5°-Ｅである。

〈埋土・出土状況〉　自然堆積を呈し、褐色土を主体にして構成されている。遺物は出土していない。

時期　検出状況から11～12世紀の遺構である可能性が高い。

61号土坑

遺構（第146図、写真図版100）

〈位置〉　調査区ⅢＥ７ｅグリッド、標高23.1ｍ、60号土坑の約70㎝南西に位置する。

〈規模・平面形・埋土〉　規模は長軸1.0ｍ、短軸0.91ｍ、深さ58㎝を測る。開口部の平面形は不整な円形を呈する。自然堆積を呈し、褐色土を主体にして構成されている。

遺物・時期　出土遺物はない。検出状況から11～12世紀の遺構である可能性が高い。

62号土坑

遺構（第146図、写真図版100）

〈位置・重複関係〉　調査区ⅢＥ６ｄグリッド、標高23.2ｍに位置する。PP802と重複する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸0.90ｍ、短軸0.68ｍ、深さ10㎝を測る。開口部の平面形は円形を呈する。

〈埋土・出土状況〉　自然堆積を呈し、褐色土を主体にして構成されている。出土遺物はない。

時期　検出状況から11～12世紀の遺構である可能性が高い。

63号土坑

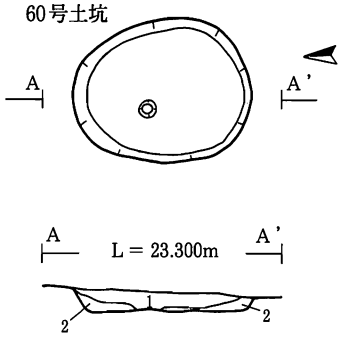
遺構（第146図、写真図版100）

〈位置〉　調査区ⅢＥ６ｂグリッド、標高23.2ｍに位置する。

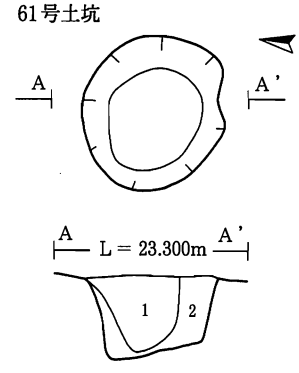
〈規模・平面形・方向〉　規模は長軸1.63ｍ、短軸0.98ｍ、深さ18㎝を測る。開口部の平面形は不整な楕円形を呈する。長軸の方向はＮ-14°-Ｗである。

〈埋土〉　上層は褐色土、下層はにぶい黄褐色土を主体にして構成されている。

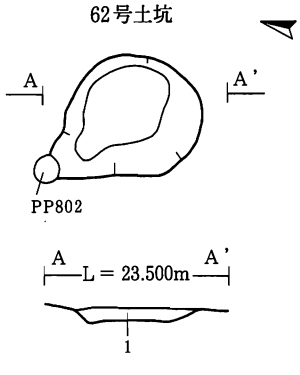
遺物・時期　出土遺物はない。検出状況から12世紀後半～13世紀の遺構と考えられる。



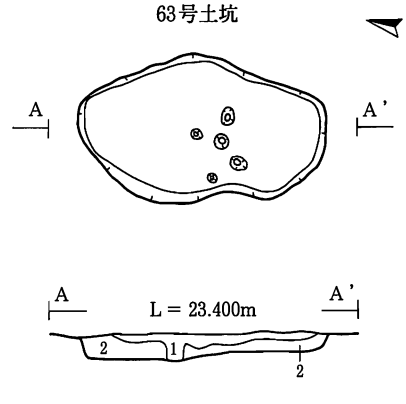
60号土坑
1．10YR5/4　にぶい黄褐色土　粘性なし　しまりあり
2．10YR5/3　にぶい黄褐色土　粘性なし　しまりあり



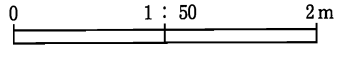
61号土坑
1．10YR5/3　にぶい黄褐色土　粘性なし　しまりあり
2．10YR5/4　にぶい黄褐色土　粘性あり　しまりあり



62号土坑
1．10YR5/4　にぶい黄褐色土と10YR5/3にぶい黄褐色土の混合土
　　粘性ややあり　しまりあり



63号土坑
1．10YR2/2　黒褐色土　粘性なし　しまりあり
2．10YR5/3　にぶい黄褐色土　粘性ややあり　しまりあり



第146図　60～63号土坑

64号土坑

遺構（第147図、写真図版100）

〈位置・重複関係〉　調査区ＶＨ５ｂグリッド、標高21.5ｍに位置する。65号土坑と重複する。

〈規模・平面形〉　規模は長軸1.53ｍ、短軸1.49ｍ、深さ84㎝を測る。開口部の平面形は円形を呈する。

〈埋土〉　自然堆積を呈し、下層にはグライ化が見られる。

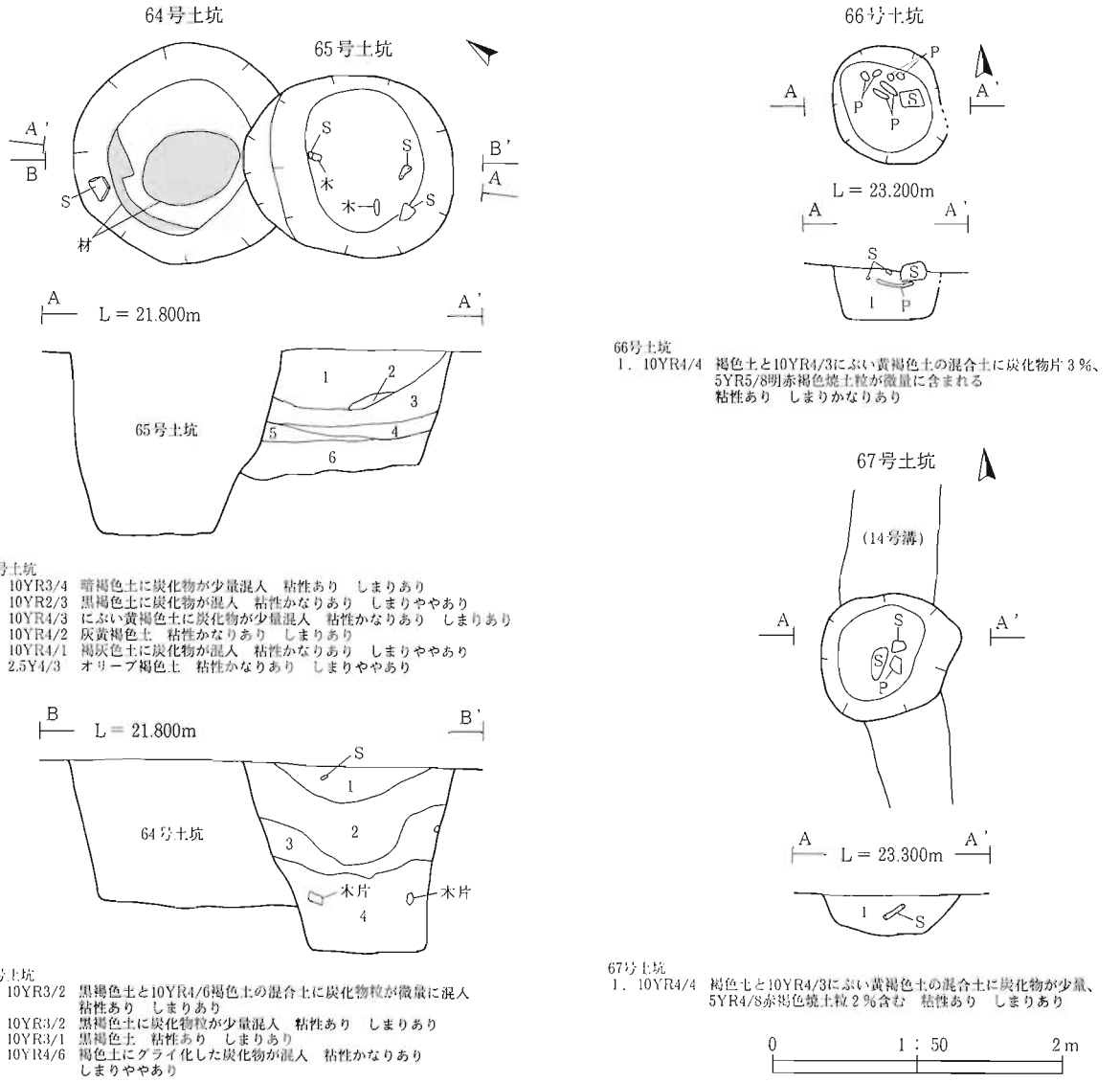
遺物（第208図、写真図版140）

〈出土状況〉　埋土中から手づくねかわらけ片（750・751）、土師器の甕片（516・517）が出土している。

時期　出土遺物から12世紀後半の遺構と考えられる。

65号土坑

遺構（第147図、写真図版101）



64号土坑
1．10YR3/4　暗褐色土に炭化物が少量混入　粘性あり　しまりあり
2．10YR2/3　黒褐色土に炭化物が混入　粘性かなりあり　しまりややあり
3．10YR4/3　にぶい黄褐色土に炭化物が少量混入　粘性かなりあり　しまりあり
4．10YR4/2　灰黄褐色土　粘性かなりあり　しまりあり
5．10YR4/1　褐灰色土に炭化物が混入　粘性かなりあり　しまりややあり
6．2.5Y4/3　オリーブ褐色土　粘性かなりあり　しまりややあり

65号土坑
1．10YR3/2　黒褐色土と10YR4/6褐色土の混合土に炭化物粒が微量に混入
粘性あり　しまりあり
2．10YR3/2　黒褐色土に炭化物粒が少量混入　粘性あり　しまりあり
3．10YR3/1　黒褐色土　粘性あり　しまりあり
4．10YR4/6　褐色土にグライ化した炭化物が混入　粘性かなりあり
しまりややあり

66号土坑
1．10YR4/4　褐色土と10YR4/3にぶい黄褐色土の混合土に炭化物片３％、
5YR5/8明赤褐色焼土粒が微量に含まれる
粘性あり　しまりかなりあり

67号土坑
1．10YR4/4　褐色土と10YR4/3にぶい黄褐色土の混合土に炭化物が少量、
5YR4/8赤褐色焼土粒２％含む　粘性あり　しまりあり

0　1：50　2ｍ

第147図　64～67号土坑

〈位置・重複関係〉　調査区ＶＨ５ｂ～ＶＨ６ｂグリッド、標高21.5ｍに位置する。64号土坑と重複する。
〈規模・平面形〉　規模は長軸1.44ｍ、短軸1.22ｍ、深さ1.32ｍを測る。開口部の平面形は楕円形を呈する。長軸の方向はＮ-36°-Ｗである。
〈埋土〉　微量の炭化物を含む褐色土が主体で構成されるが、下層にはグライ化が見られる。
遺物（第201・208図、写真図版133・134・138・140）
〈出土状況〉　埋土中から大型の手づくねかわらけ片（752・753）、須恵器の甕片（519）、土師器の鉢片（518）、坏（520）が出土している。
〈土器〉　518は内面を黒色処理され粗いミガキが施されている。
時期　出土遺物から12世紀後半の遺構と考えられる。

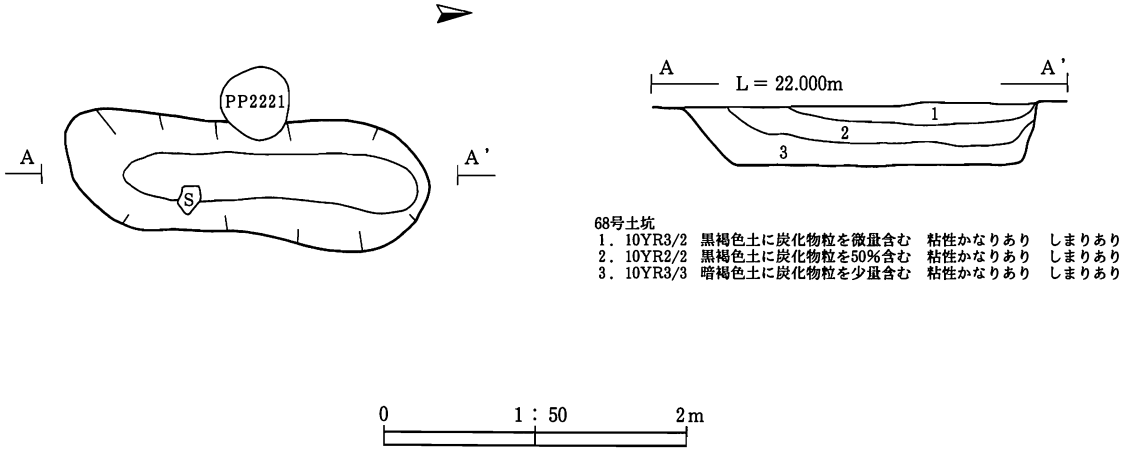
66号土坑
遺構（第147図、写真図版101）
〈位置〉　調査区ＶＨ５ｂグリッド、標高22.0ｍに位置する。
〈規模・平面形〉　規模は長軸0.79ｍ、短軸0.74ｍ、深さ40㎝を測る。開口部の平面形は円形を呈する。
〈埋土〉　炭化物、焼土粒を含む褐色土とにぶい黄褐色土の混合土で構成され、人為堆積を呈する。
遺物（第206図、写真図版138）
〈出土状況〉　埋土中から、渥美産の四耳壺（691～694）、土師器の坏（521）、甕片（522）が出土している。
時期　出土した遺物から12世紀中頃の遺構と考えられる。

67号土坑
遺構（第147図、写真図版101）
〈位置・重複関係〉　調査区ＶＧ６ｊグリッド、標高23.0ｍに位置する。14号溝跡と重複する。
〈規模・平面形〉　規模は長軸0.96ｍ、短軸0.85ｍ、深さ27㎝を測る。開口部の平面形は不整な円形を呈する。
〈埋土〉　人為堆積を呈し、炭化物を含むにぶい黄褐色土と褐色土の混合土を主体に構成されている。
遺物（第207図、写真図版139・140）
〈出土状況〉　検出面から青磁片（763）、埋土中から渥美産の甕片（695～697）、土師器の甕片（523）が出土している。
〈陶磁器〉　763は龍泉窯産の連弁文碗で13世紀後半の遺物である。
時期　出土した遺物から12世紀後半の遺構と考えられる。

68号土坑
遺構（第148図、写真図版101）
〈位置・平面形・重複関係〉　調査区ＶＨ５ｃ～ＶＨ６ｃグリッド、標高21.8ｍに位置する。開口部の平面形は長楕円形を呈する。旧P4084と重複する。
〈規模・方向・埋土〉　規模は長軸2.42ｍ、短軸0.73～0.87ｍ、深さ40㎝を測る。長軸の軸線方向は、Ｎ-5°-Ｅである。埋土は炭化物を多く含む黒褐色土を主体に構成される。
遺物

〈出土状況〉　埋土中から土師器の甕片（524）が出土している。

時期　検出状況から12世紀後半の遺構と考えられる。



第148図　68号土坑

20. 柱穴群

調査区のほぼ全面から検出された柱穴状の小土坑の中で、建物跡に対応しない2,462基を柱穴群として登録した。これらの中には柱痕を確認できるものもあり、建物跡の可能性も考えられる。

遺構は、調査区北側の墓域周辺と南西側の近世建物跡周辺部で特に密集して検出されている。特に遺構の集中する区域を200分の1で以下に図示しその他については遺構配置図に掲載した。

ⅣB～ⅣC、ⅤA～ⅤD区の柱穴群

遺構（第166～171図）

〈検出状況〉　調査区のほぼ全面に柱穴状土坑が分布する。近世の土坑や建物跡も多数検出されており、検出された柱穴の時期もこれに対応するものと考えられる。

9世紀後半～10世紀初頭の柱穴はPP1663（ⅣC5jグリッド）・PP1667（ⅣC4jグリッド）・PP1669（ⅣC3iグリッド）の3基が、火山灰下から検出されている。

近世の遺物が多数検出されたⅣB区PP1～PP13やPP14～PP22は不規則ではあるが列状に位置しており、柵等の可能性も考えられる柱穴状土坑も存在する。

また、ⅢC5a～10aからⅦE10dグリッドに掛けて遺構の空白域が帯状に見られる。これは微高地地形のために開田時に削平された区域と考えられ、削平以前は周辺と同様の柱穴土坑等の遺構が存在していたと考えられる。

遺物（写真図版134、143、146、150）

〈出土状況〉　埋土中から、土器・陶磁器・銭貨・石製品が出土している。各遺構の時期はこれに相応すると考えられる。

〈土器〉　PP35・70・518からは土師器・須恵器の甕片（527・528・531：同順）、PP1528からは土師器の坏（546）が出土している。546は内面に黒色処理が施されている。

第２表　土坑観察表（１）

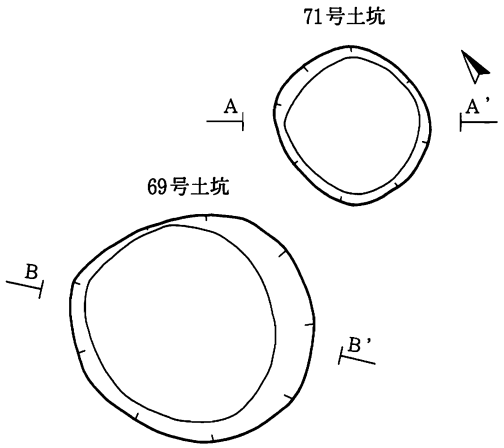
土坑No.	位置	平面形	長軸×短軸：m	深さ：cm	埋　　土	備　　考	図版	写真
69号	VA-4e	円形	1.50×1.08	48.7	暗褐色シルトの単層。黄褐色ブロックを含む。		149	102
70号	VA-4f	円形	0.76×0.75	44.4	暗褐色シルトの単層。		149	102
71号	VA-4e	円形	1.00×0.94	41.5	焼土粒を１～３％含む暗褐シルトが主体で構成され、下位に炭化物層がはいる。		149	102
72号	VA-4d	不整円形	1.80×1.48	41.6	黒褐色シルトの単層。にぶい黄褐色シルトを３％、焼土粒・炭化物を１％含む。	No.798 雁首銭	149	102
73号	VA-2e	円形	1.13×0.95	27.3	暗褐色シルトの単層。黄褐色シルトが混入し、焼土粒・炭化物を微量に含む。	No.525 土師器甕	149	103
74号	VA-2e	円形	1.02×1.00	24.9	暗褐色シルトに焼土ブロックを50％含む上層と、黒褐色シルトに炭化物を20%含む下層に分けられる。	炉壁、鉄滓？	149	103
75号	VA-1f	円形	0.92×0.90	30.8	暗褐色シルトの単層。黄褐色シルトが混入し、焼土粒・炭化物粒を微量に含む。		150	103
76号	VB-1d	不整方形	1.20×0.84	31.0	明赤褐色焼土が主体で構成される。中位の褐色シルト層には繊維状の炭化物が含まれる。下位に炭化物層がはいる。	No.895・896 釘２本、炉壁	150	103
77号	VA-5h	不整円形	1.76×1.60	32.2	褐色シルトが主体で構成される。	No.855 砥石	150	—
78号	VA-4g	楕円形	1.90×1.25	23.8	焼土粒を少量含む褐色シルトが主体で構成され、中位に炭化物を多く含む。	No.897 鉈	150	104
79号	VA-5i	不整楕円形	1.52×1.16	28.0	炭化物・焼土粒を２～３％含む暗褐色シルトが主体で構成される。下位に明赤褐色シルトの層があり、焼土粒・炭化物を30～40%含む。		150	—
80号	ⅣB-7g	不整方形	1.00×0.92	38.6	炭化物を１～３％含む褐色～暗褐色シルトが主体で構成される。上位に焼土粒を３％含む。		150	104
81号	ⅣB-8f	不整円形	1.00×0.76	52.4	炭化物を微量に含む褐色シルトが主体で構成される。にぶい黄褐色シルトブロックを含む層とTo-aを少量含む層あり。		151	104
82号	ⅣB-8f	不整円形	1.52×1.30	18.9	焼土粒・炭化物を多量に含む褐色シルトが主体で構成される。		151	104
83号	VA-5h	隅丸長方形	0.95×0.75	24.7	褐色シルトの単層。炭化物を30%含む。	下位に木板？	150	105
84号	ⅣB-10d	不整楕円形	1.00×0.78	23.9	焼土粒を３％含むにぶい黄褐色シルトが主体で構成され、上位に炭化物の層がはいる。		151	105
85号	ⅣB-1d	不整円形	0.78×0.72	19.0	炭化物を少量含むにぶい黄褐色シルトが主体で構成される。上位に焼土粒を微量含み、中位に炭化物の層がはいる。		151	105
86号	ⅣB-10i	円形	1.10×0.84	26.1	炭化物を少量含む暗褐色シルトが主体で構成される。一部褐色シルトブロックとTo-aを含む。	No.898 釘	151	105
87号	ⅣC-8a	楕円形	0.76×0.64	21.1	焼土粒を５％、炭化物を微量に含むにぶい黄褐色シルトが主体で構成される。		152	106
88号	ⅣC-9a	不整円形	0.96×0.94	48.0	にぶい黄褐色シルトと褐色シルトが主体で構成され、焼土粒・炭化物・火山灰を微量含む。	炉壁、鉄滓？	152	106
89号	ⅣB-5g	不整長方形	0.85×0.75	15.4	上層のにぶい黄褐色シルトと下層の褐色シルトからなる。炭化物を２％含む。		152	106
90号	ⅣB-4f	円形	0.78×0.72	13.6	褐色シルトの単層。焼土粒を２％含む。		152	106

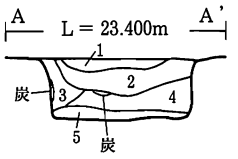
第３表　土坑観察表（２）

土坑No.	位置	平面形	長軸×短軸：m	深さ：cm	埋　　土	備　　考	図版	写真
91号	VB-1e	楕円形	2.98×2.10	17.0	焼土粒を２～５％含む暗褐色シルトが主体で構成される。上位に炭化物を30%含む。下位に褐色シルトとの混合土がはいる。	No.856 砥石、炉壁、鉄滓？	152	107
92号	VB-7h	円形	1.08×1.04	33.0	暗褐色シルトの単層。		152	107
93号	VB-3e	不整方形	0.92×0.92	30.2	暗褐色シルトと褐色シルトの混合土。		153	107
94号	VB-2g	不整円形	0.88×0.68	24.4	褐色シルトと暗褐色シルトからなる。中位に赤褐色焼土５%、炭化物10%を含む。		153	107
95号	VC-3a	円形	0.92×0.90	37.4	黒褐色シルトに焼土粒を５%、炭化物を30%含む上層と、褐色シルトの下層に分けられる。		153	108
96号	VC-3b	不整円形	0.72×0.64	30.7	褐色シルトの単層。炭化物・To-a を微量に含む。		153	108
97号	VB-6i	不整円形	1.88×1.44	90.0	暗褐色シルトと褐灰色シルトが主体で構成される。下位はグライ化している。		153	108
98号	VC-4c	不整楕円形	0.96×0.90	40.2	灰黄褐色シルトとにぶい黄褐色シルトからなる。		154	108
99号	VB-3f	不整円形	1.00×0.92	29.5	褐色シルトが主体で構成される。上位に焼土層、下位に炭化材の層がはいる。	No.800 寛永通宝	154	109
100号	VC-3b	楕円形	0.64×0.54	43.6	暗褐色シルトの単層。炭化物を微量に含む。		154	109
101号	ⅣB-9c	楕円形	1.16×1.08	36.8	暗褐色シルトが主体で構成され、上位に焼土粒を１%含み、下位に多量の炭化物を含む。	No.801 寛永通宝	154	109
102号	VB-8i	楕円形	1.12×1.10	20.4	上層の暗褐色シルトと、下層の褐色シルトと暗褐色シルトの混合土からなる。		154	109
103号	VC-1c	不整楕円形	2.45×2.32	43.0	暗褐色シルトが主体で構成され、下位に褐色シルトの層がはいる。	No.802 寛永通宝	154	110
104号	VC-7a	楕円形	1.30×1.04	30.4	暗褐色シルトの単層。下位に焼土粒を１%、炭化物を50%含む。		154	110
105号	VB-6i	不整円形	2.02×1.92	56.6	上位は褐色シルト、下位は暗褐色シルトが主体で構成される。焼土粒を１～50%、炭化物を１～２%含む。		153	110
106号	ⅣC-10d	円形	1.16×1.08	29.3	にぶい黄橙色土が主体で構成される。上位に水酸化鉄を含み、下位に褐色シルトが混入する。		155	110
107号	VC-7a	隅丸長方形	1.60×1.10	15.8	暗褐色シルトの単層。焼土粒・炭化物を１～２%を含む。		155	111
108号	VC-3d	円形	0.78×0.76	38.6	暗褐色シルトの単層。		155	111
109号	VC-4e	円形	0.80×0.72	38.2	暗褐色シルトの単層。		155	111
110号	VC-4f	不整円形	0.88×0.82	29.6	暗褐色シルトの単層。		155	111
111号	ⅣC-9g	円形	0.69×0.63	52.0	褐色シルトの単層。焼土を30%、To-a を２%含む。		155	111
112号	VC-8h	円形	1.00×0.96	9.3	黒褐色シルトの単層。焼土粒を２%含む。		151	112
113号	VC-5g	不整方形	1.4×1.36	5.7	上位は暗褐色～黒褐色シルトが主体で構成され、焼土粒・炭化物を１%含む。下位は暗灰黄シルトからなる。		156	112
114号	VC-4g	円形	1.04×0.92	79.8	暗褐色シルトの単層。焼土粒・炭化物を１%含む。		156	112

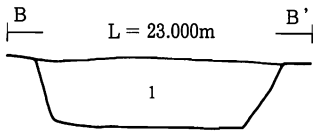
第４表　土坑観察表（３）

土坑No.	位置	平面形	長軸×短軸：m	深さ：cm	埋　　土	備　　考	図版	写真
115号	VC-3h	楕円形	0.87×0.55	10.0	暗褐色シルトの単層。炭化物を１％含む。		156	112
116号	VC-1h	円形	1.01×0.98	9.0	暗褐色シルトの単層。炭化物を１％含む。		156	113
117号	VB-3g	不整方形	0.8×0.68	30.2	暗褐色シルトが主体で構成され、下位に褐色シルトの層がはいる。焼土粒・炭化物を微量含む。	鉄滓？	156	113
118号	VC-5d	円形	1.48×1.10	49.2	暗褐色粘土質シルトの単層。	No.929 焙烙	156	113
119号	VC-8c	不整方形	1.00×0.82	68.0	焼土粒・炭化物を１～２％含む暗褐色シルトが主体で構成され、下位ににぶい黄褐色シルトの層がはいる。		156	113
120号	VIC-2b	不整円形	0.86×0.70	12.0	暗褐色シルトの単層。		156	114
121号	VIC-3a	不整方形	1.10×0.72	31.0	暗褐色シルトの単層。		157	114
122号	VIC-4a	楕円形	0.84×0.66	16.2	暗褐色シルトの単層。炭化物を１％含む。		157	114
123号	VIB-1b	隅丸方形	2.68×2.00	68.0	暗褐色・褐色シルトの混合土である上層と、黒褐色・褐色シルトの混合土である下層に分けられる。		157	114
124号	VIC-6a	円形	1.28×1.18	23.3	暗褐色シルトの単層。炭化物を１～２％含む。		157	114
125号	VIC-7b	不整楕円形	1.04×0.80	33.5	暗褐色シルトの単層。炭化物を１％含む。		157	115
126号	IVB-10i	楕円形	1.22×0.98	38.8	にぶい黄褐色シルトが主体で構成される。上位に、焼土を含む黄褐色シルトの層と、To-a を少量含む暗褐色シルトの層がはいる。		151	115
127号	VIC-4d	不整方形	1.02×0.78	14.6	暗褐色シルトの単層。		158	115
128号	IVB-4j	不整楕円形	1.80×1.46	16.6	褐色シルトを10％含む灰黄褐色シルトが主体で構成される。		158	115
129号	IIIC-6c	楕円形	1.00×0.82	19.0	炭化物・焼土粒を15％含む暗褐色シルトが主体で構成される。下位に褐色シルトの層がはいる。		158	116
130号	IVB-6d	楕円形	0.68×0.66	40.7	黒褐色シルトの単層。炭化物を１～２％含む。		158	116
131号	VB-2i	長楕円形	2.37×0.80	48.0	黒褐色シルトと暗褐色シルトが主体で構成され、焼土粒・炭化物を１％、To-a を少量含む。		158	116
132号	VIC-5b	楕円形	6.52×4.60	191.4	暗褐色シルトが主体で構成され、その下に黒色～にぶい黄褐色シルトなど複数の層が重なる。中位に植物残渣を含む層があり、下位には炭化物を多量に含む。		159	116
133号	IVB-7e	不整方形	1.12×1.06	26.2	焼土ブロック・炭化物を３％含む暗褐色シルトが主体で構成される。下位に褐色シルトとの混合土がはいる。		160	—
134号	VD-5c	楕円形	6.55×2.35	26.0	焼土粒を微量含む褐色シルトが主体で構成される。一部、酸化鉄を含むグライ化した層がはいる。（撹乱の可能性あり）		160	117
135号	VH-6a	不整方形	0.49×0.43	15.0	褐色シルトが主体で構成される。焼土ブロックを20％、炭化物を少量含む。	No.526 土師器坏	160	117
136号	IIIE-4c	不整円形	0.77×0.74	17.0	暗褐色シルトの単層。褐色シルトを少量含む。	時期不明であるが、中世後半の可能性もある。	160	—

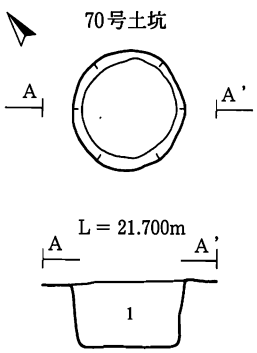




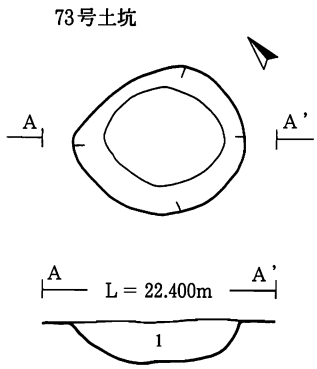
71号土坑
1．10YR3/3　暗褐色土　粘性ややあり　しまりあり
　　焼土粒（5YR5/6）1％含む
2．10YR3/2～3/3　黒褐色土　粘性ややあり　しまりややあり
　　焼土粒（5YR4/6）2～3％含む
3．10YR3/3　暗褐色土　粘性あり　しまりあり　炭化物微量含む
4．10YR3/3　暗褐色土　粘性あり　しまりなし
　　焼土ブロック（5YR4/4）3％含む
5．10YR3/2　黒褐色土　粘性あり　しまりややあり　上位に炭化物層あり



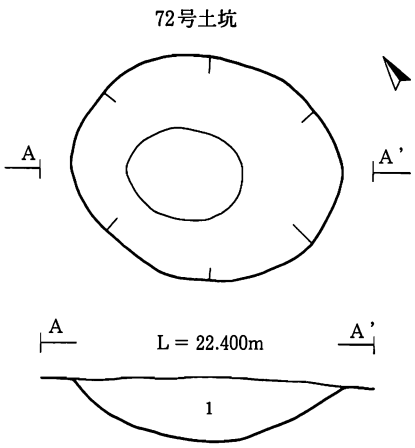
69号土坑
1．10YR3/3　暗褐色土　粘性あり　しまりあり　黄褐色土ブロック混入



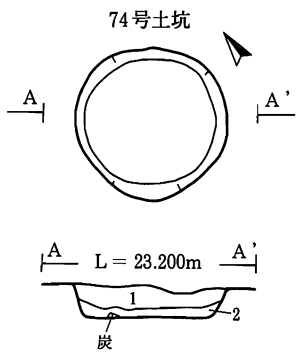
70号土坑
1．10YR3/4　暗褐色土　粘性ややあり　しまりややあり



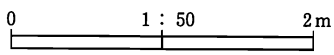
73号土坑
1．10YR3/4　暗褐色土　粘性ややあり　しまりかなりあり
　　焼土粒（5YR5/6）・炭化物粒微量含む



72号土坑
1．10YR3/2　黒褐色土　粘性ややあり　しまりあり
　　にぶい黄褐色土（10YR4/3）3％混入、炭化物1％含む

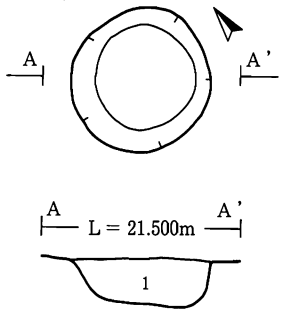


74号土坑
1．10YR3/4　暗褐色土　粘性ややあり　しまりなし
　　焼土ブロック（10YR4/6）50%含む
2．10YR3/2　黒褐色土　粘性ややあり　しまりややあり　炭化物20%含む



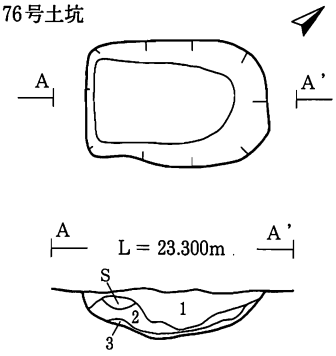
第149図　69～74号土坑

75号土坑



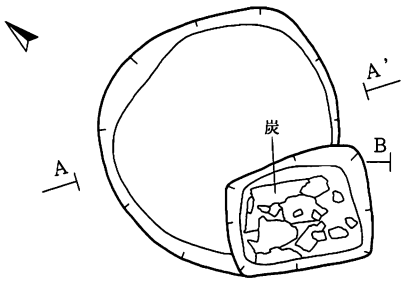
75号土坑
1．10YR3/4　暗褐色土　粘性あり　しまりかなりあり
　　炭化物粒・焼土粒（5YR5/6）微量混入

76号土坑

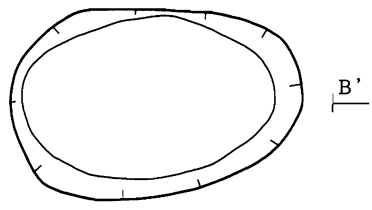


76号土坑
1．5YR5/8　　明赤褐色焼土塊層　径1～5㎝大　粘性なし　しまりなし
2．10YR4/3　　褐色土　粘性なし　しまりなし
3．10YR1.7/1　黒色　炭化物層　粘性なし　しまりなし

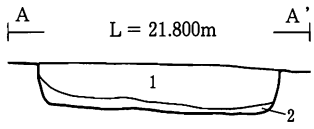
77号土坑



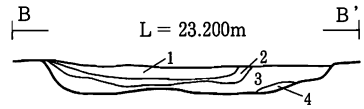
78号土坑



83号土坑

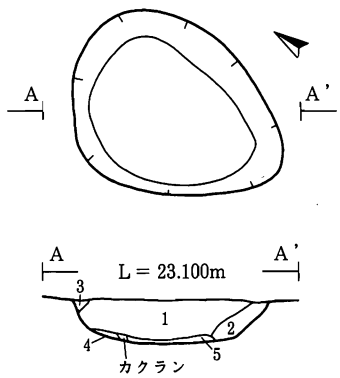


77号土坑
1．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりあり
2．10YR4/3　褐色土　粘性あり　しまりあり



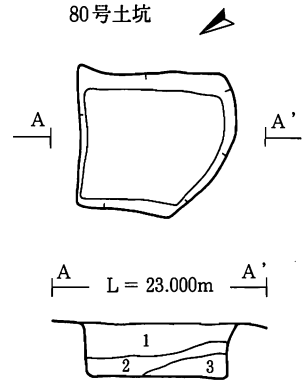
78号土坑
1．10YR4/6　褐色土　粘性ややあり　しまりあり
　　炭化物・焼土粒（10YR5/8）微量混入
2．10YR4/6　褐色土　粘性ややあり　しまりあり
　　炭化物40%・焼土粒微量混入
3．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりあり　炭化物・焼土粒微量混入
4．10YR5/4　にぶい黄褐色土　粘性ややあり　しまりあり　焼土20%混入

79号土坑

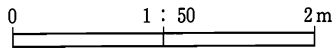


79号土坑
1．10YR3/3　暗褐色土　粘性なし　しまりあり
　　焼土粒・炭化物粒2～3%混入
2．7.5YR3/4　暗褐色土　粘性なし　しまりあり
　　焼土粒ブロックで30～40%混入
3．5YR5/8　明赤褐色焼土　粘性なし　しまりあり
4．5YR5/6　明赤褐色焼土　粘性なし　しまりあり
5．5YR4/4　にぶい赤褐色焼土　粘性なし　しまりあり

80号土坑

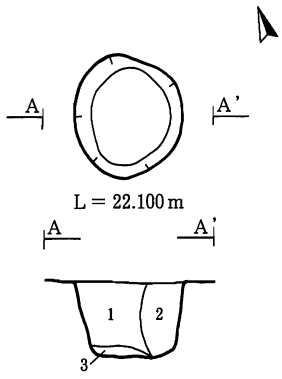


80号土坑
1．10YR3/3　暗褐色土　粘性ややあり　しまりややあり
　　炭化物・焼土粒（2.5YR5/8）3%含む
2．10YR4/6　褐色土　粘性あり　しまりややあり　炭化物1%含む
3．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりあり　炭化物1%含む



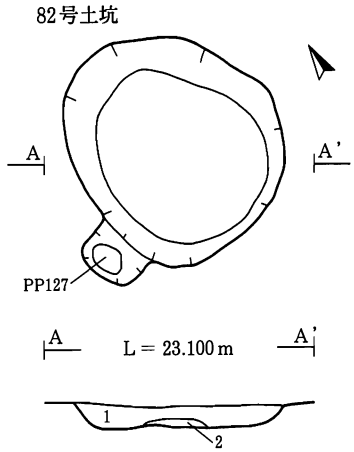
第150図　75～80・83号土坑

81号土坑



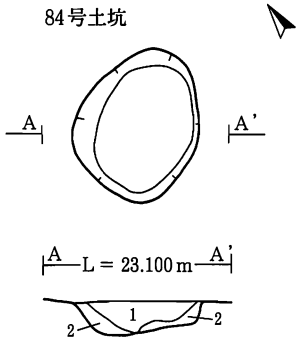
81号土坑
1．10YR4/6　褐色土　粘性あり　しまりあり　暗褐色土ブロック50%混入
　　炭化物・火山灰微量含む
2．10YR4/6　褐色土　粘性ややあり　しまりややあり
　　黄褐色土（10YR4/3）40%、炭化物粒微量含む
3．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりあり

82号土坑



82号土坑
1．10YR4/4　褐色土　粘性ややあり　しまりあり
　　炭化物粒・焼土粒（10YR5/8）上位30%含む
2．10YR4/6　褐色土　粘性ややあり　しまりあり

84号土坑

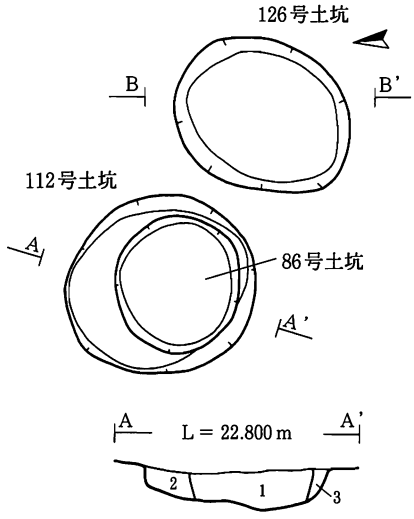


84号土坑
1．10YR4/3　にぶい黄褐色土　粘性ややあり　しまりあり
　　炭化物粒・焼土粒（2.5YR5/8）3%含む
2．10YR4/6　褐色土　粘性ややあり　しまりあり
　　炭化物粒・焼土粒微量含む

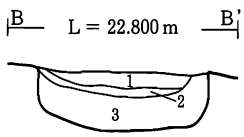
126号土坑

112号土坑

86号土坑

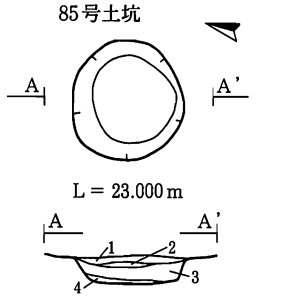


86号土坑
1．10YR3/4　暗褐色土　粘性ややあり　しまりあり
　　褐色土（10YR4/6）ブロックで混入　炭化物粒微量含む
112号土坑
2．10YR4/6　褐色土に10YR3/4暗褐色土混入　粘性ややあり
　　しまりあり　火山灰微量混入
3．10YR3/3　暗褐色土　粘性ややあり　しまりあり

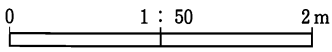


126号土坑
1．10YR5/8　黄褐色土　粘性あり　しまりかなりあり
　　灰黄褐色土（10YR6/2）ブロックで10%混入
　　そのブロックに明赤褐色焼土が付着
2．10YR3/3　暗褐色土　粘性ややあり　しまりあり　火山灰少量含む
3．10YR4/3　にぶい黄褐色土　粘性あり　しまりかなりあり

85号土坑

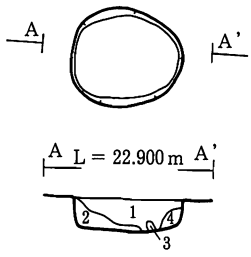


85号土坑
1．10YR4/3　にぶい黄褐色土　粘性ややあり　しまりややあり
　　炭化物3%・焼土粒（2.5YR5/8）1%含む
2．10YR4/3　にぶい黄褐色土　粘性ややあり　しまりあり
　　炭化物90%含む
3．10YR4/3　にぶい黄褐色土　粘性ややあり　しまりあり　炭化物3%、
　　黄褐色土（10YR5/6）ブロック5%含む
4．10YR5/6　黄褐色土　粘性ややあり　しまりあり



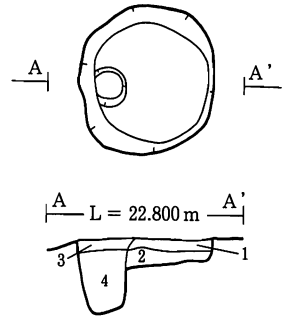
第151図　81・82・84～86・112・126号土坑

87号土坑



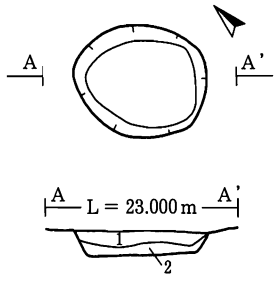
87号土坑
1．10YR4/3　にぶい黄褐色土　粘性あり　しまりかなりあり
　　焼土粒（5YR5/8）５%、炭化物微量含む
2．10YR4/6　褐色土　粘性あり　しまりかなりあり
　　焼土粒（2.5YR4/8）微量含む
3．10YR5/6　黄褐色土　粘性かなりあり　しまりかなりあり
4．10YR4/6　褐色土　粘性かなりあり　しまりかなりあり
　　炭化物微量含む

88号土坑



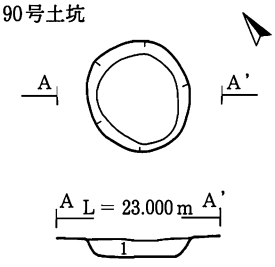
88号土坑
1．10YR4/3　にぶい黄褐色土に褐色土（10YR4/6）混入
　　粘性あり　しまりあり　炭化物粒・焼土粒微量含む
2．10YR4/6　褐色土　粘性あり　しまりかなりあり
　　炭化物粒・焼土粒（5YR4/8）微量含む
3．10YR4/3　にぶい黄褐色土　粘性あり　しまりかなりあり
　　焼土・火山灰微量含む
4．10YR4/4　褐色土　粘性ややあり　しまりややあり
　　炭化物粒・焼土微量含む

89号土坑



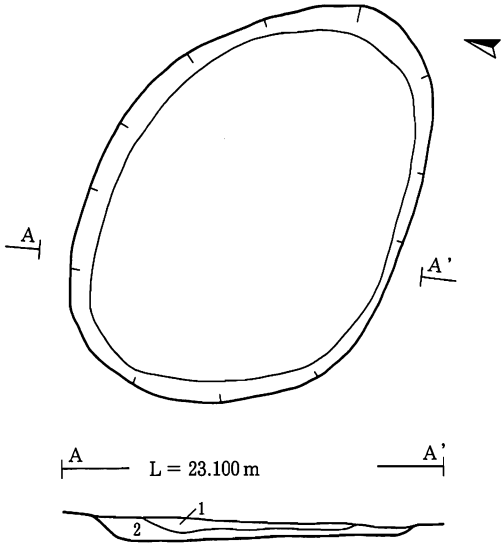
89号土坑
1．10YR4/3　にぶい黄褐色土　粘性ややあり　しまりあり
　　炭化物２%含む
2．10YR4/6　褐色土　粘性ややあり　しまりあり　炭化物２%含む

90号土坑



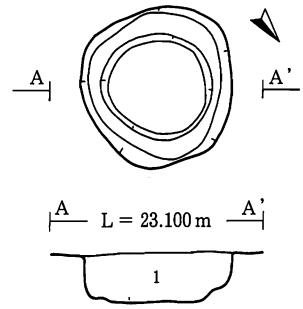
90号土坑
1．10YR4/4　褐色土　粘性ややあり　しまりあり
　　炭化物５%、焼土粒（2.5YR5/8）２%含む

91号土坑

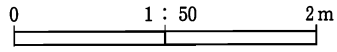


91号土坑
1．10YR3/4　暗褐色土　粘性ややあり　しまりかなりあり
　　炭化物粒30%、焼土粒（2.5YR5/8）５%含む
2．10YR3/4　暗褐色土　粘性ややあり　しまりかなりあり
　　炭化物粒・焼土粒微量含む　褐色土下層に混合

92号土坑

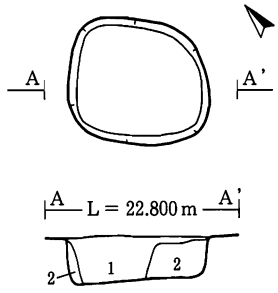


92号土坑
1．10YR3/3　暗褐色土　粘性あり　しまりややあり
　　炭化物・焼土粒微量含む



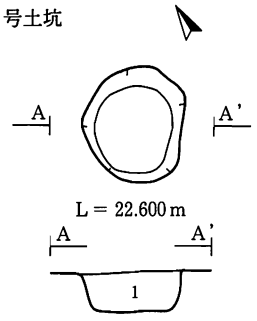
第152図　87～92号土坑

93号土坑



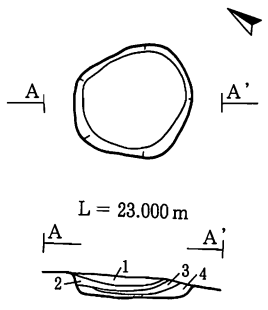
93号土坑
1．10YR3/3　暗褐色土　粘性あり　しまりややあり
　　褐色土（10YR4/4）20%混入
2．10YR4/4　褐色土　粘性ややあり　しまりややあり

96号土坑



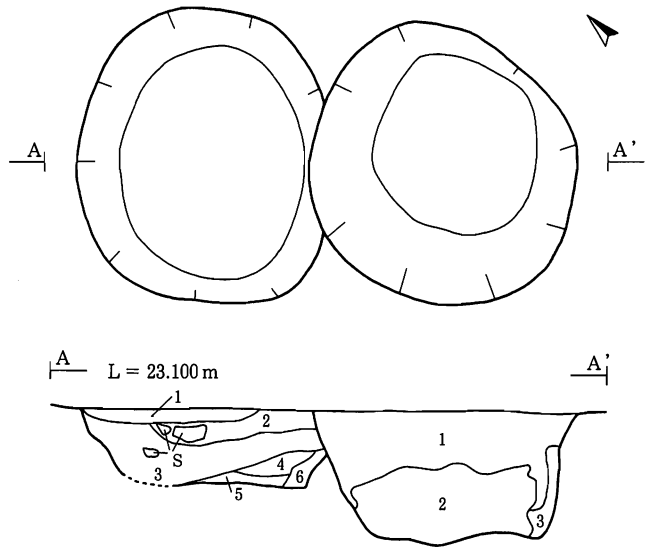
96号土坑
1．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりあり　炭化物・火山灰微量含む

94号土坑



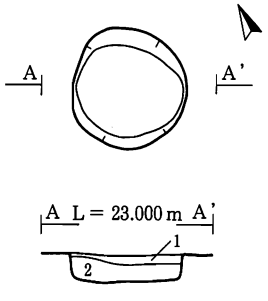
94号土坑
1．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりかなりあり
2．10YR3/4　暗褐色土　粘性あり　しまりかなりあり
　　焼土（5YR4/6）5%含む
3．10YR3/4　暗褐色土　粘性ややあり　しまりややあり
4．7.5YR3/4　暗褐色土　粘性あり　しまりややあり

105号土坑　97号土坑



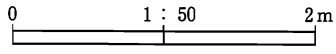
97号土坑
1．10YR3/4　暗褐色土　粘性あり　しまりあり　炭化物・焼土粒1%未満含む
2．10YR4/1　褐灰色土　粘性あり　しまりあり　炭化物1%未満含む、グライ化
3．10YR5/2　灰黄褐色土　粘性かなりあり　しまりあり　炭化物1%含む　黄褐色土ブロックで混入

95号土坑



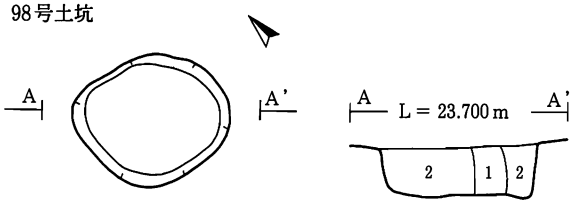
95号土坑
1．10YR3/2　黒褐色土　粘性あり　しまりあり
　　炭化物粒30%、焼土粒（5YR5/8）5%含む
2．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりあり

105号土坑
1．10YR4/4　褐色土　粘性なし　しまりかなりあり　炭化物粒2%・焼土粒1%混入
2．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりかなりあり　炭化物粒3%・焼土粒30%混入
3．10YR3/4　暗褐色土　粘性あり　しまりかなりあり　炭化物粒・焼土粒1%混入
4．10YR4/4　褐色土　粘性かなりあり　しまりかなりあり　炭化物粒・焼土粒2%混入
5．10YR5/4　にぶい黄褐色土　粘性かなりあり　しまりかなりあり
6．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりかなりあり　炭化物粒・焼土粒1%未満混入



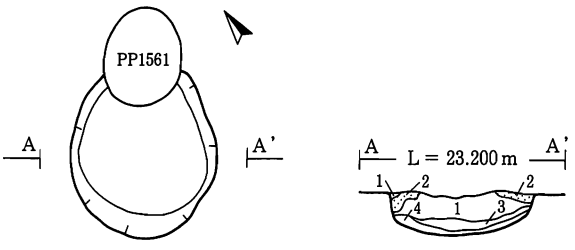
第153図　93～97・105号土坑

98号土坑



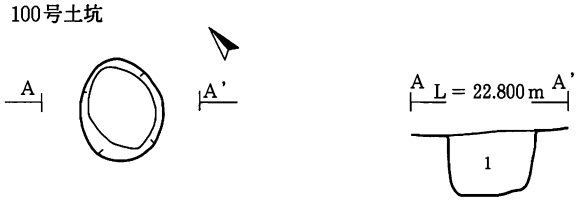
98号土坑
1．10YR4/2　灰黄褐色土　粘性あり　しまりややあり
2．10YR4/3　にぶい黄褐色土　粘性あり　しまりあり

99号土坑



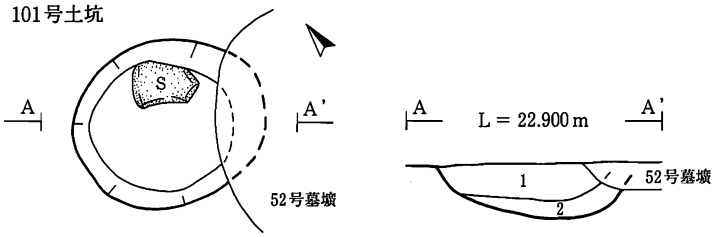
99号土坑
1．10YR4/4　褐色土　粘性なし　しまりあり　炭化物２％混入
2．5YR6/6　橙色焼土　粘性なし　しまりあり　ブロック状に堆積
3．10YR1.7/1　黒色　炭化物層　粘性あり　しまりあり
4．10YR3/4　暗褐色土　粘性あり　しまりあり

100号土坑



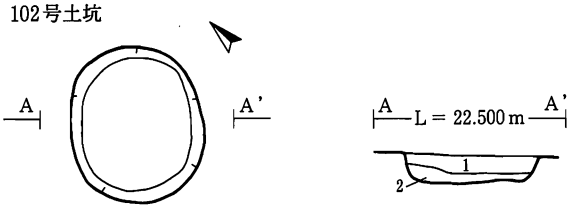
100号土坑
1．10YR3/3　暗褐色土　粘性あり　しまりあり　炭化物１％混入

101号土坑



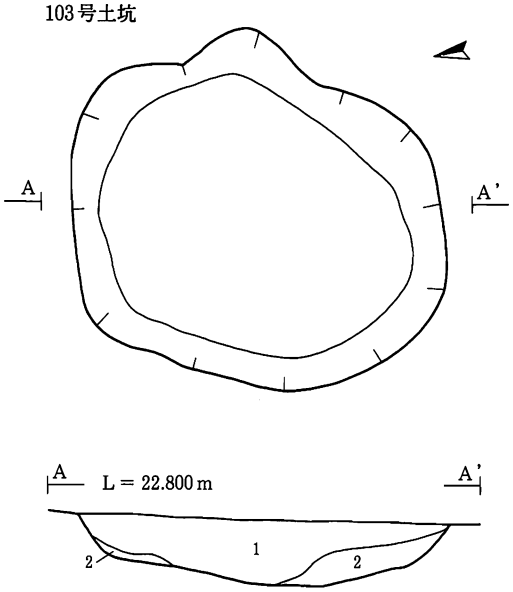
101号土坑
1．10YR3/3　暗褐色土　粘性なし　しまりかなりあり
　　焼土粒１％含む　炭化物多く含む
2．10YR3/3　暗褐色土　粘性なし　しまりあり

102号土坑



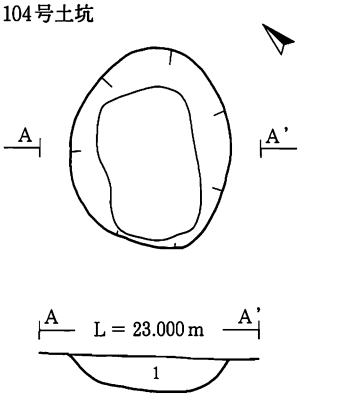
102号土坑
1．10YR3/4　暗褐色土　粘性あり　しまりあり
2．10YR4/6　褐色土に１層が20～30%混入　粘性あり　しまりあり

103号土坑



103号土坑
1．10YR3/3　暗褐色土　粘性あり　しまりあり
2．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりあり

104号土坑

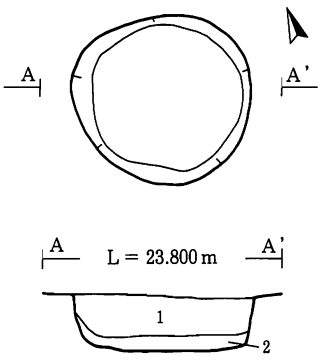


104号土坑
1．10YR3/3　暗褐色土　粘性なし　しまりあり
　　下層に炭化物を多く含む

0　1：50　2m

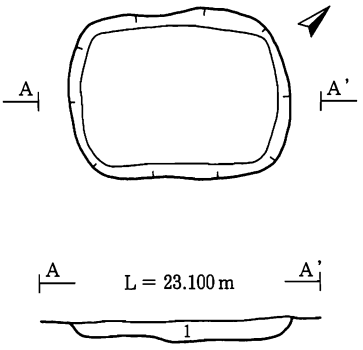
第154図　98～104号土坑

106号土坑



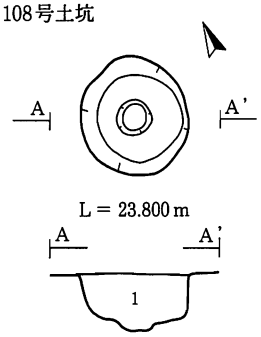
106号土坑
1．10YR6/3　にぶい黄橙色土　粘性あり　しまりあり　水酸化鉄混入
2．10YR4/6　褐色土と1層の混合土　粘性かなりあり　しまりあり

107号土坑



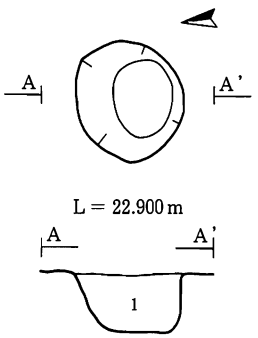
107号土坑
1．10YR3/3　暗褐色土　粘性なし　しまりあり　炭化物・焼土粒1％混入

108号土坑



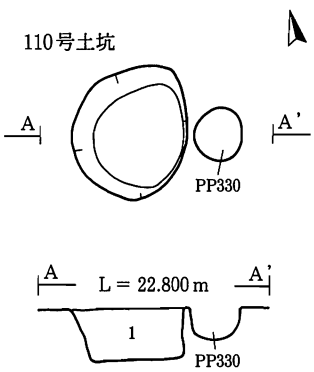
108号土坑
1．10YR3/4　暗褐色土　粘性あり　しまりあり

109号土坑



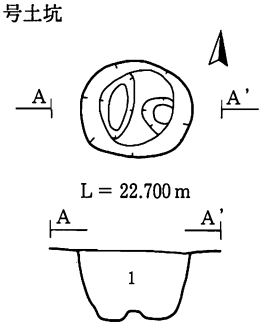
109号土坑
1．10YR3/3　暗褐色土　粘性なし　しまりかなりあり

110号土坑

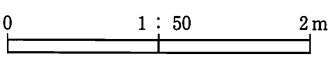


110号土坑
1．10YR3/3　暗褐色土　粘性あり　しまりあり

111号土坑

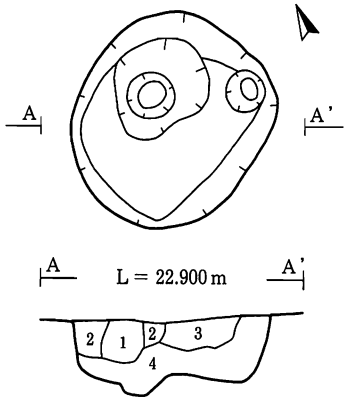


111号土坑
1．10YR4/4　褐色土　粘性ややあり　しまりあり
焼土（2.5YR4/6）30%混入、火山灰2％含む



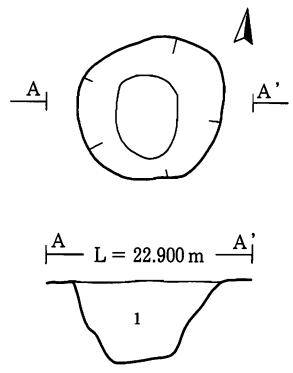
第155図　106～111号土坑

113号土坑



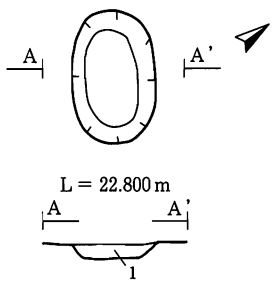
113号土坑
1．10YR2/2　黒褐色土　粘性ややあり　しまりあり　炭化物・焼土粒１%含む
2．10YR3/3　暗褐色土　粘性ややあり　しまりあり　焼土粒１%含む
3．10YR3/2　黒褐色土　粘性あり　しまりかなりあり　炭化物・焼土粒２%含む
4．2.5YR4/2 暗灰黄色土　粘性あり　しまりややあり

114号土坑



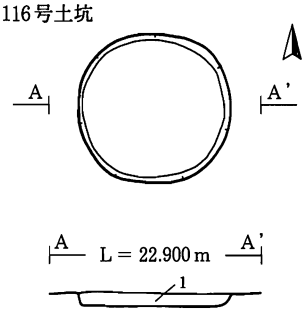
114号土坑
1．10YR3/3　暗褐色土　粘性あり　しまりかなりあり
炭化物・焼土粒１%含む

115号土坑



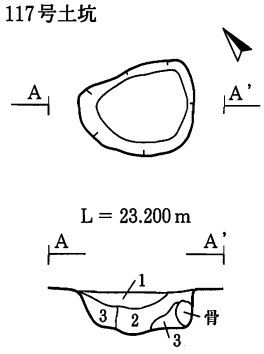
115号土坑
1．10YR3/3～3/4　暗褐色土　粘性なし
しまりかなりあり　炭化物１%含む

116号土坑



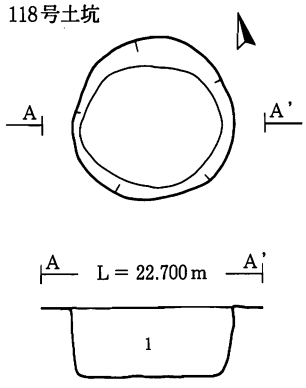
116号土坑
1．10YR3/4　暗褐色土　粘性なし　しまりあり
炭化物１%含む

117号土坑



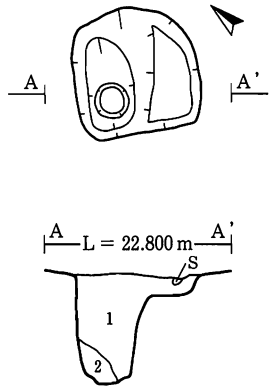
117号土坑
1．10YR3/4　暗褐色土　粘性ややあり　しまりあり
焼土粒（2.5YR5/8）・炭化物微量含む
2．10YR3/4　暗褐色土　粘性ややあり　しまりあり
褐色土（10YR4/4）３%含む
3．10YR4/6　褐色シルト　粘性ややあり　しまりあり
暗褐色シルト少量含む

118号土坑



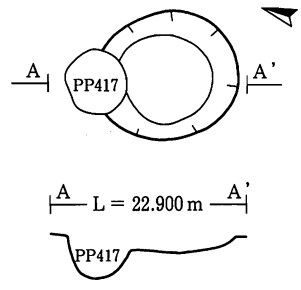
118号土坑
1．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりややあり

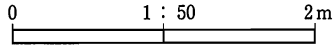
119号土坑



119号土坑
1．10YR3/3　暗褐色土　粘性あり　しまりあり
炭化物２%、焼土粒１%含む
2．10YR4/3　にぶい黄褐色土　粘性あり　しまりあり

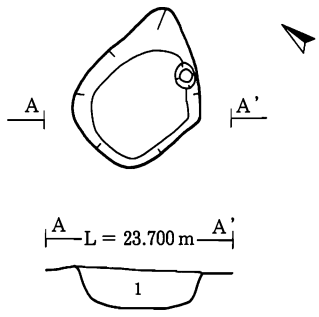
120号土坑





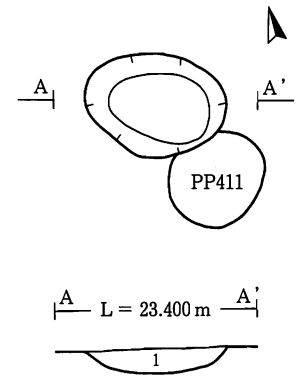
第156図　113～120号土坑

121号土坑



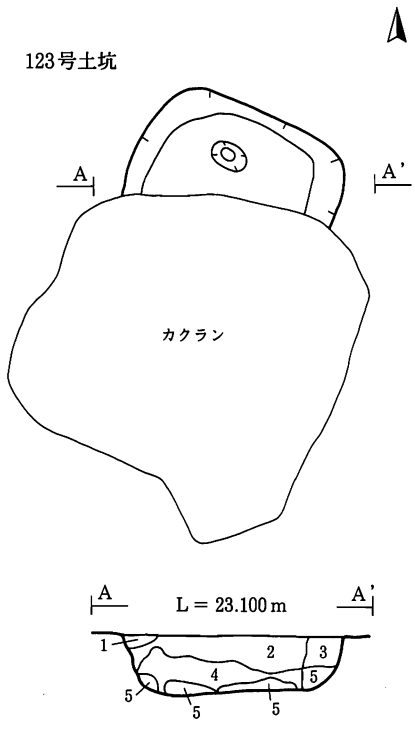
121号土坑
1．10YR3/3　暗褐色土　粘性あり　しまりややあり

122号土坑



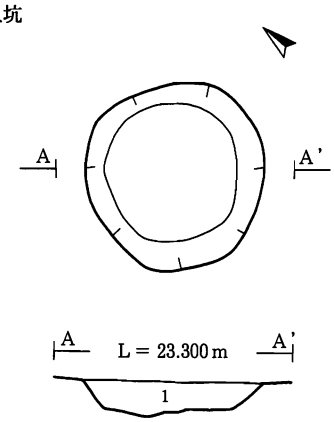
122号土坑
1．10YR3/3　暗褐色土　粘性かなりあり　しまりややあり　炭化物1％含む

123号土坑



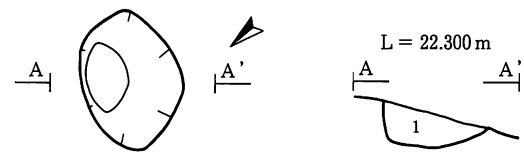
123号土坑
1．10YR3/3　暗褐色土と10YR4/4褐色土の混合土　粘性ややあり
　　しまりあり　焼土粒2％含む
2．10YR3/3　暗褐色土と10YR4/4褐色土の混合土　粘性ややあり
　　しまりあり　炭化物・焼土粒10％含む
3．10YR3/3　暗褐色土と10YR4/4褐色土の混合土　粘性ややあり
　　しまりあり　炭化物・焼土粒5％含む
4．10YR3/2　黒褐色土　粘性あり　しまりあり　炭化物25％、
　　焼土粒3％含む
5．10YR3/2　黒褐色土と10YR4/4褐色土の混合土　粘性あり
　　しまりあり　炭化物・焼土粒2％含む

124号土坑

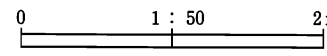


124号土坑
1．10YR3/3　暗褐色土　粘性ややあり　しまりややあり　炭化物2％含む

125号土坑

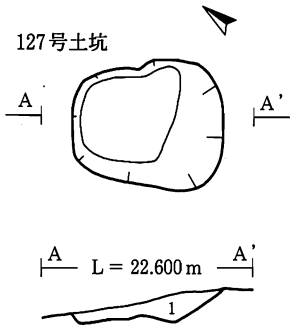


125号土坑
1．10YR3/3　暗褐色土　粘性かなりあり　しまりややあり　炭化物1％含む



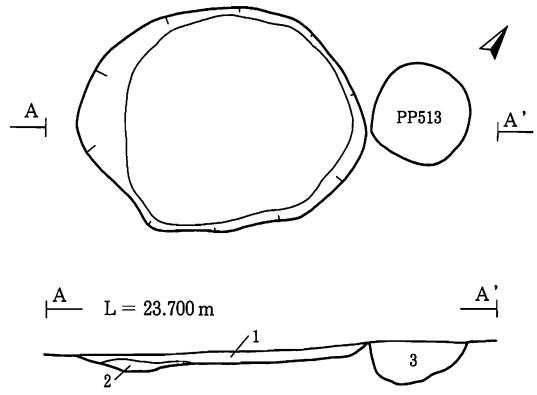
第157図　121～125号土坑

127号土坑



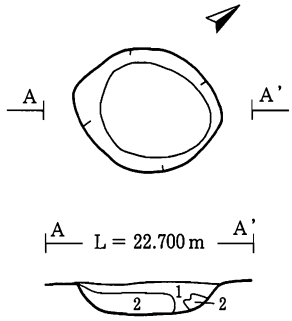
127号土坑
1．10YR3/3　暗褐色土　粘性あり　しまりあり

128号土坑



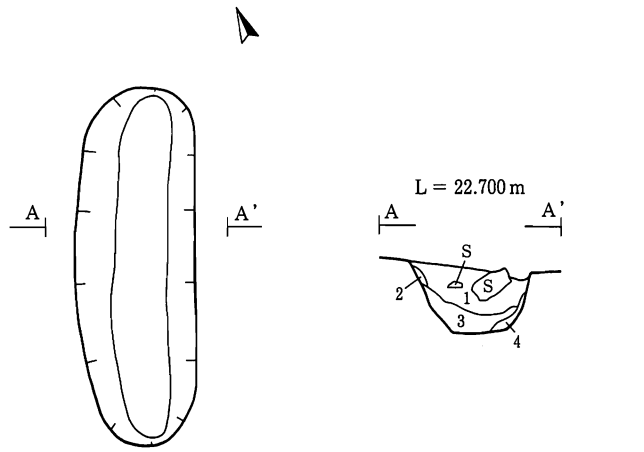
128号土坑・PP513
1．10YR4/2　灰黄褐色土　粘性ややあり　しまりあり　褐色土（10YR4/4）10%含む
2．10YR4/4　褐色土　粘性ややあり　しまりあり
3．10YR3/4　暗褐色土　粘性ややあり　しまりあり

129号土坑



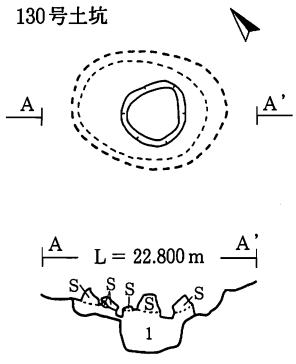
129号土坑
1．10YR3/4　暗褐色土　粘性ややあり　しまりあり
　炭化物・焼土粒15%含む
2．10YR4/4　褐色土　粘性ややあり　しまりあり
　炭化物1%含む

131号土坑



131号土坑
1．10YR3/3　暗褐色土　粘性ややあり　しまりあり　炭化物1%含む
2．10YR4/2　灰黄褐色土　粘性ややあり　しまりあり　火山灰少量混入
3．10YR3/2　黒褐色土　粘性ややあり　しまりややあり　炭化物・焼土粒1%含む
4．10YR4/3　にぶい黄褐色土　粘性ややあり　しまりあり

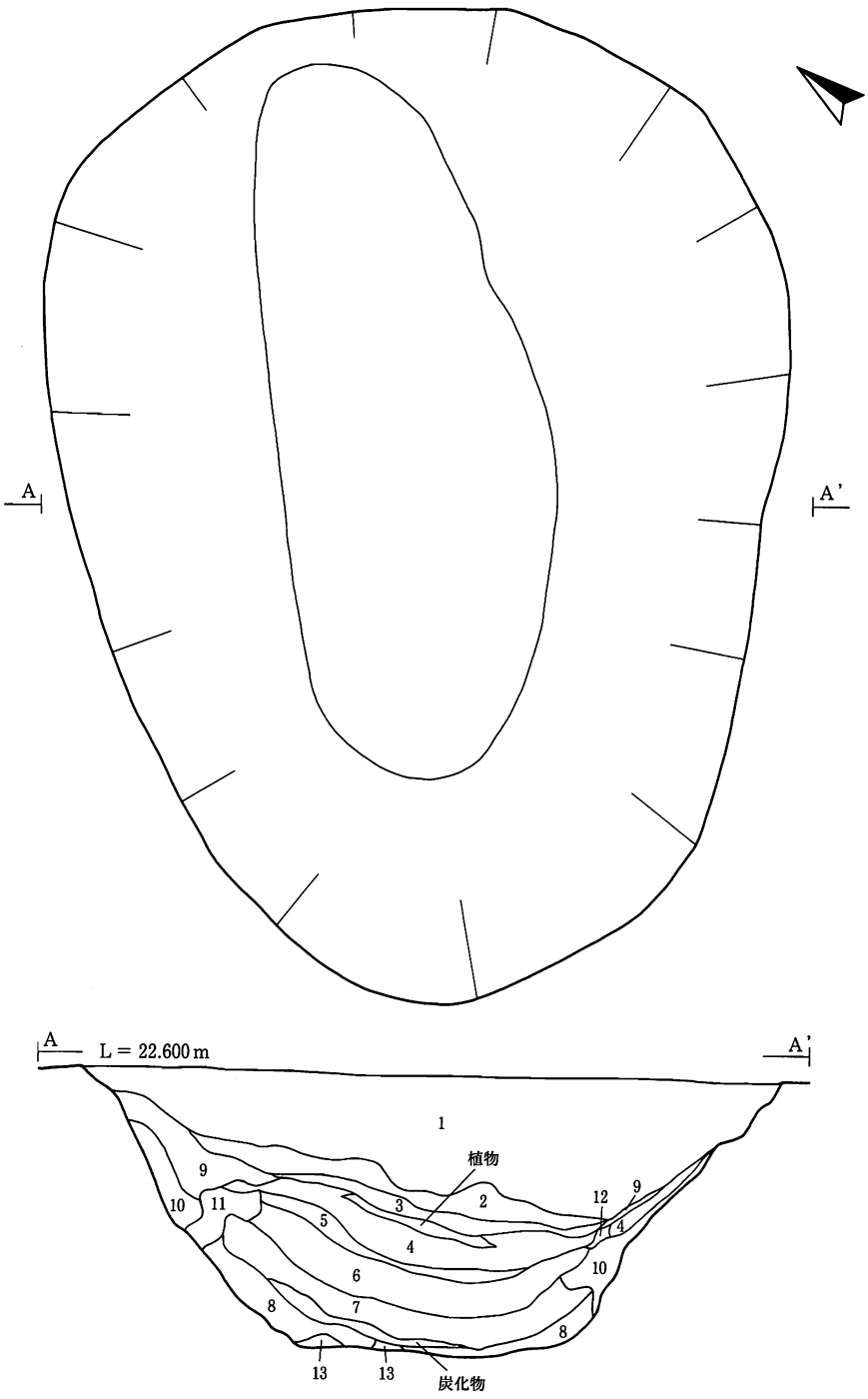
130号土坑



130号土坑
1．10YR3/2　黒褐色土　粘性あり　しまりあり　炭化物1～2%含む

0　1：50　2m

第158図　127～131号土坑

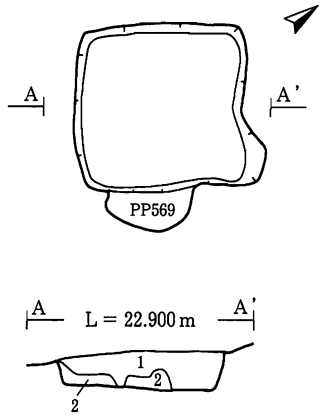


132号土坑
1．10YR3/4　暗褐色土　粘性ややあり　しまりあり　炭化物２％含む
2．10YR4/2　灰黄褐色土　粘性あり　しまりあり　炭化物１％含む
3．10YR4/1　褐灰色土　粘性あり　しまりあり
4．10YR1.7/1　黒色土　粘性あり　しまりあり
5．10YR4/1　褐灰色土　３層に比べしまり、粘性ともに弱い
6．10YR2/1　黒色土　粘性あり　しまりあり　褐灰色土（10YR6/1～5/1）がブロック混入　炭化物２％含む
7．10YR2/1　黒色土　粘性あり　しまりあり　６層より炭化物を多く含む
8．2.5Y4/2　暗灰黄色土　粘性かなりあり　しまりあり
9．10YR3/2　黒褐色土　粘性ややあり　しまりあり　炭化物１％含む
10. 10YR5/3　にぶい黄褐色土　粘性ややあり　しまりあり
11. 10YR4/1　褐灰色土　10層がブロック状に少量混入
12. 10YR2/3　黒褐色土　粘性あり　しまりあり
13. 10YR3/3　暗褐色土　粘性あり　しまりあり　にぶい黄褐色土が小ブロックで混入

0　1：50　2m

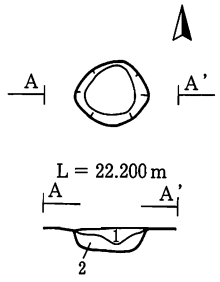
第159図　132号土坑

133号土坑



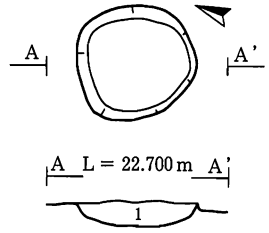
133号土坑
1．10YR3/3　暗褐色土　粘性ややあり　しまりあり
　　焼土ブロック（5YR5/8）、炭化物３％含む
2．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりあり
　　暗褐色土（10YR3/3）30%混入

135号土坑



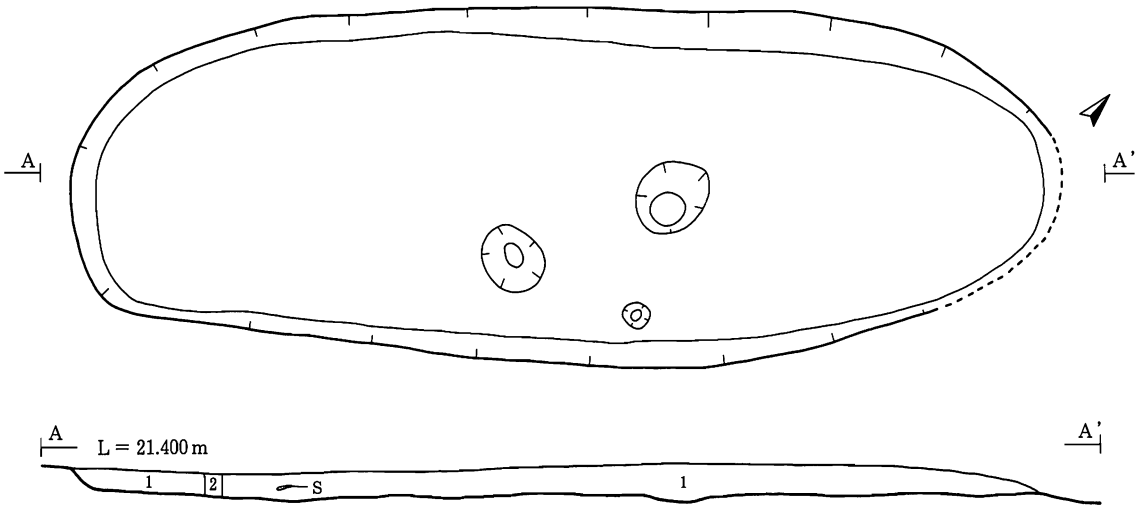
135号土坑
1．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりかなりあり
　　焼土ブロック（5YR4/8）20%、
　　炭化物微量含む
2．10YR4/4　褐色土　粘性あり　しまりかなりあり

136号土坑

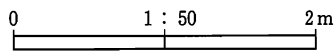


136号土坑
1．10YR3/3　暗褐色土　粘性ややあり
　　しまりややあり
　　褐色土（10YR4/4）10%含む

134号土坑



134号土坑
1．10YR3/3　暗褐色土　粘性あり　しまりあり　焼土粒（5YR5/8）微量含む
2．2.5Y3/1　オリーブ黒色土　粘性あり　しまりややあり　水酸化鉄混入　グライ化



第160図　133～136号土坑

〈陶磁器〉　PP186埋土中から近世の磁器皿（933）、PP165から碗（934）が出土している。933の見込みは釉剥ぎが施され、934は凹蛇目高台を持つ。

〈石製品〉　PP363の埋土中からは砥石（858）が出土している。

〈銭貨〉　PP2073埋土中から永楽通宝（805・806・809）、PP1562から寛永通宝（808）が出土している。

時期　多くは近世の住居跡と同時期と考えられる。土師器が出土した数基と永楽通宝が出土した遺構はそれぞれ平安時代と中世後半期のものと考えられる。

ⅠD～ⅡE、ⅢD～ⅢE、ⅣD～ⅣE区の柱穴群

遺構（第161～165図）

〈検出状況〉　調査区のほぼ全面に柱穴状土坑が分布する。ⅡEからⅢE区は竈状遺構と炭窯、溝跡（暗渠）以外の近世の遺構は検出されておらず、近世の遺物は全く出土しない区域である。

該区から検出された遺構は、12世紀後半～15世紀墓域や10世紀を中心とする竪穴住居跡、工房跡、住居状遺構である。柱穴から出土した遺物も、これらと時期を同じにする土器、陶磁器、銭貨で占められる。

遺物の出土状況は北側調査区の中でも特に墓域内でのみ12～15世紀頃の陶磁器（1点：例外）類が検出される顕著な特異性を示している。

このため墓域内の柱穴の多くは遺物と時期を同じにするものと考えられ、北側調査区全体を検証しても10～15世紀頃の柱穴がほとんどを占めるものと推定される。

遺構の時期別分布から、平安時代の柱穴はⅡE6－グリッド以北とⅡD～ⅢD区周辺に多く見られ、墓域からⅢE区周辺には12世紀以降の柱穴が多く分布するものと考えられる。

〈建物跡〉　中国産の青磁（764・765）が出土したPP1096とPP1191は、建物跡に付随する可能性が高いが調査からは対向する柱穴は検出されなかった。

〈墓壙〉　更に永楽通宝（803）が出土したPP2397は、規模も45号墓壙に近いため、15世紀の墓壙の可能性も考えられる。

〈埋土〉　埋土は暗褐色土から褐色土を主体とするものが殆どである。火山灰の流れ込みが確認されたものはない。

遺物（写真図版134、140、146）

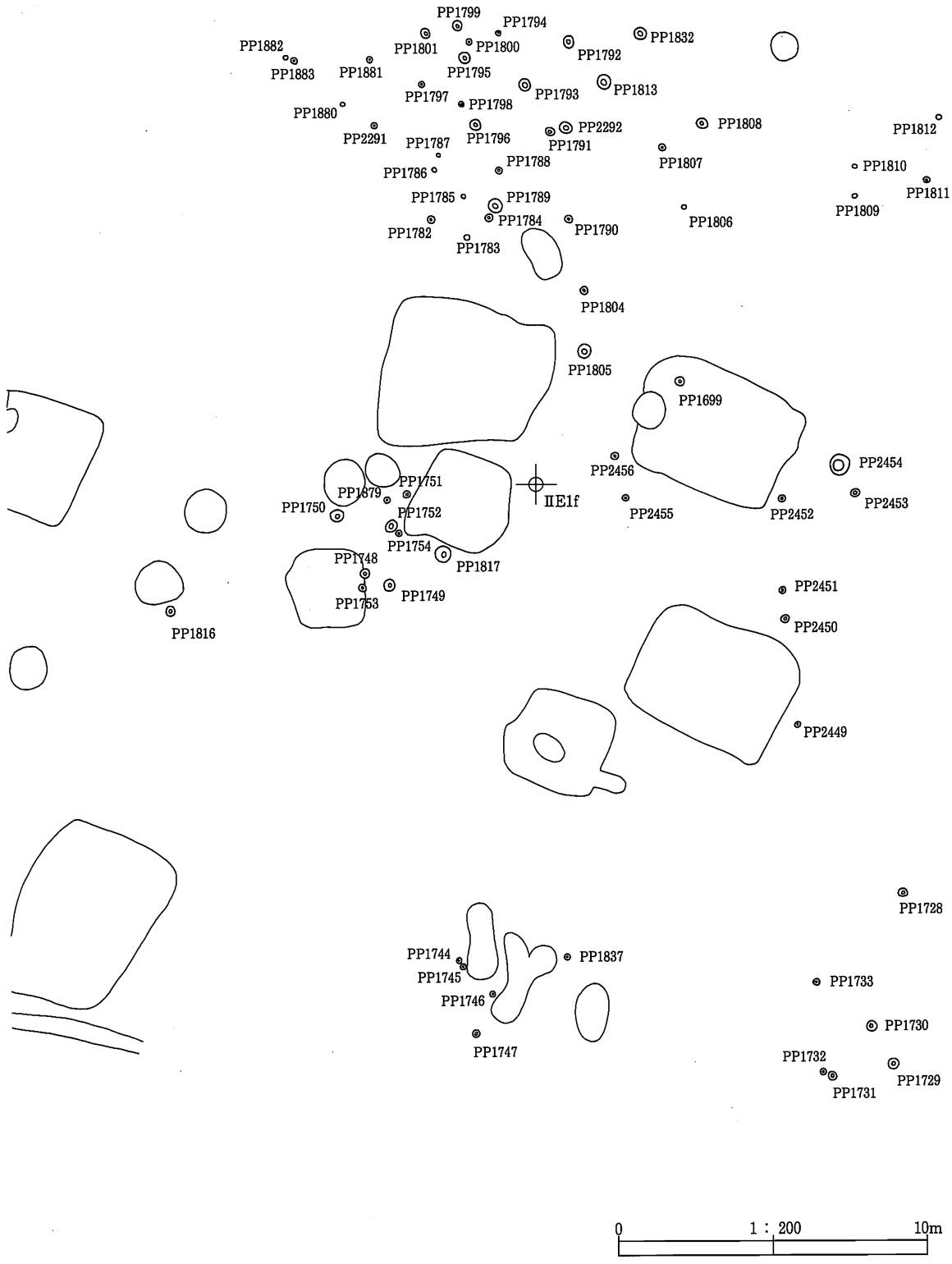
〈出土状況〉　10世紀～15世紀頃の遺物が埋土中から出土している。

〈磁器〉　PP1096とPP1191からは青磁の碗（764・765）が検出された、時期はそれぞれ13世紀後半と15世紀のものである。

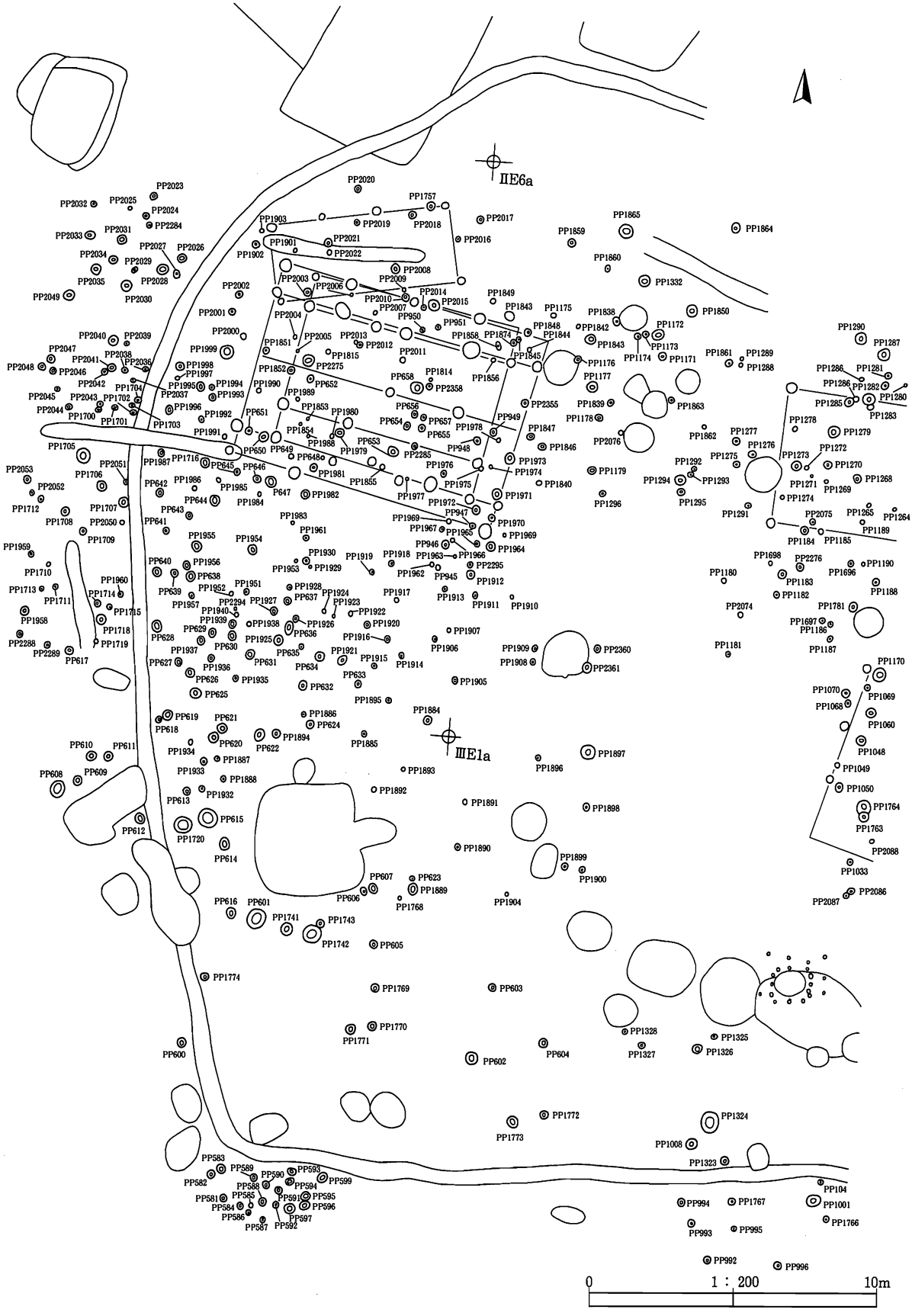
〈土器〉　PP608・2427からは高台付坏（533・567）、PP1033・1068・1141・1170・1283等の埋土中から坏（534・535・539・540・542・545等）、PP1748の埋土中からは碗（547）、PP1750・1753・1764・1835・1857等からは甕（549・551・554・555・559等：同順）が検出されている。

〈石製品〉　PP1076からは砥石（857）が出土している。

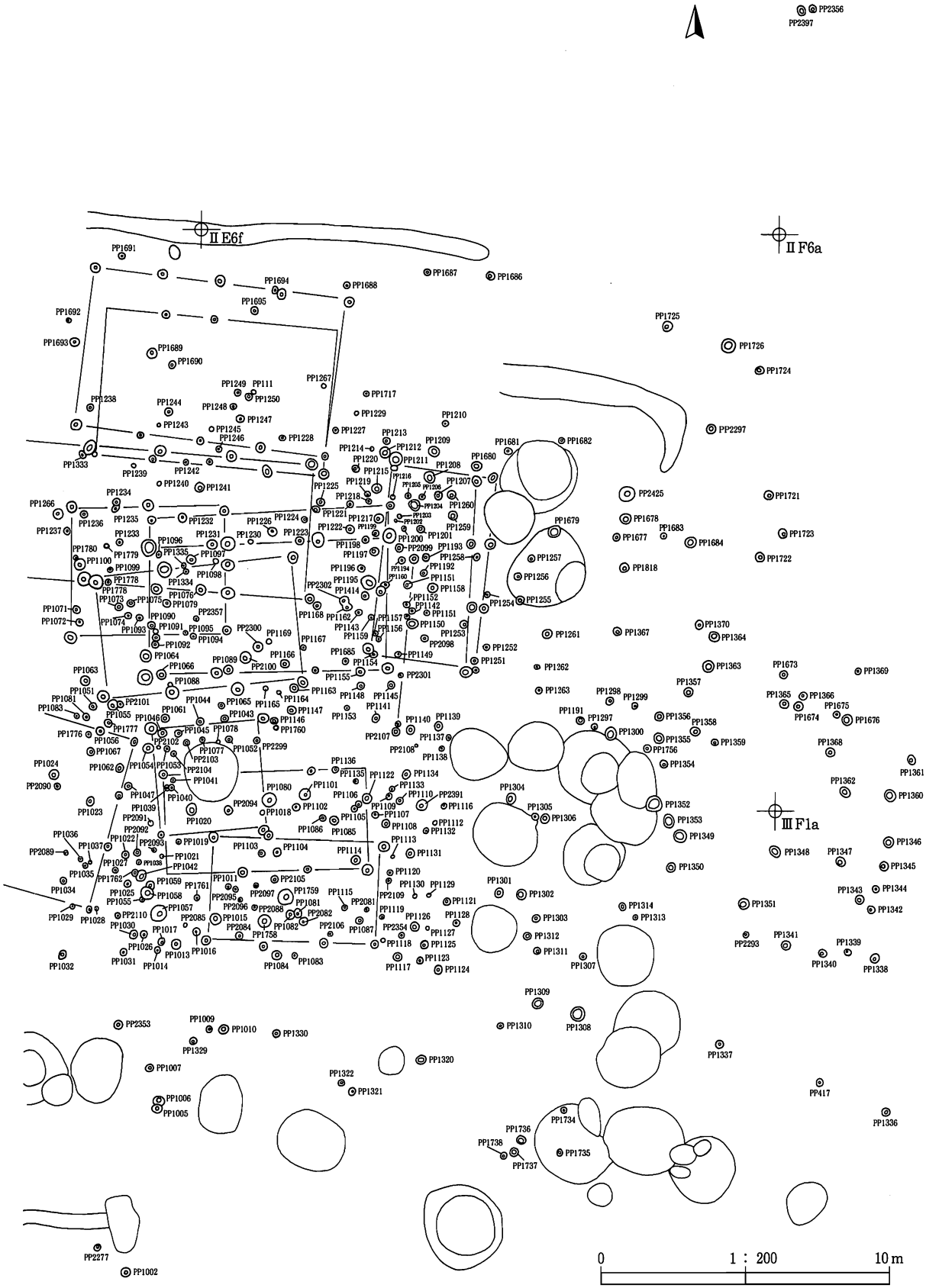
時期　検出された遺構の殆どは住居跡や土坑、墓域と同時期の10世紀から15世紀頃の遺構と考えられる。


PP1799
PP1794
PP1882
PP1801
PP1800
PP1832
PP1792
PP1883
PP1881
PP1795
PP1797
PP1793
PP1813
PP1798
PP1880
PP2291
PP1787
PP1796
PP2292
PP1808
PP1812
PP1791
PP1807
PP1786
PP1788
PP1810
PP1811
PP1785
PP1789
PP1809
PP1784
PP1790
PP1806
PP1782
PP1783
PP1804
PP1805
PP1699
PP2456
PP2454
PP1879
PP1751
PP1750
PP1752
IIE1f
PP2455
PP2452
PP2453
PP1754
PP1748
PP1817
PP1753
PP1749
PP2451
PP1816
PP2450
PP2449
PP1728
PP1744
PP1837
PP1745
PP1733
PP1746
PP1730
PP1747
PP1732
PP1729
PP1731
0
1：200
10m

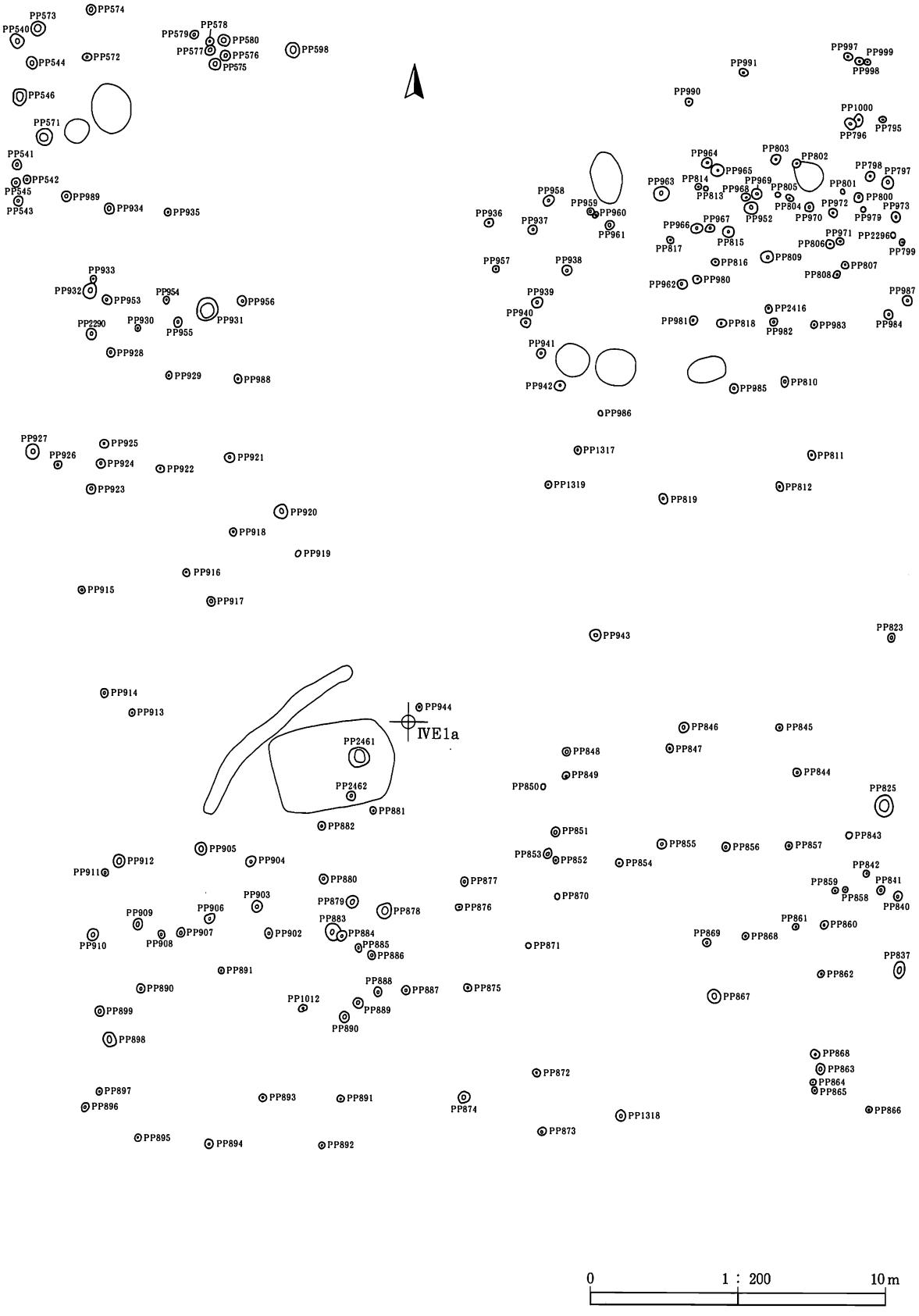
第161図　桂穴群（1）



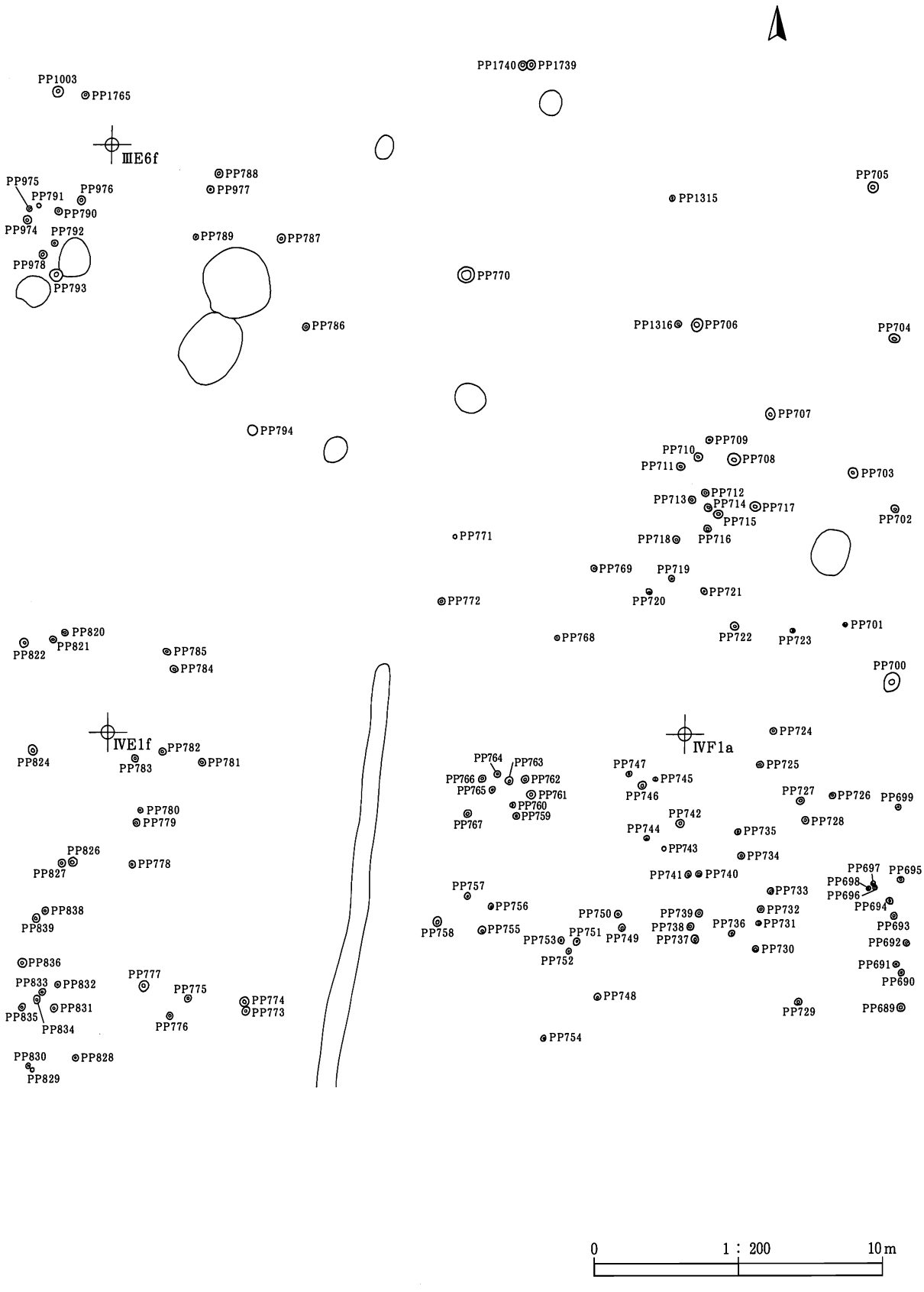
第162図　柱穴群（２）



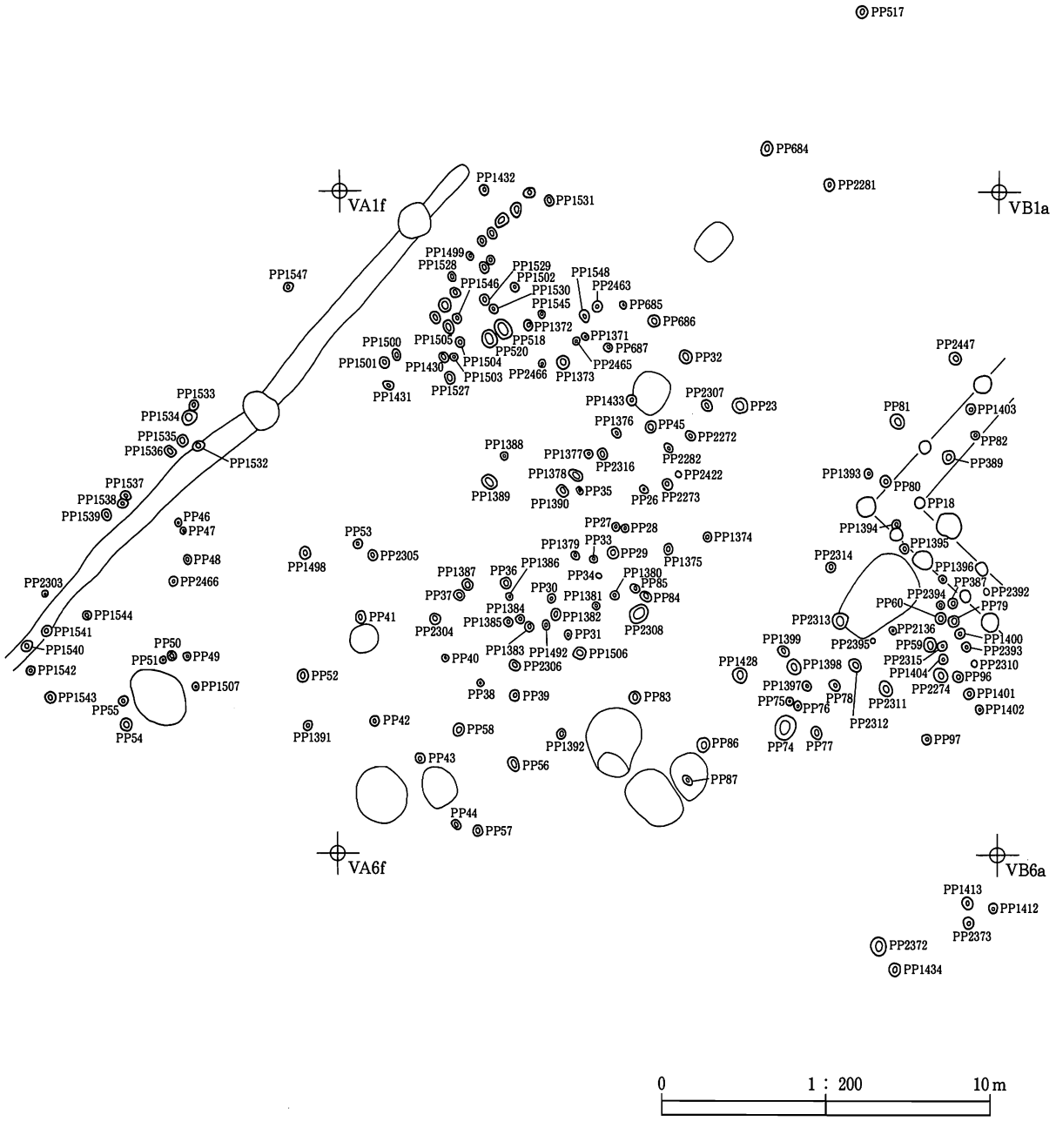
第163図　桂穴群（3）


PP573
PP574
PP540
PP578
PP579
PP580
PP577
PP576
PP575
PP598
PP544
PP572
PP546
PP571
PP541
PP542
PP545
PP989
PP543
PP934
PP935
PP933
PP932
PP953
PP954
PP956
PP2290
PP930
PP955
PP931
PP928
PP929
PP988
PP927
PP926
PP925
PP924
PP922
PP921
PP923
PP920
PP918
PP919
PP916
PP915
PP917
PP914
PP913
PP944
IVE1a
PP2461
PP2462
PP881
PP882
PP905
PP912
PP911
PP904
PP880
PP877
PP903
PP879
PP878
PP876
PP909
PP906
PP883
PP910
PP908
PP907
PP902
PP884
PP885
PP886
PP891
PP890
PP888
PP887
PP875
PP1012
PP889
PP899
PP890
PP898
PP897
PP896
PP893
PP891
PP874
PP895
PP894
PP892
PP991
PP997
PP999
PP998
PP990
PP1000
PP796
PP795
PP964
PP803
PP802
PP965
PP798
PP797
PP963
PP814
PP969
PP801
PP813
PP968
PP805
PP800
PP958
PP959
PP804
PP972
PP973
PP936
PP960
PP937
PP952
PP970
PP979
PP967
PP966
PP971
PP2296
PP961
PP817
PP815
PP806
PP799
PP957
PP938
PP816
PP809
PP807
PP962
PP980
PP808
PP939
PP987
PP940
PP2416
PP981
PP818
PP983
PP984
PP982
PP941
PP942
PP985
PP810
PP986
PP1317
PP811
PP1319
PP812
PP819
PP943
PP823
PP846
PP845
PP848
PP847
PP849
PP844
PP850
PP825
PP851
PP843
PP855
PP856
PP857
PP853
PP852
PP854
PP842
PP859
PP841
PP858
PP870
PP840
PP861
PP860
PP869
PP868
PP871
PP837
PP862
PP867
PP868
PP872
PP863
PP864
PP865
PP866
PP1318
PP873
0
1：200
10m

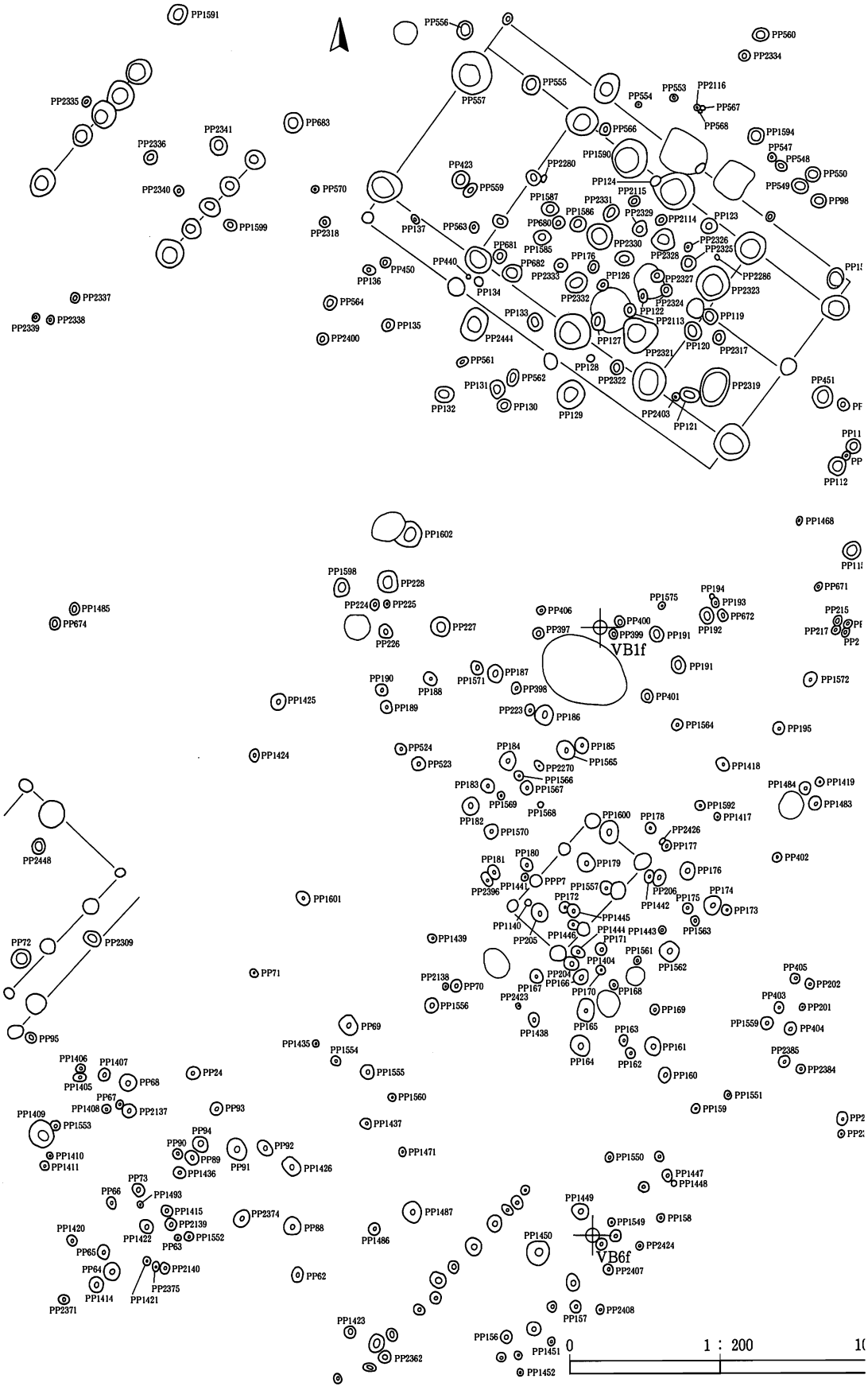
第164図　桂穴群（4）


PP1003
PP1765
ⅢE6f
PP975
PP791
PP976
PP790
PP974
PP792
PP978
PP793
PP788
PP977
PP789
PP787
PP786
PP794
PP1740
PP1739
PP770
PP1315
PP705
PP1316
PP706
PP704
PP707
PP709
PP710
PP711
PP708
PP703
PP712
PP713
PP714
PP717
PP715
PP702
PP771
PP718
PP716
PP769
PP719
PP772
PP720
PP721
PP701
PP768
PP722
PP723
PP700
PP820
PP821
PP822
PP785
PP784
ⅣE1f
PP824
PP783
PP782
PP781
PP780
PP779
PP826
PP827
PP778
PP838
PP839
PP836
PP833
PP832
PP835
PP831
PP834
PP777
PP775
PP776
PP774
PP773
PP830
PP828
PP829
ⅣF1a
PP724
PP764
PP763
PP747
PP725
PP766
PP762
PP745
PP765
PP761
PP746
PP727
PP726
PP699
PP760
PP759
PP767
PP742
PP728
PP744
PP735
PP743
PP734
PP697
PP695
PP741
PP740
PP698
PP733
PP696
PP757
PP756
PP732
PP694
PP750
PP739
PP758
PP755
PP751
PP738
PP736
PP731
PP693
PP753
PP749
PP737
PP692
PP730
PP752
PP691
PP690
PP748
PP729
PP689
PP754
0
1：200
10m

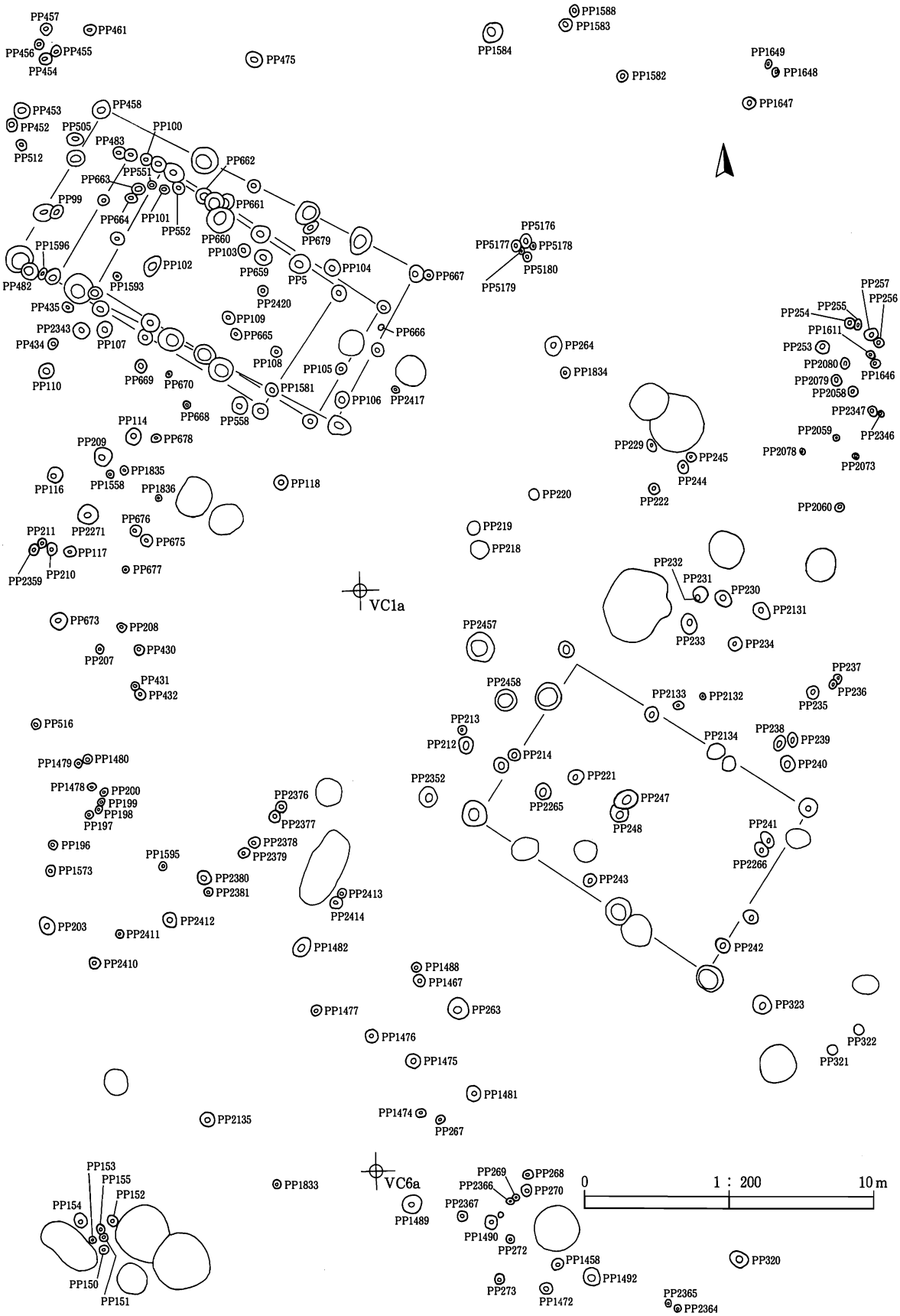
第165図　桂穴群（5）


VA1f
VA6f
VB1a
VB6a
PP517
PP684
PP2281
PP1432
PP1531
PP1547
PP1499
PP1528
PP1529
PP1502
PP1548
PP1546
PP1530
PP2463
PP1545
PP685
PP686
PP1372
PP1371
PP687
PP1500
PP1505
PP518
PP520
PP32
PP1501
PP1430
PP1504
PP2465
PP1503
PP2466
PP1373
PP1431
PP1527
PP1533
PP1534
PP1535
PP1536
PP1532
PP1537
PP1538
PP1539
PP46
PP47
PP48
PP2466
PP2303
PP1544
PP1541
PP1540
PP1542
PP50
PP51
PP49
PP1507
PP1543
PP55
PP54
PP53
PP2305
PP1498
PP41
PP2304
PP52
PP42
PP1391
PP58
PP43
PP44
PP57
PP56
PP1433
PP2307
PP23
PP1376
PP45
PP2272
PP1388
PP1377
PP2316
PP2282
PP1378
PP2422
PP1389
PP1390
PP35
PP26
PP2273
PP27
PP28
PP1374
PP1379
PP33
PP29
PP1375
PP1386
PP1387
PP36
PP34
PP1380
PP85
PP37
PP30
PP1381
PP84
PP1384
PP1385
PP1382
PP2308
PP31
PP1383
PP1492
PP1506
PP40
PP2306
PP38
PP39
PP83
PP1392
PP86
PP87
PP2447
PP81
PP1403
PP82
PP1393
PP389
PP80
PP18
PP1394
PP1395
PP2314
PP1396
PP387
PP2392
PP2394
PP60
PP79
PP2313
PP2136
PP1400
PP1399
PP2395
PP59
PP2393
PP2315
PP2310
PP1428
PP1398
PP1404
PP96
PP1397
PP2274
PP1401
PP75
PP76
PP78
PP2311
PP1402
PP2312
PP74
PP77
PP97
PP1413
PP1412
PP2373
PP2372
PP1434
0
1：200
10m

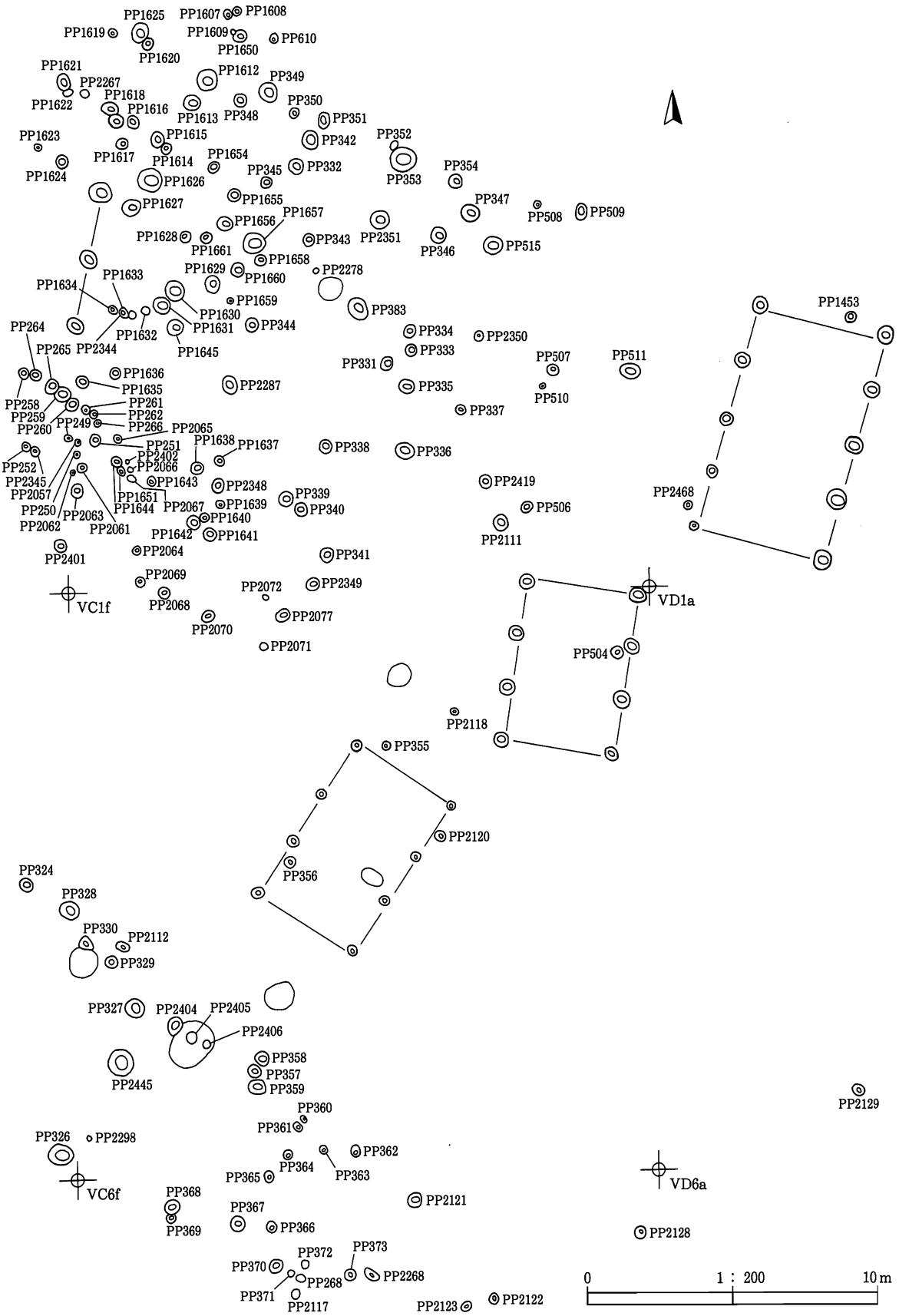
第166図　桂穴群（6）



第167図　柱穴群（7）


PP457
PP461
PP456
PP455
PP454
PP475
PP1588
PP1583
PP1584
PP1582
PP1649
PP1648
PP1647
PP453
PP458
PP452
PP505
PP100
PP483
PP512
PP662
PP551
PP663
PP99
PP661
PP664
PP101
PP552
PP660
PP679
PP103
PP659
PP104
PP667
PP1596
PP102
PP482
PP1593
PP5
PP2420
PP435
PP109
PP665
PP2343
PP107
PP666
PP434
PP108
PP105
PP669
PP670
PP1581
PP110
PP106
PP2417
PP668
PP558
PP114
PP678
PP209
PP1835
PP116
PP1558
PP1836
PP118
PP676
PP211
PP2271
PP675
PP117
PP210
PP677
PP2359
PP673
PP208
PP207
PP430
PP431
PP432
PP516
PP1479
PP1480
PP1478
PP200
PP199
PP198
PP197
PP196
PP1595
PP1573
PP2376
PP2377
PP2378
PP2379
PP2380
PP2381
PP2413
PP2414
PP203
PP2412
PP2411
PP2410
PP1482
PP1488
PP1467
PP1477
PP263
PP1476
PP1475
PP1481
PP1474
PP267
PP2135
PP1833
VC1a
VC6a
PP153
PP155
PP152
PP154
PP150
PP151
PP1489
PP269
PP268
PP2366
PP270
PP2367
PP1490
PP272
PP273
PP1458
PP1492
PP1472
PP2365
PP2364
PP320
PP5176
PP5177
PP5178
PP5180
PP5179
PP264
PP1834
PP257
PP256
PP254
PP255
PP1611
PP253
PP2080
PP1646
PP2079
PP2058
PP2347
PP2059
PP2346
PP2078
PP2073
PP229
PP245
PP244
PP222
PP220
PP2060
PP219
PP218
PP232
PP231
PP230
PP2131
PP233
PP234
PP2457
PP2458
PP237
PP236
PP235
PP2133
PP2132
PP213
PP212
PP214
PP2134
PP238
PP239
PP240
PP2352
PP221
PP2265
PP247
PP248
PP241
PP2266
PP243
PP242
PP323
PP322
PP321
0
1 : 200
10 m

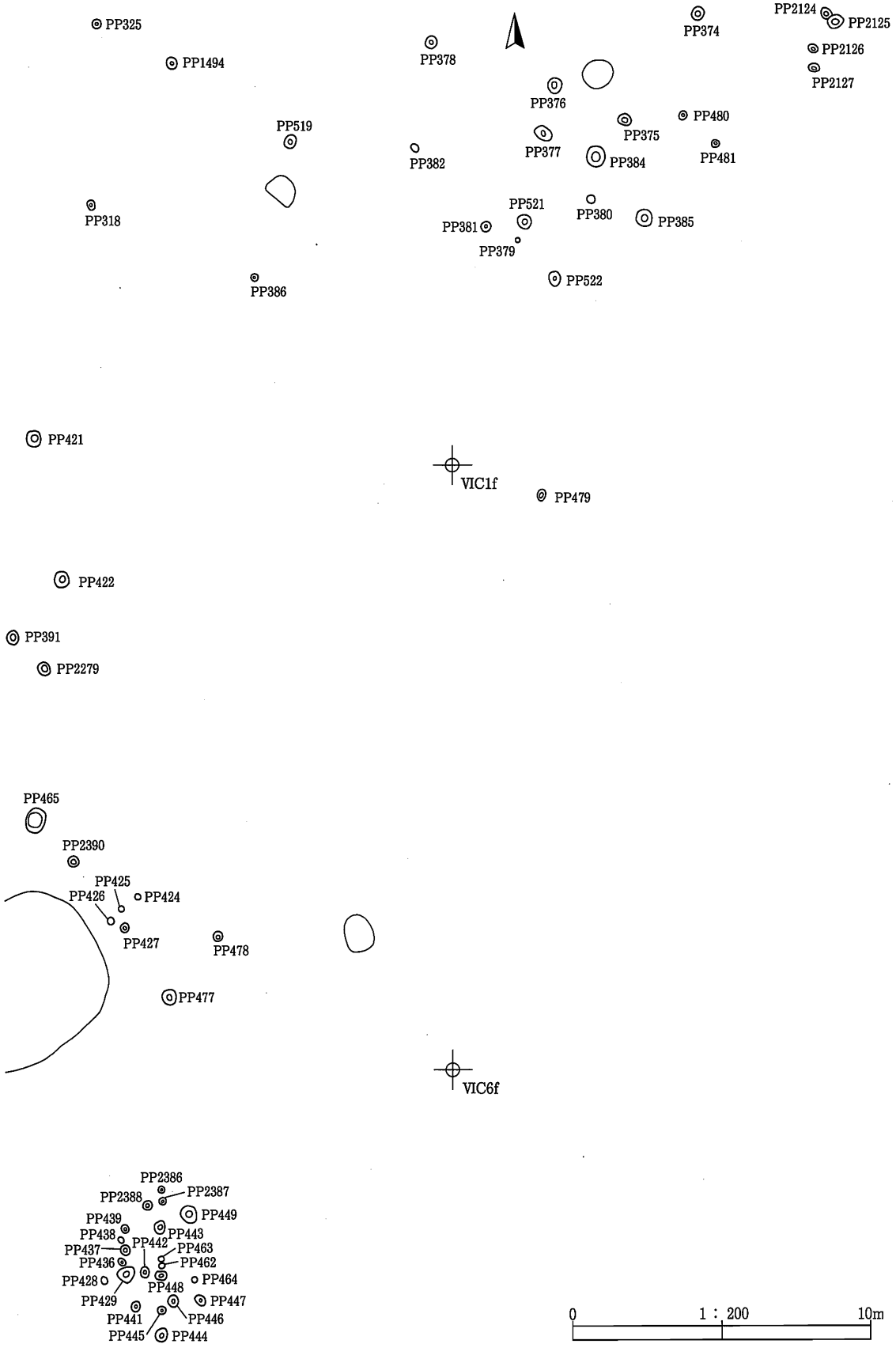
第168図　柱穴群（８）


PP1625
PP1607
PP1608
PP1619
PP1609
PP610
PP1650
PP1620
PP1621
PP1612
PP349
PP2267
PP1618
PP1622
PP1616
PP1613
PP348
PP350
PP351
PP1623
PP1615
PP342
PP352
PP1617
PP1614
PP1654
PP1624
PP345
PP332
PP353
PP354
PP1626
PP1627
PP1655
PP347
PP508
PP509
PP1656
PP1657
PP1628
PP1661
PP343
PP2351
PP346
PP515
PP1658
PP1629
PP1660
PP2278
PP1634
PP1633
PP1659
PP383
PP1630
PP264
PP1631
PP344
PP1632
PP334
PP2350
PP265
PP2344
PP1645
PP333
PP331
PP507
PP511
PP1636
PP1635
PP2287
PP335
PP510
PP258
PP261
PP337
PP259
PP262
PP260
PP249
PP266
PP2065
PP1638
PP1637
PP338
PP336
PP251
PP2402
PP252
PP2066
PP2345
PP1643
PP2348
PP2419
PP2057
PP1651
PP339
PP2468
PP250
PP1644
PP2067
PP1639
PP340
PP506
PP2063
PP1640
PP2062
PP2061
PP1642
PP1641
PP2111
PP2401
PP2064
PP341
PP2069
PP2072
PP2349
VC1f
PP2068
VD1a
PP2077
PP2070
PP504
PP2071
PP2118
PP355
PP2120
PP356
PP324
PP328
PP330
PP2112
PP329
PP327
PP2404
PP2405
PP2406
PP358
PP357
PP2445
PP359
PP2129
PP360
PP361
PP326
PP2298
PP362
PP364
PP365
PP363
VD6a
VC6f
PP368
PP2121
PP367
PP369
PP366
PP2128
PP372
PP373
PP370
PP2268
PP268
PP371
PP2117
PP2123
PP2122
0
1：200
10m

第169図　柱穴群（９）

PP2409
PP277
PP276
PP146
PP147
PP275
PP2368
PP278
PP279
PP145
PP148
PP149
PP2363
PP1455
PP1454
PP144
PP1429
PP142
PP1473
PP319
PP310
PP143
PP1456
PP282
PP283
PP1457
PP280
PP281
PP2421
PP288
PP286
PP289
PP290
PP1464
PP304
PP305
PP317
PP1459
PP284
PP287
PP1463
PP303
PP316
PP306
PP307
PP308
PP1465
PP1497
PP285
PP1461
PP291
PP1496
PP315
VIB1f
PP1462
PP1495
PP302
PP301
VIC1a
PP292
PP300
PP314
PP293
PP295
PP299
PP309
PP294
PP297
PP298
PP1460
PP296
PP420
PP1466
PP419
PP2418
PP312
PP313
PP2369
PP394
PP393
PP392
PP390
PP2370
PP418
PP395
PP1491
PP408
PP407
PP311
PP409
PP410
PP396
PP412
PP411
PP413
PP414
VIC6a
PP416
PP415
0
1 : 200
10 m

第170図　桂穴群(10)


PP325
PP1494
PP519
PP318
PP386
PP378
PP376
PP382
PP377
PP375
PP384
PP374
PP480
PP481
PP2124
PP2125
PP2126
PP2127
PP521
PP380
PP385
PP381
PP379
PP522
PP421
VIC1f
PP479
PP422
PP391
PP2279
PP465
PP2390
PP425
PP426
PP424
PP427
PP478
PP477
VIC6f
PP2386
PP2388
PP2387
PP449
PP439
PP438
PP443
PP442
PP437
PP463
PP436
PP462
PP428
PP448
PP464
PP429
PP447
PP441
PP446
PP445
PP444
0
1：200
10m

第171図　桂穴群(11)

第５表　柱穴計測表（１）

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
1	34×30	17.2	
2	43×34	—	
3	26×26	17.6	
4	50×44	21.2	
5	60×54	23.6	
6	40×32	25.2	
7	44×36	21.5	
8	24×22	14.2	
9	34×30	14.8	
10	34×30	32.5	
11	52×47	42.7	
12	44×36	32.0	
13	24×22	16.6	
14	36×25	27.4	
15	38×36	30.5	
16	36×30	18.0	
17	38×32	47.9	
18	46×40	51.0	
19	30×24	25.2	
20	60×44	25.1	
21	22×20	27.0	
22	26×26	25.4	
23	42×42	31.4	
24	47×41	7.1	
25	30×25	26.5	
26	24×20	22.8	
27	30×24	19.6	
28	26×26	17.6	
29	34×26	35.5	
30	20×16	11.1	
31	30×26	—	
32	42×40	28.4	
33	24×20	19.3	
34	26×26	6.7	
35	26×23	9.4	No.527　須恵器甕
36	44×41	46.5	
37	33×31	15.0	
38	12×10	13.3	
39	28×26	30.8	
40	28×24	22.5	
41	28×22	20.8	
42	26×22	24.0	
43	42×40	31.2	
44	26×16	9.7	
45	38×34	17.2	
46	28×20	7.5	
47	30×20	8.0	
48	30×30	18.8	
49	32×30	14.0	
50	34×28	15.2	

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
51	24×16	18.4	
52	32×30	20.7	
53	28×28	29.8	
54	32×30	10.7	
55	44×36	24.9	
56	30×24	17.2	
57	26×24	14.1	
58	30×30	28.0	
59	42×40	24.8	
60	32×30	—	
61	52×52	28.8	
62	54×36	23.3	
63	24×22	8.8	
64	54×36	34.0	
65	38×26	45.3	
66	38×32	24.5	
67	38×36	25.6	
68	60×50	23.8	
69	70×54	44.6	
70	38×32	26.0	No.528　土師器甕
71	26×26	11.8	
72	70×50	19.5	
73	44×42	31.3	
74	50×46	28.2	柱痕あり
75	16×16	8.4	
76	22×20	5.4	
77	30×26	9.9	
78	32×32	20.4	
79	44×38	14.0	
80	24×22	39.9	
81	36×34	25.0	
82	22×14	25.2	
83	32×26	—	
84	34×34	20.4	
85	32×30	34.8	
86	46×45	—	
87	30×23	35.4	
88	66×62	61.3	
89	38×36	19.8	
90	40×28	25.1	
91	54×48	13.7	
92	56×48	14.6	
93	40×40	36.8	
94	56×50	62.9	柱痕あり
95	42×34	33.5	
96	40×36	31.2	
97	42×38	30.2	
98	32×31	28.4	
99	30×25	15.4	
100	30×30	23.2	

第6表　柱穴計測表（2）

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
101	49×49	—	
102	58×40	28.0	
103	44×43	21.0	
104	49×41	20.6	
105	29×25	17.5	
106	47×43	37.4	
107	61×60	13.2	
108	33×31	30.4	
109	38×36	33.1	
110	53×48	45.4	
111	37×35	14.7	
112	32×30	53.5	柱痕あり
113	31×27	17.9	
114	44×41	30.5	
115	50×44	39.2	柱痕あり
116	26×24	15.0	
117	36×30	20.3	
118	64×61	—	
119	46×43	24.9	
120	58×51	39.1	
121	54×54	31.6	
122	37×35	17.6	
123	45×43	26.7	
124	45×45	43.3	
125	30×24	32.4	
126	36×34	36.2	
127	61×57	—	
128	43×32	17.4	
129	84×56	—	
130	40×38	44.4	
131	46×44	36.6	
132	46×42	38.6	
133	31×31	47.4	
134	26×20	12.7	
135	32×30	41.1	
136	34×32	24.0	
137	16×16	20.2	
138	49×38	15.7	
139	58×50	27.4	
140	46×32	18.3	
141	80×58	18.1	
142	74×68	69.8	
143	98×52	74.4	
144	24×22	23.6	
145	34×32	33.6	
146	12×10	11.0	
147	46×42	71.0	
148	64×64	23.2	
149	62×54	59.8	
150	34×32	8.7	

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
151	40×40	8.1	
152	34×20	48.6	
153	30×26	19.1	
154	46×44	48.6	
155	33×33	34.6	
156	46×30	29.2	
157	34×32	30.7	
158	38×26	27.4	
159	32×30	17.8	
160	44×42	31.8	
161	70×54	—	
162	38×32	39.4	
163	42×38	31.4	
164	54×54	43.0	
165	42×42	28.0	No.934 碗
166	19×18	8.7	
167	25×23	16.3	
168	50×48	49.3	柱痕あり
169	29×29	16.2	
170	34×32	15.0	
171	44×36	49.6	柱痕あり
172	42×36	21.2	
173	54×40	9.4	
174	54×54	18.6	
175	40×38	17.5	
176	44×42	—	
177	42×42	21.0	
178	40×37	39.3	
179	68×60	63.6	柱痕あり
180	48×38	40.7	
181	98×64	27.4	
182	54×44	47.1	
183	44×38	20.6	
184	46×34	28.1	
185	44×40	15.6	
186	50×40	73.5	No.933 Ⅲ
187	26×24	9.7	
188	34×28	24.1	
189	36×32	12.7	
190	44×36	17.9	
191	41×40	22.4	
192	46×46	20.4	
193	32×32	24.8	
194	24×24	24.4	
195	28×26	46.2	
196	24×16	13.5	
197	26×22	13.0	
198	27×26	15.2	
199	24×20	13.2	
200	22×20	18.4	

第７表　柱穴計測表（３）

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
201	24×24	—	
202	34×30	—	
203	60×50	—	
204	56×48	11.8	
205	50×49	58.0	
206	50×50	22.2	
207	24×22	11.2	
208	34×30	18.2	
209	44×39	34.5	
210	50×46	26.8	柱痕あり
211	44×44	30.3	
212	58×52	18.0	
213	36×34	12.0	
214	40×36	32.8	
215	36×28	44.0	
216	24×24	9.6	
217	35×35	21.2	
218	35×33	24.4	
219	21×21	23.1	
220	38×36	13.9	
221	50×34	27.2	
222	44×38	33.4	
223	28×26	11.6	
224	36×28	14.6	
225	20×18	17.1	
226	44×38	61.6	
227	44×40	42.5	
228	62×46	48.2	
229	34×34	48.8	
230	60×58	25.0	
231	48×47	27.6	
232	30×21	35.2	
233	75×42	22.2	
234	48×40	19.6	
235	40×38	18.8	
236	28×28	35.8	
237	34×34	15.0	
238	40×40	14.0	
239	30×30	15.0	
240	44×44	38.2	
241	62×50	36.0	
242	52×40	30.6	
243	42×40	42.0	柱痕あり
244	22×22	20.2	
245	34×30	29.7	
246	53×48	41.0	
247	58×50	33.7	
248	54×48	38.4	
249	22×18	26.0	
250	28×22	24.0	

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
251	34×26	31.5	
252	20×20	18.4	
253	44×33	42.5	
254	41×41	27.4	
255	34×34	45.3	
256	46×40	37.3	
257	34×34	20.9	
258	40×32	40.5	
259	50×50	45.4	
260	40×32	31.7	
261	28×26	27.1	
262	34×24	23.8	
263	86×78	17.5	
264	38×32	23.5	
265	44×44	23.8	
266	30×26	21.5	
267	30×28	17.9	
268	24×20	18.0	
269	34×34	13.6	
270	24×24	19.4	
271	24×22	33.6	
272	26×22	18.7	
273	30×26	16.4	
274	24×22	16.4	
275	46×36	36.4	
276	42×40	36.8	
277	40×28	37.4	
278	60×32	37.8	
279	74×62	32.6	
280	50×48	26.6	
281	42×42	22.9	
282	96×70	52.6	
283	45×45	17.2	
284	34×30	14.3	
285	28×28	16.7	
286	74×60	22.7	
287	44×36	14.1	
288	68×60	36.4	
289	74×62	56.6	
290	96×70	64.1	
291	42×38	15.2	
292	34×34	23.5	
293	42×38	65.4	
294	48×44	23.2	
295	42×38	33.4	
296	48×48	32.9	
297	34×34	34.9	
298	50×48	42.6	
299	46×44	36.2	
300	22×20	31.6	

第8表　柱穴計測表（4）

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
301	52×44	49.4	
302	30×26	19.9	
303	30×25	22.5	
304	66×58	33.4	
305	36×28	32.7	
306	34×34	39.7	
307	16×16	25.3	
308	40×34	52.8	
309	34×30	11.7	
310	26×24	22.2	
311	40×30	33.6	
312	34×28	10.5	
313	125×89	53.8	
314	58×58	37.7	
315	38×38	50.6	
316	22×20	12.8	
317	36×32	58.2	
318	26×26	28.3	
319	84×50	42.5	
320	66×54	8.5	
321	24×24	18.0	
322	22×22	31.4	
323	54×42	36.8	
324	40×38	12.4	
325	28×26	18.0	
326	89×78	—	
327	56×52	20.1	
328	56×54	21.9	
329	36×36	14.7	
330	35×35	19.8	
331	40×40	15.5	
332	52×52	17.2	
333	36×35	19.1	
334	34×34	13.1	
335	46×46	24.0	
336	52×46	20.2	
337	40×40	27.4	
338	40×34	17.2	
339	46×42	45.6	
340	40×38	35.5	
341	44×44	36.4	
342	62×56	18.2	
343	44×44	17.0	
344	40×40	28.5	
345	36×34	17.0	
346	42×42	29.0	
347	62×60	30.5	
348	38×36	16.8	
349	55×53	22.0	
350	26×25	20.0	

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
351	62×60	32.2	
352	26×24	26.4	
353	84×78	33.9	
354	56×52	17.0	
355	32×30	16.5	
356	40×38	40.6	
357	52×43	21.7	
358	42×40	30.6	
359	68×60	25.4	
360	36×36	10.4	
361	38×36	14.2	
362	34×32	13.2	
363	34×26	—	No.858 砥石
364	86×80	—	
365	44×38	16.3	
366	34×32	10.6	
367	54×50	20.2	
368	54×46	37.0	
369	30×20	—	
370	42×36	36.9	
371	27×23	13.6	
372	28×28	10.7	
373	26×24	26.3	
374	38×34	12.4	
375	46×30	27.2	
376	48×46	14.2	
377	40×40	—	
378	46×42	22.4	
379	32×32	—	
380	14×12	—	
381	22×22	—	
382	40×34	—	
383	74×68	14.2	
384	64×46	—	
385	80×51	—	
386	24×22	—	
387	30×22	27.6	
388	20×18	11.9	
389	34×30	11.2	
390	26×24	34.2	
391	39×38	—	
392	45×43	—	
393	32×26	13.0	
394	40×32	14.4	
395	60×46	25.2	
396	36×34	5.0	
397	30×28	30.1	
398	33×28	18.4	
399	32×26	35.9	
400	34×26	36.4	

第９表　柱穴計測表（５）

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
401	34×32	34.9	
402	34×30	33.0	
403	36×36	22.4	
404	40×38	29.0	
405	32×28	21.6	
406	30×28	12.8	
407	50×50	40.0	
408	50×50	36.2	
409	56×50	52.6	
410	60×56	40.1	
411	62×62	15.1	
412	36×34	22.4	
413	46×46	35.3	
414	48×48	15.7	
415	42×40	40.3	
416	56×48	35.0	
417	24×24	15.1	
418	28×26	18.0	
419	24×20	22.8	
420	36×28	36.2	
421	51×46	—	
422	42×39	—	
423	56×59	19.6	
424	22×20	12.4	
425	30×28	—	
426	22×22	28.2	
427	32×32	21.3	
428	30×28	22.5	
429	60×48	32.2	
430	36×32	12.4	
431	27×27	18.5	
432	38×38	18.6	
433	31×23	26.0	
434	23×21	13.5	
435	30×28	7.7	
436	24×22	17.7	
437	32×28	20.7	
438	26×24	12.5	
439	32×30	4.4	
440	16×16	12.3	
441	34×23	19.8	
442	34×32	21.3	
443	46×42	18.6	
444	46×44	—	
445	28×26	20.9	
446	44×30	17.5	
447	36×30	24.6	
448	28×24	21.8	
449	54×48	5.4	
450	45×36	54.4	

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
451	46×38	33.4	
452	44×40	20.8	
453	12×12	11.2	
454	30×28	18.4	
455	22×18	6.2	
456	28×26	11.0	
457	18×16	6.8	
458	64×60	33.0	柱痕あり
459	36×32	43.3	
460	58×52	74.0	柱痕あり
461	24×22	20.7	
462	25×25	17.6	
463	23×23	9.6	
464	20×20	11.6	
465	66×56	26.9	
466	34×30	19.4	
467	22×22	16.7	
468	28×26	23.8	
469	40×40	54.4	
470	46×40	61.6	
471	56×54	17.8	
472	28×20	7.4	
473	48×36	31.6	
474	56×54	20.0	
475	54×52	13.8	
476	54×40	23.3	
477	52×48	12.3	
478	30×26	15.0	
479	56×50	—	
480	30×30	—	
481	22×20	—	
482	57×57	42.4	
483	36×36	21.6	
484	24×24	20.0	
485	72×62	26.2	
486	54×50	49.2	
487	58×48	13.6	
488	36×32	31.6	
489	30×28	12.8	
490	50×46	39.8	柱痕あり
491	42×40	39.8	
492	44×36	39.4	
493	42×38	16.8	
494	46×40	40.7	
495	50×40	27.6	
496	44×40	63.3	
497	34×32	25.9	
498	46×40	45.5	柱痕あり
499	36×32	17.4	
500	54×52	39.4	

第10表　柱穴計測表（6）

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
501	26×20	39.6	
502	50×48	40.3	柱痕あり
503	28×24	58.4	柱痕あり
504	42×40	15.6	
505	38×36	19.4	
506	30×28	25.5	
507	32×28	45.0	
508	22×22	33.0	
509	60×46	12.3	
510	16×16	3.7	
511	62×62	15.4	
512	29×28	21.8	
513	74×68	32.6	
514	42×42	—	
515	48×42	34.0	
516	36×32	27.6	
517	35×32	—	
518	44×40	11.9	No.531 土師器甕
519	42×38	—	
520	42×36	33.9	
521	50×50	—	柱痕あり
522	46×44	—	
523	42×38	40.8	
524	34×30	34.9	
525	30×30	19.1	
526	36×36	13.8	
527	34×34	28.3	
528	32×28	12.3	
529	50×48	13.6	
530	32×30	22.8	
531	84×68	24.8	
532	40×36	22.4	
533	72×66	29.4	
534	70×64	30.9	
535	68×62	42.5	
536	38×36	26.1	
537	80×68	15.5	
538	34×32	29.0	
539	40×30	17.8	
540	48×44	35.9	
541	40×38	21.9	
542	32×30	14.5	
543	30×30	25.5	
544	40×38	23.2	
545	30×28	13.9	
546	62×52	36.2	
547	26×24	27.5	
548	28×26	30.2	
549	53×51	44.0	
550	45×45	44.5	

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
551	50×48	—	
552	70×47	13.4	
553	16×12	13.5	
554	20×16	19.0	
555	58×54	31.9	
556	54×48	21.4	
557	130×116	62.5	
558	54×50	31.6	
559	34×30	27.9	
560	34×34	57.6	
561	20×14	12.6	
562	30×28	15.3	
563	26×24	19.7	
564	26×22	24.1	
565	44×34	63.8	
566	34×30	30.6	
567	24×24	24.1	
568	18×18	20.6	
569	50×50	24.2	
570	24×20	21.1	
571	54×52	18.3	
572	38×36	18.5	
573	46×44	14.5	
574	40×36	12.8	
575	50×48	19.1	
576	32×30	15.3	
577	38×38	16.5	
578	40×40	16.1	
579	36×34	14.3	
580	42×42	24.0	
581	28×28	14.5	
582	30×28	10.7	
583	38×34	18.7	
584	22×22	7.3	
585	22×20	8.3	
586	24×24	9.8	
587	22×22	7.0	
588	26×26	14.2	
589	30×28	13.2	
590	27×26	10.1	
591	26×24	4.6	
592	26×24	9.8	
593	34×30	13.4	
594	30×24	19.4	
595	28×28	12.2	
596	36×34	21.1	
597	38×34	15.6	
598	50×46	19.4	
599	36×34	16.6	
600	40×38	31.3	

第11表　柱穴計測表（7）

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
601	62×60	24.2	
602	50×40	15.6	
603	26×24	8.0	
604	38×38	13.4	
605	33×26	8.8	
606	30×30	10.5	
607	36×36	13.8	
608	58×50	24.0	No.533 土師器高台付坏
609	32×30	18.9	
610	30×30	20.8	
611	32×30	25.3	
612	42×40	34.4	
613	30×30	11.4	
614	46×44	14.6	
615	60×56	23.2	
616	34×34	15.8	
617	22×20	47.4	
618	28×28	40.7	
619	40×38	11.0	
620	42×38	37.5	
621	42×40	15.9	
622	40×38	18.5	
623	26×20	7.7	
624	28×24	6.0	
625	40×38	16.5	
626	30×30	26.2	
627	32×30	21.0	
628	36×32	32.4	
629	34×34	23.8	
630	32×26	16.2	
631	36×34	33.9	
632	32×32	24.4	
633	26×24	13.7	
634	38×36	38.5	
635	18×16	5.5	
636	46×38	19.7	
637	32×30	13.4	
638	26×24	36.0	
639	30×30	17.4	
640	32×30	10.2	
641	26×26	16.4	
642	30×30	15.0	
643	30×28	36.8	
644	34×30	20.9	
645	26×22	8.5	
646	28×26	14.4	
647	38×36	40.1	
648	20×20	5.8	
649	24×20	14.4	
650	34×32	27.0	

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
651	28×26	18.3	
652	26×24	37.1	
653	22×20	22.9	
654	30×26	22.4	
655	32×32	—	
656	22×22	18.0	
657	26×24	7.3	
658	42×40	8.6	
659	49×41	62.6	
660	86×85	61.8	
661	33×33	23.5	
662	25×25	21.0	
663	41×38	43.7	
664	36×30	27.4	
665	31×27	21.6	
666	24×23	—	
667	29×23	12.2	
668	22×19	19.8	
669	36×34	16.5	
670	17×15	14.8	
671	32×30	19.6	
672	38×38	21.3	
673	44×40	22.4	
674	40×24	—	
675	26×24	19.2	
676	40×34	45.2	
677	20×14	24.0	
678	30×22	27.0	
679	52×52	50.0	
680	49×46	—	
681	44×44	16.9	
682	62×56	17.9	
683	68×54	89.8	
684	26×20	12.2	
685	21×20	37.4	
686	16×16	9.0	
687	22×20	16.3	
688	24×21	33.0	No.804 元符通宝
689	22×20	22.6	
690	16×12	11.0	
691	20×19	14.2	
692	19×18	11.6	
693	20×20	24.2	
694	22×20	12.8	
695	20×18	20.4	
696	21×21	6.0	
697	21×21	17.3	
698	16×16	13.2	
699	18×18	12.6	
700	64×50	19.0	

第12表　柱穴計測表（8）

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
701	18×17	10.0	
702	18×16	23.0	
703	26×24	36.0	
704	33×32	19.0	
705	34×32	21.0	
706	38×34	37.0	
707	30×26	12.0	
708	44×40	9.0	
709	26×23	31.0	
710	26×26	27.0	
711	36×30	18.0	
712	22×22	19.0	
713	28×24	20.0	
714	20×18	18.0	
715	28×26	19.0	
716	23×22	18.0	
717	34×32	17.0	
718	26×22	22.0	
719	20×18	12.0	
720	22×22	16.0	
721	38×38	12.0	
722	22×20	9.0	
723	18×16	8.0	
724	24×20	21.0	
725	22×22	12.9	
726	18×18	17.1	
727	22×20	21.2	
728	20×16	22.7	
729	22×20	8.7	
730	18×16	19.0	
731	22×18	10.0	
732	16×14	13.1	
733	17×14	13.0	
734	16×14	17.4	
735	14×12	23.4	
736	16×14	12.0	
737	24×22	26.3	
738	24×24	16.8	
739	18×18	17.1	
740	18×16	16.2	
741	18×17	31.0	
742	24×22	38.9	
743	18×14	17.0	
744	16×14	20.0	
745	13×12	11.0	
746	20×20	12.0	
747	17×16	10.0	
748	20×16	10.0	
749	24×22	19.0	
750	24×21	11.0	

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
751	24×22	23.0	
752	20×20	18.0	
753	28×26	14.0	
754	20×16	11.0	
755	16×14	10.0	
756	18×18	9.0	
757	14×12	8.0	
758	20×18	14.0	
759	16×16	21.0	
760	20×18	13.0	
761	26×22	16.0	
762	14×14	26.0	
763	22×22	12.0	
764	22×20	11.0	
765	18×16	17.0	
766	16×16	18.0	
767	20×20	22.0	
768	16×13	6.0	
769	13×13	28.0	
770	56×52	9.0	
771	16×14	8.0	
772	20×18	9.0	
773	18×18	10.4	
774	16×16	9.4	
775	16×14	8.0	
776	20×18	33.0	
777	32×26	23.0	
778	20×18	10.0	
779	21×18	15.0	
780	20×18	13.0	
781	19×18	13.0	
782	18×17	13.0	
783	18×18	15.0	
784	24×22	21.0	
785	20×18	26.0	
786	22×20	12.0	
787	27×26	14.0	
788	26×26	18.0	
789	20×20	16.0	
790	16×16	17.0	
791	14×14	24.0	
792	20×20	16.0	
793	40×40	—	
794	24×22	11.0	
795	20×20	10.0	
796	42×41	12.5	
797	26×24	14.0	
798	36×30	30.1	
799	18×16	5.0	
800	26×26	16.5	

第13表　柱穴計測表（９）

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
801	22×20	15.0	
802	18×18	—	
803	34×32	40.0	
804	24×22	17.0	
805	19×17	35.0	
806	20×20	10.0	
807	12×12	10.0	
808	14×12	6.0	
809	36×34	18.0	
810	12×10	7.0	
811	32×30	13.0	
812	36×32	10.0	
813	16×16	11.0	
814	18×16	12.0	
815	34×32	23.0	
816	20×20	35.0	
817	18×18	14.0	
818	24×21	13.0	
819	28×28	13.0	
820	12×12	12.0	
821	14×14	10.0	
822	16×14	20.0	
823	20×18	19.0	
824	30×30	8.0	
825	54×52	18.0	
826	18×18	15.0	
827	18×16	16.0	
828	18×16	7.0	
829	12×10	7.0	
830	12×10	8.0	
831	22×22	12.0	
832	16×16	18.0	
833	16×14	9.0	
834	24×22	23.0	
835	16×14	10.0	
836	26×20	12.0	
837	50×40	11.0	
838	20×18	19.0	
839	24×24	16.0	
840	26×19	16.0	
841	22×22	27.0	
842	18×17	15.0	
843	16×14	32.0	
844	20×20	41.0	
845	14×14	11.0	
846	28×28	29.0	
847	20×20	27.0	
848	22×19	10.0	
849	14×12	12.0	
850	22×22	8.0	

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
851	20×20	10.0	
852	16×16	11.0	
853	20×16	12.0	
854	21×20	11.0	
855	26×22	35.0	
856	28×26	31.0	
857	22×20	9.0	
858	18×16	12.0	
859	20×20	14.0	
860	23×22	22.0	
861	18×16	16.0	
862	20×18	8.0	
863	30×22	19.0	
864	18×17	12.0	
865	18×14	14.0	
866	16×16	16.0	
867	46×40	10.0	
868	24×24	6.0	
869	28×23	20.0	
870	10×9	14.0	
871	14×14	9.0	
872	22×20	17.0	
873	34×30	18.0	
874	36×34	10.0	
875	8 × 7	18.0	
876	16×14	15.0	
877	24×22	15.0	
878	32×30	21.0	
879	30×28	22.0	
880	24×24	17.0	
881	24×24	25.8	
882	20×18	30.5	
883	40×38	27.6	
884	24×24	42.4	
885	28×26	20.0	
886	24×20	19.0	
887	32×29	11.0	
888	30×29	10.0	
889	34×32	13.0	
890	34×30	20.0	
891	30×26	26.0	
892	26×22	11.0	
893	26×26	20.0	
894	26×24	14.0	
895	22×22	18.0	
896	16×16	13.0	
897	18×16	32.0	
898	46×44	15.0	
899	32×28	25.0	
900	30×28	27.0	

第14表　柱穴計測表（10）

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
901	26×20	14.0	
902	30×28	21.0	
903	32×28	17.6	
904	30×30	24.0	
905	32×30	43.0	
906	28×28	16.0	
907	28×26	39.0	
908	24×22	12.0	
909	30×28	13.0	
910	36×30	19.0	
911	24×22	26.0	
912	36×36	38.0	
913	12×11	12.0	
914	21×17	12.0	
915	18×18	19.0	
916	14×14	20.0	
917	19×16	13.0	
918	16×14	11.0	
919	19×18	11.0	
920	44×36	11.0	
921	33×32	12.0	
922	20×20	22.0	
923	33×30	22.0	
924	30×28	17.0	
925	24×22	13.0	
926	26×22	20.0	
927	54×46	16.0	
928	34×34	11.0	
929	24×24	10.0	
930	26×25	12.0	
931	66×66	18.0	
932	36×28	29.0	
933	17×16	13.0	
934	24×24	11.0	
935	20×20	19.0	
936	28×24	15.8	
937	27×26	14.6	
938	31×30	15.0	
939	32×32	23.5	
940	28×26	19.7	
941	25×20	21.7	
942	38×32	25.8	
943	32×30	13.0	
944	16×16	19.1	
945	26×24	14.3	
946	28×27	13.1	
947	28×24	9.8	
948	32×32	17.4	
949	30×28	13.4	
950	16×16	22.5	

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
951	26×26	14.3	
952	42×40	17.2	
953	28×28	26.4	
954	26×26	13.1	
955	33×30	15.0	
956	28×28	38.5	
957	24×23	7.3	
958	38×36	19.8	
959	18×18	15.0	
960	22×22	19.0	
961	32×32	14.3	
962	30×29	23.2	
963	47×44	24.3	
964	32×32	35.4	
965	40×40	20.9	
966	40×38	22.7	
967	32×28	31.1	
968	24×22	6.1	
969	40×38	23.2	
970	26×26	15.1	
971	23×22	20.6	
972	24×22	18.3	
973	30×28	11.2	
974	28×28	12.5	
975	18×18	10.6	
976	20×20	21.2	
977	26×26	9.6	
978	14×12	—	
979	20×18	14.9	
980	22×20	14.2	
981	22×21	17.7	
982	26×24	9.7	
983	28×26	23.0	
984	36×34	19.0	
985	28×26	17.5	
986	18×16	12.5	
987	28×24	22.7	
988	24×23	29.9	
989	20×18	17.0	
990	26×24	12.9	
991	30×30	15.0	
992	26×26	12.6	
993	28×24	13.5	
994	28×28	14.5	
995	28×26	8.1	
996	26×22	17.2	
997	24×22	10.2	
998	26×24	10.2	
999	22×22	11.6	
1000	32×26	27.9	

第15表　柱穴計測表（11）

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
1001	44×40	31.0	
1002	28×26	16.0	
1003	30×30	29.2	
1004	24×23	16.1	
1005	38×32	14.0	
1006	38×38	29.6	
1007	28×24	11.0	
1008	34×28	17.8	
1009	22×20	23.8	
1010	28×26	19.2	
1011	21×20	11.2	
1012	22×20	15.0	
1013	32×32	16.6	
1014	24×22	14.2	
1015	32×32	22.2	
1016	20×20	9.3	
1017	24×22	17.5	
1018	20×20	6.2	
1019	20×18	10.0	
1020	46×44	34.6	
1021	24×24	8.8	
1022	20×20	15.6	
1023	26×24	12.7	
1024	34×32	13.9	
1025	22×22	18.6	
1026	26×24	16.6	
1027	22×20	14.5	
1028	20×20	9.6	
1029	18×16	13.4	
1030	36×34	13.0	
1031	24×22	26.0	
1032	28×26	12.5	
1033	22×20	15.0	No.534　土師器坏
1034	22×22	10.5	
1035	20×18	15.0	
1036	18×18	8.1	
1037	14×12	6.8	
1038	22×20	14.8	
1039	18×18	14.6	
1040	32×32	14.1	
1041	22×20	11.0	
1042	40×40	35.8	柱痕あり
1043	26×24	13.2	
1044	26×21	11.2	
1045	26×23	23.2	
1046	34×30	26.5	
1047	26×26	42.0	
1048	36×28	22.7	
1049	16×16	11.2	
1050	36×30	43.2	

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
1051	22×20	20.1	
1052	24×22	12.1	
1053	25×22	10.8	
1054	38×32	14.8	
1055	34×32	10.3	
1056	26×24	15.0	
1057	54×52	24.6	
1058	42×42	40.0	
1059	30×30	10.8	
1060	42×34	34.4	
1061	26×24	16.4	
1062	38×36	48.2	
1063	38×34	15.0	
1064	38×38	47.6	
1065	28×24	10.2	
1066	38×38	30.2	
1067	16×16	13.4	
1068	26×26	21.8	No.535 土師器坏
1069	24×22	18.2	
1070	30×30	15.5	No.536 土師器甕
1071	28×20	6.2	
1072	26×26	7.4	
1073	32×22	18.6	
1074	26×24	13.4	
1075	28×22	25.8	
1076	38×36	23.0	No.538 土師器甕 No.857 砥石
1077	20×20	19.3	
1078	20×16	16.8	
1079	32×20	19.0	
1080	50×40	40.8	
1081	26×26	9.6	
1082	30×30	14.6	
1083	18×16	11.4	
1084	28×26	22.3	
1085	32×30	13.6	
1086	26×20	18.3	
1087	30×20	11.8	
1088	22×22	6.0	
1089	40×28	27.0	
1090	28×26	15.4	
1091	22×18	17.6	
1092	30×26	24.2	
1093	28×26	7.5	
1094	24×22	12.3	
1095	20×18	11.7	
1096	30×28	21.9	No.764 青磁碗
1097	22×22	27.1	
1098	22×18	15.5	
1099	22×20	10.2	
1100	36×36	20.8	

第16表　柱穴計測表（12）

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
1101	38×34	20.8	
1102	20×18	2.4	
1103	30×28	16.0	
1104	24×22	13.2	
1105	30×26	21.2	
1106	30×30	17.4	
1107	22×20	16.8	
1108	32×28	19.2	
1109	22×22	13.7	
1110	30×26	15.0	
1111	18×18	9.8	
1112	24×23	6.9	
1113	22×20	—	
1114	32×30	26.4	
1115	24×22	12.7	
1116	22×20	18.5	
1117	34×32	25.6	
1118	23×19	16.4	
1119	20×20	8.2	
1120	33×32	22.3	
1121	28×22	11.7	
1122	34×30	26.4	
1123	20×20	15.3	
1124	32×30	19.4	
1125	25×24	14.0	
1126	30×28	12.2	
1127	20×18	5.5	
1128	20×17	4.8	
1129	20×16	8.2	
1130	12×10	10.5	
1131	44×44	16.2	
1132	22×20	7.2	
1133	26×20	14.0	
1134	30×28	9.2	
1135	22×20	6.4	
1136	26×24	19.4	
1137	20×18	9.7	
1138	14×14	11.8	
1139	28×22	12.0	
1140	30×28	30.6	
1141	26×26	21.6	No.539 土師器坏
1142	26×22	14.4	
1143	28×26	14.1	
1144	28×24	11.6	
1145	26×26	11.8	
1146	20×20	25.6	
1147	28×28	21.0	
1148	18×16	16.3	
1149	28×28	10.1	
1150	30×26	22.0	

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
1151	22×20	5.1	
1152	26×24	11.3	
1153	20×20	15.7	
1154	22×22	6.7	
1155	26×24	4.9	
1156	26×22	8.6	
1157	24×22	18.4	
1158	28×28	24.6	
1159	24×24	9.9	
1160	22×20	6.9	
1161	26×26	25.2	
1162	22×22	13.0	
1163	34×30	35.0	
1164	20×20	11.4	
1165	22×20	10.7	
1166	42×34	17.4	
1167	24×22	16.2	
1168	26×26	13.5	
1169	24×18	10.1	
1170	58×54	16.8	No.540～542 土師器坏2点・甕
1171	34×34	12.8	
1172	36×36	15.3	
1173	30×24	11.5	
1174	32×28	12.8	
1175	20×16	8.4	
1176	32×24	15.2	
1177	38×34	14.4	
1178	32×30	16.2	
1179	30×30	16.7	
1180	24×24	9.0	
1181	18×16	12.0	
1182	24×24	11.7	
1183	38×34	22.6	
1184	30×28	36.8	
1185	26×24	18.6	
1186	20×20	18.6	
1187	22×20	10.0	
1188	24×22	13.2	
1189	20×18	12.8	
1190	18×18	6.0	
1191	26×20	13.0	No.765 青磁碗
1192	26×26	30.9	
1193	30×28	14.2	
1194	22×20	6.0	
1195	56×50	38.6	
1196	20×20	29.2	
1197	32×32	14.3	
1198	36×34	26.9	
1199	30×26	29.8	
1200	24×22	13.3	

第17表　柱穴計測表（13）

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
1201	26×24	29.0	
1202	20×15	17.6	
1203	20×18	11.7	
1204	42×40	18.0	
1205	24×24	9.0	
1206	24×22	11.2	
1207	30×28	12.6	
1208	40×40	18.4	
1209	40×38	14.2	
1210	24×22	9.2	
1211	40×36	14.6	
1212	38×36	32.3	
1213	16×16	17.6	
1214	24×20	9.7	
1215	30×28	25.6	
1216	26×24	11.2	
1217	45×34	38.0	
1218	18×16	6.6	
1219	22×20	16.3	
1220	56×42	10.6	
1221	24×24	31.9	
1222	30×30	23.1	
1223	32×32	18.7	
1224	26×22	31.4	
1225	26×24	20.0	
1226	30×28	22.8	
1227	26×24	22.3	
1228	26×26	22.2	
1229	24×20	4.5	
1230	22×18	13.2	
1231	30×30	37.1	
1232	26×24	17.7	
1233	22×20	13.6	
1234	36×36	—	
1235	29×29	—	
1236	32×30	19.8	
1237	24×24	12.9	
1238	30×28	25.6	
1239	18×16	12.2	
1240	22×20	13.8	
1241	32×28	37.6	
1242	24×20	19.0	
1243	16×16	18.5	
1244	28×26	25.3	
1245	22×20	32.3	
1246	24×21	22.8	
1247	32×32	39.3	
1248	26×26	13.2	
1249	28×20	20.1	
1250	28×20	18.6	

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
1251	26×26	8.9	
1252	22×22	9.1	
1253	26×26	27.0	
1254	22×20	21.6	
1255	25×24	12.1	
1256	25×22	14.2	
1257	22×22	9.7	
1258	22×22	16.9	
1259	24×22	22.2	
1260	30×26	17.7	
1261	28×24	10.3	
1262	18×16	4.6	
1263	15×13	7.1	
1264	17×14	10.7	
1265	18×18	13.8	
1266	40×28	14.2	
1267	28×28	5.3	
1268	34×32	19.0	
1269	22×18	7.6	
1270	30×28	41.2	
1271	16×14	10.0	
1272	24×22	14.3	
1273	30×26	19.6	
1274	24×20	11.1	
1275	26×22	19.3	
1276	26×26	17.1	
1277	30×26	22.9	
1278	18×14	7.8	
1279	48×40	16.4	
1280	18×16	5.8	
1281	18×16	5.7	
1282	20×18	16.4	
1283	20×16	9.4	No.545 土師器坏
1284	28×22	10.2	
1285	42×38	10.8	
1286	32×30	8.8	
1287	40×38	23.1	
1288	20×20	6.0	
1289	16×16	7.7	
1290	30×28	5.2	
1291	28×28	19.1	
1292	24×22	25.5	
1293	22×22	20.9	
1294	40×38	24.3	
1295	32×26	19.7	
1296	26×24	17.6	
1297	24×21	11.6	
1298	22×22	11.1	
1299	26×26	25.1	
1300	38×36	13.6	

第18表　柱穴計測表（14）

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
1301	30×30	13.8	
1302	28×26	12.0	
1303	26×22	17.8	
1304	28×28	19.4	
1305	24×22	10.2	
1306	24×24	20.9	
1307	26×20	13.2	
1308	50×48	22.0	
1309	46×42	22.5	
1310	24×22	11.1	
1311	22×18	5.4	
1312	20×20	4.9	
1313	54×24	11.3	
1314	27×20	12.0	
1315	10×10	7.0	
1316	12×10	9.0	
1317	14×14	5.0	
1318	30×28	34.0	
1319	12×10	6.0	
1320	30×28	14.5	
1321	22×22	11.2	
1322	26×24	21.8	
1323	34×27	33.0	
1324	72×64	27.1	
1325	22×20	10.7	
1326	36×32	18.8	
1327	30×28	14.2	
1328	26×24	21.5	
1329	20×16	17.8	
1330	12×12	8.8	
1331	32×30	21.8	
1332	38×38	17.4	
1333	50×46	35.5	
1334	24×20	11.6	
1335	34×30	38.4	
1336	30×28	30.1	
1337	24×24	17.1	
1338	34×28	16.1	
1339	20×20	12.6	
1340	20×20	14.6	
1341	22×20	25.6	
1342	24×22	14.4	
1343	26×24	—	
1344	26×22	13.9	
1345	26×25	21.6	
1346	40×38	20.8	
1347	26×26	25.2	
1348	30×26	18.2	
1349	40×40	27.4	
1350	28×24	20.0	

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
1351	38×30	12.2	
1352	38×32	26.3	
1353	36×34	13.8	
1354	28×28	11.9	
1355	38×34	13.3	
1356	30×30	19.8	
1357	36×30	21.8	
1358	30×30	14.8	
1359	28×24	10.8	
1360	40×38	29.6	
1361	31×30	31.2	
1362	31×31	34.0	
1363	40×38	27.5	
1364	38×36	19.7	
1365	30×28	19.7	
1366	26×24	13.6	
1367	24×24	19.7	
1368	26×26	16.3	
1369	28×26	8.6	
1370	20×20	15.7	
1371	22×20	17.5	
1372	18×16	24.8	
1373	42×42	—	
1374	30×22	27.8	
1375	32×28	22.6	
1376	30×30	33.9	
1377	28×26	22.8	
1378	50×42	39.8	
1379	34×20	27.4	
1380	22×20	16.5	
1381	24×20	13.4	
1382	30×26	—	
1383	26×22	15.0	
1384	30×26	34.7	
1385	30×22	24.9	
1386	18×16	27.6	
1387	40×36	40.7	
1388	22×22	19.6	
1389	40×38	21.0	
1390	30×24	20.7	
1391	26×22	33.3	
1392	30×20	42.2	
1393	30×24	17.8	
1394	24×22	36.2	
1395	30×24	14.4	
1396	34×22	17.3	
1397	30×26	33.6	
1398	40×26	32.0	
1399	36×34	25.8	
1400	28×28	—	

第19表　柱穴計測表（15）

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
1401	22×18	15.4	
1402	16×14	13.8	
1403	28×26	17.7	
1404	34×30	—	
1405	42×40	31.4	
1406	20×20	21.8	
1407	40×36	27.8	
1408	28×20	14.3	
1409	72×68	48.4	
1410	20×20	9.5	
1411	24×24	16.4	
1412	32×20	14.8	
1413	27×23	11.7	
1414	48×38	23.0	
1415	36×26	29.0	
1416	46×44	40.2	
1417	26×24	25.2	
1418	38×34	24.4	
1419	24×22	23.2	
1420	38×38	20.8	
1421	22×18	—	
1422	32×28	21.6	
1423	30×30	72.8	
1424	40×32	41.8	
1425	52×50	39.7	
1426	64×46	—	
1427	30×22	19.3	
1428	46×34	41.0	
1429	18×14	—	
1430	29×26	7.8	
1431	28×27	—	
1432	30×28	19.0	
1433	30×30	46.1	
1434	40×40	21.8	
1435	28×22	—	
1436	34×28	34.0	
1437	24×22	—	
1438	44×40	34.0	
1439	32×24	41.6	
1440	20×16	5.1	
1441	16×16	8.4	
1442	42×40	34.6	
1443	24×20	12.0	
1444	34×28	43.4	
1445	26×26	51.0	
1446	30×30	36.5	
1447	38×38	19.4	
1448	14×12	20.0	
1449	42×32	45.4	
1450	80×63	43.8	

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
1451	36×32	29.2	
1452	28×22	22.6	
1453	50×42	—	
1454	40×34	7.0	
1455	60×58	51.1	
1456	44×40	42.9	
1457	46×32	19.5	
1458	32×30	22.4	
1459	104×96	26.3	
1460	30×30	43.8	
1461	22×20	24.5	
1462	52×40	18.8	
1463	46×36	26.3	
1464	28×20	13.9	
1465	30×30	38.5	
1466	34×24	19.0	
1467	40×36	39.4	
1468	26×22	27.3	
1469	24×20	13.0	
1470	46×44	24.4	
1471	28×21	22.4	
1472	36×36	24.0	
1473	68×67	26.8	
1474	28×26	17.4	
1475	44×44	37.7	
1476	42×42	36.4	
1477	40×40	24.4	
1478	24×20	23.6	
1479	20×20	9.9	
1480	34×32	21.3	
1481	40×40	36.1	
1482	72×52	40.9	
1483	24×24	19.3	
1484	44×30	14.7	
1485	26×26	19.0	
1486	28×28	54.8	
1487	52×38	52.7	
1488	24×24	48.3	
1489	60×50	56.3	
1490	46×40	30.9	
1491	26×26	18.3	
1492	52×50	35.1	
1493	20×18	—	
1494	30×30	24.7	
1495	96×96	37.4	
1496	50×50	45.6	
1497	22×22	15.9	
1498	36×30	15.6	
1499	24×23	—	
1500	20×20	26.4	

第20表　柱穴計測表（16）

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
1501	40×22	18.4	
1502	28×24	9.1	
1503	34×18	11.9	
1504	30×26	8.0	
1505	34×30	15.2	
1506	40×40	62.3	
1507	32×22	7.9	
1508	52×50	21.0	
1509	26×26	24.1	
1510	50×48	24.0	
1511	18×18	25.3	
1512	16×16	19.6	
1513	26×25	22.6	
1514	40×39	29.8	
1515	48×46	38.0	
1516	40×40	67.3	
1517	58×56	44.2	
1518	56×44	44.3	
1519	50×48	32.8	
1520	40×36	34.7	
1521	32×30	24.3	
1522	32×28	40.0	
1523	46×46	24.7	
1524	50×48	42.5	
1525	30×29	27.3	
1526	27×25	31.0	
1527	36×26	37.3	
1528	20×18	22.6	No.546 土師器坏
1529	28×26	12.3	
1530	22×20	10.9	
1531	26×26	18.0	
1532	25×25	—	
1533	36×30	13.0	
1534	48×40	16.0	
1535	40×38	16.8	
1536	40×28	14.8	
1537	26×26	16.4	
1538	32×28	20.0	
1539	30×28	13.1	
1540	34×34	16.2	
1541	30×30	13.5	
1542	36×36	11.0	
1543	38×32	6.7	
1544	26×26	17.8	
1545	32×30	6.3	
1546	22×18	8.5	
1547	28×26	19.1	
1548	46×44	19.0	
1549	30×28	22.0	
1550	18×14	26.8	

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
1551	36×34	30.0	
1552	16×16	9.2	
1553	32×26	27.8	
1554	32×24	33.2	
1555	34×26	31.0	
1556	54×50	69.7	
1557	24×20	45.4	
1558	25×24	22.8	
1559	46×46	42.7	
1560	22×20	19.6	
1561	64×52	33.0	
1562	46×40	27.6	No.808 寛永通宝
1563	30×24	24.9	
1564	32×28	14.9	
1565	46×40	29.6	
1566	30×26	18.2	
1567	40×28	28.2	
1568	20×10	34.2	
1569	24×22	16.5	
1570	44×40	22.6	
1571	42×36	26.4	
1572	44×43	17.4	
1573	32×22	10.6	
1574	20×20	24.9	
1575	18×16	9.4	
1576	34×23	21.2	
1577	22×21	12.9	
1578	17×16	23.4	
1579	14×14	7.7	
1580	22×15	21.8	
1581	54×53	29.8	
1582	38×28	26.1	
1583	20×18	18.5	
1584	24×22	30.9	
1585	44×42	22.1	柱痕あり
1586	56×50	26.0	
1587	48×46	22.7	
1588	34×32	55.7	
1589	48×46	56.0	
1590	108×102	55.4	
1591	46×44	35.5	
1592	30×28	16.6	
1593	34×28	45.0	
1594	52×50	26.0	
1595	18×18	9.3	
1596	36×33	22.0	
1597	48×45	33.2	
1598	70×48	33.4	
1599	42×36	23.8	
1600	80×62	28.2	

第21表　柱穴計測表（17）

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
1601	50×42	52.1	
1602	58×58	23.3	
1603	28×24	25.5	
1604	56×54	32.2	
1605	56×50	45.6	
1606	56×44	14.6	
1607	38×30	24.4	
1608	30×30	7.0	
1609	34×28	10.6	
1610	34×32	27.8	
1611	24×20	26.6	
1612	80×76	37.7	柱痕あり
1613	58×50	18.0	
1614	48×48	47.6	
1615	44×44	34.3	
1616	48×46	30.0	
1617	52×50	44.8	
1618	56×50	28.4	
1619	28×16	13.3	
1620	44×44	24.2	
1621	56×56	37.2	
1622	42×42	34.2	
1623	22×20	15.6	
1624	40×36	18.8	
1625	82×82	33.0	
1626	70×70	63.4	柱痕あり
1627	52×46	26.2	
1628	40×30	44.8	
1629	44×40	50.9	
1630	58×46	49.3	
1631	58×52	18.0	
1632	34×30	25.2	
1633	30×30	21.3	
1634	30×28	19.0	
1635	34×26	52.6	
1636	24×20	15.2	
1637	32×28	42.0	
1638	44×42	4.9	
1639	34×30	14.6	
1640	32×32	17.6	
1641	50×48	39.9	
1642	50×42	29.0	
1643	32×26	31.2	
1644	44×32	29.1	
1645	52×42	29.2	
1646	28×28	40.2	
1647	48×42	27.6	
1648	29×22	24.9	
1649	35×28	14.6	
1650	54×54	32.2	

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
1651	34×24	23.2	
1652	41×33	—	
1653	25×21	—	
1654	32×28	26.9	
1655	40×34	56.5	
1656	50×44	26.5	
1657	64×58	64.3	柱痕あり
1658	24×20	10.0	
1659	22×20	23.9	
1660	42×40	18.6	
1661	34×34	26.9	
1662	30×26	—	
1663	40×30	—	火山灰下から検出
1664	18×17	—	
1665	18×16	—	
1666	28×27	—	
1667	20×20	—	火山灰下から検出
1668	20×19	—	
1669	30×30	—	火山灰下から検出
1670	16×15	—	
1671	12×11	—	
1672	21×16	—	
1673	26×24	23.0	
1674	26×26	32.0	
1675	20×18	12.5	
1676	38×36	23.0	
1677	22×20	10.5	
1678	30×30	20.4	
1679	40×36	11.9	
1680	34×34	25.4	
1681	28×26	18.5	
1682	18×16	6.3	
1683	20×18	13.0	
1684	38×34	18.0	
1685	14×12	5.5	
1686	32×32	10.2	
1687	30×30	12.1	
1688	20×20	6.4	
1689	32×32	11.4	
1690	26×24	4.9	
1691	26×26	24.5	
1692	22×20	7.0	
1693	34×32	22.6	
1694	30×28	8.3	
1695	30×26	18.1	
1696	18×16	5.1	
1697	18×15	6.1	
1698	19×18	5.1	
1699	32×28	31.6	
1700	26×24	13.1	

第22表　柱穴計測表（18）

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
1701	28×26	18.8	
1702	30×24	18.4	
1703	24×24	18.7	
1704	28×26	22.4	
1705	44×40	14.0	
1706	36×34	17.5	
1707	32×26	14.6	
1708	26×20	36.1	
1709	24×20	29.4	
1710	20×20	19.2	
1711	22×20	19.9	
1712	24×20	18.1	
1713	20×20	15.6	
1714	26×22	28.1	
1715	24×24	23.5	
1716	36×34	45.4	
1717	22×22	4.2	
1718	38×38	32.1	
1719	20×20	20.3	
1720	64×54	19.9	
1721	26×24	14.0	
1722	36×36	17.5	
1723	30×28	10.6	
1724	26×26	15.8	
1725	30×30	16.0	
1726	48×44	8.2	
1727	26×24	16.0	
1728	30×28	12.7	
1729	32×32	20.4	
1730	36×34	28.1	
1731	28×28	10.8	
1732	26×24	10.5	
1733	22×22	10.2	
1734	24×22	19.0	
1735	26×24	29.6	
1736	24×22	15.8	
1737	30×26	15.0	
1738	22×20	13.8	
1739	32×30	6.1	
1740	34×32	7.7	
1741	42×40	26.0	
1742	71×70	21.4	
1743	30×30	25.8	
1744	22×20	28.5	
1745	22×21	32.2	
1746	22×22	40.9	
1747	34×34	30.0	
1748	38×29	31.7	No.547・548 土師器?・坏
1749	39×33	12.2	
1750	37×33	12.2	No.549 土師器甕
1751	34×30	14.2	No.550 土師器坏
1752	39×39	26.6	
1753	52×47	16.0	No.551 土師器甕
1754	27×27	11.8	
1755	37×34	13.8	
1756	24×22	10.4	
1757	30×28	16.2	No.552 土師器坏
1758	40×40	45.2	
1759	80×66	13.8	
1760	10×10	9.6	
1761	16×15	16.4	
1762	24×20	15.0	柱痕あり
1763	28×24	20.0	
1764	54×54	32.3	No.553・554 土師器坏・甕
1765	22×22	20.4	
1766	26×26	13.0	
1767	28×27	24.5	
1768	16×14	14.3	
1769	30×28	18.5	
1770	28×26	21.1	
1771	38×33	15.5	
1772	31×30	9.0	
1773	38×36	15.5	
1774	36×36	18.1	
1775	40×38	3.3	
1776	22×20	11.8	
1777	26×24	25.8	
1778	22×20	12.9	
1779	20×18	11.8	
1780	18×16	8.7	
1781	30×30	23.2	柱痕あり
1782	26×24	29.4	
1783	28×24	12.8	
1784	30×22	13.9	
1785	14×14	11.6	
1786	12×10	13.0	
1787	14×14	11.9	
1788	26×24	12.5	
1789	46×40	16.4	
1790	24×24	8.7	
1791	28×26	17.6	
1792	32×30	12.9	
1793	40×30	39.8	柱痕あり
1794	12×10	18.1	
1795	34×34	22.6	
1796	38×36	26.9	柱痕あり
1797	20×16	8.3	
1798	18×16	10.6	
1799	30×24	19.7	
1800	20×20	20.2	

第23表　柱穴計測表（19）

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
1801	38×32	20.3	
1802	30×28	14.8	
1803	18×18	16.9	
1804	22×20	16.9	
1805	36×34	22.2	
1806	14×14	22.5	
1807	42×22	15.5	
1808	32×32	11.3	
1809	32×24	28.0	
1810	18×16	20.9	
1811	20×16	11.4	
1812	22×20	16.7	
1813	52×42	19.7	
1814	12×10	2.0	
1815	22×22	10.0	
1816	23×22	—	
1817	116×112	15.5	
1818	28×22	23.0	
1819	52×46	5.6	
1820	60×48	18.8	
1821	88×68	12.8	
1822	48×42	24.1	
1823	34×34	19.0	
1824	36×32	9.6	
1825	32×30	7.8	
1826	38×34	10.8	
1827	26×26	6.7	
1828	32×24	7.5	
1829	24×20	13.2	
1830	60×50	13.9	柱痕あり
1831	64×58	20.0	
1832	36×36	18.2	
1833	30×29	26.8	
1834	52×49	8.6	
1835	44×41	66.0	
1836	18×13	14.0	
1837	20×18	15.6	
1838	30×28	8.4	
1839	24×23	8.1	
1840	20×20	8.8	
1841	30×30	8.0	
1842	16×14	7.6	
1843	38×36	13.5	
1844	16×14	12.2	
1845	28×28	16.2	
1846	30×28	20.8	
1847	30×30	7.7	
1848	24×22	21.5	
1849	14×14	11.0	
1850	40×32	28.4	柱痕あり

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
1851	28×28	19.3	No.556・557 土師器坏・甕
1852	26×26	11.5	
1853	16×16	8.9	
1854	14×12	10.0	
1855	18×18	13.9	
1856	16×14	9.7	
1857	54×52	35.7	No.558 ・559 土師器坏・甕
1858	18×16	14.1	
1859	28×26	13.2	
1860	22×20	15.4	
1861	20×18	13.3	
1862	18×16	14.7	
1863	26×24	18.4	
1864	30×32	14.5	
1865	48×46	—	
1866	30×28	18.5	
1867	26×24	11.6	
1868	28×24	32.5	
1869	22×22	27.4	
1870	24×24	24.0	
1871	28×26	14.3	
1872	22×20	29.6	
1873	12×12	27.5	
1874	19×18	17.8	
1875	20×19	26.2	
1876	16×16	16.7	
1877	18×16	18.6	
1878	44×28	15.5	
1879	22×21	10.7	No.560 土師器坏
1880	16×14	10.4	
1881	18×16	21.0	
1882	20×16	11.1	
1883	16×14	10.8	
1884	32×30	24.4	
1885	22×16	9.2	
1886	20×18	19.8	
1887	24×24	20.0	
1888	22×20	12.2	
1889	44×42	15.5	
1890	22×20	5.5	
1891	18×17	5.0	
1892	22×22	7.7	
1893	18×18	4.5	
1894	30×28	12.0	
1895	24×22	6.6	
1896	24×24	6.6	
1897	54×42	57.4	
1898	28×26	11.0	
1899	28×28	10.5	
1900	20×20	7.9	

第24表　柱穴計測表（20）

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
1901	28×26	28.6	
1902	30×30	17.7	
1903	22×18	20.4	
1904	16×14	28.9	
1905	24×20	9.6	
1906	20×20	9.8	
1907	16×14	9.5	
1908	20×20	14.6	
1909	20×20	6.0	
1910	17×14	8.5	
1911	16×16	5.8	
1912	32×26	17.1	
1913	20×20	6.8	
1914	24×20	14.1	
1915	22×20	8.2	
1916	30×26	11.4	
1917	24×22	8.8	
1918	20×18	26.4	
1919	30×26	18.2	
1920	24×24	23.5	
1921	38×28	8.1	
1922	18×16	9.4	
1923	16×14	19.4	
1924	18×14	18.3	
1925	34×28	20.4	
1926	32×30	23.4	
1927	26×24	21.0	
1928	22×18	7.1	
1929	16×14	6.9	
1930	27×26	8.1	
1931	30×22	28.0	
1932	28×28	24.1	
1933	26×26	15.7	
1934	24×20	16.4	
1935	24×24	37.3	
1936	20×20	18.4	
1937	26×24	14.4	
1938	18×16	14.4	
1939	32×24	28.5	
1940	21×20	15.0	
1941	46×44	35.0	No.561 土師器坏
1942	24×24	13.7	
1943	24×24	10.5	
1944	28×24	41.0	No.900 鍬先
1945	28×26	3.9	
1946	26×24	8.5	No.562 土師器甕
1947	30×28	13.2	
1948	20×14	13.0	
1949	18×16	14.0	
1950	24×22	18.0	

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
1951	24×24	26.3	
1952	29×20	17.8	
1953	18×14	11.9	
1954	24×22	21.8	
1955	32×30	19.7	
1956	32×32	42.3	
1957	24×24	24.3	
1958	34×34	23.7	
1959	28×24	20.4	
1960	22×20	22.7	
1961	26×24	38.0	
1962	18×18	8.4	
1963	20×18	8.0	
1964	30×28	19.0	
1965	22×20	10.5	
1966	20×14	9.8	
1967	20×16	8.6	
1968	18×16	7.8	
1969	14×14	9.7	
1970	24×22	23.2	
1971	34×32	30.8	
1972	24×20	13.0	
1973	50×50	19.6	
1974	18×16	7.1	
1975	22×18	20.4	
1976	24×20	11.0	
1977	16×14	—	
1978	20×16	5.8	
1979	32×30	23.1	
1980	20×20	14.1	
1981	32×30	34.9	
1982	36×32	18.0	
1983	12×10	5.6	
1984	22×18	7.9	
1985	20×18	8.6	
1986	17×14	11.6	
1987	18×18	12.6	
1988	16×14	12.3	
1989	18×18	13.7	
1990	18×18	11.3	
1991	20×18	25.5	
1992	22×20	31.3	
1993	26×22	27.8	
1994	26×22	12.8	
1995	34×34	17.8	
1996	30×30	15.2	
1997	16×16	12.5	
1998	36×36	29.4	
1999	50×48	17.7	
2000	20×20	39.4	

第25表　柱穴計測表（21）

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
2001	27×27	19.8	
2002	28×27	21.8	
2003	30×29	36.3	
2004	20×18	9.5	
2005	18×18	16.0	
2006	16×16	17.5	
2007	16×15	8.6	
2008	32×30	15.4	
2009	12×10	22.0	
2010	22×22	21.7	
2011	26×26	10.4	
2012	24×24	14.0	
2013	14×12	6.8	
2014	18×16	8.4	
2015	40×40	14.0	
2016	18×18	12.3	
2017	26×22	8.2	
2018	28×24	23.2	
2019	24×20	26.4	
2020	26×26	22.2	
2021	24×24	8.4	
2022	20×18	6.5	
2023	30×28	18.0	
2024	26×26	17.0	
2025	18×16	14.8	
2026	30×28	15.5	
2027	18×16	15.8	
2028	22×22	19.0	
2029	20×18	16.5	
2030	40×38	30.3	
2031	32×28	14.0	
2032	26×24	18.2	
2033	30×28	22.0	
2034	28×26	11.3	
2035	38×36	15.2	
2036	24×22	15.5	
2037	18×18	11.5	
2038	24×24	19.7	
2039	22×22	10.5	
2040	34×34	20.2	
2041	28×26	—	
2042	28×24	15.3	
2043	36×32	17.0	
2044	20×18	12.7	
2045	14×12	14.7	
2046	30×26	15.5	
2047	32×32	24.5	
2048	40×34	13.9	
2049	40×38	22.5	
2050	20×14	13.7	

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
2051	20×14	6.8	
2052	22×18	14.6	
2053	32×30	8.8	
2054	32×32	71.7	
2055	32×26	14.0	No.564 土師器甕
2056	52×50	18.6	
2057	36×34	16.8	
2058	34×30	35.2	
2059	36×30	14.9	
2060	42×34	27.4	
2061	22×20	18.6	
2062	24×24	23.8	
2063	48×48	26.4	
2064	40×38	32.8	
2065	28×26	8.8	
2066	26×26	11.4	
2067	38×30	27.7	
2068	40×36	22.6	
2069	30×30	28.4	
2070	46×40	19.8	
2071	32×30	21.5	
2072	26×24	15.0	
2073	36×28	24.4	No.805・806・809永楽通宝他２枚
2074	24×24	7.7	
2075	26×24	9.0	
2076	26×18	—	
2077	56×50	48.2	
2078	24×24	10.7	
2079	38×30	26.4	
2080	26×24	30.7	
2081	18×16	7.4	
2082	26×24	14.5	
2083	20×20	17.1	
2084	24×22	14.3	
2085	22×16	10.6	
2086	20×18	6.0	
2087	16×14	11.2	
2088	20×16	5.7	
2089	18×16	19.6	
2090	22×22	26.9	
2091	16×14	9.1	
2092	26×24	23.8	
2093	20×20	13.2	
2094	30×30	23.3	
2095	16×16	32.5	
2096	14×14	19.6	
2097	20×18	25.4	
2098	22×20	16.8	
2099	24×22	10.0	
2100	40×40	—	

第26表　柱穴計測表（22）

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
2101	20×20	25.0	
2102	16×14	20.8	
2103	22×22	20.5	
2104	20×18	11.1	
2105	24×22	10.9	
2106	18×16	15.2	
2107	16×12	14.3	
2108	20×20	18.8	
2109	22×18	9.8	
2110	26×24	8.7	
2111	72×70	51.7	
2112	16×14	5.8	
2113	50×48	40.6	
2114	32×26	—	
2115	36×32	41.2	
2116	20×16	10.8	
2117	32×29	13.2	
2118	30×30	27.3	
2119	33×30	—	
2120	44×44	11.4	
2121	56×54	15.5	
2122	38×36	22.7	
2123	38×38	12.1	
2124	44×44	13.0	
2125	58×58	18.8	
2126	32×32	8.7	
2127	36×36	7.8	
2128	30×28	18.8	
2129	44×42	13.0	
2130	38×28	32.9	
2131	70×60	29.8	
2132	28×28	10.1	
2133	42×34	13.5	
2134	80×62	43.2	
2135	54×48	18.2	
2136	16×14	8.6	
2137	46×40	17.8	
2138	40×28	33.4	
2139	30×24	11.0	
2140	32×28	8.9	
2141	24×22	25.2	柱痕あり
2142	28×25	23.0	
2143	33×24	16.9	
2144	23×20	15.8	
2145	18×15	12.0	
2146	20×18	11.8	
2147	17×15	14.0	
2148	13×12	10.3	
2149	19×19	16.3	
2150	36×34	9.3	

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
2151	43×42	30.9	№565・566 土師器甕・須恵器甕
2152	32×30	14.1	
2153	31×31	22.4	
2154	44×37	36.6	
2155	27×22	16.3	
2156	28×25	10.6	
2157	22×21	14.4	
2158	30×24	16.6	
2159	27×23	26.7	
2160	38×37	26.1	
2161	24×22	28.4	
2162	35×30	18.1	
2163	21×21	18.3	
2164	28×27	16.6	
2165	20×18	15.3	
2166	25×25	18.2	
2167	26×25	20.1	
2168	30×23	13.1	
2169	29×29	22.2	
2170	29×27	25.7	
2171	29×29	25.1	
2172	34×29	21.8	
2173	24×23	17.8	
2174	17×16	13.3	
2175	18×17	13.1	
2176	25×24	11.9	
2177	30×28	11.3	
2178	30×29	23.8	
2179	24×22	11.5	
2180	28×22	18.1	
2181	74×45	15.4	
2182	38×33	16.4	
2183	27×27	12.3	
2184	27×24	11.7	
2185	10× 9	13.4	
2186	22×20	22.1	
2187	17×16	9.7	
2188	38×36	36.0	
2189	18×18	17.7	
2190	31×27	21.9	
2191	19×18	21.7	
2192	19×19	16.7	
2193	13×13	42.6	
2194	31×30	29.6	
2195	31×30	13.9	
2196	26×20	10.8	
2197	28×27	19.6	
2198	26×23	20.8	
2199	21×19	16.1	
2200	47×43	9.7	

第27表　柱穴計測表（23）

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
2201	22×22	16.1	
2202	25×21	4.6	
2203	33×30	23.6	
2204	28×25	19.2	
2205	29×28	32.6	
2206	26×26	32.4	
2207	28×27	26.1	
2208	25×25	10.1	
2209	19×19	10.2	
2210	26×26	28.1	
2211	18×18	8.8	
2212	17×17	7.0	
2213	27×23	11.9	
2214	25×25	31.5	
2215	24×22	19.5	
2216	28×25	19.0	
2217	25×23	11.4	
2218	41×32	13.7	
2219	42×41	16.6	
2220	32×28	17.6	
2221	22×20	14.7	
2222	25×23	15.1	
2223	38×37	31.9	
2224	26×25	22.1	
2225	48×45	19.6	
2226	24×21	23.3	
2227	23×22	14.0	
2228	29×27	17.1	
2229	30×28	16.0	
2230	32×31	23.0	
2231	25×21	18.0	
2232	35×32	12.6	
2233	20×19	11.8	
2234	26×25	24.9	
2235	31×25	28.9	
2236	20×20	26.0	
2237	22×20	27.0	
2238	26×24	26.1	
2239	29×28	25.6	
2240	25×22	27.8	
2241	19×17	26.0	
2242	20×18	18.9	
2243	20×20	3.1	
2244	19×18	17.7	
2245	21×21	22.1	
2246	26×23	11.9	
2247	20×19	5.9	
2248	37×32	20.1	
2249	30×27	21.9	
2250	30×27	15.3	

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
2251	31×27	18.1	
2252	28×26	10.3	
2253	25×22	14.5	
2254	22×20	18.5	
2255	19×18	8.0	
2256	25×23	17.3	
2257	17×16	13.8	
2258	13×13	11.7	
2259	17×15	15.2	
2260	16×15	12.4	
2261	38×37	26.1	
2262	23×22	23.2	
2263	22×20	20.0	
2264	17×15	15.4	
2265	50×41	29.4	
2266	56×34	31.0	
2267	39×32	25.0	
2268	66×46	49.8	
2269	32×30	9.0	
2270	33×32	27.1	
2271	49×42	26.8	
2272	30×29	22.0	
2273	30×25	26.5	
2274	49×42	17.6	
2275	44×42	40.0	
2276	16×14	—	
2277	24×23	9.2	
2278	24×21	31.9	
2279	44×35	—	
2280	22×22	16.6	
2281	30×28	6.2	
2282	32×28	18.0	
2283	19×18	10.2	
2284	20×18	20.5	
2285	18×16	7.1	
2286	14×14	5.8	
2287	57×45	51.0	
2288	22×21	16.2	
2289	30×29	32.9	
2290	39×35	17.4	
2291	20×18	9.8	
2292	42×40	26.2	柱痕あり
2293	21×17	11.8	
2294	17×17	8.8	
2295	27×22	13.4	
2296	16×16	8.0	
2297	29×29	23.8	
2298	30×28	7.2	
2299	26×24	28.5	
2300	35×32	—	

第28表　柱穴計測表（24）

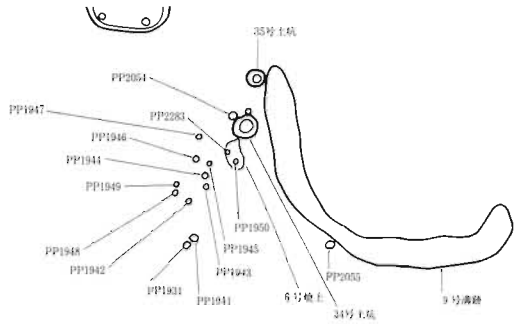
P No.	開口部径	深 さ	備　　考
2301	26×21	27.4	
2302	23×23	17.3	
2303	29×28	37.0	
2304	36×35	21.4	
2305	35×33	10.0	
2306	43×37	27.6	
2307	42×36	28.0	
2308	52×42	30.4	
2309	58×50	31.2	
2310	32×27	—	
2311	54×41	—	
2312	54×39	34.1	
2313	33×32	21.2	
2314	29×29	39.6	
2315	30×30	—	
2316	34×30	13.4	
2317	43×43	17.0	
2318	34×31	10.9	
2319	125×107	—	
2320	28×27	—	
2321	120×110	—	
2322	49×43	—	
2323	107×96	—	
2324	37×37	—	
2325	56×47	—	
2326	32×30	—	
2327	42×41	—	
2328	79×70	—	
2329	52×45	—	
2330	49×48	—	
2331	57×51	—	柱痕あり
2332	68×51	—	
2333	49×39	—	
2334	35×30	36.8	
2335	29×29	9.4	
2336	49×46	18.0	
2337	25×24	15.5	
2338	20×19	21.6	
2339	21×12	20.0	
2340	36×30	23.5	
2341	45×45	25.2	
2342	21×19	28.1	
2343	56×34	34.0	
2344	34×32	34.0	
2345	26×24	36.4	
2346	29×27	24.2	
2347	30×28	—	
2348	49×45	42.0	
2349	44×41	6.5	
2350	47×43	24.8	

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
2351	58×55	27.8	
2352	53×40	41.3	
2353	33×28	17.8	
2354	18×18	20.7	
2355	30×29	26.0	
2356	26×25	9.0	
2357	22×20	7.9	
2358	29×26	—	
2359	38×38	18.1	
2360	28×21	—	
2361	28×27	—	
2362	40×40	24.2	
2363	40×37	20.8	
2364	28×26	31.2	
2365	24×21	37.4	
2366	26×22	12.5	
2367	28×24	—	
2368	57×57	—	
2369	25×25	9.8	
2370	88×71	8.4	
2371	30×26	16.0	
2372	48×46	33.8	
2373	32×26	17.2	
2374	38×35	9.0	
2375	31×21	12.2	
2376	49×49	—	
2377	51×51	—	
2378	50×48	—	
2379	49×47	—	
2380	52×45	—	
2381	35×29	—	
2382	47×32	—	
2383	29×29	—	
2384	43×37	—	
2385	48×45	—	
2386	26×25	13.5	
2387	23×22	15.3	
2388	31×25	13.3	
2389	47×27	20.2	
2390	38×26	—	
2391	38×30	21.6	
2392	14×14	22.0	
2393	18×14	—	
2394	27×23	17.2	
2395	20×18	8.6	
2396	43×43	25.0	
2397	32×31	17.4	No.803 永楽通宝
2398	45×44	—	
2399	37×29	—	
2400	36×27	—	

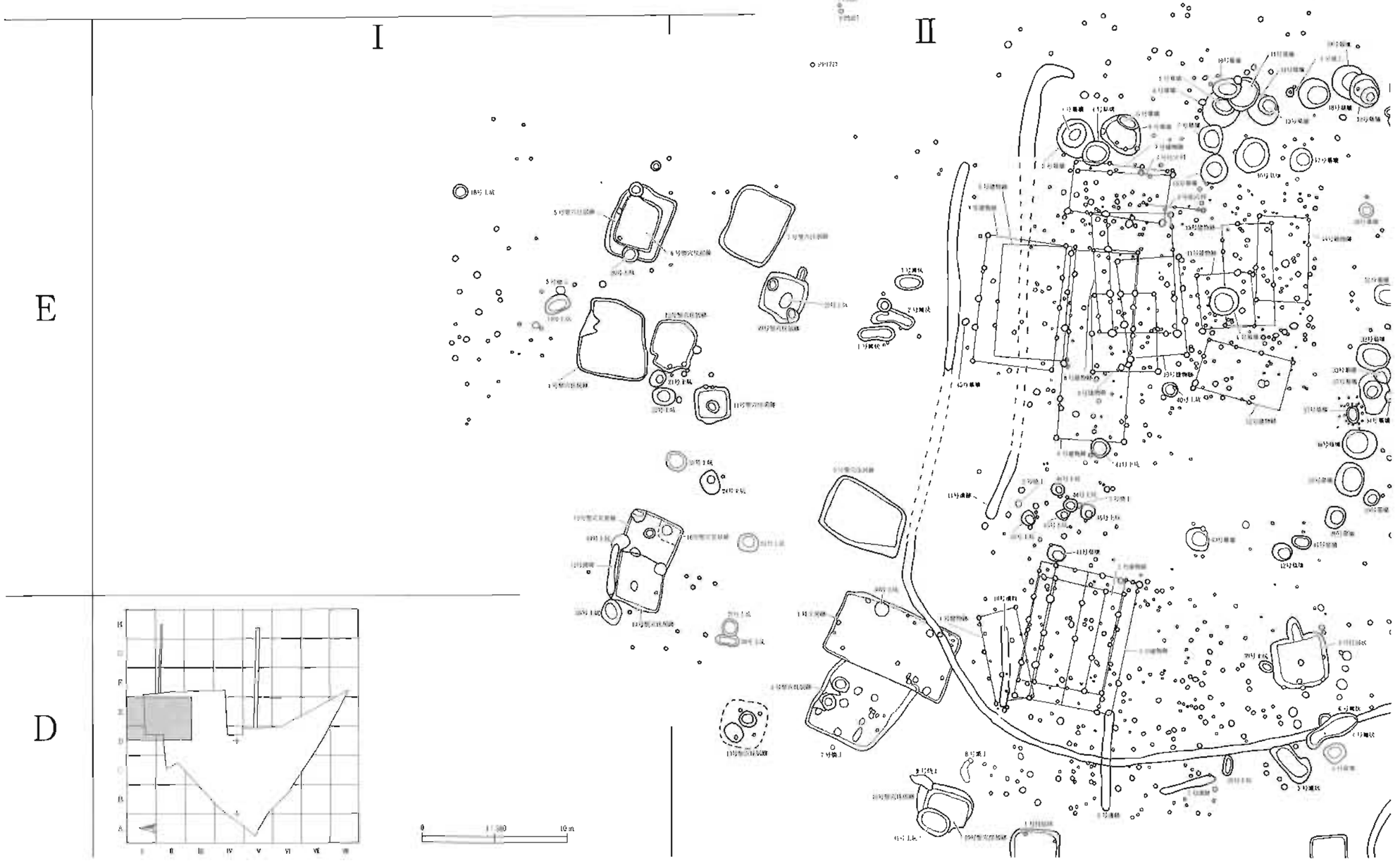
第29表　柱穴計測表（25）

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
2401	42×42	22.7	
2402	23×21	11.1	
2403	32×32	15.4	
2404	42×36	24.4	
2405	31×30	13.9	
2406	28×23	10.9	
2407	43×35	7.6	
2408	37×28	19.7	
2409	28×27	23.8	
2410	24×24	—	
2411	34×30	—	
2412	60×50	—	
2413	50×50	—	
2414	61×61	—	
2415	22×21	—	
2416	26×18	7.7	
2417	30×27	—	
2418	44×43	—	
2419	38×35	28.3	
2420	25×20	17.5	
2421	71×62	64.8	
2422	16×16	10.2	
2423	50×50	22.5	
2424	32×27	27.9	
2425	53×47	25.9	
2426	33×33	30.4	
2427	21×19	—	No.567 土師器高台付坏
2428	28×26	—	
2429	25×23	—	
2430	16×16	—	
2431	10×10	—	
2432	23×21	—	
2433	46×32	—	
2434	22×22	—	
2435	24×22	—	
2436	20×18	—	
2437	17×16	—	
2438	16×16	—	
2439	25×24	—	
2440	14×11	—	
2441	24×24	—	
2442	26×25	—	
2443	20×19	—	
2444	84×72	45.5	
2445	91×87	—	
2446	75×75	31.0	
2447	61×60	—	
2448	51×47	—	
2449	18×18	13.0	
2450	25×24	22.4	

P No.	開口部径	深 さ	備　　考
2451	20×19	19.8	
2452	21×20	12.0	
2453	24×23	23.7	
2454	52×51	18.3	
2455	15×15	14.5	
2456	25×23	15.8	
2457	92×90	—	
2458	78×71	—	
2459	30×30	34.0	柱痕あり
2460	10× 9	10.2	
2461	48×44	10.2	
2462	45×34	10.2	
2463	33×32	22.4	
2464	32×29	29.0	
2465	28×22	30.9	
2466	36×30	11.2	
2467	55×50	23.6	



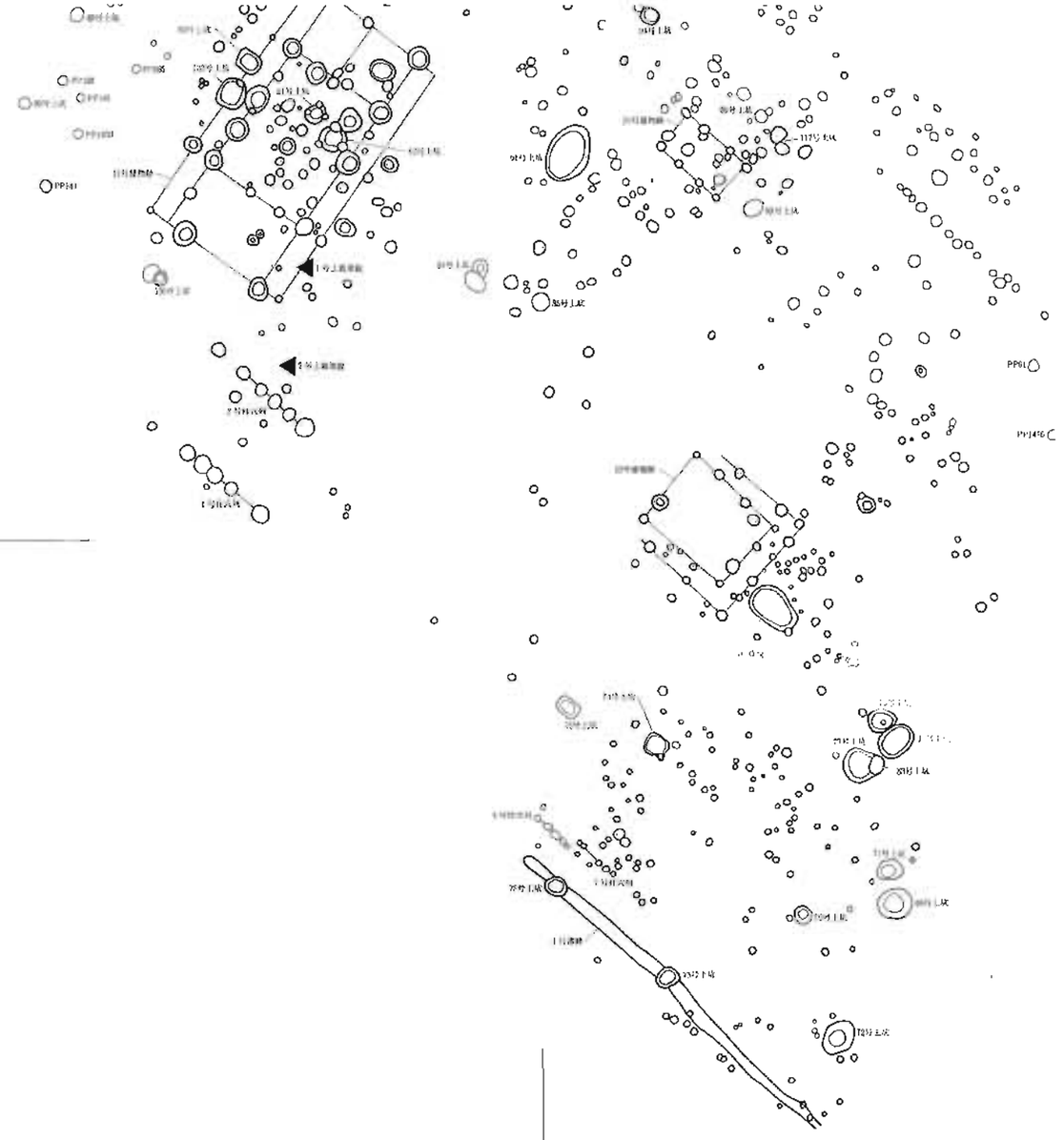
第172図　遺構配置図（１）



第173図　遺構配置図(２)

B

A



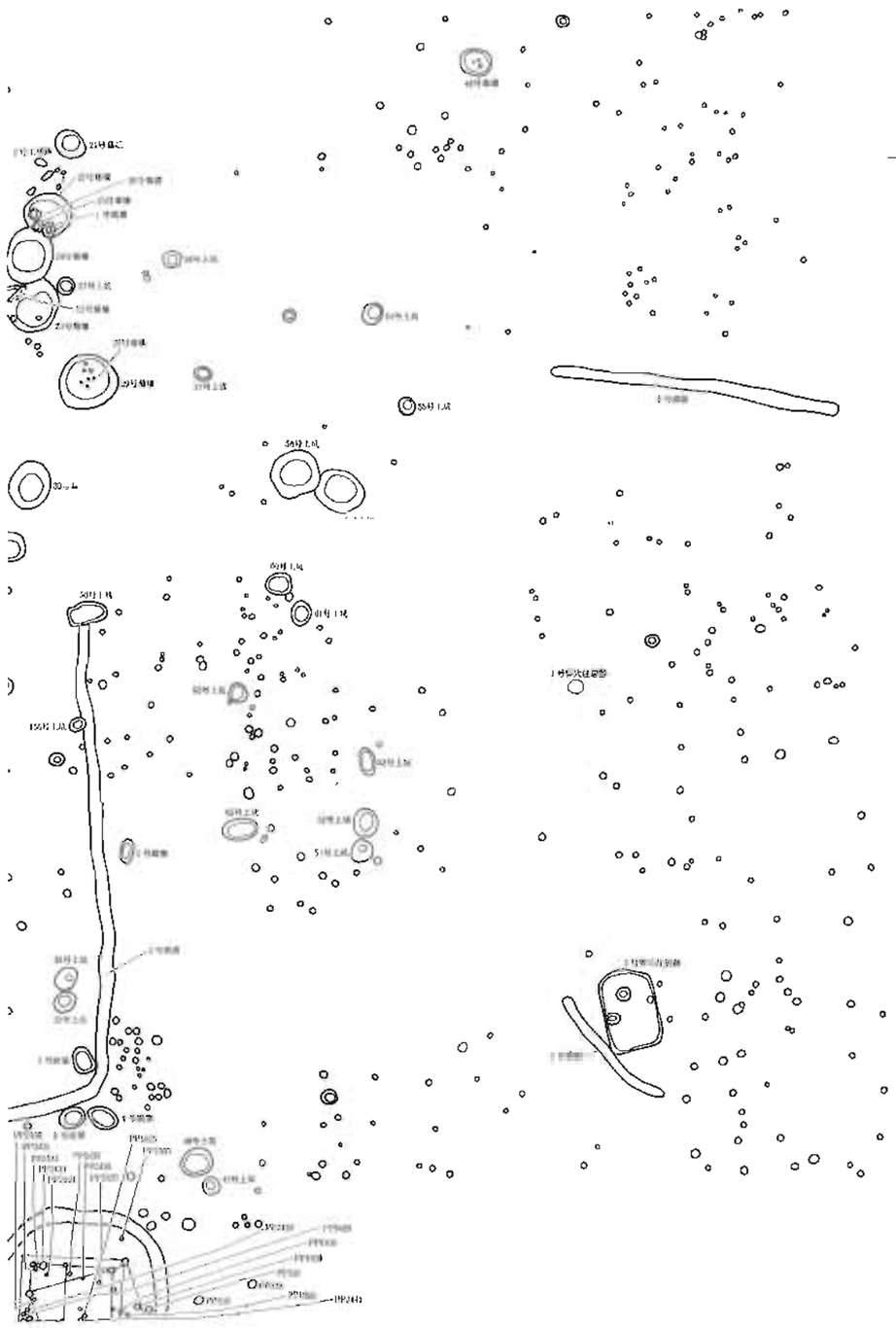
Ⅲ

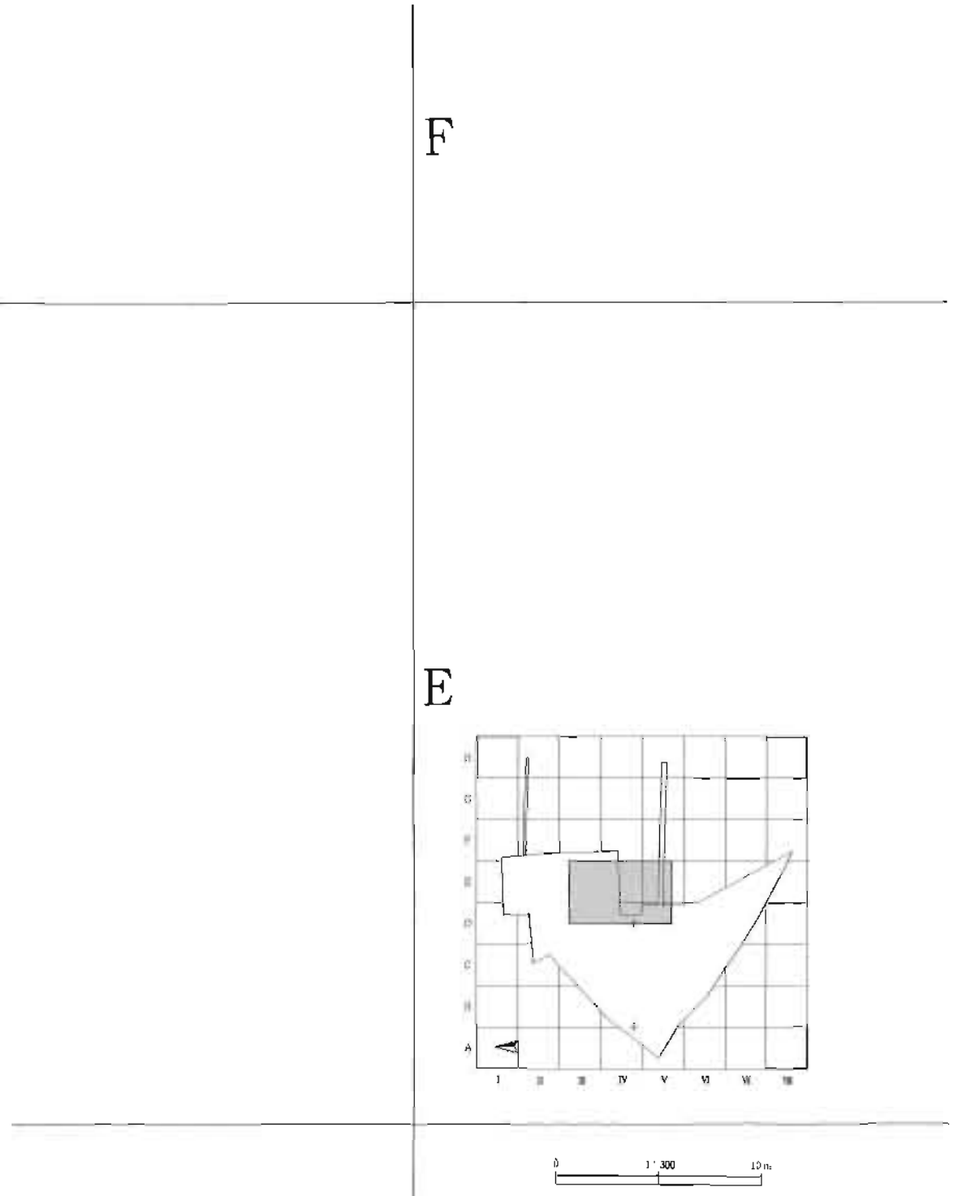
Ⅳ

Ⅴ

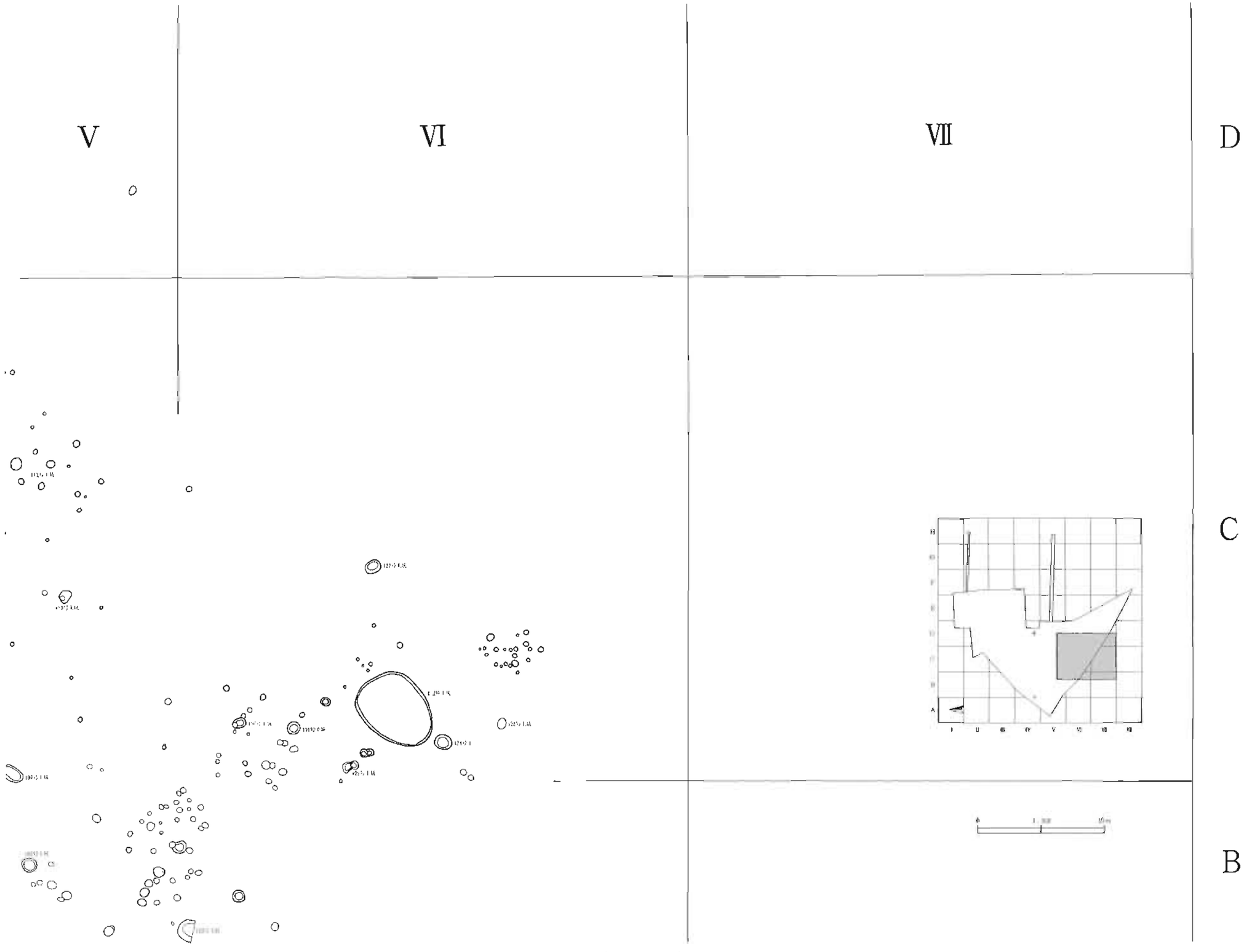
第174図　遺構配置図(３)

第175図　遺構配置図（4）



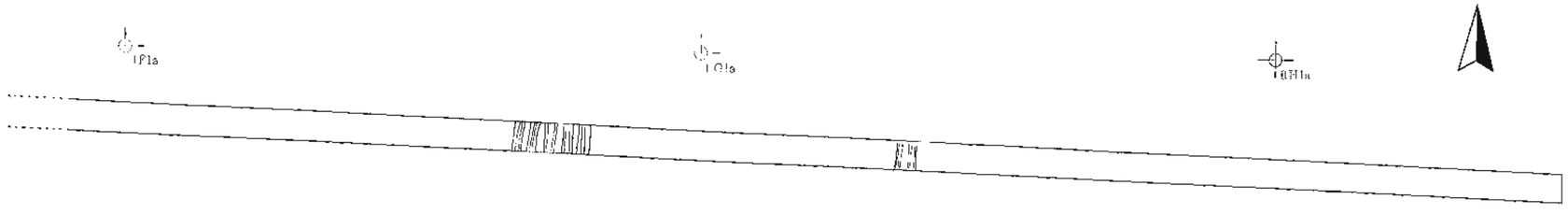


第176図　遺構配置図(５)

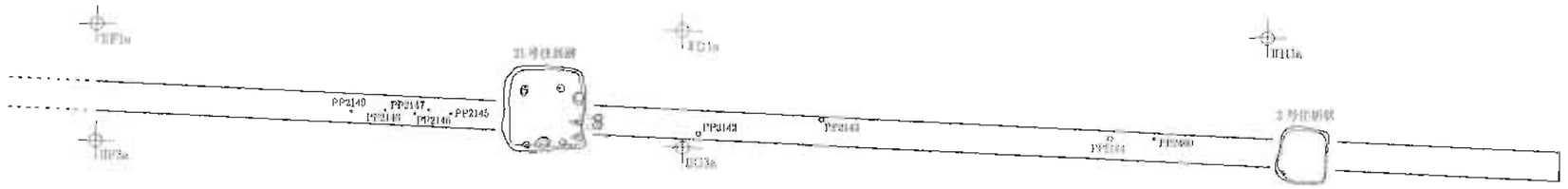


第177図　遺構配置図(6)

〈北側水路内　畝間〉



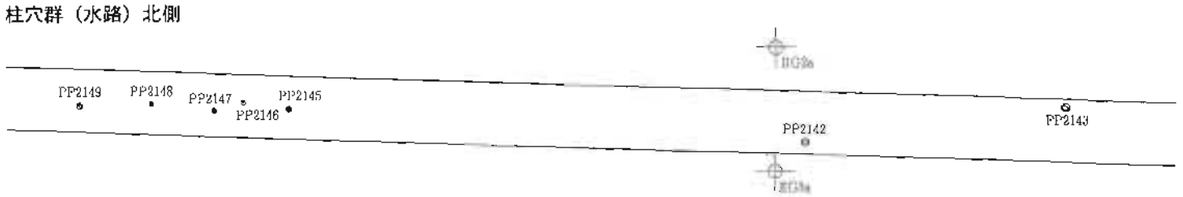
〈北側水路内　遺構配置図〉



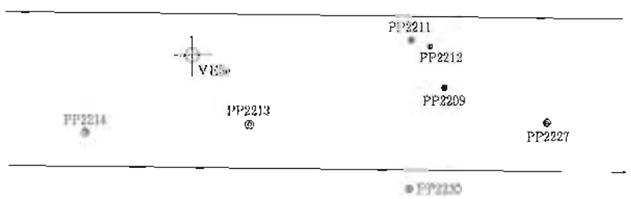
0　1：400　20m

第178図　遺構配置図(７)

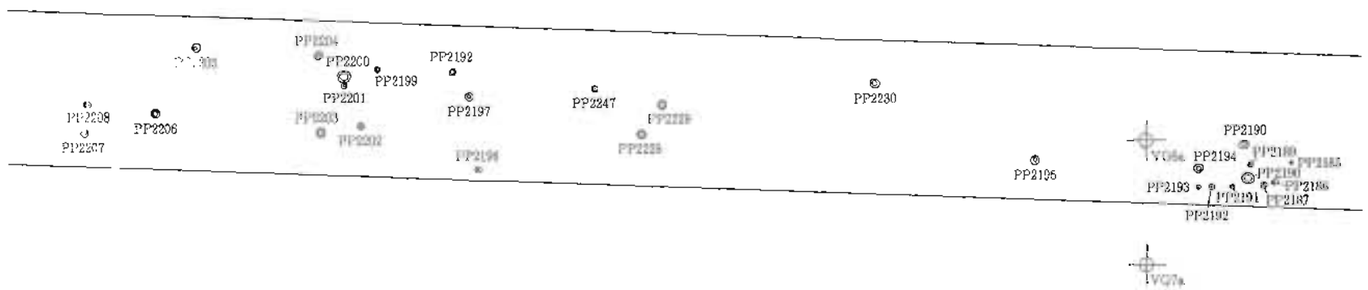
柱穴群（水路）北側



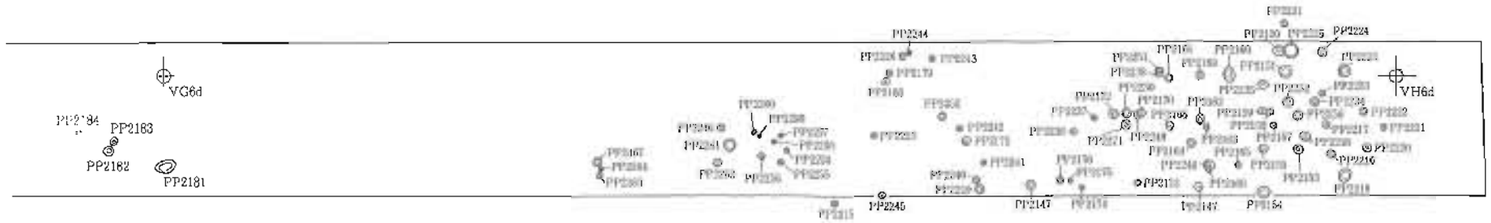
柱穴群（水路）①



柱穴群（水路）②



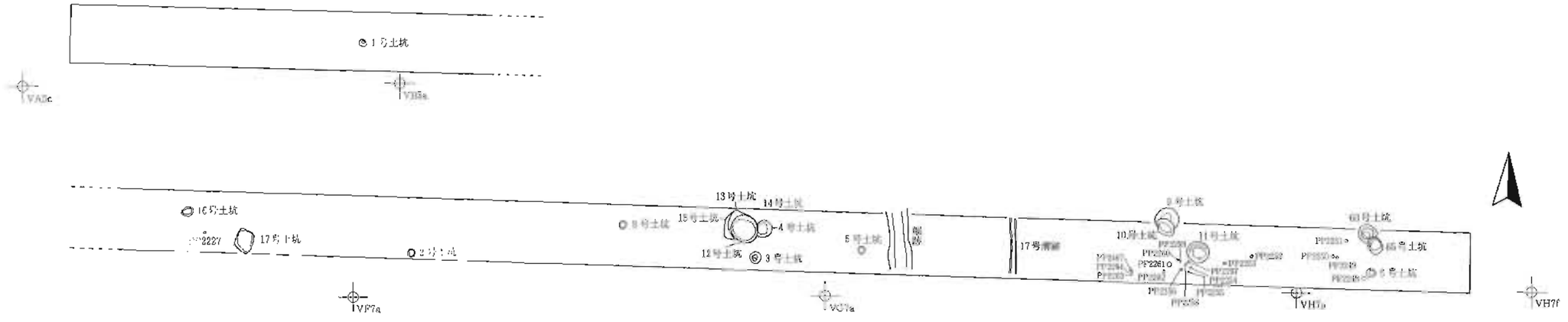
柱穴群（水路）③



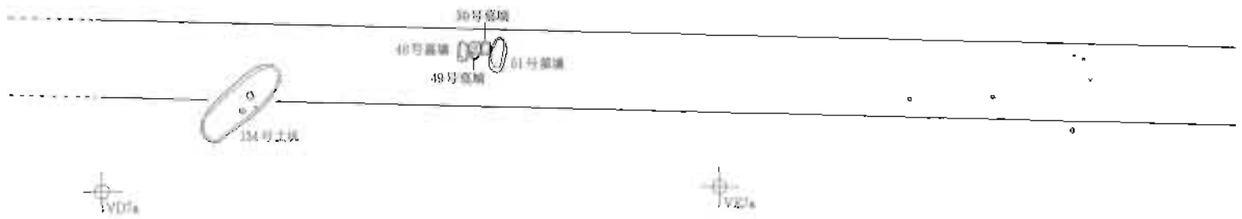
0　1：200　10m

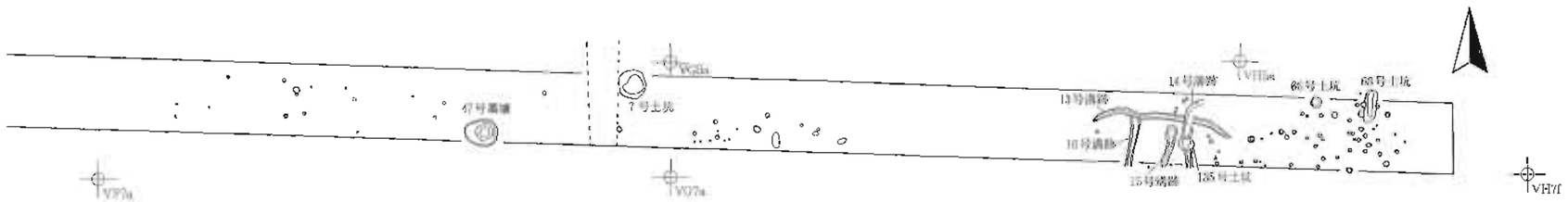
第179図　遺構配置図（８）

〈南側水路〉



縄文晩期～平安末期面





中近世面

0　1：400　20m

第180図　遺構配置図(９)

21. 遺構外出土遺物

出土した遺物は大コンテナ（42×32×30cm）20箱である。調査区の南西部はほぼ全面が畠跡であるため、この区域からの遺物は遺構外出土遺物として取り扱った。遺構外からの出土遺物は209点である。内訳は土師器90点、中世国産陶器類15点、かわらけ2点、中国産磁器6点、近世陶磁器類55点、土製品4点、古銭10点、石製品15点、金属器11点、羽口1点である。大半は破片のため正確な個体数の把握はできなかった。

土器（第202～205図、写真図版134～137）

土器は90点が出土している。畠跡からはⅣD、ＶＢ～ＶＣグリッドに遺物がある程度集中して検出されている。北側のＩＤ～ⅢＣグリッドには多くの住居跡が検出されているため、12世紀以降の攪乱により散逸したものと考えられる。

調査区の南西部から出土した土器は、ほとんどが火山灰降下前後のものと考えられるが、北側調査区から出土した遺物は周辺の住居に伴う10世紀前半～11世紀にかけての遺物と考えられる。579は内外面を黒色処理された坏である。

国産陶磁器（第207図、写真図版4・8・139）

国産陶器は15点が出土した。ほとんどが北側調査区の墓域周辺や調査区東端部から出土している。渥美産陶器片が4点（699・710・711・1017）、常滑産陶器片が7点（701・704～709）、珠洲産2点（700・702）、瀬戸産2点（703・712）である。712は古瀬戸の直縁大皿で1365～1385年頃の遺物である。

かわらけ（第208図、写真図版140）

かわらけは754と755の2点が出土した。754は手づくねかわらけで755はロクロかわらけである。いずれも12世紀後半頃のものと考えられる。

中国産磁器（第208図、写真図版7・140）

中国産磁器は青磁、青白磁、白磁の6点が出土している。768・769の2点は青白磁の合子で、771・772は検出位置が離れるがいずれも劃花文の碗である。同一個体である可能性もある。773は連弁文碗（Ｉ5類）である。

銭貨（第211図、写真図版143・144）

銭貨は10点が出土している。永楽通宝1点、大中通宝1点、寛永通宝3点、仙臺通宝2点、不明3点である。

ⅣB10fグリッドとＶＢ9ａグリッド、ＶＧ5ｇグリッドから集中して出土している。

石製品（第216・217、写真図版146～148）

石製品は15点が出土している。内訳は砥石が10点、凹石1点、磨石3点、板碑1点である。砥石は、近世の建物跡周辺でまとまって出土している。

871は板碑と考えられる。聞き取り調査からは、墓域周辺にあった板碑を昭和30年代の開田時に廃棄したことが確認されているため、これらの板碑の一部と思われる。

金属器（第218・219図、写真図版149）

金属器は11点が出土した。ほとんどが近世の建物跡周辺で検出されている。ＶＢ９ａグリッドからはまとまって煙管（908～910）が出土している。17世紀後半のものと18世紀後半のものである。

近世陶磁器類（第219～221図、写真図版150～153）

近世陶磁器類は55点を検出した。近世の遺物は調査区北側の墓域周辺からは全く検出されておらず、全て近世の建物跡が検出された調査区南西部から出土している。

ほとんどの遺物は肥前産あるいは在地産であるが、960・962の２点は18世紀常滑産の甕、941・955は大堀相馬産の碗・蓋、940は瀬戸・美濃産の腰錆碗、945・951・981・986も瀬戸・美濃産の皿・杯・碗である。

974～979は在地産の擂鉢片であるがＶＢ９ａグリッドからまとまって出土している。

瓦器は２点（984・985）出土している。

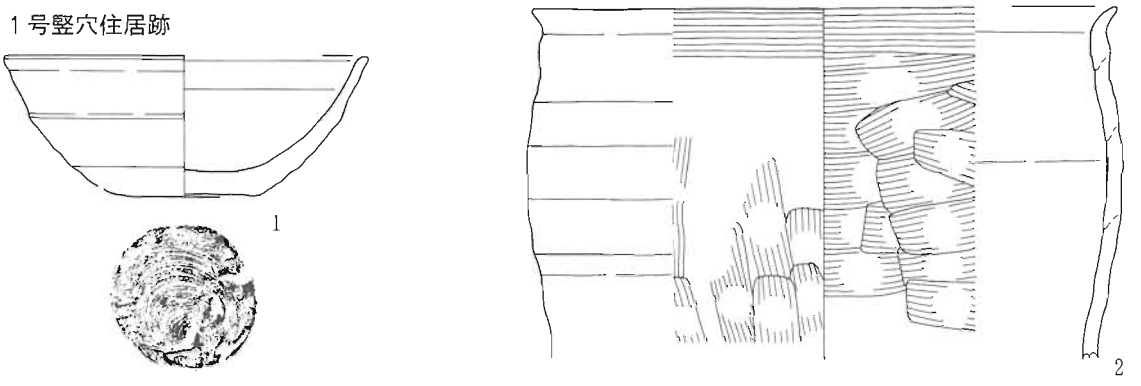
土製品（第222図、写真図版154）

土製品は土錘（999）と人形（1004～1006）が出土している。土錘は調査区北側の居住エリアから出土しており10～11世紀頃のものと考えられる。人形は近世以降のものである。

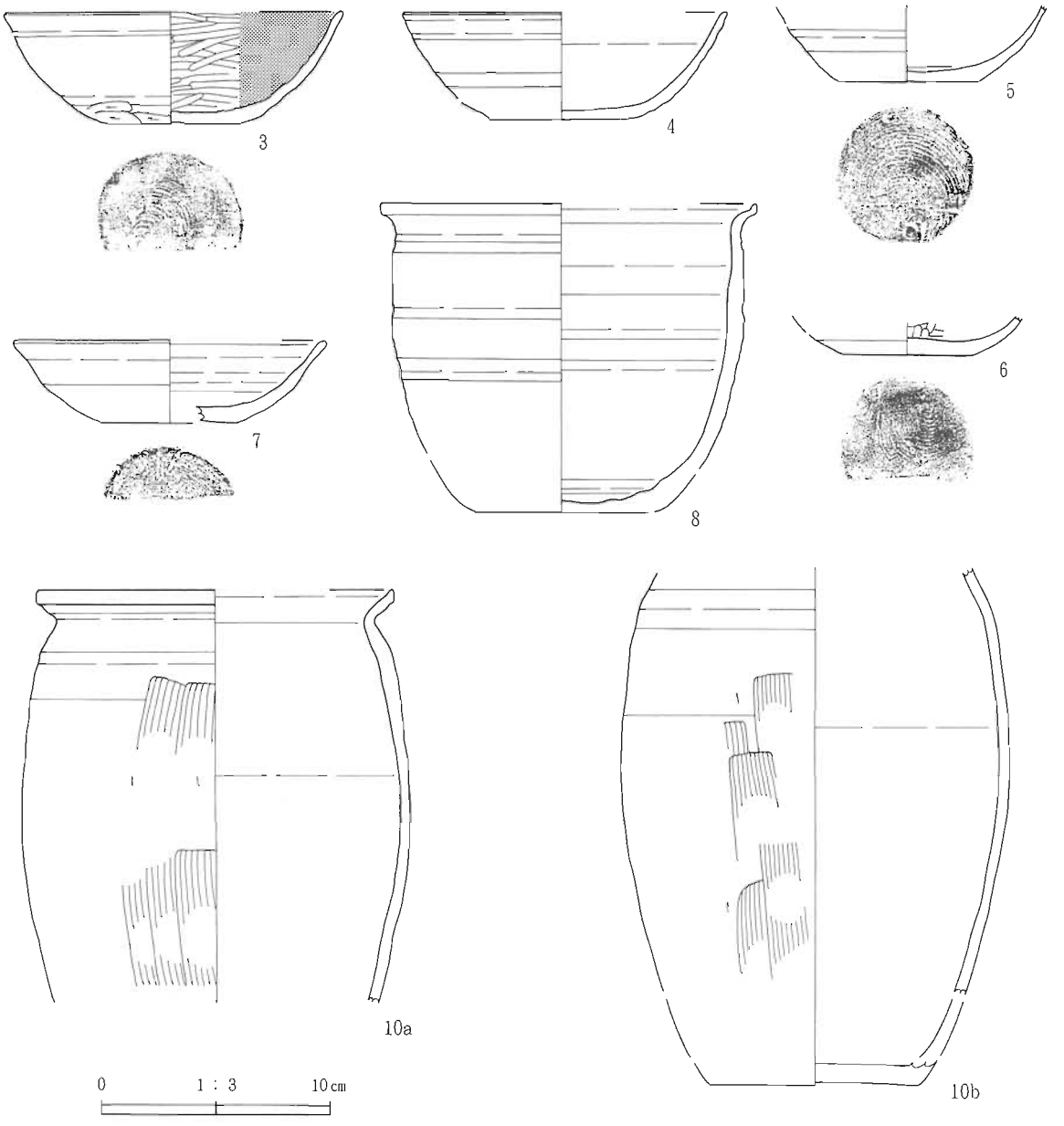
羽口（第222図、写真図版154）

羽口は１点（1001）が出土している。近世の建物跡の周辺から出土しており近世のものと考えられる。

1号竪穴住居跡

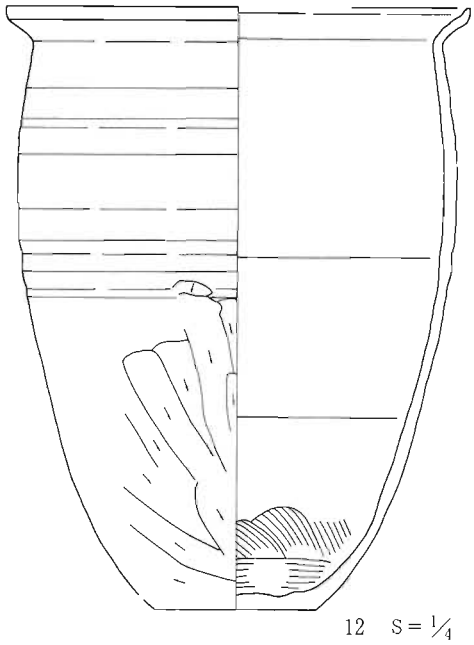


2号竪穴住居跡

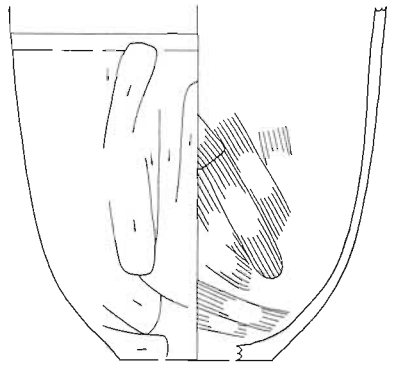


第181図　出土遺物（1）

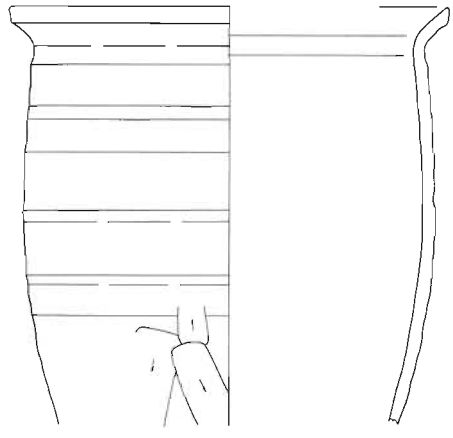
2号竪穴住居跡



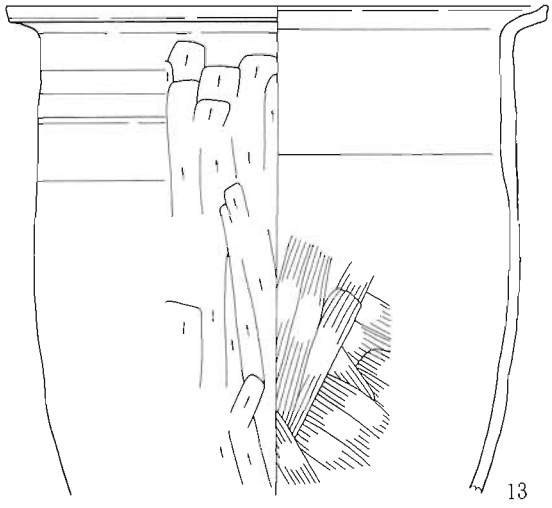
12　S＝1/4



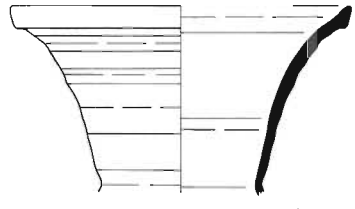
9　S＝1/4



11　S＝1/4

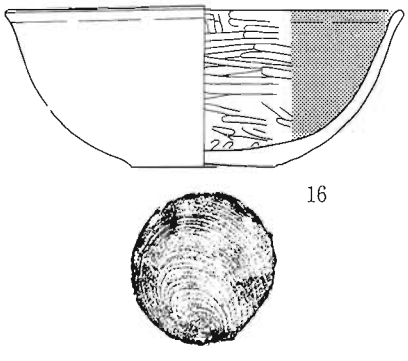


13　S＝1/4

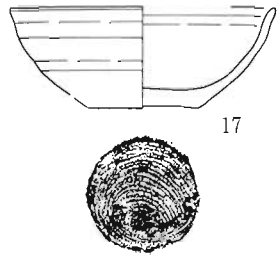


14

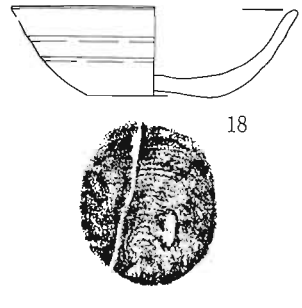
3号竪穴住居跡



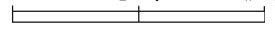
16



17

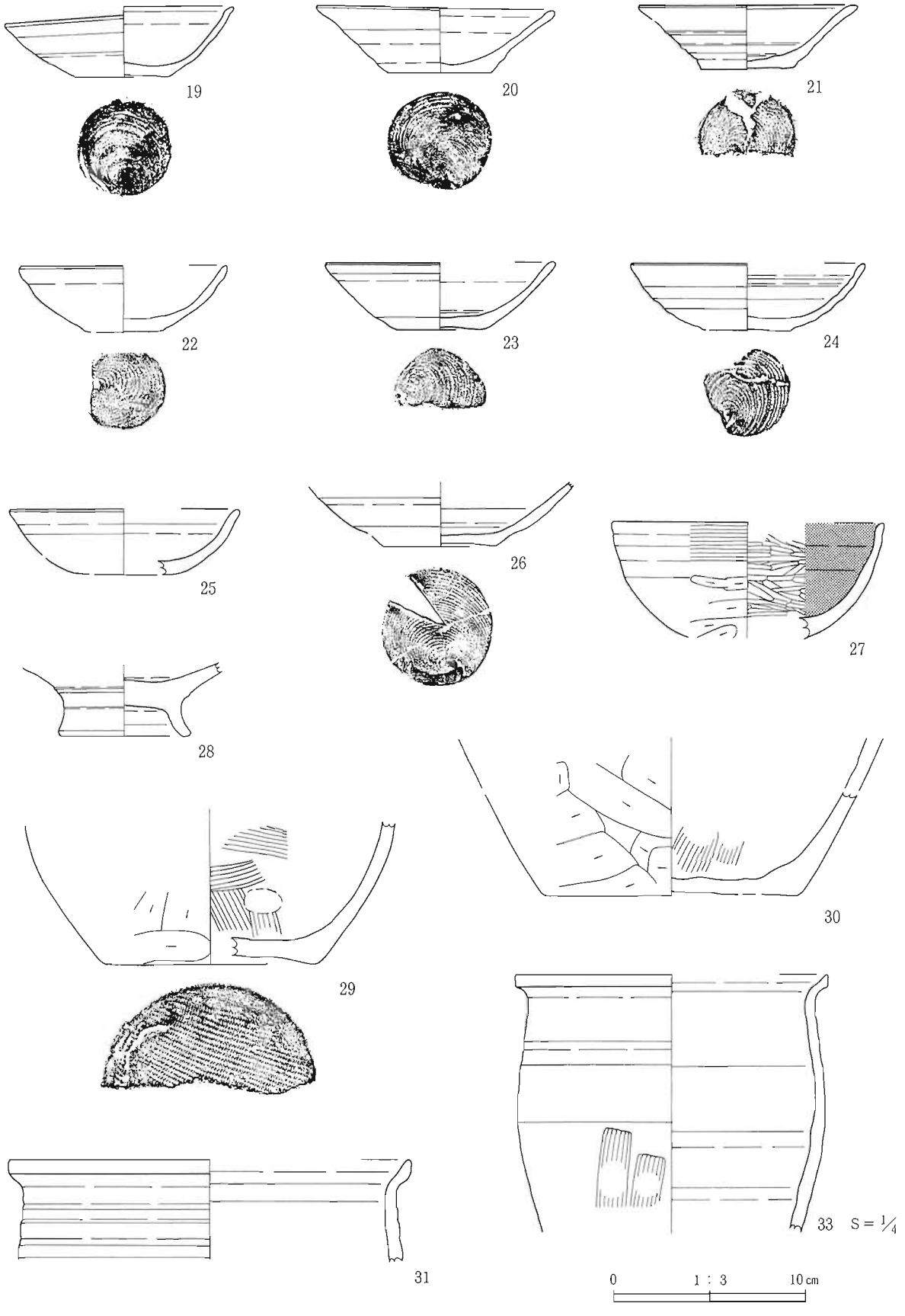


18



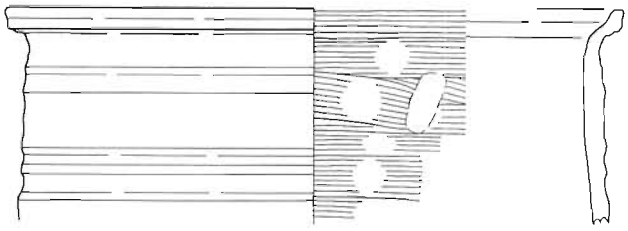
第182図　出土遺物（2）

3号竪穴住居跡

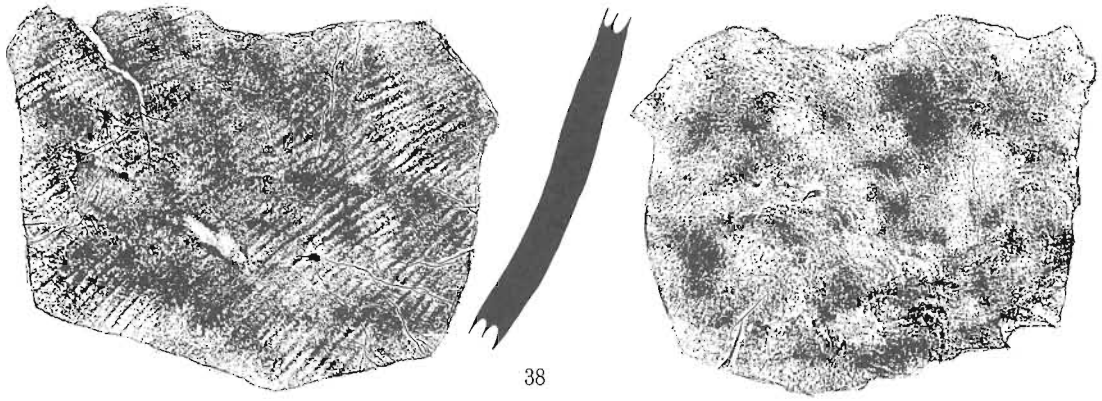


第183図　出土遺物（3）

3 号竪穴住居跡

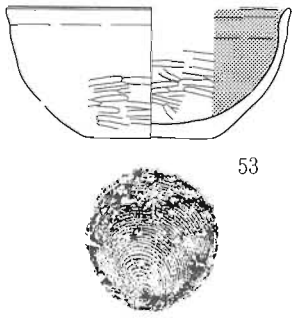


32

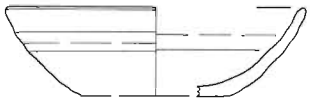


38

4 号竪穴住居跡

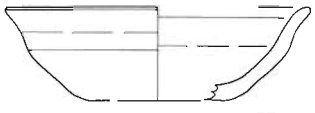


53



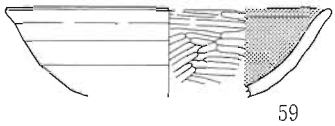
54

55

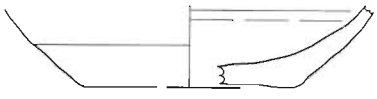


57

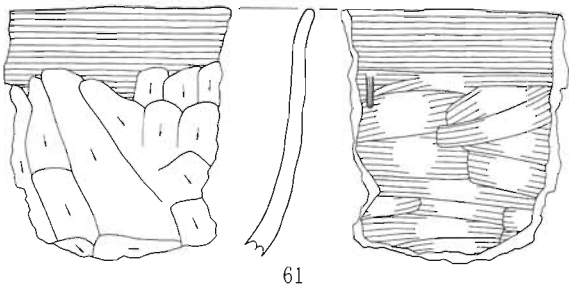
56



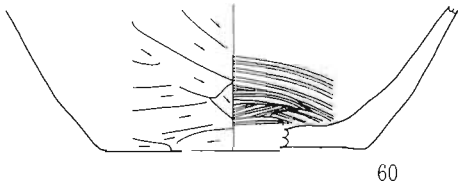
59



58



61

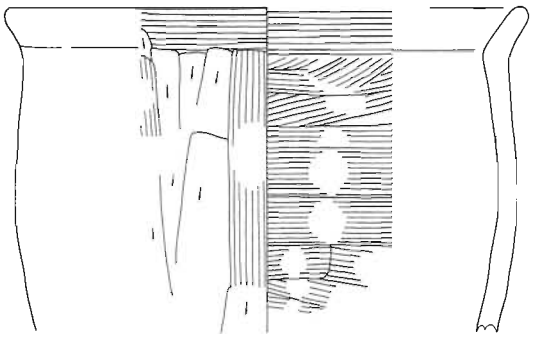


60

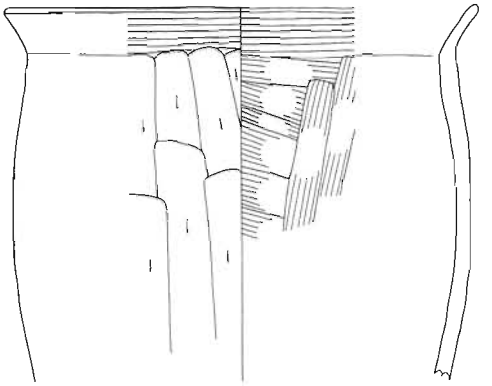
0 1：3 10cm

第184図　出土遺物（４）

4 号竪穴住居跡

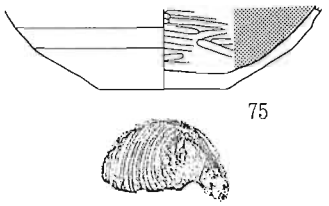


62

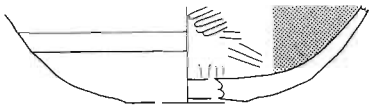


63　S＝1/4

5 号竪穴住居跡



75

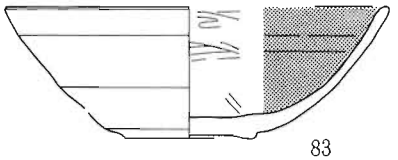


76

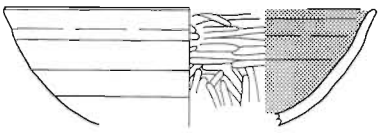
6 号竪穴住居跡

82

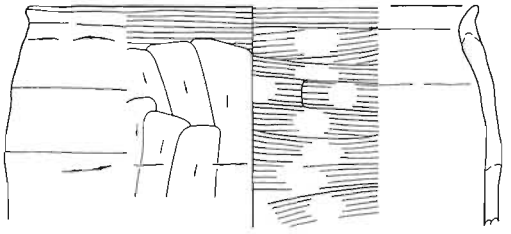
7 号竪穴住居跡



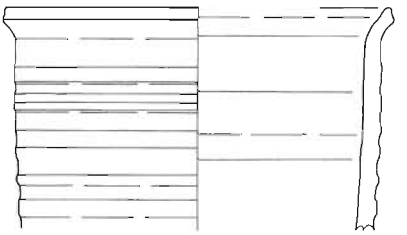
83



84



85

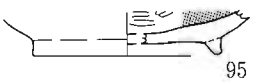


86　S＝1/4

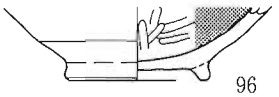
8 号竪穴住居跡

93

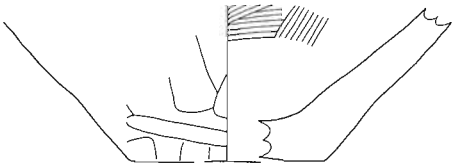
94



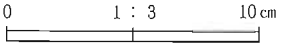
95



96

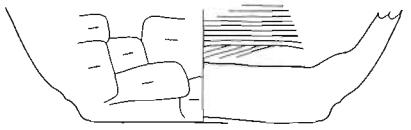


97

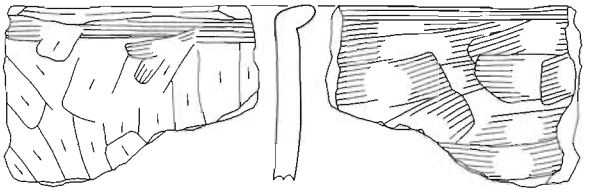


第185図　出土遺物（5）

8 号竪穴住居跡



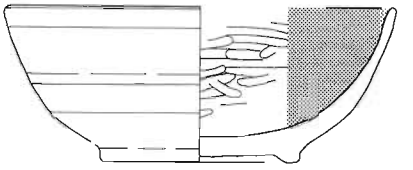
98



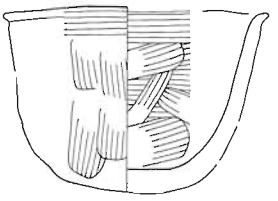
99　S＝1/4

9 号竪穴住居跡

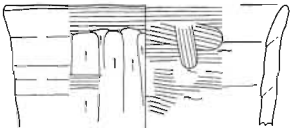
112



114

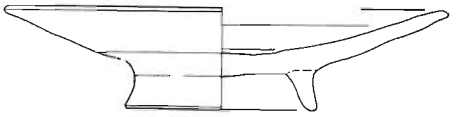


115

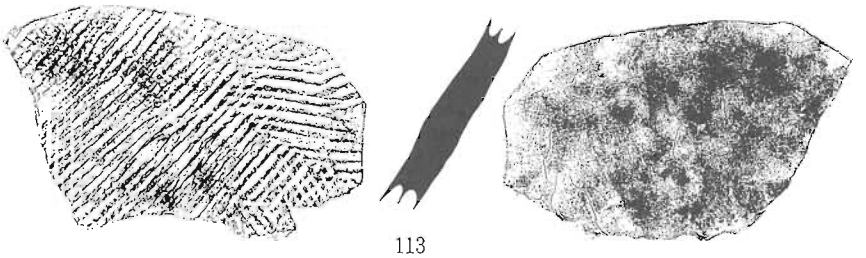


118　S＝1/6

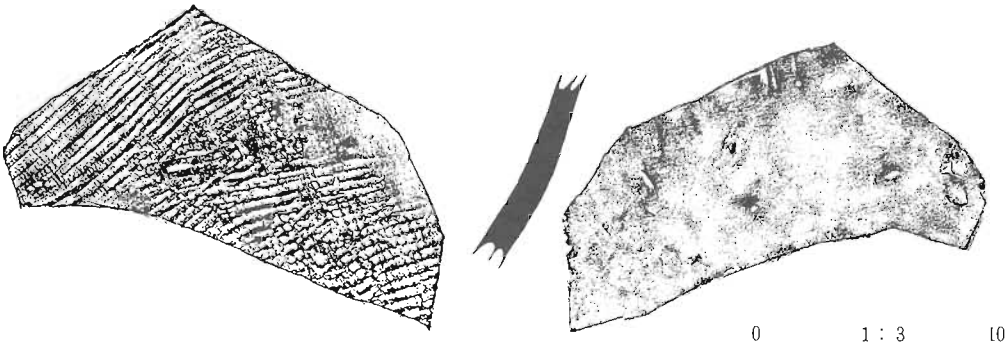
116



117



113

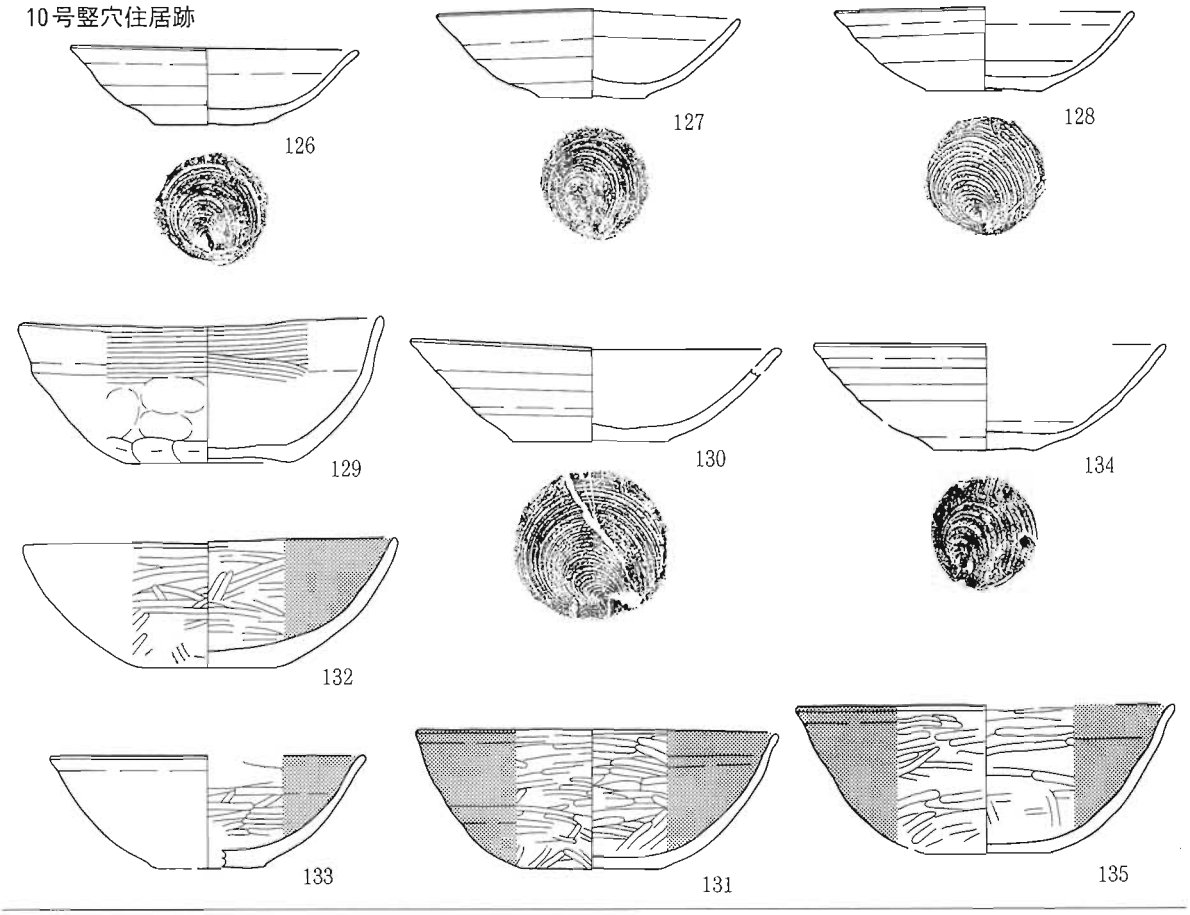


120

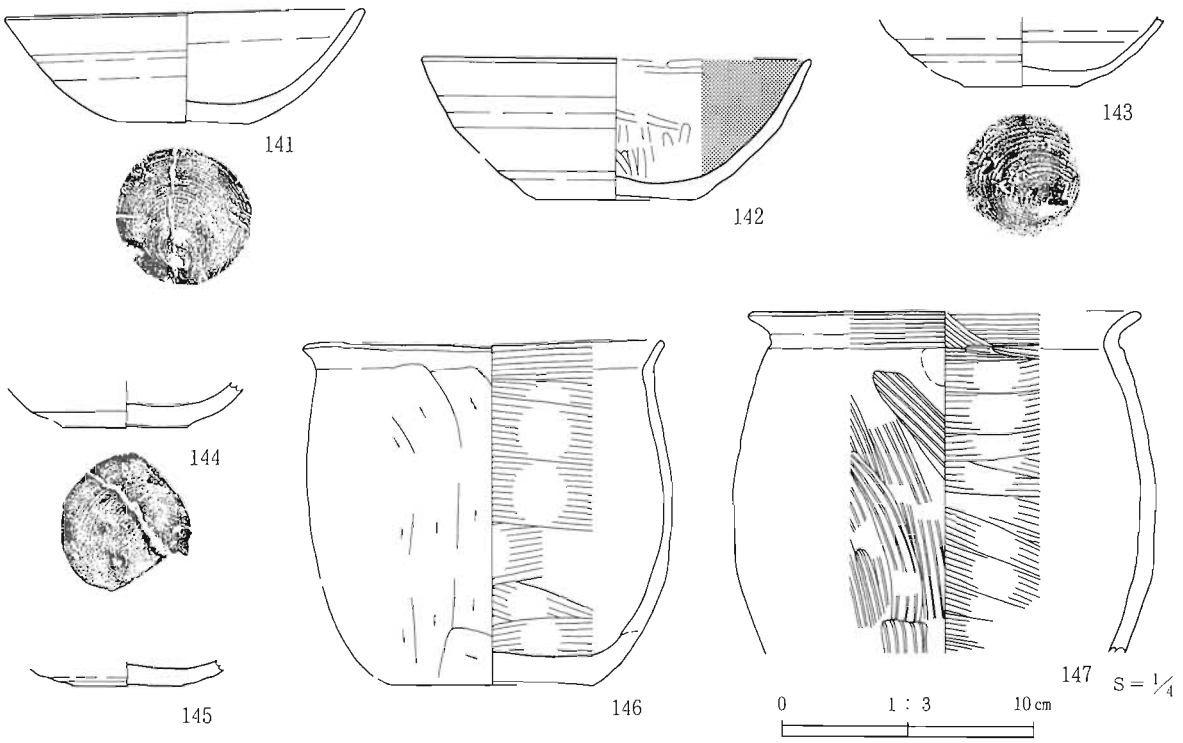
0　1：3　10cm

第186図　出土遺物（6）

10号竪穴住居跡

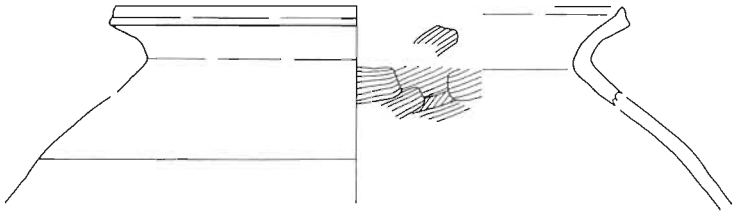


11号竪穴住居跡

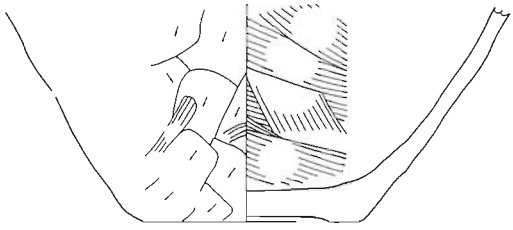


第187図　出土遺物（7）

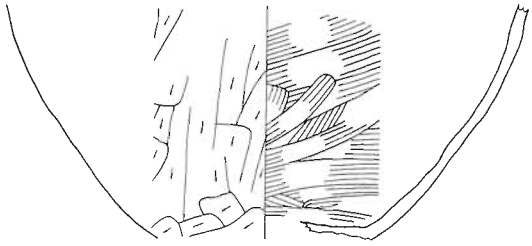
11号竪穴住居跡



148

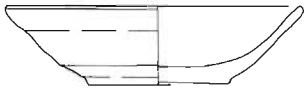


149

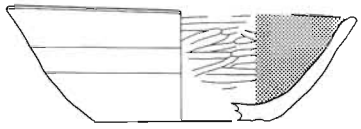


150　S＝1/4

12号竪穴住居跡

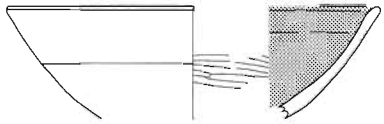


158

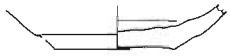


159

160

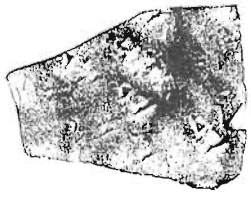


162

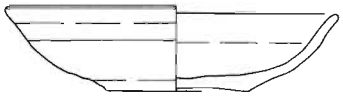


161

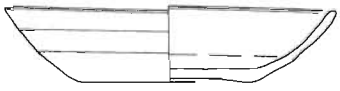
165



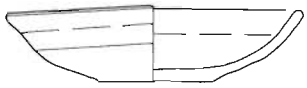
13号竪穴住居跡



168

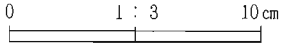


169



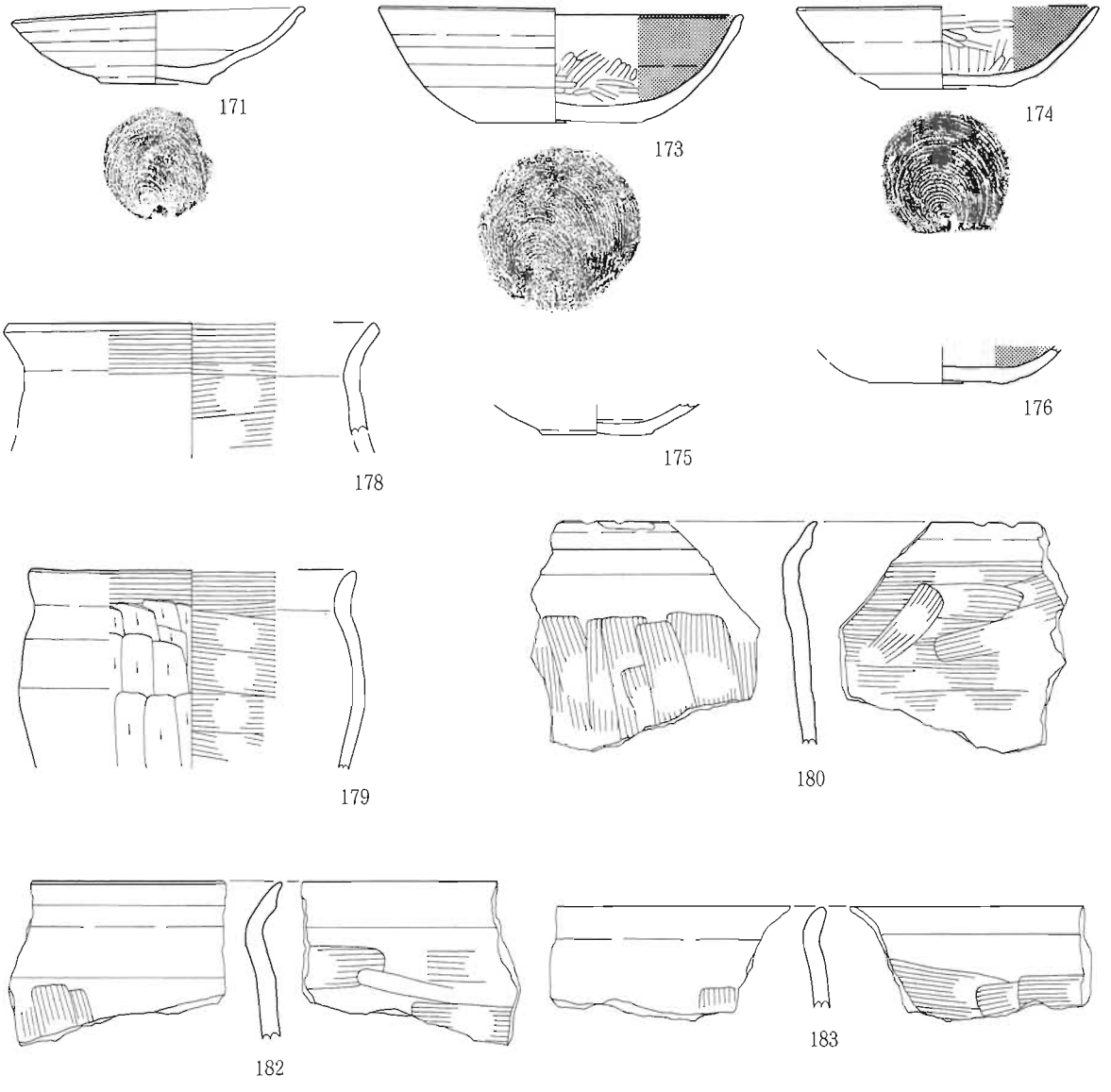
170

172

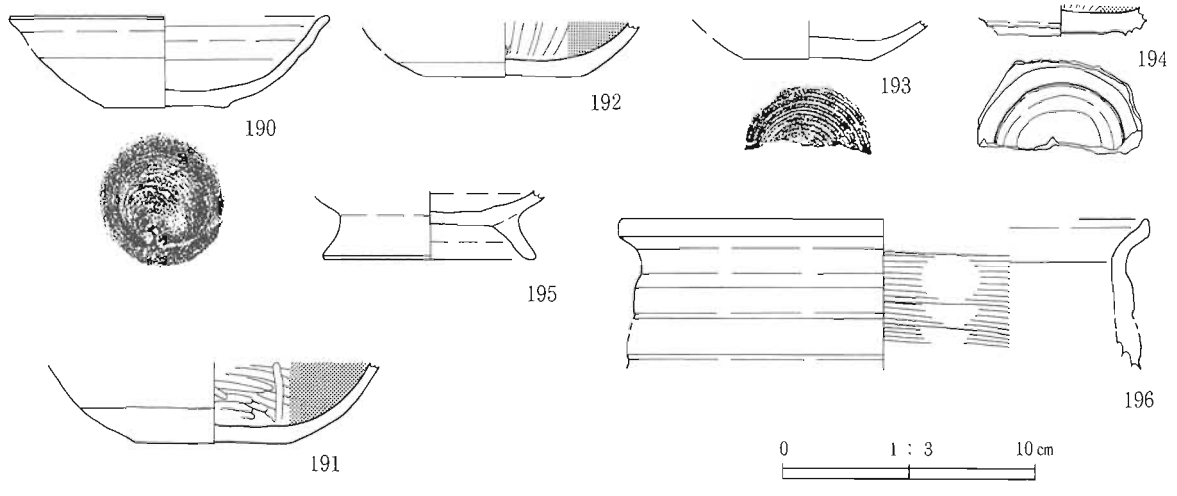


第188図　出土遺物（8）

13号竪穴住居跡

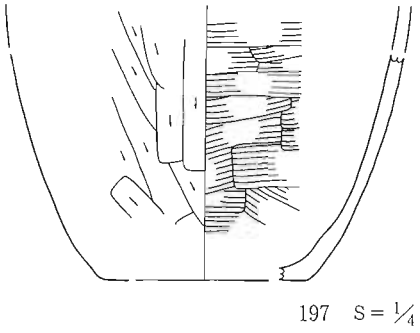


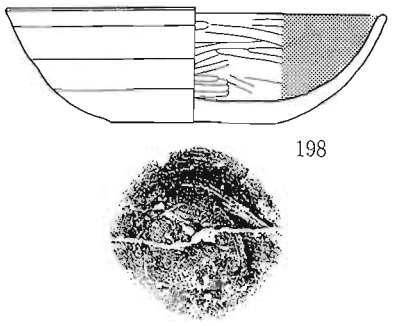
15号竪穴住居跡

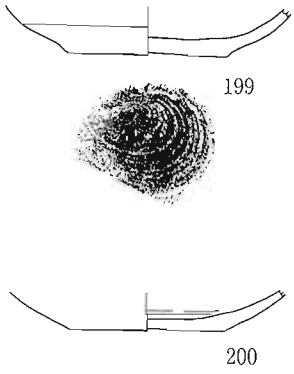


第189図　出土遺物（９）

15号竪穴住居跡

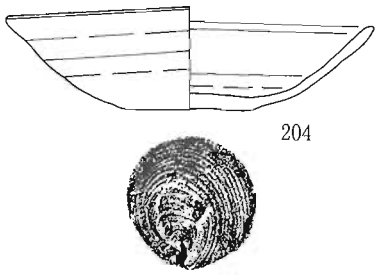

197　S＝1/4

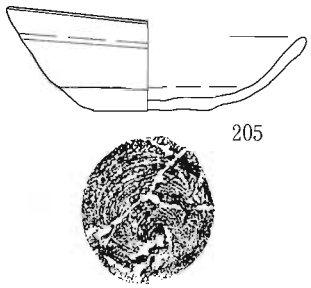

198

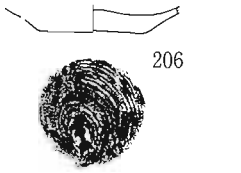

199

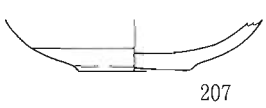
200

16号竪穴住居跡

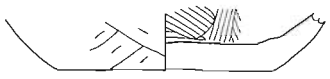

204

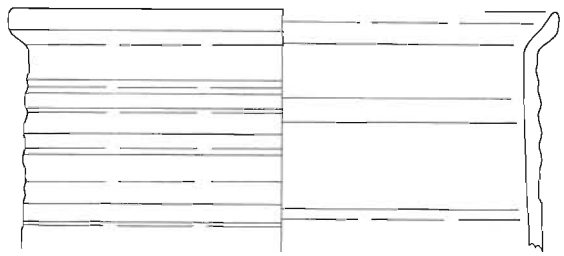

205

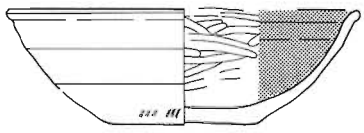

206

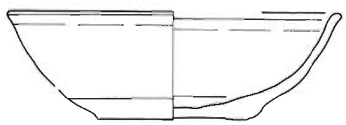

207

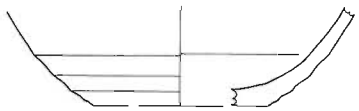
208

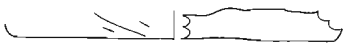

209

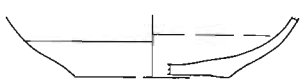

210

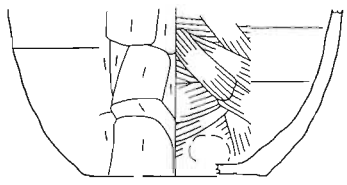

211

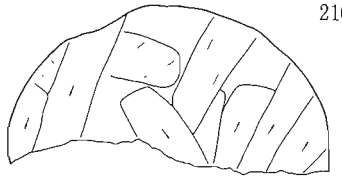

212

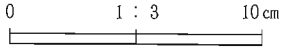

213


216


214

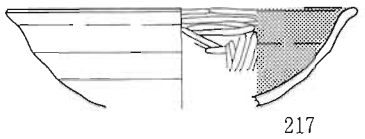

215



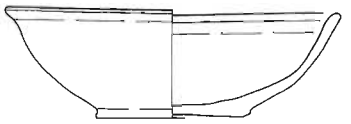


第190図　出土遺物(10)

16号竪穴住居跡

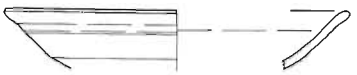


217

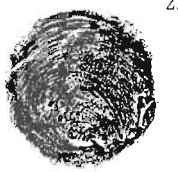


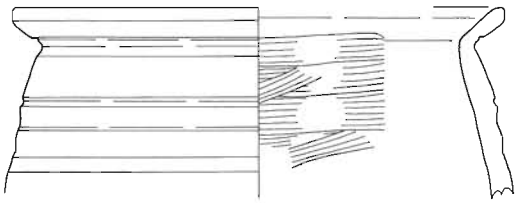
223

224

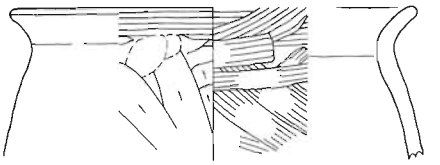


225



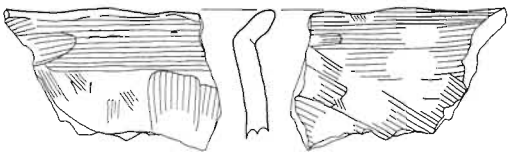


218

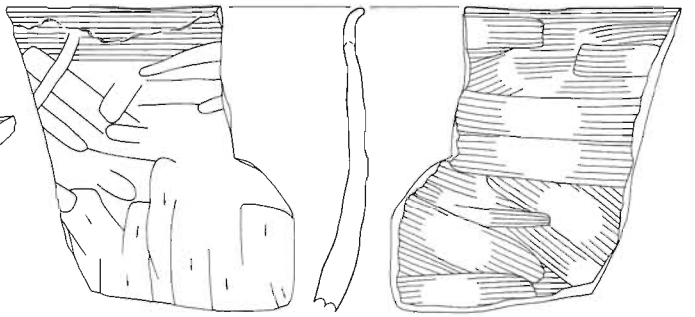


219　S＝1/4

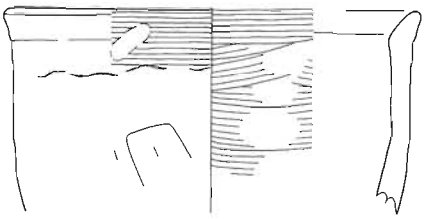
17号竪穴住居跡



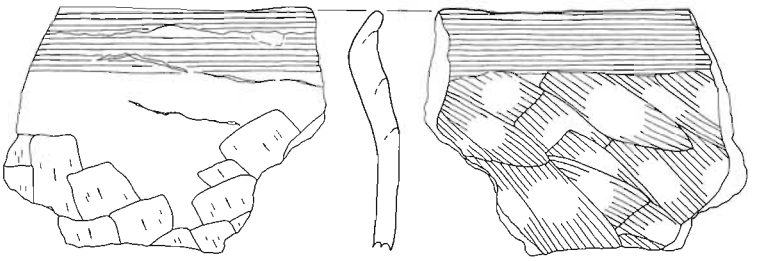
227



230

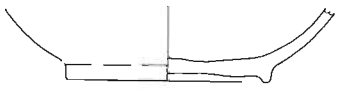


231



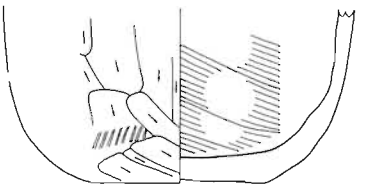
228

18号竪穴住居跡



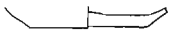
233

235

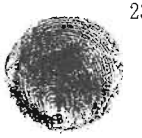


237

234



236

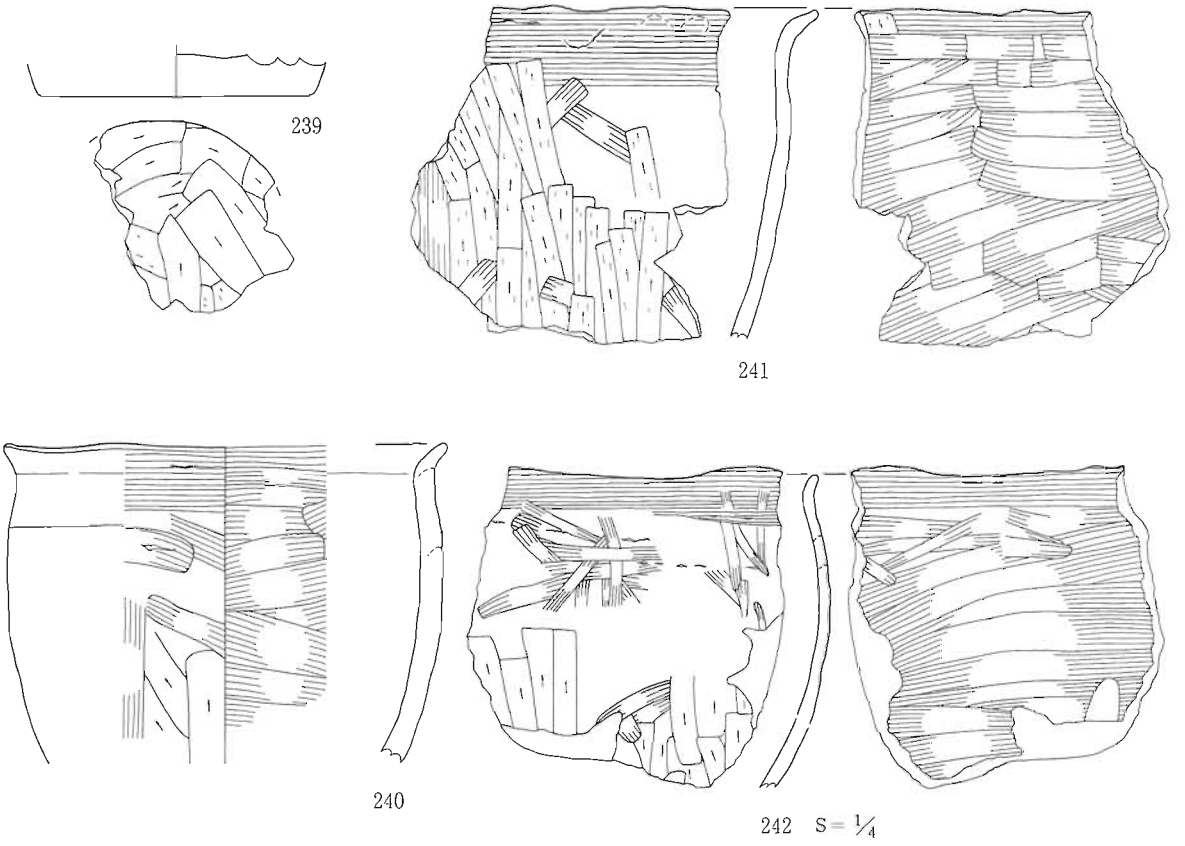


238

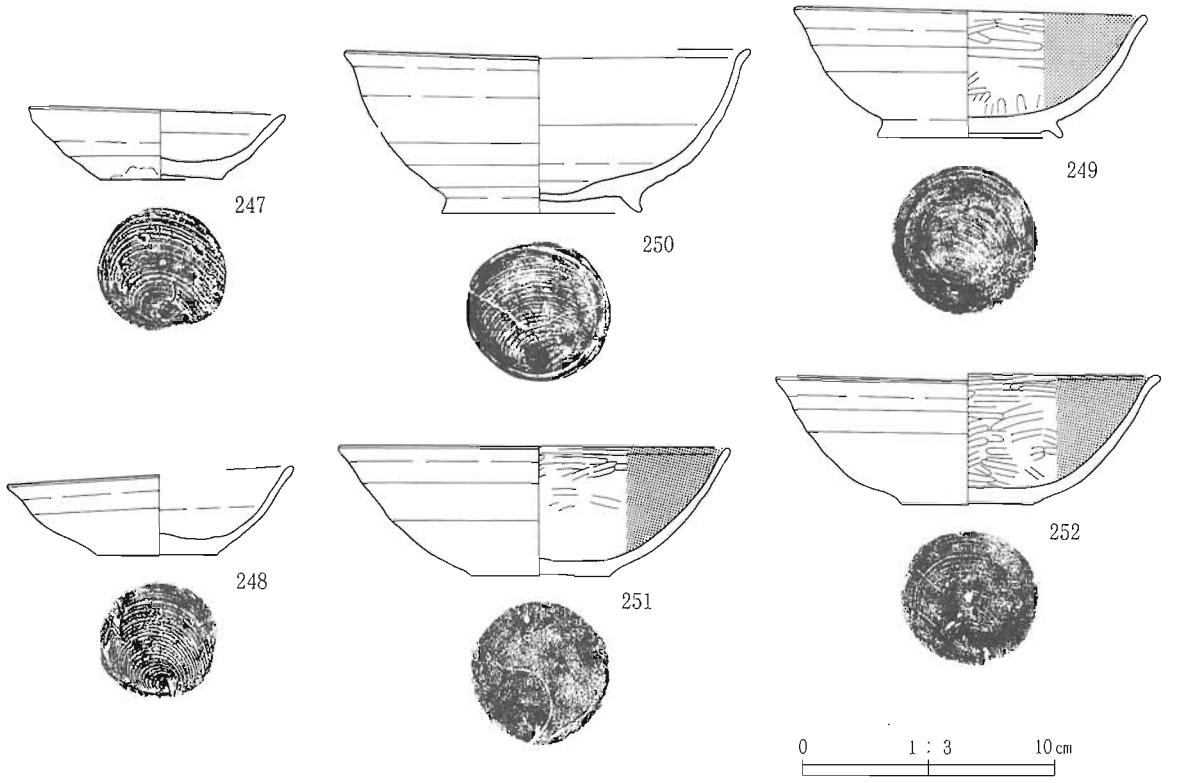
0　1：3　10cm

第191図　出土遺物(11)

18号竪穴住居跡

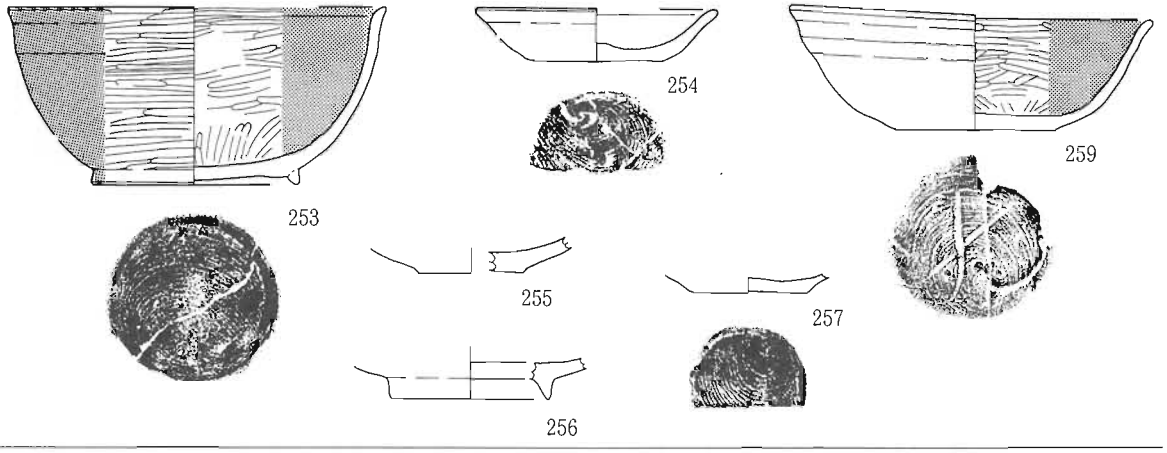


19号竪穴住居跡

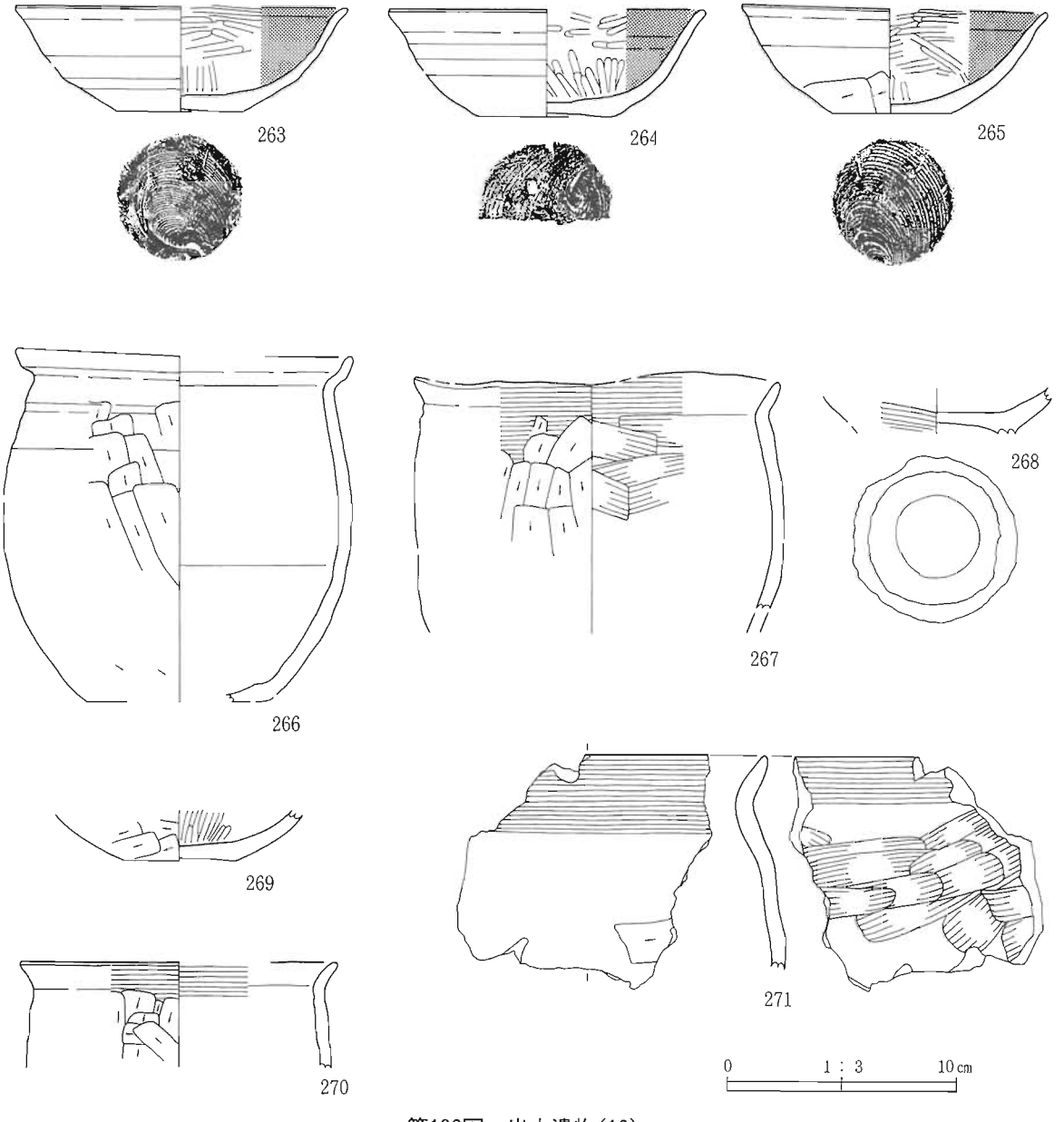


第192図　出土遺物(12)

19号竪穴住居跡

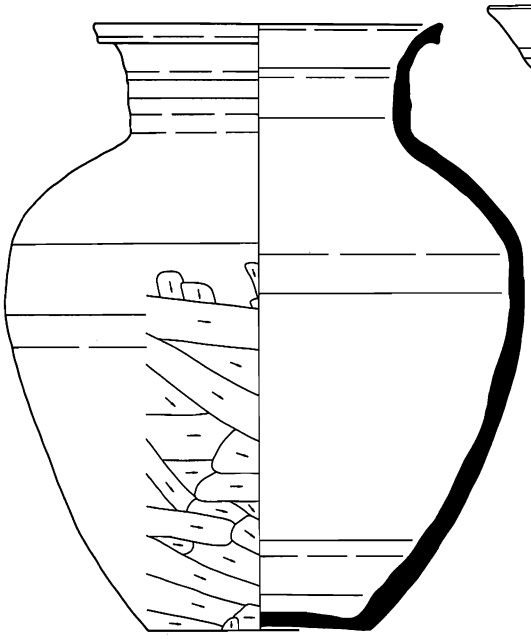


20号竪穴住居跡

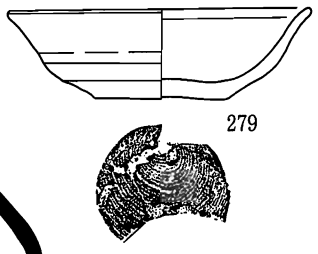


第193図　出土遺物(13)

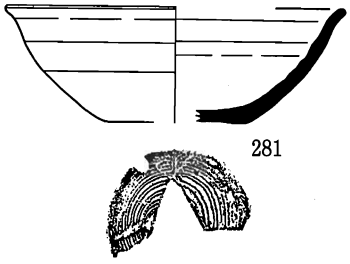
21号竪穴住居跡



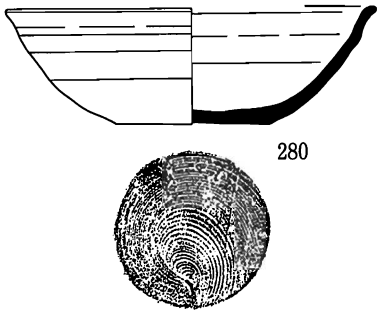
278　S＝1/4



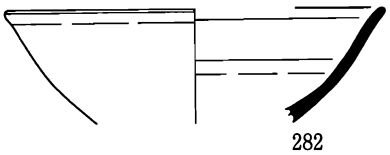
279



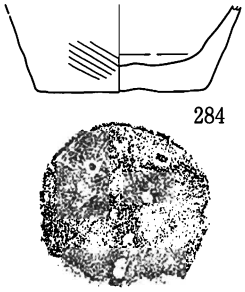
281



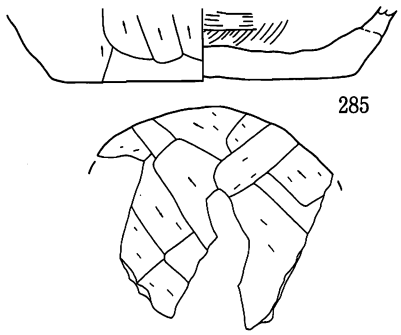
280



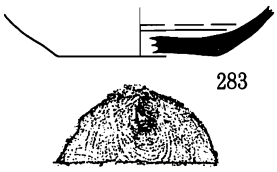
282



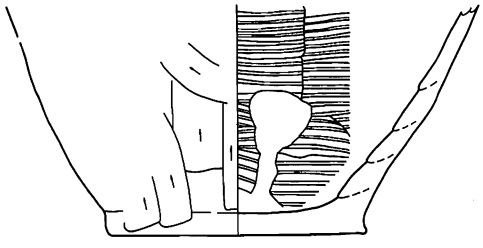
284



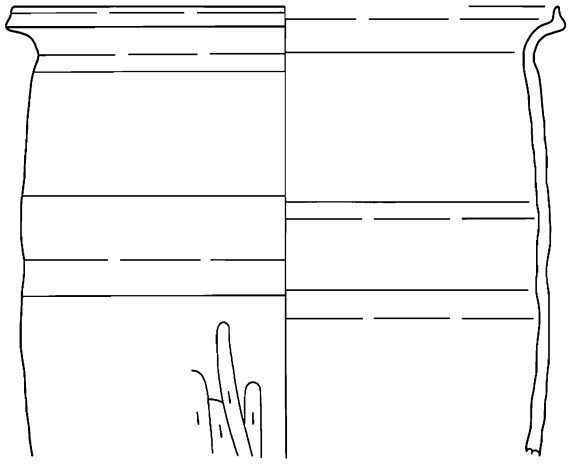
285



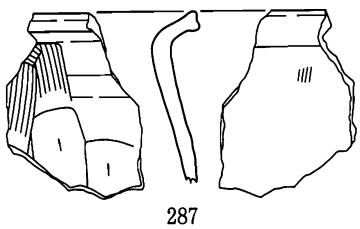
283



286



289

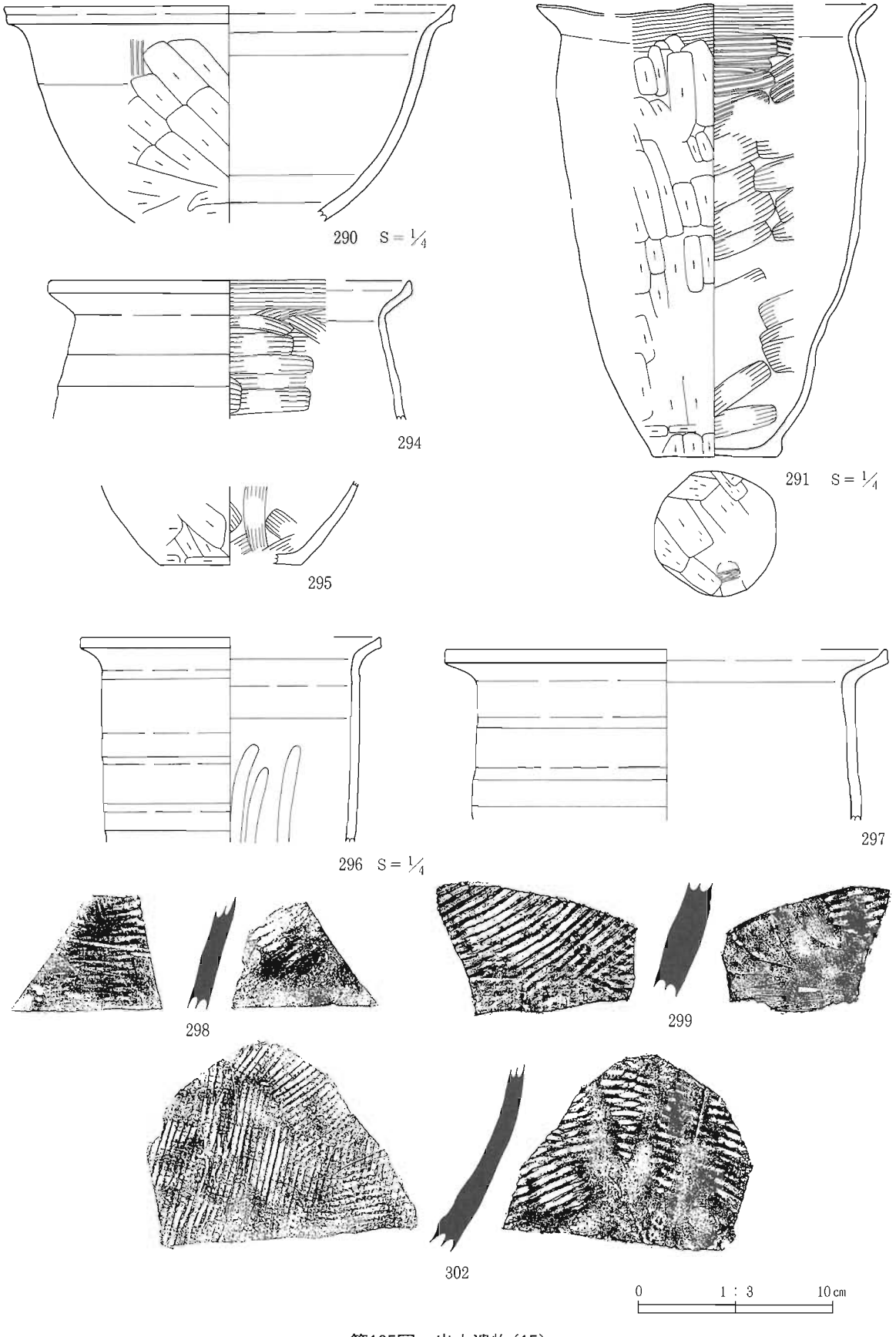


287

0　1：3　10cm

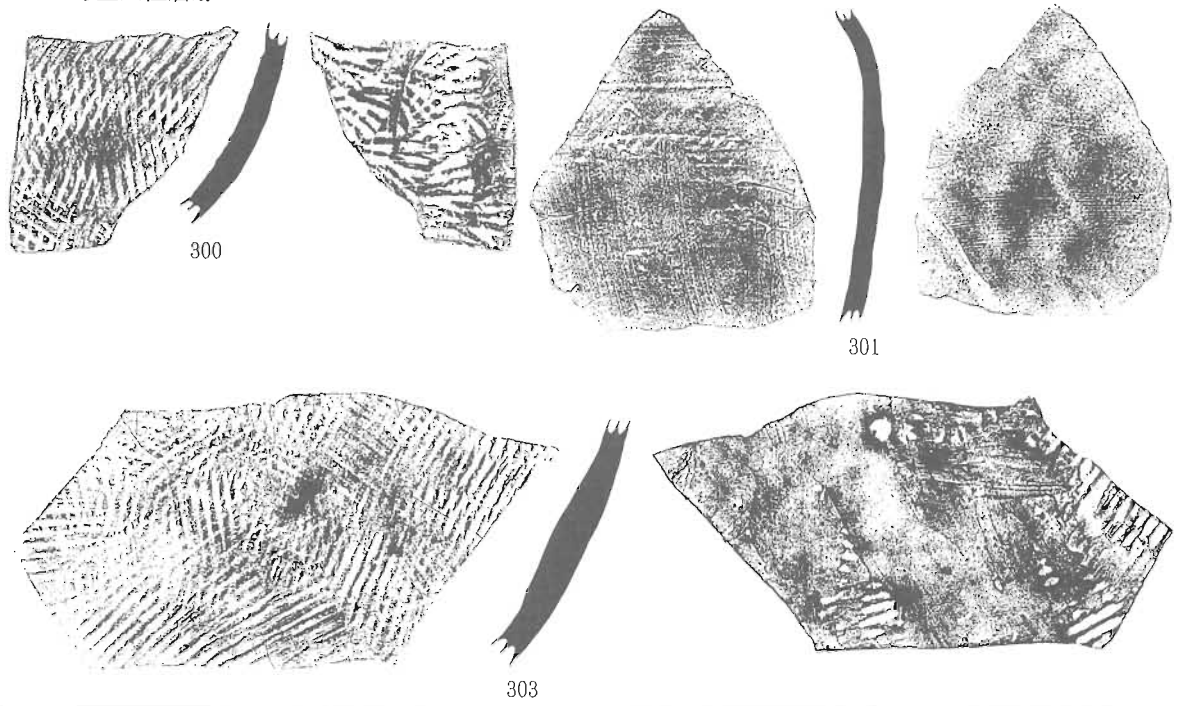
第194図　出土遺物(14)

21号竪穴住居跡

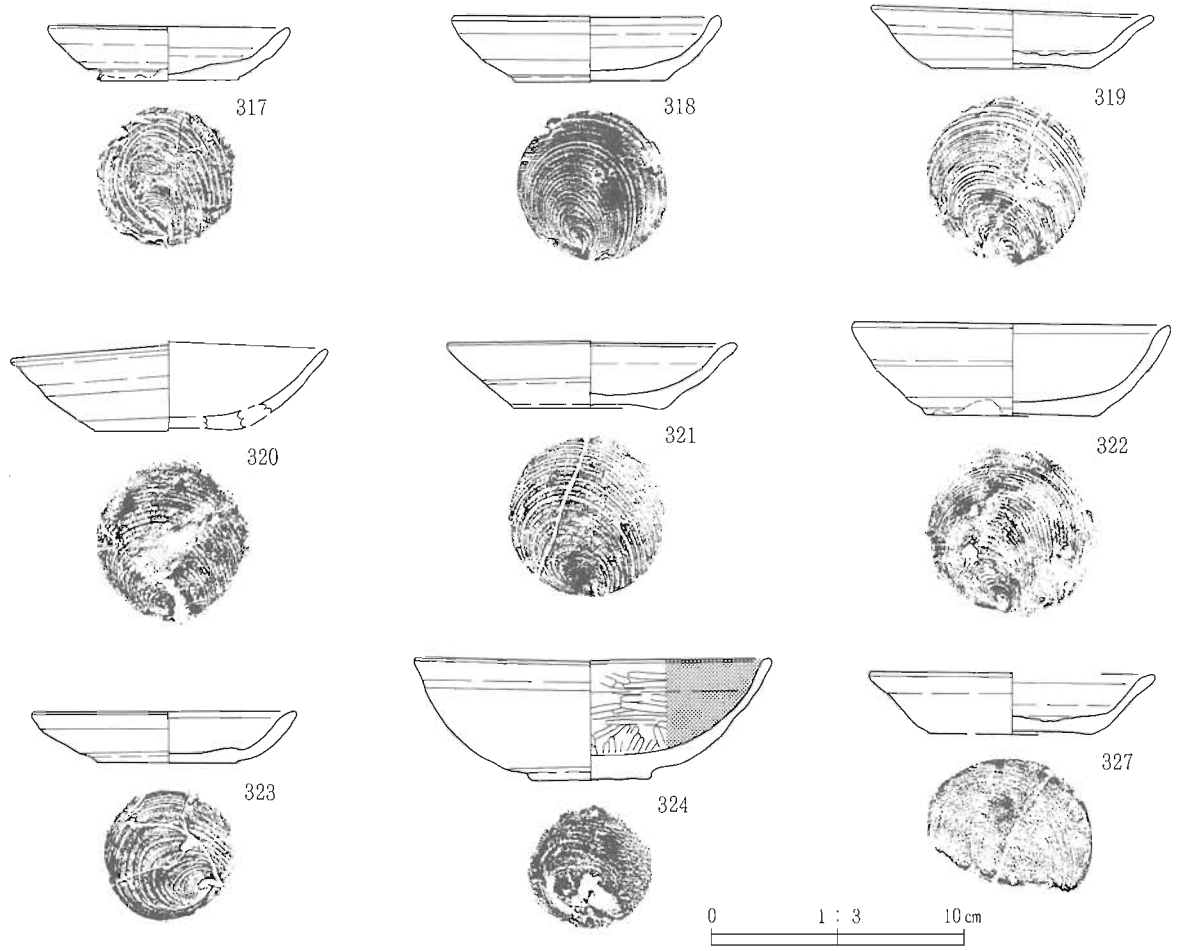


第195図　出土遺物(15)

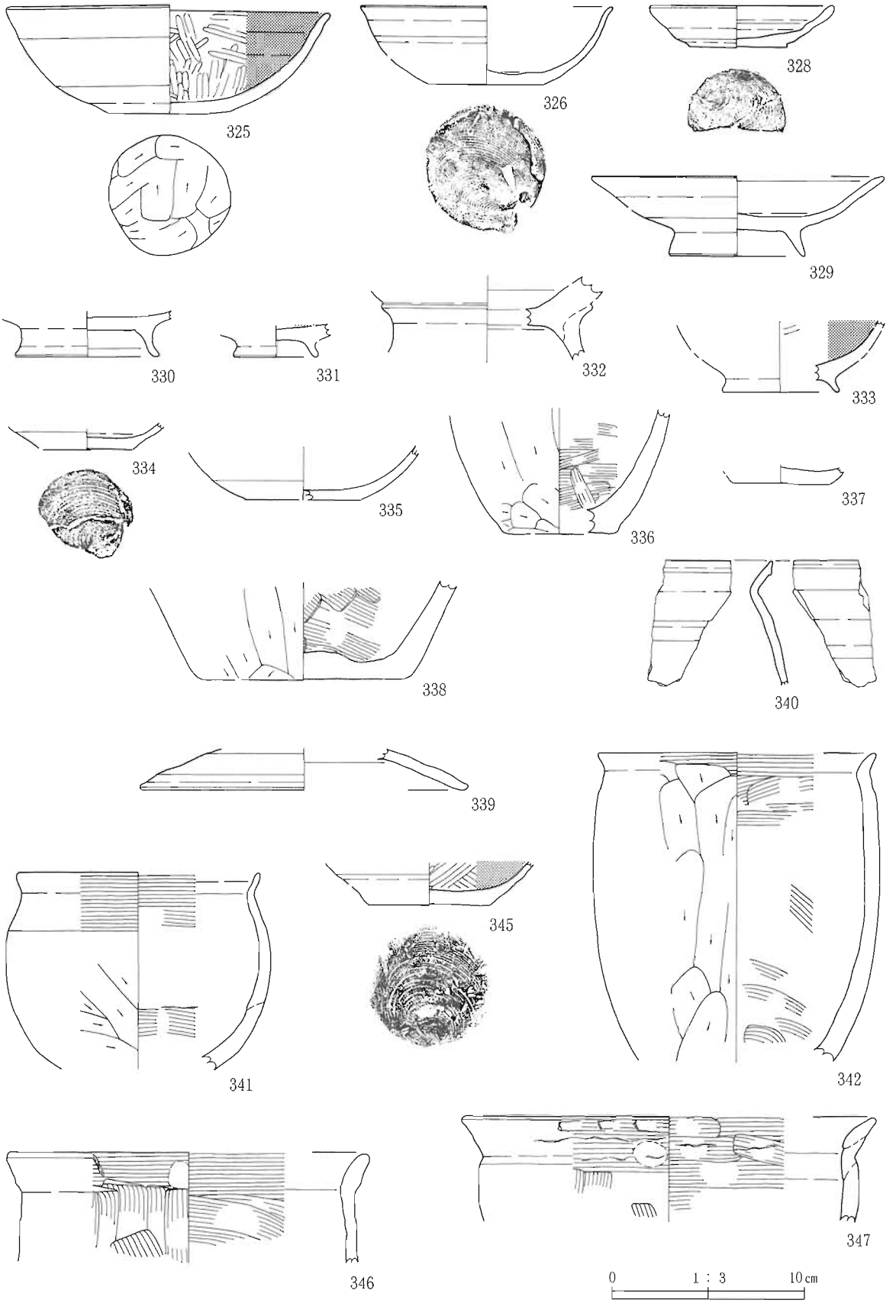
21号竪穴住居跡



1号工房跡

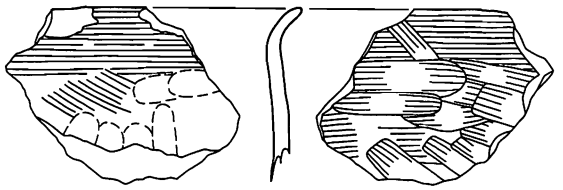


第196図　出土遺物(16)

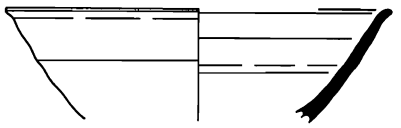


第197図　出土遺物(17)

1号工房跡

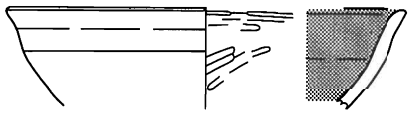


348

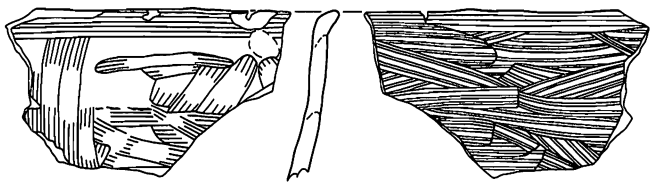


349

1号住居状遺構

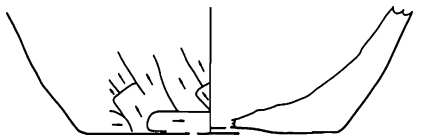


362



363

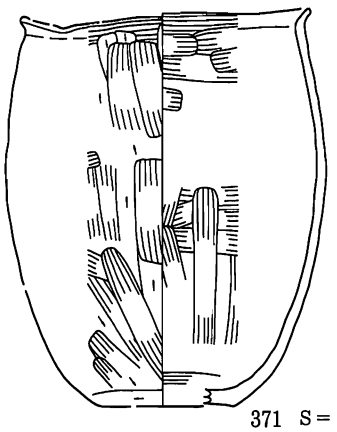
3号住居状遺構



364

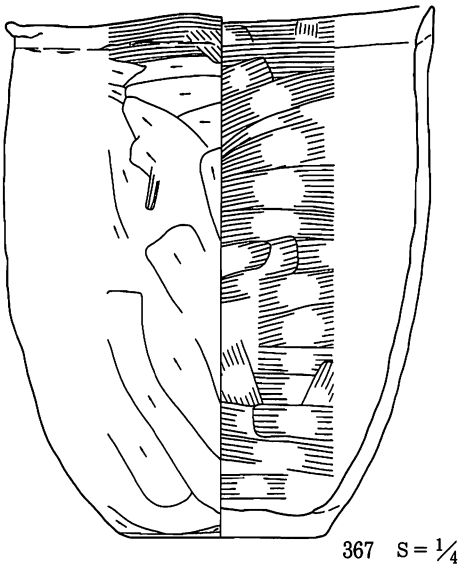
365

2号土器埋設遺構

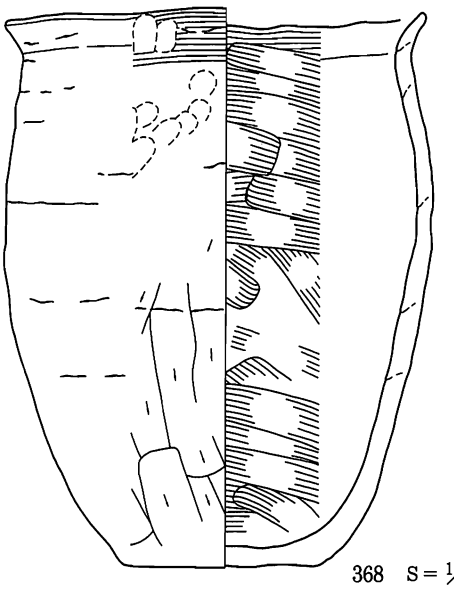


371 S＝1/6

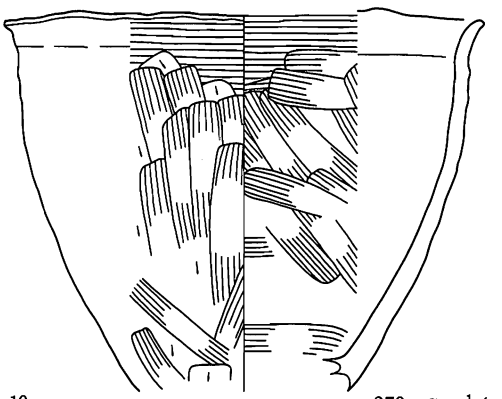
1号土器埋設遺構



367 S＝1/4



368 S＝1/4

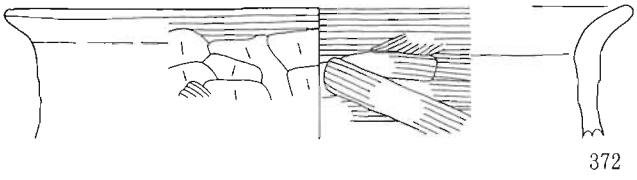


370 S＝1/4

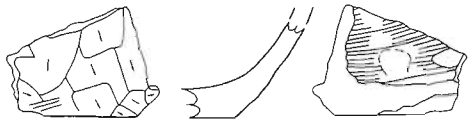
0 1：3 10cm

第198図　出土遺物(18)

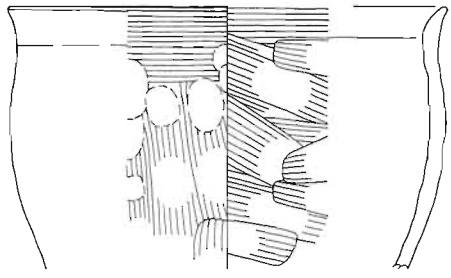
焼土遺構



372

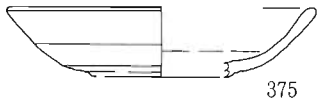


373



377

1号堀跡

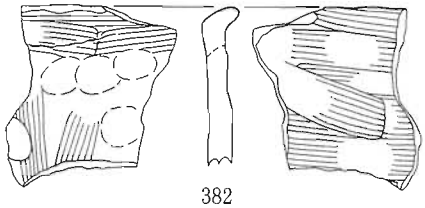


375

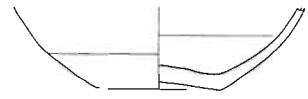
378

386

12号溝跡

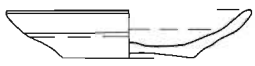


382

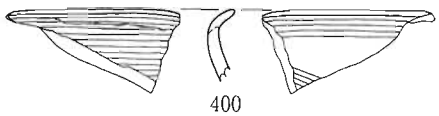


395

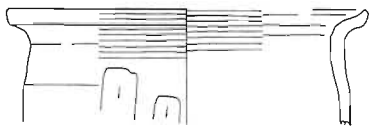
周溝



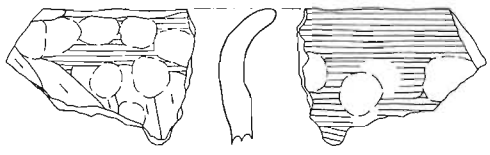
397



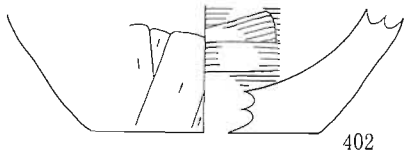
400



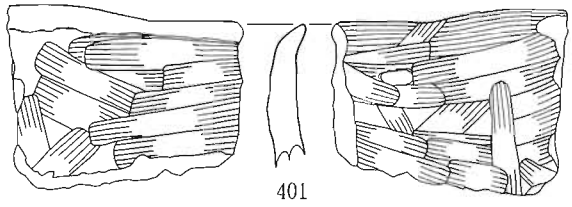
399



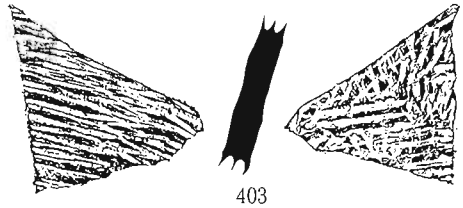
398



402



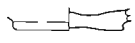
401



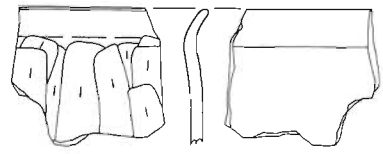
403

墓壙

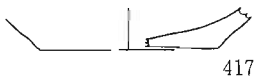
411



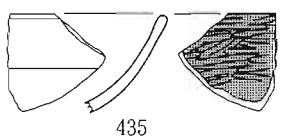
412



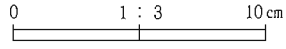
426



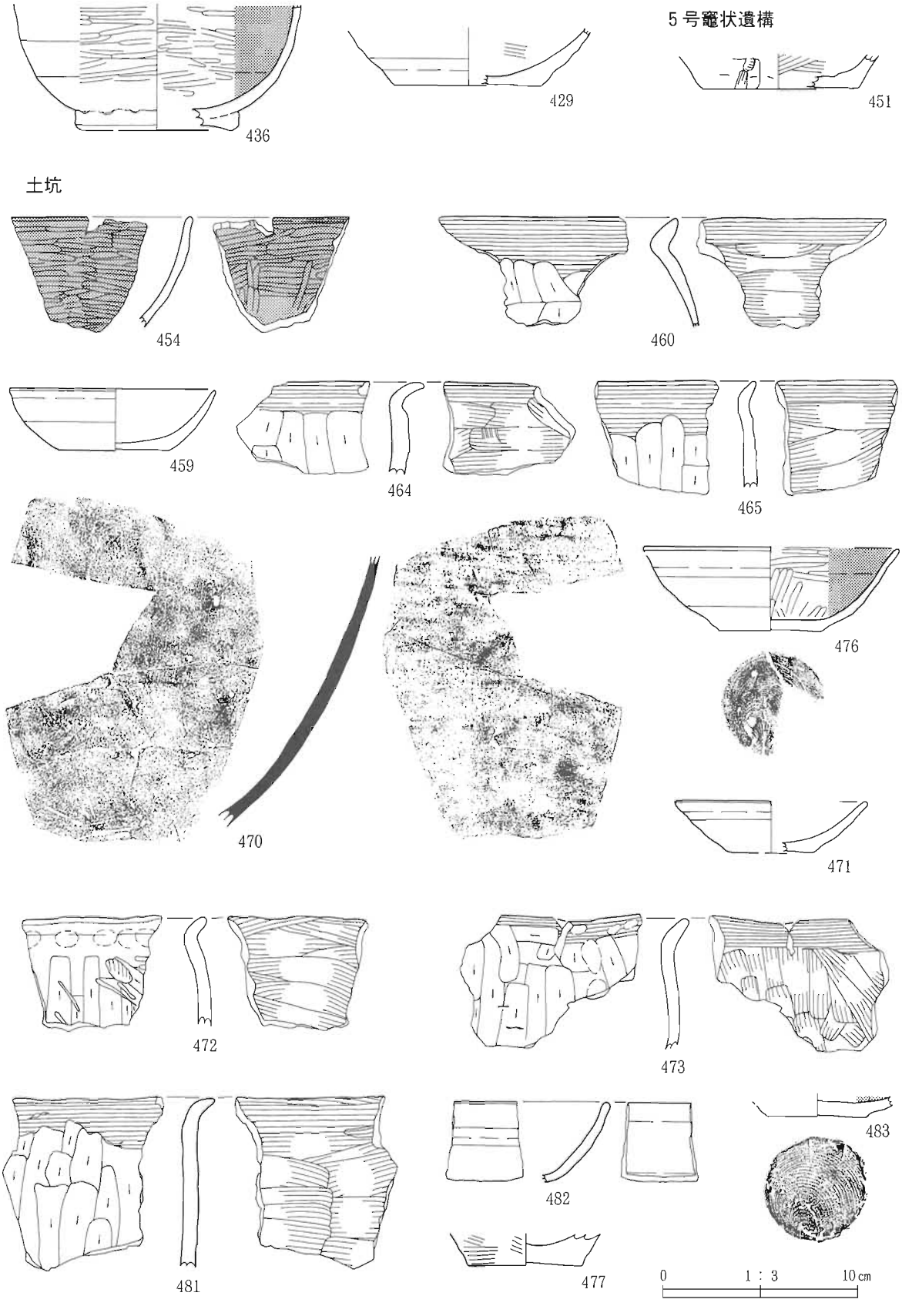
417



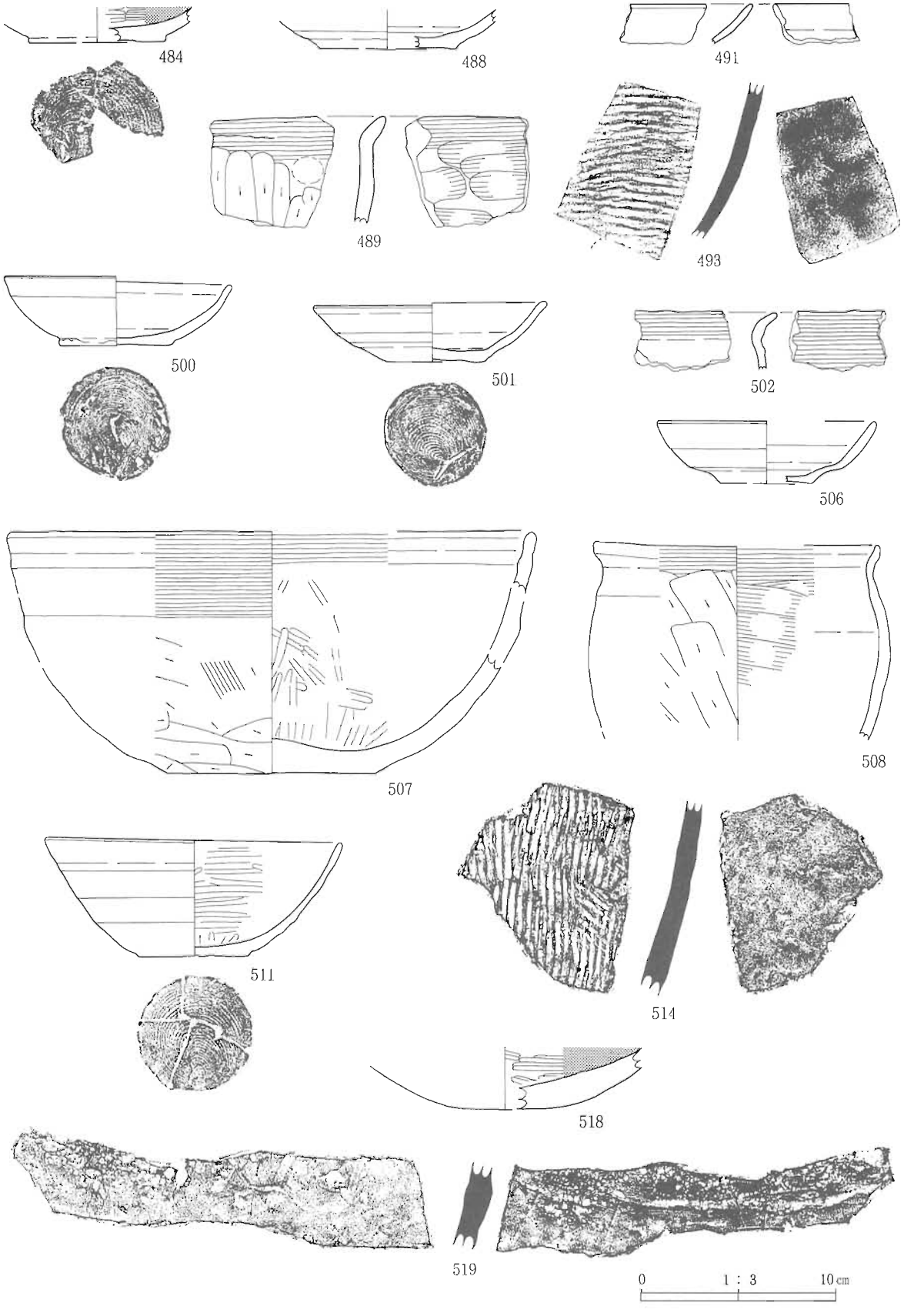
435



第199図　出土遺物(19)

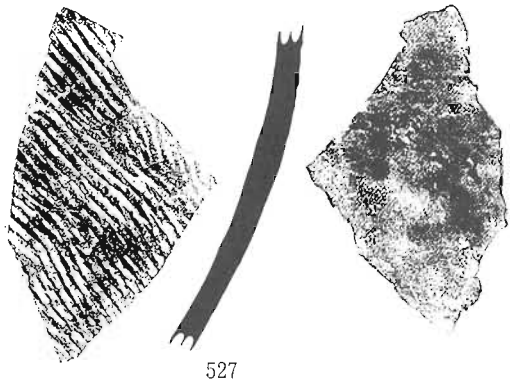


第200図　出土遺物(20)

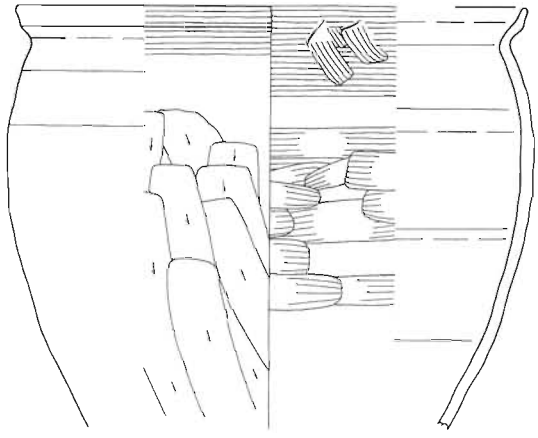


第201図　出土遺物(21)

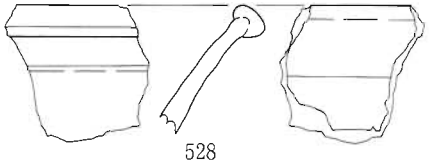
柱穴状土坑



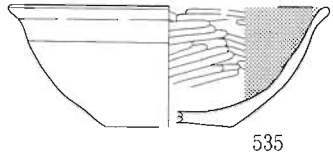
527



549



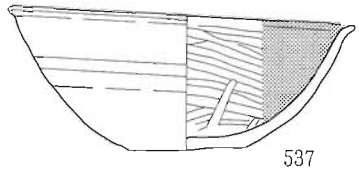
528



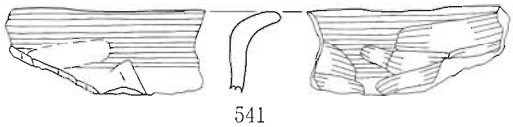
535

529

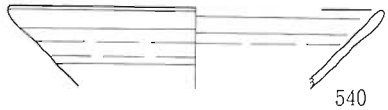
533



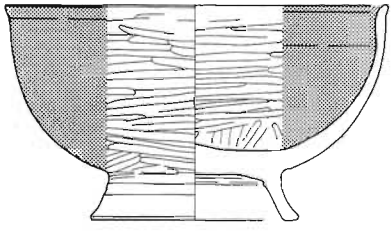
537



541

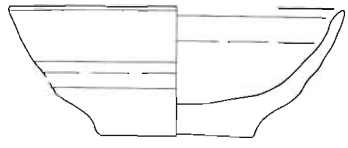


540



547

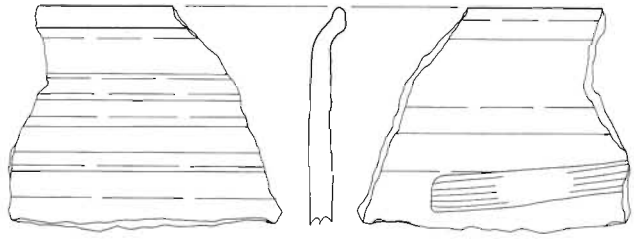
550



567

遺構外

568

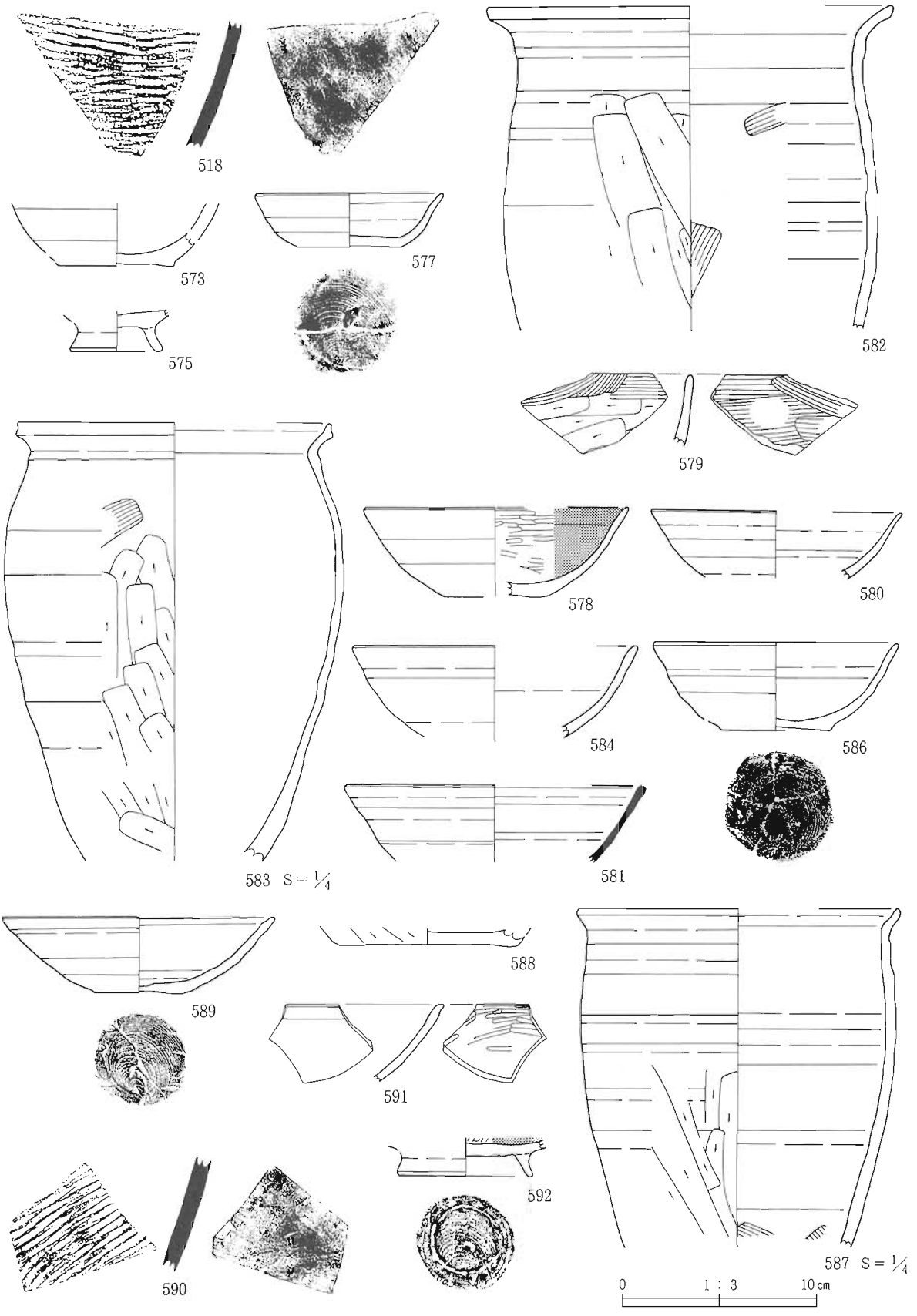


569

0 1：3 10cm

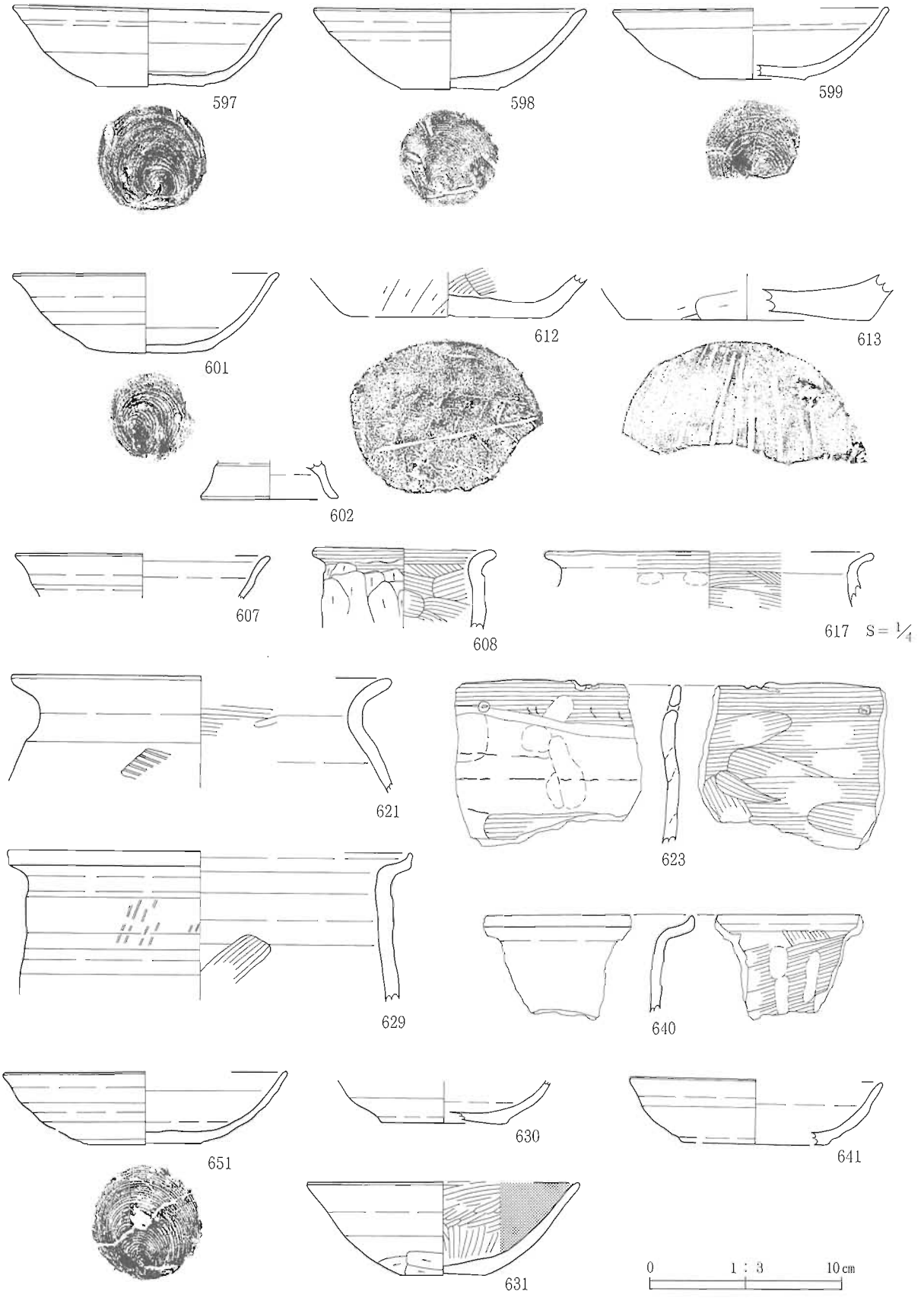
第202図　出土遺物(22)

遺構外



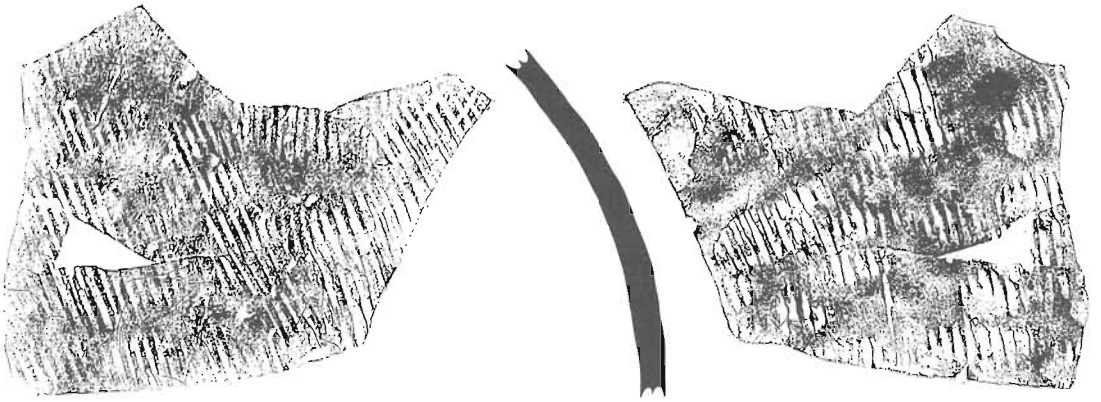
第203図　出土遺物(23)

遺構外

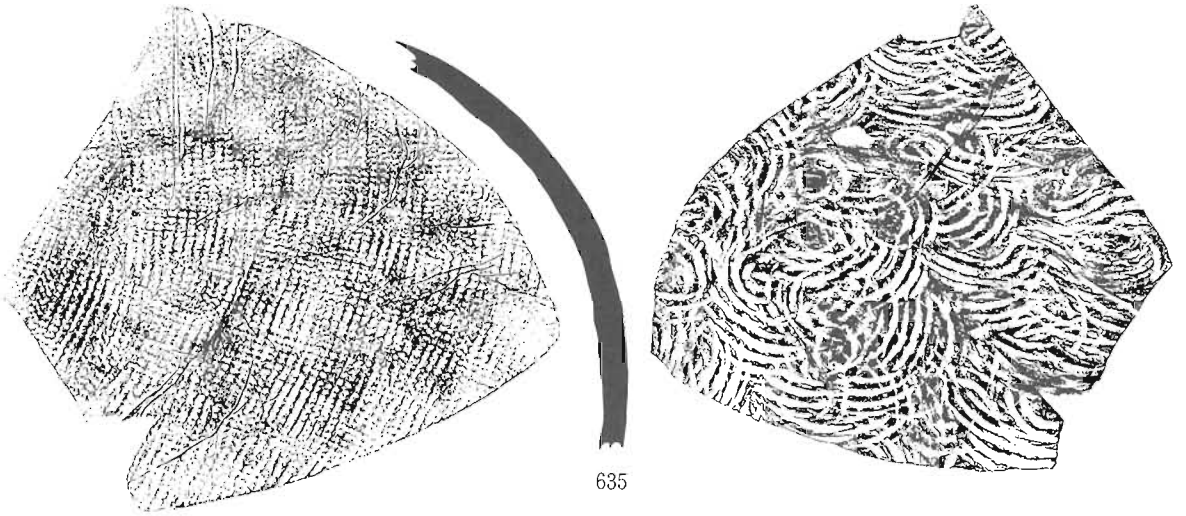


第204図　出土遺物(24)

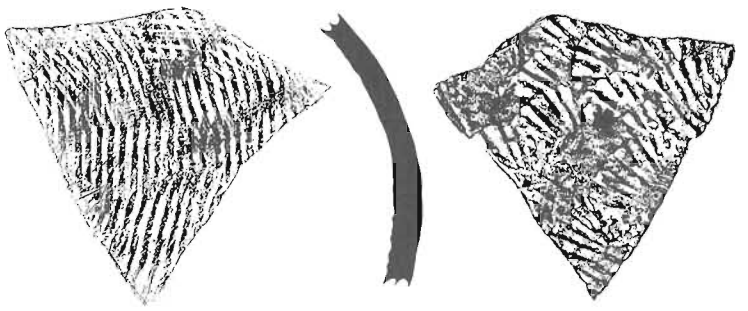
遺構外



634



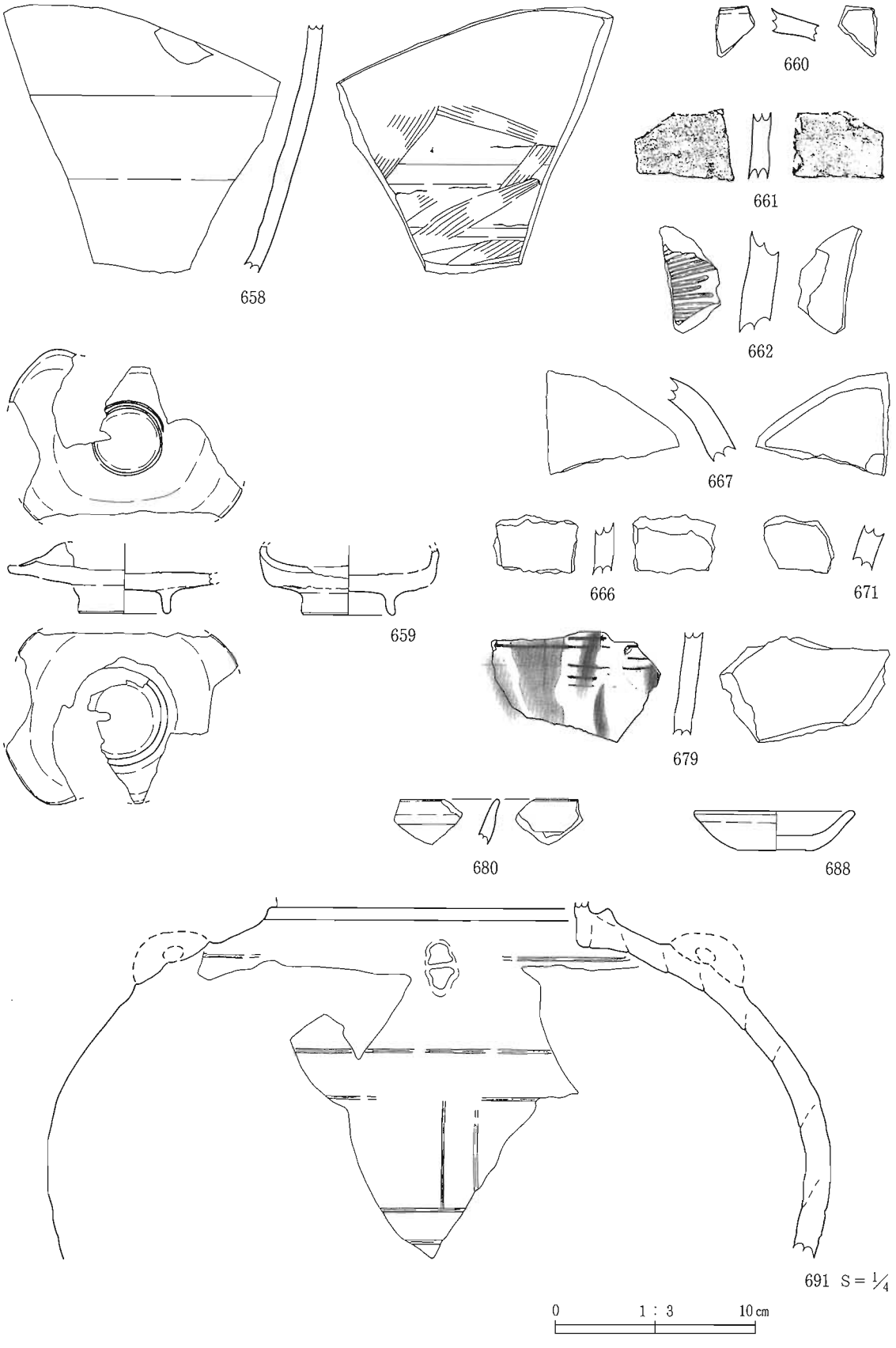
635



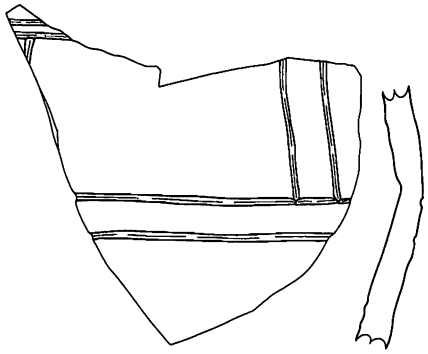
636

0　1：3　10cm

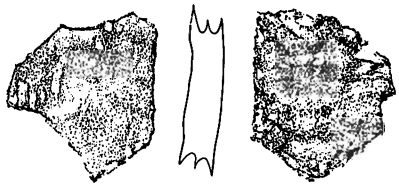
第205図　出土遺物(25)



第206図　出土遺物(26)　国産陶磁器 1

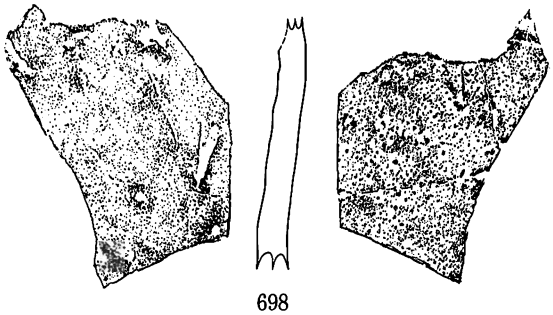


696

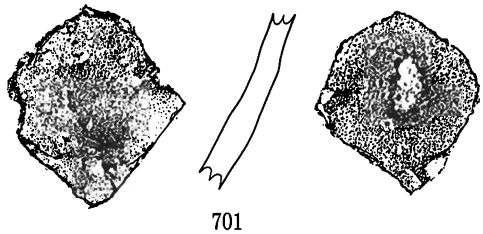


699

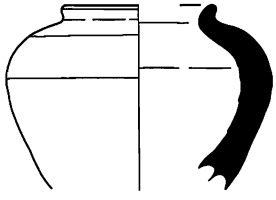
700



698



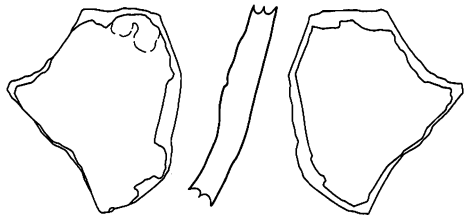
701



702

703

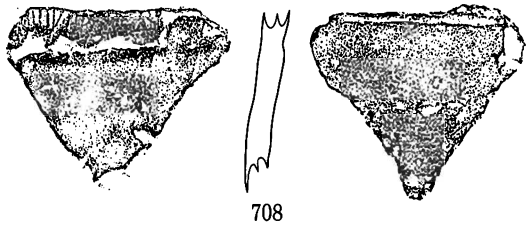
704



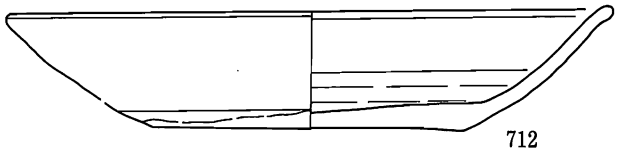
705

707

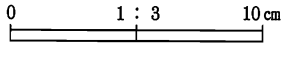
711



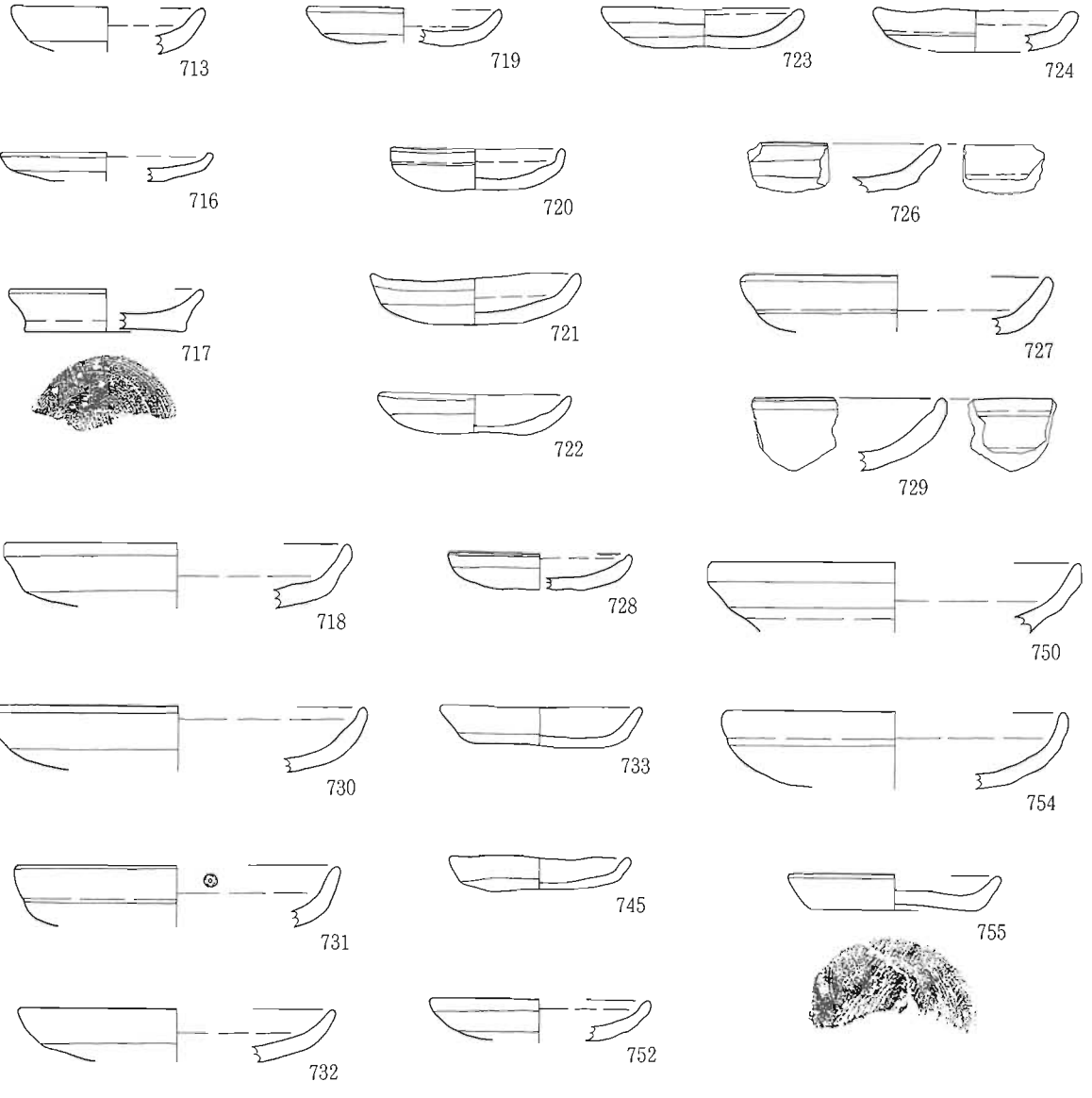
708



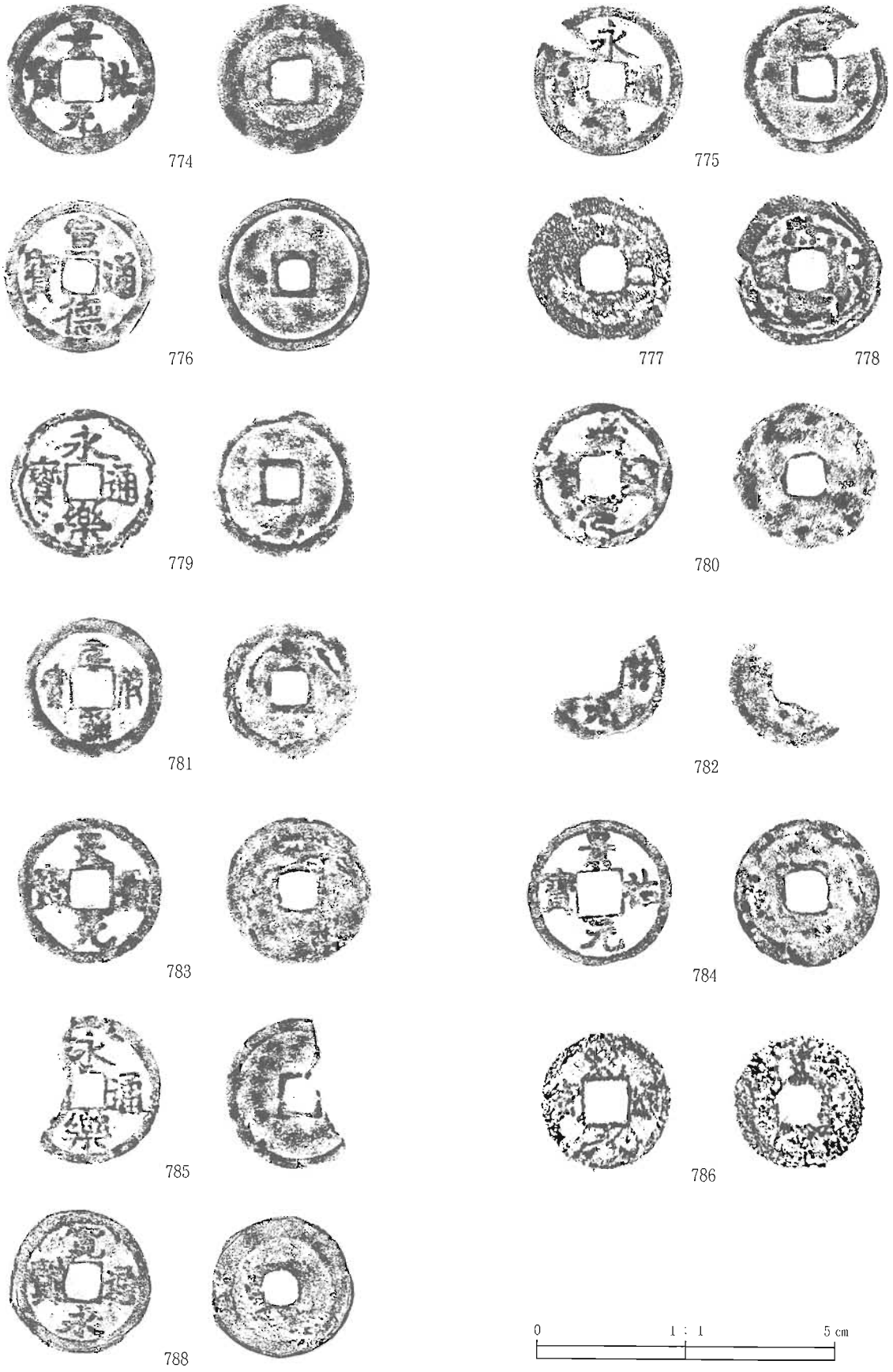
712



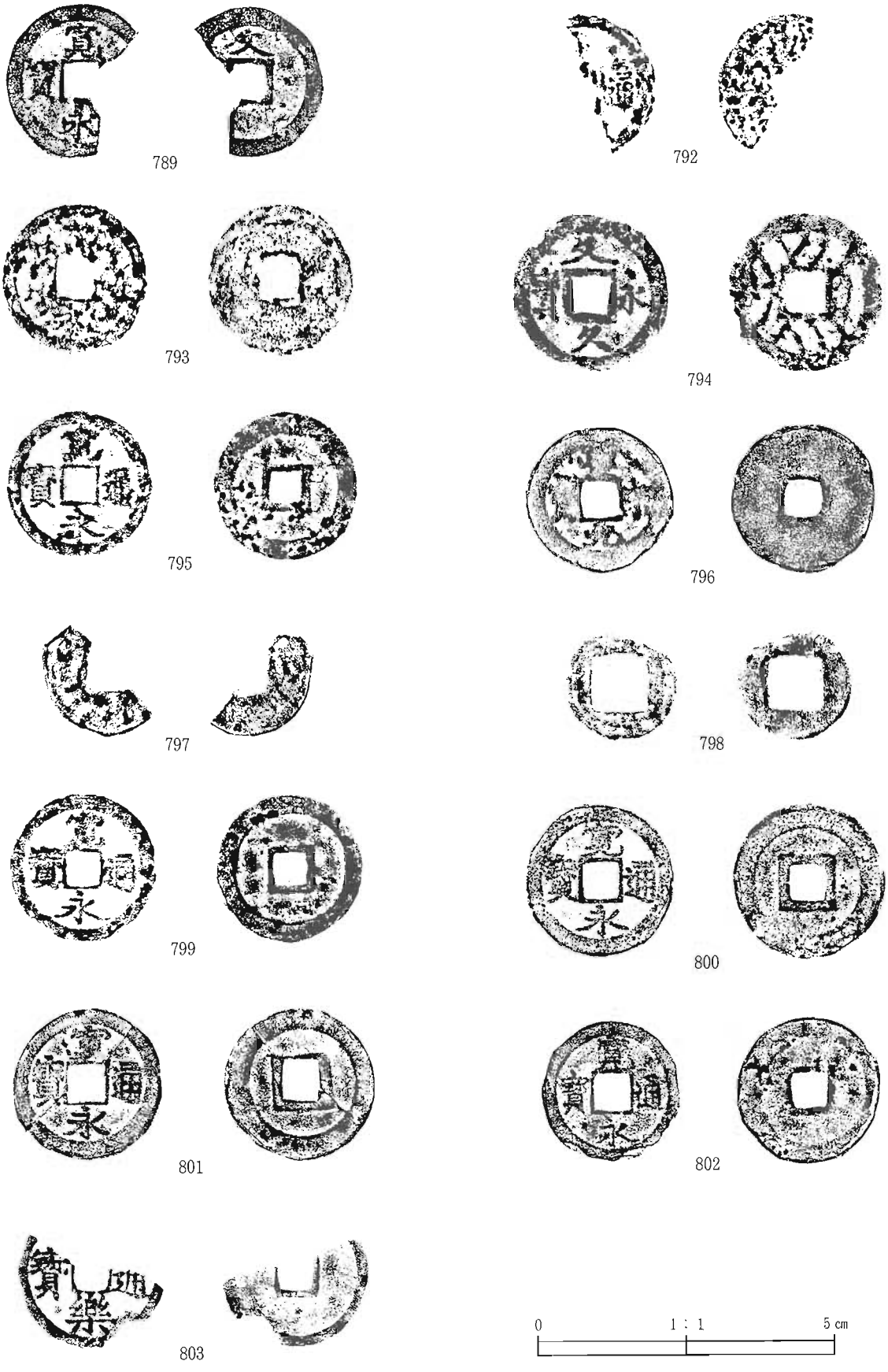
第207図　出土遺物(27)　国産陶磁器 2



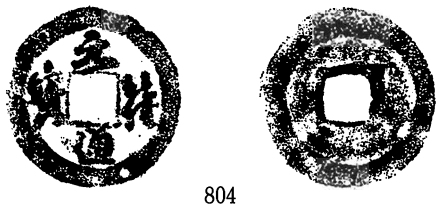
第208図　出土遺物(28)　かわらけ・中国産陶磁器



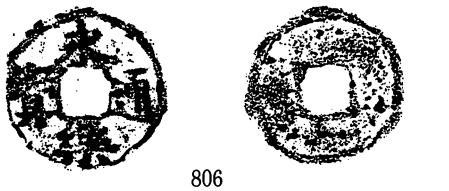
第209図　出土遺物(29)　古銭 1

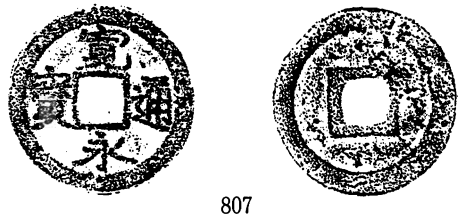


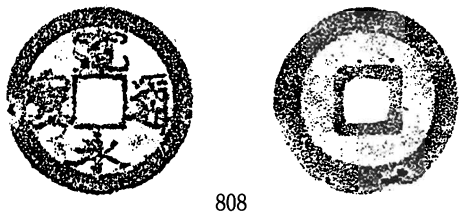
第210図　出土遺物(30)　古銭 2

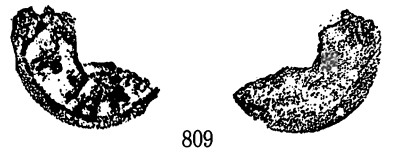

804

805

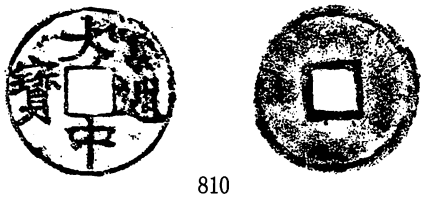

806

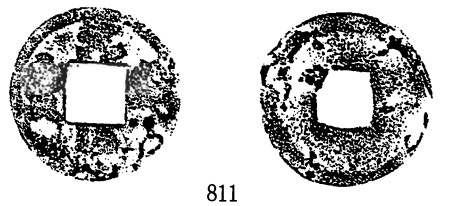

807

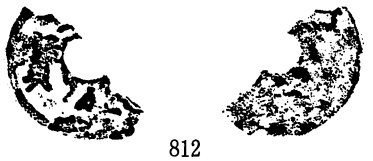

808

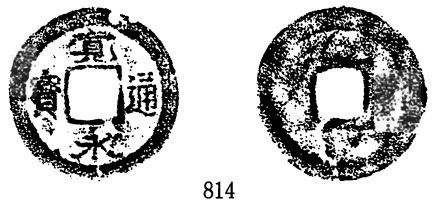

809

遺構外

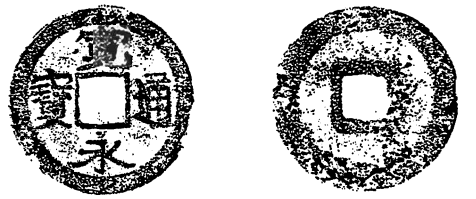

810

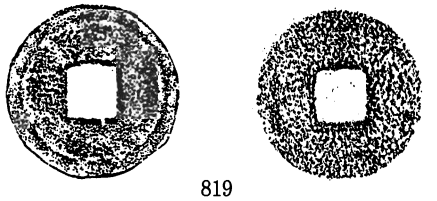

811

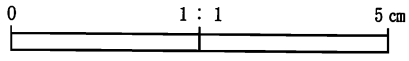

812


814

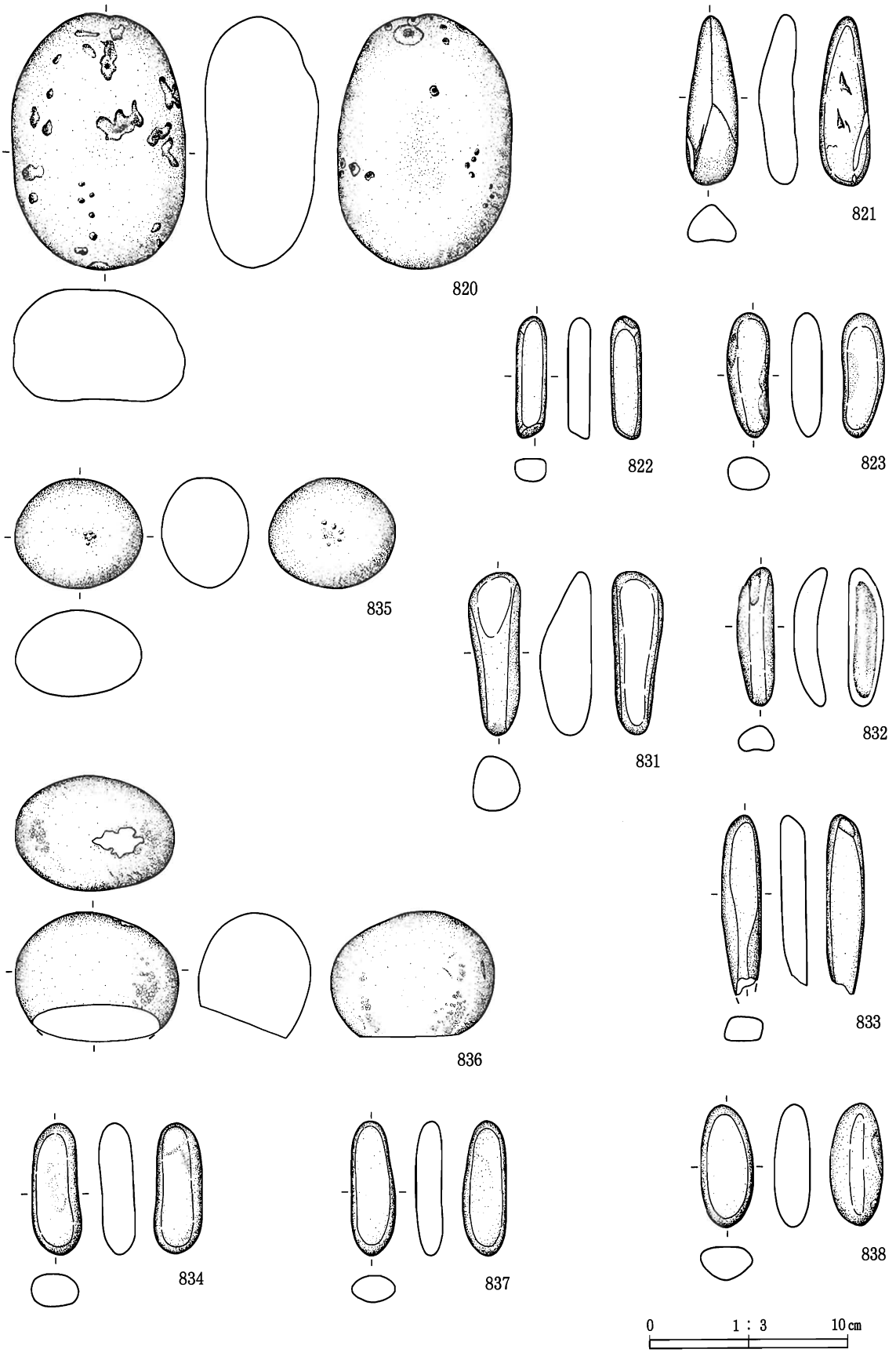
815


818

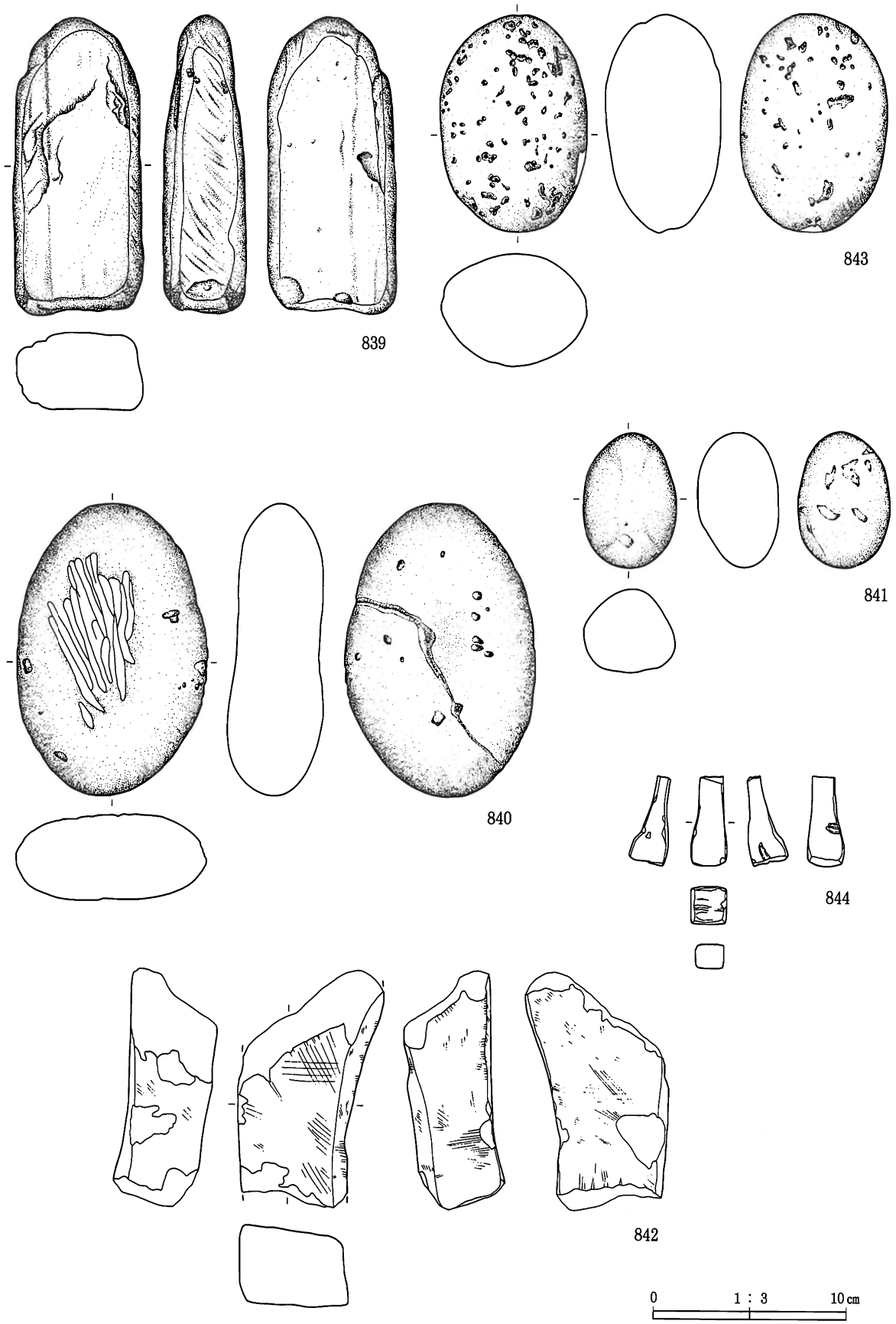

819



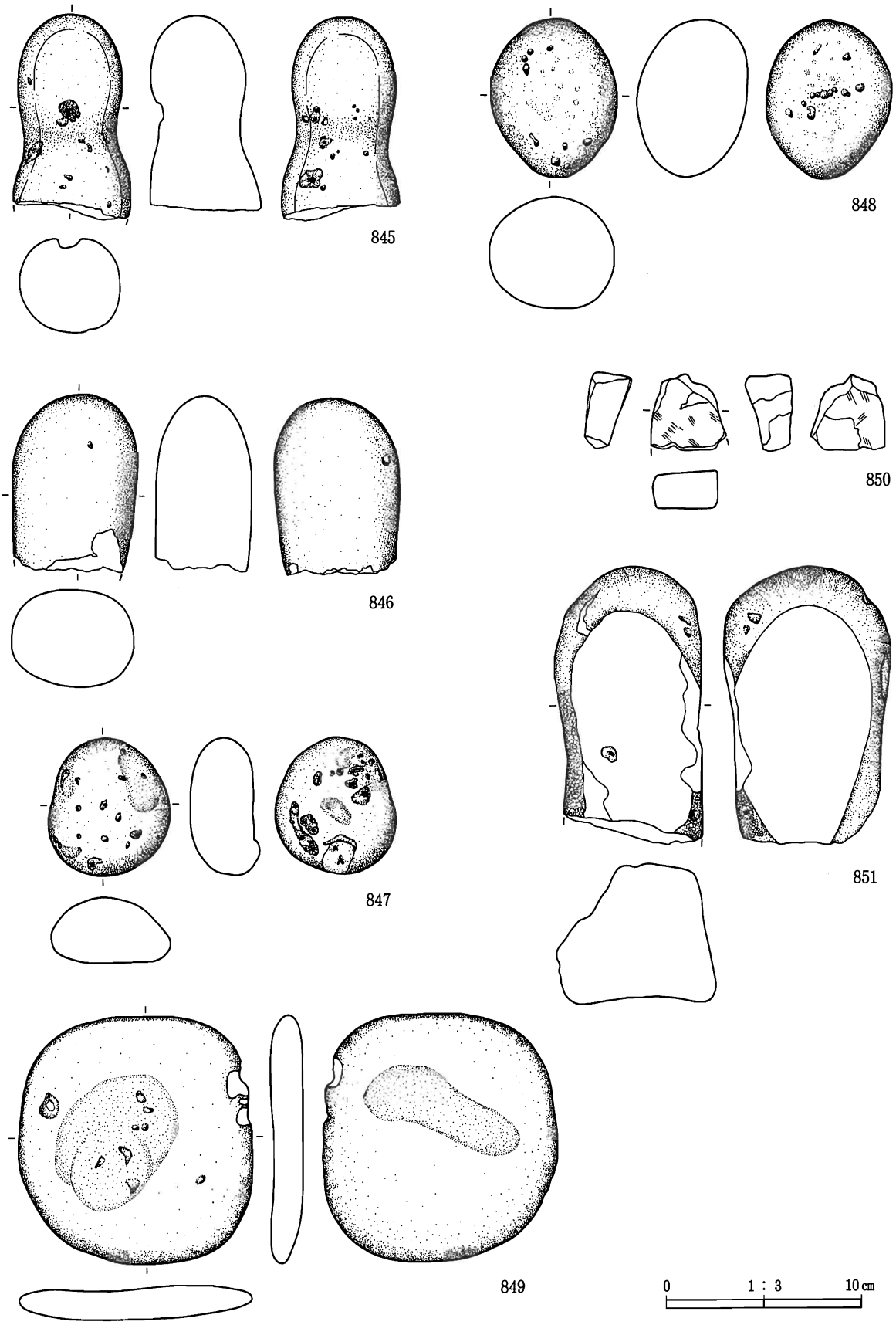
第211図　出土遺物(31)　古銭 3



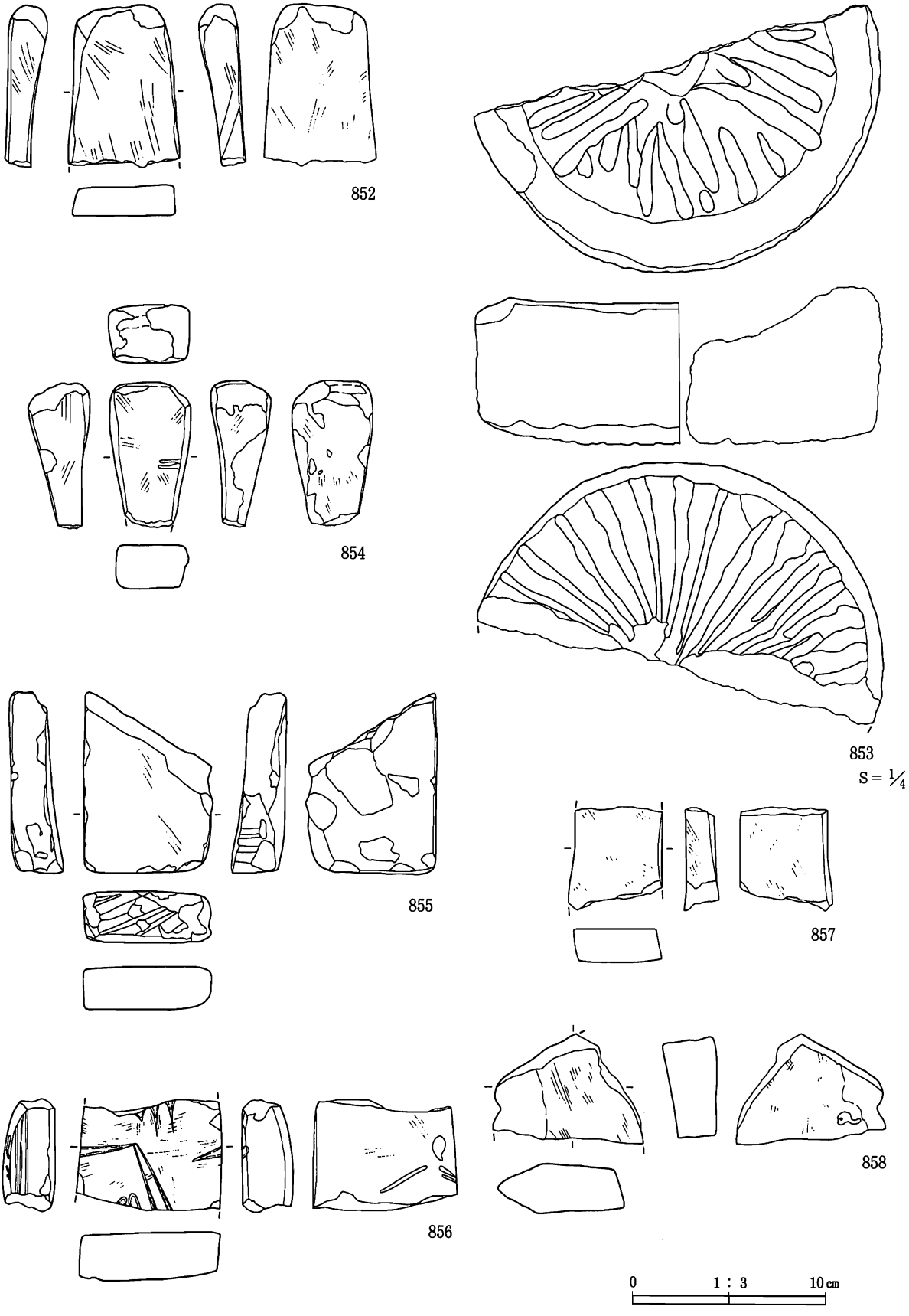
第212図　出土遺物(32)　石製品・石器 1



第213図　出土遺物(33)　石製品・石器 2

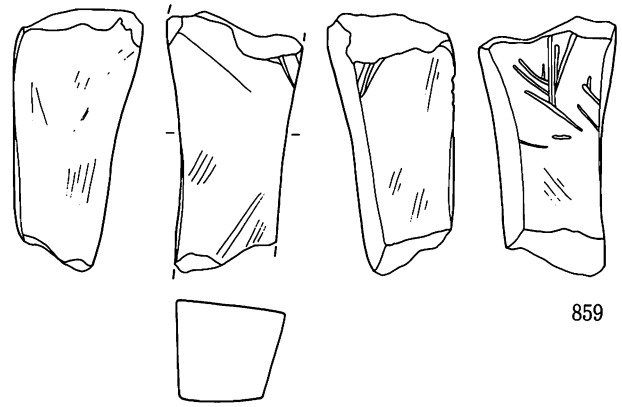


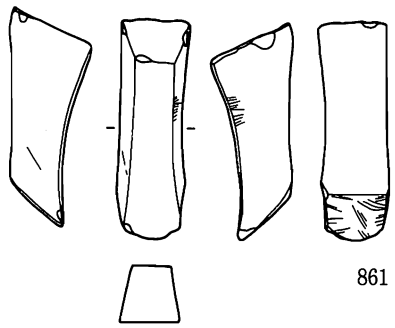
第214図　出土遺物(34)　石製品・石器 3

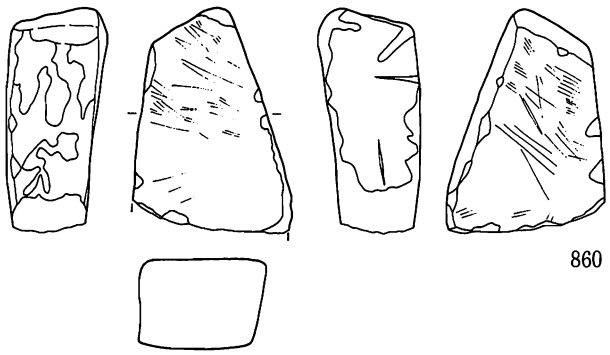


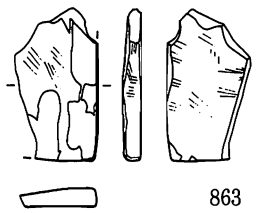
第215図　出土遺物(35)　石製品・石器 4

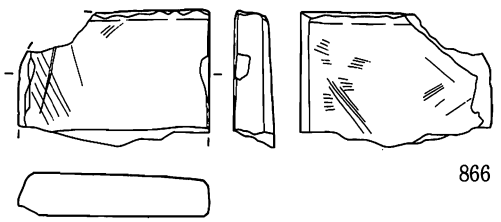
遺構外

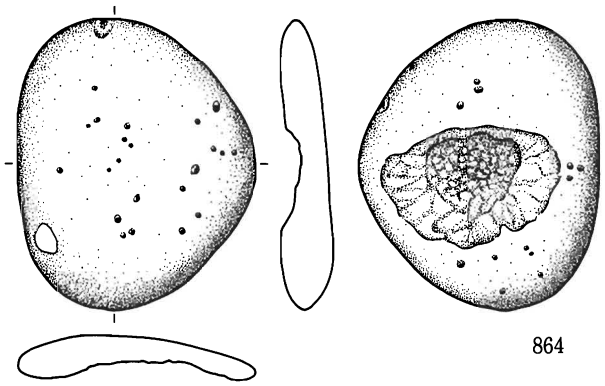


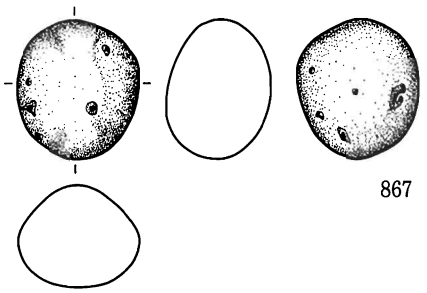


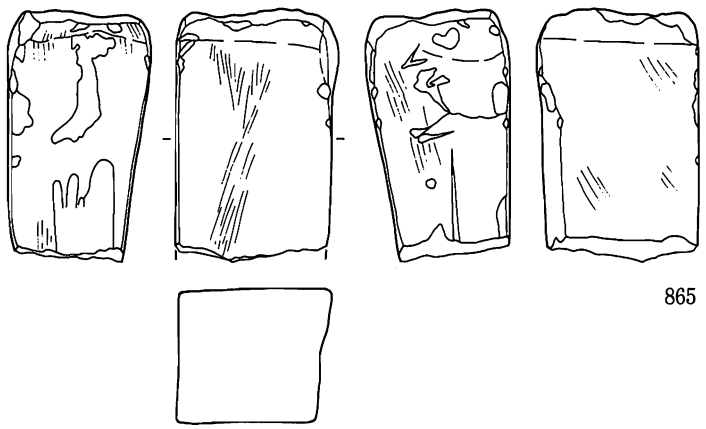


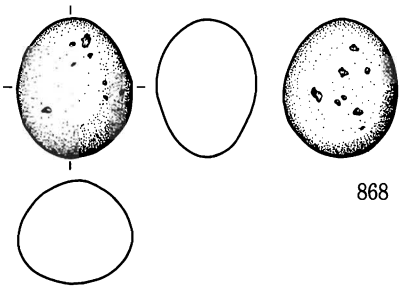


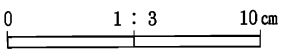






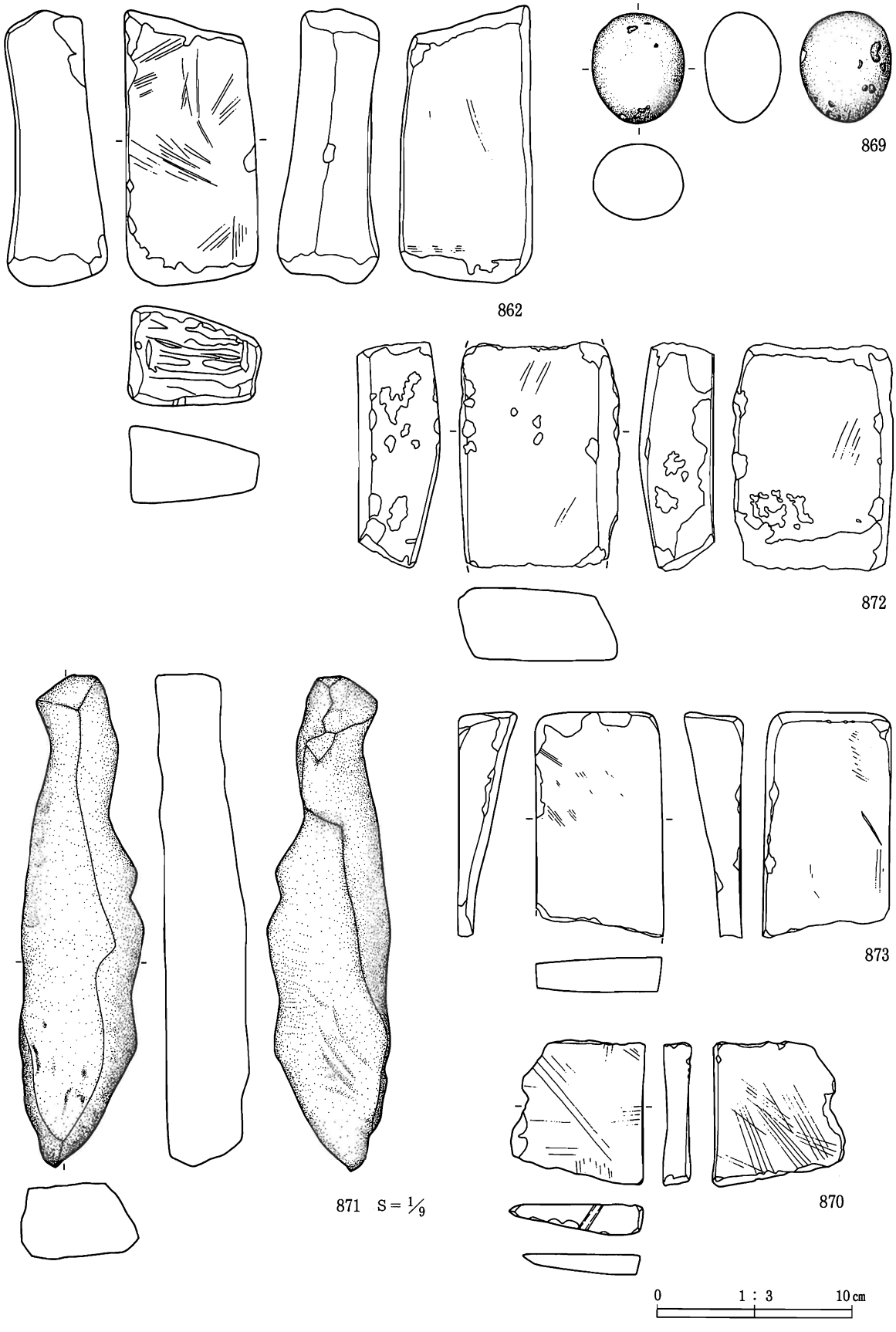




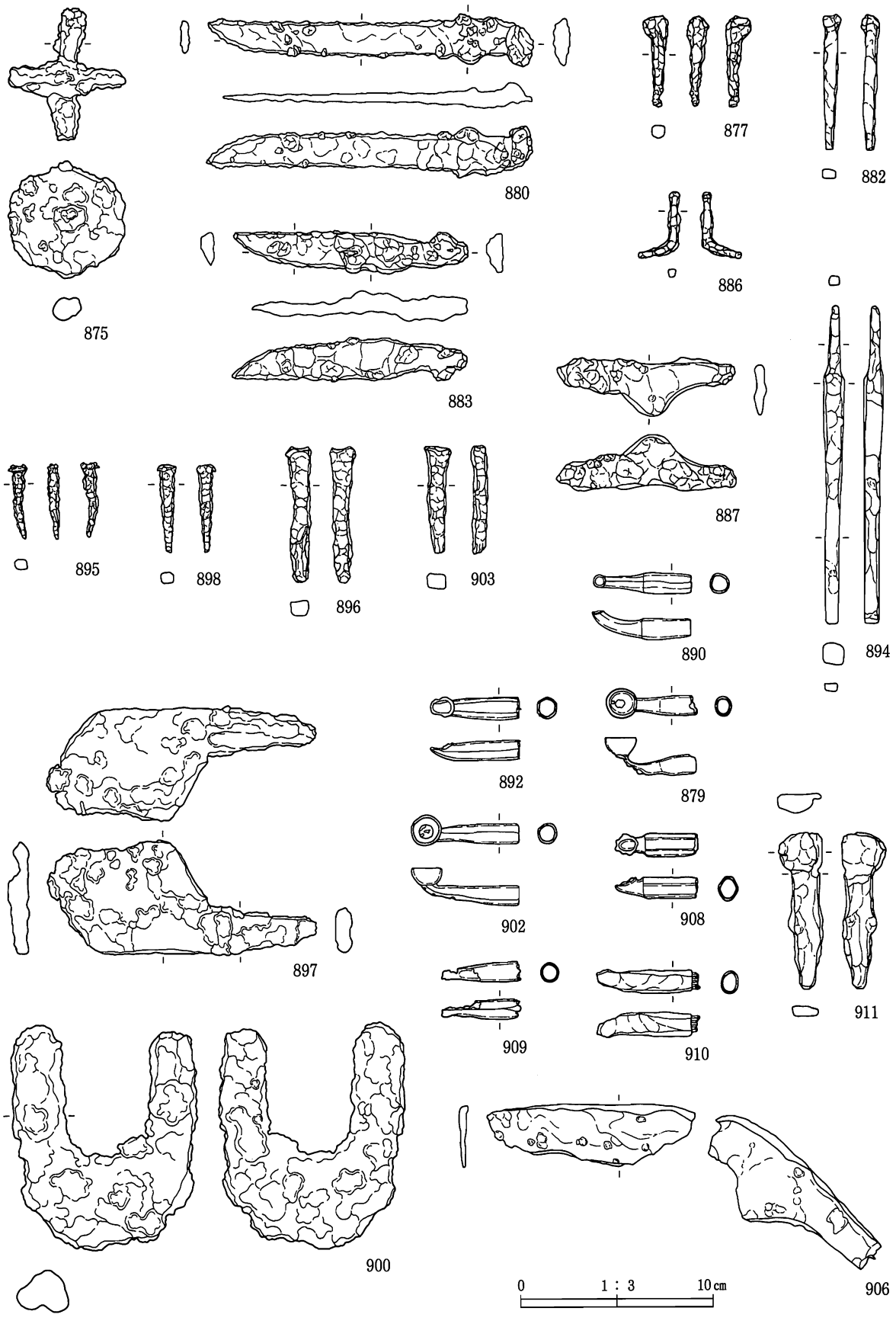


第216図　出土遺物(36)　石製品・石器 5

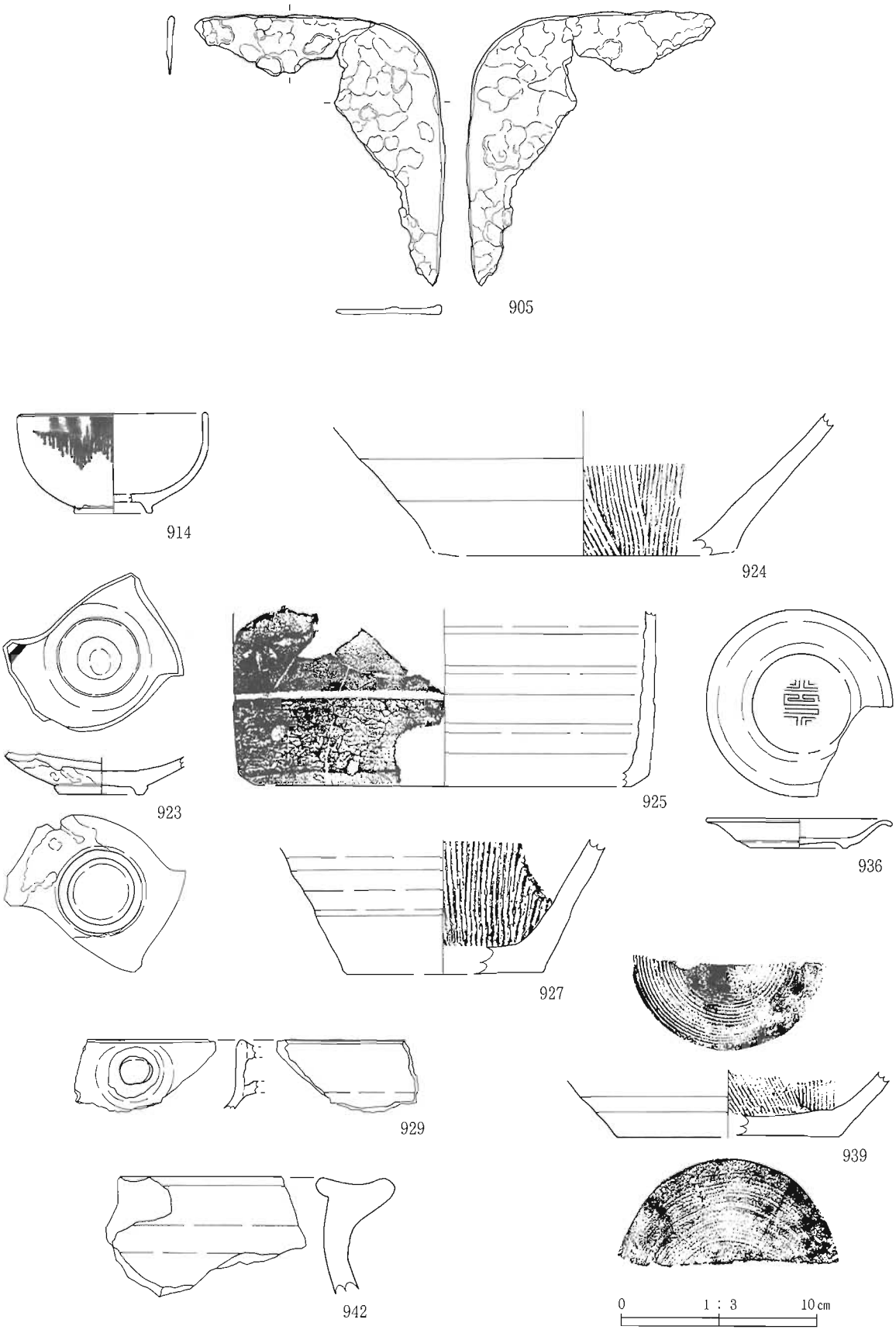
遺構外



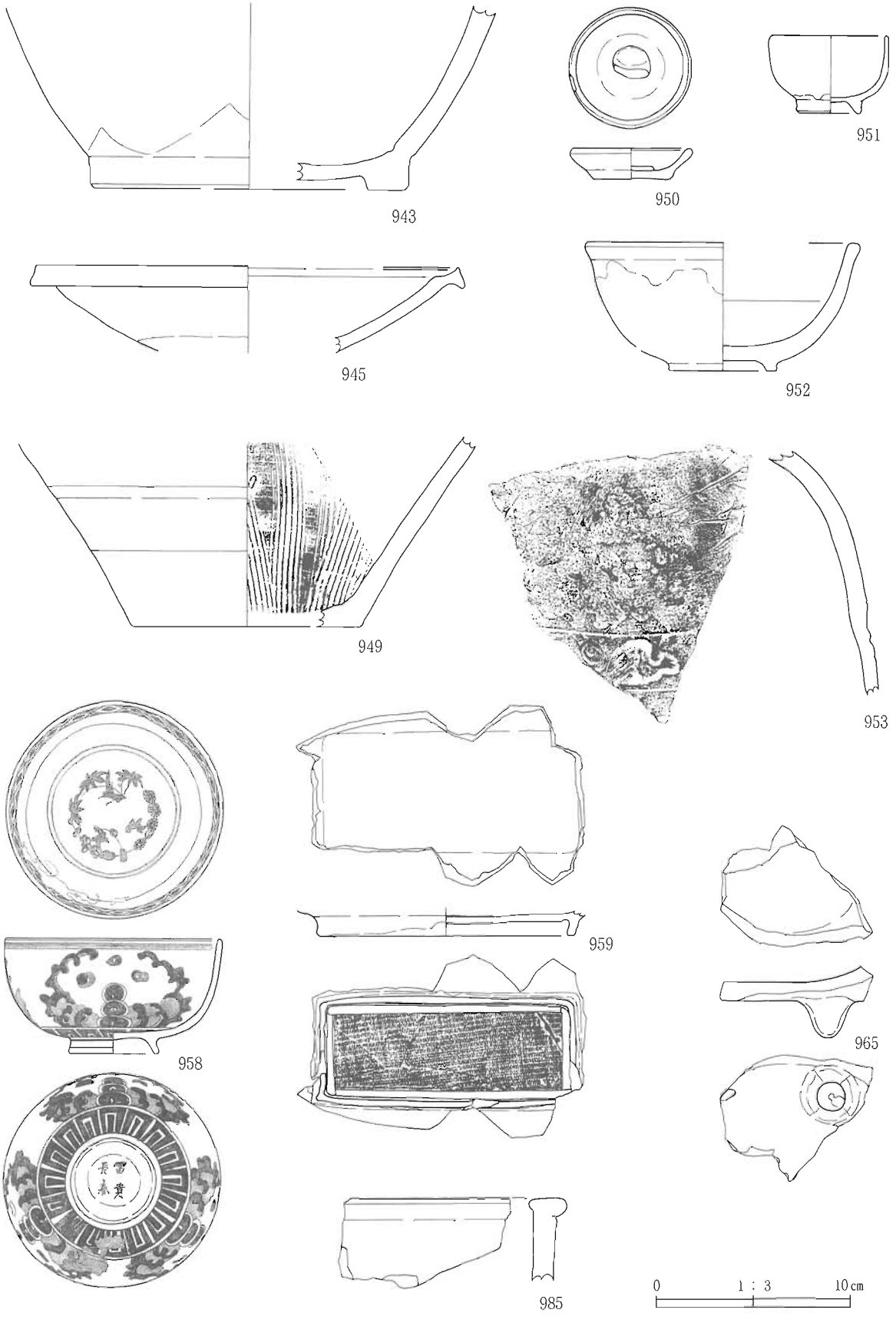
第217図　出土遺物(37)　石製品・石器 6



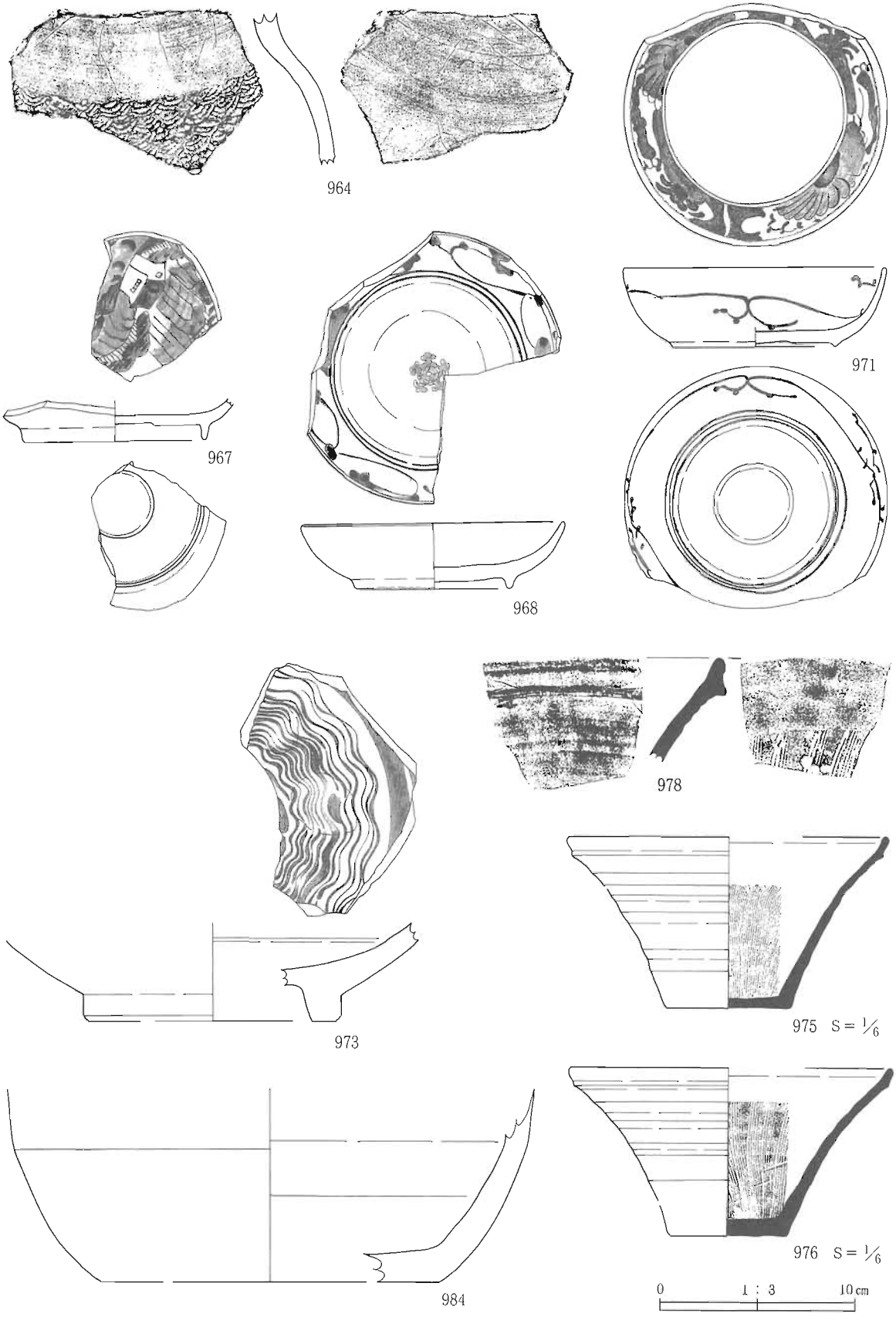
第218図　出土遺物(38)　鉄製品 1



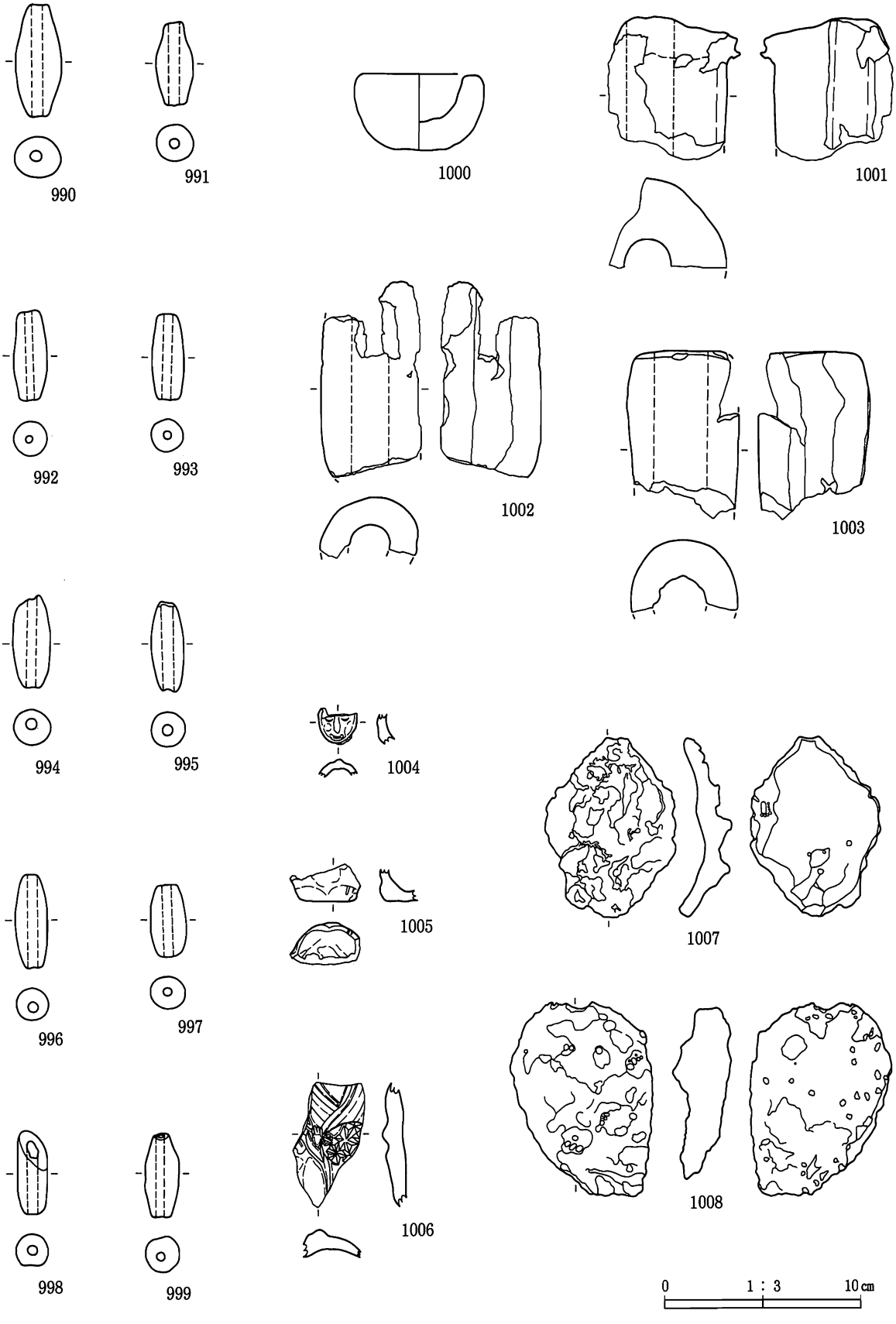
第219図　出土遺物(39)　鉄製品２、国産陶器・染付１



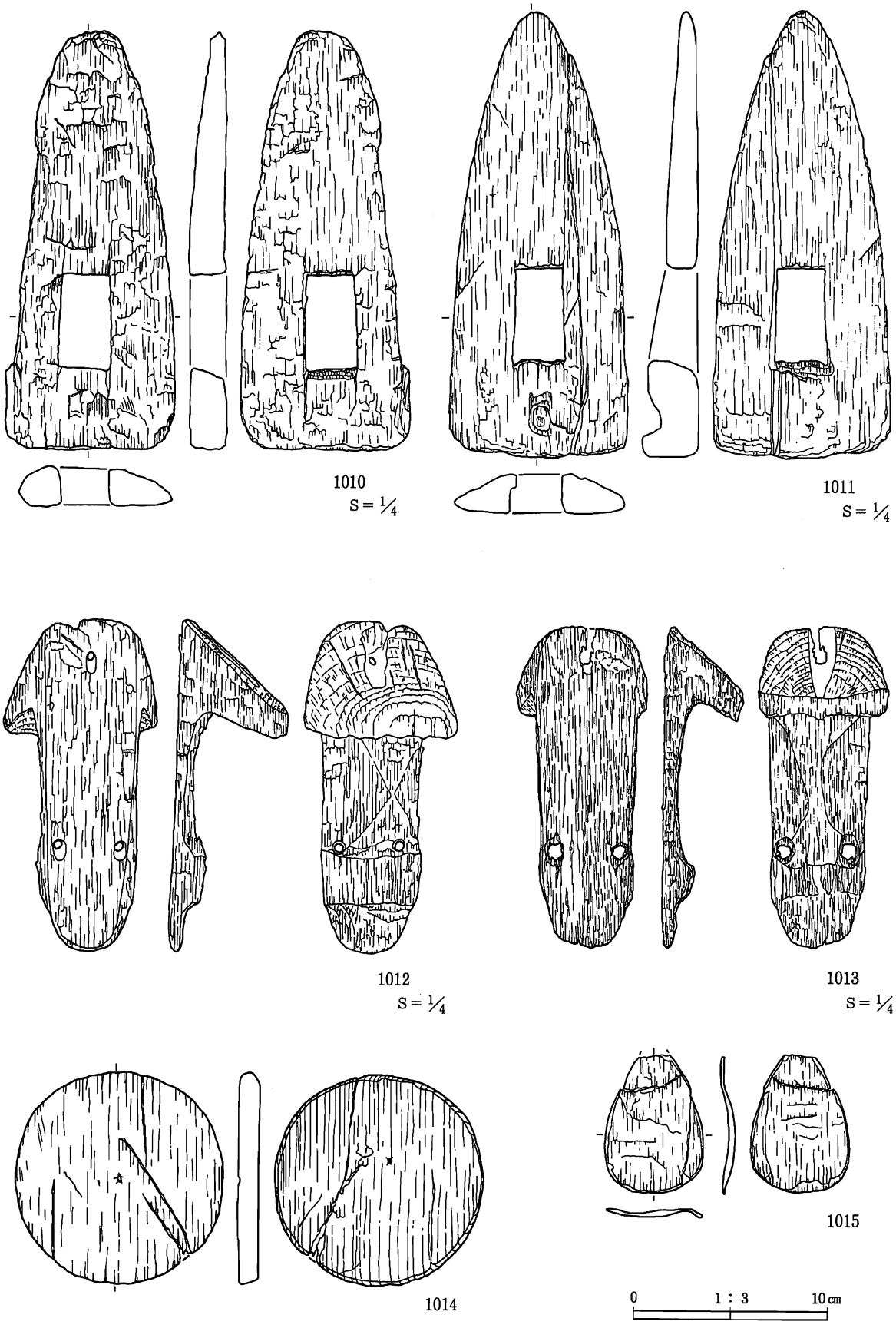
第220図　出土遺物(40)　国産陶器・染付 2



第221図　出土遺物(41)　国産陶器・染付 3



第222図　出土遺物(42)　土製品・坩堝・フイゴの羽口・鉄滓



第223図　出土遺物(43)　木製品

第30表　土器観察表（1）

（　）は推定値、〈　〉は残存値

遺物No.	器　種	出土地点	口径cm	底径cm	器高cm	備　　考	分 類
1	坏	1号住居跡	(15.0)	5.5	5.2	口縁～底部片、回転糸切り	AIa
2	甕	1号住居跡	(20.9)	—	〈13.4〉	口縁～胴部片	AII
3	坏	2号住居跡	15.4	6.4	4.8	口縁～底部片、内面黒色処理、回転糸切り	AIIa
4	坏	2号住居跡	14.6	6.6	4.4	口縁～底部片、底部ケズリ	AIb
5	坏	2号住居跡	—	5.8	〈3.3〉	胴～底部片、回転糸切り	AIa
6	坏	2号住居跡	—	5.7	〈1.9〉	胴下～底部片、内面黒色処理、回転糸切り	AIIa
7	坏	2号住居跡	(12.9)	(6.3)	3.8	口縁～底部片、回転糸切り	AIa
8	甕	2号住居跡	17.0	8.0	13.1	口縁～底部片、回転糸切り	AI
9	甕	2号住居跡	—	(8.0)	〈18.5〉	胴上～底部片、外面ケズリ、胴上・内面ナデ、底部ケズリ	AII
10	甕	2号住居跡	(17.0)	9.0	〈26.0〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AI
11	甕	2号住居跡	(23.4)	—	(21.7)	口縁～胴部片、胴下部ケズリ、155と同一個体	AI
12	甕	2号住居跡	25.0	8.6	31.8	口縁～底部片、胴下部・底部ケズリ、154と同一個体	AI
13	甕	2号住居跡	28.3	—	25.0	口縁～胴部片、胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AI
14	甕	2号住居跡	14.0	—	〈7.0〉	口縁～頸部片	BI
15	坏	2号住居跡	—	—	〈5.3〉	口縁～胴部片、内面黒色処理	AII
16	坏	3号住居跡	15.0	5.8	6.3	内面黒色処理、回転糸切り	AIIa
17	坏	3号住居跡	(10.6)	(4.4)	4.0	回転糸切り	AIa
18	坏	3号住居跡	11.4	3.5	5.2	回転糸切り	AIa
19	坏	3号住居跡	12.0	4.8	3.6	全体に歪み、回転糸切り	AIa
20	坏	3号住居跡	12.5	5.3	3.5	全体に歪み、回転糸切り	AIa
21	坏	3号住居跡	11.4	5.0	3.2	口縁～底部片、回転糸切り	AIa
22	坏	3号住居跡	(11.4)	4.4	3.1	口縁～底部片、回転糸切り	AIa
23	坏	3号住居跡	(12.8)	(4.8)	3.3	口縁～底部片、回転糸切り	AIa
24	坏	3号住居跡	(12.1)	4.8	3.4	口縁～底部片、回転糸切り	AIa
25	坏	3号住居跡	12.0	(5.5)	3.4	口縁～底部片、底部ケズリ？	AIb?
26	坏	3号住居跡	—	6.0	〈3.4〉	胴～底部片、回転糸切り	AIa
27	坏	3号住居跡	(13.2)	—	〈5.7〉	口縁～胴下部片、内面黒色処理	AII
28	高台付坏	3号住居跡	—	6.8	〈4.9〉	胴～底部片、八字高台	AIc1
29	甕	3号住居跡	—	(11.0)	〈7.3〉	胴～底部片、外面ケズリ、内面ナデ、底部筵痕	AI
30	甕	3号住居跡	—	(16.0)	〈8.2〉	胴～底部片、外面・底部ケズリ、内面ナデ	AI
31	甕	3号住居跡	(21.5)	—	〈5.4〉	口縁部片	AI
32	甕	3号住居跡	(22.4)	—	〈8.3〉	口縁部片	AI
33	甕	3号住居跡	(19.3)	—	〈13.1〉	口縁～胴部片	AI
34	甕	3号住居跡	—	—	〈12.1〉	口縁部片	AI
35	甕	3号住居跡	—	—	〈9.1〉	口縁～胴部片、外面タタキ目	BI
36	甕	3号住居跡	—	—	〈18.5〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ、内面ナデ	AI
37	坏	3号住居跡	—	—	〈4.7〉	口縁～胴部片、内面黒色処理	AII
38	甕	3号住居跡	—	—	〈12.6〉	胴部片、外面タタキ目、内面ナデ	BI
39	坏	3号住居跡	—	—	〈3.5〉	口縁～底部片	AIa
40	坏	3号住居跡	—	—	〈5.2〉	口縁～胴部片	AI
41	坏	3号住居跡	—	—	〈3.8〉	口縁～胴部片	AI
42	坏	3号住居跡	—	—	〈5.8〉	口縁～胴部片、内面黒色処理	AII
43	甕	3号住居跡	—	—	〈7.3〉	口縁～胴上部片	AI
44	甕	3号住居跡	—	—	〈5.6〉	口縁～胴部片、口縁部外面横ナデ	AII
45	甕	3号住居跡	—	—	〈4.4〉	口縁部片、炭化物付着	AI
46	甕	3号住居跡	—	—	〈6.5〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AI
47	坏	3号住居跡	—	5.7	〈1.7〉	底部片、回転糸切り	AIa
48	坏	3号住居跡	—	5.8	〈0.9〉	底部片、回転糸切り	AIa
49	坏	3号住居跡	—	4.8	〈1.7〉	底部片、回転糸切り、内面黒色処理	AIIa
50	坏	3号住居跡	—	(5.7)	〈1.3〉	底部片、回転糸切り、内面黒色処理	AIIa
51	甕	3号住居跡	—	—	〈6.2〉	底部～胴下部、底部・胴外面ケズリ	AII

第31表　土器観察表（2）

（　）は推定値、〈　〉は残存値

遺物No.	器　種	出土地点	口径cm	底径cm	器高cm	備　　考	分　類
52	甕	3号住居跡	—	—	〈3.2〉	底部～胴下部、底部・胴外面ケズリ	AⅡ
53	坏	4号住居跡	11.4	4.9	5.2	内外面黒色処理、ミガキ(ナデ調)、回転糸切り	AⅢa
54	坏	4号住居跡	(11.0)	(5.6)	〈5.3〉	口縁～底部片、底部ケズリ	AⅠb?
55	坏	4号住居跡	—	5.6	〈1.9〉	底部片、内面黒色処理、回転糸切り	AⅡa
56	坏	4号住居跡	—	5.4	〈1.9〉	底部片、内面黒色処理、回転糸切り	AⅡa
57	坏	4号住居跡	(13.3)	(6.2)	3.6	口縁～底部片、回転糸切り	AⅠa
58	坏	4号住居跡	—	(8.0)	〈3.3〉	胴～底部片、回転糸切り	AⅠa
59	坏	4号住居跡	(13.0)	—	〈3.2〉	口縁～底部片、内面黒色処理	AⅡ
60	甕	4号住居跡	—	(11.6)	〈5.3〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ、底部ナデ	AⅠ
61	甕	4号住居跡	—	—	〈9.9〉	口縁～胴部片、口縁部ナデ、外面ケズリ、内面ナデ	AⅡ
62	甕	4号住居跡	(210)	—	〈12.0〉	口縁～胴部片、外面ケズリ、口縁・内面ナデ	AⅡ
63	甕	4号住居跡	(25.0)	—	〈19.4〉	口縁～胴部片、外面ケズリ、口縁・内面ナデ	AⅠ
64	甕	4号住居跡	—	—	〈9.2〉	口縁～胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AⅠ
65	坏	4号住居跡	—	—	〈3.4〉	口縁～胴部片、内面黒色処理	AⅡ
66	坏	4号住居跡	—	—	〈3.9〉	口縁～胴部片	AⅠ
67	坏	4号住居跡	—	—	〈4.1〉	口縁～胴部片、炭化物付着	AⅠ
68	坏	4号住居跡	—	—	〈3.4〉	口縁～胴部片	AⅠ
69	坏	4号住居跡	—	—	〈4.1〉	口縁～胴部片	AⅠ
70	坏	4号住居跡	—	—	〈4.9〉	口縁～胴部片、内面黒色処理	AⅡ
71	坏	4号住居跡	—	—	〈4.1〉	口縁～胴部片、内面黒色処理	AⅡ
72	甕	4号住居跡	—	—	〈4.7〉	口縁部片	AⅠ
73	甕	4号住居跡	—	—	〈2.9〉	底部～胴下部、底部・胴外面ケズリ	AⅡ
74	坏	4号住居跡	—	6.1	〈1.1〉	底部片、回転糸切り、炭化物付着	AⅠa
75	坏	5号住居跡	—	(4.8)	〈3.3〉	胴～底部片、内面黒色処理、回転糸切り	AⅡa
76	坏	5号住居跡	—	6.0	〈4.1〉	胴～底部片、底部ケズリ	AⅡb
77	甕	5号住居跡	—	—	〈14.5〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AⅠ
78	高台付坏	5号住居跡	—	—	〈1.9〉	高台部片、八字高台	AⅠc2
79	坏	5号住居跡	—	(4.9)	〈1.0〉	底部片、回転糸切り	AⅠa
80	高台付坏	5号住居跡	—	(5.6)	〈1.7〉	底部片、高台剥落、篦ナデ調整？	AⅠc
81	甕	5号住居跡	—	—	〈4.0〉	底部～胴下部、底部・胴外面ケズリ	AⅡ
82	坏	6号住居跡	12.4	5.0	3.6	口縁～底部片、回転糸切り、炭化物付着	AⅠa
83	坏	7号住居跡	(15.9)	5.2	5.2	口縁～胴部片、内面黒色処理、回転糸切り	AⅡa
84	坏	7号住居跡	(14.6)	—	〈4.6〉	口縁～胴部片、内面黒色処理	AⅡ
85	甕	7号住居跡	—	—	〈8.4〉	口縁～胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AⅡ
86	甕	7号住居跡	(25.8)	—	〈11.8〉	口縁～胴部、内外面ナデ	AⅠ
87	甕	7号住居跡	—	—	〈7.2〉	口縁～胴部、内外面ナデ	AⅠ
88	甕	7号住居跡	—	—	〈7.3〉	胴部片、内面ケズリ、外面ナデ	AⅡ
89	甕	7号住居跡	—	—	〈3.5〉	口縁～胴上部片、胴外面ケズリ	AⅡ
90	甕	7号住居跡	—	—	〈3.3〉	胴部片、632と同一個体？	AⅠ
91	甕	7号住居跡	—	—	〈6.6〉	胴部片、631と同一個体？	AⅠ
92	甕	7号住居跡	—	—	〈7.8〉	胴部片、外面タタキ目、内面ナデ	AⅡ
93	高台付坏	8号住居跡	—	(5.4)	〈2.0〉	胴～底部片、内面黒色処理、回転糸切り後輪高台剥落	AⅡc
94	高台付坏	8号住居跡	—	(7.3)	〈2.2〉	胴～底部片、内面黒色処理、回転糸切り後八字高台	AⅡc4
95	高台付坏	8号住居跡	—	(6.6)	〈1.3〉	胴～底部片、内面黒色処理、回転糸切り後八字高台	AⅡc4
96	高台付坏	8号住居跡	—	(6.0)	〈4.7〉	胴～底部片、内面黒色処理、回転糸切り後八字高台	AⅡc4
97	甕	8号住居跡	—	(7.0)	〈5.5〉	胴～底部片、外面・底部ケズリ	AⅡ
98	甕	8号住居跡	—	9.8	〈4.4〉	胴～底部片、外面・底部ケズリ	AⅡ
99	甕	8号住居跡	—	—	〈8.7〉	口縁～胴部片、胴外面ケズリ、内面ナデ	AⅡ
100	甕	8号住居跡	—	—	〈9.5〉	口縁～胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AⅡ
101	甕	8号住居跡	—	—	〈5.8〉	口縁～胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AⅠ
102	坏	8号住居跡	—	—	〈2.8〉	口縁～胴部片	AⅠ

第32表　土器観察表（３）

（　）は推定値、〈　〉は残存値

遺物No.	器　種	出土地点	口径cm	底径cm	器高cm	備　　考	分　類
103	坏	8号住居跡	—	—	〈3.2〉	口縁～胴部片、炭化物付着	AⅠ
104	坏	8号住居跡	—	—	〈4.3〉	口縁～胴部片、外面炭化物付着	AⅠ
105	坏	8号住居跡	—	—	〈6.0〉	口縁～胴部片、炭化物付着	AⅠ
106	坏	8号住居跡	—	—	〈4.2〉	口縁～胴部片、内面黒色処理	AⅡ
107	坏	8号住居跡	—	—	〈4.5〉	口縁～胴部片、内面黒色処理	AⅡ
108	甕	8号住居跡	—	—	〈5.8〉	口縁～胴部片、口縁横ナデ、胴外面ケズリ	AⅡ
109	甕	8号住居跡	—	—	〈6.5〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ、炭化物付着	AⅠ
110	甕	8号住居跡	—	(6.5)	〈1.6〉	底部片、底部・胴外面ケズリ	AⅡ
111	高台付坏	8号住居跡	—	—	〈0.7〉	底部片、回転糸切り	AⅠa
112	高台付坏	9号住居跡	17.0	7.0	5.1	Ⅲ状、口縁～底部片、回転糸切り後八字高台付け、灰釉陶器模倣？	AⅠc1
113	甕	9号住居跡	—	—	〈8.2〉	胴部片、外面タタキ目、内面ナデ	BⅠ
114	高台付坏	9号住居跡	—	7.9	〈6.1〉	口縁～底部片、内面黒色処理、三角高台	AⅡc4
115	鉢？	9号住居跡	(10.4)	—	7.4	丸底、口縁～底部片、外面ケズリ、内面ナデ、炭化物付着	AⅡ
116	坏	9号住居跡	(17.0)	—	〈4.5〉	口縁～胴部片、内面黒色処理	AⅡ
117	高台付Ⅲ	9号住居跡	(17.8)	7.6	4.0	口縁～底部片、回転糸切り後八字高台付け、灰釉陶器模倣？	AⅠc1
118	甕	9号住居跡	(26.0)	—	〈7.7〉	口縁～胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AⅡ
119	甕	9号住居跡	—	—	〈4.1〉	口縁～胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AⅡ
120	甕	9号住居跡	—	—	〈8.3〉	胴部片、外面タタキ目、内面ナデ	BⅠ
121	甕	9号住居跡	—	—	〈4.2〉	口縁部片、内外面横ナデ	AⅠ
122	甕	9号住居跡	—	—	〈3.7〉	口縁部片、内外面横ナデ	AⅠ
123	甕	9号住居跡	—	—	〈1.3〉	底部片	BⅠ
124	甕	9号住居跡	—	—	〈0.8〉	胴部片、外面タタキ目	BⅠ
125	甕	9号住居跡	—	—	〈1.9〉	胴部片、内面ナデ	BⅠ
126	坏	10号住居跡	11.6	4.3	3.2	完形、回転糸切り	AⅠa
127	坏	10号住居跡	12.0	4.4	3.3	完形、回転糸切り	AⅠa
128	坏	10号住居跡	11.9	4.5	3.3	完形、回転糸切り	AⅠa
129	坏	10号住居跡	14.6	6.8	5.7	完形、口縁部ナデ、胴外面・底部ケズリ	AⅠb
130	坏	10号住居跡	(14.3)	6.0	4.2	口縁～底部片、回転糸切り、炭化物付着	AⅠa
131	坏	10号住居跡	14.3	5.3	5.7	口縁～底部片、内面黒色処理、底部ケズリ	AⅢb
132	坏	10号住居跡	14.8	5.7	5.2	完形、内外面・底部黒色処理	AⅢb
133	坏	10号住居跡	(12.6)	(4.2)	4.5	口縁～底部片、内面黒色処理、回転糸切り	AⅡa
134	坏	10号住居跡	(14,4)	4.2	4.3	口縁～底部片、回転糸切り、炭化物付着	AⅠa
135	坏	10号住居跡	(15.1)	5.0	5.8	口縁～底部片、内面黒色処理トビ？、底部ケズリ	AⅢb？
136	坏	10号住居跡	—	—	〈4.3〉	口縁～胴部片、内外面黒色処理	AⅢ
137	坏	10号住居跡	—	—	〈4.1〉	口縁～胴部片、炭化物付着	AⅠ
138	坏	10号住居跡	—	—	〈3.2〉	口縁～胴部片	AⅠ
139	坏	10号住居跡	—	—	〈3.6〉	口縁～胴部片、炭化物付着	AⅠ
140	甕	10号住居跡	—	—	〈5.3〉	胴部片、外面タタキ目、内面ナデ	BⅠ
141	坏	11号住居跡	14.3	5.2	4.6	完形、回転糸切り	AⅠa
142	坏	11号住居跡	(15.5)	6.0	5.6	口縁～底部片、内面黒色処理、回転糸切り	AⅡa
143	坏	11号住居跡	—	4.7	〈2.7〉	胴～底部片、回転糸切り	AⅠa
144	坏	11号住居跡	—	5.0	〈1.2〉	底部片、回転糸切り	AⅠa
145	坏	11号住居跡	—	(5.0)	〈1.2〉	底部片、回転糸切り	AⅠa
146	甕	11号住居跡	14.3	8.0	13.7	完形、底部・外面ケズリ、内面ナデ、炭化物付着	AⅡ
147	甕	11号住居跡	(21.6)	—	18.0	口縁～胴部片、外面刷毛目、内面ナデ	AⅠ
148	甕	11号住居跡	—	—	〈8.6〉	口縁～胴部片、	AⅠ
149	甕	11号住居跡	—	8.7	〈8.2〉	胴～底部片、外面ケズリ、内面ナデ	AⅡ
150	甕	11号住居跡	—	(11.9)	〈12.5〉	胴～底部片、外面ケズリ、内面ナデ	AⅠ
151	甕	11号住居跡	—	—	〈7.3〉	口縁～胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AⅡ
152	甕	11号住居跡	—	—	〈7.8〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AⅠ
153	甕	11号住居跡	—	—	〈9.1〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AⅠ

第33表　土器観察表（4）

（　）は推定値、〈　〉は残存値

遺物No.	器　種	出土地点	口径cm	底径cm	器高cm	備　　考	分 類
154	甕	11号住居跡	—	6.5	〈1.1〉	底部片、ケズリ	AⅡ
155	坏	11号住居跡	—	—	〈3.3〉	口縁～胴部片、内面黒色処理	AⅡ
156	甕	11号住居跡	—	—	〈6.7〉	口縁～胴部片、胴部外面ケズリ、内面ナデ	AⅡ
157	甕	11号住居跡	—	—	〈4.4〉	口縁～胴部片、内外面横ナデ	AⅡ
158	坏	12号住居跡	11.9	5.6	3.4	完形、回転糸切り	AⅠa
159	坏	12号住居跡	13.8	6.8	4.7	口縁～底部片、回転糸切り	AⅠa
160	坏	12号住居跡	(13.2)	—	〈4.1〉	口縁～胴部片、内面黒色処理	AⅡ
161	坏	12号住居跡	—	4.8	〈1.5〉	底部片、回転糸切り	AⅠa
162	坏	12号住居跡	(13.3)	—	〈4.2〉	口縁～胴部片、内面黒色処理	AⅡ
163	甕	12号住居跡	—	—	〈4.3〉	口縁～胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AⅠ
164	甕	12号住居跡	—	—	〈7.1〉	口縁～胴部片	AⅠ
165	甕	12号住居跡	—	—	〈6.9〉	胴部片、外面タタキ目、内面ナデ	BⅠ
166	甕	12号住居跡	—	—	〈3.7〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	BⅠ
167	坏	13号住居跡	—	—	〈2.8〉	口縁～胴部片	AⅠ
168	坏	13号住居跡	13.2	5.6	3.5	完形、回転糸切り	AⅠa
169	坏	13号住居跡	13.2	6.5	3.2	完形、回転糸切り	AⅠa
170	坏	13号住居跡	11.8	4.5	3.0	完形、回転糸切り	AⅠa
171	坏	13号住居跡	12.4	4.6	3.2	完形、回転糸切り	AⅠa
172	坏	13号住居跡	16.0	5.6	4.3	口縁～底部片、回転糸切り	AⅠa
173	坏	13号住居跡	15.0	6.5	4.5	口縁～底部片、内面黒色処理、回転糸切り	AⅡa
174	坏	13号住居跡	(13.6)	5.5	3.1	口縁～底部片、内面黒色処理、回転糸切り	AⅡa
175	坏	13号住居跡	—	5.6	〈1.1〉	底部片、回転糸切り	AⅠa
176	坏	13号住居跡	—	6.5	〈1.6〉	底部片、内面黒色処理、回転糸切り	AⅡa
177	甕	13号住居跡	—	(13.4)	〈5.4〉	底～胴部、底部・胴外面ケズリ、内面ナデ	AⅡ
178	甕	13号住居跡	(19.4)	—	〈4.8〉	口縁～胴部片、内外面ナデ	AⅠ
179	甕	13号住居跡	(14.0)	—	〈8.4〉	口縁～胴部片、胴外面ケズリ、内面ナデ	AⅠ
180	甕	13号住居跡	—	—	〈9.0〉	口縁～胴部片、口縁・内面ナデ、外面ケズリ	AⅠ
181	甕	13号住居跡	—	—	〈8.9〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AⅡ
182	甕	13号住居跡	—	—	〈6.5〉	口縁～胴部片、内外面ナデ	AⅠ
183	甕	13号住居跡	—	—	〈4.3〉	口縁～胴部片、内外面ナデ	AⅡ
184	坏	13号住居跡	—	—	〈2.1〉	口縁～胴部片	AⅠ
185	坏	13号住居跡	—	—	〈2.9〉	口縁～胴部片	AⅠ
186	坏	13号住居跡	—	—	〈4.7〉	口縁～胴部片、内面黒色処理	AⅡ
187	甕	14号住居跡	—	—	〈1.5〉	底部～胴下部、底部・胴外面ケズリ	AⅡ
188	坏	14号住居跡	—	—	〈2.4〉	口縁部片、内外面黒色処理	AⅢ
189	甕	14号住居跡	—	—	〈6.2〉	頸部片、内外面横ナデ	BⅠ
190	坏	15号住居跡	(13.2)	4.8	4.1	口縁～底部片、回転糸切り	AⅠa
191	坏	15号住居跡	—	5.8	3.3	胴～底部片、切り離し後ケズリ、内面黒色処理	AⅡb
192	坏	15号住居跡	—	6.3	〈1.9〉	胴～底部片、内面黒色処理、回転糸切り	AⅡa
193	坏	15号住居跡	—	5.0	〈1.4〉	胴～底部片、回転糸切り	AⅠa
194	高台付坏	15号住居跡	—	5.1	〈1.1〉	胴～底部片、高台剥落、内面黒色処理	AⅡc
195	高台付坏	15号住居跡	—	8.2	〈2.6〉	胴～底部片回転糸切り後八字高台	AⅠc1
196	甕	15号住居跡	(19.4)	—	〈5.8〉	口縁～胴部片	AⅠ
197	甕	15号住居跡	—	(10.4)	〈14.8〉	胴～底部片、胴外面ケズリ、内面ナデ、底部調整不明	AⅡ
198	坏	15号住居跡	15.2	6.4	4.6	炭化物付着、底部切り離し後ケズリ	AⅠb
199	坏	15号住居跡	—	6.4	〈1.6〉	胴～底部片、内面炭化物付着、回転糸切り	AⅠa
200	坏	15号住居跡	—	6.2	〈1.3〉	胴～底部片、回転糸切り	AⅠa
201	坏	15号住居跡	—	—	〈0.9〉	底部片、回転糸切り	AⅠa
202	甕	15号住居跡	—	—	〈3.6〉	底部～胴下部、底部・胴外面ケズリ	AⅡ
203	甕	15号住居跡	—	—	〈4.2〉	胴上部、内外面横ナデ	BⅠ
204	坏	16号住居跡	14.6	5.0	3.7	口縁～胴部片、回転糸切り	AⅠa

第34表　土器観察表(５)

（　）は推定値、〈　〉は残存値

遺物No.	器　種	出土地点	口径cm	底径cm	器高cm	備　　考	分 類
205	坏	15号住居跡	12.1	5.0	4.3	完形、回転糸切り、全体に歪み	AIa
206	坏	16号住居跡	—	4.2	〈0.9〉	胴～底部片、回転糸切り	AIa
207	坏	16号住居跡	—	4.4	〈2.0〉	胴～底部片、回転糸切り	AIa
208	高台付坏	16号住居跡	—	5.2	〈2.0〉	胴～底部片、八字高台	AIc1
209	甕	16号住居跡	—	8.4	〈2.4〉	胴～底部片、底部ケズリ	AIIb
210	甕	16号住居跡	(22.8)	—	〈9.4〉	口縁～胴部片	AI
211	坏	16号住居跡	(13.8)	(5.5)	4.6	口縁～底部片、内面黒色処理、回転糸切り	AIIa
212	坏	16号住居跡	(13.3)	6.0	4.2	口縁～底部片、回転糸切り	AIa
213	坏	16号住居跡	—	6.0	〈3.3〉	胴～底部片、回転糸切り	AIa
214	坏	16号住居跡	—	6.2	〈2.4〉	胴～底部片、炭化物付着、回転糸切り	AIa
215	甕	16号住居跡	—	(6.2)	〈6.7〉	胴外面ケズリ、内面ナデ、底部ｹｽﾞﾘ	AII
216	甕	16号住居跡	—	(12.8)	〈1.2〉	底部片、底部ケズリ	AII
217	坏	16号住居跡	(14.0)	—	〈4.5〉	口縁～胴部片、内面黒色処理	AII
218	甕	16号住居跡	(19.3)	—	〈7.4〉	口縁～胴部片	AI
219	甕	16号住居跡	(23.2)	—	〈8.0〉	胴外面ケズリ、内面刷毛目	AII
220	坏	16号住居跡	—	—	〈3.7〉	胴部片	AI
221	甕	16号住居跡	—	—	〈5.3〉	胴部片、内外面ナデ	AI
222	甕	16号住居跡	—	—	〈6.8〉	胴部片、内外面ナデ	AI
223	坏	16号住居跡	13.4	6.0	4.4	回転糸切り	AIa
224	坏	16号住居跡	—	6.3	〈1.8〉	胴～底部片、内面黒色処理、回転糸切り	AIIa
225	坏	16号住居跡	(13.4)	—	〈2.5〉	口縁～胴部片、口縁部外面に深いロクロ痕	AIa
226	甕	16号住居跡	—	—	〈3.8〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AII
227	甕	17号住居跡	—	—	〈4.9〉	口縁～胴部片、口縁部ナデ、内面ナデ	AII
228	甕	17号住居跡	—	—	〈9.4〉	胴部片、胴外面ケズリ、内面ナデ	AII
229	甕	17号住居跡	—	—	〈5.3〉	口縁～胴部片、口縁部ナデ、胴外面ナデ、内面ナデ	AII
230	甕	17号住居跡	—	—	〈11.4〉	口縁～胴部片、口縁部ナデ、胴外面ｹｽﾞﾘ、内面ナデ	AII
231	甕	17号住居跡	(17.4)	—	〈7.5〉	口縁～胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AII
232	甕	17号住居跡	—	—	〈5.6〉	口縁～胴上部片、胴外面ケズリ	AII
233	高台付坏	18号住居跡	—	8.0	〈4.2〉	胴～底部片、三角高台	AIc4
234	坏	18号住居跡	—	5.3	3.8	胴～底部片、炭化物付着、回転糸切り	AIa
235	高台付坏	18号住居跡	—	6.7	〈1.7〉	胴～底部片、三角高台、ナデによる再調整	AIIc4
236	坏	18号住居跡	—	4.6	〈0.8〉	胴～底部片、回転糸切り	AIa
237	甕	18号住居跡	—	7.0	〈6.9〉	胴～底部片、胴外面ケズリ、底部ケズリによる再調整	AII
238	甕	18号住居跡	—	(12.0)	〈3.3〉	胴～底部片、胴外面ケズリ、底部ケズリによる再調整	AII
239	甕	18号住居跡	—	10.8	〈1.3〉	胴～底部片、底部ケズリによる再調整	AII
240	甕	18号住居跡	(18.2)	—	〈12.4〉	口縁～胴部片、胴外面ケズリ、口縁部横ナデ	AII
241	甕	18号住居跡	—	—	〈13.1〉	胴部片、胴外面ケズリ、内面ナデ	AII
242	甕	18号住居跡	—	—	〈15.8〉	胴部片、胴外面ケズリ、口縁部横ナデ、	AII
243	甕	18号住居跡	—	—	〈1.7〉	口縁部片、内面横ナデ	AII
244	甕	18号住居跡	—	—	〈10.3〉	胴部片、胴外面ケズリ、内面ナデ	AII
245	甕	18号住居跡	—	—	〈4.8〉	胴部片、胴外面ケズリ、内面ナデ	AII
246	坏	18号住居跡	—	—	〈2.0〉	口縁部片、炭化物付着	AI
247	坏	19号住居跡	10.3	4.8	2.9	口縁～底部片、回転糸切り	AIa
248	坏	19号住居跡	11.3	4.8	3.6	口縁～底部片、回転糸切り、全体に歪み	AIa
249	高台付坏	19号住居跡	14.0	7.2	5.3	口縁～底部片、炭化物付着、三角高台、底部ナデ	AIc4
250	高台付坏	19号住居跡	(16.2)	7.9	6.5	口縁～底部片、回転糸切り後輪三角高台	AIc4
251	坏	19号住居跡	15.4	5.4	5.3	口縁～底部片、内面黒色処理、回転糸切り	AIIa
252	坏	19号住居跡	15.5	5.3	5.1	口縁～底部片、内面黒色処理、回転糸切り	AIIa
253	高台付坏	19号住居跡	(15.4)	8.2	7.1	口縁～底部片、内面黒色処理、回転糸切り、三角高台	AIc4
254	皿	19号住居跡	(10.0)	5.0	2.4	口縁～底部片、回転糸切り	AIa
255	坏	19号住居跡	—	(4.1)	〈1.0〉	胴～底部片、回転糸切り	AIa

第35表　土器観察表（6）

（　）は推定値、〈　〉は残存値

遺物No.	器　種	出土地点	口径cm	底径cm	器高cm	備　　考	分　類
256	高台付坏	19号住居跡	—	—	〈1.6〉	胴～底部片、回転糸切り、三角高台	AⅠc4
257	坏	19号住居跡	—	4.6	〈0.7〉	胴～底部片、回転糸切り	AⅠa
258	坏	19号住居跡	(16.2)	—	〈4.5〉	口縁～胴部片、内面黒色処理	AⅡ
259	坏	19号住居跡	14.5	6.3	4.9	内面黒色処理、回転糸切り	AⅡa
260	甕	19号住居跡	—	—	〈4.7〉	口縁部片、炭化物付着	AⅡ
261	坏	19号住居跡	—	(5.5)	〈1.1〉	底部片、回転糸切り	AⅠa
262	坏	19号住居跡	—	(5.8)	〈1.7〉	底部片、回転糸切り	AⅠa
263	坏	20号住居跡	(14.6)	5.4	4.6	口縁～底部片、回転糸切り	AⅠa
264	坏	20号住居跡	(13.9)	(5.9)	4.7	口縁～底部片、内面黒色処理、回転糸切り	AⅡa
265	坏	20号住居跡	14.6	5.4	4.6	口縁～底部片、内面黒色処理、回転糸切り	AⅡa
266	甕	20号住居跡	(14.7)	8.0	15.1	口縁～底部片、外面・底部ケズリ、内面ナデ、口縁横ナデ	AⅠ
267	甕	20号住居跡	16.0	—	〈11.3〉	口縁～胴部片、外面ケズリ、口縁横ナデ	AⅡ
268	高台付坏	20号住居跡	—	(5.9)	〈2.4〉	底部片、高台剥落	AⅠc
269	坏	20号住居跡	—	(6.2)	〈2.0〉	胴下部外面ケズリ、回転糸切り	AⅠb
270	甕	20号住居跡	(14.4)	—	〈4.4〉	口縁部片、口縁横ナデ、胴外面ケズリ	AⅠ
271	甕	20号住居跡	—	—	〈9.7〉	口縁～胴部片、口縁横ナデ、外面ケズリ	AⅡ
272	坏	20号住居跡	—	—	〈3.5〉	口縁部片、内面黒色処理	AⅡ
273	甕	20号住居跡	—	—	〈7.2〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AⅠ
274	甕	20号住居跡	—	—	〈11.3〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AⅠ
275	坏	20号住居跡	—	—	〈4.6〉	口縁～胴部片、内面黒色処理	AⅡ
276	坏	20号住居跡	—	—	〈6.1〉	口縁～胴部片	AⅠ
277	甕	20号住居跡	—	—	〈3.0〉	胴部片、胴外面・底部ケズリ	AⅡ
278	甕	21号住居跡	18.3	11.7	31.7	胴外面ケズリ	BⅠ
279	坏	21号住居跡	12.0	5.3	3.6	回転糸切り	AⅠa
280	坏	21号住居跡	(14.8)	6.0	4.7	回転糸切り	BⅠa
281	坏	21号住居跡	(13.6)	(5.5)	4.5	回転糸切り、口縁～胴上部還元化	BⅠa
282	坏	21号住居跡	(15.5)	—	〈4.4〉		BⅠa
283	坏	21号住居跡	—	6.4	〈1.7〉		BⅠa
284	甕	21号住居跡	—	6.7	〈3.4〉	底部～胴下部、底部・外面ケズリ	AⅡ
285	鉢？	21号住居跡	—	12.0	〈2.7〉	底部～胴下部、底部・外面ケズリ、内面黒色処理？	AⅡ
286	甕	21号住居跡	—	10.2	〈10.1〉	底部～胴下部、内面刷毛目、外面・底部ケズリ	AⅡ
287	甕	21号住居跡	—	—	〈6.7〉	口縁～胴上部、外面ケズリ、口縁横ナデ	AⅡ
288	甕	21号住居跡	—	—	〈14.2〉	口縁～胴部、外面ケズリ、内面刷毛目	AⅠ
289	甕	21号住居跡	(23.0)	—	〈17.8〉	口縁～胴下部	AⅠ
290	鉢	21号住居跡	(32.8)	—	〈14.6〉	口縁～胴下部、外面ケズリ、口縁・内面ナデ	AⅠ
291	甕	21号住居跡	(23.4)	8.5	30.8	口縁～底部、外面ケズリ、口縁・内面ナデ、底部ケズリ	AⅡ
292	甕	21号住居跡	—	—	〈13.4〉	胴下部、胴外面ケズリ、内面刷毛目	AⅠ
293	甕	21号住居跡	—	—	〈15.3〉	胴部、胴上部横ナデ、下部ケズリ、内面ナデ	AⅠ
294	甕	21号住居跡	—	—	〈7.3〉	口縁～胴部片、内外面ナデ	AⅠ
295	甕	21号住居跡	—	7.4	4.1	底部切り離し後ケズリ	AⅠ
296	甕	21号住居跡	(21.0)	—	〈13.8〉	口縁～胴部片	AⅠ
297	甕	21号住居跡	(22.6)	—	〈8.9〉	口縁～胴部片	AⅠ
298	甕	21号住居跡	—	—	〈6.1〉	胴部片、内外面タタキ目、内面ナデ	BⅠ
299	甕	21号住居跡	—	—	〈5.9〉	胴部片、外面タタキ目、内面ナデ	BⅠ
300	甕	21号住居跡	—	—	〈7.8〉	胴部片、内外面タタキ目、内面ナデ	BⅠ
301	甕	21号住居跡	—	—	〈11.5〉	胴部片、外面タタキ目、内面ナデ	BⅠ
302	甕	21号住居跡	—	—	〈9.6〉	胴部片、内外面タタキ目、内面ナデ	BⅠ
303	甕	21号住居跡	—	—	〈9.6〉	胴部片、内外面タタキ目、内面ナデ	BⅠ
304	甕	21号住居跡	—	—	〈2.1〉	口縁部片、内外面横ナデ	AⅠ
305	甕	21号住居跡	—	—	〈10.9〉	胴部片、内外面横ナデ	AⅠ
306	甕	21号住居跡	—	—	〈3.6〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AⅡ

第36表　土器観察表（7）

（　）は推定値、〈　〉は残存値

遺物No.	器　種	出土地点	口径cm	底径cm	器高cm	備　　考	分 類
307	甕	21号住居跡	—	—	〈10.9〉	胴部片、外面ケズリ、内面横ナデ	AⅠ
308	坏	21号住居跡	—	5.9	〈1.6〉	底部片、回転糸切り	AⅠa
309	甕	21号住居跡	—	—	〈3.0〉	胴上部、内外面横ナデ	BⅠ
310	甕	21号住居跡	—	—	〈4.7〉	土胴部片、内外面タタキ目	BⅠ
311	甕	21号住居跡	—	—	〈8.1〉	胴部片、内外面ナデ	BⅠ
312	甕	21号住居跡	—	—	〈3.6〉	胴部片、内外面タタキ目	BⅠ
313	甕	21号住居跡	—	—	〈3.9〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	BⅠ
314	甕	21号住居跡	—	—	〈6.7〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	BⅠ
315	甕	21号住居跡	—	—	〈4.7〉	胴部片、内外面ナデ	BⅠ
316	甕	21号住居跡	—	—	〈4.8〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	BⅠ
317	皿	1号工房跡	9.6	5.5	2.3	完形、回転糸切り、低部に有段台状	AⅠa
318	皿	1号工房跡	10.7	6.0	2.6	完形、回転糸切り	AⅠa
319	皿	1号工房跡	11.3	6.4	2.5	完形、回転糸切り	AⅠa
320	坏	1号工房跡	12.6	6.0	3.7	完形、全体に歪み、回転糸切り	AⅠa
321	坏	1号工房跡	11.6	6.1	2.7	完形、回転糸切り、炭化物付着	AⅠa
322	坏	1号工房跡	12.7	6.8	3.7	完形、回転糸切り、炭化物付着	AⅠa
323	皿	1号工房跡	10.6	5.4	2.1	完形、回転糸切り、炭化物付着	AⅠa
324	坏	1号工房跡	14.4	4.8	4.8	完形、内面黒色処理、回転糸切り、底部台状に有段	AⅡa
325	坏	1号工房跡	16.8	6.4	5.5	完形、内面黒色処理	AⅡb
326	坏	1号工房跡	13.2	6.0	4.0	口縁～底部片、内面黒色処理、回転糸切り	AⅡa
327	皿	1号工房跡	(12.0)	6.8	2.3	口縁～底部片、回転糸切り	AⅠa
328	皿	1号工房跡	(9.8)	5.0	2.1	口縁～底部片、回転糸切り	AⅠa
329	高台付坏	1号工房跡	(15.6)	7.2	4.2	口縁～底部片、八字高台、回転糸切り	AⅠc1
330	高台付坏	1号工房跡	—	〈2.1〉	8.0	胴～底部片、八字高台、	AⅠc1
331	高台付坏	1号工房跡	—	4.2	〈1.5〉	底部片、八字高台、内外面黒色処理	AⅢc2
332	坏？	1号工房跡	—	—	〈4.0〉	高台部片、肥厚、八字高台	AⅠc1
333	高台付坏	1号工房跡	—	—	〈3.9〉	胴部片、内面黒色処理、八字高台	AⅡc2
334	坏	1号工房跡	—	4.6	〈1.4〉	胴～底部片、回転糸切り、炭化物付着	AⅠa
335	坏	1号工房跡	—	(5.9)	〈2.5〉	胴～底部片、回転糸切り	AⅠa
336	甕	1号工房跡	—	(5.8)	〈6.3〉	胴～底部片、ケズリ	AⅠ
337	坏	1号工房跡	—	5.0	〈0.8〉	胴～底部片回転糸切り	AⅠa
338	甕	1号工房跡	—	〈11.0〉	11.0	胴～底部片、底部ケズリ	AⅠ
339	皿？	1号工房跡	(17.2)		〈2.1〉	口縁部片、内面黒色処理？	AⅡ
340	甕	1号工房跡	—	—	〈6.2〉	胴部片	AⅠ
341	甕	1号工房跡	(13.0)	—	〈10.2〉	口縁～胴部片	AⅠ
342	甕	1号工房跡	(15.6)	—	〈16.1〉	口縁～胴部片	AⅠ
343	甕	1号工房跡	—	—	〈20.8〉	胴部片、外面刷毛目、内面ナデ	AⅠ
344	甕	1号工房跡	—	—	〈13.7〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AⅠ
345	坏	1号工房跡	—	6.4	〈2.2〉	内面黒色処理、回転糸切り	AⅡa
346	甕	1号工房跡	(18.6)	—	〈5.7〉	口縁部片、外面ケズリ、内面ナデ	AⅠ
347	甕	1号工房跡	(19.2)	—	〈5.4〉	口縁部片、内外面横ナデ	AⅡ
348	甕	1号工房跡	—	—	〈6.9〉	口縁～胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AⅠ
349	坏	1号工房跡	(15.0)	—	〈3.8〉	口縁～胴部片	BⅠ
350	坏	1号工房跡	—	—	〈4.1〉	口縁～胴部片、内面黒色処理	AⅡ
351	坏	1号工房跡	—	—	〈4.9〉	口縁～胴部片	AⅠ
352	甕	1号工房跡	—	—	〈4.0〉	口縁部片、外面横ナデ	AⅡ
353	坏	1号工房跡	—	(5.0)	〈1.2〉	底部片、回転糸切り	AⅠ
354	坏	1号工房跡	—	5.1	〈1.0〉	底部片、回転糸切り	AⅠ
355	坏	1号工房跡	—	5.2	〈0.9〉	底部片、回転糸切り	AⅠ
356	坏	1号工房跡	—	5.6	〈1.1〉	底部片、回転糸切り	AⅠ
357	高台付坏	1号工房跡	—	(6.1)	〈1.7〉	底部片、八字高台、ナデ調整	AⅠc2

第37表　土器観察表（8）

（　）は推定値、〈　〉は残存値

遺物No.	器　種	出土地点	口径cm	底径cm	器高cm	備　　考	分　類
358	甕	1号工房跡	—	—	〈2.0〉	胴部片、外面タタキ目、内面ナデ	BⅠ
359	甕	1号工房跡	—	—	〈3.2〉	胴部片、外面タタキ目、内面ナデ	BⅠ
360	甕	1号工房跡	—	—	〈3.0〉	胴部片、外面タタキ目、内面ナデ	BⅠ
361	甕	3号住居跡	—	—	〈2.8〉	胴部片、外面タタキ目、内面ナデ	BⅠ
362	坏	1号住居状	(16.2)	—	〈4.5〉	口縁～胴部片、内面黒色処理	AⅡ
363	甕	1号住居状	—	—	〈6.4〉	胴部片	AⅡ
364	甕	3号住居状	—	11.0	〈4.8〉	胴～底部片、底部・外面ケズリ	AⅡ
365	甕	3号住居状	—	(10.8)	〈1.8〉	底部片、外面・底部ケズリ	AⅡ
366	坏	3号住居状	—	—	〈3.3〉	口縁～胴上部片	AⅠ
367	甕	1号土器埋設遺構	22.2	10.6	29.4	外面に全体に強いケズリ、底部切り離し後篦ケズリ	AⅡ
368	甕	1号土器埋設遺構	22.2	10.6	29.4	外面に全体に強いケズリ、底部切り離し後篦ケズリ	AⅡ
369	甕	2号土器埋設遺構			〈17.2〉	370と同一個体、口縁～底部片、底部・外面ケズリ、接合不能	AⅡ
370	甕	2号土器埋設遺構	22.0	10.8	〈19.5〉	369と同一個体、接合不能	AⅡ
371	甕	2号土器埋設遺構	24.8	(11.2)	31.3	胴外面・底部ケズリ	AⅡ
372	甕	1号焼土	—	—	〈5.3〉	口縁～胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AⅠ
373	甕	1号焼土	—	(14.4)	〈3.5〉	胴～底部片、外面・底部ケズリ	AⅡ
374	甕	1号焼土	—	—	〈8.7〉	外面ケズリ、内面刷毛目	AⅠ
375	坏	3号焼土	—	—	〈3.1〉	口縁～胴部片	AⅠ
376	甕	3号焼土	—	—	〈6.9〉	外面ケズリ、内面ナデ	AⅡ
377	甕	4号焼土	(16.3)	—	〈10.8〉	口縁～胴部片	AⅠ
378	坏	5号焼土	15.0	5.8	4.7	口縁～底部片、回転糸切り	AⅠa
379	甕	6号焼土	—	—	〈4.5〉	口縁～胴上部、口縁外反、外面ケズリ	AⅡ
380	坏	6号焼土	—	—	〈4.6〉	口縁～胴部片	AⅠ
381	坏	6号焼土	—	—	〈3.4〉	口縁～胴部片	AⅠ
382	甕	8号焼土	—	—	〈6.7〉	口縁～胴部、内外面ナデ	AⅡ
383	甕	8号焼土	—	—	〈12.2〉	口縁～胴上部、口縁外はん外面ケズリ、	AⅡ
384	甕	8号焼土	—	—	〈4.7〉	口縁～胴上部片、外面ケズリ、内面ナデ	AⅡ
385	甕	8号焼土	—	—	〈6.5〉	胴下部、外面ケズリ、内面ナデ	AⅡ
386	坏	1号堀跡	—	5.3	〈1.3〉	胴～底部片、内面黒色処理、回転糸切り	AⅡa
387	甕	9号溝跡	—	—	〈6.7〉	胴部片、外面ケズリ	AⅠ
388	坏	9号溝跡	—	—	〈2.4〉	胴上部	AⅠ
389	甕	9号溝跡	—	—	〈8.3〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AⅡ
390	甕	9号溝跡	—	—	〈3.5〉	口縁～胴上部、胴外面ケズリ、内面ナデ	AⅡ
391	甕	9号溝跡	—	—	〈2.0〉	底部片、底部・外面ケズリ	AⅡ
392	甕	9号溝跡	—	—	〈4.2〉	胴部片、外面タタキ目、内面ナデ	BⅠ
393	甕	10号溝跡	—	—	〈3.6〉	口縁～同上部、胴外面ケズリ	AⅠ
394	甕	11号溝跡	—	—	〈2.5〉	胴部片、内外面ナデ	BⅠ
395	坏	12号溝跡	—	(7.0)	〈3.3〉	胴～底部片、回転糸切り	AⅠa
396	坏	13号溝跡	—	—	〈2.8〉	口縁部片	AⅠ
397	Ⅲ	1号周溝	(8.2)	(3.8)	1.9	口縁～胴部片、回転糸切り、下層住居跡の遺物？	AⅠa
398	甕	1号周溝	—	—	〈5.3〉	口縁～胴部片、外面ケズリ、内面ナデ、下層住居跡の遺物？	AⅡ
399	甕	1号周溝	(15.9)	—	〈4.6〉	口縁～胴部片、外面ケズリ、口縁・内面ナデ、下層住居跡の遺物？	AⅠ
400	甕	1号周溝	—	—	〈2.8〉	口縁部片、内面横ナデ、下層住居跡の遺物？	AⅡ
401	甕	1号周溝	—	—	〈6.4〉	口縁～胴部片、内外面ナデ	AⅡ
402	甕	1号周溝	—	(9.0)	〈4.9〉	胴～底部片、外面・底部ケズリ	AⅡ
403	甕	1号周溝	—	—	〈6.2〉	胴部片、外面タタキ目、内面ナデ	BⅠ
404	坏	1号周溝	—	—	〈3.1〉	口縁部	AⅠ
405	坏	1号周溝	—	—	〈2.5〉	口縁部、内面黒色処理	AⅡ
406	坏	1号周溝	—	—	〈2.8〉	胴部片、内外面黒色処理	AⅢ
407	坏	1号周溝	—	—	〈4.1〉	胴部片	AⅠ
408	甕	1号周溝	—	—	〈3.1〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ、炭化物付着	AⅡ

第38表　土器観察表(9)

（　）は推定値、〈　〉は残存値

遺物No.	器　種	出土地点	口径cm	底径cm	器高cm	備　　考	分 類
409	甕	1号周溝	—	—	〈4.3〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	BI
410	甕	1号墓壙	—	—	〈5.7〉	胴部片、磨滅強	AII
411	高台付坏	9号墓壙	—	—	〈1.5〉	底部片、三角高台	AIc4
412	坏	10号墓壙	—	(4.3)	〈0.4〉	回転糸切り	AIa
413	甕	11号墓壙	—	—	〈2.9〉	胴下部片、外面ケズリ、内面ナデ	AII
414	甕	13号墓壙	—	—	〈6.3〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AII
415	坏	16号墓壙	—	—	〈1.8〉	胴部片、炭化物付着	AI
416	甕	16号墓壙	—	—	〈5.3〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AI
417	坏	17号墓壙	—	(6.6)	〈1.3〉	炭化物付着、回転糸切り	AIa
418	甕	23号墓壙	—	—	〈3.9〉	口縁部片、胴外面ケズリ、内面横ナデ	AII
419	甕	24号墓壙	—	—	〈4.0〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AII
420	甕	27号墓壙	—	—	〈4.3〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AI
421	坏	28号墓壙	—	—	〈1.3〉	口縁部片	AI
422	甕	29号墓壙	—	—	〈3.0〉	胴部片	BI
423	甕	29号墓壙	—	—	〈4.0〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AII
424	坏	29号墓壙	—	—	〈1.8〉	胴部片、内面黒色処理	AII
425	甕	36号墓壙	—	—	〈3.7〉	内外面タタキ目	AI
426	坏	36号墓壙	9.7	5.3	〈2.8〉	口縁～底部片、回転糸切り	AIa
427	甕	36号墓壙	—	—	〈5.4〉	底部片、回転糸切り	AI
428	甕	36号墓壙	—	—	〈6.8〉	胴下部、外面タタキ目、　内面ナデ	BI
429	甕	42号墓壙	—	(7.6)	〈2.8〉	底部片、内面ナデ、底部刷毛目	AI
430	坏	42号墓壙	—	—	〈3.7〉	口縁～胴部片、内面炭化物付着	AIa
431	坏	42号墓壙	—	—	〈0.8〉	底部片、回転糸切り	AIa
432	坏	43号墓壙	—	—	〈3.1〉	口縁部片	AI
433	甕	43号墓壙	—	—	〈3.7〉	胴部片、外面ケズリ	AII
434	坏	43号墓壙	—	—	〈1.7〉	胴部片、内面黒色処理	AII
435	坏	44号墓壙	—	—	〈4.9〉	口縁～胴部片、内面黒色処理	AII
436	高台付坏	44号墓壙	—	7.9	〈5.9〉	胴上～底部片、内面黒色処理、台状の低い柱状高台？	AIIc5?
437	坏	44号墓壙	—	—	〈3.7〉	胴部片	AI
438	坏	44号墓壙	—	—	〈0.7〉	底部片、内面黒色処理、回転糸切り	AIIa
439	甕	1号柱穴列PP3	—	—	〈3.8〉	胴部片、内外面タタキ目	BI
440	甕	1号柱穴列PP4	—	—	〈0.9〉	底部片、底部・外面ケズリ	AII
441	甕	1号柱穴列PP5	—	—	〈2.2〉	土胴部片、内外面タタキ目	BI
442	甕	1号井戸跡	—	—	〈5.0〉	口縁部片	AII
443	甕	1号井戸跡	—	—	〈6.0〉	胴部片、外面タタキ目、内面ナデ	BI
444	坏	1号竈状遺構	—	—	〈3.6〉	口縁～胴部片、埋土中への流れ込み	AI
445	甕	1号竈状遺構	—	—	〈4.2〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AII
446	坏	5号竈状遺構	—	—	〈4.1〉	口縁～胴部片、埋土中への流れ込み	AI
447	甕	5号竈状遺構	—	—	〈4.6〉	口縁部片、外面ケズリ、内面ナデ	AI
448	甕	5号竈状遺構	—	—	〈1.2〉	底部片、ケズリ、埋土中への流れ込み	AII
449	甕	5号竈状遺構	—	—	〈5.2〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AII
450	坏	5号竈状遺構	—	—	〈4.2〉	胴部片、内外面黒色処理	AIII
451	甕	5号竈状遺構	—	—	〈1.9〉	底部片、ケズリ、埋土中への流れ込み	AII
452	深鉢	3号土坑	—	—	〈2.8〉	口縁部片、縄文(LR)	—
453	甕	7号土坑	—	—	〈2.5〉	胴部片、外面タタキ目、内面ナデ	AI
454	坏	22号土坑	—	—	〈4.7〉	口縁～胴部片、内外面黒色処理	AIII
455	坏	22号土坑	—	—	〈4.6〉	口縁～胴部片	AI
456	坏	22号土坑	—	—	〈4.1〉	胴部片、内面黒色処理	AII
457	甕	22号土坑	—	—	〈3.6〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AII
458	坏	22号土坑	—	—	〈2.9〉	底部～胴下部、回転糸切り	AIa

第39表　土器観察表(10)

（　）は推定値、〈　〉は残存値

遺物No.	器　種	出土地点	口径cm	底径cm	器高cm	備　　考	分　類
459	坏	25号土坑	10.3	5.5	2.9	完形、回転糸切り	AIa
460	甕	25号土坑	—	—	〈5.8〉	口縁～胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AII
461	坏	25号土坑	—	—	〈4.3〉	胴部片、内面黒色処理	AII
462	甕	25号土坑	—	—	〈4.4〉	胴下部、外面ケズリ、内面ナデ	AII
463	甕	25号土坑	—	—	〈1.8〉	底部片、ケズリ	AII
464	甕	26号土坑	—	—	〈5.0〉	口縁～底部片、内外面ナデ	AII
465	甕	26号土坑	—	—	〈5.4〉	口縁～胴部片、外面ケズリ、内面ナデ、炭化物付着	AII
466	坏	26号土坑	—	—	〈2.8〉	底部片、回転糸切り後ケズリ？	AIb
467	甕	27号土坑	—	—	〈4.8〉	胴部片、内外面ナデ	AI
468	坏	27号土坑	—	—	〈2.1〉	胴部片、内面黒色処理	AII
469	坏	28号土坑	—	—	〈0.4〉	底部片、回転糸切り	AIa
470	甕	30号土坑	—	—	〈13.9〉	胴部片、外面タタキ目、内面ナデ	BI
471	坏	31号土坑	(10.4)	(5.2)	2.7	口縁～底部片、回転糸切り、内面炭化物付着	AIa
472	甕	31号土坑	—	—	〈5.8〉	口縁～胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AII
473	甕	31号土坑	—	—	〈6.4〉	口縁～底部片、　外面ケズリ、内面ナデ	AII
474	甕	31号土坑	—	—	〈3.2〉	口縁部片、外面ケズリ、内面ナデ	AII
475	坏	31号土坑	—	—	〈2.8〉	口縁部片、炭化物付着	AI
476	坏	32号土坑	(13.2)	4.4	5.3	口縁～底部片、内面黒色処理、回転糸切り	AIIa
477	坏	33号土坑	—	—	〈1.9〉	底部片、回転糸切り	AIa
478	甕	34号土坑	—	—	〈7.2〉	胴部片、内外面ナデ	AI
479	坏	34号土坑	—	—	〈3.6〉	口縁～胴部片	AI
480	甕	34号土坑	—	—	〈5.2〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AII
481	甕	35号土坑	—	—	〈8.2〉	口縁～胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AII
482	坏	40号土坑	—	—	〈3.3〉	口縁～胴部片	AIa
483	坏	40号土坑	—	5.1	〈0.8〉	炭化物付着、回転糸切り	AIa
484	坏	40号土坑	—	6.7	〈1.3〉	内面黒色処理、回転糸切り	AIIa
485	甕	40号土坑	—	—	〈5.3〉	胴～底部片、外面・底部ケズリ	AII
486	坏	40号土坑	—	—	〈2.9〉	胴部片、炭化物付着	AI
487	坏	40号土坑	—	—	〈4.1〉	胴部片、内面黒色処理	AII
488	坏	41号土坑	—	—	〈1.7〉	胴上～底部片、内面炭化物付着	AIa
489	甕	41号土坑	—	—	〈5.2〉	口縁～胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AII
490	坏	41号土坑	—	—	〈2.6〉	胴部片、内外面黒色処理	AIII
491	坏	41号土坑	—	—	〈2.6〉	口縁～胴部片、	AI
492	坏	42号土坑	—	—	〈2.7〉	口縁～胴部片	AI
493	甕	42号土坑	—	—	〈7.9〉	胴部片、外面タタキ目、内面ナデ	BI
494	坏	42号土坑	—	—	〈2.6〉	口縁～胴部片	AI
495	坏	42号土坑	—	—	〈2.2〉	口縁部片	AI
496	坏	42号土坑	—	—	〈2.3〉	口縁部片	AI
497	坏	42号土坑	—	—	〈2.3〉	胴下部片、炭化物付着	AI
498	甕	42号土坑	—	—	〈5.6〉	胴部片、外面ケズリ	AII
499	坏	42号土坑	—	—	〈0.6〉	底部片、回転糸切り、炭化物付着	AIa
500	坏	43号土坑	11.8	5.6	3.8	回転糸切り	AIa
501	坏	43号土坑	12.1	5.3	3.2	回転糸切り	AIa
502	甕	43号土坑	—	—	〈3.1〉	口縁部片、外面ケズリ、内面ナデ	AI
503	坏	45号土坑	—	—	〈2.2〉	口縁部片、内面黒色処理	AII
504	甕	45号土坑	—	—	〈2.6〉	口縁部片、内外面横ナデ	AI
505	甕	45号土坑	—	—	〈3.3〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AII
506	坏	46号土坑	11.3	4.6	3.5	回転糸切り	AIa
507	鉢	46号土坑	(25.5)	8.8	12.5	内面黒色処理、底部切り離し後ケズリ	AIIb
508	甕	46号土坑	14.8	—	〈10.1〉	口縁～胴部片、口縁、胴外面ケズリ、内面ナデ	AI

第40表　土器観察表(11)

（　）は推定値、〈　〉は残存値

遺物No.	器　種	出土地点	口径cm	底径cm	器高cm	備　　考	分　類
509	甕	46号土坑	—	—	〈2.3〉	胴部片、外面タケズリ、内面ナデ	AⅡ
510	坏	46号土坑	—	—	〈3.5〉	胴部片、内面黒色処理	AⅡ
511	坏	47号土坑	16.0	5.8	6.2	全体に歪み、回転糸切り	AⅠa
512	甕	48号土坑	—	—	〈4.2〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AⅠ
513	甕	48号土坑	—	—	〈4.2〉	胴部片、外面タタキ目、内面ナデ	BⅠ
514	甕	58号土坑	—	—	〈10.0〉	胴部片、外面タタキ目、内面ナデ	BⅠ
515	甕	59号土坑	—	—	〈2.9〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AⅡ
516	甕？	64号土坑	—	—	〈4.0〉	口縁部片、肉厚	AⅠ
517	甕？	64号土坑	—	—	〈3.8〉	胴部片、外面被熱強	AⅠ
518	鉢？	65号土坑	—	(4.0)	〈3.2〉	胴～底部片、内面黒色処理、底部ケズリ？	AⅡb？
519	甕	65号土坑	—	—	〈4.2〉	胴部片、外面タタキ目、内面ナデ	BⅠ
520	坏	65号土坑	—	—	〈2.3〉	口縁部片、炭化物付着	AⅠ
521	坏	66号土坑	—	—	〈2.8〉	胴部片	AⅠ
522	甕	66号土坑	—	—	〈3.9〉	口縁部、炭化物付着	AⅠ
523	甕	67号土坑	—	—	〈2.3〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AⅡ
524	甕	68号土坑	—	—	〈2.9〉	胴部片	AⅠ
525	甕	73号土坑	—	—	〈3.7〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AⅡ
526	坏	135号土坑	—	—	〈3.2〉	口縁～胴部片	AⅠ
527	甕	PP35	—	—	〈13.1〉	胴部片、外面タタキ目、内面ナデ	BⅠ
528	甕	PP70	—	—	〈5.8〉	口縁部片、内外面横ナデ	AⅠ
529	坏	20号建物PP4	—	(6.7)	〈1.7〉	胴～底部片、回転糸切り	AⅠa
530	甕	24号建物PP5	—	—	〈3.7〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AⅡ
531	甕	PP518	—	—	〈3.4〉	底部～胴下部、底部・外面ケズリ	AⅡ
532	坏	15号建物PP1	—	—	〈1.2〉	底部片、回転糸切り	AⅠa
533	高台付坏	PP608	—	8.6	〈2.2〉	底部片、八字高台	AⅠc1
534	坏	PP1033	—	—	〈2.8〉	口縁～胴部片	AⅠ
535	坏	PP1068	(12.8)	5.4	4.7	口縁～底部片、内面黒色処理、回転糸切り	AⅡa
536	甕	PP1070	—	—	〈3.5〉	口縁～胴上部片	AⅠ
537	坏	12号建物PP1	13.8	4.8	5.4	口縁～底部片、内面黒色処理、2個体接合、回転糸切り	AⅡa
538	甕	PP1076	—	—	〈4.2〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AⅡ
539	坏	PP1141	—	—	〈1.6〉	底部片、回転糸切り	AⅠa
540	坏	PP1170	—	—	〈3.3〉	口縁～胴部片	AⅠ
541	甕	PP1170	—	—	〈3.4〉	口縁部片、内外面ナデ	AⅡ
542	坏	PP1170	—	—	〈2.3〉	口縁～胴部片	AⅠ
543	甕	7号建物PP4	—	—	〈3.8〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AⅡ
544	坏	4号柱穴列PP2	—	—	〈0.8〉	底部片、回転糸切り	AⅠa
545	坏	PP1283	—	—	〈0.6〉	底部片、回転糸切り、炭化物付着	AⅠ
546	坏	PP1528	—	—	〈0.8〉	底部片、内面黒色処理、回転糸切り	AⅡa
547	椀	PP1748	15.2	8.2	8.6	内外面黒色処理、ミガキ、回転糸切り、八字高台	AⅢc1
548	坏	PP1748	—	—	〈1.8〉	胴部片、内面黒色処理	AⅡ
549	甕	PP1750	(20.4)	—	〈16.7〉	口縁～胴部、胴外面ケズリ、内面ナデ	AⅠ
550	坏	PP1751	(15.0)	5.8	5.1	口縁～底部片、回転糸切り	AⅠa
551	甕	PP1753	—	—	〈2.3〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AⅡ
552	坏	PP1757	—	—	〈3.6〉	胴部片、　内面黒色処理	AⅡ
553	坏	PP1764	—	—	〈1.9〉	胴部片、内外面黒色処理？	AⅡ
554	甕	PP1764	—	—	〈2.2〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AⅡ
555	甕	PP1835	—	—	〈3.5〉	胴部片、内外面ナデ	AⅠ
556	坏	PP1851	—	—	〈1.2〉	底部へ、回転糸切り、炭化物付着	AⅠa
557	甕	PP1851	—	—	〈5.2〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ柄	AⅠ
558	坏	PP1857	—	—	〈2.8〉	胴部片、内面黒色処理	AⅡ

第41表　土器観察表(12)

（　）は推定値、〈　〉は残存値

遺物No.	器　種	出土地点	口径cm	底径cm	器高cm	備　　考	分　類
559	甕	PP1857	—	—	〈2.4〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AⅡ
560	坏	PP1879	—	—	〈2.9〉	胴部片	AⅠ
561	坏	PP1941	—	—	〈3.9〉	口縁部片、内面黒色処理	AⅡ
562	甕	PP1946	—	—	〈2.1〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AⅡ
563	甕	1号建物PP2	—	—	〈4.3〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AⅡ
564	甕	PP2055	—	—	〈4.2〉	胴部、外面ｹｽﾞﾘ、内面ナデ	AⅡ
565	甕	PP2151	—	—	〈3.1〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ、炭化物付着	AⅡ
566	甕	PP2151	—	—	〈2.4〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	BⅠ
567	高台付坏	PP2427	(13.3)	6.2	4.1	口縁～底部片、回転糸切り、高台台状	AⅠc
568	坏	ⅠD10a	12.4	5.0	4.1	口縁～底部片、回転糸切り	AⅠa
569	甕	ⅠE10b	—	—	〈8.2〉	口縁～胴部片	AⅠ
570	甕	ⅡD10j	—	—	〈5.3〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AⅡ
571	甕	ⅡD3c	—	—	9.2	胴部片、外面タタキ目、内面ナデ	BⅠ
572	坏	ⅡD3c	—	—	〈3.1〉	口縁部片、内面黒色処理	AⅡ
573	坏	ⅡD4h	—	6.0	〈3.2〉	胴～底部片、回転糸切り	AⅠa
574	坏	ⅡD5b	—	—	〈6.3〉	口縁～胴下部	AⅡ
575	高台付坏	ⅡD6i	—	4.6	〈2.2〉	底部片、回転糸切り後字八字高台	AⅠc1
576	甕	ⅡD8e	—	—	〈16.0〉	胴部片	BⅠ
577	坏	ⅡD8eと9号溝跡	9.7	5.3	2.8	回転糸切り、回転糸切り、２個体接合	AⅠa
578	坏	ⅡE7f	(13.4)	(5.2)	4.6	内面黒色処理、回転糸切り	AⅡa
579	坏	ⅡE8e	—	—	〈3.4〉	口縁～胴部片、内外面黒色処理	AⅢ
580	坏	ⅡG2a	(15.2)	—	〈4.4〉	口縁～胴部片	BⅠ
581	坏	ⅡG2d	(15.2)	—	〈4.4〉	口縁～胴部片	BⅠ
582	甕	ⅡG2f	(20.2)	—	〈16.4〉	口縁～胴部片、胴外面ケズリ、口縁部横ナデ	AⅠ
583	甕	ⅢB10i	(26.1)	—	〈29.9〉	口縁～胴下部片、外面ケズリ、内面ナデ	AⅡ
584	坏	ⅢB10j	(14.8)	—	〈4.7〉	炭化物付着	AⅠ
585	甕	ⅢC3d	—	—	2.9〉	胴部外面、タタキ目	BⅠ
586	坏	ⅢC3h	12.7	5.7	4.6	口縁～底部片、回転糸切り	AⅠa
587	甕	ⅢC3h	(22.0)	—	〈22.8〉	口縁～胴下部片、胴下部ケズリ、内面ナデ	AⅠ
588	甕	ⅢC4g	—	(9.4)	〈1.1〉	底部片、底部ケズリ	AⅡ
589	坏	ⅢC4g	13.9	4.6	4.1	完形、回転糸切り、炭化物付着	AⅠa
590	甕	ⅢC4h	—	—	5.6	胴部片、外面タタキ目、内面ナデ	BⅠ
591	坏	ⅢC5d	—	—	〈4.8〉	口縁～胴部片、内面黒色処理	AⅡ
592	高台付坏	ⅢC5h	—	7.0	〈1.9〉	胴～底部片、内面黒色処理、回転糸切り後八字高台	AⅡc2
593	甕	ⅢC5i	—	—	〈6.5〉	口縁～胴上部	AⅠ
594	坏	ⅢC6j	—	6.0	〈0.7〉	底部片、内面黒色処理、回転糸切り	AⅡa
595	甕	ⅢC7e	—	—	〈2.4〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AⅡ
596	甕	ⅢC7e	—	—	〈4.7〉	胴上部片	AⅠ
597	坏	ⅢC7j	14.1	5.6	4.3	炭化物付着、回転糸切り	AⅠa
598	坏	ⅢC7j	14.3	5.1	4.3	回転糸切り	AⅠa
599	坏	ⅢC7j	14.5	5.5	4.0	回転糸切り	AⅠa
600	坏	ⅢD1h	—	—	〈5.8〉	口縁～胴部片	AⅠ
601	坏	ⅢD2h	(14.0)	(6.6)	4.1	炭化物付着、回転糸切り	AⅠa
602	高台付坏	ⅢD4d	—	7.4	〈1.9〉	高台部片、八字高台	AⅠc1
603	甕	ⅢD4g	—	—	〈4.0〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AⅡ
604	甕	ⅢD4g	—	—	〈9.0〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	AⅡ
605	甕	ⅢD4g	—	—	〈2.6〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	BⅠ
606	甕	ⅢD4h	—	—	〈2.2〉	頸上部片、内外面横ナデ	BⅠ
607	坏	ⅢD5c	(16.6)	—	〈2.1〉	口縁部片	AⅠ
608	甕	ⅢD5c	(11.2)	—	〈4.0〉	口縁～胴部片、内外面ナデ、炭化物付着	AⅡ

第42表　土器観察表(13)

（　）は推定値、〈　〉は残存値

遺物No.	器　種	出土地点	口径cm	底径cm	器高cm	備　　考	分　類
609	甕	ⅢＤ５ｃ	—	—	〈3.4〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	ＡⅡ
610	甕	ⅢＤ５ｃ	—	—	〈3.5〉	底部～胴下部片、外面ケズリ	ＢⅠ
611	甕	ⅢＤ５ｄ	—	—	〈2.5〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	ＢⅠ
612	甕	ⅢＤ６ｃ	—	10.4	〈2.0〉	胴～底部片、外面ケズリ、底部木葉痕	ＡⅡ
613	甕	ⅢＤ６ｃ	—	13.0	〈1.6〉	底部片、外面ケズリ、底部刷毛目	ＡⅡ
614	甕	ⅢＤ６ｅ	—	—	〈4.7〉	口縁部片、内外面横ナデ	ＡⅠ
615	甕	ⅢＤ６ｅ	—	—	〈5.2〉	頸部片、内外面横ナデ	ＢⅠ
616	甕	ⅢＤ６ｅ	—	—	〈3.7〉	胴部片、内外面タタキ目	ＢⅠ
617	甕	ⅢＤ６ｈ	(24.8)	—	〈2.4〉	口縁～胴部片、内倍面ナデ	ＡⅡ
618	甕	ⅢＤ６ｈ	—	—	〈5.4〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	ＡⅡ
619	甕	ⅢＤ６ｈ	—	—	〈4.3〉	胴部片、外面タタキ目、内面ナデ	ＢⅠ
620	深鉢	ⅢＤ８ｄ	—	—	〈3.5〉	胴部片、縄文(RL)、縄文晩期～弥生期	—
621	甕	ⅢＥ３ｊ	(20.0)	—	〈5.6〉	口縁～胴部片、外面ナデ	ＡⅡ
622	甕	ⅢＥ９ｃ	—	—	〈2.4〉	胴部片、外面タタキ目、内面ナデ	ＢⅠ
623	甕	ⅣＡ10ｈ	—	—	〈7.6〉	口縁～胴部片、内外面ナデ、穿孔痕？	ＡⅡ
624	坏	ⅣＢ６ｊ	—	—	〈1.7〉	胴部片	ＢⅠ
625	甕	ⅣＢ８ｂ	—	—	〈3.6〉	胴部片、内外面タタキ目	ＢⅠ
626	甕	ⅣＢ９ｄ	—	—	〈3.9〉	胴部片、内外面タタキ目	ＢⅠ
627	甕	ⅣＤ10ｅ	—	—	〈1.9〉	頸部片、内外面横ナデ	ＢⅠ
628	甕	ⅣＤ１ｊ	—	—	〈4.3〉	胴部片、内外面横ナデ	ＡⅠ
629	甕	ⅣＤ５ｈ	(24.8)	—	〈8.0〉	口縁～胴部片	ＡⅠ
630	坏	ⅣＤ５ｈ	—	6.6	2.2	胴～底部片、回転糸切り	ＡⅠａ
631	坏	ⅣＤ８ｃ	(13.4)	(4.2)	5.2	炭化物付着、底部切り離し後ケズリ	ＡⅠａ
632	坏	ⅣＤ８ｃ	—	—	〈3.1〉	胴下部片、内面黒色処理	ＡⅡ
633	甕	ⅣＤ８ｅ	—	—	〈7.5〉	口縁～胴上部片、外面ケズリ、内面ナデ	ＡⅡ
634	甕	ⅣＧ２ｆ	—	—	10.7	胴部片、内外面タタキ目	ＢⅠ
635	甕	ⅣＧ２ｆ	—	—	18.4	胴部片、内外面タタキ目、内面青海波文	ＢⅠ
636	甕	ⅣＧ２ｆ	—	—	10.4	胴上部片、内外面タタキ目	ＢⅠ
637	甕	ＶＢ２ｂ	—	—	〈4.9〉	胴部片、内外面タタキ目	ＢⅠ
638	甕	ＶＢ２ｆ	—	—	〈3.8〉	口縁部片、内外面横ナデ	ＡⅠ
639	甕	ＶＢ２ｆ	—	—	〈4.6〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	ＡⅠ
640	甕	ＶＢ３ｆ	—	—	〈5.5〉	口縁部片、内外面横ナデ	ＡⅠ
641	坏	ＶＢ３ｆ	(12.0)	(5.4)	3.0	口縁～底部片、回転糸切り	ＡⅠａ
642	坏	ＶＢ３ｆ	—	—	〈1.3〉	胴部片	ＡⅠ
643	甕	ＶＢ３ｆ	—	—	〈1.8〉	口縁部片、ナデ	ＡⅡ
644	坏	ＶＢ３ｆ	—	—	〈4.5〉	口縁～胴部片	ＡⅠ
645	甕	ＶＢ３ｆ	—	—	〈6.2〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ？	ＡⅠ
646	甕	ＶＢ５ｃ	—	—	〈3.3〉	胴部片、外面タタキ目、内面ナデ	ＢⅠ
647	甕	ＶＢ９ａ	—	—	〈2.1〉	底部～胴下部、外面ケズリ、内面ナデ	ＡⅠ
648	甕	ＶＣ４ｈ	—	—	〈3.2〉	胴部片、外面ケズリ、内面ナデ	ＡⅡ
649	甕	ＶＣ10	—	—	5.5	胴部片、外面自然釉	ＢⅠ
650	深鉢	ＶＤ５ｈ	—	—	〈4.0〉	口縁部片、縄文晩期～弥生期	—
651	坏	ＶＦ５ｇ	(14.9)	(5.8)	3.8	炭化物付着、回転糸切り	ＡⅠａ
652	甕	ＶＧ５ｇ	—	—	7.8	胴部片、内面ナデ	ＢⅠ
653	坏	ＶＧ６ｃ	—	—	〈3.2〉	胴部片、内面黒色処理	ＡⅡ
654	甕	ＶＧ６ｄ	—	—	〈1.6〉	胴部外面、タタキ目	ＢⅠ
655	甕	ＶＨ６ｃ	—	—	8.6	胴部片、外面タタキ目、内面ナデ	ＢⅠ
656	甕	ⅦＨ４ｃ	—	—	7.9	胴部片	ＢⅠ
657	甕	ⅧＤ３ｂ	—	—	9.7	胴部片、内外面タタキ目、内面青海波文	ＢⅠ

第43表　国産陶器観察表

遺物No.	種　類	器　種	出土位置	部　位	色　調	分　類	時　期	備　考
658	東濃	短頸壺	7号住居跡	胴部	灰白	—	10C	K90-K53
659	猿投	耳皿	1号工房跡	口縁-底部	灰オリーブ色	—	9C末	K90、口縁襞状？
660	常滑	甕	6号焼土	頸部	灰オリーブ色	2-3形式	12C後半末	
661	常滑	壺	1号堀跡	胴部上	灰色	2-3形式	12C後半	検出面
662	渥美	甕？	1号周溝	胴部	浅黄色	—	12C後半-13C初	
663	常滑	鉢	1号墓壙	口縁部	灰白色	4形式	13C初	
664	常滑	甕	1号墓壙	口縁部	灰褐-灰オリーブ色	4形式	13C初	
665	渥美	鉢	3号墓壙	胴部	オリーブ灰色	—	12C	
666	宮城産？	鉢	3号墓壙	胴部	灰褐色	—	13C？	東北産？
667	常滑	甕	4号墓壙	胴上部	灰褐色	3-4形式	12C後半-13C初	
668	常滑	鉢	5号墓壙	口縁部	灰白色	2-3形式	12C後半	
669	多高田？	甕	6号墓壙	頸部		—	13C後半	宮城県産、682と同一個体
670	常滑	甕	6号墓壙	胴部	灰褐色	3-4形式	12C後半-13C初	
671	常滑	甕	10号墓壙	胴部	オリーブ灰色	3-4形式	12C後半-13C初	
672	渥美	片口鉢	19号墓壙	口縁部	暗灰黄色	—	12C後半	
673	珠洲？	甕	19号墓壙	胴部	灰色	—	12C後半-13C前半	
674	常滑	片口鉢	19号墓壙	胴部	灰白色	2-3形式	12C後半	
675	渥美	片口鉢	19号墓壙	頸部	暗灰黄色	—	12C後半	
676	常滑	甕	21号墓壙	胴部	灰褐色	3-4形式	12C後半-13C初	
677	常滑	鉢	22号墓壙	胴部	灰白色	2-3形式	12C後半	
678	常滑	鉢	24号墓壙	底部	灰褐色	2-3形式	12C後半	
679	古瀬戸	瓶子	27号墓壙	胴下部	にぶい黄色	前ⅡC-Ⅲ期	13C後半	
680	瀬戸	天目茶碗	27号墓壙	口縁部	黒褐色	穿窯Ⅳ？	15C？	
681	渥美	片口鉢	31号墓壙	胴部	灰褐色	—	12C後半	
682	多高田？	甕	34号墓壙	胴部	灰褐色	—	13C後半	宮城県産、670と同一個体
683	常滑	甕	36号墓壙	胴部	黒褐色	4-5形式	13C前半	
684	常滑	甕	36号墓壙	胴部	黒褐色	2形式	12C第3四半期	
685	常滑	鉢	36号墓壙	胴部	灰褐色	3形式	12C第4四半期	
686	常滑	片口鉢	38号墓壙	口縁部	灰白色	3形式	12C第4四半期	
687	常滑	甕	39号墓壙	頸部	灰オリーブ色	2-3形式	12C後半	
688	常滑	小皿	46号墓壙	完形	灰オリーブ色	3形式	12C第4四半期	手づくねかわらけと共伴、口径8.2、器高2.1cm
689	常滑	鉢	46号墓壙	胴部	灰褐色	2形式	12C第3四半期	綾杉押印文
690	常滑	甕	58号土坑	頸上部	灰オリーブ色	4形式	13C初	
691	渥美	四耳壺	66号土坑	胴部	灰褐色	—	12C前半	突帯文、袈裟襷文、縦耳
692	渥美	甕	66号土坑	胴部	黒色	—	12C	691・693～695と同一個体
693	渥美	甕	66号土坑	胴部	黒色	—	12C	691・692・694と同一個体
694	渥美	甕	66号土坑	胴部	灰白色	—	12C	691～693と同一個体
695	渥美	甕	67号土坑	胴部	黒色	—	12C	696・697と同一個体
696	渥美	甕	67号土坑	胴部	黒色	—	12C	695・697と同一個体
697	渥美	甕	67号土坑	胴部	黒色	—	12C	695・696と同一個体
698	多高田？	甕	7号土坑	胴部	褐色	—	13C後半	宮城県産
699	渥美	鉢？	ⅢD2d	胴部	灰白色	—	12C後半-13C初	
700	珠洲？	甕	ⅢD2h	胴部	灰褐色	—	12C末-13C初	
701	常滑	甕	ⅢE2i	胴部上	灰オリーブ色	3形式	12C第4四半期	750と同一個体
702	珠洲？	壺	ⅢF6a	胴部	黒褐色	—	13-14C	
703	瀬戸	皿	VG3h	口縁部	明緑灰色	穿窯Ⅳ？	14C？	内外面貫入
704	常滑	甕	VG5e	頸部？	灰オリーブ色	2形式	12C第3四半期	転用痕有り、87と同一個体
705	常滑	甕	VG5g	胴部	褐色	3-4形式	12C後半～13C初	701と同一個体
706	常滑	甕	VG5g	頸部	灰オリーブ色	3-4形式	12C後半～13C初	
707	常滑	壺	VG5g	底部	灰色	3形式	12C第4四半期	
708	常滑	鉢	VG5g	胴部	灰色	2-3形式	12C後半	
709	常滑	壺	VG5g	口縁部	灰色	2形式	12C第3四半期	704と同一個体
710	渥美	鉢	VG5g	口縁部	黒色	—	12C	
711	渥美	鉢	VG5g	胴部	灰白色	—	12C後半-13C初	
712	古瀬戸	直縁大皿	ⅥH5C	完形	浅黄色	後Ⅰ期	1365-1385	試掘トレンチ
1016	常滑	甕	19号墓壙	胴部	暗赤褐色	3-4形式	12C後半～13C初	
1017	渥美	鉢	ⅢD4h	胴部	灰白色	—	12C後半	

第44表　中国産磁器観察表

遺物No.	種　類	器　種	出土位置	層　位	部位	時　　代	分　類	色　調	備　　考
756	白磁？	Ⅲ？	1号周溝	検出面	胴部	－	－	灰白色	
757	白磁	Ⅲ	10号墓壙	埋土中	口縁部	13C前半	Ⅸ類	灰白色	口禿
758	青白	Ⅲ	19号墓壙	埋土中位	胴部	12C後半	—	灰白色	
759	白磁	Ⅲ	19号墓壙	埋土中位	口縁部	13C前半	Ⅸ類	灰白色	口禿
760	白磁	四耳壺	38号墓壙	床面	胴部	12C	Ⅱ類	灰白色	
761	白磁	四耳壺	47号墓壙	床面	胴部	12C	Ⅱ類	灰白色	
762	青磁	Ⅲ	5号墓壙	埋土中	胴部	12C後半	Ⅰ1類	オリーブ灰色	龍泉窯
763	青磁	碗	67号土坑	検出面	胴部	13C後半	Ⅰ5類	緑灰色	連弁文、龍泉窯
764	青磁	碗		埋土中	底部	15C	—	灰オリーブ色	龍泉窯
765	青磁	碗		埋土中	胴下部	13C後半	Ⅰ5類	緑灰色	連弁文、龍泉窯
766	青白磁	Ⅲ		埋土中	胴部	12C後半-13C初	—	明緑灰色	
767	青白磁	Ⅲ	PP5145	埋土中	胴部	12C後半	—	明緑灰色	
768	青白磁	合子	ⅢD2d	検出面	胴部	12C後半-13C初	—	明緑灰色	769と同一個体
769	青白磁	合子	ⅢD2d	検出面	胴部	12C後半-13C初	—	明緑灰色	768と同一個体
770	青白磁	Ⅲ	VG3h	検出面	胴部	12C後半-13C初	—	明緑灰色	
771	青磁	碗	VG3h	検出面	底部	12C	Ⅰ1類	緑灰色	劃花文、龍泉窯、772と同一個体？
772	青磁	碗	VIH5c	検出面	底部	12C	Ⅰ1類	緑灰色	劃花文、龍泉窯、771と同一個体？
773	青磁	碗	VH5c	検出面	胴部	12C後半	Ⅰ5類	暗緑灰色	連弁文、龍泉窯

第45表　かわらけ観察表

口径・器高はcm、（　）は推定値、〈　〉は残存値

遺物No.	種　類	出土位置	部　位	口径	器高	色　調	時　期	備　考	分　類
713	手づくね	1号墓壙	口縁	(7.4)	〈1.2〉	灰白色	12C第4四半期		D3-Ⅱ
714	手づくね	1号墓壙	口縁-胴下部	—	〈2.0〉	灰黄褐色	12C第4四半期	カーボン付着	D4-Ⅰb
715	手づくね	5号墓壙	口縁-胴上部	—	〈2.2〉	にぶい黄橙色	12C第4四半期	716と同一個体	D4-Ⅰ
716	手づくね	5号墓壙	口縁-胴上部	(8.6)	〈1.2〉	にぶい黄橙色	12C第4四半期	715と同一個体	D4-Ⅱ
717	ロクロ	2号周溝	口縁一底部	(8.2)	1.8	にぶい褐色	12C後半		—
718	手づくね	16号墓壙	口縁-胴下部	(9.2)	1.9	灰黄褐色	12C第4四半期		D4-Ⅱb
719	手づくね	28号墓壙	口縁-胴下部	(8.6)	1.1	灰黄褐色	12C第4四半期		D3-Ⅱb
720	手づくね	28号墓壙	完形	(7.4)	1.7	黄灰色	12C第4四半期	黒色処理？	D2-2b
721	手づくね	28号墓壙	完形	8.8	2.2	黄灰色	12C第4四半期	黒色処理?	D2-Ⅰb
722	手づくね	28号墓壙	完形	8.3	1.8	にぶい橙色	12C第4四半期		D4-Ⅰa
723	手づくね	28号墓壙	完形	8.4	1.8	黒色	12C第4四半期	黒色処理	D2-Ⅰa
724	手づくね	28号墓壙	完形	7.4	1.7	黒色	12C第4四半期	黒色処理	D3-Ⅰb
725	手づくね	28号墓壙	口縁～底部片	—	1.6		12C第4四半期	726同一個体、内面カーボン付着	D4-Ⅰa
726	手づくね	28号墓壙	口縁～底部片	(7.0)	1.3		12C第4四半期	725と同一個体	D4-Ⅰa
727	手づくね	28号墓壙	口縁-胴下部	(12.3)	〈1.8〉	にぶい黄橙色	12C第4四半期		D4-Ⅰ大型
728	手づくね	28号墓壙	口縁-底部	(7.8)	1.5	にぶい黄橙色	12C第4四半期		D3-Ⅰb
729	手づくね	28号墓壙	口縁-底部	—	2.2	にぶい黄橙色	12C第4四半期		D3-Ⅱb
730	手づくね	30号墓壙	口縁-胴下部	(15.7)	2.2	明黄褐色	12C第4四半期		D4-Ⅱa大型
731	手づくね	46号墓壙	口縁-胴下部	(13.8)	〈2.5〉	にぶい黄橙色	12C第4四半期	内面に穿孔加工痕	D2-Ⅱ大型
732	手づくね	46号墓壙	口縁-底部	(12.8)	1.6	にぶい橙色	12C第4四半期		D3-Ⅰa大型
733	手づくね	46号墓壙	完形	8.5	1.8	浅黄橙色	12C第4四半期	スノコ状圧痕	D2-Ⅱb
734	手づくね	46号墓壙	口縁-胴下部	—	〈2.1〉	にぶい橙色	12C第4四半期	732と同一個体？	D3-Ⅰb大型
735	手づくね	46号墓壙	口縁～胴部	—	〈2.2〉	にぶい黄橙色	12C第4四半期	736と同一個体	D4-Ⅰb
736	手づくね	46号墓壙	口縁～胴部	—	〈1.1〉	にぶい黄橙色	12C第4四半期	740と同一個体	D3-Ⅰ
737	手づくね	46号墓壙	口縁～胴部	—	〈1.8〉	浅橙色	12C第4四半期	735と同一個体	D4-Ⅰb
738	手づくね	46号墓壙	口縁～胴部	—	〈1.8〉	浅黄橙色	12C第4四半期	735と同一個体	D4-Ⅰb
739	手づくね	46号墓壙	口縁～胴部	—	〈1.5〉	灰黄褐色	12C第4四半期	内面カーボン付着	D2-Ⅰ
740	手づくね	46号墓壙	口縁～胴部	—	〈1.8〉	にぶい黄橙色	12C第4四半期	736と同一個体	D2-Ⅱb
741	手づくね	46号墓壙	胴部	—	〈2.8〉	にぶい黄橙色	12C第4四半期	740と同一個体	D2-Ⅱ
742	手づくね	46号墓壙	胴部	—	〈2.2〉	にぶい橙色	12C第4四半期		—
743	手づくね	46号墓壙	口縁部	—	〈2.0〉	にぶい黄橙色	12C第4四半期		D2-Ⅱ
744	手づくね	46号墓壙	口縁一胴部	—	〈2.5〉	にぶい黄橙色	12C第4四半期	737と同一個体	D2-Ⅱ
745	手づくね	51号土坑	完形	7.5	1.2	灰白色	12C第4四半期		D2-Ⅱa
746	手づくね	51号土坑	口縁一胴部	—	〈2.2〉	にぶい黄橙色	12C第4四半期	747・748と同一個体？	D4-Ⅰ
747	手づくね	51号土坑	胴部	—	〈2.9〉	灰褐色	12C第4四半期	746・748と同一個体？	—
748	手づくね	51号土坑	胴部	—	〈2.2〉	灰褐色	12C第4四半期	746・747と同一個体？	—
749	手づくね	58号土坑	口縁部	—	〈2.3〉	にぶい黄橙色	12C第4四半期	炭化物付着	D3-Ⅰ
750	手づくね	64号土坑	口縁-胴下部	(14.0)	〈2.2〉	にぶい黄橙色	12C第4四半期	751と同一個体	D4-Ⅰb
751	手づくね	64号土坑	胴下部	—	〈1.2〉	にぶい黄橙色	12C第4四半期	750と同一個体	D4-Ⅰb
752	手づくね	65号土坑	口縁-胴下部	(4.3)	〈1.8〉	橙色	12C第4四半期		D4-Ⅰb大型
753	手づくね	65号土坑	口縁～胴下部	—	〈2.0〉	浅黄橙色	12C第4四半期		D2-Ⅰb
754	手づくね	ⅣB区	口縁～底部	(14.6)	2.5	にぶい黄橙色	12C第4四半期	炭化物付着	D3－Ⅰa大型
755	ロクロ	ⅦE7e	口縁～底部	(7.0)	0.7	にぶい黄橙色	12C第4四半期	炭化物付着	—

第46表　銭貨観察表

（　）は推定値、〈　〉は残存値

遺物No.	種　類	出土位置	出土層位	直径cm	重さg	金属種類	初鋳造年	備　考
774	景祐元宝	1号周溝	埋土中	2.5	2.7	銅	1034	
775	永楽通宝	19号墓壙	検出面	2.5	2.0	銅	1408	
776	宣徳通宝	19号墓壙	検出面	2.6	2.1	銅	1433	
777	元豊通宝？	23号墓壙	埋土下位	2.5	(2.0)	銅	1078？	777と癒着
778	祥符元宝？	23号墓壙	埋土下位	2.5	(2.0)	銅	1008？	776と癒着
779	永楽通宝	45号墓壙	埋土中	2.4	2.8	銅	1408	六道銭
780	熙寧元宝	45号墓壙	埋土中	2.4	3.2	銅	1068	六道銭
781	元符通宝	45号墓壙	埋土中	2.4	3.5	銅	1098	六道銭
782	祥符元宝	45号墓壙	埋土中	(2.3)	〈1.5〉	銅	1008	六道銭
783	天聖元宝	45号墓壙	埋土中	2.5	3.1	銅	1023	六道銭
784	景祐元宝	45号墓壙	埋土中	2.5	2.3	銅	1034	
785	永楽通宝	45号墓壙	検出面	2.5	〈2.0〉	銅	1408	
786	熙寧元宝？	48号墓壙	埋土中位	2.2	2.2	銅	1068？	
787	—	52号墓壙	埋土下位	2.8	5.0	鉄	—	近世？
788	寛永通宝	52号墓壙	埋土下位	2.4	2.9	銅	1637	
789	寛永通宝	52号墓壙	埋土下位	2.4	2.1	銅	1637	
790	仙臺通宝	53号墓壙	埋土上位	2.7	5.8	鉄	1784	
791	—	54号墓壙	埋土下位	2.5	〈2.1〉	銅	—	
792	寛永通宝	54号墓壙	埋土下位	2.4	〈1.8〉	銅	1637	
793	寛永通宝？	54号墓壙	埋土下位	2.4	〈2.0〉	銅	1637？	
794	文久永宝	55号墓壙	埋土上位	2.7	〈2.4〉	銅	1863	
795	寛永通宝	56号墓壙	埋土下位	2.4	3.7	銅	1637	
796	聖宋元宝	7号土坑	埋土中位	2.4	1.8	銅	1001	
797	—	7号土坑	埋土上位	(2.3)	〈1.2〉	銅	—	私鋳銭
798	—	72号土坑	埋土中位	1.9	〈0.5〉	銅	—	雁首銭
799	寛永通宝	17号建物PP20	埋土中位	2.4	2.8	銅	1637	
800	寛永通宝	99号土坑	埋土中位	2.5	2.9	銅	1637	
801	寛永通宝	101号土坑	埋土下位	2.5	2.0	銅	1637	
802	寛永通宝	103号土坑	埋土中位	2.5	〈2.6〉	銅	1637	
803	永楽通宝	PP2397	埋土中	2.4	1.2	銅	1408	
804	元符通宝	PP688	埋土中	2.4	2.7	銅	1098	
805	永楽通宝	PP2073	埋土中	2.2	1.8	銅	1408	
806	永楽通宝？	PP2073	埋土中	2.2	〈1.3〉	銅	1408？	
807	寛永通宝	26号建物跡PP8	埋土中位	2.5	3.2	銅	1637	
808	寛永通宝	PP1562	埋土中位	2.5	3.5	銅	1637	
809	永楽通宝？	PP2073	埋土中位	2.2	〈1.4〉	銅	1408？	
810	大中通宝	ⅡE7i	検出面	2.3	2.3	銅	1361	
811	永楽通宝	ⅣB10f	検出面	2.3	1.4	銅	1408	
812	—	ⅣB10f	検出面	(2.4)	〈0.8〉	銅	—	私鋳銭
813	—	VB9a	埋土上位	2.1	3.0	鉄	—	
814	寛永通宝	VB9a	埋土中位	2.3	1.4	銅	1637	
815	—	VB9a	埋土中位	2.3	1.8	銅	—	
816	仙臺通宝	VB9a	埋土中位	2.8	5.7	鉄	1784	
817	仙臺通宝	Vb9a	埋土上位	2.6	5.7	鉄	1784	
818	寛永通宝	VG5g	検出面	2.5	3.4	銅	1637	
819	寛永通宝	VG5g	埋土上位	2.3	2.0	銅	1636	

第47表　金属器観察表

※　煙管の分類は小泉弘「江戸を掘る」(1983)に準じた

遺物No.	器　種	出土地点	出土層位	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	材質	備　　考
875	紡錘車	19号住居跡	埋土中	〈6.8〉	6.1	—	67.4		
876	釘	16号墓壙	埋土中	〈3.3〉	0.7	0.7	4.2		
877	釘	16号墓壙	埋土中	4.7	1.3	0.7	4.1		
878	刀子	16号墓壙	埋土中	〈4.5〉	1.4	0.6	7.6		
879	棒状鉄製品	18号墓壙	埋土中	〈13.3〉	0.8	0.5	21.8		
880	刀子	19号墓壙	埋土下層	17.0	2.6	0.6	43.6		
881	釘？	19号墓壙	埋土中	〈3.8〉	0.7	0.7	5.3		
882	釘	1号墓壙	埋土中	〈7.0〉	1.0	0.9	9.2		
883	刀子	23号墓壙	埋土下層	12.2	2.1	0.5	30.0		
884	刀子	23号墓壙	埋土中	〈4.1〉	2.4	0.5	11.3		
885	不明	24号墓壙	埋土中	〈6.3〉	2.7	0.8	29.4		
886	釘	27号墓壙	床直上	〈3.4〉	0.7	0.6	3.0		
887	火打鎌	36号墓壙	埋土上位	9.3	2.6	0.6	27.4	鉄	
888	釘	42号墓壙	床直上	〈4.2〉	0.7	0.7	5.5		
889	刀子？	44号墓壙	埋土中	7.9	2.1	0.3	19.8		
890	煙管	53号墓壙	埋土中位	〈5.1〉	1.1	0.1	〈8.4〉	銅	雁首、Ⅴ期
891	釘	53号墓壙	埋土中	7.8	0.7	0.7	10.5	鉄	
892	煙管	1号井戸	埋土中位	〈4.7〉	1.1	0.05	〈7.5〉	銅	吸口、Ⅵ期
893	楔	50号土坑	埋土中	7.4	1.4	1.3	62.9	鉄	
894	鑿	50号土坑	埋土中	16.5	1.1	1.1	45.4		
895	釘	76号土坑	埋土中	3.8	1.0	0.5	1.7	鉄	
896	釘	76号土坑	埋土中	7.0	1.3	0.8	9.3	鉄	
897	鉈	78号土坑	埋土中	(14.0)	(6.0)	(1.1)	〈98.9〉	鉄	
898	釘	86号土坑	埋土中	4.5	1.0	0.6	3.4	鉄	
899	煙管	17号建物PP17	埋土中位	〈4.8〉	1.5	0.1	〈3.7〉	銅	雁首、Ⅳ期
900	鋤先	PP1944	埋土中	11.7	9.0	2.3	203.6		
901	鉄鉇	ⅢB8i	耕作土中	8.1	1.6	0.8	56.3	鉄	
902	煙管	ⅣB2f	検出面	5.6	1.0	0.1	6.2	銅	雁首、Ⅱ期
903	釘	ⅣC3a	耕作土中	(5.5)	(1.5)	0.8	〈10.0〉	鉄	
904	釘	ⅣC3a	耕作土中	〈4.7〉	0.7	0.7	〈8.1〉	鉄	
905	鋤先	ⅣC区	耕作土中	(813.8)	(12.8)	0.4	〈65.4〉	鉄	
906	鉈？	VB区	火山灰下40cm	〈23.2〉	4.0	0.5	99.4		
907	釘	VB2f	埋土中	〈2.7〉	0.4	0.4	〈1.6〉	鉄	
908	煙管	VB9a	埋土中位	〈4.3〉	1.2	0.1	〈4.8〉	銅	雁首、Ⅰ期
909	煙管	VB9a	埋土中位	〈4.1〉	1.0	0.1	〈1.9〉	銅	吸口、Ⅵ期？
910	煙管	VB9a	埋土中位	〈15.4〉	1.2	0.1	〈5.2〉	銅	吸口、Ⅰ期
911	楔	VB9a	埋土中	8.1	2.5	1.0	22.3	鉄	

第48表　石製品観察表

〈 〉は推定値

遺物No.	出土位置	器　種	層　位	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	石　質	備　考
820	7号住居跡	磨石	埋土中	12.0	8.5	5.3	680	安山岩	奥羽山脈
821	10号住居跡	磨石	埋土中	8.3	2.6	1.7	58	頁岩	北上山地
822	10号住居跡	磨石	埋土中	8.4	2.6	2.1	71	砂岩	北上山地
823	10号住居跡	磨石	埋土中	7.3	1.6	0.9	22	砂岩	北上山地
824	10号住居跡	磨石	埋土中	6.2	2.1	1.6	30	砂岩	北上山地
825	10号住居跡	磨石	埋土中	5.8	2.1	1.4	25	砂岩	北上山地
826	10号住居跡	磨石	埋土中	5.4	1.7	1.3	20	砂岩	北上山地
827	10号住居跡	磨石	埋土中	7.1	1.9	1.9	49	砂岩	北上山地
828	10号住居跡	磨石	埋土中	6.0	1.5	1.1	22	砂岩	北上山地
829	10号住居跡	磨石	埋土中	4.4	1.2	1.0	9	砂岩	北上山地
830	10号住居跡	磨石	埋土中	8.9	2.8	1.6	63	砂岩	北上山地
831	10号住居跡	磨石	埋土中	8.0	2.6	2.3	67	砂岩	北上山地
832	10号住居跡	磨石	埋土中	6.9	1.8	1.2	28	砂岩	北上山地
833	10号住居跡	磨石	埋土中	8.9	1.9	1.2	38	砂岩	北上山地
834	10号住居跡	磨石	埋土中	6.3	2.3	1.7	42	砂岩	北上山地
835	14号住居跡	磨石	埋土中	5.5	6.4	4.3	227	凝灰岩	奥羽山脈
836	14号住居跡	磨石	埋土中	〈6.4〉	8.2	5.7	〈171〉	凝灰岩	奥羽山脈
837	14号住居跡	磨石	埋土中	6.7	2.3	1.3	31	砂岩	北上山地
838	14号住居跡	磨石	埋土中	6.1	2.6	1.8	46	安山岩	奥羽山脈
839	14号住居跡	磨石	埋土中	15.2	6.8	3.9	741	流紋岩	奥羽山脈
840	14号住居跡	磨石	埋土中	15.0	9.9	5.0	529	安山岩	奥羽山脈
841	20号住居跡	磨石	埋土中	6.9	4.8	4.3	194	砂岩	奥羽山脈
842	1号工房跡	砥石	埋土中	〈9.3〉	5.2	3.5	〈462〉	砂岩	奥羽山脈
843	1号工房跡	磨石	埋土中	10.0	7.6	6.0	601	砂岩	奥羽山脈
844	1号住居状	砥石	埋土中	〈4.7〉	1.9	1.2	〈20〉	凝灰岩	奥羽山脈
845	2号住居状	磨石？	埋土中	〈10.3〉	6.1	5.2	〈330〉	石英安山岩	奥羽山脈
846	3号住居状	磨石	埋土中	〈8.6〉	5.8	4.6	〈474〉	安山岩	奥羽山脈
847	9号溝跡	磨石	埋土中	7.0	6.2	3.3	149	安山岩	奥羽山脈
848	1号周溝	磨石	検出面	8.0	6.5	5.6	352	石英安山岩	奥羽山脈
849	46号墓壙	磨石	埋土中	12.6	12.1	1.6	452	安山岩	奥羽山脈
850	5号墓壙	砥石	埋土中	〈3.9〉	〈3.9〉	1.9	〈42〉	砂岩	奥羽山脈
851	46号墓壙	磨石	埋土中	〈13.3〉	7.8	6.5	〈750〉	安山岩	奥羽山脈
852	53号墓壙	砥石	埋土中	〈8.3〉	5.7	1.5	〈141〉	凝灰岩	奥羽山脈
853	1号配石	石臼	検出面	28.0	〈13.8〉	9.4	〈5850〉	石英安山岩	奥羽山脈
854	3号竈状遺構	砥石	埋土中	7.5	4.2	2.2	117	砂岩	奥羽山脈
855	77号土坑	砥石	埋土中	〈9.3〉	6.2	2.5	〈208〉	砂岩	奥羽山脈
856	91号土坑	砥石	埋土中	〈5.3〉	7.5	2.6	〈208〉	石英安山岩	奥羽山脈
857	PP1076	砥石	埋土中	〈4.8〉	4.5	1.6	〈76〉	石英安山岩	奥羽山脈
858	P363	砥石	埋土中	〈5.3〉	7.2	2.4	〈136〉	砂岩	奥羽山脈
859	ⅡC2g	砥石	検出面	〈10.2〉	5.3	4.9	〈213〉	凝灰岩	奥羽山脈
860	ⅡD4g	砥石	耕作土	〈8.9〉	6.3	4.0	〈301〉	砂岩	奥羽山脈
861	ⅢC9i	砥石	耕作土	8.6	2.7	3.2	93	砂岩	奥羽山脈
862	ⅣB10C	砥石	耕作土	〈14.1〉	6.8	5.2	〈652〉	砂岩	奥羽山脈
863	VB2f	砥石	攪乱層	〈6.0〉	3.3	0.7	〈23〉	砂岩	奥羽山脈
864	VB6h	凹石	埋土中	11.4	9.5	2.1	287	安山岩	奥羽山脈
865	VB8j	砥石	耕作土	〈9.8〉	6.4	5.3	〈601〉	砂岩	奥羽山脈
866	VB9a	砥石	攪乱層	〈5.6〉	7.7	1.7	〈120〉	砂岩	奥羽山脈
867	VB9a	磨石	攪乱層	5.5	4.8	4.1	137	安山岩	奥羽山脈
868	VB9a	磨石	攪乱層	5.5	4.6	4.0	135	安山岩	奥羽山脈
869	VB9a	磨石	攪乱層	5.5	4.7	3.9	102	砂岩	奥羽山脈
870	VB区	砥石	埋土中	7.5	6.7	1.4	〈93〉	砂岩	奥羽山脈
871	VG3g	板碑	検出面	149.0	38.0	22.4	400000	安山岩	奥羽山脈
872	ⅥC3a	砥石	耕作土	〈11.5〉	8.2	3.8	〈630〉	石英安山岩	奥羽山脈
873	ⅥC3a	砥石	耕作土	6.7	11.6	3.0	〈268〉	砂岩	奥羽山脈

第49表　近世陶磁器・土器類観察表（1）

（　）は推定値、〈　〉は残存値

遺物No.	器種	出土位置	口径cm	底径cm	器高cm	備　　考	産　地	時　　期
912	型おこし皿	55号墓壙	—	—	〈2.6〉	口縁～底部片、857と同一個体？	肥前	18C前半
913	戸車	55号墓壙	4.5	—	0.9		—	19C～
914	碗	53号墓壙	(9.8)	(4.0)	5.1	口縁～底部片	大堀相馬	19C前半
915	皿	17号建物跡PP4	—	—	〈2.6〉	口縁部片	肥前	1630～1650
916	大皿	27号建物跡	—	—	〈0.8〉		肥前	18C～19C初
917	碗	27号建物跡	—	—	〈2.5〉	底部片、見込界線	肥前	18C後半～19C初
918	碗	1号配石	—	—	〈3.4〉	口縁部片、内外面貫入	肥前	18C前半
919	猪口碗	1号井戸跡	—	—	〈2.8〉	底部片	肥前	1690～1780
920	大皿	1号井戸跡	—	—	〈1.7〉	底部片、凹蛇目高台、高台界線	肥前	18C後半～19C前半
921	甕	1号井戸跡	—	—	〈6.9〉	口縁部片	在地	19C
922	甕	1号井戸跡	—	—	〈5.4〉	胴下～底部片	在地	19C
923	皿	1号井戸跡	—	4.4	〈2.0〉	胴～底部片、見込み釉剥ぎ	肥前	1690～1780
924	擂鉢	1号井戸跡	—	(22.0)	8.8	胴～底部片	在地	19C～
925	火鉢？	1号井戸跡	—	(22.0)	〈8.8〉	瓦器	在地	19C～
926	碗	1号井戸跡	—	—	〈4.8〉	口縁～胴下部片、口縁部口紅	肥前	1690～1780
927	擂鉢	78号土坑	—	(4.8)	〈6.8〉	胴～底部片	在地	19C
928	火鉢？	93号土坑	—	—	〈3.3〉	瓦器	在地	19C～
929	焙烙	118号土坑	—	—	〈3.8〉	胴部片、炭化物付着	在地	—
930	皿	134号土坑	—	—	〈1.3〉	底部片、染付、凹蛇目高台	肥前	18C前半～19C初
931	皿	134号土坑	—	—	〈3.1〉	胴下～底部片、高台部無施釉	大堀相馬？	19C前半
932	皿	134号土坑	—	—	〈2.3〉	胴下～底部片、凹蛇目高台	肥前	18C後半～19C初
933	皿	P	—	—	〈3.3〉	胴～底部片、見込釉剥ぎ	肥前	1690～1780
934	碗	P	—	3.2	〈4.3〉	口縁～胴部片、凹蛇目高台	瀬戸？	19C前半
935	型おこし皿	ⅢD4h	—	—	〈2.4〉	底部片、型紙刷り	肥前	18C前半
936	皿	ⅢB9j	9.7	5.0	1.5	口縁～底部片、見込み「寿」文	東北産	19C前半
937	皿	ⅢC4j	—	4.2	〈2.4〉	胴下～底部片、見込釉剥ぎ、高台無施釉	肥前	1690～1780
938	皿	ⅢC4j	—	—	〈2.0〉	底部片、高台界線	肥前	18C～19C初
939	擂鉢	ⅢC2j	—	(11.0)	〈3.1〉	胴～底部片	瀬戸	18C前半？
940	腰錆碗	ⅢC4j	—	—	〈5.2〉	口縁～胴下部片、内外面貫入	瀬戸・美濃	18C
941	碗	ⅢC4j	—	4.3	〈2.7〉	胴～底部片、内外面貫入、高台部無施釉	大堀相馬	18C
942	甕	ⅣB1h	—	—	〈6.2〉	胴部片	常滑	18C
943	甕	ⅣB2g	—	(17.0)	〈9.1〉	胴～底部片、底部無施釉	在地	19C～
944	皿	ⅣB9a	—	—	〈3.2〉	口縁～底部片、高台・見込界線	肥前	1690～1780
945	皿	ⅣC6f	(22.0)	—	〈4.5〉	口縁～胴部片、見込み釉剥ぎ	瀬戸・美濃	18C
946	皿	ⅣC8j	—	—	〈2.4〉	底部片	肥前	1630～1650
947	皿	Ⅳc8j	—	—	〈2.3〉	口縁部片	肥前	1690～1780
948	皿	ⅣD8j	—	—	〈1.1〉	胴部片	肥前	1630～1650
949	擂鉢	ⅣC8j	—	(12.0)	〈9.3〉	胴～底部片、焼きしめ	在地	18C後半
950	灯明皿	ⅣC2h	6.3	3.9	1.6	完形	在地	19C
951	坏	ⅣC8j	5.8	3.2	4.0	口縁～底部片	瀬戸・美濃	18C
952	鉢	ⅣB2g	(14.0)	(5.5)	6.6	口縁～底部片、底部無施釉	在地	19C
953	火鉢？	ⅣB7f	—	—	〈11.6〉	瓦器	在地	19C～
954	瓶	ⅣC8j	—	—	〈3.9〉	胴部片、内面無施釉	肥前	17C後半？
955	蓋	ⅥD5g	—	—	〈1.3〉	内面無施釉	大堀相馬？	19C
956	碗	ⅣC8j	—	—	〈3.7〉	底部片、見込・高台界線	肥前	1690～1780
957	大皿	ⅤB9a	—	—	〈1.6〉	畳付界線、高台釉剥ぎ	肥前	18C～19C初
958	折縁皿	ⅤD4a	11.2	6.0	4.5	完形	肥前	18C末～19C前半
959	角皿	ⅤB9a	—	5.7×13.7	〈1.7〉	胴～底部片	在地	19C前半
960	甕	ⅤB8j	—	—	〈14.6〉	胴部片	常滑	18C
961	甕	ⅤC8b	—	—	〈11.9〉	口縁～胴部片	常滑	18C
962	甕	ⅤC8b	—	—	〈13.6〉	口縁部片	常滑	18C
963	甕	ⅤC8b	—	—	〈7.4〉	胴部片	常滑	18C

第50表　近世陶磁器・土器類観察表（２）

〈 〉は残存値

遺物No.	器種	出土位置	口径cm	底径cm	器高cm	備考	産地	時期
964	器種不明	VB9a	—	—	〈6.3〉	胴上部片、押印	在地	—
965	焜炉？	VB9a	—	—	〈 〉		在地	19C～
966	皿	VB7j	—	—	〈2.4〉	口縁～底部、高台界線	肥前	1690～1780
967	皿	VB9a	—	(9.4)	〈2.1〉	底部片、凹蛇目高台	肥前？	1780～1860
968	皿	VB9a	(13.6)	8.0	3.4	口縁～底部片	肥前	1690～1780
969	皿	VB9a	—	—	〈3.2〉	口縁～底部片、見込釉剥ぎ	肥前	1690～1780
970	皿	VB9a	—	—	〈4.6〉	口縁～底部片、見込み釉剥ぎ	肥前	18C前半
971	皿	VB9a	—	—	〈 〉	底部片、見込み界線、凹蛇目高台	肥前	18C末～19C初
972	皿	VC8b	—	—	〈2.2〉	底部片、高台無施釉、見込み櫛刷毛目	肥前？	—
973	皿	VG6d	—	(14.4)	〈4.3〉	底部片、見込み櫛刷毛目文、底部無施釉	肥前	18C前半
974	擂鉢	VB3d	—	—	〈7.6〉	胴部片	在地	19C後半
975	擂鉢	VB9a	—	12.7	〈13.8〉	口縁～胴部片	在地	19C前半
976	擂鉢	VB9a		—	〈16.3〉	胴部～底部片	在地	19C前半
977	擂鉢	VB9a	—	—	〈3.1〉		在地	19C
978	擂鉢	VC8a	(26.9)	—	〈6.1〉		在地	19C
979	擂鉢	VC8b	—	—	〈10.6〉	胴部片、焼きしめ	在地	18C
980	段重蓋	VC8b	—	—	〈2.1〉		肥前	18C後半～19C初
981	鉄絵皿	VB8a	—	—	〈2.7〉	口縁～底部片、内外面貫入	瀬戸・美濃	17C初
982	徳利	VB9a	—	—	〈6.2〉	頸部片	肥前	1690～1780
983	鉢	VB9a	—	—	〈3.7〉	口縁部片、染付	肥前	1780～1860
984	火鉢	VB8d	—	(18.0)	〈9.9〉	瓦器	在地	19C～
985	火鉢？	VB8d	—	—	〈 〉	瓦器	在地	19C～
986	碗	VB9a	—	—	〈5.5〉	口縁～胴下部片、569と同一個体	瀬戸・美濃	18C
987	碗	VB9a	—	—	〈5.4〉	口縁～胴下部片、見込み界線	肥前	18C後半～19C初
988	碗	VC6a	—	3.3	〈2.4〉	胴～底部片、見込「大」文	東北産	19C前半
989	碗	VG6g	—	—	〈3.6〉	胴～底部片、内外面貫入	肥前	18C前半

第51表　土製品・坩堝・羽口・鉄滓類観察表

遺物No.	器種	出土位置	時期	備考
990	土錘	5号住居跡	10世紀後半	
991	土錘	5号住居跡	10世紀後半	
992	土錘	5号住居跡	10世紀後半	
993	土錘	5号住居跡	10世紀後半	炭化物付着
994	土錘	7号住居跡	10後半~11世紀	
995	土錘	10号住居跡P1	10世紀後半	炭化物付着
996	土錘	10号住居跡P1	10世紀後半	
997	土錘	14号住居跡	10世紀後半	
998	土錘	2号柱穴列PP5	10世紀後半	
999	土錘	ⅡD7i	10世紀後半	
1000	坩堝	VB2f	近世	
1001	羽口	VB9a	近世	
1002	羽口	2号住居	10～11世紀	
1003	羽口	2号住居	10～11世紀	
1004	土人形	VB9a	近世～	586と同一個体？
1005	土人形	VB9a	近世～	587と同一個体？
1006	土人形	VB9a	近世～	586・587と同一個体？
1007	椀形滓	2号工房跡	10～11世紀	594と同一個体
1008	椀形滓	2号工房跡	10～11世紀	593と同一個体
1009	炉壁	76号土坑	近世	

第52表　木製品観察表

遺物No.	器種	出土位置	時代	備考
1010	鍬	132号土坑	近世	クリ材
1011	鍬	132号土坑	近世	クリ材
1012	下駄	132号土坑	近世	クリ材
1013	下駄	132号土坑	近世	クリ材
1014	桶	132号土坑	近世	クリ材
1015	不明	132号土坑	近世	内面赤漆、外面黒漆塗り

V.まとめ

今回の調査で検出された主な遺構は、9世紀後半から11世紀頃の竪穴住居跡（住居状、工房跡含む）26棟（内火山灰下2棟）、10世紀初頭の畠跡約12,356㎡（1.23ha）、合口甕棺2基、堀跡1条、溝跡17条、焼土遺構10基、墓壙56基（11～15世紀46基、近世墓壙10基）、周溝2条、道路状遺構1基、建物跡27棟（礎石建物跡1棟）、柱穴列7基、土坑類136基、柱穴状土坑2462基である。

調査区は、北西から南東に延びる自然堤防の尾根部から西側の緩斜面に位置し、尾根部のⅢａ～Ⅲｂ層に中世の遺構が検出され、その下層であるⅣａ～Ⅳｂ層に10世紀前半から11世紀頃の遺構、示準となる十和田ａ降下火山灰層直下に9世紀後半から10世紀初頭の遺構が確認された。

周辺遺跡を含めこれまでの調査では、奈良時代や9世紀初頭から前半の遺物は検出されていないため、遺跡一帯は9世紀後半以降の開拓に始まり、中世・近世を通し現代に至ったものと考えられる。

本章では調査区周辺も含めた土地利用や、県内でもこれまで類例のない規模で検出された畠跡と中世初頭（12世紀含む）の墓壙・墓域を中心に、若干の考察を加えまとめとしたい。

1．遺構

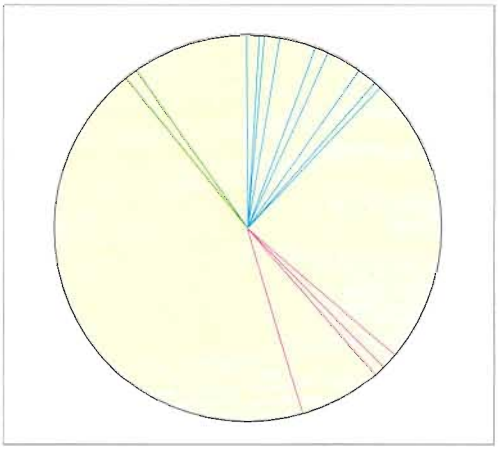
（1）竪穴住居跡（住居状遺構、工房跡含む）

竪穴住居跡類は26棟を検出した。火山灰下から明確に検出されたのは、21号住居跡と2号住居状遺構のみである。竈の軸線方向は、主に東方向のものが多く地域的な特徴と考えられる。

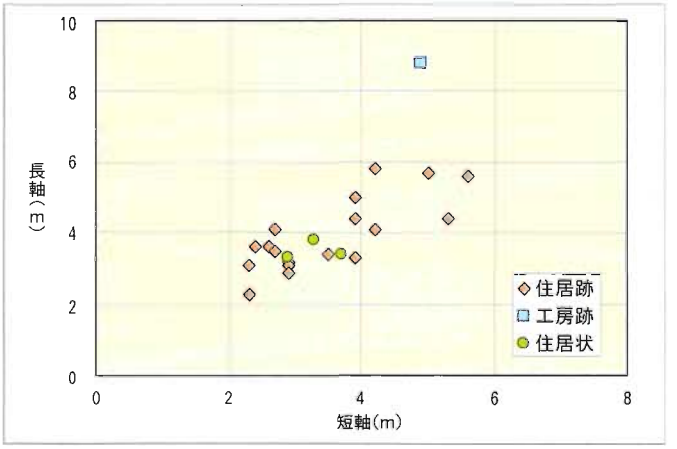
出土遺物や検出状況から北側に竈をもつ住居跡は、10世紀後半を中心とした遺構と考えられるため竈の軸線方向が時期的な特徴を示していることも考えられる。第224・225図に住居跡の方向と面積分布を示した。

遺構プランが確認された住居跡の規模は5.6～24.6㎡、住居状遺構は6.8～10.5㎡、工房跡39.6㎡である。最大規模の住居跡は火山灰下の21号住居跡で、平泉町里遺跡の調査結果からも遺跡周辺では、古代末期にかけて住居規模の卑小化の傾向が窺われる。全体としては規模にはばらつきがあり、企画性は見られない。工房跡は住居類中最大規模で明らかに特異性を示している。

また、墓域を結界する2号周溝南西端で検出された3号住居状遺構は、東壁に張り出しをもち形状が中世的な特徴を示している。上屋は支柱穴の傾斜から櫓状の建物を推定できるが、これが畠跡と共伴するものなのか、あるいは墓域に共伴するものなのかは調査から明らかにできなかった。



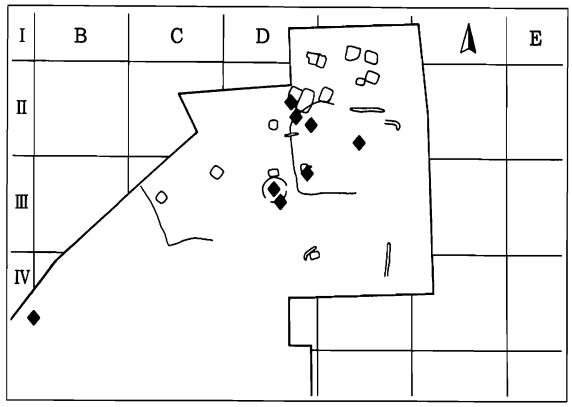
第224図　住居の軸線方向分布図



第225図　住居跡類法量図

中世墓域の存在する調査区北側は、本年度調査が中世面までの調査であったため、この区域の正確な該期の遺構数は把握できなかった。各遺構精査の段階で墓域周辺下には、少なくとも７棟の住居跡等が存在していることを確認している。

第226図にはそれらの住居位置を示した。これらの住居跡の時期は、火山灰降下後の10世紀前半頃のものと想定される。



第226図　中世面下住居跡位置図

（２）畠跡

調査区の南西部から約12,356㎡にわたって、広大な畠跡が検出された。ほぼ全面に十和田ａ降下火山灰が堆積していた。県内でこれほどの畠跡が確認されたのはもとより始めてであり、藤原清衡が平泉に入部（嘉保二年＝1095年頃）する約200年も前に北上川東岸に、これほどの生産基盤が確立されていたことは驚愕に値する。今回の畠跡の調査に当たっては、調査方法等について能登健氏（群馬県埋蔵文化財調査財団）より指導を頂いた。

ａ）開拓時期

これまでの平泉町内での調査結果から、奈良時代にかかる遺跡は殆ど報告されておらず、また本遺跡の調査からも９世紀前半を示す明確な遺物も検出されていないことから、遺跡周辺の開拓は、９世紀半ば頃から半世紀足らずの間に行われたものと推定される。

ｂ）耕作面積

調査区の西側と南側を北上川の旧河道により流失しているため、畠跡もこれにより相当の面積が流失しているものと考えるべきで、調査区西側の畠跡の推定面積は少なくても数万㎡は存在していたものと思われる。

畠跡は調査区の北端部ＩＥ７ｆ～ＩＥ８ｈや東部ⅡＦ２ｇ～ⅡＦ２ｉ・ⅡＧ３ｄグリッド付近でもそれぞれ65㎡、12㎡が検出されている（第43・66・178図・付図参照）。地形から自然堤防の尾根の西側と東側で耕作が行われていたものと考えられる。畠跡に伴う道路等の区画は全く見られず、大きな単位としては畝の方向のみが確認されるだけであった。方向はほぼ東西と南北の二方向で、調査区の北側と東側で確認された畠跡は、いずれも南北方向の畝が作られていた。

この単位の東西の規模は不明であるが、調査区南西部の検出部分の距離は約120ｍ、南北は約135ｍを測る。畠跡が方形の単位であったと仮定すると、１単位面積は18,225㎡となる。平成13年10月に行われた岩手県教育委員会生涯学習文化課による遺構確認調査からは、調査区の東側にあたる自然堤防東斜面でも畠跡が確認されておりこれを考慮すると、里遺跡から本町遺跡、畑中遺跡に続く長さ約１㎞の自然堤防の両側には、畠が作られていたと考えられる。

仮に東西それぞれに幅120ｍの畠が作られていたと仮定すれば、その規模は24万㎡に達し、これに今年度竜ヶ坂遺跡で検出された束稲山山麓の水田を考えると、一帯の生産力は膨大なものであったと思われる。

また、里遺跡から本町付近に続く長さ約１㎞に及ぶ自然堤防の両側に最低幅120ｍの畠が作られていた場合、その推定規模は24万㎡に達することになり、その生産力が大きさが想像される。

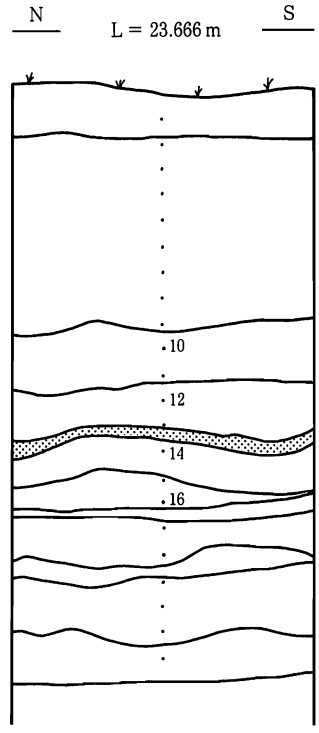
c）畝の規模と作物

畠跡の規模は、南西側中央の畠跡（ⅣA～ⅢC～ⅦEグリッド）は畝幅が85～110cmで概ね90～100cm、畝高は８～10cm。北西部（ⅢC～ⅣD３jグリッド）と南端部の畠跡（ⅦD～ⅦEグリッド）は、畝上部が削平されているため畝高は残存値であるが、それぞれ北西部の畠跡は畝幅90～110cm、畝高〈６～８〉cm。南端部の畠跡は畝幅90～110cm、畝高は〈４～８〉cmである。

また、調査区北端部（ⅠE7f～ⅠE8iグリッド）の畠跡の畝幅は63～76cm、畝高は〈４～８〉cm。東側（ⅡF２h、Ⅱf２gグリッド）の畝幅は110～125cm、畝高が〈４～８〉cmである。

北端部の畠跡以外はほ畝幅が100cm前後、畝高も10cm程度とみられる。北端部の畠跡は、規模と検出状況からも火山灰降下後の畠跡の可能性も考えられる。

プラントオパールの分析結果からは、北西部ⅣC１i区の火山灰サンプル以外の中央部、南端部、北端部、東側の畠跡からイネ、ヒエ、キビ、オオムギとタケ、ヨシ、ウシクサ、イチゴツナギ等の珪酸体が検出されている。畠跡の周辺には、周辺にタケやヨシ等の雑草が生育する環境であったことが窺われる。



第227図　サンプル採取層位

この結果からは、畝の規模と作物の相関性は認められない。また、20号墓壙からは炭化したオオムギが検出されているため、オオムギを主力耕作物にしていた可能性もある。

更に基本層序12層の十和田ａ降下火山灰層を中心に、10cm間隔で22箇所の土壌サンプルを採取し、10・12・14・16の４点を分析した。結果はサンプル（以下S）16と10からイネ、オオムギ等の栽培作物の珪酸体は検出されていない。S16は開拓以前の9世紀前半以前との土層と考えられる。逆にS10は、一帯が近世後半には麻畑であったことが伝えられている「きもいり」の居住にかかわる戦国末～近世初頭頃の土層である可能性が高いと考えられる。S10上層の第Ⅱ層にみられる厚い堆積は、昭和20年代の大洪水（カザリン、アイオン台風）よる堆積であることが、聞き取り調査から確認されている。

S12とS14のいずれからもイネ、ヒエ、キビ、オオムギの珪酸体が検出されていることから、長期的スパンでは火山灰降下後も降下直前と同様の耕作が行われていたことが明らかとなった。

d）耕作方法

畠跡の畝は全てが並行しているわけではなく、部分的に**二股畝**が作られているため、ある一定の間隔をおいて一斉に畝を作った時に生じた空白域を調整するために、二股畝が作られたものと考えられる（能登）。

明確な区画な検出されていないため個人や家族単位の耕作ではなく、数家族以上の共同作業的な耕作が行われていた可能性が高いものと思われる。これは推定した畠跡の面積からも類推されると事実と合致する。

耕作者数は、この二股畝の間で検出された畝の条数に相当すると推定され、ⅣB区とⅥD区で検出され二股畝間の畝数はばらつきはあるが12～13条、ⅢCグリッド南西側が25条、ⅦD北側が18条であり、数的には

予想とほぼ一致している（第43図参照）。

ⅢC、ⅦD～ⅦE区の畠跡には二股畝はなく、また検出面積も少ないため詳細は不明であるが、それぞれ検出された畝数は36条と46条である。

また、**耕作方向**はⅣDグリッド付近では、傾斜に沿って作られた畝が斜面下方への彎曲から、居住エリアから離れる西側から東方向へ畝が作られたことが推察される。

e）土地利用の変化

ⅡF～ⅡGグリッドでは、住居跡の上層に畠跡が検出されているため自然堤防の東側では、居住エリアの一部が畠地に変化しているのに対し、調査区のⅢCグリッドでは畠跡を切って住居が造られており、自然堤防の西側と東側では逆の現象が起きている。

また、自然堤防の尾根部に当たるＩD～ⅣEグリッドにかけては、トレンチ調査からも一次堆積の火山灰は全く検出されていないため、降下後に火山灰の除去が居住区域で行われた可能性も考えられるが、廃棄場所も確認されてないため詳細は不明である。河川への投棄も考えられる。

検出された畠跡からは、全く復旧の跡は検出されていない。短期的には畠が放棄された可能性が高いものと思われるが、長期的にはプラントオパールの分析結果等火山灰降下後も同様の耕作が行われていたとものと考えられる。

「扶桑略記」によれば、火山灰の降下が新暦８月26日とも読みとれるので、台風の影響により降下した火山灰がそのまま水害により堆積土によりパックされたことも予想される。火山灰上層から検出された作付痕は、下層の畝筋にほぼ一致していることからも、右の可能性は十分に考えられよう（第57～60図参照）。

f）生産力及び推定兵力

最後に参考ではあるが「岩手県史」第三巻治安・軍政にしたがって遺跡一帯の兵力を推定してみたい。この算出基準は、もとより戦国末期を前提にしているためそのまま10世紀に当てはまるものではないが、大凡の概観は可能と思われるため敢えて試算してみることとする。

これによれば銭１貫は水田８反で、48反が総動員態勢下で騎馬武者１騎に相当するとされる。水田１反は約300坪である。また、畠１反は約900坪に換算されているため、１騎は畠48反＝900坪×48＝43,200㎡ということになる。遺跡一帯の畠跡を24,000㎡（約1.2ha×２（東西面））と仮定すると、約5.6騎と試算される。ただ、畠跡が旧河道により消失していることや、束稲山山麓の水田耕作とを考え合わせると、兵力はこれを大きく上回るものと推定される。なお、騎馬武者１騎には従者数人が付随する。

（３）土器埋設遺構の性格

調査区のグリッドからは、２基の土器埋設遺構（合口甕棺）が検出されており、これらが火山灰を切って埋められていることや、北上川中流域で確認された合口甕棺の例からも、時期は10世紀前半代の遺構と考えられる。甕は土師器の長胴甕が用いられている。

北上川中流域で確認された合口甕棺は西田遺跡、小瀬川館跡、本宿羽場遺跡、八幡遺跡、比久尼沢遺跡、東大畑遺跡、真城が丘団地遺跡、中林遺跡、松原前遺跡の９遺跡から検出されいずれも墓として報告されているが、宮城県の**山王遺跡**（仙台市）では、辻の地鎮に用いられている例（道路Ⅲ期：交差点11箇所中８箇所で16基検出）も報告されている。

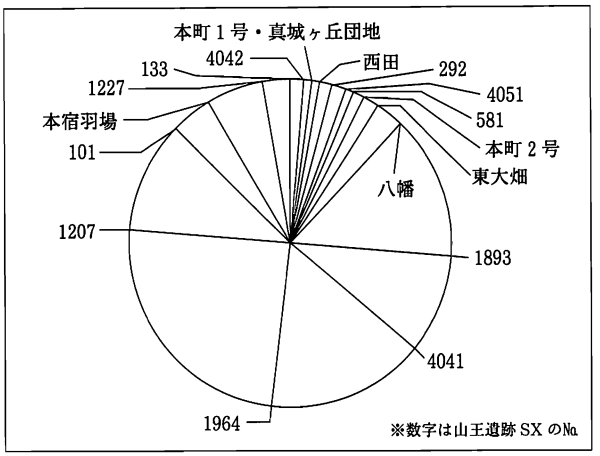
本遺跡の2基からは、人骨等が検出されていないことなどから、調査担当者としてはこれらが火山灰降下等の自然災害に対する地鎮目的のものであると考えたい。「扶桑略記」によれば、火山灰降下時期が新暦8月26日頃と読みとれるので、火山災害と台風による水害が重複した可能性もありうる。

また、2基の甕棺はほぼ並行して約3mの距離を置いて埋設されているため、2回の地鎮が行われた可能性も残す。この場合埋設位置は重要な意味を持つと考えられ、埋設地点が畠跡の中心であることも想定される。

山王遺跡やこれまで県内で発掘された合口甕棺の殆どがほぼ単独で検出されており、2基が報告されている例は東大畑遺跡の1例だけである。東大畑遺跡の2基は約10m以上の距離が離れているため、本遺跡とは意味の異なるものと思われる。

第228図には埋設土器の方向を示したが、これらを見ると墓壙とされたものと地鎮に用いられた埋設土器との明確な相違はないものと見受けられる。

本遺跡では、火山灰降下後の埋設状況から、地鎮目的の遺構である可能性が高いと考えられる。



第228図　埋設土器方向図

（4）堀跡

道路状遺構や17号溝跡にほぼ並行して1条を検出したが、調査区外の北側で堀跡は西に方向をかえているため、1号堀跡は区画の堀跡である可能性が高い。調査区外については、残念ながら部分的な確認調査であったため堀跡の全体像は確認できず、区画される規模も不明である。

しかしながら堀跡の内側と考えられる西側には、確認調査から柱穴密集地域があり、**方形居館**が存在している可能性がある。

堀跡の埋土下部からは、十和田a降下火山灰の小ブロックが検出されたため、10世紀前半から11世紀の遺構と考えられる。検出面からは常滑産の壺片（661）が出土している。

（5）道路状遺構

1号堀跡の約10m西側から1基を検出した。ほ場整備に伴う水路部分の調査のため、約7mを検出しただけであるが、方向はほぼ南－北に延びており、調査区北側の墓域や里遺跡方向に向かっている。

規模は幅約1.7～1.9mで、側溝はなく川石を主体に敷かれていた。周辺は開田時に削平されている可能性もあり、石敷きの道路であるのか、道路の構造材として石が使われているのかについては判断できなかった。規模から牛車の交通に利用されたものではなく、人の往来目的の遺構で、居住エリアと墓域あるいは調査区の北側に位置する里遺跡への道路跡と推察される。

（6）墓域の性格・構造と時期

a）墓域の構造と規模

調査区北側で確認された2号周溝の内側から、12世紀～13世紀を中心とした墓壙45基が検出された。該期の墓壙・墓域は県内はもとより初めての発見であり、関東以北の東北でも類例のない事例である。当時の葬

送儀礼や社会構造を知る上で大きな成果であった。墓壙は、墓域外からも２基が検出されている。

墓壙からは、火葬骨片・歯や土葬骨・歯や副葬品と考えられる陶磁器片や六道銭・刀子が検出されている。検出された墓壙は、墓域のほぼ中心に位置する１号墓壙を取り囲むように、北側を除く三辺に連なって検出されている。周溝は、結界的意味を持つと考えられる。周溝からは板塀等の痕跡は確認でされていない。１号墓壙の南側では風倒木痕も確認されており、当時の墓域の姿が彷彿させられる。

周溝は南側に開口しており、東側については確認できなかったため調査区外に延びる可能性も考えられる。溝の南北幅は34～37m、東西幅は約55m、面積は2,000㎡を測る。

また、墓域の南西側に位置する１号周溝は検出された渥美産の陶器片（662）から墓域に共伴する遺構と考えられるため、葬送儀礼に関わる堂等の宗教施設があったものと推定される（16号建物跡参照）。

20号墓壙の埋土上層からは、炭化したモモの種子とオオムギが検出されている。オオムギの年代測定は1070±30年という結果が得られており、11世紀後半～12世紀初頭頃には、モモやムギが供物として備えられていたようである。当時の風習を知る上でも貴重な資料が得られた。

ｂ）墓壙の規模と形態

墓壙の本来的な姿は、餓鬼草子にみられる塚墓（土饅頭）であると考えられるが、遺跡周辺は昭和30年代の開田の際に削平を受けており、このような原型を把握できるものは検出されなかった。

第230図には検出された墓壙の法量図を示した。これらの墓壙を規模、形状から以下のように分類した。分類は全体規模を把握できる墓壙を中心とし、第53表には分類毎に時期等を併記している。

大分類

Ａ類…小型のもの（規模が１㎡未満の墓壙）

Ｂ類…中型のもの（規模が１～2.5㎡の墓壙）

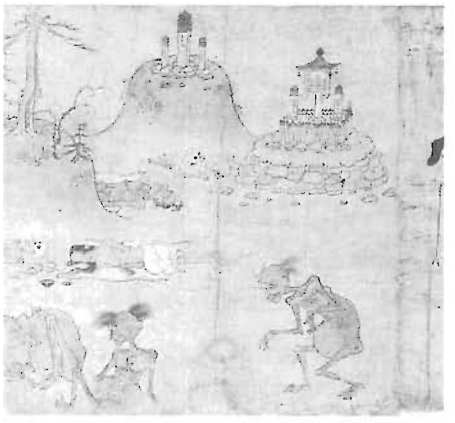
Ｃ類…大型のもの（規模が2.5㎡以上の墓壙）

小分類

１類　方形（円形や不整形を一部含む。長軸／短軸が1.0～1.2m未満）

２類　長方形（楕円形や不整形を一部含む。長軸／短軸1.2～2.2m）

３類　短軸に対し長軸の割合の大きい長方形（長軸／短軸2.2m～）



「餓鬼草子」より

内訳は、Ａ１類11.1%（５基）、Ａ２類11.1%（５基）、Ｂ１類20%（９基）、Ｂ２類13.3%（６基）、Ｃ１類35.6%（16基）、Ｃ２類17.8%（８基）である。これをみると数的にはＣ１類が突出しており、他はそれほど差異は見られない。

出土した遺物から墓壙を時期的にみると、Ｂ類とＣ１類には大凡12世紀後半～13世紀代のものが多く、Ａ２類とＣ２類には13世紀代が多いことが分かる。Ａ１類は15世紀の45号墓壙等が含まれ時代の流れとともに大型化していった墓壙が15世紀頃に卑小になっているようにもとらえることができる。

規模の大小については、火葬や土葬等の埋葬の形態により違いが生ずることは容易に予想されるが、永楽通宝等の六道銭が出土した45号墓壙は他の墓壙に比して極端に規模が小さく、14～15世紀の段階で何らかの変化・断絶があった可能性が高い。

墓域の北西側には同じく永楽通宝が検出されたPP2397が位置し、火葬骨は検出されていないが形態は45

第53表　墓壙観察表

開口部面積は㎡、深さ・長軸・短軸はm

遺構名	平面形	深さ	開口部面積	長軸	短軸	長軸方向	分類	火葬骨	土葬骨	出土遺物	時　　期
33号墓壙	楕円形	0.24	0.99	1.17	1.01	N-85°-W	A 1	○			12C後半～13C
34号墓壙	不整円形	0.16	0.47	0.75	0.73	—	A 1	○		多高田	13C後半
44号墓壙	隅丸方形	0.33	0.90	1.09	1.01	N-64°-W	A 1	○			12C後半～13C
45号墓壙	円形	0.15	0.29	0.61	0.58	—	A 1	○		永楽通宝	15C
25号墓壙	楕円形	0.32	0.47	0.87	0.65	N-63°-E	A 2	○			12C後半～13C
26号墓壙	楕円形	0.43	0.36	0.72	0.58	N-77°-E	A 2	○			12C後半～13C
37号墓壙	隅丸方形	0.04	0.72	1.06	0.83	N-77°-E	A 2				12C後半～13C
41号墓壙	楕円形	0.15	0.86	1.27	0.84	N-11°-E	A 2		○		12C後半～13C
5 号墓壙	楕円形	0.53	0.69	1.18	0.76	N-38°-E	A 2			青磁、常滑、かわらけ	12C後半
13号墓壙	不整楕円形	0.50	1.34	1.41	1.22	N-68°-W	B 1				12C後半～13C
15号墓壙	不整楕円形	0.77	2.43	1.89	1.60	N-76°-W	B 1				12C後半～13C
17号墓壙	不整円	0.93	1.70	1.50	1.43	—	B 1				12C後半～13C
39号墓壙	不整円形	0.19	1.11	1.19	1.18	—	B 1			常滑	12C後半
42号墓壙	不整円形	0.62	1.31	1.18	1.18	—	B 1				12C後半～13C
4 号墓壙	不整円	0.43	1.98	1.64	1.50	—	B 1			常滑	12C後半
7 号墓壙	不整楕円形	0.80	2.40	1.93	1.62	N-78°-W	B 1				12C後半～13C
9 号墓壙	不整楕円形	0.57	1.86	1.61	1.40	N-24°-E	B 1				12C後半～13C
10号墓壙	隅丸方形	0.38	2.03	1.97	1.20	N- 7°-E	B 2			常滑	12C後半～13C前半
21号墓壙	円形	1.05	1.65	1.66	1.33	—	B 2	○		常滑	12C後半～13C前半
22号墓壙	不整楕円形	0.59	1.31	1.63	1.04	N- 3°-E	B 2	○		常滑	12C後半
40号墓壙	楕円	0.67	1.39	1.53	1.15	N-81°-W	B 2	○			12C後半～13C
43号墓壙	不整円形	0.67	1.39	1.53	1.15	—	B 2			かわらけ	12C後半～13C
46号墓壙	不整楕円形	0.31	1.34	1.40	1.17	N- 7°-E	B 2	○		常滑、かわらけ	12C末
11号墓壙	不整楕円形	0.82	5.15	2.65	2.25	N-36°-W	C 1	○			12C後半～13C前半
12号墓壙	円形	1.20	6.20	2.02	2.02	—	C 1		○		12C
14号墓壙	円形	1.05	3.79	2.25	2.10	—	C 1	○			12C
16号墓壙	不整楕円形	0.74	3.57	2.25	2.00	N-61°-W	C 1			かわらけ	12C後半
18号墓壙	不整円形	1.03	2.86	2.02	1.87	—	C 1				12C後半～13C
1 号墓壙	不整円形	1.93	3.20	2.02	1.85	—	C 1	○		常滑、かわらけ	12C後半～13C初
20号墓壙	不整円形	1.04	3.65	2.30	2.10	—	C 1	○			12C後半～13C
24号墓壙	隅丸方形	1.12	5.20	2.72	2.36	N-78°-W	C 1	○		常滑	12C後半
27号墓壙	隅丸方形	1.26	4.30	2.34	2.10	N- 3°-E	C 1		○	古瀬戸、天目茶碗	13C前半
29号墓壙	円形	0.90	6.26	2.95	2.73	—	C 1	○			9C～10C
2 号墓壙	不整円形	0.31	3.33	2.08	2.07	—	C 1	○			12C後半～13C
36号墓壙	不整楕円形	0.55	3.76	2.26	2.13	N-12°-E	C 1			常滑	12C末～13C初
38号墓壙	楕円形	0.43	3.20	2.16	1.81	N-76°-W	C 1	○		白磁、常滑	12C後半
3 号墓壙	不整円形	1.92	4.84	2.64	2.47	—	C 1	○		渥美	12C～13C
6 号墓壙	不整円形	1.45	5.15	2.70	2.53	—	C 1	○		多高田、常滑	13C後半
8 号墓壙	円形	1.17	5.23	2.50	2.48	—	C 1	○			12C
19号墓壙	不整楕円形	1.52	3.43	2.33	1.89	N-37°-E	C 2	○	○	青白、渥、常、珠、永楽	12C後半～13C前半
23号墓壙	不整楕円形	1.64	5.05	2.85	2.26	N-54°-W	C 2	○		元豊、祥符	11C～12C
28号墓壙	円形	0.56	3.85	2.55	2.10	—	C 2	○		かわらけ	12C後半
30号墓壙	不整楕円形	0.82	3.70	2.42	1.98	N-59°-W	C 2	○			12C後半
31号墓壙	隅丸方形	0.27	2.51	2.00	1.43	N- 7°-E	C 2			渥美	12C後半
32号墓壙	楕円形	0.38	3.17	2.13	1.75	N-12°-E	C 2				12C後半～13C
35号墓壙	不整楕円形	0.58	7.30	3.92	2.33	N-70°-W	C 2		○		12C後半～13C前半
47号墓壙	不整楕円形	1.80	3.37	2.32	1.80	N-88°-W	C 2	○		白磁	12C前半

※　青白＝青白磁、渥＝渥美、常＝常滑、珠＝珠洲、銘は銭貨　近世墓を除く

号墓壙に酷似してる。これをみると墓域の変化・断絶ともに、卑小化した墓壙への火葬骨と六道銭副葬の慣習が始まっている可能性が考えられる。この時期の最も大きな社会的事象は幕府の滅亡があり、この様な社会的変化がこの墓域にも何らかの影響を与えたと考えるべきであろう。この14世紀代の断絶は西岸の調査結果とも一致している（ｅ参照)。

県内で中世のものとされる墓壙の検出は、紫波町墳館跡・柳田館跡、金ヶ崎町柏山館跡・館山遺跡、大東町伊勢館跡、一戸町一戸城跡・姉帯城跡、安代町水神遺跡など何例かがあげられるが、本遺跡のように数十基の墓壙がまとまって検出された例は、県内では盛岡市台太郎（23次）遺跡（杉沢：2002）や仙台市の柳生台畑遺跡（佐藤：1998）等の遺跡があるだけである。台太郎遺跡や柳生台畑遺跡（14世紀後半から15世紀前半）検出の墓壙はいずれも庶民階級のものとされている。

12世紀や13世紀の墓壙の類例がないことから、台太郎遺跡から検出された13世紀後半～15世紀を中心とした墓壙に本町Ⅱ遺跡の墓壙とを比較・検討してみたい。第230・231図には、それぞれの遺跡の墓壙法量図を示した。

これらを見ると、まず本遺跡については３類が存在していないという大きな特徴があげられる。台太郎遺跡については、200×200cm以上Ｃ１類、Ｃ２類が存在しないことも特徴的である。

Ａ３・Ｂ３・Ｃ３類の墓壙は、台太郎遺跡では21基（形状：隅丸の長方形・楕円形）が検出されている。掘り込みが一様に浅く30cm以下のもので占められ仰葬が言及されている。これについては、本遺跡の側臥屈葬での埋葬が確認された41号墓壙の掘り込みも15cmと極めて浅く共通性がみられる。同様の３類については、柳生台畑遺跡や栃木県の田間東道北遺跡や横倉宮ノ内遺跡などに類似例がみられる。

近世墓は▲で図示したが、３類に近い傾向を示すものが比較的多く、台太郎遺跡に類似した傾向を示しているように読みとれる。これは地域的な差異もあると考えられるが、時代的な変遷によるもの影響が大きいものであろう。

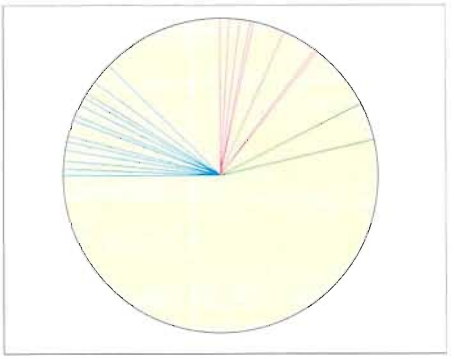
墓壙の方向については、楕円形を中心とする墓壙の長軸方向を第229図に示した。Ａ１類は北西と西方向、Ａ２類とＢ１類は北東方向と北西方向のものが多く、Ｂ２類は南北方向のものが多くＣ類については斉一性に欠けている。

Ａ類は最も小型の墓壙である。台太郎遺跡の火葬墓が全てＡ類に分類されていることや、その中心時期が14～15世紀であるということも、埋葬形態が15世紀頃から火葬の普及に伴って卑小化していることを示しているように思われる。

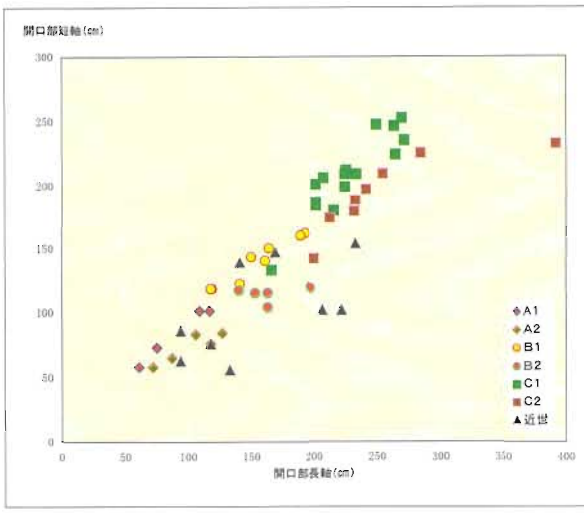
Ｂ類の内Ｂ２類（長方形基調）は、Ａ２類を含め他の報告例からも最も一般的な形状と言えよう。台太郎遺跡ではほぼ半数を占めている。これに対し本遺跡ではＣ類が半数以上を占めることが大きな特徴である。

Ｃ類の墓壙は単純に一人を埋葬するのに墓壙１基とするならば、Ｃ類はやや大きな墓壙といえる。

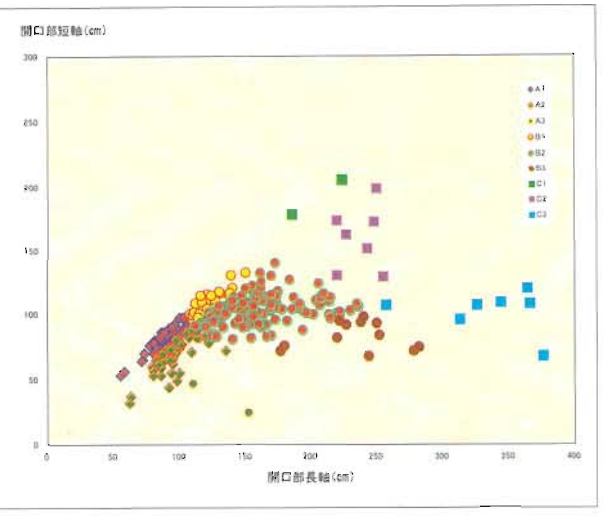
12号墓壙からは床面中央や東側壁面直下で土葬骨が検出されており、埋葬状況も一体とは考えにくい。上層には12世紀後半（第４四半期）と比定される28号墓壙が検出されている。12号墓壙検出の炭化物の年代測定は、790±30年が得られている。この年代はもとより植物の死滅年代を表すもので、遺構にはストレートに反映されるものではない。検出状況から11世紀から12世紀前半のものと考えられる。同様にＣ類の35号墓壙から検出された人歯は、



第229図　墓壙の軸線方向図



第230図　本町Ⅱ遺跡墓壙法量図



第231図　台太郎（23次）遺跡墓壙法量図

最低でも2個体以上が埋葬されていることが明らかとなった（科学分析5参照）。確認された2体は何れも男性であり、歯の摩耗状況から年齢は、10才代と20才代前半が与えられている。歯はほぼ墓壙東端の同一箇所から検出されているため、折り重なる様に埋葬されていたものと考えられる。

これら二つの墓壙をみると、複数の遺体を同じ墓壙に埋葬するには特殊な背景が予想され、合戦あるいは後述するように由比ヶ浜集団墓地遺跡的なものは、その可能性として当然ありうることである。

11世紀前後の大きな社会的事象としては永承六（1051）年の前九年の役や永保三（1083）年の後三年の役が先ず上げられ、歯の推定年齢や藤原氏の入部以前に何らかの権力基盤の存在が想定されること等、合戦の戦死者を集団埋葬している可能性は十分考えられる。12世紀には無論文治五（1189）年の藤原氏の滅亡が上げられる。

今回の調査では、これらを明確にする資料は得られていない。しかし、35号墓壙の被葬者が東側に頭が置かれていることは確かで、これは死者を西面させた浄土信仰の影響であることも考えられる。思想的には11世紀半ば以降の後三年の役の戦死者が被葬者である可能性もあり得よう。

その他の特徴としては、台太郎遺跡で検出された火葬墓が3基、0.01%であるのに対し、本遺跡では26基、56.5%と圧倒的に多い。副葬品についても、台太郎遺跡では六道銭が出土した1基以外には全く副葬品が見られないのに対し、本遺跡では陶磁器や刀子などが検出されるのも大きな特徴である。また、形状も台太郎遺跡が方形や長方形を基調としているのに対し、本遺跡が円形を基調としている点でも性質を異にしている。

これらは地域的・時期的な差異を含め、埋葬側の社会階層の違いがこれらの差異を生み出しているものと考えられる。

19号墓壙では火葬骨と土葬骨片が検出されている例や、重複する下層に土葬墓が存在する28・29号墓壙のような例も見られる。土葬から火葬への変化が窺われる点も、大きな特徴と言えよう。

台太郎遺跡・柳生台畑遺跡には墓域の中央に中心となる五輪塔や骨堂のようなものも見られず、構造的にも大きな違いがあることが分かる。

墓壙の多くから拳・人頭大から幅50cmを越える自然石が検出されていることも特徴的である。埋土中層から床面付近で出土されるものが多い。これらには、下層住居跡の竈芯材に使われていたと推定される被熱し

赤く変色しているものが使われている。特に1号墓壙では底部を塞ぐように石が置かれており、調査当初にはベンガラ等の赤を意識した、祭祀的意味合と抱石的なもののような印象を受けた。

c）墓域の性格・被葬者

副葬品と考えられる陶磁器類の出土が台太郎遺跡と柳生台畑遺跡で見られないため、何れも庶民階層の墓壙とされているのに対し、本遺跡では中国産の青磁・白磁・青白磁や常滑・渥美・多高田産の甕・鉢片やかわらけ、刀子が数多く検出されている。これらの陶磁器は庶民層の所有できるものではないため、かなり高位の社会階層が主体となって埋葬したものと考えられる。この点については居住エリアから検出された渥美産の**四耳壺**（691：袈裟襷文）は、政庁があった北上川右岸ですら希有な遺物であるため、支配層である藤原氏に次ぐ階層にあるものが造営した墓域である可能性が高い。

検出された陶磁器は全て破片で、これらは意図的に破片にされ埋納されたものと考えられる。墓壙の重複は東側で特に著しいが、概して下層の墓壙は大きく、上層の墓壙が小さいのが特徴である。

上層の墓壙が卑小化することについては、前述のとおり埋葬形態の変化に伴う可能性が考えられる。重複に付いては場所をある程度意識した家族、あるいは同族単位の埋葬も考えられる。通常では一端埋葬した墓を更に掘り込んで改葬・追葬することは考え難く、平泉周辺にもこれらの慣習は現存していない。

墓壙の重複という点では、鎌倉で発見された**由比ヶ浜中世集団墓地遺跡**のような死体処理場的な遺構の可能性も想定されうるが、本遺跡は墓壙がランダムではなく整然と配置がされている点や、墓域の中央に形状の異なる墓壙を配置していること、周溝による結界の有無等大きな差異がみられる。

この違いが地域的な風習の差であれば、無論重複についても説明は可能と思われるが現段階ではこれを実証しうる資料に欠ける。

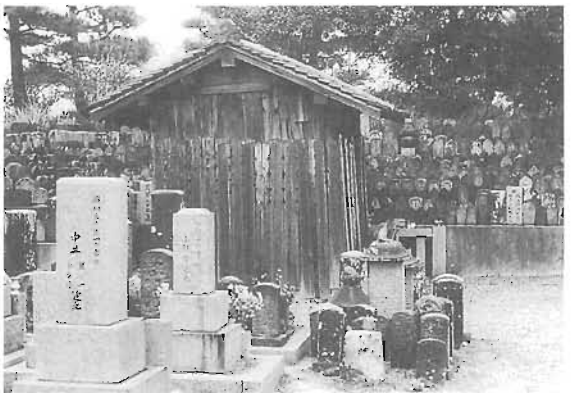
35号墓壙では、複数の遺体が存在することが科学分析からも確認されたが、29号墓壙の土葬骨の出土状況も複数の埋葬を窺わせる。これについては鑑定した人骨（歯）の年齢から、合戦の戦死者を埋葬した可能性も考えられるが、被葬者と埋葬側が必ずしも縁者であることを示しているものではない。これらは合戦後の遺体の処理に造られた墓壙である可能性もありえよう。この点については、不確定要素が多く今後の研究に期待したい。

中央に配置された1号墓壙の上部構造も他の墓壙同様に不明ではあるが、柱穴等の検出から1号墓壙を囲む小土坑（卒塔婆痕？）を更に方形の建物がこれを覆い、東側から中尊寺方向を拝する構造になっていることが調査から明らかになった。西方への意識は、41号墓壙から**側臥屈葬**で西面した土葬骨が検出されていることなど当時の浄土信仰が窺われる。

このような墓域の形態は、現存する奈良市周辺の中世墓と極めて類似している点が興味深い。奈良市周辺の中世墓の一般的な形態は中央に**五輪塔**を置きこれを囲むように個別の墓が造られている（**大慈仙・中の川・忍辱墓地**）。中央の五輪塔の基壇付近には、舎利口を持つ**千日墓地**や**般若寺**等の五輪塔もある。また、西大寺に残る骨堂には墓塔を卒塔婆で覆う塔婆堂として使用されている。

大慈仙墓地には五輪塔周囲の土葬墓は凹地化しており、土葬墓が時を経て陥没しその凹地を利用し新たな墓が造られていることを仮定すれば、本遺跡の墓壙の重複も説明され、土葬骨と火葬骨が検出された19号墓壙や火葬骨が検出された28号墓壙の下層に29号墓壙が存在していたことも十分に説明されると考える。

さらに1号墓壙を囲む小土坑が塔婆痕であれば、検出された墓域は塔婆で囲まれた墓壙を覆う建物の周辺に墓壙を配置する、奈良地方の中世墓に類似した構造を持っていることになる。



大慈仙墓地

西大寺骨堂

さらに、中尊寺金色堂の長押や鴨居から火葬骨の入った木製の五輪塔や竹筒、供養文字を書いた塔婆が長押に差し入れらていることが昭和27年以降に発見されている（最古の塔婆には延文五（1360）年）。観自在王院の中島からも多数の板碑とともに火葬骨が検出され、現存する中尊寺釈尊院墓地五輪塔や願成就院塔についても、塔身には空洞があり納骨器の埋納の可能性が指摘されている（狭川真一：1995）など、周辺での極楽浄土への庶民の信仰の深さが窺われる事象が数多く見られる。

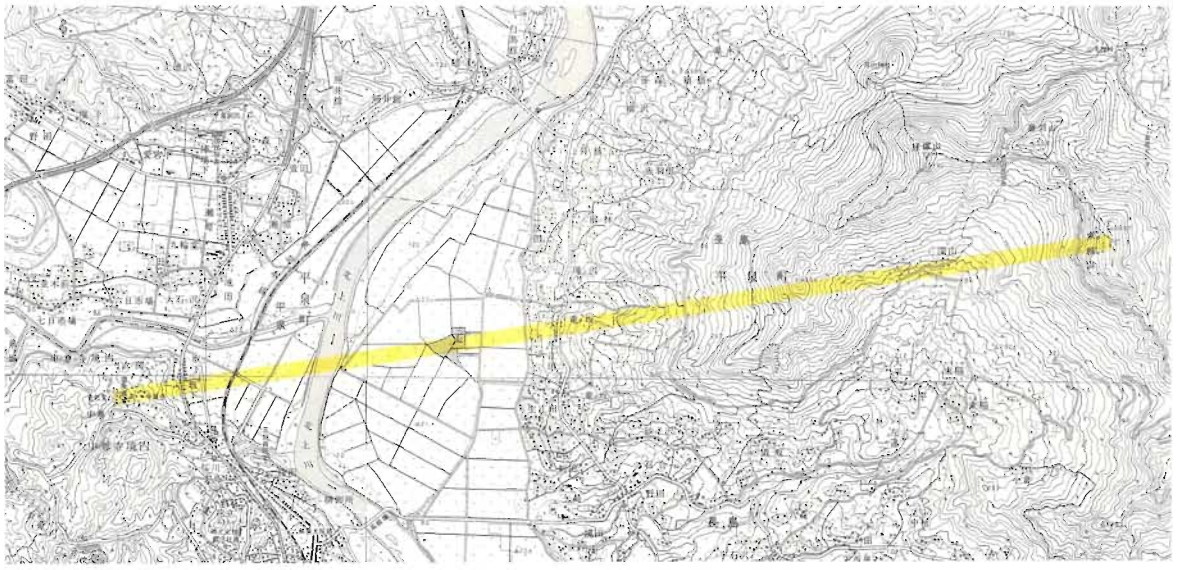
これら遺跡周辺の浄土信仰や納骨信仰、墓域の構造から１号墓壙は五輪塔や骨堂を配置するプロト的な形態である可能性が高いと考えられる。これらにより13世紀に始まるとされる五輪塔を中心とした墓制の原型は、平泉では12世紀の後半頃まで遡及できる可能性があることが今回の調査で明らかとなった。この事実は、１号墓壙検出の炭化物の年代測定結果（1120±30年）とも一致している。

d）墓域の位置の意味するもの

墓域は中尊寺金色堂と東稲山（経塚山）を結ぶライン上、即ち西方に阿弥陀如来を祀る金色堂や中尊寺を見る位置に造られている。この事実は１号墓壙のまわりにある小土坑群が他の三辺に比し、東側で開口していることを精査中に確認した事に端を発する。この小土坑群は卒塔婆が建っていた痕跡と推定されるため、この開口部中央と１号墓壙中央を結ぶ軸線が遠く藤原氏の霊廟（阿弥陀堂）たる金色堂を仰ぎ見ながら被葬者を東側から拝し、供養するように作られたものと考えられる。調査当初はこの方向のみが浄土思想との係わりから重要であると捉えていたが、墓域の東側に経塚山、さらには東稲山が位置していることが整理段階で判明した。第232図にはこの位置関係を示した。

1052年の末法の世の到来は藤原頼道による平等院建立や、藤原氏が浄土信仰に係わる寺院・庭園を三代にわたり建立・造営したことなどからも、平安末期の浄土信仰の広がりは平泉にも少なからぬ影響を与えたと考えなければならない。当時の西方浄土への憧憬や阿弥陀信仰の社会への浸透を考えれば、宗教的な狭間に墓域が位置していることは単なる偶然ではなく、そこには造営者の宗教的意図を感じざるを得ない。12世紀の北上川河道は未確認であるが、調査区南辺や西辺の河道からはおそらく遺跡の西側を流れていたものと推定される。

詳細は中世都市平泉の全体像の把握を持って知りうるものと考えられ、また都市構造そのものに関わる事項でもあり、本稿ではこの事実のみを指摘するに留める。



第232図　墓域位置図

e）墓域の時期

墓壙・墓域の遺物は圧倒的に12世紀後半～13世紀のものが多く、これ以外の時期を示すものは45号墓壙から出土した六道銭（永楽通宝）と19号墓壙検出面の銭貨（永楽通宝・宣徳通宝）、PP1096から出土した青磁1点、27号墓壙検出面の天目茶碗片のみで圧倒的に少ない。このため墓域の中心時期は、12世紀後半～13世紀と考えられる。

9世紀、11世紀代の可能性を持つ29・23号墓壙や墓域外からも、12世紀代と考えられる47号墓壙が検出されていることから、北側調査区から検出された墓域は、それまで自然堤防上に散在していた墓壙を12世紀のある段階で墓域内に意図的に集めたものと思われる。

今回の調査では、遺物から墓域の造営時期を推定以外に方法はないが、1号墓壙検出炭化物の年代測定は1120±30年という結果が出ており、この年代は墓壙出土のかわらけの年代観とほぼ一致している。このため墓域の造営時期は、12世紀の後半である可能性が極めて高いと考えられる。

1号墓壙からは13世紀初頭と思われる常滑の甕片（663・664）も検出されており、これについては推定される墓壙の性格から構築後の投げ込み、あるいは構築時期が13世紀初頭に降る可能性も考えられる。

12世紀後半から13世紀初頭の主な社会的事象は、嘉應二（1170）年の秀衡鎮守府将軍就任、養和元年（1181）年陸奥守就任、文治五（1189）年の藤原氏滅亡が上げられる。集落の構造そのものに係わる大きな出来事は、やはり藤原氏の滅亡と考えるべきであろう。

ただ12世紀の後半は二代基衡の晩年から三代秀衡の治めた時期にあたり、この間基衡が圓隆寺を完成し、嘉勝寺の完成を秀衡が引き継いでいる。『吾妻鏡』に「果福、父に軼ぎ･･･」、「官禄父祖を越え、栄耀子孫に及ぶ」と評された二代基衡、三代秀衡が「吾朝無双」と謳われた圓隆寺や嘉勝寺、無量光院を建立した時期にその影響が政庁域の外延部にまで及んでいたとすれば墓域の造営時期が12世紀第3四半期である可能性も十分想定されうると考えられる。

墓域が14世紀後半頃から15世紀頃に断絶しいる可能性については前述の通りである。これまでの平泉における調査から、北上川右岸の柳之御所周辺では14世紀後半以降の遺物が殆ど検出されず、その後周辺は田畑等になっていることから、鎌倉幕府の滅亡とともに右岸も廃絶しているものと考えられる。鎌倉幕府の滅亡

が平泉の社会的状況も激変させたものと推定される。

平泉町教委（八重樫：2001）の聞き取り調査によれば、墓域には開田時（昭和30年代）まで板碑が残っていたことが確認さていれる。往時の墓域には塚墓（土饅頭）の中に板碑等が立っていものと考えられる。

板碑についてはＶＧ４ｊグリッド付近の池状遺構（今年度調査区外のため範囲のみ確認）の埋土上位から板碑状（墨書痕・銘無し）の石（871写真図版148）が出土しているため、可能性は高いと思われる。

周辺の平泉町長部の大師堂には、永仁二（1294）年６月８日の板碑が存在する。周辺を含め板碑の研究については羽柴直人氏により、1270年頃までは板碑の造立が普遍化されていないことと、平泉においては毛越寺や中尊寺の関連箇所に板碑が造られていることから、藤原氏滅亡後もこの二寺が宗教的要であったことが指摘されている（羽柴直人：1998）。

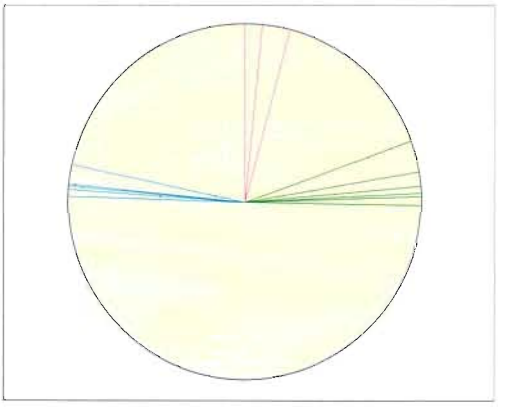
近世初頭の大型建物跡、土坑等は調査区南西部に集中しており、墓域から検出された近世の遺構は竈状遺構と炭窯だけである。遺跡一帯は水害の常習地帯であるため、理由も無く墓域より１ｍも標高の低い調査区南西部に居を構えることは考えられず、墓域の終焉時期は確定されないが、この事実は16～17世紀初頭頃までは墓域周辺が日常の生活域からは隔絶した禁忌的場所として、意識されていたことを暗示しているものと考えられる。

調査区北側からは近世墓も検出されておらず、15世紀代の墓壙数も極端に少ないことから、遅くとも16世紀後前半頃には墓地としての終焉を迎えているものと推定される。

（７）建物跡

建物跡は、礎石建物跡１棟を含み27棟が検出されている。調査区南西部の検出された11棟（礎石建物跡１棟含む）は全て近世の建物跡で、17号建物跡は「きもいり」クラスの居館跡で、周辺の建物跡もこれに付随する施設と考えられる。平泉町内のこれまでの調査からこの建物跡は企画性が高いことが確認されている。20号建物跡ＰＰ９の埋土中からは、青白磁片が検出されているが流れ込みと考えられる。

調査区北側の建物跡は１号周溝内に16号建物跡、これと重複して15号建物跡が検出されている。２号周溝内には１～14号建物跡が検出されている（第92・162・162図参照）。



第233図　建物跡方向図

第233図には、２号周溝内の建物跡の方向を図示した。軸線方向から大きく３つに分類される。ここでは北方向をＡ類、東から東北東をＢ類、西方向をＣ類と仮称する。

Ａ類は７・12号建物跡、Ｂ類は1・３・８～11・13～15号建物跡、Ｃ類には２・４～６・16号建物跡が属する。

中尊寺方向を向く１号墓壙を覆う11号建物跡が12世紀後半の建物である可能性が高いため、Ｂ類の建物跡は建て替え等によりこれに連続する建物跡、あるいは周辺の柱穴から検出された、15世紀の青磁片（764）等から14～15世紀代の建物跡である可能性が考えられる。Ａ類とＣ類はほぼ直交する軸線を持つことから、時期を同じにするものと推定される。１号建物跡と２号建物跡は、規模・位置ともに同じであることから建て替えに伴うものと考えられる。新旧関係については、不明であるが連続するものと思われる。南北両面に廂を持ち面積も他の類例から、居館に匹敵する規模をもつものである。

この2棟の建物跡が居館であれば、墓域内に居住施設が存在するという極めて不自然な状況が生じる。この周辺からは土師器と須恵器が検出され、北側には1号工房跡等が集中していることから、これらが居館であれば10～11世紀の遺構を想定すべきであろう。

また、遺構の配置からは建物跡が墓壙群を回避し、しかも2号周溝内に区画されているようにもとらえられることができる。この場合は建物跡は葬送の祭祀に関わる建物であり、建て替え等からも相当の年月にわたり使われたものと考えられる。

建物の詳細については不明のため断定することはできないが、後者であればかなり大規模な墓域が想定されうる。

2．遺物

遺物は、コンテナで陶磁器、土器、石製品等が約20箱出土している。概観して土器は9世紀後半～10・11世紀、陶器は9世紀末～10世紀の猿投・東濃産陶器、12～14世紀の常滑・渥美産の甕・鉢片、磁器は12世紀～14世紀頃の中国産の青磁・白磁・青白磁近世の陶磁器類が出土している。

（1）土器

分類にあたっては、器種とそれぞれの焼成方法（酸化炎と還元炎）を主な識別形質とし、これに調整技法を付加する形で行った。焼成方法に二者が混在する場合には、器面全体の割合で以て分類した。

器種には坏、高台付坏、皿、鉢、甕がある。分類基準は下記の通りで、他地域との比較検討が可能なように分類を行っている。

〈坏・碗・皿類〉

A群……酸化炎焼成されているもの

Ⅰ類……内外面ともロクロ痕以外の調整を持たないもの

Ⅱ類……内面に黒色処理、ミガキ調整をもつもの

Ⅲ類……内外面に黒色処理が施されるもの

a……底部の切り離しが糸切りのもの

b……切り離し後に再調整が施されるもの

c……高台をもつもの　1……高い八の字高台、2……低い八の字高台、3……直立高台

4……三角高台、5……柱状高台

B群……還元炎焼成されているもの

Ⅰ類……底部の切り離しが回転糸切りによるもの

a……再調整を持たないもの

b……再調整を持つもの

（Ⅱ類……底部の切り離しが回転篦切りによるもの　　Ⅲ類……静止糸切りによるもの）

〈鉢類〉

A群……酸化炎焼成されているもの

Ⅰ類……内外面ともロクロ痕以外の調整を持たないもの

Ⅱ類……内面に黒色処理、ミガキ調整をもつもの

a……底部の切り離しが糸切りのもの

b……切り離し後に再調整が施されるもの

B群……還元炎焼成されているもの

〈甕類〉

A群……酸化炎焼成されているもの

Ⅰ類……ロクロ成形されているもの

Ⅱ類……ロクロ成形されないもの

B群……還元炎焼成されているもの

土器のほとんどは住居跡・工房跡や土坑から出土している。住居が集中した調査区北側の自然堤防の尾根部では、火山灰層は深掘りからも検出されず、この区域では10世紀から15世紀までの遺構がほぼ同一レベルで検出されている。

層位的に時期を決定できる資料は、今回の調査からは尾根東緩斜面の21号住居跡と2号住居状遺構を除き得られていない。これらは火山灰下直下で検出されているため、9世紀末から10世紀初頭の遺構であるとことが確認されている。尾根部について火山灰層が深掘りからも確認されず、火山灰が除去されている可能性もあるが詳細は不明である。

本項では時期をある程度把握できる21号住居跡と示準的な遺物である灰釉陶器が検出された7号住居跡、1号工房跡（遺構下層に火山灰小ブロック検出）を視点に、皿と坏類を中心に土器の共伴関係について若干の考察を加えまとめとしたい。

火山灰下から検出された21号住居跡の坏を見ると、ＡＩａ類に比してＢＩａ類が1：2の割合で出土しており、他の住居跡や工房跡とは出土比率が逆転している。これにＡⅡ類の坏、Ａ・Ｂ類の甕が共伴する。畠跡から検出される土器類はＢ1類の甕が多くみられ、共伴関係も火山灰下の21号住居跡と同様の傾向を示している。

灰釉陶器の四耳壺片（658：10C：K90～K53）が検出された7号住居跡では、内面黒色処理の坏が2点や土師器の甕が出土している。同じ灰釉陶器の耳皿（659：9C末：K90）が出土している1号工房跡では、皿が7点（317～319・323・327・328・339)、坏はＡＩ類が14点、内ａ類6点、ｃ1類2点、ｃ2類は1点で、底部の調整の分かるものではｂ類は出土していない。ＡⅡ類は5点、内ａ類が3点、ｂ類が1点、ｃ2類が1点、不明は1点であるＡⅢｃ2類が1点、ＢＩ類は1点のみが出土している。

皿の口径は9.6～12.6cm、器高は2.1～2.6cmを測る。

火山灰降下後の遺構では、所謂赤焼き土器と内黒の坏の出土が顕著である。

また、皿が出土した19号住居跡からは、高台付坏ｃ4類4点（249・250・253・256）が出土している。253は内面に黒色処理が施される。坏は10点が出土し、ＡＩａ類とＡⅡａの出土比率は5：4（Ⅱ類不明1含む）でｂ類、Ｂ類の坏は見られない。これに土師器の甕が共伴する。

竈が確認される3号住居跡では高台付坏が1点（28)、坏が21点出土している。坏のＡＩａ類が12点、ＡⅡａ類2点、ＡＩｂ類1点とＡＩａ類が圧倒的に多い（ＡⅡ類不明3点)。Ｂ類の坏は見られない。ＡＩ類の甕29の底部には筵痕がみられる。4号住居跡では坏類が15点、内ＡＩａ類は2点、ＡＩｂ類1点、ＡⅢａ類が1点、ｃ類は見られない。調整不明のＡⅡ類は4点、ＡＩ類4点でこれに土師器の甕が共伴する。10号住居跡の坏類はＡＩａ類が4点、ＡＩｂ類1点、ＡⅢｂ類が3点、ＡⅢ類不明1点、ＡⅡａ類1点、ＡＩ類の不明は3点に須恵器の甕が共伴する。12号住居跡ではＡＩａ類の坏がＡⅡ類を上回り、これに土師器の甕と須恵器の甕が共伴している。17号住居跡では、土師器の甕が出土している。14号住居跡では、内外面黒色

処理の坏に土師器と須恵器の甕が共伴する。

また、竈を伴わない５・８号住居跡を見ると、５号住居跡からは高台付坏２点、ＡⅠａ類の坏１点、ＡⅡ類の坏２点に土師器の甕が共伴する。ＡⅠｃ１類の78は八字高台を持つ。８号住居跡ではＡⅡｃ４類が３点、Ａ１類の坏が５点、ＡⅡ類の坏が２点が出土し、これに土師器の甕が共伴する。18号住居跡ではｃ４類の高台付坏２点、ＡⅠａ類の坏２点（他不明１点）に土師器の甕が共伴する。

出土した内面、内外面黒色処理の土器の中で櫛目状の細かなミガキ痕が見られるものは23点（15・16・27・53・83・116・131～133・160・162・174・211・217・235・251・253等）が検出されている。このミガキは瓦器碗の模倣という印象が強い。瓦器碗は畿内地方を中心に11～14世紀代に見られるのものであが、北は仙台市南小泉遺跡から１点（報告は14世紀以前に比定）が出土例が報告されている。

これら23点のうち235・251は三角高台、331・547が八字高台、436は低い台状の高台を持つ。また、53・131・132・454・547はＡⅢ類で内外面に黒色処理を施されている。

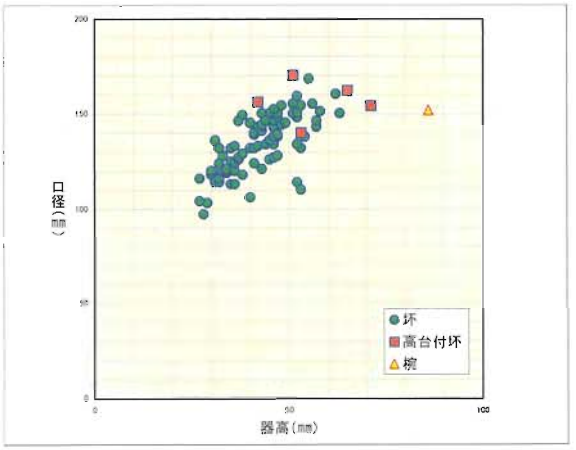
古代末期の磐井、胆沢、斯波郡周辺の土器編年については八木光則氏（「陸奥中部における古代末期の土器郡」：1993）の研究によるところが大きく、これによるⅢｄ期には赤焼の坏が大小に分化し口径110～130㎜、器高40㎜以下の皿（小型坏）が現れる。これについては21号住居跡から口径120㎜、器高36㎜の赤焼きの坏が出土しているため、本遺跡での坏の分化はかなり９世紀末より始まっていることが分かる。

Ⅳａ期には口径95～100㎜、器高が20～30㎜の小皿がみられやや高い八字高台・低い八字高台・低い三角高台・内外面をヘラミガキ調整された低い直立高台をもつものが見られる。Ⅳｂ期では内外面へラミガキの碗は見られなくなり、Ⅳｃ期は小皿坏が厚みを持ち器高が浅くなる。Ⅳｄ期は小皿と坏の分化が明瞭になり、Ⅳｅ期は柱状高台が現れる等の特徴が指摘されている。本遺跡からは、12世紀前半に比定されるⅣｅ期の柱状高台は検出されていない。これについては、12世紀段階で調査区の住居跡が集中する北側調査区が墓域化していることと、東側調査区が５ｍ幅であったため該期資料の出土数が極端に乏しく、詳細を把握できないことが残念である。

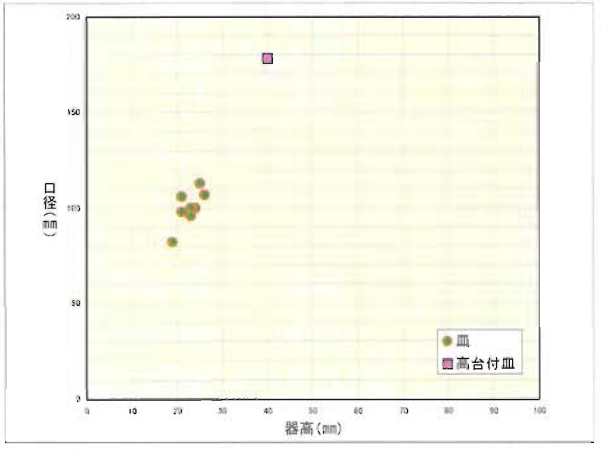
Ⅳｃ期頃からとされる坏の大型化については、66号土坑から渥美の四耳壺（691他）と共伴して肥厚した内黒の坏（底部との境は不明瞭）が出土しているため、本遺跡では12世紀代まで残存するようである。

今回の調査からは柱状高台は見られず、本遺跡では12世紀段階では中国産の白磁・青磁や渥美産や常滑産の国産陶器が顕著になっているもとの考えられる。

これらを踏まえ本遺跡での出土状況を見ると、口径95～100㎜の（小）皿が出土している19号住居跡と１



第234図　坏類法量図



第235図　皿類法量図

号工房跡は、八木氏の編年ではⅣａ～ｂ（11世紀前半）期、口径110～130㎜、器高40㎜以下の坏が出土している３・６・10・13号住居跡や46号土坑等はⅢｄ（10世紀第３四半期）期、赤焼きの坏で八字高台付坏が出土している９号住居跡はⅢｄ～ｅ（10世紀後半）期、また灰釉陶器の四耳壺片が出土した７号住居跡は、須恵器の甕片（92）が共伴することから10世紀の後半の遺構と推定される。

また、検出状況も含め赤焼きの坏の出土数が卓越する２・３・17号住居跡は10世紀前半代の遺構と考えられる。調査区北側の中世面下層で確認された住居跡（第10～12・28図）の時期は、検出された上層の遺構時期から10世紀前半から後半の遺構であると考えられる。下図には坏と皿・碗・高台付坏、高台付皿の法量図を示した。

本遺跡の示準資料である灰釉陶器の耳皿の製作年代は９世紀末と比定されるが、耳皿という特殊な器であることや、共伴する遺物や遺構の検出状況からは少なくとも数十年から１世紀以上の時間的ズレが有るように思われる。

これらをもとに出土した土器群を９世紀後半～火山灰降下以前をⅠ期、降下後から10世紀前半をⅡ期、10世紀後半をⅢ期、11世紀前半をⅣa期、11世紀後半をⅣb期、12世紀前半をⅤ期、12世紀後半をⅥ期、13世紀前半をⅦ期、13世紀後半をⅨ期、14世紀をⅩ期に分類・仮称し第238～241図に示した。これは整理期間の物理的制約や事例の僅少性等、多くの制約下での編年であるため参考例として提示するものである。

（２）かわらけ

今回の調査で、32点のかわらけが出土している。２号周溝とⅦＥ７ｅグリッドから出土した２点（717・755：同順）を除き全て手づくねかわらけで、コースター状のかわらけは全く検出されていない。完形品は７点（720～724・733・745）。大型のものは730～732・734・752・754の６点で、他は小型のかわらけである。分類は、かわらけの出土量も少ないことから、比較資料を柳之御所遺跡に求め柳之御所跡（三浦・松本：1995）の手づくねかわらけの分類に従った。

第１分類（口縁部製作技法）

D類（一段なで技法）

D_2類：口縁部は直線的に立ち上がる。口縁部断面形は丸い。

D_3類：口縁部は弱く内湾ぎみ。口唇部断面形丸い。

D_4類：口唇部面取り。口唇部の断面形は三角形。

D_4'類：D_4類に類似。口唇部面取り後、口縁全体を一度なでる。断面形は三角形。

第２分類（器全体の形態差）

口縁部

Ⅰ：徐々に立ち上がる。

Ⅱ：急に立ち上がる。

口縁部と底部との境

ａ：強く縊れる。

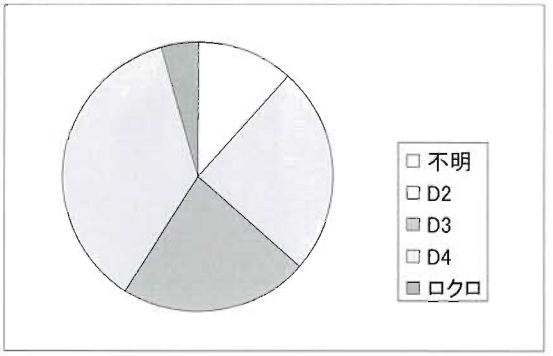
ｂ：くびれがない。

第３分類（口径の大きさ）

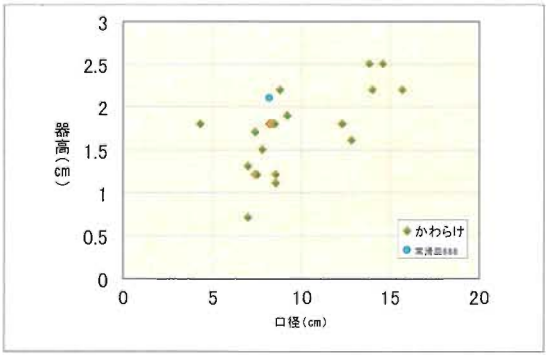
15.0cm以上

13.6～14.9cm

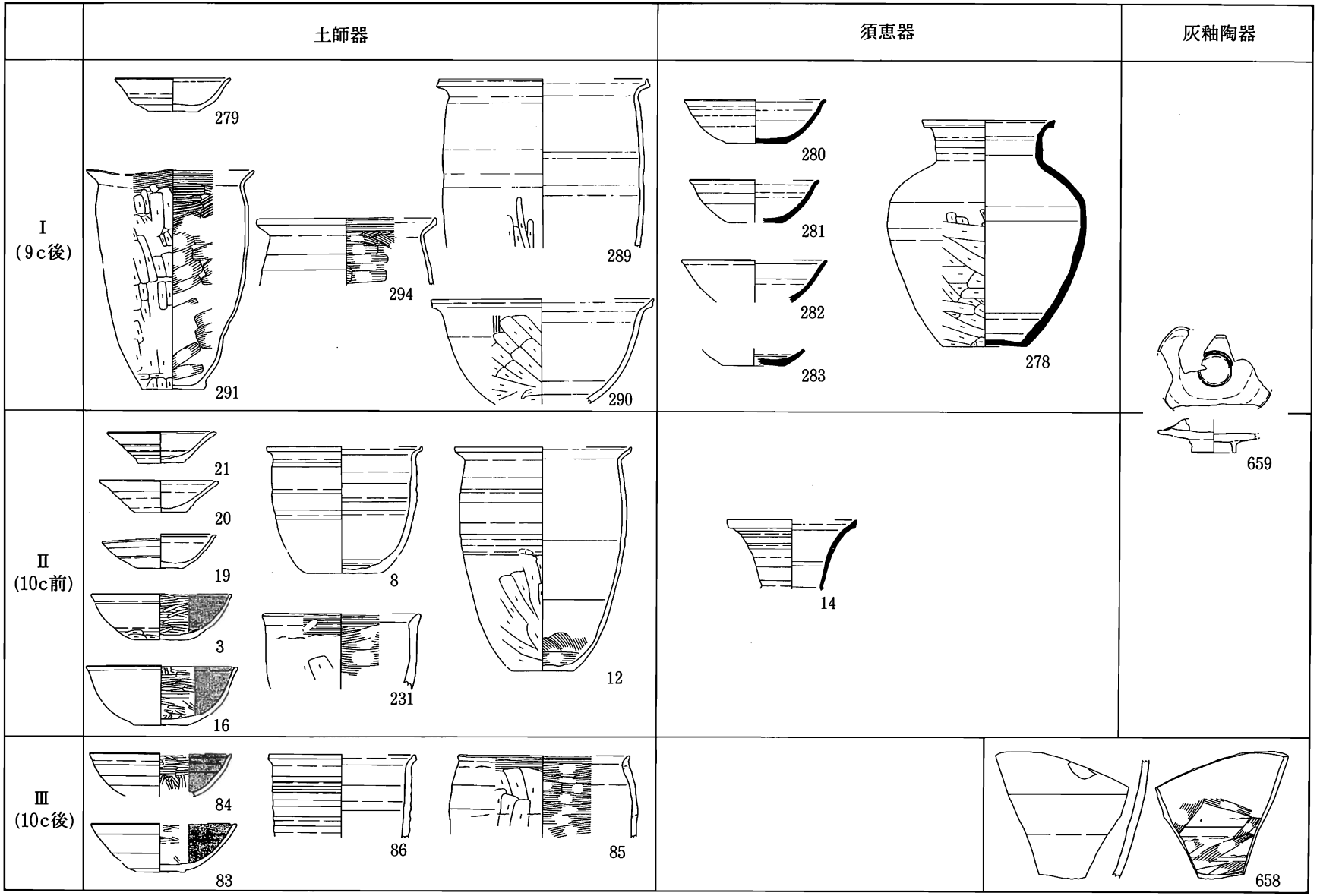
13.5cm以下



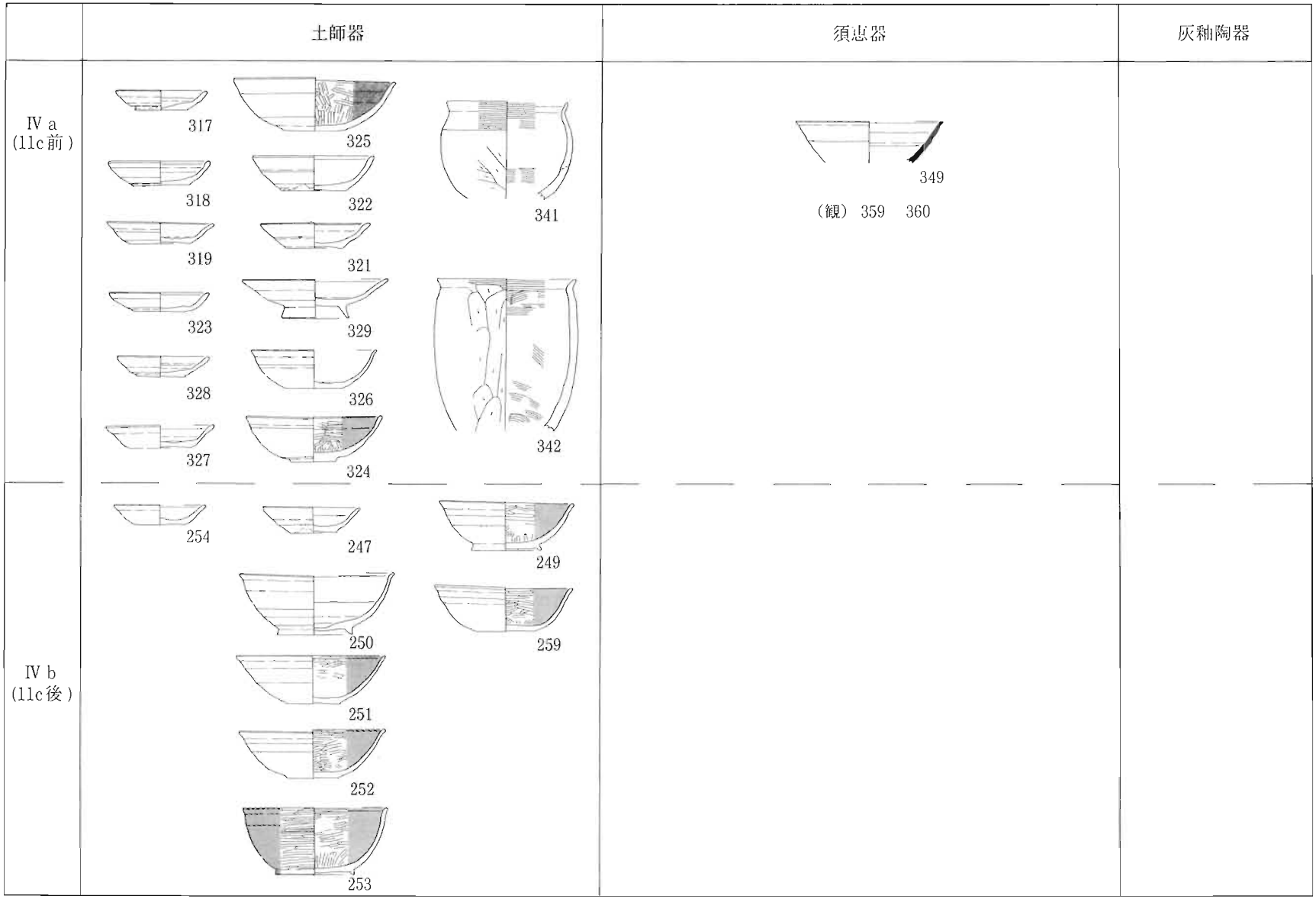
第236図　分類別かわらけ出土比率



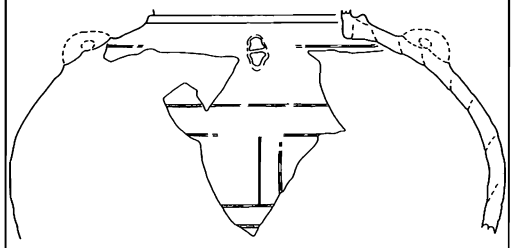
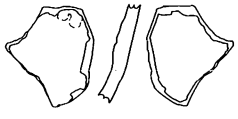
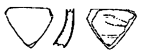
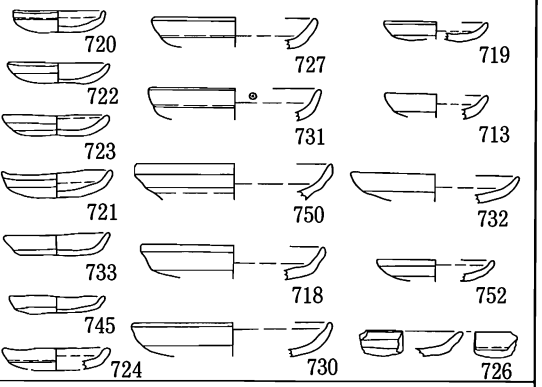
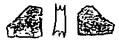
第237図　法量分布図



第238図　土器集成図(1)



第239図　土器集成図(2)

	渥美	常滑	白・青白磁	青磁	かわらけ
V (12c前)	 (写)695　(写)692～697　691		(写)761	 771	
VI (12c後)	(写)681 (写)675 (写)672	 688 704 667  705 671 661 (写) 685 686 674 674 689 (写) 670 671 676 705 706 709 768 769 770	(写)767 (写)760 758	 772 (写)773 (写)762	(観)739～744　746～749 (写)714～717　725　728　729　734～738 (写)751　753～755  720　727　719 722　731　713 723 721　750　732 733　718　752 745 724　730　726
	多高田				
Ⅶ (13c)	673(写)  711 662				

第240図　土器集成図(3)

	多高田	古瀬戸	常滑	白磁・青白磁	青磁
Ⅶ (13c前)			写 663 写 664 写 683	写 757 写 759	
Ⅸ (13c後)	写 669 写 682 写 689	 679			写 763 写 765
Ⅹ (14c)		 712 703			

第241図　土器集成図(4)

破片を含む分類の結果は236図に示した。Ｄ４類が36.4％で圧倒的に多く、Ｄ２類25.4％、Ｄ３類22.7％、ロクロかわらけが4.5％であった。法量については、完形品と反転実測が可能なものを用いて図示した。

松本氏によれば、手づくねかわらけの時期をⅠ期を1150年代～1175年頃、Ⅱ期を1175年頃以降に分け、「Ⅰ期の遺構出土かわらけの方が、Ⅱ期の遺構出土のものよりも大きい。そして、およそ13.5㎝ぐらいがⅠ・Ⅱ期を分ける境界線になる。15㎝を越す製品はⅠ期の遺構に多いが、Ⅱ期にも見られる。一方、13.5㎝よりも小さい製品はⅡ期にしかない。ただし、計測の際の誤差や個体のゆがみによって、数㎜の差は生ずる可能性がある」としている。本遺跡出土のかわらけも圧倒的に小皿が多く、松本氏の謂うⅡ期に該当するものと考える。

出土したかわらけ（破片含む）の54.5％は、28・46号墓壙（荼毘所）の埋土上層から火葬骨や焼土・炭化物とともに検出されたものであることから、「餓鬼草子」にあるように葬送儀礼に伴う供養的儀式に使われたものと考えられる。731には孔を穿ちかけた痕跡があり、詳細は不明であるが、葬祭の何らかの儀式に関係するものと推定される。出土遺構の特殊性から、所謂小皿自体の使用方法については別に検討が必要と思われる。日常性に乏しい点では政庁自体も該当するという考えも成立するが、出土数が圧倒的に多い本遺跡での小皿は、祭祀に使用された可能性が高いと考えられる。

法量で見ると大型の６点以外は、口径10㎝以内の小皿で、46号墓壙（荼毘所）から共伴して検出された常滑の目の小皿（688）も法量的にかわらけと酷似している。

また、これらのかわらけを見ると、酸化炎焼成による赤色を呈するものや還元炎焼成気味の白色や青色を帯びたもの。白または黄色をイメージさせもする。さらに、大量のカーボンが付着した黒色処理されたもの（720・721・723・724）も出土している。これら色彩的は**赤・黒・青や黄色又は白**を連想させられる。五輪塔等にも赤・黒・白が使用されることを考えれば、色が祭祀に重要な役割を果たして可能性についても考慮すべきと思われる。

色彩の祭祀性については、現代の葬列や棟上式でも赤・黒・青・黄・白色の旗の使用が見られる。かわらけ等による祭祀の可能性の事例は、柳之御所跡第53次調査、伽羅之御所跡の井戸跡について指摘されている（本澤慎輔（2000）：「柳之御所資料館第１回特別展図録」）。これらについては、今後祭祀の儀礼とともに検討・研究すべき事項と考えられる。

（３）国産陶磁器

国産陶磁器は57点が検出し、中世以前の陶器と近世の陶磁器に大別される。何れも破片が多く、正確な個体数は把握できなかった。

中世の国産陶器は猿投産１点（659）、東濃産１点（658）、渥美産15点、常滑産27点、古瀬戸産２点（679・712）、多高田産３点（669・682・698）、珠洲産３点（673・700・702）と宮城産１点（666）の計53点が出土している。中世陶磁器（中国産含）の分類は八重樫忠郎氏（平泉町教育委員会）にお願いし、これに従っている。

猿投の耳皿（659：9世紀末）は県内で２点目の出土であり、胆沢城や多賀城などの政庁クラスの遺跡から出土している極めて貴重な遺物である。東濃の１点（658：10世紀）は短頸壺と思われる。

灰釉陶器以外の国産陶器は、全て墓域あるいは居住エリアと考えられる調査ⅤＦとⅦＨグリッドから集中して出土している。

渥美の陶器片は全体の28.3％を占め、全体の器形を確認できるものは691の１点のみであるが、器種は甕・

(四耳) 壺とが多い。今回の調査で注目すべきは、平泉町でこれまでに出土している該期の四耳壺に施されていた装飾は突帯文、縦耳、袈裟襷文、三筋文、刻画文等であるが、691には突帯文・縦耳・袈裟襷文三種の文様が一個体に施されており、これまで渥美の模倣と推定されていた宮城県産陶器の装飾バリエーションの原型が、原産地である渥美に全て集約されていたことが明らかになった。時期は12世紀前半、第二四半期頃と推定され奥州藤原氏時代の遺物である。突帯文は渥美の**皿焼古窯**や**大沢下古窯**出土のものと酷似しており、大アラコ古窯のものとはその形状を異にしている (増山禎之：2002)。

常滑の小皿 (688) は、46号墓壙 (茶毘所) からかわらけと共伴して埋土上層から検出されているため、祭祀に利用されたものと考えられる (前項参照)。大きさ、形態ともにかわらけに酷似している。常滑の小皿そのものが平泉のこれまでの調査から殆ど出土しない希有な遺物であり、個体数の希少さからも、小皿そのものの製作意図が日常生活に根ざしているとは考え難い。

この点についてはかわらけの色彩と同様今後検討すべき事項と考える。

常滑は中世の国産陶器全体の50.9%を占め、出土数は圧倒的に多い。遺物の価値的ランクから言えば、多高田産より価値の高い常滑や渥美 (八重樫忠郎：2001) の出土比率が多高田産等よりも多いことや、北上川西岸でも希有な袈裟襷文の四耳壺が検出されていることから、少なくとも墓域に関わった人々は庶民階層とは考えられず、当時の平泉にあってもかなりの高位にあった人々であると推定できる。

近世陶磁器は、調査区の南西部 (畠跡) にある近世の建物跡周辺に偏在し、中世陶磁器が検出された北側の墓域周辺からは検出されていない。調査区南西部には近世から現代にまで集落があり、遺物の出土状況から明確にその事実が確認された。

遺物は18～19世紀の肥前・瀬戸産の陶磁器や大堀相馬、在地産の陶器、瓦器等が検出されている。

(4) 中国産磁器

中国産磁器は18点が出土した。内訳は白磁5点 (756・757・759～761)、青白磁6点 (758・766～770) と青磁7点 (762～765・771～773)、全て破片である。白磁は12世紀～13世紀、青白磁は12後半～13世紀前半、青磁は12世紀から14・15世紀頃までのものが出土している。

757・759は口禿の白磁 (編年Ⅸ類) で、13世紀前半頃のもので平泉ではこれまでに1片が出土しているだけの希少な遺物である。青磁はいずれも龍泉窯産で、771・772には見込みに劃花文が施されている (12世紀)。また、763・765 (Ⅰ5類) は13世紀後半頃の連弁文碗である。

青白磁の768･769は合子片である。

墓壙から検出された757～762は、副葬品である可能性が高い。遺物の出土状況は墓域と居住区であるⅤF～ⅧHグリッドに集中しており、遺構の時期的な分布状況と合致する。

3．平泉における北上川左岸の土地利用とその時代的変遷について

(1) 9世紀後半～火山灰降下前

平泉町におけるこれまでの町教委と当センターの調査では有史時代以降奈良時代までの報告は殆どなく、本遺跡からも9世紀の前半を示す遺構・遺物は検出されなかった。これは、昨年度から今年度にかけて調査が行われた**里遺跡** (埋文センター：平成12年度調査)・**矢崎Ⅰ遺跡** (埋文センター：平成12・13年度)、**竜ヶ坂遺跡**・**畑中遺跡** (平泉町教委：平成13度) も同様であり、平泉周辺の開拓は8世紀末から9世紀初めの征夷以後と考えられる。

調査区南西側を中心に検出された1.23haにわたる畠跡と同時期の住居跡は、自然堤防の尾根上から検出されており、微高地である尾根に居住エリア、南西側と北東側の緩斜面から低地に畠という明確な土地利用が見られる。

調査区北側の微高地には、広大な畠跡を耕作していた相当数の住居跡が存在しているものと考えられる。耕作方法等から集団的な農業が営まれていた可能性も想定され、耕作者をまとめる何らかの権力が早くから存在していた可能性も高い。

また、この畠跡と同時期の水田跡が本遺跡から東南東へ約300mに位置する**竜ヶ坂遺跡**から検出されており、10世紀の初頭には束稲山麓の沢水を利用した水田と氾濫源の低地には大規模な畠が作られていたと推定される。これらの広大な農業生産基盤が確立されていたからこそ、それ以後の平泉の発展があり、更には奥州藤原氏100年の栄華も成立しえたものと思われる。

（2）火山灰降下後～11世紀

上記の点については、前述の通りプラントオパールの分析結果も火山灰降下後も降下以前と同様にイネ・オオムギ・アワ・キビ等が耕作されていたことが実証されているため、藤原氏時代にも耕作が続けられていたもと考えられる。

調査区西端から検出された土器埋設遺構が、火山灰降下の災害に対する地鎮目的のものとすれば、右の鑑定結果を裏付ける要因と一つになにもなりうる。火山灰降下後に調査区南側や西側に10世紀頃の旧河道が確認されることから、水害等への地鎮目的であることも十分に考えられる。火山灰降下と北上川の流路の変化がどれほどの時間的に間隔をおくかについての詳細は不明である。

また、調査区北側から検出された住居跡や工房跡は、10世紀～11世紀頃のものと推定されることから、火山灰の降下前と同様の土地利用がなされていたと言えよう。

なお、旧河道については住居跡や工房跡からの土錘の検出から10世紀代～11世紀頃と考え、畝の規模が他に比して小さい北端部の畠跡の耕作は、北上川の流路の変化に伴う可能性もある。

該期の調査区東側からは、区画のためのものと考えられる**1号堀跡**（10～11世紀）が確認されていることから、調査区北側の住居跡や工房跡と同時期に**方形居館**がＶＧグリッド付近に存在していた可能性が高い。

1号工房跡から出土した灰釉陶器の耳皿（659）は、県内では胆沢城で1点、また多賀城跡でも2～3点が出土しているだけの大変希有な遺物であり、周辺やこの方形居館に居住していた人物、あるいは機関はかなりの高位にあったものと推定される。ＶＦ～ＶＧグリッド付近の殆どが、調査区外であったため詳細を知りうる資料は得られなかった。この点については、今後の調査・研究に期待したい。堀跡が検出された区域も自然堤防尾根部に位置している。9世紀後半からの開拓と、その後の安定した生産・権力基盤が清衡が平泉に入部する一要因とも考えられる。

29号墓壙の炭化材の年代測定（科学分析1参照）は8世紀末から10世紀頃を示しているが、調査結果と考慮すると、9世紀後半以降にはすでに居住エリアの一部に墓壙が作られていた可能性も考えられる。

（3）12世紀～15世紀

本年度調査で特に大きな成果であったことは、墓域や12世紀の遺物である渥美産の四耳壺（691～694）が66号土坑から検出されたことである。これにより遺跡周辺では、藤原氏時代にも生活が営まれていたことが明らかとなった。12世紀から15世紀の遺物は、全て墓域と調査区ＶＦ～ⅧＨグリッドで検出され、住居跡同

様に自然堤防の尾根部に位置している。

12世紀の遺構は、昨年度の里遺跡で草花双鳥鏡や松鶴鏡が出土したことにより、藤原氏の勢力が北上川東岸にも及んでいたことが明らかになったばかりで、本遺跡の調査でもその事実が裏付けられたことになる。

墓域については、11世紀段階までは居住区であったものが12世紀に入って溝に結界された墓域に変化し、これが14・15世紀頃まで続いたものと考えられる。この時期の居住エリアはＶＦ～ⅦＨグリッドと考えられるが、この区域には10～11世紀と考えられる堀跡（方形居館？）も検出されているため、10世紀から14・15世紀頃までは同様に、居住区として何らかの支配層が藤原氏以前もその滅亡後も存在していたものと考えられる。

このように出土遺物からは、文治五（1189）年での明確な遺跡の断絶はみられない。想定は可能ではあるが袈裟襷文の四耳壺（691）や14世紀後半の大皿（712）、PP1096の15世紀頃の青磁碗（764）、67号土坑の青磁蓮弁文碗（763）を見るかぎり、印象としては清衡が平泉に入る以前の10世紀から藤原氏時代を通しその滅亡後15世紀頃まで、北上川東岸にはほぼ同等の権力者が何らかの形で居たものと思われる。

古瀬戸の直縁大皿（712）は、鎌倉幕府滅亡後の14世紀後半（1365－1385年）のものである。生活は幕府滅亡後も存続していたことが明らかになり、北上川右岸では生活の痕跡が見られなくなるのに対し、左岸では連綿とその痕跡が残っていることが明らかとなったことも大きな成果であった。

これについては、珪酸体分析の結果からも遺跡周辺に広がる畠跡が失われることなく耕作し続けられており、まさにこの生産力こそが９世紀後半から数百年間にわたる権力基盤の存続を可能ならしめた、最大の要因と考えられる。

畠については施肥のない時代のものであり、定期的に氾濫を繰り返す北上川のもたらす恵みなくしては大きな収穫はなかったものと思われる。これはヘロドトスのいう「エジプトはナイルの賜」の如く、平泉に繁栄した文化もまさに「北上川の賜」と言えるのではないだろうか。

文治五年を境に、在地の旧勢力と関東御家人である葛西氏等が入れ替わったのか、あるいは旧勢力がそのまま幕府に取り込まれ存続していたのかを決定しうる資料は得られなかったため、これらについては今後の調査・研究に期待したい。

（４）16・17世紀以降

近世の遺構・遺物の殆どは、畠跡が存在する調査区の南西側で検出された。自然堤防の尾根付近からは、近世から開田以前は麻畑であったため竈状遺構や炭窯が検出されている。

近世初期の遺構は、大形の掘立柱建物跡である「きもいり」の居館跡やそれに付随する施設と考えられ、いずれも調査区南西側の畠跡上から検出されている。

墓域周辺は近世初頭においても、日常生活を営む場からは禁忌的空間として認識され、その後麻畑に変化し近現代に至ったものと考えられる。

また、束稲山麓付近の北上川の旧河道はこれまでの町教委の調査（八重樫）により16世紀にまで遡ることが確認されているため、北上川の流路の変化が近世初頭において、本町に居住地を求めた人々の移転原因である可能性も考えられる。

以後近世や近代を通し昭和55年頃までは民家が調査区南西側に存在している。

4．終わりに

本調査を振り返ってみると、これほど多くの遺構の調査を終えられた事については、委託者である一関農村整備事務所土井勇氏をはじめとする、関係機関や現場作業員の力なくしては不可能であった。特に遺物と遺構について度々現場に足を運びながら指導・指摘をいただいた、八重樫忠郎氏にはこの場を借りてあらためて感謝申し上げたい。

今回の調査で、昨年度の里遺跡に続き奥州藤原氏時代の遺構が確認され、当時の平泉を知る上で大きな手がかりを提供することができた。北上川左岸の9世紀後半から16・17世紀頃まで、大凡の流れを把握できたことも大きな成果であった。右岸の藤原氏関連遺跡から出土する遺物と質的に変わらない、渥美の四耳壺や藤原氏の滅亡後の白磁・青磁や古瀬戸の大皿が検出されたことは、中世を通して遺跡周辺に集落が存在したことを示しており、藤原氏前後の平泉の様相を明らかにできたことは、今後の平泉研究の一助になると考える。

特に中世初頭の墓域は、その所在位置等、多くの疑問点が残り平泉研修者の忌憚のない検討・分析をお願いしたい。

また、当時の末法思想の広がりをみれば調査担当者としては、墓域から北上川の西方に中尊寺（金色堂）を望む当時の人々が対岸に極楽浄土を見ていたのではないかという感想を調査中も禁じ得なかった。

三代にわたり浄土をこの奥州の地に具現化しようとしたその発願の崇高さと、それを為し得た財力と権力はまさに空前絶後であり、北上川西岸一帯が浄土都市ともとらえることができるであろう。

世界遺産の暫定リストに毛越寺庭園や無量光院等が登録された現在、奥州藤原氏時代の平泉解明が更に進むことを祈念して本報告を終える。

参考・引用文献

（1）「平泉町史」
（2）「岩手県史」第3巻
（3）石井・萩原（1993）：「中世社会と墳墓」 名著出版
（4）水藤　真（1991）：「中世の葬送・墓制」 吉川弘文館
（5）芳賀　登（1987）：「葬儀の歴史」 雄山閣
（6）斎藤　忠（1978）：「日本史小百科　墳墓」 近藤出版社
（7）甘粕・岡本・他（1986）：「岩波講座　日本考古学3」 岩波書店
（8）宮小路賀宏（1994）：「九州歴史資料館研修論集」19集　九州歴史資料館
（9）横田賢次郎（1978）：「太宰府出土の輸入陶磁器について」;『九州歴史資料館研究論集』4集　九州歴史資料館
(10)「北日本における縄文時代の墓制資料集」(1999)　南北海道考古学情報交換会第20灰記念シンポジウム実行委員会
(11) 森田　勉（1982）：「14～16世紀の白磁の分類と編年」;『貿易陶磁研究』No.2　日本貿易陶磁研究会
(12) 上田秀夫（1982）：「14～16世紀の青磁碗の分類について」;『貿易陶磁研究』No.2　日本貿易陶磁研究会
(13) 渡部・中摩（2000）：「はたけの考古学　日本考古学協会2000年鹿児島大会資料集　第1集」
日本考古学協会2000年鹿児島大会実行委員会
(14)「東日本における奈良・平安時代の墓制」(1995)　東日本埋蔵文化財研究会
(15)「太宰府条坊跡Ⅱ　太宰府市の文化財第7集」(1983)　太宰府市教育委員会
(16)「よみがえる秘宝」(1964)　岩手日報社
(17)「中世庶民信仰資料」(1994)　(財) 元興寺文化財研究所
(18) 狭川真一（1995）：「平泉型宝塔について」;「岩手考古学」第7号　岩手考古学会
(19) 狭川真一（1994）：「方形壇状遺構の性格について」;「太宰府市の文化財第22集　高雄地区遺跡群」太宰府市教育委員会
(20) 能登　健（1984）：「女堀　中世初期・農業用水址の発掘調査」 群馬県埋蔵文化財調査事業団
(21) 小島敦子（2000）：「三ツ木皿沼遺跡発掘調査報告書　第261集」 群馬県埋蔵文化財調査事業団

(22) 佐藤　淳（1998）：「柳生台畑遺跡調査報告書　仙台市文化財調査報告書第230集」 仙台市教育委員会
(23) 小川淳一・高橋綾子（2000）：「王ノ壇遺跡発掘調査報告書　仙台市文化財調査報告書　第249集」 仙台市教育委員会
(24) 八木光則（1989）：「岩手考古学　第１号　阿倍・清原氏の城柵遺跡」 岩手考古学会
(25) 八木光則（1993）：「歴史時代の土器研究第８号　陸奥中部における古代末期の土器群」 歴史時代土器研究同人会
(26) 橋本・八重樫・井上・他（1996）：「中近世土器の基礎研究ＸＩ」 日本中世土器研究会
(27) 藤澤・平田・飯村・他（1997）：「東北地方の在地土器・陶磁器Ｉ」東北中世考古学会第３回研究大会資料
東北中世考古学会
(28) 藤澤良祐（1997）：「中近世瀬戸焼の編年」；東北中世考古学会第３回研究大会資料「東北地方の在地土器・陶磁器Ｉ」
東北中世考古学会
(29) 羽柴直人・千葉和弘（1998）：「岩手考古学　第10号　平泉町中尊寺の文永九年銘の板碑について」 岩手考古学会
(30) 松本建速（1994）：「岩手考古学　第６号　ロクロかわらけと手づくねかわらけ」 岩手考古学会
(31) 八重樫忠郎（1994）：「岩手考古学　第６号　常滑・渥美窯産甕の12世紀後半における変化」 岩手考古学会
(32) 吉田　努・井上雅孝（1994）：「岩手考古学　第６号　滝沢村大釜館遺跡の古代末期の土器について」 岩手考古学会
(33) 羽柴直人（2001）：「岩手考古学　第13号　平泉遺跡群のロクロかわらけについて」 岩手考古学会
(34) 本堂寿一（1982）：「奥州における中世城館分布の諸様相（その１）」；『北上市立博物館研究報告８号』 北上市立博物館
(35) 八重樫忠郎（1995）：「志羅山遺跡第35次発掘調査報告書　平泉町文化財調査報告書第51集」 平泉町教育委員会
(36) 山本信夫（1994）：「柳之御所跡検討資料　北部九州の陶磁器編年（10世紀後半～13世紀前半）」
(37) 八重樫忠郎（1994）：「柳之御所跡検討資料　平泉出土の陶磁器とその問題点」
(38) 八重樫・鈴木・吉田（1981）：「東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書　第59集」
（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
(39) 三浦謙一・松本建速（1995）：「柳之御所跡発掘調査報告書　第228集」（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
(40) 酒井宗孝（1996）：「小幅遺跡第4次発掘調査報告書　第265集」（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
(41) 羽柴直人（2000）：「志羅山遺跡第46・66・74次発掘調査報告書　第312集」
（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
(42) 中村直美・平めぐみ（2000）：「大向上平遺跡発掘調査報告書　第335集」
（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
(43) 酒井宗孝・羽柴直人（2001）：「志羅山遺跡発掘調査報告書　第47・56・67・73・80次調査　第352集」
（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
(44) 高木　晃（2002）：「中半入遺跡・蝦夷塚古墳発掘調査報告書　第380集」（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
(45) 濱田　宏・羽柴直人（2002）：「泉屋遺跡第次発掘調査報告書　第399集」（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
(46) 高木　晃（2002）：「細谷地遺跡第５・６次発掘調査報告書　第416集」（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
(47) 杉沢昭太郎（2002）：「台太郎遺跡第23次発掘調査報告書　第417集」（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
(48) 杉沢昭太郎（2002）：「台太郎遺跡第26次発掘調査報告書　第418集」（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

Ⅵ.自然科学分析

1．放射性炭素年代測定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

本町Ⅱ遺跡は、岩手県西磐井郡平泉町に所在し、北上川左岸の自然堤防上、標高約21～23mに立地する。本遺跡では発掘調査によって、9世紀後半～10世紀に相当する竪穴住居跡や十和田a降下火山灰に覆われた畠跡、土坑、柱穴状土坑、溝跡などの遺構や土師器・須恵器や陶磁器、古銭、木製品といった遺物が確認されている。

今回の分析調査は、溝に区画された墓壙群から出土した炭化材を対象とし、遺構の年代を検討するため放射性炭素年代測定を実施する。また、試料の由来に関する情報を得るため、炭化材同定も実施することとした。

1．試料

試料は、墓壙群に含まれる1号墓壙・23号墓壙・29号墓壙の底面および覆土中から出土した炭化材3点である。これら試料について放射性炭素年代測定、炭化材同定を実施する。試料の詳細を結果とともに表1に示す。

2．分析方法

（1）放射性炭素年代測定

測定は、株式会社加速器分析研究所の協力を得た。分析は、加速器質量分析（ＡＭＳ）法を実施する。

（2）炭化材同定

木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

3．結果

（1）放射性炭素年代測定

結果を表1に示す。炭化材の測定年代値（補正年代値）は、1号墓壙出土炭化材が約830年前、23号墓壙出土炭化材が約910年前、29号墓壙出土炭化材が約1160年前を示す。

なお、δ13Cの値は、加速器を用いて試料炭素の13C濃度（13C／12C）を測定し、標準試料PDB（白亜紀のベレムナイト類の化石）の測定値を基準として、それからのずれを計算し、千分偏差（‰；パーミル）

表1　放射性炭素年代測定および炭化材同定結果

遺構名	出土位置	試料の質	樹種	補正年代 BP	δ13C (‰)	測定年代 BP	Code.No.
140号土坑	底面	炭化材	ハンノキ属ハンノキ亜属	910±30	−22.96±0.81	880±30	IAAA−10583
155号土坑	底面	炭化材	ハンノキ属ハンノキ亜属	830±30	−25.98±0.91	840±30	IAAA−10584
195号土坑	検出面より90cm下	炭化材	広葉樹	1160±30	−26.33±0.77	1170±30	IAAA−10585

1）年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
2）BP年代値は、1950年を起点として何年前かを示しています。

で表したものである。今回の試料の補正年代は、この値に基づいて補正をした年代である。

（2）炭化材同定

結果を表1に示す。炭化材は、23号墓壙出土炭化材と1号墓壙出土炭化材が落葉広葉樹のハンノキ属ハンノキ亜属であった。29号墓壙出土炭化材は、道管が認められることから広葉樹材と判断されたが、保存状態が良くないため組織配列などの特徴が観察できず、種類は不明である。ハンノキ属ハンノキ亜属の主な解剖学的特徴を以下に記す。

・ハンノキ属ハンノキ亜属（Alnus subgen. Alnus）　　カバノキ科

散孔材で、管孔は単独または2～4個が放射方向に複合して散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列状に配列する。放射組織は同性、単列、1～30細胞高のものと集合放射組織とがある。

4．考察

炭化材の測定年代値（補正年代値）は、23号墓壙出土炭化材が約910年前、1号墓壙出土炭化材が約830年前、29号墓壙出土炭化材が約1160年前を示した。

放射性炭素年代は、測定法自体が持つ誤差や、測定の前提条件である大気中の14Cの濃度が過去において一定ではなかったことなどから、年輪などから測定されたいわゆる暦年代とは一致しない。そのため、年輪年代による暦年代既知の年輪について放射性炭素年代測定を実施することで、暦年代と放射性炭素年代を両軸とする補正曲線が作られている（Stuiver, M. et al, 1998）。また、炭化材の示す年代値は、もととなった植物の組織が死滅した年代値を示すため、出土層や遺構の年代観と一致しない場合がある。特に、樹木などは、実際に生育している間でも、中心から順に年輪の活動は停止するため、樹芯に近い試料ほど実際の枯死・伐採年代との間に誤差が生じることになる。

なお、前述した補正曲線によれば、今回測定された放射性炭素年代値の暦年代は、23号墓壙出土炭化材が約800～900年前の間でばらつき、1号墓壙出土炭化材が約750年前、29号墓壙出土炭化材が約1050年前を示す。したがって、今回の各試料の年代は、23号墓壙出土炭化材は11～12世紀中頃、1号墓壙出土炭化材は12世紀～13世紀頃、29号墓壙土坑出土炭化材は8世紀末～10世紀頃と考えられる。

一方、これら土坑を含む墓壙群の考古学的年代観は、発掘調査時の所見や出土遺物などから12世紀後半～15世紀頃の所産と想定されている。今回の分析結果の暦年代と比較すると、23号墓壙と1号墓壙から出土した炭化材は概ね考古学的年代幅に収まる結果であるが、29号墓壙から出土した炭化材はやや古い結果である。今後は、今回得られた分析結果について評価するため、各遺構から出土した遺物などによる年代観との比較や、各遺構内で複数の試料を対象とした分析調査などを行い検証する必要がある。

引用文献

Stuiver, M., Reimer, P.J., Bard, E., Beck, J.W., Burr, G.S., Hughen, K.A., Kromer, B., McCormac, G., van der Plincht, J. and Spurk, M. (1998) INTCAL98 radiocarbon age calibration, 24,000-0 cal BP. Radiocarbon, 40, p.1041-1083.

2．畠跡の植物珪酸体分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

本町Ⅱ遺跡は、岩手県西磐井郡平泉町に所在し、北上川左岸の自然堤防上、標高約21～23mに立地する。本遺跡では発掘調査によって、9世紀後半～10世紀に相当する竪穴住居跡や、十和田a降下火山灰に覆われた畠跡、土坑、柱穴状土坑、溝跡などの遺構や土師器・須恵器や陶磁器、古銭、木製品といった遺物が確認されている。

今回の分析調査は、十和田a降下火山灰（To-a）に覆われた畠跡における栽培植物について検証するため、畠跡および基本層序から採取した土壌を対象に、植物珪酸体分析を実施する。

1．試料

本町Ⅱ遺跡の基本層序は、1層～12層に区分され、粘土質シルトを主体とした堆積物が見られる。当遺跡から検出された十和田a降下火山灰（To-a）に覆われており基本層序の5層に相当することから、畠跡は基本層序の6層に対応すると考えられる。

当遺跡から検出された畠跡は、大部分が東西に畝立されている様相が確認されている。しかし、発掘調査区の南端部や北側では南北に畝立される状況も確認されている。

試料は、発掘調査区南端と北側に認められた、南北に畝立てされた畠跡の畝・畝間から採取された土壌4点、東西に畝立てされた畠跡のBB-BB'土層断面で確認された畝・畝間から採取された土壌2点、対称試料として基本層序から採取された土壌4点の計10点である（表1・図1）。

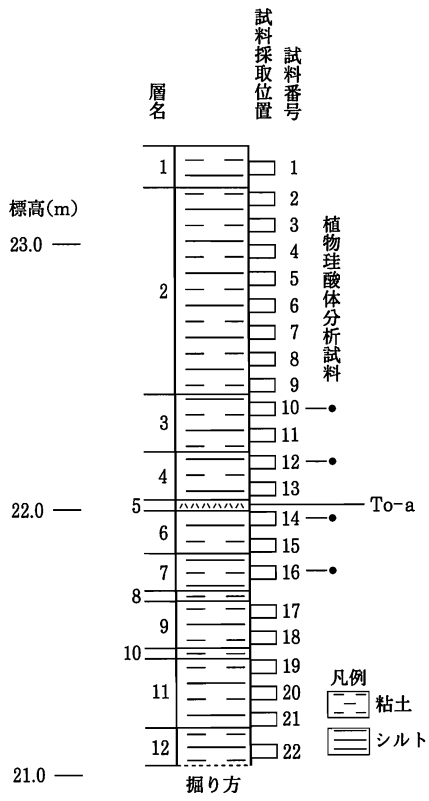


図1　基本層序の植物珪酸体分析層位

2．分析方法

湿重で5～15g秤量した試料について、過酸化水素水と塩酸による有機物と鉄分の除去、超音波処理（70W，250KHz，1分間）による試料の分散、沈降法による粘土分の除去、ポリタングステン酸ナトリウム（比重2.5）による重液分離を順に行い、物理・化学処理で植物珪酸体を分離・濃集する。これを検鏡し易い濃度に希釈した後、カバーガラスに滴下し、乾燥させる。その後、プリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。

検鏡は光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出

表1　分析試料一覧

試　料　名	畝立の方向	備考
基本層序10 VD8f	－	3層上位
基本層序12 VD8f	－	5層上位
基本層序14 VD8f	－	6層上位
基本層序16 VD8f	－	7層
南端南北畝② CF-CF'上部	南北	
南端南北畝間②CF-CF'上部	南北	
北側畠跡（IE8F）畝	南北	
北側畠跡（IE8F）畝間	南北	
BB-BB'⑦' 畝上 IVC3v	東西	
BB-BB'⑧畝間上 IVC3v	東西	

現するイネ科植物の葉部（葉身と葉鞘）の短細胞に由来する植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身の機動細胞に由来する植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を、同定・計数する。なお、同定には近藤・佐瀬（1986）の分類を参考とする。

分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残渣量、検鏡に用いたプレパラートの数や検鏡した面積を正確に計量し、堆積物１ｇあたりの植物珪酸体量を求める。

結果は、検出された植物珪酸体の種類と植物珪酸体含量の一覧表で示す。また、各種類の植物珪酸体含量とその層位的変化から稲作の様態や古植生について検討するために、植物珪酸体含量の層位的変化を図示する。これは、同定した数を堆積物１ｇあたりの個数に換算して表現したものである。

３．結果

結果を表２、図２に示す。

各試料からは植物珪酸体が検出されるものの、保存状態が悪く、表面に多数の小孔（溶食痕）が認められる。以下に、地点毎の産状を述べる。

・基本層序

植物珪酸体含量は、試料により違いが見られる。すなわち、試料番号12・16で４万個／ｇ前後、試料番号10・14で約１万個／ｇである。

下位の試料番号16ではクマザサ属やネザサ節を含むタケ亜科、ヨシ属、ウシクサ族が検出され、タケ亜科の産出が目立つ。

Ｔｏ-ａ直下の試料番号14では、栽培植物のイネ属や栽培種ヒエを含むヒエ属の短細胞珪酸体および栽培種オオムギなどを含むオオムギ族の短細胞珪酸体が検出される。その含量はイネ属やヒエ属が100個／ｇ未満、オオムギ族が186個／ｇである。また、タケ亜科、ヨシ属、ウシクサ族、イチゴツナギ亜科が検出され、

表２　畑遺構試料ほかの植物珪酸体含量（単位：個／ｇ）

種類	基本層序				南端		北側畠跡		BB-BB'	
試料番号	10	12	14	16	畝②	畝間②	畝	畝間	畝上⑦'	畝間上⑧
イネ科葉部短細胞珪酸体										
イネ族イネ属	0	0	62	0	97	141	0	46	0	0
キビ族ヒエ属	0	126	62	0	0	71	84	184	0	0
キビ族キビ属	0	0	0	0	65	71	42	92	0	119
タケ亜科クマザサ属	551	272	1,733	281	324	1,624	1,434	1,152	857	239
タケ亜科ネザサ節	245	126	2,229	241	713	1,271	970	507	686	0
タケ亜科	10,351	3,474	7,615	2,528	3,499	4,412	4,133	3,409	3,970	1,074
ヨシ属	4,532	670	1,610	161	486	953	1,054	1,244	600	119
ウシクサ族コブナグサ属	306	335	124	0	162	176	253	230	29	0
ウシクサ族ススキ属	2,021	356	371	0	518	388	590	322	257	0
イチゴツナギ亜科オオムギ族	0	105	186	0	65	141	84	276	86	0
イチゴツナギ亜科	2,879	1,193	1,610	0	713	1,271	1,898	1,797	371	0
不明	16,782	4,018	7,986	1,806	4,439	7,060	7,676	5,021	2,599	1,789
イネ科葉身機動細胞珪酸体										
イネ族イネ属	0	42	0	0	65	141	0	0	57	0
キビ族	0	0	0	0	0	35	0	0	0	0
タケ亜科クマザサ属	2,144	586	4,272	1,525	1,912	3,953	4,091	5,298	3,285	2,147
タケ亜科ネザサ節	612	418	3,591	1,565	1,102	2,436	1,054	2,534	2,228	239
タケ亜科	2,205	1,255	4,767	2,288	1,782	1,800	422	1,382	1,799	716
ヨシ属	429	146	310	241	32	106	169	507	114	119
ウシクサ族	796	126	186	161	65	212	295	184	86	0
不明	2,266	481	2,043	281	486	1,165	464	1,244	914	716
合計										
イネ科葉部短細胞珪酸体	37,668	10,672	23,586	5,017	11,081	17,579	18,220	14,281	9,454	3,340
イネ科葉身機動細胞珪酸体	8,452	3,055	15,167	6,060	5,443	9,848	6,495	11,148	8,483	3,937
総計	46,120	13,727	38,753	11,077	16,524	27,427	24,715	25,429	17,937	7,277
組織片										
イネ属類珪酸体	0	0	0	0	0	0	126	0	0	0

タケ亜科の産出が目立つ。

試料番号12では、イネ属の機動細胞珪酸体や栽培種キビを含むキビ属の短細胞珪酸体、オオムギ族短細胞珪酸体が検出される。その含量はイネ属が42個／ｇ、キビ属が126個／ｇ、オオムギ族が105個／ｇである。この他、タケ亜科（クマザサ属やネザサ節を含む）、ヨシ属、ウシクサ族（コブナグサ属やススキ属を含む）、イチゴツナギ亜科が検出され、タケ亜科の産出が目立つ。

試料番号10では、栽培植物や栽培種を含む種類に由来する植物珪酸体が全く認められない。タケ亜科、ヨシ属、ウシクサ族、イチゴツナギ亜科が検出され、タケ亜科の産出が目立つ。

・南端南北畝・畝間

植物珪酸体含量は、畝②よりも畝間②で多い。各試料から、イネ属の短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体、キビ属の短細胞珪酸体、オオムギ族の短細胞珪酸体が認められる。また、畝間②ではヒエ属の短細胞珪酸体やキビ族の機動細胞珪酸体が認められる。各種類の含量は100個／ｇ前後であるが、畝間②で多い傾向が見られる。

この他、基本層序試料と同様にタケ亜科、ヨシ属、ウシクサ族、イチゴツナギ亜科が検出され、タケ亜科の産出が目立つ。

・北側畠跡

畝と畝間の植物珪酸体含量は、2.5万個／ｇ前後である。各試料から、キビ属・ヒエ属・オオムギ族の短細胞珪酸体が認められる。また、畝では稲籾殻に形成されるイネ属穎珪酸体、畝間ではイネ属の短細胞珪酸体が認められる。各種類は、畝間で多い傾向が見られる。

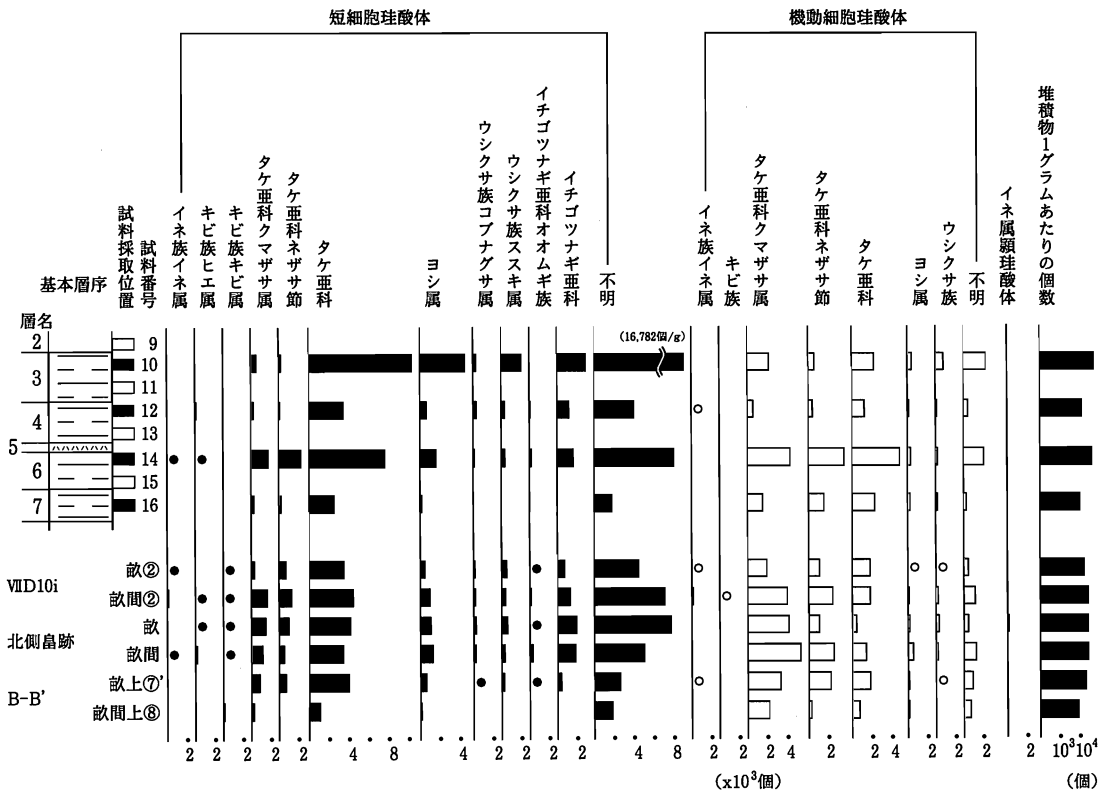


図２　畠試料ほかでの植物珪酸体含量の層位分布
堆積物１ｇあたりに換算した個数を示す。なお、●○は100個未満で検出された種類を示す。

図２

この他にタケ亜科、ヨシ属、ウシクサ族、イチゴツナギ亜科が検出され、基本層序試料と同様にタケ亜科の産出が目立つ。

・BB-BB'畝・畝間

植物珪酸体含量は、畝間上⑧よりも畝上⑦'で多い。畝上⑦'からイネ属の機動細胞珪酸体やオオムギ族の短細胞珪酸体、畝間上⑧からキビ族の短細胞珪酸体が検出される。

また、タケ亜科の産出が目立ち、ヨシ属、ウシクサ族、イチゴツナギ亜科などが検出される。

4．考察

今回調査した畠跡では、栽培植物としてイネ属、栽培種を含む種類としてヒエ属・キビ属・オオムギ族が検出された。また、キビ属の短細胞珪酸体は畠跡のみ、ほかの種類は基本層序でも見られるものの、畠跡で含量が高い。これより、畝や畝間の土壌中にこれらの植物体が混入していたことが示唆される。岩手県内では、軽米町の皀角子久保Ⅳ遺跡で平安時代の畝溝からイネ・オオムギ類の植物珪酸体や種実遺体が検出され、これらの栽培が推測されている（古環境研究所，1988；パリノ・サーヴェイ株式会社，1988)。また、北上市の上鬼柳Ⅳ遺跡でも平安時代以降に畠跡あるいはその周辺でイネあるいはオオムギの栽培が営まれた可能性が指摘されている（パリノ・サーヴェイ株式会社，1992)。したがって、今回の分析結果とこれまでの検出例などを考慮すれば、本遺跡の畠跡における稲作、あるいはキビ類（キビ、ヒエ）やムギ類（オオムギ）の栽培が考えられる。

また、発掘調査区南端や北側に見られた南北に畝立を行う畠跡とこれらに挟まれた東西に畝立を行う畠跡では、検出される種類に顕著な差が認められなかった。そのため、これらの畝立方向を異にする要因が作物の種類によるものか否かは現段階では明確にならない。この点については、畝および畝間の調査箇所を増やして傾向を見ることで、検討したい。

なお、畠跡での含量は基本土層での含量より多いものの、多くて数百個／g程度であった。これは、土壌中に作物の植物体が取り込まれにくかったことを反映していると思われる。この要因として、収穫後の植物体が施肥や敷き藁などにより土壌に還元されなかったこと、生産性が低かったこと、耕作期間が短かったことなどが想定されるが、今回の調査結果からだけでは判断できない。また、イネ科作物以外の作物、根菜類、豆類、野菜類などの畠作物が栽培されていたために、イネ科作物の植物珪酸体が土壌中に蓄積しなかった可能性も否定できない。今後、作物への養分供給を考える上で有効な土壌の理化学性について土壌理化学分析、畑作に伴う攪乱の状態や生育していた植物根の状態を見る上で有効な土壌の微細構造観察などを実施することが望まれる。また、住居跡などから出土する炭化物や嫌気的な堆積物を対象として種実遺体を調査し、当時の作物に関して情報を得ることが必要と考える。

ところで、基本層序および畠跡での植物珪酸体の産状から、畑が機能していた頃およびその前後の時期には遺跡周辺のイネ科植物の種類に大きな変化が無かったと推定される。すなわち、周囲にはタケ亜科をはじめとして、ヨシ属、ウシクサ族、イチゴツナギ亜科などのイネ科植物が生育していたことがうかがえ、このようなイネ科植物が生育する草地を農耕地として利用したと考えられる。

引用文献

古環境研究所（1988）プラント・オパール分析調査報告書.岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第129集「皀角子久保Ⅵ遺跡発掘調査報告書　一般国道340号改良工事関連遺跡発掘調査」，p.116-128，財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター.

近藤錬三・佐瀬　隆（1986）植物珪酸体分析，その特性と応用．第四紀研究，25，p.31-64.
パリノ・サーヴェイ株式会社（1988）皀角子久保VI遺跡出土試料種子同定報告．岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第129集「皀角子久保VI遺跡発掘調査報告書　一般国道340号改良工事関連遺跡発掘調査」，p.129-134，財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター．
パリノ・サーヴェイ株式会社（1992）種子同定および植物珪酸体分析報告．岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第160集「上鬼柳IV遺跡発掘調査報告書　東北横断自動車道秋田線建設関連遺跡発掘調査」，p.177-188，財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター．
財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター(2001)本町Ⅱ遺跡第２次発掘調査現地説明会資料，７p..

３．火山灰分析

株式会社 古環境研究所

１．はじめに

岩手県南部とその周辺に分布する後期更新世に形成された地層や土壌には、焼石、栗駒、鳴子、十和田など東北地方に分布する火山のほか、北海道さらに中国地方や九州地方に分布する火山などから噴出したテフラ（tephra，火山砕屑物，いわゆる火山灰）が多く挟在されている。テフラの中には、すでに噴出年代が明らかにされている示標テフラがあり、それらとの層位関係を求めることにより、地層の堆積年代や土壌の形成年代だけでなく、遺構や遺物の年代などについても知ることができるようになっている。そこで平泉町本町Ⅱ遺跡において検出された火山灰層についても屈折率測定を行って、示標テフラとの同定を試みることになった。測定の対象となった試料は、発掘調査担当者により採取されたＭＭⅡ-011203である。

２．屈折率測定

（１）測定試料と測定方法

ＭＭⅡ-011203について、日本列島とその周辺の示標テフラの作成に利用された温度一定型屈折率測定法（新井，1972，1993）によりテフラ粒子の屈折率測定を行った。

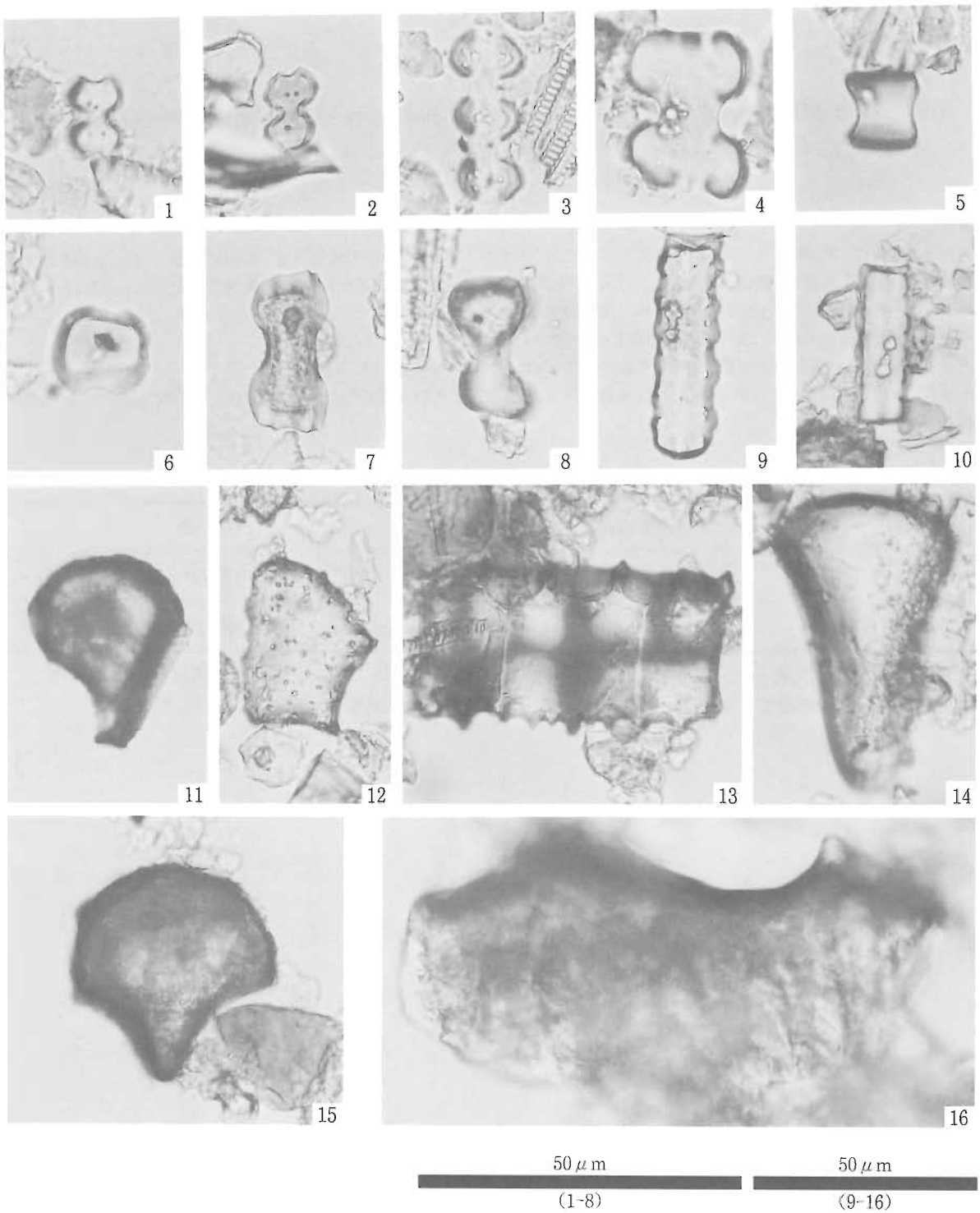
（２）測定結果

屈折率の測定結果を表１に示す。ＭＭⅡ-011203には、黄灰色や白色の軽石が多く含まれている。その最大径は、3.0㎜である。また火山ガラスの屈折率（n）は、1.502-1.508である。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石がごく少量含まれており、斜方輝石の屈折率（γ）は1.706-1.708である。

３．考察

ＭＭⅡ-011203に含まれる軽石や火山ガラスさらに斜方輝石などは、その特徴を総合的に考慮すると915年に十和田火山から噴出したと考えられている十和田ａ火山灰（To-a，大池ほか，1966，大池，1972，町田ほか，1981）に由来する可能性がもっとも高いと考えられる。今回得られた火山ガラスの屈折率は、テフラ・カタログ（町田・新井，1992）より若干高いが、これは噴出年代が新しいために地点によって水和の進行程度に違いがあり、標準試料が採取された十和田火山近辺より遠隔地で採取された今回の分析試料に含まれる火山ガラスの屈折率の方が高くなっていることによると考えられる（新井房夫群馬大学名誉教授談）。より高精度の同定のためには、エレクトロンプローブＸ線アナライザー（EPMA）による火山ガラスの主成分化学組成分析などを行うとよい。

図版１　植物珪酸体



1. イネ属短細胞珪酸体（南端；畝２）
2. イネ属短細胞珪酸体（南端；畝２）
3. ヒエ属短細胞珪酸体（北側畑跡；畝間）
4. キビ属短細胞珪酸体（南端；畝２）
5. ネザサ節短細胞珪酸体（基本層序；14）
6. ヨシ属短細胞珪酸体（北側畑跡；畝間）
7. コグナグサ属短細胞珪酸体（基本層序；12）
8. ススキ属短細胞珪酸体（BB-BB'畝上；7'）
9. オオムギ族短細胞珪酸体（基本層序；12）
10. オオムギ族短細胞珪酸体（北側畑跡；畝間）
11. イネ属機動細胞珪酸体（南端；畝２）
12. クマザサ属機動細胞珪酸体（基本層序；14）
13. ネザサ節機動細胞珪酸体（基本層序；14）
14. ウシクサ族機動細胞珪酸体（BB-BB'畝上；7'）
15. ヨシ属機動細胞珪酸体（北側畑跡；畝間）
16. イネ属頴珪酸体（北側畑跡；畝）

4．まとめ

平泉町本町Ⅱ遺跡で採取された火山灰試料について屈折率測定を行った。その結果、十和田ａ火山灰（To-a，915年）に由来する可能性が高いテフラ粒子が多く検出された。

文献

新井房夫（1972）斜方輝石・角閃石によるテフラの同定－テフロクロノロジーの基礎的研究．第四紀研究，　11，p.254-269.

新井房夫（1993）温度一定型屈折率測定法．日本第四紀学会編「第四紀試料分析法２－研究対象別分析法」，　p.138-149.

町田　洋・新井房夫（1992）火山灰アトラス．東京大学出版会，276p.

町田　洋・新井房夫・森脇　広（1981）日本海を渡ってきたテフラ．科学，51，p.562-569.

大池昭二（1972）十和田火山東麓における完新世テフラの編年．第四紀研究，11，p.232-233.

大池昭二・中川久夫・七崎　修・松山　力・米倉伸之（1966）馬淵川中・下流沿岸の段丘と火山灰．第四紀　研究，５，p.29-35.

表１　本町Ⅱ遺跡における屈折率測定結果

試料	軽石（火山ガラス）				重鉱物		
	量	色調	最大径	屈折率（n）	組成	斜方輝石（γ）	角閃石（n_2）
MMⅡ-011203	+++	黄灰，白	3.0	1.502-1.508	（opx＞cpx）	1.706-1.708	—

屈折率測定は，温度一定型屈折率測定法（新井，1972，1993）による．最大径の単位は，㎜．重鉱物の（　）は，量が少ないことを示す．opx：斜方輝石，cpx：単斜輝石．

4．樹種・種子同定

（1）樹種同定

高橋利彦（木工舎「ゆい」）

Ⅰ－1．試料

試料は2点で、近世のものとされる139号土坑の埋土下位から検出された鋤と連歯下駄である。

遺跡は北上川左岸の自然堤防上（標高21～23m）に立地している。10世紀・中世（12～15世紀）・近世の複合遺跡である。試料の検出された土坑は、「きもいり」クラスの居館とされる大型掘立柱建物跡に付随するとみられているものである。

Ⅰ－2．方法

プレパラートの作製には、調査担当者の立ち合いのもとで筆者が遺物から採取した材片を用いた。遺物は乾燥状態にあった。採取した材片を湯煎して吸水させてから、剃刀の刃を用い、試料の木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接続断面）3面の徒手切片を作製し、これをガムクロラールで封入したプレパラートを、生物顕微鏡で観察・同定した。併せて顕微鏡写真図版を作成した（図版1）。作製したプレパラートはすべて木工舎「ゆい」に保管されている。

Ⅰ－3．結果

試料はともにクリに同定された。試料の主な解剖学的特徴や一般的な性質は次のようなものである。なお、学名は「日本の野生植物　木本Ⅰ」（佐竹ほか　1989）にしたがい、県内での自然分布については、「岩手県植物物誌」（岩手植物の会　1970）を参照した。また、一般的な性質などについては「木の事典　第4巻」（平井　1980）も参考にした。

・クリ（Castanea crenata）ブナ科　鋤，連歯下駄

環孔材で孔圏部は1～多列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減しながら火炎状に配列する。大道管は単独、横断面では楕円形～円形、小道管は単独および複合、横断面では角張った楕円形～多角形。道管は単穿孔をもち、壁孔は交互状に配列、放射組織との間では柵状～網目状となる。放射組織は同性、単（～2）列、1－15細胞高。柔組織は周囲状、短接線状。年輪界は明瞭。

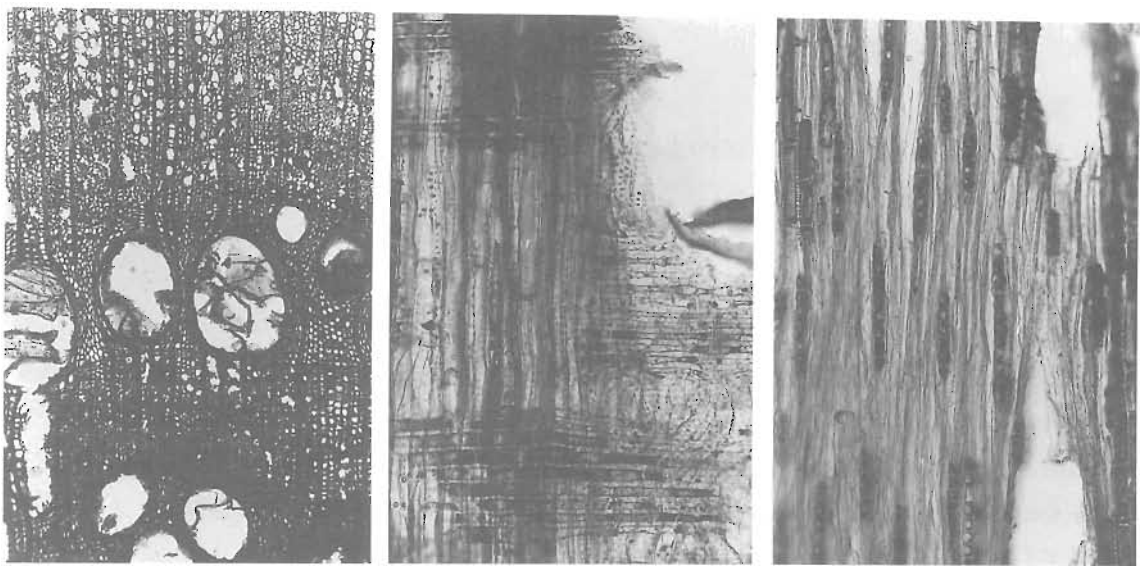
クリは北海道南西部から九州の山野に自生し、また植栽される落葉高木である。県内でも各地で普通にみられる。材はやや重硬で、強度は大きく、耐久性が高い。土木・建築・器具・家具・薪炭材、楯木などに用いられる。

Ⅰ－4．考察

鋤はクリ製であった。形状と縁に残る痕跡からみて金属製の刃先がついていたものと思う。出土品の用材は、全国的にみると、国産材の中で最も硬いコナラ属［アカガシ亜属（カシ類）、コナラ亜属カナラ節（ナラ類）、コナラ亜属クヌギ節（クヌギ類）］の例が圧倒的多数を占めているが、スギなどの軟材の例もわずかながら確認されている（伊東ほか　1987、伊東　1990）。用途の近い鍬でも同様である。県内でも、江刺市落合Ⅱ遺跡出土の平安時代とされる未完成の鋤先5点が、いずれもコナラ類とされている例（岩手県教育委員会　1980）や、湯田町白木野Ⅱ遺跡出土の18世紀のものとされる鍬台がコナラ節に同定されている例（高橋　1994）があるが、クリの例は報告がないようである。

連歯下駄もクリ製であった。県内ではこれまでに、平安時代から近世のものまで60点余の連歯下駄の樹種が検討され、6分類群が用いられたことが明らかにされているが、ケヤキが最多でクリがこれに次ぎ、両種だけで8割ほどを占めている（高橋　2000）。試料と近い時期のものでは、水沢市仙人東遺跡の近世民家の

図版1



木口　×40　　柾目　×100　　板目　×100

クリ　鋤

樹木の肥大生長方向は木口では画面下から上へ、柾目では左から右。

井戸跡出土の下駄がクリとモクレン属各1点に同定されている例（高橋　1996）と、平泉町泉屋遺跡第13・15次調査出土の近世とされる下駄がクリ3点とモクレン属1点に同定された例（高橋　1997，（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1997）がある。

引用文献

平井信二　1980　「木の事典　第4巻」，かなえ書房.

伊東隆夫・山口和穂・林　昭三・布谷知夫・島地　謙　1987　日本の遺跡から出土した木材の樹種とその用途，木材研究・資料，第23号，42-210.

伊東隆夫　1990　日本の遺跡から出土した木材の樹種とその用途Ⅱ，木材研究・資料，第26号，91-189

岩手県教育委員会　1980　木製品，「岩手県文化財報告書第50集　東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書－Ⅵ－」，289-312，岩手県教育委員会・日本国有鉄道盛岡工事局．［樹種同定は（財）元興寺文化財研究所による］

岩手植物の会　1970　「岩手県植物誌」，703pp.

佐竹義輔・原　　寛・亘理俊治・富成忠夫（編）　1989　「日本の野生植物　木本Ⅰ」，平凡社，321pp

高橋利彦　1994　湯田町白木野Ⅱ遺跡出土の樹種，「岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第200集　白木野Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡発掘報告書　東北横断自動車道秋田線建設関連遺跡発掘調査」，226-237　（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター.

高橋利彦　1997　平泉町泉屋遺跡第15次調査出土材の樹種，「岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第247集　泉屋遺跡第10・11・13・15次発掘調査報告書　一関遊水地事業関連遺跡発掘調査」，401-411，（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

高橋利彦　2000　県内の遺跡から出土した木質遺物の樹種　Ⅰ．下駄，「岩手考古学会第25会研究大会発表資料」，33-35

（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1997　木製品，「岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第247集　泉屋遺跡第10・11・13・15次発掘調査報告書　一関遊水地事業関連遺跡発掘調査」，352-360　（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター.

（２）種子同定

高橋利彦（木工舎「ゆい」）

Ⅱ－１．試料

試料は２点（袋）で、中世（12～14世紀）のものとされる27号墓壙と20号墓壙から検出されたものである。いずれも炭化していた。これらの遺構は溝で区画された墓域の中にあり、茶毘所の可能性も考えられている。

遺跡については前項を参照されたい。

Ⅱ－２．方法

肉眼および実体顕微鏡を用いて観察し同定した。併せて写真図版（図版２）も作製した。試料はすべて（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターに返却された。

Ⅱ－３．結果と考察

27号墓壙検出試料はモモ（Purunus　persica）核（１個）に、20号墓壙検出試料はオオムギ（*Hordenm vulgare*）種子（主として胚乳）（36個）に同定された。いうまでもなく、ともに栽培種（作物）である。遺構が推定されるような茶毘所であるならば、試料は火葬時の供物が炭化して残存したものかもしれない。

モモは中国黄河上流域原産とされる落葉小高木で、核は大型で硬いため各地の遺跡からの出土報告があり、わが国でも古くから栽培されていたことが知られている。現在栽培されているものは、明治時代初期に導入された「上海水蜜桃」・「天津水蜜桃」などから改良された品種で、果実・核ともそれ以前のものより大きくなっている（山田　1976）という。

試料は一部が欠失しているものの完形に近く、長さ・幅・厚さはそれぞれ22.3・15.8・11.7㎜であった。炭化時に収縮したことも考えられるが、出土核としては中～小型で、細長い形状を示している（南木　1984）。県内では、水沢市佐野原遺跡の平安時代以降のものとされる４号土坑の埋土上層からもモモ核（注１）が検出されている（高橋　1999）。こちらは未炭化のものであるが、長さ・幅とも27㎜（注２）と本試料より大型で、丸味を帯びている。

オオムギ（六条オオムギ「注３」）はチベットから揚子江上流域が原産とされ、古くから栽培されてきた（小山　1977）。わが国には３世紀頃に朝鮮半島から伝えられたと考えられている。

試料は完形のものが少なく、ほとんどが発泡している。小破片のものは識別が難しいが、コムギ（*Tritichum aestivum*）は含まれていないようである。試料より２～４世紀新しい時期のものになるようであるが、石鳥谷町大瀬川Ｃ遺跡から16世紀頃とされるオオムギ炭化種子（粉川　1981）が、紫波町柳田館遺跡からは中世末～近世初（16世紀頃）とされるオオムギ？炭化種子がコムギ？・ムギ類とともに報告されている（粉川　1981）。

〈注〉

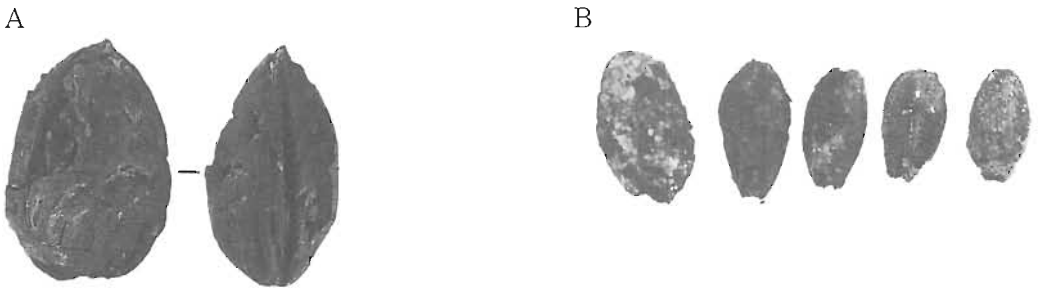
１）筆者は佐野原遺跡試料の検討の中で、分類学上、ノモモ（村井　1980，岩手県教育委員会　1981）という種類はないとした（高橋　1999）が、ノモモという変種あるいは品種が存在することを知ったので訂正する。出土モモ核はその形態から４変種、すなわち栽培モモ（var.*vulgaris*）、ノモモ（var.*subspontanea*）、コダイモモ（var.*antiqua*）、スバイモモ？（var.*nucipersica*?）に分けられている（小清水　1963）。スバ

イモモ？の出土例は限られ計測値も少ないが、他の3変種は平均値でみると、コダイモモが小型で球形に近く、ノモモは中型でやや丸く、栽培モモは大型で長く扁平であるという（南木　1984）。一方、現生品種にもノモモ（forma *subspontanea*）があり、果実は小さくて堅く、野生化したものであるとされている（平井　1982）。ただ、村井氏のいうノモモには学名が記されていないため、この変種または品種を指しているのか、あるいは筆者が推測したように単に野生のモモの意味で使ったものであるかはわからない。

2）手元のコピー資料から測定したものであるため、数値は正確なものではない。

3）六条オオムギを変種（var.hexastichon）とみて、四条オオムギ（var.vulgare）と区別する見解もある（小山　1977）。ちなみに、二条オオムギ（ヤハズオオムギ、一名ビールムギ　H.distichum）は別種で、わが国には明治時代になってからヨーロッパから導入された。

図版2



A：モモ　核　160号土坑　×1.5
B：オオムギ　種子　190号土坑　×3.0

引用文献

平井信二　1982　モモ，「木の事典　第17巻」，かなえ書房．

岩手県教育委員会　1981　植物遺体鑑定結果，「岩手県文化財調査報告書第61集　東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書－XII－（石田遺跡）」，297，岩手県教育委員会・日本道路公団．（同定は村井三郎氏による）

粉川昭平　1981　大瀬川C遺跡と柳田館遺跡出土の植物遺体，「岩手県文化財調査報告書第57集　東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書－VIII－（大瀬川A～C遺跡）」，305-308，岩手県教育委員会・日本道路公団

小清水卓二　1963　古代日本の住居跡から出土する桃核について，「近畿考古学論攷」（橿原考古学研究所編），561-568，吉川弘文館．［原著を参照できなかった．南木（1984）によった．］

南木睦彦　1984　石御堂遺跡出土の種実類，「埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第39集　中原後・石御堂」，142-144，埼玉県埋蔵文化財調査事業団．

村井三郎　1980　落合II遺跡出土植物遺体鑑定報告，「岩手県文化財調査報告書第50集　東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書－VI－」，347-348，岩手県教育委員会・日本国有鉄道盛岡工事局．

高橋利彦　1999　佐野原遺跡出土材・種実の樹種，「岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第327集　佐野原遺跡発掘調査報告書　主要地方道水沢・米里線改良事業関連調査」，88-90　（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター．

山田喜和　1976　モモ，「週刊朝日百科　世界の植物」，1278-1279，朝日新聞社．

5．人骨（歯）同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

本町Ⅱ遺跡は岩手県平泉町字本町に所在し、北上川左岸の自然堤防上に立地している。本遺跡の発掘調査では、竪穴住居跡や掘立柱建物跡などの集落跡や畠跡などの遺構が検出されており、当該期の所産とされる土師器や須恵器、陶磁器、さらに、古銭や木製品などの遺物も出土している。なお、調査区北側からは、溝で区画された内側に多数の墓壙が検出されており、人骨・歯・火葬骨、さらに副葬品と考えられる刀子や陶磁器、古銭などが確認されている。なお、この区画の中からは12世紀後半～15世紀の遺物が集中して出土していることから、中世初頭から続いた墓域であることが推測されている。

今回の分析報告は、上記した溝で区画された内側に位置する35号墓壙より出土した歯牙を対象に、被葬者の個体数や年齢、性別に関する情報を得るため、歯同定を実施する。なお、同定は金子浩昌氏に依頼し、その所見を元に分析報告を行う。

1．試料

試料は、35号墓壙の東端から出土した歯牙13点である。試料の詳細は、結果とともに表1に示す。

2．分析方法

破片試料は工作用接着剤により可能な限り接合・復原し、標本と比較して種・部位を同定する。計測にはデジタルノギスを用いる。

3．結果

試料の同定結果および計測値を表1に示す。検出された歯牙は、いずれもヒトのものである。歯冠のエナメル質だけが保存され、歯根は失われている。歯牙には火を受けた痕跡が認められないことから、火葬骨ではない。

表1　129号土坑出土歯牙同定・計測結果

No.	試料名	分類群	左右	部　位	備　　考	計測値(mm)＊1	現代日本人＊2	
							男　性	女　性
1	右下6	ヒト	右	下顎M1	完	長11.49、幅11.18	長11.2、幅10.8	長10.8、幅10.7
2	左上7	ヒト	左	上顎M2	完			
3	左上4～5	ヒト	左	上顎P3･4	完、ほぼ完	長9.81、幅6.57		
4	右下7	ヒト	右	下顎M2	破片			
5	左上6	ヒト	左	上顎M1	ほぼ完			
6	左下6	ヒト	左	下顎M1	完			
7	左下7	ヒト	左	下顎M2	完	長11.32、幅10.63	長11.0、幅10.6	長10.5、幅10.2
8	左下5	ヒト	左	下顎P4	完	長8.79、幅7.77		
9	右上1	ヒト	？	I	破片			
10	右上2	ヒト	右	上顎I2	頬側片			
11	右下5	ヒト	右	下顎P4	完	長8.63、幅7.69		
12	上顎	ヒト	右	上顎M2？	細片、詳細不明			
13	—	ヒト	右	上顎M1	破片			
			？	I･C？	破片			
			？	P、M	破片3～4個分？			
			？	Pなど	細片多数			

I：切歯　C：犬歯　P：小臼歯（前臼歯）　M：大臼歯（後臼歯）

＊1幅：歯冠幅（頬舌径）　長：歯冠長（近遠心径）　　＊2柴田（1941）より引用

4．考察

本町Ⅱ遺跡の35号墓壙から出土した歯牙は、いずれもヒトのものであった。以下に、歯牙の観察・計測による性別、年齢、被葬者の個体数について述べる。

（1）性別

試料のうち最もノーマルな形態を持つ試料No. 1と試料No. 7について、これらの歯牙のサイズを柴田（1941）による現代日本人と比較したところ、近遠心径・頬舌径ともに男性の値に近い。したがって、試料No. 1と試料No. 7は男性の歯牙であると推定される。

また、試料No. 1と試料No. 7以外の歯牙についても、計測値から男性のものと推定される。

（2）年齢

歯牙に見られる咬耗の程度を観察し、その所見を基に、Brothwell（1981）を参考にして年齢を推定した。咬耗は全体的に弱いが、試料No. 1（右下顎第1大臼歯）・試料No. 7（左下顎第2大臼歯）と、それ以外の歯牙には咬耗度に差が見られる。試料No. 1および試料No. 7にはほとんど咬耗が見られず、これらは10才台の個体に由来する可能性がある。それ以外の歯牙は、咬頭頂部のみ象牙質が露呈するなどの所見から、20才台前半の個体に由来すると推定される。

（3）個体数

成人1個体の永久歯の数は通常32本であり、検出された歯牙の数量は1個体分に満たないものであった。咬耗度による年齢推定の結果、10才台および20才台前半と推定される歯牙が認められたことから、129号土坑の被葬者は複数個体であった可能性も考えられる。ただし、この点については、本土坑におけるこの他の歯牙・骨片等の出土状況や土坑の検出状況など考古学的成果と合わせて検証する必要がある。

引用文献

Brothwell, D.R.（1981）Digging up Bones. 208p., British Museum（Natural History） Oxford Univercity Press.

柴田　信（1941）歯牙形態学，337p.，金原商店.

写真図版

遺跡全景（北から）

俯瞰（東から）

写真図版１　空中写真（１）

直上①（北←）

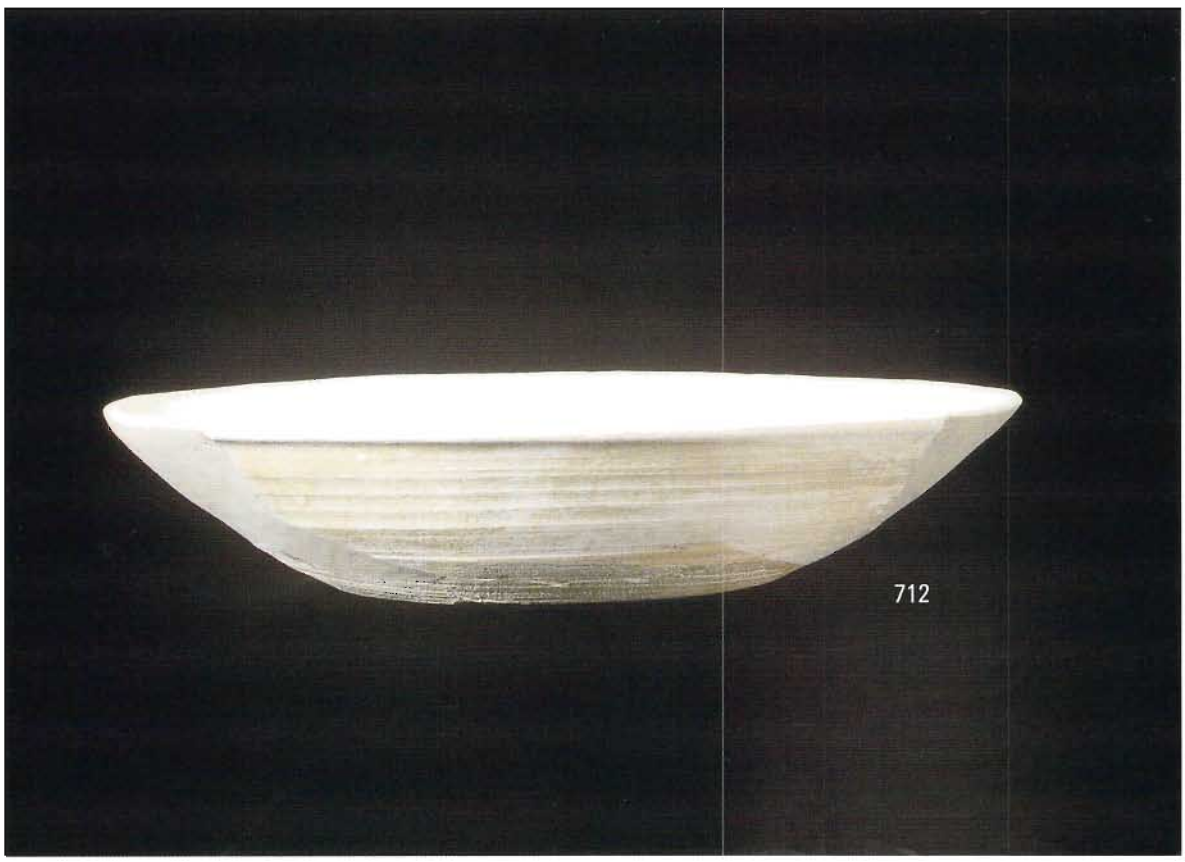
直上②（北↓）

写真図版２　空中写真（２）

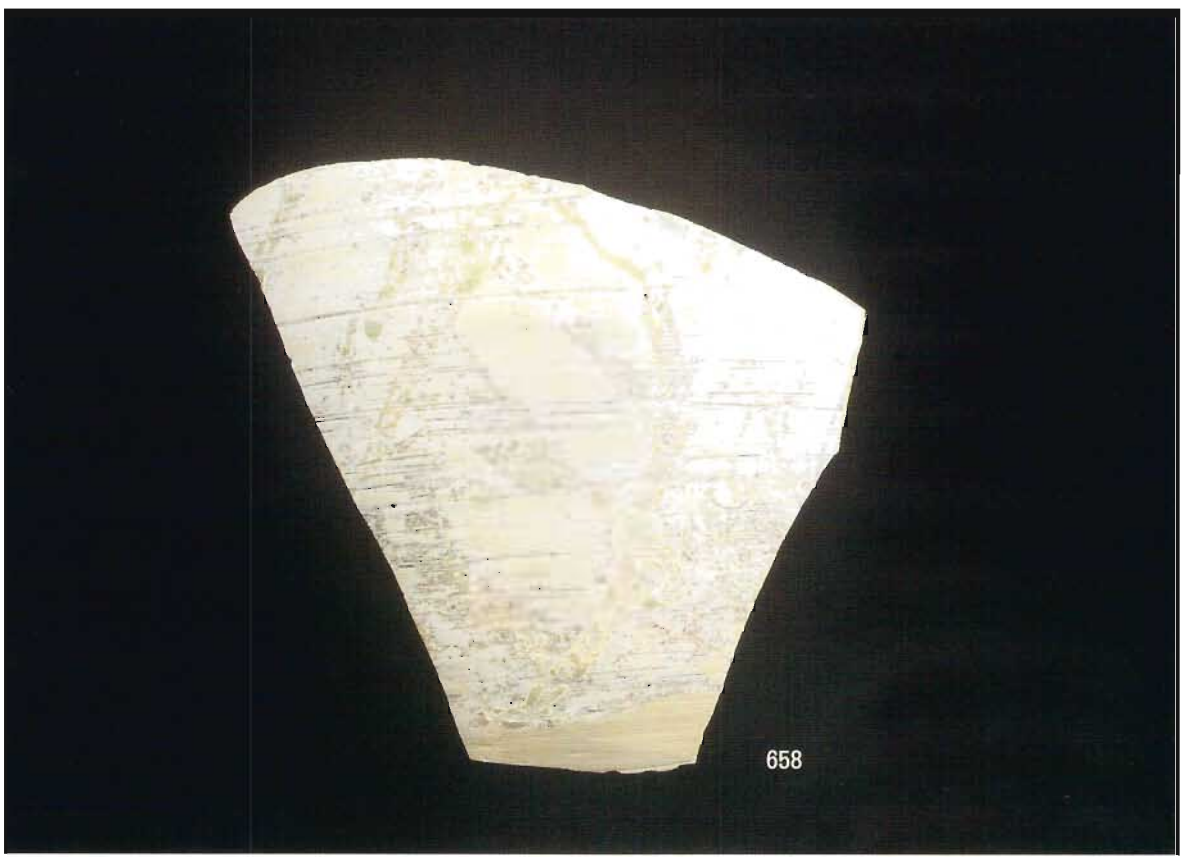
畠跡直上（北→）

墓域直上（北↑）

写真図版３　空中写真（３）



写真図版４　出土遺物（１）

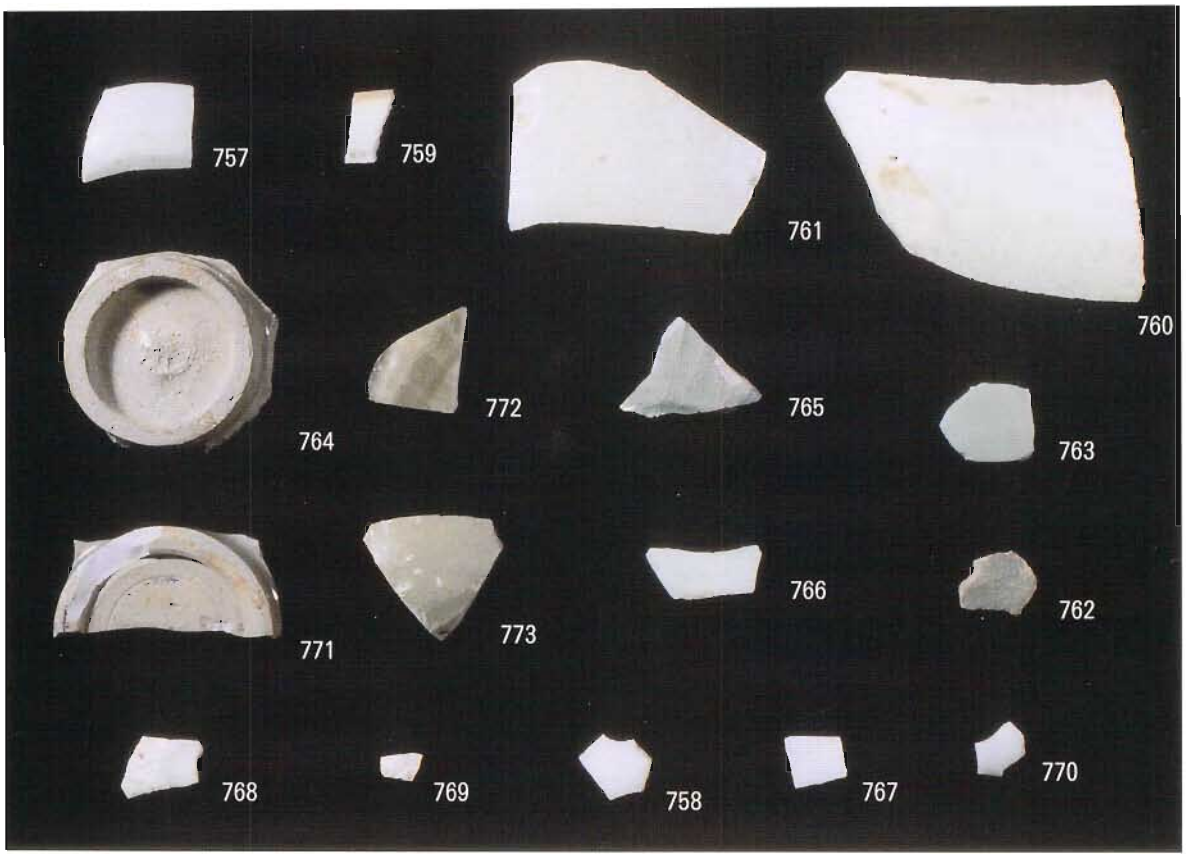


写真図版５　出土遺物（２）

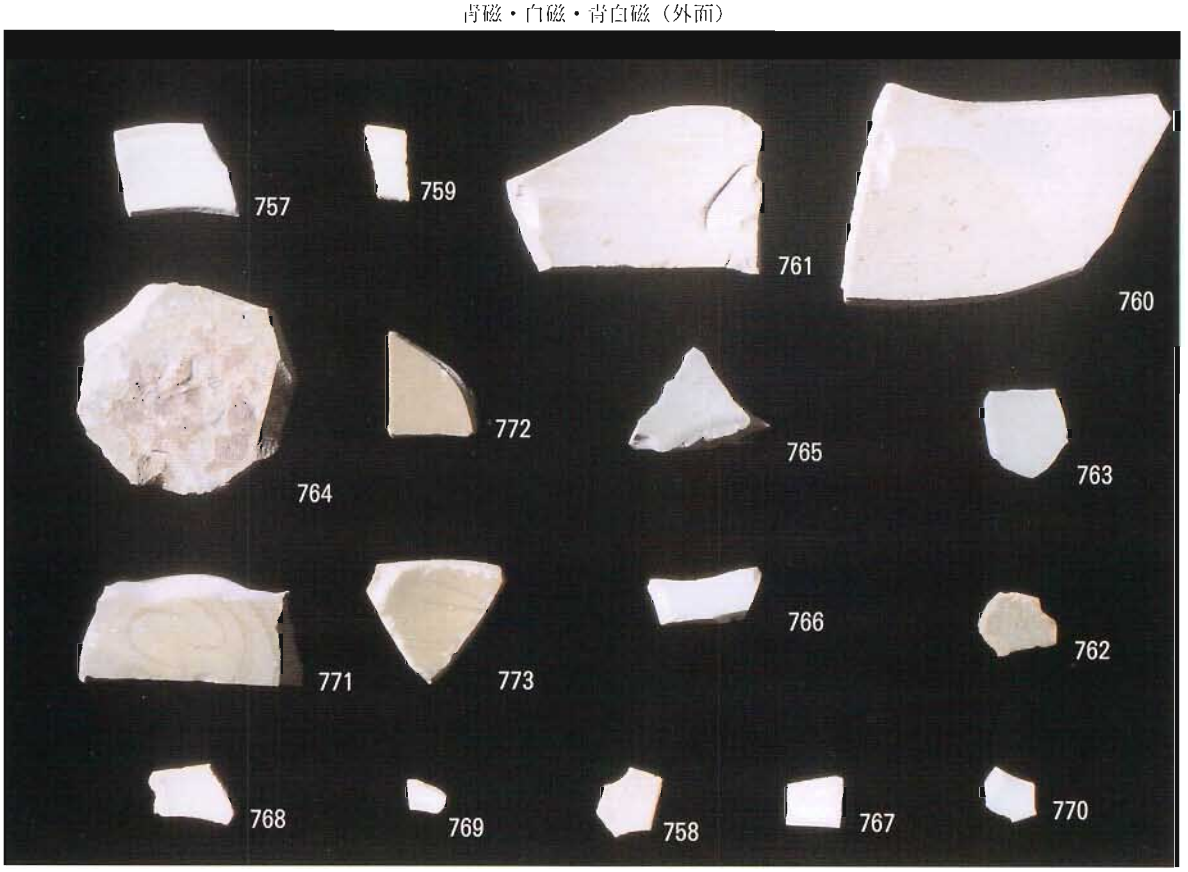
墓壙出土のかわらけ・小皿

土師器の坏類

写真図版 6　出土遺物（3）

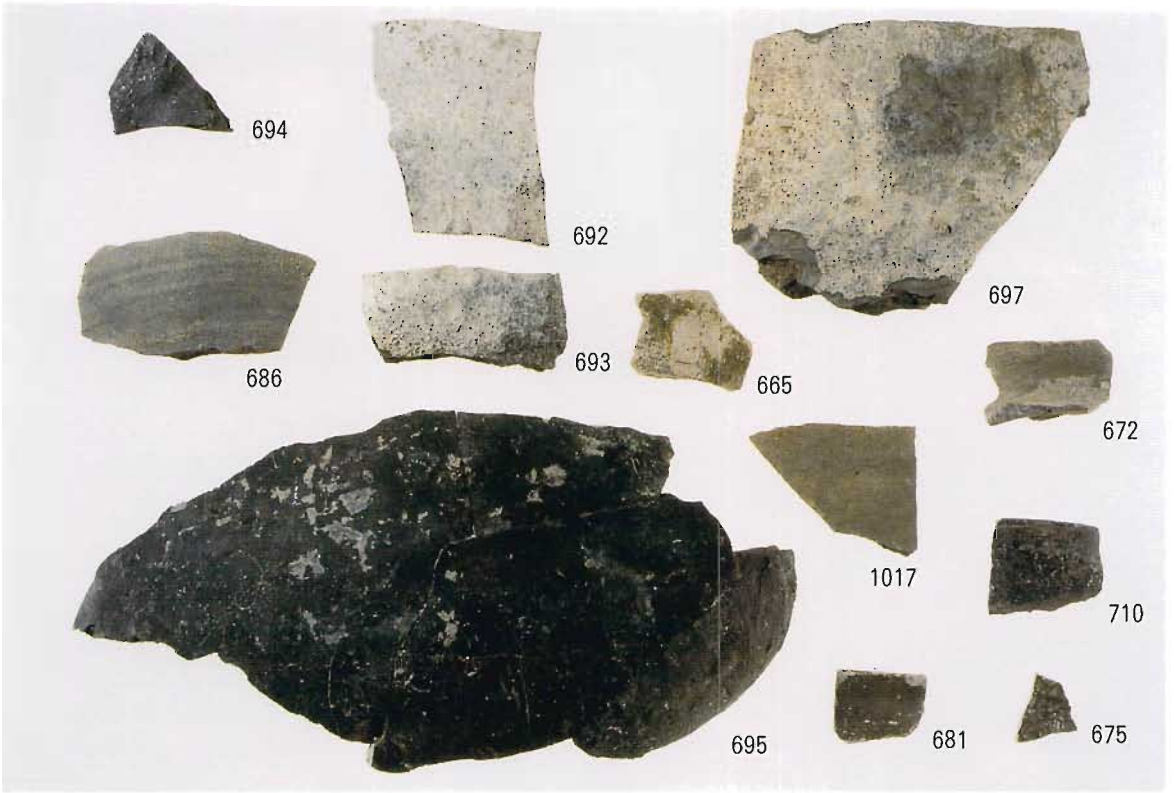


青磁・白磁・青白磁（外面）



（内面）

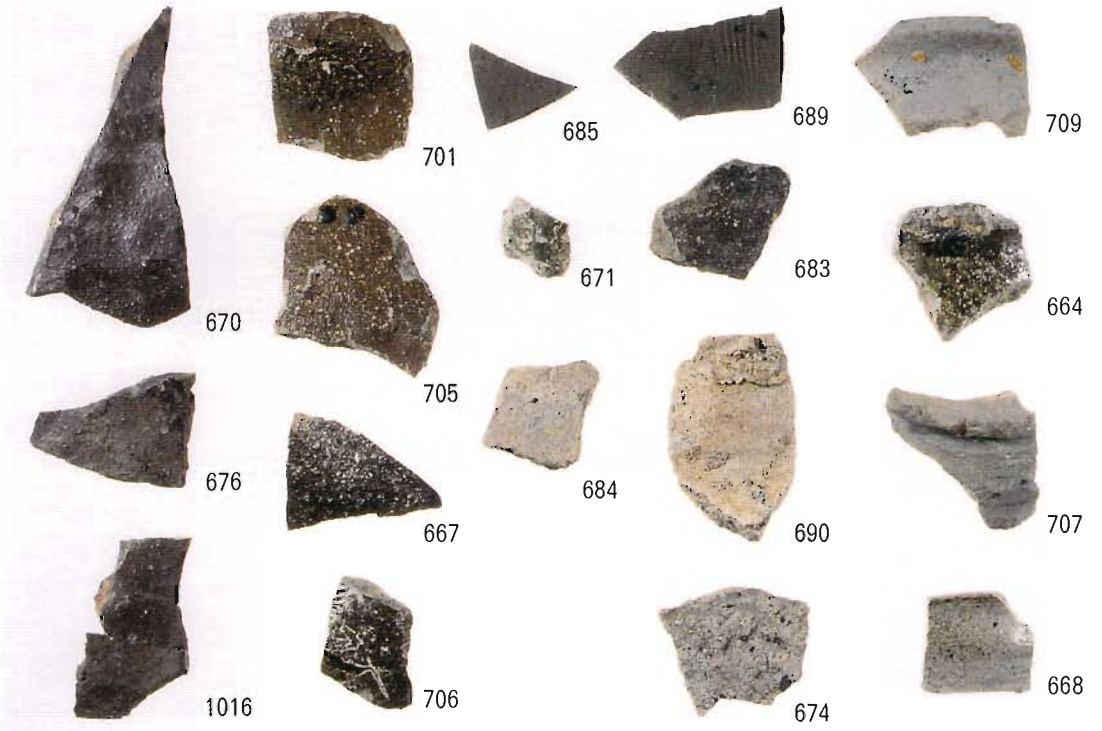
写真図版７　出土遺物（４）



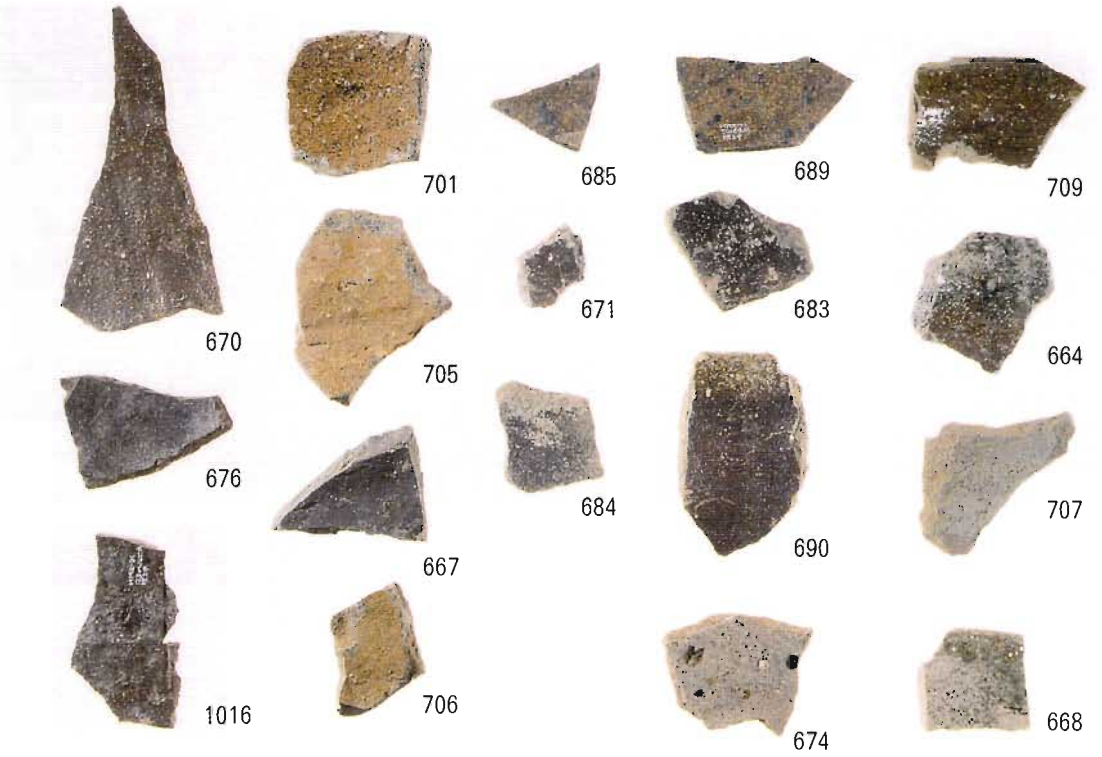
渥美産陶器（外面）

（内面）

写真図版 8　出土遺物（5）



常滑産陶器（外面）



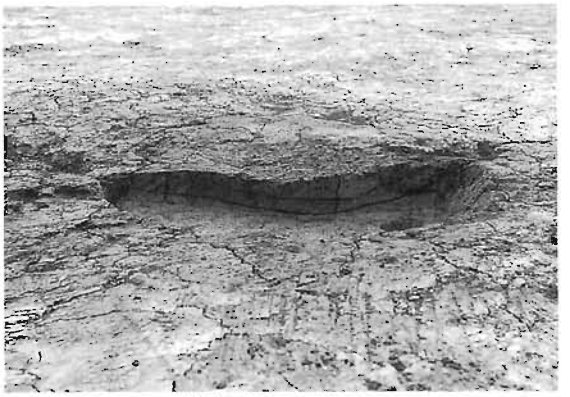
（内面）

写真図版 9　出土遺物（6）

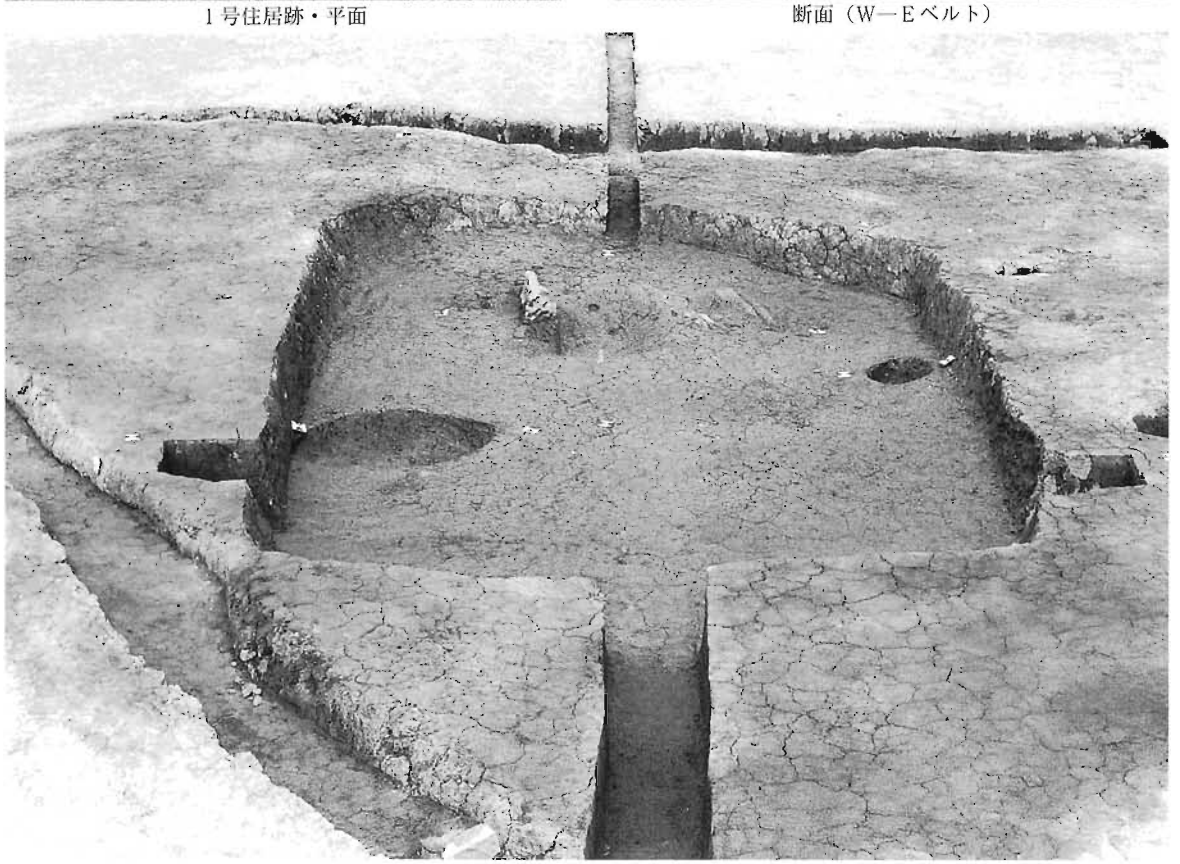
（日本地図センター提供北　↑）

写真図版10　昭和22年頃の遺跡周辺

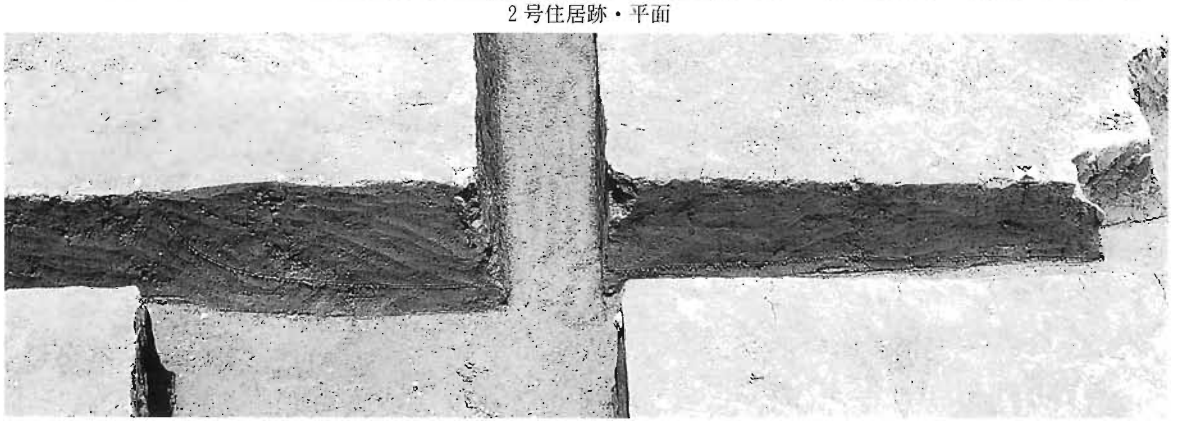
1号住居跡・平面



断面（W—Eベルト）



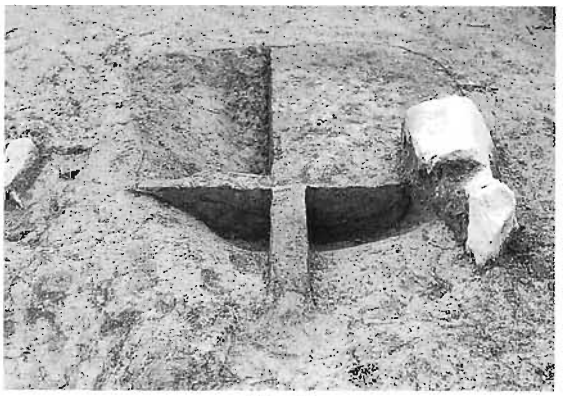
2号住居跡・平面



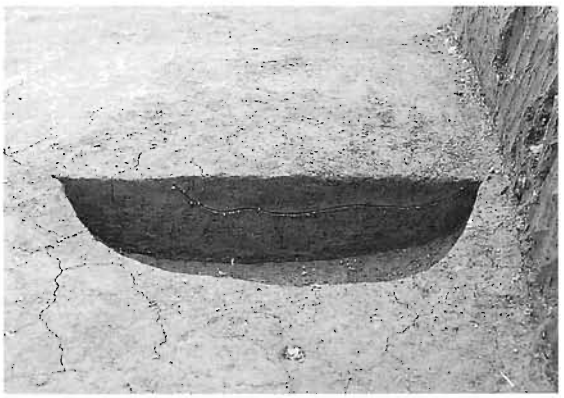
断面（W—Eベルト）

写真図版11　1号・2号(1)竪穴住居跡

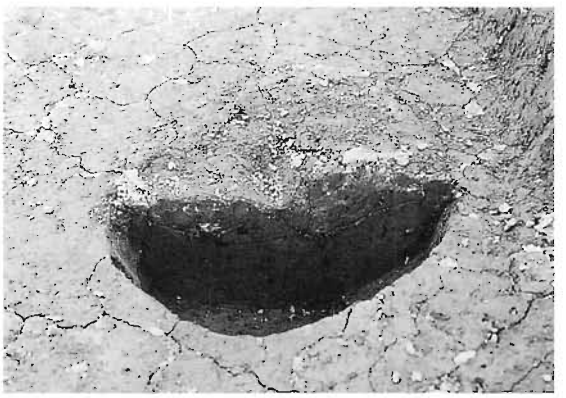
2号住居跡　焼土1・平面



断　面



PP1・断面

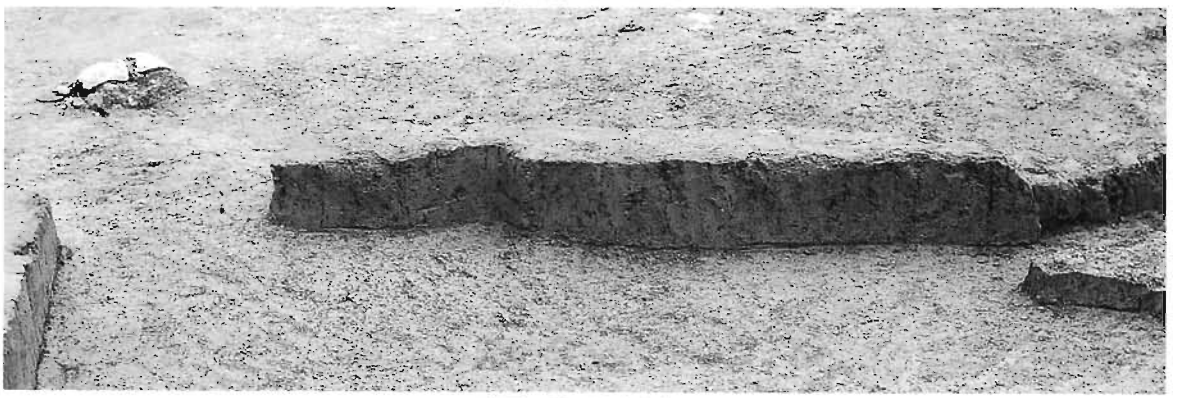


PP2・断面

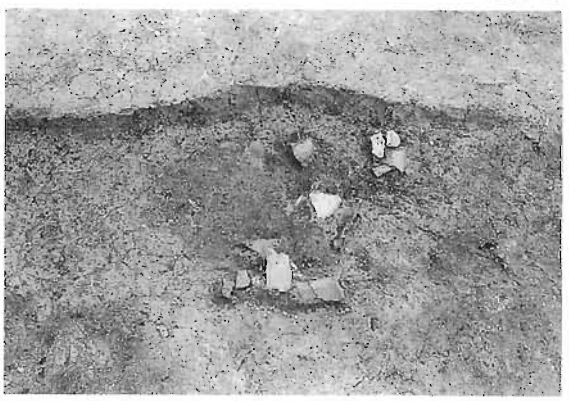
3号住居跡・平面

写真図版12　2号(2)・3号(1)竪穴住居跡

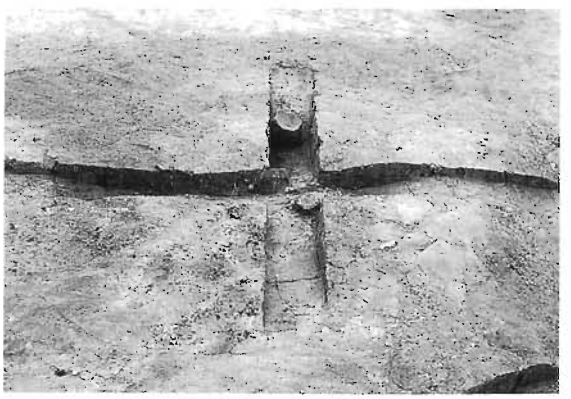
断面（S—Nベルト）



断面（W—Eベルト）



カマド・平面

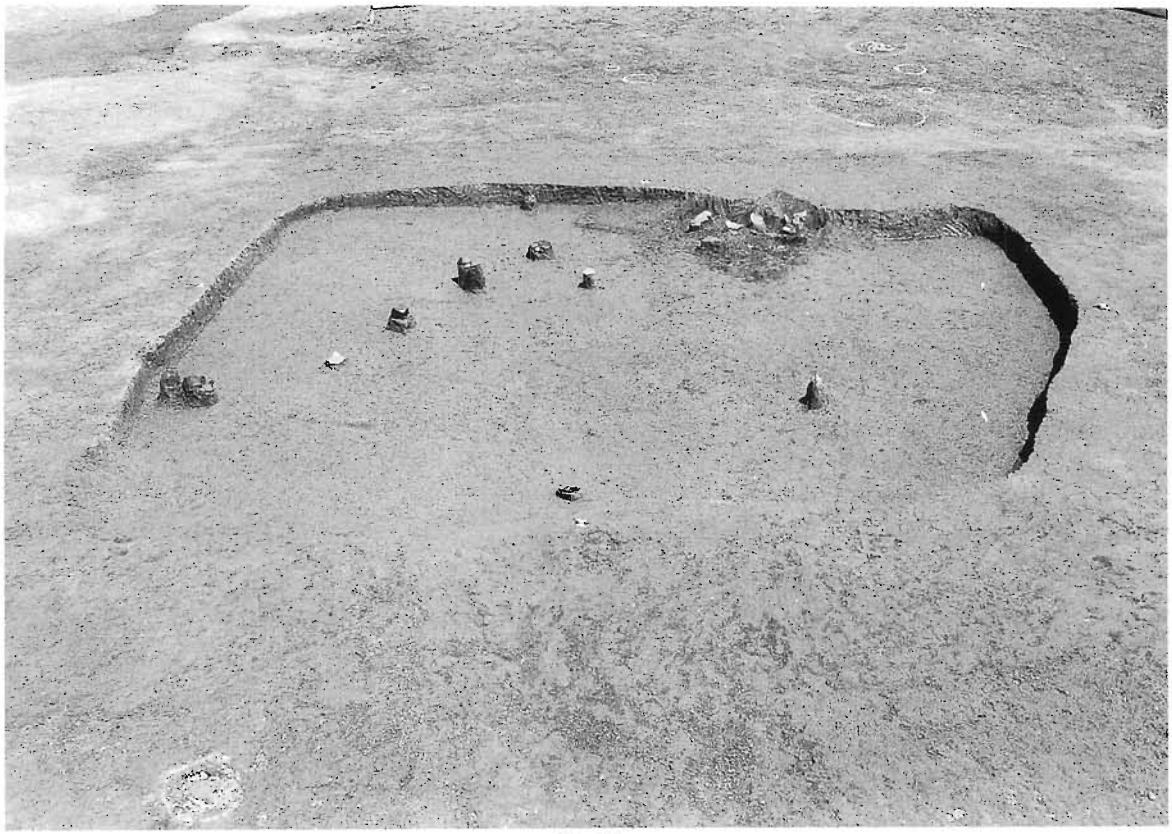


断面（W—Eベルト）

PP6・平面

遺物出土状況

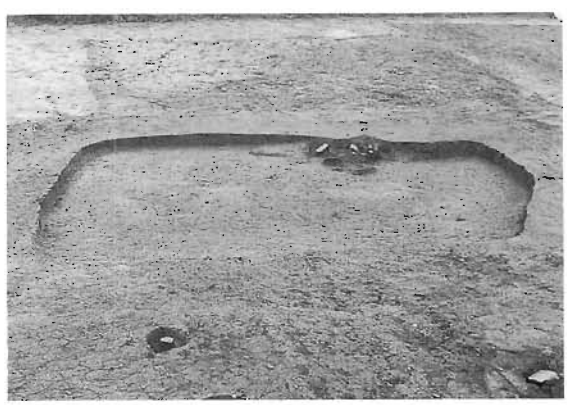
写真図版13　3号竪穴住居跡（2）



平　面

断面（N—Sベルト）

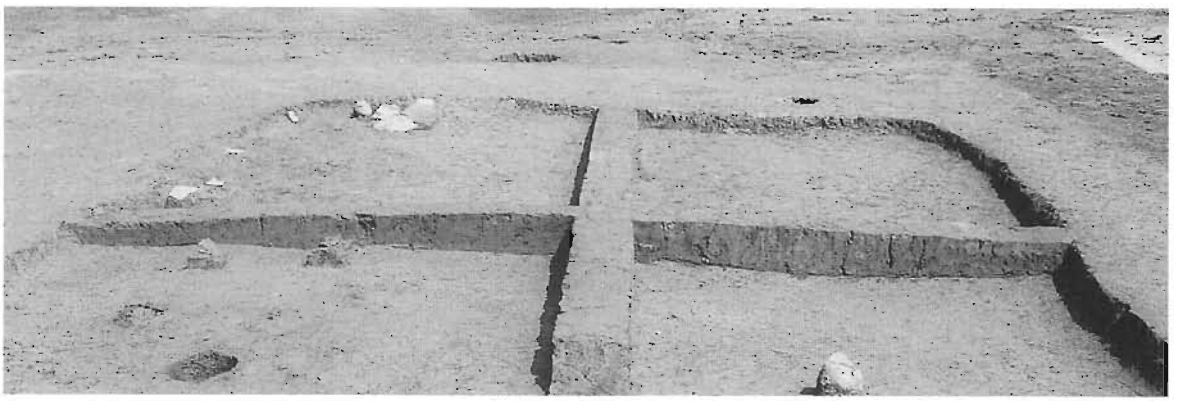
カマド・平面



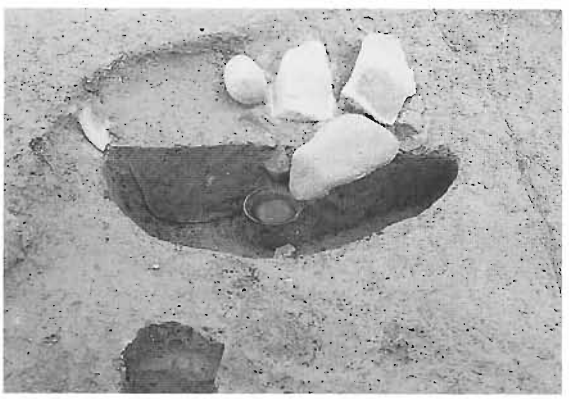
完　掘

写真図版14　4号竪穴住居跡

5号住居跡・平面



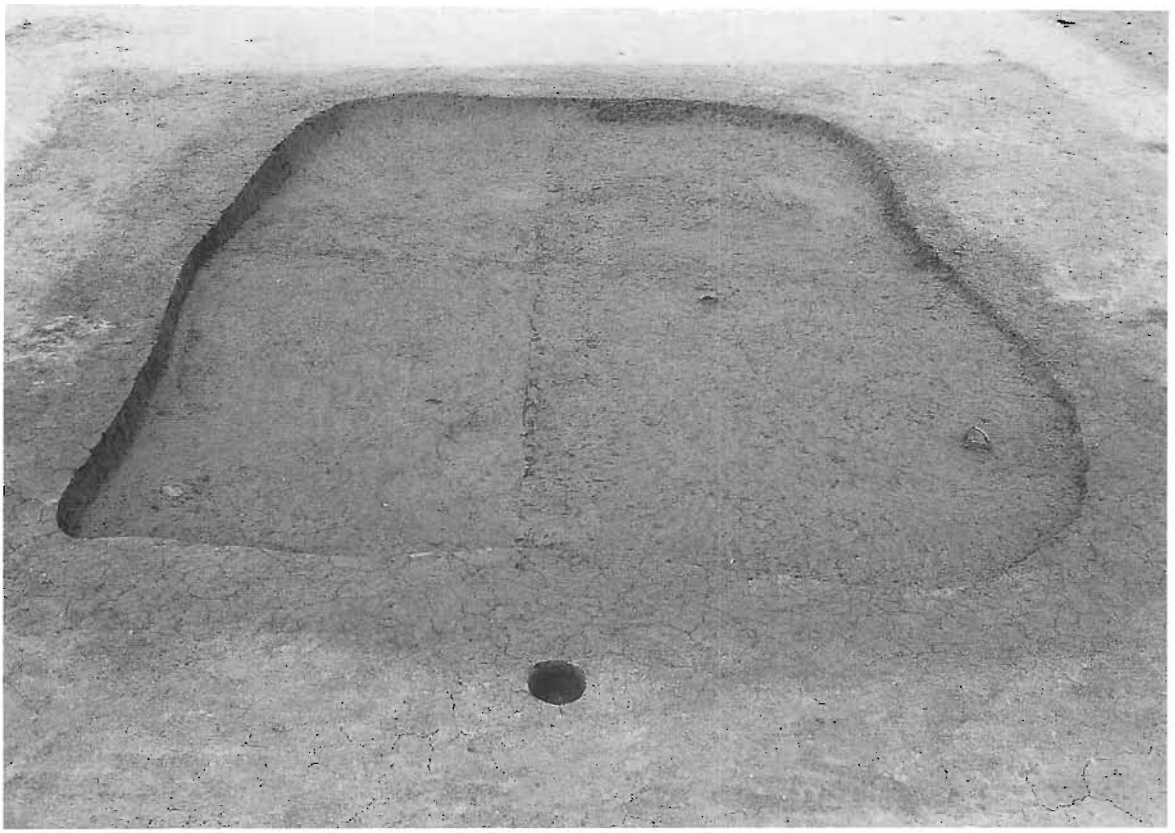
断面（N－Sベルト）



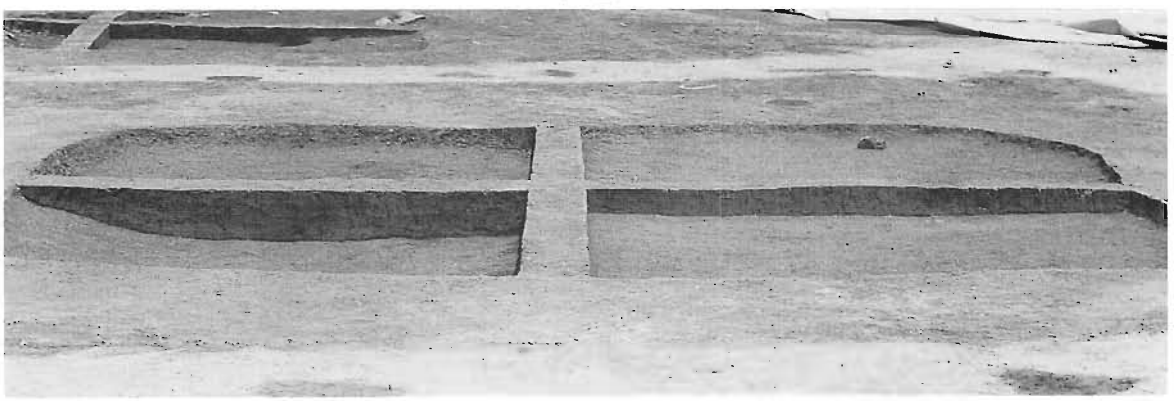
PP6・断面

6号住居跡・平面

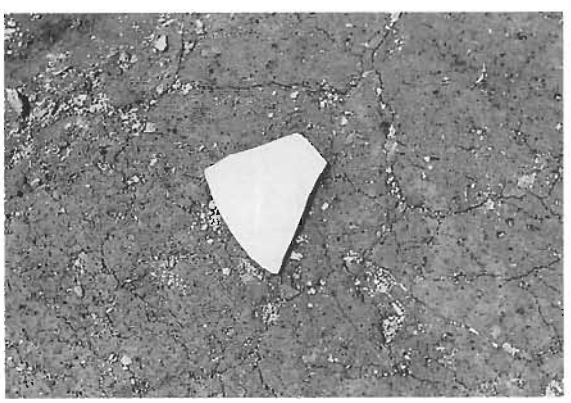
写真図版15　5・6号竪穴住居跡



平　面



断面（W—Eベルト）



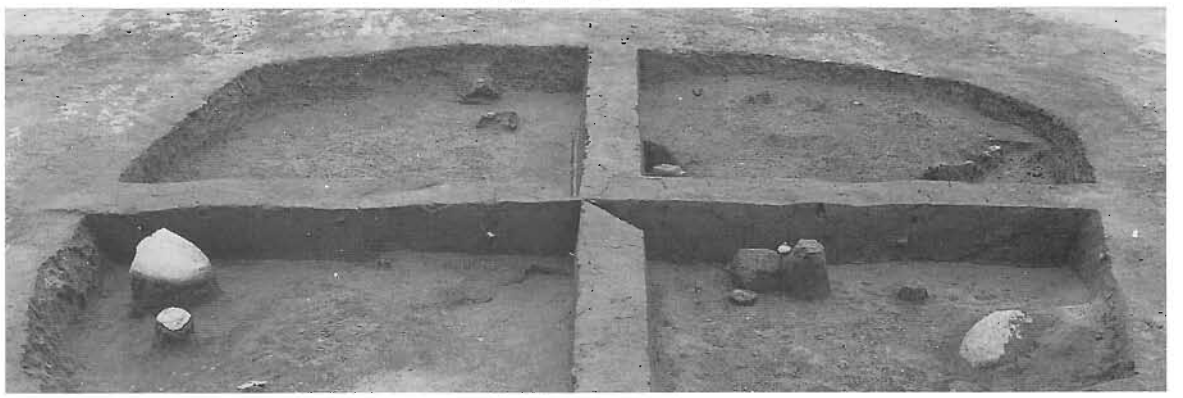
遺物出土状況①

遺物出土状況②

写真図版16　7号竪穴住居跡

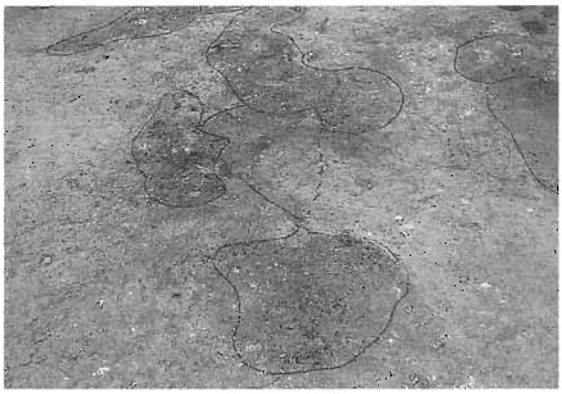
平　面

断面（W—Eベルト）



断面（S—Nベルト）

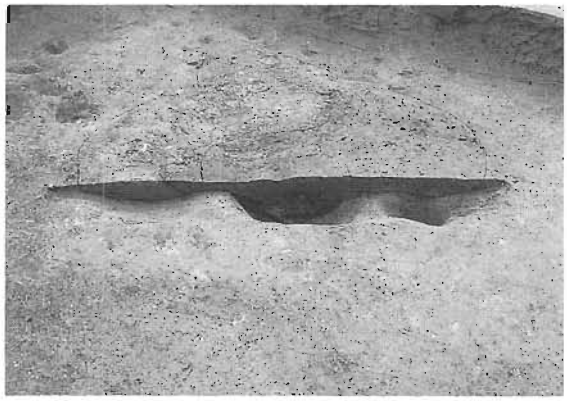
写真図版17　8号竪穴住居跡（1）



焼土１・検出

断　面

焼土２・検出



断　面

焼土３・検出

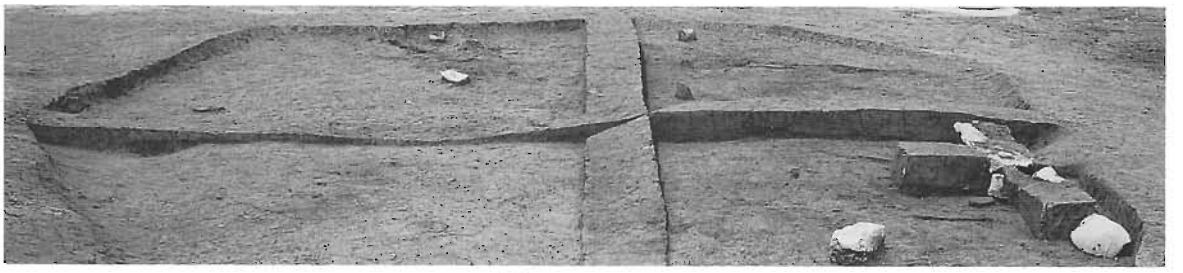
断　面

鉄製品出土状況

遺物出土状況

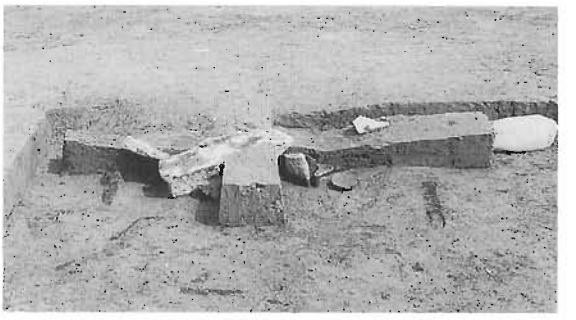
写真図版18　８号竪穴住居跡（２）

平　面

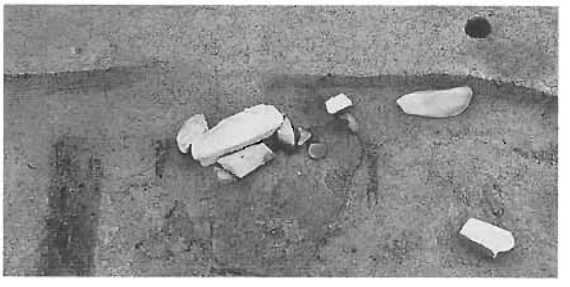


断面（W—Eベルト）

カマド・断面（W—Eベルト）



ガマド・断面（N—Sベルト）



カマド・平面

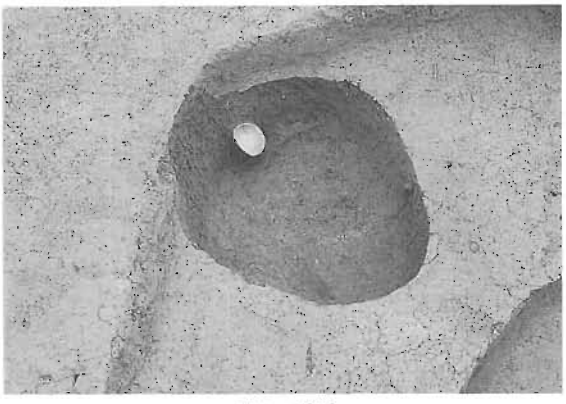
遺物出土状況

写真図版19　9号竪穴住居跡

平　面

断面（N－Sベルト）

カマド・平面

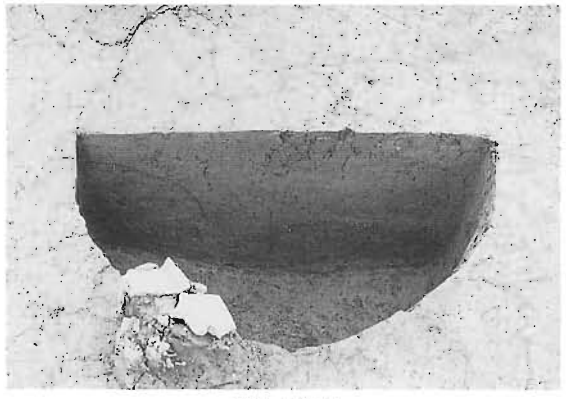


PP1・平面

写真図版20　10号竪穴住居跡

平　面

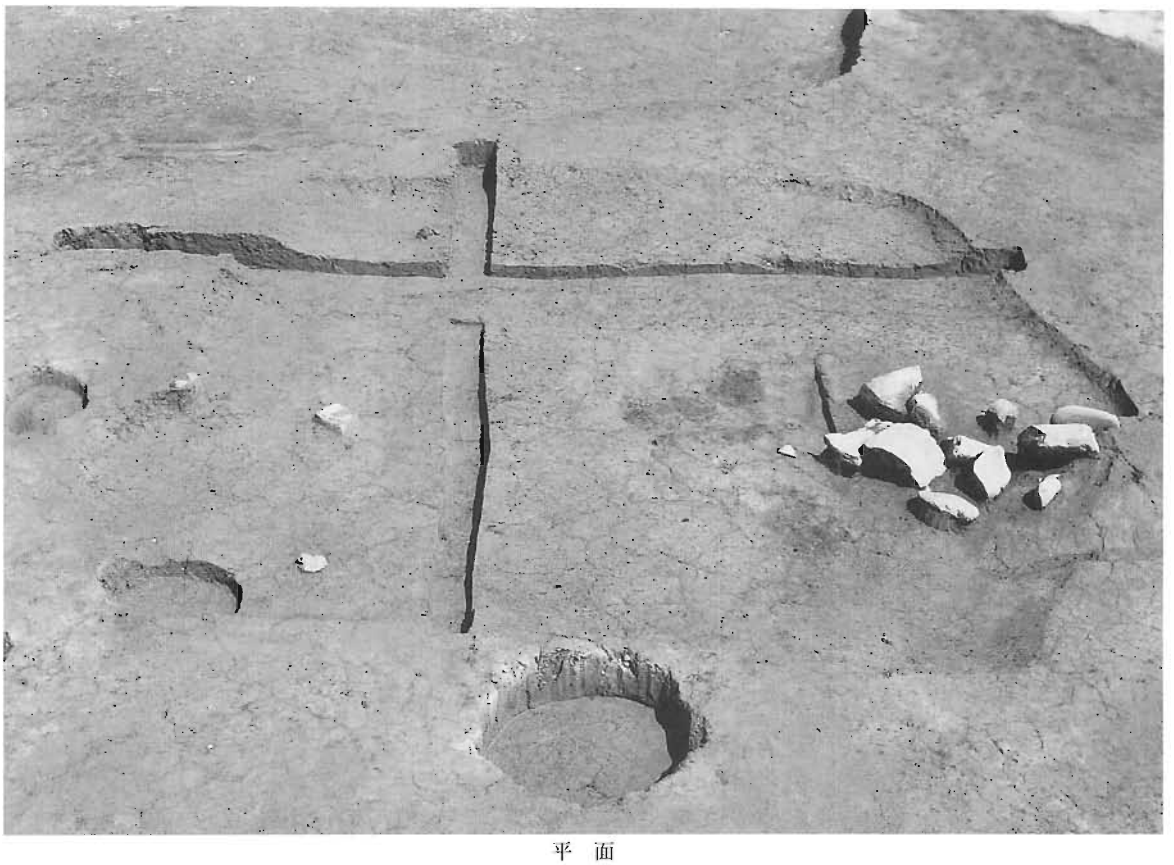
断面（N－Sベルト）



PP1・断面

遺物出土状況

写真図版21　11号竪穴住居跡



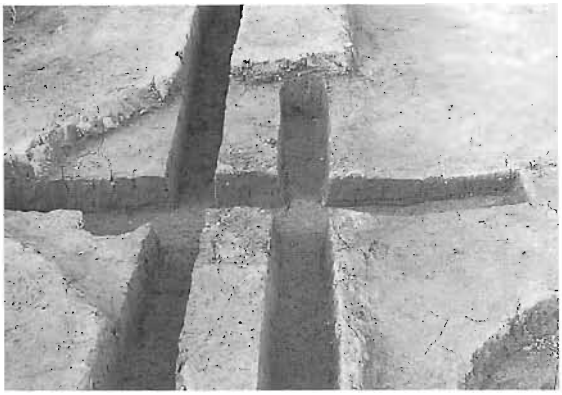
平　面

断面（N－Sベルト）

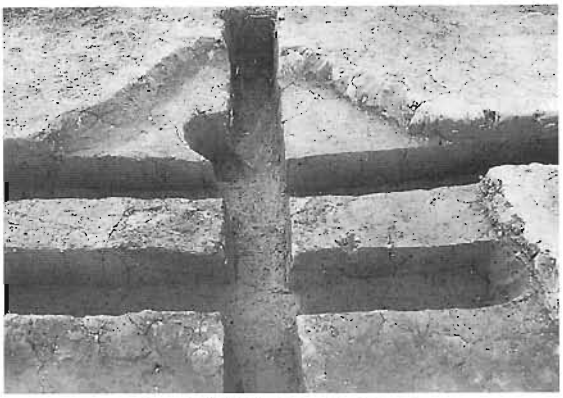
カマド・平面

遺物出土状況

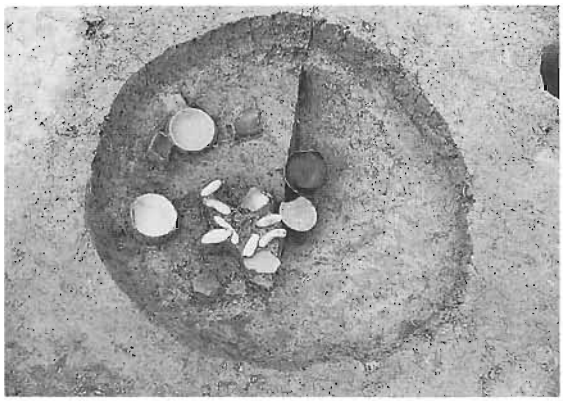
写真図版22　12号竪穴住居跡



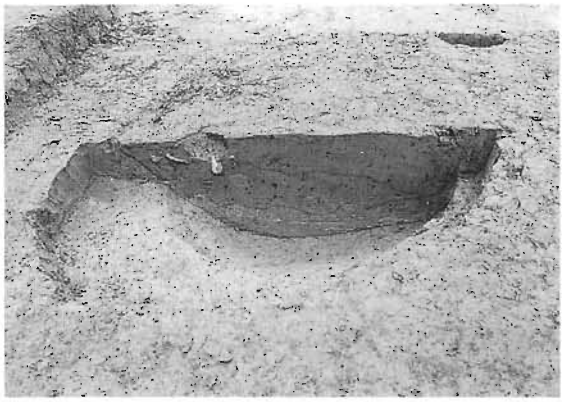
カマド燃焼部（W—Eベルト）



カマド燃焼部（S—Nベルト）

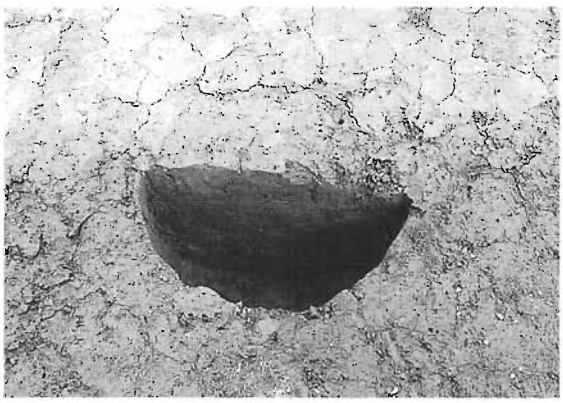


PP1・平面

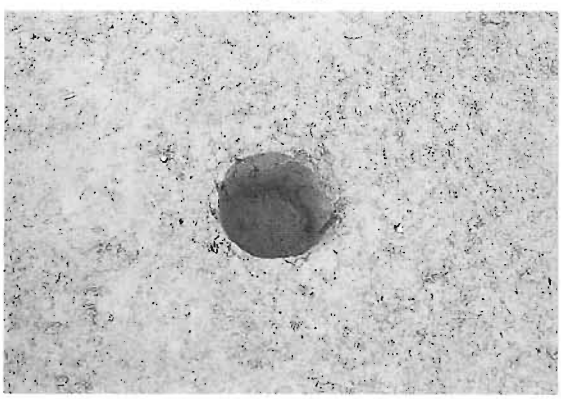


断　面

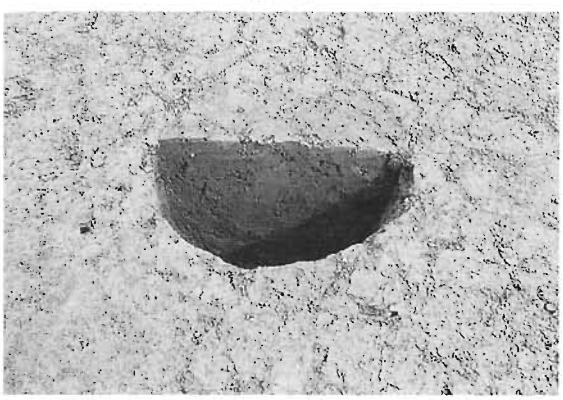
PP2・平面



断　面

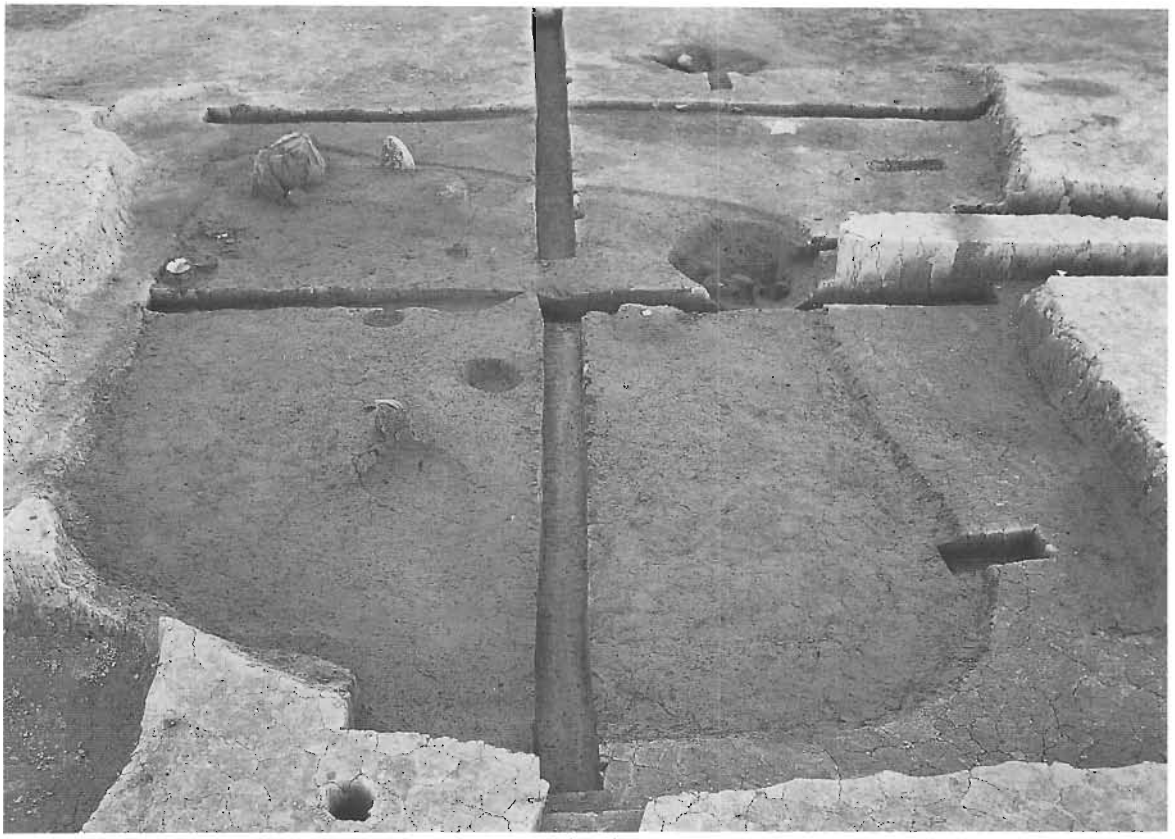


PP3・平面

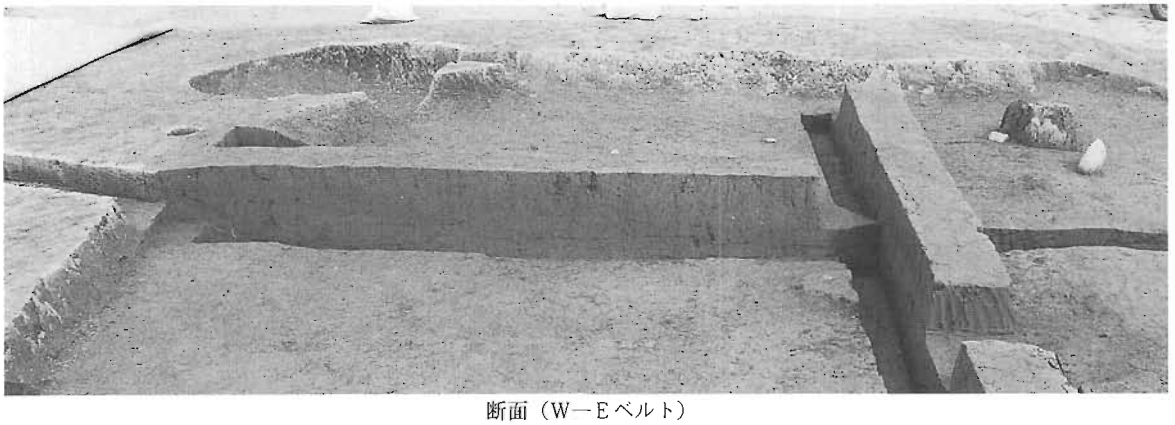


断　面

写真図版23　13号竪穴住居跡



平　面



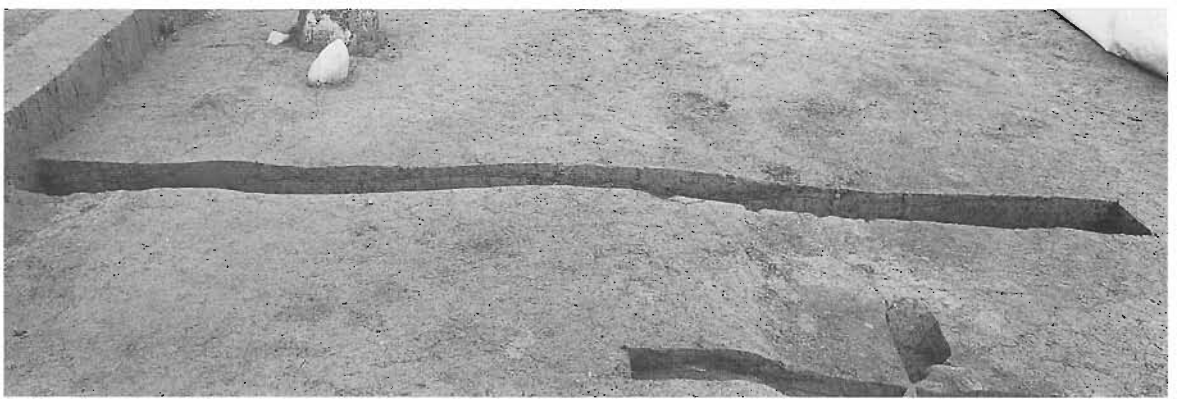
断面（W—Eベルト）

カマド・平面

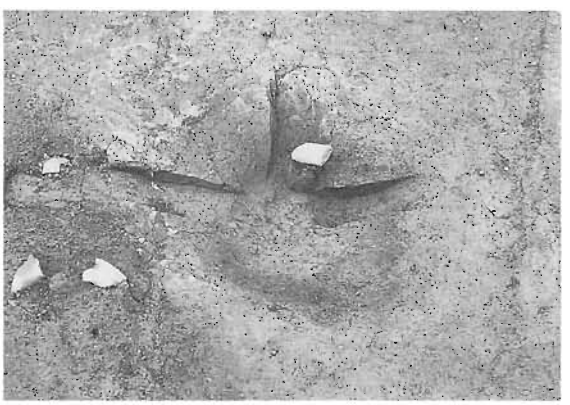
遺物出土状況

写真図版24　14号竪穴住居跡

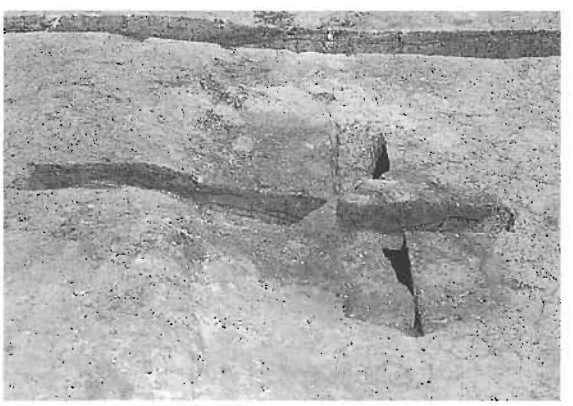
平　面



断面（W－Eベルト）



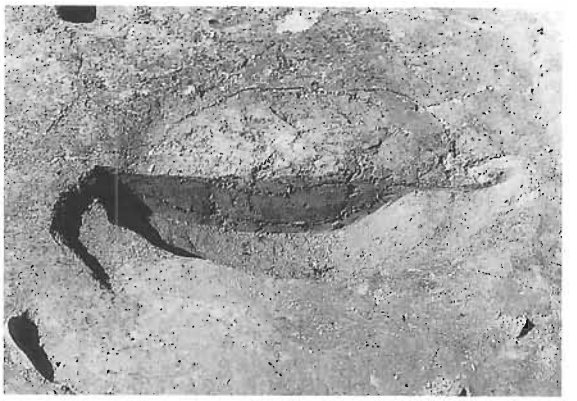
焼土1・平面



焼土1・断面（W－Eベルト）

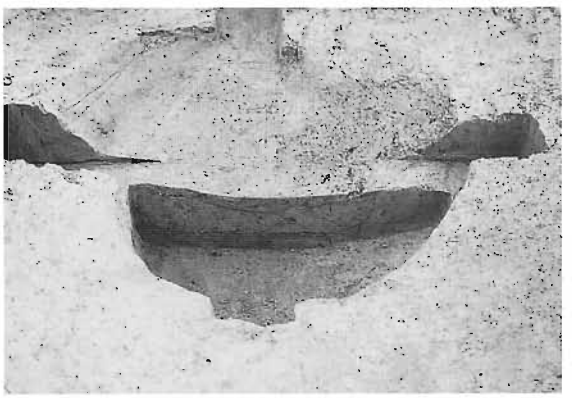
写真図版25　15号竪穴住居跡（1）

15号住・焼土２・平面



断　面

15号・16号住居跡・平面

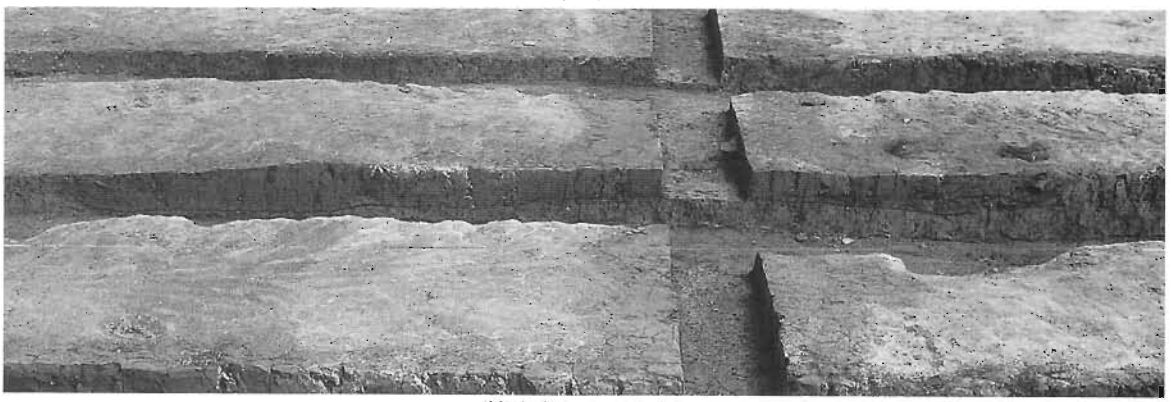


16号住居跡・PP1・断面

遺物出土状況

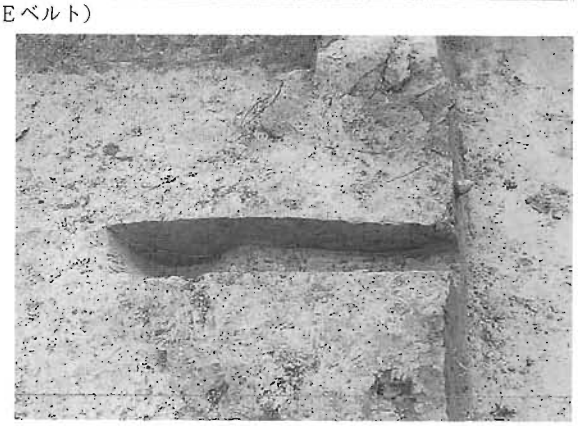
写真図版26　15号（２）・16号竪穴住居跡

平　面



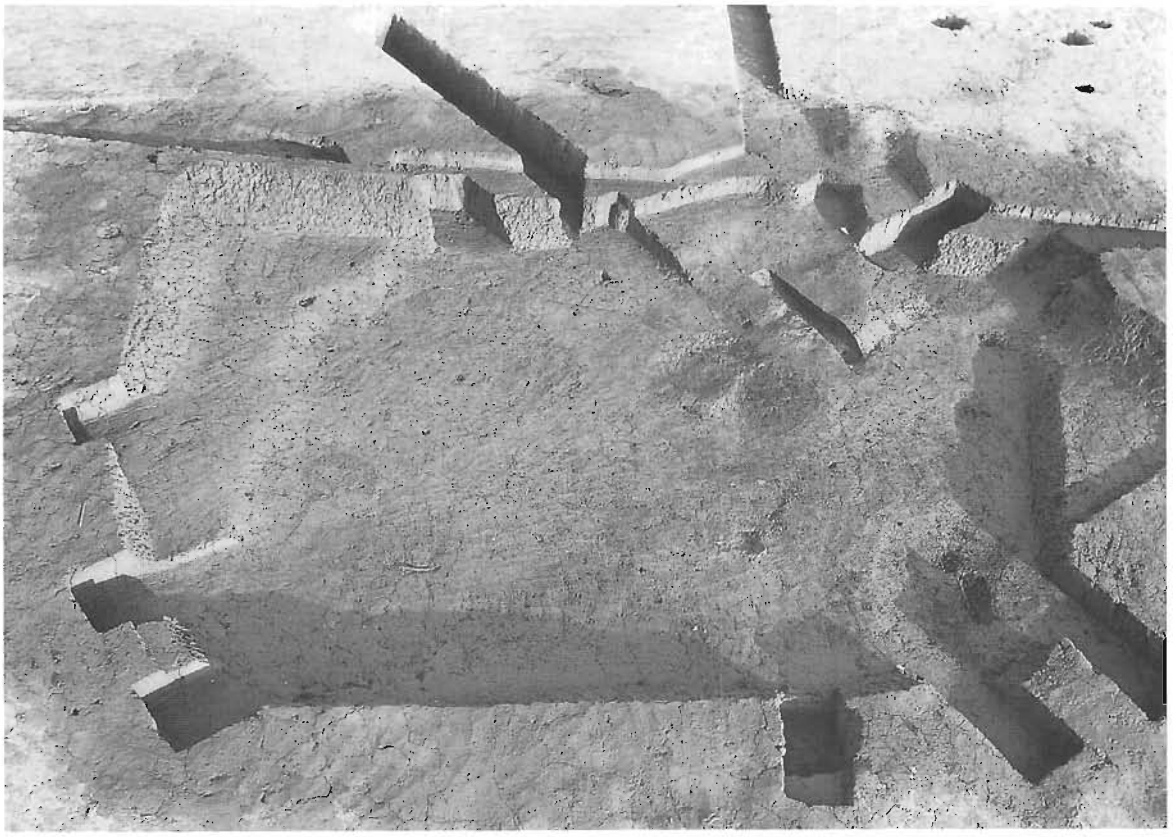
断面（W－Eベルト）

焼土２・平面



断　面

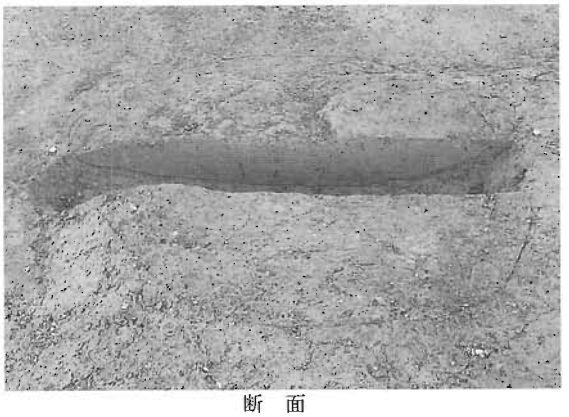
写真図版27　17号竪穴住居跡



平　面

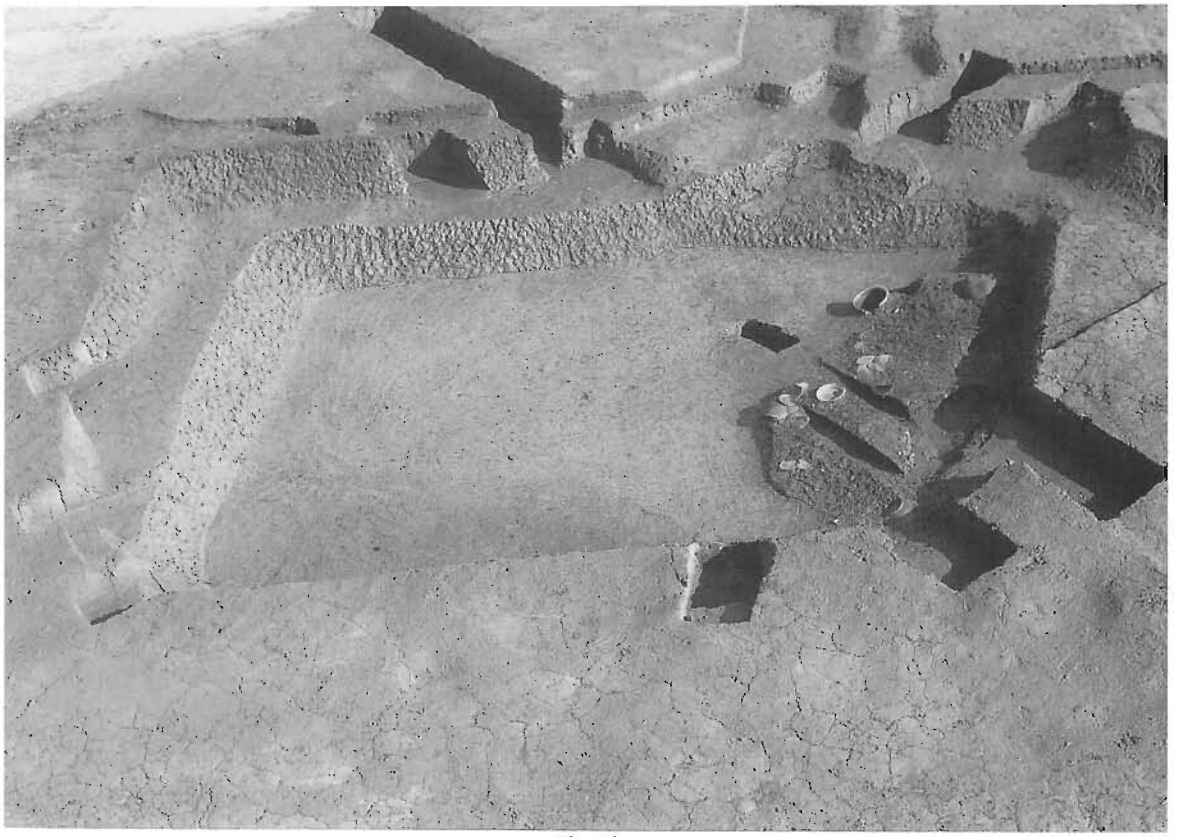
断面（E—Wベルト）

焼土1・平面



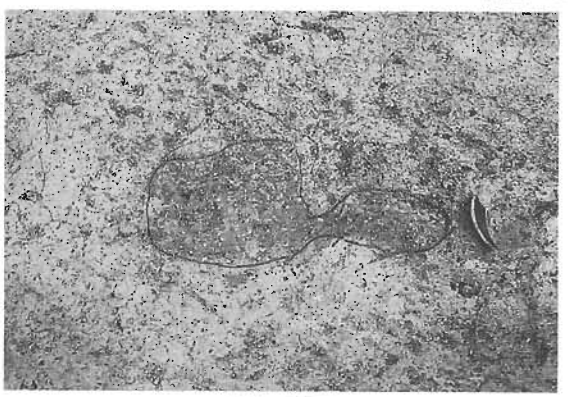
断　面

写真図版28　18号竪穴住居跡

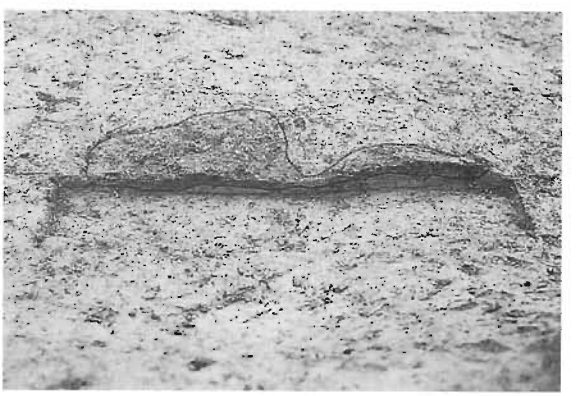


平　面

断面（E—Wベルト）

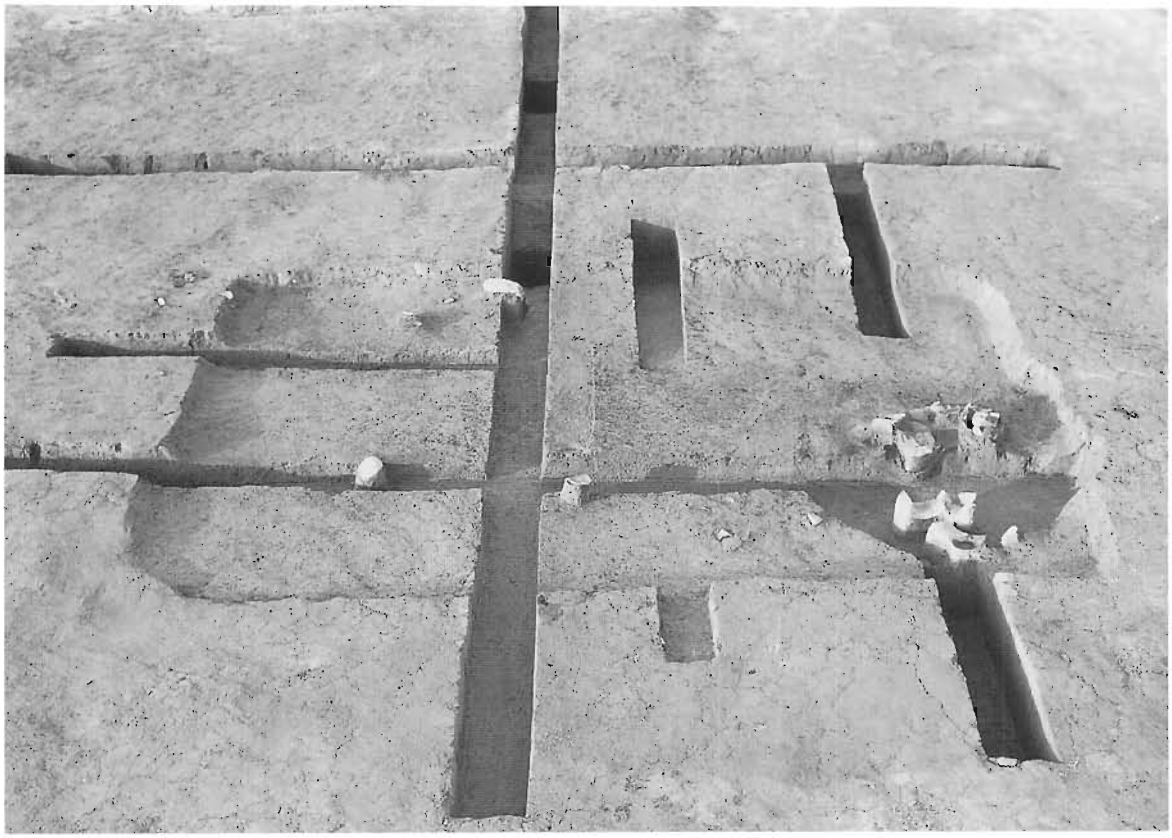


焼土・平面



断　面

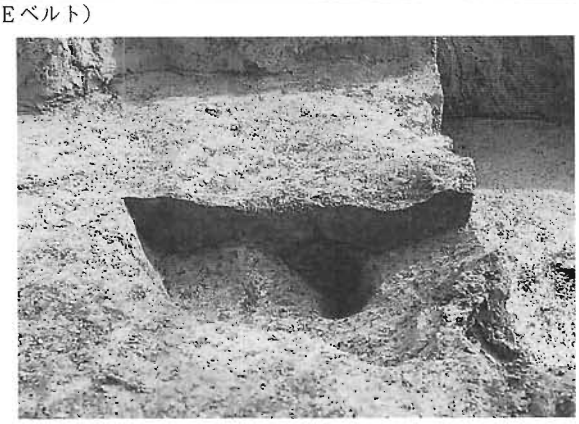
写真図版29　19号竪穴住居跡



平　面

断面（W—Eベルト）

焼土・平面



断　面

写真図版30　20号竪穴住居跡

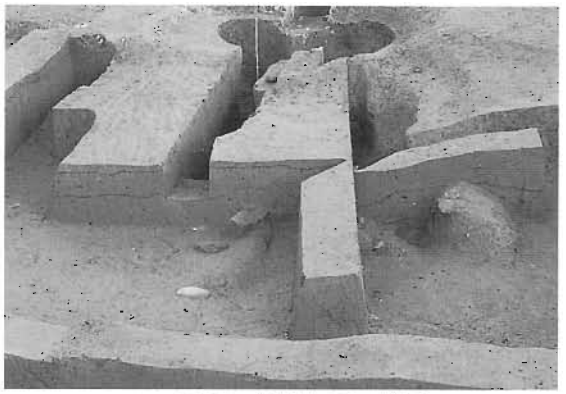
平　面

断面（S—Nベルト）

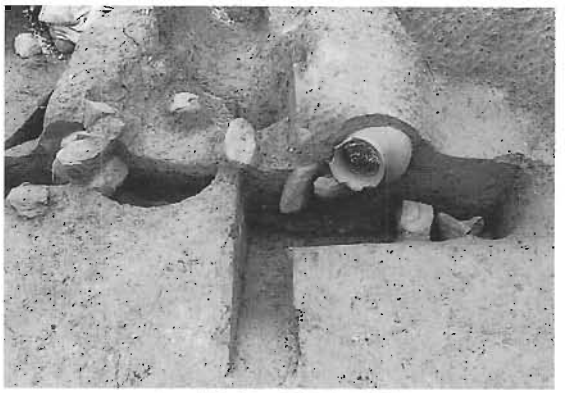
カマド・平面

完　掘

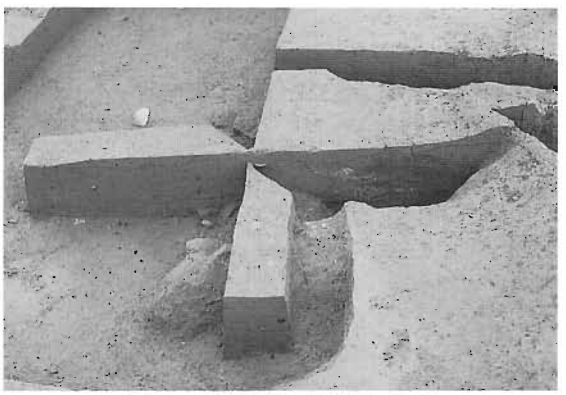
写真図版31　21号竪穴住居跡（1）



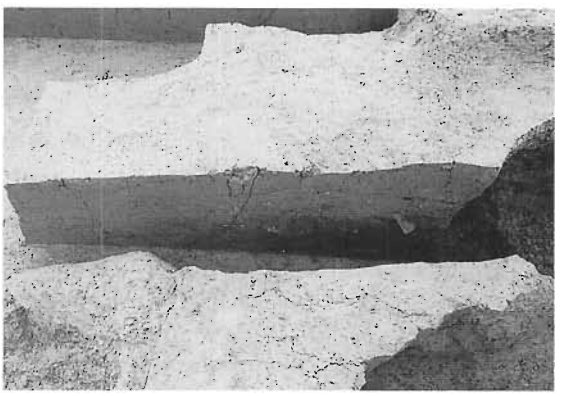
カマド袖部・燃焼部（覆土断面）



カマド袖部・燃焼部（断面）

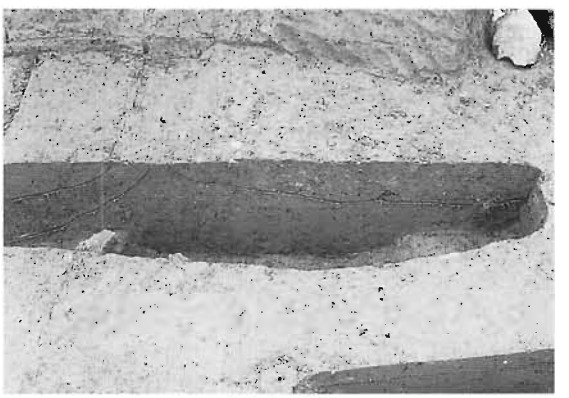


1号カマド煙道部・燃焼部（断面）

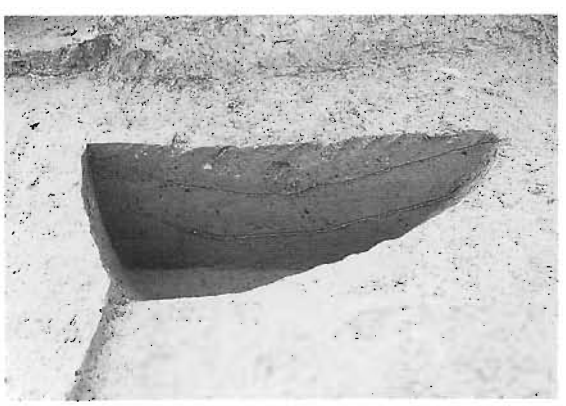


2号カマド煙道部・燃焼部（断面）

カマド袖部芯材（出土状況）



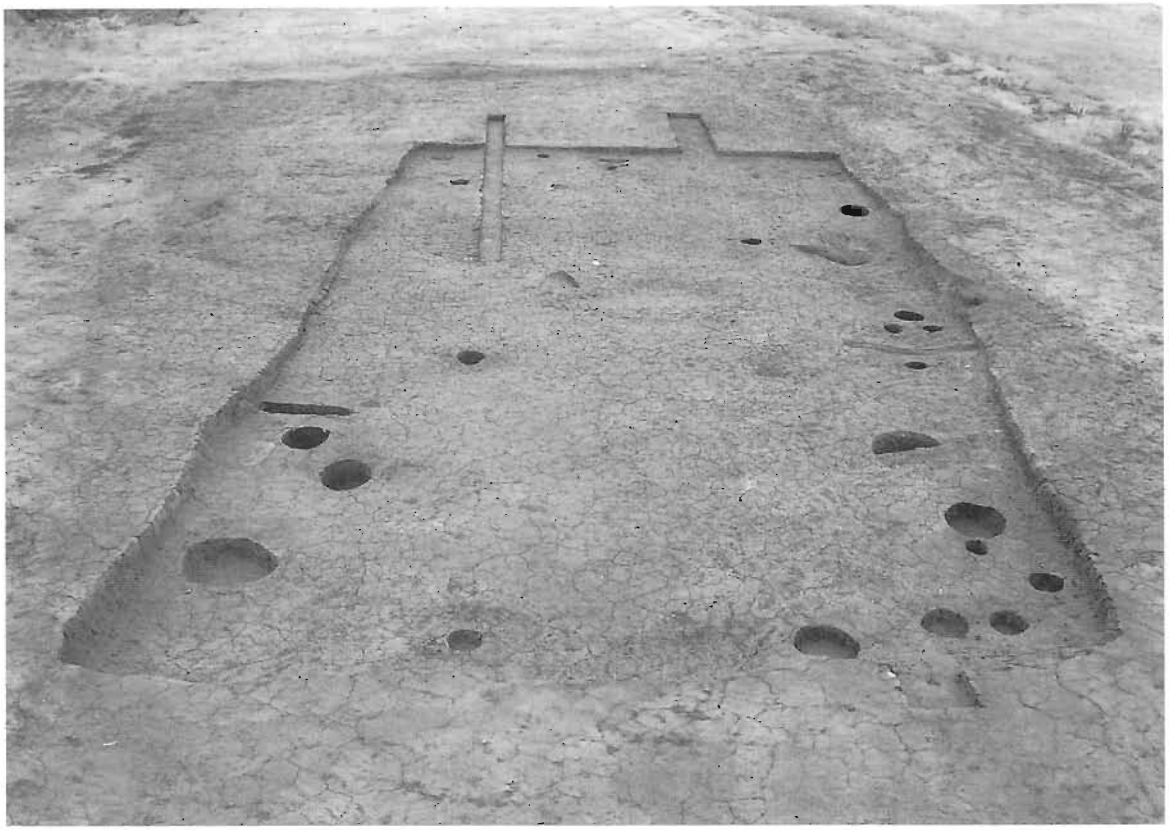
焼土2・断面



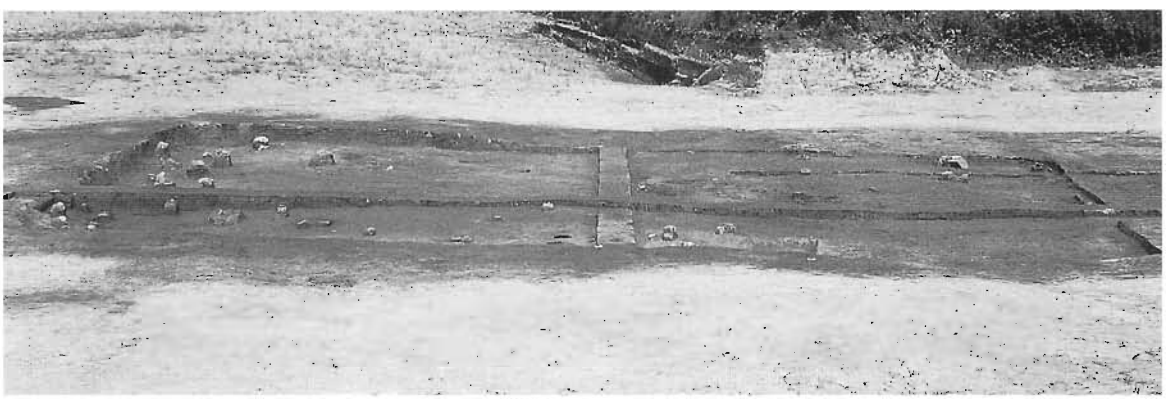
PP16・断面

遺物出土状況

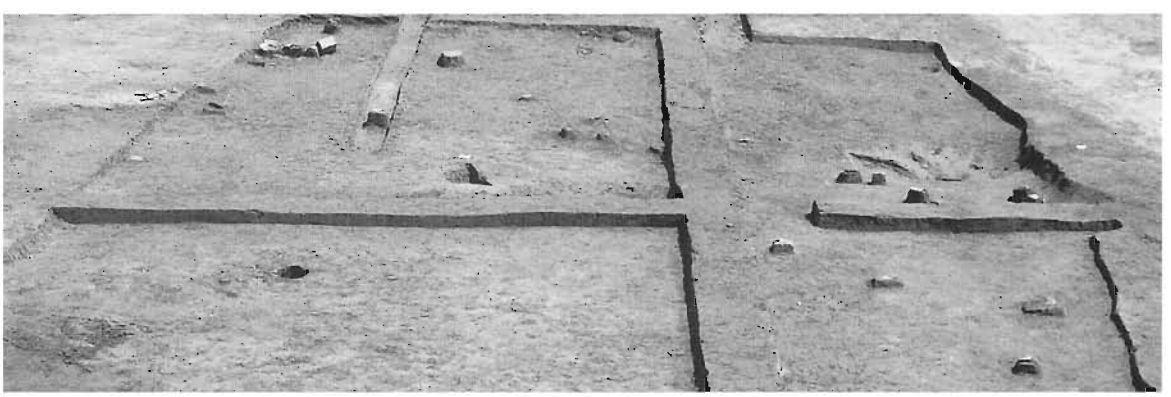
写真図版32　21号竪穴住居跡（2）



平　面



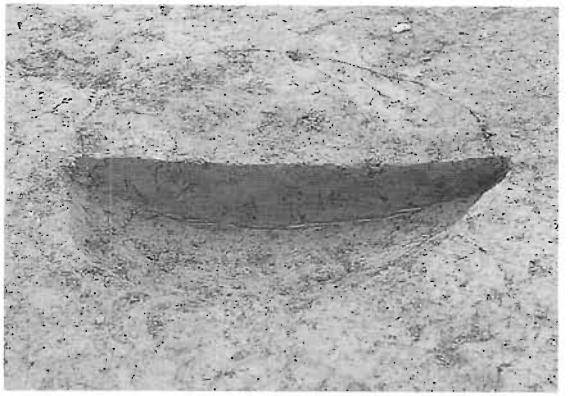
断面（S—Nベルト）



断面（W—Eベルト）

写真図版33　　1号工房跡（1）

焼土１・平面

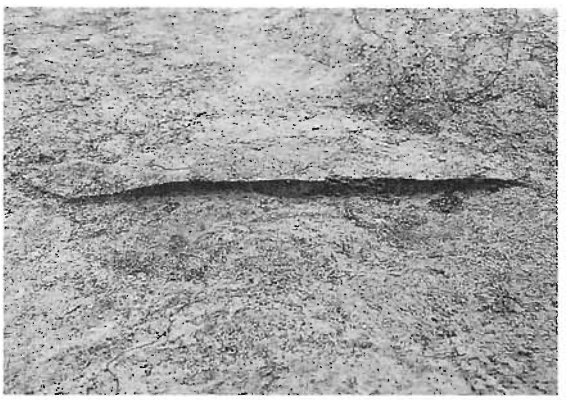


断　面

遺物出土状況①

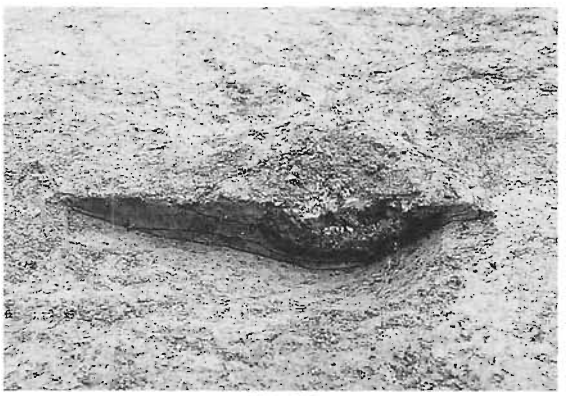
遺物出土状況②

２号工房跡　焼土・平面



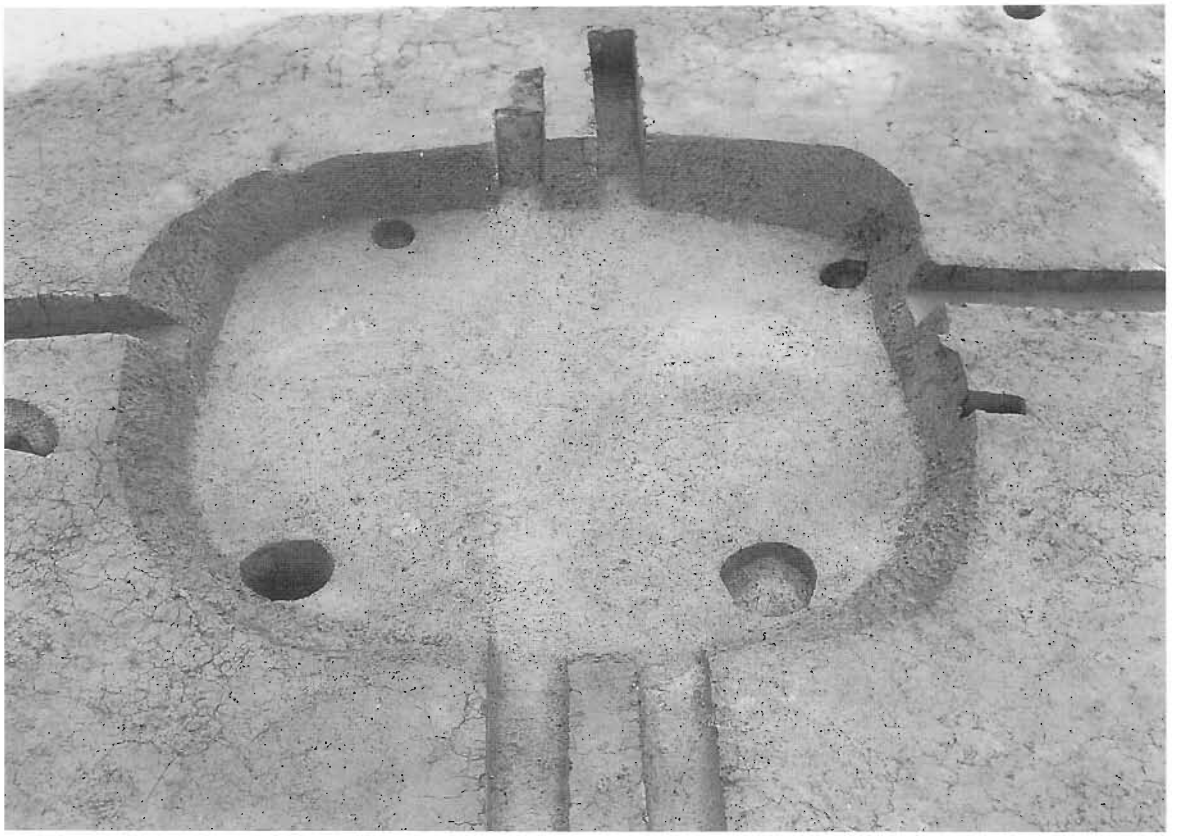
断　面

２号工房跡　焼土・平面

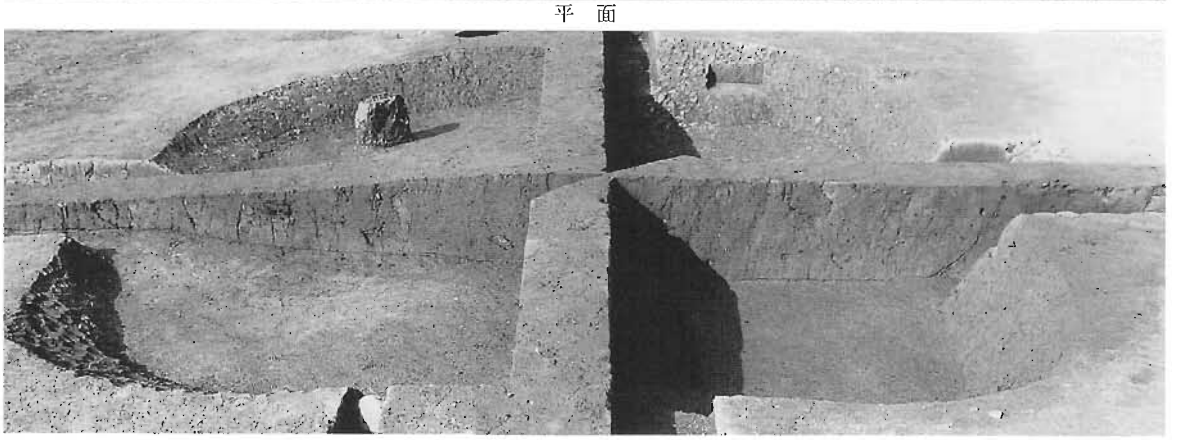


断　面

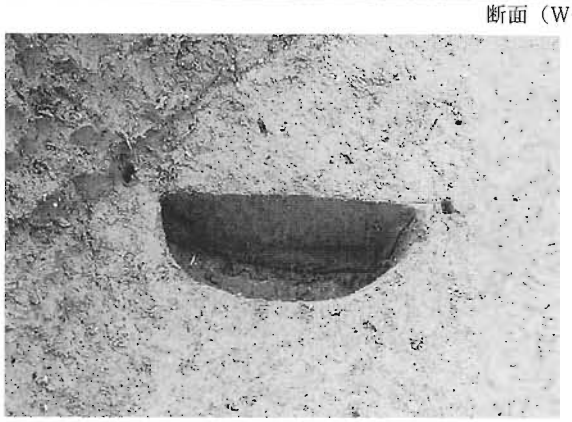
写真図版34　　１号（２）・２号工房跡



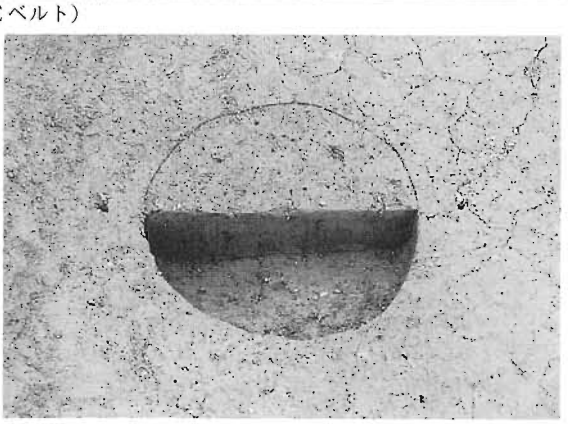
平　面



断面（W—Eベルト）

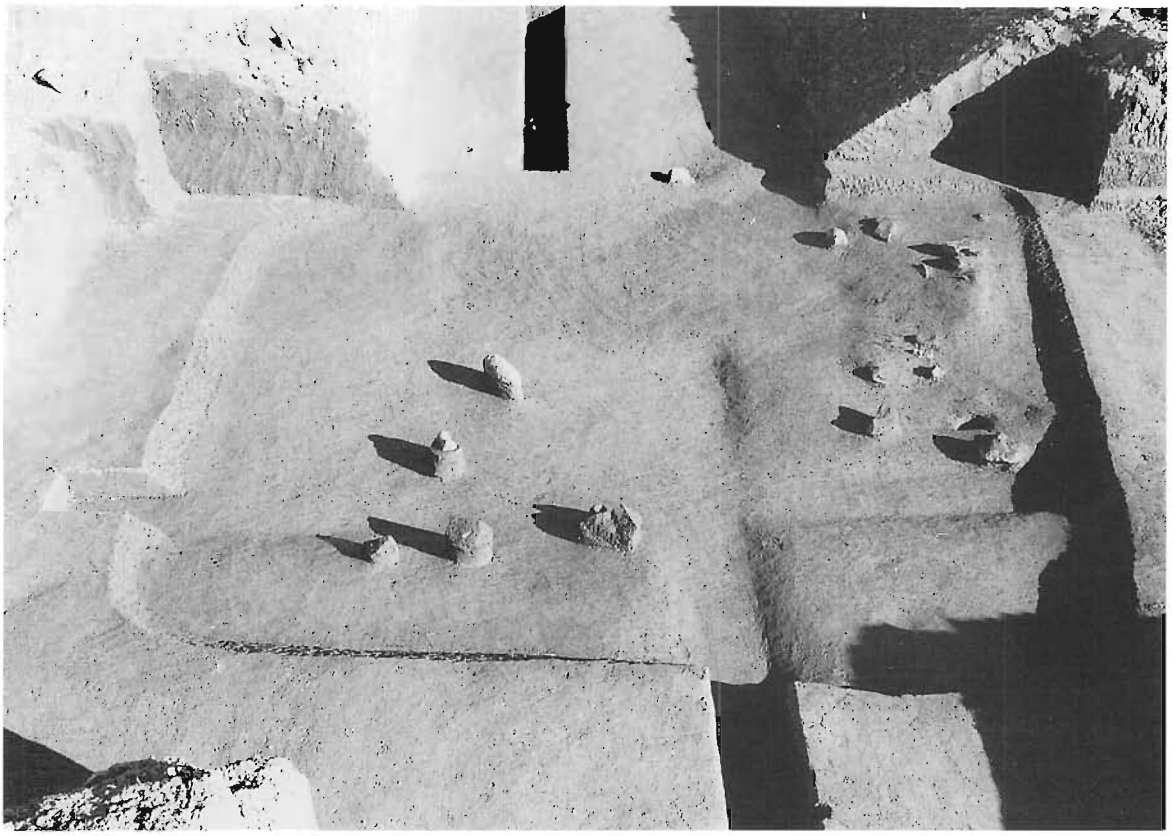


PP1・断面



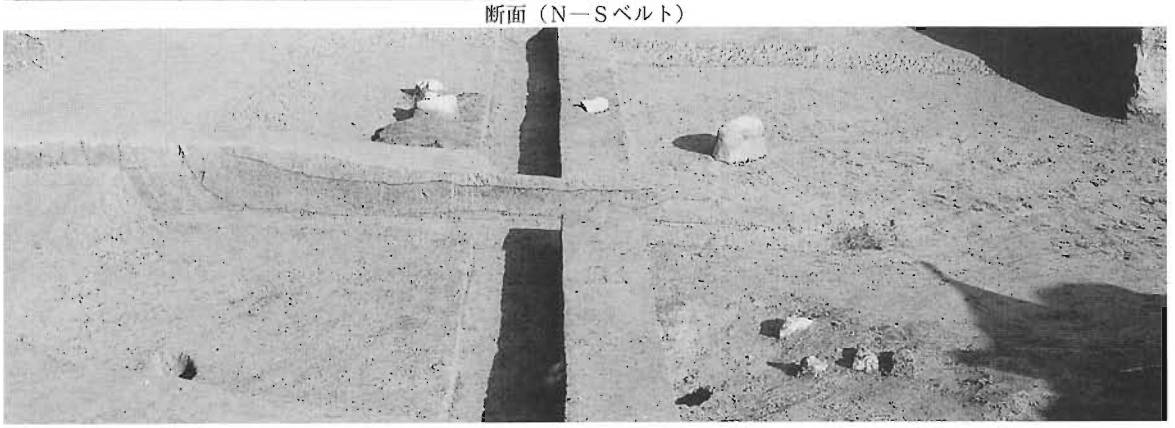
PP2・断面

写真図版35　1号住居状遺構



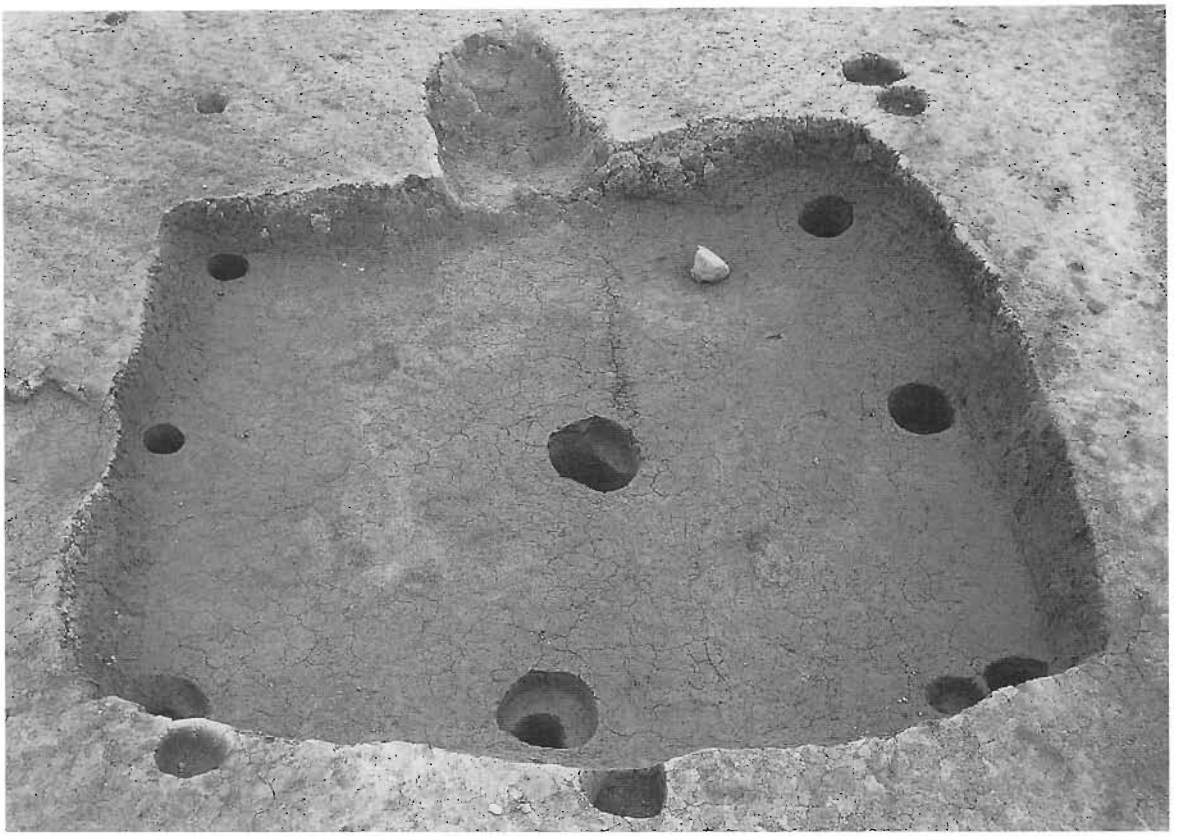
平　面

断面（N—Sベルト）

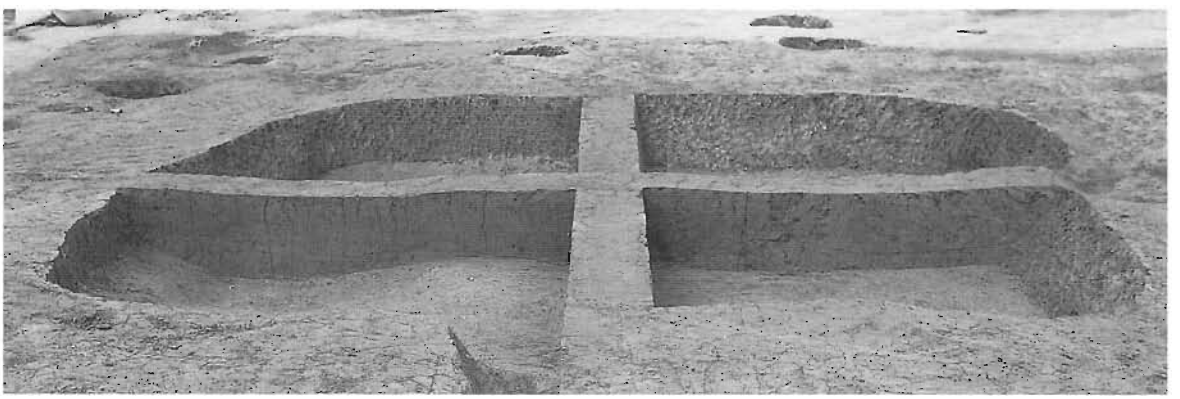


断面（W—Eベルト）

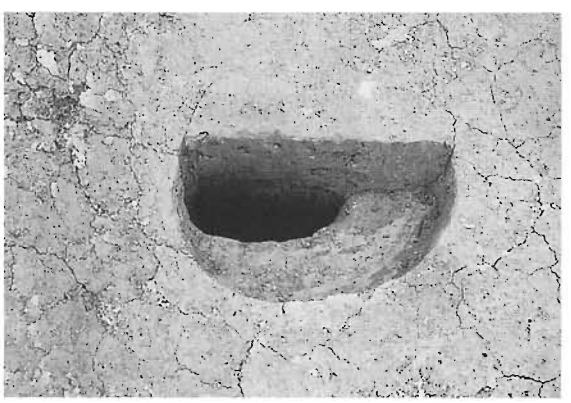
写真図版36　2号住居状遺構



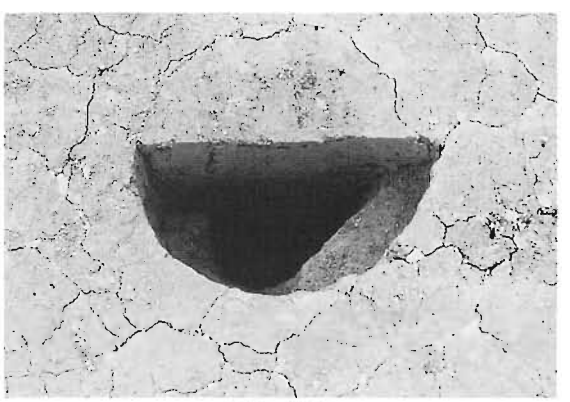
平　面



断面（S—Nベルト）



PP6・断面



PP8・断面

写真図版37　3号住居状遺構

ⅢB-8ｇ付近・検出

ⅣC-2ｉ付近・検出

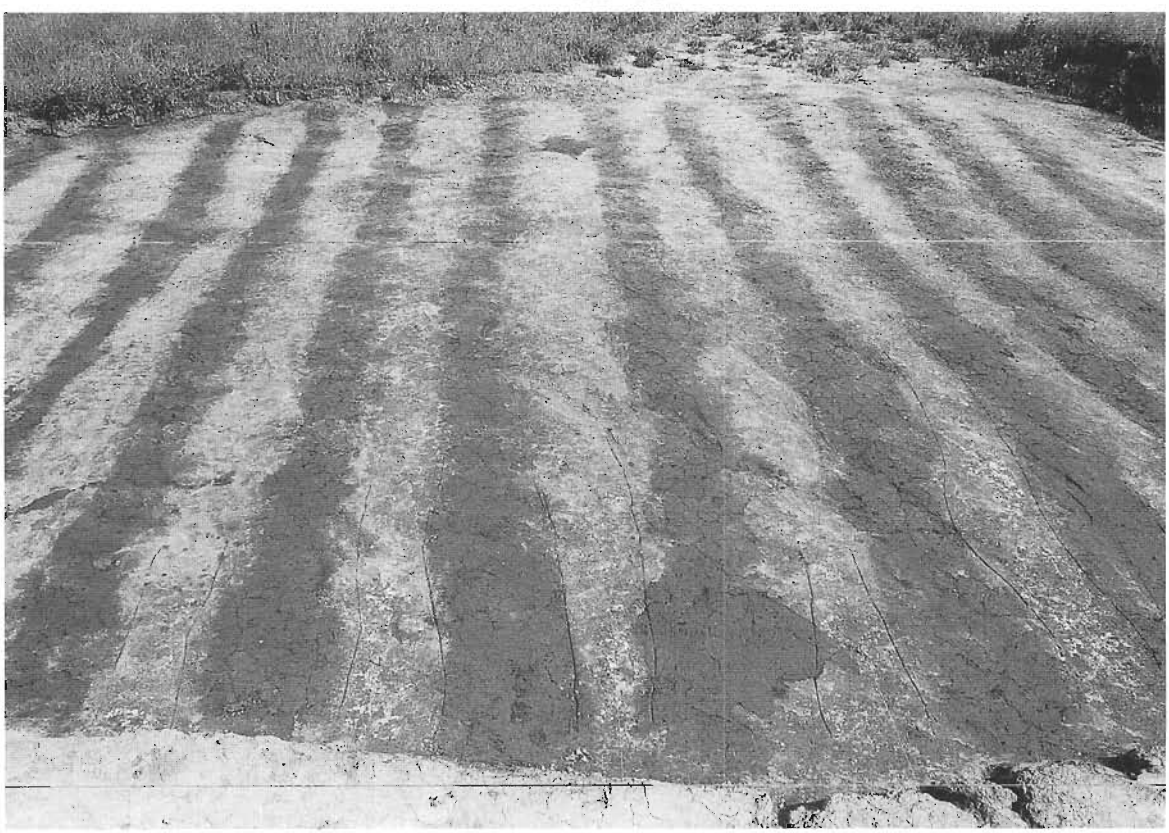
写真図版38　畠跡（１）

ⅦD-1ｄ付近・検出

ⅦC-5ｈ付近・検出

写真図版39　畠跡（２）

VD-8e付近・検出



VID-1h付近・検出

写真図版40　畠跡（3）

ⅣB-6ｇ付近・完掘

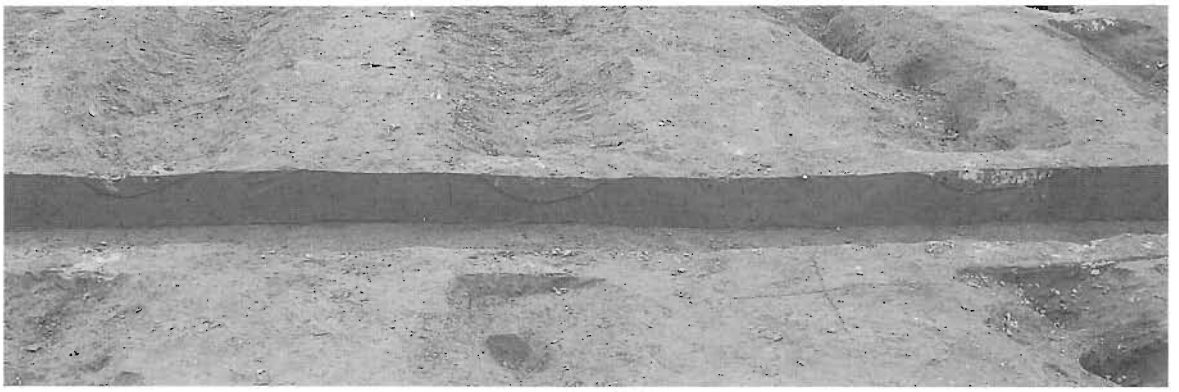
Ⅶ-4ｈ付近・完掘

写真図版41　畠跡（４）

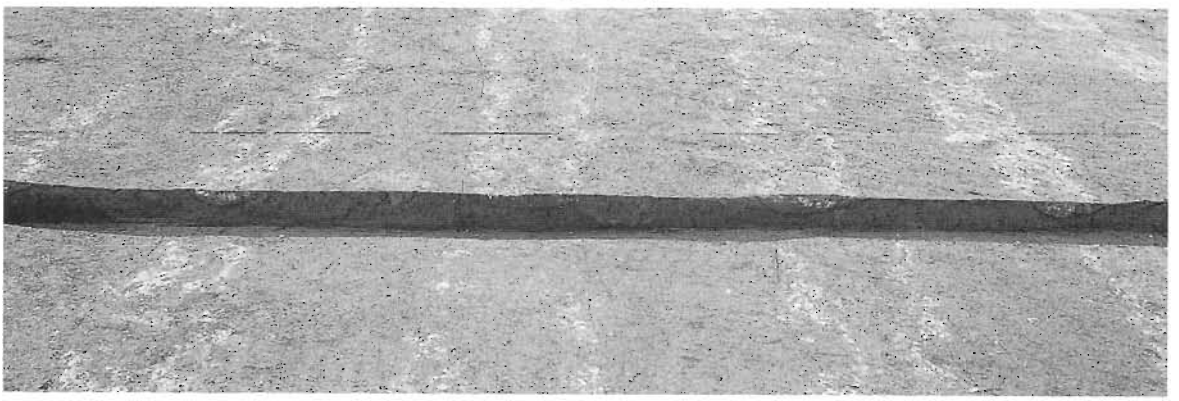
VIC-7 h 付近・完掘

IE-7 f 付近・完掘

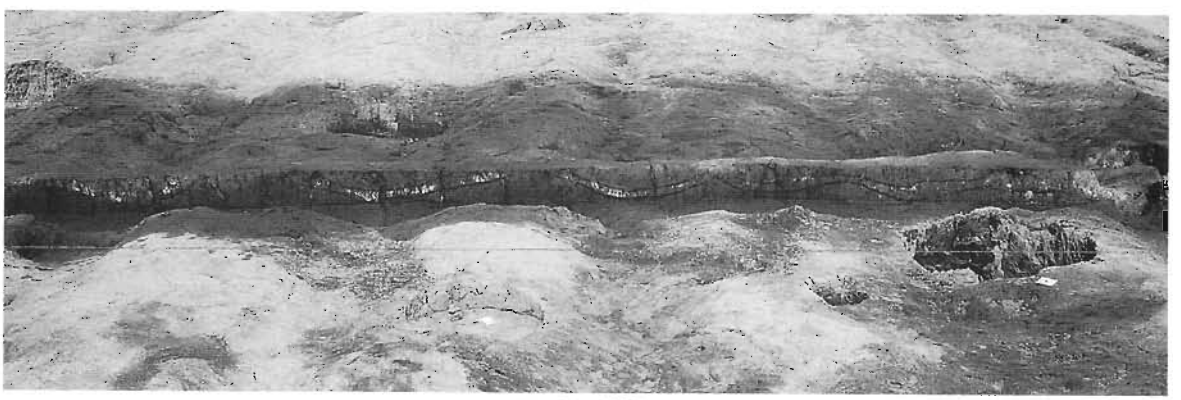
写真図版42　畠跡（5）



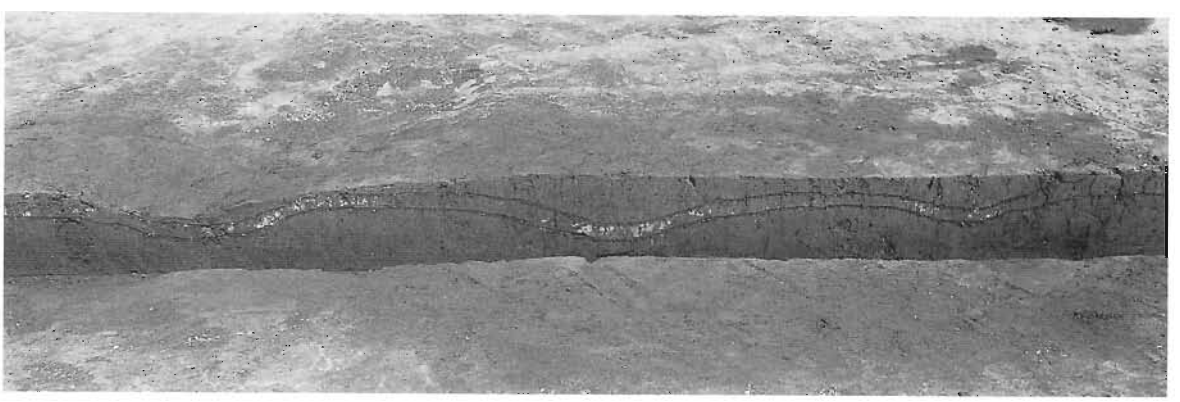
A—A'・断面



C—C'・断面

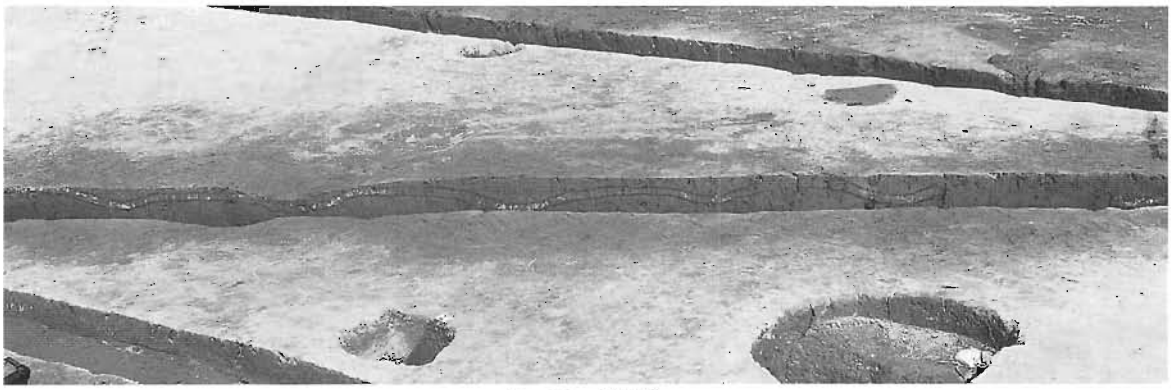


D—D'・断面

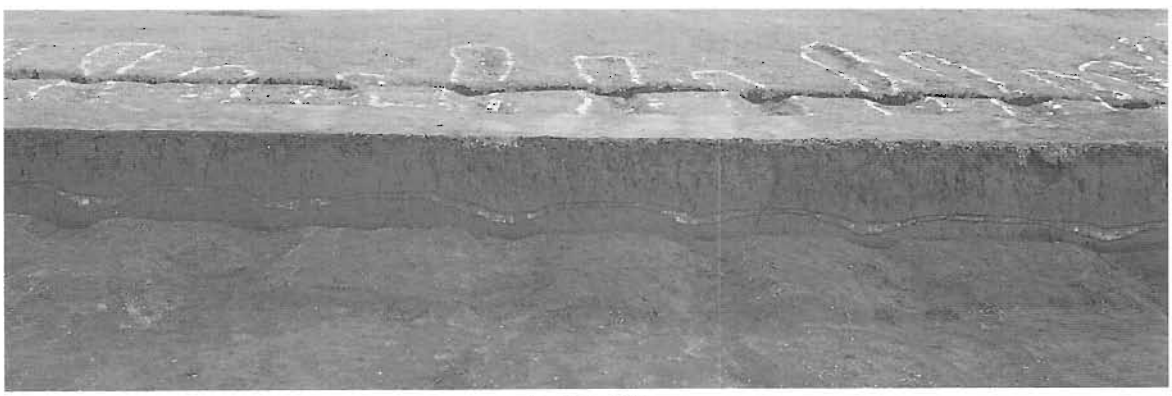


K—K'・断面①

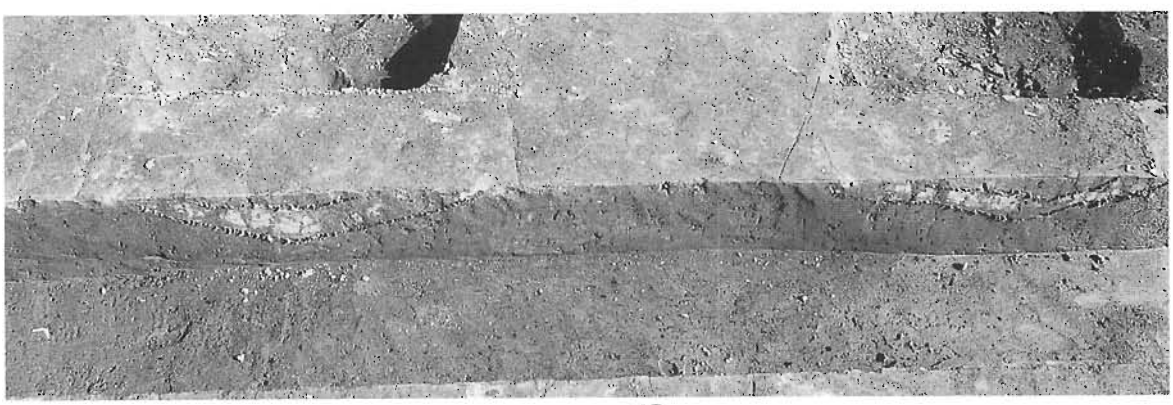
写真図版43　畠跡(6)



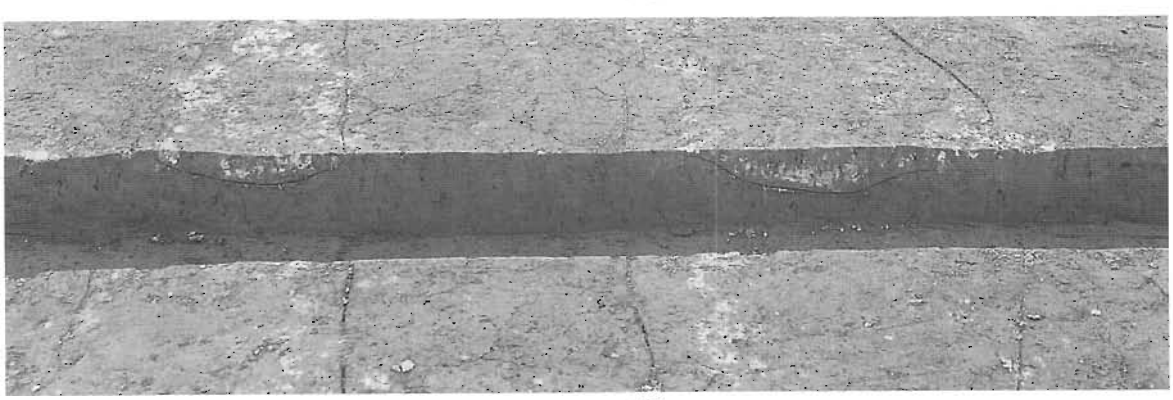
K—K'・断面②



P—P'・断面

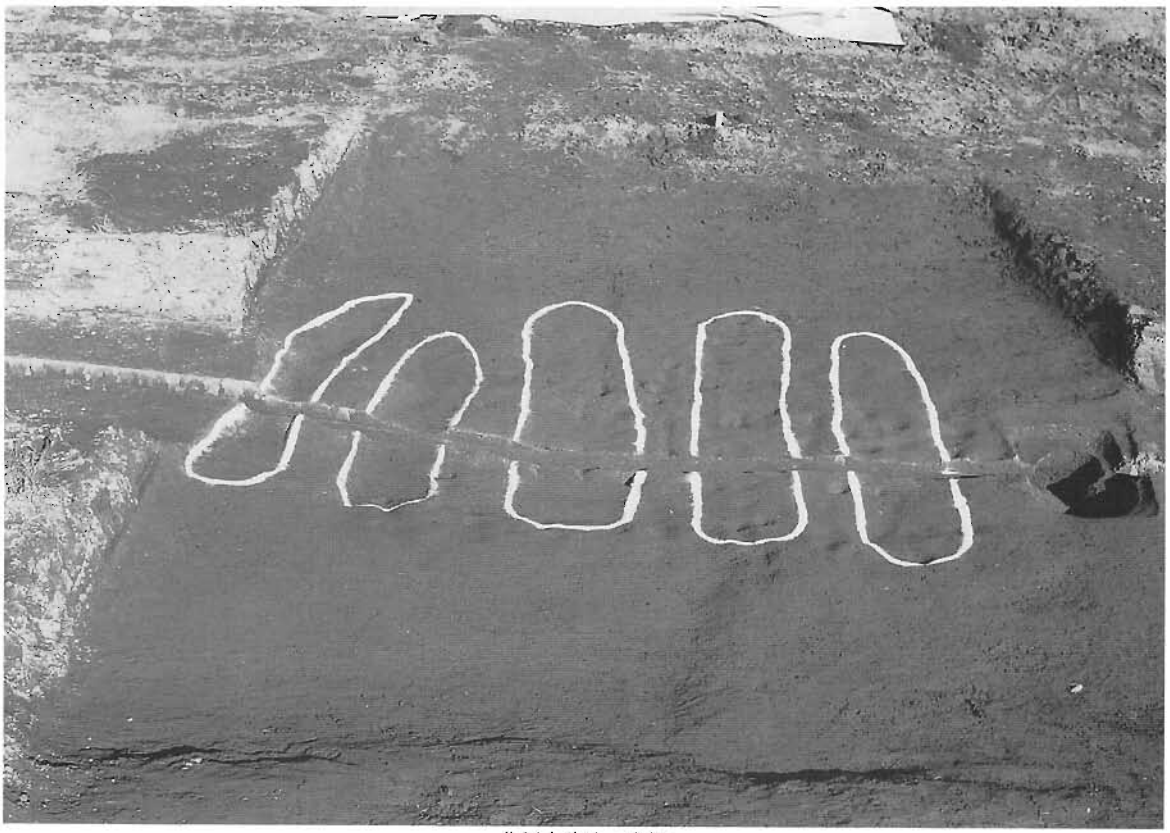


W—W'・断面①

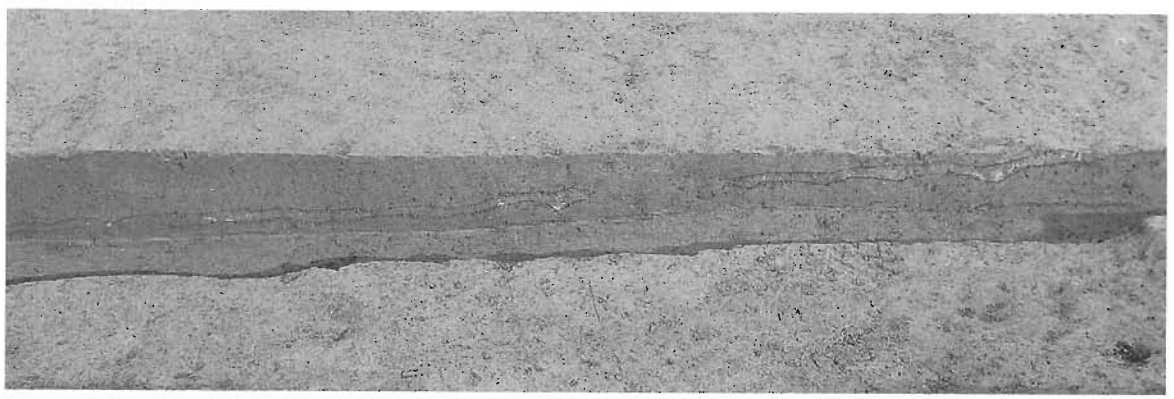


W—W'・断面②

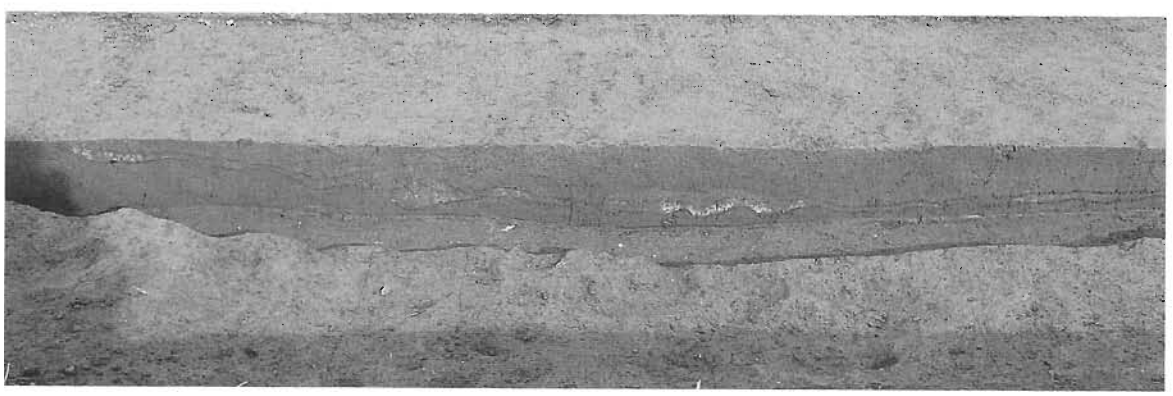
写真図版44　畠跡（7）



北側水路分・完掘



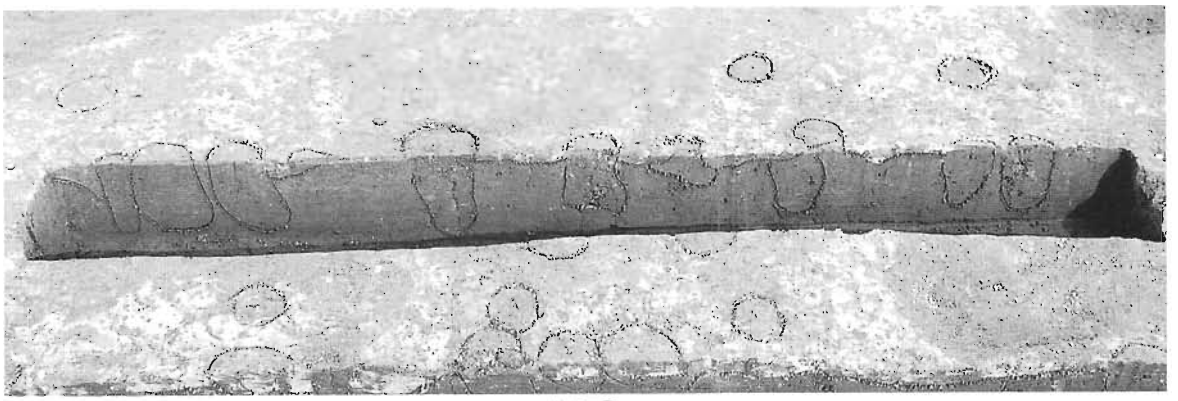
断　面



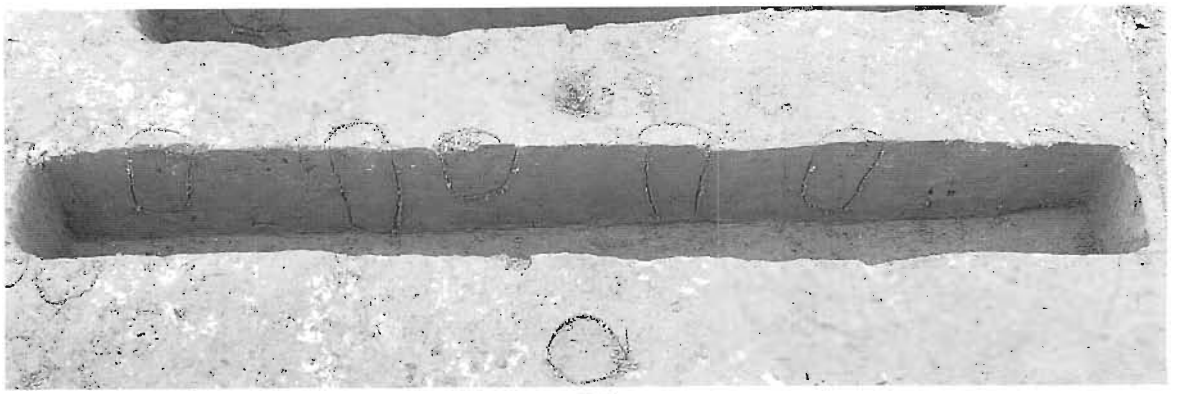
断　面

写真図版45　畠跡（８）

検　出



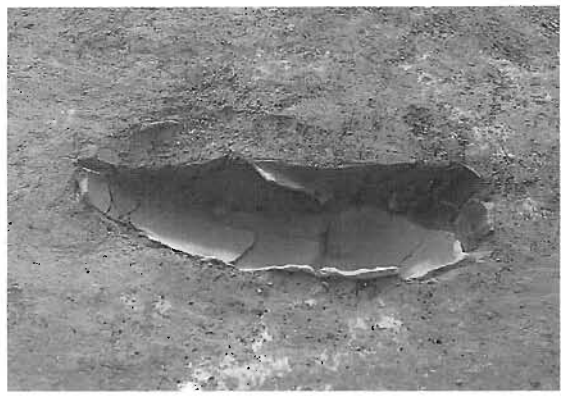
断面①



断面②

写真図版46　畠跡作付痕

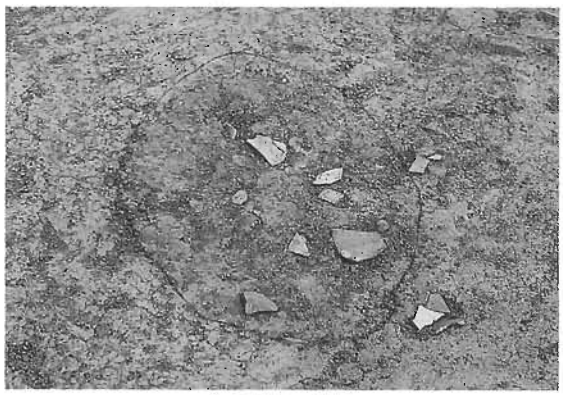
1号土器埋設遺構・平面



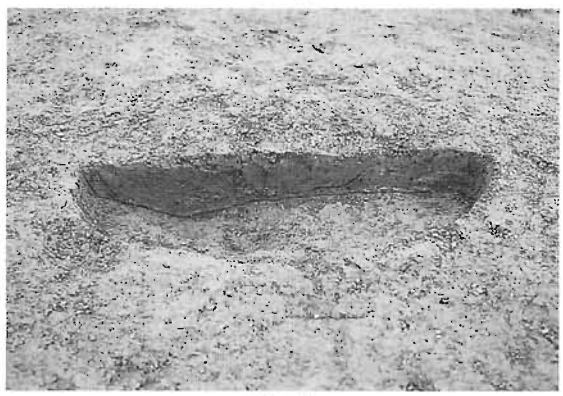
断　面

2号土器埋設遺構・平面

断　面

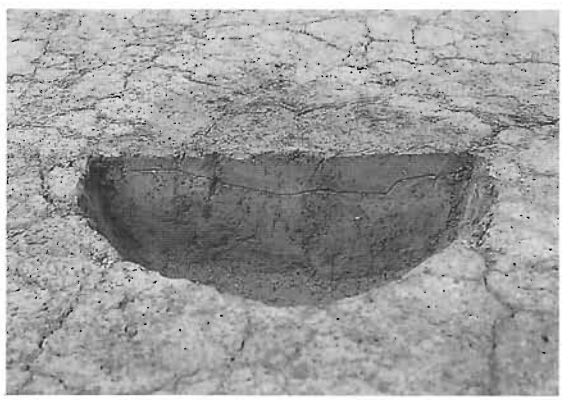


1号焼土・検出



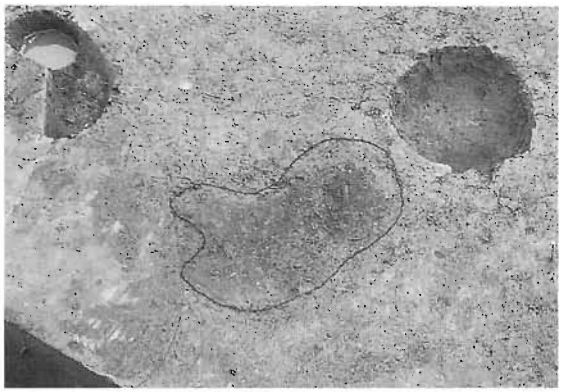
断　面

2号焼土・検出

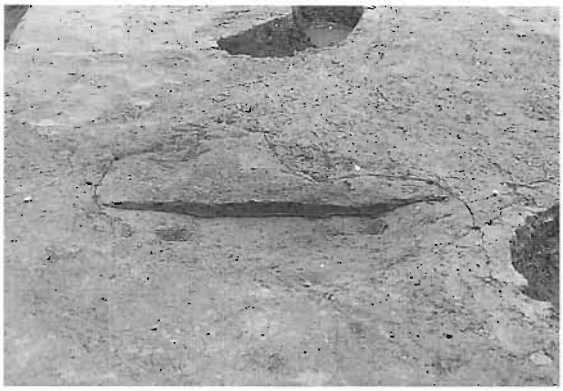


断　面

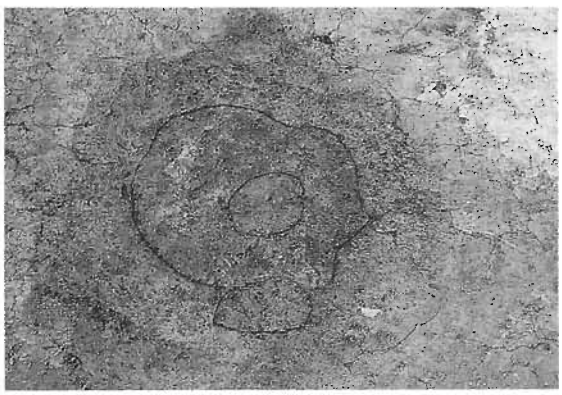
写真図版47　1・2号土器埋設遺構、1・2号焼土遺構



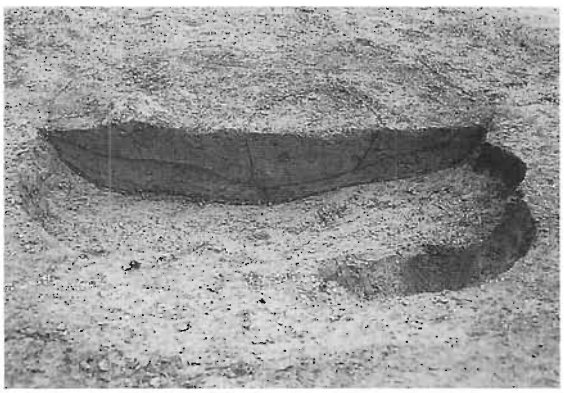
3 号焼土・検出



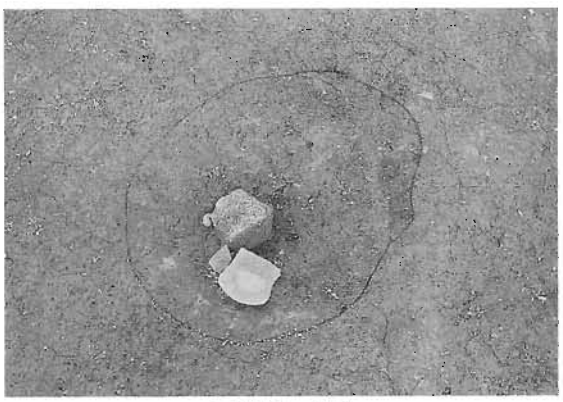
断　面



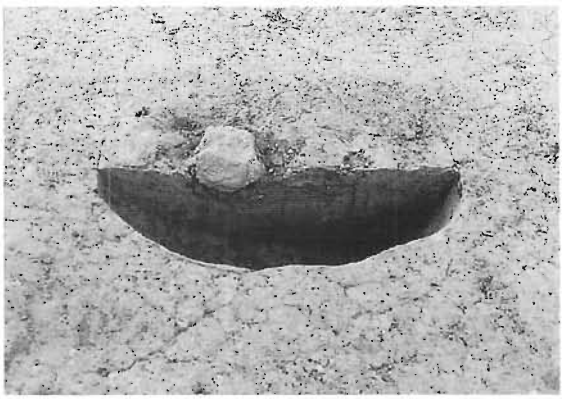
4 号焼土・検出



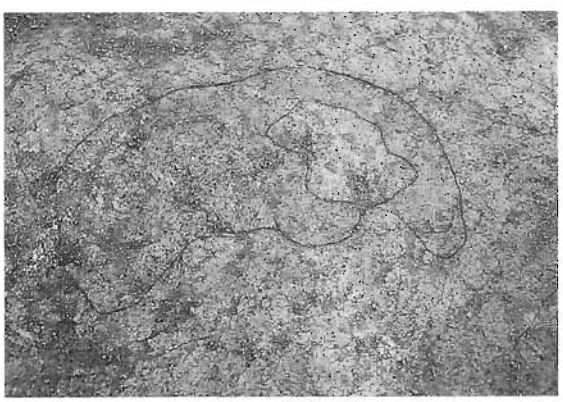
断　面



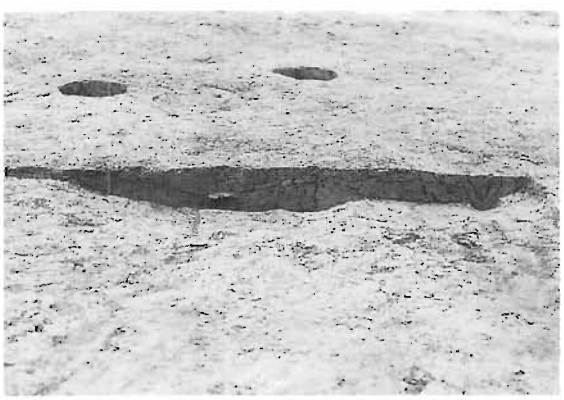
5 号焼土・検出



断　面

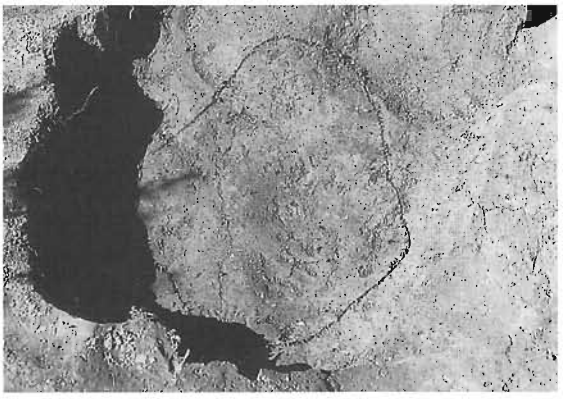


6 号焼土・検出



断　面

写真図版48　3 ～ 6 号焼土遺構



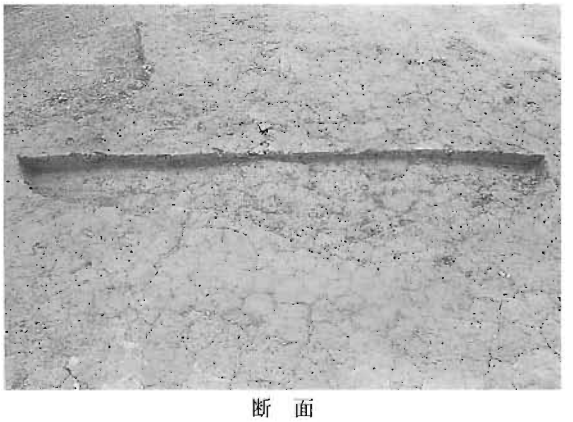
7号焼土・検出

断　面

8号焼土・検出

断　面

9号焼土・検出

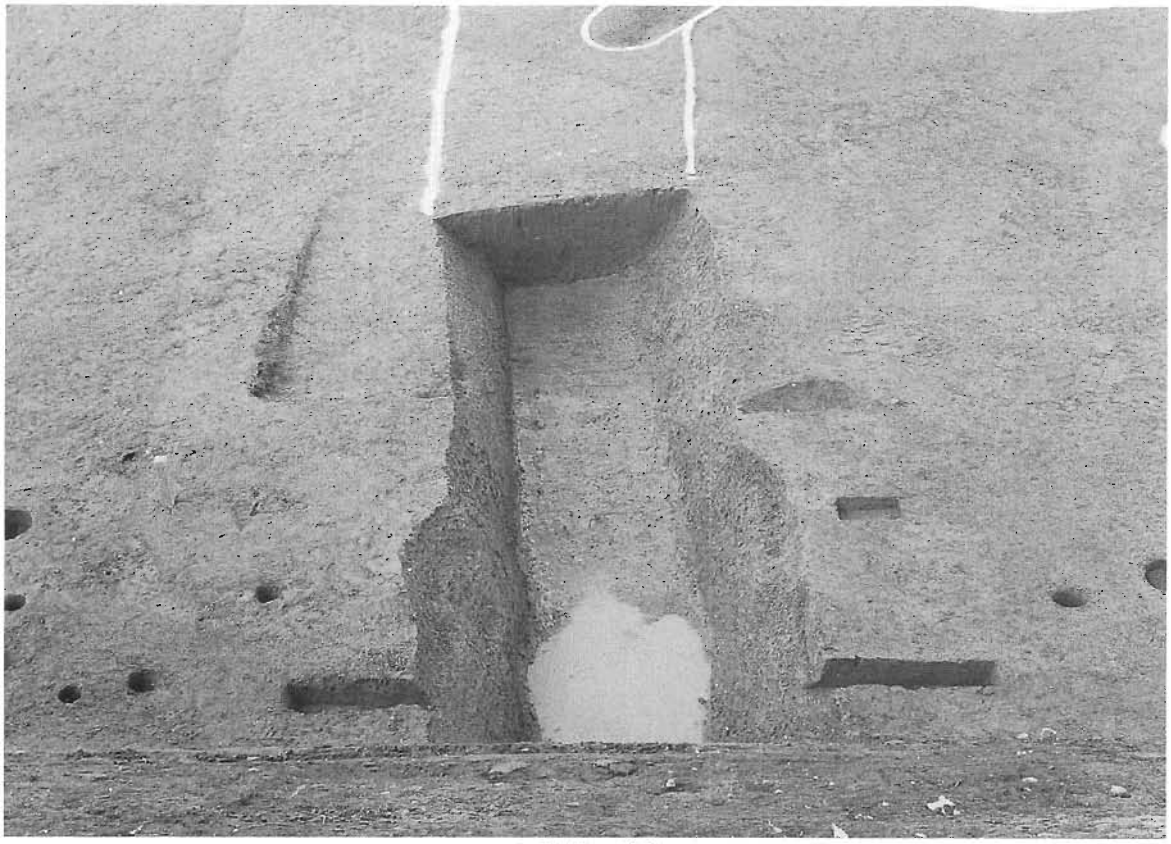


断　面

10号焼土・検出

断　面

写真図版49　7～10号焼土遺構

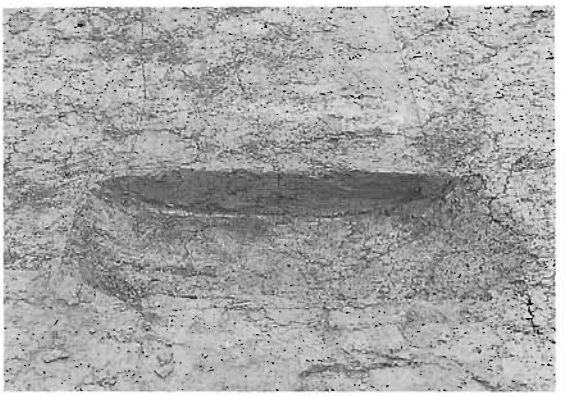


1号堀跡・平面

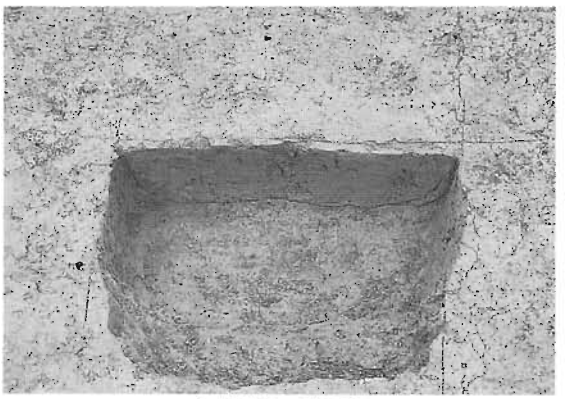
断　面

写真図版50　1号堀跡

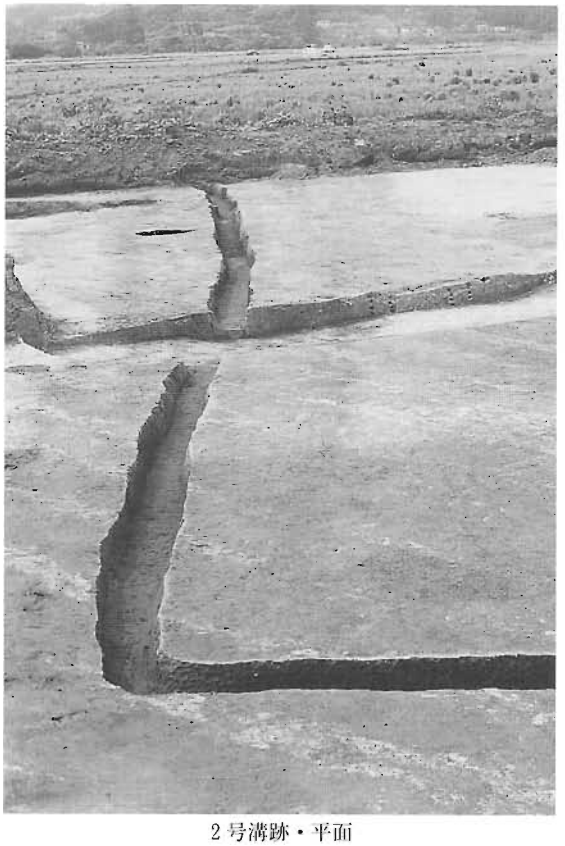
1 号溝跡・平面



1 号溝跡・断面①



1 号溝跡・断面②



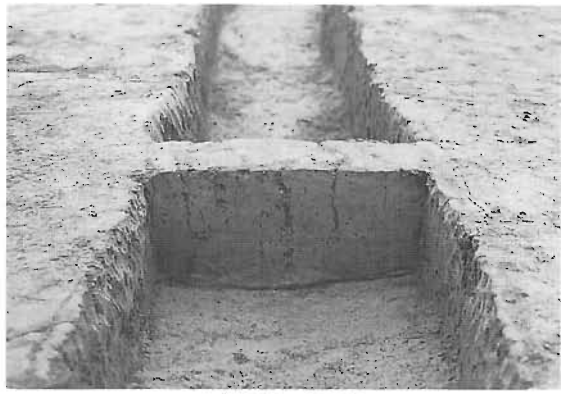
2 号溝跡・平面

2 号溝跡・断面①

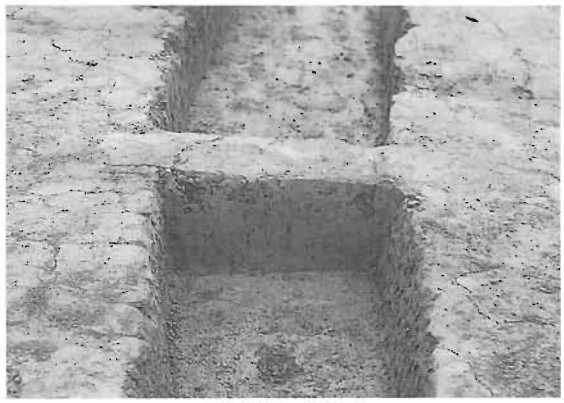
2 号溝跡・断面②

写真図版51　1・2 号溝跡

3 号溝跡・平面

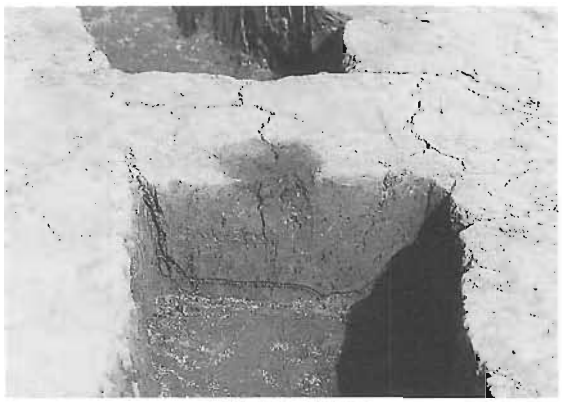


3 号溝跡・断面①

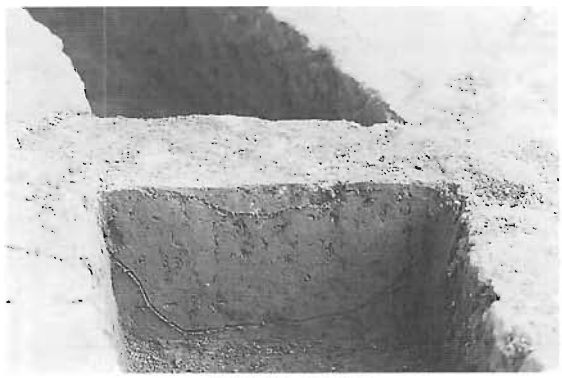


3 号溝跡・断面②

4 号溝跡・平面



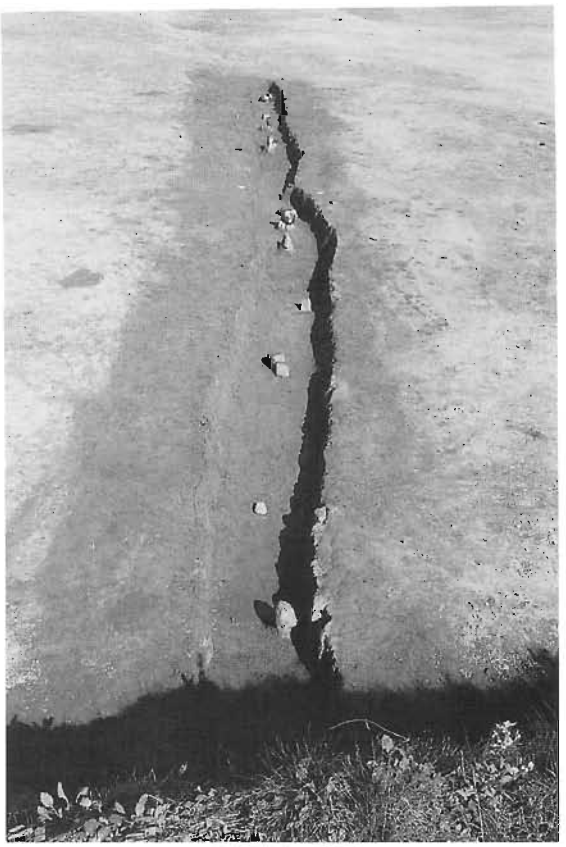
4 号溝跡　断面①



4 号溝跡・断面②

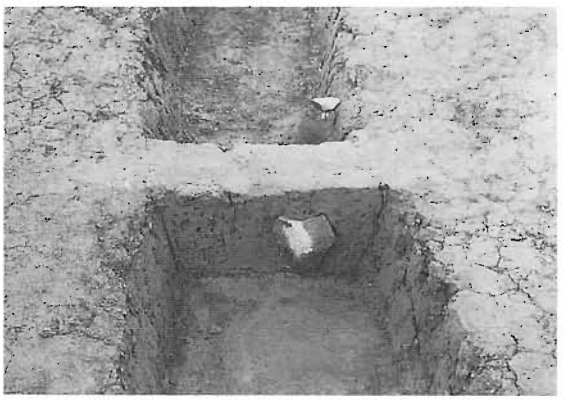
写真図版52　3・4 号溝跡

5号溝跡・平面

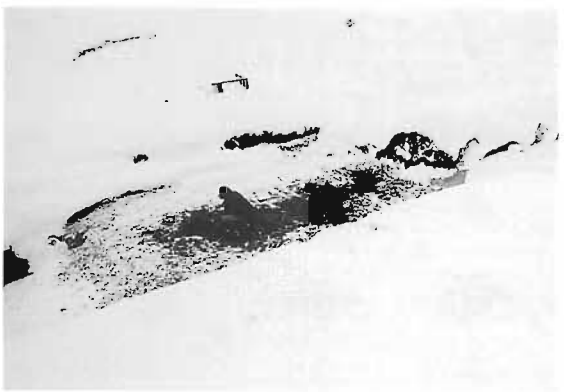


6号溝跡・平面

現地説明会風景



6号溝跡・断面



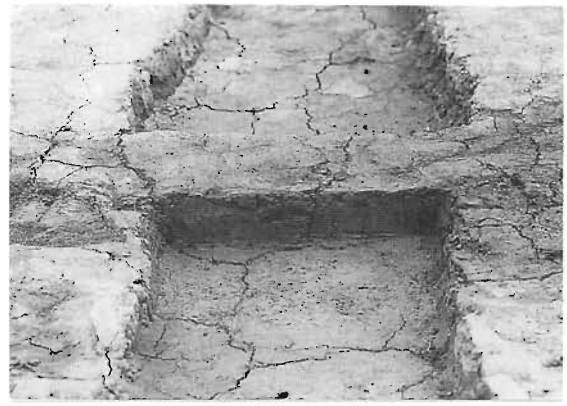
作業風景（12月中旬）

調査区風景（12月中旬）

写真図版53　5・6号溝跡

7 号溝跡・平面

7 号溝跡・断面①

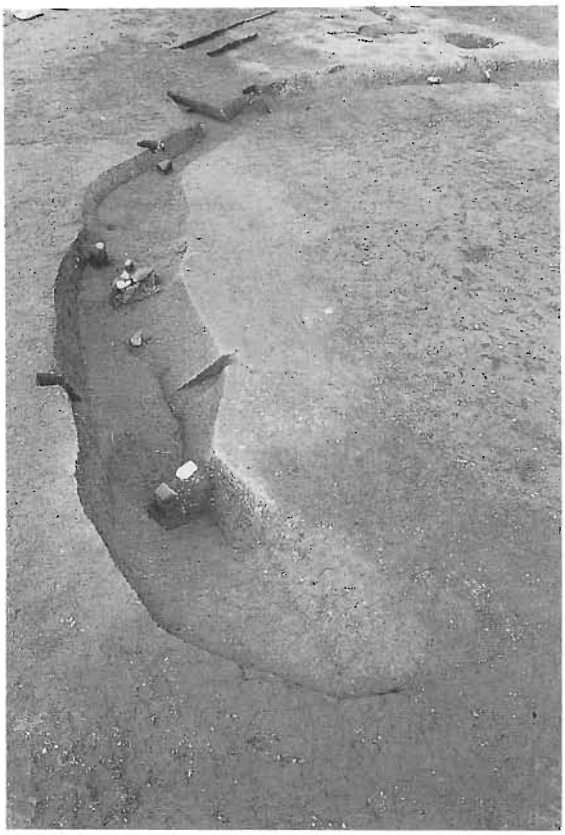


7 号溝跡・断面②

8 号溝跡・平面

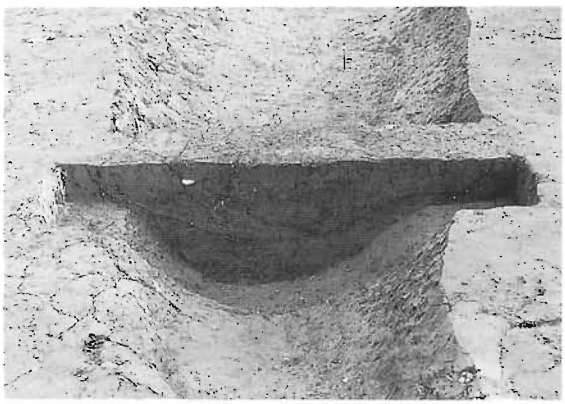
8 号溝跡・断面

写真図版54　7・8 号溝跡



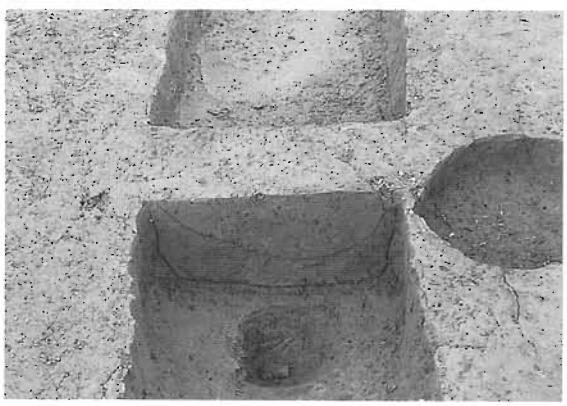
9 号溝跡・平面

9 号溝跡・断面①



9 号溝跡・断面②

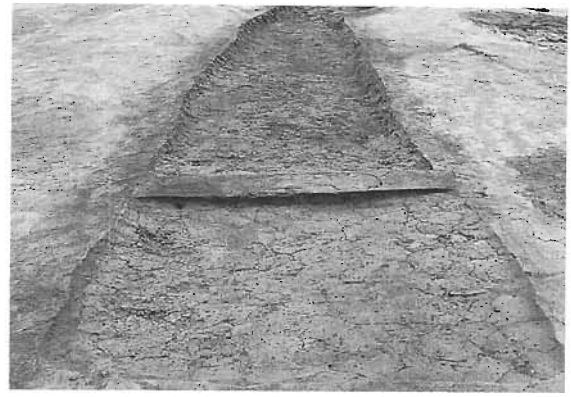
10号溝跡・平面



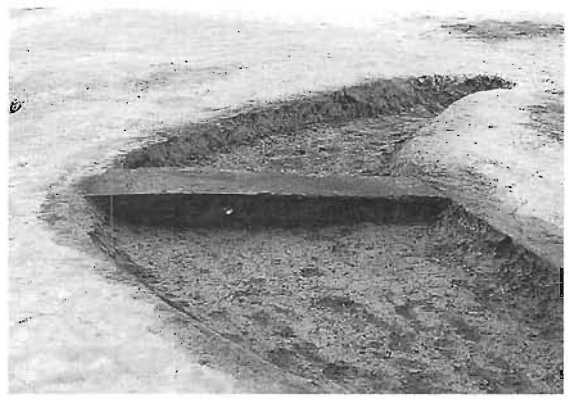
10号溝跡・断面

写真図版55　9・10号溝跡

東端部・平面

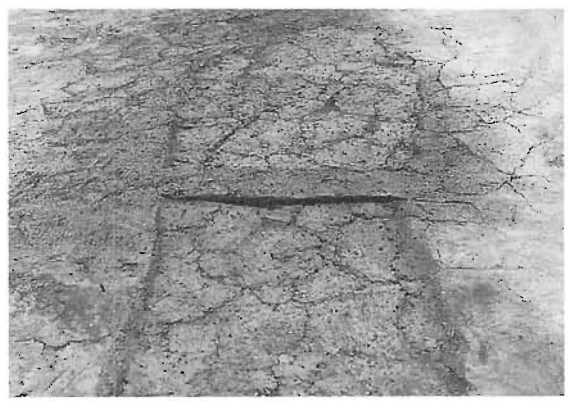


断面①



断面②

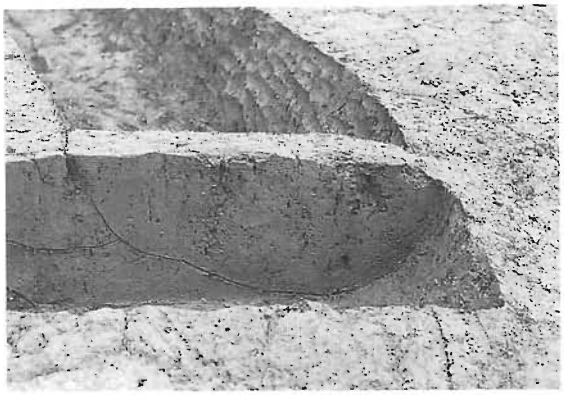
西部・平面



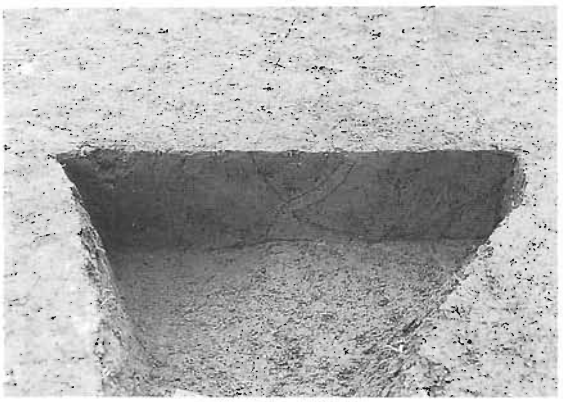
断面③

写真図版56　11号溝跡

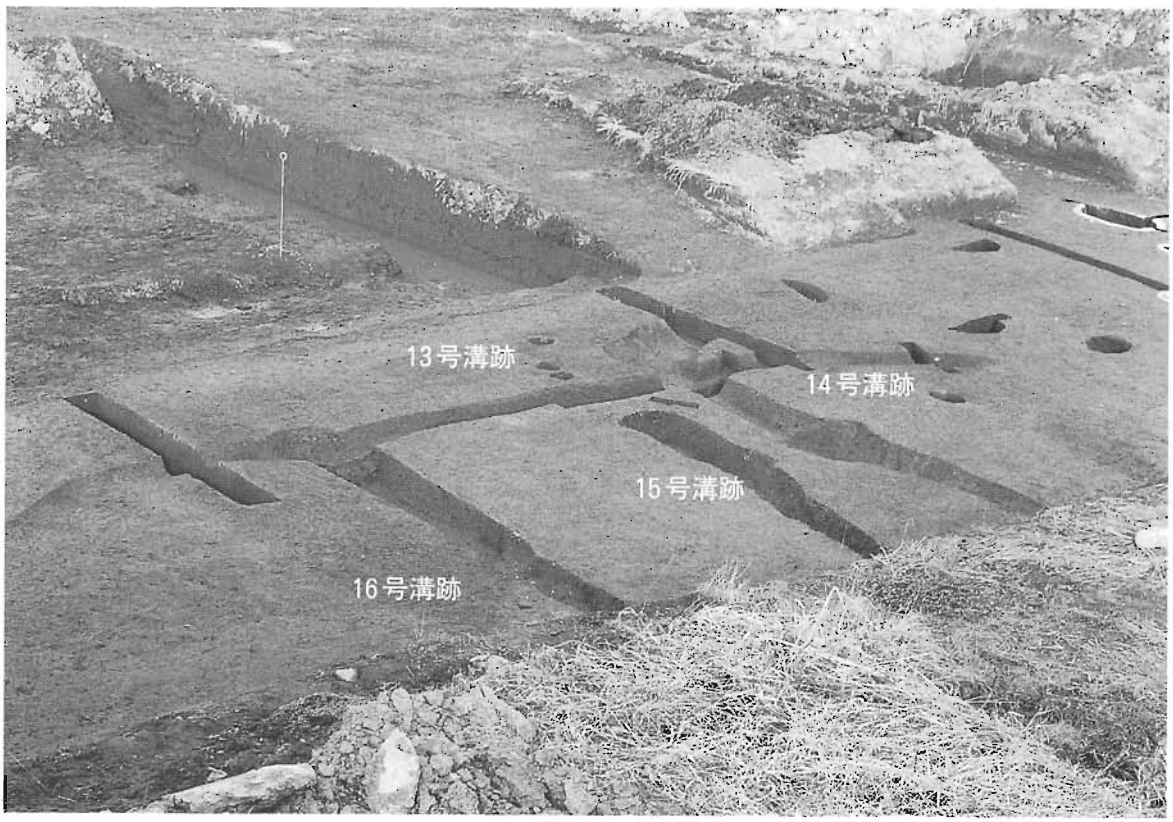
12号溝跡・平面



12号溝跡・断面①

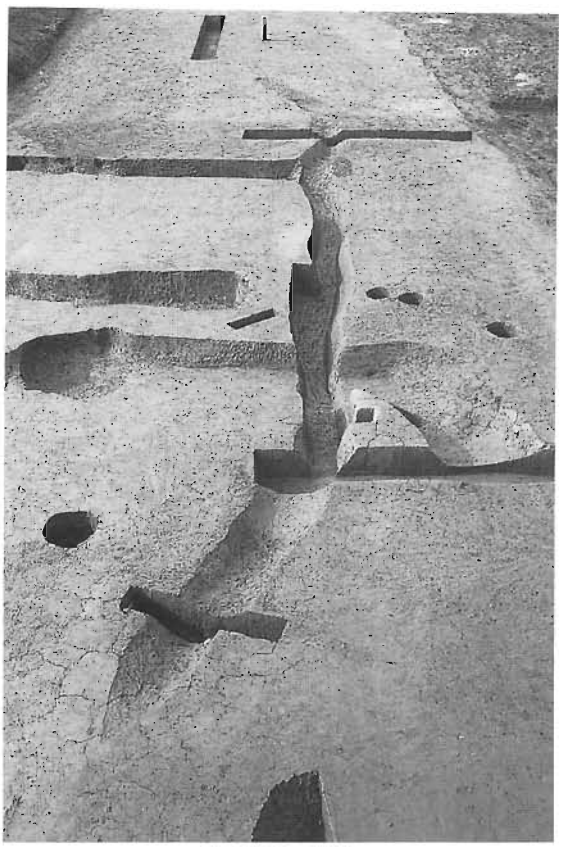


12号溝跡・断面②

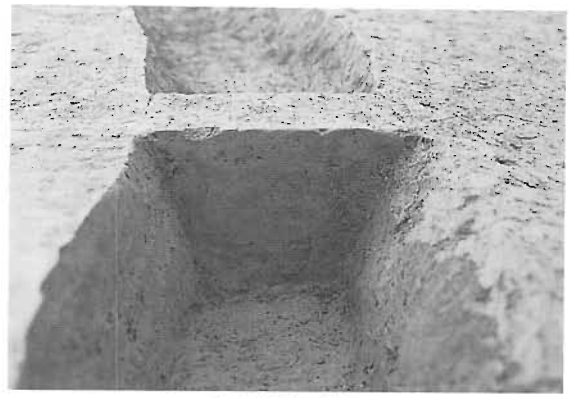


13～16号溝跡・平面

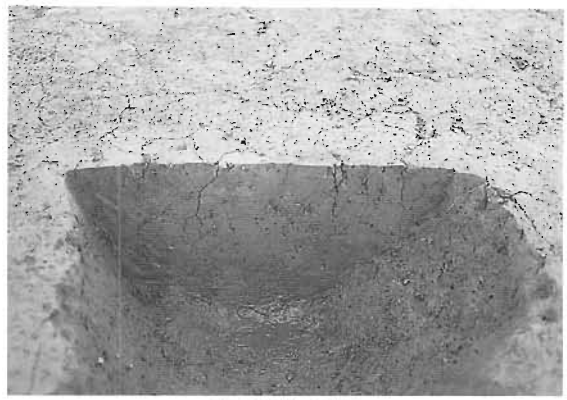
写真図版57　12～16号溝跡



13号溝跡・平面

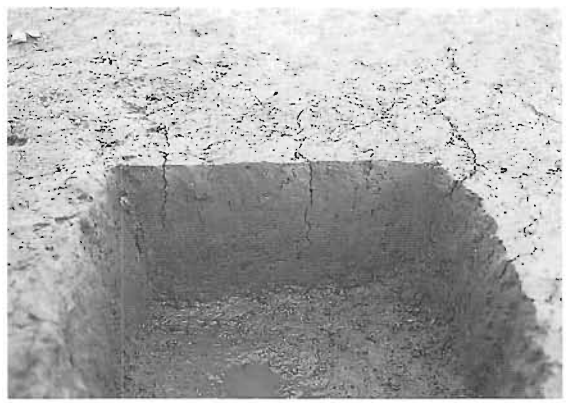


13号溝跡・断面

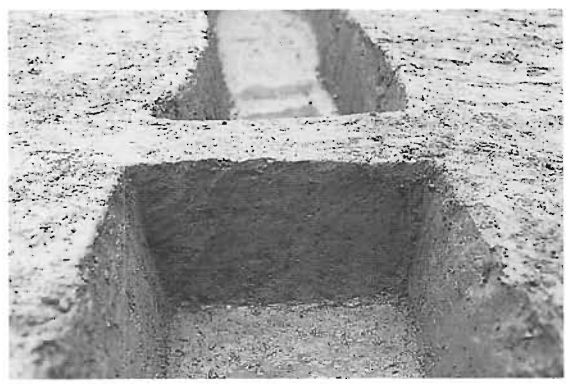


15号溝跡・断面

17号溝跡・平面

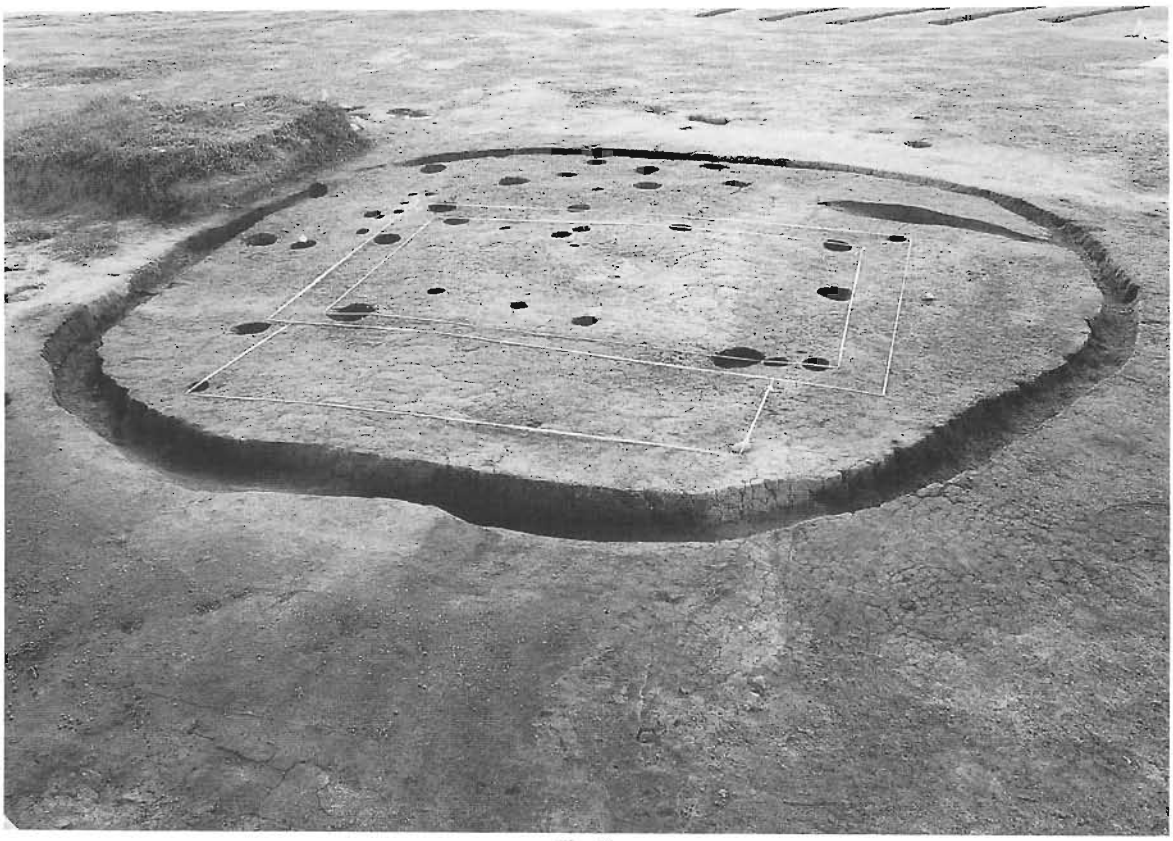


16号溝跡・断面

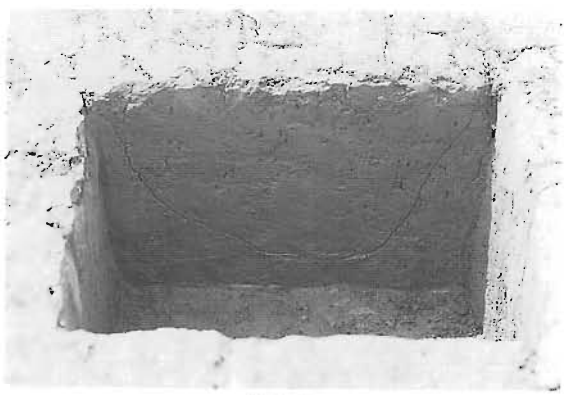


17号溝跡・断面

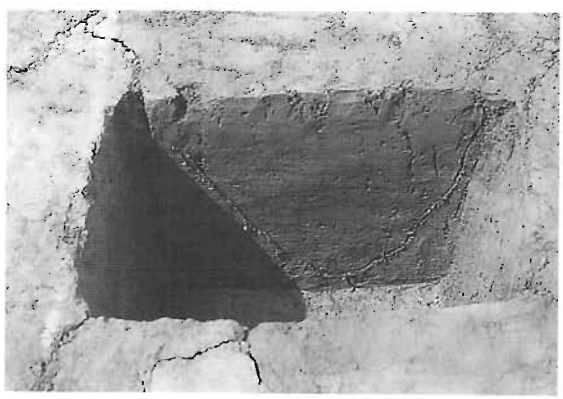
写真図版58　13・15～17号溝跡



平　面

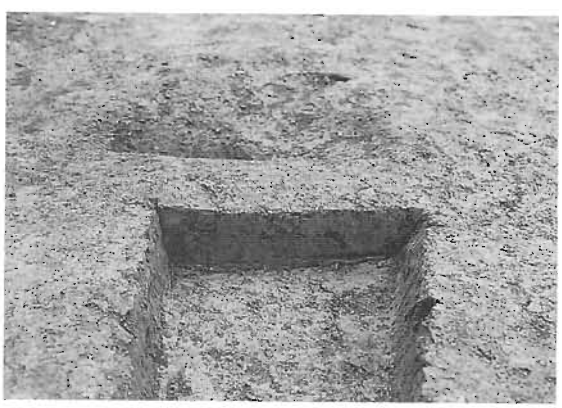


断面①



断面②

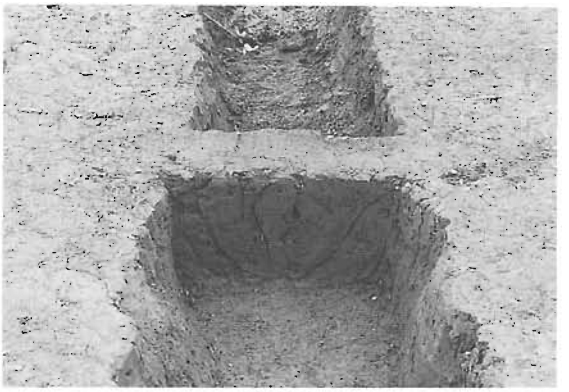
断面③



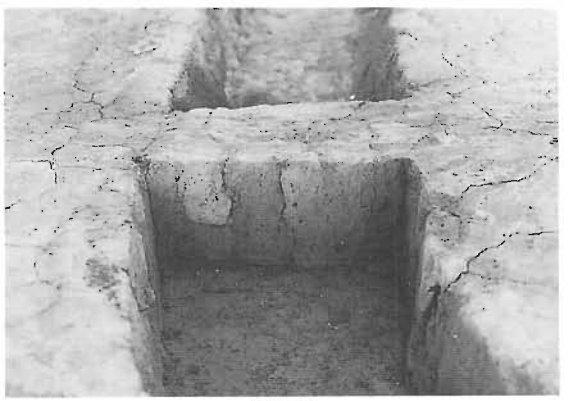
断面④

写真図版59　1号周溝

西側・平面



断面①



断面②

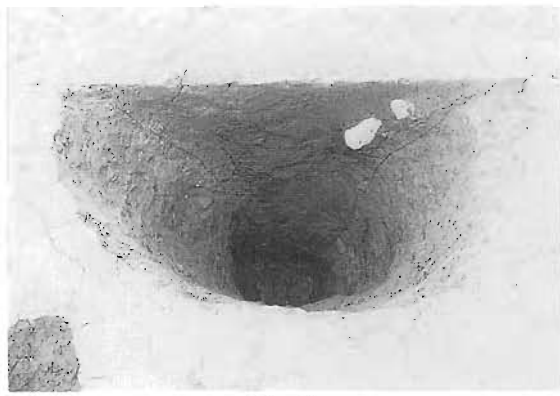
南側・平面

断面③

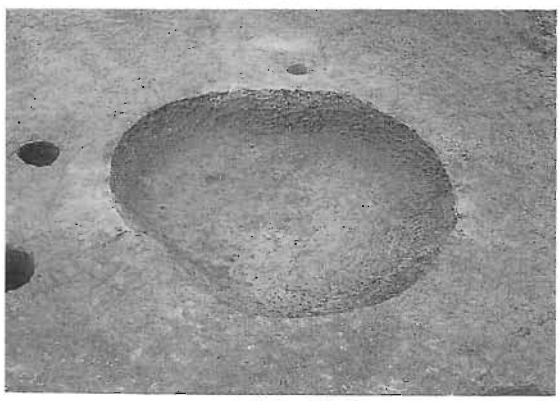
断面④

写真図版60　2号周溝

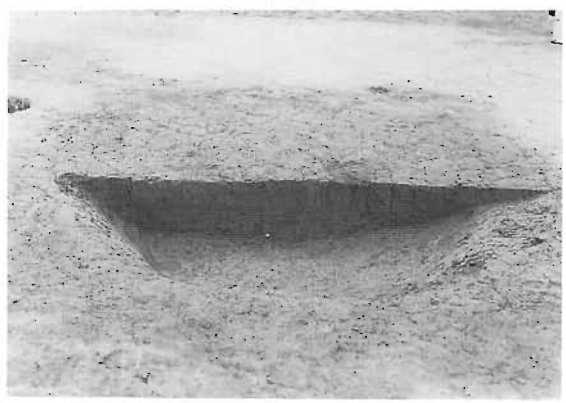
1号墓壙・平面



断　面



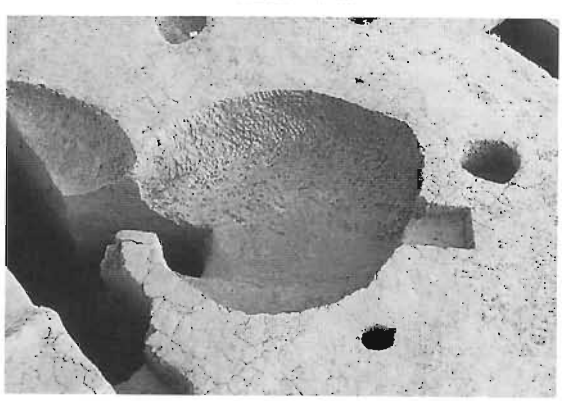
2号墓壙・平面



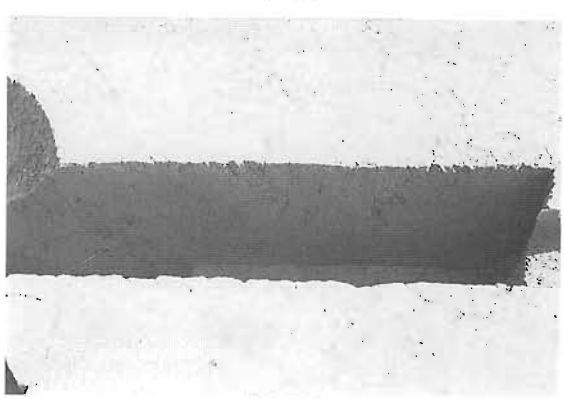
断　面

3号墓壙・平面

断　面

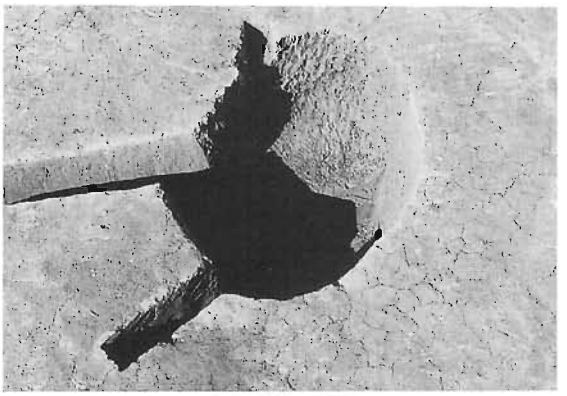


4号墓壙・平面

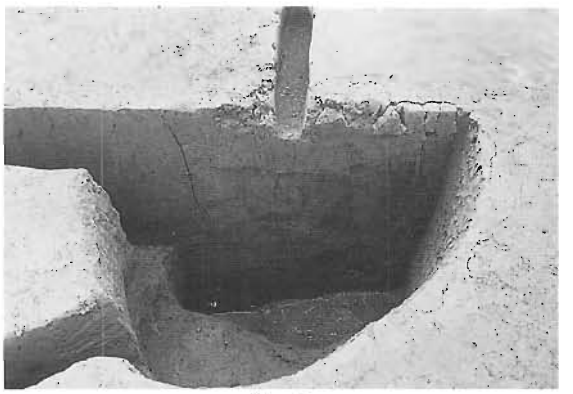


断　面

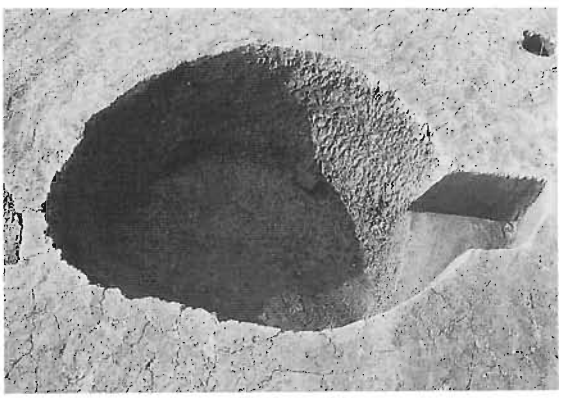
写真図版61　1～4号墓壙



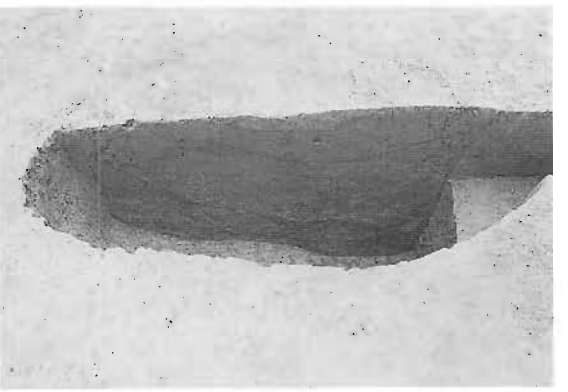
5 号墓壙・平面



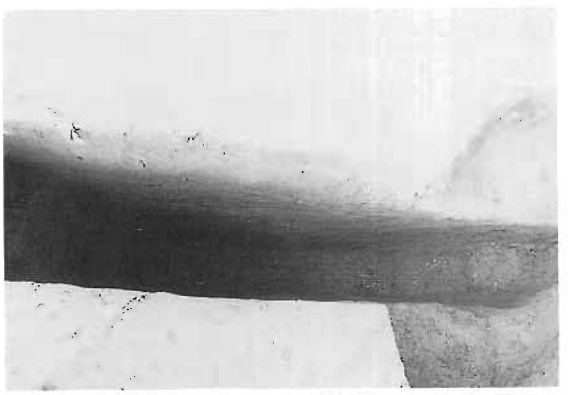
断　面



7 号墓壙・平面

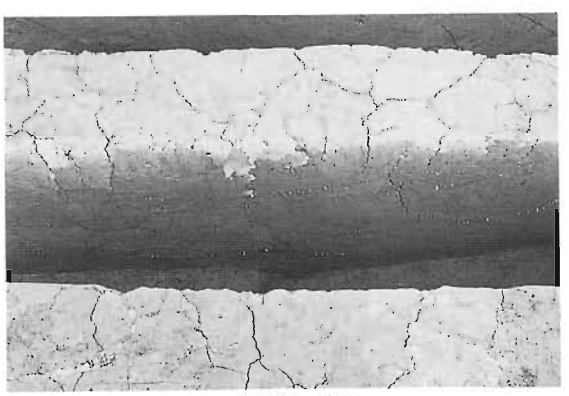


断　面

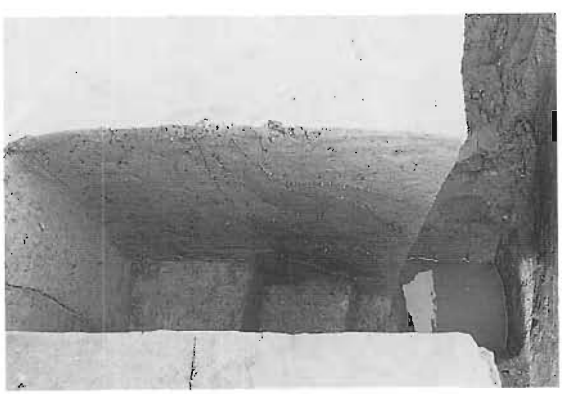


6 号墓壙・断面

6 号墓壙・遺物出土状況



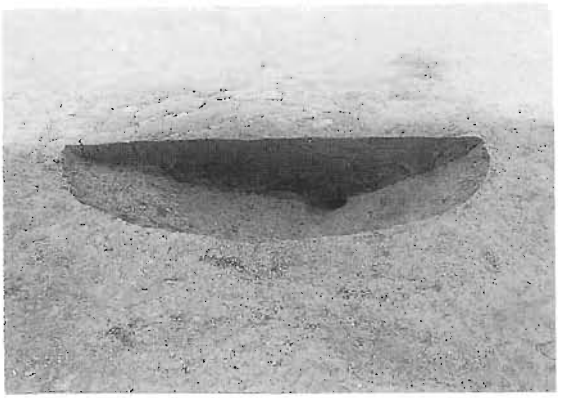
8 号墓壙・断面



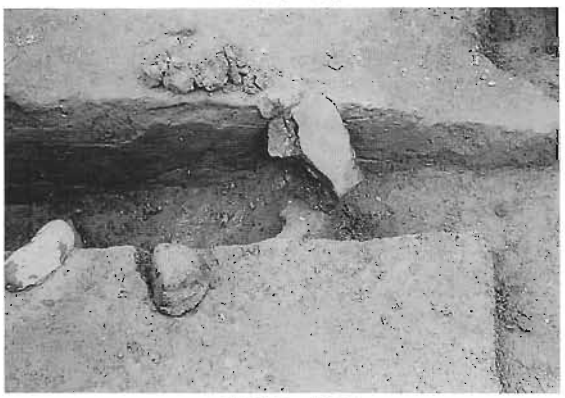
9 号墓壙・断面

写真図版62　5 ～ 9 号墓壙

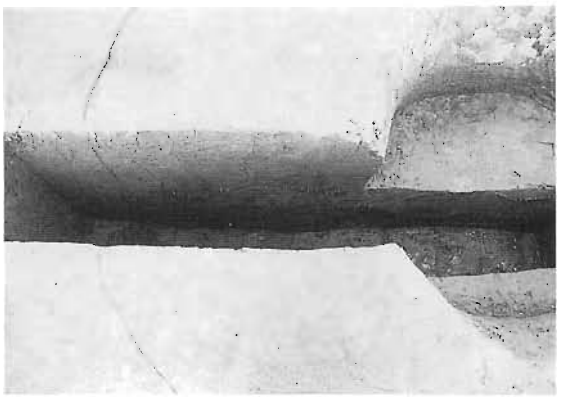
10号墓壙・平面



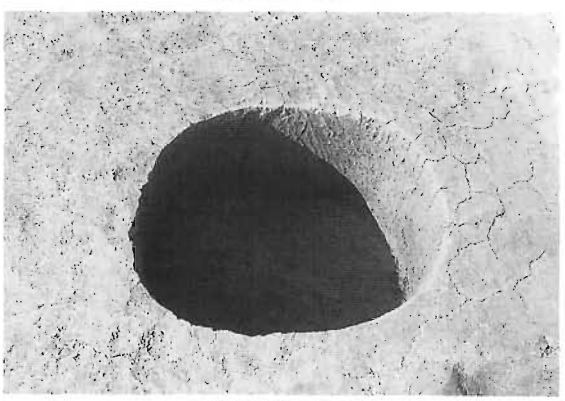
断　面



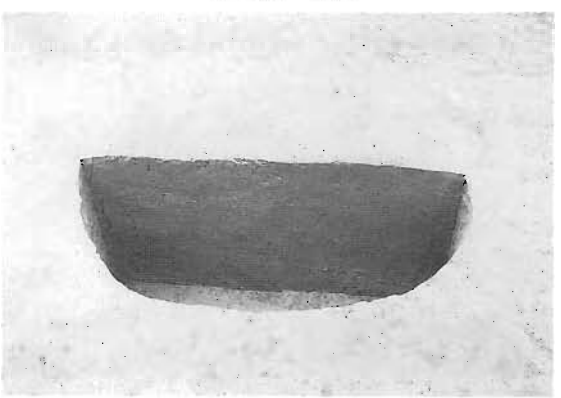
12号墓壙・断面



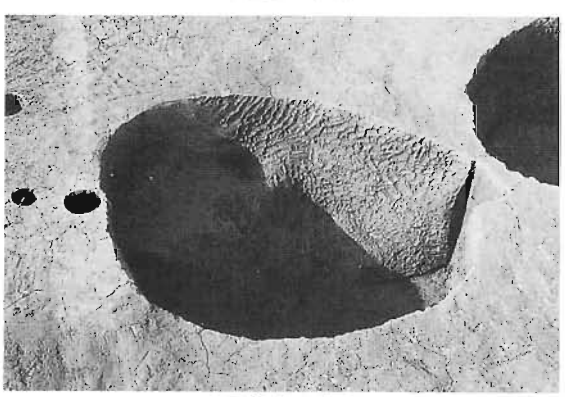
14号墓壙・断面



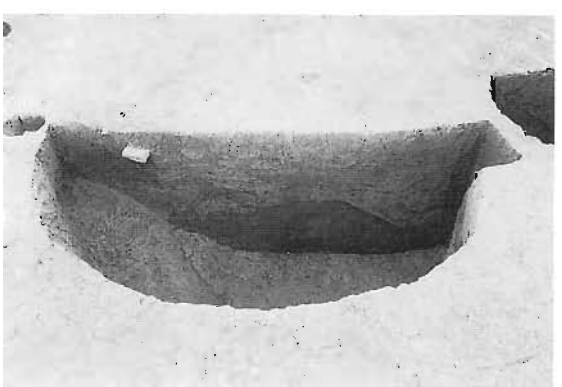
13号墓壙・平面



断　面



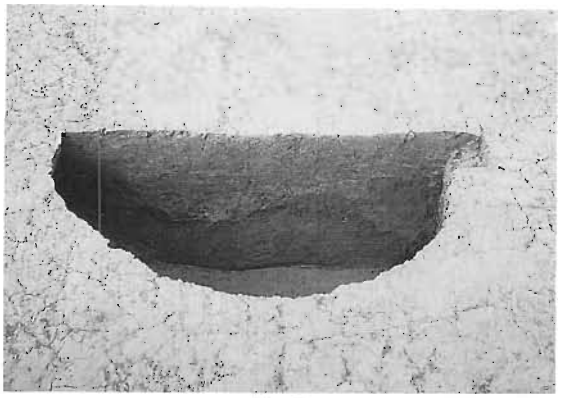
15号墓壙・平面



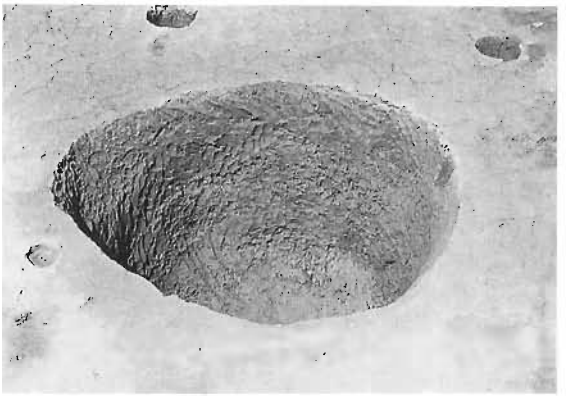
断　面

写真図版63　10・12～15号墓壙

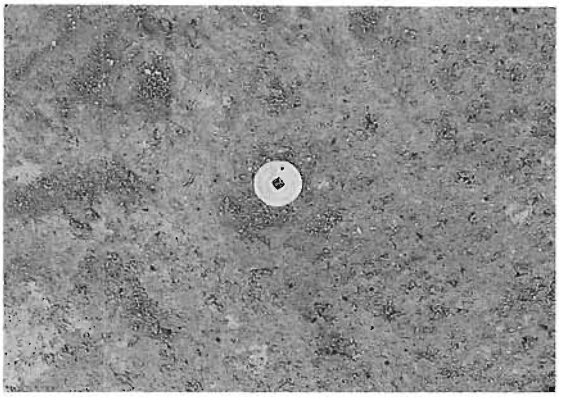
16号墓壙・平面



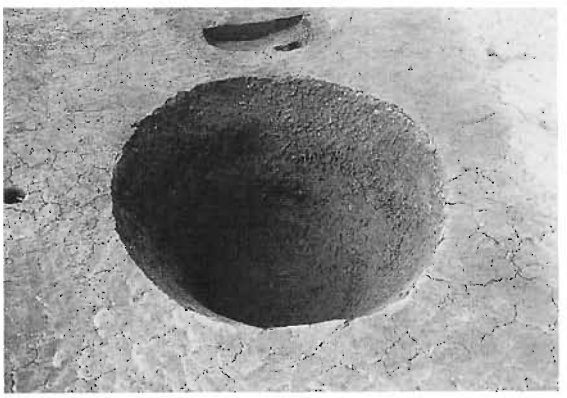
断　面



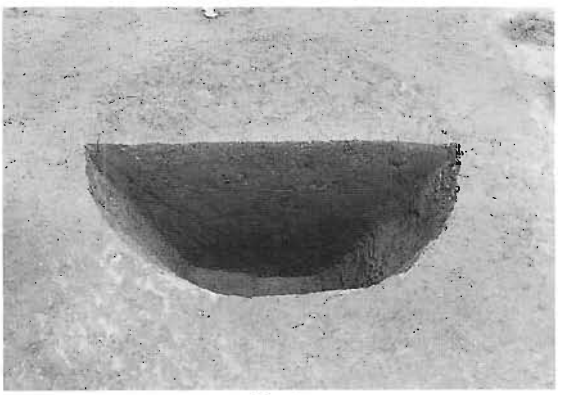
17号墓壙・平面



18号墓壙・遺物出土状況

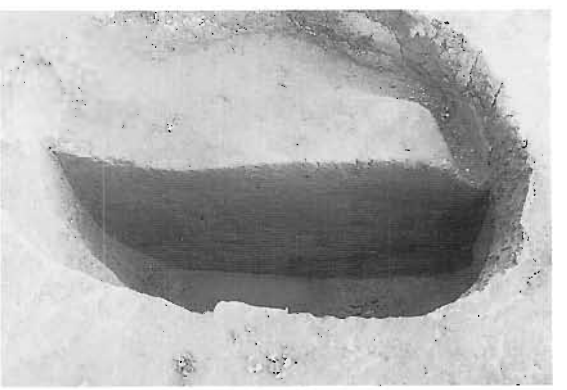


18号墓壙・平面



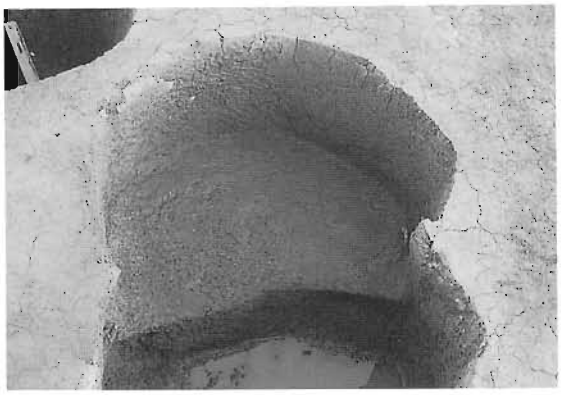
断　面

19号墓壙・平面

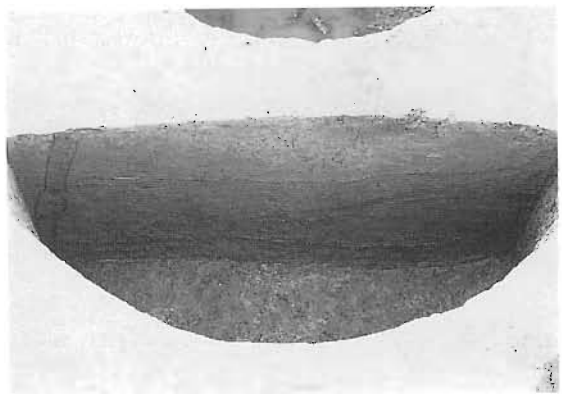


断　面

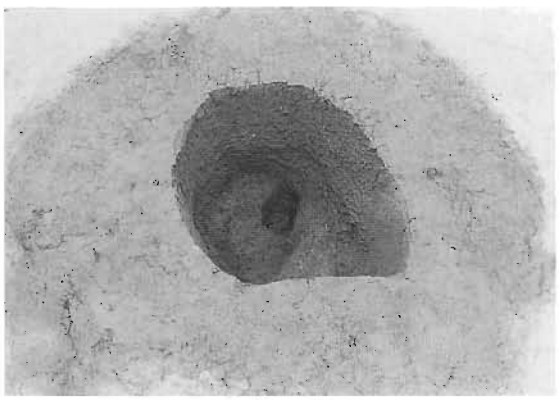
写真図版64　16～19号墓壙



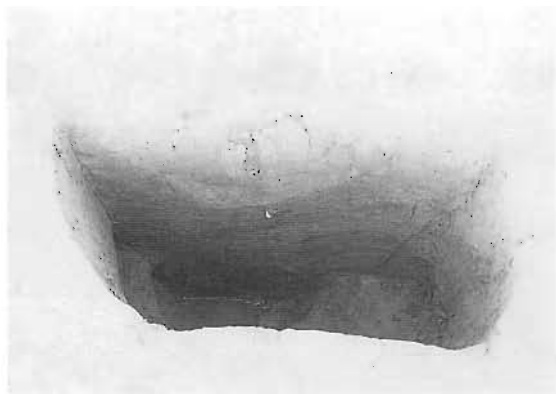
20号墓壙・平面



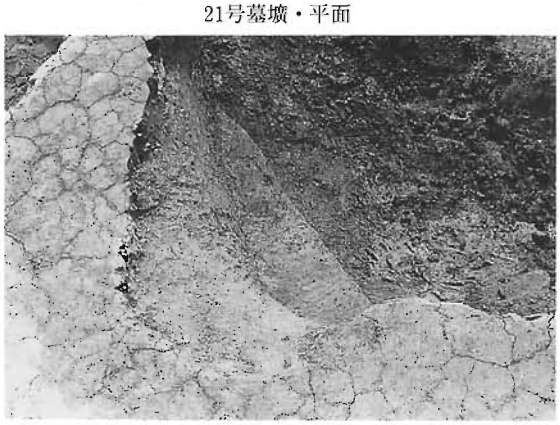
断　面



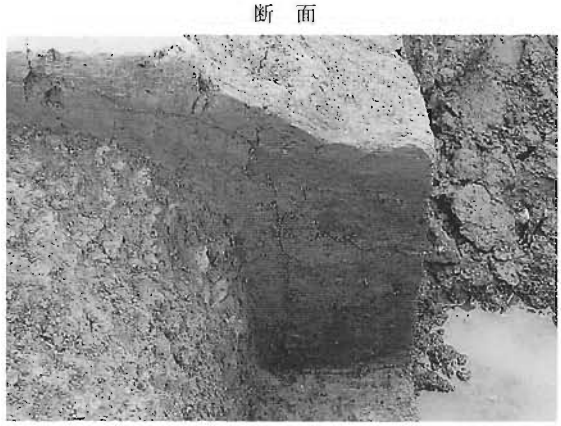
21号墓壙・平面



断　面

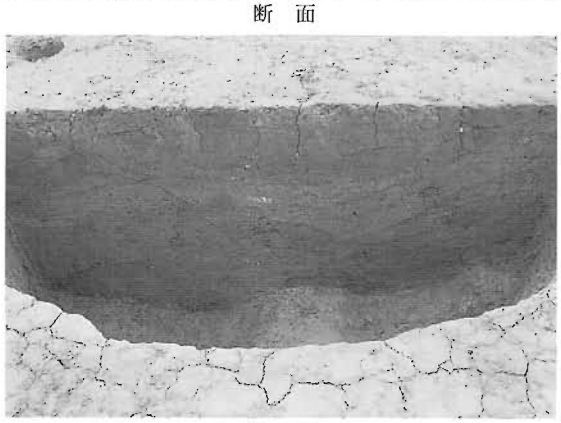


22号墓壙・平面



断　面

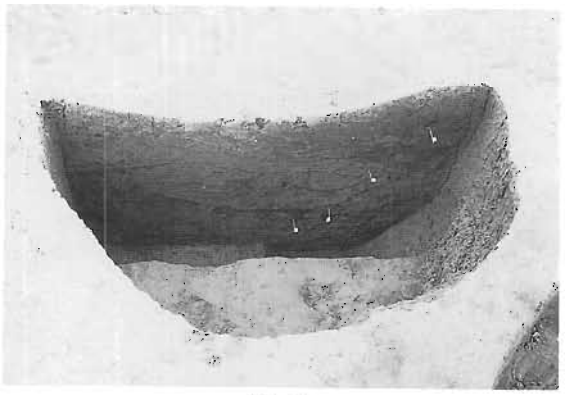
23号墓壙・平面



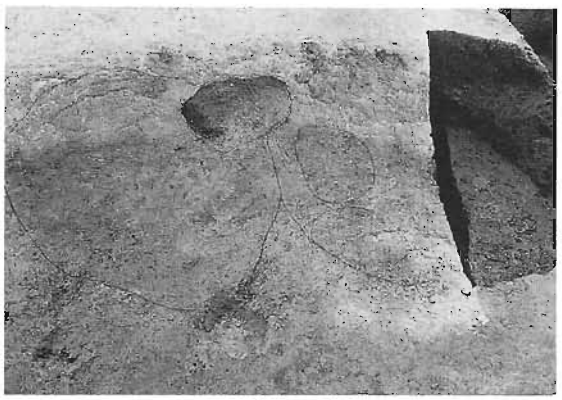
断　面

写真図版65　20～23号墓壙

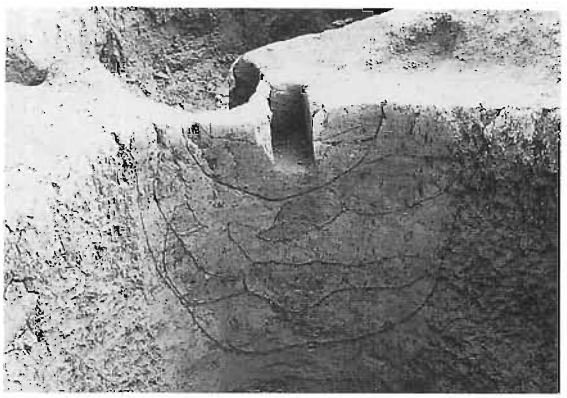
24号墓壙・平面



断　面

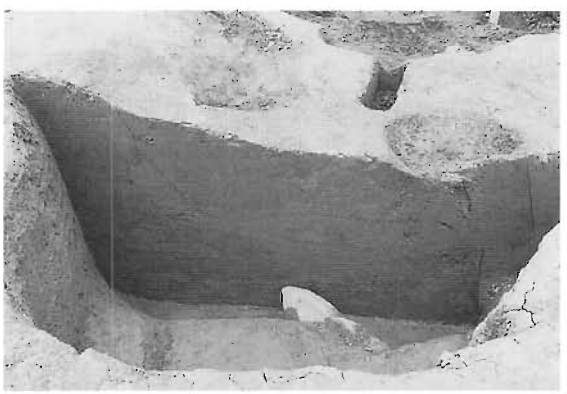


25号墓壙・平面



断　面

27号墓壙・遺物出土状況



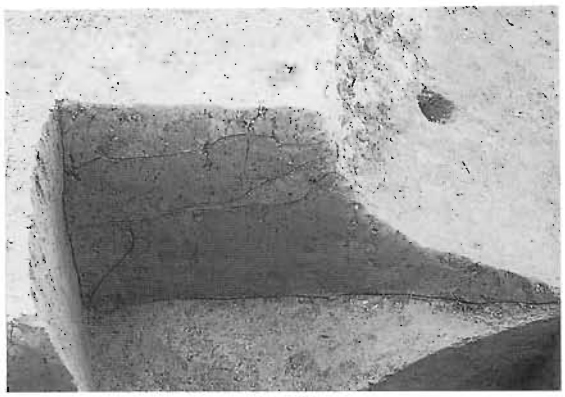
断　面

28号墓壙・平面

断　面

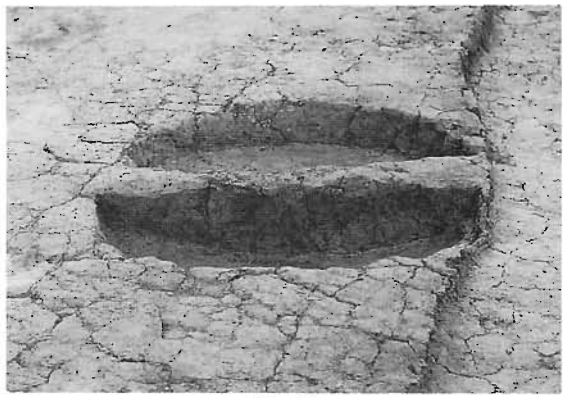
写真図版66　　24・25・27・28号墓壙

29号墓壙・平面

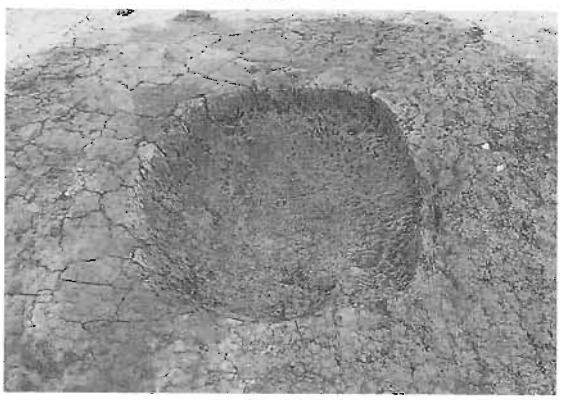


断　面

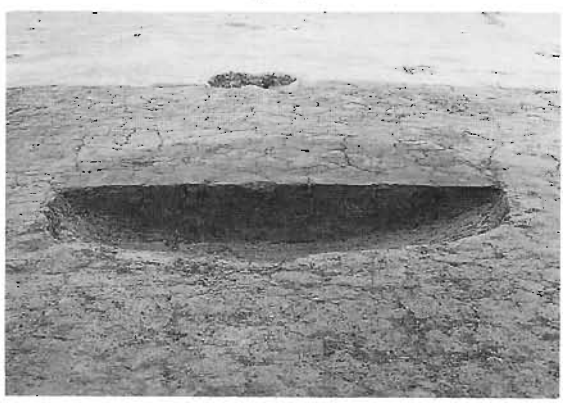
30号墓壙・平面



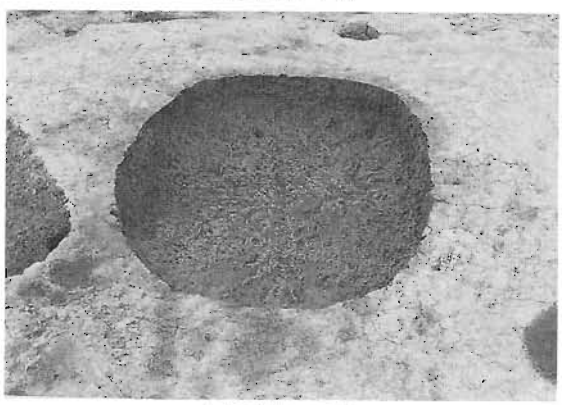
断　面



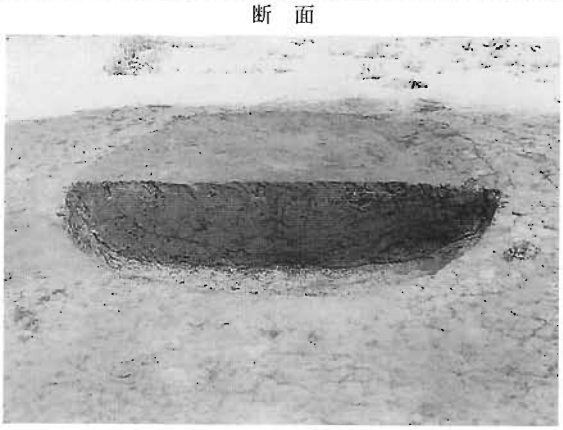
31号墓壙・平面



断　面



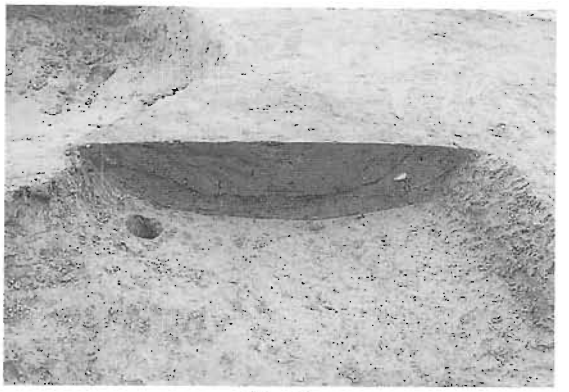
32号墓壙・平面



断　面

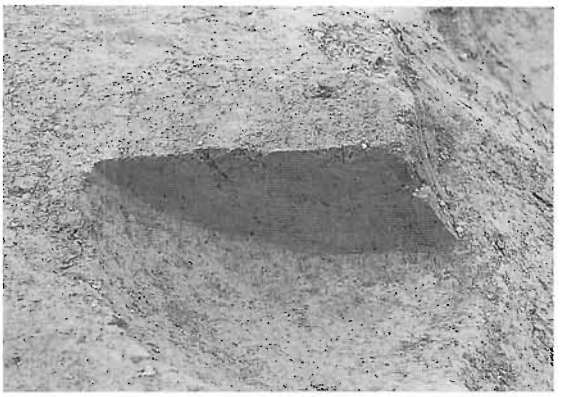
写真図版67　29～32号墓壙

33号墓壙・平面

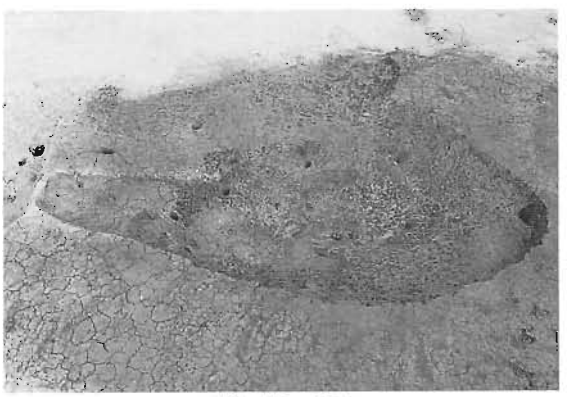


断　面

34号墓壙・平面



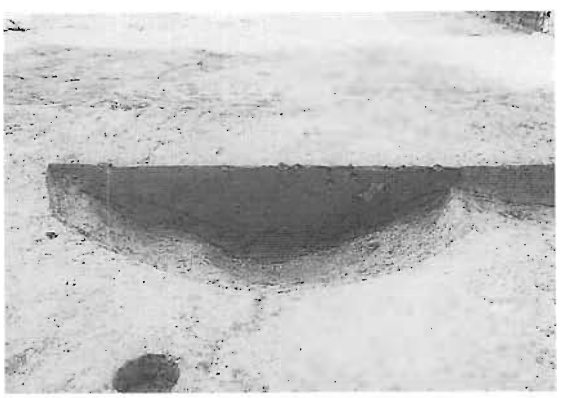
断　面



35号墓壙・平面

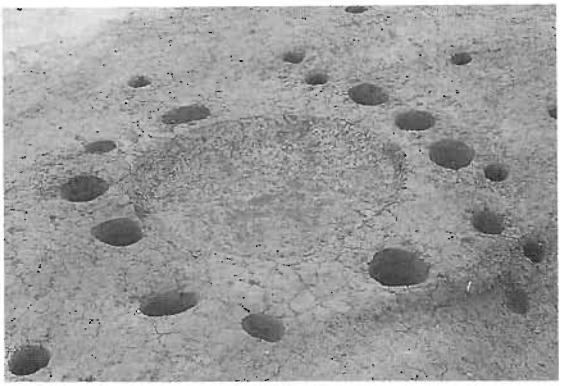
断　面

36号墓壙・平面

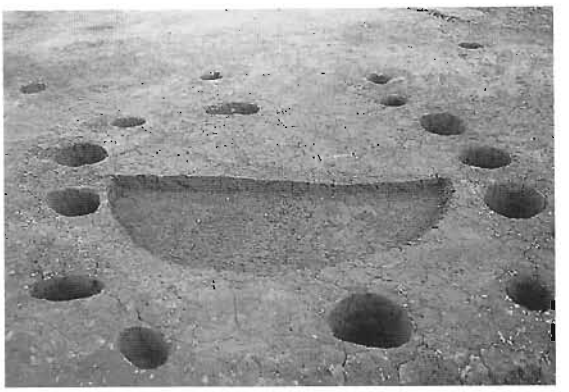


断　面

写真図版68　33～36号墓壙

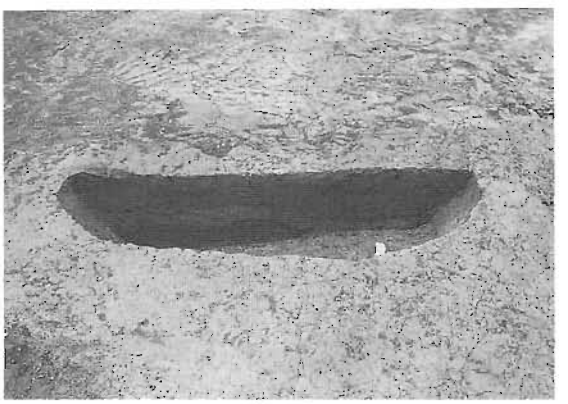


37号墓壙・平面



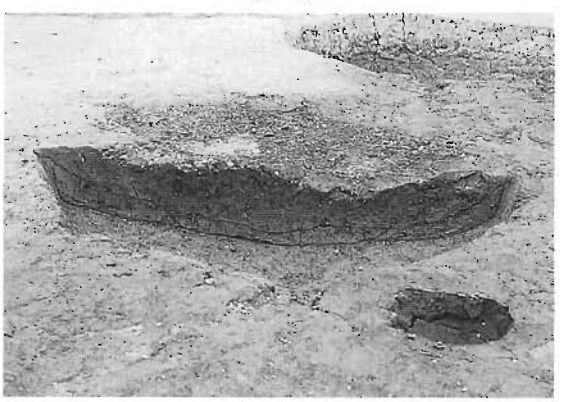
断　面

38号墓壙・平面



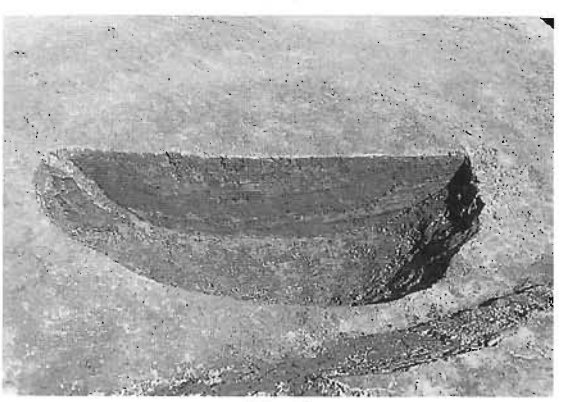
断　面

39号墓壙・平面



断　面

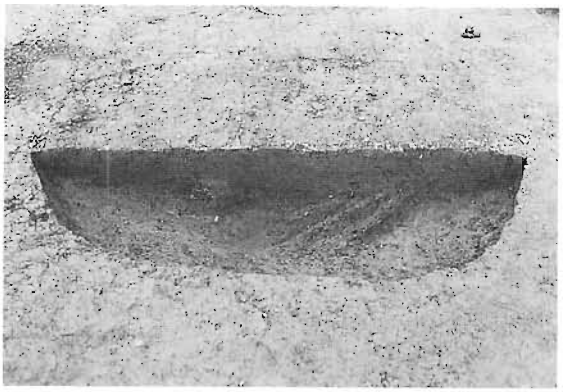
40号墓壙・平面



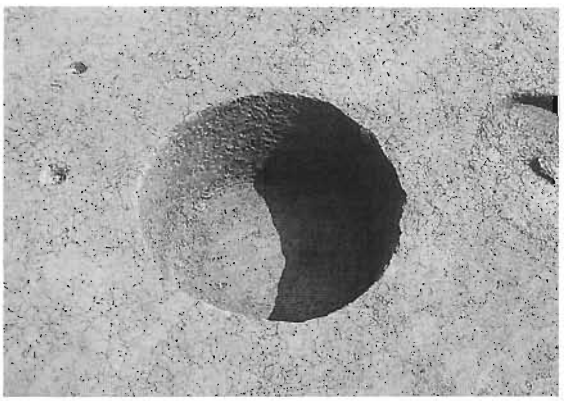
断　面

写真図版69　37～40号墓壙

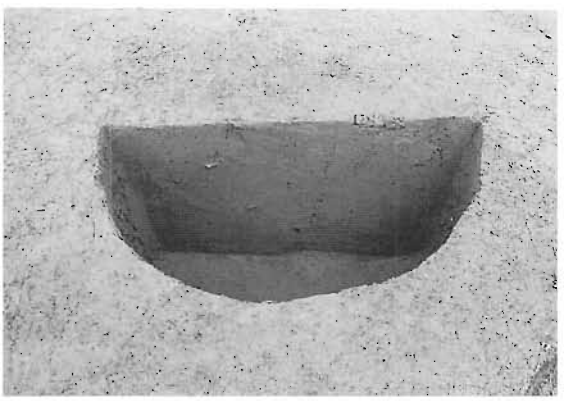
41号墓壙・平面



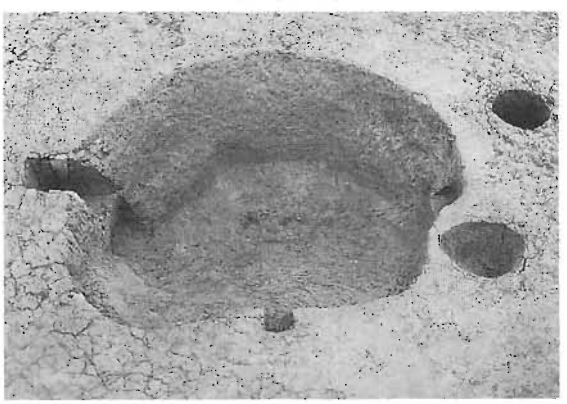
断　面



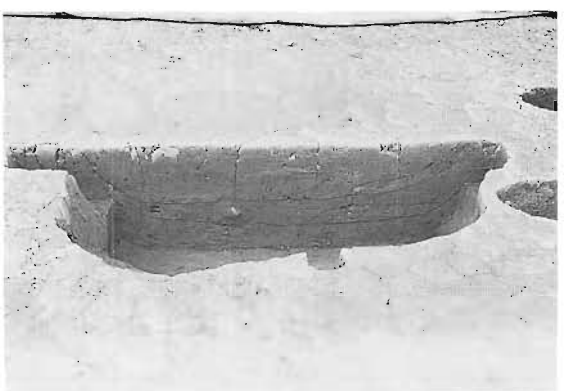
42号墓壙・平面



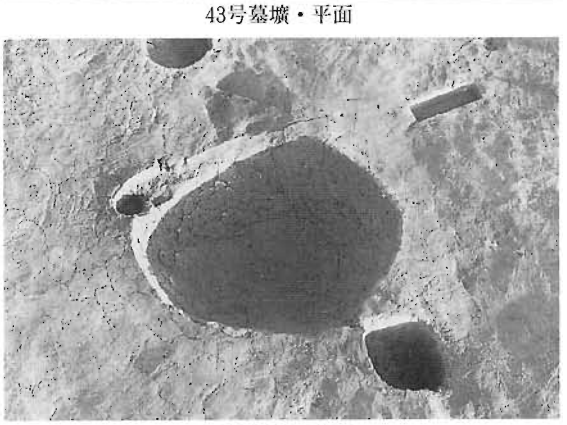
断　面



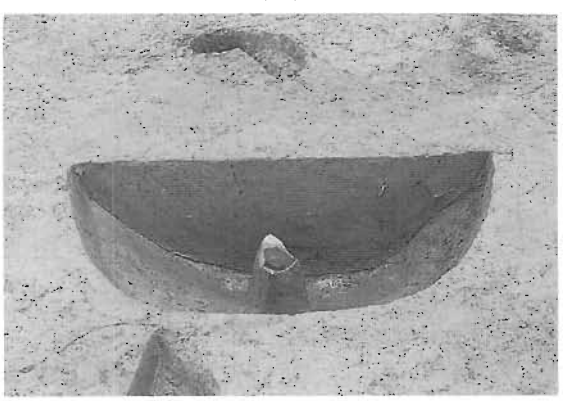
43号墓壙・平面



断　面

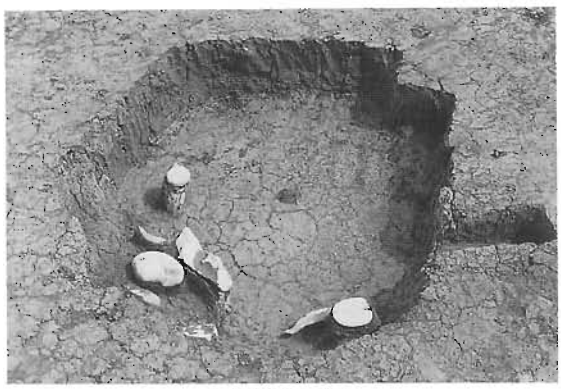


44号墓壙・平面

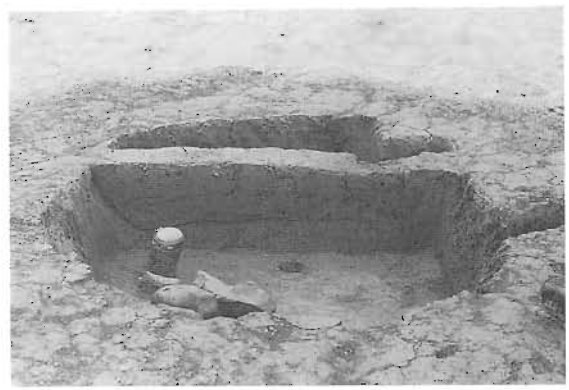


断　面

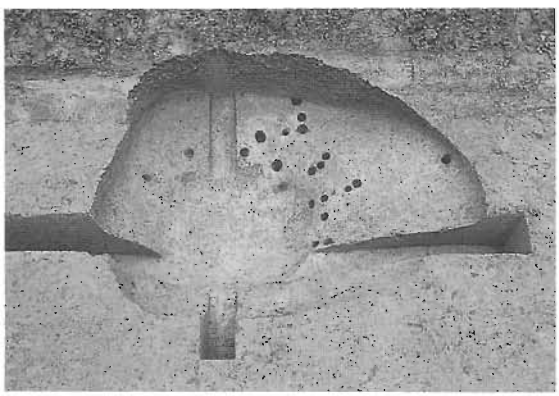
写真図版70　41～44号墓壙



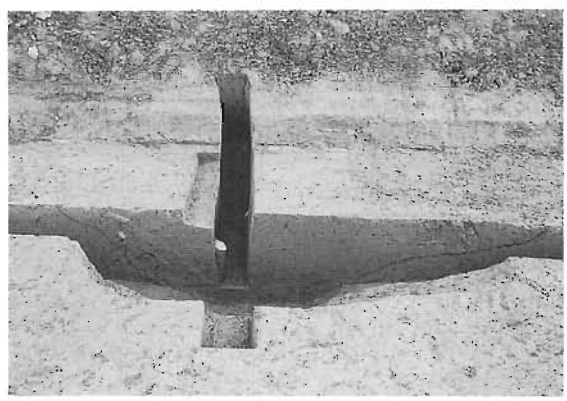
46号墓壙・平面



断　面

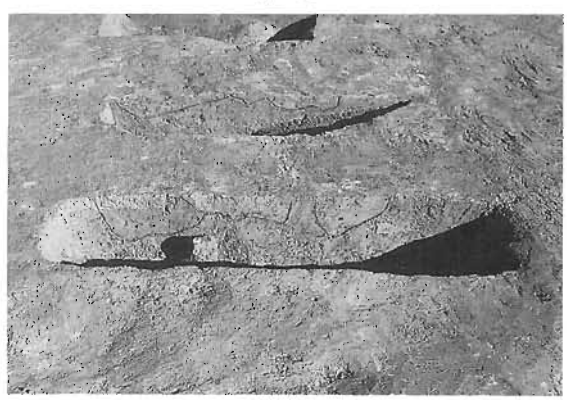


47号墓壙・平面

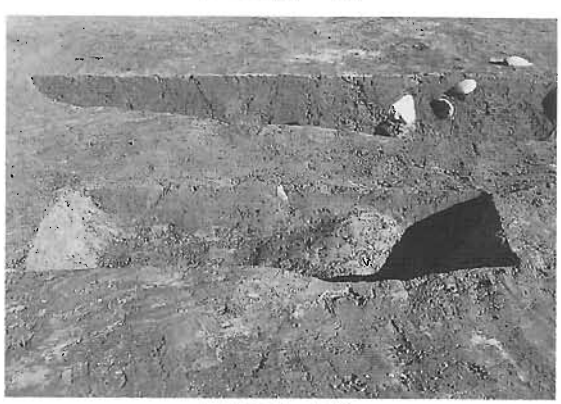


断　面

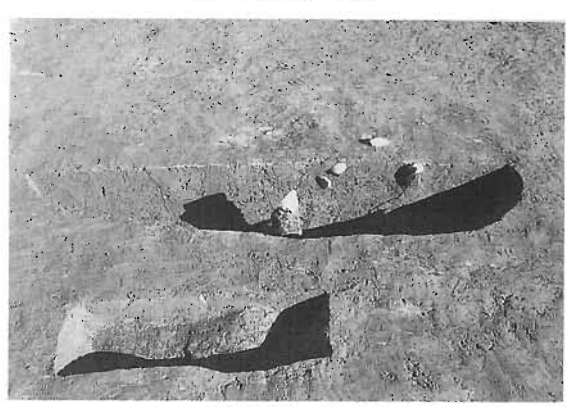
48～51墓壙・平面



48・49号墓壙・断面

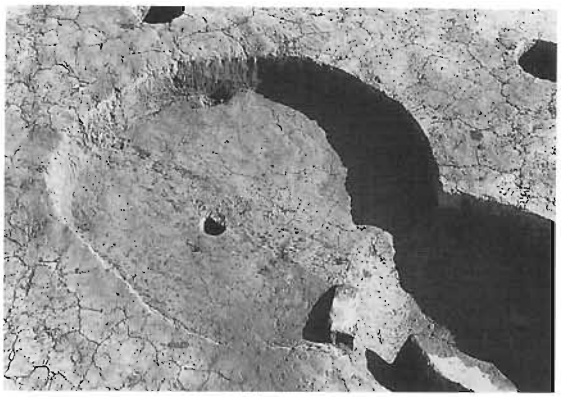


50号墓壙・断面

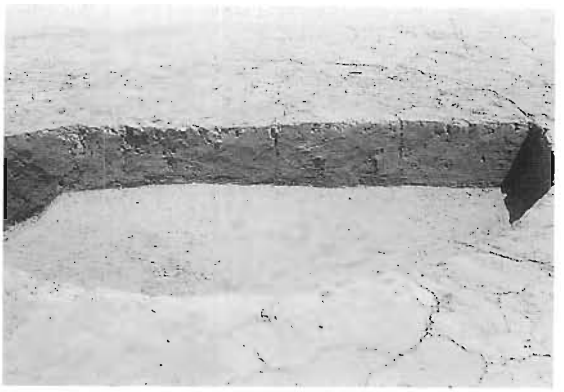


51号墓壙・断面

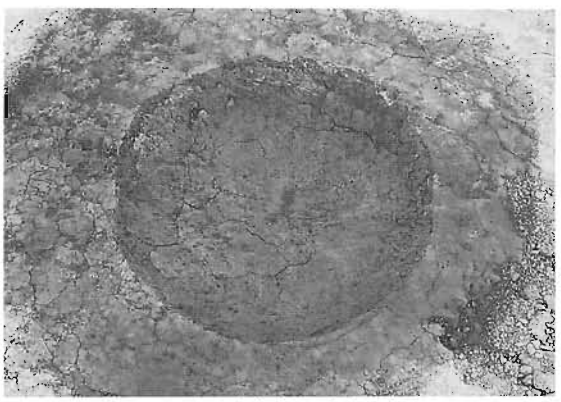
写真図版71　46～51号墓壙



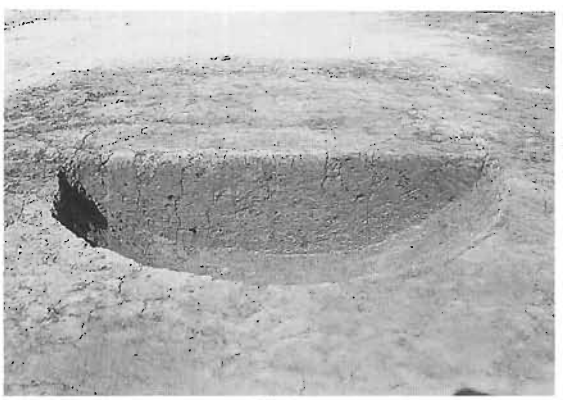
52号墓壙・平面



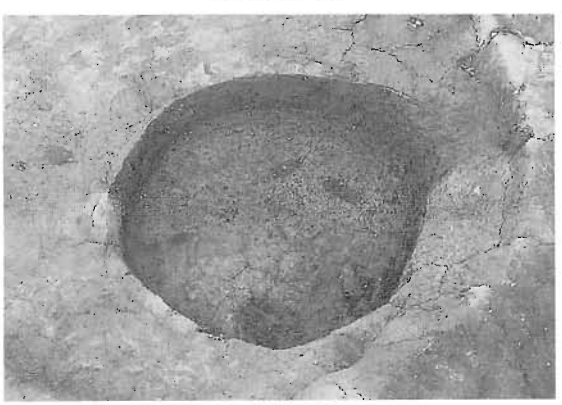
断　面



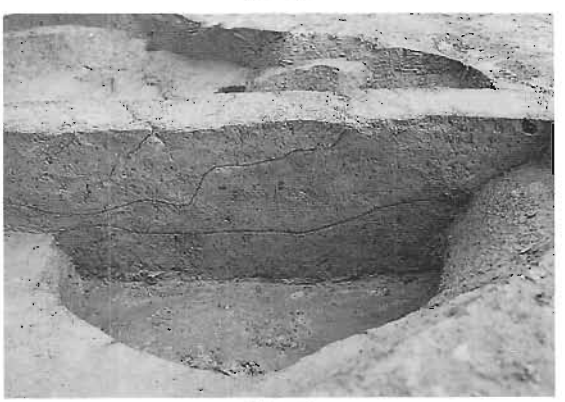
53号墓壙・平面



断　面



54号墓壙・平面



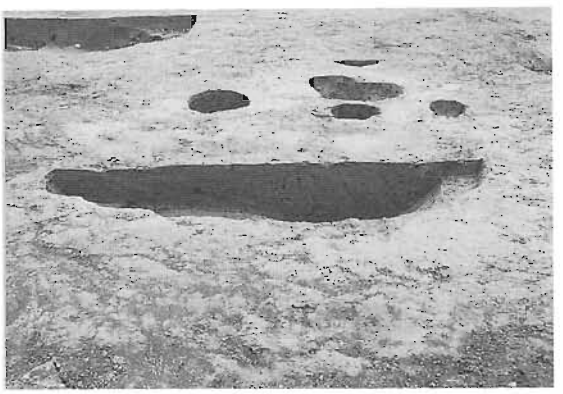
断　面

55号墓壙・平面

断　面

写真図版72　52～55号墓壙

56号墓壙・平面

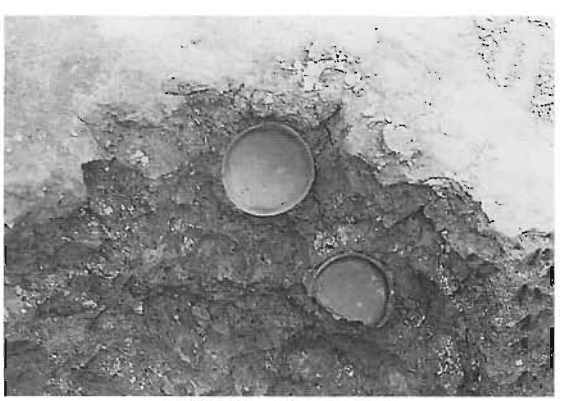


断　面

23号墓壙・火葬骨出土状況

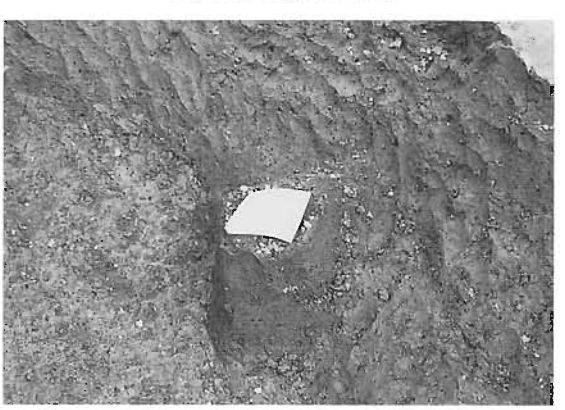
30号墓壙・火葬骨出土状況

22号墓壙・遺物出土状況



28号墓壙・遺物出土状況

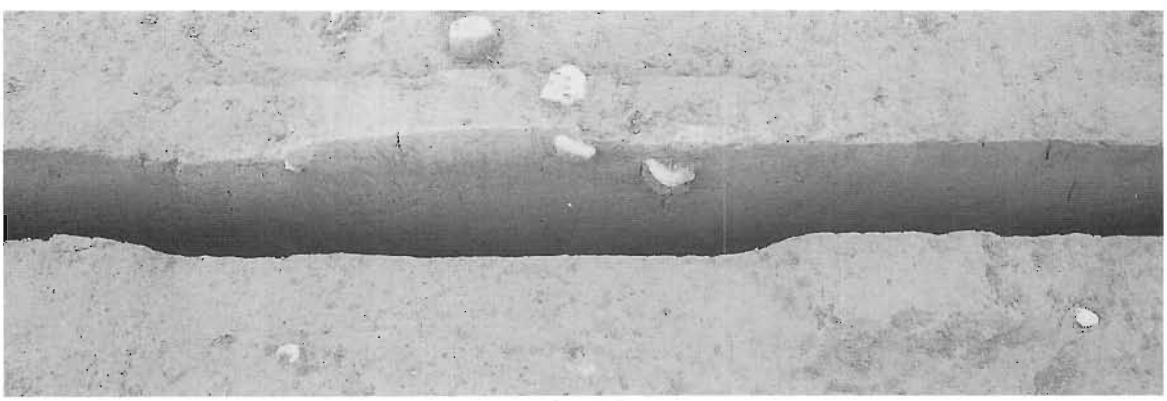
45号墓壙・遺物出土状況



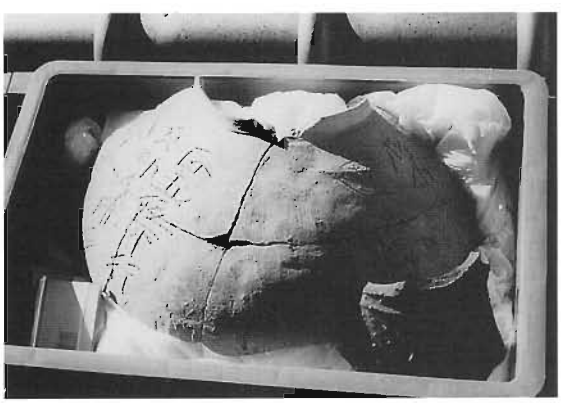
遺物出土状況

写真図版73　22・23・28・30・45・56号墓壙

平　面



断　面

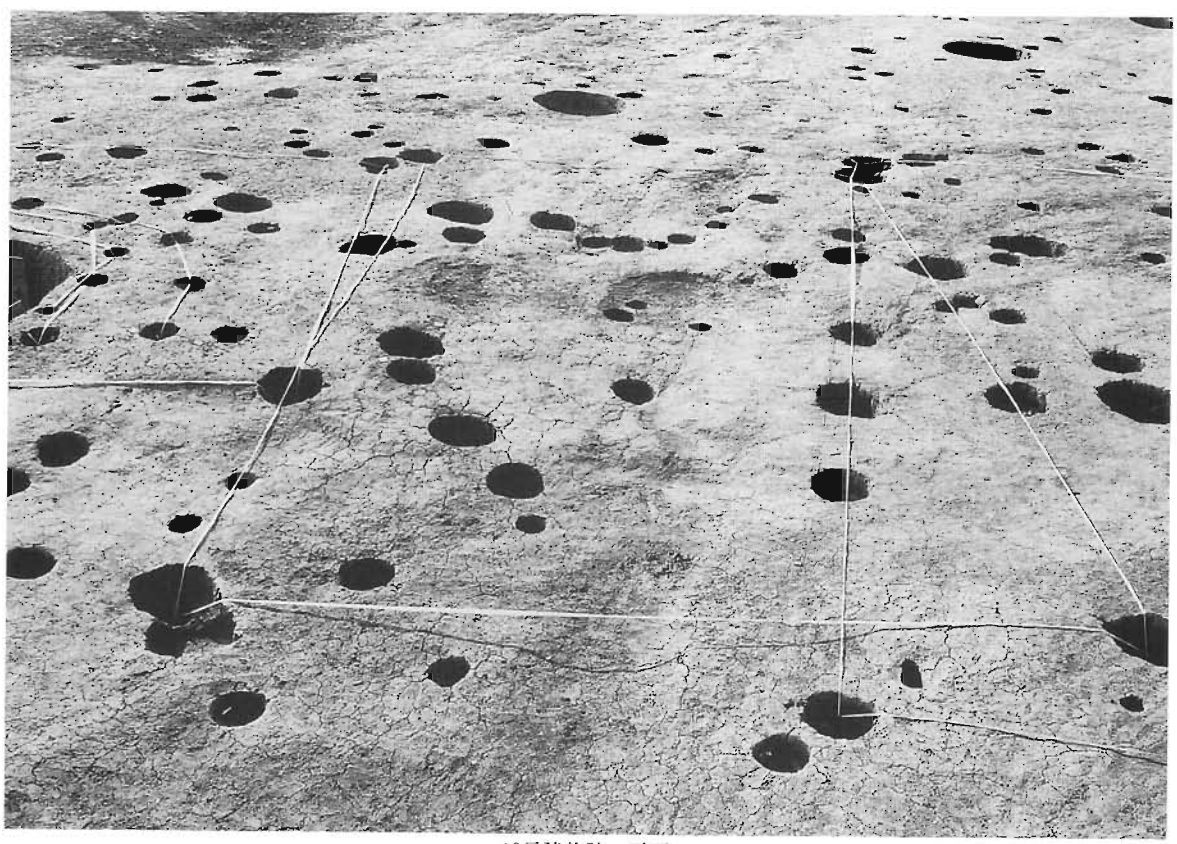


参考資料（藤原顕長銘入り甕）

参考資料（同左記）

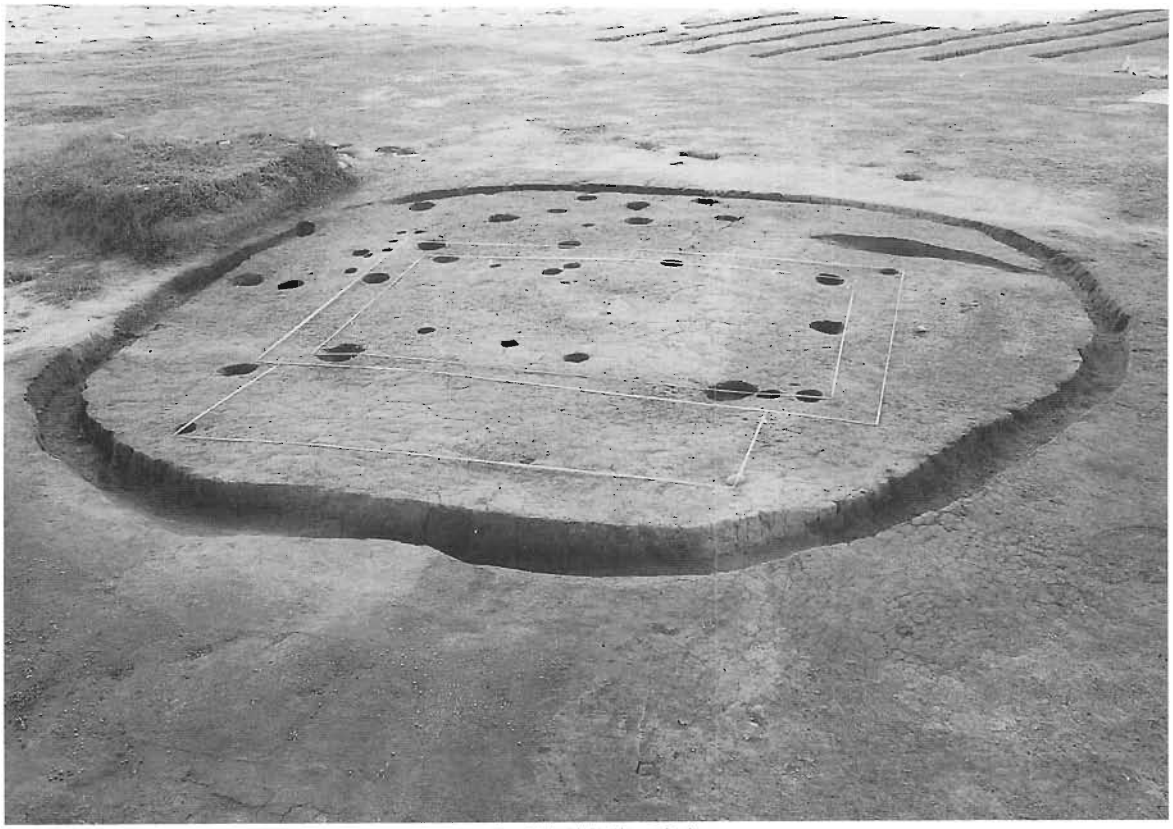
写真図版74　道路状遺構・参考資料

4号建物跡・平面



10号建物跡・平面

写真図版75　4・10号建物跡

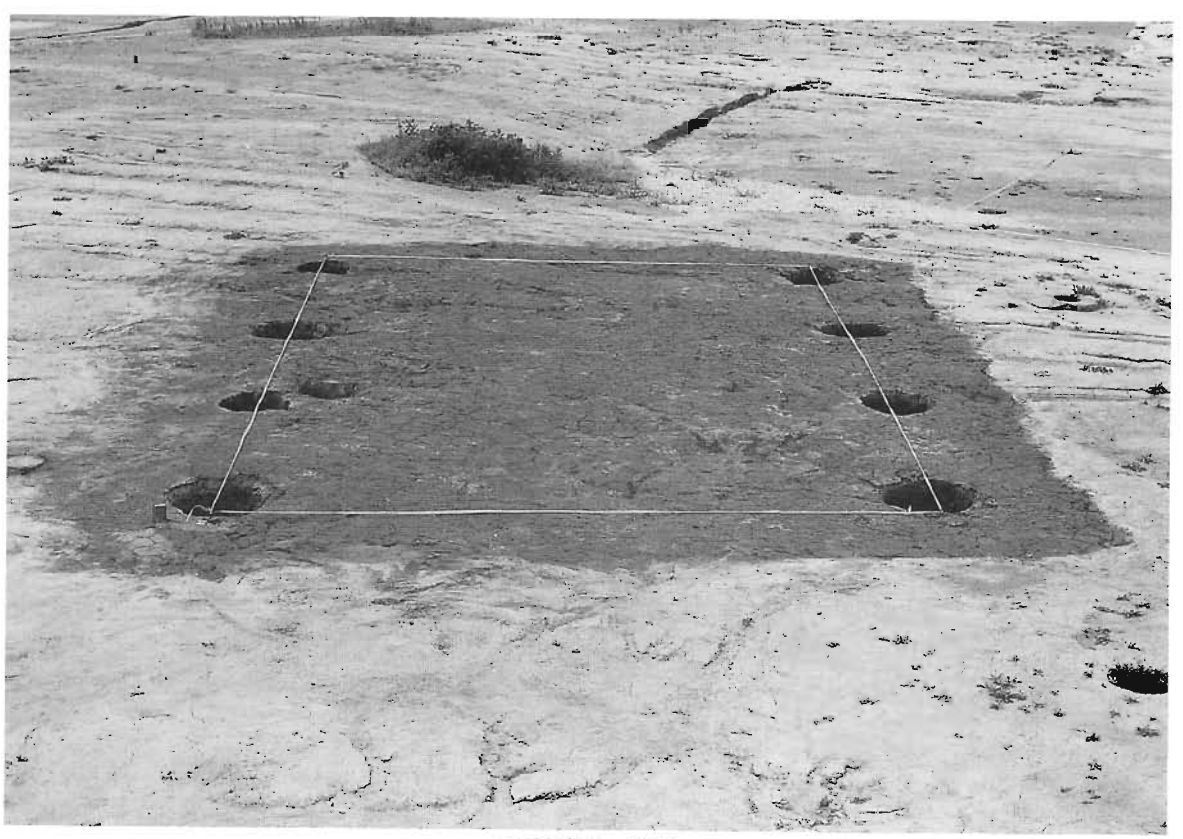


15・16号建物跡・平面

現地説明会風景

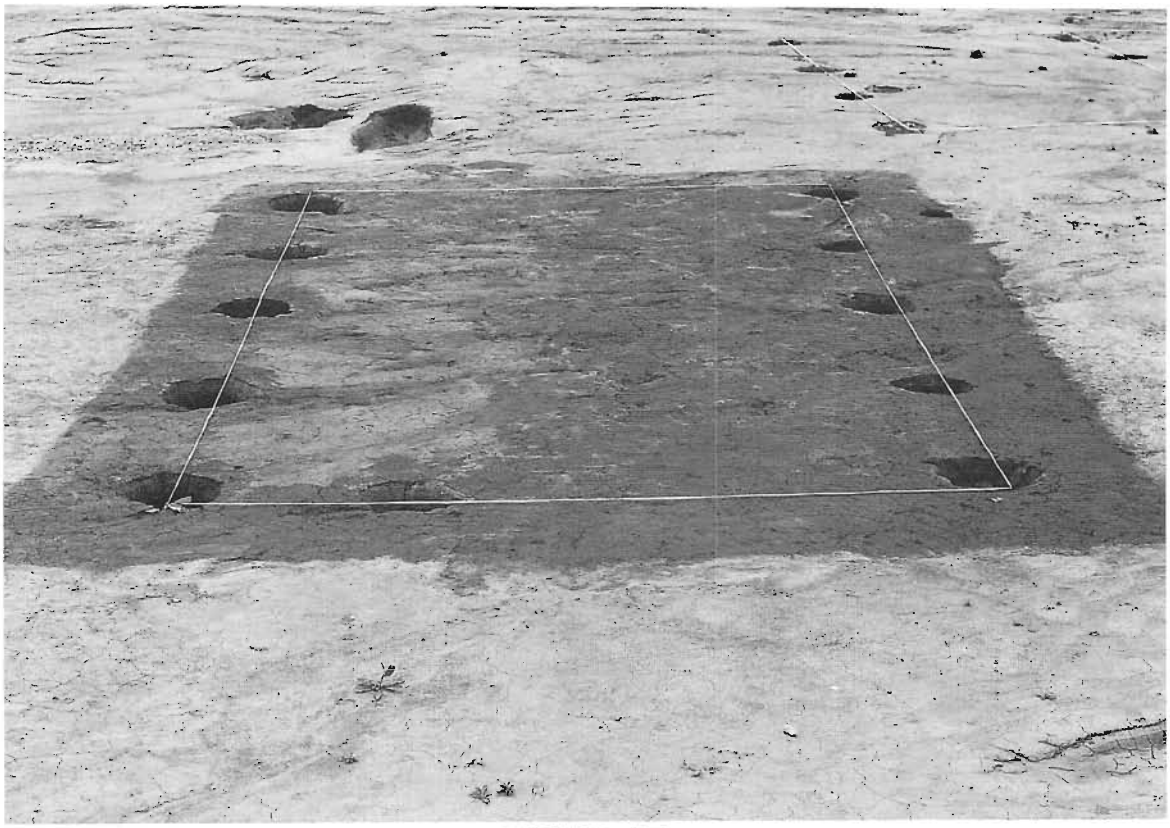
写真図版76　15・16号建物跡、現地説明会風景

17号建物跡・平面

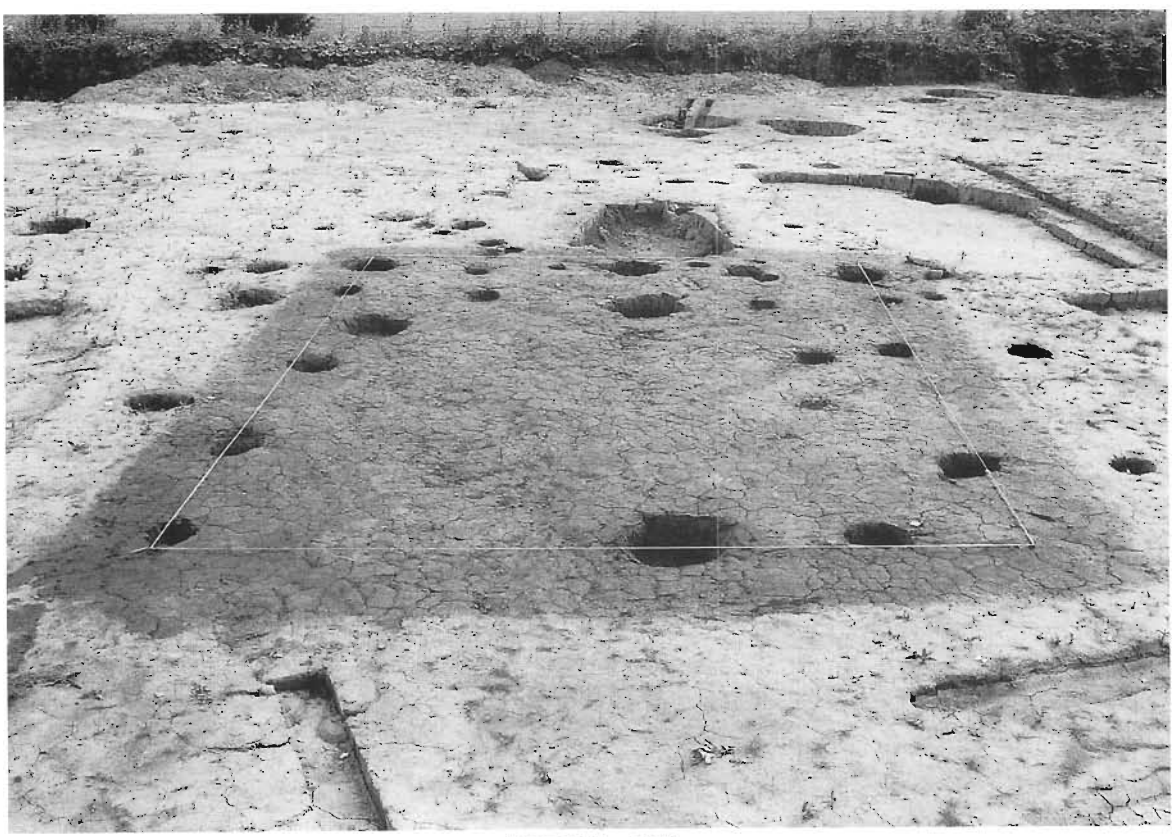


21号建物跡・平面

写真図版77　17・21号建物跡



22号建物跡・平面

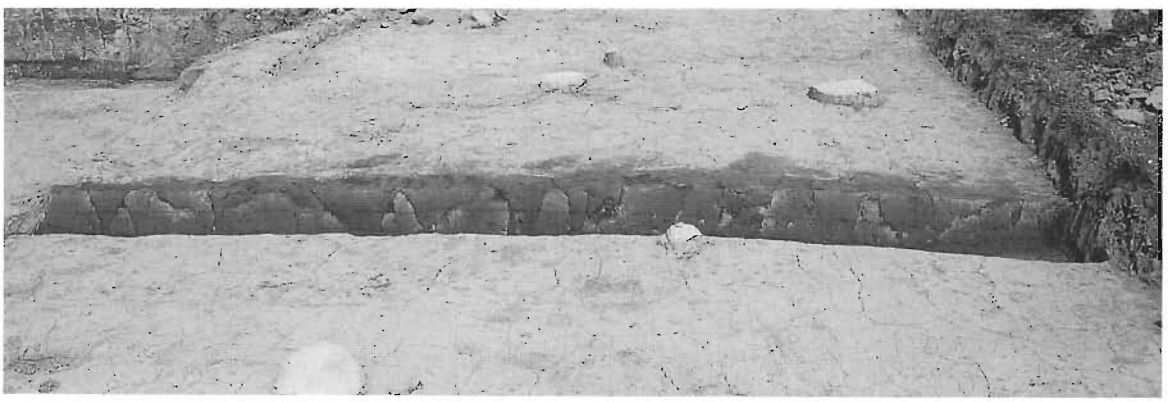


23号建物跡・平面

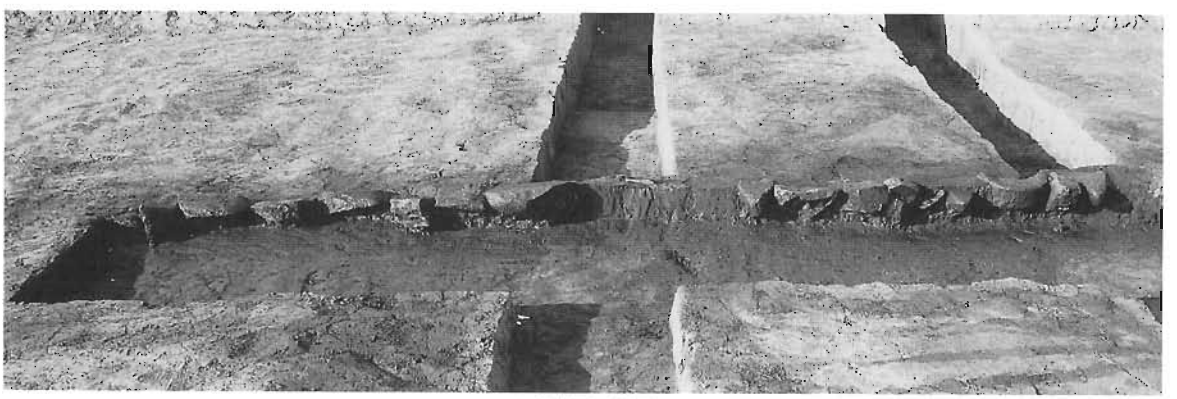
写真図版78　22・23号建物跡

27号建物跡・平面

1号配石・平面



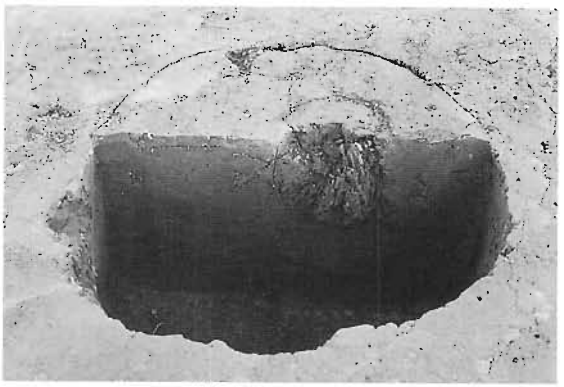
27号建物跡・断面



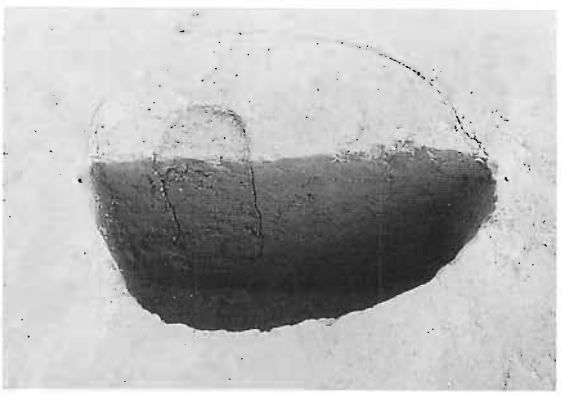
1号配石・断面

写真図版79　27号建物跡、1号配石

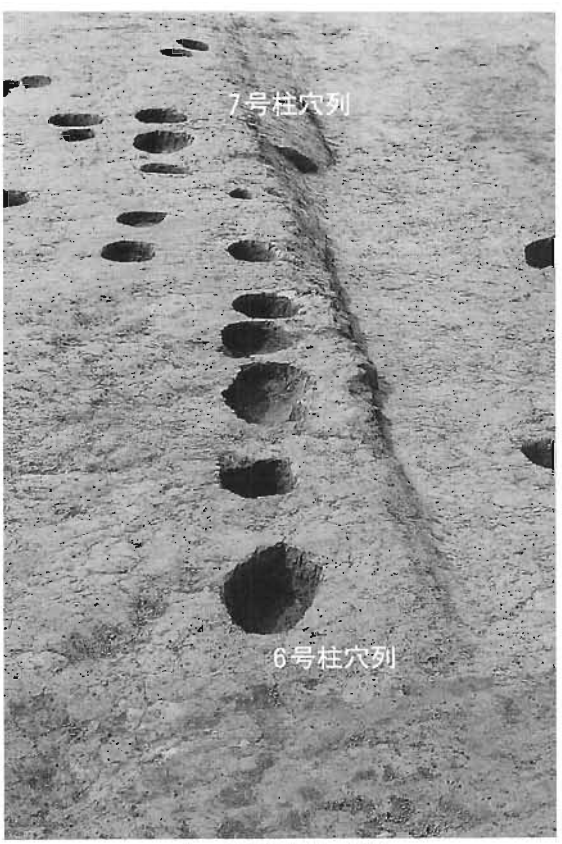
1号柱穴列・平面



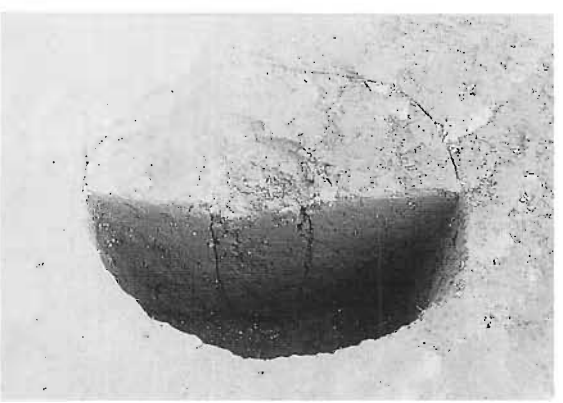
1号柱穴列・PP1（断面）



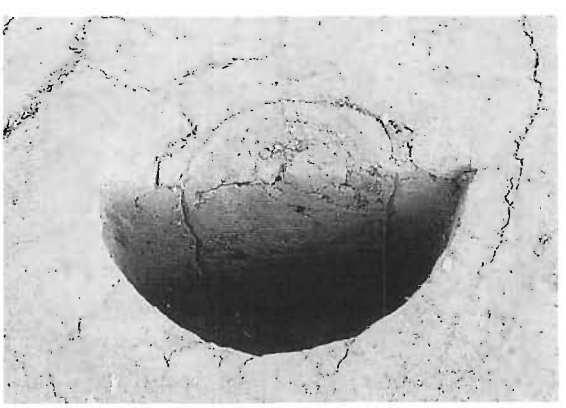
1号柱穴列・PP2（断面）



6・7号柱穴列・平面



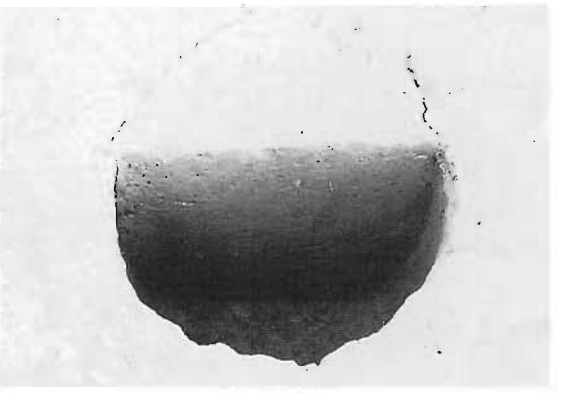
1号柱穴列・PP3（断面）



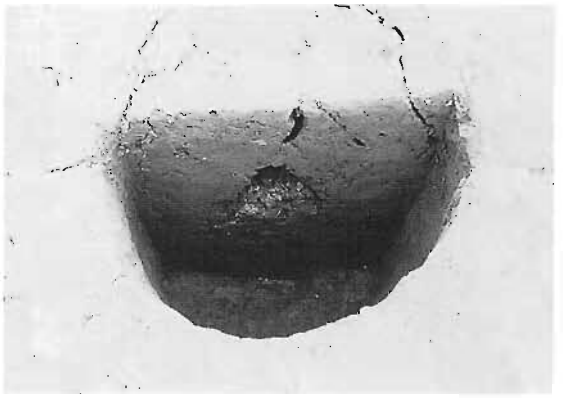
1号柱穴列・PP4（断面）

写真図版80　1・6・7号柱穴列

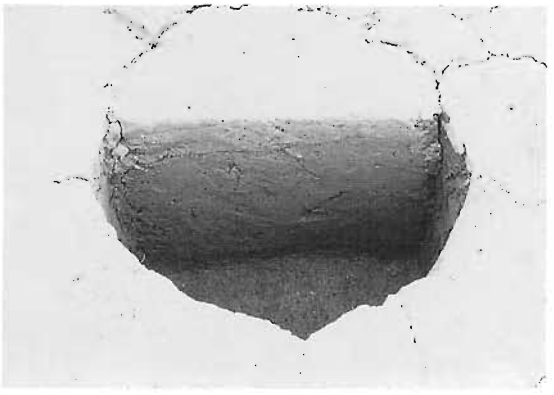
2号柱穴列・平面



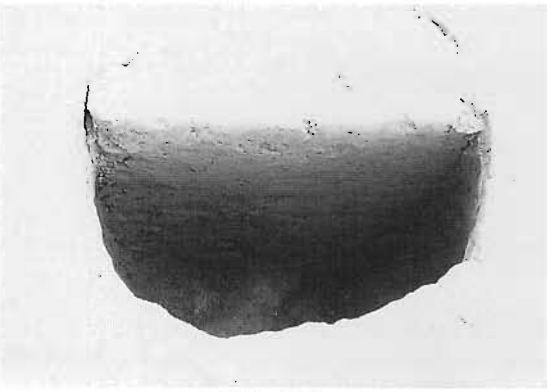
PP1・断面



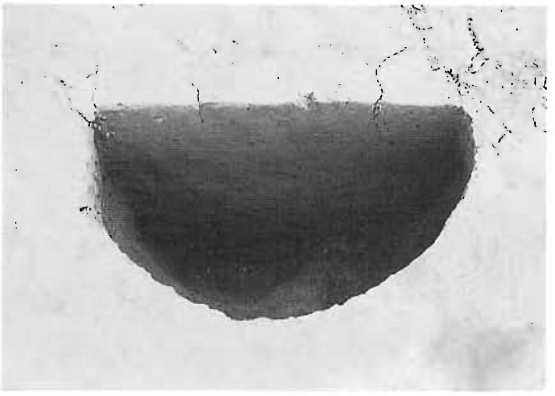
PP2・断面



PP3・断面



PP4・断面



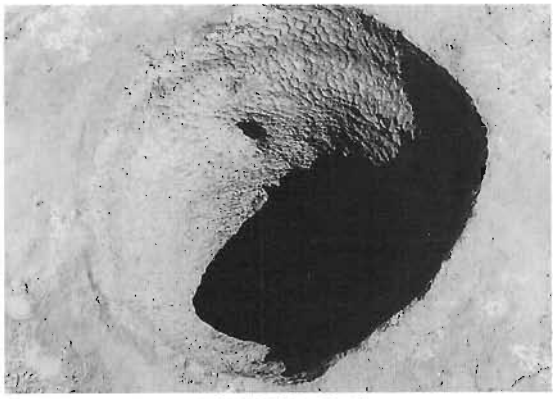
PP5・断面

遺物出土状況

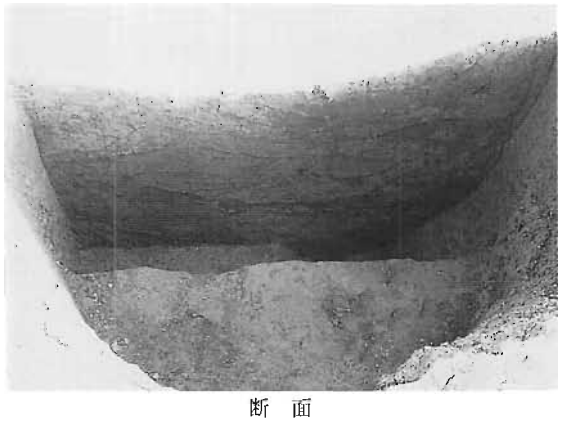
写真図版81　2号柱穴列

1号井戸跡・平面

井戸枠（石組）

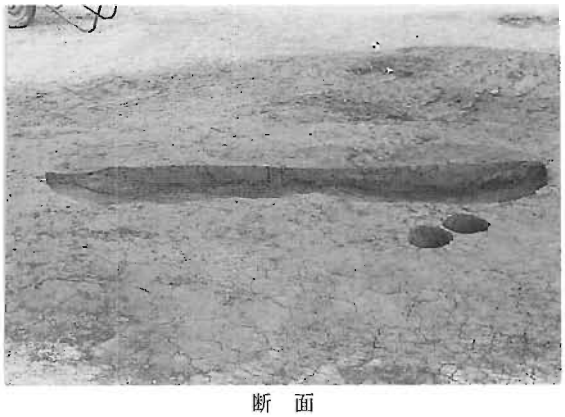


2号井戸跡・平面



断　面

1号竈状遺跡・平面



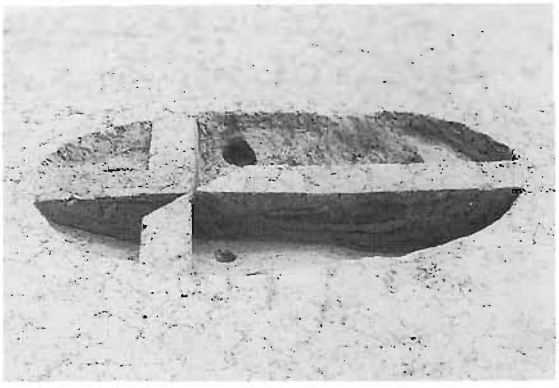
断　面

2号竈状遺跡・平面

断　面

写真図版82　1・2号井戸跡、1・2号竈状遺構

3号竃状遺構・平面

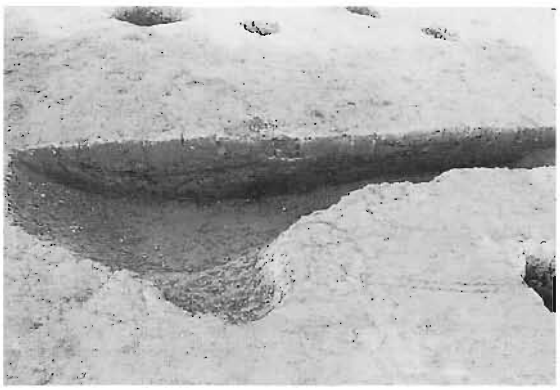


断　面

4号竃状遺構・平面

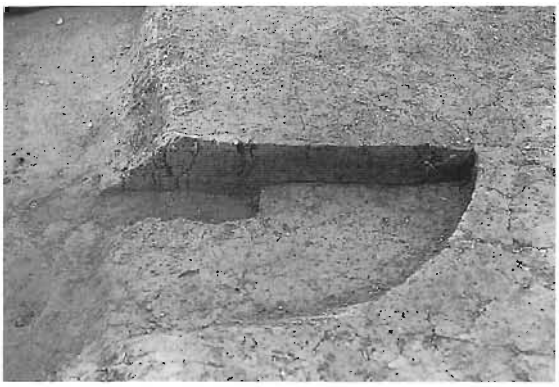
断　面

5号竃状遺構・平面



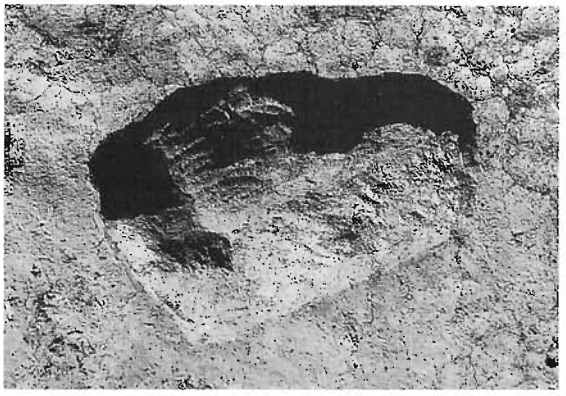
断　面

6号竃状遺構・平面

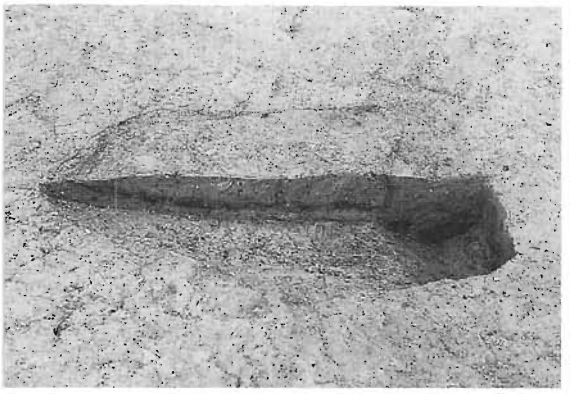


断　面

写真図版83　3～6号竈状遺構

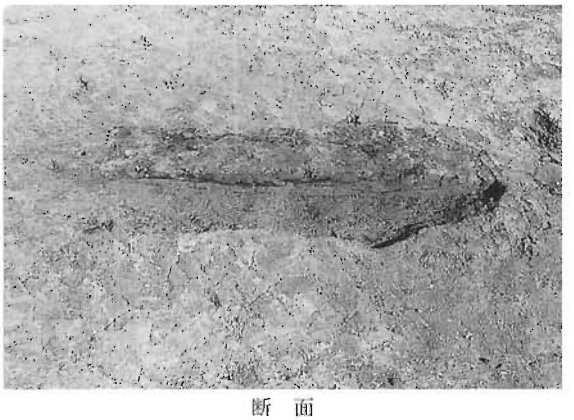


1号炭窯・平面



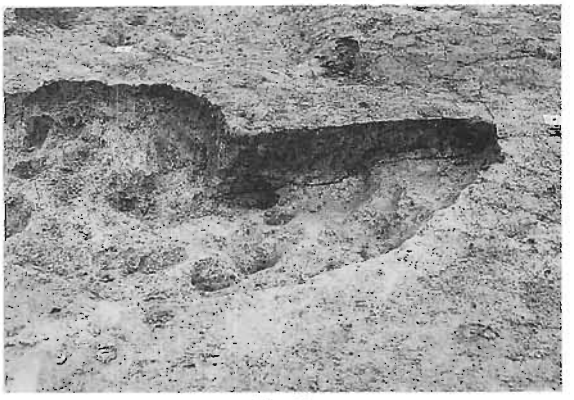
断　面

2号炭窯・平面

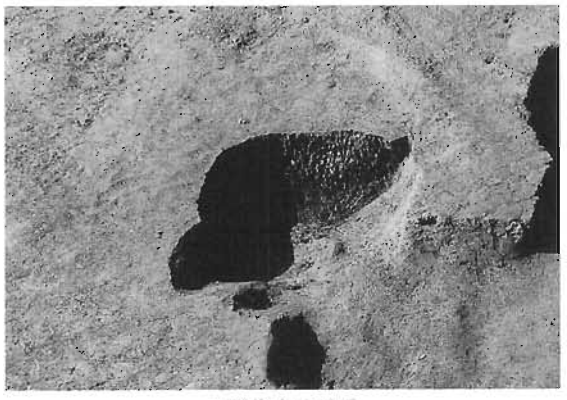


断　面

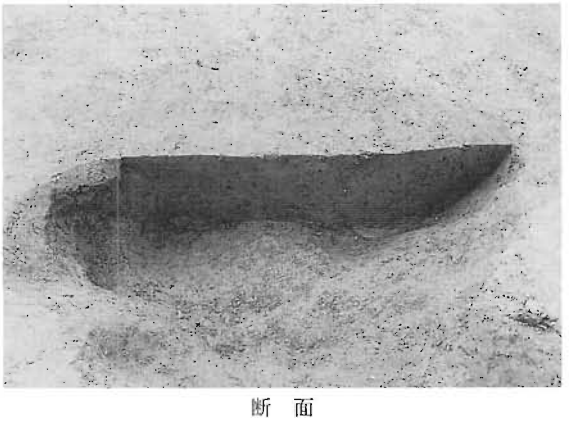
4号炭窯・平面



断　面

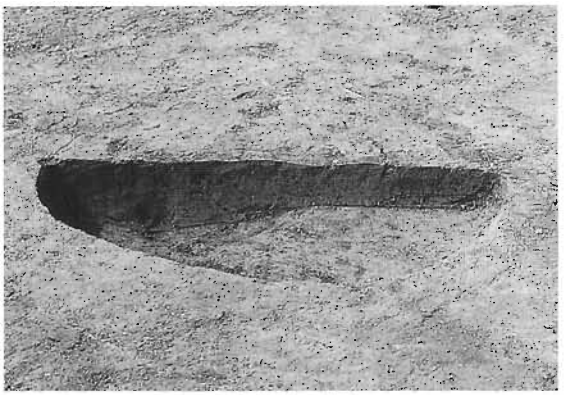


5号炭窯・平面



断　面

写真図版84　1・2・4・5号炭窯



3 号炭窯・断面

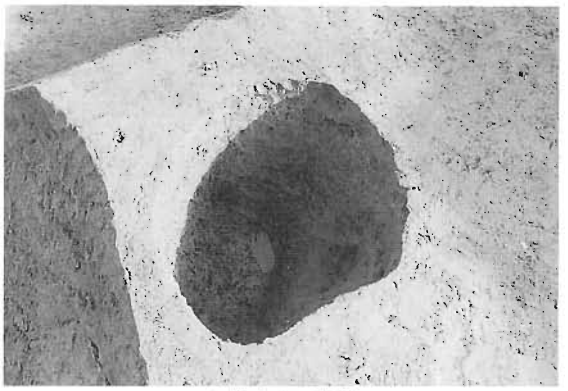
6 号炭窯・断面

調査区近景（東から）

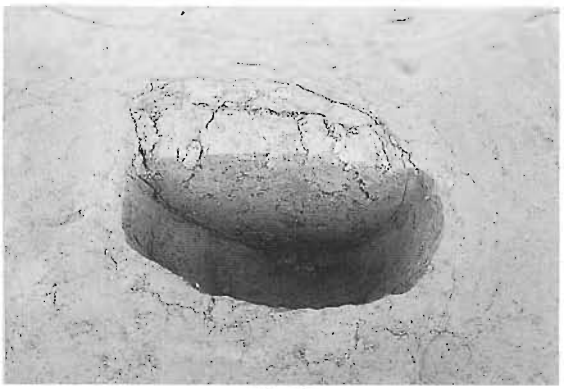
参考資料（大沢下古窯・突帯文四耳壺）

参考資料（同左記）

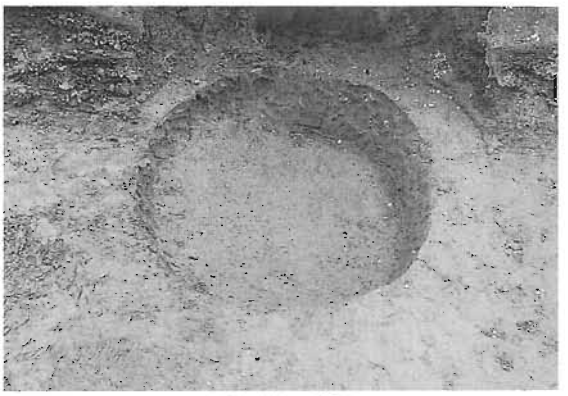
写真図版85　3・6 号炭窯、調査区近景・参考資料



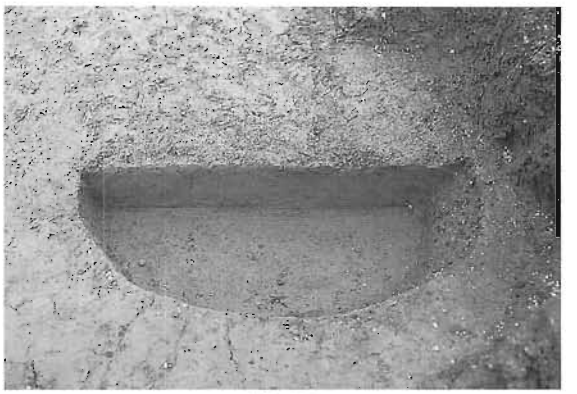
1号土坑・平面



断　面

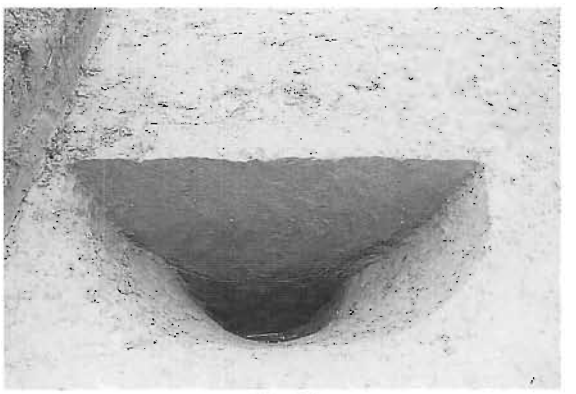


2号土坑・平面

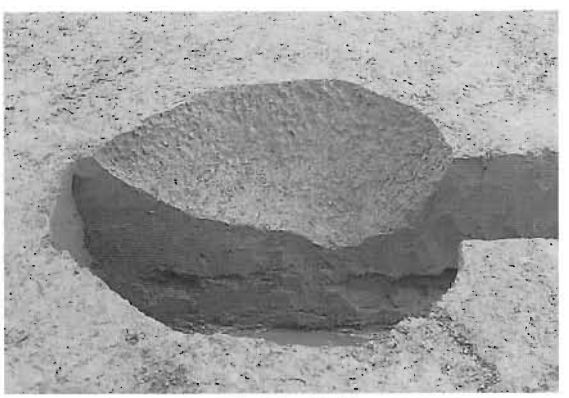


断　面

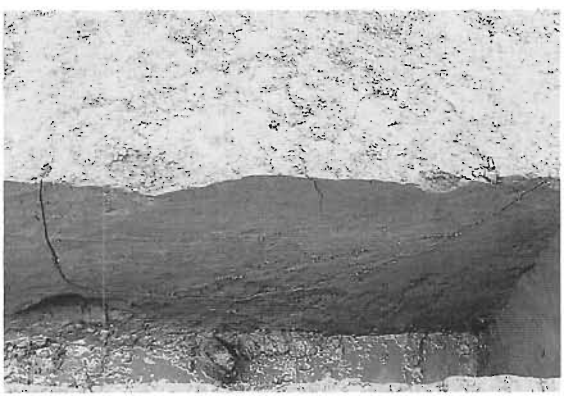
3号土坑・平面



断　面

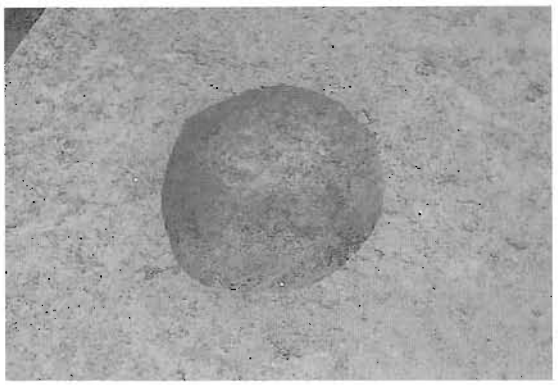


4号土坑・平面

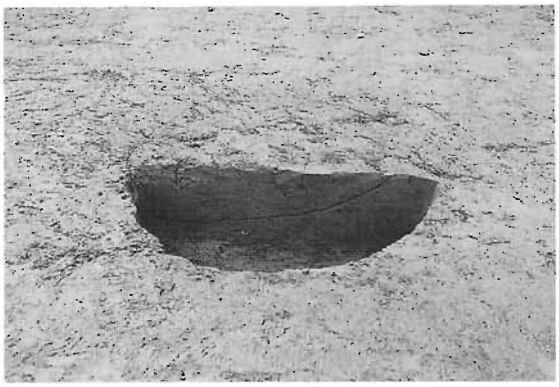


断　面

写真図版86　1～4号土坑

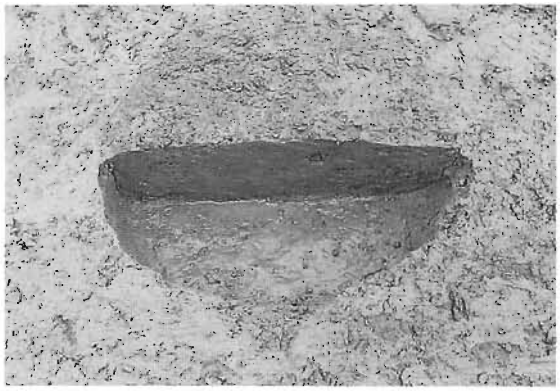


5号土坑・平面

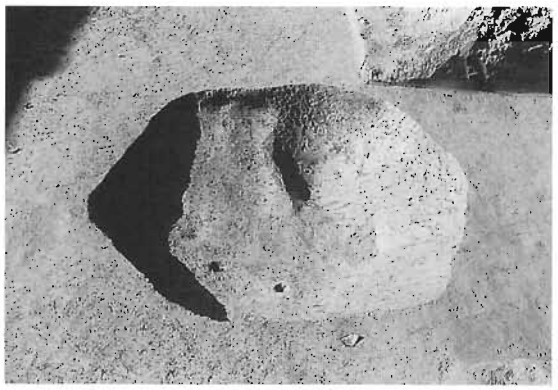


断　面

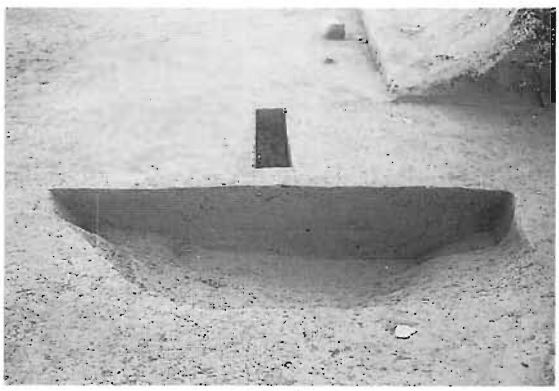
6号土坑・平面



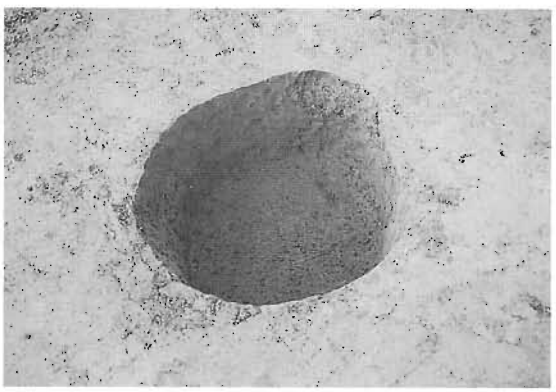
断　面



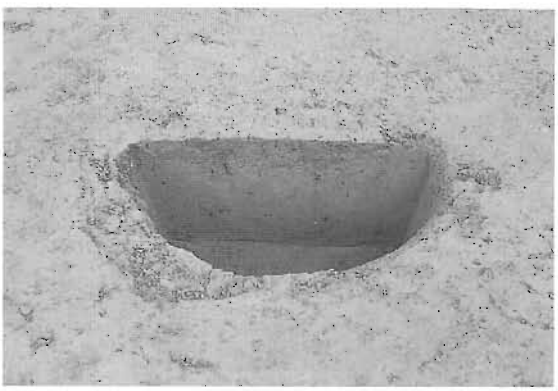
7号土坑・平面



断　面



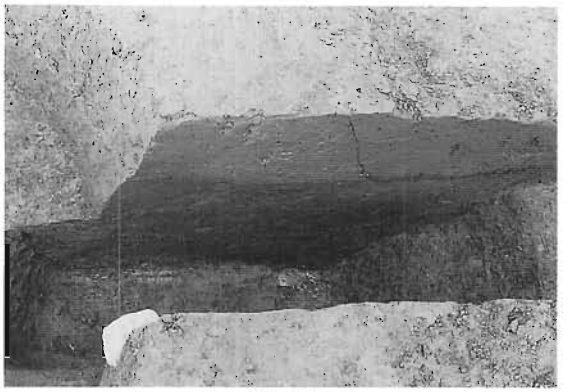
8号土坑・平面



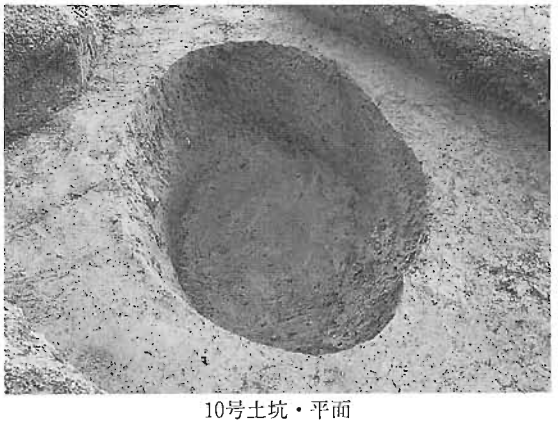
断　面

写真図版87　5～8号土坑

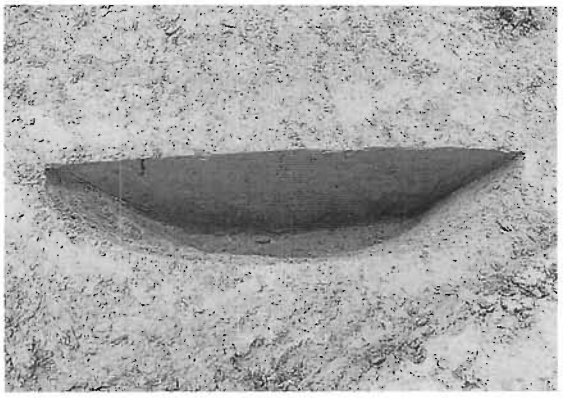
9号土坑・平面



断　面

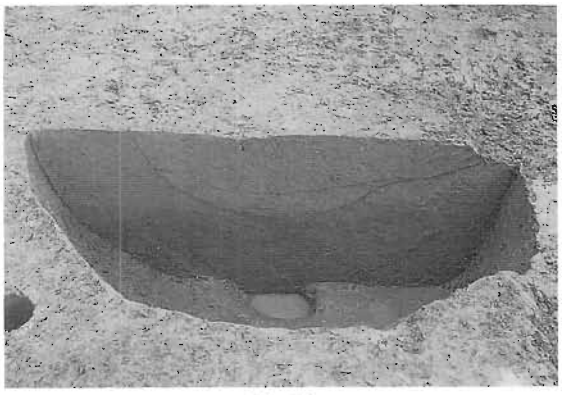


10号土坑・平面



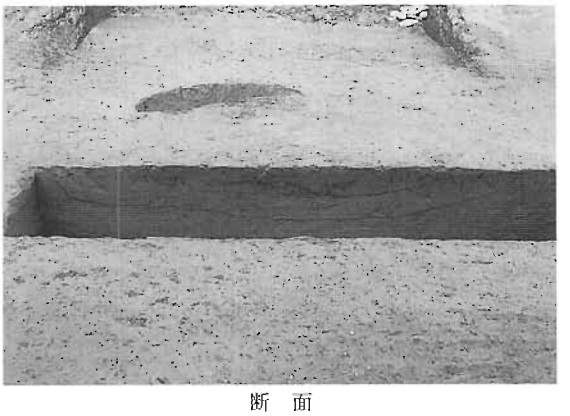
断　面

11号土坑・平面



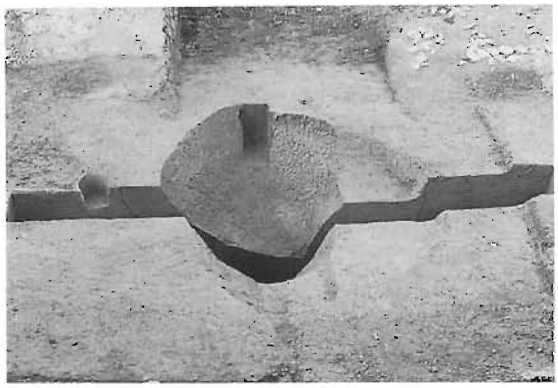
断　面

12号土坑・平面

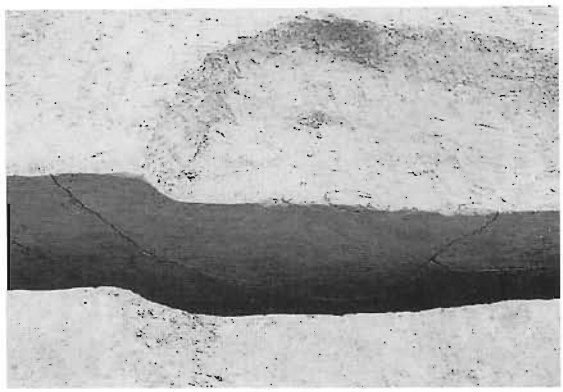


断　面

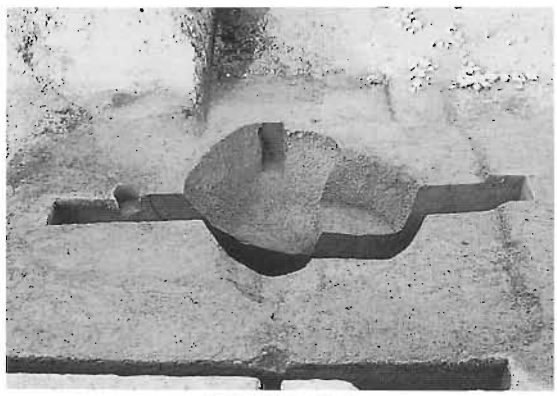
写真図版88　9～12号土坑



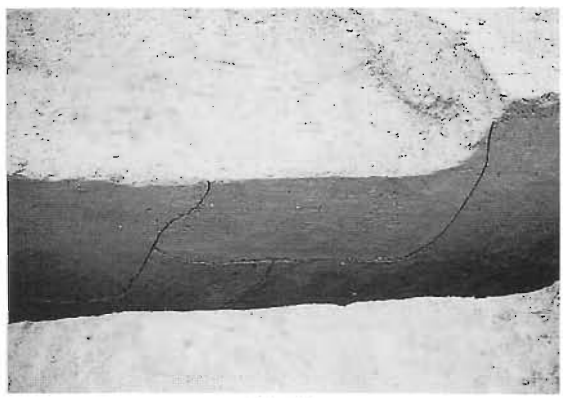
13号土坑・平面



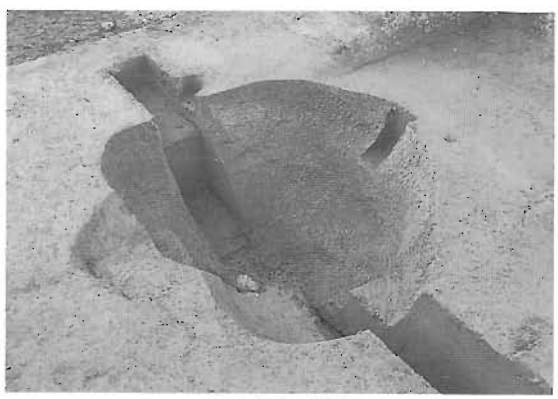
断　面



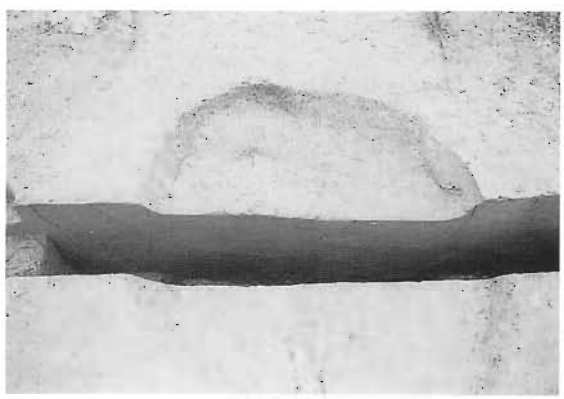
14号土坑・平面



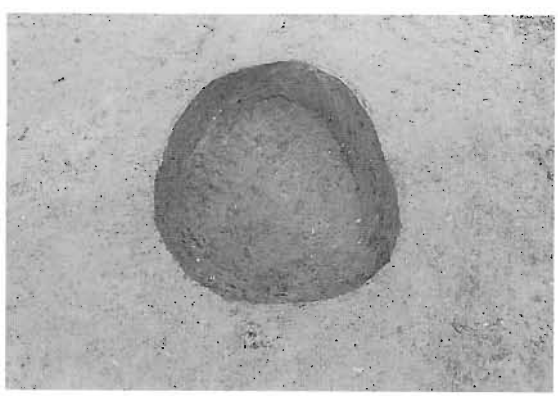
断　面



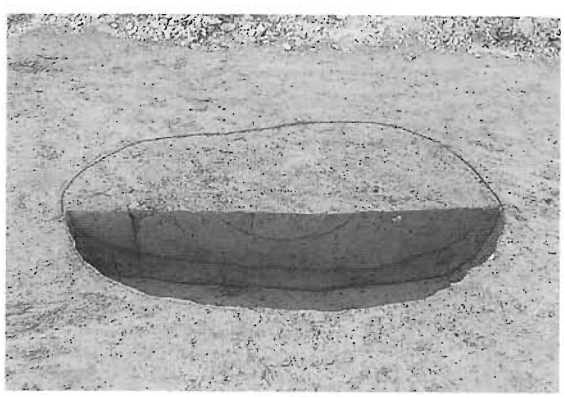
15号土坑・平面



断　面



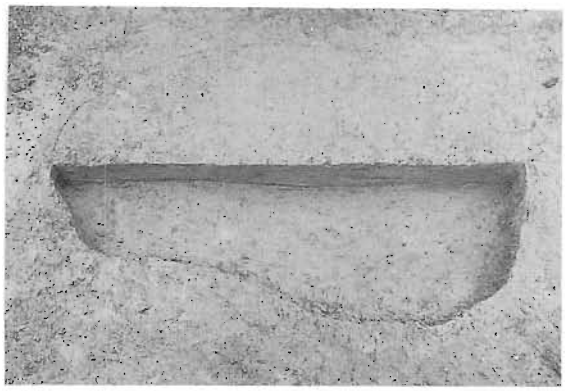
16号土坑・平面



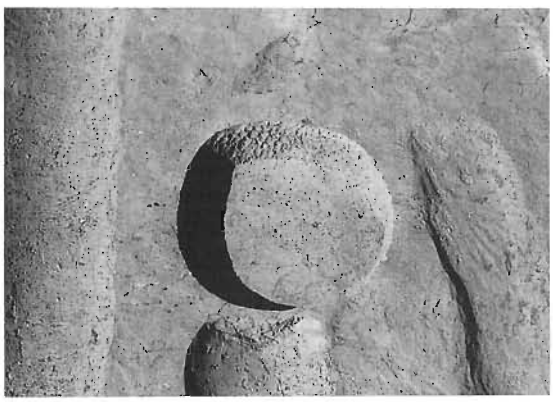
断　面

写真図版89　13～16号土坑

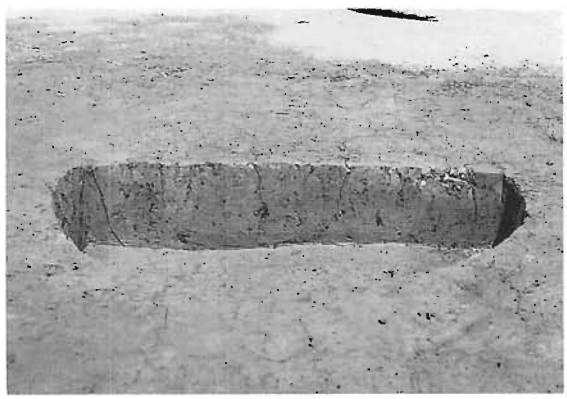
17号土坑・平面



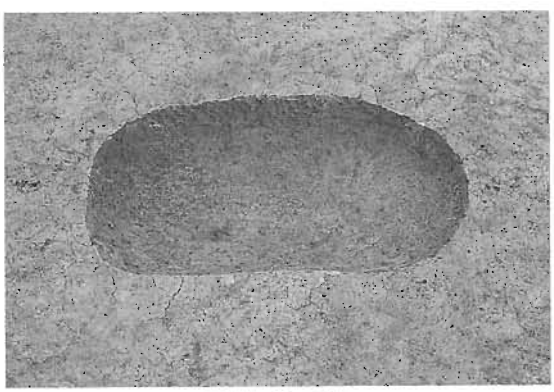
断　面



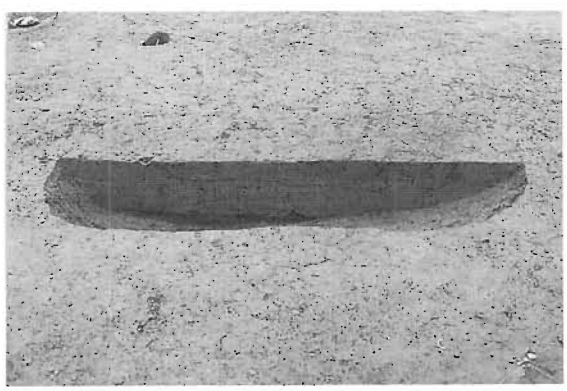
18号土坑・平面



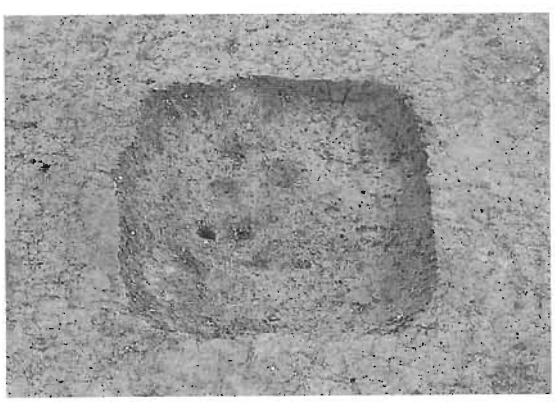
断　面



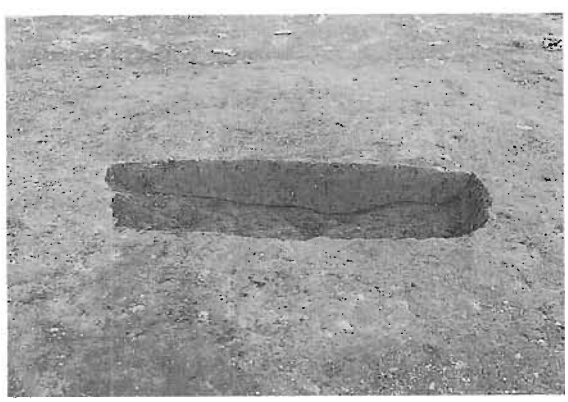
19号土坑・平面



断　面

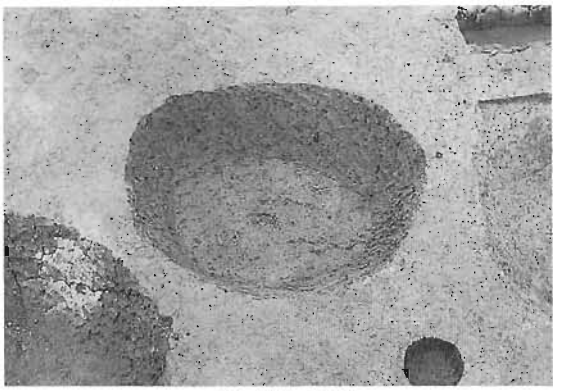


20号土坑・平面

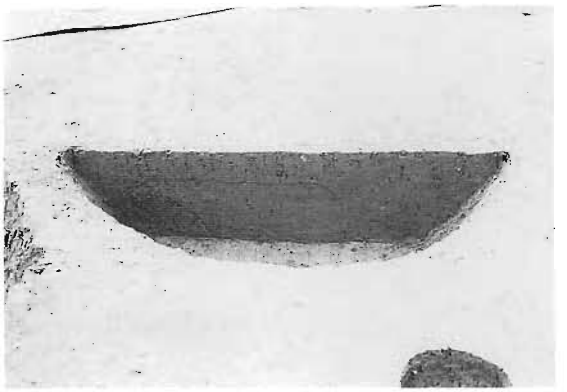


断　面

写真図版90　17～20号土坑

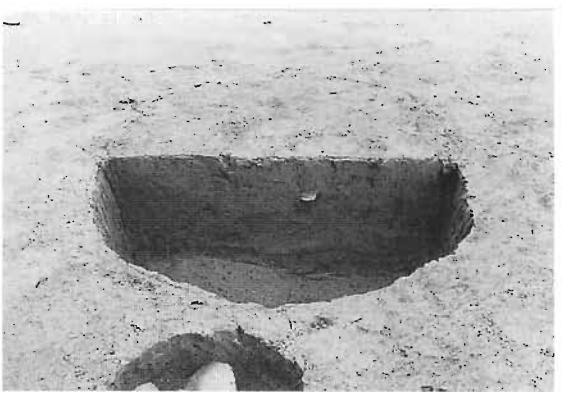


21号土坑・平面

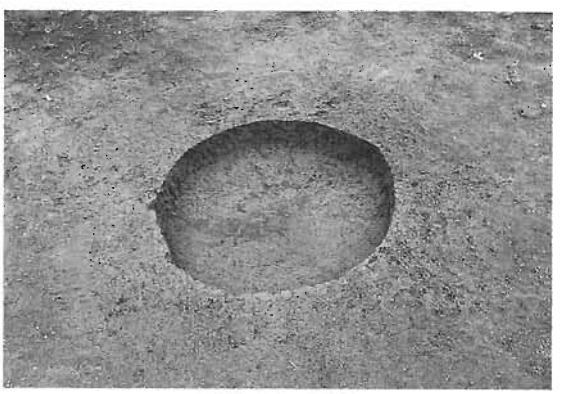


断　面

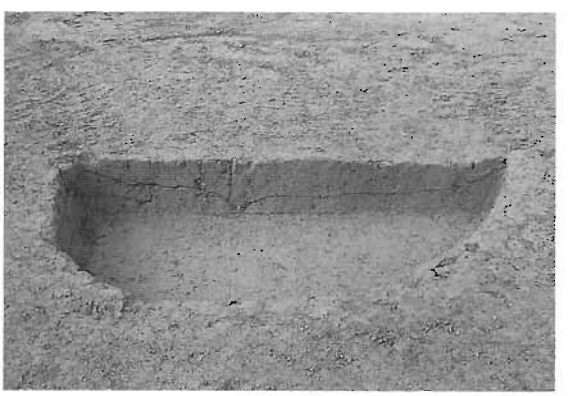
22号土坑・平面



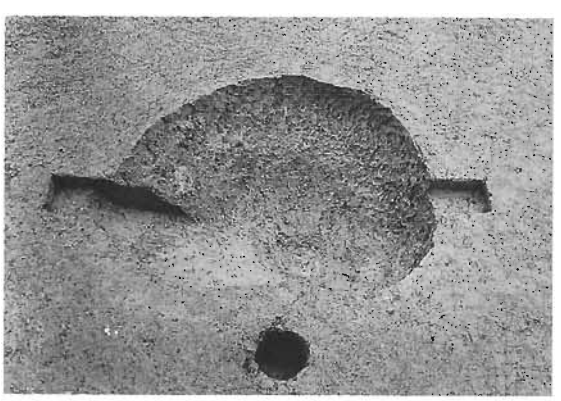
断　面



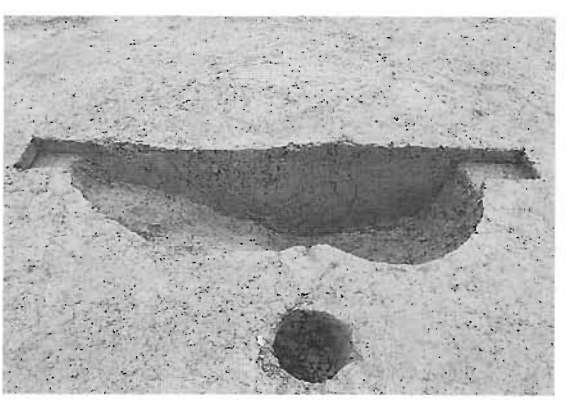
23号土坑・平面



断　面

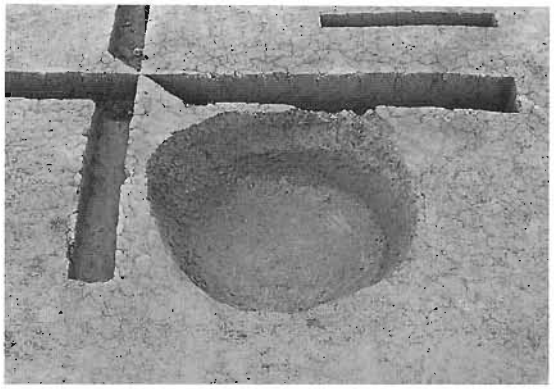


24号土坑・平面

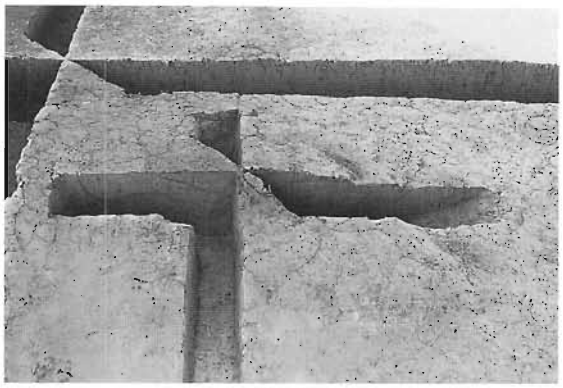


断　面

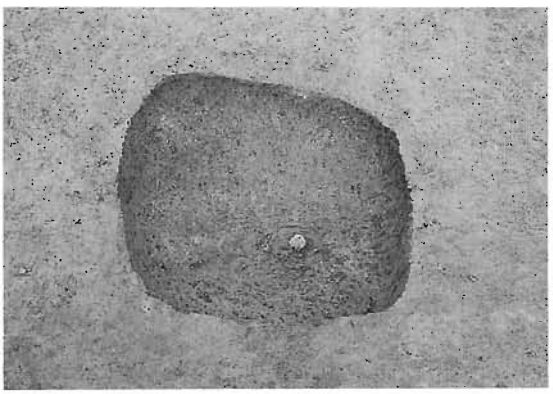
写真図版91　21～24号土坑



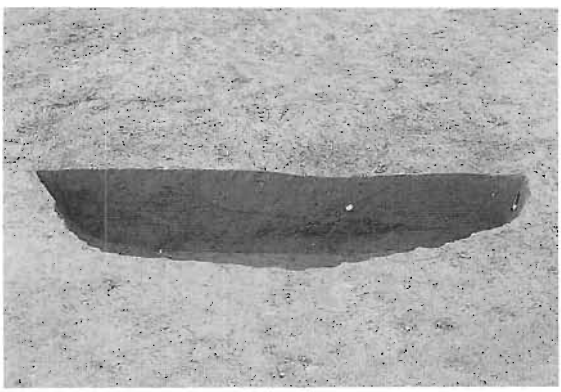
25号土坑・平面



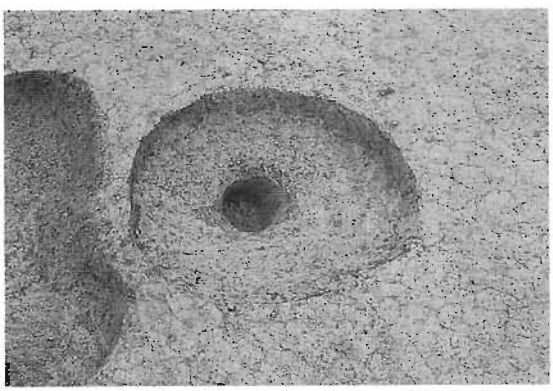
断　面



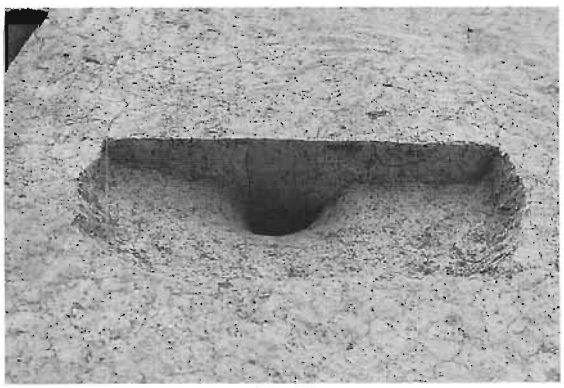
26号土坑・平面



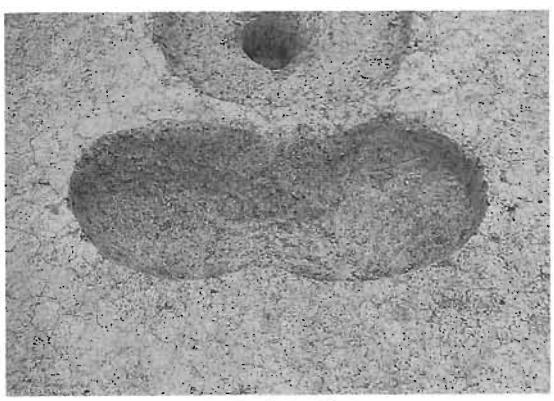
断　面



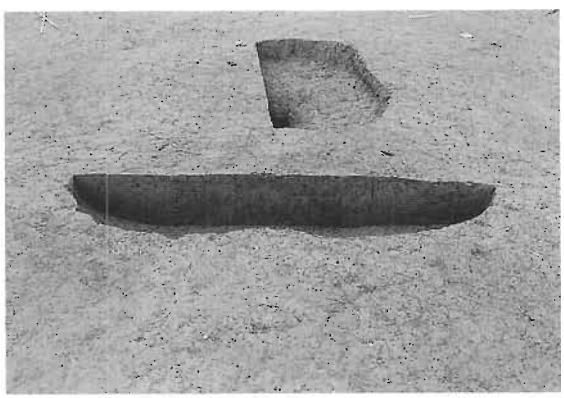
27号土坑・平面



断　面

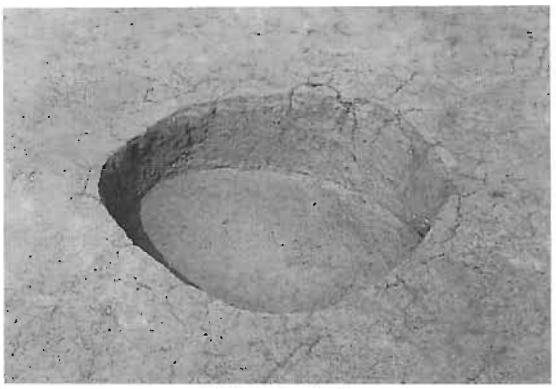


28号土坑・平面

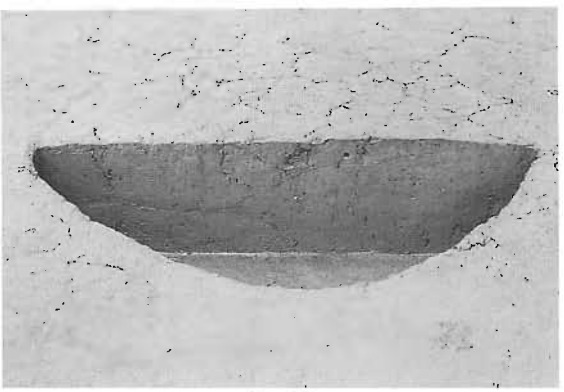


断　面

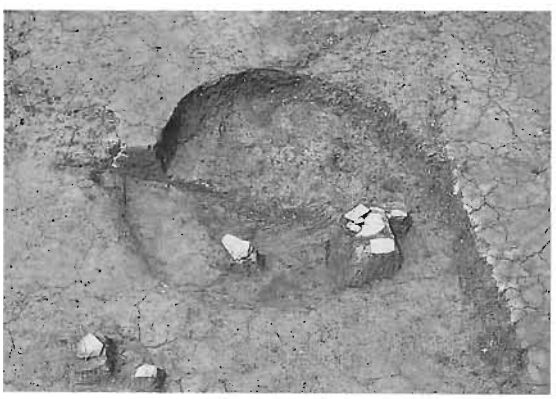
写真図版92　25～28号土坑



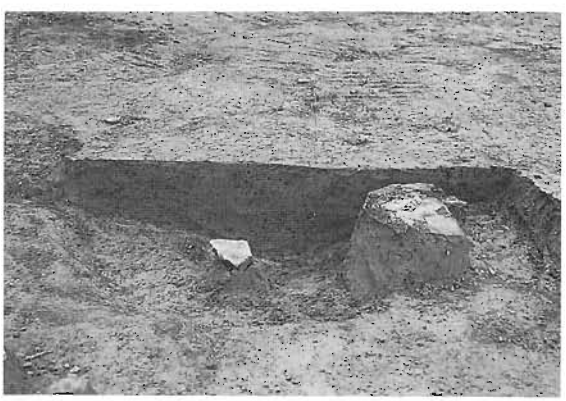
29号土坑・平面



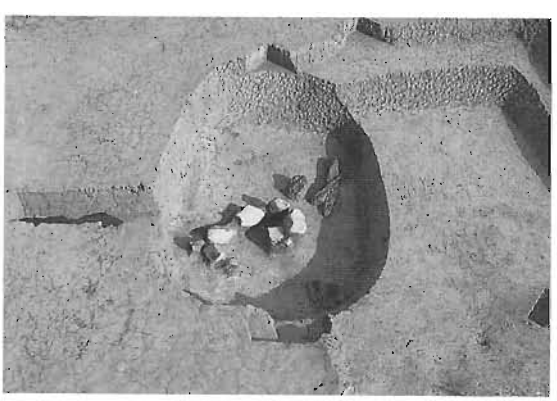
断　面



30号土坑・平面

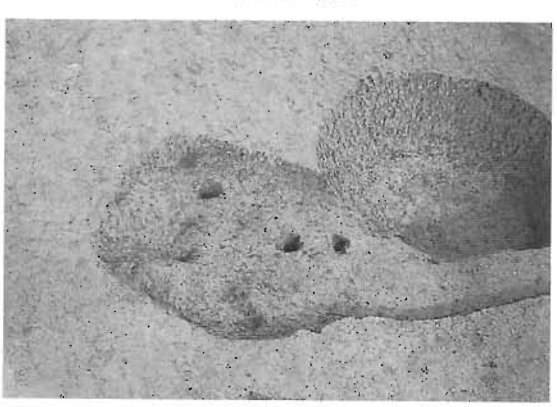


断　面

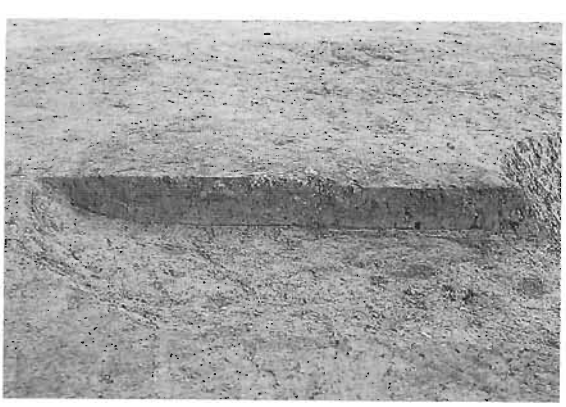


31号土坑・平面

断　面

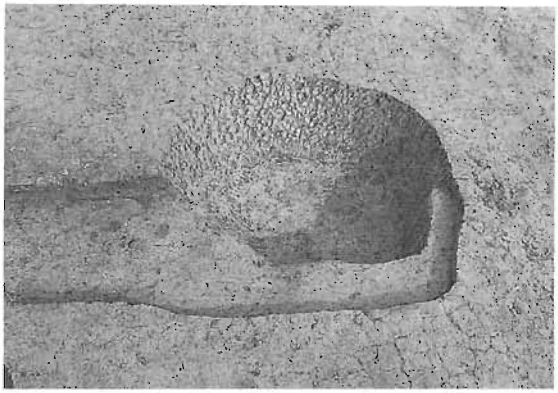


32号土坑・平面

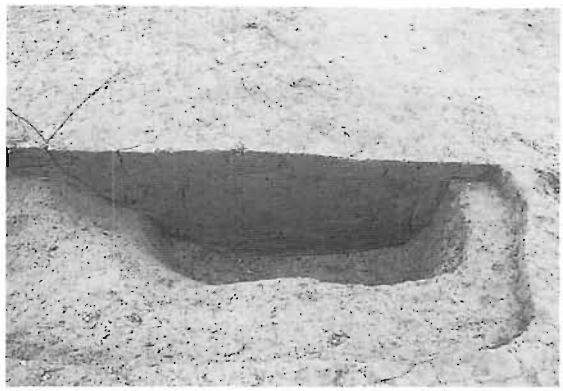


断　面

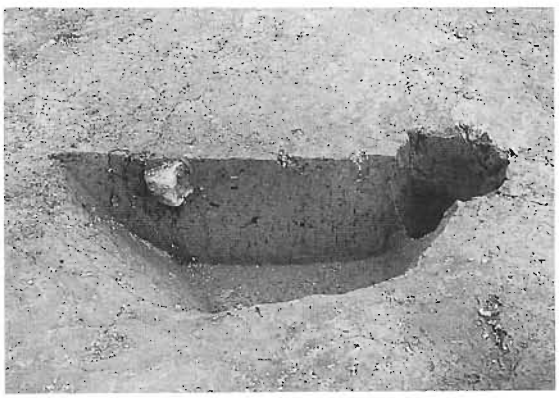
写真図版93　29～32号土坑



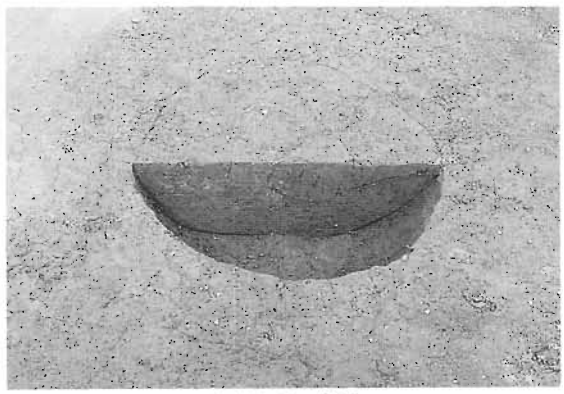
33号土坑・平面



断　面

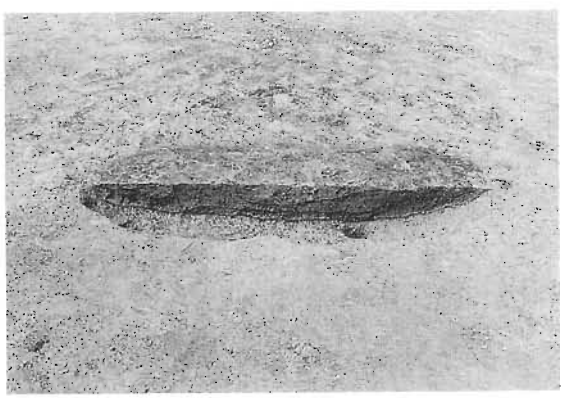


34号土坑・断面



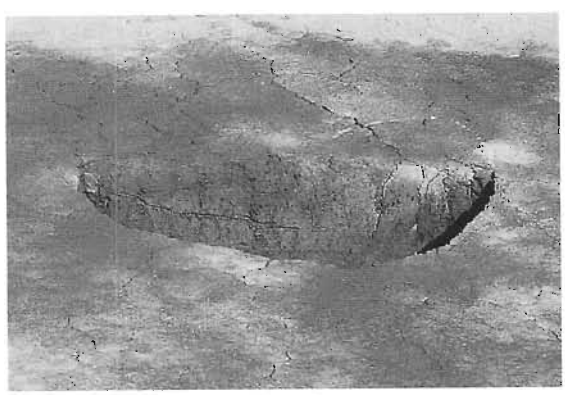
35号土坑・断面

36号土坑・平面



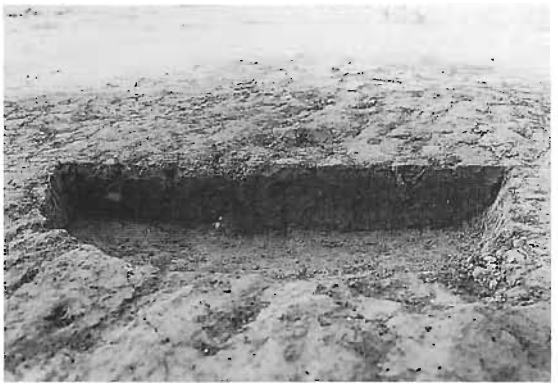
断　面

37号土坑・平面



断　面

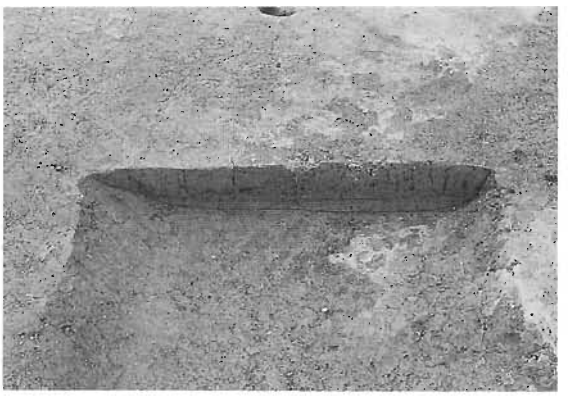
写真図版94　33～37号土坑



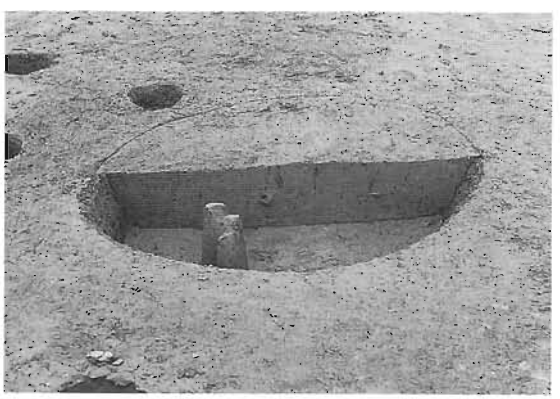
38号土坑・断面

遺物出土状況（遺構外）

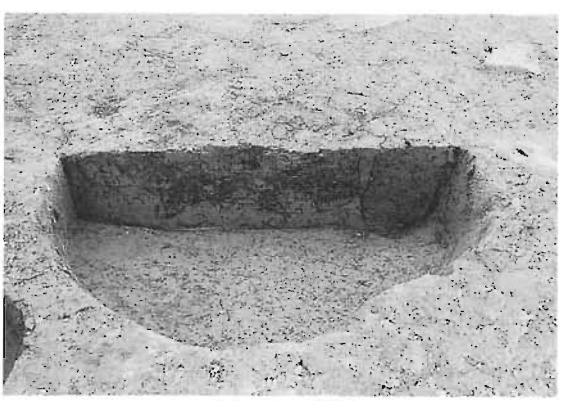
39号土坑・平面



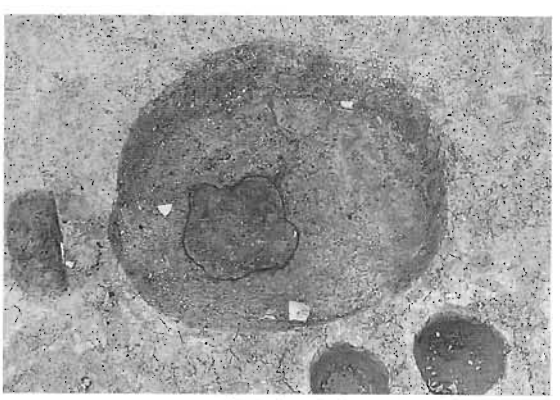
断　面



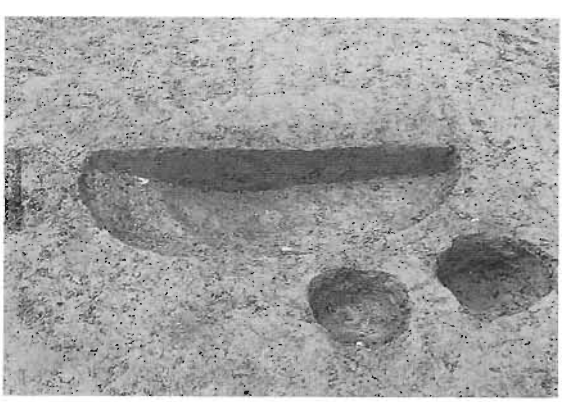
40号土坑・断面



41号土坑・断面

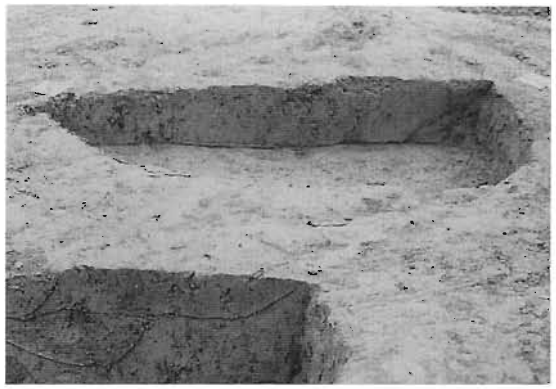


42号土坑・平面

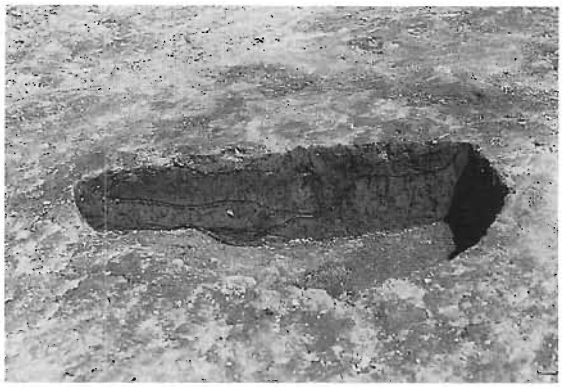


断　面

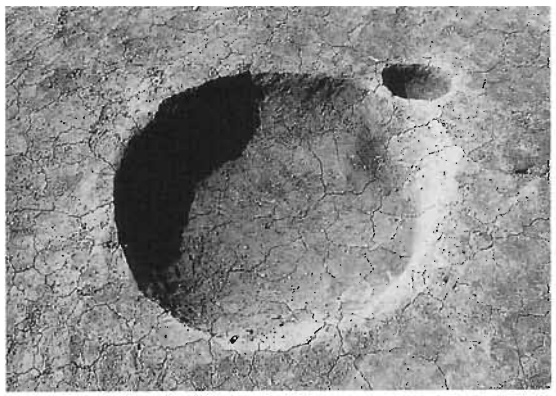
写真図版95　38～42号土坑



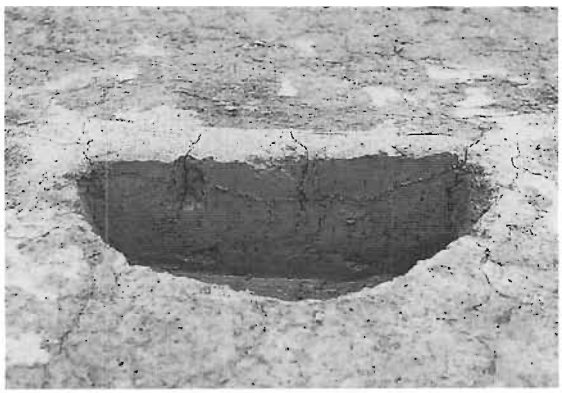
43号土坑・断面



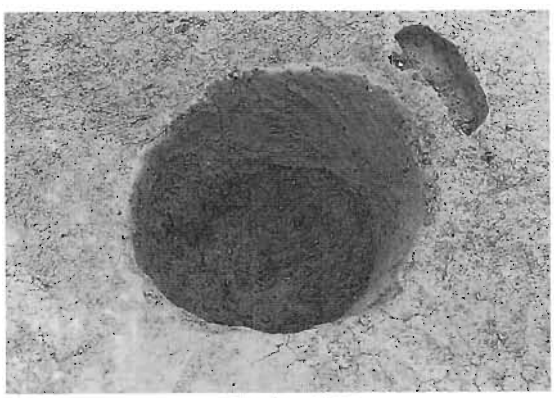
44号土坑・断面



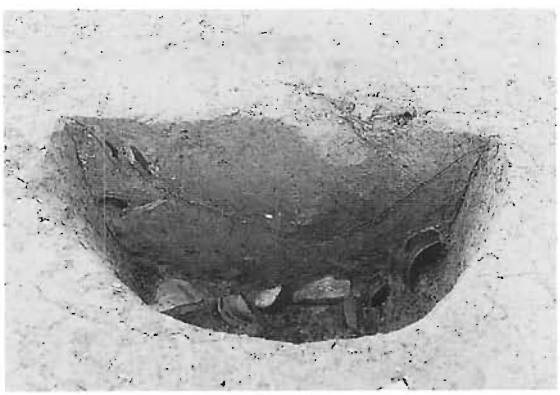
45号土坑・平面



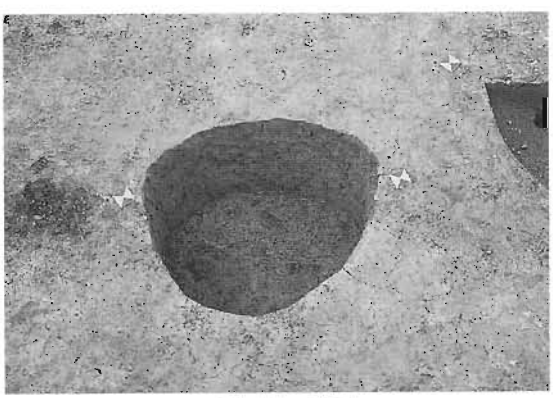
断　面



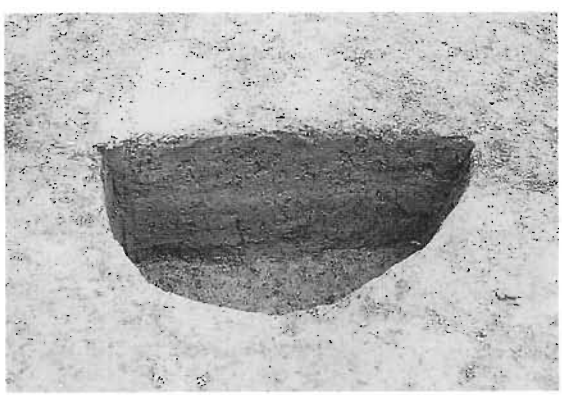
46号土坑・平面



断　面

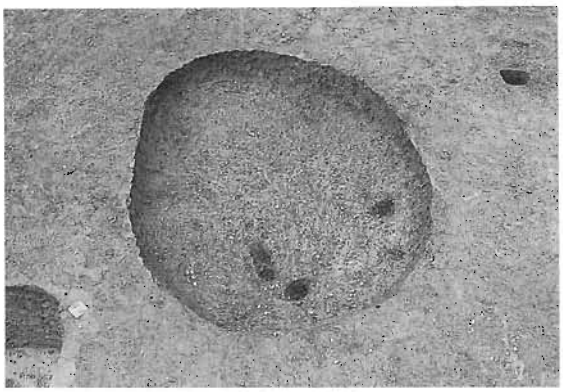


47号土坑・平面

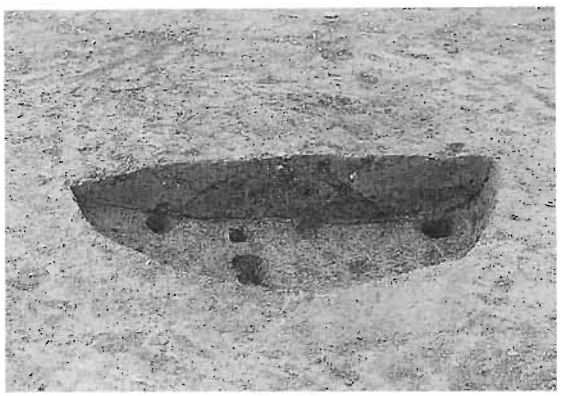


断　面

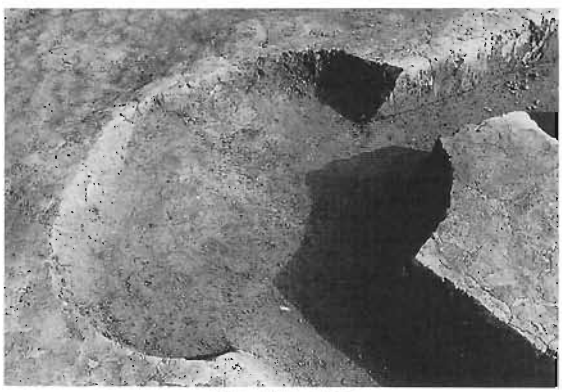
写真図版96　43～47号土坑



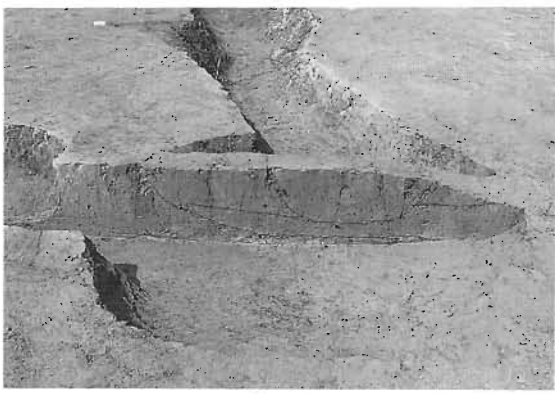
48号土坑・平面



断　面



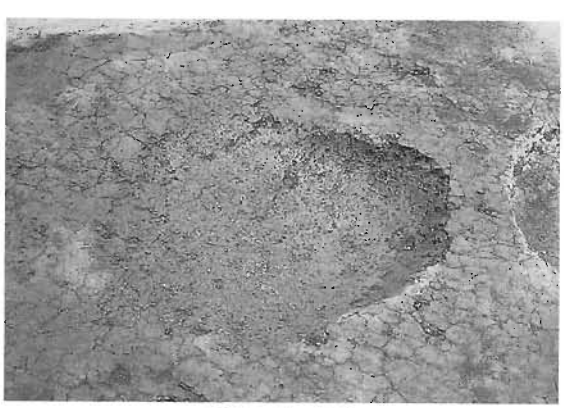
49号土坑・平面



断　面

50号土坑・平面

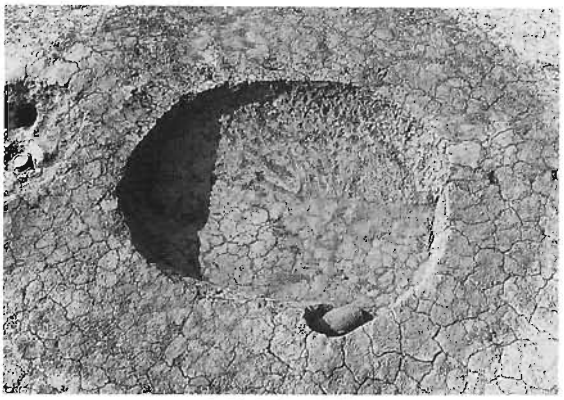
断　面



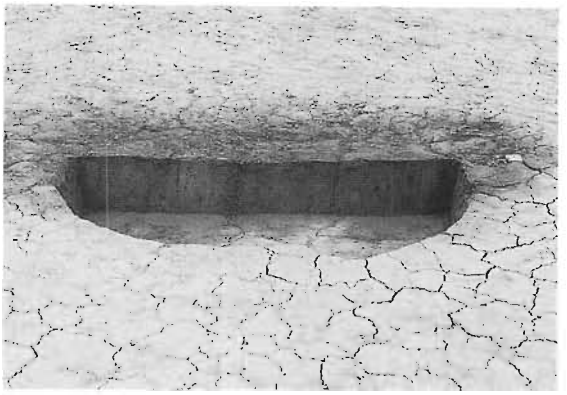
51号土坑・平面

遺物出土状況

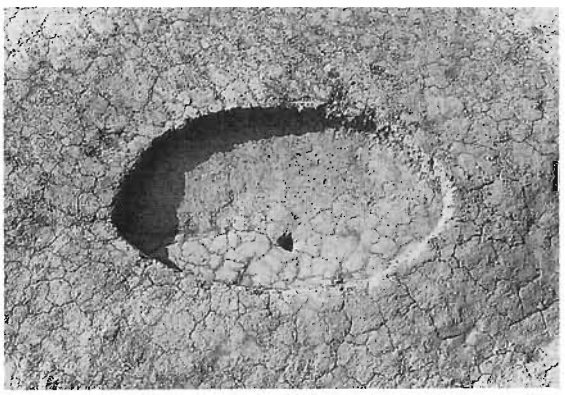
写真図版97　48～51号土坑



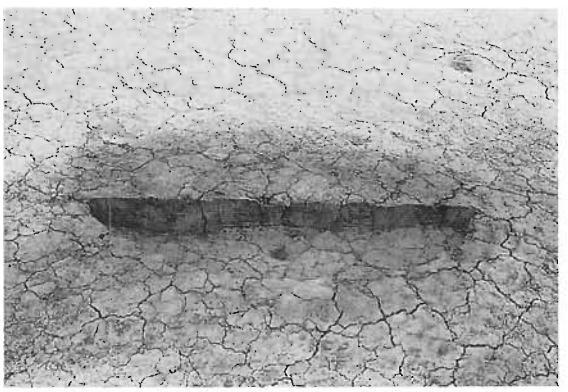
52号土坑・平面



断　面



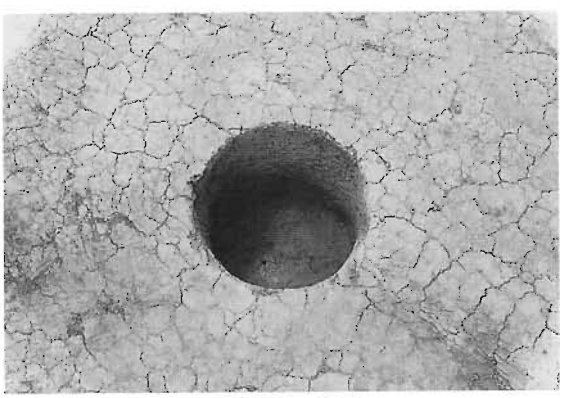
53号土坑・平面



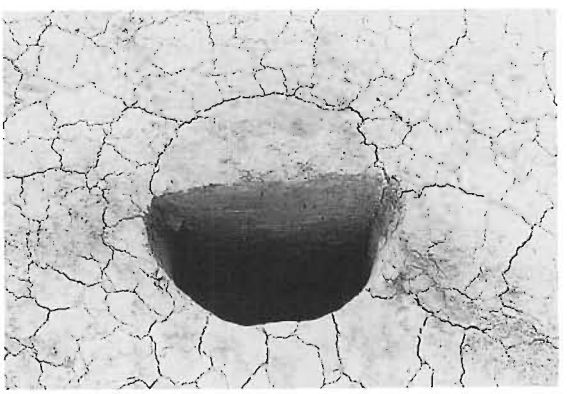
断　面

54号土坑・平面

作業風景



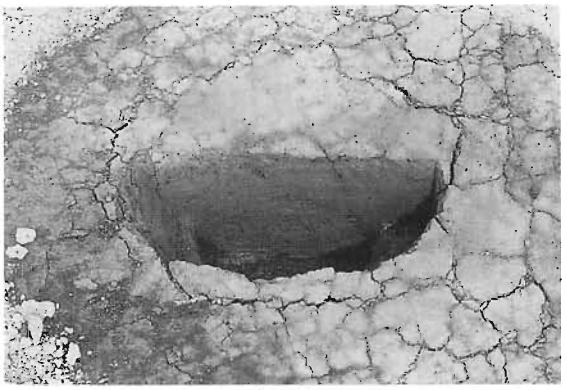
55号土坑・平面



断　面

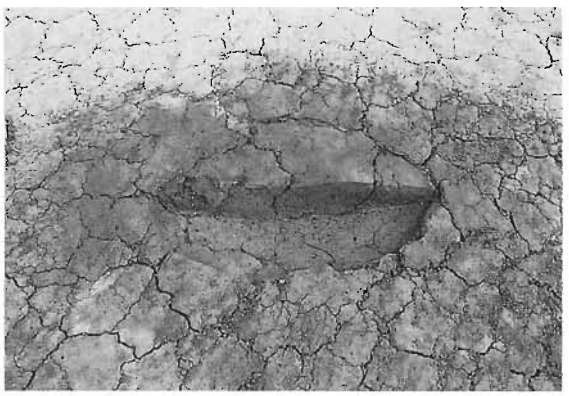
写真図版98　52～55号土坑

56号土坑・平面

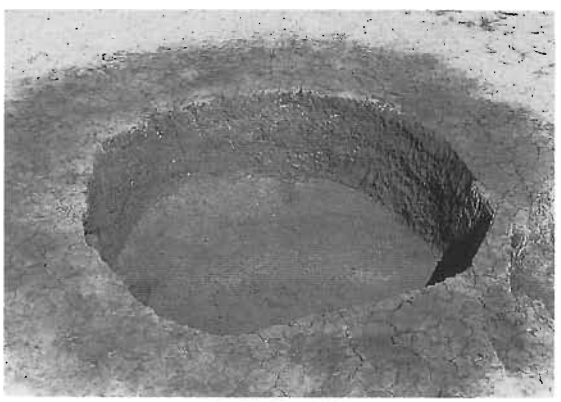


断　面

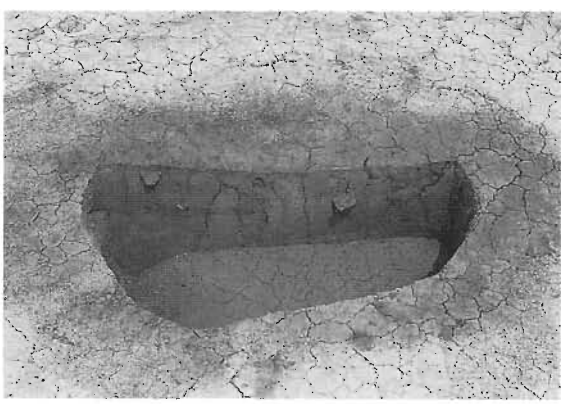
作業風景



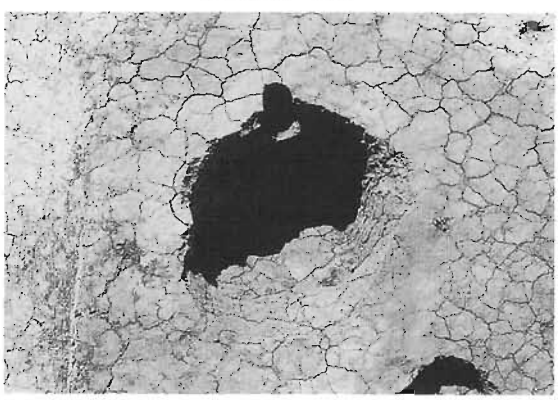
57号土坑・断面



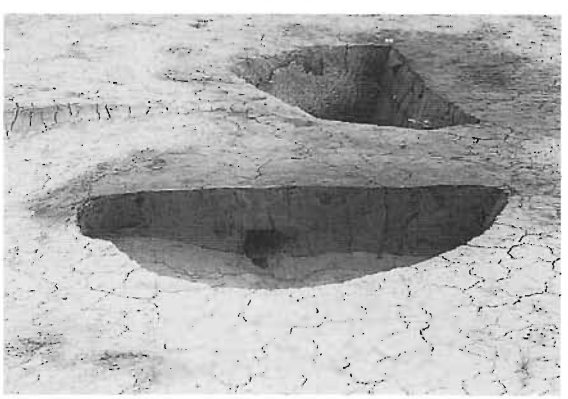
58号土坑・平面



断　面

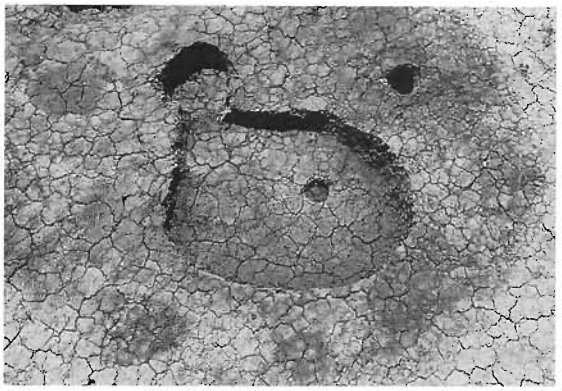


59号土坑・平面

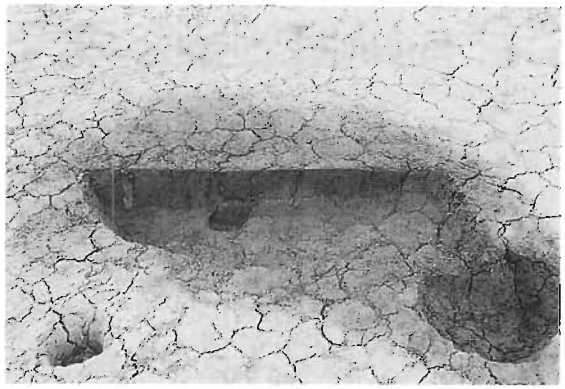


断　面

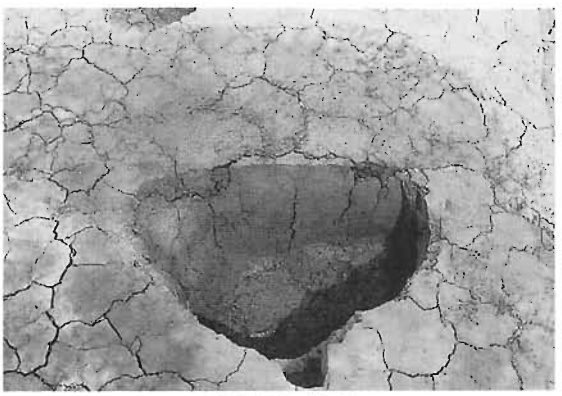
写真図版99　56～59号土坑



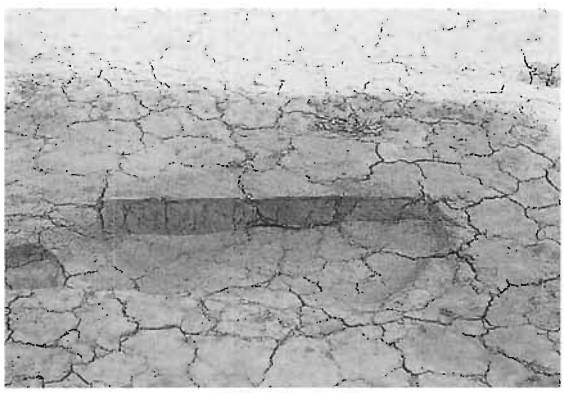
60号土坑・平面



断　面

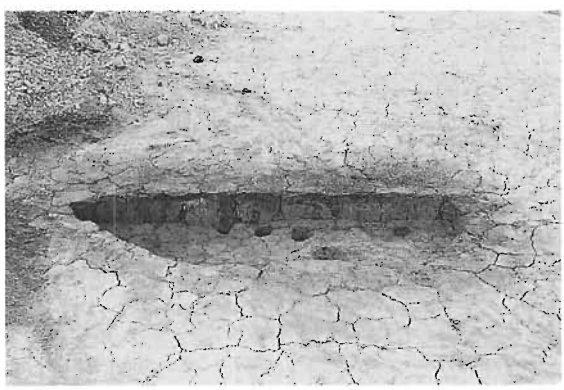


61号土坑・断面

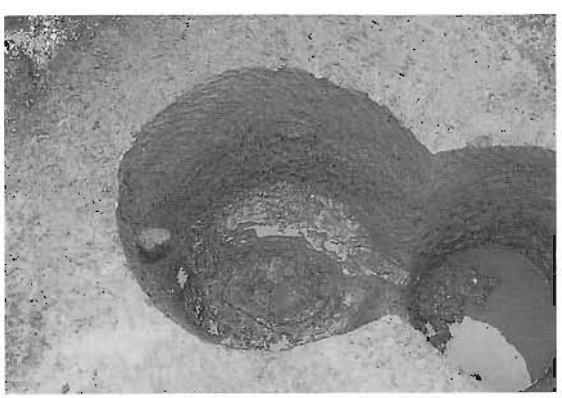


62号土坑・断面

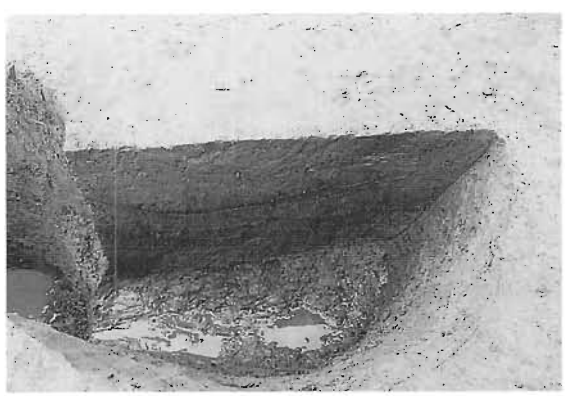
63号土坑・平面



断　面



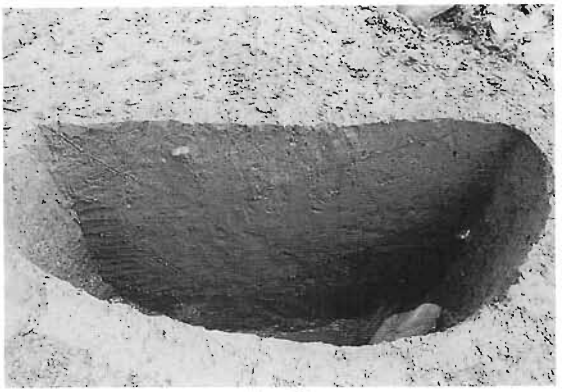
64号土坑・平面



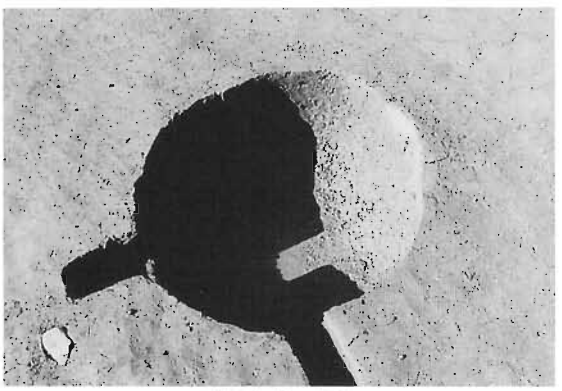
断　面

写真図版100　60～64号土坑

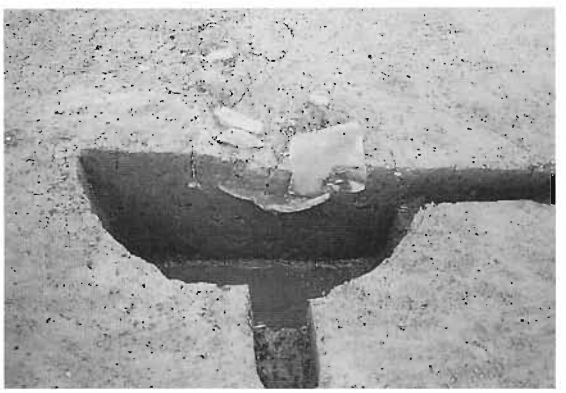
65号土坑・平面



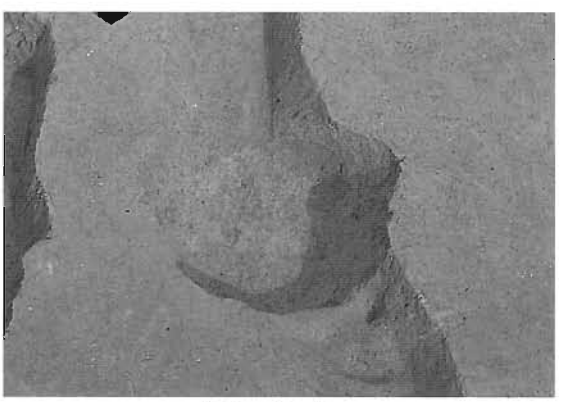
断　面



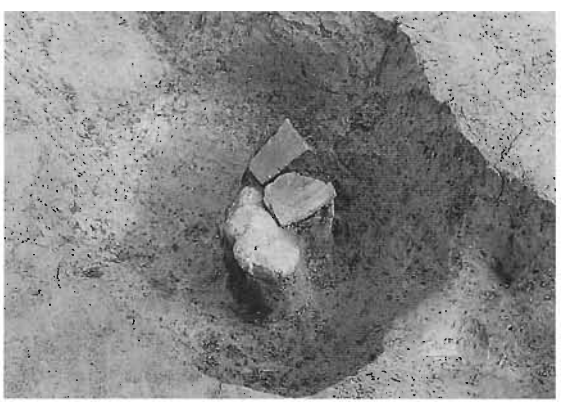
66号土坑・平面



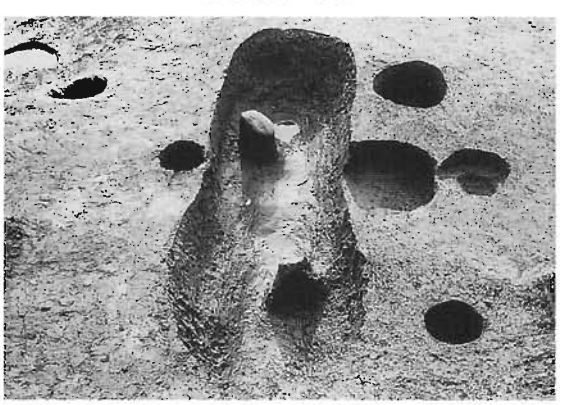
断　面



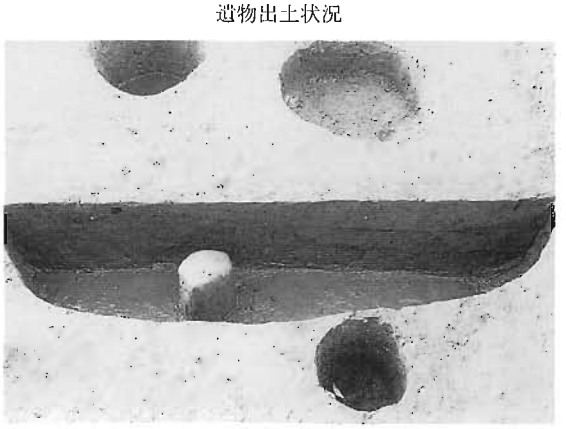
67号土坑・平面



遺物出土状況



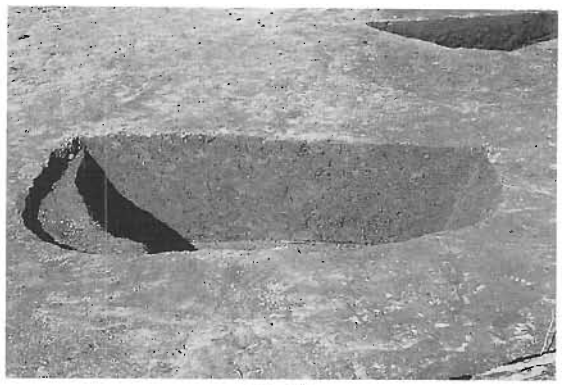
68号土坑・平面



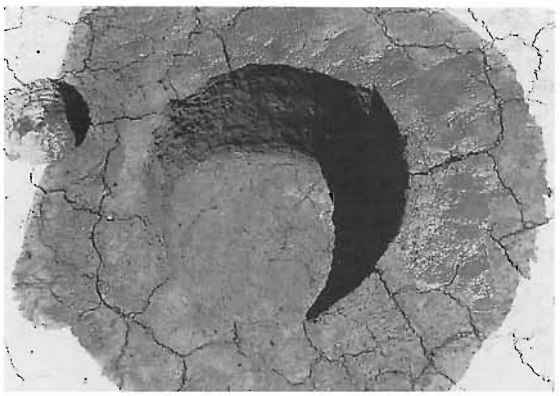
断　面

写真図版101　65～68号土坑

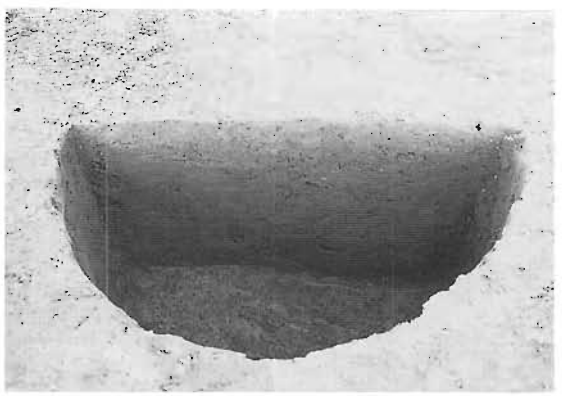
69号土坑・平面



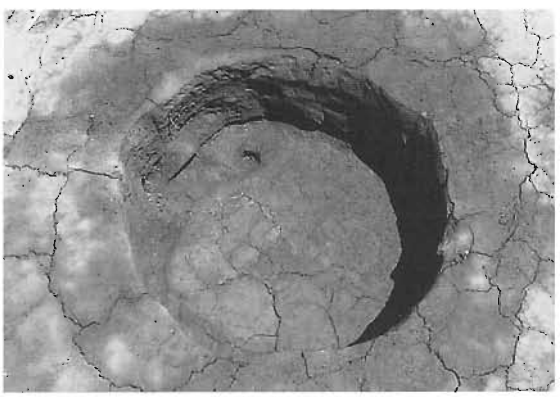
断　面



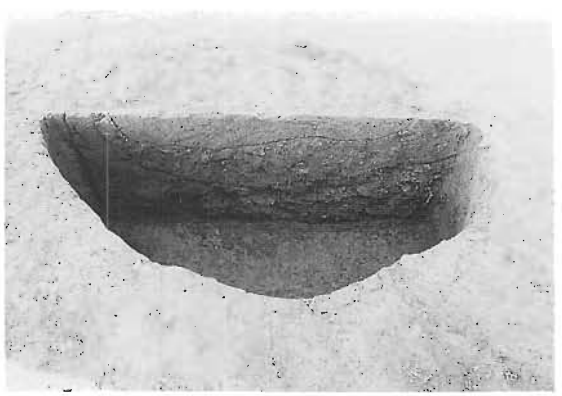
70号土坑・平面



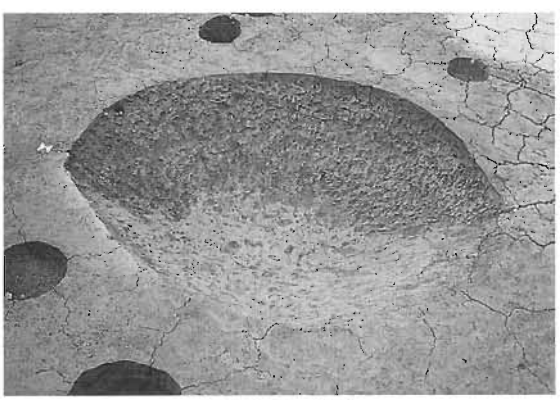
断　面



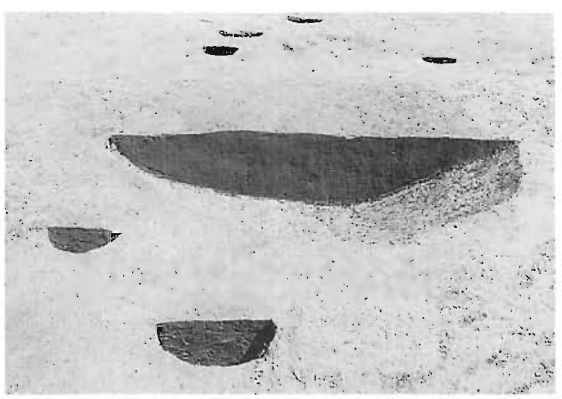
71号土坑・平面



断　面

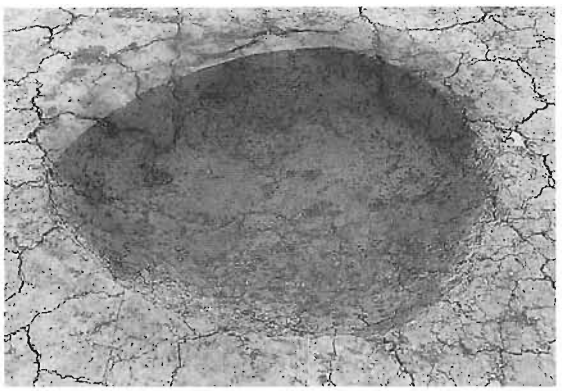


72号土坑・平面

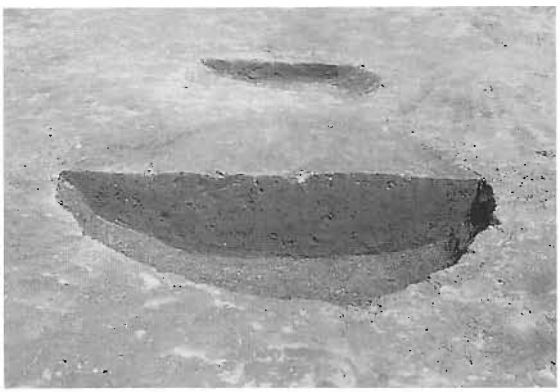


断　面

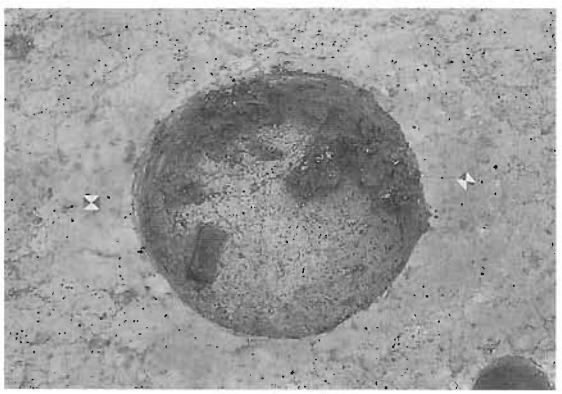
写真図版102　69～72号土坑



73号土坑・平面

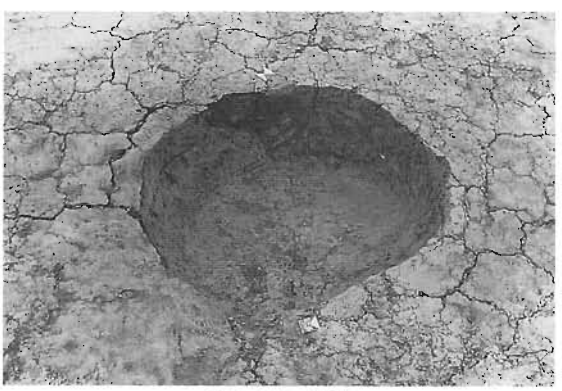


断　面



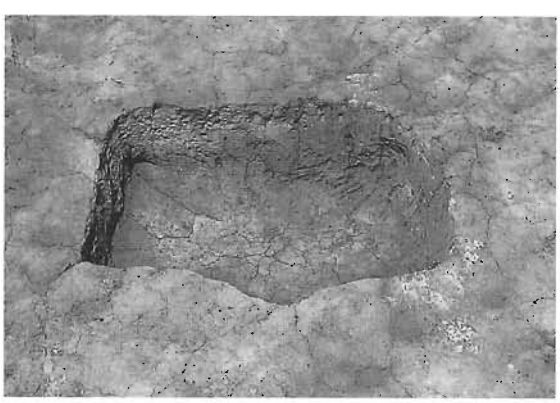
74号土坑・平面

断　面

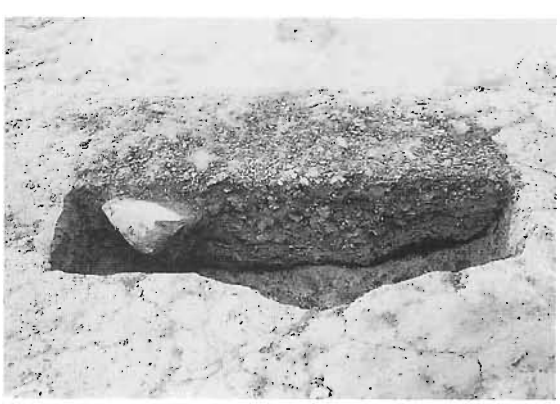


75号土坑・平面

遺物出土状況

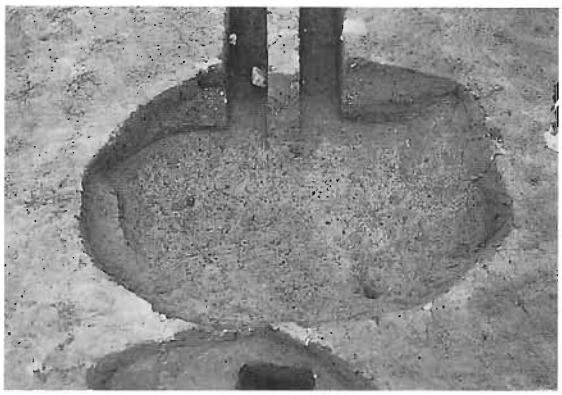


76号土坑・平面

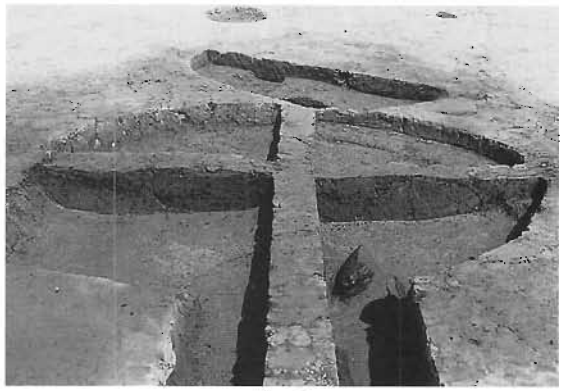


断　面

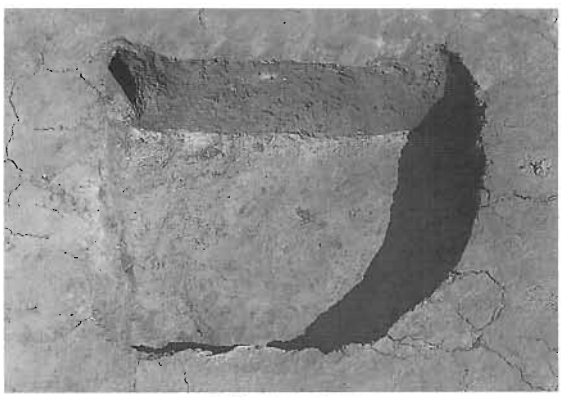
写真図版103　73～76号土坑



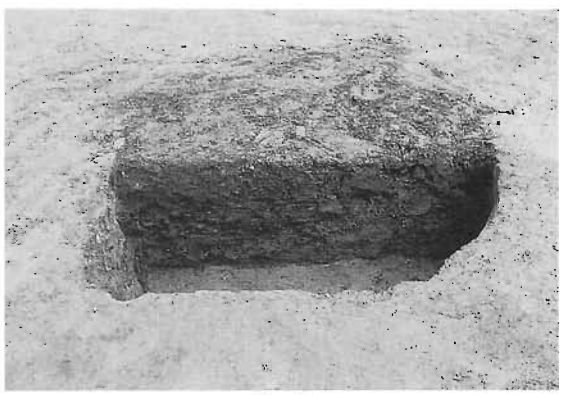
78号土坑・平面



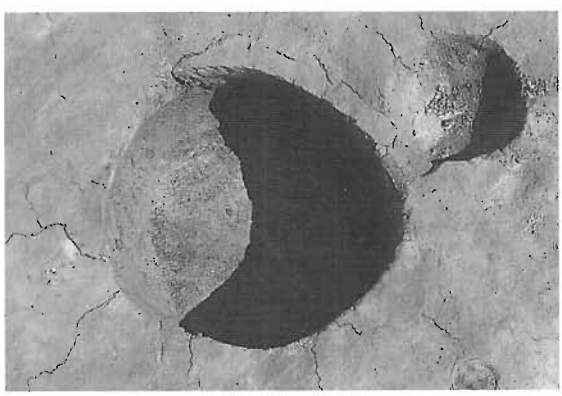
断　面



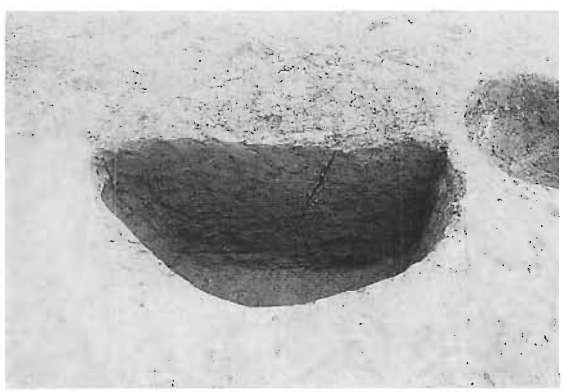
80号土坑・平面



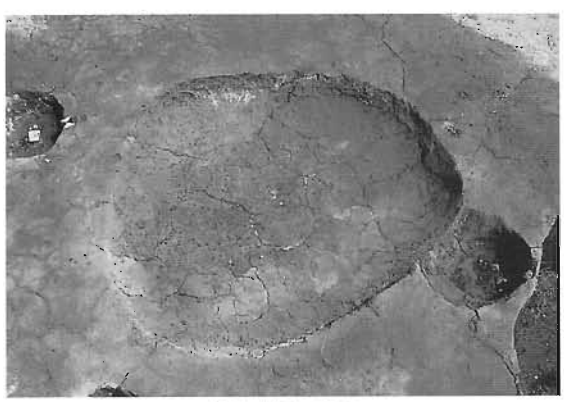
断　面



81号土坑・平面



断　面



82号土坑・平面

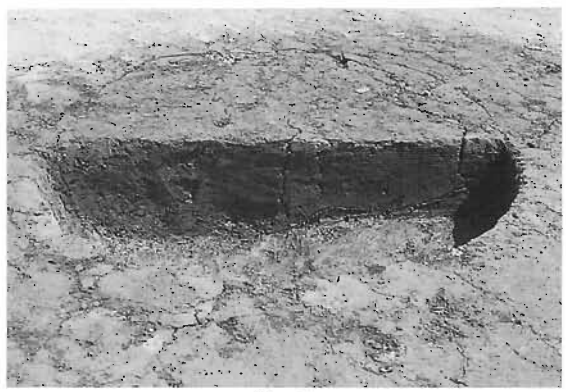
断　面

写真図版104　78・80～82号土坑

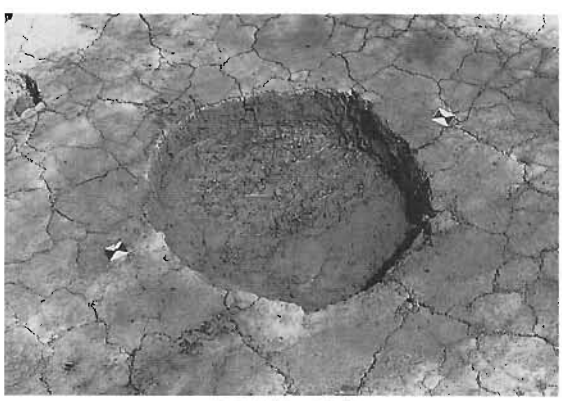
83号土坑・平面

検出風景

84号土坑・平面

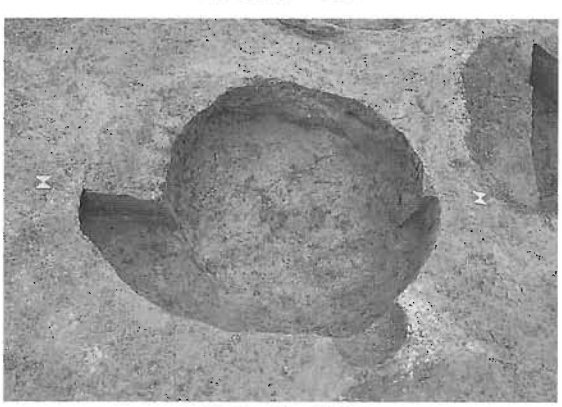


断　面

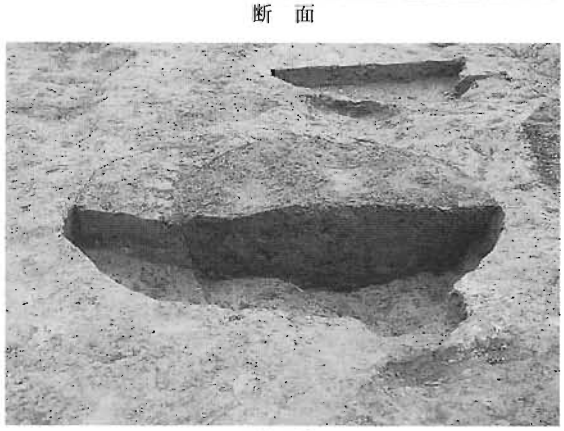


85号土坑・平面

断　面

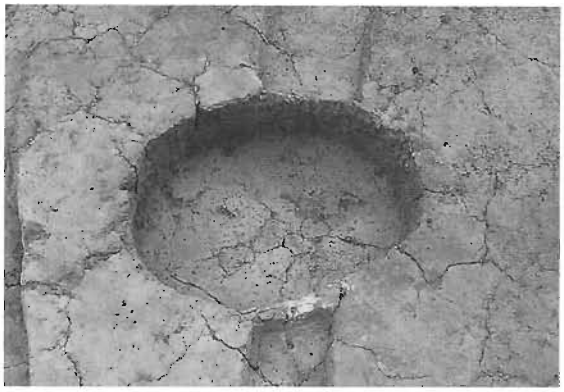


86号土坑・平面

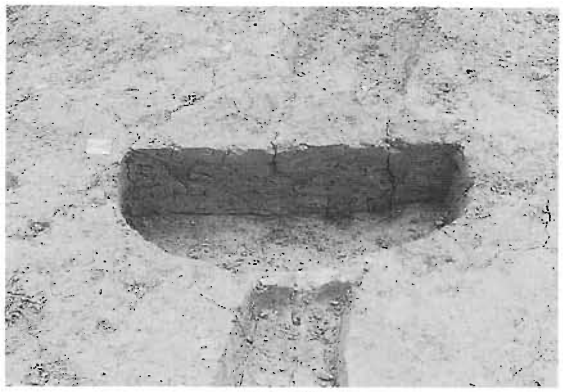


断　面

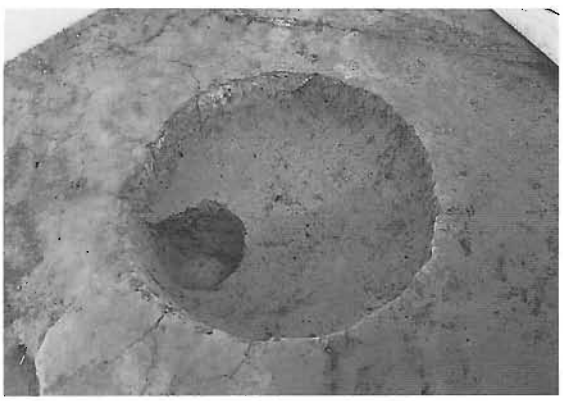
写真図版105　83～86号土坑



87号土坑・平面



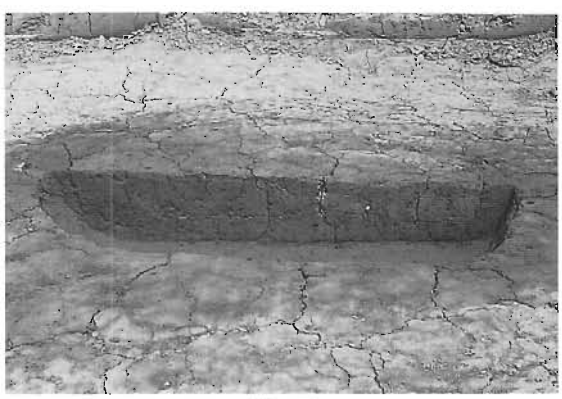
断　面



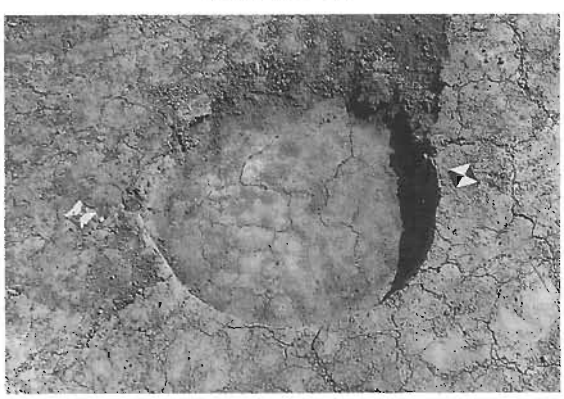
88号土坑・平面

作業風景

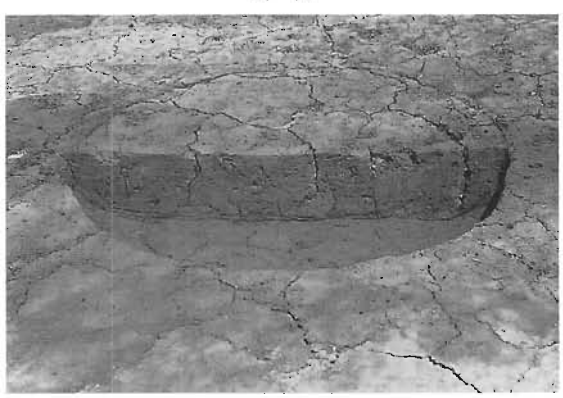
89号土坑・平面



断　面



90号土坑・平面



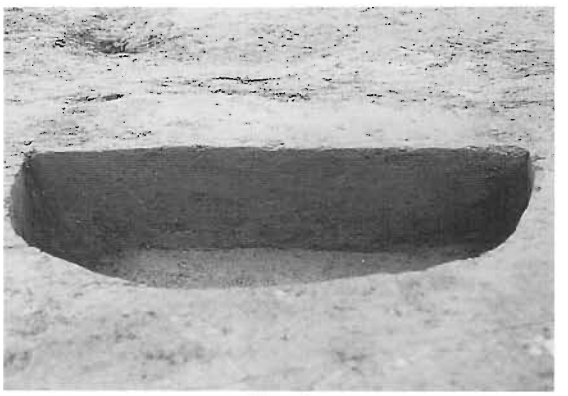
断　面

写真図版106　87～90号土坑

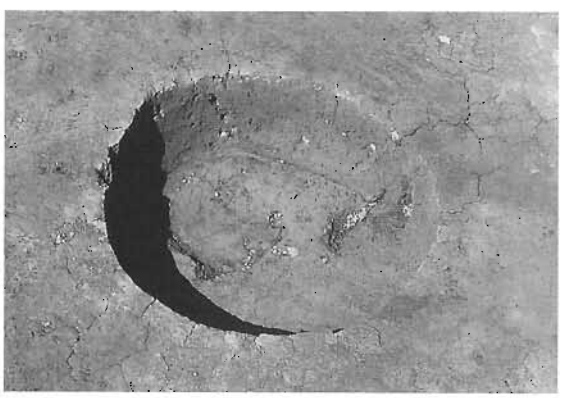
91号土坑・平面

作業風景

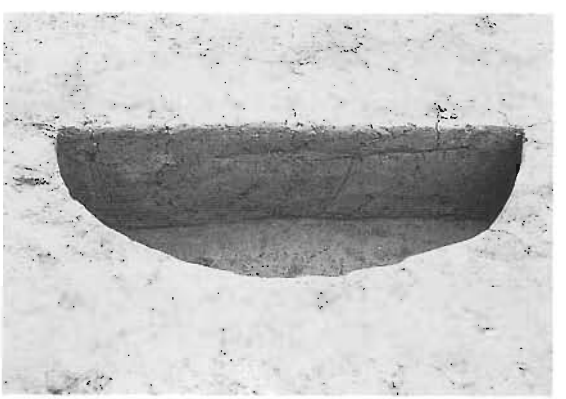
92号土坑・平面



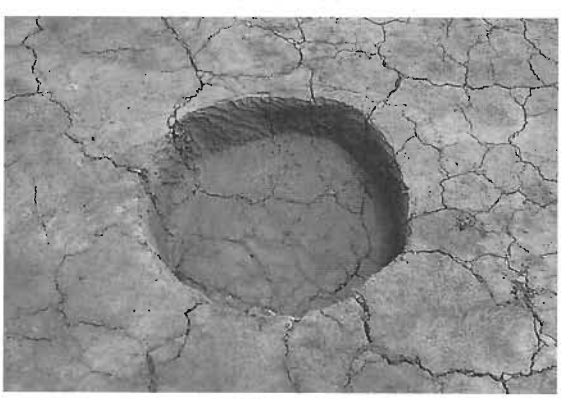
断　面



93号土坑・平面



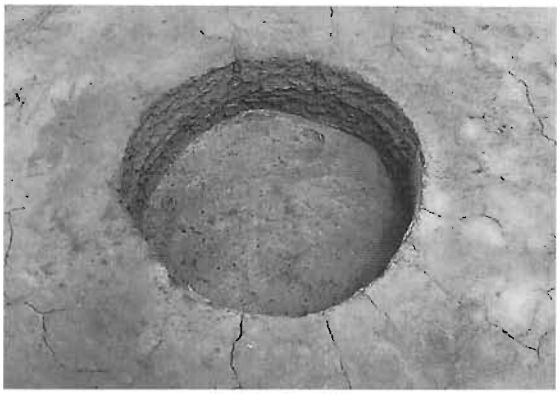
断　面



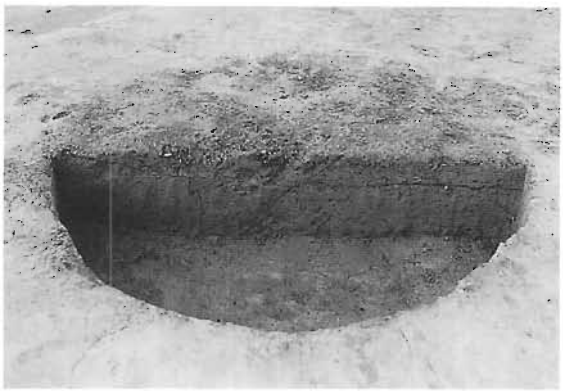
94号土坑・平面

作業風景

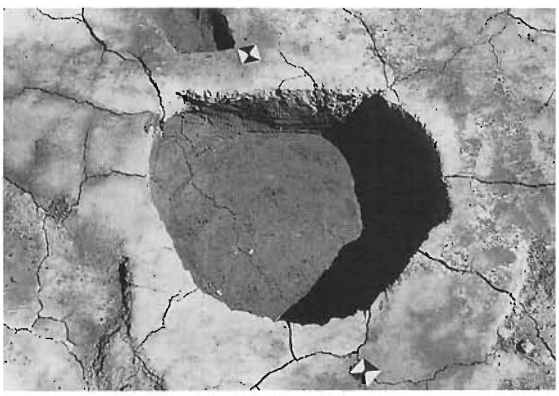
写真図版107　91～94号土坑



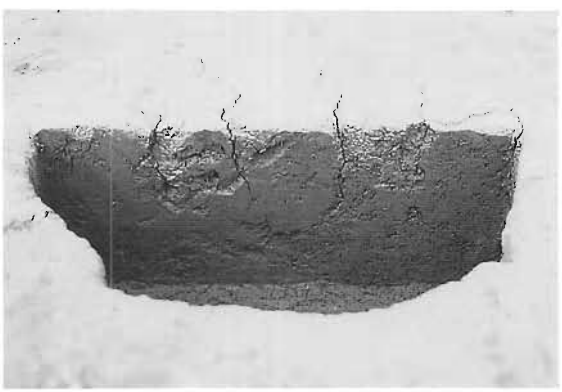
95号土坑・平面



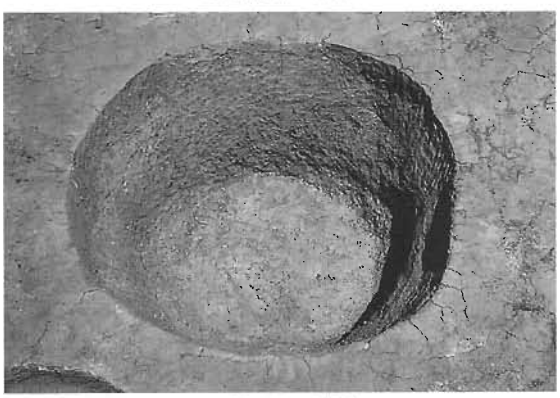
断　面



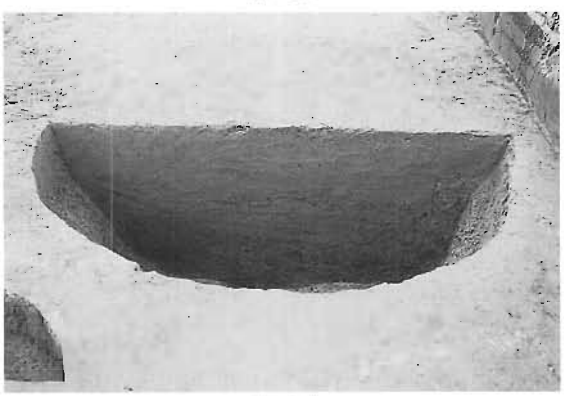
96号土坑・平面



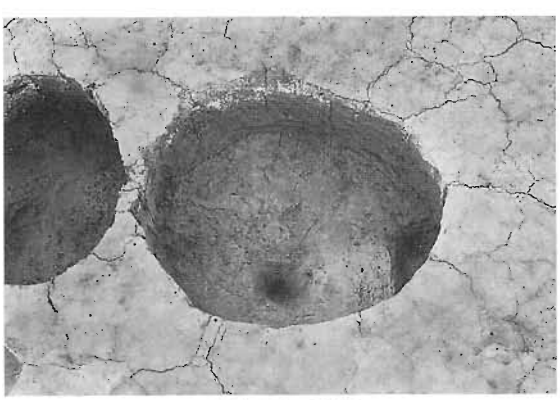
断　面



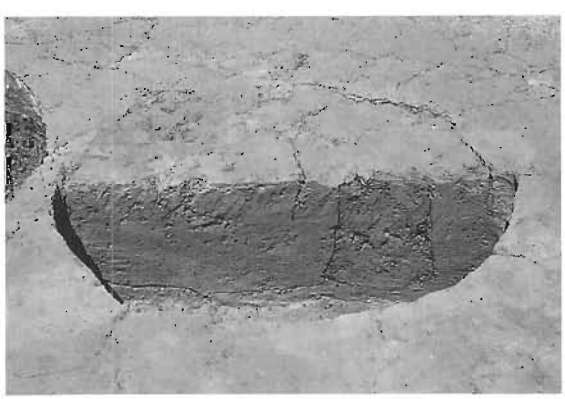
97号土坑・平面



断　面

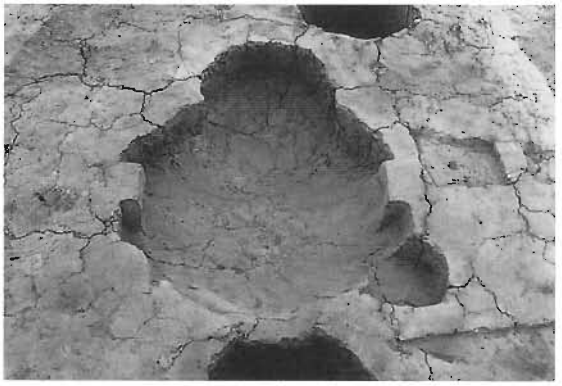


98号土坑・平面

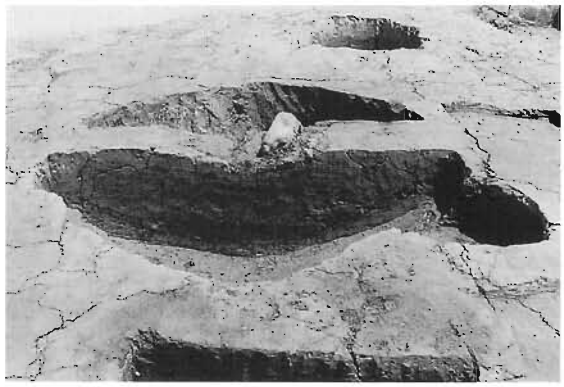


断　面

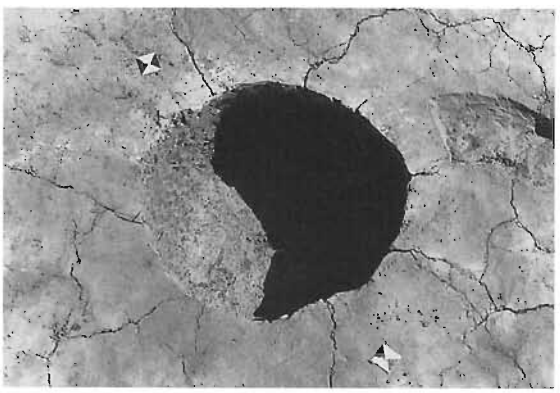
写真図版108　95～98号土坑



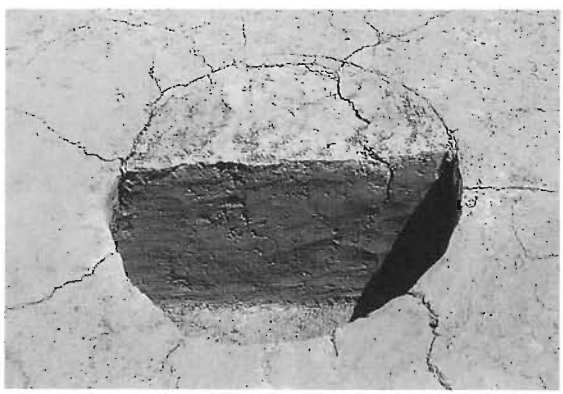
99号土坑・平面



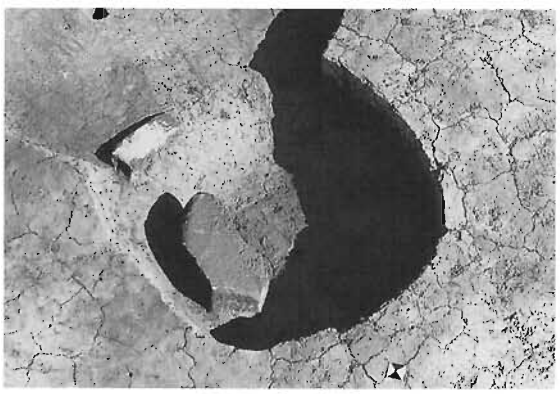
断　面



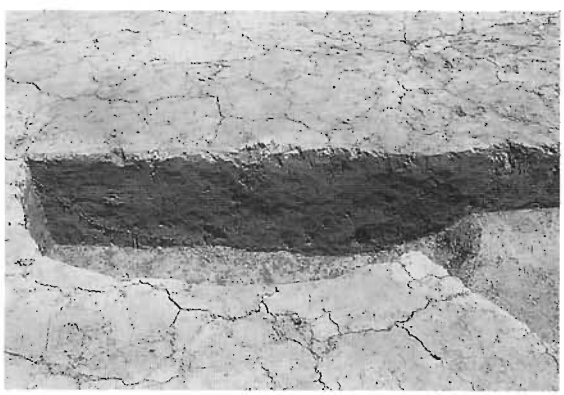
100号土坑・平面



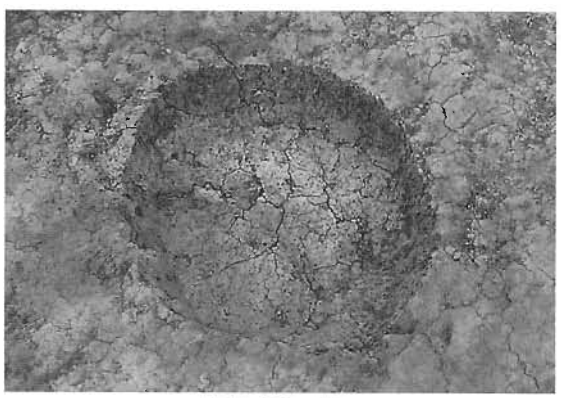
断　面



101号土坑・平面



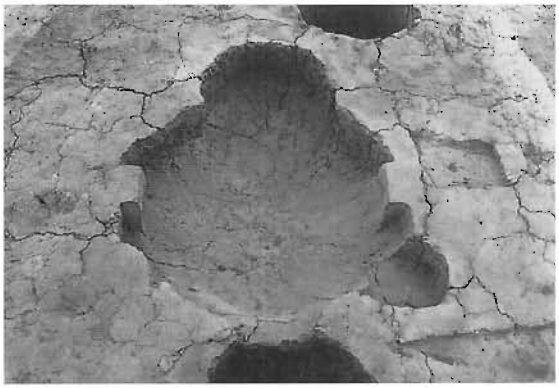
断　面



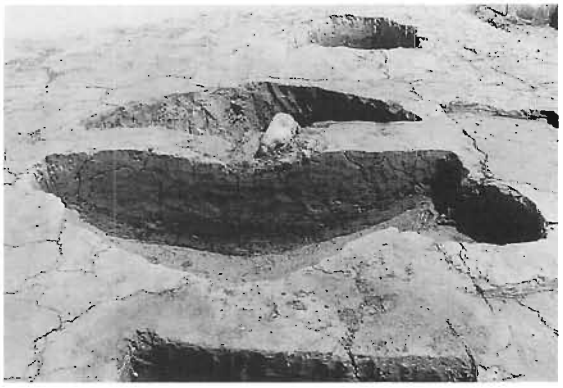
102号土坑・平面

断　面

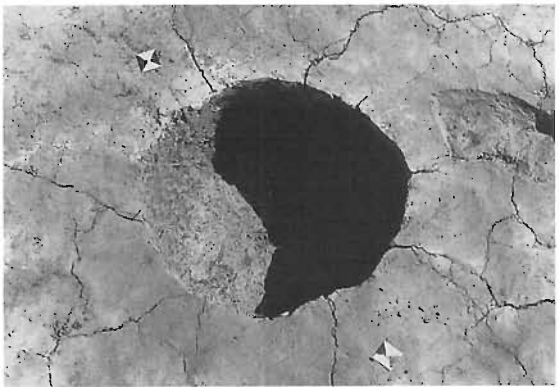
写真図版109　99～102号土坑



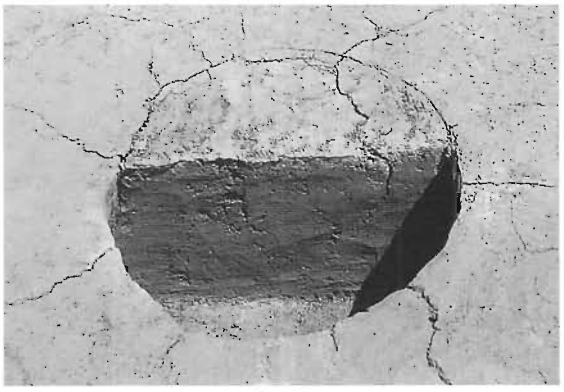
103号土坑・平面



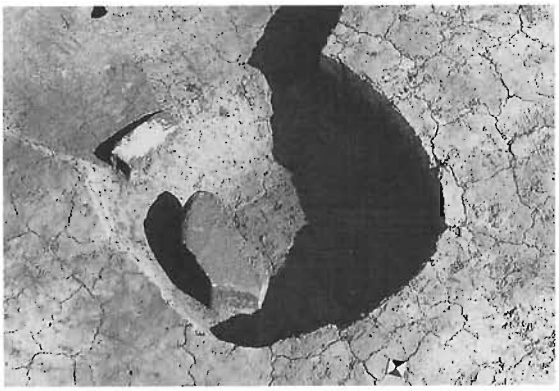
断　面



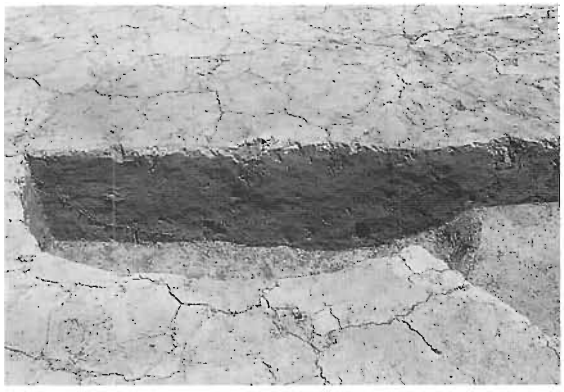
104号土坑・平面



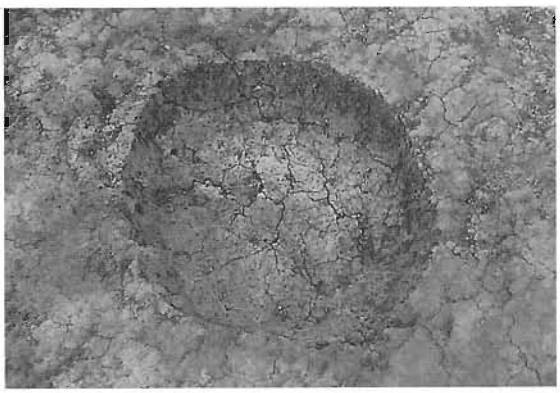
断　面



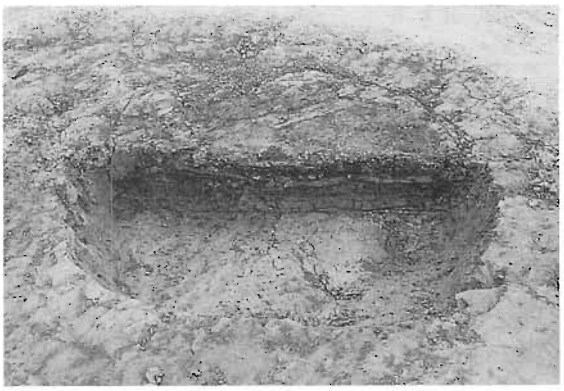
105号土坑・平面



断　面



106号土坑・平面

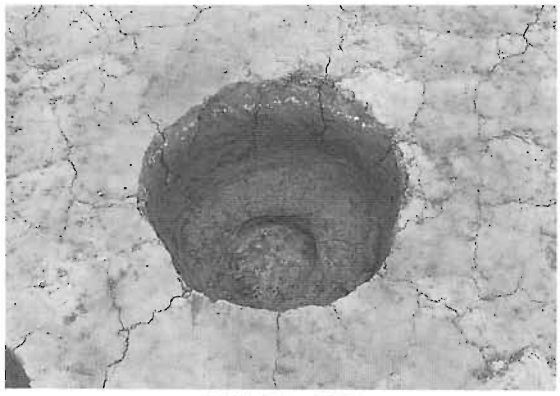


断　面

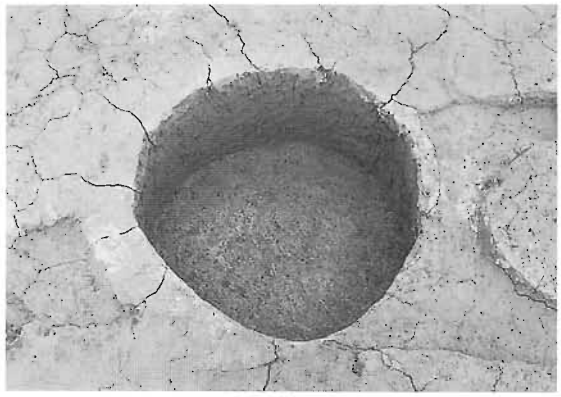
写真図版110　103～106号土坑

107号土坑・平面

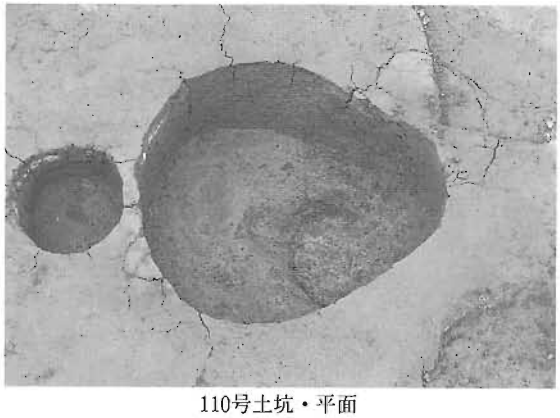
断　面



108号土坑・平面



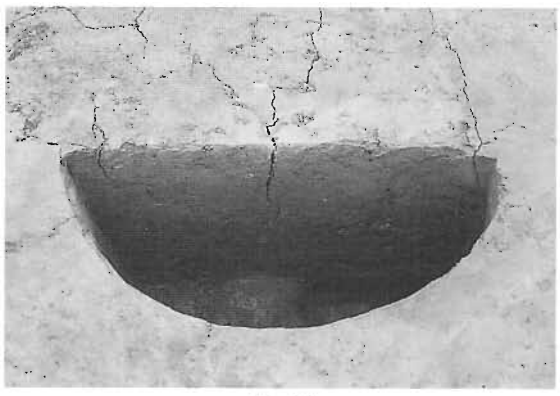
109号土坑・平面



110号土坑・平面

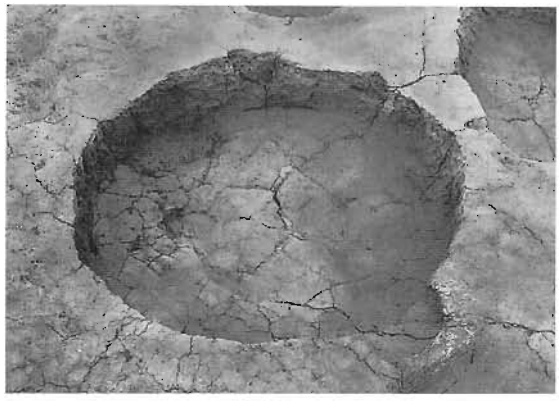
遺物出土状況

111号土坑・平面

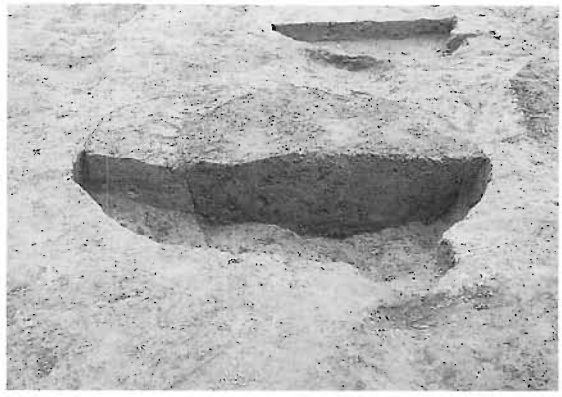


断　面

写真図版111　107～111号土坑

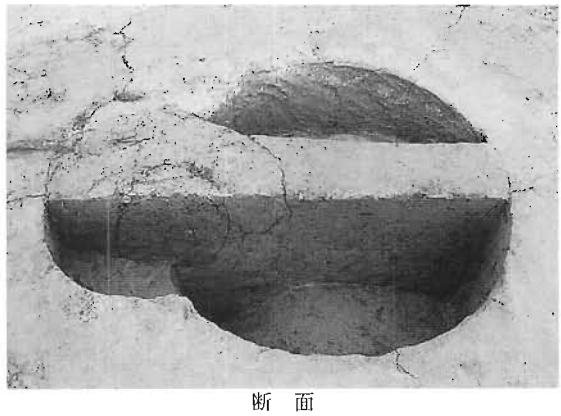


112号土坑・平面

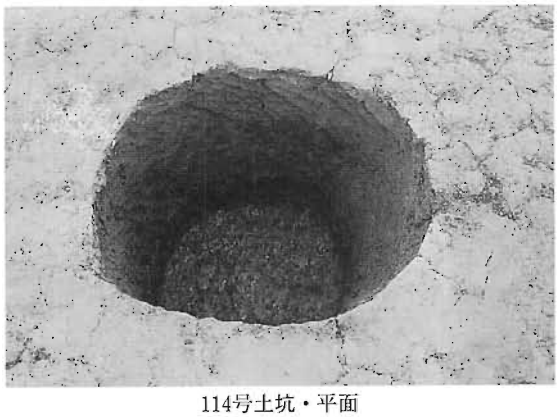


断　面

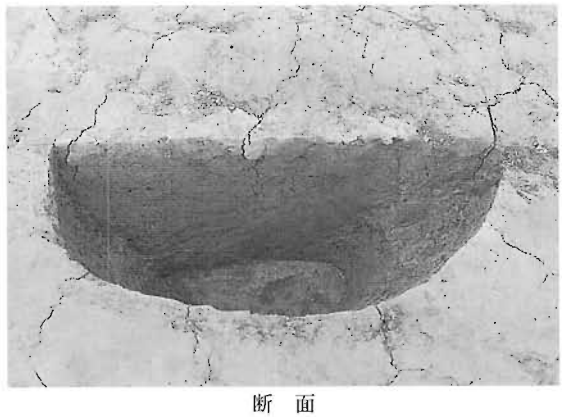
113号土坑・平面



断　面

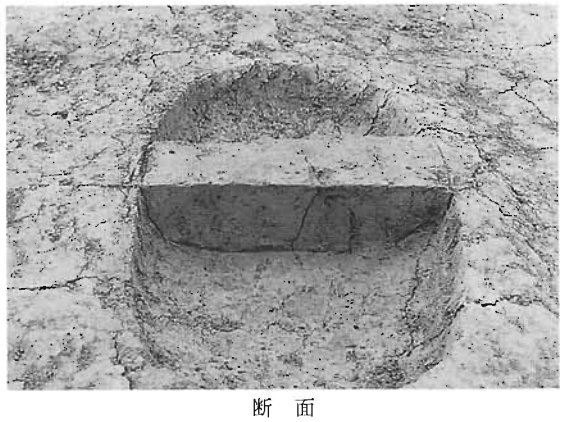


114号土坑・平面



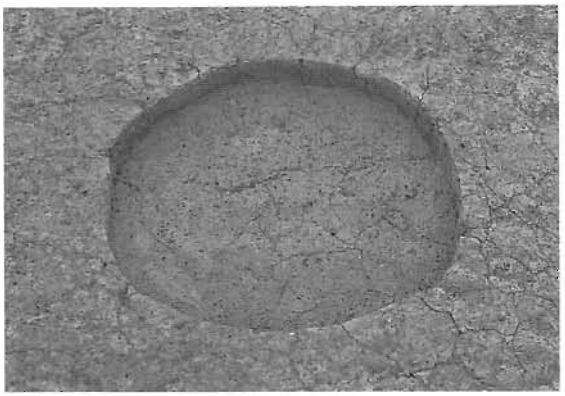
断　面

115号土坑・平面



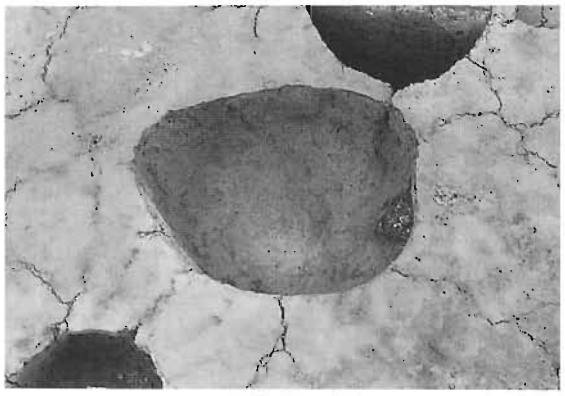
断　面

写真図版112　112～115号土坑

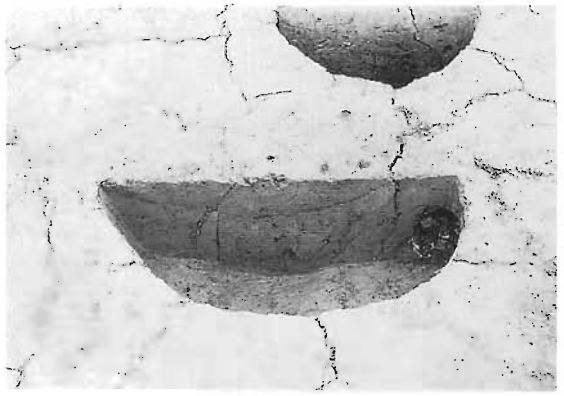


116号土坑・平面

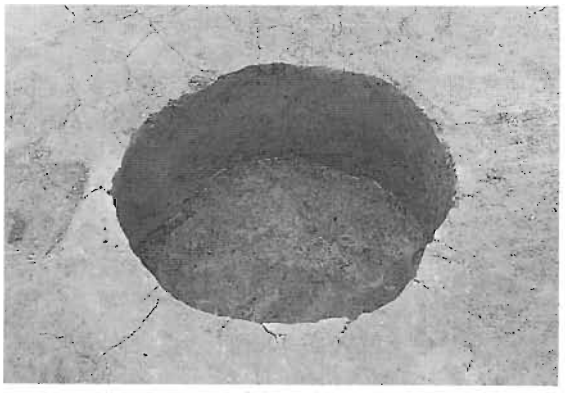
断　面



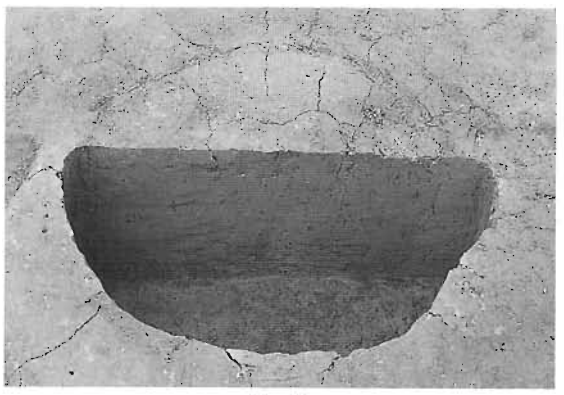
117号土坑・平面



断　面

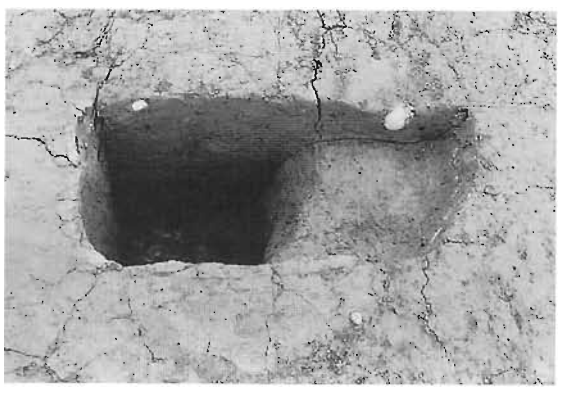


118号土坑・平面



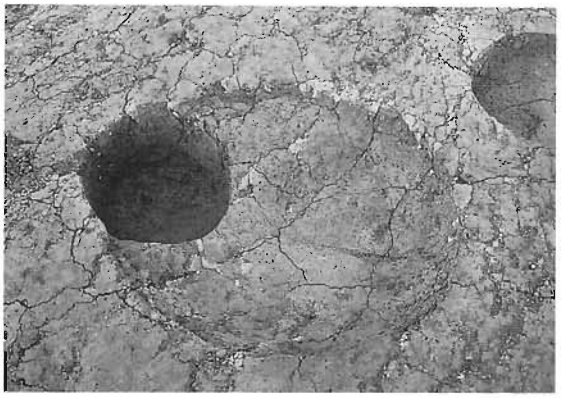
断　面

119号土坑・平面

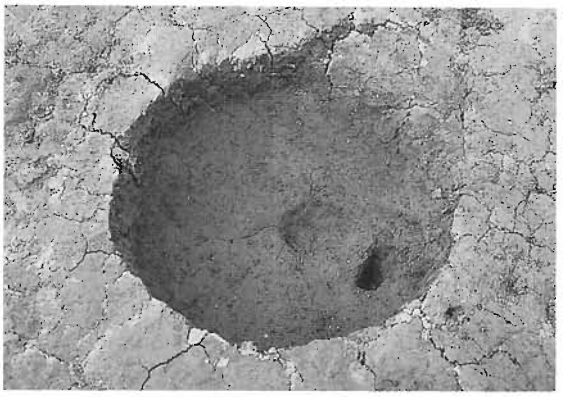


断　面

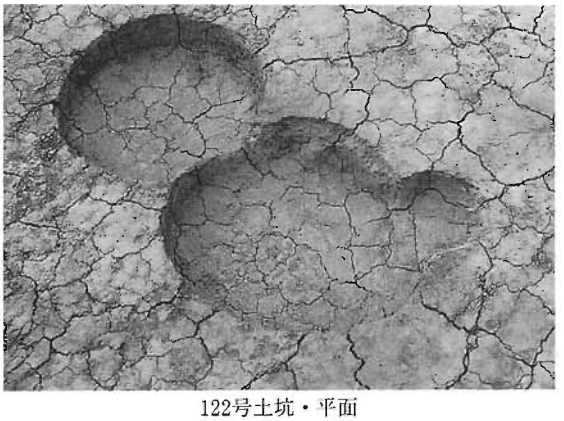
写真図版113　116～119号土坑



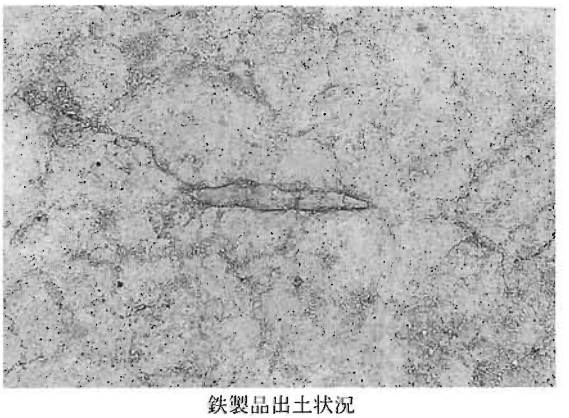
120号土坑・平面



121号土坑・平面



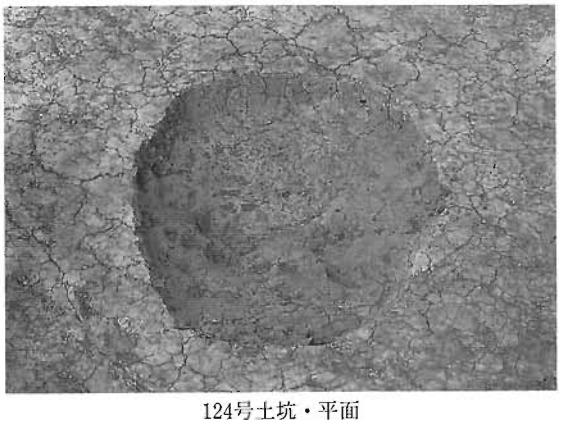
122号土坑・平面



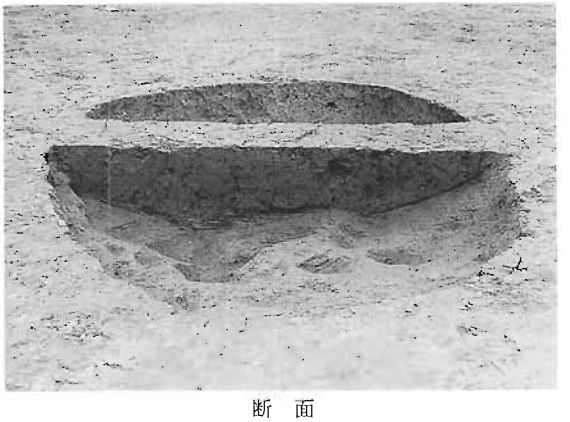
鉄製品出土状況

123号土坑・平面

断　面

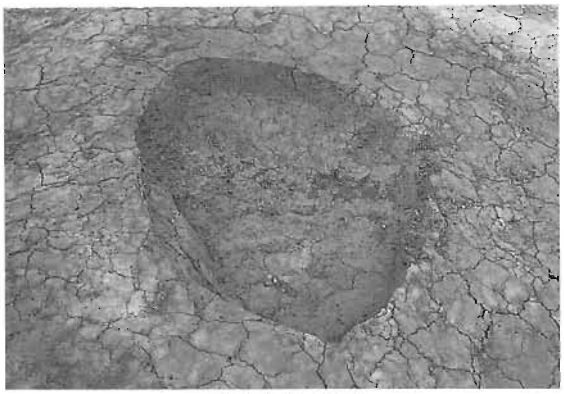


124号土坑・平面

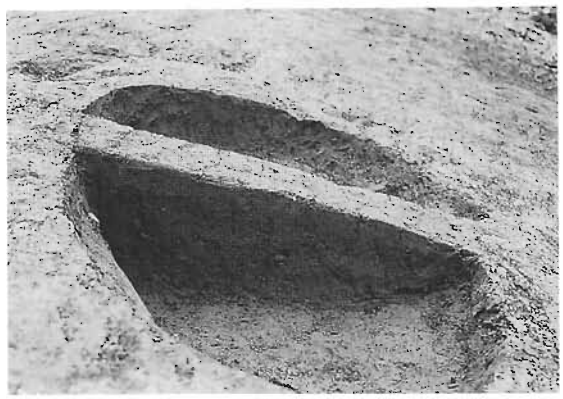


断　面

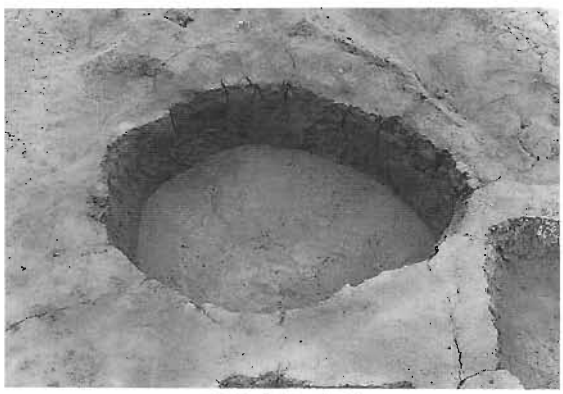
写真図版114　120～124号土坑



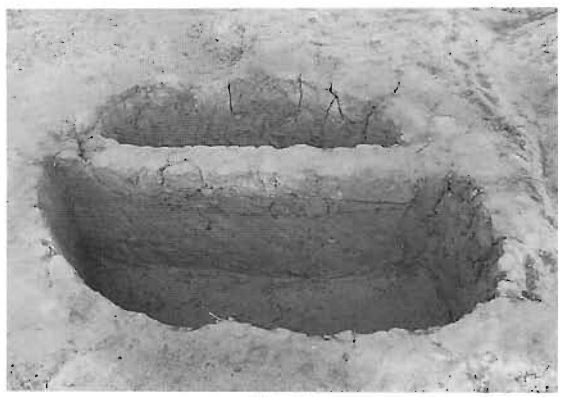
125号土坑・平面



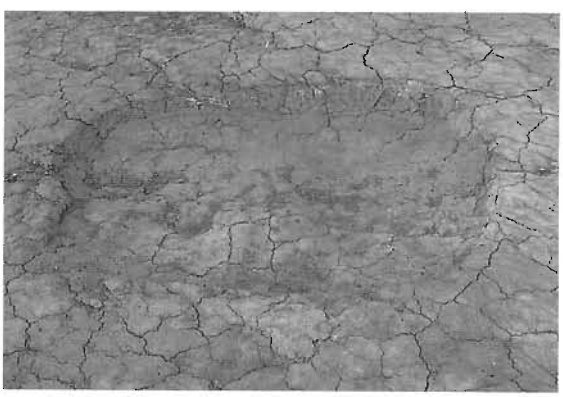
断　面



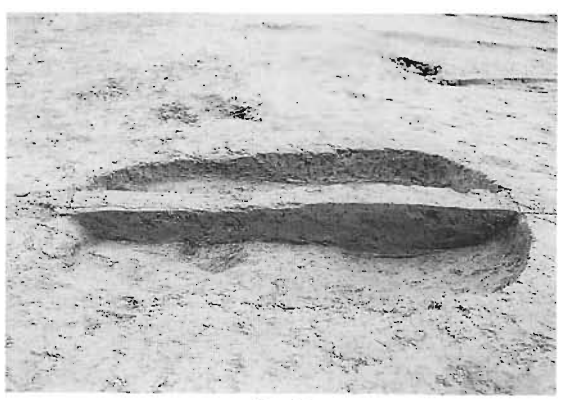
126号土坑・平面



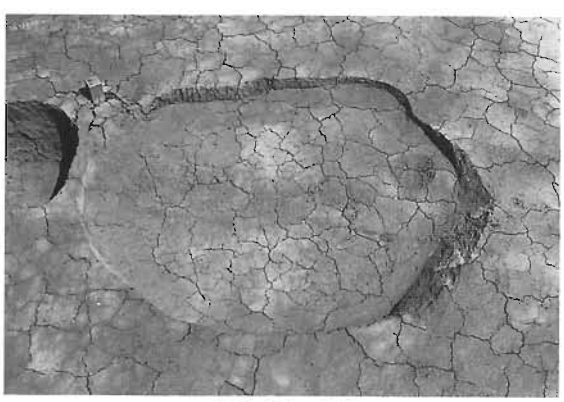
断　面



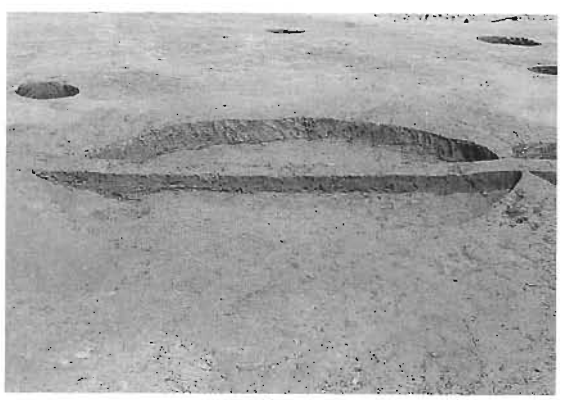
127号土坑・平面



断　面

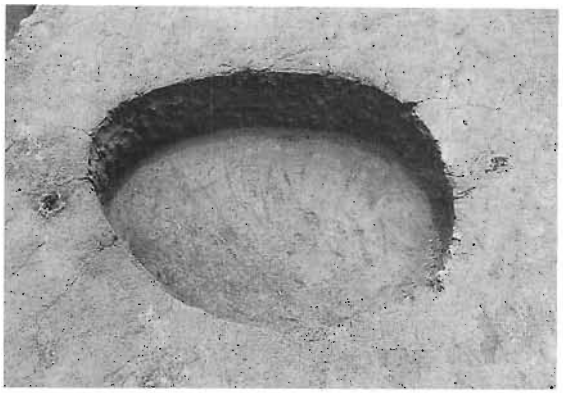


128号土坑・平面

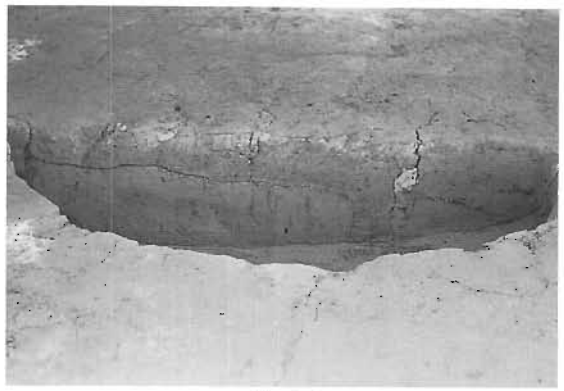


断　面

写真図版115　125～128号土坑



129号土坑・平面



断　面

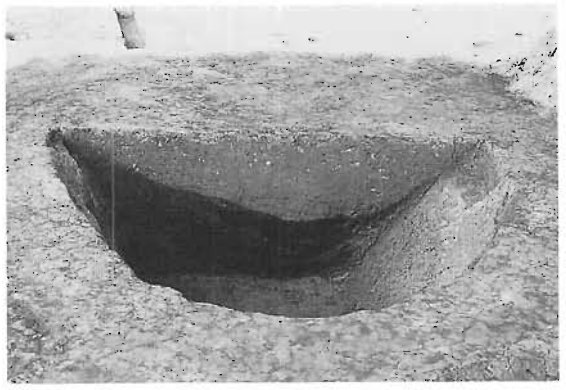
130号土坑・平面

調査前風景

131号土坑・平面

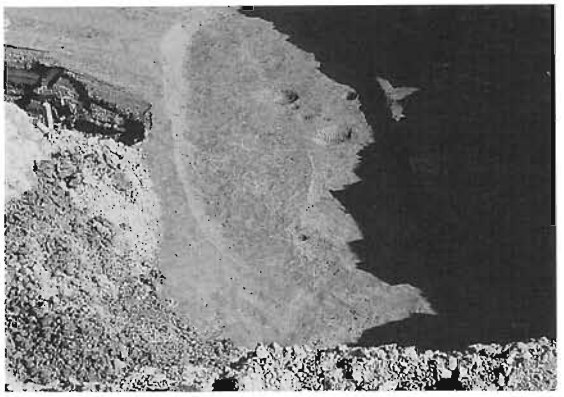
断　面

132号土坑・平面

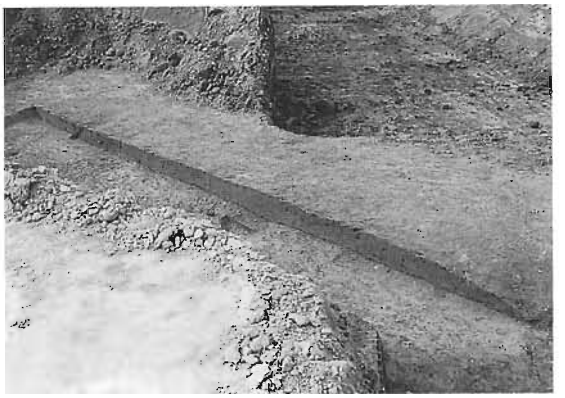


断　面

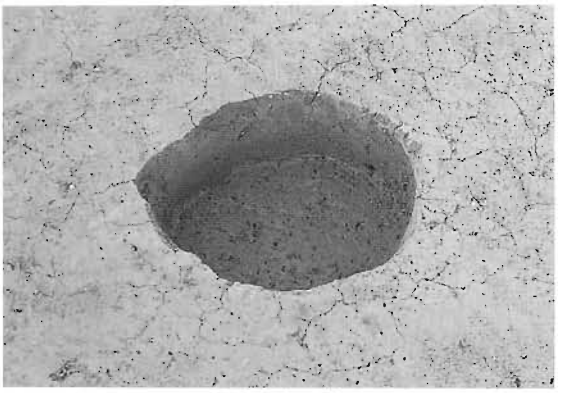
写真図版116　129～132号土坑



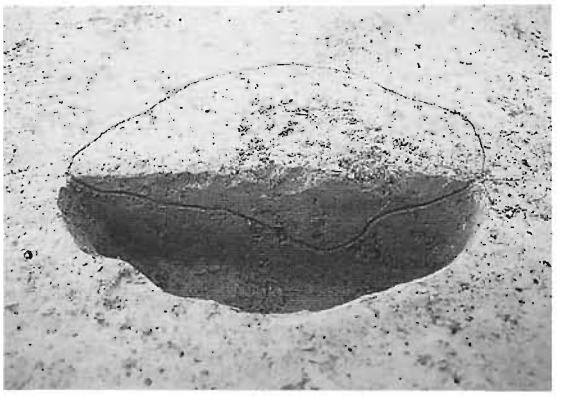
134号土坑・平面



断　面



135号土坑・平面



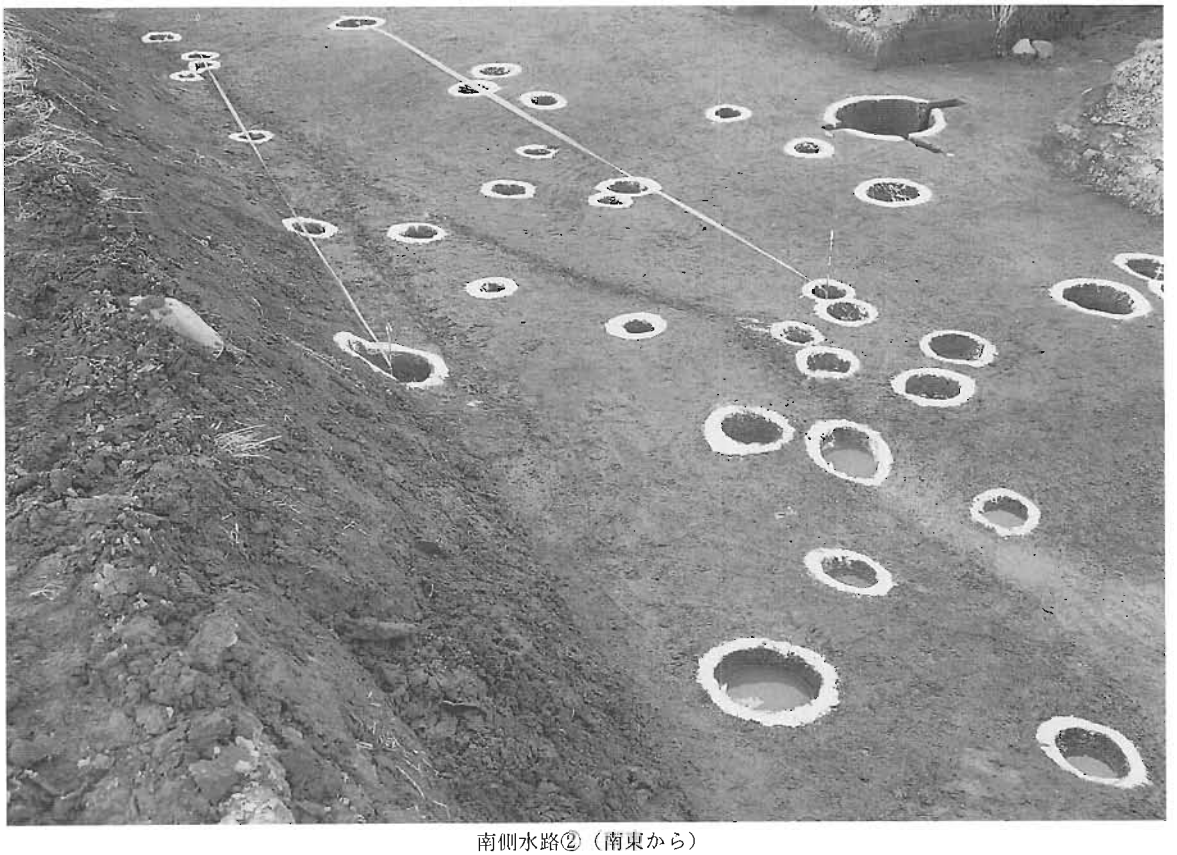
断　面

柳之御所遺跡より望む本町Ⅱ遺跡

写真図版117　134・135号土坑、遺跡遠景

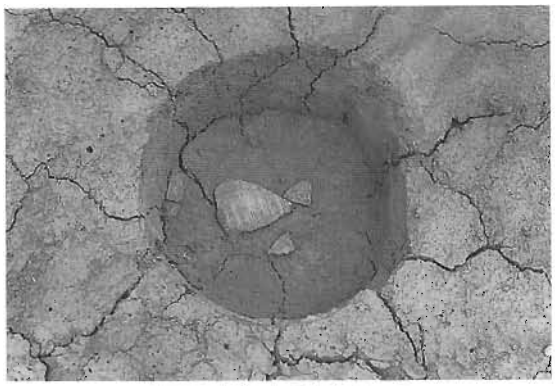
北側水路（東から）

南側水路①（東から）



南側水路②（南東から）

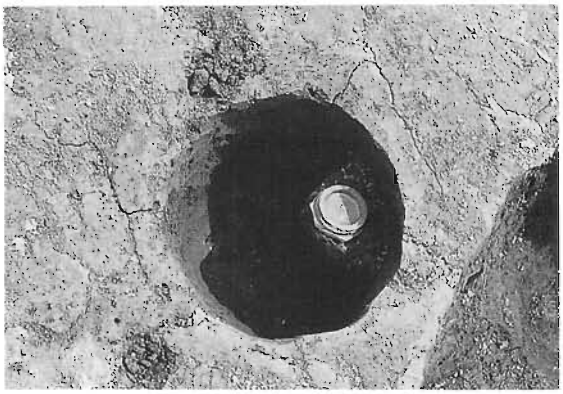
写真図版118　柱穴群(水路部分)



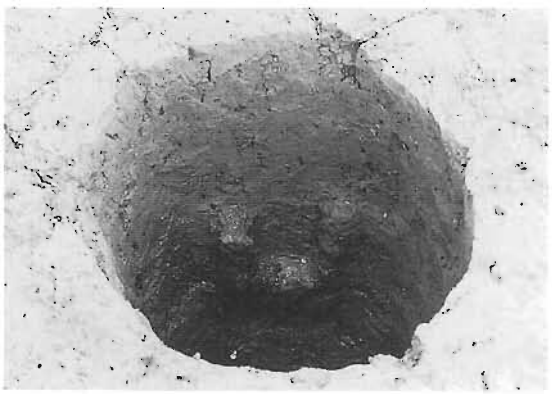
PP1003遺物出土状況（S→）

PP1002遺物出土状況（S→）

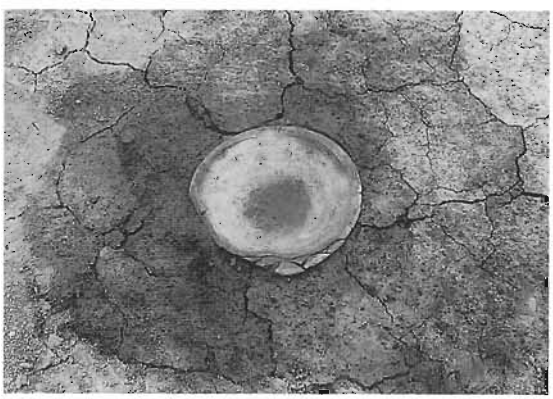
PP3099遺物出土状況（S→）



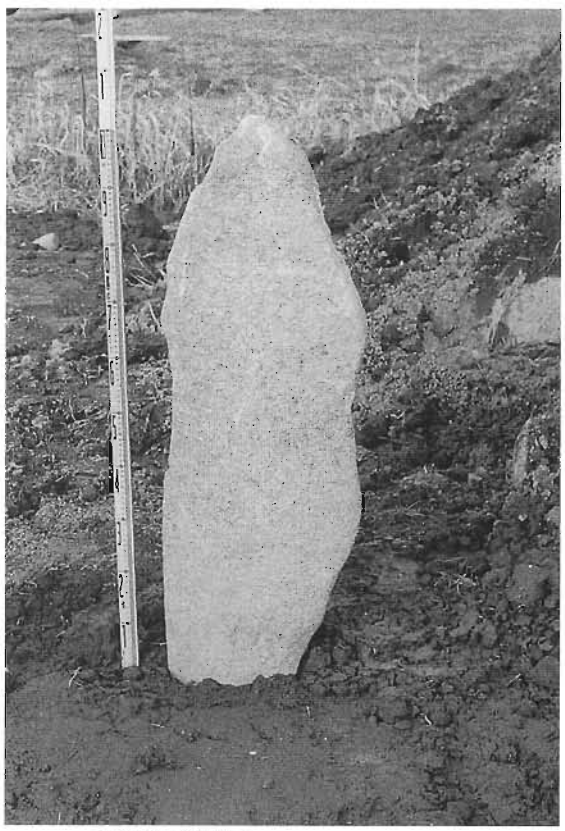
PP1460遺物出土状況（W→）



PP3316遺物出土状況

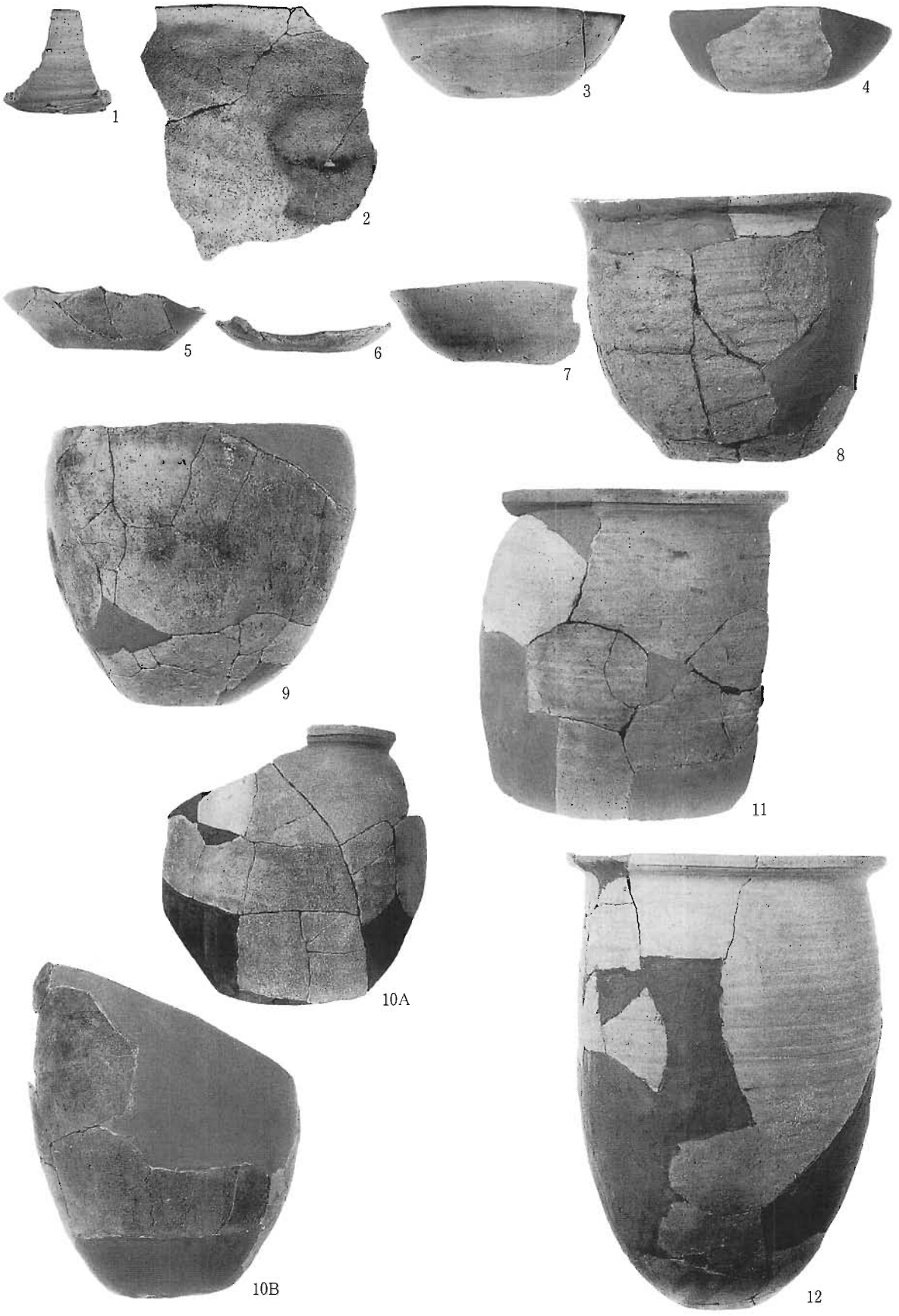


ＩＤ-10aグリット遺物出土状況



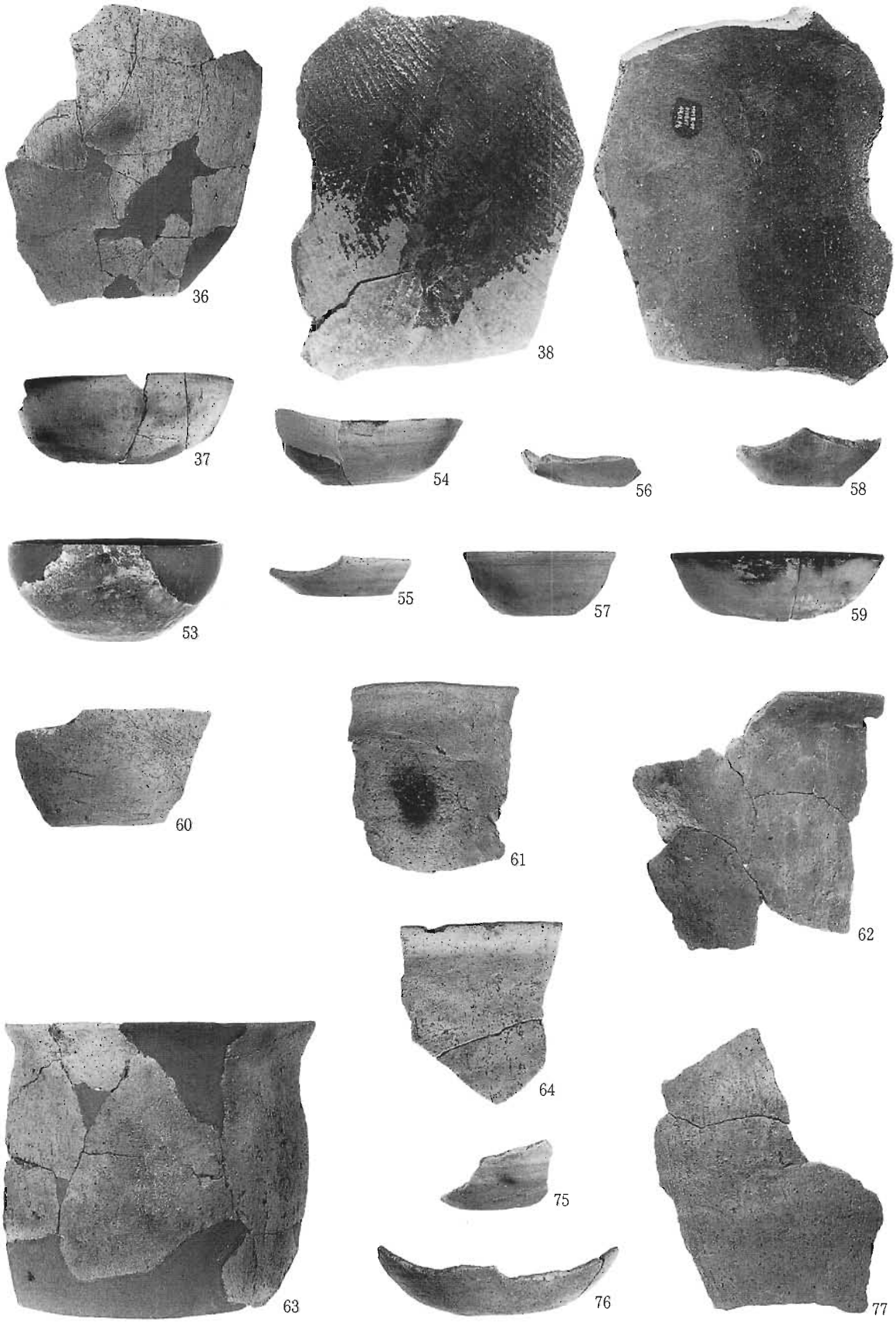
参考資料（調査区外南水路北側出土板碑）

写真図版119　遺物出土状況

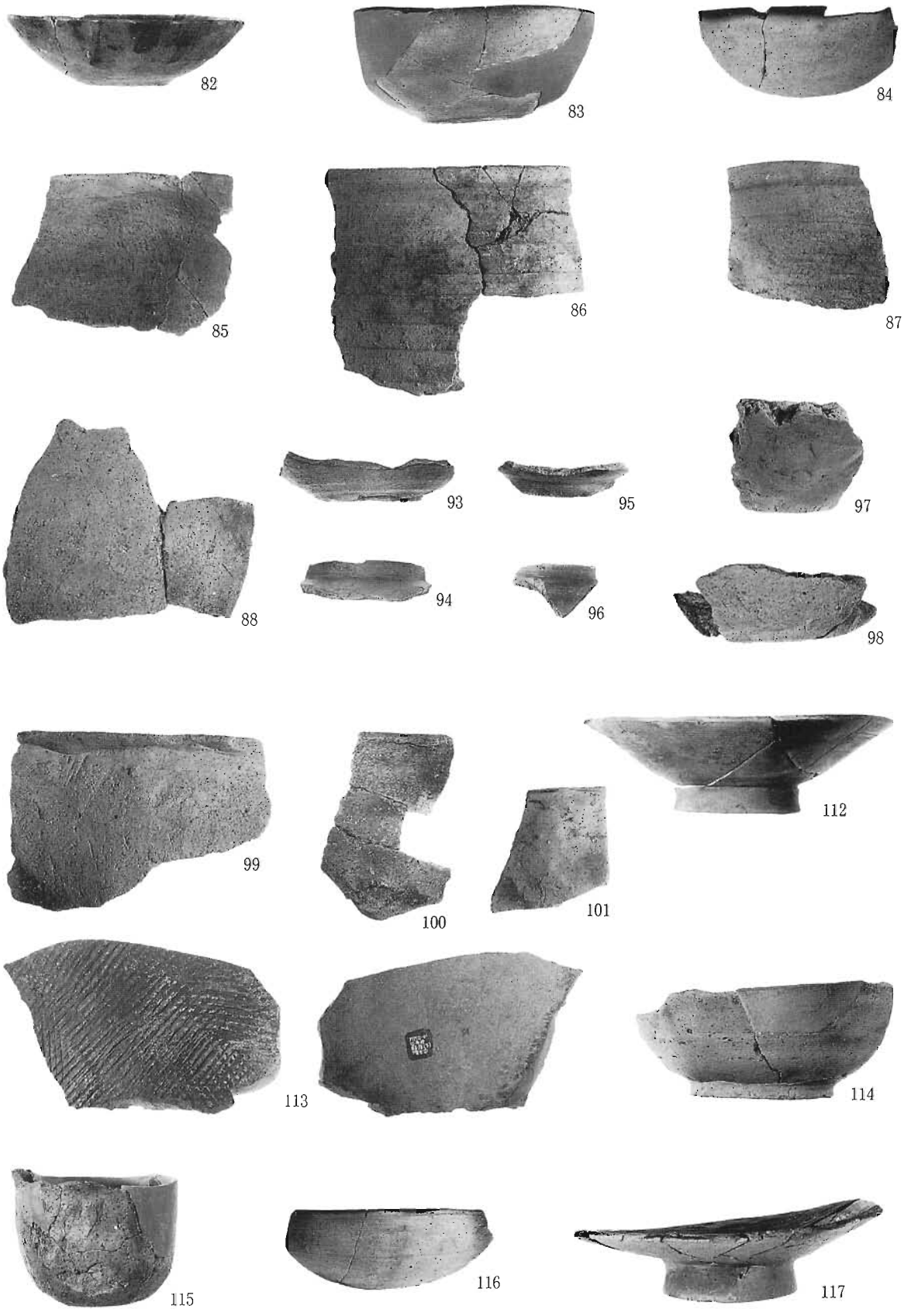


写真図版120　出土遺物（1）

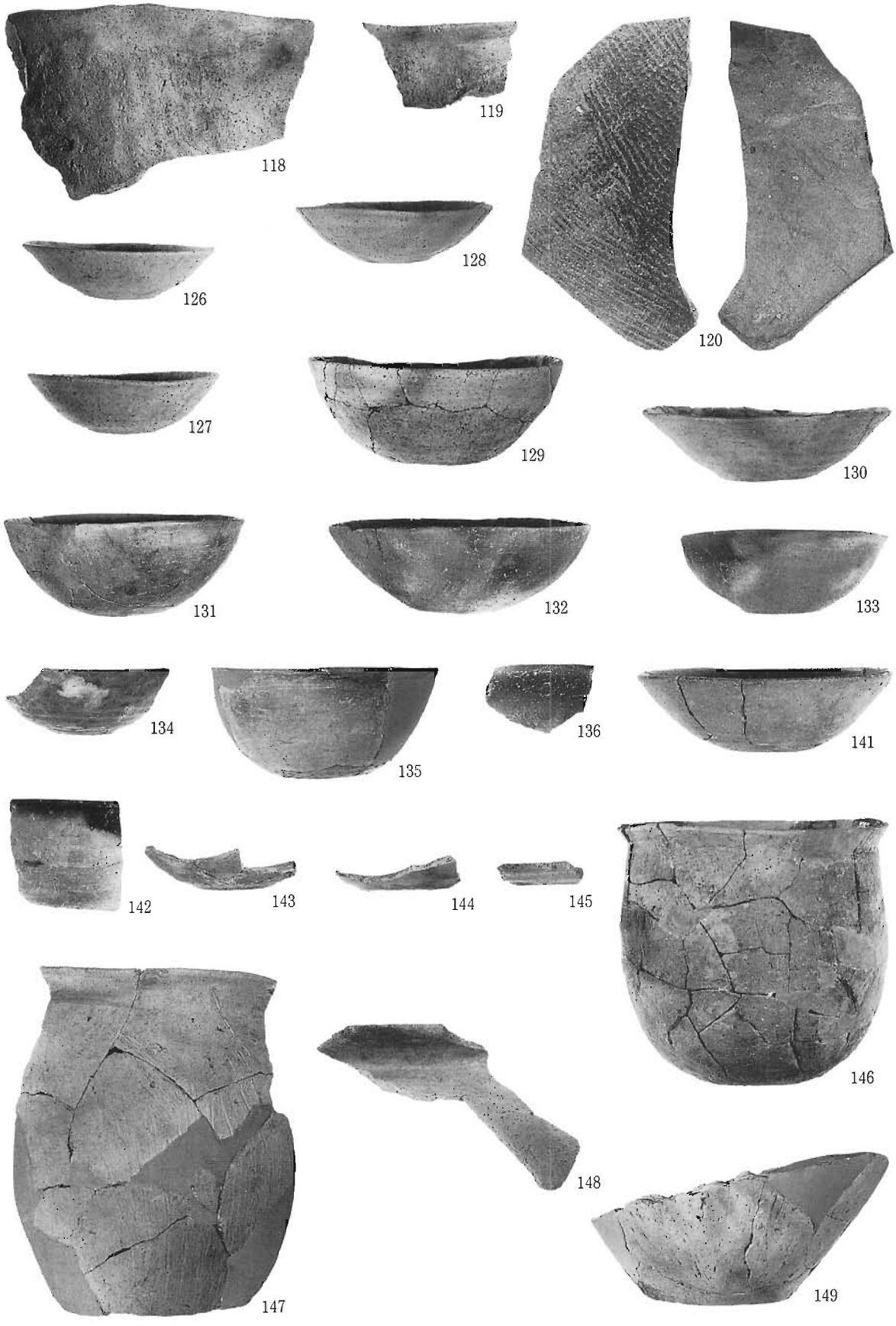
写真図版121　出土遺物（２）



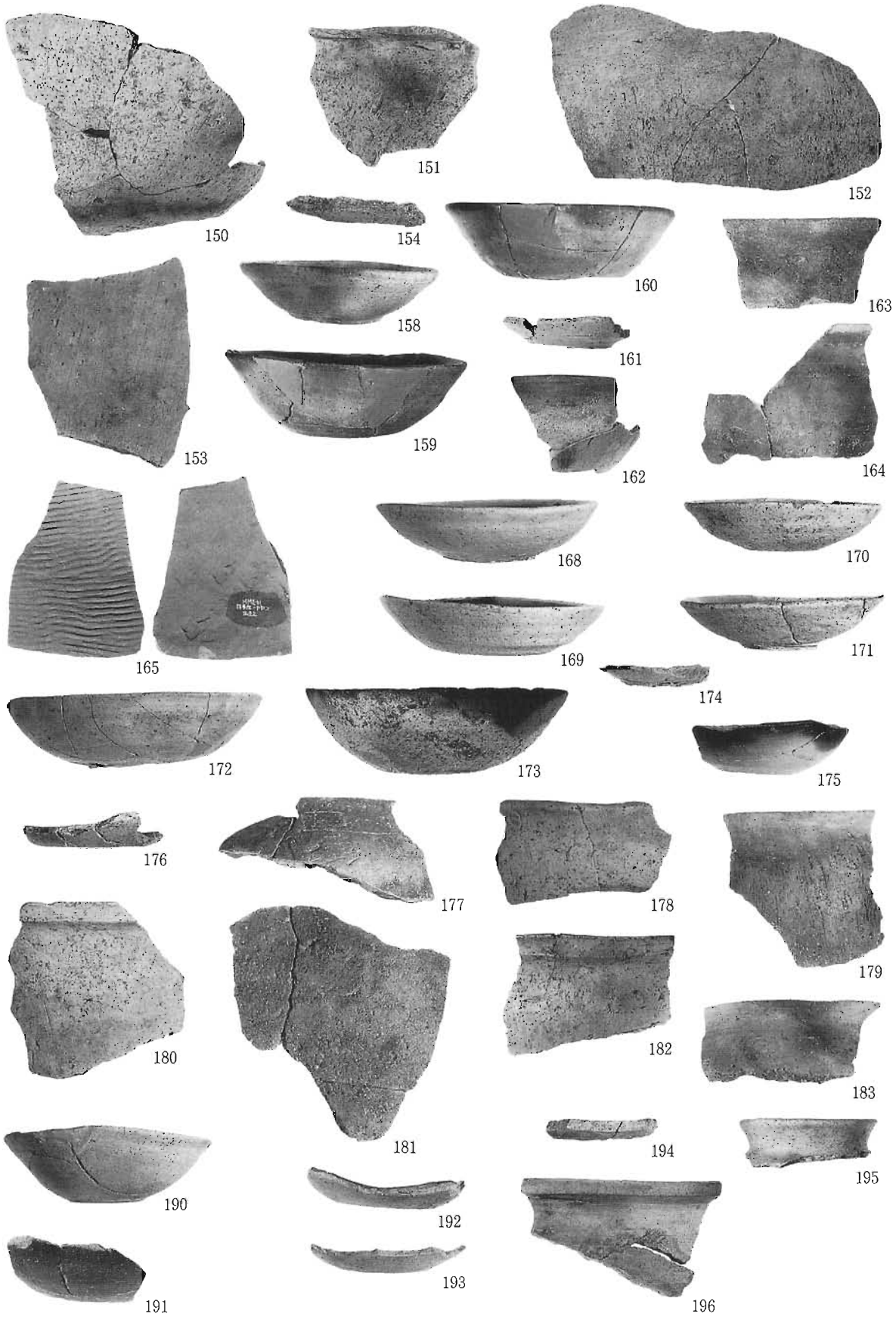
写真図版122　出土遺物（３）



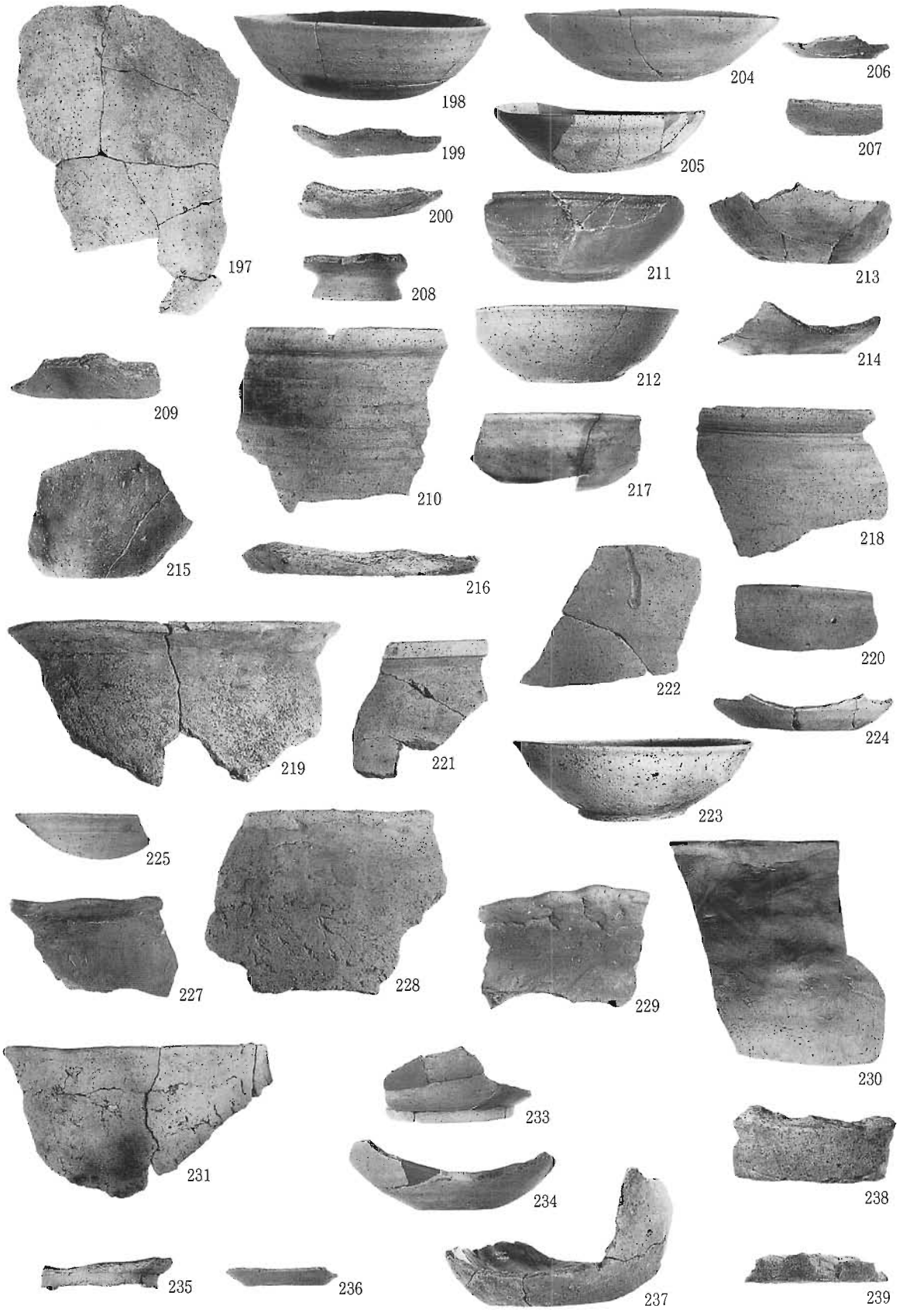
写真図版123　出土遺物（４）



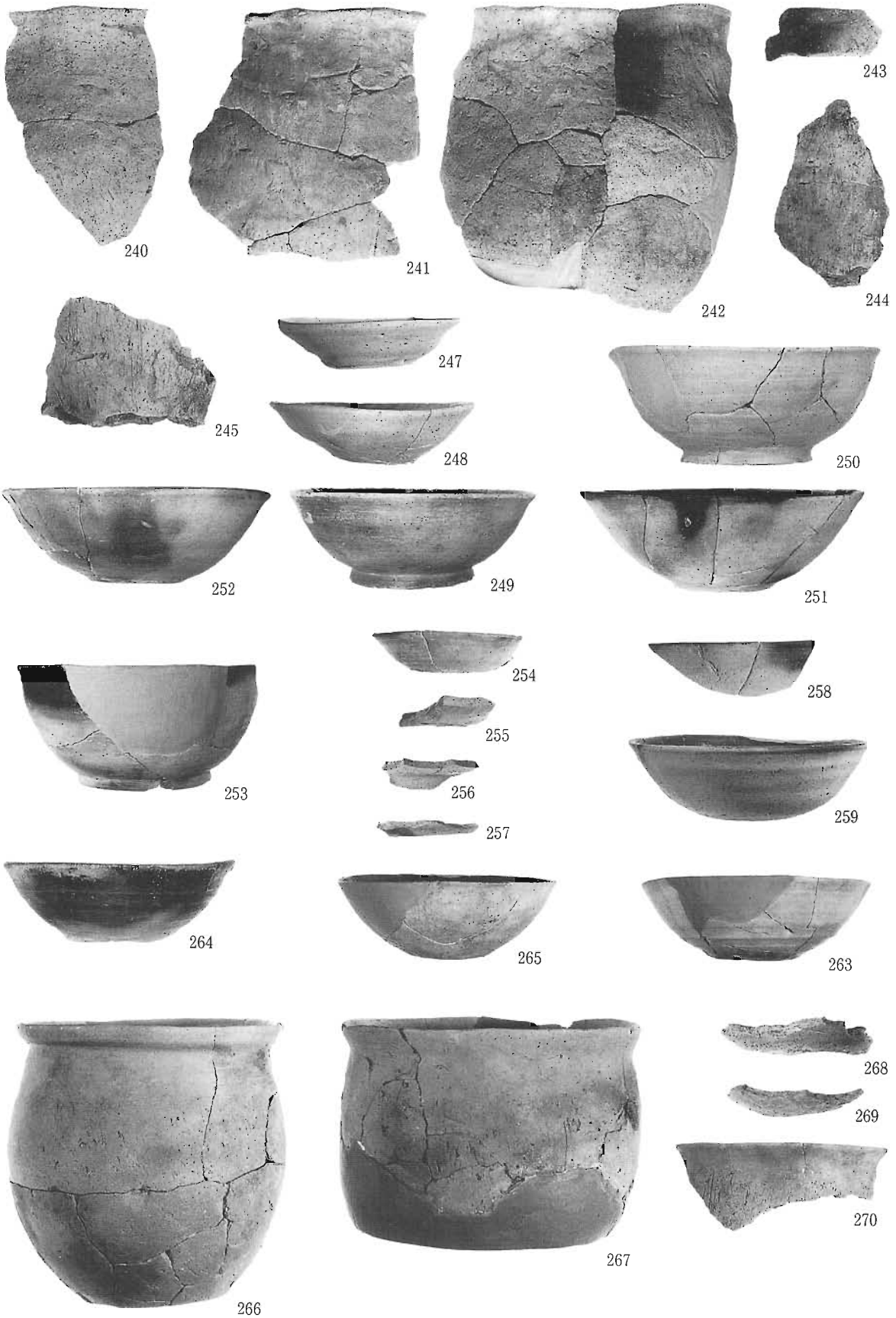
写真図版124　出土遺物（５）



写真図版125　出土遺物（6）



写真図版126　出土遺物（７）



写真図版127　出土遺物（８）

271

273

278

272

274

279

280

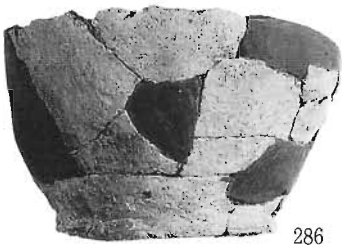
283

284

285

281

282


286

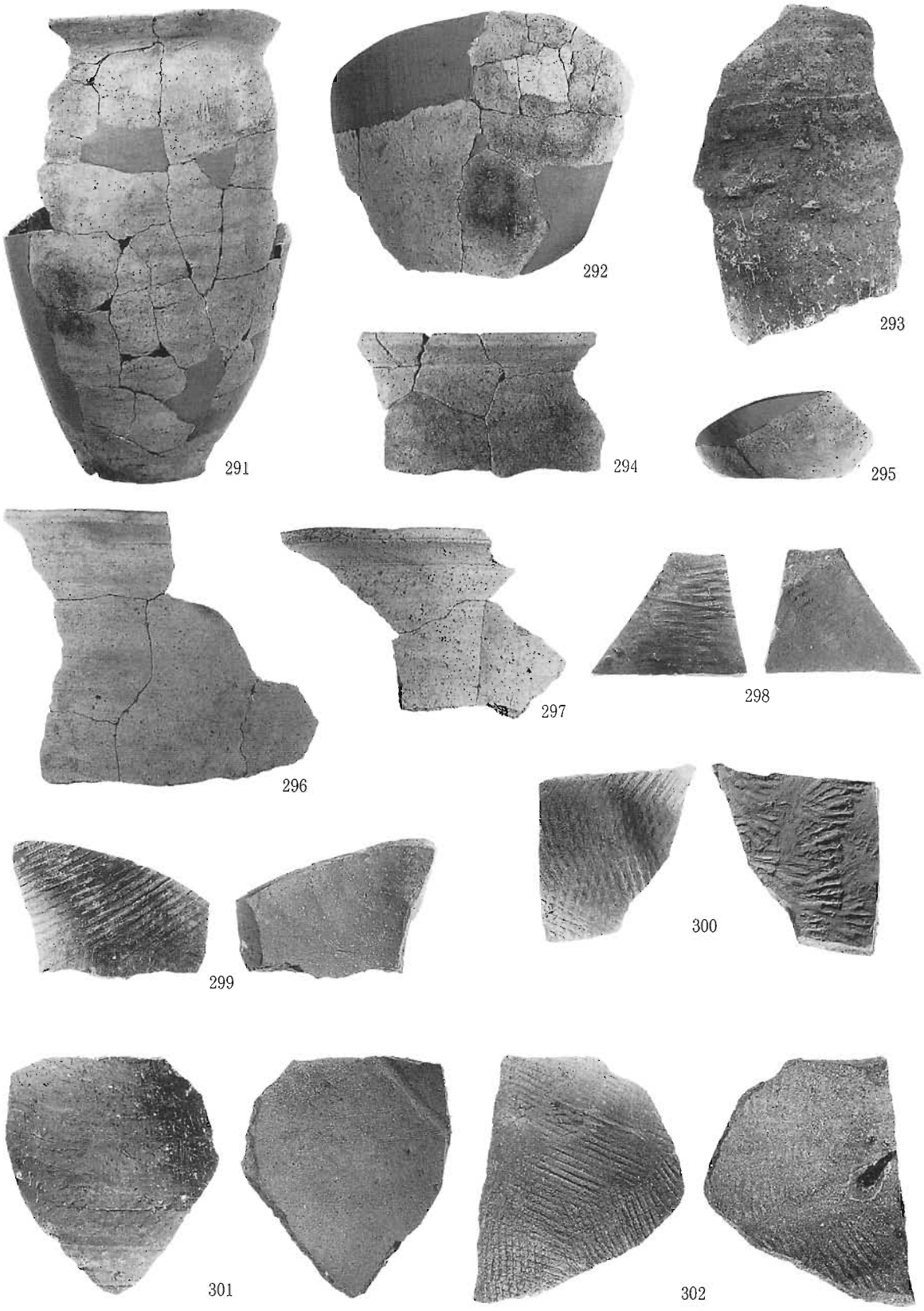
287

288

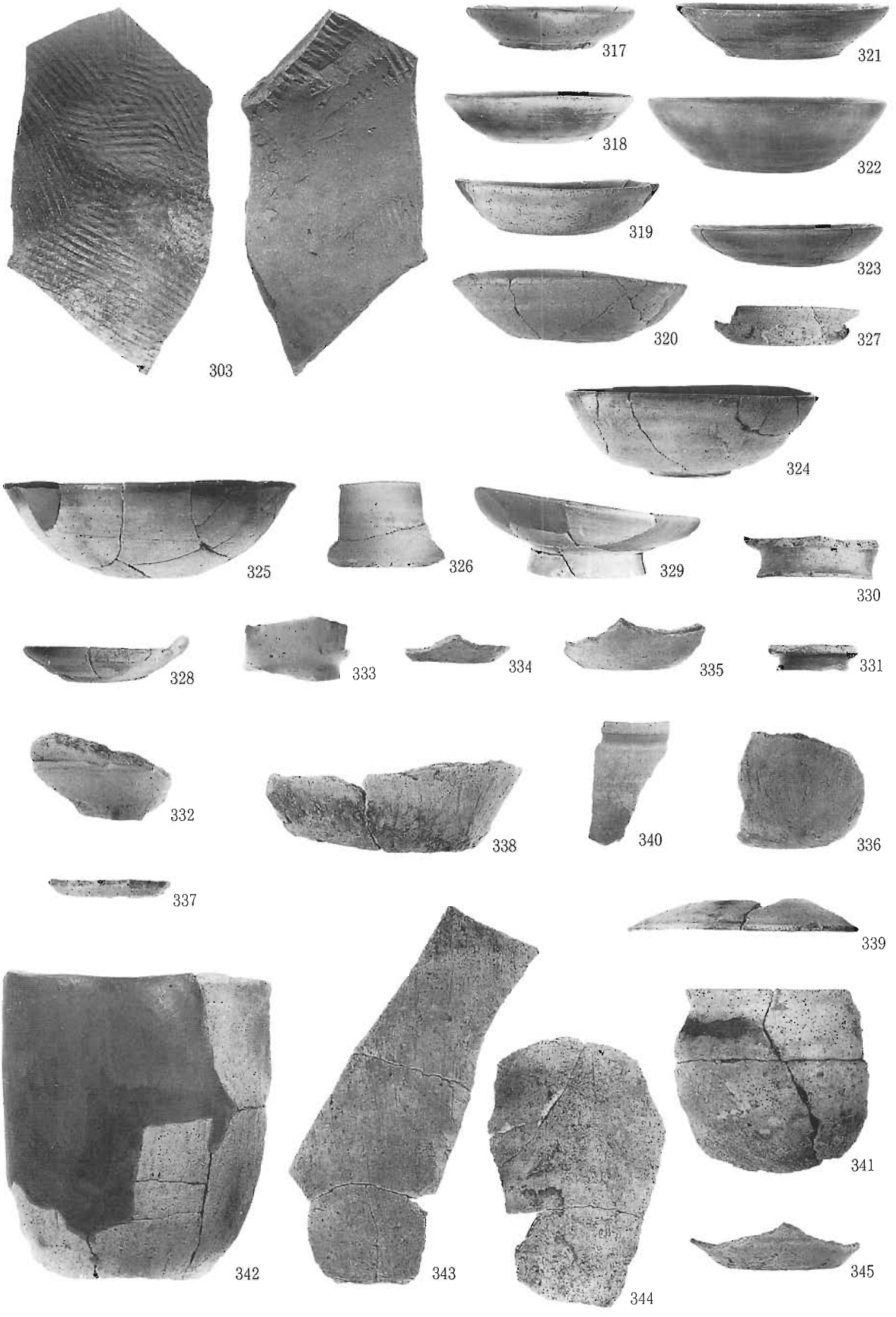
289

290

写真図版128　出土遺物（９）



写真図版129　出土遺物(10)



写真図版130　出土遺物(11)

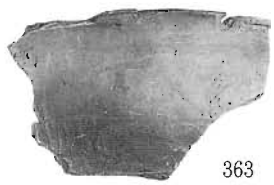
346

347

348

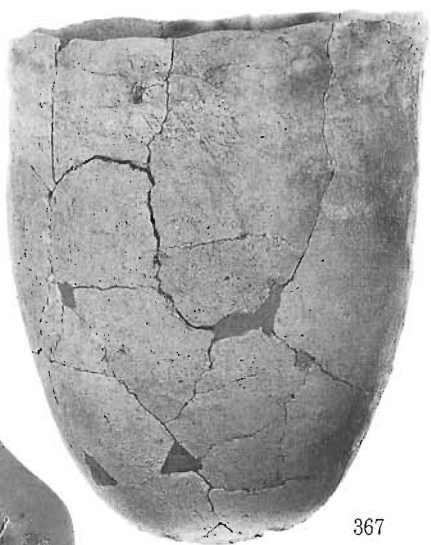
349

362


363

364

365


367

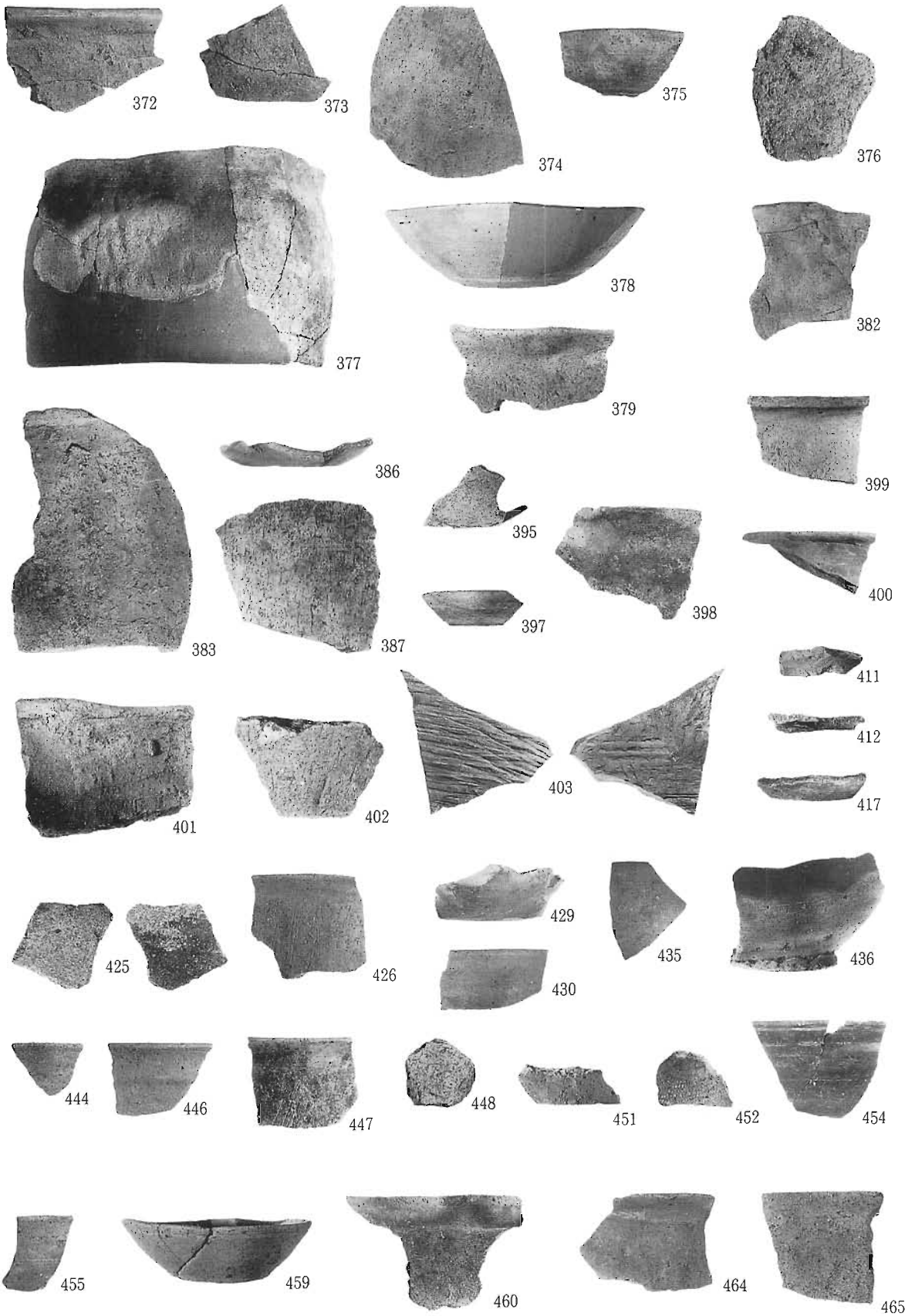
368

369

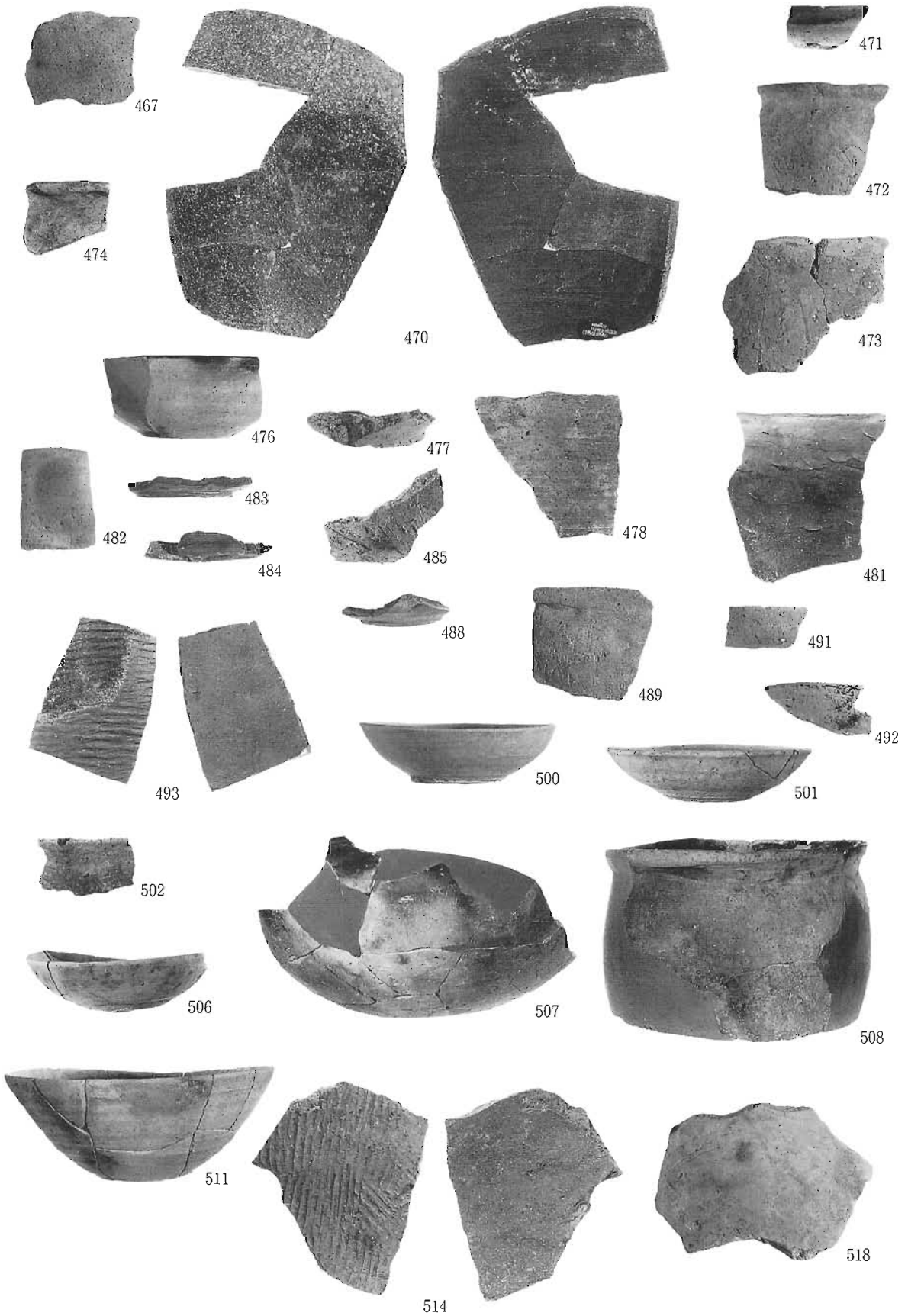
370

371

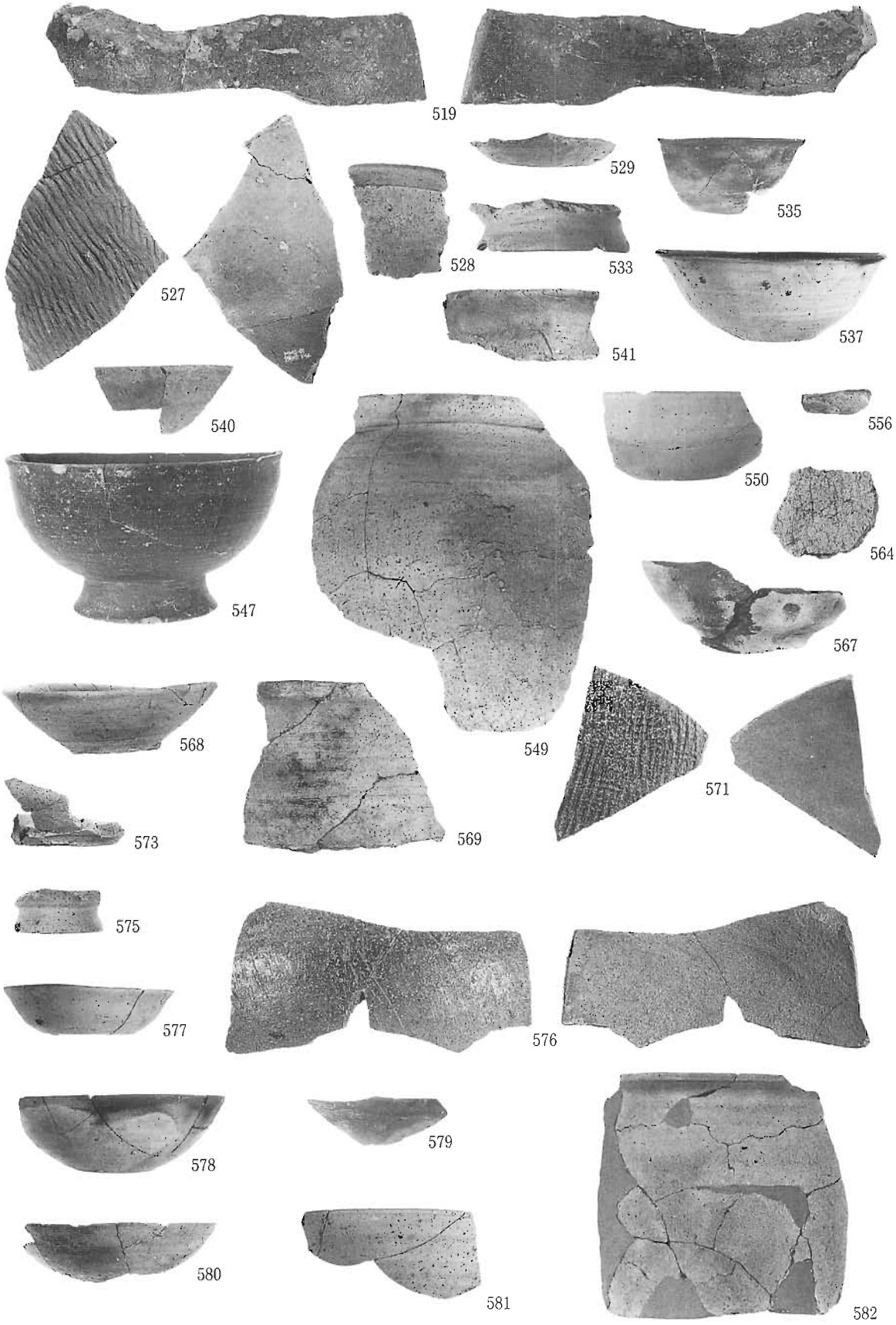
写真図版131　出土遺物(12)



写真図版132　出土遺物(13)

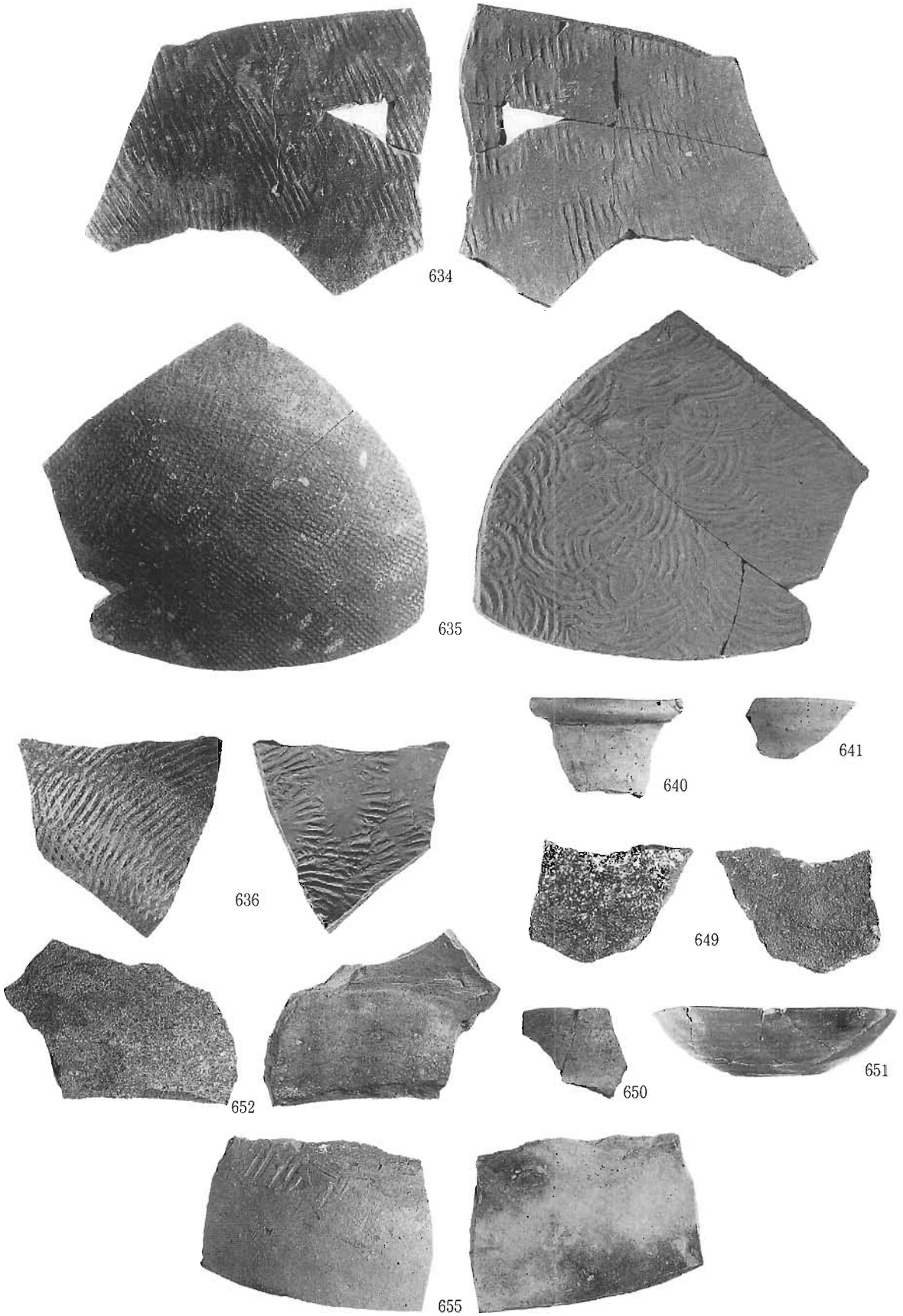


写真図版133　出土遺物(14)

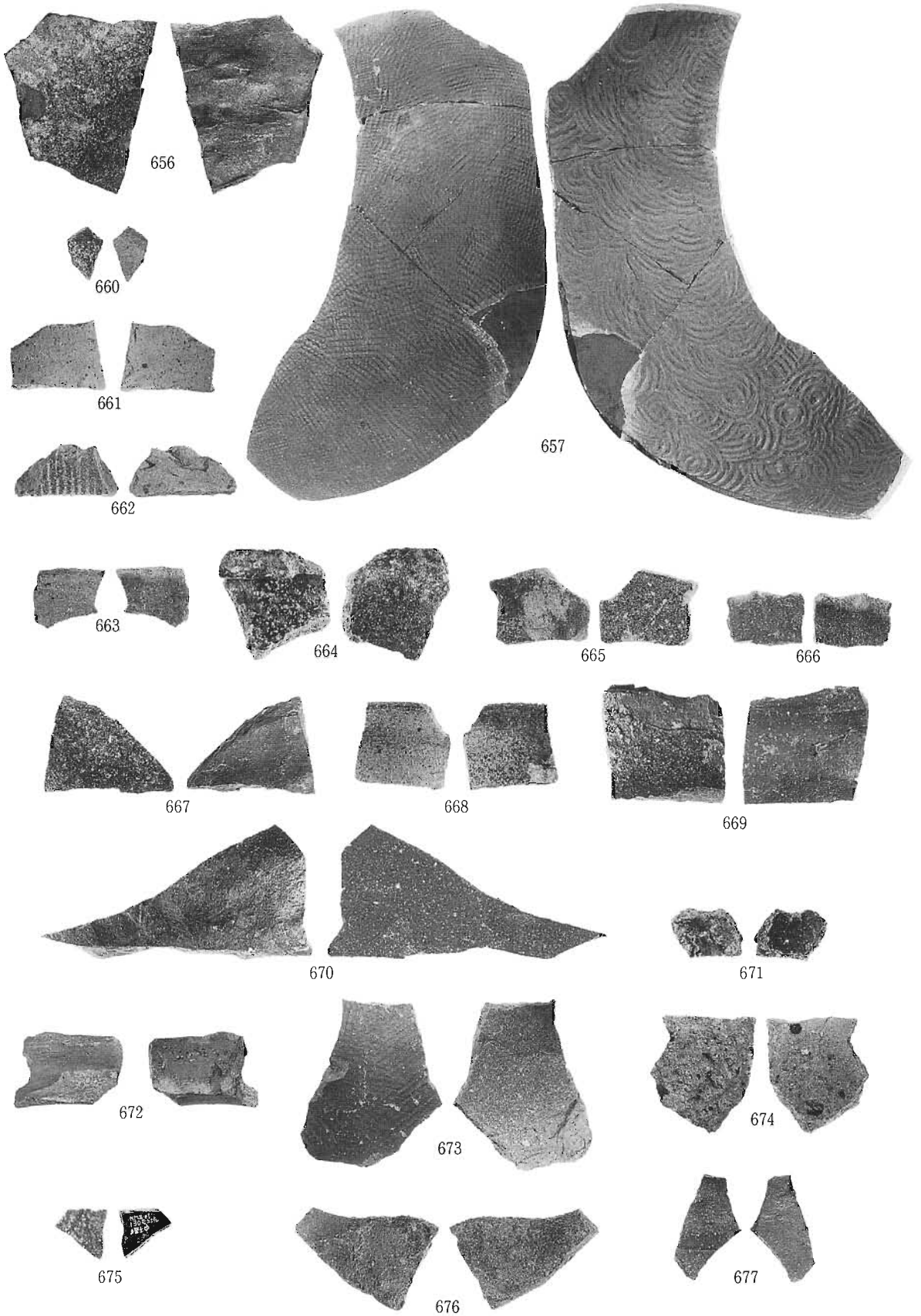


写真図版134　出土遺物(15)

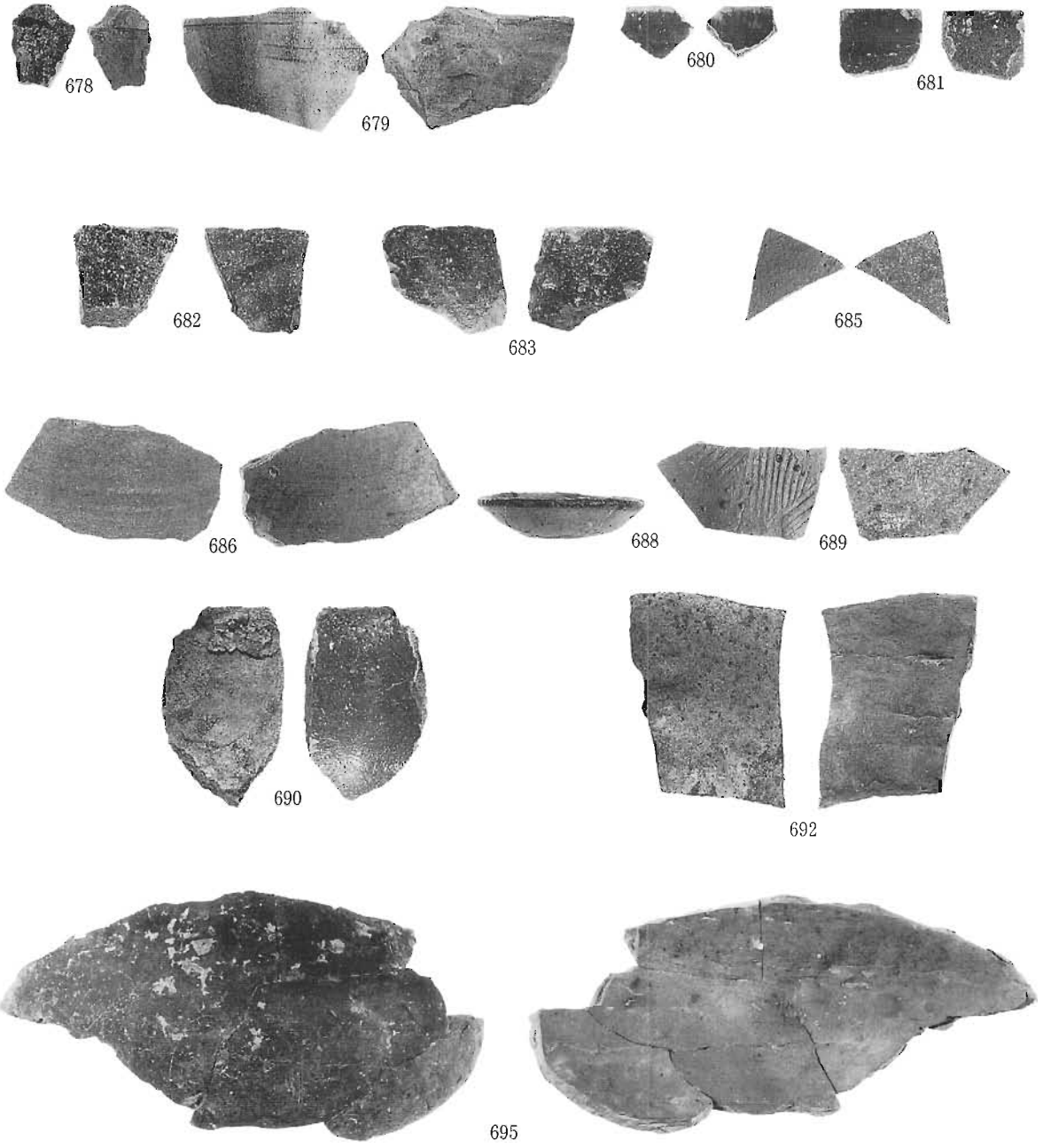
写真図版135　出土遺物(16)



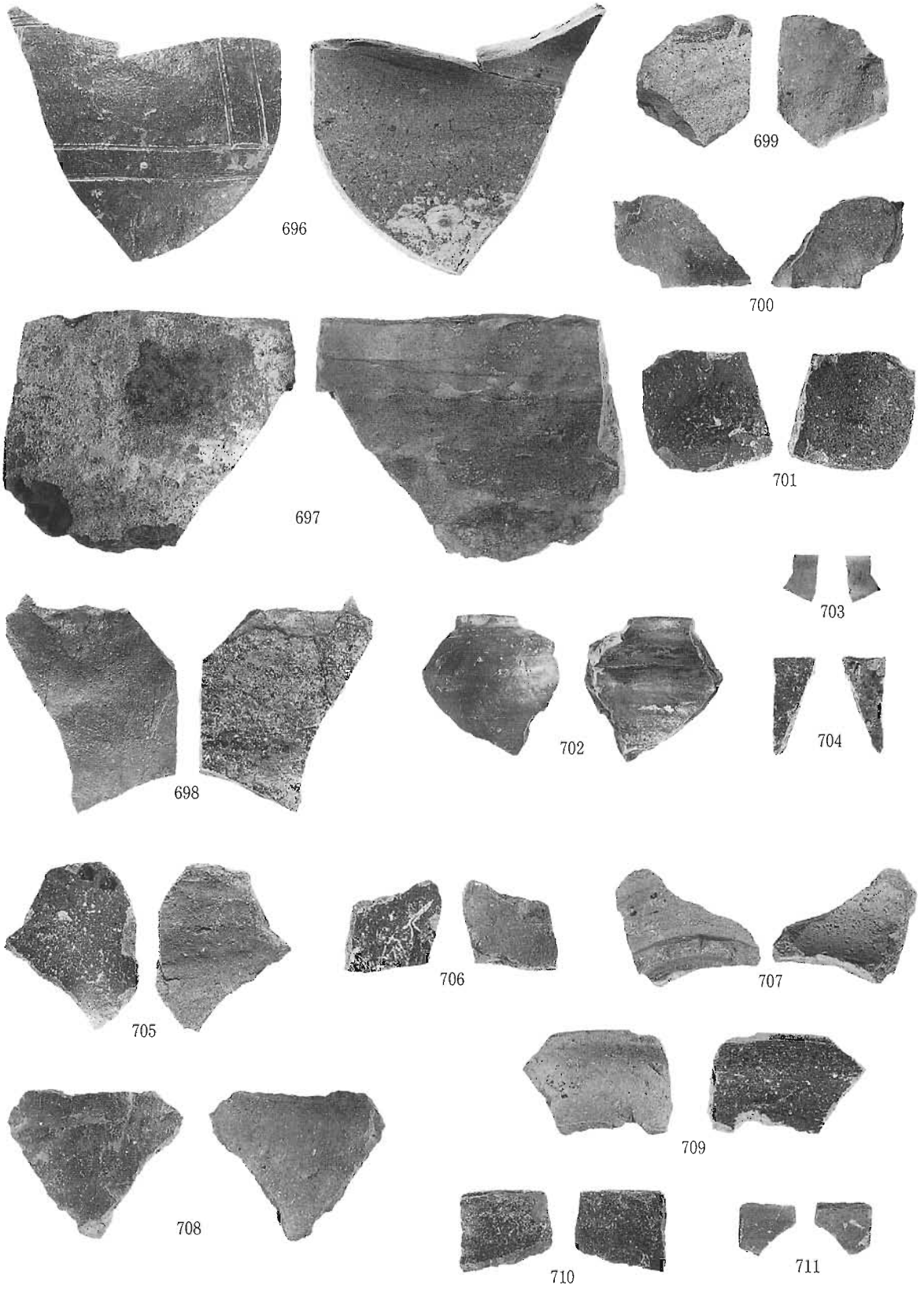
写真図版136　出土遺物(17)



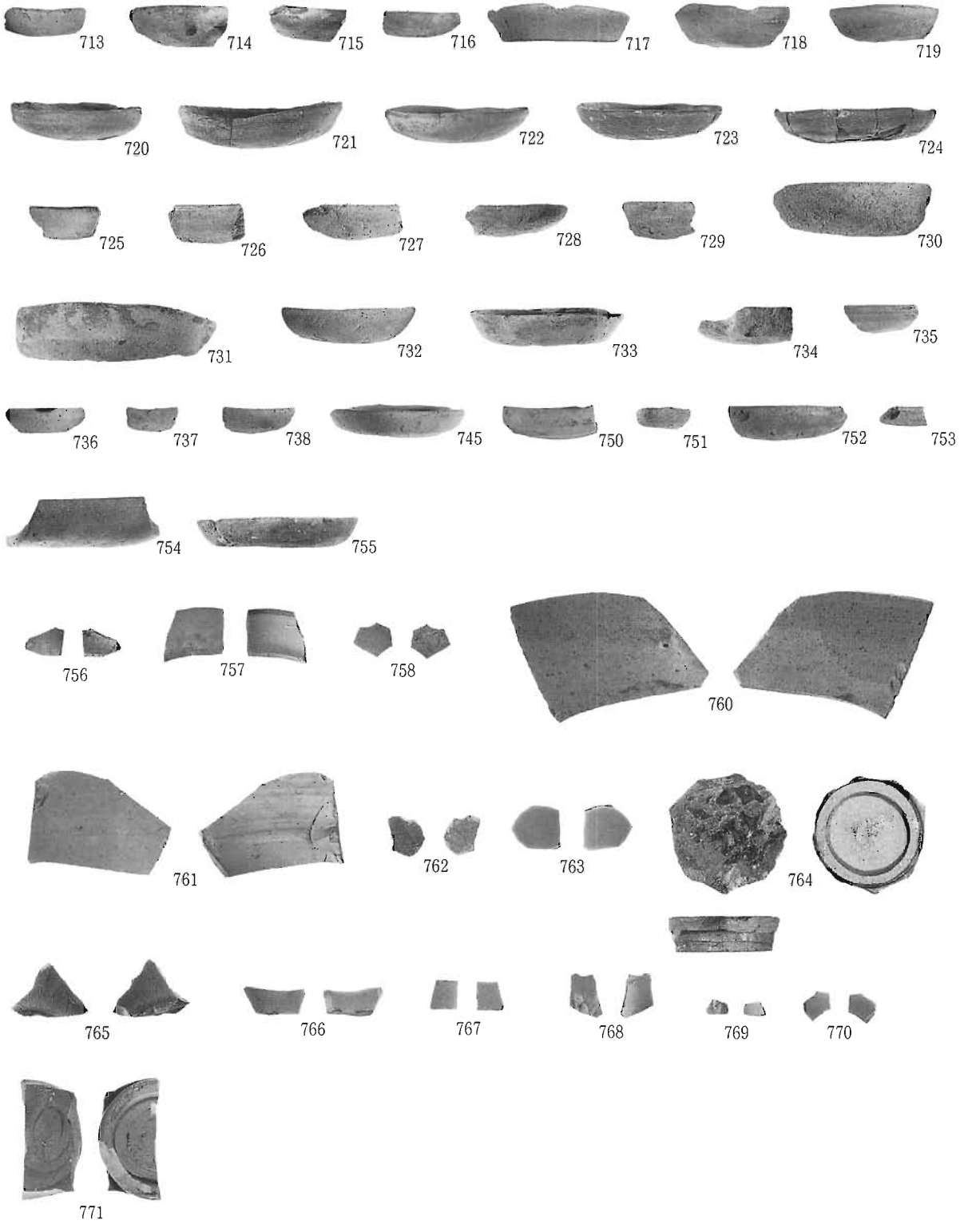
写真図版137　出土遺物(18)



写真図版138　出土遺物(19)



写真図版139　出土遺物(20)



写真図版140　出土遺物(21)

774

775

776

777

778

779

780

781

782

783

784

785

786

写真図版141　出土遺物(22)

787

788

789

790

791

792

793

794

795

796

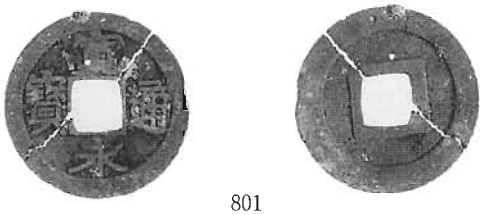
797

798

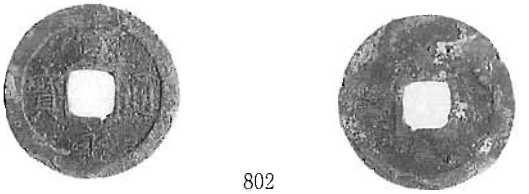
写真図版142　出土遺物(23)

799

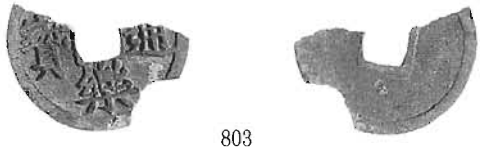
800



801



802



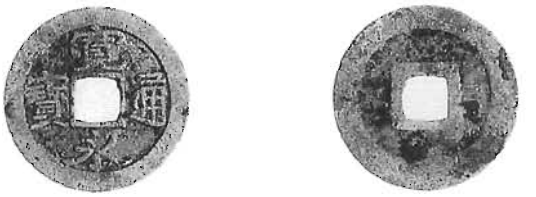
803

804

805

806

807



808

809

810

写真図版143　出土遺物(24)

811

812

813

814

815

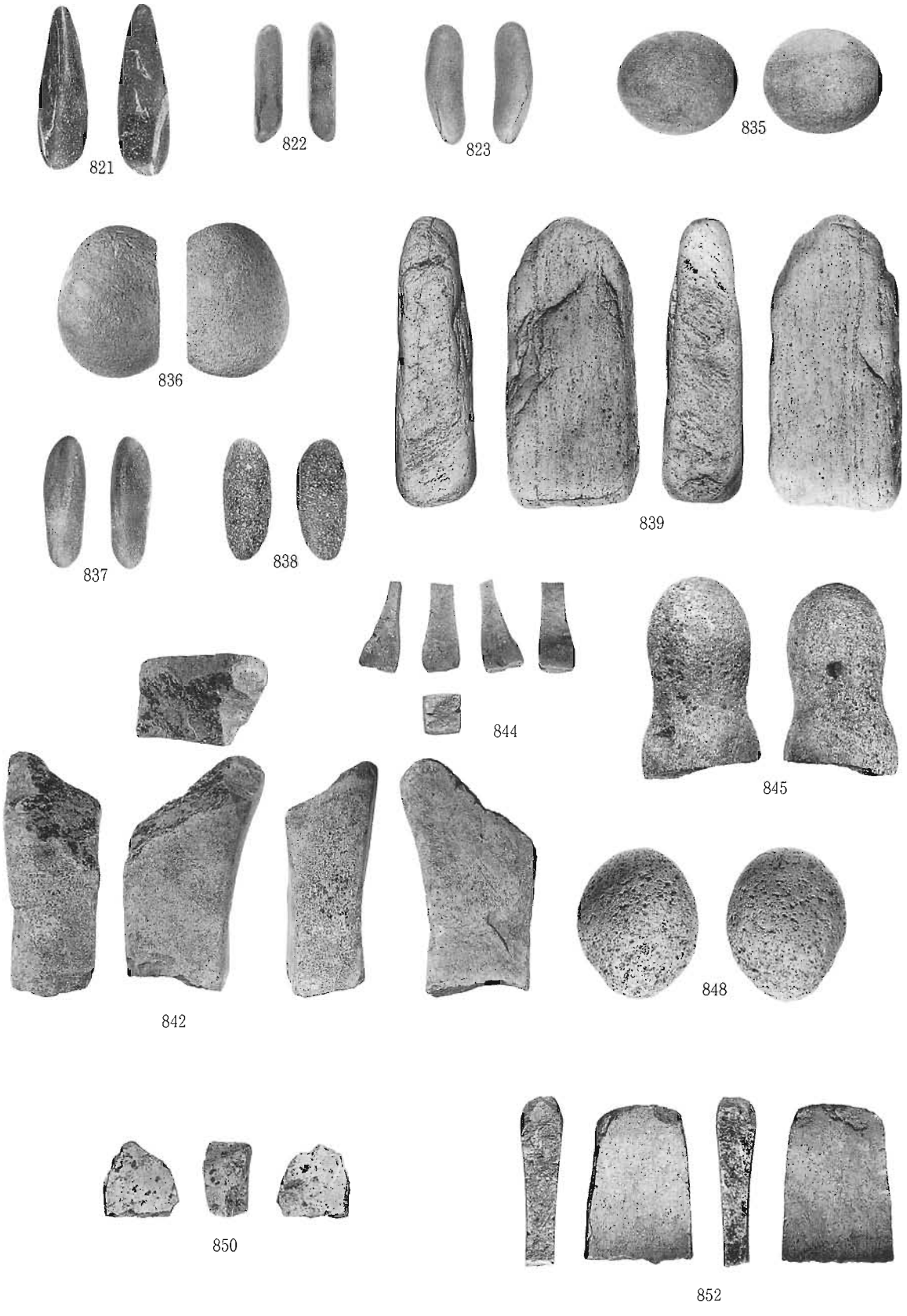
816

817

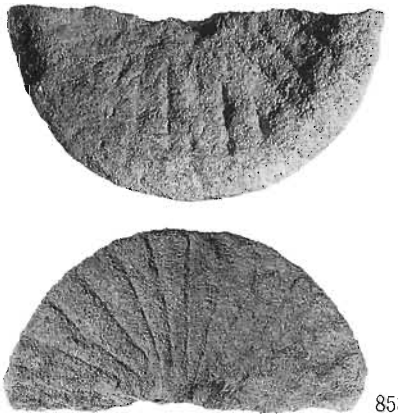
818

819

写真図版144　出土遺物(25)



写真図版145　出土遺物(26)

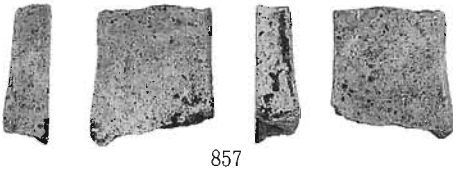


853
S=1/6

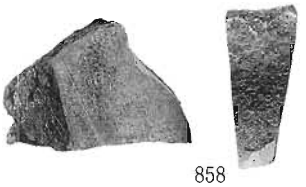
855

856

854

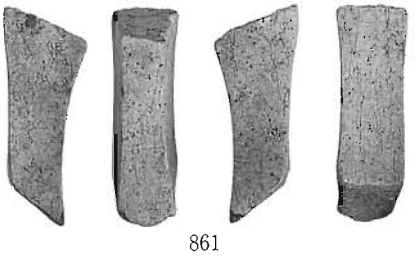


857



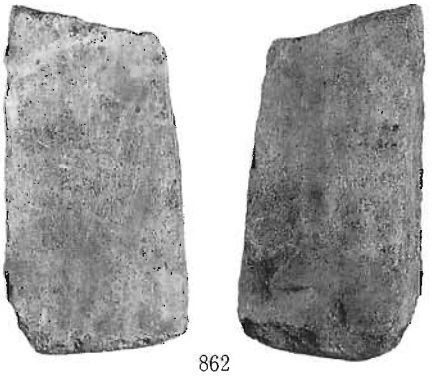
858

859



861

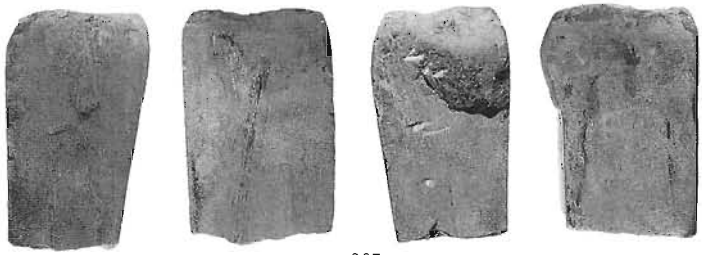
860



862

写真図版146　出土遺物(27)

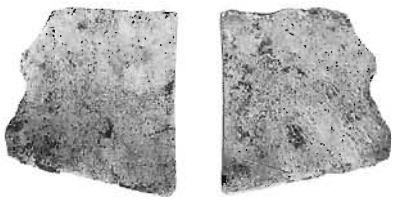
863



865

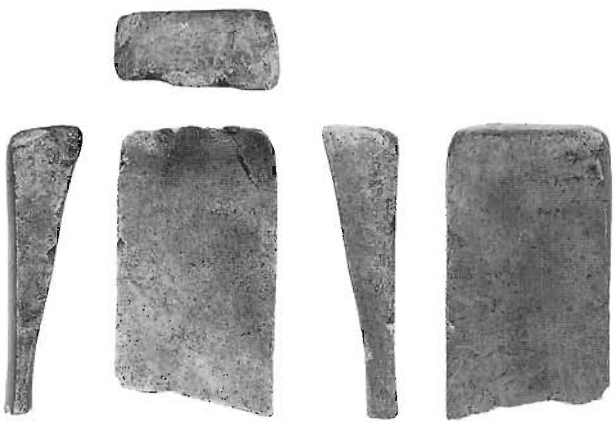
864

866



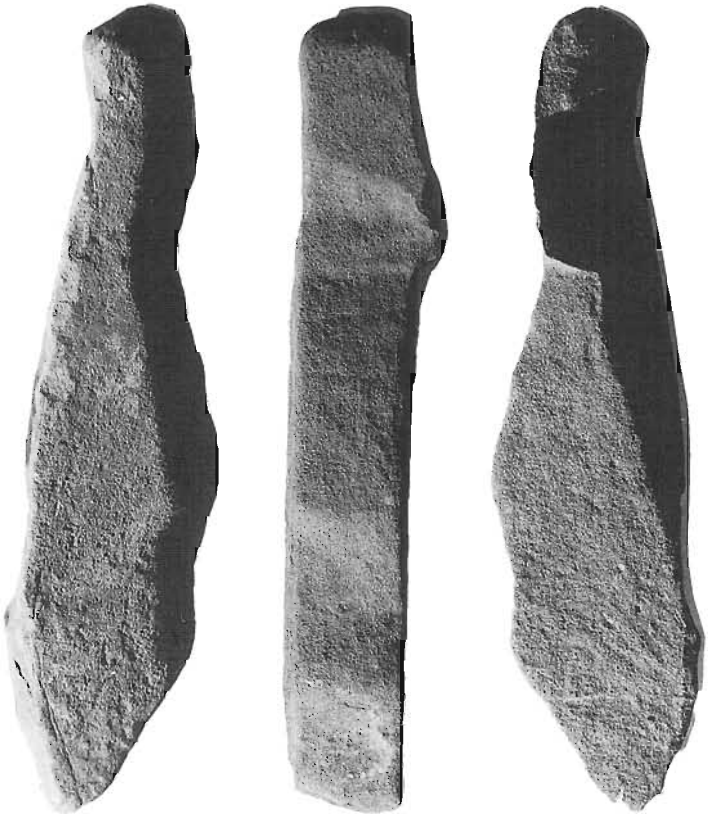
870

872



873

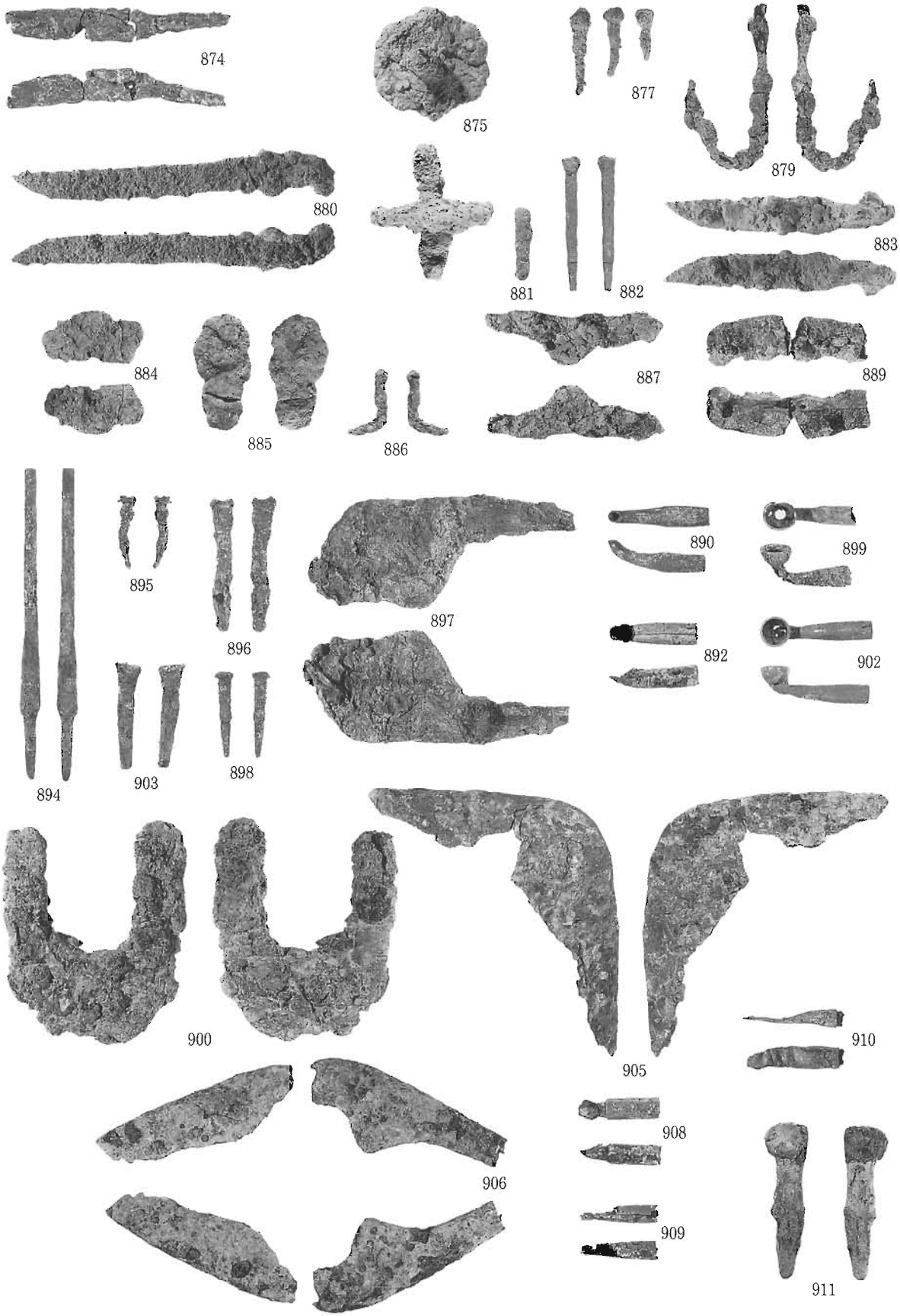
写真図版147　出土遺物(28)



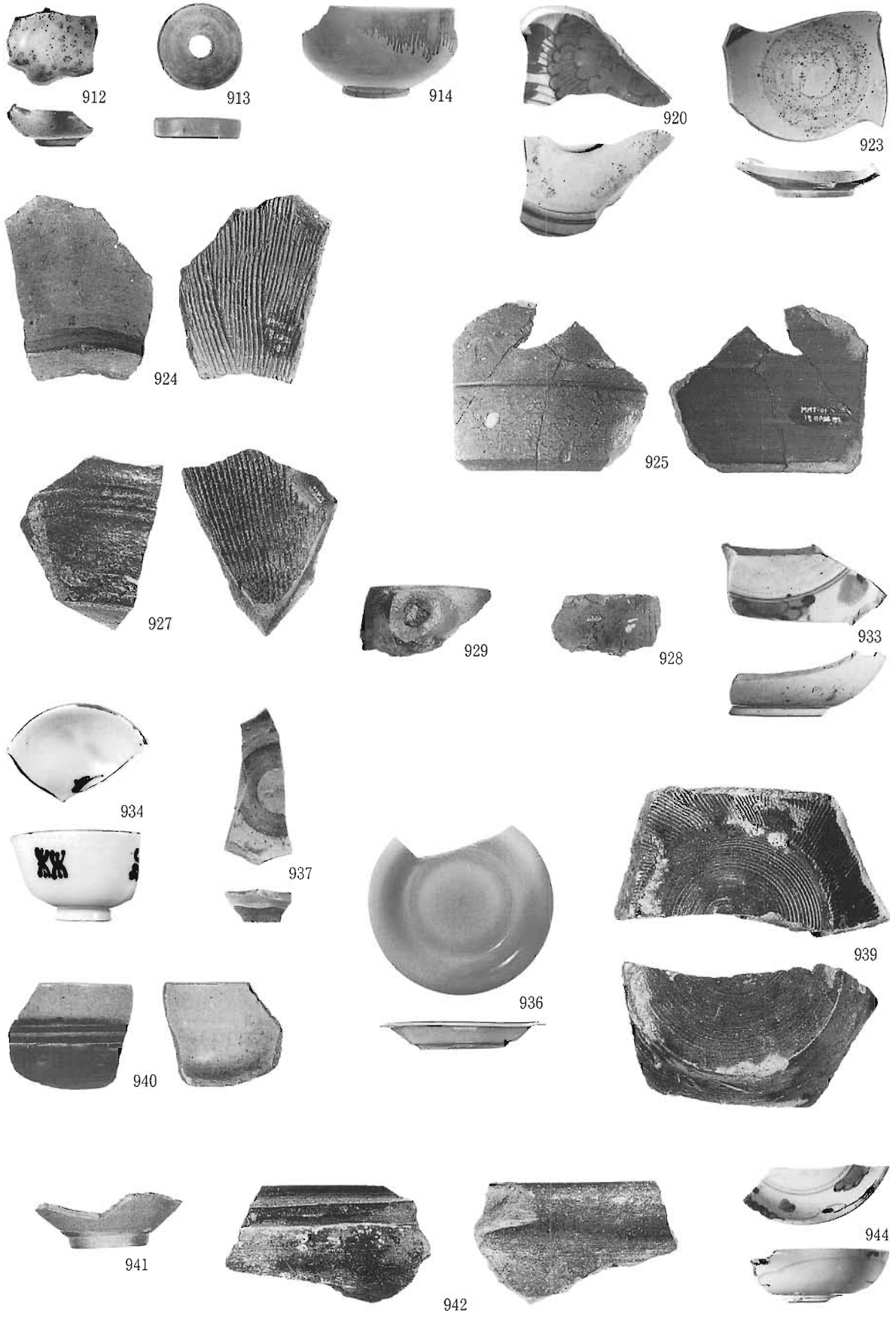
871

S=1/5

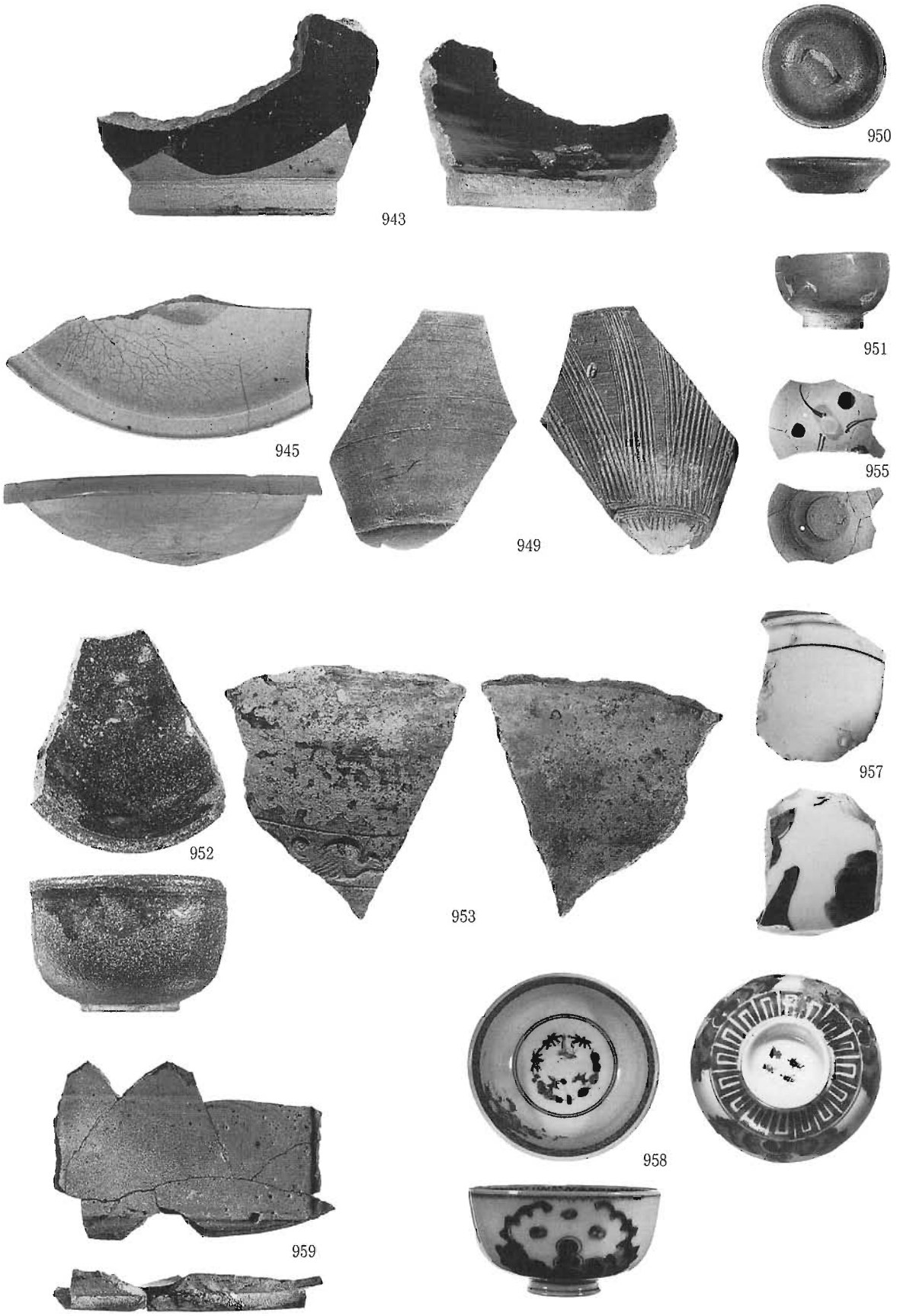
写真図版148　出土遺物(29)



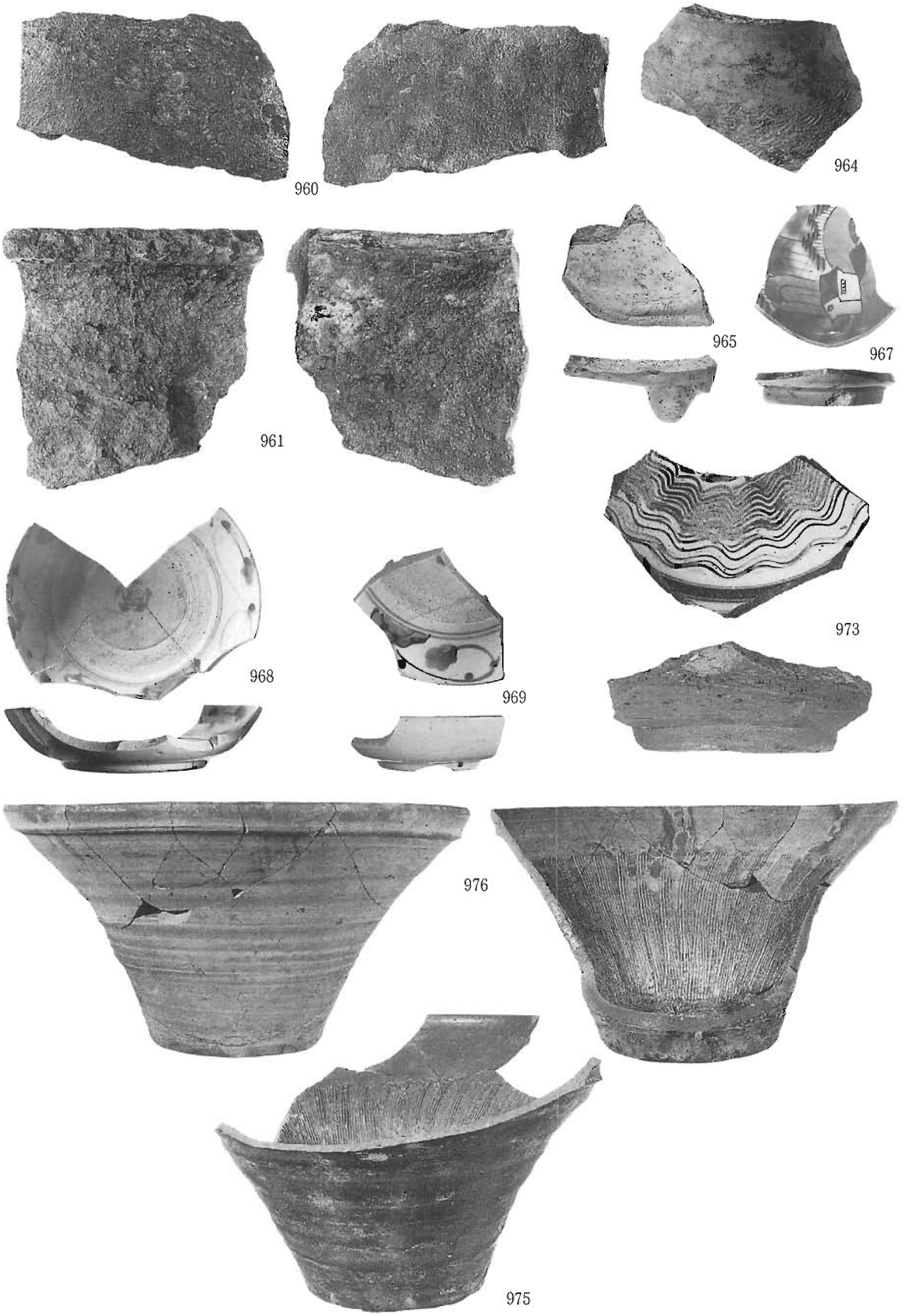
写真図版149　出土遺物(30)



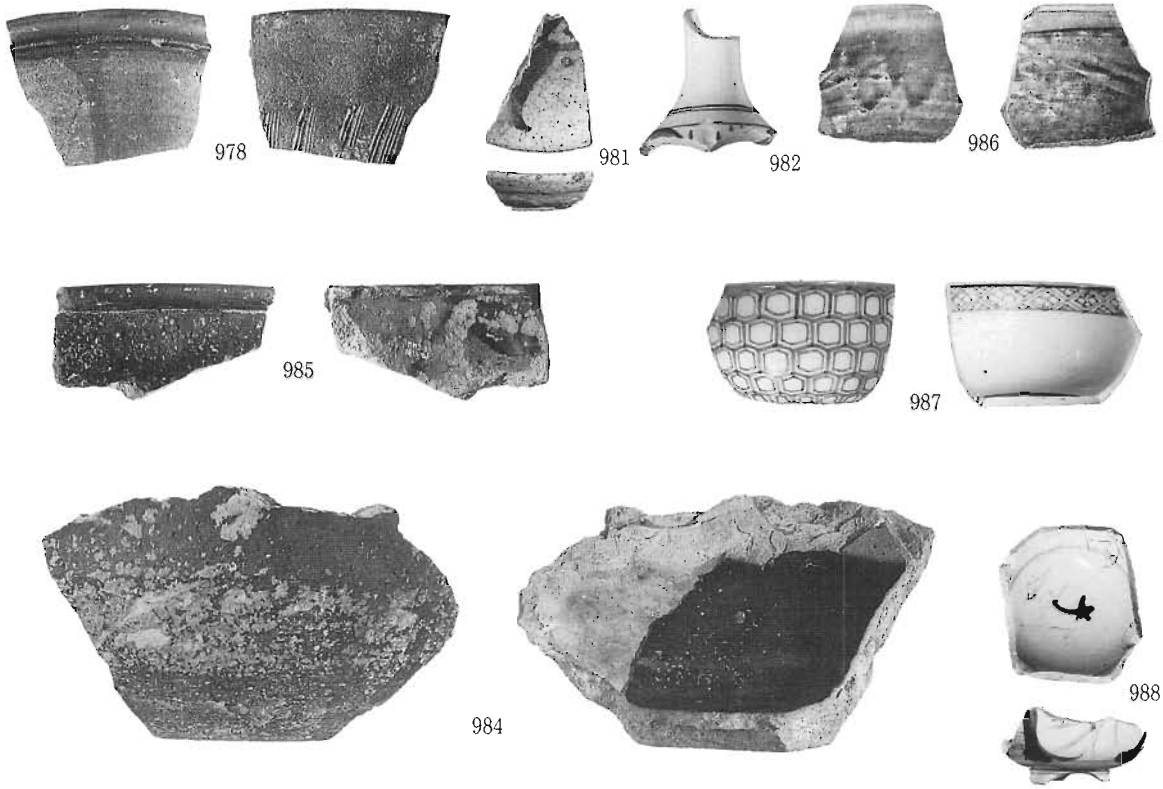
写真図版150　出土遺物(31)



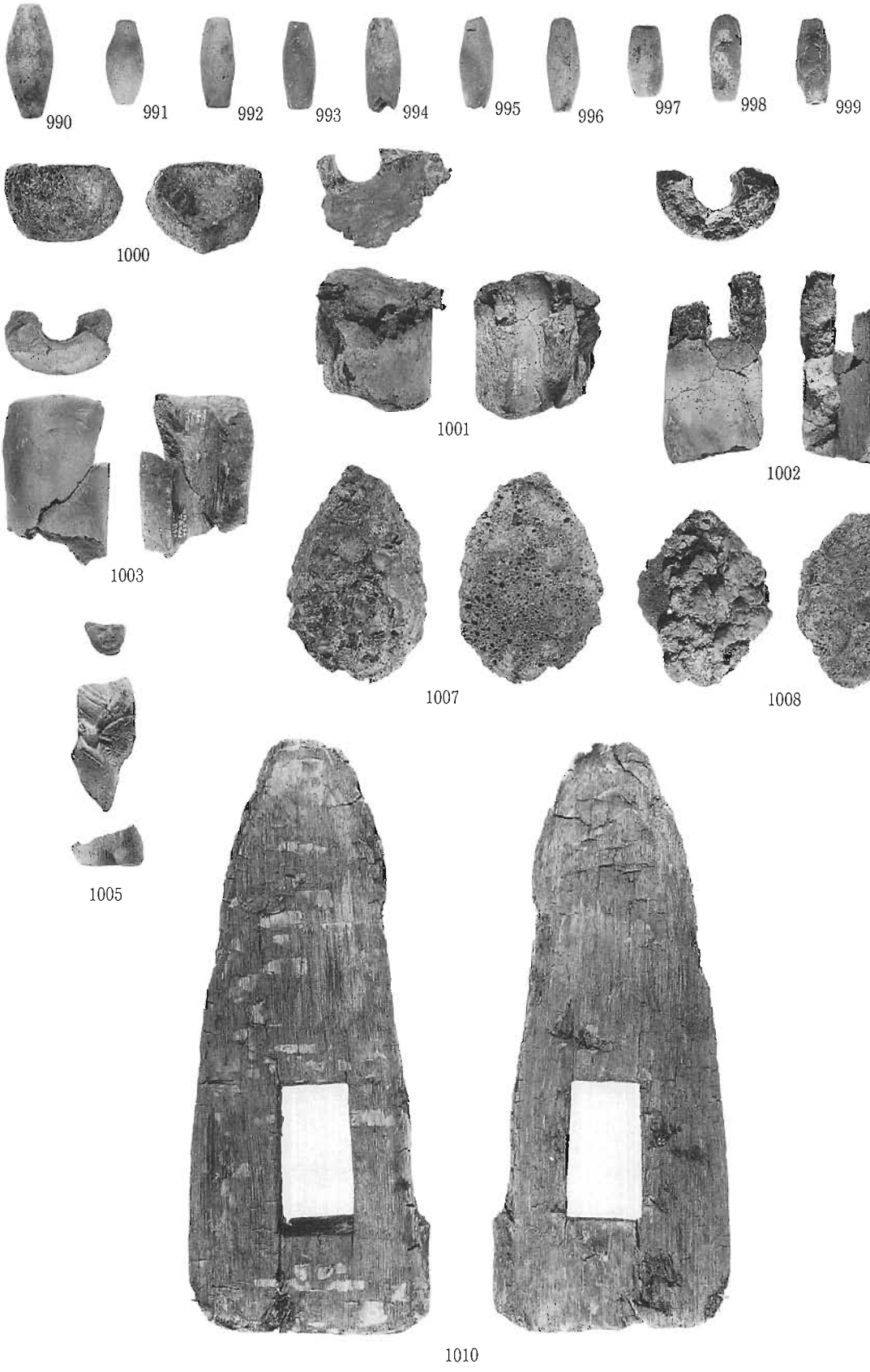
写真図版151　出土遺物(32)



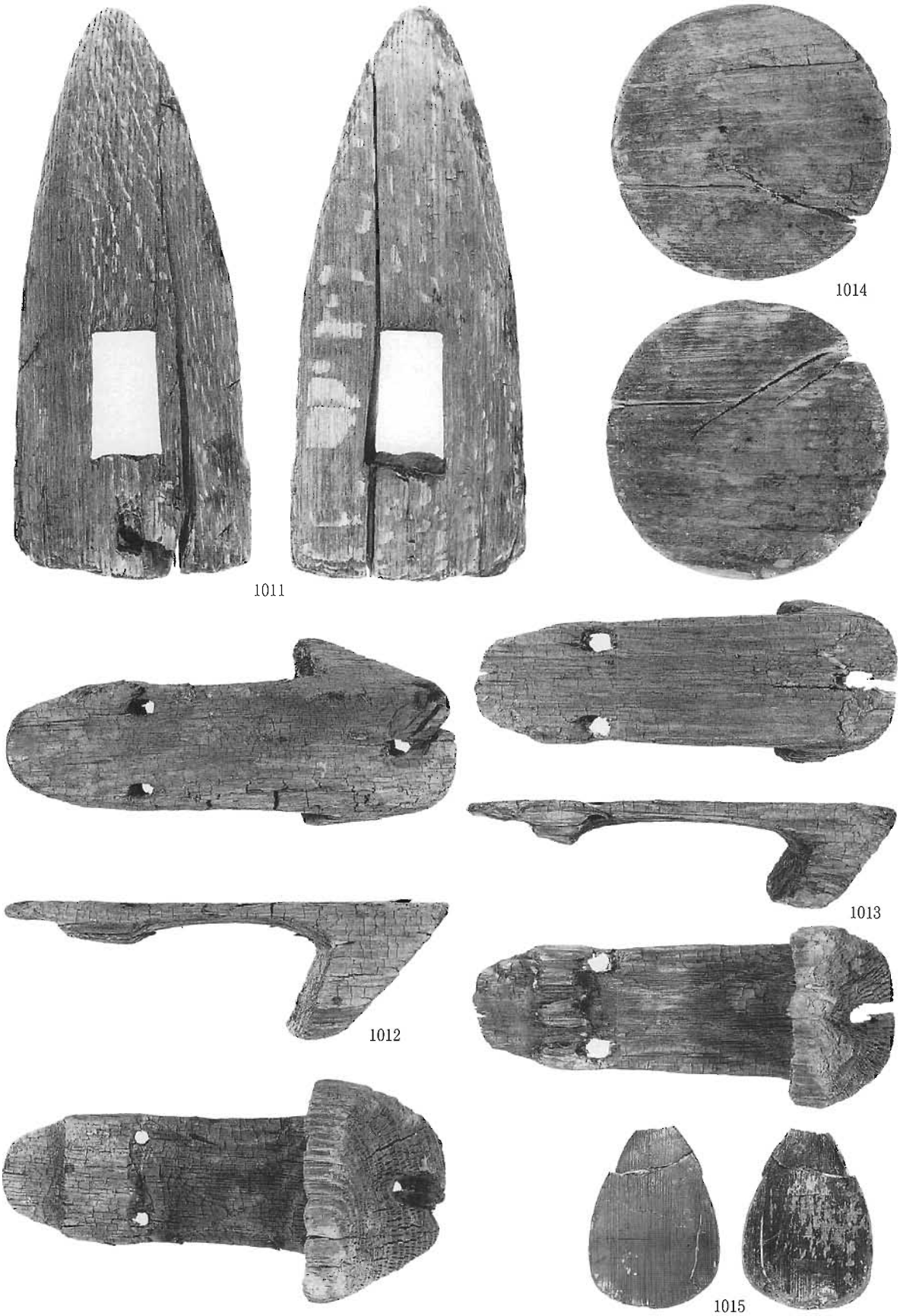
写真図版152　出土遺物(33)



写真図版153　出土遺物(34)



写真図版154　出土遺物(35)



写真図版155　出土遺物(36)

報告書抄録

ふりがな	もとまちにいせきだいにじはっくつちょうさほうこくしょ
書名	本町Ⅱ遺跡第二次発掘調査報告書
副書名	ほ場整備事業一関第2地区第5号関連発掘調査
巻次	
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第410集
編著者名	小笠原健一郎・本多準一郎
編集機関	（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
所在地	〒020-0853　岩手県盛岡市下飯岡第11地割185番地　TEL 019-638-9001
発行年月日	西暦　2003年3月27日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
本町Ⅱ遺跡 第二次	岩手県西磐井 群平泉町長 島字本町3－ 2ほか	03402	NE66-2179	39度 0分 8秒	141度 7分 56秒	2001.4.12 ～ 2001.12.25	26,157㎡	ほ場整備一関第2地区第5号関連事業に伴う緊急発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物
本町Ⅱ遺跡	散布地	縄文・弥生	土坑	5基	縄文土器
		平安	竪穴住居跡	21棟	土師器（坏、高台付き坏、甕）、須恵器（坏、甕）
			工房跡	2棟	
			住居状遺構	3棟	
			土坑	44基	灰釉陶器（耳皿、短頸、壺）
			柱穴列	7基	土錘
			焼土遺構	10基	石製品（砥石）
			合口甕棺	2基	鉄製品（紡錘車、刀子）
			井戸跡	1基	国産陶器（渥美、常滑、古瀬戸、宮城産）
			溝跡	17条	
		中世	畠跡	12,356㎡	中国産磁器（白磁、青白磁、青磁）
			堀跡	1条	
			周溝	2条	手づくねかわらけ
			墓壙	46基	古銭、刀子、釘
			建物跡（掘立柱）	27棟	肥前産磁器
			配石	1基	東北産陶器
		近世	土坑	19基	木製品（下駄、鍬）
			井戸跡	1基	金属器（釘、煙管、鎌）
			竈状遺構	6基	
			土坑	68基	
			炭窯	6基	
			柱穴状土坑	2462基	

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員名簿

所長	木村　昇
〔管理課〕	
課長	韮沢正吾
課長補佐	山崎善光
〃	山岸直美
主査	中嶋賢一
〔調査第一課〕	
課長	佐々木勝
課長補佐	佐々木清文
〃	高橋義介
文化財専門員	小山内透
文化財調査員	吉田充
〃	亀大二郎
〃	佐々木信一
〃	早坂淳也
〃	小松則進
〃	金野真盛
〃	野中昭彦
〃	金子孝明
〃	阿部勝則
〃	阿部直人
〃	羽柴晃
〃	高木克稔
〃	長村幸文
〃	星昭太郎
〃	杉沢拓
〃	村上準一郎
〃	本多紀和
〃	青山正晴
〃	西澤敬
〃	村木和
〃	福島正昭
〃	北村忠枝
〃	八木田勝寛
〃	米田浩治
〃	丸山勲
〃	北田征
〃	島原弘美
〃	中村絵造
期限付調査員	坂部恵卓
〃	小林弘敦
〃	江藤晋
〃	川又真美
〃	吉田由かり
〃	長洞ひ一
〃	玉山健彦
〃	太田代一輔
〃	藤原大剛
〃	袈地公志
〃	立花

副所長	高橋正儀
嘱託	高橋照雄
〃	加藤美代子
〃	湯沢邦子
〃	伊藤滋子
〔調査第二課〕	
課長	高橋與右衛門
課長補佐	中川重紀
文化財専門員	金子佐知子
文化財調査員	赤石登
〃	阿部眞澄
〃	飯坂一重
〃	鈴木裕明
〃	久慈泰彦
〃	安藤由紀夫
〃	星雅之
〃	佐藤淳一
〃	半澤武彦
〃	皆川英香
〃	溜浩二郎
〃	丸山直美
〃	(濱田宏)
期限付調査員	齋藤麻紀子
〃	原美津子
〃	吉田里和
〃	菊池賢
〃	駒木野智寛
〃	立花裕
〃	石崎高臣

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第410集

本町Ⅱ遺跡第二次発掘調査報告書

ほ場整備事業一関第2地区第5号関連発掘調査

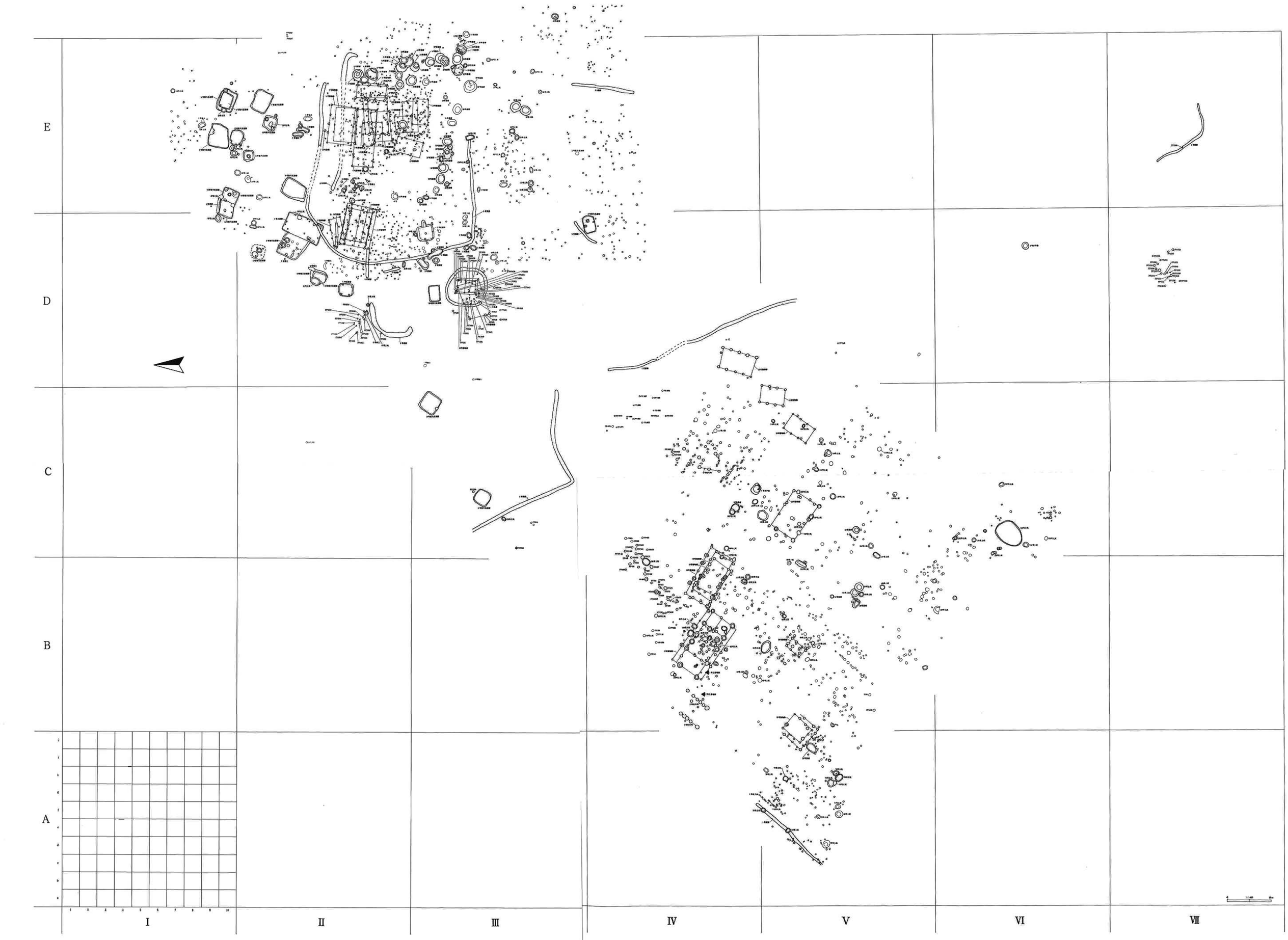
印刷　平成15年3月20日

発行　平成15年3月27日

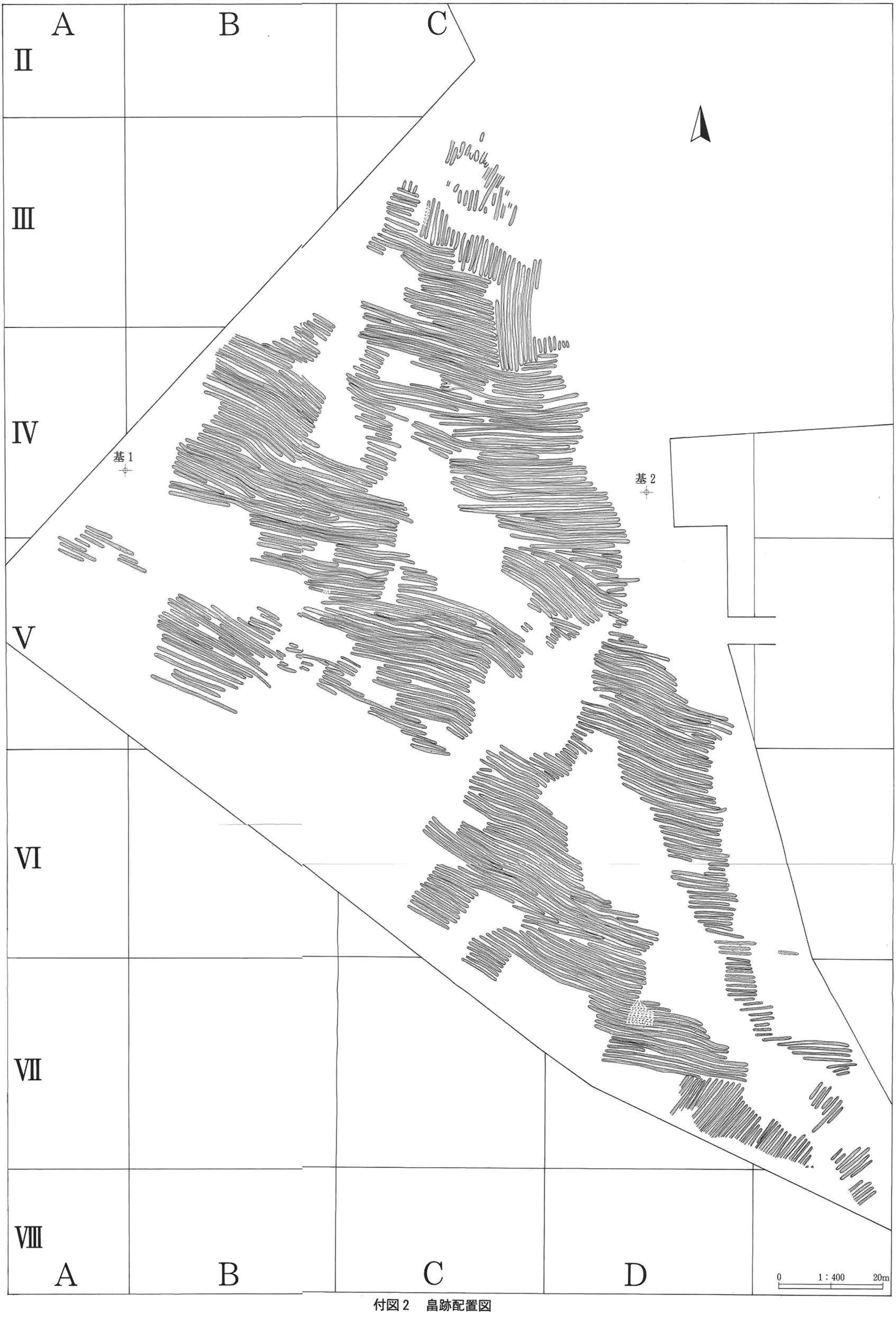
発行　財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853　盛岡市下飯岡第11地割185番地
電話　(019) 638-9001・9002
FAX　(019) 638-8563

印刷　株式会社　熊谷印刷
〒020-0066　盛岡市上田1丁目6番49号
電話　(019) 653-4151
FAX　(019) 654-0435

©（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2003



付図１　本町Ⅱ遺跡配置図



付図2　畠跡配置図